2019-06-20 版

洗足学園音楽大学

音楽学部

音楽学科
音楽専攻科
2019年度シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	科目コード		ページ数
DTV演習［月3］Aクラス	永岡　宏昭	GE0121	･････････	27
DTV演習［火4］Bクラス	冨永　憲治	GE0121	･････････	30
DTV演習［水5］Cクラス	冨永　憲治	GE0121	･････････	33
DTV演習［金4］Dクラス	和田　洋平	GE0121	･････････	36
DTP演習［月4］Aクラス	永岡　宏昭	GE0122	･････････	39
DTP演習［火3］Bクラス	冨永　憲治	GE0122	･････････	42
DTP演習［水4］Cクラス	冨永　憲治	GE0122	･････････	45
DTP演習［金3］Dクラス	和田　洋平	GE0122	･････････	48
日本伝統芸能研究１～４［木5］	花柳　輔瑞佳	GE0331d	･････････	51
日本の伝統的歌唱（民謡）（集）1,2限　Aクラス	柿﨑　竹美	GE0335	･････････	54
日本の伝統的歌唱（民謡）（集）3,4限　Bクラス	柿﨑　竹美	GE0335	･････････	56
日本の伝統的歌唱（謡曲）（集）1,2限　Aクラス	鵜澤　光	GE0336	･････････	58
日本の伝統的歌唱（謡曲）（集）3,4限　Bクラス	鵜澤　光	GE0336	･････････	60
日本の伝統的歌唱（長唄）（集）1,2限　Aクラス	今藤　政貴	GE0337	･････････	62
日本の伝統的歌唱（長唄）（集）3,4限　Bクラス	今藤　政貴	GE0337	･････････	64
吹奏楽演奏理論１～４［木3］	伊藤　康英	GE0537d	･････････	66
邦楽サウンド論1［土3］	山口　賢治	GE0580	･････････	71
邦楽サウンド論2［土3］	山口　賢治	GE0581	･････････	74
声楽（教職）［火1］クラシック（辻志朗先生）クラス	辻　志朗	GE0582	･････････	77
声楽（教職）［火1］ポピュラー（江原陽子先生）クラス	江原　陽子	GE0582	･････････	80
学内リサイタル講座［金3］	渡部　亨	GE0583	･････････	83
即興演奏講座（初級）［金3］Aクラス	平野　公崇	GE0621	･････････	86
即興演奏講座（初級）［金4］Bクラス	平野　公崇	GE0621	･････････	89
即興演奏講座（初級）［金5］Cクラス	平野　公崇	GE0621	･････････	92
即興演奏講座（中級）［金3］Aクラス	平野　公崇	GE0626	･････････	95
即興演奏講座（中級）［金4］Bクラス	平野　公崇	GE0626	･････････	98
即興演奏講座（中級）［金5］Cクラス	平野　公崇	GE0626	･････････	101
作曲法・編曲法I（前）［金1］	増田　達斗	GE0826	･････････	104
作曲法・編曲法I（前）［金2］P1クラス	大江　千佳子	GE0826	･････････	106
作曲法・編曲法I（前）［金2］P2クラス	佐藤　昌弘	GE0826	･････････	108
作曲法・編曲法I（前）［金2］P3クラス	清水　昭夫	GE0826	･････････	110
作曲法・編曲法I（前）［金2］P4クラス	川崎　真由子	GE0826	･････････	112
作曲法・編曲法I（前）［金2］P5クラス	木下　淳雄	GE0826	･････････	114
作曲法・編曲法I（後）［金2］Q1クラス	川崎　真由子	GE0826	･････････	116
作曲法・編曲法I（後）［金2］Q2クラス	木下　淳雄	GE0826	･････････	118
作曲法・編曲法II（後）［金1］	増田　達斗	GE0827	･････････	120
作曲法・編曲法II（後）［金2］Aクラス	大江　千佳子	GE0827	･････････	122
作曲法・編曲法II（後）［金2］Bクラス	佐藤　昌弘	GE0827	･････････	124
作曲法・編曲法II（後）［金2］Cクラス	清水　昭夫	GE0827	･････････	126
音楽分析基礎講座（前）［月2］Aクラス	井上　渚	GE0831	･････････	128
音楽分析基礎講座（前）［月2］Bクラス	大江　千佳子	GE0831	･････････	130
音楽分析基礎講座（前）［月2］Cクラス	大原　裕子	GE0831	･････････	132
音楽分析基礎講座（前）［月2］Dクラス	川崎　真由子	GE0831	･････････	134
音楽分析基礎講座（前）［月2］Eクラス	木下　淳雄	GE0831	･････････	136
音楽分析基礎講座（前）［月2］Fクラス	小林　弘人	GE0831	･････････	138
音楽分析基礎講座（前）［月2］Gクラス	篠原　真	GE0831	･････････	140
音楽分析基礎講座（前）［月2］Hクラス	清水　昭夫	GE0831	･････････	142
音楽分析基礎講座（後）［水3］（AS専用）	相馬　健太	GE0831	･････････	144
音楽分析基礎講座（前）［月2］Kクラス	生野　裕久	GE0831	･････････	146
音楽分析基礎講座（前）［月2］Mクラス	小谷野　謙一	GE0831	･････････	148
音楽分析基礎講座（前）［月2］Nクラス	原田　愛	GE0831	･････････	150
音楽分析基礎講座（前）［月2］Rクラス	久行　敏彦	GE0831	･････････	152
音楽分析基礎講座（前）［月2］Sクラス	増田　達斗	GE0831	･････････	154
音楽分析基礎講座（前）［月2］Tクラス	松浦　真沙	GE0831	･････････	156

音楽分析基礎講座（前）［月2］Uクラス	松下　倫士	GE0831	・・・・・・・・	158
音楽分析基礎講座（前）［月2］Vクラス	松本　望	GE0831	・・・・・・・・	160
音楽分析基礎講座（後）［水3］（BL専用）	古澤　壮樹	GE0831	・・・・・・・・	162
音楽分析基礎講座（後）［水3］（DC専用）	瀬田　創太	GE0831	・・・・・・・・	164
対位法［金3］Bクラス	川崎　真由子	GE0846	・・・・・・・・	166
対位法［金3］Cクラス	清水　昭夫	GE0846	・・・・・・・・	169
対位法［金3］Dクラス	久行　敏彦	GE0846	・・・・・・・・	172
ポリフォニー研究［金3］	大江　千佳子	GE0847	・・・・・・・・	175
フォルマシオン・ミュジカル［木3］	柳川　瑞季	GE0848	・・・・・・・・	178
対位法研究［金3］	大江　千佳子	GE0849	・・・・・・・・	181
キーボードハーモニー［木3］	原田　愛	GE0863	・・・・・・・・	184
教職伴奏法（前）［火1］P1クラス	谷川　マユコ	GE0881	・・・・・・・・	187
教職伴奏法（前）［火1］P2クラス	谷川　明	GE0881	・・・・・・・・	189
教職伴奏法（前）［火3］P3クラス	皆川　純一	GE0881	・・・・・・・・	191
教職伴奏法（前）［火3］P4クラス	小松　祥子	GE0881	・・・・・・・・	193
教職伴奏法（後）［火1］Q1クラス	谷川　マユコ	GE0881	・・・・・・・・	195
教職伴奏法（後）［火1］Q2クラス	谷川　明	GE0881	・・・・・・・・	197
教職伴奏法（後）［火3］Q3クラス	皆川　純一	GE0881	・・・・・・・・	199
教職伴奏法（後）［火3］Q4クラス	小松　祥子	GE0881	・・・・・・・・	201
合奏実習（前）［木2］Aクラス	柿原　順子	GE0890	・・・・・・・・	203
合奏実習（後）［木2］Bクラス	柿原　順子	GE0890	・・・・・・・・	205
合奏実習（後）［木4］Cクラス	柿原　順子	GE0890	・・・・・・・・	207
スコアリーディング［木3］	大竹　くみ	GE0895	・・・・・・・・	209
指揮法I（前）［金1］P1クラス	松元　宏康	GE0900	・・・・・・・・	212
指揮法I（前）［金1］P2クラス	松村　秀明	GE0900	・・・・・・・・	214
指揮法I（前）［金2］P4クラス	松村　秀明	GE0900	・・・・・・・・	216
指揮法I（後）［金1］Q1クラス	松元　宏康	GE0900	・・・・・・・・	218
指揮法I（後）［金1］Q2クラス	松村　秀明	GE0900	・・・・・・・・	220
指揮法I（後）［金2］Q3クラス	松村　秀明	GE0900	・・・・・・・・	222
ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1-1/ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1（前）［金2］	マーク　トゥリアン	GE1045	・・・・・・・・	224
ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1-2/ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語2（後）［金2］	マーク　トゥリアン	GE1046	・・・・・・・・	226
浄書と音源の制作［木5］	清水　昭夫	GE1116	・・・・・・・・	228
対位法研究II［金4］	清水　昭夫	GE1167	・・・・・・・・	231
歌曲作曲研究I（前）［木4］	馬場　由香	GE1168	・・・・・・・・	234
歌曲作曲研究II（後）［木4］	馬場　由香	GE1169	・・・・・・・・	236
合唱曲作曲研究（前）［木4］	増井　哲太郎	GE1179	・・・・・・・・	238
音階研究（後）［木4］	久行　敏彦	GE1180	・・・・・・・・	240
20世紀の和声法研究（前）［木4］	赤石　直哉	GE1189	・・・・・・・・	242
20世紀の奏法研究（後）［木4］	赤石　直哉	GE1190	・・・・・・・・	244
DAW演習I［月5］Aクラス　レベル1	和田　洋平	GE1225	・・・・・・・・	246
DAW演習I［火2］Bクラス　レベル3	仲井　朋子	GE1225	・・・・・・・・	249
DAW演習I［木4］Cクラス　レベル2	石田　寛朗	GE1225	・・・・・・・・	252
DAW演習I［金5］Dクラス　レベル1	相馬　健太	GE1225	・・・・・・・・	255
DAW演習I［火5］Eクラス　レベル2	前田　康徳	GE1225	・・・・・・・・	258
DAW演習II［水4］Aクラス	三上　直子	GE1226	・・・・・・・・	261
DAW演習II［火4］Bクラス	古澤　壮樹	GE1226	・・・・・・・・	264
DAW演習II［月4］Cクラス	久木山　直	GE1226	・・・・・・・・	267
Pro　Tools　入門／Pro　Tools　演習［火5］	永岡　宏昭	GE1227	・・・・・・・・	270
リズムセクション・ライティング［月4］Aクラス　レベル1	和田　洋平	GE1228	・・・・・・・・	273
リズムセクション・ライティング［水4］Bクラス　レベル3	菅原　サトル	GE1228	・・・・・・・・	276
リズムセクション・ライティング［木3］Cクラス　レベル2	永岡　宏昭	GE1228	・・・・・・・・	279
リズムセクション・ライティング［金4］Dクラス　レベル2	郡司　崇	GE1228	・・・・・・・・	282
リズムセクション・ライティング［火4］Eクラス　レベル1	和田　洋平	GE1228	・・・・・・・・	285
オーケストラ・ライティング［木5］	山下　康介	GE1233	・・・・・・・・	288
映像実習／WEBデザイン実習［金5］	舘田　ゆり	GE1234	・・・・・・・・	291

Max／MSP演習［火3］	仲井　朋子	GE1235	・・・・・・・・	294
コンピュータ音楽表現［月5］	森　威功	GE1236	・・・・・・・・	297
作編曲入門（前）［木3］	佐藤　ひろのすけ	GE1239	・・・・・・・・	300
アドバンスト・アレンジングテクニックA［火3］	奥　慶一	GE1243	・・・・・・・・	302
アドバンスト・アレンジングテクニックB［木4］	菅原　サトル	GE1244	・・・・・・・・	305
テクノパフォーマンス研究２［金5］	前田　康徳	GE1252	・・・・・・・・	308
テクノパフォーマンス研究３［金5］	前田　康徳	GE1253	・・・・・・・・	311
テクノパフォーマンス研究４［金5］	前田　康徳	GE1254	・・・・・・・・	314
DAW演習IIA［水4］	三上　直子	GE1256	・・・・・・・・	317
DAW演習IIB［火4］	古澤　壮樹	GE1257	・・・・・・・・	320
DAW演習IIC［月4］	久木山　直	GE1258	・・・・・・・・	323
音楽プログラミング入門［木3］	森　威功	GE1259	・・・・・・・・	326
器楽曲伴奏法I-１（前）［水4］Aクラス	山本　佳世子	GE1376	・・・・・・・・	329
器楽曲伴奏法I-１（前）［水4］Bクラス	長谷　正一	GE1376	・・・・・・・・	332
器楽曲伴奏法I-１（前）［水4］Cクラス	吉永　恵	GE1376	・・・・・・・・	334
器楽曲伴奏法I-２（後）［水4］Aクラス	平沢　由美子	GE1377	・・・・・・・・	336
器楽曲伴奏法I-２（後）［水4］Bクラス	秦　江里奈	GE1377	・・・・・・・・	338
器楽曲伴奏法I-２（後）［水4］Cクラス	蓼沼　恵美子	GE1377	・・・・・・・・	340
器楽曲伴奏法II-１（前）［火4］	皆川　純一	GE1378	・・・・・・・・	342
器楽曲伴奏法II-２（後）［火4］	鳥羽瀬　宗一郎	GE1379	・・・・・・・・	344
歌曲伴奏法Ⅰ（前）［月3］Aクラス	押川　涼子	GE1382	・・・・・・・・	346
歌曲伴奏法Ⅰ（前）［月3］Bクラス	小市　香澄	GE1382	・・・・・・・・	348
歌曲伴奏法Ⅰ（前）［月3］Cクラス	小助川　眞美	GE1382	・・・・・・・・	350
歌曲伴奏法Ⅱ（後）［月3］Aクラス	服部　真由子	GE1383	・・・・・・・・	352
歌曲伴奏法Ⅱ（後）［月3］Bクラス	立石　智子	GE1383	・・・・・・・・	354
歌曲伴奏法Ⅱ（後）［月3］Cクラス	吉武　雅子	GE1383	・・・・・・・・	356
二重奏／二重奏I［金3］Aクラス	松浦　健	GE1401	・・・・・・・・	358
二重奏／二重奏I［金3］Bクラス	泉　ゆりの	GE1401	・・・・・・・・	361
二重奏II［金5］Aクラス	白澤　暁子	GE1402	・・・・・・・・	364
二重奏II［金5］Bクラス	三宅　麻美	GE1402	・・・・・・・・	367
初見視奏I（前）［火4］Aクラス	辻田　由利子	GE1416	・・・・・・・・	370
初見視奏I（前）［火4］Bクラス	石田　多紀乃	GE1416	・・・・・・・・	372
初見視奏I（前）［火4］Cクラス	松浦　真沙	GE1416	・・・・・・・・	374
初見視奏II（後）［火4］Aクラス	飯野　明日香	GE1417	・・・・・・・・	376
初見視奏II（後）［火4］Bクラス	竹原　暁子	GE1417	・・・・・・・・	378
初見視奏II（後）［火4］Cクラス	林　直美	GE1417	・・・・・・・・	380
初見視奏III（前）［木3］	西脇　千花	GE1418	・・・・・・・・	382
初見視奏IV（後）［木3］	奥平　純子	GE1419	・・・・・・・・	384
音楽教室グレード対策講座I［月4］	齊藤　香織	GE1455	・・・・・・・・	386
音楽教室グレード対策講座II［水4］	久行　敏彦	GE1456	・・・・・・・・	389
ピアノ指導法I［金4］	木幡　律子	GE1457	・・・・・・・・	392
ピアノ指導法II［金4］	岡本　有子	GE1458	・・・・・・・・	395
管弦楽内ピアノ奏法研究１～４［木4］Aクラス	山内　のり子	GE1495d	・・・・・・・・	398
管弦楽内ピアノ奏法研究１～４［木4］Bクラス	小林　裕子	GE1495d	・・・・・・・・	401
アコースティックミュージカルスタディ１～４［金2］	鵜木　絵里	GE1531d	・・・・・・・・	404
室内オペラスタディ１～４［月5］	塩田　美奈子	GE1541d	・・・・・・・・	407
コーラスアンサンブル実習１～４［木2］	相澤　直人	GE1551d	・・・・・・・・	410
アンサンブルヴォイストレーニング１～４［水2］	髙田　正人	GE1561d	・・・・・・・・	413
サックスオーケストラ１～４［水4-5］	岩本　伸一	GE1631d	・・・・・・・・	416
打楽器アンサンブル１～４［水4-5］	神谷　百子	GE1634d	・・・・・・・・	419
フルートオーケストラ１～４［水4-5］	岩花　秀文	GE1637d	・・・・・・・・	422
ブリティッシュブラス１～４［水4-5］	福田　昌範	GE1640d	・・・・・・・・	425
オーケストラ演習１［金2］	三宅　康弘	GE1941	・・・・・・・・	428
オーケストラ演習２～４［水4-5］	赤塚　博美	GE1947d	・・・・・・・・	431
ポピュラー奏法研究１［水4］	小川　真澄	GE1953	・・・・・・・・	434

オーケストレーション[火2]	大竹 くみ	GE1970	・・・・・・・・	437
ポピュラー奏法研究2[水2]	上野山 英里	GE1973	・・・・・・・・	440
創作演習[月4]	大竹 くみ	GE1976	・・・・・・・・	443
編曲演習[木4]	赤塚 博美	GE1977	・・・・・・・・	446
電子オルガン・スタジオエレクトロニクス[木3]	上原 直	GE1978	・・・・・・・・	449
電子オルガン演奏法1[火3]	赤塚 博美	GE1980	・・・・・・・・	452
指導グレードマスター講座1～4[火4]	大竹 くみ	GE1982d	・・・・・・・・	455
演奏グレードマスター講座1～4[水2]	岡田 久常	GE1986d	・・・・・・・・	458
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月3]A1クラス	松山 修	GE2011d	・・・・・・・・	461
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[金2]A3クラス	蟻正 行義	GE2011d	・・・・・・・・	463
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月3]B1クラス	原 朋直	GE2011d	・・・・・・・・	465
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[金2]B3クラス	原 朋直	GE2011d	・・・・・・・・	467
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火3]B4クラス	原 朋直	GE2011d	・・・・・・・・	469
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月3]C1クラス	道下 和彦	GE2011d	・・・・・・・・	471
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火4]C2クラス	道下 和彦	GE2011d	・・・・・・・・	473
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火3]C3クラス	道下 和彦	GE2011d	・・・・・・・・	475
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月3]C4クラス	川嶋 哲郎	GE2011d	・・・・・・・・	477
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月4]D1クラス	谷口 英治	GE2011d	・・・・・・・・	479
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水3]E1クラス	佐藤 達哉	GE2011d	・・・・・・・・	481
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火2]E4クラス	佐藤 達哉	GE2011d	・・・・・・・・	483
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[月4]F1クラス	布川 俊樹	GE2011d	・・・・・・・・	485
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[木4]F2クラス	布川 俊樹	GE2011d	・・・・・・・・	487
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水4]J1クラス	松本 治	GE2011d	・・・・・・・・	489
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水4]K1クラス	瀬田 創太	GE2011d	・・・・・・・・	491
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[木2]K2クラス	片倉 真由子	GE2011d	・・・・・・・・	493
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水3]L1クラス	岡田 治郎	GE2011d	・・・・・・・・	495
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水2]L2クラス	岡田 治郎	GE2011d	・・・・・・・・	497
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[水4]W1クラス	白仁“KOTETSU”賢哉	GE2011d	・・・・・・・・	499
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7(前)[火4]W3クラス	若井 俊也	GE2011d	・・・・・・・・	501
ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅡ(5Saxes)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ4(前)[木4]	松本 治	GE2043	・・・・・・・・	503
ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅢ(6~8Brass)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ5(後)[木3]	松本 治	GE2044	・・・・・・・・	505
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月3]A1クラス	松山 修	GE2085d	・・・・・・・・	507
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[金2]A3クラス	蟻正 行義	GE2085d	・・・・・・・・	509
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月3]B1クラス	原 朋直	GE2085d	・・・・・・・・	511
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[金2]B3クラス	原 朋直	GE2085d	・・・・・・・・	513
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火3]B4クラス	原 朋直	GE2085d	・・・・・・・・	515
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月3]C1クラス	道下 和彦	GE2085d	・・・・・・・・	517
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火4]C2クラス	道下 和彦	GE2085d	・・・・・・・・	519
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火3]C3クラス	道下 和彦	GE2085d	・・・・・・・・	521
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月3]C4クラス	川嶋 哲郎	GE2085d	・・・・・・・・	523
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月4]D1クラス	谷口 英治	GE2085d	・・・・・・・・	525
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水3]E1クラス	佐藤 達哉	GE2085d	・・・・・・・・	527
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火2]E4クラス	佐藤 達哉	GE2085d	・・・・・・・・	529
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[月4]F1クラス	布川 俊樹	GE2085d	・・・・・・・・	531
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[木4]F2クラス	布川 俊樹	GE2085d	・・・・・・・・	533
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水4]J1クラス	松本 治	GE2085d	・・・・・・・・	535
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水4]K1クラス	瀬田 創太	GE2085d	・・・・・・・・	537
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[木2]K2クラス	片倉 真由子	GE2085d	・・・・・・・・	539
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水3]L1クラス	岡田 治郎	GE2085d	・・・・・・・・	541
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水2]L2クラス	岡田 治郎	GE2085d	・・・・・・・・	543
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[水4]W1クラス	白仁“KOTETSU”賢哉	GE2085d	・・・・・・・・	545
アンサンブル／ラボ1-1～4-1(前)[火4]W3クラス	若井 俊也	GE2085d	・・・・・・・・	547
シアターダンス1-1(前)[金4]	井口 美穂	GE2315	・・・・・・・・	549
シアターダンス1-1(前)[金1](AS専用)Aクラス	井口 美穂	GE2315	・・・・・・・・	551
シアターダンス1-1(前)[金1](AS専用)Bクラス	草間 華奈	GE2315	・・・・・・・・	553

シアターダンス1-2(後)[水4]	花柳　珂穂月	GE2316	･････････	555
シアターダンス1-2(後)[金1](AS専用)Aクラス	井口　美穂	GE2316	･････････	557
シアターダンス1-2(後)[金1](AS専用)Bクラス	草間　華奈	GE2316	･････････	559
シアターダンス2-1(前)[月3]	クリス　チャベス	GE2317	･････････	561
シアターダンス2-2(後)[木2]	池村　太郎	GE2318	･････････	563
声楽基礎演習I-1[月3]	塩田　美奈子	GE2351	･････････	565
声楽基礎演習I-2[金3]	塩田　美奈子	GE2352	･････････	568
声楽基礎演習II-1[火3]	塩田　美奈子	GE2353	･････････	571
声楽基礎演習II-2[火4]	塩田　美奈子	GE2354	･････････	574
イタリア歌曲研究1[火5]	相田　麻純	GE2356	･････････	577
イタリア歌曲研究2[火5]	髙田　正人	GE2357	･････････	580
ドイツ歌曲研究1[水4]	飯田　千夏	GE2358	･････････	583
ドイツ歌曲研究2[火4]	馬場　由香	GE2359	･････････	586
フランス歌曲研究1[水4]	寺島　夕紗子	GE2360	･････････	589
フランス歌曲研究2[水4]	神谷　明美	GE2361	･････････	592
日本歌曲研究1[水2]	二見　忍	GE2362	･････････	595
日本歌曲研究2[火3]	沢崎　恵美	GE2363	･････････	598
ミュージカルI-1(前)[金1]	三橋　千鶴	GE2406	･････････	601
ミュージカルI-2(後)[金1]	三橋　千鶴	GE2407	･････････	604
専門合唱1～4[木3-4]	相澤　直人	GE2431d	･････････	607
合唱指導法(含指揮法)[火4]	辻　志朗	GE2446	･････････	610
オペラ実習II／オペラ実習2[月1-2]	境　信博	GE2454	･････････	613
オペラ実習III／オペラ実習3[月3-4]	境　信博	GE2455	･････････	616
アンサンブル実習I[金3-4]	馬場　由香	GE2456	･････････	619
アンサンブル実習II[金3-4]	馬場　由香	GE2457	･････････	622
アンサンブル実習III[金3-4]	馬場　由香	GE2458	･････････	625
合唱活動指導法1[火5]	田中　良一	GE2711	･････････	628
合唱活動指導法2[火5]	田中　良一	GE2712	･････････	631
リコーダーアンサンブル1[木3]	佐藤　昌弘	GE2716	･････････	634
リコーダーアンサンブル2[木3]	佐藤　昌弘	GE2717	･････････	637
リコーダーアンサンブル3[木3]	佐藤　昌弘	GE2718	･････････	640
邦楽実習(民謡)1～4[金5]	柿﨑　竹美	GE2721d	･････････	643
言語表現演習I(前)[火3]	重本　正明	GE2725	･････････	646
言語表現演習II(後)[火3]	牛頭　真也	GE2726	･････････	648
身体表現演習I(前)[水5]	野火　杏子	GE2727	･････････	650
身体表現演習I(前)[木1]AS専用(日舞)	花柳　輔瑞佳	GE2727	･････････	652
身体表現演習II(後)[水5]	林　七重	GE2728	･････････	654
身体表現演習II(後)[木1]AS専用(狂言)	金田　弘明	GE2728	･････････	656
合唱実習1[火5]	田中　良一	GE2729	･････････	658
合唱実習2[火5]	田中　良一	GE2730	･････････	661
音楽創作ワークショップ1[木5]	佐藤　昌弘	GE2735	･････････	664
音楽創作ワークショップ2[木5]	佐藤　昌弘	GE2736	･････････	667
音楽創作ワークショップ3[木5]	佐藤　昌弘	GE2737	･････････	670
邦楽実習(箏)1～4[月5]	野澤　佐保子	GE2741d	･････････	673
即興伴奏法[月5]	谷川　マユコ	GE2761	･････････	676
邦楽実習(笛)1～4[火5]	福原　徹	GE2791d	･････････	679
教育アンサンブル1～4[月4]	佐藤　昌弘	GE2796d	･････････	682
ﾎﾞｲｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(ｼﾞｬｽﾞ)1/ﾎﾞｰｶﾙﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ1(前)[金3]	三橋　千鶴	GE2915	･････････	685
ﾎﾞｲｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(ｼﾞｬｽﾞ)2/ﾎﾞｰｶﾙﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ2(後)[金3]	CHAKA	GE2916	･････････	687
ヴォーカルパフォーマンス3(前)[金3]	三橋　千鶴	GE2923	･････････	689
ヴォーカルパフォーマンス4(後)[金3]	CHAKA	GE2924	･････････	691
ミュージックインリリックス1-1(前)[月2]	CHAKA	GE2949	･････････	693
ミュージックインリリックス1-2(後)[月2]	CHAKA	GE2950	･････････	695
吹奏楽指導法1～4[月4]	宍倉　晃	GE3171d	･････････	697
マーチングディレクター概論1～4[火5]	田中　久仁明	GE3175d	･････････	700

管打合奏１～４[火4]	大和田　雅洋	GE3179d	･････････	705
吹奏楽研究１[金4-5]フレッシュマン	大和田　雅洋	GE3201	･････････	708
吹奏楽研究２～４[火4-5]ブルー・タイ	渡邉　功	GE3202d	･････････	711
吹奏楽研究２～４[火4-5]グリーン・タイ	伊藤　康英	GE3202d	･････････	714
吹奏楽研究２～４[火4-5]洗足ウインド･シンフォニー	池上　政人	GE3202d	･････････	717
オーケストラ研究１-１～１-４[月4-5]ベーシック	渡部　亨	GE3211d	･････････	720
オーケストラ研究１-１～１-４[月4-5]マスター	辻　功	GE3211d	･････････	723
オーケストラ研究１-１～１-４[月4-5]レパートリー	菅原　潤	GE3211d	･････････	726
オーケストラ研究２-１～２-４[木4-5]ベーシック	渡部　亨	GE3215d	･････････	729
オーケストラ研究２-１～２-４[木4-5]マスター	辻　功	GE3215d	･････････	732
オーケストラ研究２-１～２-４[木4-5]レパートリー	菅原　潤	GE3215d	･････････	735
ファンファーレオルケスト１～４[金4-5]	露木　薫	GE3315d	･････････	738
室内楽研究１[金2]打楽器	中村　祐子	GE3401	･････････	741
室内楽研究１[金2]弦楽器	安藤　裕子	GE3401	･････････	744
室内楽研究１[金2]金管	古田　賢司	GE3401	･････････	747
室内楽研究１[金2]木管	渡部　亨	GE3401	･････････	750
室内楽研究１[金2]サックス	江川　良子	GE3401	･････････	753
室内楽研究1～4[ワールドミュージック]	中根　康美	GE3401d	･････････	756
ギター合奏１～４[水4-5]	小林　徹	GE3425d	･････････	759
邦楽合奏演習１～４[土4]	山口　賢治	GE3531d	･････････	762
シーンスタディI[水3-4]	三橋　千鶴	GE3705	･････････	765
シーンスタディII[水3-4]	横山　仁一	GE3706	･････････	768
シーンスタディIII[木3-4]	横山　仁一	GE3707	･････････	771
シーンスタディIV[木3-4]	倉迫　康史	GE3708	･････････	774
伝統芸能実習１(前)[木2]MS専用　日舞(Aクラス)	花柳　輔瑞佳	GE3709	･････････	777
伝統芸能実習１(前)[木2]MS専用　狂言(Bクラス)	金田　弘明	GE3709	･････････	779
伝統芸能実習２(後)[木2]MS専用　狂言(Aクラス)	金田　弘明	GE3710	･････････	781
伝統芸能実習２(後)[木2]MS専用　日舞(Bクラス)	花柳　輔瑞佳	GE3710	･････････	783
MSアンサンブル実習I[月3]	山下　順子	GE3715	･････････	785
MSアンサンブル実習II[金4]	家田　淳	GE3716	･････････	788
MSアンサンブル実習III[水2]	田野　邦彦	GE3717	･････････	791
MSアンサンブル実習IV[月4]	田野　邦彦	GE3718	･････････	794
狂言実習１[木2]前期:日舞/後期:狂言 (Aクラス)	花柳　輔瑞佳	GE3771	･････････	797
狂言実習１[木2]前期:狂言/後期:日舞 (Bクラス)	金田　弘明	GE3771	･････････	800
舞台芸術概論[木2]	横山　仁一	GE3782	･････････	803
舞台音楽論／舞台音楽論Ⅰ(前)[月4]	篠原　真	GE3785	･････････	806
舞台音楽論II(後)[月4]	篠原　真	GE3786	･････････	808
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[水1]バレエ	小畑　奈美子	GE3801Ad	･････････	810
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[水2]バレエ	飛沢　由衣	GE3801Bd	･････････	813
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[木1]バレエ	林　麻衣子	GE3801Cd	･････････	816
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[木2]バレエ	新井　望	GE3801Dd	･････････	819
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金2]バレエ	小畑　奈美子	GE3801Ed	･････････	822
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金3]バレエ	井口　美穂	GE3801Fd	･････････	825
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月4]前期ﾀｯﾌﾟ後期ﾌﾗﾒﾝｺ(BL専用)	三寺　郷美	GE3801Ud	･････････	828
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[火2]ﾌﾗﾒﾝｺ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ・牧ｸﾗｽ(BL専	アントニオ　アロンソ	GE3801Rd	･････････	831
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[火4]ﾌﾗﾒﾝｺ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ・谷ｸﾗｽ(BL専	アントニオ　アロンソ	GE3801Vd	･････････	834
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月4]前期ﾌﾗﾒﾝｺ後期ﾀｯﾌﾟ(DC専用)	やの　ちえみ	GE3801Ud	･････････	837
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[火5]ヒップホップ	GOTO	GE3801Od	･････････	840
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金2]ジャズ	関　与志雄	GE3801Hd	･････････	843
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金3]ジャズ	打越　麗子	GE3801Id	･････････	846
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金4]ジャズ	関　与志雄	GE3801Jd	･････････	849
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月2]ジャズ(BL専用)	河内　達弥	GE3801Qd	･････････	852
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月2]ジャズ(BL専用)	MasamiE	GE3801Qd	･････････	855
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[火2]ジャズ(BL専用)	舘形　比呂一	GE3801Rd	･････････	858
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金2]ジャズ(DC専用)	舘形　比呂一	GE3801Td	･････････	861

ダンスパフォーマンス1-1～4-4[木3]ジャズ（DC専用）	前田　清実	GE3801Td	･････････	864
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金4]ストリート（BL専用）	内海　貴司	GE3801Wd	･････････	867
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[木3]ストリート（DC専用）	TOMOMI	GE3801Sd	･････････	870
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[金3]ストリート（DC専用）	ERIKA	GE3801Sd	･････････	873
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月2]タップ	平塚　美和子	GE3801Kd	･････････	876
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月3]タップ	平塚　美和子	GE3801Ld	･････････	879
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月4]タップ	平塚　美和子	GE3801Md	･････････	882
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[木2]タップ	平塚　美和子	GE3801Nd	･････････	885
ダンスパフォーマンス1-1～4-4[月3]タップ（DC専用）	三寺　郷美	GE3801Xd	･････････	888
ダンスパフォーマンス3-1[木2]ジャズ（AS専用）	田之上　桃慧	GE3809	･････････	891
アクティング1[火4]	横山　仁一	GE3817	･････････	894
アクティング2[火3]	田野　邦彦	GE3818	･････････	897
アクティング3[火4]	山田　宏平	GE3819	･････････	900
アクティング4[火3]	大倉　マヤ	GE3820	･････････	903
ヴォーカルミュージック1[火3]	家田　淳	GE3821	･････････	906
ヴォーカルミュージック1[金3]（DC専用）	江原　陽子	GE3821	･････････	909
ヴォーカルミュージック2[火4]	清水　菜穂子	GE3822	･････････	912
ヴォーカルミュージック2[火3]（DC専用）	安士　百合野	GE3822	･････････	915
ヴォーカルミュージック3[火3]	青木　さおり	GE3823	･････････	918
ヴォーカルミュージック4[火4]	三橋　千鶴	GE3824	･････････	921
卒業研究[火6][音楽・音響デザイン]	前田　康徳	GE4890	･････････	924
卒業研究[木2][ピアノ]	越懸澤　麻衣	GE4890	･････････	927
卒業研究[電子オルガン]	赤塚　博美	GE4890	･････････	930
卒業研究[管楽器]	池上　政人	GE4890	･････････	933
卒業研究[弦楽器]	水野　佐知香	GE4890	･････････	936
卒業研究[打楽器]	山澤　洋之	GE4890	･････････	939
卒業研究[木3][ジャズ]	蟻正　行義	GE4890	･････････	942
卒業研究[現代邦楽]	松尾　祐孝	GE4890	･････････	945
卒業研究[ロック＆ポップス]	前野　知常	GE4890	･････････	948
卒業研究[声楽]	塩田　美奈子	GE4890	･････････	951
卒業研究[ミュージカル]	篠原　真	GE4890	･････････	954
卒業研究[バレエ]	安達　悦子	GE4890	･････････	957
卒業研究[声優アニメソング]	江原　陽子	GE4890	･････････	960
卒業研究[火3][音楽教育]	佐藤　昌弘	GE4894	･････････	963
ピアノ作曲基礎演習1～4[火5]Aクラス	松浦　真沙	GE5140d	･････････	966
ピアノ作曲基礎演習1～4[火5]Bクラス	浦壁　信二	GE5140d	･････････	969
キーボードレアリゼーション1～4[木3]Aクラス	松本　望	GE5144d	･････････	972
キーボードレアリゼーション1～4[木3]Bクラス	担当教員	GE5144d	･････････	975
ピアノ作品分析演奏法1～4[金4]	浦壁　信二	GE5148d	･････････	978
録音技術研究1～4[木1]	鹿内　耀一	GE5361d	･････････	981
メディアコンテンツ制作実習1～4[木5]	森　威功	GE5365d	･････････	984
スタジオレコーディング演習1～4[木2]	鹿内　耀一	GE5381d	･････････	987
ワイヤリング実習[水2]	齋藤　粋生	GE5389	･････････	990
ワイヤリング研究（前）[水2]Aクラス	齋藤　粋生	GE5399	･････････	993
ワイヤリング研究（後）[水2]Bクラス	齋藤　粋生	GE5399	･････････	995
ﾎﾞｲｽｱｰﾃｨｽﾄ基礎研究/ﾎﾞｲｽｱｰﾃｨｽﾄ基礎演習[金2]Aクラス	石川　光太郎	GE5441	･････････	997
ﾎﾞｲｽｱｰﾃｨｽﾄ基礎研究/ﾎﾞｲｽｱｰﾃｨｽﾄ基礎演習[木2]Bクラス	園田　恵子	GE5441	･････････	1000
ASスタジオワーク[木2]Aクラス	逢坂　力	GE5442	･････････	1003
ASスタジオワーク[金2]Bクラス	田口　宏子	GE5442	･････････	1006
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[月3]Aクラス	森田　順平	GE5443Ad	･････････	1009
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[月3]Bクラス	鈴木　勝美	GE5443Bd	･････････	1012
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[火3]Cクラス	堀江　美都子	GE5443Cd	･････････	1015
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[火3]Dクラス	尾田木　美衣	GE5443Dd	･････････	1018
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[水3]Eクラス	亀井　芳子	GE5443Ed	･････････	1021
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[水3]Fクラス	石原　慎一	GE5443Fd	･････････	1024

音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[木3]Gクラス	篠原　恵美	GE5443Gd	･････････	1027
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[金3]Hクラス	宇治川　まさなり	GE5443Hd	･････････	1030
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[金3]Jクラス	石川　光太郎	GE5443Jd	･････････	1033
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[月3]Kクラス	齋藤　粋生	GE5443Kd	･････････	1036
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[火3]Lクラス	松本　梨香	GE5443Ld	･････････	1039
音声表現実習Ⅰ－1～Ⅲ－2[木3]Mクラス	速水　けんたろう	GE5443Md	･････････	1042
ASアンサンブル実習 I[木3]	江原　陽子	GE5449	･････････	1045
ASアンサンブル実習II[金2]	江原　陽子	GE5450	･････････	1048
ASアンサンブル実習III[月2]	山下　順子	GE5451	･････････	1051
ASアンサンブル実習IV[木2]	江原　陽子	GE5452	･････････	1054
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[月4]Aクラス	森田　順平	GE5458Ad	･････････	1057
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[月5]Bクラス	森田　順平	GE5458Bd	･････････	1060
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[月4]Cクラス	鈴木　勝美	GE5458Cd	･････････	1063
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[月5]Dクラス	鈴木　勝美	GE5458Dd	･････････	1066
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[火4]Eクラス	堀江　美都子	GE5458Ed	･････････	1069
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[火5]Fクラス	堀江　美都子	GE5458Fd	･････････	1072
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[火4]Gクラス	尾田木　美衣	GE5458Gd	･････････	1075
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[火5]Hクラス	尾田木　美衣	GE5458Hd	･････････	1078
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[水4]Jクラス	亀井　芳子	GE5458Jd	･････････	1081
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[水5]Kクラス	亀井　芳子	GE5458Kd	･････････	1084
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[水4]Lクラス	石原　慎一	GE5458Ld	･････････	1087
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[水5]Mクラス	石原　慎一	GE5458Md	･････････	1090
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[木4]Nクラス	篠原　恵美	GE5458Nd	･････････	1093
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[木4]Pクラス	速水　けんたろう	GE5458Pd	･････････	1096
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[木5]Qクラス	速水　けんたろう	GE5458Qd	･････････	1099
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[木5]Rクラス	篠原　恵美	GE5458Rd	･････････	1102
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[金4]Sクラス	宇治川　まさなり	GE5458Sd	･････････	1105
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[金5]Tクラス	宇治川　まさなり	GE5458Td	･････････	1108
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[金4]Uクラス	石川　光太郎	GE5458Ud	･････････	1111
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[金5]Vクラス	石川　光太郎	GE5458Vd	･････････	1114
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[月4]Wクラス	齋藤　粋生	GE5458Wd	･････････	1117
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[月5]Xクラス	齋藤　粋生	GE5458Xd	･････････	1120
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[火4]Yクラス	松本　梨香	GE5458Yd	･････････	1123
ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4[火5]Zクラス	松本　梨香	GE5458Zd	･････････	1126
アニメソング総合演習１[火3]Aクラス	鈴木　結女	GE5470	･････････	1129
アニメソング総合演習１[火4]Bクラス	鈴木　結女	GE5470	･････････	1132
アニメソング総合演習２[火1]Aクラス	Salia	GE5471	･････････	1135
アニメソング総合演習２[火2]Bクラス	Salia	GE5471	･････････	1138
アニメソング総合演習３[火1]Aクラス	安士　百合野	GE5472	･････････	1141
アニメソング総合演習３[火2]Bクラス	安士　百合野	GE5472	･････････	1144
アニメソング総合演習４[月2]	江原　陽子	GE5473	･････････	1147
ASダンス演習１[月2]Aクラス	MaSaKo	GE5479	･････････	1150
ASダンス演習１[金3]Bクラス	MaSaKo	GE5479	･････････	1153
ASダンス演習２[金1]Aクラス	舘形　比呂一	GE5480	･････････	1156
ASダンス演習３[月1]Aクラス	河内　達弥	GE5481	･････････	1159
ASダンス演習３[月1]Bクラス	MasamiE	GE5481	･････････	1162
ASダンス演習４[月1]Aクラス	河内　達弥	GE5482	･････････	1165
ナレーション基礎演習[火4]Bクラス	金野　恵子	GE5483	･････････	1168
ナレーション基礎演習[火3]Aクラス	亀井　芳子	GE5483	･････････	1171
AS身体表現実習[木1]	宮本　英喜	GE5484	･････････	1174
弦楽合奏１～４[金4-5]	水野　佐知香	GE5825d	･････････	1177
リズミックトレーニングI(前)[月4]	松山　修	GE5941	･････････	1180
リズミックトレーニングII(後)[月4]	松山　修	GE5942	･････････	1182
スタジオ・アレンジング(後)[木3]	布川　俊樹	GE5945	･････････	1184
ﾋﾞｯｸﾞﾊﾞﾝﾄﾞ･ｱﾚﾝｼﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ6(前)[木2]	松本　治	GE5946	･････････	1186

ﾘｽﾞﾑ楽器管楽器の楽器法・記譜法/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ1（後）[木	谷口　英治	GE5947	･････････	1188
ﾘｽﾞﾑ楽器管楽器の楽器法・記譜法/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ1（前）[火	谷口　英治	GE5947	･････････	1190
スタイルスタディB（前）[水5]	瀬田　創太	GE5949	･････････	1192
ジャズフレージング入門（後）[水4]	布川　俊樹	GE5977	･････････	1194
ハウトゥインプロヴァイズ（前）[月2]	道下　和彦	GE5979	･････････	1196
ハウトゥコンポーズ（後）[月2]	道下　和彦	GE5980	･････････	1198
インプロビゼーションテクニック（後）[金2]	多田　誠司	GE5988	･････････	1200
サーヴェイ・オブ・ジャズ1（前）[月2]	蟻正　行義	GE5989	･････････	1202
サーヴェイ・オブ・ジャズ2（後）[火4]	蟻正　行義	GE5990	･････････	1204
楽曲研究／和声学研究[月3]	生野　裕久	GE6131	･････････	1206
パイプオルガン実習（集）	荻野　由美子	GE6632	･････････	1209
ギター奏法演習[火4]	中根　康美	GE6641	･････････	1211
和楽器演習（箏）[月5]	野澤　佐保子	GE6644	･････････	1214
和楽器演習（三味線）[火5]	野澤　徹也	GE6645	･････････	1217
尺八奏法（集）1,2限　Dクラス	山口　賢治	GE6646	･････････	1220
尺八奏法（集）3,4限　Eクラス	山口　賢治	GE6646	･････････	1222
篠笛奏法（集）1,2限　Fクラス	福原　徹	GE6647	･････････	1224
篠笛奏法（集）3,4限　Gクラス	福原　徹	GE6647	･････････	1226
箏奏法（集）1,2限　Hクラス	吉原　佐知子	GE6648	･････････	1228
箏奏法（集）3,4限　Jクラス	吉原　佐知子	GE6648	･････････	1230
三味線奏法（集）1,2限　Kクラス	野澤　徹也	GE6650	･････････	1232
三味線奏法（集）3,4限　Lクラス	野澤　徹也	GE6650	･････････	1234
ジャズ実習（前）[木3]Pクラス	谷口　英治	GE6654	･････････	1236
ジャズ実習（後）[木3]Qクラス	谷口　英治	GE6654	･････････	1238
コンピュータ楽譜浄書演習／記譜法概論[月5]	郡司　崇	GE6656	･････････	1240
ポピュラー奏法特別研究1～4（集）金4	三原　善隆	GE6668d	･････････	1243
ポピュラー奏法特別研究1～4（集）金3	三原　善隆	GE6668d	･････････	1246
DTM基礎演習（前）[月3]Aクラス	和田　洋平	GE6672	･････････	1249
DTM基礎演習（後）[金3]Bクラス	郡司　崇	GE6672	･････････	1251
DTMプログラミング演習[水5]	三上　直子	GE6673	･････････	1253
邦楽ワークショップ2～4[水5]	山口　賢治	GE6685d	･････････	1256
コンピュータ楽譜浄書基礎演習／記譜法基礎（前）[金4]Pクラス	古澤　壮樹	GE6688	･････････	1259
コンピュータ楽譜浄書基礎演習／記譜法基礎（後）[金4]Qクラス	相馬　健太	GE6688	･････････	1261
楽式論I（前）[木3]Aクラス	市川　景之	GE6750	･････････	1263
楽式論I（前）[木3]Bクラス	大江　千佳子	GE6750	･････････	1265
楽式論II（後）[木3]Aクラス	市川　景之	GE6751	･････････	1267
楽式論II（後）[木3]Bクラス	大江　千佳子	GE6751	･････････	1269
古典邦楽作品研究1[木4]	森重　行敏	GE6752	･････････	1271
古典邦楽作品研究2[木4]	森重　行敏	GE6753	･････････	1274
邦楽実習（謡曲）1～4[金3]	鵜澤　光	GE6754d	･････････	1277
シンガーソングライター講座1～4[水5]	郡司　崇	GE6762d	･････････	1280
ヴォイスアンサンブル1～4[水2]（AS専用）	速水　けんたろう	GE6771d	･････････	1283
舞踊研究Ⅰ～Ⅳ[水4][木4][金4](コンテンポラリー)	安藤　洋子	GE7001d	･････････	1286
舞踊研究Ⅰ～Ⅳ[水4][木4][金4](ジャズ)	前田　清実	GE7001d	･････････	1289
舞踊研究Ⅰ～Ⅳ[水4][木4][金4](ジャズ)	舘形　比呂一	GE7001d	･････････	1292
舞踊研究Ⅰ～Ⅳ[水4][木4][金4](ストリート)	ERIKA	GE7001d	･････････	1295
舞踊研究Ⅰ～Ⅳ[水4][木4][金4](ストリート)	TOMOMI	GE7001d	･････････	1298
舞踊創作研究1－1～4－5[シラバス用]	井口　美穂	GE7011Xd	･････････	1301
舞踊創作研究1-1/2-1[コンテンポラリーダンスクラス]	アレッシオ　シルヴェストリ	GE7011d	･････････	1304
舞踊創作研究1-1[ジャズダンスクラス]	前田　清実	GE7011	･････････	1307
舞踊創作研究1-1[ストリートダンスクラス]	ERIKA	GE7011	･････････	1310
舞踊創作研究1-2/2-2[コンテンポラリーダンスクラス]	小林　洋壱	GE7012d	･････････	1313
舞踊創作研究1-2[ジャズダンスクラス]	前田　清実	GE7012	･････････	1316
舞踊創作研究1-2[ストリートダンスクラス]	ERIKA	GE7012	･････････	1319
舞踊創作研究1-3[ジャズダンスクラス]	前田　清実	GE7013	･････････	1322

舞踊創作研究2-1[ジャズダンスクラス]	舘形　比呂一	GE7016	･････････	1325
舞踊創作研究2-1[ストリートダンスクラス]	TOMOMI	GE7016	･････････	1328
舞踊創作研究2-2[ジャズダンスクラス]	舘形　比呂一	GE7017	･････････	1331
舞踊創作研究2-2[ストリートダンスクラス]	TOMOMI	GE7017	･････････	1334
舞踊創作研究2-3[ジャズダンスクラス]	舘形　比呂一	GE7018	･････････	1337
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Aクラス	吉田　真理子	GE7390	･････････	1340
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Bクラス	金井　公美子	GE7390	･････････	1342
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Cクラス	尾形　敏幸	GE7390	･････････	1344
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Dクラス	伊藤　民子	GE7390	･････････	1346
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Eクラス	三戸　誠	GE7390	･････････	1348
教育実習法（事前事後の指導を含む）（前）[火1]Fクラス	和田　崇	GE7390	･････････	1350
教育実習I	吉田　真理子	GE7391	･････････	1352
教育実習II	吉田　真理子	GE7392	･････････	1354
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Aクラス	吉田　真理子	GE7395	･････････	1356
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Bクラス	金井　公美子	GE7395	･････････	1358
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Cクラス	尾形　敏幸	GE7395	･････････	1360
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Dクラス	伊藤　民子	GE7395	･････････	1362
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Eクラス	三戸　誠	GE7395	･････････	1364
教職実践演習（中・高）（後）[火1]Fクラス	和田　崇	GE7395	･････････	1366
バレエ研究Ⅰ～Ⅳ[水2.3] [木2.3] [金2.3]（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	安達　悦子	GE7401d	･････････	1368
バレエ研究Ⅰ～Ⅳ[水2][木2][金2](牧クラス)	奥田　さやか	GE7401d	･････････	1371
バレエ研究Ⅰ～Ⅳ[水2.3] [木2.3] [金2.3] （谷クラス）	井口　美穂	GE7401d	･････････	1374
バレエ実習１－１[水2]（DC専用）	井口　美穂	GE7405	･････････	1377
バレエ実習１－１～４－１[月1]（グローバルクラス）	安達　悦子	GE7405d	･････････	1380
バレエ実習１－１～４－１[月2]（グローバルクラス）	安達　悦子	GE7405d	･････････	1383
バレエ実習１－１～４－１[月3]（グローバルクラス）	長谷川　祐子	GE7405d	･････････	1386
バレエ実習１－１～４－１[月3]（牧クラス）	鈴木　理奈	GE7405d	･････････	1389
バレエ実習１－１～４－１[月1]（谷クラス）	永橋　あゆみ	GE7405d	･････････	1392
バレエ実習１－１～４－１[月3]（谷クラス）	大川　敦子	GE7405d	･････････	1395
バレエ実習１－１～４－１[月2]（谷クラス）	永橋　あゆみ	GE7405d	･････････	1398
バレエ実習１－２[火3]（DC専用）	井口　美穂	GE7406	･････････	1401
バレエ実習１－２～４－２[火1]（グローバルクラス）	木村　規予香	GE7406d	･････････	1404
バレエ実習１－２～４－２[火2]（グローバルクラス）	木村　規予香	GE7406d	･････････	1407
バレエ実習１－２～４－２[火3]（グローバルクラス）	金田　あゆ子	GE7406d	･････････	1410
バレエ実習１－２～４－２[火3]（グローバルクラス）	アレッシオ　シルヴェストリ	GE7406d	･････････	1413
バレエ実習１－２～４－２[火3]（牧クラス）	吉岡　まな美	GE7406d	･････････	1416
バレエ実習１－２～４－２[火2]（谷クラス）	高岸　直樹	GE7406d	･････････	1419
バレエ実習１－２～４－２[火3]（谷クラス）	植田　理恵子	GE7406d	･････････	1422
バレエ実習２－１[水1]（DC専用）	井口　美穂	GE7407	･････････	1425
バレエ実習２－２[月2]（DC専用）	小林　洋壱	GE7408	･････････	1428
身体表現実習 １－１[月3]ジャイロ（DC専用）	宮内　真理子	GE7413	･････････	1431
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（安達悦子クラス）	安達　悦子	GE7413d	･････････	1434
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（小林洋壱クラス）	小林　洋壱	GE7413d	･････････	1437
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（草間華奈クラス）	草間　華奈	GE7413d	･････････	1440
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（奥田さやかクラス）	奥田　さやか	GE7413d	･････････	1443
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（齊藤拓クラス）	齊藤　拓	GE7413d	･････････	1446
身体表現実習 １－１～４－１[水1]（佐藤麻利香クラス）	佐藤　麻利香	GE7413d	･････････	1449
身体表現実習 １－２[火4]コンテンポラリー（DC専用）	安藤　洋子	GE7414	･････････	1452
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（信田洋子クラス）	信田　洋子	GE7414d	･････････	1455
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（小林洋壱クラス）	小林　洋壱	GE7414d	･････････	1458
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（加藤浩子クラス）	加藤　浩子	GE7414d	･････････	1461
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（鈴木理奈クラス）	鈴木　理奈	GE7414d	･････････	1464
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（髙部尚子クラス）	髙部　尚子	GE7414d	･････････	1467
身体表現実習 １－２～４－２[木1]（三木雄馬クラス）	三木　雄馬	GE7414d	･････････	1470
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（安達悦子クラス）	安達　悦子	GE7415d	･････････	1473

身体表現実習 １－３～４－３[金1]（小林洋壱クラス）	小林　洋壱	GE7415d	･････････	1476
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（沖田貴士クラス）	沖田　貴士	GE7415d	･････････	1479
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（館野若葉クラス）	館野　若葉	GE7415d	･････････	1482
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（佐藤麻利香クラス）	佐藤　麻利香	GE7415d	･････････	1485
身体表現実習 １－３～４－３[金1]（日原永美子クラス）	日原　永美子	GE7415d	･････････	1488
身体表現実習 １－４～４－４[月3]（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	小林　洋壱	GE7416d	･････････	1491
身体表現実習 １－４～４－４[月3]（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	アレッシオ　シルヴェストリ	GE7416d	･････････	1494
身体表現実習 １－４～４－４[月4]（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	アレッシオ　シルヴェストリ	GE7416d	･････････	1497
身体表現実習 １－４～４－４[月1]（コンテンポラリー/牧クラス）	アレッシオ　シルヴェストリ	GE7416Cd	･････････	1500
身体表現実習 １－４～４－４[月3]（コンテンポラリー/谷クラス）	日原　永美子	GE7416d	･････････	1503
身体表現実習 １－４～４－４[月4]（コンテンポラリー/谷クラス）	坂田　守	GE7416d	･････････	1506
身体表現実習 １－５～４－５[火3]（ｷｬﾗｸﾀｰﾀﾞﾝｽ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	イリイン　ゲンナジー	GE7417d	･････････	1509
身体表現実習 １－５～４－５[火4]（ｷｬﾗｸﾀｰﾀﾞﾝｽ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）	イリイン　ゲンナジー	GE7417d	･････････	1512
身体表現実習 １－５～４－５[月4]（ジャイロ）	宮内　真理子	GE7417d	･････････	1515
身体表現実習 １－５～４－５[火4]（キャラクターダンス/牧クラス）	イルギス　ガリムーリン	GE7417d	･････････	1518
身体表現実習 １－５～４－５[火3]（キャラクターダンス/谷クラス）	星野　絢香	GE7417d	･････････	1521
身体表現実習 １－５～４－５[火4]（キャラクターダンス/谷クラス）	星野　絢香	GE7417d	･････････	1524
身体表現実習 ２－１[火2]ピラティス（DC専用）	和田　清香	GE7418	･････････	1527
身体表現実習 ２－２[火5]コンテンポラリー（DC専用）	安藤　洋子	GE7419	･････････	1530
Ｒ＆Ｐ・ハーモニーⅠ（前）[水2]	前野　知常	GE7527	･････････	1533
Ｒ＆Ｐ・ハーモニーⅡ（後）[水2]	前野　知常	GE7528	･････････	1535
インストゥルメンツ研究[木4]	坂井　紀雄	GE7565	･････････	1537
マスタークラス・セッション１～４（集）	前野　知常	GE7575d	･････････	1540
ｱﾚﾝｼﾞﾝｸﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ2（前）[水2]Bクラス	松本　治	GE7587	･････････	1542
ｱﾚﾝｼﾞﾝｸﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ2（前）[火3]Cクラス	谷口　英治	GE7587	･････････	1544
ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅠ(2~4Voices)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ3（後）[月3]Aクラス	松本　治	GE7588	･････････	1546
ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅠ(2~4Voices)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ3（後）[火3]Cクラス	谷口　英治	GE7588	･････････	1548
Ｒ＆Ｐ・ヴォイストレーニング[集中]	佐々木　久美	GE7593	･････････	1550
Ｒ＆Ｐ・ヴォイストレーニング[集中]	佐々木　久美	GE7593	･････････	1552
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ（後）[水4]Aクラス	坂井　紀雄	GE7613	･････････	1554
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ（後）[水4]Bクラス	明石　昌夫	GE7613	･････････	1556
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ（前）[水4]Aクラス	坂井　紀雄	GE7614	･････････	1558
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ（前）[水4]Bクラス	明石　昌夫	GE7614	･････････	1560
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅢ（後）[金3]	坂井　紀雄	GE7615	･････････	1562
Ｒ＆Ｐ・アレンジⅣ（前）[金3]	坂井　紀雄	GE7616	･････････	1564
作詞／作曲Ⅰ（前）[金3]Aクラス	丸山　圭子	GE7617	･････････	1566
作詞／作曲Ⅰ（前）[金3]Bクラス	松藤　英男	GE7617	･････････	1568
作詞／作曲Ⅱ（後）[金3]Aクラス	丸山　圭子	GE7618	･････････	1570
作詞／作曲Ⅱ（後）[金3]Bクラス	松藤　英男	GE7618	･････････	1572
作詞／作曲Ⅲ（前）[木3]	丸山　圭子	GE7619	･････････	1574
楽曲分析（後）[木3]	丸山　圭子	GE7620	･････････	1576
バーチャル・プロダクション（前）[火5]Aクラス	岡本　健志	GE7621	･････････	1578
バーチャル・プロダクション（後）[火5]Bクラス	岡本　健志	GE7621	･････････	1580
DTM実習１（前）[金2]Aクラス	斉藤　光浩	GE7622	･････････	1582
DTM実習１（前）[金2]Bクラス	葉山　たけし	GE7622	･････････	1584
DTM実習１（前）[金2]Cクラス	川村　ケン	GE7622	･････････	1586
DTM実習２（後）[金2]Aクラス	斉藤　光浩	GE7623	･････････	1588
DTM実習２（後）[金2]Bクラス	葉山　たけし	GE7623	･････････	1590
DTM実習２（後）[金2]Cクラス	川村　ケン	GE7623	･････････	1592
キャリアデザイン講座１（前）[月2]	キャリアデザイン講座	GE7704	･････････	1594
キャリアデザイン講座２（後）[月2]	キャリアデザイン講座	GE7705	･････････	1596
英語１-Ⅰ（前）[水1]Aクラス	永井　崇	GE7710	･････････	1598
英語１-Ⅰ（前）[水2]Bクラス （1年生クラス）	永井　崇	GE7710	･････････	1600
英語１-Ⅰ（前）[水4]Cクラス	伊藤　満里	GE7710	･････････	1602
英語１-Ⅰ（前）[水4]Dクラス	永井　崇	GE7710	･････････	1604

英語1-I(前)[水5]Eクラス	永井　崇	GE7710	･････････	1606
英語1-I(前)[金2]Gクラス	永井　崇	GE7710	･････････	1608
英語1-I(前)[金3]Hクラス	伊藤　満里	GE7710	･････････	1610
英語1-I(前)[金3]Jクラス	永井　崇	GE7710	･････････	1612
英語1-I(前)[水2]Kクラス（1年生クラス）	大原　裕子	GE7710	･････････	1614
英語1-II(後)[水1]Aクラス	永井　崇	GE7711	･････････	1616
英語1-II(後)[水2]Bクラス（1年生クラス）	永井　崇	GE7711	･････････	1618
英語1-II(後)[水4]Cクラス	伊藤　満里	GE7711	･････････	1620
英語1-II(後)[水4]Dクラス	永井　崇	GE7711	･････････	1622
英語1-II(後)[水5]Eクラス	永井　崇	GE7711	･････････	1624
英語1-II(後)[金2]Gクラス	永井　崇	GE7711	･････････	1626
英語1-II(後)[金3]Hクラス	伊藤　満里	GE7711	･････････	1628
英語1-II(後)[金3]Jクラス	永井　崇	GE7711	･････････	1630
英語1-II(後)[水2]Kクラス（1年生クラス）	大原　裕子	GE7711	･････････	1632
英語2-I(前)[水5]	伊藤　満里	GE7712	･････････	1634
英語2-II(後)[水5]	伊藤　満里	GE7713	･････････	1636
独語1-I(前)[水1]Aクラス	大村　幸太	GE7714	･････････	1638
独語1-I(前)[水2]Bクラス　1年生クラス	大村　幸太	GE7714	･････････	1640
独語1-I(前)[水4]Cクラス	武藤　陽子	GE7714	･････････	1642
独語1-II(後)[水1]Aクラス	大村　幸太	GE7715	･････････	1644
独語1-II(後)[水2]Bクラス　1年生クラス	大村　幸太	GE7715	･････････	1646
独語1-II(後)[水4]Cクラス	武藤　陽子	GE7715	･････････	1648
独語2-I(前)[水5]	武藤　陽子	GE7716	･････････	1650
独語2-II(後)[水5]	武藤　陽子	GE7717	･････････	1652
仏語1-I(前)[水1]Aクラス	岡本　尚子	GE7718	･････････	1654
仏語1-I(前)[水2]Bクラス　1年生クラス	岡本　尚子	GE7718	･････････	1656
仏語1-II(後)[水1]Aクラス	岡本　尚子	GE7719	･････････	1658
仏語1-II(後)[水2]Bクラス　1年生クラス	岡本　尚子	GE7719	･････････	1660
仏語2-I(前)[水5]	久保田　悠介	GE7720	･････････	1662
仏語2-II(後)[水5]	久保田　悠介	GE7721	･････････	1664
伊語1-I(前)[水1]Aクラス	岡田　由美子	GE7722	･････････	1666
伊語1-I(前)[水2]Bクラス　1年生クラス	岡田　由美子	GE7722	･････････	1668
伊語1-I(前)[水4]Cクラス	フィオーレ　リエート	GE7722	･････････	1670
伊語1-I(前)[水5]Dクラス	フィオーレ　リエート	GE7722	･････････	1672
伊語1-II(後)[水1]Aクラス	岡田　由美子	GE7723	･････････	1674
伊語1-II(後)[水2]Bクラス　1年生クラス	岡田　由美子	GE7723	･････････	1676
伊語1-II(後)[水4]Cクラス	フィオーレ　リエート	GE7723	･････････	1678
伊語1-II(後)[水5]Dクラス	フィオーレ　リエート	GE7723	･････････	1680
伊語2-I(前)[水5]	岡田　由美子	GE7724	･････････	1682
伊語2-II(後)[水5]	岡田　由美子	GE7725	･････････	1684
副科実技(器楽-ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)1~4-2(後)[月2]バレエ	日原　永美子	GJ0971d	･････････	1686
副科実技(器楽-ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)1~4-2(後)[木5]ダンス	河内　達弥	GJ0971d	･････････	1688
副科実技(器楽-ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)2-1~4-1(前)[月2]バレエ	日原　永美子	GJ0972d	･････････	1690
副科実技(器楽-ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)2-1~4-1(前)[木5]ダンス	河内　達弥	GJ0972d	･････････	1692
ﾌﾟﾛｽﾀ1～4/ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙﾐｭｰｼﾞｯｸﾌﾟﾛﾀﾞｸｼｮﾝ1～4(集)	前田　康徳	GJ1246d	･････････	1694
リズムパフォーマンス[金5]	高谷　あゆみ	GJ1494	･････････	1697
体育実技(集中)[タップダンス]風真ｸﾗｽ 入門1,2限	風真　弘子	GJ7727	･････････	1700
体育実技(集中)[タップダンス]風真ｸﾗｽ 中級3,4限	風真　弘子	GJ7727	･････････	1702
体育実技(集中)[タップダンス]三寺ｸﾗｽ 未経験者1,2限	三寺　郷美	GJ7727	･････････	1704
体育実技(集中)[タップダンス]三寺ｸﾗｽ 未経験者3,4限	三寺　郷美	GJ7727	･････････	1706
体育実技(集中)[ミュージカルダンス]1,2限　Eｸﾗｽ	関　与志雄	GJ7727	･････････	1708
体育実技(集中)[ミュージカルダンス]3,4限　Fｸﾗｽ	関　与志雄	GJ7727	･････････	1710
体育実技(集中)[ジャズダンス]入門1,2限　Lｸﾗｽ	林　七重	GJ7727	･････････	1712
体育実技(集中)[ジャズダンス]中級3,4限　Mｸﾗｽ	林　七重	GJ7727	･････････	1714
体育実技(集中)[ストリートダンス]入門1,2限Nｸﾗｽ	内海　貴司	GJ7727	･････････	1716

体育実技（集中）［ストリートダンス］初中級3,4限Rｸﾗｽ	内海　貴司	GJ7727	･････････	1718
映像と音楽［水2］	前田　康徳	GK0101	･････････	1720
音楽と宗教（前）［月5］Pクラス	藤原　一弘	GK0161	･････････	1723
音楽と宗教（後）［月5］Qクラス	藤原　一弘	GK0161	･････････	1725
楽器学（前）［水1］Pクラス	小日向　英俊	GK0162	･････････	1727
楽器学（後）［水1］Qクラス	小日向　英俊	GK0162	･････････	1729
発達心理学［火5］	後藤　進吾	GK0344	･････････	1731
管弦楽概論［月3］Aクラス	大原　裕子	GK0571	･････････	1734
管弦楽概論［月3］Bクラス	小林　弘人	GK0571	･････････	1737
管弦楽概論［月3］Cクラス	久行　敏彦	GK0571	･････････	1740
管弦楽概論［月3］Dクラス	松下　倫士	GK0571	･････････	1743
音楽史［火2］	佐藤　昌弘	GK0572	･････････	1746
ジャズの歴史１（前）［水4］Aクラス	マーク　ﾄｩﾘｱﾝ	GK0611	･････････	1749
ジャズの歴史２（後）［水4］Aクラス	マーク　ﾄｩﾘｱﾝ	GK0612	･････････	1751
ピアノ演奏史［木4］Aクラス	武田　一彦	GK0615	･････････	1753
ピアノ演奏史［木5］Bクラス	武田　一彦	GK0615	･････････	1756
幼児音楽指導法（含リトミック）［火5］Aクラス	曲尾　雅子	GK0628	･････････	1759
幼児音楽指導法（含リトミック）［金5］Bクラス	大澤　美紀	GK0628	･････････	1762
管弦楽史（前）［水2］Aクラス	西釋　英里香	GK0635	･････････	1765
管弦楽史（前）［金5］Bクラス	西釋　英里香	GK0635	･････････	1767
オペラ史（後）［火2］	青島　広志	GK0636	･････････	1769
音楽美学（後）［火5］	大宅　緒	GK0637	･････････	1771
現代音楽（前）［火4］Pクラス	大宅　緒	GK0638	･････････	1773
現代音楽（後）［火4］Qクラス	大宅　緒	GK0638	･････････	1775
諸民族の音楽（前）［木5］Aクラス	山本　華子	GK0639	･････････	1777
諸民族の音楽（後）［木5］Bクラス	山本　華子	GK0639	･････････	1779
日本の伝統芸能と音楽［木3］Aクラス	森重　行敏	GK0640	･････････	1781
日本の伝統芸能と音楽［火5］Bクラス	山本　華子	GK0640	･････････	1784
ソルフェージュI（前）［木1］Aクラス	相澤　直人	GK0711	･････････	1787
ソルフェージュI（前）［木1］Bクラス	井上　渚	GK0711	･････････	1789
ソルフェージュI（前）［木1］Cクラス	大原　裕子	GK0711	･････････	1791
ソルフェージュI（前）［木1］Dクラス	生野　裕久	GK0711	･････････	1793
ソルフェージュI（前）［木1］Eクラス	白澤　暁子	GK0711	･････････	1795
ソルフェージュI（前）［木1］Fクラス	鈴木　しのぶ	GK0711	･････････	1797
ソルフェージュI（前）［木1］Gクラス	原田　愛	GK0711	･････････	1799
ソルフェージュI（前）［木1］Hクラス	松下　倫士	GK0711	･････････	1801
ソルフェージュI（前）［金3］Aクラス（JZ専用）	蟻正　行義	GK0711	･････････	1803
ソルフェージュI（前）［金4］Bクラス（JZ専用）	松本　治	GK0711	･････････	1805
ソルフェージュI（前）［金1］（MS専用）	篠原　真	GK0711	･････････	1807
ソルフェージュI（前）［木1］Lクラス	松本　望	GK0711	･････････	1809
ソルフェージュI（前）［木1］Mクラス	宮澤　幸子	GK0711	･････････	1811
ソルフェージュI（前）［木1］Nクラス	松浦　真沙	GK0711	･････････	1813
ソルフェージュI（前）［木1］Rクラス	柳川　瑞季	GK0711	･････････	1815
ソルフェージュI（前）［木4］Aクラス（RP専用）	川村　ケン	GK0711	･････････	1817
ソルフェージュI（前）［木4］Bクラス（RP専用）	前野　知常	GK0711	･････････	1819
ソルフェージュI（前）［木1］Sクラス	和田　さやか	GK0711	･････････	1821
ソルフェージュI（前）［木1］Tクラス	木下　淳雄	GK0711	･････････	1823
ソルフェージュI（後）［木2］Uクラス	鈴木　しのぶ	GK0711	･････････	1825
ソルフェージュI（後）［木2］Vクラス	宮澤　幸子	GK0711	･････････	1827
ソルフェージュI（前）［木4］Aクラス（AS専用）	郡司　崇	GK0711	･････････	1829
ソルフェージュI（前）［金3］Bクラス（AS専用）	古澤　壮樹	GK0711	･････････	1831
ソルフェージュI（前）［木2］（DC専用）	湖口　浩朗	GK0711	･････････	1833
ソルフェージュI（前）［金3］（BL専用）	篠原　真	GK0711	･････････	1835
ソルフェージュII（後）［木1］Aクラス	相澤　直人	GK0712	･････････	1837
ソルフェージュII（後）［木1］Bクラス	井上　渚	GK0712	･････････	1839

ソルフェージュII(後)[木1]Cクラス	大原　裕子	GK0712	･････････	1841
ソルフェージュII(後)[木1]Dクラス	生野　裕久	GK0712	･････････	1843
ソルフェージュII(後)[木1]Eクラス	白澤　暁子	GK0712	･････････	1845
ソルフェージュII(後)[木1]Fクラス	鈴木　しのぶ	GK0712	･････････	1847
ソルフェージュII(後)[木1]Gクラス	原田　愛	GK0712	･････････	1849
ソルフェージュII(後)[木1]Hクラス	松下　倫士	GK0712	･････････	1851
ソルフェージュII(後)[金3]Aクラス(JZ専用)	蟻正　行義	GK0712	･････････	1853
ソルフェージュII(後)[金4]Bクラス(JZ専用)	松本　治	GK0712	･････････	1855
ソルフェージュII(後)[金1](MS専用)	篠原　真	GK0712	･････････	1857
ソルフェージュII(後)[木1]Lクラス	松本　望	GK0712	･････････	1859
ソルフェージュII(後)[木1]Mクラス	宮澤　幸子	GK0712	･････････	1861
ソルフェージュII(後)[木1]Nクラス	松浦　真沙	GK0712	･････････	1863
ソルフェージュII(後)[木1]Rクラス	柳川　瑞季	GK0712	･････････	1865
ソルフェージュII(後)[木4]Aクラス(RP専用)	川村　ケン	GK0712	･････････	1867
ソルフェージュII(後)[木4]Bクラス(RP専用)	前野　知常	GK0712	･････････	1869
ソルフェージュII(後)[木1]Sクラス	和田　さやか	GK0712	･････････	1871
ソルフェージュII(後)[木1]Tクラス	木下　淳雄	GK0712	･････････	1873
ソルフェージュII(前)[木2]Uクラス	鈴木　しのぶ	GK0712	･････････	1875
ソルフェージュII(前)[木2]Vクラス	宮澤　幸子	GK0712	･････････	1877
ソルフェージュII(後)[木4]Aクラス(AS専用)	郡司　崇	GK0712	･････････	1879
ソルフェージュII(後)[金3]Bクラス(AS専用)	古澤　壮樹	GK0712	･････････	1881
ソルフェージュII(後)[木2](DC専用)	湖口　浩朗	GK0712	･････････	1883
ソルフェージュII(後)[金3](BL専用)	篠原　真	GK0712	･････････	1885
ソルフェージュIII(前)[木2]大竹クラス	大竹　くみ	GK0713	･････････	1887
ソルフェージュIII(前)[木2]原田クラス	原田　愛	GK0713	･････････	1889
ソルフェージュIII(後)[木2]生野クラス	生野　裕久	GK0713	･････････	1891
ソルフェージュIII(前)[木2]松下クラス	松下　倫士	GK0713	･････････	1893
ソルフェージュIII(前)[木2]井上クラス	井上　渚	GK0713	･････････	1895
ソルフェージュIII(前)[木2]大原クラス	大原　裕子	GK0713	･････････	1897
ソルフェージュIII(前)[木2]木下クラス	木下　淳雄	GK0713	･････････	1899
ソルフェージュIII(前)[木2]松浦クラス	松浦　真沙	GK0713	･････････	1901
ソルフェージュIII(前)[月3]Aクラス(JZ専用)	蟻正　行義	GK0713	･････････	1903
ソルフェージュIII(前)[月4]Bクラス(JZ専用)	松本　治	GK0713	･････････	1905
ソルフェージュIII(前)[木2]柳川クラス	柳川　瑞季	GK0713	･････････	1907
ソルフェージュIII(前)[木2]白澤クラス	白澤　暁子	GK0713	･････････	1909
ソルフェージュIII(前)[木2]和田クラス	和田　さやか	GK0713	･････････	1911
ソルフェージュIII(前)[火3]Aクラス(RP専用)	高橋　利光	GK0713	･････････	1913
ソルフェージュIII(前)[火3]Bクラス(RP専用)	西平　彰	GK0713	･････････	1915
ソルフェージュIV(後)[木2]大竹クラス	大竹　くみ	GK0714	･････････	1917
ソルフェージュIV(後)[木2]原田クラス	原田　愛	GK0714	･････････	1919
ソルフェージュIV(前)[木2]生野クラス	生野　裕久	GK0714	･････････	1921
ソルフェージュIV(後)[木2]松下クラス	松下　倫士	GK0714	･････････	1923
ソルフェージュIV(後)[木2]井上クラス	井上　渚	GK0714	･････････	1925
ソルフェージュIV(後)[木2]大原クラス	大原　裕子	GK0714	･････････	1927
ソルフェージュIV(後)[木2]木下クラス	木下　淳雄	GK0714	･････････	1929
ソルフェージュIV(後)[月3]Aクラス(JZ専用)	蟻正　行義	GK0714	･････････	1931
ソルフェージュIV(後)[月4]Bクラス(JZ専用)	松本　治	GK0714	･････････	1933
ソルフェージュIV(後)[木2]松浦クラス	松浦　真沙	GK0714	･････････	1935
ソルフェージュIV(後)[木2]柳川クラス	柳川　瑞季	GK0714	･････････	1937
ソルフェージュIV(後)[木2]白澤クラス	白澤　暁子	GK0714	･････････	1939
ソルフェージュIV(後)[木2]和田クラス	和田　さやか	GK0714	･････････	1941
ソルフェージュ研究I(前)[木3]スコアリーディング	大竹　くみ	GK0725	･････････	1943
ソルフェージュ研究I(前)[木3]キーボードハーモニー	原田　愛	GK0725	･････････	1945
ソルフェージュ研究I(前)[木3]フォルマシオン・ミュジカル	柳川　瑞季	GK0725	･････････	1947
ソルフェージュ研究I(前)[木3]基礎訓練/読譜・初見	赤石　直哉	GK0725	･････････	1949

ソルフェージュ研究I(前)[木3]基礎訓練/リズム・聴音	増井　哲太郎	GK0725	･････････	1951
ソルフェージュ研究II(後)[木3]スコアリーディング	大竹　くみ	GK0726	･････････	1953
ソルフェージュ研究II(後)[木3]キーボードハーモニー	原田　愛	GK0726	･････････	1955
ソルフェージュ研究II(後)[木3]フォルマシオン・ミュジカル	柳川　瑞季	GK0726	･････････	1957
ソルフェージュ研究II(後)[木3]基礎訓練/読譜・初見	赤石　直哉	GK0726	･････････	1959
ソルフェージュ研究II(後)[木3]基礎訓練/リズム・聴音	増井　哲太郎	GK0726	･････････	1961
音楽理論入門(前)[月6]	小林　直哉	GK0800	･････････	1963
音楽理論入門(前)[水3](AS専用)	相馬　健太	GK0800	･････････	1965
音楽理論入門(前)[水3](BL専用)	古澤　壮樹	GK0800	･････････	1967
音楽理論入門(前)[水3](DC専用)	瀬田　創太	GK0800	･････････	1969
音楽理論入門(前)[月5](MS専用)	篠原　真	GK0800	･････････	1971
音楽理論入門(前)[月5](RP専用)	相馬　健太	GK0800	･････････	1973
和声学I(後)[月2]Aクラス	井上　渚	GK0811	･････････	1975
和声学I(後)[月2]Bクラス	大江　千佳子	GK0811	･････････	1977
和声学I(後)[月2]Cクラス	大原　裕子	GK0811	･････････	1979
和声学I(後)[月2]Dクラス	川崎　真由子	GK0811	･････････	1981
和声学I(後)[月2]Eクラス	木下　淳雄	GK0811	･････････	1983
和声学I(後)[月2]Fクラス	小林　弘人	GK0811	･････････	1985
和声学I(後)[月2]Gクラス	篠原　真	GK0811	･････････	1987
和声学I(後)[月2]Hクラス	清水　昭夫	GK0811	･････････	1989
和声学I(前)[木1]増田クラス	増田　達斗	GK0811	･････････	1991
和声学I(後)[月2]Kクラス	生野　裕久	GK0811	･････････	1993
和声学I(後)[月2]Mクラス	小谷野　謙一	GK0811	･････････	1995
和声学I(後)[月2]Nクラス	原田　愛	GK0811	･････････	1997
和声学I(後)[月2]Rクラス	久行　敏彦	GK0811	･････････	1999
和声学I(後)[月2]Sクラス	増田　達斗	GK0811	･････････	2001
和声学I(後)[月2]Tクラス	松浦　真沙	GK0811	･････････	2003
和声学I(後)[月2]Uクラス	松下　倫士	GK0811	･････････	2005
和声学I(後)[月2]Vクラス	松本　望	GK0811	･････････	2007
和声学II(前)[月1]大江クラス	大江　千佳子	GK0812	･････････	2009
和声学II(前)[月1]清水クラス	清水　昭夫	GK0812	･････････	2011
和声学II(前)[月1]松本クラス	松本　望	GK0812	･････････	2013
和声学II(前)[月1]井上クラス	井上　渚	GK0812	･････････	2015
和声学II(前)[月1]川崎クラス	川崎　真由子	GK0812	･････････	2017
和声学II(前)[月1]小林弘人クラス	小林　弘人	GK0812	･････････	2019
和声学II(前)[月1]増田クラス	増田　達斗	GK0812	･････････	2021
和声学II(後)[木1]増田クラス	増田　達斗	GK0812	･････････	2023
和声学II(前)[月1]木下クラス	木下　淳雄	GK0812	･････････	2025
和声学II(前)[月1]久行クラス	久行　敏彦	GK0812	･････････	2027
和声学III(後)[月1]大江クラス	大江　千佳子	GK0813	･････････	2029
和声学III(後)[月1]清水クラス	清水　昭夫	GK0813	･････････	2031
和声学III(後)[月1]松本クラス	松本　望	GK0813	･････････	2033
和声学III(後)[月1]井上クラス	井上　渚	GK0813	･････････	2035
和声学III(後)[月1]川崎クラス	川崎　真由子	GK0813	･････････	2037
和声学III(後)[月1]小林弘人クラス	小林　弘人	GK0813	･････････	2039
和声学III(後)[月1]増田クラス	増田　達斗	GK0813	･････････	2041
和声学III(後)[月1]木下クラス	木下　淳雄	GK0813	･････････	2043
和声学III(後)[月1]久行クラス	久行　敏彦	GK0813	･････････	2045
和声学III(前)[木2]小林直哉クラス	小林　直哉	GK0813	･････････	2047
和声学IV(前)[月1]生野クラス	生野　裕久	GK0814	･････････	2049
和声学IV(前)[月1]原田クラス	原田　愛	GK0814	･････････	2051
和声学IV(前)[水2]松浦クラス	松浦　真沙	GK0814	･････････	2053
和声学IV(前)[水2]増田クラス	増田　達斗	GK0814	･････････	2055
和声学IV(後)[木2]小林直哉クラス	小林　直哉	GK0814	･････････	2057
和声学V(後)[月1]生野クラス	生野　裕久	GK0815	･････････	2059

和声学V（後）［月1］原田クラス	原田　愛	GK0815	・・・・・・・・	2061
和声学V（後）［水2］松浦クラス	松浦　真沙	GK0815	・・・・・・・・	2063
和声学V（後）［水2］増田クラス	増田　達斗	GK0815	・・・・・・・・	2065
和声学V（前）［木3］小林直哉クラス	小林　直哉	GK0815	・・・・・・・・	2067
古代、中世、ルネッサンスの音楽史（前）［水2］Aクラス	尾山　真弓	GK0851	・・・・・・・・	2069
古代、中世、ルネッサンスの音楽史（前）［水4］Bクラス	尾山　真弓	GK0851	・・・・・・・・	2071
バロックの音楽史（後）［水2］Aクラス	尾山　真弓	GK0852	・・・・・・・・	2073
バロックの音楽史（後）［水4］Bクラス	尾山　真弓	GK0852	・・・・・・・・	2075
古典派の音楽史（前）［木3］Aクラス	越懸澤　麻衣	GK0853	・・・・・・・・	2077
古典派の音楽史（前）［水4］Bクラス	大宅　緒	GK0853	・・・・・・・・	2079
古典派の音楽史（前）［金4］Cクラス	西釋　英里香	GK0853	・・・・・・・・	2081
古典派の音楽史（前）［木3］Dクラス	尾山　真弓	GK0853	・・・・・・・・	2083
ロマン派、近・現代の音楽史（後）［木3］Aクラス	越懸澤　麻衣	GK0854	・・・・・・・・	2085
ロマン派、近・現代の音楽史（後）［水4］Bクラス	大宅　緒	GK0854	・・・・・・・・	2087
ロマン派、近・現代の音楽史（後）［金4］Cクラス	西釋　英里香	GK0854	・・・・・・・・	2089
ロマン派、近・現代の音楽史（後）［木3］Dクラス	尾山　真弓	GK0854	・・・・・・・・	2091
管弦楽法［火3］	久行　敏彦	GK1111	・・・・・・・・	2093
楽曲分析研究１［火4］	久行　敏彦	GK1136	・・・・・・・・	2096
アドバンスト・ハーモニー［木3］	渡辺　俊幸	GK1218	・・・・・・・・	2099
ポピュラーミュージック・ハーモニーI（前）［木5］	菅原　サトル	GK1237	・・・・・・・・	2102
ポピュラーミュージック・ハーモニーII（後）［木5］	相馬　健太	GK1238	・・・・・・・・	2104
アニメーション・ミュージック研究（後）［木3］	山下　康介	GK1255	・・・・・・・・	2106
ピアノ音楽講座I／ピアノ音楽講座［金3］	那須田　務	GK1441	・・・・・・・・	2108
ピアノ音楽鑑賞研究［火3］	諫山　隆美	GK1491	・・・・・・・・	2111
ジャズソルフェージュI-１（前）［金3］Aクラス	蟻正　行義	GK2065	・・・・・・・・	2114
ジャズソルフェージュI-１（前）［金4］Bクラス	松本　治	GK2065	・・・・・・・・	2116
ジャズソルフェージュI-２（後）［金3］Aクラス	蟻正　行義	GK2066	・・・・・・・・	2118
ジャズソルフェージュI-２（後）［金4］Bクラス	松本　治	GK2066	・・・・・・・・	2120
ジャズソルフェージュII-１（前）［月3］Aクラス	蟻正　行義	GK2067	・・・・・・・・	2122
ジャズソルフェージュII-１（前）［月4］Bクラス	松本　治	GK2067	・・・・・・・・	2124
ジャズソルフェージュII-２（後）［月3］Aクラス	蟻正　行義	GK2068	・・・・・・・・	2126
ジャズソルフェージュII-２（後）［月4］Bクラス	松本　治	GK2068	・・・・・・・・	2128
音声学［木5］	竹田　数章	GK2480	・・・・・・・・	2130
音楽教育研究I［月3］	佐藤　昌弘	GK2703	・・・・・・・・	2133
音楽教育研究II［火4］	金井　公美子	GK2704	・・・・・・・・	2136
音楽教育研究III前期［火4］後期［月3］	金井　公美子	GK2705	・・・・・・・・	2139
アートマネジメント研究１［水5］	佐藤　昌弘	GK2745	・・・・・・・・	2142
アートマネジメント研究２［水5］	佐藤　昌弘	GK2746	・・・・・・・・	2145
アートマネジメント研究３［水5］	佐藤　昌弘	GK2747	・・・・・・・・	2148
ワールドミュージック概論１（前）［月4］	大江　千佳子	GK3621	・・・・・・・・	2151
ワールドミュージック演奏論１（後）［月4］	大江　千佳子	GK3625	・・・・・・・・	2153
英会話講座１［水5］	ダイアナ　ボール　石山	GK3755	・・・・・・・・	2155
英会話講座１［木5］	ダイアナ　ボール　石山	GK3755	・・・・・・・・	2158
英会話講座１［月1］（BL専用）	ダイアナ　ボール　石山	GK3755	・・・・・・・・	2161
英会話講座１［水2］（DC専用）	ダイアナ　ボール　石山	GK3755	・・・・・・・・	2164
英会話講座２［火1］	ダイアナ　ボール　石山	GK3756	・・・・・・・・	2167
英会話講座２［月2］（BL専用）	ダイアナ　ボール　石山	GK3756	・・・・・・・・	2170
ミュージカル概論［火2］	ダイアナ　ボール　石山	GK3757	・・・・・・・・	2173
演技論１（前）［水3］	兵藤　公美	GK3773	・・・・・・・・	2176
演技論１（前）［木2］（AS専用）	内田　朋紀	GK3773	・・・・・・・・	2178
演技論２（後）［水3］	大倉　マヤ	GK3774	・・・・・・・・	2180
演技論２（後）［木2］（AS専用）	内田　朋紀	GK3774	・・・・・・・・	2182
演出論１（前）［月2］	倉迫　康史	GK3775	・・・・・・・・	2184
演出論１（前）［木1］(AS専用)	山下　順子	GK3775	・・・・・・・・	2186
演出論２（後）［月2］	横山　仁一	GK3776	・・・・・・・・	2188

演出論２（後）［木1］(AS専用)	山下　順子	GK3776	･････････	2190
戯曲論［木2］	倉迫　康史	GK3777	･････････	2192
ワークショップリーダー養成講座１（前）［火2］	横山　仁一	GK3778	･････････	2195
ワークショップリーダー養成講座２（後）［火2］	横山　仁一	GK3779	･････････	2197
オーディション実習（集）	篠原　真	GK3781	･････････	2199
スタッフワーク概論（後）［月5］	篠原　真	GK3787	･････････	2202
応用キーボードソルフェージュ［月3］	門倉　聡	GK5152	･････････	2204
身体向上メソッド［金4］	長井　芽乃	GK5154	･････････	2207
サウンドエンジニアリング基礎理論［月3］	富　正和	GK5385	･････････	2210
サウンドエンジニアリング応用理論［水2］	伊藤　圭一	GK5386	･････････	2213
映画音楽作曲技法［木4］	栗山　和樹	GK5387	･････････	2216
スタジオエレクトロニクス［水1］	伊藤　圭一	GK5390	･････････	2219
音響空間エレクトロニクス１～４［木5］	宮木　朝子	GK5391d	･････････	2222
ASコンテンツ制作ＡⅠ［月1］Aクラス	齋藤　粋生	GK5474	･････････	2225
ASコンテンツ制作ＡⅠ［月2］Bクラス	齋藤　粋生	GK5474	･････････	2228
ASコンテンツ制作AII［水1］	齋藤　粋生	GK5475	･････････	2231
コンテンツ制作１［月1］Aクラス（AS専用）	齋藤　粋生	GK5485	･････････	2234
コンテンツ制作１［月2］Bクラス（AS専用）	齋藤　粋生	GK5485	･････････	2237
コンテンツ制作１［月2］Cクラス（DC専用）	和田　洋平	GK5485	･････････	2240
コンテンツ制作２［水1］（AS専用）	齋藤　粋生	GK5486	･････････	2243
コンテンツ制作２［水3］Bクラス（DC専用）	和田　洋平	GK5486	･････････	2246
ﾁｯｸ･ｺﾘｱとﾊｰﾋﾞｰ･ﾊﾝｺｯｸの研究/ｼﾞｬｽﾞ作品研究2（前）［木4］	佐藤　達哉	GK5922	･････････	2249
マイルス・デイビスの研究／ジャズ作品研究１（前）［金3］	原　朋直	GK5930	･････････	2251
ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ･ｺｰﾄﾞ/ﾊｰﾓﾆｰ/ｼﾞｬｽﾞﾊｰﾓﾆｰ5（前）［火3］	山田　拓児	GK5935	･････････	2253
ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･ﾓｰﾀﾞﾙ･ﾊｰﾓﾆｰ/ｼﾞｬｽﾞﾊｰﾓﾆｰ6（後）［火3］	山田　拓児	GK5936	･････････	2255
楽器と演奏論［月2］	森　威功	GK6145	･････････	2257
音楽分析総合講座［月5］	松下　倫士	GK6161	･････････	2260
音楽鑑賞論［金4］	那須田　務	GK6261	･････････	2263
日本音楽史（後）［金2］	森重　行敏	GK6267	･････････	2266
音楽学特殊講義１（後）［水2］	西釋　英里香	GK6268	･････････	2268
東洋音楽史（後）［火4］	山本　華子	GK6270	･････････	2270
教職論（前）［月1］Aクラス	吉田　真理子	GK7311	･････････	2272
教職論（前）［月1］Bクラス	齋藤　孝	GK7311	･････････	2274
教職論（前）［月1］Cクラス	根岸　久明	GK7311	･････････	2276
教職論（前）［月1］Dクラス	伊藤　民子	GK7311	･････････	2278
教職論（前）［月1］Eクラス	木村　泰子	GK7311	･････････	2280
教育原理（後）［月1］Aクラス	吉田　真理子	GK7320	･････････	2282
教育原理（後）［月1］Bクラス	齋藤　孝	GK7320	･････････	2284
教育原理（後）［月1］Cクラス	根岸　久明	GK7320	･････････	2286
教育原理（後）［月1］Dクラス	伊藤　民子	GK7320	･････････	2288
教育原理（後）［月1］Eクラス	木村　泰子	GK7320	･････････	2290
教育心理学（前）［月2］Aクラス	尾曽　亮彦	GK7330	･････････	2292
教育心理学（後）［月2］Bクラス	尾曽　亮彦	GK7330	･････････	2294
教育の制度と経営（前）［木1］Aクラス	木下　光彦	GK7341	･････････	2296
教育の制度と経営（前）［木1］Bクラス	風見　章	GK7341	･････････	2299
教育の制度と経営（後）［木1］Cクラス	木下　光彦	GK7341	･････････	2302
教育の制度と経営（後）［木1］Dクラス	風見　章	GK7341	･････････	2305
教育課程の研究／教育課程論（前）［月2］Aクラス	齋藤　孝	GK7350	･････････	2308
教育課程の研究／教育課程論（前）［月2］Bクラス	伊藤　民子	GK7350	･････････	2311
教育課程の研究／教育課程論（後）［月2］Cクラス	齋藤　孝	GK7350	･････････	2314
教育課程の研究／教育課程論（後）［月2］Dクラス	伊藤　民子	GK7350	･････････	2317
道徳指導法（前）［水1］Aクラス	伊藤　民子	GK7360	･････････	2320
道徳指導法（前）［水1］Bクラス	石川　勉	GK7360	･････････	2323
道徳指導法（前）［水1］Cクラス	野中　隆	GK7360	･････････	2326
道徳指導法（前）［水1］Dクラス	風見　章	GK7360	･････････	2329

道徳指導法(前)[水1]Eクラス	齋藤　孝	GK7360	･････････	2332
音楽科教育法I(前)[火2]Aクラス	吉田　真理子	GK7361	･････････	2335
音楽科教育法I(前)[火2]Bクラス	尾形　敏幸	GK7361	･････････	2338
音楽科教育法I(前)[火2]Cクラス	伊藤　民子	GK7361	･････････	2341
音楽科教育法I(前)[火2]Dクラス	秋元　みさ子	GK7361	･････････	2344
音楽科教育法I(前)[火2]Eクラス	金井　公美子	GK7361	･････････	2347
音楽科教育法I(前)[火2]Fクラス	和田　崇	GK7361	･････････	2350
音楽科教育法II(後)[火2]Aクラス	吉田　真理子	GK7362	･････････	2353
音楽科教育法II(後)[火2]Bクラス	尾形　敏幸	GK7362	･････････	2356
音楽科教育法II(後)[火2]Cクラス	伊藤　民子	GK7362	･････････	2359
音楽科教育法II(後)[火2]Dクラス	秋元　みさ子	GK7362	･････････	2362
音楽科教育法II(後)[火2]Eクラス	金井　公美子	GK7362	･････････	2365
音楽科教育法II(後)[火2]Fクラス	和田　崇	GK7362	･････････	2368
音楽科教育法III(前)[金1]Aクラス	吉田　真理子	GK7363	･････････	2371
音楽科教育法III(前)[金1]Bクラス	尾形　敏幸	GK7363	･････････	2374
音楽科教育法III(前)[金1]Cクラス	高橋　辰也	GK7363	･････････	2377
音楽科教育法III(前)[金1]Dクラス	金井　公美子	GK7363	･････････	2380
音楽科教育法III(前)[金1]Eクラス	三戸　誠	GK7363	･････････	2383
音楽科教育法III(前)[金2]Fクラス	吉田　真理子	GK7363	･････････	2386
音楽科教育法III(前)[金2]Gクラス	尾形　敏幸	GK7363	･････････	2389
音楽科教育法III(前)[金2]Hクラス	高橋　辰也	GK7363	･････････	2392
音楽科教育法III(前)[金2]Jクラス	金井　公美子	GK7363	･････････	2395
音楽科教育法III(前)[金2]Kクラス	西田　豊	GK7363	･････････	2398
音楽科教育法IV(後)[金1]Aクラス	吉田　真理子	GK7364	･････････	2401
音楽科教育法IV(後)[金1]Bクラス	尾形　敏幸	GK7364	･････････	2404
音楽科教育法IV(後)[金1]Cクラス	高橋　辰也	GK7364	･････････	2407
音楽科教育法IV(後)[金1]Dクラス	金井　公美子	GK7364	･････････	2410
音楽科教育法IV(後)[金1]Eクラス	三戸　誠	GK7364	･････････	2413
音楽科教育法IV(後)[金2]Fクラス	吉田　真理子	GK7364	･････････	2416
音楽科教育法IV(後)[金2]Gクラス	尾形　敏幸	GK7364	･････････	2419
音楽科教育法IV(後)[金2]Hクラス	高橋　辰也	GK7364	･････････	2422
音楽科教育法IV(後)[金2]Jクラス	金井　公美子	GK7364	･････････	2425
音楽科教育法IV(後)[金2]Kクラス	西田　豊	GK7364	･････････	2428
特別活動指導法(前)[金1]Aクラス	並木　正	GK7366	･････････	2431
特別活動指導法(前)[金1]Bクラス	根岸　久明	GK7366	･････････	2434
特別活動指導法(前)[金1]Cクラス	風見　章	GK7366	･････････	2437
特別活動指導法(後)[金1]Dクラス	並木　正	GK7366	･････････	2440
特別活動指導法(後)[金1]Eクラス	根岸　久明	GK7366	･････････	2443
特別活動指導法(後)[金1]Fクラス	風見　章	GK7366	･････････	2446
教育方法・技術論(前)[火2]Aクラス	齋藤　孝	GK7371	･････････	2449
教育方法・技術論(前)[火2]Bクラス	風見　章	GK7371	･････････	2452
教育方法・技術論(後)[火2]Cクラス	齋藤　孝	GK7371	･････････	2455
教育方法・技術論(後)[火2]Dクラス	風見　章	GK7371	･････････	2458
生徒指導・進路指導論(前)[木1]Aクラス	野中　隆	GK7381	･････････	2461
生徒指導・進路指導論(前)[木1]Bクラス	田神　仁	GK7381	･････････	2463
生徒指導・進路指導論(後)[木1]Cクラス	野中　隆	GK7381	･････････	2465
生徒指導・進路指導論(後)[木1]Dクラス	田神　仁	GK7381	･････････	2467
教育相談の方法論(後)[水1]Aクラス	伊藤　民子	GK7385	･････････	2469
教育相談の方法論(後)[水1]Bクラス	石川　勉	GK7385	･････････	2471
教育相談の方法論(後)[水1]Cクラス	野中　隆	GK7385	･････････	2473
教育相談の方法論(後)[水1]Dクラス	風見　章	GK7385	･････････	2475
教育相談の方法論(後)[水1]Eクラス	齋藤　孝	GK7385	･････････	2477
バンド・ワークショップ1-1(前)[月5]Aクラス	斉藤　光浩	GK7511	･････････	2479
バンド・ワークショップ1-1(前)[火5]Bクラス	小柳”Cherry”昌法	GK7511	･････････	2481
バンド・ワークショップ1-1(前)[水5]Cクラス	北島　健二	GK7511	･････････	2483

バンド・ワークショップ1-1(前)[木5]Dクラス	明石　昌夫	GK7511	・・・・・・・・	2485
バンド・ワークショップ1-1(前)[金5]Eクラス	田中　一郎	GK7511	・・・・・・・・	2487
バンド・ワークショップ1-1(前)[月5]Fクラス	坂井　紀雄	GK7511	・・・・・・・・	2489
バンド・ワークショップ1-1(前)[火5]Gクラス	高橋　利光	GK7511	・・・・・・・・	2491
バンド・ワークショップ1-1(前)[木5]Sクラス	前野　知常	GK7511	・・・・・・・・	2493
バンド・ワークショップ1-1(前)[水5]Wクラス	葉山　たけし	GK7511	・・・・・・・・	2495
バンド・ワークショップ1-2(後)[月5]Aクラス	斉藤　光浩	GK7512	・・・・・・・・	2497
バンド・ワークショップ1-2(後)[火5]Bクラス	小柳”Cherry”昌法	GK7512	・・・・・・・・	2499
バンド・ワークショップ1-2(後)[水5]Cクラス	北島　健二	GK7512	・・・・・・・・	2501
バンド・ワークショップ1-2(後)[木5]Dクラス	明石　昌夫	GK7512	・・・・・・・・	2503
バンド・ワークショップ1-2(後)[金5]Eクラス	田中　一郎	GK7512	・・・・・・・・	2505
バンド・ワークショップ1-2(後)[月5]Fクラス	坂井　紀雄	GK7512	・・・・・・・・	2507
バンド・ワークショップ1-2(後)[火5]Gクラス	高橋　利光	GK7512	・・・・・・・・	2509
バンド・ワークショップ1-2(後)[木5]Sクラス	前野　知常	GK7512	・・・・・・・・	2511
バンド・ワークショップ2-1(前)[月4]Aクラス	坂井　紀雄	GK7513	・・・・・・・・	2513
バンド・ワークショップ2-1(前)[火5]Bクラス	須貝　幸生	GK7513	・・・・・・・・	2515
バンド・ワークショップ2-1(前)[水5]Cクラス	高橋　利光	GK7513	・・・・・・・・	2517
バンド・ワークショップ2-1(前)[木5]Dクラス	葉山　たけし	GK7513	・・・・・・・・	2519
バンド・ワークショップ2-1(前)[金5]Eクラス	西平　彰	GK7513	・・・・・・・・	2521
バンド・ワークショップ2-1(前)[月4]Fクラス	明石　昌夫	GK7513	・・・・・・・・	2523
バンド・ワークショップ2-1(前)[金4]Gクラス	田中　一郎	GK7513	・・・・・・・・	2525
バンド・ワークショップ2-1(前)[金5]Sクラス	坂井　紀雄	GK7513	・・・・・・・・	2527
バンド・ワークショップ2-2(後)[月4]Aクラス	坂井　紀雄	GK7514	・・・・・・・・	2529
バンド・ワークショップ2-2(後)[火5]Bクラス	須貝　幸生	GK7514	・・・・・・・・	2531
バンド・ワークショップ2-2(後)[水5]Cクラス	高橋　利光	GK7514	・・・・・・・・	2533
バンド・ワークショップ2-2(後)[木5]Dクラス	葉山　たけし	GK7514	・・・・・・・・	2535
バンド・ワークショップ2-2(後)[金5]Eクラス	西平　彰	GK7514	・・・・・・・・	2537
バンド・ワークショップ2-2(後)[月4]Fクラス	明石　昌夫	GK7514	・・・・・・・・	2539
バンド・ワークショップ2-2(後)[金4]Gクラス	田中　一郎	GK7514	・・・・・・・・	2541
バンド・ワークショップ2-2(後)[金5]Sクラス	坂井　紀雄	GK7514	・・・・・・・・	2543
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[月5]Aクラス	明石　昌夫	GK7515d	・・・・・・・・	2545
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[火4]Bクラス	斉藤　光浩	GK7515d	・・・・・・・・	2547
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[水5]Cクラス	葉山　たけし	GK7515d	・・・・・・・・	2549
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[木4]Dクラス	JAH - RAH	GK7515d	・・・・・・・・	2551
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[金4]Eクラス	川村　ケン	GK7515d	・・・・・・・・	2553
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[月4]Fクラス	斉藤　光浩	GK7515d	・・・・・・・・	2555
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[火4]Gクラス	須貝　幸生	GK7515d	・・・・・・・・	2557
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[木4]Hクラス	小柳”Cherry”昌法	GK7515d	・・・・・・・・	2559
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[金4]Jクラス	明石　昌夫	GK7515d	・・・・・・・・	2561
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[火4]Kクラス	田中　一郎	GK7515d	・・・・・・・・	2563
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[木4]Lクラス	葉山　たけし	GK7515d	・・・・・・・・	2565
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[木5]Sクラス	前野　知常	GK7515d	・・・・・・・・	2567
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-1／2-1(前)[金5]Wクラス	坂井　紀雄	GK7515d	・・・・・・・・	2569
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[月5]Aクラス	明石　昌夫	GK7516d	・・・・・・・・	2571
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[火4]Bクラス	斉藤　光浩	GK7516d	・・・・・・・・	2573
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[水5]Cクラス	葉山　たけし	GK7516d	・・・・・・・・	2575
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[木4]Dクラス	JAH - RAH	GK7516d	・・・・・・・・	2577
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[金4]Eクラス	川村　ケン	GK7516d	・・・・・・・・	2579
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[月4]Fクラス	斉藤　光浩	GK7516d	・・・・・・・・	2581
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[火4]Gクラス	須貝　幸生	GK7516d	・・・・・・・・	2583
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[木4]Hクラス	小柳”Cherry”昌法	GK7516d	・・・・・・・・	2585
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[金4]Jクラス	明石　昌夫	GK7516d	・・・・・・・・	2587
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[火4]Kクラス	田中　一郎	GK7516d	・・・・・・・・	2589
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[木4]Lクラス	葉山　たけし	GK7516d	・・・・・・・・	2591
アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[木5]Sクラス	前野　知常	GK7516d	・・・・・・・・	2593

アドバンスト・バンド・ワークショップ1-2／2-2(後)[金5]Wクラス	坂井　紀雄	GK7516d	･････････	2595
レコーディング・セッション1-1(前)[月5-6]Aクラス	斉藤　光浩	GK7519	･････････	2597
レコーディング・セッション1-1(前)[火5-6]Bクラス	小柳”Cherry”昌法	GK7519	･････････	2599
レコーディング・セッション1-1(前)[水5-6]Cクラス	北島　健二	GK7519	･････････	2601
レコーディング・セッション1-1(前)[木5-6]Dクラス	明石　昌夫	GK7519	･････････	2603
レコーディング・セッション1-1(前)[金5-6]Eクラス	田中　一郎	GK7519	･････････	2605
レコーディング・セッション1-1(前)[月5-6]Fクラス	坂井　紀雄	GK7519	･････････	2607
レコーディング・セッション1-1(前)[火5-6]Gクラス	高橋　利光	GK7519	･････････	2609
レコーディング・セッション1-1(前)[木5-6]Sクラス	前野　知常	GK7519	･････････	2611
レコーディング・セッション1-1(前)[水5-6]Wクラス	葉山　たけし	GK7519	･････････	2613
レコーディング・セッション1-2(後)[月5-6]Aクラス	斉藤　光浩	GK7520	･････････	2615
レコーディング・セッション1-2(後)[火5-6]Bクラス	小柳”Cherry”昌法	GK7520	･････････	2617
レコーディング・セッション1-2(後)[水5-6]Cクラス	北島　健二	GK7520	･････････	2619
レコーディング・セッション1-2(後)[木5-6]Dクラス	明石　昌夫	GK7520	･････････	2621
レコーディング・セッション1-2(後)[金5-6]Eクラス	田中　一郎	GK7520	･････････	2623
レコーディング・セッション1-2(後)[月5-6]Fクラス	坂井　紀雄	GK7520	･････････	2625
レコーディング・セッション1-2(後)[火5-6]Gクラス	高橋　利光	GK7520	･････････	2627
レコーディング・セッション1-2(後)[木5-6]Sクラス	前野　知常	GK7520	･････････	2629
レコーディング・セッション2-1(前)[月3-4]Aクラス	坂井　紀雄	GK7521	･････････	2631
レコーディング・セッション2-1(前)[火5-6]Bクラス	須貝　幸生	GK7521	･････････	2633
レコーディング・セッション2-1(前)[水5-6]Cクラス	高橋　利光	GK7521	･････････	2635
レコーディング・セッション2-1(前)[木5-6]Dクラス	葉山　たけし	GK7521	･････････	2637
レコーディング・セッション2-1(前)[金5-6]Eクラス	西平　彰	GK7521	･････････	2639
レコーディング・セッション2-1(前)[月3-4]Fクラス	明石　昌夫	GK7521	･････････	2641
レコーディング・セッション2-1(前)[金3-4]Gクラス	田中　一郎	GK7521	･････････	2643
レコーディング・セッション2-1(前)[金5-6]Sクラス	坂井　紀雄	GK7521	･････････	2645
レコーディング・セッション2-2(後)[月3-4]Aクラス	坂井　紀雄	GK7522	･････････	2647
レコーディング・セッション2-2(後)[火5-6]Bクラス	須貝　幸生	GK7522	･････････	2649
レコーディング・セッション2-2(後)[水5-6]Cクラス	高橋　利光	GK7522	･････････	2651
レコーディング・セッション2-2(後)[木5-6]Dクラス	葉山　たけし	GK7522	･････････	2653
レコーディング・セッション2-2(後)[金5-6]Eクラス	西平　彰	GK7522	･････････	2655
レコーディング・セッション2-2(後)[月3-4]Fクラス	明石　昌夫	GK7522	･････････	2657
レコーディング・セッション2-2(後)[金3-4]Gクラス	田中　一郎	GK7522	･････････	2659
レコーディング・セッション2-2(後)[金5-6]Sクラス	坂井　紀雄	GK7522	･････････	2661
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[月5-6]Aクラス	明石　昌夫	GK7523d	･････････	2663
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[火3-4]Bクラス	斉藤　光浩	GK7523d	･････････	2665
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[水5-6]Cクラス	葉山　たけし	GK7523d	･････････	2667
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[木3-4]Dクラス	JAH - RAH	GK7523d	･････････	2669
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[金3-4]Eクラス	川村　ケン	GK7523d	･････････	2671
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[月3-4]Fクラス	斉藤　光浩	GK7523d	･････････	2673
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[火3-4]Gクラス	須貝　幸生	GK7523d	･････････	2675
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[木3-4]Hクラス	小柳”Cherry”昌法	GK7523d	･････････	2677
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[金3-4]Jクラス	明石　昌夫	GK7523d	･････････	2679
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[火3-4]Kクラス	田中　一郎	GK7523d	･････････	2681
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[木3-4]Lクラス	葉山　たけし	GK7523d	･････････	2683
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[木5-6]Sクラス	前野　知常	GK7523d	･････････	2685
アドバンスト・レコーディング・セッション1-1／2-1(前)[金5-6]Wクラス	坂井　紀雄	GK7523d	･････････	2687
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2(後)[月5-6]Aクラス	明石　昌夫	GK7524d	･････････	2689
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2(後)[火3-4]Bクラス	斉藤　光浩	GK7524d	･････････	2691
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2(後)[水5-6]Cクラス	葉山　たけし	GK7524d	･････････	2693
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2(後)[木3-4]Dクラス	JAH - RAH	GK7524d	･････････	2695
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2(後)[金3-4]Eクラス	川村　ケン	GK7524d	･････････	2697
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2(後)[月3-4]Fクラス	斉藤　光浩	GK7524d	･････････	2699
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2(後)[火3-4]Gクラス	須貝　幸生	GK7524d	･････････	2701
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2(後)[木3-4]Hクラス	小柳”Cherry”昌法	GK7524d	･････････	2703

アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）［金3-4］Jクラス	明石　昌夫	GK7524d	・・・・・・・・	2705
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）［火3-4］Kクラス	田中　一郎	GK7524d	・・・・・・・・	2707
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）［木3-4］Lクラス	葉山　たけし	GK7524d	・・・・・・・・	2709
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）［木5-6］Sクラス	前野　知常	GK7524d	・・・・・・・・	2711
アドバンスト・レコーディング・セッション1-2／2-2（後）［金5-6］Wクラス	坂井　紀雄	GK7524d	・・・・・・・・	2713
R＆P・ヒストリー［木3］	前野　知常	GK7560	・・・・・・・・	2715
ミュージック・ビジネス［火4］	岡本　健志	GK7566	・・・・・・・・	2718
ジャズハーモニーI-１／ジャズハーモニー１（前）［水4］Bクラス	今泉　正明	GK7581	・・・・・・・・	2721
ジャズハーモニーI-１／ジャズハーモニー１（前）［月5］Cクラス	蟻正　行義	GK7581	・・・・・・・・	2723
ジャズハーモニーI-２／ジャズハーモニー２（後）［水4］Bクラス	今泉　正明	GK7582	・・・・・・・・	2725
ジャズハーモニーI-２／ジャズハーモニー２（後）［月5］Cクラス	蟻正　行義	GK7582	・・・・・・・・	2727
ジャズハーモニーII-１／ジャズハーモニー３（前）［木2］Bクラス	今泉　正明	GK7583	・・・・・・・・	2729
ジャズハーモニーII-１／ジャズハーモニー３（前）［火4］Cクラス	蟻正　行義	GK7583	・・・・・・・・	2731
ジャズハーモニーII-２／ジャズハーモニー４（後）［木2］Bクラス	今泉　正明	GK7584	・・・・・・・・	2733
ジャズハーモニーII-２／ジャズハーモニー４（後）［火4］Cクラス	蟻正　行義	GK7584	・・・・・・・・	2735
R＆P・ベーシックス（前）［火3］	前野　知常	GK7608	・・・・・・・・	2737
R＆P・セオリー（後）［火3］	前野　知常	GK7609	・・・・・・・・	2739
R＆P・ソルフェージュⅠ（前）［木4］Aクラス	川村　ケン	GK7610	・・・・・・・・	2741
R＆P・ソルフェージュⅠ（前）［木4］Bクラス	前野　知常	GK7610	・・・・・・・・	2743
R＆P・ソルフェージュⅡ（後）［木4］Aクラス	川村　ケン	GK7611	・・・・・・・・	2745
R＆P・ソルフェージュⅡ（後）［木4］Bクラス	前野　知常	GK7611	・・・・・・・・	2747
R＆P・ソルフェージュⅢ（前）［火3］Aクラス	高橋　利光	GK7612	・・・・・・・・	2749
R＆P・ソルフェージュⅢ（前）［火3］Bクラス	西平　彰	GK7612	・・・・・・・・	2751
芸術史［火5］	瀧本　みわ	GK7700	・・・・・・・・	2753
法学（日本国憲法）（前）［水1］P1クラス	伊東　明子	GK7702	・・・・・・・・	2756
法学（日本国憲法）（前）［水1］P2クラス	大久保　悠貴	GK7702	・・・・・・・・	2758
法学（日本国憲法）（後）［水1］Q1クラス	伊東　明子	GK7702	・・・・・・・・	2760
法学（日本国憲法）（後）［水1］Q2クラス	大久保　悠貴	GK7702	・・・・・・・・	2762
法学（日本国憲法）（後）［水1］Q3クラス	田上　雄大	GK7702	・・・・・・・・	2764
社会福祉論（前）［木1］Pクラス	高橋　幸裕	GK7706	・・・・・・・・	2766
社会福祉論（後）［木1］Qクラス	高橋　幸裕	GK7706	・・・・・・・・	2768
ビジネス講座（秘書検定対策）（前）［金3］P1クラス	稲又　可奈	GK7707	・・・・・・・・	2770
ビジネス講座（秘書検定対策）（後）［金2］Q1クラス	稲又　可奈	GK7707	・・・・・・・・	2772
ビジネス講座（秘書検定対策）（後）［金3］Q2クラス	稲又　可奈	GK7707	・・・・・・・・	2774
音響学1［金5］	桐生　昭吾	GK7708	・・・・・・・・	2776
情報機器の操作（前）［月4］P1クラス	金内　真紀	GK7709	・・・・・・・・	2779
情報機器の操作（前）［火2］P2クラス	金内　真紀	GK7709	・・・・・・・・	2781
情報機器の操作（前）［火3］P3クラス	金内　真紀	GK7709	・・・・・・・・	2783
情報機器の操作（前）［水2］P4クラス	林　洋子	GK7709	・・・・・・・・	2785
情報機器の操作（前）［金2］P5クラス	金内　真紀	GK7709	・・・・・・・・	2787
情報機器の操作（後）［月4］Q1クラス	金内　真紀	GK7709	・・・・・・・・	2789
情報機器の操作（後）［火3］Q3クラス	金内　真紀	GK7709	・・・・・・・・	2791
情報機器の操作（後）［水2］Q5クラス	金内　真紀	GK7709	・・・・・・・・	2793
情報機器の操作（後）［金2］Q6クラス	金内　真紀	GK7709	・・・・・・・・	2795
情報機器の操作（後）［金3］Q7クラス	相馬　健太	GK7709	・・・・・・・・	2797
保健体育（前）［水1］P1クラス	田中　良	GK7726	・・・・・・・・	2799
保健体育（前）［水1］P2クラス	片瀬　文雄	GK7726	・・・・・・・・	2801
保健体育（前）［水1］P3クラス	髙尾　尚平	GK7726	・・・・・・・・	2803
保健体育（前）［水2］P4クラス	田中　良	GK7726	・・・・・・・・	2805
保健体育（後）［水1］Q1クラス	田中　良	GK7726	・・・・・・・・	2807
保健体育（後）［水1］Q2クラス	片瀬　文雄	GK7726	・・・・・・・・	2809
保健体育（後）［水1］Q3クラス	髙尾　尚平	GK7726	・・・・・・・・	2811
保健体育（後）［水2］Q4クラス	田中　良	GK7726	・・・・・・・・	2813
経済学［火1］Aクラス	斎藤　英明	GK7728	・・・・・・・・	2815
経済学［火1］Bクラス	小林　和馬	GK7728	・・・・・・・・	2818

著作権法（前）［金1］P1クラス	宮下　義樹	GK7729	･････････	2821
著作権法（前）［金1］P2クラス	齋藤　崇	GK7729	･････････	2823
著作権法（後）［金1］Q1クラス	宮下　義樹	GK7729	･････････	2825
著作権法（後）［金1］Q2クラス	齋藤　崇	GK7729	･････････	2827
ジェンダー［金5］	大森　美佐	GK7730	･････････	2829
読解力養成講座１（前）［火3］Aクラス	越懸澤　麻衣	GK7731	･････････	2832
読解力養成講座１（前）［火4］Bクラス	越懸澤　麻衣	GK7731	･････････	2834
読解力養成講座２（後）［火3］Aクラス	越懸澤　麻衣	GK7732	･････････	2836
読解力養成講座２（後）［火4］Bクラス	越懸澤　麻衣	GK7732	･････････	2838
文章力養成講座１（前）［水3］Aクラス	風見　章	GK7733	･････････	2840
文章力養成講座１（前）［水4］Bクラス	風見　章	GK7733	･････････	2842
文章力養成講座２（後）［水3］Aクラス	風見　章	GK7734	･････････	2844
文章力養成講座２（後）［水4］Bクラス	風見　章	GK7734	･････････	2846
分析力養成講座１（前）［木3］Aクラス	木下　光彦	GK7735	･････････	2848
分析力養成講座１（前）［木4］Bクラス	木下　光彦	GK7735	･････････	2850
分析力養成講座２（後）［木3］Aクラス	木下　光彦	GK7736	･････････	2852
分析力養成講座２（後）［木4］Bクラス	木下　光彦	GK7736	･････････	2854
外国文学（後）［金5］	遠藤　紀明	GK7737	･････････	2856
西洋文化史（前）［火2］Pクラス	長谷川　美子	GK7738	･････････	2858
西洋文化史（後）［火2］Qクラス	長谷川　美子	GK7738	･････････	2860
テクノロジーと芸術（前）［月5］Pクラス	平野　剛	GK7740	･････････	2862
テクノロジーと芸術（後）［月5］Qクラス	平野　剛	GK7740	･････････	2864
芸術と社会（前）［水1］Pクラス	西釋　英里香	GK7741	･････････	2866
芸術と社会（後）［水2］Qクラス	姫田　大	GK7741	･････････	2868
音響工学芸術論（前）［火1］電子楽器経験無い学生向け	富　正和	GK7742	･････････	2870
音響工学芸術論（後）［火1］ブラックホール系の学生向け	富　正和	GK7742	･････････	2872
プロデュース論／プロデュース学（前）［火1］ブラックホール系の学生向	徳永　宏	GK7743	･････････	2874
プロデュース論／プロデュース学（後）［火1］電子楽器経験無い学生向け	徳永　宏	GK7743	･････････	2876
舞踊史１（前）［火1］	川島　京子	GK7745	･････････	2878
舞踊史２（後）［火1］	川島　京子	GK7746	･････････	2880
運動生理学（前）［火1］	平野　剛	GK7749	･････････	2882
解剖学（前）［火4］	大塚　成人	GK7751	･････････	2884
動作学（後）［火4］	仲保　徹	GK7752	･････････	2886
芸術史I（前）［火5］	瀧本　みわ	GK7753	･････････	2888
芸術史II（後）［火5］	瀧本　みわ	GK7754	･････････	2890
音響学I（前）［金5］	桐生　昭吾	GK7755	･････････	2892
音響学II（後）［金5］	桐生　昭吾	GK7756	･････････	2894
経済学I（前）［火1］Aクラス	斎藤　英明	GK7757	･････････	2896
経済学I（前）［火1］Bクラス	小林　和馬	GK7757	･････････	2898
経済学II（後）［火1］Aクラス	斎藤　英明	GK7758	･････････	2900
経済学II（後）［火1］Bクラス	小林　和馬	GK7758	･････････	2902
ジェンダーI（前）［金5］	大森　美佐	GK7759	･････････	2904
ジェンダーII（後）［金5］	青木　由香	GK7760	･････････	2906
心理学I（前）［火5］	後藤　進吾	GK7761	･････････	2908
心理学II（後）［火5］	後藤　進吾	GK7762	･････････	2910
栄養学（後）［火1］	岸　昌代	GK7763	･････････	2912
映像学１（前）［水2］	前田　康徳	GK7764	･････････	2914
映像学２（後）［水2］	前田　康徳	GK7765	･････････	2916
建築と芸術Ⅰ（前）［火5］	黒木　正郎	GK7766	･････････	2918
建築と芸術Ⅱ（後）［火5］	黒木　正郎	GK7767	･････････	2920
AIと芸術Ⅰ（前）［火1］	大谷　紀子	GK7768	･････････	2922
AIと芸術Ⅱ（後）［火1］	大谷　紀子	GK7769	･････････	2924
作詩基礎研究１（前）［水5］	吉元　由美	GK7770	･････････	2926
作詩基礎研究２（後）［水5］	吉元　由美	GK7771	･････････	2928
演奏会実習［火3］	古田　賢司	HE1751	･････････	2930

専攻科特殊研究１	担当教員	HE1760	･････････	2933
専攻科特殊研究２	担当教員	HE1770	･････････	2936
専攻科特殊研究３	担当教員	HE1780	･････････	2938
専攻科特殊研究４	担当教員	HE1790	･････････	2940
専攻科特殊研究５	担当教員	HE1791	･････････	2942
コンチェルト[水4]	赤塚　博美	HE1813	･････････	2944
アンサンブル（後）[金3]	佐藤　昌弘	HK1821	･････････	2947
修了研究	柳澤　涼子	HE2070	･････････	2949
海外研修	柳澤　涼子	HJ1711	･････････	2952
邦楽サウンド論[土3]	山口　賢治	HK1710	･････････	2954
ジャズの歴史１（前）[水4]Aクラス	マーク　トゥリアン	HK1712	･････････	2957
ジャズの歴史２（後）[水4]Aクラス	マーク　トゥリアン	HK1713	･････････	2959
ピアノ演奏史[木4]Aクラス	武田　一彦	HK1714	･････････	2961
ピアノ演奏史[木5]Bクラス	武田　一彦	HK1714	･････････	2964
オペラ史（後）[火2]	青島　広志	HK1715	･････････	2967
日本の伝統芸能と音楽[木3]Aクラス	森重　行敏	HK1716	･････････	2969
日本の伝統芸能と音楽[火5]Bクラス	山本　華子	HK1716	･････････	2972
諸民族の音楽（前）[木5]Aクラス	山本　華子	HK1717	･････････	2975
諸民族の音楽（後）[木5]Bクラス	山本　華子	HK1717	･････････	2977
古代、中世、ルネッサンスの音楽史（前）[水2]Aクラス	尾山　真弓	HK1718	･････････	2979
古代、中世、ルネッサンスの音楽史（前）[水4]Bクラス	尾山　真弓	HK1718	･････････	2981
バロックの音楽史（後）[水2]Aクラス	尾山　真弓	HK1719	･････････	2983
バロックの音楽史（後）[水4]Bクラス	尾山　真弓	HK1719	･････････	2985
古典派の音楽史（前）[木3]Aクラス	越懸澤　麻衣	HK1721	･････････	2987
古典派の音楽史（前）[水4]Bクラス	大宅　緒	HK1721	･････････	2989
古典派の音楽史（前）[金4]Cクラス	西釋　英里香	HK1721	･････････	2991
古典派の音楽史（前）[木3]Dクラス	尾山　真弓	HK1721	･････････	2993
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[木3]Aクラス	越懸澤　麻衣	HK1722	･････････	2995
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[水4]Bクラス	大宅　緒	HK1722	･････････	2997
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[金4]Cクラス	西釋　英里香	HK1722	･････････	2999
ロマン派、近・現代の音楽史（後）[木3]Dクラス	尾山　真弓	HK1722	･････････	3001
日本音楽史（後）[金2]	森重　行敏	HK1723	･････････	3003
東洋音楽史（後）[火4]	山本　華子	HK1724	･････････	3005
音楽史[火2]	佐藤　昌弘	HK1730	･････････	3007
実用音楽講座（前）[月4]	柳澤　涼子	HK1731	･････････	3010
【仮登録】レッスン：副科実技（後）【仮登録】[共通]	未定	GL5199d	･････････	3012
作曲法・編曲法I【仮登録】（前）[金2]	作曲担当教員	GE0826	･････････	3014
作曲法・編曲法I【仮登録】（後）[金2]	作曲担当教員	GE0826	･････････	3016
作曲法・編曲法II【仮登録】（後）[金2]	作曲担当教員	GE0827	･････････	3018
音楽分析基礎講座[仮登録/シラバス用]	作曲担当教員	GE0831	･････････	3020
対位法【仮登録】[金3]	作曲担当教員	GE0846	･････････	3022
教職伴奏法【仮登録】（前）[火1]	谷川　明	GE0881	･････････	3025
教職伴奏法【仮登録】（後）[火1]	谷川　明	GE0881	･････････	3027
教職伴奏法【仮登録】（前）[火3]	皆川　純一	GE0881	･････････	3029
教職伴奏法【仮登録】（後）[火3]	皆川　純一	GE0881	･････････	3031
器楽曲伴奏法I-１[仮登録/シラバス用]	山本　佳世子	GE1376	･････････	3033
器楽曲伴奏法I-２[仮登録/シラバス用]	平沢　由美子	GE1377	･････････	3035
歌曲伴奏法Ⅰ[仮登録/シラバス用]	押川　涼子	GE1382	･････････	3037
歌曲伴奏法Ⅱ[仮登録/シラバス用]	吉武　雅子	GE1383	･････････	3039
二重奏／二重奏I[仮登録/シラバス用]	松浦　健	GE1401	･････････	3041
二重奏II[仮登録/シラバス用]	白澤　暁子	GE1402	･････････	3044
初見視奏I[仮登録/シラバス用]	石田　多紀乃	GE1416	･････････	3047
初見視奏II[仮登録/シラバス用]	竹原　暁子	GE1417	･････････	3049
管弦楽内ピアノ奏法研究１～４[仮登録/シラバス用][木4]	小林　裕子	GE1495d	･････････	3051
特別アンサンブル／ラボ２・４・６・８【仮登録/シラバス用】（後）	原　朋直	GE2012d	･････････	3054

アンサンブル／ラボ1-2～4-2【仮登録/シラバス用】(後)	原　朋直	GE2086d	･････････	3056
ポピュラー奏法特別研究1～4【仮登録】	三原　善隆	GE6668d	･････････	3058
楽式論I[仮登録/シラバス用]	大江　千佳子	GE6750	･････････	3061
楽式論II[仮登録/シラバス用]	大江　千佳子	GE6751	･････････	3063
R＆P・ヴォイストレーニング[仮登録/シラバス用]	佐々木　久美	GE7593	･････････	3065
R＆P・アレンジⅠ【仮登録】(後)[水4]	坂井　紀雄	GE7613	･････････	3067
R＆P・アレンジⅡ【仮登録】(前)[水4]	坂井　紀雄	GE7614	･････････	3069
作詞／作曲Ⅰ【仮登録】(前)[金3]	丸山　圭子	GE7617	･････････	3071
作詞／作曲Ⅱ【仮登録】(後)[金3]	丸山　圭子	GE7618	･････････	3073
DTM実習1【仮登録】(前)[金2]	斉藤　光浩	GE7622	･････････	3075
DTM実習2【仮登録】(後)[金2]	斉藤　光浩	GE7623	･････････	3077
英語1-I【仮登録】(前)[水4]	伊藤　満里	GE7710	･････････	3079
英語1-I【仮登録】(前)[金3]	伊藤　満里	GE7710	･････････	3081
英語1-II【仮登録】(後)[水4]	伊藤　満里	GE7711	･････････	3083
英語1-II【仮登録】(後)[金3]	伊藤　満里	GE7711	･････････	3085
教職ピアノ実習1-I【仮登録】(前)	未定	GJ0940	･････････	3087
管弦楽概論[仮登録/シラバス用]	作曲担当教員	GK0571	･････････	3089
ソルフェージュI【仮登録】(前)[木1]	作曲担当教員	GK0711	･････････	3092
ソルフェージュI【仮登録】(後)[木2]	作曲担当教員	GK0711	･････････	3094
ソルフェージュI【仮登録】(前)[木4](RP専用)	前野　知常	GK0711	･････････	3096
ソルフェージュII【仮登録】(前)[木2]	作曲担当教員	GK0712	･････････	3098
ソルフェージュII【仮登録】(後)[木1]	作曲担当教員	GK0712	･････････	3100
ソルフェージュII【仮登録】(後)[木4]	前野　知常	GK0712	･････････	3102
ソルフェージュIII[シラバス用](前)	作曲担当教員	GK0713	･････････	3104
ソルフェージュIII[シラバス用](後)	作曲担当教員	GK0713	･････････	3106
ソルフェージュIII【仮登録】(前)[火3]	前野　知常	GK0713	･････････	3108
ソルフェージュIV[シラバス用](前)	作曲担当教員	GK0714	･････････	3110
ソルフェージュIV[シラバス用](後)	作曲担当教員	GK0714	･････････	3112
和声学I【仮登録】(後)[月2]	作曲担当教員	GK0811	･････････	3114
和声学IV[シラバス用](前)	作曲担当教員	GK0814	･････････	3116
和声学V[シラバス用](後)	作曲担当教員	GK0815	･････････	3118
古典派の音楽史【仮登録】(前)[木3]	尾山　真弓	GK0853	･････････	3120
ロマン派、近・現代の音楽史【仮登録】(後)[木3]	尾山　真弓	GK0854	･････････	3122
教職論【仮登録】(前)[月1]	吉田　真理子	GK7311	･････････	3124
教育原理【仮登録】(後)[月1]	吉田　真理子	GK7320	･････････	3126
R＆P・ソルフェージュⅠ【仮登録】(前)[木4]	前野　知常	GK7610	･････････	3128
R＆P・ソルフェージュⅡ【仮登録】(後)[木4]	前野　知常	GK7611	･････････	3130
R＆P・ソルフェージュⅢ【仮登録】(前)[火3]	前野　知常	GK7612	･････････	3132
法学(日本国憲法)【仮登録】(前)[水1]	伊東　明子	GK7702	･････････	3134
法学(日本国憲法)【仮登録】(後)[水1]	伊東　明子	GK7702	･････････	3136
保健体育【仮登録】(前)[水1]	片瀬　文雄	GK7726	･････････	3138
保健体育【仮登録】(後)[水1]	片瀬　文雄	GK7726	･････････	3140
経済学【仮登録】[火1]	斎藤　英明	GK7728	･････････	3142
著作権法【仮登録】(前)[金1]	宮下　義樹	GK7729	･････････	3145
著作権法【仮登録】(後)[金1]	宮下　義樹	GK7729	･････････	3147
経済学I【仮登録】(前)[火1]	斎藤　英明	GK7757	･････････	3149
経済学II【仮登録】(後)[火1]	斎藤　英明	GK7758	･････････	3151
教職ピアノ実習6【仮登録】(後)	未定	GL0946	･････････	3153
応用演奏会実習1-1～4-4応用演奏会実習[シラバス用]	複数指導教員	GE0661d	･････････	3155
特別アンサンブル／ラボ1・3・5・7[シラバス用]	原　朋直	GE2011d	･････････	3157
アンサンブル／ラボ1－1～4－2[シラバス用]	原　朋直	GEelabd	･････････	3159
室内楽研究2～4[シラバス用](電子オルガン)	赤塚　博美	GE3402d	･････････	3161
室内楽研究2～4[シラバス用](ピアノ)	清水　将仁	GE3402d	･････････	3164
室内楽研究1～4[シラバス用](打)	石井　喜久子	GE3401d	･････････	3167
室内楽研究1～4[シラバス用](弦)	水野　佐知香	GE3401d	･････････	3170

室内楽研究1～4[シラバス用]（管）	渡部　亨	GE3401d	･････････	3173
ヴァイオリンとピアノによるデュオ（ソナタ）２～４[シラバス用]	市野　あゆみ	GE3415d	･････････	3176
教育実習法（事前事後の指導を含む）	吉田　真理子	GE7390	･････････	3178
教職ピアノ実習１-I[シラバス用]	金井　公美子	GJ0940	･････････	3180
教職ピアノ実習１-II[シラバス用]	金井　公美子	GJ0941	･････････	3182
教職ピアノ実習２[仮登録/シラバス用]	未定	GJ0942	･････････	3184
教職ピアノ実習３[仮登録/シラバス用]	未定	GJ0943	･････････	3186
教職ピアノ実習４[仮登録/シラバス用]	未定	GJ0944	･････････	3188
教職ピアノ実習５[仮登録/シラバス用]	未定	GJ0945	･････････	3190
作曲理論研究Ⅲ[シラバス用]	清水　昭夫	GL0403d	･････････	3192
作曲理論研究Ⅳ[シラバス用]	清水　昭夫	GL0404d	･････････	3195
作曲技法研究Ⅰ[シラバス用]	清水　昭夫	GL0405d	･････････	3198
作曲技法研究Ⅱ[シラバス用]	清水　昭夫	GL0406d	･････････	3201
作曲技法研究Ⅲ[シラバス用]	清水　昭夫	GL0407d	･････････	3204
作曲技法研究Ⅳ[シラバス用]	清水　昭夫	GL0408d	･････････	3207
作曲理論研究Ⅰ[シラバス用](2017入学生以降)	清水　昭夫	GL0416d	･････････	3210
作曲理論研究Ⅱ[シラバス用](2017入学生以降)	清水　昭夫	GL0417d	･････････	3213
作曲理論研究Ⅲ[シラバス用](2017入学生以降)	清水　昭夫	GL0418d	･････････	3216
作曲理論研究Ⅳ[シラバス用](2017入学生以降)	清水　昭夫	GL0419d	･････････	3219
創作技法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	渡辺　俊幸	GL0501d	･････････	3222
創作技法共同研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	渡辺　俊幸	GL0505d	･････････	3225
アドバンスト・サポート・レッスン１～４[シラバス用]	渡辺　俊幸	GL0541d	･････････	3228
管楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	佛坂　咲千生	GL0601d	･････････	3231
弦楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	荒　庸子	GL0701d	･････････	3234
打楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	神谷　百子	GL0801d	･････････	3237
副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ/個人)各1～4-2[シラバス用]	未定	GL0981d	･････････	3240
音楽実技実習１～４[シラバス用]CO	清水　昭夫	GL1146d	･････････	3242
音楽実技実習２～４[シラバス用]ME	佐藤　昌弘	GL1147d	･････････	3245
ピアノ実技1～4[シラバス用]	清水　将仁	GL1151d	･････････	3248
音楽実技1～4[シラバス用]	清水　昭夫	GL1156d	･････････	3251
チェンバロ実習1･2[シラバス用]	岡田　龍之介	GL1471d	･････････	3254
ピアノ実技[シラバス用]	清水　将仁	GL2439d	･････････	3257
総合音楽専門研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	大江　千佳子	GL2801d	･････････	3259
ヴィオラ実習１－１～４－２[シラバス用]	古川原　裕仁	GL3321d	･････････	3262
ギター奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	原　善伸	GL3441d	･････････	3265
邦楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	松尾　祐孝	GL3501d	･････････	3268
ワールドミュージック専門研究Ⅰ-A～Ⅳ-A[シラバス用]	大江　千佳子	GL3601d	･････････	3271
ワールドミュージック専門研究Ⅰ-B～Ⅳ-C[シラバス用]	大江　千佳子	GL3605d	･････････	3274
ヴォイストレーニング１～４[シラバス用]	三橋　千鶴	GL3751d	･････････	3277
作曲基礎研究1～4[シラバス用]	浦壁　信二	GL4201d	･････････	3282
指導法研究1－Ⅰ～2－Ⅰ[シラバス用]	江崎　昌子	GL4205d	･････････	3285
指導法研究1－Ⅱ～2－Ⅱ[シラバス用]	江崎　昌子	GL4206d	･････････	3287
ピアノ奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	清水　将仁	GL4216d	･････････	3289
ポピュラーミュージック研究1－Ⅰ～2－Ⅰ[シラバス用]	鳥羽瀬　宗一郎	GL4226d	･････････	3292
ポピュラーミュージック研究1－Ⅱ～2－Ⅱ[シラバス用]	鳥羽瀬　宗一郎	GL4227d	･････････	3294
アンサンブル奏法研究1－Ⅰ～2－Ⅰ[シラバス用]	清水　将仁	GL4273d	･････････	3296
アンサンブル奏法研究1－Ⅱ～2－Ⅱ[シラバス用]	清水　将仁	GL4274d	･････････	3298
ピアノ奏法特殊研究1～4[シラバス用]	清水　将仁	GL4277d	･････････	3300
ジャズ奏法研究Ⅰ－1～Ⅳ－2[シラバス用]	蟻正　行義	GL4285d	･････････	3303
ジャズ奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用](2018入学生以降)	蟻正　行義	GL4291d	･････････	3305
ゲネラルバス実技1～4[シラバス用]	荻野　由美子	GL4301d	･････････	3308
オルガン奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	荻野　由美子	GL4316d	･････････	3311
電子オルガン奏法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	赤塚　博美	GL4356d	･････････	3314
声楽研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	塩田　美奈子	GL4516d	･････････	3317
声楽実習／声楽実習Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	塩田　美奈子	GL4641d	･････････	3320

ピアノ実習／ピアノ実習Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	清水　将仁	GL4661d	・・・・・・・・	3323
ヴォイスアーティスト技法研究１～４[シラバス用]	江原　陽子	GL5453d	・・・・・・・・	3326
ジャズ特別奏法研究１～４－２[シラバス用]	蟻正　行義	GL5961d	・・・・・・・・	3329
音楽実技実習Ⅰ～Ⅲ[シラバス用]	佐藤　昌弘	GL6181d	・・・・・・・・	3331
Ｒ＆Ｐ演奏技法研究Ⅰ～Ⅳ[シラバス用]	前野　知常	GL7501d	・・・・・・・・	3334
副科実技（Ｒ＆Ｐ）１～４－２[シラバス用]	前野　知常	GL7601d	・・・・・・・・	3337
専門研究Ａ[シラバス用]	柳澤　涼子	HL3016	・・・・・・・・	3339
専門研究Ｂ-１[シラバス用]	柳澤　涼子	HL3028	・・・・・・・・	3342
専門研究Ｂ-２[シラバス用]	柳澤　涼子	HL3029	・・・・・・・・	3345

科目名	ＤＴＶ演習　［月3］Aクラス						
代表教員	永岡　宏昭	授業コード	GE0121A0	科目コード	GE0121	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

デジタル技術を駆使した映像制作環境を体験しながら知識と技術を身につけ、各々が表現したいテーマに沿って映像作品を制作する。
既存の映像表現を考察しながら作品制作のヒントやアイディアを探り、授業内実習課題のなかで実際に形にする術を学ぶ。
学習成果を踏まえて年２回以上映像作品の自主制作を行う。

２．授業概要

自ら撮影した映像・画像データをコンピュータに取り込み、ソフトウェア上で加工・編集作業を行う。
映像自主制作に必要な素材をどのように準備するのか、また付随する音声・音楽とのかかわりにも着目する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

作品制作で使用する様々な機器の取り扱いを把握し、実習課題や自主制作に役立てること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の25%）
授業内課題（評価の25%）
前期末課題作品（評価の25%）
後期自主制作作品（評価の25%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内参考文献資料として私製テキストファイル（PDF、プリント）を項目に従い配布する。
そのほか要点を書き込みながら使用する実習用ガイドテキストも配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

機材やPCの台数に限りがあるので履修人数制限を行う場合がある。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	基本編集：トランジション
3	基本編集：クリップの拡大・移動・回転、テキストの入力
4	基本編集：キーフレーム
5	カメラワークの基本知識
6	カット/シーン/シークエンス、シーンをつなぐアイディア
7	映画のタイトルバックデザイン：礎を築いたデザイナー達
8	映画のタイトルバックデザイン：テーマ別スタイル考察
9	音声トラックの役割、絵コンテについて
10	前期課題作品制作　構成・絵コンテ
11	前期課題作品制作　撮影スケジュール
12	前期課題作品制作　撮影
13	前期課題作品制作　編集
14	前期課題作品制作　仕上げ編集
15	前期課題作品鑑賞／講評

授業計画	
	［後期］
1	映像加工の手法： 色調補正、描画モードの活用
2	映像加工の手法： テキスト表現、トラッキング
3	マスク合成について
4	カメラワークの技法
5	ミュージック・クリップ考察： 楽曲からの発想とアイディア
6	ミュージック・クリップ考察: テーマ別スタイル考察
7	ショートフィルム作品考察
8	カット割りと音声編集　実習
9	後期自主制作　企画・構成
10	後期自主制作　絵コンテ
11	後期自主制作　撮影スケジュール
12	後期自主制作　撮影
13	後期自主制作　編集
14	後期自主制作　仕上げ編集
15	後期自主制作作品鑑賞／講評

科目名	ＤＴＶ演習　［火4］Bクラス						
代表教員	冨永　憲治	授業コード	GE0121B0	科目コード	GE0121	期間	通年
担当教員	前田　康徳						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

実際に映像作品を制作し、映像を自己表現のツールとして活用することを目指す。故にカメラの使い方や、アプリケーションの操作の習得に終始するのではない。テーマを明確にし、的確な映像表現を模索しながら制作にあたる。また、映像と音楽の関係にも着目していく。共同作業を進めるにあたって、自分のイメージを的確に他者に伝える事ができるように努力する。

２．授業概要

本講座は複数開講されている。したがってクラスにより方針や内容、進度が異なるので初回の講義により各自判断して欲しい。
基礎的な映像制作のプロセス（企画・構成・シナリオ・コンテ・準備）を学習し、前期「自己PR-CM」、後期「3分間ムービー」を制作。前期は個人制作、後期はグループ制作も認める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

企画構成、シナリオといった作業は、授業外でも積極的に取り組んで欲しい。また、グループ制作の学生は、授業外でのディスカッションも必要となる。特に、授業を休んだ場合には、必ず遅れを取り戻す努力をすること。

４．成績評価の方法及び基準

完成作品の評価だけではなく、制作過程を重視する。前期授業評価25%、後期授業評価25%、作品25%､提出物10%､最終作品15%である。グループ作品の場合でも、個々に評価が違うことがある。他作品への参加や支援、も評価の対象となる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考図書

マスターショット100 低予算映画を大作に変える撮影術
クリストファー・ケンワーシー（著），吉田俊太郎（翻訳）

マスターショット2 ［ダイアローグ編］
クリストファー・ケンワーシー（著），吉田俊太郎（翻訳）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

カメラ機材やPCに限りがあるので、履修制限をお願いすることがある。必ず初回授業に出席すること。欠席の場合履修不可となる。
映像と音楽の基礎知識を得るために、「映像と音楽」の講義を履修することが望ましい。カメラ機材、PC並びに周辺機器は大学の機材を使用するが、SDカードは各人で購入すること。グループ制作を希望しても、教員の判断で認められない場合もある。*特に留意する点：作品制作中は進度がそれぞれ異なる。特にグループ制作では、他のメンバーに迷惑をかけないよう節度をわきまえて参加すること。

授業計画	
	［前期］ 映像の基礎、カメラやアプリケーションの基礎を習得する。企画構成、脚本、コンテ、スケジュール構築、撮影準備、撮影を実施する。
1	ガイダンス・制作スケジュールなどを確認
2	機材の取り扱いについて カメラ・三脚・マイクなどの借用について
3	カメラの使い方 取り扱い、操作方法、zooming
4	PCへの取り込み方法
5	「自己PR-CM」作品企画立案
6	（前期課題）企画・構成作成
7	（前期課題）構成・シナリオ作成
8	（前期課題）構成・コンテ作成
9	（前期課題）撮影準備
10	（前期課題）撮影
11	（前期課題）追加撮影
12	（前期課題）編集作業
13	（前期課題）編集作業修正
14	（前期課題）ダビング作業
15	完成作品上映、講評

授業計画	
	［後期］ PCによる編集・ダビングなどポスプロ作業を行い、映像作品を完成させる。
1	「3分間ムービー」企画立案
2	（後期課題）企画・構成作成
3	（後期課題）構成シナリオ作成
4	（後期課題）コンテ作成
5	（後期課題）撮影計画立案
6	（後期課題）撮影準備・ロケハン
7	（後期課題）撮影準備・美術小道具
8	（後期課題）撮影・前半
9	（後期課題）撮影・中盤
10	（後期課題）撮影・後半
11	（後期課題）ラッシュ試写・撮り足しリテイク検討
12	（後期課題）編集作業
13	（後期課題）修正編集作業
14	（後期課題）ダビング作業
15	最終提出・上映・講評

科目名	ＤＴＶ演習　［水5］Cクラス						
代表教員	冨永　憲治	授業コード	GE0121C0	科目コード	GE0121	期間	通年
担当教員	和田　洋平						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

実際に映像作品を制作し、映像を自己表現のツールとして活用することを目指す。故にカメラの使い方や、アプリケーションの操作の習得に終始するのではない。テーマを明確にし、的確な映像表現を模索しながら制作にあたる。また、映像と音楽の関係にも着目していく。共同作業を進めるにあたって、自分のイメージを的確に他者に伝える事ができるように努力する。

２．授業概要

本講座は複数開講されている。したがってクラスにより方針や内容、進度が異なるので初回の講義により各自判断して欲しい。
基礎的な映像制作のプロセス（企画・構成・シナリオ・コンテ・準備）を学習し、前期「自己PR-CM」、後期「3分間ムービー」を制作。前期は個人制作、後期はグループ制作も認める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

企画構成、シナリオといった作業は、授業外でも積極的に取り組んで欲しい。また、グループ制作の学生は、授業外でのディスカッションも必要となる。特に、授業を休んだ場合には、必ず遅れを取り戻す努力をすること。

４．成績評価の方法及び基準

完成作品の評価だけではなく、制作過程を重視する。前期授業評価25%、後期授業評価25%、作品15%､提出物10%､最終作品25%である。グループ作品の場合でも、個々に評価が違うことがある。他作品への参加や支援、も評価の対象となる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考図書

マスターショット100 低予算映画を大作に変える撮影術
クリストファー・ケンワーシー（著），吉田俊太郎（翻訳）

マスターショット2 ［ダイアローグ編］
クリストファー・ケンワーシー（著），吉田俊太郎（翻訳）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

カメラ機材やPCに限りがあるので、履修制限をお願いすることがある。必ず初回授業に出席すること。欠席の場合履修不可となる。
映像と音楽の基礎知識を得るために、「映像と音楽」の講義を履修することが望ましい。カメラ機材、PC並びに周辺機器は大学の機材を使用するが、SDカードは各人で購入すること。グループ制作を希望しても、教員の判断で認められない場合もある。*特に留意する点：作品制作中は進度がそれぞれ異なる。特にグループ制作では、他のメンバーに迷惑をかけないよう節度をわきまえて参加すること。

授業計画	
	［前期］ 映像の基礎、カメラやアプリケーションの基礎を習得する。企画構成、脚本、コンテ、スケジュール構築、撮影準備、撮影を実施する。
1	ガイダンス・制作スケジュールなどを確認
2	機材の取り扱いについて カメラ・三脚・マイクなどの借用について
3	カメラの使い方 取り扱い、操作方法、zooming
4	PCへの取り込み方法
5	「自己PR-CM」作品企画立案
6	（前期課題）企画・構成作成
7	（前期課題）構成・シナリオ作成
8	（前期課題）構成・コンテ作成
9	（前期課題）撮影準備
10	（前期課題）撮影
11	（前期課題）追加撮影
12	（前期課題）編集作業
13	（前期課題）編集作業修正
14	（前期課題）ダビング作業
15	完成作品上映、講評

授業計画	
	［後期］ PCによる編集・ダビングなどポスプロ作業を行い、映像作品を完成させる。
1	「3分間ムービー」企画立案
2	（後期課題）企画・構成作成
3	（後期課題）構成シナリオ作成
4	（後期課題）コンテ作成
5	（後期課題）撮影計画立案
6	（後期課題）撮影準備・ロケハン
7	（後期課題）撮影準備・美術小道具
8	（後期課題）撮影・前半
9	（後期課題）撮影・中盤
10	（後期課題）撮影・後半
11	（後期課題）ラッシュ試写・撮り足しリテイク検討
12	（後期課題）編集作業
13	（後期課題）修正編集作業
14	（後期課題）ダビング作業
15	最終提出・上映・講評

科目名	ＤＴＶ演習　［金4］Dクラス						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GE0121D0	科目コード	GE0121	期間	通年
担当教員	舘田　ゆり、冨永　憲治						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

実際に映像作品を制作し、映像を自己表現のツールとして活用することを目指す。故にカメラの使い方や、アプリケーションの操作の習得に終始するのではない。テーマを明確にし、的確な映像表現を模索しながら制作にあたる。また、映像と音楽の関係にも着目していく。共同作業を進めるにあたって、自分のイメージを的確に他者に伝える事ができるように努力する。

２．授業概要

本講座は複数開講されている。したがってクラスにより方針や内容、進度が異なるので初回の講義により各自判断して欲しい。
基礎的な映像制作のプロセス（企画・構成・シナリオ・コンテ・準備）を学習し、前期「自己PR-CM」、後期「3分間ムービー」を制作。前期は個人制作、後期はグループ制作も認める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

企画構成、シナリオといった作業は、授業外でも積極的に取り組んで欲しい。また、グループ制作の学生は、授業外でのディスカッションも必要となる。特に、授業を休んだ場合には、必ず遅れを取り戻す努力をすること。

４．成績評価の方法及び基準

完成作品の評価だけではなく、制作過程を重視する。前期授業評価25%、後期授業評価25%、作品15%､提出物10%､最終作品25%である。グループ作品の場合でも、個々に評価が違うことがある。他作品への参加や支援、も評価の対象となる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考図書

マスターショット100 低予算映画を大作に変える撮影術
クリストファー・ケンワーシー（著），吉田俊太郎（翻訳）

マスターショット2 ［ダイアローグ編］
クリストファー・ケンワーシー（著），吉田俊太郎（翻訳）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

カメラ機材やPCに限りがあるので、履修制限をお願いすることがある。必ず初回授業に出席すること。欠席の場合履修不可となる。
映像と音楽の基礎知識を得るために、「映像と音楽」の講義を履修することが望ましい。カメラ機材、PC並びに周辺機器は大学の機材を使用するが、SDカードは各人で購入すること。グループ制作を希望しても、教員の判断で認められない場合もある。*特に留意する点：作品制作中は進度がそれぞれ異なる。特にグループ制作では、他のメンバーに迷惑をかけないよう節度をわきまえて参加すること。

授業計画	
	［前期］ 映像の基礎、カメラやアプリケーションの基礎を習得する。企画構成、脚本、コンテ、スケジュール構築、撮影準備、撮影を実施する。
1	ガイダンス・制作スケジュールなどを確認
2	機材の取り扱いについて カメラ・三脚・マイクなどの借用について
3	カメラの使い方 取り扱い、操作方法、zooming
4	PCへの取り込み方法
5	「自己PR-CM」作品企画立案
6	（前期課題）企画・構成作成
7	（前期課題）構成・シナリオ作成
8	（前期課題）構成・コンテ作成
9	（前期課題）撮影準備
10	（前期課題）撮影
11	（前期課題）追加撮影
12	（前期課題）編集作業
13	（前期課題）編集作業修正
14	（前期課題）ダビング作業
15	完成作品上映、講評

授業計画	
	［後期］ PCによる編集・ダビングなどポスプロ作業を行い、映像作品を完成させる。
1	「3分間ムービー」企画立案
2	（後期課題）企画・構成作成
3	（後期課題）構成シナリオ作成
4	（後期課題）コンテ作成
5	（後期課題）撮影計画立案
6	（後期課題）撮影準備・ロケハン
7	（後期課題）撮影準備・美術小道具
8	（後期課題）撮影・前半
9	（後期課題）撮影・中盤
10	（後期課題）撮影・後半
11	（後期課題）ラッシュ試写・撮り足しリテイク検討
12	（後期課題）編集作業
13	（後期課題）修正編集作業
14	（後期課題）ダビング作業
15	最終提出・上映・講評

科目名	ＤＴＰ演習　［月4］Aクラス						
代表教員	永岡　宏昭	授業コード	GE0122A0	科目コード	GE0122	期間	通年
担当教員	前田　康徳						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DTP（デスクトップ・パブリッシング）とは、グラフィックデザイン、レイアウトなどの版下制作を、コンピュータで行う一連の行程のことである。通常はデザイナーがこの処理を担当するが、予算の少ない演奏会などはデザイナーに依頼することが難しい。そのため演奏家であっても、自ら版下の作成を担当しなければならないこともあるだろう。この講座の目標は、印刷業者が提示するフォーマットに従い、実際に版下の入稿ができるようになることである。

２．授業概要

テキストと写真・イラストとのコンポジット（合成）編集を通して、DTPの基本的概念と技術について学ぶ。写真の加工にはADOBEのPhotoShopを使用し、一連の操作方法をチュートリアル形式で確認した後、実際に個別の素材を加工する。Illustratorも同様の流れで進めるが、テキストの流し込みと加工、簡単なイラスト制作、レイアウトについて学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学習した内容は実践が伴わなければ定着しないため、
授業内で行ったすべての工程を復習することをお勧めする。

４．成績評価の方法及び基準

授業内課題の評価（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）
提出作品（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜PDFファイルや加工用のデータを配布する。

＜参考文献＞
世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書 CC/CS6/CS5対応（世界一わかりやすい教科書）
ピクセルハウス（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は複数開講であるため、担当教員の判断によりクラスの進度や内容が調整されることがある。コンピューターの台数も限られているため履修制限する場合がある。また、以下の履修条件を満たすものとする。

＊ USBメモリーなど、バックアップメディアを持参できること。

＊ この講座は未経験者が履修できるレベルに設定しているが、PCの基本的な操作（タイピングやファイルのコピーなど）に慣れている必要がある。

授業計画	
	［前期］ PhotoShopの操作を通じて、写真の基本的な加工方法について学ぶ。
1	講座の目的と概要の説明
2	Photoshopの基本メニューと基本操作
3	写真の明るさと色合いの調整
4	写真のキズ、ゴミの修正
5	ないものを増やすあるものを消す加工(切り抜きと合成)
6	オブジェクトの抽出とマスクの方法
7	スマートオブジェクトでの合成
8	光彩加工と写真の時間設定の修正(写真への描画)
9	文字の加工とレイヤー合成
10	パスの変形とファイルの配置
11	写真撮影時の注意点と印刷解像度
12	Photoshopのファイル構造
13	Photoshopオリジナル作品の計画と素材ファイルの配置
14	I素材ファイルの編集と加工
15	オリジナル作品の合評会

授業計画	
	［後期］ Illustrator 通じて必要な知識も補間しながら、文字データの取り扱いについて学ぶ。また、演奏会のフライヤーやプログラムなど、それぞれ制作に必要な工程や加工を学び、仕上げとして自由課題（作品）の制作に取り組む。
1	Illustlatorのメニューと操作
2	直線と曲線の描画
3	塗りと線の活用
4	直線図形のパス修正が曲線図形への加工
5	塗りブラシと重ね順
6	線幅とブラシの活用
7	オープンパスとクローズドパス
8	効果の種類と活用
9	写真のトレース
10	複雑なパスの変形
11	グラデーションとパスの合成パターン
12	演奏会フライヤーの制作とポストカードの制作計画
13	演奏会フライヤーとポストカードの編集
14	演奏会フライヤーとポストカードの入稿ファイルへの落とし込み
15	演奏会フライヤーとポストカードの合評会

科目名	ＤＴＰ演習　［火3］Bクラス						
代表教員	冨永　憲治	授業コード	GE0122B0	科目コード	GE0122	期間	通年
担当教員	林　洋子、前田　康徳						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DTP（デスクトップ・パブリッシング）とは、グラフィックデザイン、レイアウトなどの版下制作を、コンピュータで行う一連の行程のことである。通常はデザイナーがこの処理を担当するが、予算の少ない演奏会などはデザイナーに依頼することが難しい。そのため演奏家であっても、自ら版下の作成を担当しなければならないこともあるだろう。この講座の目標は、印刷業者が提示するフォーマットに従い、実際に版下の入稿ができるようになることである。

２．授業概要

テキストと写真・イラストとのコンポジット（合成）編集を通して、DTPの基本的概念と技術について学ぶ。写真の加工にはADOBEのPhotoShopを使用し、一連の操作方法をチュートリアル形式で確認した後、実際に個別の素材を加工する。Illustratorも同様の流れで進めるが、テキストの流し込みと加工、簡単なイラスト制作、レイアウトについて学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学習した内容は実践が伴わなければ定着しないため、
授業内で行ったすべての工程を復習することをお勧めする。

４．成績評価の方法及び基準

授業内課題の評価（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）
提出作品（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜PDFファイルや加工用のデータを配布する。

＜参考文献＞
世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書 CC/CS6/CS5対応（世界一わかりやすい教科書）
ピクセルハウス（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は複数開講であるため、担当教員の判断によりクラスの進度や内容が調整されることがある。コンピューターの台数も限られているため履修制限する場合がある。また、以下の履修条件を満たすものとする。

＊ USBメモリーなど、バックアップメディアを持参できること。

＊ この講座は未経験者が履修できるレベルに設定しているが、PCの基本的な操作（タイピングやファイルのコピーなど）に慣れている必要がある。

授業計画	
	［前期］ PhotoShopの操作を通じて、写真の基本的な加工方法について学ぶ。
1	講座の目的と概要の説明
2	Photoshopの基本メニューと基本操作
3	写真の明るさと色合いの調整
4	写真のキズ、ゴミの修正
5	ないものを増やすあるものを消す加工(切り抜きと合成)
6	オブジェクトの抽出とマスクの方法
7	スマートオブジェクトでの合成
8	光彩加工と写真の時間設定の修正(写真への描画)
9	文字の加工とレイヤー合成
10	パスの変形とファイルの配置
11	写真撮影時の注意点と印刷解像度
12	Photoshopのファイル構造
13	Photoshopオリジナル作品の計画と素材ファイルの配置
14	I素材ファイルの編集と加工
15	オリジナル作品の合評会

授業計画	
	［後期］ Illustrator 通じて必要な知識も補間しながら、文字データの取り扱いについて学ぶ。また、演奏会のフライヤーやプログラムなど、それぞれ制作に必要な工程や加工を学び、仕上げとして自由課題（作品）の制作に取り組む。
1	Illustlatorのメニューと操作
2	直線と曲線の描画
3	塗りと線の活用
4	直線図形のパス修正が曲線図形への加工
5	塗りブラシと重ね順
6	線幅とブラシの活用
7	オープンパスとクローズドパス
8	効果の種類と活用
9	写真のトレース
10	複雑なパスの変形
11	グラデーションとパスの合成パターン
12	演奏会フライヤーの制作とポストカードの制作計画
13	演奏会フライヤーとポストカードの編集
14	演奏会フライヤーとポストカードの入稿ファイルへの落とし込み
15	演奏会フライヤーとポストカードの合評会

科目名	ＤＴＰ演習　［水4］Cクラス						
代表教員	冨永　憲治	授業コード	GE0122C0	科目コード	GE0122	期間	通年
担当教員	和田　洋平、前田　康徳						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DTP（デスクトップ・パブリッシング）とは、グラフィックデザイン、レイアウトなどの版下制作を、コンピュータで行う一連の行程のことである。通常はデザイナーがこの処理を担当するが、予算の少ない演奏会などはデザイナーに依頼することが難しい。そのため演奏家であっても、自ら版下の作成を担当しなければならないこともあるだろう。この講座の目標は、印刷業者が提示するフォーマットに従い、実際に版下の入稿ができるようになることである。

２．授業概要

テキストと写真・イラストとのコンポジット（合成）編集を通して、DTPの基本的概念と技術について学ぶ。写真の加工にはADOBEのPhotoShopを使用し、一連の操作方法をチュートリアル形式で確認した後、実際に個別の素材を加工する。Illustratorも同様の流れで進めるが、テキストの流し込みと加工、簡単なイラスト制作、レイアウトについて学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学習した内容は実践が伴わなければ定着しないため、
授業内で行ったすべての工程を復習することをお勧めする。

４．成績評価の方法及び基準

授業内課題の評価（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）
提出作品（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜PDFファイルや加工用のデータを配布する。

＜参考文献＞
世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書 CC/CS6/CS5対応（世界一わかりやすい教科書）
ピクセルハウス（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は複数開講であるため、担当教員の判断によりクラスの進度や内容が調整されることがある。コンピューターの台数も限られているため履修制限する場合がある。また、以下の履修条件を満たすものとする。

＊ USBメモリーなど、バックアップメディアを持参できること。

＊ この講座は未経験者が履修できるレベルに設定しているが、PCの基本的な操作（タイピングやファイルのコピーなど）に慣れている必要がある。

授業計画	
	［前期］ PhotoShopの操作を通じて、写真の基本的な加工方法について学ぶ。
1	講座の目的と概要の説明
2	Photoshopの基本メニューと基本操作
3	写真の明るさと色合いの調整
4	写真のキズ、ゴミの修正
5	ないものを増やすあるものを消す加工(切り抜きと合成)
6	オブジェクトの抽出とマスクの方法
7	スマートオブジェクトでの合成
8	光彩加工と写真の時間設定の修正(写真への描画)
9	文字の加工とレイヤー合成
10	パスの変形とファイルの配置
11	写真撮影時の注意点と印刷解像度
12	Photoshopのファイル構造
13	Photoshopオリジナル作品の計画と素材ファイルの配置
14	素材ファイルの編集と加工
15	オリジナル作品の合評会

授業計画	
	［後期］ Illustrator 通じて必要な知識も補間しながら、文字データの取り扱いについて学ぶ。また、演奏会のフライヤーやプログラムなど、それぞれ制作に必要な工程や加工を学び、仕上げとして自由課題（作品）の制作に取り組む。
1	Illustlatorのメニューと操作
2	直線と曲線の描画
3	塗りと線の活用
4	直線図形のパス修正が曲線図形への加工
5	塗りブラシと重ね順
6	線幅とブラシの活用
7	オープンパスとクローズドパス
8	効果の種類と活用
9	写真のトレース
10	複雑なパスの変形
11	グラデーションとパスの合成パターン
12	演奏会フライヤーの制作とポストカードの制作計画
13	演奏会フライヤーとポストカードの編集
14	演奏会フライヤーとポストカードの入稿ファイルへの落とし込み
15	演奏会フライヤーとポストカードの合評会

科目名	ＤＴＰ演習　［金3］Dクラス						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GE0122D0	科目コード	GE0122	期間	通年
担当教員	舘田　ゆり、前田　康徳						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DTP（デスクトップ・パブリッシング）とは、グラフィックデザイン、レイアウトなどの版下制作を、コンピュータで行う一連の行程のことである。通常はデザイナーがこの処理を担当するが、予算の少ない演奏会などはデザイナーに依頼することが難しい。そのため演奏家であっても、自ら版下の作成を担当しなければならないこともあるだろう。この講座の目標は、印刷業者が提示するフォーマットに従い、実際に版下の入稿ができるようになることである。

２．授業概要

テキストと写真・イラストとのコンポジット（合成）編集を通して、DTPの基本的概念と技術について学ぶ。写真の加工にはADOBEのPhotoShopを使用し、一連の操作方法をチュートリアル形式で確認した後、実際に個別の素材を加工する。Illustratorも同様の流れで進めるが、テキストの流し込みと加工、簡単なイラスト制作、レイアウトについて学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学習した内容は実践が伴わなければ定着しないため、
授業内で行ったすべての工程を復習することをお勧めする。

４．成績評価の方法及び基準

授業内課題の評価（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）
提出作品（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜PDFファイルや加工用のデータを配布する。

＜参考文献＞
世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書 CC/CS6/CS5対応（世界一わかりやすい教科書）
ピクセルハウス（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は複数開講であるため、担当教員の判断によりクラスの進度や内容が調整されることがある。コンピューターの台数も限られているため履修制限する場合がある。また、以下の履修条件を満たすものとする。

＊ USBメモリーなど、バックアップメディアを持参できること。

＊ この講座は未経験者が履修できるレベルに設定しているが、PCの基本的な操作（タイピングやファイルのコピーなど）に慣れている必要がある。

授業計画	
	［前期］ PhotoShopの操作を通じて、写真の基本的な加工方法について学ぶ。
1	講座の目的と概要の説明
2	Photoshopの基本メニューと基本操作
3	写真の明るさと色合いの調整
4	写真のキズ、ゴミの修正
5	ないものを増やすあるものを消す加工(切り抜きと合成)
6	オブジェクトの抽出とマスクの方法
7	スマートオブジェクトでの合成
8	光彩加工と写真の時間設定の修正(写真への描画)
9	文字の加工とレイヤー合成
10	パスの変形とファイルの配置
11	写真撮影時の注意点と印刷解像度
12	Photoshopのファイル構造
13	Photoshopオリジナル作品の計画と素材ファイルの配置
14	素材ファイルの編集と加工
15	オリジナル作品の合評会

授業計画	
	［後期］ Illustrator 通じて必要な知識も補間しながら、文字データの取り扱いについて学ぶ。また、演奏会のフライヤーやプログラムなど、それぞれ制作に必要な工程や加工を学び、仕上げとして自由課題（作品）の制作に取り組む。
1	Illustlatorのメニューと操作
2	直線と曲線の描画
3	塗りと線の活用
4	直線図形のパス修正が曲線図形への加工
5	塗りブラシと重ね順
6	線幅とブラシの活用
7	オープンパスとクローズドパス
8	効果の種類と活用
9	写真のトレース
10	複雑なパスの変形
11	グラデーションとパスの合成パターン
12	演奏会フライヤーの制作とポストカードの制作計画
13	演奏会フライヤーとポストカードの編集
14	演奏会フライヤーとポストカードの入稿ファイルへの落とし込み
15	演奏会フライヤーとポストカードの合評会

科目名	日本伝統芸能研究１～４　［木5］						
代表教員	花柳　輔瑞佳	授業コード	GE033100	科目コード	GE0331d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の日本において、伝統芸能との接点は希薄になりがちである。しかし音楽に携わる者としては、日本には世界からも注目されている様々な伝統芸能が息づいていることを忘れてはならない。本講座では、日本舞踊を核とした日本の伝統芸能の一端を実際に研究し、体験する。身体を動かす、動きを音に合わせる、また、地方（じかた）として演奏も含めて、総合的に作品を捉えるなど体験する。具体的な目標な目標は下記の通り。

(1) 着物の着方を習得する。
(2) 基本的な所作を習得する。
(3) 和用小道具の使い方を習得する。
(4) 演目の中での表現力を習得する。
(5) 日本の伝統芸能の神髄を味わう。

２．授業概要

日本の伝統芸能の概要について映像や音源を通じて知るとともに、自分たちが取り組む分野への理解を深めていく。その上で、演じるための基礎を学んだのち、実際に演じる経験を積んでいく。

実務経験のある教員による授業科目
{教員プロフィール,https://www.senzoku.ac.jp/music/teacher/sukemizuka-hanayagi}

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本の伝統芸能には独特な用語も多いため、下記の参考文献などにより予め知識を得ておくことが望ましい。また配付資料は必ずファイルし、受講後の復習の役立てることが望ましい。所作等の実習については、授業時間外にも自主的に反芻することで、習得の効果が高くなることを認識しておくこと。また、街中やTVなどで和服の人を見た時に着こなし等を注目するなど、普段の生活から自分の姿勢を意識することも重要。

４．成績評価の方法及び基準

受講状況(授業中のミニレポートを含む)（評価の５０％）　実習への参加姿勢と成果（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

講義内容に応じて必要があれば適宜プリント類を配布する。また、日本の伝統芸能や伝統音楽についての予備知識を得ておくに越したことはないので、下記の参考文献に少しでも目を通しておくことを推奨する。

参考文献：『図解・日本音楽史』田中健次(東京堂出版)　『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社）
『日本の音を聴く』柴田南雄（青土社）　『日本の音』小泉文夫（青土社）
『はじめての世界音楽-諸民族の伝統音楽からポップスまで』柘植元一 塚田健一（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

(1) 浴衣一式（足袋、浴衣、帯、腰ひも二本）,日本舞踊の稽古扇子を用意すること。
(2) 自国の文化を理解することは、専攻の分野を問わず大切なことです。好奇心や向上心を持って日本の文化を頭と身体で覚えましょう。

授業計画	
	【前期】日本の伝統芸能の概要を知るとともに、その基礎を経験しながら、研究を進める。
1	ガイダンス
2	着物（浴衣）の着方、日常的な所作、着物のたたみ方
3	基礎的な踊り（手踊り）
4	基礎的な踊り（手踊り応用）
5	基礎的な踊り（手踊り、音と型の徹底）
6	扇子の扱い方、基礎的な踊り（扇子）
7	基礎的な踊り（全体の音と型の徹底）
8	日本の伝統芸能とは何か
9	日本の伝統芸能～音曲（雅楽、邦楽）
10	日本の伝統芸能～音曲（浄瑠璃節、唄）
11	日本の伝統芸能～演劇
12	日本の伝統芸能～舞踊
13	女踊り（手踊り）
14	女踊り（手踊り応用）
15	前期統括

授業計画	
	【後期】前期の学修内容を基盤として、日本の伝統芸能をより深く研究していく。
1	男踊りの型・女踊りの型
2	「京の四季」（導入）
3	「京の四季」前半の把握
4	「京の四季」後半の把握
5	「京の四季」（全体の音と型の徹底）
6	「京の四季」（まとめ）
7	男踊り（導入）、「京の四季」復習
8	男踊り（振りと型）、「京の四季」復習
9	男踊り（全体の振りと音の確認）、「京の四季」復習
10	男踊り（まとめ）、「京の四季」復習
11	生演奏と合わせる～リズムに合わせて踊る
12	生演奏と合わせる～踊りに演奏を合わせる
13	扇子を使った踊り総合研究～型と音の徹底の総括
14	扇子を使った踊り総合研究～型と音の徹底の総括を踏まえた実践
15	後期統括

科目名	日本の伝統的歌唱（民謡）　（集）１，２限　Ａクラス						
代表教員	柿崎　竹美	授業コード	GE0335A0	科目コード	GE0335	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱に対する理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち民謡を取り上げる。民衆が日々の営みの中でうたい、伝えてきた民謡をめぐり、以下の内容について、理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）民謡の声の音色や響き、言葉の特性（方言などを含む）および呼吸法・発声法の理解と技能
（２）《ソーラン節》《斎太郎節》などの民謡の理解と歌唱の技能
（３）音頭と掛声・囃子詞（はやしことば）の役割分担の理解と体験
（４）《秋田音頭》《花笠音頭》など舞踊を伴う民謡、および民謡の成立（労働・祭礼など）の背景の理解

２．授業概要

上記の目標に沿って、授業では、（１）の基本的な理解のもとに、（２）の《ソーラン節》《斎太郎節》など教材として取り上げられる民謡の歌唱を中心とする。その上で、（３）音頭（主唱）と掛声・囃子詞を分担して体験し、さらに民謡は労働の動きや舞踊の動きとも深くかかわっていることから、（４）では舞踊のある《秋田音頭》《花笠音頭》、労働の動きと深く結び付いた《ソーラン節》のもつ身体的文化的な側面を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

１．2回以降の授業においては、授業前の空き時間などを活用して、身体全体のストレッチや発声の為のウオーミングアップに努めること。
２．新しい曲目に入る時には、曲目の背景を自分なりにイメージしてみること。授業前に軽く唄ってみること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】日本民謡協会編『民謡指導マニュアル』
【参考文献】講義中随時資料配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語・飲食物の持ち込み及び携帯電話使用は厳禁する。「公欠」の諸届け提出は授業の前に済ませること。授業内容と関連して、挨拶等において明確な発声を心がけること。

授業計画	
	[集中] 「民謡って何だろう？」呼吸法、発声法、こぶしなどの技法、民謡曲3曲の実唱。
1	民謡に関する基礎知識～唄の特性。民謡の呼吸法、基本的な発声（地声の出し方）、技法（こぶしなど）。課題曲《ソーラン節》声を出して唄ってみる（発声の仕方）。
2	《ソーラン節》こぶしを学ぶ。みんなでで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる。
3	《ソーラン節》復習。課題曲《斉太郎節》声を出して唄ってみる（発声の仕方）。こぶしを学ぶ。
4	《斉太郎節》みんなで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる 。復習。
5	《秋田音頭》訛り・方言を学ぶ。みんなで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる。
6	《秋田音頭》オリジナル歌詞をつくってみる。オリジナル歌詞を唄ってみる。
7	《秋田音頭》手踊りもあることを知る。
8	《ソーラン節》《斉太郎節》《秋田音頭》の復習。実技試験とまとめ。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統的歌唱（民謡）　（集）３，４限　Ｂクラス						
代表教員	柿崎　竹美	授業コード	GE0335B0	科目コード	GE0335	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱に対する理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち民謡を取り上げる。民衆が日々の営みの中でうたい、伝えてきた民謡をめぐり、以下の内容について、理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）民謡の声の音色や響き、言葉の特性（方言などを含む）および呼吸法・発声法の理解と技能
（２）《ソーラン節》《斎太郎節》などの民謡の理解と歌唱の技能
（３）音頭と掛声・囃子詞（はやしことば）の役割分担の理解と体験
（４）《秋田音頭》《花笠音頭》など舞踊を伴う民謡、および民謡の成立（労働・祭礼など）の背景の理解

２．授業概要

上記の目標に沿って、授業では、（１）の基本的な理解のもとに、（２）の《ソーラン節》《斎太郎節》など教材として取り上げられる民謡の歌唱を中心とする。その上で、（３）音頭（主唱）と掛声・囃子詞を分担して体験し、さらに民謡は労働の動きや舞踊の動きとも深くかかわっていることから、（４）では舞踊のある《秋田音頭》《花笠音頭》、労働の動きと深く結び付いた《ソーラン節》のもつ身体的文化的な側面を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

１．2回以降の授業においては、授業前の空き時間などを活用して、身体全体のストレッチや発声の為のウオーミングアップに努めること。
２．新しい曲目に入る時には、曲目の背景を自分なりにイメージしてみること。授業前に軽く唄ってみること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】日本民謡協会編『民謡指導マニュアル』
【参考文献】講義中随時資料配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語・飲食物の持ち込み及び携帯電話使用は厳禁する。「公欠」の諸届け提出は授業の前に済ませること。授業内容と関連して、挨拶等において明確な発声を心がけること。

授業計画	
	[集中] 「民謡って何だろう？」呼吸法、発声法、こぶしなどの技法、民謡曲3曲の実唱。
1	民謡に関する基礎知識～唄の特性。民謡の呼吸法、基本的な発声（地声の出し方）、技法（こぶしなど）。課題曲《ソーラン節》声を出して唄ってみる（発声の仕方）。
2	《ソーラン節》こぶしを学ぶ。みんなでで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる。
3	《ソーラン節》復習。課題曲《斉太郎節》声を出して唄ってみる（発声の仕方）。こぶしを学ぶ。
4	《斉太郎節》みんなで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる 。復習。
5	《秋田音頭》訛り・方言を学ぶ。みんなで唄ってみる。一人ずつ唄ってみる。
6	《秋田音頭》オリジナル歌詞をつくってみる。オリジナル歌詞を唄ってみる。
7	《秋田音頭》手踊りもあることを知る。
8	《ソーラン節》《斉太郎節》《秋田音頭》の復習。実技試験とまとめ。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統的歌唱（謡曲）　（集）１，２限　Ａクラス						
代表教員	鵜澤　光	授業コード	GE0336A0	科目コード	GE0336	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱の理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち謡曲、すなわち能の謡（うたい）を取り上げる。700年ほど前、室町時代に成立した能は現存する世界最古の舞台芸術とされ、その中で培われてきた謡をめぐり、以下の内容について、理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）謡の声の音色や響き、言葉の発音、呼吸法・発声法、および身体の使い方の理解と技能
（２）《羽衣》など代表的な能の謡の理解と歌唱表現の技能
（３）謡の間（ま）やリズムの理解と表現の技能
（４）能の舞踊的側面としての仕舞（しまい）の理解と体験、および総合芸術としての能の理解

２．授業概要

上記の目標に沿って、授業は、（２）教材でよく取り上げられる《羽衣》の謡の歌唱を中心とし、その活動を通して、（１）謡の声の使い方、適切な呼吸法・発声法、身体の使い方を謡の歌唱の中で学び取る。その上で、（３）能独特の間やリズムを囃子とかかわらせて理解して表現し、さらに（４）能の舞踊的側面である仕舞（しまい）を体験し、総合芸術としての能（面、装束、舞台など）についての理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

伝統芸能というものは繰り返すことによって身についていくものなので復習は絶対不可欠なものである。又謡や型の暗記の指示が出た場合、期日までに覚えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：観世流謡曲本『羽衣』他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

あくまで実技中心、謡い、舞う授業である。遅刻・私語は禁ずる。
また髪型・服装も能を学ぶにふさわしいように心がける。

授業には白足袋を持参する〈初回の授業の際に説明〉。裸足での参加は許されない。また謡の際は正座する場合もあるので、坐りやすい服装を、また仕舞の際は動きやすい服装をすること。

授業に積極的に関わり、欠席しないこと。

授業計画	
	［集中］
1	日本の伝統演劇である能とは何か。DVD鑑賞。 能《羽衣》の説明。実技実習の導入。
2	実技実習（１）羽衣の謡（謡本からの節の読み方、間の読み方を学ぶ。実際に謡う。） カマエ、ハコビの習得。
3	実技実習（２）羽衣の謡（謡本を見ながら謡得るよにする） 基本の型の単元の習得。ハコビの稽古。
4	実技実習（３）羽衣の謡（正確な節、正確な間で謡えるようにする）。 羽衣の仕舞の実習に入る。
5	実技実習（４）羽衣の謡（節の理論、間の理論について実際に例を挙げて学ぶ）。 羽衣の仕舞の実習（型の暗記を進める）。
6	実技実習（５）羽衣の謡（暗記を進める。戯曲を理解して謡えるようにする）。 羽衣の仕舞の実習（型の暗記を進める。正確に舞う）。
7	実技実習（６）試験に向けての仕上げ。暗記して一人で謡えるようにする。一人で舞えるようにする。
8	実技、口頭試験とまとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統的歌唱（謡曲）　（集）３，４限　Ｂクラス						
代表教員	鵜澤　光	授業コード	GE0336B0	科目コード	GE0336	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱の理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち謡曲、すなわち能の謡（うたい）を取り上げる。700年ほど前、室町時代に成立した能は現存する世界最古の舞台芸術とされ、その中で培われてきた謡をめぐり、以下の内容について、理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）謡の声の音色や響き、言葉の発音、呼吸法・発声法、および身体の使い方の理解と技能
（２）《羽衣》など代表的な能の謡の理解と歌唱表現の技能
（３）謡の間（ま）やリズムの理解と表現の技能
（４）能の舞踊的側面としての仕舞（しまい）の理解と体験、および総合芸術としての能の理解

２．授業概要

上記の目標に沿って、授業は、（２）教材でよく取り上げられる《羽衣》の謡の歌唱を中心とし、その活動を通して、（１）謡の声の使い方、適切な呼吸法・発声法、身体の使い方を謡の歌唱の中で学び取る。その上で、（３）能独特の間やリズムを囃子とかかわらせて理解して表現し、さらに（４）能の舞踊的側面である仕舞（しまい）を体験し、総合芸術としての能（面、装束、舞台など）についての理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

伝統芸能というものは繰り返すことによって身についていくものなので復習は絶対不可欠なものである。又謡や型の暗記の指示が出た場合、期日までに覚えること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：観世流謡曲本『羽衣』他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

あくまで実技中心、謡い、舞う授業である。遅刻・私語は禁ずる。
また髪型・服装も能を学ぶにふさわしいように心がける。

授業には白足袋を持参する〈初回の授業の際に説明〉。裸足での参加は許されない。また謡の際は正座する場合もあるので、坐りやすい服装を、また仕舞の際は動きやすい服装をすること。

授業に積極的に関わり、欠席しないこと。

授業計画	
	［集中］
1	日本の伝統演劇である能とは何か。DVD鑑賞。 能《羽衣》の説明。実技実習の導入。
2	実技実習（１）羽衣の謡（謡本からの節の読み方、間の読み方を学ぶ。実際に謡う。） カマエ、ハコビの習得。
3	実技実習（２）羽衣の謡（謡本を見ながら謡得るよにする） 基本の型の単元の習得。ハコビの稽古。
4	実技実習（３）羽衣の謡（正確な節、正確な間で謡えるようにする）。 羽衣の仕舞の実習に入る。
5	実技実習（４）羽衣の謡（節の理論、間の理論について実際に例を挙げて学ぶ）。 羽衣の仕舞の実習（型の暗記を進める）。
6	実技実習（５）羽衣の謡（暗記を進める。戯曲を理解して謡えるようにする）。 羽衣の仕舞の実習（型の暗記を進める。正確に舞う）。
7	実技実習（６）試験に向けての仕上げ。暗記して一人で謡えるようにする。一人で舞えるようにする。
8	実技、口頭試験とまとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統的歌唱（長唄）　（集）１，２限　Ａクラス						
代表教員	今藤　政貴	授業コード	GE0337A0	科目コード	GE0337	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱に対する理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち長唄を取り上げる。
長唄は江戸時代に成立した三味線音楽の一分野であり、歌舞伎の音楽として発達し、そののち歌舞伎から独立した鑑賞用音楽としても大いに発展を遂げている。
【到達目標】
この長唄について、以下の内容を理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）　三味線音楽としての長唄の、歴史的、芸術的な位置づけ(歌舞伎音楽としての歴史や役割、鑑賞用音楽としての歴史など)および音楽的な特徴(基本的な音階や、編成など)の理解。
（２）長唄の、長唄らしい声の音色や響き、言葉の発音、呼吸法・発声法などの理解と技能の習得。
（３）《勧進帳》《越後獅子》など代表的な長唄の内容的および音楽的理解、歌唱表現の技能の習得。
（４）長唄の伝承の仕方の理解や、長唄で使用される楽器の構造的理解を目的とした、唱歌（しょうが、いわゆる口三味線や、囃子の口唱歌）の習得。

２．授業概要

上記の到達目標に沿って、授業はまず、（１）長唄の歴史や、音楽的な特徴、また長唄には欠くことのできない三味線の構造などを概説し、（２）中学、高校の教科書にもしばしば取り上げられ、歌舞伎音楽としても鑑賞用音楽としてもポピュラーな長唄《勧進帳》と《越後獅子》を教材とし、歌唱の練習を通して、歌詞の内容と音楽的な理解を深めるとともに（３）長唄らしい声を感じとりつつ、長唄らしく唄うための呼吸法・発声法等を学び取り、さらに、曲をいかに表現すべきか、という意識を高める。また、（４）長唄の伝統的な伝承のありかたや、三味線など伴奏楽器の理解を深めるため、唱歌（口三味線、囃子の口唱歌)を体験、習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）長唄や歌舞伎について、どんなイメージを持っているか、文章にまとめておいてください。短い文章で構いません。（復習）その日に学んだことを定着させるためにおさらいを行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】《勧進帳》および《越後獅子》の歌詞を配布する予定
【参考文献】『すぐに役立つ！音楽教員のための実践長唄入門』長唄協会編

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（履修者への要望）唄の授業は、まずよく聴くこと。そして なにより声を出すことです。恥ずかしがったり、しらけたりして声を出さないと、結局なにも得ないまま時間が過ぎてしまいます。声をしっかり出していれば、唄を覚えるにつれ、気持ち良くなってくるはず。みなさん、声をしっかり出す覚悟で受講してください。

授業計画	
1	長唄の概説、《勧進帳》①：長唄《勧進帳》の概説。《勧進帳》冒頭（旅の衣～しおるらん）部分の歌唱練習。《勧進帳》　ヨセの合方の唱歌の練習。
2	《勧進帳》②：《勧進帳》（これやこの～海津の浦に着きにけり）部分の歌唱練習。《勧進帳》冒頭部の歌唱、ヨセの合方の唱歌、これやこの～部分を通しての合奏（合唱）
3	《越後獅子》①：　長唄《越後獅子》の概説。《越後獅子》冒頭部分（打つや太鼓～囃すのも）歌唱練習。
4	《越後獅子》②：《越後獅子》浜唄の歌唱練習。
5	《越後獅子》③：《越後獅子》晒し（見渡せば～花の顔）部分、歌唱練習。《越後獅子》チラシ（晒す細布～いざや帰らん己が住み家へ）部分、歌唱練習。
6	《越後獅子》④：《越後獅子》の第３回から第５回までで学んだ部分の通し練習。
7	合奏（歌唱を中心とし、一部　口三味線、囃子の口唱歌なども演奏する）：《勧進帳（抜粋）》の合奏。《越後獅子（抜粋）》の合奏。
8	実技試験とまとめ：《勧進帳》あるいは《越後獅子》を選択する。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	日本の伝統的歌唱（長唄）　（集）３，４限　Ｂクラス						
代表教員	今藤　政貴	授業コード	GE0337B0	科目コード	GE0337	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	全:専門選択（全コース共通）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科では、曲種に応じた発声など、様々な曲種の歌唱に対する理解が求められるが、この授業では日本の伝統的な歌唱のうち長唄を取り上げる。
長唄は江戸時代に成立した三味線音楽の一分野であり、歌舞伎の音楽として発達し、そののち歌舞伎から独立した鑑賞用音楽としても大いに発展を遂げている。
【到達目標】
この長唄について、以下の内容を理解し、表現する技能を身に付けることを目標とする。
（１）　三味線音楽としての長唄の、歴史的、芸術的な位置づけ(歌舞伎音楽としての歴史や役割、鑑賞用音楽としての歴史など)および音楽的な特徴(基本的な音階や、編成など)の理解。
（２）長唄の、長唄らしい声の音色や響き、言葉の発音、呼吸法・発声法などの理解と技能の習得。
（３）《勧進帳》《越後獅子》など代表的な長唄の内容的および音楽的理解、歌唱表現の技能の習得。
（４）長唄の伝承の仕方の理解や、長唄で使用される楽器の構造的理解を目的とした、唱歌（しょうが、いわゆる口三味線や、囃子の口唱歌）の習得。

２．授業概要

上記の到達目標に沿って、授業はまず、（１）長唄の歴史や、音楽的な特徴、また長唄には欠くことのできない三味線の構造などを概説し、（２）中学、高校の教科書にもしばしば取り上げられ、歌舞伎音楽としても鑑賞用音楽としてもポピュラーな長唄《勧進帳》と《越後獅子》を教材とし、歌唱の練習を通して、歌詞の内容と音楽的な理解を深めるとともに（３）長唄らしい声を感じとりつつ、長唄らしく唄うための呼吸法・発声法等を学び取り、さらに、曲をいかに表現すべきか、という意識を高める。また、（４）長唄の伝統的な伝承のありかたや、三味線など伴奏楽器の理解を深めるため、唱歌（口三味線、囃子の口唱歌)を体験、習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）長唄や歌舞伎について、どんなイメージを持っているか、文章にまとめておいてください。短い文章で構いません。（復習）その日に学んだことを定着させるためにおさらいを行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への積極性（60%）、実技試験（40%）を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】《勧進帳》および《越後獅子》の歌詞を配布する予定
【参考文献】『すぐに役立つ！音楽教員のための実践長唄入門』長唄協会編

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（履修者への要望）唄の授業は、まずよく聴くこと。そして なにより声を出すことです。恥ずかしがったり、しらけたりして声を出さないと、結局なにも得ないまま時間が過ぎてしまいます。声をしっかり出していれば、唄を覚えるにつれ、気持ち良くなってくるはず。みなさん、声をしっかり出す覚悟で受講してください。

授業計画	
1	長唄の概説、《勧進帳》①：長唄《勧進帳》の概説。《勧進帳》冒頭（旅の衣～しおるらん）部分の歌唱練習。《勧進帳》　ヨセの合方の唱歌の練習。
2	《勧進帳》②：《勧進帳》（これやこの～海津の浦に着きにけり）部分の歌唱練習。《勧進帳》冒頭部の歌唱、ヨセの合方の唱歌、これやこの～部分を通しての合奏（合唱）
3	《越後獅子》①：　長唄《越後獅子》の概説。《越後獅子》冒頭部分（打つや太鼓～囃すのも）歌唱練習。
4	《越後獅子》②：《越後獅子》浜唄の歌唱練習。
5	《越後獅子》③：《越後獅子》晒し（見渡せば～花の顔）部分、歌唱練習。《越後獅子》チラシ（晒す細布～いざや帰らん己が住み家へ）部分、歌唱練習。
6	《越後獅子》④：《越後獅子》の第３回から第５回までで学んだ部分の通し練習。
7	合奏（歌唱を中心とし、一部　口三味線、囃子の口唱歌なども演奏する）：《勧進帳（抜粋）》の合奏。《越後獅子（抜粋）》の合奏。
8	実技試験とまとめ：《勧進帳》あるいは《越後獅子》を選択する。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	吹奏楽演奏理論１～４　[木3]						
代表教員	伊藤　康英	授業コード	GE053700	科目コード	GE0537d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

吹奏楽に携わる人にとって不可欠と思われる音楽的素養を、吹奏楽の古典的名曲の分析を通じて身につける。
また、例年通り、吹奏楽に役立つソルフェージュにも重点をおき、読譜、リズム、視唱の３点を通して、吹奏楽の演奏法を学ぶ。

２．授業概要

スコア・リーディングのための「読譜」、吹奏楽のアンサンブルのための「リズム」、ハーモニーやメロディーの歌い方のための「視唱」、といった３つの観点からのソルフェージュ。

「合奏の基本」により、吹奏楽の表現法を学ぶ。

「吹奏楽の古典名曲」について詳しく知る。歴史的な作品や吹奏楽の歴史を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ポータル上にすべての資料をアップすることとしている。受講者は各自、資料をダウンロードするなりしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験により評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

メトード・ソルフェージュ（音楽之友社）
{http://www.ongakunotomo.co.jp/catalog/detail.php?code=502250}

ほかに必要なスコアは授業時に紹介する。
また、ポータル上にアップすることもある。

なお、Holstのスコアは、以下のものを薦める。

ホルスト作曲　吹奏楽のための第１組曲[原典版]（日本楽譜出版社）
{http://nihongakufu.com/score/archives/1_26.php}

ホルスト作曲　吹奏楽のための第２組曲[原典版]（日本楽譜出版社）
{http://nihongakufu.com/score/archives/2_19.php}

ホルスト作曲 ハマースミス 吹奏楽のための前奏曲とスケルツォ（日本楽譜出版社）
近刊

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎年、多数の学生が履修しており、大教室での授業のため、授業中の私語等の問題がみられる。
吹奏楽について学問するのも大学の役目と考え、吹奏楽に関する様々な知識を授業に織り込んでいる。今すぐに役に立たない知識かもしれないが、必ずや諸君の糧となるだろう。その心構えでの受講を望む。

授業計画	
	［前期］ 「メトード・ソルフェージュ」の「読譜」を実習し、各種音部記号に慣れ、移調楽器による楽譜を読めるようにする。 「合奏の基本」（ティモシー・レイニッシュ／伊藤康英）の解説を通して、合奏の基本の考え方を身につける。 「吹奏楽の古典名曲」にて、現在の吹奏楽の礎を築いた20世紀初頭のイギリスの作品を通して、吹奏楽を知る。
1	ガイダンス ソルフェージュとは ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜１ 　高音部譜表 「合奏の基本」１ 合奏の問題点の解決方法 フレージング アーティキュレーション 明確さ 反復音
2	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜２ 　低音部譜表 「合奏の基本」２ バランス 室内楽の発想 ダイナミクス ダイナミクスのコントラスト 構成
3	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜３ 　Eb管移調楽器 「合奏の基本」３ テッシトゥーラ チューニングと音 リズム 大切なこと
4	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜４ 　テノール譜表 旋法を使ってメロディーを書いてみよう G.Holst / First Suite for Military Band in Eb ホルストについて　作曲の経緯、委嘱、初演、各種の版について
5	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜５ 　Bb管移調楽器 G.Holst / First Suite for Military Band in Eb 楽器編成について（各種の版による楽器編成の違い）
6	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜６ 　実音、Bb管移調楽器、Eb管移調楽器の混合による読譜１（クラリネット・アンサンブルを中心として） G.Holst / First Suite for Military Band in Eb 校訂報告について（従来版と、手書き譜との違い）
7	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜７ 　実音、Bbの移調楽器、Ebの移調楽器の混合による読譜２（サクソフォーン・アンサンブルを中心として） G.Holst / First Suite for Military Band in Eb 第１楽章の楽曲分析と演奏法 さまざまな演奏を知る
8	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜８ 　メッゾ・ソプラノ譜表 G.Holst / First Suite for Military Band in Eb 第２楽章の楽曲分析と演奏法 さまざまな演奏を知る

9	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜９ F管移調楽器 G.Holst / First Suite for Military Band in Eb 第３楽章の楽曲分析と演奏法 さまざまな演奏を知る
10	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜10 木管五重奏の読譜 G.Holst / Second Suite for Military Band in F 作曲の経緯、委嘱、初演、各種の版について
11	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜11 金管五重奏の読譜 G.Holst / Second Suite for Military Band in F 楽器編成について（各種の版による楽器編成の違い） 校訂報告について（従来版と、手書き譜との違い）
12	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜12 木管セクションの読譜 G.Holst / Second Suite for Military Band in F 楽曲で使われた民謡素材について
13	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜13 金管セクションの読譜 G.Holst / Second Suite for Military Band in F 第１楽章の楽曲分析と演奏法 さまざまな演奏を知る
14	ソルフェージュ（スコア・リーディング）読譜14 吹奏楽の読譜 G.Holst / Second Suite for Military Band in F 第２、３楽章の楽曲分析と演奏法 さまざまな演奏を知る
15	「吹奏楽を考える」 G.Holst / Second Suite for Military Band in F 第４楽章の楽曲分析と演奏法 さまざまな演奏を知る

授業計画	
	［後期］ 「メトード・ソルフェージュ」の「リズム」「視唱」を実習し、リズムの本質や、イントネーションの感じ方を学ぶ。 「管楽合奏の古典名曲」を通して、19世紀までの吹奏楽の歴史を学ぶ。
1	ソルフェージュ　リズム１ 　リズムの本質に迫る３つのキーワード G.Holst / Hammersmith, Prelude and Scherzo 作曲の経緯、題名、初演について
2	ソルフェージュ　リズム２ 　４分音符を基本の拍とする拍子（単純拍子） G.Holst / Hammersmith, Prelude and Scherzo 楽曲分析1（複調について、和声について）
3	ソルフェージュ　リズム３ 　付点４分音符を基本の拍とする拍子（複合拍子） 　その他の音符を基本の拍とする拍子 G.Holst / Hammersmith, Prelude and Scherzo 楽曲分析2（各種の動機について） 演奏法について
4	ソルフェージュ　リズム４ 　拍の統合、拍の分割 　２分割と３分割 G.Holst / Moorside Suite 作曲の経緯について 楽曲分析
5	ソルフェージュ　リズム５ 　拍子の変化 　混合拍子 G.Holst / Three Folk Tunes 楽曲分析
6	ソルフェージュ　リズム６ 　複数の拍に対する連符 R. Vaughan Williams / English Folksong Suite 楽曲に使用された民謡素材について
7	ソルフェージュ　視唱１ 　音程に留意した歌い方のアドヴァイス 　完全音程・その１（同度とオクターヴ） R. Vaughan Williams / English Folksong Suite 第１楽章の分析と演奏法 'Sea Songs'の分析と演奏法
8	ソルフェージュ　視唱２ 　全音と半音で音階を歌う 　全音と半音を歌いわける R. Vaughan Williams / English Folksong Suite 第２、第３楽章の分析と演奏法
9	ソルフェージュ　視唱３ 　メロディーの歌い方（アナクルーズ、アルシスとテーシス） R. Vaughan Williams / Toccata Marziale 楽曲分析１（対位法的楽曲について）
10	ソルフェージュ　視唱４ 　３和音を歌おう 　完全音程・その２（４度と５度） R. Vaughan Williams / Toccata Marziale 楽曲分析２（オーケストレイションについて）

11	ソルフェージュ　視唱５ 　和音のピッチの取り方 　音律（純正音律、平均律、各種古典調律） 吹奏楽のオーケストレイションの実践１ 木管楽器
12	ソルフェージュ　視唱６ 　６度 　７の和音を歌おう 吹奏楽のオーケストレイションの実践2 金管楽器
13	ソルフェージュ　視唱７ 　さまざまな音程 　掛留音 吹奏楽のオーケストレイションの実践3 打楽器（ティンパニ）
14	ソルフェージュ 　楽典よもやま話 吹奏楽のオーケストレイションの実践4 トゥッティ
15	「その先の吹奏楽へ」

科目名	邦楽サウンド論１　［土3］						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE058000	科目コード	GE0580	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

通年の授業を通じて日本音楽についての正しい知識、知見を習得することが本講座の目的である。

２．授業概要

下記の２つの観点から構成されるカリキュラムとなっている。

①邦楽理論…邦楽の鑑賞、演奏、作曲などに有用な音楽理論を体系的に学ぶ。担当は森重行敏 先生。
②各分野別の音楽概論…研究者や演奏家など各分野の専門家による講義。各担当講師が自身の専門分野について豊富な資料や実演を交えて深く掘り下げる内容の授業。

本授業は大学附属研究機関である現代邦楽研究所の公開講座でもあるので、本学以外の受講生との合同授業となる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた日本の伝統音楽の中から興味があるジャンルについては、実際に演奏会へ足を運ぶ機会を設けてほしい。また授業の中でも参考演奏会を紹介する機会を設ける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
後期レポート提出（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。

参考文献
汐文社 刊　森重行敏 他 著
「ビジュアル版 和楽器事典」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日本の伝統音楽に興味があれば、履修の条件は特になし。
出来る限り休まずに受講すること。

授業計画	
	［前期］
1	邦楽理論1　総論　森重行敏
2	邦楽理論2　楽譜論　森重行敏
3	邦楽理論3　記譜法　森重行敏
4	古代の音楽　山本華子
5	邦楽理論4　絃楽器論　導入　森重行敏
6	邦楽理論5　絃楽器論　応用　森重行敏
7	笛の音楽　福原徹
8	邦楽理論6　絃楽器論　まとめ　森重行敏
9	三味線の音楽　上原潤之助
10	邦楽理論7　管楽器論　導入　森重行敏
11	箏の音楽　吉原佐知子
12	邦楽理論8　管楽器論　応用　森重行敏
13	尺八の音楽　三橋貴風
14	民謡と津軽三味線　山中信人
15	鑑賞講座「和のいろは」14：00開演シルバーマウンテン

授業計画	
	［後期］
1	邦楽理論9　管楽器論　まとめ　森重行敏
2	アジアの音楽1　中国・韓国　森重行敏
3	アジアの音楽2　東南アジア　森重行敏
4	アジアの音楽3　モンゴル ・インド　森重行敏
5	邦楽理論10　打楽器論　導入　森重行敏
6	邦楽理論11　打楽器論　応用　森重行敏
7	日本の太鼓　冨田慎平
8	邦楽理論12　打楽器論　まとめ　森重行敏
9	邦楽理論13　楽曲分析論　導入　森重行敏
10	鑑賞講座　冬の音楽祭邦楽コンサート　14：00開演シルバーマウンテン
11	邦楽器と現代作品　松尾祐孝
12	邦楽理論14　楽曲分析論　応用　森重行敏
13	邦楽と現代作品　松尾祐孝
14	邦楽と音楽教育　澤田篤子
15	邦楽理論15　楽曲分析論　まとめ　森重行敏

科目名	邦楽サウンド論２　［土3］						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE058100	科目コード	GE0581	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

通年の授業を通じて日本音楽についての正しい知識、知見を習得することが本講座の目的である。

２．授業概要

下記の２つの観点から構成されるカリキュラムとなっている。

①邦楽理論…邦楽の鑑賞、演奏、作曲などに有用な音楽理論を体系的に学ぶ。担当は森重行敏 先生。
②各分野別の音楽概論…研究者や演奏家など各分野の専門家による講義。各担当講師が自身の専門分野について豊富な資料や実演を交えて深く掘り下げる内容の授業。

本授業は大学附属研究機関である現代邦楽研究所の公開講座でもあるので、本学以外の受講生との合同授業となる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた日本の伝統音楽の中から興味があるジャンルについては、実際に演奏会へ足を運ぶ機会を設けてほしい。また授業の中でも参考演奏会を紹介する機会を設ける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
後期レポート提出（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。

参考文献
汐文社 刊　森重行敏 他 著
「ビジュアル版 和楽器事典」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日本の伝統音楽に興味があれば、履修の条件は特になし。
出来る限り休まずに受講すること。

授業計画	
	［前期］
1	邦楽理論1　総論　森重行敏
2	邦楽理論2　楽譜論　森重行敏
3	邦楽理論3　記譜法　森重行敏
4	古代の音楽　山本華子
5	邦楽理論4　絃楽器論　導入　森重行敏
6	邦楽理論5　絃楽器論　応用　森重行敏
7	笛の音楽　福原徹
8	邦楽理論6　絃楽器論　まとめ　森重行敏
9	三味線の音楽　上原潤之助
10	邦楽理論7　管楽器論　導入　森重行敏
11	箏の音楽　吉原佐知子
12	邦楽理論8　管楽器論　応用　森重行敏
13	尺八の音楽　三橋貴風
14	民謡と津軽三味線　山中信人
15	鑑賞講座「和のいろは」14：00開演シルバーマウンテン

授業計画	
	［後期］
1	邦楽理論9　管楽器論　まとめ　森重行敏
2	アジアの音楽1　中国・韓国　森重行敏
3	アジアの音楽2　東南アジア　森重行敏
4	アジアの音楽3　モンゴル ・インド　森重行敏
5	邦楽理論10　打楽器論　導入　森重行敏
6	邦楽理論11　打楽器論　応用　森重行敏
7	日本の太鼓　冨田慎平
8	邦楽理論12　打楽器論　まとめ　森重行敏
9	邦楽理論13　楽曲分析論　導入　森重行敏
10	鑑賞講座　冬の音楽祭邦楽コンサート　14：00開演シルバーマウンテン
11	邦楽器と現代作品　松尾祐孝
12	邦楽理論14　楽曲分析論　応用　森重行敏
13	邦楽と現代作品　松尾祐孝
14	邦楽と音楽教育　澤田篤子
15	邦楽理論15　楽曲分析論　まとめ　森重行敏

科目名	声楽（教職）　[火1] クラシック（辻志朗先生）クラス						
代表教員	辻　志朗	授業コード	GE0582A0	科目コード	GE0582	期間	通年
担当教員	宇野　徹哉						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

教職免許取得希望学生全員が合唱の基礎的な歌唱力、アンサンブル能力を習得することを目標とする。
学校教育の現場から美術・音楽の芸術分野のコマ数削減が進む中、中高一貫校などでも今大いに注目され、積極的に採用されているのが「校内合唱コンクール」である。この講義では、将来教壇に立った際に、如何にして生徒達に合唱への導入をすれば良いかを、その合唱を実体験することから学ぶ。前期にはＮＨＫ全国学校音楽コンクールの課題曲を教材として取り入れ、コンクール参加校に赴任した際に、その生徒達に対応出来る能力を身につける。後期は中学生、高校生が授業内で学ぶクラス合唱の名曲を取り上げ、歌いながらその指導を学ぶ。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。前期は発声の基礎から始める。その歌唱技術をNHK全国学校音楽コンクール課題曲の小学校、中学校、高等学校の部の課題曲を歌う中でいかに反映させるか、また人に伝えるかを考える。前期最終日までに学習した全曲を完成させることを目指す。
後期は将来教員になった際に授業で指導するであろうクラス合唱の名曲を取り上げ、後期最終授業までの完成を目指す。
前期、後期共に最終授業で授業内成果発表演奏を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音大生としてのプライドと自覚を持って配布された楽譜は必ず譜読みをしてから講義に臨む事。敢えてこの講義が早朝第１限目に置かれている意味合いを各自良く理解し、将来教員に成るための心と身体の自己管理に自覚を持ち、講義に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と受講態度で成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期は無伴奏作品を1曲と、NHK全国学校音楽コンクールの課題曲（小学校、中学校、高校の部）を、各自校内のカワイの販売店「ドミナント」で購入し講義に備える。それ以外は適宜講義中に指示する。後期の作品については前期の授業内容により検討する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職免許取得のための必修科目である為、遅刻欠席には十分に留意する事。
最終授業での発表演奏には参加すること。最終授業での発表演奏への参加を欠席する場合は欠席理由を提出すること。
講義の性格上出席には厳しく対応するので、実習などの日程調整、各人の体調管理も含めて、単位取得に必要な授業日数を割り込まぬ様、予め計画を立てて講義に臨んで欲しい。
またここ数年講義中にスマートフォンなどの通信機器を講義と無関係に使用し講義受講資格を失う学生が多々見られる。この様な受講態度への取り締まりは今後も教員・スタッフ一同続けるのでその様な行為は絶対に慎むように心掛けて欲しい。
出席を重視する。すべての講義の3分の2以上の出席がない者は単位取得が出来ない。

授業計画	
	［前期］ NHK全国学校音楽コンクールの課題曲(小学校、中学校、高校の部)を各自校内の販売店「ドミナント」で購入し、初回講義に備える。 それ以外の作品については講義中に配布する。
1	ガイダンス 前期は基本的な発声法の取得とＮＨＫ全国学校音楽コンクール課題曲を中心に授業をすすめて行く。15回の授業数の中で作品を完成させ、成果発表演奏を行う。 アンサンブル練習曲として、課題曲の他に木下牧子作曲「夢みたものは」を配布する。 初めの宇野講師による全体発声の中で、各自の歌うパートを確認する。
2	宇野講師の指導により全体発声を行う。 声楽科学生でない限り、声楽家による発声レッスンを受ける機会は少ないので、大切な時間と考えたい。 ＮＨＫ全国学校音楽コンクール課題曲（高校生）の譜読みを開始する。音名や階名で練習し、旋律と和声を体験する。無伴奏作品の復習をする。
3	体操、発声 ＮＨＫ全国学校音楽コンクール課題曲（高校生）をまず音名や階名で練習し、音程・リズムを確認する。テキストを読み、詩人へのアプローチを試みる。 無伴奏作品の復習をする。
4	体操、発声。 ＮＨＫ全国学校音楽コンクール課題曲（高校生）をテキストをつけて歌う練習をする。声楽科学生以外は音符とテキスを同時に読むという機会は少ないと思われる。 ゆっくりな練習から初めて慣れることを目指す。 無伴奏作品の復習をする。
5	体操、発声。 ＮＨＫ全国学校音楽コンクール課題曲（中学校）の譜読みをする。まず音名や階名で練習することで音程・リズムを確認する。
6	体操、発声。 NHK全国学校音楽コンクール課題曲(中学校)を音名や階名で復習する。音程・リズムを再確認する。 テキストを読み、詩人へのアプローチを試みる。 高校の部課題曲を復習する。
7	体操、発声。 NHK全国学校音楽コンクール課題曲(中学校)をテキストをつけて歌う練習をする。テキストの内容がいかに和声やリズムに反映されているかを考える。 高校の部の課題曲、無伴奏作品の復習をする。
8	体操、発声。 NHK全国学校音楽コンクール課題曲(小学校)を音名や階名で練習する。ソプラノとテノールが上声部、アルトとバスが低声部を歌うものとする。 音程とリズムに留意する。 高校の部、中学校の部、無伴奏作品の復習を適宜行い、練習曲のレヴェルを保つ。
9	体操、発声。 NHK全国学校音楽コンクール課題曲(小学校)を音名や階名で練習する。和声やリズムの精度を高める。 テキストを読み、その内容やその詩が伝える意味を各自考えてみる。 高校の部、中学校の部、無伴奏作品の復習をする。
10	体操、発声。 NHK全国学校音楽コンクール課題曲(小・中・高校生)、無伴奏作品を、テキストを考えつつ、また和声やリズムとのかかわりを考えながら演奏精度を高める。
11	体操、発声。 授業で学んだ作品を題材に、発声、音程、リズム、和声感、発語、表現等の技術を高める。 そして各自が「いかに指導するか？」を考える。
12	体操、発声。 講義で学んだ作品を題材に、発声、歌唱力、音程、リズム、和声感、発語等の基本的な技術について復習しながら授業をすすめ、いかに指導するかを各自考える。②
13	体操、発声。 講義で学んだ作品の演奏効果を考え、更に表現豊かな説得力のある演奏になるよう、発声、音程、リズム、和声感、発語等の技術を高める。
14	体操、発声。 次回の成果発表会に備え、演奏順に何度か通し練習をする。 講義から学んだ様々な技術、知識により作品の演奏精度を高める。 音楽的な技術のみならず、パートの一員として個々が担う責任感、協調性を考える。
15	前期授業の成果発表演奏。 発声、リハーサル、本番の順ですすめ、ステージでの演奏をイメージした発表を行う。

授業計画	
	［後期］ 前期の授業の成果発表演奏により、訂正な作品を指示する。 中学校、高等学校で歌われる合唱作品から選曲をする予定。楽譜は講義内で配布する。
1	体操、発声。中学校、高等学校のクラス合唱で使われる作品と邦人作品を取り上げる。 杉本竜一作曲「Tomorrow」　／　佐藤 真作曲「大地讃頌　／　木下牧子作曲「湖上」 なかにしあかね作曲「今日もひとつ」　／　小林亜星作曲「あわてんぼうのサンタクロース」 初回はまず「湖上」を音名や階名で練習する。
2	体操、発声。 「湖上」は無伴奏作品なので、アンサンブルをするに必要な発声技術、より正確な音程・リズム感、和声感が必要とされる。 まずは正確な譜読みを行う。
3	体操、発声。 「湖上」の音取りの復習。 仕上がり具合により、テキストをつけて歌う練習をする。 テキストの語り方を考える。
4	体操、発声。 「Tomorrow」を音名や階名で歌う練習をする。 同声2部合唱作品なので、上声部をソプラノとテノール、低声部をアルトとバスが担当する。 比較的やさしい作品なので、テキストをつけて歌う練習までたどりつきたい。 「湖上」の復習をする。
5	体操、発声。 「Tomorrow」の復習をする。 テキストを読み込み、詩の内容に共感を持って歌えるように考えながら練習する。 「湖上」の復習をする。 無伴奏作品の安定具合により、より表現力を高める工夫をする。
6	体操、発声。 「今日もひとつ」を音名や階名で練習する。 ユニゾンの歌い方、和声バランスの良い歌い方を練習する。リズムと音程にも留意する。
7	体操、発声。 「今日もひとつ」の復習をする。 やや長い作品なので、まず音程とリズム、そして和声を組み立てる練習をする。 仕上がり具合により、星野富弘氏のテキストについて各自考えてみる。 「湖上」「Tomorrow」の復習を適宜行う。
8	体操、発声。 「今日もひとつ」を、テキストを味わいながら、表情豊かに歌う練習をする。 「湖上」「Tomorrow」を復習する。
9	体操、発声。 「大地讃頌」を音名と階名で練習をする。 この作品は学生が中学生、高校生時代に、授業の中で歌った経験があると思われるので、より丁寧な読譜が求められる。 思い込みの覚え間違いを整理する。
10	体操、発声。 「大地讃頌」の復習。譜読みの仕上げり具合により、テキストをつけて歌う練習をする。 テキストを読み込み、更に助言を加えることで、この作品の内容をより深く知り、表現につなげる。 「今日もひとつ」の復習をする。
11	体操、発声。 「大地讃頌」をテキストと旋律、和声との関係を考えながら表情豊かに歌う練習をする。 表現をする為の自然な歌唱、より美しい発語についてを探る。 「湖上」「Tomorrow」「今日もひとつ」の復習を適宜取り入れる。
12	体操、発声。 「あわてんぼうのサンタクロース」の譜読み。 松永ちずる氏による独特なアレンジで、合唱の楽しさを高める。 「湖上」「Tomorrow」「今日もひとつ」「大地讃頌」を、発声、音程、和声、リズム、テキストを考え、より豊かな表現を目指し、演奏精度をあげる。
13	体操、発声。 後期に学んだ作品を歌いながら、前期&後期に学んだ発声や合唱指導上のポイントを各自整理してみる。 そのポイントを、将来教壇に立った時にいかに言葉にして他人に伝えるかにつなげて行きたい。
14	体操、発声。 次回の授業成果発表演奏に向けて、最終の確認を行う。。
15	後期授業の成果発表演奏。 発声、リハーサル、本番の順にすすめ、ステージでの演奏をイメージした発表を行う。

科目名	声楽（教職）　［火1］ポピュラー（江原陽子先生）クラス						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE0582B0	科目コード	GE0582	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・気持ちよく、楽しく演習することを第一に、音楽の担い手としての喜びを体感する。
・思いと声は直結していることを理解し、将来教壇に立った際に信頼される声と指導法を習得する。
・幅広いスタイルの教材に対応する技術を身につけ、実践につなげる。
・最近盛んであるクラス合唱に採用されているポップス合唱の教材を取り上げ、共に歌い、作り上げる喜びを実感する。
・学生それぞれの主科を生かしながら、合唱が伴奏形態によって変化することを体感する。

２．授業概要

この授業では演奏会の本番はありません。
取り組む題材はポップス合唱中心です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題を習得する上でも、次回の授業へ向けての準備は必要となるので、授業の前後で楽譜を読み込んでおくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み姿勢などから総合的に判断する（100%）。
レポートを提出する必要はありません。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜資料を配布します。
教材を購入する必要はありません。

参考文献：「中学・高等学校の音楽の教科書」「学習指導要領」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は自由。
アンサンブルが基本となるので、協調性やリードしていく積極性も必要と心得てほしい。

授業計画	
	前期は、基本的に個々の声作りと楽曲の理解を目標にする。
1	ガイダンス 前期の内容の説明と確認
2	発声の基礎と身体の使い方
3	ポップス合唱①「ふるさと（嵐）」の導入
4	ポップス合唱①「ふるさと（嵐）」の演習
5	ポップス合唱①「ふるさと（嵐）」の仕上げ
6	頭声・胸声発声での歌唱のポイントと習得
7	独唱「かえるのうた」
8	歌詞の理解　１　～歌詞とリズムの関係について～
9	歌詞の理解　２　～歌詞とメロディの関係について～
10	ポップス合唱②「たしかなこと(小田和正)」の導入
11	ポップス合唱②「たしかなこと(小田和正)」の演習
12	リズムトレーニング(ボディパーカッション)1導入
13	リズムトレーニング(ボディパーカッション)2演習
14	リズムトレーニング(ボディパーカッション)3仕上げ
15	前期の復習と統括

授業計画	
	後期は前期を踏まえた上で、さらにポップス合唱に取り組みその指導法を習得する。
1	ガイダンス 前期の復習と確認
2	発声指導のポイントと実践
3	合唱指導実習　１～ポイントと実践～
4	合唱指導実習　２～合唱におけるリズムの重要性～
5	合唱指導実習　３～指導法と実践～
6	独唱「ぶん ぶん ぶん」
7	ポップス合唱③「This Is Me」（グレイテスト・ショーマンより）外国曲の導入
8	ポップス合唱③「This Is Me」（グレイテスト・ショーマンより）外国曲の演習
9	ポップス合唱③「This Is Me」（グレイテスト・ショーマンより）外国曲の仕上げ
10	少人数ボイスアンサンブル　１～導入～
11	少人数ボイスアンサンブル　２～仕上げ～
12	ポップス合唱④「ぜんぶ」の導入
13	ポップス合唱④「ぜんぶ」の演習から仕上げ
14	ジャズのナンバーを合唱で表現する
15	後期の復習と統括

科目名	学内リサイタル講座　[金3]						
代表教員	渡部　亨	授業コード	GE058300	科目コード	GE0583	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

最終学年のまとめとなる演奏会（リサイタル）講座としての意義と目的を明確にして、個々のレッスンや専門講座を基に演奏会計画を立て、それを実行することを目標とする。

２．授業概要

３年間にわたって専門レッスン指導を受けた成果発表演奏会として自己研鑽、楽曲研究に励み、他の履修生の演奏講評も行う。前期シルバーマウンテン2F（10～15分程度）で独奏を行う。前期演奏会は授業日以外の18時30分以降に行うこともある（教育実習に伴う日程調整）。
後期前田ホールで独奏演奏（15分程度）をジョイント形式で行い審査教員から評価講評を受ける。
授業計画と演奏会日程は初回授業時に掲示しアンケート調査後配当する。
ＡＣ教員の指示に従い、演奏計画・プログラム及びチラシ作成、前田ホールとの打ち合わせを行う

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前後期とも自分が演奏する作品の楽曲分析と十分な練習を必ず行い、演奏会に向かう。

４．成績評価の方法及び基準

平常点としてインスペクター・ステージマネージャーなど演奏以外の活動も評価対象とする。
後期ジョイント・リサイタルにおける演奏評価と平常点をもとに成績をつける。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前年度プログラム・教員などのリサイタルチラシ、プログラム、ＣＤ、名曲解説全集、音楽辞典など。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

４年生のみ履修可とする。授業は金曜日Ⅲ時限とする（後期 前田ホール演奏会は補講扱いとし通常授業日を休講とする事がある）。
履修希望が多数の場合、前田ホール（1日あたり8名）の予定上、コース別に３年時の成績とコース別人数を基に履修制限をすることがある。
成績優秀者はこれを表彰し、外部ホールで特別ジョイント・リサイタルを行う。
ジャズ、作曲、ミュージカル、音楽・音響デザインコースの履修は音響設備等の関係上、担当部会の推薦を必要とする。
前田ホールでの設備、備品、楽器以外の使用はホール、担当部署とも相談して決定する。（使用許可が出ない場合出演できない）

授業計画	
	前期は登録人数により楽器種別にジョイントコンサートを行う可能性もある
1	ガイダンス(年間スケジュール用紙配布)
2	年間スケジュール用紙提出 ピアノコース生によるジョイント演奏会
3	グループ発表、役職など決定、AC教員との顔合わせと提出物チェック
4	日程調整と過去の学内リサイタル演奏会DVD鑑賞
5	グループ毎のテーマと副題決定、写真作成など準備
6	本学教員による「私のリサイタル」演奏と講演
7	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会1(木管楽器)
8	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会2（金管楽器）
9	調整練習日(教育実習など)チラシ最終校正日
10	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会3（ピアノ）
11	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会4(声楽)
12	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会5（打楽器）
13	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会6（弦楽器）
14	SM(シルバーマウンテン)ジョイントリサイタル演奏会予備日　演奏練習日
15	反省会と後期日程確認 集客目標設定日

授業計画	
	後期(夜間曜日変更の可能性あり)
1	前田ホール ジョイント・リサイタル①(木管楽器)リハーサル
2	前田ホール ジョイント・リサイタル①(木管楽器) 18時開場　18:20開演
3	前田ホール ジョイント・リサイタル②（金管楽器）リハーサル
4	前田ホール ジョイント・リサイタル②（金管楽器）18時開場　18:20開演
5	前田ホール ジョイント・リサイタル③（ピアノ）リハーサル
6	前田ホール ジョイント・リサイタル③（ピアノ）18時開場　18:20開演
7	前田ホール ジョイント・リサイタル④（声楽）リハーサル
8	前田ホール ジョイント・リサイタル④（声楽）18時開場　18:20開演
9	前田ホール ジョイント・リサイタル⑤（打楽器）リハーサル
10	前田ホール ジョイント・リサイタル⑤（打楽器）18時開場　18:20開演
11	前田ホール ジョイント・リサイタル⑥（弦楽器）リハーサル
12	前田ホール ジョイント・リサイタル⑥（弦楽器）18時開場　18:20開演
13	反省会
14	表彰式(各賞発表)
15	3月開催予定の選抜者による特別ジョイントリサイタル出演者リハーサル

科目名	即興演奏講座（初級）　［金3］Aクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0621A0	科目コード	GE0621	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。
B　自己の音楽創造に努め共演者の音楽理解にも努めている。授業内容も概ね理解している。
C　授業内容の理解に努めている。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約２０名。
内訳として、管打楽器６０％、ピアノ・鍵盤２０％、弦楽器２０％を目安とします。
（年度によって変動します）
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	入門。早速即興演奏の体験です。
3	エクササイズ①　簡単なハーモニーを伴う即興
4	エクササイズ②　簡単なハーモニーを伴う即興の発展（ 循環コードを使って）
5	エクササイズ③　簡単なハーモニーを伴う即興の発展（ ４つ以上のハーモニーを使って）
6	エクササイズ④　簡単なハーモニーを伴う即興の発展（ 自由な和声進行による）
7	エクササイズ⑤ リズミックな即興
8	エクササイズ⑥ リズミックな即興（リステッソテンポを使った）
9	エクササイズ⑦ リズミックな即興（リステッソテンポを使った）の発展
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	引き続き実践。
13	発表会の準備（メンバー決めと内容の相談）
14	発表会の準備（実践）
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践① 対話形式で
3	実践② 高速による対話形式で
4	実践③ 近いジャンルの相手との自由な即興
5	実践④ 近いジャンルの相手との自由な即興（3人以上）
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	実践⑤ 2人で即興。自由課題。
8	実践⑥ 2人で即興。具体的イメージを課題とした即興。
9	実践⑦ 2人で即興。パターンを課題とした即興。
10	実践のまとめ　3人以上の異なるジャンルの人間との5分以上の自由課題による即興
11	試験の準備（ガイダンス）
12	試験の準備。イメージを用いた即興。
13	試験の準備。パターンを用いた即興。
14	試験の準備。自由課題による即興。
15	試験・まとめ

科目名	即興演奏講座（初級）　［金4］Bクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0621B0	科目コード	GE0621	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。
B　自己の音楽創造に努め共演者の音楽理解にも努めている。授業内容も概ね理解している。
C　授業内容の理解に努めている。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約２０名。
内訳として、管打楽器６０％、ピアノ・鍵盤２０％、弦楽器２０％を目安とします。
（年度によって変動します）
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	入門。早速即興演奏の体験です。
3	エクササイズ①　簡単なハーモニーを伴う即興
4	エクササイズ②　簡単なハーモニーを伴う即興の発展（ 循環コードを使って）
5	エクササイズ③　簡単なハーモニーを伴う即興の発展（ ４つ以上のハーモニーを使って）
6	エクササイズ④　簡単なハーモニーを伴う即興の発展（ 自由な和声進行による）
7	エクササイズ⑤ リズミックな即興
8	エクササイズ⑥ リズミックな即興（リステッソテンポを使った）
9	エクササイズ⑦ リズミックな即興（リステッソテンポを使った）の発展
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	引き続き実践。
13	発表会の準備（メンバー決めと内容の相談）
14	発表会の準備（実践）
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践① 対話形式で
3	実践② 高速による対話形式で
4	実践③ 近いジャンルの相手との自由な即興
5	実践④ 近いジャンルの相手との自由な即興（3人以上）
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	実践⑤ 2人で即興。自由課題。
8	実践⑥ 2人で即興。具体的イメージを課題とした即興。
9	実践⑦ 2人で即興。パターンを課題とした即興。
10	実践のまとめ　3人以上の異なるジャンルの人間との5分以上の自由課題による即興
11	試験の準備（ガイダンス）
12	試験の準備。イメージを用いた即興。
13	試験の準備。パターンを用いた即興。
14	試験の準備。自由課題による即興。
15	試験・まとめ

科目名	即興演奏講座（初級）　［金5］Cクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0621C0	科目コード	GE0621	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。
B　自己の音楽創造に努め共演者の音楽理解にも努めている。授業内容も概ね理解している。
C　授業内容の理解に努めている。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約２０名。
内訳として、管打楽器６０％、ピアノ・鍵盤２０％、弦楽器２０％を目安とします。
（年度によって変動します）
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	入門。早速即興演奏の体験です。
3	エクササイズ①　簡単なハーモニーを伴う即興
4	エクササイズ②　簡単なハーモニーを伴う即興の発展（ 循環コードを使って）
5	エクササイズ③　簡単なハーモニーを伴う即興の発展（ ４つ以上のハーモニーを使って）
6	エクササイズ④　簡単なハーモニーを伴う即興の発展（ 自由な和声進行による）
7	エクササイズ⑤ リズミックな即興
8	エクササイズ⑥ リズミックな即興（リステッソテンポを使った）
9	エクササイズ⑦ リズミックな即興（リステッソテンポを使った）の発展
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	引き続き実践。
13	発表会の準備（メンバー決めと内容の相談）
14	発表会の準備（実践）
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践① 対話形式で
3	実践② 高速による対話形式で
4	実践③ 近いジャンルの相手との自由な即興
5	実践④ 近いジャンルの相手との自由な即興（3人以上）
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	実践⑤ 2人で即興。自由課題。
8	実践⑥ 2人で即興。具体的イメージを課題とした即興。
9	実践⑦ 2人で即興。パターンを課題とした即興。
10	実践のまとめ　3人以上の異なるジャンルの人間との5分以上の自由課題による即興
11	試験の準備（ガイダンス）
12	試験の準備。イメージを用いた即興。
13	試験の準備。パターンを用いた即興。
14	試験の準備。自由課題による即興。
15	試験・まとめ

科目名	即興演奏講座（中級）　［金3］Aクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0626A0	科目コード	GE0626	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。
B　自己の音楽創造に努め共演者の音楽理解にも努めている。授業内容も概ね理解している。
C　授業内容の理解に努めている。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約１０名。
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	早速即興演奏の体験。
3	前回の体験を踏まえ、色々なエクササイズを加えながら徐々に理解を深めていきます。
4	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ① 3部形式による即興
5	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ② 組曲形式による即興
6	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ③ ロンド形式による即興
7	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ④ ワンモードによる即興
8	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ⑤ ワンモードによる即興の発展（より高速で）
9	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ⑥ ワンモードによる即興の発展（様々なリズムを用いて）
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ⑦ ワンモードによる即興の発展（速度変化を伴って）
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	実践的演習
13	発表会の準備。メンバー決めと内容の相談。
14	発表会の準備。リハーサル。
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践。様々な形式を使った即興。2人。
3	実践。様々な形式を使った即興。3人以上。
4	実践。具体的イメージを課題とした即興。2人。
5	実践。具体的イメージを課題とした即興。3人以上。
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	前回の継続。極限的な速度による即興。2人。
8	前回の継続。極限的な速度による即興。3人以上。
9	前回の継続。自分のイマジネーションの表現に重きをおいて。
10	前回の継続。相手の主張の理解に重きをおいて。
11	前回の継続。自分のイマジネーションの表現と相手の主張の理解を同時に行う練習。
12	試験の準備開始。形式を用いた実践。
13	試験の準備。具体的なイメージを課題とした実践。
14	試験の準備。自由課題のリハーサル。
15	試験・まとめ

科目名	即興演奏講座（中級）　［金4］Bクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0626B0	科目コード	GE0626	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。
B　自己の音楽創造に努め共演者の音楽理解にも努めている。授業内容も概ね理解している。
C　授業内容の理解に努めている。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約１０名。
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	早速即興演奏の体験。
3	前回の体験を踏まえ、色々なエクササイズを加えながら徐々に理解を深めていきます。
4	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ① 3部形式による即興
5	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ② 組曲形式による即興
6	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ③ ロンド形式による即興
7	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ④ ワンモードによる即興
8	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ⑤ ワンモードによる即興の発展（より高速で）
9	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ⑥ ワンモードによる即興の発展（様々なリズムを用いて）
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ⑦ ワンモードによる即興の発展（速度変化を伴って）
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	実践的演習
13	発表会の準備。メンバー決めと内容の相談。
14	発表会の準備。リハーサル。
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践。様々な形式を使った即興。2人。
3	実践。様々な形式を使った即興。3人以上。
4	実践。具体的イメージを課題とした即興。2人。
5	実践。具体的イメージを課題とした即興。3人以上。
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	前回の継続。極限的な速度による即興。2人。
8	前回の継続。極限的な速度による即興。3人以上。
9	前回の継続。自分のイマジネーションの表現に重きをおいて。
10	前回の継続。相手の主張の理解に重きをおいて。
11	前回の継続。自分のイマジネーションの表現と相手の主張の理解を同時に行う練習。
12	試験の準備開始。形式を用いた実践。
13	試験の準備。具体的なイメージを課題とした実践。
14	試験の準備。自由課題のリハーサル。
15	試験・まとめ

科目名	即興演奏講座（中級）　［金5］Cクラス						
代表教員	平野　公崇	授業コード	GE0626C0	科目コード	GE0626	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽譜を正確に吹くことや、楽器を正しく演奏すること、また時代、国、スタイルといった枠からいったん離れ、まったくフリーの即興演奏を学ぶことによって、音楽の本質をつかみ、また即興によるアンサンブルで音楽的コミュニケーション能力を高める。
高度な即興演奏法を身に付けていくことによって、現代性と束縛されない発想を基本理念としながら、全ての芸術、文化への造詣を深めると共に、より豊かな人間性と価値観の育成を目的とする。

２．授業概要

即興演奏、おもにグループによる実演をレッスン形式で行なう。また、各レベル別の発表会も行なう。年に数回外部からのゲストによるマスタークラスも行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

即興演奏は実践こそが即興ですから、面白い発想や理解力がものを言いますので、日ごろの生活でなるべく沢山の物、例えば本、映画、美術、自然、等に多く触れていることが大切です。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

評価基準
S　自己の音楽創造力が豊かである。共演者の音楽理解が十分である。
A　自己の音楽創造力があり、共演者の音楽理解もある。授業内容をよく理解している。
B　自己の音楽創造に努め共演者の音楽理解にも努めている。授業内容も概ね理解している。
C　授業内容の理解に努めている。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラスは「初級」「中級」の二つのレベルがあります。
原則として初級から順に修得してからでないと次のレベルへは進めないものとします。
（１）受講定員は約１０名。
（２）定員を上回った場合、必要な楽器演奏技術の有無を確認すべきと判断した場合は、初回授業で選抜試験を実施することがあります。履修希望者は必ず出席してください。
選抜試験は、５分程度の当日こちらで提示する課題の演奏、簡単な面接、以上の２つを行います。また、この課題や面接に関しては全く準備の必要はありません。
学期末には実技試験を行います。
【初級・中級】
その年ごとのテーマによる即興演奏のソロとアンサンブル。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。即興演奏についての説明。
2	早速即興演奏の体験。
3	前回の体験を踏まえ、色々なエクササイズを加えながら徐々に理解を深めていきます。
4	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ① 3部形式による即興
5	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ② 組曲形式による即興
6	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ③ ロンド形式による即興
7	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ④ ワンモードによる即興
8	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ⑤ ワンモードによる即興の発展（より高速で）
9	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ⑥ ワンモードによる即興の発展（様々なリズムを用いて）
10	前回の復習。少しずつエクササイズを変えていきます。エクササイズ⑦ ワンモードによる即興の発展（速度変化を伴って）
11	基本的に実践を継続していきますが、演奏者の組み合わせを変えたり、編成、人数を変えたりしていきます。
12	実践的演習
13	発表会の準備。メンバー決めと内容の相談。
14	発表会の準備。リハーサル。
15	発表会

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習。
2	実践。様々な形式を使った即興。2人。
3	実践。様々な形式を使った即興。3人以上。
4	実践。具体的イメージを課題とした即興。2人。
5	実践。具体的イメージを課題とした即興。3人以上。
6	新しいエクササイズ（今までよりも少し難しい）を含む実践。
7	前回の継続。極限的な速度による即興。2人。
8	前回の継続。極限的な速度による即興。3人以上。
9	前回の継続。自分のイマジネーションの表現に重きをおいて。
10	前回の継続。相手の主張の理解に重きをおいて。
11	前回の継続。自分のイマジネーションの表現と相手の主張の理解を同時に行う練習。
12	試験の準備開始。形式を用いた実践。
13	試験の準備。具体的なイメージを課題とした実践。
14	試験の準備。自由課題のリハーサル。
15	試験・まとめ

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （前） ［金1］						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GE082600	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法I （前） ［金2］P1クラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE0826P1	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （前）［金2］P2クラス						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE0826P2	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法I （前） ［金2］P3クラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE0826P3	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （前） ［金2］P4クラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GE0826P4	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法Ⅰ （前） ［金2］P5クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GE0826P5	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法I （後） ［金2］Q1クラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GE0826Q1	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法I （後） ［金2］Q2クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GE0826Q2	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法II　（後）［金1］						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GE082700	科目コード	GE0827	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「作曲法・編曲法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 移調、移旋、および転調について
2	音楽形式と旋律１　複合三部形式
3	音楽形式と旋律２　ソナタ形式
4	素材の活用法（主題の展開方法等）
5	混声四部合唱について
6	編曲実習１　混声四部合唱（ア・カペラ）
7	伴奏としてのピアノ書法
8	編曲実習２　混声四部合唱（ピアノ伴奏付き）
9	歌詞を用いての作曲について
10	作曲実習１　歌曲（歌曲旋律の書法）
11	二重奏について
12	作曲実習２　二重奏（旋律楽器の書法）
13	作曲実習３　二重奏（ピアノの書法）
14	作曲実習４　二重奏（アンサンブルでのバランス）
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法II （後） ［金2］Aクラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE0827A0	科目コード	GE0827	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「作曲法・編曲法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 移調、移旋、および転調について
2	音楽形式と旋律１　複合三部形式
3	音楽形式と旋律２　ソナタ形式
4	素材の活用法（主題の展開方法等）
5	混声四部合唱について
6	編曲実習１　混声四部合唱（ア・カペラ）
7	伴奏としてのピアノ書法
8	編曲実習２　混声四部合唱（ピアノ伴奏付き）
9	歌詞を用いての作曲について
10	作曲実習１　歌曲（歌曲旋律の書法）
11	二重奏について
12	作曲実習２　二重奏（旋律楽器の書法）
13	作曲実習３　二重奏（ピアノの書法）
14	作曲実習４　二重奏（アンサンブルでのバランス）
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法II （後） ［金2］Bクラス						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE0827B0	科目コード	GE0827	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「作曲法・編曲法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 移調、移旋、および転調について
2	音楽形式と旋律１　複合三部形式
3	音楽形式と旋律２　ソナタ形式
4	素材の活用法（主題の展開方法等）
5	混声四部合唱について
6	編曲実習１　混声四部合唱（ア・カペラ）
7	伴奏としてのピアノ書法
8	編曲実習２　混声四部合唱（ピアノ伴奏付き）
9	歌詞を用いての作曲について
10	作曲実習１　歌曲（歌曲旋律の書法）
11	二重奏について
12	作曲実習２　二重奏（旋律楽器の書法）
13	作曲実習３　二重奏（ピアノの書法）
14	作曲実習４　二重奏（アンサンブルでのバランス）
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法II （後） ［金2］Cクラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE0827C0	科目コード	GE0827	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「作曲法・編曲法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 移調、移旋、および転調について
2	音楽形式と旋律１　複合三部形式
3	音楽形式と旋律２　ソナタ形式
4	素材の活用法（主題の展開方法等）
5	混声四部合唱について
6	編曲実習１　混声四部合唱（ア・カペラ）
7	伴奏としてのピアノ書法
8	編曲実習２　混声四部合唱（ピアノ伴奏付き）
9	歌詞を用いての作曲について
10	作曲実習１　歌曲（歌曲旋律の書法）
11	二重奏について
12	作曲実習２　二重奏（旋律楽器の書法）
13	作曲実習３　二重奏（ピアノの書法）
14	作曲実習４　二重奏（アンサンブルでのバランス）
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Aクラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GE0831A0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Bクラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE0831B0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Cクラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GE0831C0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Dクラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GE0831D0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Eクラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GE0831E0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Fクラス						
代表教員	小林　弘人	授業コード	GE0831F0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Gクラス						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE0831G0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Hクラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE0831H0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（後）［水3］（AS専用）						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GE0831J0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

この講座は音楽を把握するために必要な基礎知識を習得することが目的である。また、楽曲の構造（ハーモニーの機能、メロディーと非和声音）を理解し、簡単な楽曲のアナライズができるようになることを目標とする。

2．授業概要

和音の機能とコードネームの理解を深めるため、実際の楽曲を分析しながら学習する。教員の説明を聞くのみではなく授業で習った知識を元にグループごとに楽曲を分析し、発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより、理解度を深める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前期開講の音楽理論入門の内容を理解していることを前提に授業を進める為、理解度に不安のある学生は必ず復習をしておくこと。また、毎回授業内容をよく復習し、授業で取り上げた楽曲については自身でも音を聴きながらポイントを再確認しておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）

平常点は授業への参加姿勢と小テストの理解度、グループワークへの取り組みの姿勢を総合的に判断する
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に適宜プリントを配布する。

参考文献
『標準　ポピュラー・コード理論改定新版』林知行著（シンコーミュージック・エンタテイメント）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論入門を履修済みであること。

授業計画	
1	ガンダンスと音楽理論入門の重要箇所の復習
2	長調と短調における和音の種類（３和音）
3	和音の機能/小テストの実施と解説
4	長調における和音の種類（４和音）
5	短調における和音の種類（４和音）
6	小テストの実施と解説（４～５週の内容）
7	楽曲のアナライズについて
8	実作品のアナライズの実施と解説（2～7週までの授業内容を含む題材）
9	コードと旋律の関係（非和声音について）
10	ケーデンスの種類
11	実作品のアナライズの実施と解説（9～10週までの授業内容を含む題材）
12	グループワークによるアナライズの実施
13	グループ発表
14	グループ発表とその解説
15	試験と総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Kクラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GE0831K0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Mクラス						
代表教員	小谷野　謙一	授業コード	GE0831M0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Nクラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GE0831N0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Rクラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GE0831R0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Sクラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GE0831S0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Tクラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GE0831T0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Uクラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GE0831U0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（前）［月2］Vクラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GE0831V0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	音楽分析基礎講座　（後）［水3］（BL専用）						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GE0831Y0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は音楽を把握するために必要な基礎知識を習得することが目的である。
また、楽曲の構造（ハーモニーの機能、メロディーと非和声音）を理解し、簡単な楽曲のアナライズができるようになることを目標とする。

２．授業概要

和音の機能とコードネームの理解を深めるため、実際の楽曲を分析しながら学習する。教員の説明を聞くのみではなく授業で習った知識を元にグループごとに楽曲を分析し、発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより、理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期開講の音楽理論入門の内容を理解していることを前提に授業を進める為、理解度に不安のある学生は必ず復習をしておくこと。また、毎回授業内容をよく復習し、授業で取り上げた楽曲については自身でも音を聴きながらポイントを再確認しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）
平常点は授業への参加姿勢と小テストの理解度、グループワークへの取り組みの姿勢を総合的に判断する
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト・参考文献＞
授業時に適宜プリントを配布する。

＜参考文献＞
『標準　ポピュラー・コード理論改定新版』林知行著（シンコーミュージック・エンタテイメント）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論入門を履修済みであること。
BLコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。

授業計画	
1	ガンダンスと音楽理論入門の重要箇所の復習
2	長調と短調における和音の種類（３和音）
3	和音の機能/小テストの実施と解説
4	長調における和音の種類（４和音）
5	短調における和音の種類（４和音）
6	小テストの実施と解説（４～５週の内容）
7	楽曲のアナライズについて
8	実作品のアナライズの実施と解説（2～7週までの授業内容を含む題材）
9	コードと旋律の関係（非和声音について）
10	ケーデンスの種類
11	実作品のアナライズの実施と解説（9～10週までの授業内容を含む題材）
12	グループワークによるアナライズの実施
13	グループ発表
14	グループ発表とその解説
15	試験と総括

科目名	音楽分析基礎講座　（後）［水3］（DC専用）						
代表教員	瀬田　創太	授業コード	GE0831Z0	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は音楽を把握するために必要な基礎知識を習得することが目的である。
また、楽曲の構造（ハーモニーの機能、メロディーと非和声音）を理解し、簡単な楽曲のアナライズができるようになることを目標とする。

２．授業概要

和音の機能とコードネームの理解を深めるため、実際の楽曲を分析しながら学習する。教員の説明を聞くのみではなく授業で習った知識を元にグループごとに楽曲を分析し、発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより、理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期開講の音楽理論入門の内容を理解していることを前提に授業を進める為、理解度に不安のある学生は必ず復習をしておくこと。また、毎回授業内容をよく復習し、授業で取り上げた楽曲については自身でも音を聴きながらポイントを再確認しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）
平常点は授業への参加姿勢と小テストの理解度、グループワークへの取り組みの姿勢を総合的に判断する
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト・参考文献＞
授業時に適宜プリントを配布する。

＜参考文献＞
『標準　ポピュラー・コード理論改定新版』林知行著（シンコーミュージック・エンタテイメント）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽理論入門を履修済みであること。
ダンスコース学生は専用に開設される本クラスを履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	ガンダンスと音楽理論入門の重要箇所の復習
2	長調と短調における和音の種類（３和音）
3	和音の機能/小テストの実施と解説
4	長調における和音の種類（４和音）
5	短調における和音の種類（４和音）
6	小テストの実施と解説（４～５週の内容）
7	楽曲のアナライズについて
8	実作品のアナライズの実施と解説（2～7週までの授業内容を含む題材）
9	コードと旋律の関係（非和声音について）
10	ケーデンスの種類
11	実作品のアナライズの実施と解説（9～10週までの授業内容を含む題材）
12	グループワークによるアナライズの実施
13	グループ発表
14	グループ発表とその解説
15	試験と総括

科目名	対位法　［金3］Bクラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GE0846B0	科目コード	GE0846	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	作曲コース以外は「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問であり、和声法と並んで西洋音楽理論の二大根幹である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

対位法では、さまざまな制限により段階的に旋律線を研究する方法が伝統的に行われている。本授業では１５世紀のオケゲムやジョスカンに代表される定旋律ミサの様式により、二声対位法を修得する。

本授業により旋律線に対する感性や表現力を高め、対位法音楽への理解を一層深めることを目標とする。

２．授業概要

対位法の課題実習と添削を中心に行い、技法の修得を目指す。また、１２世紀以降の多声音楽（ペロタン、マショー、オケゲム、ジョスカンなどポリフォニーの隆盛）や、のちのバロック、古典、更に１９世紀以降におけるポリフォニー音楽の鑑賞や分析を通じて、対位法音楽を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（５０％）
学期末試験（５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストを購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
『対位法』（ノエル＝ギャロン 、マルセル・ビッチュ著／音楽之友社）
『二声対位法』（池内友次郎著／音楽之友社）
『厳格対位法 第２版 パリ音楽院の方式による』（山口博史著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　予備知識
2	全音符による対旋律　下声部にC.F.
3	全音符による対旋律　上声部にC.F.
4	全音符による対旋律　各種旋法を中心に
5	非和声音について（掛留音、経過音、刺繍音） 二分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
6	二分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
7	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
8	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
9	二分音符による対旋律　各種旋法を中心に
10	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
11	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
12	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
13	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
14	四分音符による対旋律　各種旋法を中心に
15	前期のまとめ期末試験

授業計画	
	［後期］
1	これまでの対旋律の確認、復習
2	非和声音について（掛留音） 移勢による対旋律　下声部にC.F.（長調）
3	移勢による対旋律　下声部にC.F.（短調）
4	移勢による対旋律　上声部にC.F.（長調）
5	移勢による対旋律　上声部にC.F.（短調）
6	移勢による対旋律　各種旋法を中心に
7	華麗による対旋律　下声部にC.F.（長調）
8	華麗による対旋律　下声部にC.F.（短調）
9	華麗による対旋律　上声部にC.F.（長調）
10	華麗による対旋律　上声部にC.F.（短調）
11	華麗による対旋律　各種旋法を中心に
12	自由な対旋律（長調）
13	自由な対旋律（短調）
14	自由な対旋律（各種旋法）
15	二声対位法の総括

科目名	対位法　［金3］Cクラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE0846C0	科目コード	GE0846	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	作曲コース以外は「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問であり、和声法と並んで西洋音楽理論の二大根幹である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

対位法では、さまざまな制限により段階的に旋律線を研究する方法が伝統的に行われている。本授業では１５世紀のオケゲムやジョスカンに代表される定旋律ミサの様式により、二声対位法を修得する。

本授業により旋律線に対する感性や表現力を高め、対位法音楽への理解を一層深めることを目標とする。

２．授業概要

対位法の課題実習と添削を中心に行い、技法の修得を目指す。また、１２世紀以降の多声音楽（ペロタン、マショー、オケゲム、ジョスカンなどポリフォニーの隆盛）や、のちのバロック、古典、更に１９世紀以降におけるポリフォニー音楽の鑑賞や分析を通じて、対位法音楽を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（５０％）
学期末試験（５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストを購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
『対位法』（ノエル＝ギャロン 、マルセル・ビッチュ著／音楽之友社）
『二声対位法』（池内友次郎著／音楽之友社）
『厳格対位法 第２版 パリ音楽院の方式による』（山口博史著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　予備知識
2	全音符による対旋律　下声部にC.F.
3	全音符による対旋律　上声部にC.F.
4	全音符による対旋律　各種旋法を中心に
5	非和声音について（掛留音、経過音、刺繍音） 二分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
6	二分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
7	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
8	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
9	二分音符による対旋律　各種旋法を中心に
10	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
11	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
12	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
13	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
14	四分音符による対旋律　各種旋法を中心に
15	前期のまとめ期末試験

授業計画	
	［後期］
1	これまでの対旋律の確認、復習
2	非和声音について（掛留音） 移勢による対旋律　下声部にC.F.（長調）
3	移勢による対旋律　下声部にC.F.（短調）
4	移勢による対旋律　上声部にC.F.（長調）
5	移勢による対旋律　上声部にC.F.（短調）
6	移勢による対旋律　各種旋法を中心に
7	華麗による対旋律　下声部にC.F.（長調）
8	華麗による対旋律　下声部にC.F.（短調）
9	華麗による対旋律　上声部にC.F.（長調）
10	華麗による対旋律　上声部にC.F.（短調）
11	華麗による対旋律　各種旋法を中心に
12	自由な対旋律（長調）
13	自由な対旋律（短調）
14	自由な対旋律（各種旋法）
15	二声対位法の総括

科目名	対位法　［金3］Dクラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GE0846D0	科目コード	GE0846	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	作曲コース以外は「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問であり、和声法と並んで西洋音楽理論の二大根幹である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

対位法では、さまざまな制限により段階的に旋律線を研究する方法が伝統的に行われている。本授業では１５世紀のオケゲムやジョスカンに代表される定旋律ミサの様式により、二声対位法を修得する。

本授業により旋律線に対する感性や表現力を高め、対位法音楽への理解を一層深めることを目標とする。

２．授業概要

対位法の課題実習と添削を中心に行い、技法の修得を目指す。また、１２世紀以降の多声音楽（ペロタン、マショー、オケゲム、ジョスカンなどポリフォニーの隆盛）や、のちのバロック、古典、更に１９世紀以降におけるポリフォニー音楽の鑑賞や分析を通じて、対位法音楽を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（５０％）
学期末試験（５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストを購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
『対位法』（ノエル＝ギャロン 、マルセル・ビッチュ著／音楽之友社）
『二声対位法』（池内友次郎著／音楽之友社）
『厳格対位法 第２版 パリ音楽院の方式による』（山口博史著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　予備知識
2	全音符による対旋律　下声部にC.F.
3	全音符による対旋律　上声部にC.F.
4	全音符による対旋律　各種旋法を中心に
5	非和声音について（掛留音、経過音、刺繍音） 二分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
6	二分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
7	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
8	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
9	二分音符による対旋律　各種旋法を中心に
10	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
11	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
12	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
13	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
14	四分音符による対旋律　各種旋法を中心に
15	前期のまとめ期末試験

授業計画	
	［後期］
1	これまでの対旋律の確認、復習
2	非和声音について（掛留音） 移勢による対旋律　下声部にC.F.（長調）
3	移勢による対旋律　下声部にC.F.（短調）
4	移勢による対旋律　上声部にC.F.（長調）
5	移勢による対旋律　上声部にC.F.（短調）
6	移勢による対旋律　各種旋法を中心に
7	華麗による対旋律　下声部にC.F.（長調）
8	華麗による対旋律　下声部にC.F.（短調）
9	華麗による対旋律　上声部にC.F.（長調）
10	華麗による対旋律　上声部にC.F.（短調）
11	華麗による対旋律　各種旋法を中心に
12	自由な対旋律（長調）
13	自由な対旋律（短調）
14	自由な対旋律（各種旋法）
15	二声対位法の総括

科目名	ポリフォニー研究　[金3]						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE084700	科目コード	GE0847	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（CO除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」または「和声学Ⅱ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

複数の旋律の積み重ねによって生まれる響きの美しさがポリフォニー（多声音楽）の醍醐味である。
その美しさを求め、ここでは二声、三声の厳格対位法を中心に様々な対位法の技法を修得していく。

到達目標
・3声の華麗対位法を書く。
・長調、短調のみならず、教会旋法が醸し出す独特な響きの感覚を養う。
・フーガに関する知識を修得する。
・対位法的書法による2声および3声の楽曲の作成に必要な感覚、テクニックを身につける。

２．授業概要

二声、三声の厳格対位法、各旋法での実施、転回可能対位法、カノンなどの対位法技法を学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で終えられなかった課題、宿題をやってくること。（1時間程度）
対位法的な作品をＣＤ、ＤＶＤ等で鑑賞しておくこと。(1時間程度)

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢：評価の４０％
課題レポート提出、試験：評価の６０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜・資料等は必要に応じてプリントで配布する。

参考文献
ギャロン,N、ビッチュ,M /矢代秋雄訳　『対位法』　音楽之友社
山口博史著/ パリ音楽院の方式による『厳格対位法』 音楽の友社
ビッチ,M、 ボンフィス,J / 池内友次郎監修、余田安広訳　『フーガ』　白水社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「対位法」の単位修得済み、もしくは二声対位法の学習経験があるほうが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	二声対位法の復習
2	二声対位法　教会旋法での実施 （ドリア、フリギア、エオリア）
3	二声対位法　教会旋法での実施 （リディア、ミクソリディア）
4	転回可能対位法（二声）　長調
5	転回可能対位法（二声）　短調
6	J.S.Bach の作品の分析を中心として
7	カノンの実施(二声)　オクターブのカノン、反行形によるカノン
8	カノンの実施（二声）　５度、４度のカノン、逆行形によるカノン
9	ルネサンス期の対位法（１） 厳格対位法との違い
10	ルネサンス期の対位法（２） 2声のカノン
11	ルネサンス期の対位法（３） 歌詞の意味内容を表現する（2声）
12	三声対位法　第一類　全音符
13	三声対位法　第二類　二分音符　C.F.低声部
14	三声対位法　第二類　二分音符　C.F.上声部および中声部
15	前期のまとめ、小テスト

授業計画	
	［後期］
1	三声対位法　第三類　四分音符 C.F.低声部
2	三声対位法　第三類　四分音符 C.F.上声部、中声部
3	三声対位法　第四類　移勢　C.F.下声部
4	三声対位法　第四類　移勢　C.F.上声部
5	三声対位法　第五類　華麗 C.F.下声部(長調)
6	三声対位法　第五類　華麗　C.F.下声部（短調）
7	三声対位法　第五類　華麗　C.F.上声部および中声部
8	三声対位法　混合類
9	フーガについて（１）模倣の概念
10	フーガについて（２） J.S.Bachのフーガの分析を中心に
11	ルネサンス期の対位法（４） 3声のミサ曲などの分析を中心に
12	ルネサンス期の対位法（５） 音型の考察
13	対位法的な編曲実習（１）全体のプラン
14	対位法的な編曲実習（２）歌詞の扱い方
15	後期のまとめ

科目名	フォルマシオン・ミュジカル　[木3]						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GE084800	科目コード	GE0848	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在音楽の基礎教育として行われている、楽典、聴音、視唱、視奏、リズム読み、リズム打ち、読譜等を、実際の楽曲を用いて学習する。そして、扱う作曲家や楽曲の背景等も合わせて学習することで、より幅広く音楽を学び、音楽的な演奏や創作活動が出来るようになることを目標とする。

２．授業概要

実作品を用い、様々な音楽の基礎教育を行う。また、一般的なソルフェージュ授業では実施する機会の少ない、音楽史や音楽理論、スコアリーディングなど、演奏や創作活動との一体化のために幅広く学習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業に向けての準備課題や宿題を出すことがある。また、授業で扱った楽曲を繰り返し聞くことや、楽譜を見る、実際に演奏してみるなどの復習を行うことが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、課題への取り組み方（評価の70%）
期末テスト（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/
Alain Truchot,Michel Meriot著「LE GUIDE DE FORMATION MUSICALE」（全9巻あるためガイダンスにて説明する）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

専攻は問わないが、毎回自分の専攻楽器を持参すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	ピアノ曲を用いた欠如部分のある聴音、リズムの把握
3	ピアノ曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱、視奏
4	ピアノ曲を用いた欠如部分のある聴音、間違い探し聴音、視奏
5	弦楽器とピアノの二重奏曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱
6	弦楽器とピアノの二重奏曲を用いた間違い探し聴音、視奏
7	弦楽四重奏曲を用いた欠如部分のある聴音、リズムの把握
8	弦楽四重奏曲を用いた欠如部分のある聴音、スコアリーディング
9	管楽器とピアノの二重奏曲を用いた欠如部分のある聴音、スコアリーディング
10	管楽器とピアノの二重奏曲を用いた間違い探し聴音、視奏
11	木管、金管アンサンブル曲を用いた間違い探し聴音、スコアリーディング
12	人数の多い室内楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱
13	オーケストラ曲を用いた欠如部分のある聴音、スコアリーディング、視奏
14	吹奏楽曲、合唱曲、ビッグバンド曲などを用いた間違い探し聴音、スコアリーディング、視奏
15	期末試験とまとめ

授業計画	
	［後期］
1	バロック期の楽曲を用いた欠如部分のある聴音、楽曲理論、音楽史
2	バロック期の楽曲を用いたスコアリーディング、視唱、視奏
3	古典期の楽曲を用いた欠如部分のある聴音、音楽史
4	古典期の楽曲を用いた間違い探し聴音、スコアリーディング
5	古典期の楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱、視奏
6	ロマン期の楽曲を用いた欠如部分のある聴音、音楽史、視唱
7	ロマン期の楽曲を用いた間違い探し聴音、スコアリーディング
8	ロマン期の楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視奏
9	ロマン期の楽曲を用いたスコアリーディング、視奏
10	フランスの近現代楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱
11	ロシアの近現代楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視奏
12	その他近現代楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱、音楽史
13	その他近現代楽曲を用いた間違い探し聴音、リズムの把握、視奏
14	クラシック以外のジャンルの楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱、視奏
15	クラシック以外のジャンルの楽曲を用いたスコアリーディング、視奏

科目名	対位法研究　［金3］						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE084900	科目コード	GE0849	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」または「和声学Ⅱ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

複数の旋律の積み重ねによって生まれる響きの美しさがポリフォニー（多声音楽）の醍醐味である。
その美しさを求め、ここでは二声、三声の厳格対位法を中心に様々な対位法の技法を修得していく。

到達目標
・3声の華麗対位法を書く。
・長調、短調のみならず、教会旋法が醸し出す独特な響きの感覚を養う。
・フーガに関する知識を修得する。
・対位法的書法による2声および3声の楽曲の作成に必要な感覚、テクニックを身につける。

２．授業概要

二声、三声の厳格対位法、各旋法での実施、転回可能対位法、カノンなどの対位法技法を学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で終えられなかった課題、宿題をやってくること。（1時間程度）
対位法的な作品をＣＤ、ＤＶＤ等で鑑賞しておくこと。(1時間程度)

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢：評価の４０％
課題レポート提出、試験：評価の６０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜・資料等は必要に応じてプリントで配布する。

参考文献
ギャロン,N、ビッチュ,M /矢代秋雄訳　『対位法』　音楽之友社
山口博史著/ パリ音楽院の方式による『厳格対位法』 音楽の友社
ビッチ,M、 ボンフィス,J / 池内友次郎監修、余田安広訳　『フーガ』　白水社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「対位法」の単位修得済み、もしくは二声対位法の学習経験があるほうが望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	二声対位法の復習
2	二声対位法　教会旋法での実施 （ドリア、フリギア、エオリア）
3	二声対位法　教会旋法での実施 （リディア、ミクソリディア）
4	転回可能対位法（二声）　長調
5	転回可能対位法（二声）　短調
6	J.S.Bach の作品の分析を中心として
7	カノンの実施(二声)　オクターブのカノン、反行形によるカノン
8	カノンの実施（二声）　５度、４度のカノン、逆行形によるカノン
9	ルネサンス期の対位法（１） 厳格対位法との違い
10	ルネサンス期の対位法（２） 2声のカノン
11	ルネサンス期の対位法（３） 歌詞の意味内容を表現する（2声）
12	三声対位法　第一類　全音符
13	三声対位法　第二類　二分音符　C.F.低声部
14	三声対位法　第二類　二分音符　C.F.上声部および中声部
15	前期のまとめ、小テスト

授業計画	
	［後期］
1	三声対位法　第三類　四分音符 C.F.低声部
2	三声対位法　第三類　四分音符 C.F.上声部、中声部
3	三声対位法　第四類　移勢　C.F.下声部
4	三声対位法　第四類　移勢　C.F.上声部
5	三声対位法　第五類　華麗 C.F.下声部(長調)
6	三声対位法　第五類　華麗　C.F.下声部（短調）
7	三声対位法　第五類　華麗　C.F.上声部および中声部
8	三声対位法　混合類
9	フーガについて（１）模倣の概念
10	フーガについて（２） J.S.Bachのフーガの分析を中心に
11	ルネサンス期の対位法（４） 3声のミサ曲などの分析を中心に
12	ルネサンス期の対位法（５） 音型の考察
13	対位法的な編曲実習（１）全体のプラン
14	対位法的な編曲実習（２）歌詞の扱い方
15	後期のまとめ

科目名	キーボードハーモニー　[木3]						
代表教員	原田　愛	授業コード	GE0863A0	科目コード	GE0863	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全（Ｅ０除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学Ⅰ」または「和声学Ⅱ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声学の授業が、いわゆる講義として五線譜上でおこなわれ「書く」ことに偏りがちになるのに対し、この授業では「弾く」「聴く」「聴き分ける」ことが重要な意味をもつ。
授業は鍵盤を使いながら、また歌いながら和声感覚を体感することに始まり、楽譜から発せられた情報からいかに音楽を読み取れるか、演奏できるかというソルフェージュの大原則に沿って、表現力、応用力を養っていく。
具体的には、和音数字付きバス課題の演奏、数字付き通奏低音奏法、伴奏付けを身に着けることを到達目標とする。

２．授業概要

ピアノを用いてのカデンツ奏、数字付き低音奏法、移調奏、初見などを実施する。
また、楽曲に和音数字を付したり、伴奏譜の作成など筆記作業によって書くことと耳の一致をはかり、音楽分析できる能力を身につける。
実際に、バロック時代の楽曲の数字付き低音奏法の実習も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回、授業の初めに、前回の授業内容に関する小テストを行うので復習をしておくこと。
実践能力を身に着けるために、筆記のみではなく実施した課題を必ずピアノで演奏し、復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の４０％）、平常点（評価の６０％）。
平常点は、毎回の授業の理解度と確認のために行う復習テストと授業への参加姿勢とともに総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜資料を配布する。
参考文献：
『鍵盤による数字付き和声』R.O.モリス（音楽之友社）
『通奏低音奏法』ヘルマン・ケラー（全音楽譜出版社）
『Initiation a L'harmonisation au piano』O.ガルテンローブ（Editions Musicales HORTENSIA）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「チェルニー３０番」程度の演奏経験があると良い。

授業計画	
	［前期］ カデンツ奏と三和音の通奏低音奏法の実習
1	ガイダンス、及び能力判別試験
2	カデンツ奏の実習①　カデンツ Ⅰ （Ⅰ－Ⅴ－Ⅰ）　すべての調性で移調奏 カデンツ Ⅰ を用いた簡単な旋律への伴奏付け（和音記号無し）
3	カデンツ奏の実習②　カデンツ Ⅲ （Ⅰ－Ⅳ－Ⅰ）すべての調性で移調奏 カデンツ Ⅰ 及び カデンツ Ⅲ を用いた簡単な旋律への伴奏付け （和音記号無し）
4	カデンツ奏の実習③　カデンツ Ⅱ （Ⅰ－Ⅳ－Ⅴ－Ⅰ）すべての調性で移調奏 カデンツ Ⅰ 及び カデンツ Ⅱ 及びカデンツ Ⅲ を用いた簡単な旋律への伴奏付け（和音記号無し）
5	カデンツ奏の実習④　カデンツ Ⅱ（Ⅰ－Ⅳ、Ⅱ'－Ⅰ'Ⅴ－Ⅰ）すべての調性で移調奏 カデンツ Ⅰ 及び カデンツ Ⅱ 及びカデンツ Ⅲ を用いた簡単な旋律への伴奏付け （和音記号無し）
6	カデンツ奏の総復習
7	数字付き低音奏法①　概説、長三和音基本形
8	数字付き低音奏法②　長三和音第一転回形及び第二転回形
9	数字付き低音奏法③　短三和音基本形　長三和音との混合
10	数字付き低音奏法④　短三和音 第一転回形及び第二転回形　長三和音との混合
11	数字付き低音奏法⑤　四声体和声課題による数字付き低音の実施 コードネーム①　コードネームの構造と書き方
12	数字付き低音奏法⑥　簡単な実際の作品の数字付け及び通奏低音実施 コードネーム②　4種の三和音について（両手四声体で実施）
13	数字付き低音奏法⑦　簡単な実際の作品の通奏低音実施　18世紀頃の作品まで コードネーム③　5種の七の和音について（両手四声体で実施）
14	数字付き低音奏法⑧　簡単な実際の作品の通奏低音実施　20世紀頃の作品まで コードネーム④　掛留音について（両手四声体で実施）
15	試験とまとめ

授業計画	
	［後期］ 属七の和音を中心とした七の和音、非和声音を含む通奏低音の実施。 演奏グレード、指導グレードを受けようとしている学生のコード伴奏法に対しては選択曲の部分で対応する。
1	ガイダンス、及び前期の復習①　三和音通奏低音奏法
2	前期の復習②　コードネーム
3	数字付き低音奏法①　七の和音の概説 伴奏付け①　メロディーを演奏しながら簡単な三和音によるコードネーム付き
4	数字付き低音奏法②　四声体和声課題による数字付き低音の実施 伴奏付け②　メロディーを演奏しながら簡単な三和音及び七の和音によるコードネーム付き
5	数字付き低音奏法③　非和声音について 伴奏付け③　メロディーを演奏しながら簡単な三和音及び七の和音掛留音を含むコードネーム付き
6	数字付き低音奏法 ④　実際の曲で（バッハのコラール「マタイ受難曲」より） 伴奏付け ④　選択曲によるコードネーム付き（クラシックのピアノ作品）
7	数字付き低音奏法⑤　実際の曲で（バッハのコラール「クリスマス・オラトリオ」より） 伴奏付け⑤　選択曲によるコードネーム付き（クラシックのオーケストラ作品）
8	数字付き低音奏法⑥　実際の曲で（エクレス　ヴァイオリン・ソナタより第１楽章） 伴奏付け⑥　選択曲によるコードネーム付き（世界の民謡）
9	数字付き低音奏法⑦　実際の曲で（エクレス　ヴァイオリン・ソナタより第２楽章） 伴奏付け⑦　選択曲によるコードネーム付き（シネマミュージック）
10	数字付き低音奏法⑧　実際の曲で（エクレス　ヴァイオリン・ソナタより第３楽章） 伴奏付け⑧　選択曲によるコードネーム付き（ジャズ）
11	数字付き低音奏法⑨　実際の曲で（エクレス　ヴァイオリン・ソナタより第４楽章） 伴奏付け⑨　コードづけ（主要三和音、属七の和音）
12	数字付き低音奏法⑩　実際の曲で（C.P.E.バッハ　オーボエ・ソナタより第１楽章） 伴奏付け⑩　コードづけ（主要三和音、属七の和音、副五の和音、経過和音）
13	数字付き低音奏法⑪　実際の曲で（C.P.E.　バッハ　オーボエ・ソナタより第２楽章） 伴奏付け⑪　コードづけ（ 主要三和音、属七の和音、副五の和音、経過和音）及び、カウンターラインの作曲
14	数字付き低音奏法⑫　実際の曲で　（C.P.E.　バッハ　オーボエ・ソナタより第３楽章） 伴奏付け⑫　コードづけ（ 主要三和音、属七の和音、副五の和音，経過和音）及び、カウンターラインと副旋律の作曲
15	試験にむけた復習と実践

科目名	教職伴奏法　（前）［火1］P1クラス						
代表教員	谷川　マユコ	授業コード	GE0881P1	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	教職伴奏法　（前）［火1］P2クラス						
代表教員	谷川　明	授業コード	GE0881P2	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	教職伴奏法　（前）［火3］P3クラス						
代表教員	皆川　純一	授業コード	GE0881P3	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	教職伴奏法　（前）［火3］P4クラス						
代表教員	小松　祥子	授業コード	GE0881P4	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	教職伴奏法　（後）［火1］Q1クラス						
代表教員	谷川　マユコ	授業コード	GE0881Q1	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	教職伴奏法　（後）［火1］Q2クラス						
代表教員	谷川　明	授業コード	GE0881Q2	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	教職伴奏法　（後）［火3］Q3クラス						
代表教員	皆川　純一	授業コード	GE0881Q3	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	教職伴奏法　（後）［火3］Q4クラス						
代表教員	小松　祥子	授業コード	GE0881Q4	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	合奏実習　（前）［木2］Aクラス						
代表教員	柿原　順子	授業コード	GE0890A0	科目コード	GE0890	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーのアンサンブルをとおして、アンサンブルの基礎を学ぶ。
【到達目標】
（１）アルトリ・コーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホール・コンソート）を実習する。
（３）アンサンブルを楽しみながら、「アンサンブルに大切なものは何か」を考える。

２．授業概要

（１）授業前半では、ピアノ伴奏つきのテキストを用いて、アルト・リコーダーの基本的奏法を習得する。
（２）後半では、様々な大きさの木管リコーダーを用いて、小編成のグループに分かれてアンサンブルを実習する。
（３）最終回の授業で発表会を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（１）テキストを中心に進める前半の授業では、授業時間内に一人ずつ吹くこともあるため、テキストの曲は全て吹いておく。
（２）アンサンブルを実習する後半の授業では、自分のパートを吹けるようにしておく。

４．成績評価の方法及び基準

試験〈授業内で２回〉（評価の60%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『アルト・リコーダーの世界』　河西保郎編著（ｋｍｐ）
参考文献：『現代リコーダー教本』　ワルター・ファン・ハウヴェ著　大竹尚之訳（日本ショット）
『木管楽器　演奏の新理論』　佐伯茂樹（ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏をとおしてアンサンブルを学ぶ意欲のある者。
但し、教職履修者を優先とし、人数制限（２５名程度）を設ける。
（１）アルト・リコーダーとテキストを必ず持参する。
（２）授業開講回数の２/３以上出席しない学生には単位を与えない。

授業計画	
	［半期］ アルト・リコーダーの基本的奏法とアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス （１）リコーダー・アンサンブルの教育的意義 （２）リコーダーは木管楽器。 教育楽器であるだけでなく、ルネサンスやバロック時　代には既に完成された花形楽器であった。 （３）リコーダーの歴史、種類、レパートリー
2	リコーダーの基本的奏法 （１）呼吸法 （２）音の作り方 （３）タンギング テキスト「アルト・リコーダーの世界」
3	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの二重奏の音の合わせ方
4	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの三重奏の音の合わせ方
5	テキスト「アルト・リコーダーの世界」 試験の課題曲を総復習
6	ソロの試験 （１）与えられた課題曲の中から任意で1曲選択して演奏する。 （２）ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする。
7	アンサンブルの実習 （１）4～5人のグループを作り、グループ内でパートを決める。 （２）やさしいルネサンス時代の作品をとおして、バス・テナーなどの楽器に慣れる。
8	アンサンブルの実習 ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く。
9	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習 即興による装飾法の実践
12	アンサンブルの実習 バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習 ディズニー、ジブリ等の器楽曲
14	アンサンブルの実習 次回の試験で演奏する曲のまとめ
15	アンサンブルの試験（コンサート形式）と解説 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して演奏する。

科目名	合奏実習　（後）［木2］Bクラス						
代表教員	柿原　順子	授業コード	GE0890B0	科目コード	GE0890	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーのアンサンブルをとおして、アンサンブルの基礎を学ぶ。
【到達目標】
（１）アルトリ・コーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホール・コンソート）を実習する。
（３）アンサンブルを楽しみながら、「アンサンブルに大切なものは何か」を考える。

２．授業概要

（１）授業前半では、ピアノ伴奏つきのテキストを用いて、アルト・リコーダーの基本的奏法を習得する。
（２）後半では、様々な大きさの木管リコーダーを用いて、小編成のグループに分かれてアンサンブルを実習する。
（３）最終回の授業で発表会を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（１）テキストを中心に進める前半の授業では、授業時間内に一人ずつ吹くこともあるため、テキストの曲は全て吹いておく。
（２）アンサンブルを実習する後半の授業では、自分のパートを吹けるようにしておく。

４．成績評価の方法及び基準

試験〈授業内で２回〉（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『アルト・リコーダーの世界』河西保郎編著（kmp）
参考文献：『現代リコーダー教本』　ワルター・ファン・ハウヴェ著　大竹尚之訳（日本ショット）
『木管楽器　演奏の新理論』　佐伯茂樹（ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏をとおしてアンサンブルを学ぶ意欲のある者。
但し、教職履修者を優先とし、人数制限（２５名程度）を設ける。
（１）アルト・リコーダーとテキストを必ず持参する。
（２）授業開講回数の２/３以上出席しない学生には単位を与えない。

授業計画	
	［半期］ アルト・リコーダーの基本的奏法とアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス （１）リコーダー・アンサンブルの教育的意義 （２）リコーダーは木管楽器。 教育楽器であるだけでなく、ルネサンスやバロック時　代には既に完成された花形楽器であった。 （３）リコーダーの歴史、種類、レパートリー
2	リコーダーの基本的奏法 （１）呼吸法 （２）音の作り方 （３）タンギング テキスト「アルト・リコーダーの世界」
3	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの二重奏の音の合わせ方
4	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの三重奏の音の合わせ方
5	テキスト「アルト・リコーダーの世界」 試験の課題曲を総復習
6	ソロの試験 （１）与えられた課題曲の中から任意で1曲選択して演奏する。 （２）ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする。
7	アンサンブルの実習 （１）4～5人のグループを作り、グループ内でパートを決める。 （２）やさしいルネサンス時代の作品をとおして、バス・テナーなどの楽器に慣れる。
8	アンサンブルの実習 ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く。
9	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習 即興による装飾法の実践
12	アンサンブルの実習 バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習 ディズニー、ジブリ等の器楽曲
14	アンサンブルの実習 次回の試験で演奏する曲のまとめ
15	アンサンブルの試験（コンサート形式）と解説 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して演奏する。

科目名	合奏実習　（後）［木4］Cクラス						
代表教員	柿原　順子	授業コード	GE0890C0	科目コード	GE0890	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーのアンサンブルをとおして、アンサンブルの基礎を学ぶ。
【到達目標】
（１）アルトリ・コーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホール・コンソート）を実習する。
（３）アンサンブルを楽しみながら、「アンサンブルに大切なものは何か」を考える。

２．授業概要

（１）授業前半では、ピアノ伴奏つきのテキストを用いて、アルト・リコーダーの基本的奏法を習得する。
（２）後半では、様々な大きさの木管リコーダーを用いて、小編成のグループに分かれてアンサンブルを実習する。
（３）最終回の授業で発表会を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（１）テキストを中心に進める前半の授業では、授業時間内に一人ずつ吹くこともあるため、テキストの曲は全て吹いておく。
（２）アンサンブルを実習する後半の授業では、自分のパートを吹けるようにしておく。

４．成績評価の方法及び基準

試験〈授業内で２回〉（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『アルト・リコーダーの世界』　河西保郎編著（ｋｍｐ）
参考文献：『現代リコーダー教本』　ワルター・フアン・ハウヴェ著　大竹尚之訳（日本ショット）
『木管楽器　演奏の新理論』　佐伯茂樹（ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏をとおしてアンサンブルを学ぶ意欲のある者。
但し、教職履修者を優先とし、人数制限（２５名程度）を設ける。
（１）アルト・リコーダーとテキストを必ず持参する。
（２）授業開講回数の２/３以上出席しない学生には単位を与えない。

授業計画	
	［半期］ アルト・リコーダーの基本的奏法とアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス （１）リコーダー・アンサンブルの教育的意義 （２）リコーダーは木管楽器。 教育楽器であるだけでなく、ルネサンスやバロック時　代には既に完成された花形楽器であった。 （３）リコーダーの歴史、種類、レパートリー
2	リコーダーの基本的奏法 （１）呼吸法 （２）音の作り方 （３）タンギング テキスト「アルト・リコーダーの世界」
3	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの二重奏の音の合わせ方
4	テキスト「アルトリ・コーダーの世界」 アルトの三重奏の音の合わせ方
5	テキスト「アルト・リコーダーの世界」 試験の課題曲を総復習
6	ソロの試験 （１）与えられた課題曲の中から任意で1曲選択して演奏する。 （２）ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする。
7	アンサンブルの実習 （１）4～5人のグループを作り、グループ内でパートを決める。 （２）やさしいルネサンス時代の作品をとおして、バス・テナーなどの楽器に慣れる。
8	アンサンブルの実習 ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く。
9	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習 ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習 即興による装飾法の実践
12	アンサンブルの実習 バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習 ディズニー、ジブリ等の器楽曲
14	アンサンブルの実習 次回の試験で演奏する曲のまとめ
15	アンサンブルの試験（コンサート形式）と解説 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して演奏する。

科目名	スコアリーディング　[木3]						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GE0895A0	科目コード	GE0895	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スコアリーディングの長期的な目標は、オーケストラのスコアを見てピアノ１台で弾けるように 要約（ピアノリダクション）をしながら弾くことである。スコアを弾くためには、まず読めることが必要なので、授業では音楽を聴きながらスコアの読み方も指導する。鍵盤楽器専攻の学生だけでなく管楽器、弦楽器など自分の楽器を持参出来る学生の受講も可能であり、本授業を通して管弦楽曲の中での楽器の役割を知り、音楽の視野を広げることを目標とする。

２．授業概要

ハ音記号や移調楽器を読む力を身につけながら、オーケストラのスコアの読み方を学ぶ。読むだけでなく、スコアを要約して書くことやスコアを見ながら既存の作品を鑑賞することでオーケストラ作品の理解を深めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必ず復習をすること。
楽譜を想像しながら音楽を聴く習慣をつけること。

４．成績評価の方法及び基準

上達度、授業内での小テスト、及び期末テスト（評価の60%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて指示、またはプリントを配布する。
参考文献：
『スコアリーディング　　スコアを読む手引き』（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

オーケストラの作品及びスコアにに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢であること。
鍵盤楽器専攻以外の学生は、自分の楽器を持参出来ること。

授業計画	
	［前期］ クレ読み、移調楽譜読み、楽器群ごとに読むなど、段階を踏んでオーケストラのスコアに慣れる
1	ガイダンス
2	オーケストラスコアについての基礎知識
3	アルト譜表に慣れる（聴く、読む、書く）
4	アルト譜表を含む複数段を同時に読む
5	弦楽器群を聴く
6	弦楽器群を読む
7	A管を読む
8	A管を含む複数段を同時に読む
9	F管を読む
10	F管を含む複数段を同時に読む
11	ホルンセクションを解読する
12	ホルンセクションを読む
13	チャイコフスキー「花のワルツ」を読む
14	離れた複数段を同時に読む
15	読み方、弾き方の見直し、及び期末試験

授業計画	
	［後期］ 各楽器群ごとを理解し、オーケストラの全体像を把握
1	ガイダンス、及びスコア上で主となる旋律などを見つける
2	スコア上で旋律を支えるハーモニーを見つける
3	旋律とハーモニーを同時に弾く
4	移調楽器の読み方を復習
5	木管楽器群を読む
6	金管楽器群を読む
7	木管楽器群と弦楽器群を同時に読む
8	金管楽器群と弦楽器群を同時に読む
9	木管楽器群と金管楽器群を同時に読む
10	実際に鳴る音が聞こえるようにシュミレーションする（読める段数を増やしていく）
11	スコアの低音から順に縦に音を積み上げる読み方
12	コンデンススコアを作る
13	コンデンススコアを弾く
14	各楽器群の読み方の復習
15	総括

科目名	指揮法I （前） ［金1］P1クラス						
代表教員	松元　宏康	授業コード	GE0900P1	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮法の授業では、指揮する際に必要な技術や考え方を学びます。
具体的には、指揮の基本的なテクニックを身に付けつつ、どのように譜面を読んでいくか、どのような準備が必要か、演奏者とどのようにコミュニケーションを取ればよいかなど、指揮することに必要だと思われる事柄を履修者全員で研究し見識を高めていくことで、授業内で習得したことを音楽科教育の実践の場で役立てることはもちろん、音楽大学生にとって必要と思われる音楽的教養をより深めることを目標とします。

２．授業概要

テキストを解説しながら、指揮法の基本的なテクニックを覚えつつ、それらを身に付けるために授業内で反復練習をします。ある程度テクニックを理解・習得出来たら、指揮法教程にある練習題を履修生全員で交代しながら指揮します。その際に、お互いの指揮を見学しつつ、意見交換をして指揮への理解をさらに深めていきます。
また授業課程の後半では、習得したテクニックを使って、中学校や高等学校の授業内で実際に歌われるような作品や管弦楽の名作を取り上げ指揮することにより、それぞれの学生が指揮法の授業で学んだことを将来色々な場面で活用する応用力を身に付けていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだことを将来色々な場面で活用出来るように、各自しっかりと復習を行ってください。

４．成績評価の方法及び基準

授業へ参加姿勢と受講態度で成績評価をします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、斎藤秀雄著「【改訂新版】指揮法教程」音楽之友社です。
このテキストは、指揮を勉強する上でとても有益な書籍であり、また授業ではノートは使用せずテキストに直接書き込みをしていくので、この授業を履修をする学生は必ずテキストを購入をしてください。
授業では指揮棒も使用します。（どのようなものを購入すれば良いかわからない人は初回の授業で説明します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に履修する学生が多いようです。
出来るだけ多くの学生に数多く指揮する機会を作りたいので、可能な学生はなるべく後期に履修をするようお願いします。

授業計画	
	半期
1	なぜ指揮法を学ぶのか 指揮法の重要性 指揮とは何か
2	指揮法教程というテキストについて 指揮者の必要性 指揮のテクニックの重要性 指揮法の分類（間接運動、直接運動）
3	打法（叩き）のメカニズムと重要性 1拍子、2拍子、3拍子の打法の練習
4	2拍子、3拍子、4拍子の打法の練習 打法の実践（童謡を指揮する）
5	2拍子、3拍子、4拍子の打法の復習 ６拍子の打法 しゃくいと平均運動の説明と実践 直接運動の説明と実践
6	指揮法教程・練習題No.1【AからBまで】 指揮をする前の準備、譜読みの方法 中間予備運動とブレスの 関係
7	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで】 置き止め、分割、ritardandoの方法
8	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで・復習】 置き止め、分割、ritardandoの方法
9	指揮法教程・練習題No.1【Cから最後まで】 音の切り方、smorzandoの方法
10	指揮法教程・練習題No.1【全曲】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
11	指揮法教程・練習題No.1【全曲・復習】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
12	合唱曲の指揮の方法・考え方 器楽曲と合唱曲の指揮の方法の違いについて考える 具体的な譜読みの方法 （夏の思い出などを使って）
13	ポップス曲の指揮の方法・考え方 クラシック音楽とポップスの違いについて考える （少年時代、世界に一つだけの花などを使って）
14	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 アイネクライネナハトムジーク第1楽章（冒頭部分） ハンガリー舞曲第5番など
15	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 美しき青きドナウより第1ワルツ ベートーヴェン交響曲第5番第1楽章（冒頭部分）など

科目名	指揮法I （前） ［金1］P2クラス						
代表教員	松村　秀明	授業コード	GE0900P2	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮法の授業では、指揮する際に必要な技術や考え方を学びます。
具体的には、指揮の基本的なテクニックを身に付けつつ、どのように譜面を読んでいくか、どのような準備が必要か、演奏者とどのようにコミュニケーションを取ればよいかなど、指揮することに必要だと思われる事柄を履修者全員で研究し見識を高めていくことで、授業内で習得したことを音楽科教育の実践の場で役立てることはもちろん、音楽大学生にとって必要と思われる音楽的教養をより深めることを目標とします。

２．授業概要

テキストを解説しながら、指揮法の基本的なテクニックを覚えつつ、それらを身に付けるために授業内で反復練習をします。ある程度テクニックを理解・習得出来たら、指揮法教程にある練習題を履修生全員で交代しながら指揮します。その際に、お互いの指揮を見学しつつ、意見交換をして指揮への理解をさらに深めていきます。
また授業課程の後半では、習得したテクニックを使って、中学校や高等学校の授業内で実際に歌われるような作品や管弦楽の名作を取り上げ指揮することにより、それぞれの学生が指揮法の授業で学んだことを将来色々な場面で活用する応用力を身に付けていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだことを将来色々な場面で活用出来るように、各自しっかりと復習を行ってください。

４．成績評価の方法及び基準

授業へ参加姿勢と受講態度で成績評価をします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、斎藤秀雄著「【改訂新版】指揮法教程」音楽之友社です。
このテキストは、指揮を勉強する上でとても有益な書籍であり、また授業ではノートは使用せずテキストに直接書き込みをしていくので、この授業を履修をする学生は必ずテキストを購入をしてください。
授業では指揮棒も使用します。（どのようなものを購入すれば良いかわからない人は初回の授業で説明します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に履修する学生が多いようです。
出来るだけ多くの学生に数多く指揮する機会を作りたいので、可能な学生はなるべく後期に履修をするようお願いします。

授業計画	
	半期
1	なぜ指揮法を学ぶのか 指揮法の重要性 指揮とは何か
2	指揮法教程というテキストについて 指揮者の必要性 指揮のテクニックの重要性 指揮法の分類（間接運動、直接運動）
3	打法（叩き）のメカニズムと重要性 1拍子、2拍子、3拍子の打法の練習
4	2拍子、3拍子、4拍子の打法の練習 打法の実践（童謡を指揮する）
5	2拍子、3拍子、4拍子の打法の復習 ６拍子の打法 しゃくいと平均運動の説明と実践 直接運動の説明と実践
6	指揮法教程・練習題No.1【AからBまで】 指揮をする前の準備、譜読みの方法 中間予備運動とブレスの 関係
7	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで】 置き止め、分割、ritardandoの方法
8	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで・復習】 置き止め、分割、ritardandoの方法
9	指揮法教程・練習題No.1【Cから最後まで】 音の切り方、smorzandoの方法
10	指揮法教程・練習題No.1【全曲】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
11	指揮法教程・練習題No.1【全曲・復習】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
12	合唱曲の指揮の方法・考え方 器楽曲と合唱曲の指揮の方法の違いについて考える 具体的な譜読みの方法 （夏の思い出などを使って）
13	ポップス曲の指揮の方法・考え方 クラシック音楽とポップスの違いについて考える （少年時代、世界に一つだけの花などを使って）
14	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 アイネクライネナハトムジーク第1楽章（冒頭部分） ハンガリー舞曲第5番など
15	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 美しき青きドナウより第1ワルツ ベートーヴェン交響曲第5番第1楽章（冒頭部分）など

科目名	指揮法I （前） ［金2］P4クラス						
代表教員	松村　秀明	授業コード	GE0900P4	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮法の授業では、指揮する際に必要な技術や考え方を学びます。
具体的には、指揮の基本的なテクニックを身に付けつつ、どのように譜面を読んでいくか、どのような準備が必要か、演奏者とどのようにコミュニケーションを取ればよいかなど、指揮することに必要だと思われる事柄を履修者全員で研究し見識を高めていくことで、授業内で習得したことを音楽科教育の実践の場で役立てることはもちろん、音楽大学生にとって必要と思われる音楽的教養をより深めることを目標とします。

２．授業概要

テキストを解説しながら、指揮法の基本的なテクニックを覚えつつ、それらを身に付けるために授業内で反復練習をします。ある程度テクニックを理解・習得出来たら、指揮法教程にある練習題を履修生全員で交代しながら指揮します。その際に、お互いの指揮を見学しつつ、意見交換をして指揮への理解をさらに深めていきます。
また授業課程の後半では、習得したテクニックを使って、中学校や高等学校の授業内で実際に歌われるような作品や管弦楽の名作を取り上げ指揮することにより、それぞれの学生が指揮法の授業で学んだことを将来色々な場面で活用する応用力を身に付けていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだことを将来色々な場面で活用出来るように、各自しっかりと復習を行ってください。

４．成績評価の方法及び基準

授業へ参加姿勢と受講態度で成績評価をします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、斎藤秀雄著「【改訂新版】指揮法教程」音楽之友社です。
このテキストは、指揮を勉強する上でとても有益な書籍であり、また授業ではノートは使用せずテキストに直接書き込みをしていくので、この授業を履修をする学生は必ずテキストを購入をしてください。
授業では指揮棒も使用します。（どのようなものを購入すれば良いかわからない人は初回の授業で説明します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に履修する学生が多いようです。
出来るだけ多くの学生に数多く指揮する機会を作りたいので、可能な学生はなるべく後期に履修をするようお願いします。

授業計画	
	半期
1	なぜ指揮法を学ぶのか 指揮法の重要性 指揮とは何か
2	指揮法教程というテキストについて 指揮者の必要性 指揮のテクニックの重要性 指揮法の分類（間接運動、直接運動）
3	打法（叩き）のメカニズムと重要性 1拍子、2拍子、3拍子の打法の練習
4	2拍子、3拍子、4拍子の打法の練習 打法の実践（童謡を指揮する）
5	2拍子、3拍子、4拍子の打法の復習 ６拍子の打法 しゃくいと平均運動の説明と実践 直接運動の説明と実践
6	指揮法教程・練習題No.1【AからBまで】 指揮をする前の準備、譜読みの方法 中間予備運動とブレスの 関係
7	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで】 置き止め、分割、ritardandoの方法
8	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで・復習】 置き止め、分割、ritardandoの方法
9	指揮法教程・練習題No.1【Cから最後まで】 音の切り方、smorzandoの方法
10	指揮法教程・練習題No.1【全曲】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
11	指揮法教程・練習題No.1【全曲・復習】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
12	合唱曲の指揮の方法・考え方 器楽曲と合唱曲の指揮の方法の違いについて考える 具体的な譜読みの方法 （夏の思い出などを使って）
13	ポップス曲の指揮の方法・考え方 クラシック音楽とポップスの違いについて考える （少年時代、世界に一つだけの花などを使って）
14	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 アイネクライネナハトムジーク第1楽章（冒頭部分） ハンガリー舞曲第5番など
15	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 美しき青きドナウより第1ワルツ ベートーヴェン交響曲第5番第1楽章（冒頭部分）など

科目名	指揮法I （後） ［金1］Q1クラス						
代表教員	松元　宏康	授業コード	GE0900Q1	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮法の授業では、指揮する際に必要な技術や考え方を学びます。
具体的には、指揮の基本的なテクニックを身に付けつつ、どのように譜面を読んでいくか、どのような準備が必要か、演奏者とどのようにコミュニケーションを取ればよいかなど、指揮することに必要だと思われる事柄を履修者全員で研究し見識を高めていくことで、授業内で習得したことを音楽科教育の実践の場で役立てることはもちろん、音楽大学生にとって必要と思われる音楽的教養をより深めることを目標とします。

２．授業概要

テキストを解説しながら、指揮法の基本的なテクニックを覚えつつ、それらを身に付けるために授業内で反復練習をします。ある程度テクニックを理解・習得出来たら、指揮法教程にある練習題を履修生全員で交代しながら指揮します。その際に、お互いの指揮を見学しつつ、意見交換をして指揮への理解をさらに深めていきます。
また授業課程の後半では、習得したテクニックを使って、中学校や高等学校の授業内で実際に歌われるような作品や管弦楽の名作を取り上げ指揮することにより、それぞれの学生が指揮法の授業で学んだことを将来色々な場面で活用する応用力を身に付けていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだことを将来色々な場面で活用出来るように、各自しっかりと復習を行ってください。

４．成績評価の方法及び基準

授業へ参加姿勢と受講態度で成績評価をします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、斎藤秀雄著「【改訂新版】指揮法教程」音楽之友社です。
このテキストは、指揮を勉強する上でとても有益な書籍であり、また授業ではノートは使用せずテキストに直接書き込みをしていくので、この授業を履修をする学生は必ずテキストを購入をしてください。
授業では指揮棒も使用します。（どのようなものを購入すれば良いかわからない人は初回の授業で説明します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に履修する学生が多いようです。
出来るだけ多くの学生に数多く指揮する機会を作りたいので、可能な学生はなるべく後期に履修をするようお願いします。

授業計画	
	半期
1	なぜ指揮法を学ぶのか 指揮法の重要性 指揮とは何か
2	指揮法教程というテキストについて 指揮者の必要性 指揮のテクニックの重要性 指揮法の分類（間接運動、直接運動）
3	打法（叩き）のメカニズムと重要性 1拍子、2拍子、3拍子の打法の練習
4	2拍子、3拍子、4拍子の打法の練習 打法の実践（童謡を指揮する）
5	2拍子、3拍子、4拍子の打法の復習 ６拍子の打法 しゃくいと平均運動の説明と実践 直接運動の説明と実践
6	指揮法教程・練習題No.1【AからBまで】 指揮をする前の準備、譜読みの方法 中間予備運動とブレスの 関係
7	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで】 置き止め、分割、ritardandoの方法
8	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで・復習】 置き止め、分割、ritardandoの方法
9	指揮法教程・練習題No.1【Cから最後まで】 音の切り方、smorzandoの方法
10	指揮法教程・練習題No.1【全曲】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
11	指揮法教程・練習題No.1【全曲・復習】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
12	合唱曲の指揮の方法・考え方 器楽曲と合唱曲の指揮の方法の違いについて考える 具体的な譜読みの方法 （夏の思い出などを使って）
13	ポップス曲の指揮の方法・考え方 クラシック音楽とポップスの違いについて考える （少年時代、世界に一つだけの花などを使って）
14	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 アイネクライネナハトムジーク第1楽章（冒頭部分） ハンガリー舞曲第5番など
15	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 美しき青きドナウより第1ワルツ ベートーヴェン交響曲第5番第1楽章（冒頭部分）など

科目名	指揮法I （後） ［金1］Q2クラス						
代表教員	松村　秀明	授業コード	GE0900Q2	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮法の授業では、指揮する際に必要な技術や考え方を学びます。
具体的には、指揮の基本的なテクニックを身に付けつつ、どのように譜面を読んでいくか、どのような準備が必要か、演奏者とどのようにコミュニケーションを取ればよいかなど、指揮することに必要だと思われる事柄を履修者全員で研究し見識を高めていくことで、授業内で習得したことを音楽科教育の実践の場で役立てることはもちろん、音楽大学生にとって必要と思われる音楽的教養をより深めることを目標とします。

２．授業概要

テキストを解説しながら、指揮法の基本的なテクニックを覚えつつ、それらを身に付けるために授業内で反復練習をします。ある程度テクニックを理解・習得出来たら、指揮法教程にある練習題を履修生全員で交代しながら指揮します。その際に、お互いの指揮を見学しつつ、意見交換をして指揮への理解をさらに深めていきます。
また授業課程の後半では、習得したテクニックを使って、中学校や高等学校の授業内で実際に歌われるような作品や管弦楽の名作を取り上げ指揮することにより、それぞれの学生が指揮法の授業で学んだことを将来色々な場面で活用する応用力を身に付けていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだことを将来色々な場面で活用出来るように、各自しっかりと復習を行ってください。

４．成績評価の方法及び基準

授業へ参加姿勢と受講態度で成績評価をします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、斎藤秀雄著「【改訂新版】指揮法教程」音楽之友社です。
このテキストは、指揮を勉強する上でとても有益な書籍であり、また授業ではノートは使用せずテキストに直接書き込みをしていくので、この授業を履修をする学生は必ずテキストを購入をしてください。
授業では指揮棒も使用します。（どのようなものを購入すれば良いかわからない人は初回の授業で説明します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に履修する学生が多いようです。
出来るだけ多くの学生に数多く指揮する機会を作りたいので、可能な学生はなるべく後期に履修をするようお願いします。

授業計画	
	半期
1	なぜ指揮法を学ぶのか 指揮法の重要性 指揮とは何か
2	指揮法教程というテキストについて 指揮者の必要性 指揮のテクニックの重要性 指揮法の分類（間接運動、直接運動）
3	打法（叩き）のメカニズムと重要性 1拍子、2拍子、3拍子の打法の練習
4	2拍子、3拍子、4拍子の打法の練習 打法の実践（童謡を指揮する）
5	2拍子、3拍子、4拍子の打法の復習 ６拍子の打法 しゃくいと平均運動の説明と実践 直接運動の説明と実践
6	指揮法教程・練習題No.1【AからBまで】 指揮をする前の準備、譜読みの方法 中間予備運動とブレスの 関係
7	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで】 置き止め、分割、ritardandoの方法
8	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで・復習】 置き止め、分割、ritardandoの方法
9	指揮法教程・練習題No.1【Cから最後まで】 音の切り方、smorzandoの方法
10	指揮法教程・練習題No.1【全曲】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
11	指揮法教程・練習題No.1【全曲・復習】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
12	合唱曲の指揮の方法・考え方 器楽曲と合唱曲の指揮の方法の違いについて考える 具体的な譜読みの方法 （夏の思い出などを使って）
13	ポップス曲の指揮の方法・考え方 クラシック音楽とポップスの違いについて考える （少年時代、世界に一つだけの花などを使って）
14	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 アイネクライネナハトムジーク第1楽章（冒頭部分） ハンガリー舞曲第5番など
15	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 美しき青きドナウより第1ワルツ ベートーヴェン交響曲第5番第1楽章（冒頭部分）など

科目名	指揮法I （後） ［金2］Q3クラス						
代表教員	松村　秀明	授業コード	GE0900Q3	科目コード	GE0900	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮法の授業では、指揮する際に必要な技術や考え方を学びます。
具体的には、指揮の基本的なテクニックを身に付けつつ、どのように譜面を読んでいくか、どのような準備が必要か、演奏者とどのようにコミュニケーションを取ればよいかなど、指揮することに必要だと思われる事柄を履修者全員で研究し見識を高めていくことで、授業内で習得したことを音楽科教育の実践の場で役立てることはもちろん、音楽大学生にとって必要と思われる音楽的教養をより深めることを目標とします。

２．授業概要

テキストを解説しながら、指揮法の基本的なテクニックを覚えつつ、それらを身に付けるために授業内で反復練習をします。ある程度テクニックを理解・習得出来たら、指揮法教程にある練習題を履修生全員で交代しながら指揮します。その際に、お互いの指揮を見学しつつ、意見交換をして指揮への理解をさらに深めていきます。
また授業課程の後半では、習得したテクニックを使って、中学校や高等学校の授業内で実際に歌われるような作品や管弦楽の名作を取り上げ指揮することにより、それぞれの学生が指揮法の授業で学んだことを将来色々な場面で活用する応用力を身に付けていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだことを将来色々な場面で活用出来るように、各自しっかりと復習を行ってください。

４．成績評価の方法及び基準

授業へ参加姿勢と受講態度で成績評価をします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、斎藤秀雄著「【改訂新版】指揮法教程」音楽之友社です。
このテキストは、指揮を勉強する上でとても有益な書籍であり、また授業ではノートは使用せずテキストに直接書き込みをしていくので、この授業を履修をする学生は必ずテキストを購入をしてください。
授業では指揮棒も使用します。（どのようなものを購入すれば良いかわからない人は初回の授業で説明します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業は半期授業のため毎年前期に履修する学生が多いようです。
出来るだけ多くの学生に数多く指揮する機会を作りたいので、可能な学生はなるべく後期に履修をするようお願いします。

授業計画	
	半期
1	なぜ指揮法を学ぶのか 指揮法の重要性 指揮とは何か
2	指揮法教程というテキストについて 指揮者の必要性 指揮のテクニックの重要性 指揮法の分類（間接運動、直接運動）
3	打法（叩き）のメカニズムと重要性 1拍子、2拍子、3拍子の打法の練習
4	2拍子、3拍子、4拍子の打法の練習 打法の実践（童謡を指揮する）
5	2拍子、3拍子、4拍子の打法の復習 ６拍子の打法 しゃくいと平均運動の説明と実践 直接運動の説明と実践
6	指揮法教程・練習題No.1【AからBまで】 指揮をする前の準備、譜読みの方法 中間予備運動とブレスの 関係
7	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで】 置き止め、分割、ritardandoの方法
8	指揮法教程・練習題No.1【BからCまで・復習】 置き止め、分割、ritardandoの方法
9	指揮法教程・練習題No.1【Cから最後まで】 音の切り方、smorzandoの方法
10	指揮法教程・練習題No.1【全曲】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
11	指揮法教程・練習題No.1【全曲・復習】 譜面を覚えて指揮することの大切さ どのように演奏者とコミュニケーションをとるか
12	合唱曲の指揮の方法・考え方 器楽曲と合唱曲の指揮の方法の違いについて考える 具体的な譜読みの方法 （夏の思い出などを使って）
13	ポップス曲の指揮の方法・考え方 クラシック音楽とポップスの違いについて考える （少年時代、世界に一つだけの花などを使って）
14	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 アイネクライネナハトムジーク第1楽章（冒頭部分） ハンガリー舞曲第5番など
15	管弦楽作品（ピアノ演奏）の指揮体験 美しき青きドナウより第1ワルツ ベートーヴェン交響曲第5番第1楽章（冒頭部分）など

科目名	ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1 - 1/ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1 （前） ［金2］						
代表教員	マーク　トゥリアン	授業コード	GE104500	科目コード	GE1045	期間	半期
担当教員	蟻正　行義						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

インターナショナルな音楽活動を行う際に、最低限必要な英語表現を習得する。

２．授業概要

ミュージシャンとして実際に英語を使用する機会を想定した、Dialogue（場面設定）を通じて、実践的な英語力をトレーニングする。通常の会話やvoacaburaryに加えて、音楽用語やリハーサルなどで使う音楽に関する表現などを学ぶ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布するプリント資料をもとにして、重要な英語表現や単語を暗記する。言葉のリズムは楽器と同じように反復して習得する必要があるため、ただの暗記ではなく、言葉が自然にでてくるように練習をすることが必要となる

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（会話に参加することも含む）40%
小テスト、課題 30%
期末試験 30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時プリント資料を配付。
電子辞書を所持していることが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業では、アンサンブルを組むこともあるので、楽器編成により履修者数を制限することもある。

授業計画	
	［半期］
1	Dialogue: ミュージシャンが人と会う、初対面
2	Dialogue: ミュージシャンが人と再会する Vocabulary:音符、休符、楽器の英語名を覚える
3	Dialogue: 人に誰かを紹介する Vocabulary: 楽譜にあるものの英語名を覚える
4	Dialogue: どんなミュージシャンが好きですか？Vocabulary:リズムスタイルの英語の表現
5	Dialogue: 音楽経験を話す Vocabulary:スケールの英語名
6	Dialogue:音楽のスタイル、ジャンルの話をする Vocabulary :音程の英語名
7	Dialogue:他のミュージシャンの話をする　Vocabulary:基本的なコードの英語名
8	Dialogue: 復習 Vocabulary: 中間テスト
9	Dialogue: 楽器の話をする Vocabulary: 学生が自分の楽器に関連する言葉を集める
10	Dialogue: 音楽のフォーム Vocabulary: Song Formの英語名
11	Dialogue:リハーサル Vocabulary:より複雑なコード
12	Dialogue: 仕事の電話を受ける Vocabulary: アーティキュレーション
13	Dialogue:仕事の詳細を話す Vocabulary: 音楽の仕事関連の言葉
14	Dialogue: 誰かを音楽の仕事に推薦する Vocabulary: 最後の復習
15	期末テスト、まとめ

科目名	ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語1 - 2/ﾐｭｰｼﾞｼｬﾝのための英語2 （後） ［金2］						
代表教員	マーク　トゥリアン	授業コード	GE104600	科目コード	GE1046	期間	半期
担当教員	蟻正　行義						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

インターナショナルな音楽活動を行う際に、最低限必要な英語表現を習得する

２．授業概要

ミュージシャンとして実際に英語を使用する機会を想定した、Dialogue（場面設定）を通じて、実践的な英語力をトレーニングする。通常の会話やvoacaburaryに加えて、音楽用語やリハーサルなどで使う音楽に関する表現などを学ぶ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布するプリント資料をもとにして、重要な英語表現や単語を暗記する。言葉のリズムは楽器と同じように反復して習得する必要があるため、ただの暗記ではなく、言葉が自然にでてくるように練習をすることが必要となる

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（会話に参加することも含む）40%
小テスト、課題 30%
期末試験 30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時プリント資料を配付。
　電子辞書を所持していることが望ましい

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業では、アンサンブルを組むこともあるので、楽器編成により履修者数を制限することもある。

授業計画	
	［半期］ １－２
1	ミュージシャンとして自己紹介をすることについて
2	自分を紹介する（プレゼンテーション）
3	自己紹介、質疑応答について
4	簡単な音楽分析、Q&A（質疑応答）を語学の練習のためにも行う
5	ハーモニーの分析、Q&A （質疑応答）
6	メロディー分析、Q&A（質疑応答）
7	長いフォームの曲のアナライズ、Q&A
8	アドリブソロのアナライズ、Q&A
9	英語を使ってリハーサルをする
10	英語でリハーサルをする、テンポ、リズムフィール、
11	英語で部分リハをする、返しリハをする
12	リハでの演奏に対してコメントする
13	英語で演奏についての案をだす
14	英語を使いバンドリーダーになる、期末試験
15	グループでの評価とディスカッション

科目名	浄書と音源の制作　[木5]						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE111600	科目コード	GE1116	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・ME・PF（P-Com）・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年コンピュータを使用して楽譜を制作する機会が増えたが、作曲や編曲、さらには教育分野においては楽譜を手書きで行わなければならない場面が多い。

また、作曲コンクールや仕事においては浄書楽譜に加えて参考音源を要求されることも多くなり、総合的な制作力が不可欠な時代となっている。

これらに対応する力を養うため手書きで制作された楽譜をコンピュータに入力し浄書を完成させ、それをもとにシーケンスソフトを用いた音源制作を行う。

受講者が手書きの楽譜制作からコンピュータ浄書、そして参考音源制作までの一連の流れを体得することを目標とする。

２．授業概要

手書きの楽譜を書く基礎を学び総譜を完成、併せて手書きによるパート譜の作成を行う。続いて完成された手書きの総譜をコンピュータに入力して浄書を完成させる。続いてコンピュータ浄書のデータを活用してシーケンスソフトを用いた音源制作を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱うソフトを日常的に使用すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
学年末提出作品（評価の５０％）
楽譜作成や音源制作などの課題への取り組み姿勢を平常点とする。完成した浄書（手書きの浄書とコンピュータ浄書）、及び音源を学年末提出作品とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『楽譜の書き方』（平石博一著／東京ハッスルコピー）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータおよび浄書ソフト、シーケンスソフトを所有していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 記譜に関するルールを学び、正しく記譜する力を養うとともに、コンピュータ浄書を並行して学ぶ。
1	授業の概要、目標の提示
2	浄書の基礎１（音部記号、音符、休符など）
3	浄書の基礎２（大譜表、拍子、連桁など）
4	浄書演習１（J.S.Bachコラールより）
5	コンピュータ浄書の基礎１（基本操作を中心）
6	コンピュータ浄書の基礎２（音符入力を中心）
7	コンピュータ浄書演習１（コラール）
8	浄書演習２（P.Fauchet和声課題より）
9	コンピュータ浄書演習２（和声課題）
10	浄書演習３（F.Chopinピアノ曲より）
11	コンピュータ浄書演習３（ピアノ曲）
12	浄書演習４（歌曲や合唱曲より）
13	コンピュータ浄書演習４（歌曲や合唱曲）
14	浄書演習５（P.I.Tchaikovsky弦楽合奏曲より）
15	コンピュータ浄書演習５（弦楽合奏曲）

授業計画	
	［後期］ 前期に引き続き浄書を修得し、続いて音源制作を修得する。
1	浄書演習６（R. Schumannピアノ五重奏曲より）
2	コンピュータ浄書演習６（ピアノ五重奏曲）
3	パート譜制作について
4	パート譜制作演習（ピアノ五重奏曲）
5	浄書演習７（２０世紀の記譜法）
6	コンピュータ浄書演習７（２０世紀の記譜法）
7	シーケンスソフトの基礎１（基本操作を中心）
8	シーケンスソフトの基礎２（音楽表現を中心）
9	音源制作演習１（コラール、和声課題）
10	音源制作演習２（ピアノ曲）
11	音源制作演習３（歌曲や合唱曲）
12	音源制作演習４（弦楽合奏曲）
13	音源制作演習５（ピアノ五重奏曲）
14	音源制作演習６（自作コラール）
15	メディアの制作と総括

科目名	対位法研究II　［金4］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GE116700	科目コード	GE1167	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	対位法研究Ｉ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問であり、和声法と並んで西洋音楽理論の二大根幹である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

対位法は１２世紀以降の多声音楽（ペロタン、マショー、オケゲム、ジョスカンなどポリフォニーの隆盛）から長い時間をかけて発展を遂げ、後にフーガが確立していった。J.S.バッハにおけるフーガは対位法音楽の頂点の一つと言える。

本授業では「対位法研究Ｉ」で得た技術を基に、４声の学習フーガの書法を修得し、作品として完成させることにより、履修者はフーガを書く技術を獲得することができる。

２．授業概要

授業計画の通り、書法を学びながら作曲演習を通じてテクニックを磨いていく。担当教員は添削指導を行いながら授業が進められる。

また、J.S.バッハのフーガなど必要に応じて楽曲分析を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
提出作品（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『フーガ書法 パリ音楽院の方式による』（山口博史著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］
1	授業概要 対位法研究Ｉまでの復習
2	学習フーガ（４声）の様式について
3	学習フーガ　第１提示部の書き方
4	作曲演習１　第１提示部
5	学習フーガ　第１喜遊部の書き方
6	作曲演習２　第１喜遊部
7	学習フーガ　第２提示部の書き方
8	作曲演習３　第２提示部
9	学習フーガ　第２喜遊部の書き方
10	作曲演習４　第２喜遊部
11	学習フーガ　第３提示部の書き方
12	作曲演習５　第３提示部
13	学習フーガ　第３喜遊部の書き方
14	作曲演習６　第３喜遊部
15	学習フーガ　提示部と喜遊部の総括と講評

授業計画	
	［後期］
1	学習フーガ　主要追拍の書き方
2	作曲演習７　主要追拍
3	学習フーガ　対唱追拍の書き方
4	作曲演習８　対唱追拍
5	学習フーガ　平行調追拍の書き方
6	作曲演習９　平行調追拍
7	学習フーガ　　真正追拍の書き方
8	作曲演習１０　真正追拍
9	学習フーガ　　結尾部の書き方
10	作曲演習１１　結尾部
11	作曲演習１２　学習フーガのまとめ
12	学習フーガの浄書制作（４段譜）
13	学習フーガの浄書制作（２台ピアノ版）
14	学習フーガの試演、試聴
15	講評と総括

科目名	歌曲作曲研究Ⅰ （前） ［木4］						
代表教員	馬場　由香	授業コード	GE116800	科目コード	GE1168	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・PF（P-Com）・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロックから１９世紀における歌曲について、その和声法や形式などの様式感、そして歌詞と旋律の関係について研究する。また、伴奏を通じて歌曲における旋律の特徴や工夫について研究する。

歌曲作曲研究Ⅰでは、イタリアとドイツの歌曲様式を扱い、最終的に受講者がそれらの様式を取り入れた歌曲を作曲することを目標とする。

２．授業概要

授業では、多くのイタリア歌曲、ドイツ歌曲を聴き、楽譜を詳細に分析する。また歌曲の伴奏を行うことにより伴奏の書法を体得するとともに、歌としての旋律の作曲法を修得する。

作曲演習では教員がアドバイスを行いながら作品の完成度を高め、最終的に完成された作品を音にすることで、一層の学習成果を得る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。
事前に与えられた歌曲の伴奏を練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
作品提出（評価の５０％）
平常点は授業における創作への取り組み姿勢に加え、伴奏への取り組み姿勢も評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『イタリア歌曲集１　中声用』（全音楽譜出版社）
『ドイツ歌曲集１　中声用』（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
ピアノコースの場合はピアノ＆作曲マスタークラスに所属のこと。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 イタリアにおける歌曲の発展
2	C.G.A.Monteverdiの様式研究
3	A.Scarlattiの様式研究
4	G.F.Händelの様式研究
5	J.P.E.Martiniの様式研究
6	イタリアの様式に基づく作曲１（歌を中心）
7	イタリアの様式に基づく作曲２（伴奏を中心）
8	イタリアの様式による歌曲の演奏
9	ドイツ歌曲における歌詞について ドイツにおける歌曲の発展
10	有節歌曲と通作歌曲の様式について
11	F.Schubertの様式研究１（作品の形式）
12	F.Schubertの様式研究２（歌詞との関係）
13	ドイツの様式に基づく作曲１（歌を中心）
14	ドイツの様式に基づく作曲２（伴奏を中心）
15	これまでに作曲した作品の発表と総括

科目名	歌曲作曲研究II （後） ［木4］						
代表教員	馬場　由香	授業コード	GE116900	科目コード	GE1169	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・PF（P-Com）・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲作曲研究I」を履修中、または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロックから１９世紀における歌曲について、その和声法や形式などの様式感、そして歌詞と旋律の関係について研究する。また、伴奏を通じて歌曲における旋律の特徴や工夫について研究する。

歌曲作曲研究Ⅱでは、ドイツとフランスの歌曲様式を扱い、最終的に受講者がそれらの様式を取り入れた歌曲を作曲することを目標とする。

２．授業概要

授業では、多くのドイツ歌曲、フランス歌曲を聴き、楽譜を詳細に分析する。また歌曲の伴奏を行うことにより伴奏の書法を体得するとともに、歌としての旋律の作曲法を修得する。

作曲演習では教員がアドバイスを行いながら作品の完成度を高め、最終的に完成された作品を音にすることで、一層の学習成果を得る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。
事前に与えられた歌曲の伴奏を練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
作品提出（評価の５０％）
平常点は授業における創作への取り組み姿勢に加え、伴奏への取り組み姿勢も評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『ドイツ歌曲集１　中声用』（全音楽譜出版社）
『フォーレ歌曲全集１』（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
ピアノコースの場合はピアノ＆作曲マスタークラスに所属のこと。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 AriaとRecitativoについて
2	W.A.Mozartの様式研究
3	L.v.Beethovenの様式研究
4	R.Schumannの様式研究１（詩人の恋など）
5	R.Schumannの様式研究２（女の愛と生涯など）
6	ドイツの様式に基づく作曲１（歌を中心）
7	ドイツの様式に基づく作曲２（伴奏を中心）
8	ドイツの様式による歌曲の演奏
9	フランス歌曲における歌詞について フランスにおける歌曲の発展
10	C.F.Gounodの様式研究
11	G.Fauréの様式研究１（作品の形式）
12	G.Fauréの様式研究２（歌詞との関係）
13	フランスの様式に基づく作曲１（歌を中心）
14	フランスの様式に基づく作曲２（伴奏を中心）
15	これまでに作曲した作品の発表と総括

科目名	合唱曲作曲研究　（前）［木4］						
代表教員	増井　哲太郎	授業コード	GE117900	科目コード	GE1179	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO・PF（P-Com）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲作曲研究II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

合唱は教会において発展してきた歴史があるが、まずそれらの西洋における合唱の様式を学び取る。また日本において合唱は独自の発展を遂げ、今日なお多くの作品が創作されており、名作も数多い。

そのような歴史的な合唱や日本の合唱を研究すると同時に、混声四部合唱（ア・カペラ、およびピアノ伴奏付き）、女性三部合唱（ピアノ伴奏付き）の書法を作曲、編曲を通じて修得する。最終的に受講者が合唱曲作品を完成させることを目標とする。

２．授業概要

ア・カペラ、混声四部合唱、女性三部合唱の作品の研究を通じて、それぞれの様式における声部の書法やピアノ伴奏の書法を体得する。作曲演習を通じて、ア・カペラ、および混声四部合唱の作品を完成させ、それをもとに女性三部合唱への編曲を実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ミサ曲や受難曲など、宗教音楽を含む多くの合唱作品を聴き、楽譜を熟読すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
提出作品（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『混声合唱とピアノのための「平行世界、飛行ねこの沈黙」』（増井哲太郎作曲／カワイ出版）
『女声合唱のための「三つの抒情」』（三善晃作曲／全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 合唱の歴史の概要（西洋および東洋）
2	作品研究１　宗教音楽における合唱の用例
3	作品研究２　１８世紀の合唱（西洋）
4	作曲演習１　ア・カペラ様式での作曲
5	作品研究３　１９世紀の合唱（西洋）
6	作品研究４　２０世紀の合唱（西洋）
7	日本における合唱の発展について
8	作品研究５　２０世紀の合唱（日本）
9	作品研究６　２１世紀の合唱（日本）
10	歌詞の扱いについて（日本語）
11	作曲演習２　合唱における声部書法について
12	作曲演習３　混声四部合唱の作曲
13	作曲演習４　混声四部合唱の伴奏について
14	女性三部合唱について 編曲演習　混声四部から女性三部への編曲
15	完成作品に対する講評と総括

科目名	音階研究　（後）［木4］						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GE118000	科目コード	GE1180	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	CO・PF（P-Com）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

　バロックから１９世紀の西洋音楽における長旋法と短旋法については、和声法という形で機能和声の論理が確立し、学習は容易となった。一方、教会旋法などへの和声連結に関する論理は確立されていない。
　１９世紀末から２０世紀にかけては芸術音楽の分野で様々な音階が試みられ、多くの色彩感を生んだが、それらの新しい旋法に対しての論理は教会旋法以上に確立していない。さらに２０世紀にはジャズをはじめとしてさまざまな音楽ジャンルが生まれ、それとともに多くの音階が生まれた。
　本講座では、まず教会旋法での旋律の作例を研究し、和声連結の可能性を模索する。続いて２０世紀の音階における和声連結を研究し、作品を創作する。
　本講座は音階を学ぶと同時に新しい旋律の可能性を研究し、また旋律に対して和声の可能性を模索するが、いわば論理が確立されていない分野を研究するということであり、新しい芸術の領域に踏み込むものである。
　受講者が新しい可能性に気づき、自らの語法を探求する工夫を見出すことを目標とする。

２．授業概要

各種旋法について、実作品より旋律の用例を研究し和声の連結について分析を試みる。そこで得た手法を用いていくつかの楽節の創作を行い、教員がアドバイスを行いながら完成度を高めつつ、最終的には小品として完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

旋法を用いた作品を多く聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
提出作品（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『音楽言語の技法』（O.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/theory/classic/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 教会旋法についての総論
2	エオリア旋法、ドリア旋法における旋律の例
3	エオリア旋法、ドリア旋法における和声連結
4	教会旋法を用いた楽節の創作（ピアノ小品）
5	２０世紀の音階総論 全音音階と移調の限られた旋法について
6	MTL１番（全音音階）における旋律の例
7	MTL１番（全音音階）における和声連結
8	MTL２番～３番における旋律の例
9	MTL２番～３番における和声連結
10	MTL４番～７番における旋律の例
11	MTL４番～７番における和声連結
12	ブルー・ノート・スケールについて
13	ハンガリーとジプシーのスケールについて
14	MTLを用いた作品の創作
15	講評と総括

科目名	20世紀の和声法研究　（前）［木4］						
代表教員	赤石　直哉	授業コード	GE118900	科目コード	GE1189	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	CO・PF（P-Com）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法の研究は対位法と並び音楽理論の根幹となるものであり、実際の作品創作においてもその様式感を左右する重要な要素となる。
この授業では２０世紀に生まれた様々な新しい和声語法を俯瞰するとともに、それらを用いた作品の書法を具体的に学修する。
現代に至るまでの多様化した和声語法を把握しつつ、自身の創作に活かせるスタイルを確立することを目標とする。

２．授業概要

毎回のテーマに沿って既存の作品を解説・分析し、その和声法の中軸となる書法を学ぶ。
講義と並行し創作スケッチを進めていき、研究成果と小品（ピアノまたは小編成の室内楽）の発表を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品やその関連項目についてさらに掘り下げて研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
レポート、または作品提出（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜プリントを配布する。
参考文献：
『音楽言語の技法』（O.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）
『メシアンによるラヴェル楽曲分析』（O.メシアン／Y.ロリオ共著／全音楽譜出版社）
『和声の変遷』(Ch.ケックラン著／音楽之友社)
『和声の歴史』(O.アラン／白水社)
『新版 スタンダードジャズのすべて１、２』（高島慶司著／全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的な和声法を修得していることが望ましい。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	近代までの和声法の確認
3	属和音の拡大１（スクリャービン）
4	属和音の拡大２（ドビュッシー、メシアン）
5	複調の活用（ミヨー、ストラヴィンスキー）
6	ジャズにおける旋法と和声についての概論
7	ジャズにおけるコード進行の分析
8	ジャズ語法との融合（ラヴェル、ガーシュイン）
9	２０世紀アメリカの音楽
10	２０世紀ヨーロッパの音楽
11	２０世紀アジアの音楽
12	新しい響きの探求
13	これまで研究した和声による研究発表
14	これまで研究した和声による作品発表
15	総括

科目名	20世紀の奏法研究　（後）［木4］						
代表教員	赤石　直哉	授業コード	GE119000	科目コード	GE1190	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	CO・PF（P-Com）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	管弦楽概論						
教員免許状							

１．主題・到達目標

奏法の研究は作品表現に極めて密接に関わる重要な課題である。
この授業では２０世紀に生まれた様々な特殊奏法について既存の作品とともに紹介し、その有効的な使用法について学修する。
通常の奏法や形式・様式とのバランス、記譜法についても考察し、実際の創作に活用できるようにすることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。
特殊奏法の効果、記譜法は作品によって様々であり、これらの考察を通して新しい奏法の開拓につなげていくことも発展的課題とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品やその関連項目についてさらに掘り下げて研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
レポート（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜プリントを配布する。
参考文献：
『現代音楽の記譜』（E.カルコシュカ／全音楽譜出版社）
『弦楽四重奏曲3番、4番』（B.バルトーク／ユニバーサル出版）
『雨の呪文』（武満徹／ショット・ミュージック）
『セクエンツァ Ⅰ～XIV』（L.ベリオ／ユニバーサル出版）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス 弦楽器の特殊奏法１（ヴァイオリン）
2	弦楽器の特殊奏法２（チェロ）
3	木管楽器の特殊奏法１（フルート）
4	木管楽器の特殊奏法２（クラリネット）
5	木管楽器の特殊奏法３（ダブルリード楽器）
6	金管楽器の特殊奏法１（ホルン）
7	金管楽器の特殊奏法２（トランペット）
8	金管楽器の特殊奏法３（トロンボーン）
9	打楽器の特殊奏法１（膜鳴楽器）
10	打楽器の特殊奏法２（体鳴楽器）
11	打楽器の特殊奏法３（鍵盤打楽器）
12	ピアノの特殊奏法（プリペアド・ピアノ）
13	ハープの特殊奏法
14	その他の特殊奏法
15	特殊奏法の総括

科目名	ＤＡＷ演習Ｉ ［月5］Aクラス　レベル1						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GE1225A0	科目コード	GE1225	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ProToolsやLogicなどDAW（Digital Audio Workstation）の機能充実により、 パーソナルな環境下で質の高い音源制作が可能になった。

クリエーターには作編曲やMIDIデータ制作のみならずレコーディングやミックスダウンなど多岐にわたる制作スキルが求められている。

本講座ではDAWを用いた音楽制作の基礎としてMIDIデータ制作、シンセサイザーの原理、エフェクターの使用方法、そしてスタジオ機器類の取り扱いなどを総合的に学び、より高度な音源を制作するために必要な技術全般を習得することを目標とする。

２．授業概要

前期：DAW（Apple Logic）の使用方法を学びMIDIデータを制作する。またハードウェア・シンセサイザーを用いて音色のエディットや効果音制作を実践する。

後期：DAWベースのシステムでレコーディングやオーディオデータの編集、そしてソフトウェア・シンセサイザーについて学びDigital Audioの基礎知識を身につける。またマイクロフォンやミキサーなどの音響機器についても学ぶ。

履修するクラスのレベルによって内容や取り上げる順序は若干異なるが、基本的に下記の授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従うこと。（下記、一例）

課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）

課題への取り組とその評価（評価の25%）

前期、後期試験（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示に従うこと。また必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位を取得しなければ、次のステップ「DAW演習II」は履修できないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／DAWを用いた音楽制作について
2	MIDIシステムとGM規格について
3	様々なMIDIデータ入力方法
4	リズムトラックのMIDIデータ入力
5	MIDIデータ制作実習１-ピアノ曲
6	MIDIデータ制作実習２-アンサンブル曲
7	MIDIデータの編集テクニック
8	音の三要素／波形とスペクトルについて
9	減算方式シンセサイザーの原理
10	プリセット音色のエディット
11	効果音制作実習１-LFOやEG使用
12	効果音制作実習２-エフェクター使用
13	総合実習１-基礎
14	総合実習２-応用
15	まとめと夏休み課題の説明

授業計画	
	［後期］
1	夏休み制作課題の提出、確認
2	ソフトウェア・シンセサイザー実習
3	デジタルミックスダウンと外部音源のレコーディング
4	マイクロフォンを用いたレコーディングと周辺機器について
5	オーディオデータの編集１-波形の配置と分割
6	オーディオデータの編集２-オートメーション機能
7	エフェクターを用いた音響処理１-モジュレーション系
8	エフェクターを用いた音響処理２-空間系
9	ソフトウェア・サンプラー実習１-exs24へのアサイン
10	ソフトウェア・サンプラー実習2-トラック制作
11	映像ファイルの読み込みと同期
12	後期課題の実習１-プランニング
13	後期課題の実習2-効果音制作
14	後期課題の実習3-音楽制作
15	後期課題の発表

科目名	ＤＡＷ演習Ｉ ［火2］Bクラス　レベル3						
代表教員	仲井　朋子	授業コード	GE1225B0	科目コード	GE1225	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ProToolsやLogicなどDAW（Digital Audio Workstation）の機能充実により、 パーソナルな環境下で質の高い音源制作が可能になった。

クリエーターには作編曲やMIDIデータ制作のみならずレコーディングやミックスダウンなど多岐にわたる制作スキルが求められている。

本講座ではDAWを用いた音楽制作の基礎としてMIDIデータ制作、シンセサイザーの原理、エフェクターの使用方法、そしてスタジオ機器類の取り扱いなどを総合的に学び、より高度な音源を制作するために必要な技術全般を習得することを目標とする。

２．授業概要

前期：DAW（Apple Logic）の使用方法を学びMIDIデータを制作する。またハードウェア・シンセサイザーを用いて音色のエディットや効果音制作を実践する。

後期：DAWベースのシステムでレコーディングやオーディオデータの編集、そしてソフトウェア・シンセサイザーについて学びDigital Audioの基礎知識を身につける。またマイクロフォンやミキサーなどの音響機器についても学ぶ。

履修するクラスのレベルによって内容や取り上げる順序は若干異なるが、基本的に下記の授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従うこと。（下記、一例）

課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）

課題への取り組とその評価（評価の25%）

前期、後期試験（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示に従うこと。また必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位を取得しなければ、次のステップ「DAW演習II」は履修できないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／DAWを用いた音楽制作について
2	MIDIシステムとGM規格について
3	様々なMIDIデータ入力方法
4	リズムトラックのMIDIデータ入力
5	MIDIデータ制作実習１-ピアノ曲
6	MIDIデータ制作実習２-アンサンブル曲
7	MIDIデータの編集テクニック
8	音の三要素／波形とスペクトルについて
9	減算方式シンセサイザーの原理
10	プリセット音色のエディット
11	効果音制作実習１-LFOやEG使用
12	効果音制作実習２-エフェクター使用
13	総合実習１-基礎
14	総合実習２-応用
15	まとめと夏休み課題の説明

授業計画	
	［後期］
1	夏休み制作課題の提出、確認
2	ソフトウェア・シンセサイザー実習
3	デジタルミックスダウンと外部音源のレコーディング
4	マイクロフォンを用いたレコーディングと周辺機器について
5	オーディオデータの編集１-波形の配置と分割
6	オーディオデータの編集２-オートメーション機能
7	エフェクターを用いた音響処理１-モジュレーション系
8	エフェクターを用いた音響処理２-空間系
9	ソフトウェア・サンプラー実習１-exs24へのアサイン
10	ソフトウェア・サンプラー実習2-トラック制作
11	映像ファイルの読み込みと同期
12	後期課題の実習１-プランニング
13	後期課題の実習2-効果音制作
14	後期課題の実習3-音楽制作
15	後期課題の発表

科目名	ＤＡＷ演習Ｉ ［木4］Ｃクラス　レベル2						
代表教員	石田　寛朗	授業コード	GE1225C0	科目コード	GE1225	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ProToolsやLogicなどDAW（Digital Audio Workstation）の機能充実により、 パーソナルな環境下で質の高い音源制作が可能になった。

クリエーターには作編曲やMIDIデータ制作のみならずレコーディングやミックスダウンなど多岐にわたる制作スキルが求められている。

本講座ではDAWを用いた音楽制作の基礎としてMIDIデータ制作、シンセサイザーの原理、エフェクターの使用方法、そしてスタジオ機器類の取り扱いなどを総合的に学び、より高度な音源を制作するために必要な技術全般を習得することを目標とする。

２．授業概要

前期：DAW（Apple Logic）の使用方法を学びMIDIデータを制作する。またハードウェア・シンセサイザーを用いて音色のエディットや効果音制作を実践する。

後期：DAWベースのシステムでレコーディングやオーディオデータの編集、そしてソフトウェア・シンセサイザーについて学びDigital Audioの基礎知識を身につける。またマイクロフォンやミキサーなどの音響機器についても学ぶ。

履修するクラスのレベルによって内容や取り上げる順序は若干異なるが、基本的に下記の授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従うこと。（下記、一例）

課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）

課題への取り組とその評価（評価の25%）

前期、後期試験（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示に従うこと。また必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位を取得しなければ、次のステップ「DAW演習II」は履修できないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／DAWを用いた音楽制作について
2	MIDIシステムとGM規格について
3	様々なMIDIデータ入力方法
4	リズムトラックのMIDIデータ入力
5	MIDIデータ制作実習１-ピアノ曲
6	MIDIデータ制作実習２-アンサンブル曲
7	MIDIデータの編集テクニック
8	音の三要素／波形とスペクトルについて
9	減算方式シンセサイザーの原理
10	プリセット音色のエディット
11	効果音制作実習１-LFOやEG使用
12	効果音制作実習２-エフェクター使用
13	総合実習１-基礎
14	総合実習２-応用
15	まとめと夏休み課題の説明

授業計画	
	［後期］
1	夏休み制作課題の提出、確認
2	ソフトウェア・シンセサイザー実習
3	デジタルミックスダウンと外部音源のレコーディング
4	マイクロフォンを用いたレコーディングと周辺機器について
5	オーディオデータの編集１-波形の配置と分割
6	オーディオデータの編集２-オートメーション機能
7	エフェクターを用いた音響処理１-モジュレーション系
8	エフェクターを用いた音響処理２-空間系
9	ソフトウェア・サンプラー実習１-exs24へのアサイン
10	ソフトウェア・サンプラー実習2-トラック制作
11	映像ファイルの読み込みと同期
12	後期課題の実習１-プランニング
13	後期課題の実習2-効果音制作
14	後期課題の実習3-音楽制作
15	後期課題の発表

科目名	ＤＡＷ演習Ｉ ［金5］Dクラス　レベル1						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GE1225D0	科目コード	GE1225	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ProToolsやLogicなどDAW（Digital Audio Workstation）の機能充実により、 パーソナルな環境下で質の高い音源制作が可能になった。

クリエーターには作編曲やMIDIデータ制作のみならずレコーディングやミックスダウンなど多岐にわたる制作スキルが求められている。

本講座ではDAWを用いた音楽制作の基礎としてMIDIデータ制作、シンセサイザーの原理、エフェクターの使用方法、そしてスタジオ機器類の取り扱いなどを総合的に学び、より高度な音源を制作するために必要な技術全般を習得することを目標とする。

２．授業概要

前期：DAW（Apple Logic）の使用方法を学びMIDIデータを制作する。またハードウェア・シンセサイザーを用いて音色のエディットや効果音制作を実践する。

後期：DAWベースのシステムでレコーディングやオーディオデータの編集、そしてソフトウェア・シンセサイザーについて学びDigital Audioの基礎知識を身につける。またマイクロフォンやミキサーなどの音響機器についても学ぶ。

履修するクラスのレベルによって内容や取り上げる順序は若干異なるが、基本的に下記の授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従うこと。（下記、一例）

課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）

課題への取り組とその評価（評価の25%）

前期、後期試験（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示に従うこと。また必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位を取得しなければ、次のステップ「DAW演習II」は履修できないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／DAWを用いた音楽制作について
2	MIDIシステムとGM規格について
3	様々なMIDIデータ入力方法
4	リズムトラックのMIDIデータ入力
5	MIDIデータ制作実習１-ピアノ曲
6	MIDIデータ制作実習２-アンサンブル曲
7	MIDIデータの編集テクニック
8	音の三要素／波形とスペクトルについて
9	減算方式シンセサイザーの原理
10	プリセット音色のエディット
11	効果音制作実習１-LFOやEG使用
12	効果音制作実習２-エフェクター使用
13	総合実習１-基礎
14	総合実習２-応用
15	まとめと夏休み課題の説明

授業計画	
	［後期］
1	夏休み制作課題の提出、確認
2	ソフトウェア・シンセサイザー実習
3	デジタルミックスダウンと外部音源のレコーディング
4	マイクロフォンを用いたレコーディングと周辺機器について
5	オーディオデータの編集１-波形の配置と分割
6	オーディオデータの編集２-オートメーション機能
7	エフェクターを用いた音響処理１-モジュレーション系
8	エフェクターを用いた音響処理２-空間系
9	ソフトウェア・サンプラー実習１-exs24へのアサイン
10	ソフトウェア・サンプラー実習2-トラック制作
11	映像ファイルの読み込みと同期
12	後期課題の実習１-プランニング
13	後期課題の実習2-効果音制作
14	後期課題の実習3-音楽制作
15	後期課題の発表

科目名	ＤＡＷ演習Ｉ ［火5］Ｅクラス　レベル2						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE1225E0	科目コード	GE1225	期間	通年
担当教員	森　威功						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ProToolsやLogicなどDAW（Digital Audio Workstation）の機能充実により、 パーソナルな環境下で質の高い音源制作が可能になった。

クリエーターには作編曲やMIDIデータ制作のみならずレコーディングやミックスダウンなど多岐にわたる制作スキルが求められている。

本講座ではDAWを用いた音楽制作の基礎としてMIDIデータ制作、シンセサイザーの原理、エフェクターの使用方法、そしてスタジオ機器類の取り扱いなどを総合的に学び、より高度な音源を制作するために必要な技術全般を習得することを目標とする。

２．授業概要

前期：DAW（Apple Logic）の使用方法を学びMIDIデータを制作する。またハードウェア・シンセサイザーを用いて音色のエディットや効果音制作を実践する。

後期：DAWベースのシステムでレコーディングやオーディオデータの編集、そしてソフトウェア・シンセサイザーについて学びDigital Audioの基礎知識を身につける。またマイクロフォンやミキサーなどの音響機器についても学ぶ。

履修するクラスのレベルによって内容や取り上げる順序は若干異なるが、基本的に下記の授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従うこと。（下記、一例）

課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）

課題への取り組とその評価（評価の25%）

前期、後期試験（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指示に従うこと。また必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位を取得しなければ、次のステップ「DAW演習II」は履修できないので十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／DAWを用いた音楽制作について
2	MIDIシステムとGM規格について
3	様々なMIDIデータ入力方法
4	リズムトラックのMIDIデータ入力
5	MIDIデータ制作実習１-ピアノ曲
6	MIDIデータ制作実習２-アンサンブル曲
7	MIDIデータの編集テクニック
8	音の三要素／波形とスペクトルについて
9	減算方式シンセサイザーの原理
10	プリセット音色のエディット
11	効果音制作実習１-LFOやEG使用
12	効果音制作実習２-エフェクター使用
13	総合実習１-基礎
14	総合実習２-応用
15	まとめと夏休み課題の説明

授業計画	
	［後期］
1	夏休み制作課題の提出、確認
2	ソフトウェア・シンセサイザー実習
3	デジタルミックスダウンと外部音源のレコーディング
4	マイクロフォンを用いたレコーディングと周辺機器について
5	オーディオデータの編集１-波形の配置と分割
6	オーディオデータの編集２-オートメーション機能
7	エフェクターを用いた音響処理１-モジュレーション系
8	エフェクターを用いた音響処理２-空間系
9	ソフトウェア・サンプラー実習１-exs24へのアサイン
10	ソフトウェア・サンプラー実習2-トラック制作
11	映像ファイルの読み込みと同期
12	後期課題の実習１-プランニング
13	後期課題の実習2-効果音制作
14	後期課題の実習3-音楽制作
15	後期課題の発表

科目名	ＤＡＷ演習II　［水4］Aクラス						
代表教員	三上　直子	授業コード	GE1226A0	科目コード	GE1226	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「DAW演習I」で習得した基礎的な技術を複合的に扱う。オーディオやMIDIに関して理論的に理解を深めると同時に、実践的な技法の習得により質の高い作品制作を目指す。

２．授業概要

MIDI応用とDigitalAudio（中級、上級）。

「DAW演習I」で学んだMIDIの初級のデータ作成とDigitalAudioの初級の段階から、さらに理論的な学習とアプローチを行い、DAWを使用した音楽的表現を追求し実現して行く。また、より質の高い音楽制作のための音素材の処理、編集、加工の技法を学び、最終的なミキシングまで行う。最終的に、各学生の作品の指向性を考慮し、それぞれが表現したい音楽や、映像表現などにおいて、学んだ技法を用いてのデータ制作を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の30%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の30%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位修得済の学生

授業計画	
	［前期］ MIDIとDigitalAudioについての理論的な理解を深める。 また、DAW上での音楽的表現について深く掘り下げる。
1	ガイダンス
2	MIDIについて/16進数、コントロールチェンジについて。
3	MIDIデータ制作の実習。設定された課題曲に対し、より効率的な入力の仕方。また、音楽的にデータを仕上げるためのポイントについて解説。
4	データ制作-２ 様々な編成、ジャンルにおけるデータ制作のアプローチの違いについて。
5	データ制作-３ ベロシティ、エクスプレッション、ボリュームの使い分けと変化による表現方法。
6	データ制作-４ 楽器の特性と、演奏表現について考え、データ制作の上でどう役立てたら良いか学ぶ（メロディー）。
7	データ制作-5 楽器の特性と、演奏表現について考え、データ制作の上でどう役立てたら良いか学ぶ（ベースライン等）。
8	データ制作-6 パート単位ではなくアンサンブルとしての表現について考える。
9	データ制作-7 テンポの変化、ヴォリュームの変化、音色の変化など、より音楽的な表現によるデータ制作。
10	データ制作-8 作成中のデータと生演奏を比べ、アプローチの違いを認識。「聞く」事の大切さを学ぶ。
11	データ制作-9 パンニング、エフェクト、イコライジング処理などの理論と実践。
12	データ制作-10 作成中のデータと生演奏を比べ、アプローチの違いを再び再確認する。
13	データ制作-11 データを仕上げる
14	前期作品発表
15	前期のまとめと復習。MIDI、DigitalAudioの理論についての筆記テスト。

授業計画	
	［後期］それぞれの学生の音楽的な指向（ジャンル）に合わせた対応をする。例えば、音楽的表現の追求、耳コピ、アレンジ、音素材の処理と編集、各種エフェクトの使用、ミキシングの方法、映像に対する音楽付けの実習など。シラバスの内容はその一例。
1	前期の復習・後期のガイダンス
2	ミュージック・コンクレート（現実音の加工による電子音楽）の歴史、鑑賞と分析。
3	作品コンセプト、また音素材について。
4	音素材の録音、フィールドレコーディング。
5	音素材の加工
6	DigitalAudioによる作品制作実習。パンニング、エフェクト、イコライジング処理などの理論と実践。Logicのサンプリング機能EXS24を用いての制作方法。
7	ミキシング-1 compressor、equalizerの使用、modulation系エフェクトによる帯域コントロールなど。
8	ミキシング-2 パートのグループ化、レヴェル調整、パンニングの設定、最終的な音圧調整など。
9	後期作品発表
10	ヴォーカルのピッチ修正
11	映像作品に対するBGM制作の解説と実習（様々なアプローチと音楽がもたらす効果）
12	映像作品に対するBGM制作の実習-１（コンセプトを絞り込む）
13	映像作品に対するBGM制作の実習-２（無音の効果等）
14	映像作品に対するBGM制作の実習-３（仕上げ）
15	後期作品発表　まとめ

科目名	ＤＡＷ演習II　[火4] Bクラス						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GE1226B0	科目コード	GE1226	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DAWの進化に伴い、プロデューサーは全てのサウンドプロダクション工程を容易に行き来することが可能になった。
この講座では、DAW演習Ｉで学んだ基礎的な技術を発展させ、サウンドデザイン・アレンジ・打ち込み・ミックスの
工程が綿密に絡み合うサウンドプロダクションの理解を深めることを目的とする。
またその過程において、鋭敏な音楽的・音響的な耳（感覚）を養うことを目標にする。

２．授業概要

前期は、MIDIの編集、オーディオ素材の取り扱いやサンプリング、ヴォーカルの編集を行う。
後期は、各ジャンル（主にエレクトロニックミュージック）のプロダクション手法を学び楽曲制作を行う。
またその過程において、Logic付属プラグインとともにサードパーティー製プラグインの使用法と紹介を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げたDAW・各種プラグイン操作方法、各楽曲の制作方法について復習をしておく必要がある。想定必要時間は90分程度。
授業計画に記載している参考プロデューサーの制作した楽曲を調べ各演習前に聴いておく必要がある。想定必要時間は３０分程度。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出(評価の50%)
平常点(評価の50%)
平常点は授業への参加姿勢・授業態度を総合的に判断する。
各提出課題では、楽曲のクオリティー、授業で取り扱った内容の理解度を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・授業中に、適宜、資料を配布する。

・Logic Pro X 10.2 徹底操作ガイド 高山 博

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

2/3 以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［前期］ MIDIの打ち込み・オーディオ編集・ボーカル編集処理を学ぶ。 またDAW内でのミックス方法と使用するプラグインの操作方法を学び、それらを活かした課題を制作する。
1	前期ガイダンス MIDI情報の編集① ・イベントリスト・MIDIトランスフォーム・MIDIエフェクト
2	MIDI情報の編集② ・MIDオートメーション・コントロールサーフェース
3	オーディオ編集 解説と演習① ・オーディオファイル/トラック 各エディター
4	オーディオ編集 解説と演習② ・Flex・オーディオチョップ
5	ミキシングテクニック解説と演習 ・ボリューム・定位・リバーブ
6	中間課題提出 ・アドバイスとディスカッション
7	サンプリング・サンプラー 解説 ・Exs24・Kontakt
8	ヒップホップのプロダクション解説 （ヒップホップ特有のビート/ローファイサウンド/ボーカルチョップ ） 参考プロデューサー Madlib/DJShadow/Prefuse73 ets.
9	ヒップホップのプロダクション演習① ヒップホップの楽曲制作
10	ヒップホップのプロダクション演習② ヒップホップの楽曲制作（仕上げ）
11	ミキシングテクニック解説と演習 ・コンプレッサー・EQ
12	ボーカル編集 解説 演習① ・ノイズ除去・ボリュームオートメーション
13	ボーカル編集 解説 演習② ・ピッチ修正
14	ボーカル編集 解説 演習③ ・タイミングの修正
15	期末課題提出 ・アドバイスとディスカッション

授業計画	
	［後期］ 様々なジャンルのプロダクションを学び、その過程においてドラム音源ー、シンセサイザーについて解説する。またDAW内でのミックス方法と使用するプラグインの操作方法を学び、それらを活かした課題を制作する。
1	後期のガイダンス ドラム音源の解説と操作方法 ・Kick・Snare・Hihatの作り方　・Ultrabeat・Battery
2	プラグインシンセサイザーの解説と操作方法 ・ベース/パッドの作り方 ・Alchemy・RetroSynth・Massive
3	ハウス・テクノのプロダクション解説 (4つ打ち　/サイドチェイン/フィルター　) 参考プロデューサー Akufen/Theo Parrish　ets.
4	ハウス・テクノのプロダクション演習 ① ハウス・テクノの楽曲制作
5	ハウス・テクノのプロダクション演習② ハウス・テクノの楽曲制作(仕上げ)
6	ミキシングテクニック解説と演習 ・ディレイ・モジュレーション系
7	中間課題提出 ・アドバイスとディスカッション
8	エレクトロニカのプロダクション解説 （グリッチ/グラニュラー） 参考プロデューサー　Autechre /Four tet/Fennesz ets.
9	エレクトロニカのプロダクション演習① エレクトロニカの楽曲制作
10	エレクトロニカのプロダクション演習 ② エレクトロニカの楽曲制作(仕上げ)
11	ダブステップ・ポストダブステップのプロダクション解説 (2stepのビート/Dub/ダブステップ特有のベース　) 参考プロデューサー Burial/Mala/James Blake ets.
12	ダブステップ・ポストダブステップのプロダクション演習 ① ダブステップ・ポストダブステップの楽曲制作
13	ダブステップ・ポストダブステップのプロダクション演習② ダブステップ・ポストダブステップの楽曲制作（仕上げ）
14	ミキシングテクニック解説と演習 ・歪み系・パラレルプロセッシング・MS処理
15	期末課題提出 ・アドバイスとディスカッション

科目名	ＤＡＷ演習II ［月4］Cクラス						
代表教員	久木山　直	授業コード	GE1226C0	科目コード	GE1226	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「DAW演習I」で習得した基礎的な技術を複合的に扱い、オーディオやMIDIに関して理論的に理解を深めると同時に、実践的な技法の習得の上での作品制作を目指します。デジタル作品の人間のフィジカルな感覚に基づいた演奏表現がよりできるようになります。PureDataをつかった音源の製作ができるようになります。FaustProgramingを利用した VST音源エフェクトの製作ができるようになります。物理モデリング音源の知識が深まるようになります。デジタル音源についての知識がふかまるとどうじに、知識にもとづいた楽曲の質をコントロールできるようになります。

２．授業概要

MIDI応用とDigitalAudio（中級、上級）。
「DAW演習I」で学んだMIDIの初級のデータ作成とDigitalAudioの初級の段階から、さらに理論的な学習とアプローチを行う。プログラミング言語も使用しながらシンセサイザの原理方法を学び、その原理にもとづいた音楽表現のスキルの向上を目指して行きます。音素材の処理、編集、加工の技法を学び、最終的なミキシングでを通じて商品（芸術作品もひとつのマーケットとして考えます）レベルの作品を製作して行きます。また映像の付帯音楽としての経験も他分野とのコラボレーションとして将来にたいする可能性を広げるために行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

様々な作品を聞いてみてください。音楽外のアートにも多くふれてみましょう。アートの歴史、音楽の歴史についても様々な本などで知識を深めるとよいでしょう。我々の作り出すものはすべて人類の歴史の流れの現在に位置するものである以上それを知らずして何かを作りだして行くことは不可能だと思います。無自覚、無意識でやっている作業もそうした歴史が蓄積したものがあたりまえのものとなった結果それに無自覚に影響を受けていると思われます。なにか新しい、新鮮な価値を生み出す上でも外部リソース、歴史リソースのリサーチは重要です。すでにあったものに新しい視点を与えることでも新しいものは生まれてくるかもしれませんしね。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験として製作した作品を提示してもらいます。（評価の70%）
提出は2作品で、一つは教員が出したものと同じものを同じレベルに似せるというもの、と完全にオリジナルな作品とします。
オリジナルについては評価基準があいまいな点もあるので、まず、提示した作品と同じものをシミュレートし、類似具合によって評価します。これは真似るということをめざしています。そこでは真似られるだけの技術が明確に査定できるので、手本と同じかどうかによって技術力を評価します。もう一点のオリジナルな作品は、「こういうものです」、といわれてしまえば評価はあいまいにならざるおえないわけなので、基準としては、どういう意図でどういう方法でやったかを明示してもらい、その意図と結果が一致しているかという点を踏まえたうえで審美的な評価も多少加えさせていただきます。
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の30%）
授業内での取り組んでいる姿勢、および簡単な質問での評価です。作品はできるかできないか、できたものがすべてなので製作過程や論理的理解や態度は基本どうでも良いと考えますが、補足的なものとして若干の査定は行います。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストはつかいませんが、必要な場合は授業内でも指示します。
参考文献＆サイト：
「映画にとって音とはなにか」ミッシェル・シオン勁草書房ISBN-10: 4326851260 ISBN-13: 978-4326851263
「MIDIバイブルI~MIDI規格基礎編」リットーミュージックISBN-10: 4845602679 ISBN-13: 978-4845602674
[Programming Electronic Music in Pdhttp:] //www.pd-tutorial.com/
[Faust Programming Language] https://faust.grame.fr/
[pierreguillot/Camomile]https://github.com/pierreguillot/Camomile
[Physical Modeling Synthesis Update]JULIUS O. SMITH III https://ccrma.stanford.edu/~jos/pmupd/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特にありません。

授業計画	
	［前期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） 　MIDIとDigitalAudioについての理論的な理解を深め、MIDI＋Audio+コントロール情報による小作品と、サンプリングソフトを用いたDigitalAudioの小作品を制作する。
1	DTM音楽の成り立ち コンピュータ音楽についての歴史の流れを見てもらいます。
2	MIDIについて 1980年始めてDX7に搭載された電子楽器規格のMIDI について、 その情報の流れ、構造についての知識を学習します。
3	MIDI情報をつかって、色々なものを操作してみましょう。グラフィカルインターベースをもつプログラム言語であるPureDataを利用してMIDI情報について知ってもらいます。
4	MIDI情報をつかって、色々なものを操作してみましょう。グラフィカルインターベースをもつプログラム言語であるPureDataを利用してプログラムを行ってみます。
5	ロジック上でのベース音の加工 エンヴェロープ、とフィルタ機能を利用したベース音の加工。
6	ロジック上でのベース音の加工続き エンヴェロープ、とフィルタ機能を利用したベース音の加工 持続時間ないの変化が音色に与える影響について考察し、スキルアップを図る。
7	ドラム音色の加工 フィルターを利用したドラムの音色エディット。
8	パッド系のスイープな音色変化 フィルターのLFO(ロー・フリケンシー・オシレータ）という低い周波数を利用した変化機能を扱います。
9	FM合成 ロジックのFM音源を利用した金属的な音色の作成。 PureDataを利用したFMサウンドの制作。
10	物理モデル音源 近年注目を集めている物理モデル音源について。 物理モデルのシンプルな例であるKarplus-Strong stri ng synthesisをPureDataを使って体験してみましょう。
11	ロジックの搭載されている物理モデル音源Sculptureで のエディットを通じて物理モデル音源を活用します。
12	Sculptureを利用したフルート、チェロ、ギターサウンドの製作と活用。とくにモジュレーションをつかった持続時間内の柔軟でループ再生とは違った変化のある音色の特性についてスキルアップを図ります。
13	AU,VSTマウント 様々な音源をロジックにマウントしてカスタマイズして行く方法。 PureDataで作成した自分のシンセをマウントする方法などについても学習します。
14	オートメーションデータによる、さまざまなパラメータのリアルタイムな変化 ロジック上でのオートメーションの活用法。
15	前期のまとめと復習。 MIDI、DigitalAudioの理論についての復習を兼ねてみなさんの作品を鑑賞し、色々な特性がどのように生かされているかについて見て行きます。

授業計画	
	［後期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） 　音素材に対する適切な処理と編集、各種エフェクトの使用、ミキシングの方法を学び、映像に対する音楽付けの実習を行う。CM映像に対する適切な音楽制作、映像作品のBGM制作など。
1	前期の復習・後期のガイダンス
2	MIDIコンティニュアスコントローライベントの編集
3	Ultrabeatによるドラムのプログラミング より立体的で躍動感のあるドラムパートの作成法
4	オーディオ素材のクリーンアップなど、素材の準備について。 stripsilence、denoiser他の使用、ヴォーカルのピッチ修正やダブルヴォーカルの手法。
5	ミキシング-1 compressor、equalizerの使用、modulation系エフェクトによる帯域コントロールなど。
6	ミキシング-2 パートのグループ化、レヴェル調整、パンニングの設定、最終的な音圧調整など。
7	ムービーのスコア制作実習１。映像作品に対する音楽の役割について考える。ミッシェル・シオンの「映画にとって音とはなにか」勁草書房は大変有意義な本であるので一読をお勧めします。
8	映像作品に対するバックグラウンドミュージックとしての役割、俗に言うミッキマウスダンシングの手法について考えてみます。
9	映像作品に対する音楽と音響の役割の違いについて考え つつ、フレーム外の音が映像に寄与する効果についても 考えながら作品を製作してみます。
10	作品をどのように作ったらよいのか、という一定の法則はないので、個人個人のやり方で音楽と映像について考えながら自分のスタイル、自分の音楽が社会に対してどのように役立ち存在価値をもつかを自分で考えながら作業してもらいます。十分な作業時間を確保できるように考慮する予定でおります。
11	映画の音楽とCMやジングルなどの商品を売ったり、何かの注意を喚起したり、操作にたいしてインターフェースとしての反応を確認するための音、音楽のあり方の違いについて考えながらそのような現場、依頼に即した商品を製作することについて考えながら趣味レーション的な製作を行ってみます。
12	表情というものがどこから生まれ、それがどういう効果を与えるのかを考えながら前期、後期のいままでに学習してきたさまざまなスキルを総合しながら演奏表現のもつ可能性を最大限に生かせるようなデジタル音楽音響製作を行います。
13	ファジーな揺れとと予測可能な周期性がもたらす表情の差というものについて熟考しながら製作を続けていただきます。
14	EQ,音量、フィルターなどのオートメーションを駆使し、人間のフィジカルな演奏行為を観察し、それをどうしたらシミレ＝ションできるかについて考え、あえてそういう方向を否定した場合の作品との差異について考察しながら信念をもって作品を製作して行きます。
15	皆さんの作品がどのようなコンセプトで作られているのか、それを踏まえたうえで、それと作られた結果が同じなのか、あるいはずれているのかを考慮しながら発表を聞いて行きます。

科目名	Ｐｒｏ　Ｔｏｏｌｓ　入門／Ｐｒｏ　Ｔｏｏｌｓ　演習　[火5]						
代表教員	永岡　宏昭	授業コード	GE122700	科目コード	GE1227	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽制作におけるデジタル技術の発展は録音と編集のみならず制作手法や表現手法の可能性も広げてきた。
この授業では近年スタジオワークにおける代表的なソフトウェアとなっているPro Toolsを取り上げ、その概要と実際の操作を学ぶ。
DAWとしての特長を把握し、映像に沿った音声編集を含め音楽制作に有効な音響知識と実践的な応用技術の習得を目標とする。

２．授業概要

デジタルオーディオの知識に始まり、Pro Tools上における実際の操作に関する講義を行う。
テーマ別に実習を設け、オペレーションに有効な音響知識のほか実践的な応用技術を学ぶ。
項目により、映像をソフトウェア上に取り込んで実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間外においても積極的にDAWに触れることで、授業内トピックへの関心を深めて欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
授業内課題（評価の３０％）
前期末課題、後期末実習課題（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内参考文献資料として私製テキストファイル（PDF、プリント）を各項目ごとに配布する。
そのほか要点を書き込みながら使用する実習用ガイドテキストも配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

個人または共同作業における様々な音楽制作環境の中で、どのようにDAWの技術を活用していくのかを思い描きながら参加することが望まれる。なお、履修希望者数によっては履修制限を行うことがある。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	デジタルオーディオについて
3	マルチトラック・レコーディングについて
4	Pro Tools 概要
5	ユーザインターフェイスと基本操作、初期設定
6	レコーディングとプレイバック：セッションとファイルの管理
7	レコーディングとプレイバック：基本編集
8	ミキシング基礎： デシベル表示、周波数分布
9	ミキシング基礎： トラック管理、ルーティング
10	オーディオ編集: 分割、結合、フェード作成
11	オーディオ編集: 時間軸に沿ったアプローチ
12	ポスト・プロダクションについて
13	ポスト・プロダクション実習: ADR、様々な音声要素の扱い
14	ポスト・プロダクション実習: フレーム単位の編集
15	復習、前期末課題

授業計画	
	［後期］
1	MIDI機能: 機能概要、操作、音源
2	MIDI機能: 応用編集による編曲実習
3	プロセッシング： Audio Suite、プラグイン・エフェクト
4	プロセッシング： シグナル処理、レイテンシーとその補正
5	実践ミキシング序章: 聴覚、位相、音像
6	実践ミキシング： 音圧の話、録音用マイクについて
7	実践ミキシング: ダイナミクス系エフェクターの考察
8	実践ミキシング： 空間系系エフェクターの用法
9	実践ミキシング： シチュエーション別応用ルーティング
10	実践ミキシング: 各種メーターの活用
11	同期について
12	オペレーション実習: オートメーション機能の活用
13	オペレーション実習: 歪みの考察
14	後期末実習課題の解説、トピック別編集方法の確認
15	後期末実習課題及びまとめ

科目名	リズムセクション・ライティング　[月4] Aクラス　レベル1						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GE1228A0	科目コード	GE1228	期間	通年
担当教員	菅原　サトル						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽曲制作を行うにあたって、どのようなテンポで、どのようなスタイルのリズム体を使うかという選択は、楽曲のプランニングの骨組みを決定する大事な要素です。新しいリズムのアプローチが次々に登場する現代のポピュラー音楽にとって、リズム体はますます重要な位置を占めるようになっています。リズムセクションに関する情報が不足すると、時代感にマッチせず新鮮味に欠けたり、リズム体の弱い凡庸な楽曲しか制作できないというリスクが出てきます。オーソドックスであっても、斬新なものであっても、意識的に、明確なヴィジョンを持って選択していくことが大切です。

この講義の主題は、さまざまなジャンルのリズムセクションについてのノウハウを深めていくことです。リズムセクションに関する基礎的な知識をつけ、実習を通してさまざまなシチュエーションに触れていきます。知識があまりないか、特定のスタイルに偏っていた状態から、いろいろなアプローチに対する感覚を養い、よりアーティスト／プロデューサー的な広い視点を持つことが目標となります。

2．授業概要

まず楽器のしくみや記譜法、プログラミングの面から、リズムセクションの成り立ちを学びます。さらに、現代のポピュラー音楽で頻繁に使われるスタイルをリストアップし、典型的な作品を分析し、模倣しつつ、プログラミングによって再現していきます。この作業を繰り返すことで、様々なスタイルを経験し、リズム体の組み立てへの理解を深めていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が興味を持ったスタイルについて自分で調べ、理解を深めていくと良いでしょう。最終的には、自分の作品を制作する際に、そういった取材して参照するというノウハウを応用していくことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

・前期課題、後期試験（評価の50%）
・毎回提出する課題の作業内容（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト：随時、必要な資料をクラウドを経由してデータとして配布します。
参考資料：「トラック・メイカーが教えるクラブ・サウンド・テクニック99」「アレンジャーが教える編曲テクニック99」ほか あくまで参考なので購入する必要はありません

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4月最初のコース別ガイダンスにてクラス分けを行うので、必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ＊履修人数によっては、選別テストを行う場合もあります
2	ドラムセット 楽器の成り立ち､奏法と記譜法、マルチマイクのドラムスを観察し、簡易ミックスする
3	マシンドラム リズムマシン、エレドラ、サンプリングマシン等　楽器の成り立ち 奏法
4	エレクトリック・ベースとシンセ・ベース、アコースティック・ベース 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
5	各種パーカッション 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
6	ビート概論　2ビート～16ビート、複合拍子、3拍子、ポリリズム、パラディドル、バウンス、パターンとフィルイン、ブレイク、キメ等
7	20's～50's ドラムセットの成立とドラムビートの確立 スウィング・ジャズ～4ビート・ジャズ、シンバルレガート、ブラシ奏法 ランニングベース 解析とプログラミング
8	60's アメリカン・ポップス モータウン・ビート、サーフ・ミュージック 解析とプログラミング
9	60's～70'sロック／ポップス マッチドグリップとロックドラムの成立 ビートルズとクラシック・ロック 解析とプログラミング
10	60's～70'sファンクとその発展系 ジェームス・ブラウン、P-ファンク、スライ＆ザ・ファミリー・ストーン、TOPほか、解析とプログラミング
11	70'sディスコ、ソウル・ミュージック、ブラック・コンテンポラリー 解析とプログラミング
12	80'sロック／ポップス デジタル機材の登場に伴うドラムサウンドの進化　トリガー、ゲートリバーブ、エレドラ、リズムマシンの登場ほか　解析とプログラミング
13	90'sロック オルタナ、UKロック、ミクスチャー、ビッグビート、いわゆるラウドロック 解析とプログラミング
14	スラップ・ベースの復権 解析とプログラミング
15	最新プラグイン事情 前期課題について

授業計画	
	［後期］
1	ラテンのルーツ／キューバ音楽 ソン、サルサ、メレンゲ、バチャータ等 解析とプログラミング
2	ブラジル音楽 サンバとボサ・ノヴァ リズムのなまりに着目 解析とプログラミング
3	ルーツレゲエ ワンドロップ、スカ、レゲトン、ラヴァーズロック、解析とプログラミング
4	レゲエの発展 ダンスホール、ダブ／ドラムンベース アーメンブレイク 解析とプログラミング
5	トラップ／ダブステップ ベースミュージック 解析とプログラミング
6	80's テクノ・ポップとニューウェーブ クラフトワーク、YMOほか　解析とプログラミング
7	チップチューン Magical 8bit plugを使ってリズム体とサウンドを構築 解析とプログラミング
8	四つ打ちの発展　ディスコ～ハウスからテクノ・トランス～EDMへ ビッグルーム、バウンス、グルーヴハウス、フューチャーハウス、トロピカルハウス等 解析とプログラミング
9	オールドスクール系ヒップホップ　ターンテーブル、ブレイクビーツ、サンプリングマシン 定番ブレイク（アーメン、think、ファンキードラマー他）を使ってトラックを作ってみる
10	R&B 解析とプログラミング
11	ポストロック、テクニカル系、プログレやサウンドトラックで使われる変拍子とポリリズム　解析とプログラミング
12	アイリッシュ・ケルトミュージック 解析とプログラミング
13	エスニック・パーカッションを使ったリズム体　中東、アジア、アフリカ　解析とプログラミング
14	ミリタリー・マーチ 解析とプログラミング
15	トレーラーミュージック 解析とプログラミング

科目名	リズムセクション・ライティング　[水4] Bクラス　レベル3						
代表教員	菅原　サトル	授業コード	GE1228B0	科目コード	GE1228	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽曲制作を行うにあたって、どのようなテンポで、どのようなスタイルのリズム体を使うかという選択は、楽曲のプランニングの骨組みを決定する大事な要素です。新しいリズムのアプローチが次々に登場する現代のポピュラー音楽にとって、リズム体はますます重要な位置を占めるようになっています。リズムセクションに関する情報が不足すると、時代感にマッチせず新鮮味に欠けたり、リズム体の弱い凡庸な楽曲しか制作できないというリスクが出てきます。オーソドックスであっても、斬新なものであっても、意識的に、明確なヴィジョンを持って選択していくことが大切です。

この講義の主題は、さまざまなジャンルのリズムセクションについてのノウハウを深めていくことです。リズムセクションに関する基礎的な知識をつけ、実習を通してさまざまなシチュエーションに触れていきます。知識があまりないか、特定のスタイルに偏っていた状態から、いろいろなアプローチに対する感覚を養い、よりアーティスト／プロデューサー的な広い視点を持つことが目標となります。

2．授業概要

まず楽器のしくみや記譜法、プログラミングの面から、リズムセクションの成り立ちを学びます。さらに、現代のポピュラー音楽で頻繁に使われるスタイルをリストアップし、典型的な作品を分析し、模倣しつつ、プログラミングによって再現していきます。この作業を繰り返すことで、様々なスタイルを経験し、リズム体の組み立てへの理解を深めていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が興味を持ったスタイルについて自分で調べ、理解を深めていくと良いでしょう。最終的には、自分の作品を制作する際に、そういった取材して参照するというノウハウを応用していくことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

・前期課題、後期試験（評価の50%）
・毎回提出する課題の作業内容（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト：随時、必要な資料をクラウドを経由してデータとして配布します。
参考資料：「トラック・メイカーが教えるクラブ・サウンド・テクニック99」「アレンジャーが教える編曲テクニック99」ほか あくまで参考なので購入する必要はありません

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4月最初のコース別ガイダンスにてクラス分けを行うので、必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ＊履修人数によっては、選別テストを行う場合もあります
2	ドラムセット 楽器の成り立ち､奏法と記譜法、マルチマイクのドラムスを観察し、簡易ミックスする
3	マシンドラム リズムマシン、エレドラ、サンプリングマシン等　楽器の成り立ち 奏法
4	エレクトリック・ベースとシンセ・ベース、アコースティック・ベース 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
5	各種パーカッション 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
6	ビート概論　2ビート～16ビート、複合拍子、3拍子、ポリリズム、パラディドル、バウンス、パターンとフィルイン、ブレイク、キメ等
7	20's～50's ドラムセットの成立とドラムビートの確立 スウィング・ジャズ～4ビート・ジャズ、シンバルレガート、ブラシ奏法 ランニングベース 解析とプログラミング
8	60's アメリカン・ポップス モータウン・ビート、サーフ・ミュージック 解析とプログラミング
9	60's～70'sロック／ポップス マッチドグリップとロックドラムの成立 ビートルズとクラシック・ロック 解析とプログラミング
10	60's～70'sファンクとその発展系 ジェームス・ブラウン、P-ファンク、スライ＆ザ・ファミリー・ストーン、TOPほか、解析とプログラミング
11	70'sディスコ、ソウル・ミュージック、ブラック・コンテンポラリー 解析とプログラミング
12	80'sロック／ポップス デジタル機材の登場に伴うドラムサウンドの進化　トリガー、ゲートリバーブ、エレドラ、リズムマシンの登場ほか　解析とプログラミング
13	90'sロック オルタナ、UKロック、ミクスチャー、ビッグビート、いわゆるラウドロック 解析とプログラミング
14	スラップ・ベースの復権 解析とプログラミング
15	最新プラグイン事情 前期課題について

授業計画	
	［後期］
1	ラテンのルーツ／キューバ音楽 ソン、サルサ、メレンゲ、バチャータ等 解析とプログラミング
2	ブラジル音楽 サンバとボサ・ノヴァ リズムのなまりに着目 解析とプログラミング
3	ルーツレゲエ ワンドロップ、スカ、レゲトン、ラヴァーズロック、解析とプログラミング
4	レゲエの発展 ダンスホール、ダブ／ドラムンベース アーメンブレイク 解析とプログラミング
5	トラップ／ダブステップ ベースミュージック 解析とプログラミング
6	80's テクノ・ポップとニューウェーブ クラフトワーク、YMOほか　解析とプログラミング
7	チップチューン Magical 8bit plugを使ってリズム体とサウンドを構築 解析とプログラミング
8	四つ打ちの発展　ディスコ～ハウスからテクノ・トランス～EDMへ ビッグルーム、バウンス、グルーヴハウス、フューチャーハウス、トロピカルハウス等 解析とプログラミング
9	オールドスクール系ヒップホップ　ターンテーブル、ブレイクビーツ、サンプリングマシン 定番ブレイク（アーメン、think、ファンキードラマー他）を使ってトラックを作ってみる
10	R&B 解析とプログラミング
11	ポストロック、テクニカル系、プログレやサウンドトラックで使われる変拍子とポリリズム　解析とプログラミング
12	アイリッシュ・ケルトミュージック 解析とプログラミング
13	エスニック・パーカッションを使ったリズム体　中東、アジア、アフリカ　解析とプログラミング
14	ミリタリー・マーチ 解析とプログラミング
15	トレーラーミュージック 解析とプログラミング

科目名	リズムセクション・ライティング　[木3] Cクラス　レベル2						
代表教員	永岡　宏昭	授業コード	GE1228C0	科目コード	GE1228	期間	通年
担当教員	菅原　サトル						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽曲制作を行うにあたって、どのようなテンポで、どのようなスタイルのリズム体を使うかという選択は、楽曲のプランニングの骨組みを決定する大事な要素です。新しいリズムのアプローチが次々に登場する現代のポピュラー音楽にとって、リズム体はますます重要な位置を占めるようになっています。リズムセクションに関する情報が不足すると、時代感にマッチせず新鮮味に欠けたり、リズム体の弱い凡庸な楽曲しか制作できないというリスクが出てきます。オーソドックスであっても、斬新なものであっても、意識的に、明確なヴィジョンを持って選択していくことが大切です。

この講義の主題は、さまざまなジャンルのリズムセクションについてのノウハウを深めていくことです。リズムセクションに関する基礎的な知識をつけ、実習を通してさまざまなシチュエーションに触れていきます。知識があまりないか、特定のスタイルに偏っていた状態から、いろいろなアプローチに対する感覚を養い、よりアーティスト／プロデューサー的な広い視点を持つことが目標となります。

2．授業概要

まず楽器のしくみや記譜法、プログラミングの面から、リズムセクションの成り立ちを学びます。さらに、現代のポピュラー音楽で頻繁に使われるスタイルをリストアップし、典型的な作品を分析し、模倣しつつ、プログラミングによって再現していきます。この作業を繰り返すことで、様々なスタイルを経験し、リズム体の組み立てへの理解を深めていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が興味を持ったスタイルについて自分で調べ、理解を深めていくと良いでしょう。最終的には、自分の作品を制作する際に、そういった取材して参照するというノウハウを応用していくことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

・前期課題、後期試験（評価の50%）
・毎回提出する課題の作業内容（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト：随時、必要な資料をクラウドを経由してデータとして配布します。
参考資料：「トラック・メイカーが教えるクラブ・サウンド・テクニック99」「アレンジャーが教える編曲テクニック99」ほか あくまで参考なので購入する必要はありません

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4月最初のコース別ガイダンスにてクラス分けを行うので、必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ＊履修人数によっては、選別テストを行う場合もあります
2	ドラムセット 楽器の成り立ち､奏法と記譜法、マルチマイクのドラムスを観察し、簡易ミックスする
3	マシンドラム リズムマシン、エレドラ、サンプリングマシン等　楽器の成り立ち 奏法
4	エレクトリック・ベースとシンセ・ベース、アコースティック・ベース 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
5	各種パーカッション 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
6	ビート概論　2ビート～16ビート、複合拍子、3拍子、ポリリズム、パラディドル、バウンス、パターンとフィルイン、ブレイク、キメ等
7	20's～50's ドラムセットの成立とドラムビートの確立 スウィング・ジャズ～4ビート・ジャズ、シンバルレガート、ブラシ奏法 ランニングベース 解析とプログラミング
8	60's アメリカン・ポップス モータウン・ビート、サーフ・ミュージック 解析とプログラミング
9	60's～70'sロック／ポップス マッチドグリップとロックドラムの成立 ビートルズとクラシック・ロック 解析とプログラミング
10	60's～70'sファンクとその発展系 ジェームス・ブラウン、P-ファンク、スライ＆ザ・ファミリー・ストーン、TOPほか、解析とプログラミング
11	70'sディスコ、ソウル・ミュージック、ブラック・コンテンポラリー 解析とプログラミング
12	80'sロック／ポップス デジタル機材の登場に伴うドラムサウンドの進化　トリガー、ゲートリバーブ、エレドラ、リズムマシンの登場ほか　解析とプログラミング
13	90'sロック オルタナ、UKロック、ミクスチャー、ビッグビート、いわゆるラウドロック 解析とプログラミング
14	スラップ・ベースの復権 解析とプログラミング
15	最新プラグイン事情 前期課題について

授業計画	
	［後期］
1	ラテンのルーツ／キューバ音楽 ソン、サルサ、メレンゲ、バチャータ等 解析とプログラミング
2	ブラジル音楽 サンバとボサ・ノヴァ リズムのなまりに着目 解析とプログラミング
3	ルーツレゲエ ワンドロップ、スカ、レゲトン、ラヴァーズロック、解析とプログラミング
4	レゲエの発展 ダンスホール、ダブ／ドラムンベース アーメンブレイク 解析とプログラミング
5	トラップ／ダブステップ ベースミュージック 解析とプログラミング
6	80's テクノ・ポップとニューウェーブ クラフトワーク、YMOほか　解析とプログラミング
7	チップチューン Magical 8bit plugを使ってリズム体とサウンドを構築 解析とプログラミング
8	四つ打ちの発展　ディスコ～ハウスからテクノ・トランス～EDMへ ビッグルーム、バウンス、グルーヴハウス、フューチャーハウス、トロピカルハウス等 解析とプログラミング
9	オールドスクール系ヒップホップ　ターンテーブル、ブレイクビーツ、サンプリングマシン 定番ブレイク（アーメン、think、ファンキードラマー他）を使ってトラックを作ってみる
10	R&B 解析とプログラミング
11	ポストロック、テクニカル系、プログレやサウンドトラックで使われる変拍子とポリリズム　解析とプログラミング
12	アイリッシュ・ケルトミュージック 解析とプログラミング
13	エスニック・パーカッションを使ったリズム体　中東、アジア、アフリカ　解析とプログラミング
14	ミリタリー・マーチ 解析とプログラミング
15	トレーラーミュージック 解析とプログラミング

科目名	リズムセクション・ライティング　[金4] Dクラス　レベル2						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GE1228D0	科目コード	GE1228	期間	通年
担当教員	菅原　サトル						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽曲制作を行うにあたって、どのようなテンポで、どのようなスタイルのリズム体を使うかという選択は、楽曲のプランニングの骨組みを決定する大事な要素です。新しいリズムのアプローチが次々に登場する現代のポピュラー音楽にとって、リズム体はますます重要な位置を占めるようになっています。リズムセクションに関する情報が不足すると、時代感にマッチせず新鮮味に欠けたり、リズム体の弱い凡庸な楽曲しか制作できないというリスクが出てきます。オーソドックスであっても、斬新なものであっても、意識的に、明確なヴィジョンを持って選択していくことが大切です。

この講義の主題は、さまざまなジャンルのリズムセクションについてのノウハウを深めていくことです。リズムセクションに関する基礎的な知識をつけ、実習を通してさまざまなシチュエーションに触れていきます。知識があまりないか、特定のスタイルに偏っていた状態から、いろいろなアプローチに対する感覚を養い、よりアーティスト／プロデューサー的な広い視点を持つことが目標となります。

2．授業概要

まず楽器のしくみや記譜法、プログラミングの面から、リズムセクションの成り立ちを学びます。さらに、現代のポピュラー音楽で頻繁に使われるスタイルをリストアップし、典型的な作品を分析し、模倣しつつ、プログラミングによって再現していきます。この作業を繰り返すことで、様々なスタイルを経験し、リズム体の組み立てへの理解を深めていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が興味を持ったスタイルについて自分で調べ、理解を深めていくと良いでしょう。最終的には、自分の作品を制作する際に、そういった取材して参照するというノウハウを応用していくことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

・前期課題、後期試験（評価の50%）
・毎回提出する課題の作業内容（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト：随時、必要な資料をクラウドを経由してデータとして配布します。
参考資料：「トラック・メイカーが教えるクラブ・サウンド・テクニック99」「アレンジャーが教える編曲テクニック99」ほか あくまで参考なので購入する必要はありません

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4月最初のコース別ガイダンスにてクラス分けを行うので、必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ＊履修人数によっては、選別テストを行う場合もあります
2	ドラムセット 楽器の成り立ち､奏法と記譜法、マルチマイクのドラムスを観察し、簡易ミックスする
3	マシンドラム リズムマシン、エレドラ、サンプリングマシン等　楽器の成り立ち 奏法
4	エレクトリック・ベースとシンセ・ベース、アコースティック・ベース 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
5	各種パーカッション 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
6	ビート概論　2ビート～16ビート、複合拍子、3拍子、ポリリズム、パラディドル、バウンス、パターンとフィルイン、ブレイク、キメ等
7	20's～50's ドラムセットの成立とドラムビートの確立 スウィング・ジャズ～4ビート・ジャズ、シンバルレガート ランニングベース 解析とプログラミング
8	60's アメリカン・ポップス モータウン・ビート、サーフ・ミュージック 解析とプログラミング
9	60's～70'sロック／ポップス マッチドグリップとロックドラムの成立 ビートルズとクラシック・ロック 解析とプログラミング
10	60's～70'sファンクとその発展系 ジェームス・ブラウン、P-ファンク、スライ＆ザ・ファミリー・ストーン、TOPほか、解析とプログラミング
11	70'sディスコ、ソウル・ミュージック、ブラック・コンテンポラリー 解析とプログラミング
12	80'sロック／ポップス デジタル機材の登場に伴うドラムサウンドの進化　トリガー、ゲートリバーブ、エレドラ、リズムマシンの登場ほか　解析とプログラミング
13	90'sロック オルタナ、UKロック、ミクスチャー、ビッグビート、いわゆるラウドロック 解析とプログラミング
14	スラップ・ベースの復権 解析とプログラミング
15	最新プラグイン事情 前期課題について

授業計画	
	［後期］
1	ラテンのルーツ／キューバ音楽 ソン、サルサ、メレンゲ、バチャータ等 解析とプログラミング
2	ブラジル音楽 サンバとボサ・ノヴァ リズムのなまりに着目 解析とプログラミング
3	ルーツレゲエ ワンドロップ、スカ、レゲトン、ラヴァーズロック、解析とプログラミング
4	レゲエの発展 ダンスホール、ダブ／ドラムンベース アーメンブレイク 解析とプログラミング
5	トラップ／ダブステップ ベースミュージック 解析とプログラミング
6	80's テクノ・ポップとニューウェーブ クラフトワーク、YMOほか　解析とプログラミング
7	チップチューン Magical 8bit plugを使ってリズム体とサウンドを構築 解析とプログラミング
8	四つ打ちの発展　ディスコ～ハウスからテクノ・トランス～EDMへ ビッグルーム、バウンス、グルーヴハウス、フューチャーハウス、トロピカルハウス等 解析とプログラミング
9	オールドスクール系ヒップホップ　ターンテーブル、ブレイクビーツ、サンプリングマシン 定番ブレイク（アーメン、think、ファンキードラマー他）を使ってトラックを作ってみる
10	R&B 解析とプログラミング
11	ポストロック、テクニカル系、プログレやサウンドトラックで使われる変拍子とポリリズム　解析とプログラミング
12	アイリッシュ・ケルトミュージック 解析とプログラミング
13	エスニック・パーカッションを使ったリズム体　中東、アジア、アフリカ　解析とプログラミング
14	ミリタリー・マーチ 解析とプログラミング
15	トレーラーミュージック 解析とプログラミング

科目名	リズムセクション・ライティング　[火4] Eクラス　レベル1						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GE1228E0	科目コード	GE1228	期間	通年
担当教員	菅原　サトル						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽曲制作を行うにあたって、どのようなテンポで、どのようなスタイルのリズム体を使うかという選択は、楽曲のプランニングの骨組みを決定する大事な要素です。新しいリズムのアプローチが次々に登場する現代のポピュラー音楽にとって、リズム体はますます重要な位置を占めるようになっています。リズムセクションに関する情報が不足すると、時代感にマッチせず新鮮味に欠けたり、リズム体の弱い凡庸な楽曲しか制作できないというリスクが出てきます。オーソドックスであっても、斬新なものであっても、意識的に、明確なヴィジョンを持って選択していくことが大切です。

この講義の主題は、さまざまなジャンルのリズムセクションについてのノウハウを深めていくことです。リズムセクションに関する基礎的な知識をつけ、実習を通してさまざまなシチュエーションに触れていきます。知識があまりないか、特定のスタイルに偏っていた状態から、いろいろなアプローチに対する感覚を養い、よりアーティスト／プロデューサー的な広い視点を持つことが目標となります。

2．授業概要

まず楽器のしくみや記譜法、プログラミングの面から、リズムセクションの成り立ちを学びます。さらに、現代のポピュラー音楽で頻繁に使われるスタイルをリストアップし、典型的な作品を分析し、模倣しつつ、プログラミングによって再現していきます。この作業を繰り返すことで、様々なスタイルを経験し、リズム体の組み立てへの理解を深めていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が興味を持ったスタイルについて自分で調べ、理解を深めていくと良いでしょう。最終的には、自分の作品を制作する際に、そういった取材して参照するというノウハウを応用していくことが望まれます。

4．成績評価の方法及び基準

・前期課題、後期試験（評価の50%）
・毎回提出する課題の作業内容（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト：随時、必要な資料をクラウドを経由してデータとして配布します。
参考資料：「トラック・メイカーが教えるクラブ・サウンド・テクニック99」「アレンジャーが教える編曲テクニック99」ほか あくまで参考なので購入する必要はありません

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4月最初のコース別ガイダンスにてクラス分けを行うので、必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ＊履修人数によっては、選別テストを行う場合もあります
2	ドラムセット 楽器の成り立ち､奏法と記譜法、マルチマイクのドラムスを観察し、簡易ミックスする
3	マシンドラム リズムマシン、エレドラ、サンプリングマシン等　楽器の成り立ち 奏法
4	エレクトリック・ベースとシンセ・ベース、アコースティック・ベース 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
5	各種パーカッション 楽器の成り立ち、奏法と記譜法
6	ビート概論　2ビート～16ビート、複合拍子、3拍子、ポリリズム、パラディドル、バウンス、パターンとフィルイン、ブレイク、キメ等
7	20's～50's ドラムセットの成立とドラムビートの確立 スウィング・ジャズ～4ビート・ジャズ、シンバルレガート、ブラシ奏法 ランニングベース 解析とプログラミング
8	60's アメリカン・ポップス モータウン・ビート、サーフ・ミュージック 解析とプログラミング
9	60's～70'sロック／ポップス マッチドグリップとロックドラムの成立 ビートルズとクラシック・ロック 解析とプログラミング
10	60's～70'sファンクとその発展系 ジェームス・ブラウン、P-ファンク、スライ＆ザ・ファミリー・ストーン、TOPほか、解析とプログラミング
11	70'sディスコ、ソウル・ミュージック、ブラック・コンテンポラリー 解析とプログラミング
12	80'sロック／ポップス デジタル機材の登場に伴うドラムサウンドの進化　トリガー、ゲートリバーブ、エレドラ、リズムマシンの登場ほか　解析とプログラミング
13	90'sロック オルタナ、UKロック、ミクスチャー、ビッグビート、いわゆるラウドロック 解析とプログラミング
14	スラップ・ベースの復権 解析とプログラミング
15	最新プラグイン事情 前期課題について

授業計画	
	［後期］
1	ラテンのルーツ／キューバ音楽 ソン、サルサ、メレンゲ、バチャータ等 解析とプログラミング
2	ブラジル音楽 サンバとボサ・ノヴァ リズムのなまりに着目 解析とプログラミング
3	ルーツレゲエ ワンドロップ、スカ、レゲトン、ラヴァーズロック、解析とプログラミング
4	レゲエの発展 ダンスホール、ダブ／ドラムンベース アーメンブレイク 解析とプログラミング
5	トラップ／ダブステップ ベースミュージック 解析とプログラミング
6	80's テクノ・ポップとニューウェーブ クラフトワーク、YMOほか　解析とプログラミング
7	チップチューン Magical 8bit plugを使ってリズム体とサウンドを構築 解析とプログラミング
8	四つ打ちの発展　ディスコ～ハウスからテクノ・トランス～EDMへ ビッグルーム、バウンス、グルーヴハウス、フューチャーハウス、トロピカルハウス等 解析とプログラミング
9	オールドスクール系ヒップホップ　ターンテーブル、ブレイクビーツ、サンプリングマシン 定番ブレイク（アーメン、think、ファンキードラマー他）を使ってトラックを作ってみる
10	R&B 解析とプログラミング
11	ポストロック、テクニカル系、プログレやサウンドトラックで使われる変拍子とポリリズム　解析とプログラミング
12	アイリッシュ・ケルトミュージック 解析とプログラミング
13	エスニック・パーカッションを使ったリズム体　中東、アジア、アフリカ　解析とプログラミング
14	ミリタリー・マーチ 解析とプログラミング
15	トレーラーミュージック 解析とプログラミング

科目名	オーケストラ・ライティング　[木5]						
代表教員	山下　康介	授業コード	GE123300	科目コード	GE1233	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

２管編成オーケストラを中心に、さまざまなオーケストレーションのスタイルを学び、シンフォニックな作編曲技術を習得する。

２．授業概要

まず、オーケストラでの使用楽器についての理解を深め、シチュエーションによる効果的な使用方法を学ぶ。
その上で、　ジャンルを問わず、シンフォニックな作品の分析と作編曲実習を、DAW上でのシミュレーションを含めて行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

管弦楽法の参考書等を各自で学習すると同時に、著名な楽曲のオーケストラスコアリーディングと、DAWによる音源シミュレーションを行う。

４．成績評価の方法及び基準

2管編成オーケストラを基準とした、オリジナル作品（アレンジも可）のスコア＆demo音源提出（評価の60%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・管弦楽法（ウォルター・ピストン 著）
・管弦楽技法（ゴードン・ヤコブ 著）
・管絃楽法（伊福部昭 著）
ほか

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日常的に各自でオーケストラ作品の視聴および、オーケストラスコアを読む習慣を身につけるように。
Finaleなどの譜面作成ソフトを使用できるよう、各自で訓練をするように。

授業計画	
	［前期］ オーケストラの編成や歴史などの概論と、弦楽器を中心としたオーケストレーションを学ぶ。
1	「オーケストラ概論」 オーケストラの歴史や、その楽器編成の変遷など、各時代の楽曲を参考に、オーケストラの魅力を学ぶ。
2	「弦楽器（１）ヴァイオリン」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ。
3	「弦楽器（２）ヴィオラ」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ。
4	「弦楽器（3）チェロ」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ。
5	「弦楽器（4）コントラバス」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ。
6	「ユニゾンとディヴィジについて」 弦楽器における声部の書法の基礎を学ぶ。
7	「旋律におけるオーケストレーション（弦楽器）」 メロディを演奏する際のアイディア等、弦楽器ならではのアプローチを習得する。
8	「ハーモニーにおけるオーケストレーション（弦楽器）」 ハーモニーを弦楽器で演奏する際のアイディア等、ならではのアプローチを習得する。
9	「弦楽四重奏および八重奏などの楽曲について」 弦楽オーケストラとの書法の違いを学ぶ。
10	「スコアリーディング実習（バロック～古典派）」 既存楽曲のスコアを使用し、弦楽器のオーケストレーションの分析を行う。
11	「スコアリーディング実習（ロマン派～近現代）」 既存楽曲のスコアを使用し、弦楽器のオーケストレーションの分析を行う。
12	「弦楽器のライティング実習（１）」 既存ピアノ曲から弦楽アンサンブルへの編曲を試みる。
13	「弦楽器のライティング実習（２）」 現代におけるさまざまなスタイルの楽曲を、弦楽アンサンブルに編曲するアイディアを学ぶ。
14	「スタジオRec.における編成について（弦楽セクション）」 ６型や４型を中心にしたオーケストレーションのアイディアを習得する。
15	「前期の総括、および作品の提出と添削」 弦楽アンサンブルを用いたオリジナル、あるいは編曲作品のスコア&demoを作成し、提出する。

授業計画	
	［後期］ 木管、金管、打楽器、ハープ、それぞれについての用法と、フル編成のオーケストレーションを学ぶ。
1	「木管楽器（１）フルート属とクラリネット属」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ。
2	「木管楽器（２）ダブル・リード属」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ。
3	「木管楽器のオーケストレーション」 フルート、オーボエ、クラリネット、バスーンを中心とした、基礎的な木管アンサンブルの書法を学ぶ。
4	「金管楽器（１）トランペット」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ。
5	「金管楽器（２）ホルン」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ。
6	「金管楽器（３）トロンボーン・テューバ」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ。
7	「金管楽器のオーケストレーション」 金管アンサンブルのアイディア、ファンファーレなどの書法を学ぶ。
8	「ハープ」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ
9	「ティンパニ、パーカッション」 音域とその音色、楽器の特徴、またその使用方法などを学ぶ。
10	「吹奏楽について（管楽器によるアンサンブル）」 管弦楽とは違う各楽器の書法について、研究する。
11	「スコアリーディング実習（バロック～近現代）」 既存楽曲のスコアを使用し、フルオーケストラのオーケストレーションの分析を行う。
12	「フルオーケストラのライティング実習（１）」 既存ピアノ曲から２管編成オーケストラへの編曲を試みる。
13	「フルオーケストラのライティング実習（2）」 現代におけるさまざまなスタイルの楽曲を、２管編成オーケストラに編曲するアイディアを学ぶ。
14	「オーケストラによるレコーディングについて」 劇伴音楽でのオーケストラの使用法や、日本および海外でのオーケストラレコーディング事情について学ぶ。
15	「統括、および作品の提出と添削」 ２管編成オーケストラを用いたオリジナル、あるいは編曲作品のスコア＆demoを作成し、提出する。

科目名	映像実習／ＷＥＢデザイン実習　［金5］						
代表教員	舘田　ゆり	授業コード	GE123400	科目コード	GE1234	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・Webサイトを一人で制作できる基本的な知識、技術、考え方を学ぶ。

・Webサイト制作に使用するソフトウェアの操作方法を学ぶ。

・誰に、何を、どう伝えたいかを明確にし、Webサイトを通じて伝えられるようになる。

・クリエイターとして必要となる、自ら発信する力（プロデュース、アピールの方法）を身につける。

２．授業概要

Web業界は、変化のスピードが早い業界です。時代の流れに左右されない基礎的な技術、考え方を身につけます。

授業の流れとしては、前半に知識・技術を学び、後半は実際に手を動かして制作演習を行います。
授業内では、随時Web業界の最新情報・トレンドを紹介します。事例を元に、グループディスカッションを実施し、理解を深めます。

＜使用ソフト＞ Adobe Dreamweaver / Photoshop / illustrator 他

一年間の授業を通じて、自らが決めたテーマで2つのWebサイトを制作します。
前期と後期の授業最終回に、制作したWebサイトを発表することで、課題提出とします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学習した知識は、実践が伴わなければ定着しないため、授業内で提示する課題の復習をすることをお勧めします。毎回の予習には 90 分程度の時間がかかることが想定されます。

４．成績評価の方法及び基準

授業内課題の達成度評価（評価の25%）
授業への参加姿勢（評価の25%）
課題提出（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書は特に使用せず、授業中に資料をプリントまたはPDFで配布します。
参考図書は、随時授業内で紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータ（Mac）基本操作に習熟していることが望ましい。
コンピューターの台数が限られているため、履修制限する場合があります。

提出課題に対するフィードバック：洗足メールにてコメントを返します。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	[Webサイト概論] ・インターネットの基礎（歴史と変遷、仕組み） ・Webサイトとは ・ドメインとは ・インターネットでできること ・Webに関わる職種 ・Web制作演習について
3	[Webサイトの設計-1] ・Webデザインの基礎知識 ・制作工程 ・Webサイトにおける「戦略」とは ・コンセプトシート（戦略シート）について ・「良いサイト」とは
4	[Webサイトの設計-2] ・Webサイトの構成 ・Webサイトのレイアウト ・スマートフォン対応(レスポンシブ・ウェブデザイン) ・設計書（ワイヤーフレーム）の書き方 ・キーワードの書き出し，サイト名
5	[HTML] ・HTML言語の基礎 ・HTML演習
6	[CSS-1] ・Webを彩るCSS言語の基礎 ・CSS演習
7	[CSS-2 / 配色の基礎] ・テンプレートファイルの構造 ・Webサイトの配色
8	[コーディング-1] ・フォント、カラー設定 ・ページ制作の工夫(読みやすさ、内容) ・テンプレートファイルのカスタマイズ
9	[コーディング-2] ・Webサイトの装飾 ・画像素材の選定 ・テンプレートファイルのカスタマイズ
10	[HTML/CSS 制作演習-1] ・コンセプトシートを元にした、Web制作の実践 ・テンプレートのカスタマイズ（配色 / レイアウト） ・コンテンツ制作の基礎
11	[illustrator] ・illustratorの基礎 ・illustratorで図形を描く（パスとベジェ曲線） ・Webサイトのロゴ制作演習
12	[画像制作-1] ・Photoshopの基礎（基本動作、レイヤー） ・画像ファイル形式(GIF、PNG、JPEG) ・オンラインサービス / ジェネレーターの紹介 ・画像ファイルの書き出し ・画像制作演習
13	[画像制作-2] ・illustratorとPhotoshopの作業連携 ・バナー制作演習
14	[HTML/CSS 制作演習-2] ・素材の配置（画像 / 動画 / SNS）
15	・制作物発表 ・前期の振り返り

授業計画	
	［後期］
1	・後期ガイダンス ・Webデザインと著作権
2	[コンテンツの企画] ・コンセプト / ターゲットの決定 ・表現の一貫性を保つための表現スタイルとルール作り（トーン＆マナー） ・Webサイトの構成（原稿、レイアウト設計）
3	[Webサイトの表現とCMS-1] ・CMS (Content Management System) ・Word Press, 無料ツール(Jimdo、Wixなど)
4	[コンテンツ制作] ・コンテンツ制作演習 ・閲覧者に配慮したデザインとは (UI / UX) ・HTML / CSS の復習
5	[JavaScript-1] ・Javascript / jQueryの基礎 ・JavaScript演習
6	[JavaScript-2] ・Javascript / jQueryの導入方法 ・JavaScript演習
7	[アニメーション表現] ・Webデザインにおける”動き”の変遷 ・アニメーションの基本
8	[HTML5 と動画] ・Flashに代わる技術 (HTML5, 動画) ・GIF動画 / HTML5動画の制作演習
9	[制作演習-1] ・コンセプトシートを意識したWebデザイン制作
10	[Webサイトの表現とCMS-2] ・ECサイト, LPページ（ランディングページ） ・ブログ, SNS, ・お問い合わせページ
11	[制作演習-2] ・コンテンツの作り込み ・Webデザイン演習
12	[Webサイト公開] ・サーバの選定 ・FTPソフト操作（ファイルアップロード / 表示確認）
13	[Webサイト公開後の活用] ・運用 / 更新 / 検証 / 効果測定 ・アクセス解析(Google Analytics)
14	[SNSの活用] ・Twitter / Instagram / Facebook などの特徴 ・SNSの特徴を生かした、効果的な活用方法
15	・制作物発表 ・作品講評 / 総括

科目名	Ｍａｘ／ＭＳＰ演習　[火3]						
代表教員	仲井　朋子	授業コード	GE123500	科目コード	GE1235	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	CO・SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コンピュータを使用した様々なスタイルの音楽作品について理解を深め、実際に作品制作をすることで音楽表現の可能性を広げる。作品制作には音楽／映像／マルチメディア用の統合開発環境である Max 7を使用し、公開形式で成果発表を行う。

２．授業概要

授業計画に沿って主にオーディオ・プログラミングの基礎を習得し、インタラクティヴなシステム構築とそれを使用したライブまたはインスタレーションなどの作品制作を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

１回の授業で学んだ内容はその日限りではなく、作品発表をするまで必要なスキルである。毎週の授業の積み重ねがあっての最終発表になるため、また授業外でも創りたいものを自由に作れるようになるために、身につくまで反復練習して欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
課題の提出と、前・後期の成果発表（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料を提供する。
『Maxの教科書』ノイマンピアノ著（Rittor Music）
『2061 : Maxオデッセイ』ノイマンピアノ著（Rittor Music）
『コンピュータ音楽 - 歴史・テクノロジー・アート』Curtis Roads 著（東京電機大学出版局）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１年生や他コースの学生も、DAWを使用した作品制作が一通り出来るスキルを要します。
初回のガイダンスで実際にMaxプログラミングを体験し、自身のスキルと適正を確認してから履修登録すること。
聴講は基本的に認められません。

授業計画	
	［前期］
1	〔ガイダンス〕 Maxで創るということ　/ プログラミング体験
2	〔Maxプログラミング基礎〕 基本的な操作方法とオブジェクト群の理解 MIDI、演算、コントロール系プログラミングの習得
3	〔MSPプログラミング基礎とシンセシス1〕 オシレーターを使用したオーディオプログラミングと加算合成
4	〔シンセシス2〕 オシレーターの応用と、AM、FM、RMなどの変調合成
5	〔シンセシス3〕 フィルターの制作と減算合成
6	〔Maxプログラミングの応用〕 パッチャー、サブ・パッチ、それに伴うパッチコードを使用せずに信号を送受信する方法
7	〔MSPプログラミングの応用１〕 FM音源のポリフォニック化
8	〔エフェクター制作１〕 マイクロフォンなど外部からのオーディオ信号を扱う方法と、ディレイの基礎と応用
9	〔エフェクター制作２〕 フランジャー、コーラスなど、ディレイを応用したエフェクター類の制作
10	〔サンプリング１〕 ハードディスク・ベースのサンプリングと、メモリー・ベースでのサンプリングの基礎
11	〔サンプリング２〕 メモリー・ベース・サンプリングでの様々なプレイバック方法と自作サンプラーの作成
12	〔課題制作１〕 パフォーマンスシステムを使用した作品制作　ー複数のシステムを組み合わせる方法
13	〔課題制作２〕 パフォーマンスシステムを使用した作品制作　ー時間的な変化を制御する方法
14	〔課題制作３〕 パフォーマンスシステムを使用した作品制作　ー仕上げ
15	〔作品発表〕前期作品発表

授業計画	
	［後期］
1	〔Maxプログラミングの応用2〕 複数データを扱うためのコントロール系オブジェクトの紹介と、ポリフォニックなプログラムとの連携
2	〔空間処理１〕 空間処理プログラム制作 － パンニング
3	〔空間処理２〕 空間処理プログラム制作 － リバーブ
4	〔グラニュラー・サンプリング１〕 グラニュラー・サンプリングの原理とグレインの制作
5	〔グラニュラー・サンプリング2〕 グラニュラー・サンプリングの制作と基本的な制御方法
6	〔グラニュラー・サンプリング3〕 グラニュラー・サンプリングの応用
7	〔スペクトル解析1〕 高速フーリエ変換の概要と　、スペクトル解析プログラムの制作
8	〔スペクトル解析2〕 スペクトル解析を使用したインタラクティヴシステムの制作
9	〔インタラクティヴシステム１〕 画像処理ライブラリ（Jitter, CV）とオーディオプログラムを相互に組み合わせたインタラクティヴシステムの制作
10	〔インタラクティヴシステム２〕 ネットワークプロトコル（Open Sound Control）を 介したインタラクティヴシステムの制作
11	〔インタラクティヴシステム3〕 スマートフォンアプリを使用した インタラクティヴシステムの制作
12	〔パフォーマンスシステムの構築〕 オリジナルのリアルタイム・パフォーマンスシステムの構築 ―プログラムの統合
13	〔作品制作１〕 オリジナルのリアルタイム・パフォーマンスシステムを使用した作品制作　―作品コンセプトの考え方
14	〔作品制作３〕 オリジナルのリアルタイム・パフォーマンスシステムを使用した作品制作 ―仕上げ
15	〔作品発表〕後期作品発表

科目名	コンピュータ音楽表現　[月5]						
代表教員	森　威功	授業コード	GE123600	科目コード	GE1236	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM・JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習Ｉ」および「音楽プログラミング入門」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

メディア系プログラミングツールであるCycling'74 Max7を学び、コンピュータを用いた音楽表現の拡張手法や映像プログラミングを研究、実践する。

２．授業概要

前期：Maxの基本的なプログラミングを学び、音合成や音響処理のための様々なモジュールを制作する。
後期：各々の方向性に基づいてライブ・パフォーマンス・システム、作曲支援ツール、インタラクティブ・アートなどを制作して授業内で発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Maxに限らずプログラミング言語の習得には繰り返し学習が不可欠なので、授業内で配布するテキストを用いた復習と課題制作に多くの時間を費やしてほしい。また下記の参考文献や各ソフトウェアのサイトに掲載されているチュートリアルにもぜひ挑戦してほしい。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の５０％）　平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。
参考文献：
『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版
『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

下記の条件を満たした学生の履修を勧めます。自分で判断できない場合は、まず初回のガイダンスに参加してください。
●「DAW演習I」および「音楽プログラミング入門」単位修得済の学生、または同等のスキルを有すると認定された者
●音楽・音響デザインコース以外の学生はMacOSとDAWの基本的な操作ができることを履修条件とします。（必要に応じて「Max/MSP演習」や他の授業の聴講を勧めることがあります。）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス／作品例紹介
2	イベントのスケジューリングについて（ステップ・シーケンサー制作）
3	イベントのスケジューリングについて（リアルタイム入力）
4	作曲アルゴリズムによるイベントの生成手法
5	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（加算合成、減算合成）
6	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（変調合成）
7	サンプリング基礎
8	サンプリング応用
9	様々な音合成、音響処理アルゴリズム（グラニュラ合成）
10	シグナル・ルーティングとGUI制作
11	音声入力分析１-ピッチ検出
12	音声入力分析２-トリガーの生成
13	プログラミング実習１-プランニング
14	プログラミング実習２-実装
15	作品発表と夏休みの課題について

授業計画	
	［後期］
1	DAWとの連携について
2	FFT基礎
3	FFT応用１-スペクトルEQ
4	FFT応用２-フェイズ・ヴォコーダー
5	Jitter objectを用いた映像処理１-マトリクスとプレーンの説明
6	Jitter objectを用いた映像処理２-動画再生とエフェクト処理
7	Jitter objectを用いた映像処理3-映像入力とサンプリング
8	Jitter objectを用いた映像処理4-3DCGの生成
9	Jitter objectを用いた映像処理5-テクスチャやパーティクル
10	企画発表-プランニング
11	制作実習１-各モジュールの制作
12	制作実習２-モジュール接続とGUI制作
13	制作実習３-コントローラーの関連付け
14	制作実習４-バグ修正
15	作品発表と総括

科目名	作編曲入門　（前）［木3］						
代表教員	佐藤　ひろのすけ	授業コード	GE123900	科目コード	GE1239	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の基礎を学びながら、DTMベースの作編曲に必要な感覚と基礎技能を習得する。
受講学生は、DTMベースの作曲に必要な基礎能力を養うことができる。

２．授業概要

楽典、ソルフェージュ、コード理論の基礎、フレーズの作り方など、それぞれの要素をアクティブラーニングで複合的に学び、音楽制作の基盤を築く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習、復習には以下サイトを利用してください。
http://www.音楽理論.site/theory/

４．成績評価の方法及び基準

平常点70%
授業内な課題30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布するが、以下のサイトを活用する。
http://www.音楽理論.site/theory/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は入試の成績に応じて予め履修が制限される。

授業計画	
1	ガイダンス 基本ビートとリズム
2	リズムの要素について 小さなリズムの組み合わせ
3	リズムの構成 ２小節の単位が基本
4	音階の構成 ひとつ音が変われば別世界
5	調号と主音の関係 主音が変われば何が変わる？
6	音階と和音 音階は和音と表裏一体
7	コード進行１ 進むべき方向あり
8	コード進行２ コードチェンジのタイミング
9	コード進行３ 定型進行あり
10	コード進行４ 反則進行？
11	４小節のフレーズ制作 ４小節の内訳
12	８小節のフレーズ制作 終止に気をつかおう
13	サビのセクション制作 転調してみよう！
14	ブリッジの制作とイントロ サビの調へと橋渡し
15	制作発表と講評

科目名	アドバンスト・アレンジングテクニックＡ　[火3]						
代表教員	奥　慶一	授業コード	GE124300	科目コード	GE1243	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックを基本に、ジャズ、ロック、ポップスまで含めた編曲の実際に必要な知識と技術を身につける。
PC, DAW での制作経験しかない人にも紙と鉛筆で曲を書くことを体験してもらう。

２．授業概要

前期：総譜読み書きの習熟，ハ音記号の読み書き実習，移調楽器の概念を理解，バロック～古典派の書法。実用的な編曲技術習得に主眼を置く。
後期：クラシック，ロマン派，後期ロマン派から，Jazz，ポピュラー音楽，映画音楽までの様々なスタイルを知り、自分の創作に生かせるようにする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習は必要ないが、復習として取り上げた楽曲をスコアを見ながらくり返し聴き、楽譜がない曲は自分で採譜する、スタイルを真似て実作するなど自発的な学習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

前期，後期，各1曲の提出課題による評価。(前期 40%，後期 60%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

▫ テキスト（教科書）
・A. Danhauser & L. Lemoine: Solfège des Solfèges - Vol. 3A (Henry Lemoine)
・講師制作による Web Textbook を使用。
・講義資料として印刷物を配布。
▫ 参考文献
・伊福部昭: 管弦楽法（音楽之友社）
・Don Sebesky: The Contemporary Arranger（日音）
・Fred Sturm: Changes Over Time ((株) ATN)
(注)
授業には Web Textbook，印刷物を用意するので，上記の書籍を購入する必要はありませんが、Web 上の資料を閲覧するためのパソコン、またはパッド型端末が必要です。(スマートフォン非対応)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声1巻（赤）を修了していること。2巻（黄）第4章準固有和音、V度V度諸和音、借用和音を理解していることが望ましい。
ジャズ･コード理論における代理和音を理解していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 一般によく知られているクラシック楽曲を素材に古典的スタイルの書法を学ぶ。
1	Overview (概要): 作曲･編曲とは何か、楽器法とは何か、歌曲と器楽曲の書法の違い、編曲をする際の心構えとは。
2	C-clef ハ音記号のソルフェージュ。アルト記号, テノール記号 Danhauser: Solfège des solfèges
3	Strings Ensemble アイネクライネ･ナハトムジーク - 基本的な弦楽合奏 W. A. Mozart: Serenade No. 13 for strings in G major K. 525 (Eine kleine Nachtmuzik)
4	Basso continuo and Baroque music- 1 (通奏低音とバロック音楽 - 1) パッヘルベルのカノン: 通奏低音について, 数字の基礎知識。 J. Pachelbel: Canon in D major for 3 violins & basso continuo; A. Vivaldi: The Four Seasons - Concerto No. 2 in G minor[Op. 8 RV 315 "L'estate" (Summer)
5	Basso continuo and Baroque music- 2 (通奏低音とバロック音楽 - 2) アルビノーニのオーボエ協奏曲: バロック時代の協奏曲 Albinoni: Concerto for oboe in D minor, Op. 9, No. 2
6	Basso continuo and Baroque music- 3 (通奏低音とバロック音楽 - 3) J. S. バッハのブランデンブルク協奏曲 J. S. Bach: Brandenburg Concerto No. 5 in D major BWV 1050
7	Clarinet and orchestra クラリネットとオーケストラ W. A. Mozart: Clarinet concerto in A major, KV 622
8	Flute, Harp and small orchestra フルート, ハープと小オーケストラ W. A. Mozart: Concerto for Flute, Harp, and Orchestra, KV 299
9	Trumpet and orchestra トランペット, ホルンとオーケストラ Haydn: Trumpet Concerto in E flat major Hob. VIIe W. A. Mozart: Horn concerto No.4 KV 495
10	Woodwind instruments and classical program music 管楽器群と古典派の情景描写 L. v. Beethoven: Symphony No. 6 in F major Op. 68 (Pastral) G. Rossini: William Tell (Guillaume Tell) - overture
11	Classical Symphony 「ジュピター」古典派の交響曲 W. A. Mozart: Symphony in C, KV 551
12	Vienna-style music: Waltz and March 実用音楽 ワルツとマーチ - ヴィエンナ･スタイル Johann Strauss (Vater): Radetzky Marsch Op. 228 Johann Strauss II: Die Fledermaus - overture
13	Solo voice or chorus and orchestra -1 独唱または合唱とオーケストラ -1 G. F. Handel: Messiah, HWV 56
14	Solo voice or chorus and orchestra - 2 独唱または合唱とオーケストラ -2 Berlioz: Grande Messe des morts (or Requiem), Op. 5 Gabriel Fauré: Requiem
15	Opera - 1 オペラ - 1 「魔笛」 W. A. Mozart: Die Zauberflöte, KV 620

授業計画	
	［後期］ ロマン派～近代のクラシック音楽のオーケストレーション，Jazz，Rock，映画音楽
1	1 Jazz ビッグバンド の基本的な編成とスコアの知識 Close and open harmony
2	Simple Brass section style シンプルなブラスセクション･スタイル シカゴ，スティーヴィー･ワンダー，アース･ウィンド･アンド･ファイア Chicago，Stevie Wonder，Earth Wind and Fire
3	Era of Easy Listening and French pops イージーリスニングとフレンチ･ポップスの時代 ポール･モーリア，ヘンリー･マンチーニ，マントヴァーニ Paul Mauriat，Henry Mancini，Mantovani
4	Jazz big band style - 1 (ジャズ･ビッグ･バンド - 1) ベニー･グッドマン，デューク･エリントン，カウント･ベイシー Benny Goodman，Duke Ellington (Billy Strayhorn)，Count Basie
5	Jazz big band style - 2 (ジャズ･ビッグ･バンド - 2) クインシー･ジョーンズ，ギル･エヴァンス， Quincy Jones: Walkin' (This is how I feel about Jazz)，etc. Gil Evans
6	Fusion of Classical music and Jazz -1 (クラシックと Jazz の融合 -1) ガーシュインのラプソディー･イン･ブルー George Gershwin: Rhapsody in Blue (orchestra version)
7	Fusion of Classical music and Jazz -2 (クラシックと Jazz の融合 -２) ビル･エヴァンスが弾いた前衛ジャズ，日本の前衛ジャズ Claus Ogerman: Symbiosis (Piano: Bill Evans) Shuko Mizuno (水野修孝): Jazz Orchestra '75
8	Fusion of Classical music and Jazz -3 (クラシックと Jazz の融合 -3) ジョリヴェのトランペット協奏曲 (第2番) Andre Jolivet: Concerto for trumpet No. 2
9	Orchestration of the Impressionist school 「ダフニスとクロエ」印象派の管弦楽 Maurice Ravel: Daphnis et Chloé，ballet
10	Modern Ballet music ストラヴィンスキーのバレエ音楽 「火の鳥」 Igor Stravinsky: L'Oiseau de feu (The Firebird)
11	Spectacular Music 壮大な管弦楽の世界 - ヴァーグナー，レスピーギ，ホルスト Wagner，Respighi and Holst
12	Film music - 1 (映画音楽 -1) イタリアン･コネクション - ニーノ･ロータとエンニオ･モリコーネの映画音楽 Nino Rota and Ennio Moricone
13	Film music - 2 (映画音楽 -2) ジョン･ウィリアムズの映画音楽 John Williams: E. T. etc.
14	Film music - 3 (映画音楽 - 3) 講師作曲のドラマ、アニメーション音楽より おジャ魔女どれみ、明日のナージャ etc.
15	Annual summary (年間のまとめ) Don Sebesky: The contemporary arranger より，編曲において大事なポイントの復習と年間のまとめ

科目名	アドバンスト・アレンジングテクニックＢ　[木4]						
代表教員	菅原　サトル	授業コード	GE124400	科目コード	GE1244	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座の主題は、打ち込みを前提に、クラシックの本格的な管弦楽書法の勉強なしに、手っ取り早くポピュラー音楽の制作に管弦セクションを導入するために役に立つ知識をつけることです。管楽器と弦楽器の編曲は、ジャズやクラシックに留まらず、デジタルオーディオやプログラミングが一般化した現代のポピュラー音楽においても重要な要素です。管や弦を本格的に使ったことがなく、知識もあまりなく、スコアを読むのは得意ではないが、打ち込みにはある程度慣れている学生向けです。

到達目標としては、オーケストラ編成で、擬似的なオーケストレーションができるところまで楽器への知識をつけることです。ほとんど知識が無い状態から、四声体での書法を理解し、さまざまなジャンルにおける管弦の使われ方を分析し模倣することを通して理解を深め、実習を通じて自分の作品に管弦セクションを導入するための知識を得ていきます。

２．授業概要

楽器のしくみ、演奏法、プログラミングの面から、編曲のための基礎を学びます。ポピュラー音楽で管弦が使われている典型的な例を分析し、模倣していきます。また、オーケストレーションの最も良い練習となるトランスクライビング（既成のデータを管弦の編成に置きかえていく作業）に重点を置いて実習を重ね、理解を深めます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては、提示されているテーマに応じた音源や資料を事前にインターネットで検索して調べることができます。
復習としては、課題が授業内で終了しない時もあるので、その場合は、次回授業までの宿題として授業外に作業してもらうことがあります。
授業終了後は、学習したノウハウを使って、自分の作品で管弦を積極的に使っていくことが望まれます。

４．成績評価の方法及び基準

・評価の基準として、提出された課題の内容が、授業で扱ったポイントをきちんと押さえたものになっているかどうか、音楽的な効果がどうかということを見ます。前期後期の課題は音楽的内容とプログラミング力を見ます。
・評価は、前期、後期の課題が50%、平常時の課題の内容で50%とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト：随時、必要な資料をデータで配布します。
参考文献：「アレンジャーが教える編曲テクニック99」　ほか（あくまで参考なので、購入する義務はありません）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

打ち込みを前提としていますので、この授業でスコアを書くことはありません。参考資料として課題の楽譜がPDFで提供されるだけです。作業はすべてDAW上のデータ編集だけで行います。テンションコードを理解していることと、DAWのプログラミングに慣れていることが必要です。

授業計画	
	［前期］ 編曲の前提となる基礎的な知識と、ストリングス・セクションについて学び、実習します。
1	ガイダンス　＊人数によっては選抜テストを行う場合もあります
2	四声体とボイシング 音楽をコードの塊としてだけではなく、線的に捉える
3	弦楽器の基礎知識／弦セクションのプログラミング　記譜
4	弦セクションへのトランスクライビング シンプルなもの
5	弦セクションへのトランスクライビング ワルツ
6	バスパートの書法　＜2声＞
7	内声を対旋律的に動かす書法 ＜4声＞
8	伴奏の書法Ⅰ：カッティング、アルペジオ、パッド、ブロックコード
9	伴奏の書法Ⅱ：カウンターライン（対旋律）で伴奏する
10	旋律の書法：駆け上がり、駆け下がり、オクターブユニゾン、オブリガート
11	さまざまな書法を使ったJ-POPの歌ものの実習
12	ディスコ・ストリングスの書法、フォール、ベンド、四度積み、ペンタトニックに重心を置いたライン
13	ディスコ・ストリングスの実習
14	より現代的な弦セクションの導入　エレクトリックなリズム体による現代的な編成　Bjork、管野よう子、ヒップホップのメインリフとしての弦
15	最新ストリングス音源事情、夏期課題の説明

授業計画	
	［後期］ 　サウンドトラック制作時に役立つコード理論と、木管、金管楽器の基礎知識、オーケストレーションの実習、最後に簡易的なオーケストレーションの実習を行います。
1	サウンドトラックで役に立つ近現代的なハーモニー　4度積み、トライアドの並行移動、ポリコード（バイトーナル）
2	サウンドトラックで役に立つモーダルな書法　チャーチモード、メシアンモード、ペトリューシュカ他
3	木管楽器の基礎知識／ソロ楽器としての木管 記譜
4	木管のオーケストレーション　ユニゾン／オクターブユニゾンによる色彩
5	木管アンサンブルのトランスクライビング 「プロムナード」
6	木管アンサンブルのトランスクライビング 「バラード」
7	金管楽器の基礎知識／ソロ楽器としての金管 記譜
8	ファンク・ブラスの書法　ブロック・コードとユニゾン、ブルース・ペンタトニックに重心をおいたライン
9	ファンク・ブラスの実習
10	金管のオーケストレーション　ユニゾン／オクターブユニゾンによる色彩 ホルン五度
11	金管アンサンブルのトランスクライビング ヤン・ヴァン・ デル・ロースト 「カンタベリー・コラール」
12	金管アンサンブルのトランスクライビング　ラヴェル 「亡き王女のためのパヴァーヌ」
13	コピペで作るオーケストレーション　シューマン 「ノヴェレッテ」
14	コピペで作るオーケストレーション　バルトークより
15	さらに自由なオーケストレーション　後期課題の説明

科目名	テクノパフォーマンス研究２　［金5］						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE125200	科目コード	GE1252	期間	通年
担当教員	北村　一樹						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は、ゲームオーディオとその音作りの土台になるモジュラーシンセサイザーの学習を通して、音作りのプロセスを理解することが目標である。

２．授業概要

前期はポストプロダクション及びゲームオーディオに関して基礎的な内容を学習する。
後期はモジュラーシンセサイザーの取り扱いについて学習し、音作りの幅を広げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト 内カリキュラムを自主的に進めると理解が深まる。（参考文献を参照）

MIDI、シンセサイザーの理論に関しては文献が豊富に存在するので前もって予習をしておくこと。また、器機のマニュアル等にも事前に目を通しておくこと。（参考文献を参照）

４．成績評価の方法及び基準

授業態度（評価の50%）
課題への取り組み（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献

※無料
https://www.audiokinetic.com/ja/learn/certifications/
audiokinetic社　Wwise Certification101/201

※有料
https://www.borndigital.co.jp/book/5190.html
Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト

『ステージ・舞台照明入門』（藤井 直 ／リットーミュージック）
『コンプリートMIDIブック』（高橋 信之 ／リットーミュージック）
『21世紀のアナログシンセサイザー入門』　（大須賀 淳/秀和システム）
『シンセサイザー入門 音作りが分かるシンセの教科書』（松前 公高／リットーミュージック）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は、DAW演習I 程度の知識と技能を必要とする。
また、履修者が多数の場合は履修制限をすることがある。

授業計画	
	［前期］ ポストプロダクション及びゲームオーディオ業界に関しての基礎を学習し、スタティックメディアとインタラクティブメディアでの制作手法の違いを知る。
1	この講座のコンセプトの説明とアーカイブの閲覧
2	ポスプロとゲームサウンドの概要
3	サウンド業界の職種分類
4	効果音とダイアログ MA
5	MA実践 映画に対するサウンドデザイン サウンド演出の設計 ボイス、音楽、効果音のプライオリティ
6	サンプルベース、サンプルライブラリからの検索の仕方 フォーリー収録、フォーリー収録の実践
7	音ネタ主体の音作り(エフェクターに頼らない音作り)
8	空間の作り方、リバーブとインパルスレスポンス ボイス収録
9	ゲームサウンドについて それぞれの役割、ワークフロー紹介
10	テクニカルアーティストという職種の紹介 サウンドのシステム設計について
11	ゲームサウンド制作 ゲームサウンドとポスプロの違い サウンドコンセプトの定義 ゲームの分析
12	インタラクティブミュージックの設計 効果音の作成
13	ボイスの作成
14	ゲームへの実装、インタラクティブミックス
15	講評、まとめ

授業計画	
	［後期］ モジュラーシンセサイザーについて学習する。
1	モジュラーシンセのあれこれ
2	シンセシスの基礎（減算方式） ベーシックなモジュール
3	モジュラーシンセの基礎 CVとAUDIO（基本的なパッチング）
4	ベーシックなモジュレーション
5	マルチモジュレーション
6	２つのオシレーターによる可能性 FM, SYNC, RingMod, etc..
7	CVプロセッサーの活用 Fold、Logic, Dynamics、Sequencer
8	デジタルサウンドプロセッサー granular、Sampler、Delay
9	West coast style Lowpass Filter、Overtone, Multiplay
10	ノイズアプローチ
11	モジュラーシンセの音作り① 宇宙、宇宙船のエンジン音など、架空音色のアプリーチ
12	モジュラーシンセの音作り② ドローン、アンビエント系のアプリーチ
13	モジュラーシンセ・パフォーマンス① パフォーマンスの構想
14	モジュラーシンセ・パフォーマンス② パフォーマンスの練習
15	モジュラーシンセ・パフォーマンス③ パフォーマンスの発表

科目名	テクノパフォーマンス研究３　［金5］						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE125300	科目コード	GE1253	期間	通年
担当教員	北村　一樹						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は、ゲームオーディオとその音作りの土台になるモジュラーシンセサイザーの学習を通して、音作りのプロセスを理解することが目標である。

２．授業概要

前期はポストプロダクション及びゲームオーディオに関して基礎的な内容を学習する。
後期はモジュラーシンセサイザーの取り扱いについて学習し、音作りの幅を広げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト 内カリキュラムを自主的に進めると理解が深まる。（参考文献を参照）

MIDI、シンセサイザーの理論に関しては文献が豊富に存在するので前もって予習をしておくこと。また、器機のマニュアル等にも事前に目を通しておくこと。（参考文献を参照）

４．成績評価の方法及び基準

授業態度（評価の50%）
課題への取り組み（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献

※無料
https://www.audiokinetic.com/ja/learn/certifications/
audiokinetic社　Wwise Certification101/201

※有料
https://www.borndigital.co.jp/book/5190.html
Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト

『ステージ・舞台照明入門』（藤井 直 ／リットーミュージック）
『コンプリートMIDIブック』（高橋 信之 ／リットーミュージック）
『21世紀のアナログシンセサイザー入門』　（大須賀 淳/秀和システム）
『シンセサイザー入門 音作りが分かるシンセの教科書』（松前 公高／リットーミュージック）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は、DAW演習I 程度の知識と技能を必要とする。
また、履修者が多数の場合は履修制限をすることがある。

授業計画	
	［前期］ ポストプロダクション及びゲームオーディオ業界に関しての基礎を学習し、スタティックメディアとインタラクティブメディアでの制作手法の違いを知る。
1	この講座のコンセプトの説明とアーカイブの閲覧
2	ポスプロとゲームサウンドの概要
3	サウンド業界の職種分類
4	効果音とダイアログ MA
5	MA実践 映画に対するサウンドデザイン サウンド演出の設計 ボイス、音楽、効果音のプライオリティ
6	サンプルベース、サンプルライブラリからの検索の仕方 フォーリー収録、フォーリー収録の実践
7	音ネタ主体の音作り(エフェクターに頼らない音作り)
8	空間の作り方、リバーブとインパルスレスポンス ボイス収録
9	ゲームサウンドについて それぞれの役割、ワークフロー紹介
10	テクニカルアーティストという職種の紹介 サウンドのシステム設計について
11	ゲームサウンド制作 ゲームサウンドとポスプロの違い サウンドコンセプトの定義 ゲームの分析
12	インタラクティブミュージックの設計 効果音の作成
13	ボイスの作成
14	ゲームへの実装、インタラクティブミックス
15	講評、まとめ

授業計画	
	［後期］ モジュラーシンセサイザーについて学習する。
1	モジュラーシンセのあれこれ
2	シンセシスの基礎（減算方式） ベーシックなモジュール
3	モジュラーシンセの基礎 CVとAUDIO（基本的なパッチング）
4	ベーシックなモジュレーション
5	マルチモジュレーション
6	２つのオシレーターによる可能性 FM, SYNC, RingMod, etc..
7	CVプロセッサーの活用 Fold、Logic, Dynamics、Sequencer
8	デジタルサウンドプロセッサー granular、Sampler、Delay
9	West coast style Lowpass Filter、Overtone, Multiplay
10	ノイズアプローチ
11	モジュラーシンセの音作り① 宇宙、宇宙船のエンジン音など、架空音色のアプリーチ
12	モジュラーシンセの音作り② ドローン、アンビエント系のアプリーチ
13	モジュラーシンセ・パフォーマンス① パフォーマンスの構想
14	モジュラーシンセ・パフォーマンス② パフォーマンスの練習
15	モジュラーシンセ・パフォーマンス③ パフォーマンスの発表

科目名	テクノパフォーマンス研究４　［金5］						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE125400	科目コード	GE1254	期間	通年
担当教員	北村　一樹						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は、ゲームオーディオとその音作りの土台になるモジュラーシンセサイザーの学習を通して、音作りのプロセスを理解することが目標である。

２．授業概要

前期はポストプロダクション及びゲームオーディオに関して基礎的な内容を学習する。
後期はモジュラーシンセサイザーの取り扱いについて学習し、音作りの幅を広げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト 内カリキュラムを自主的に進めると理解が深まる。（参考文献を参照）

MIDI、シンセサイザーの理論に関しては文献が豊富に存在するので前もって予習をしておくこと。また、器機のマニュアル等にも事前に目を通しておくこと。（参考文献を参照）

４．成績評価の方法及び基準

授業態度（評価の50%）
課題への取り組み（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献

※無料
https://www.audiokinetic.com/ja/learn/certifications/
audiokinetic社　Wwise Certification101/201

※有料
https://www.borndigital.co.jp/book/5190.html
Unreal Engine 4で極めるゲーム開発:サンプルデータと動画で学ぶUE4ゲーム制作プロジェクト

『ステージ・舞台照明入門』（藤井 直 ／リットーミュージック）
『コンプリートMIDIブック』（高橋 信之 ／リットーミュージック）
『21世紀のアナログシンセサイザー入門』　（大須賀 淳/秀和システム）
『シンセサイザー入門 音作りが分かるシンセの教科書』（松前 公高／リットーミュージック）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座は、DAW演習Ⅰ 程度の知識と技能を必要とする。
また、履修者が多数の場合は履修制限をすることがある。

授業計画	
	［前期］ ポストプロダクション及びゲームオーディオ業界に関しての基礎を学習し、スタティックメディアとインタラクティブメディアでの制作手法の違いを知る。
1	この講座のコンセプトの説明とアーカイブの閲覧
2	ポスプロとゲームサウンドの概要
3	サウンド業界の職種分類
4	効果音とダイアログ MA
5	MA実践 映画に対するサウンドデザイン サウンド演出の設計 ボイス、音楽、効果音のプライオリティ
6	サンプルベース、サンプルライブラリからの検索の仕方 フォーリー収録、フォーリー収録の実践
7	音ネタ主体の音作り(エフェクターに頼らない音作り)
8	空間の作り方、リバーブとインパルスレスポンス ボイス収録
9	ゲームサウンドについて それぞれの役割、ワークフロー紹介
10	テクニカルアーティストという職種の紹介 サウンドのシステム設計について
11	ゲームサウンド制作 ゲームサウンドとポスプロの違い サウンドコンセプトの定義 ゲームの分析
12	インタラクティブミュージックの設計 効果音の作成
13	ボイスの作成
14	ゲームへの実装、インタラクティブミックス
15	講評、まとめ

授業計画	
	［後期］ モジュラーシンセサイザーについて学習する。
1	モジュラーシンセのあれこれ
2	シンセシスの基礎（減算方式） ベーシックなモジュール
3	モジュラーシンセの基礎 CVとAUDIO（基本的なパッチング）
4	ベーシックなモジュレーション
5	マルチモジュレーション
6	２つのオシレーターによる可能性 FM, SYNC, RingMod, etc..
7	CVプロセッサーの活用 Fold、Logic, Dynamics、Sequencer
8	デジタルサウンドプロセッサー granular、Sampler、Delay
9	West coast style Lowpass Filter、Overtone, Multiplay
10	ノイズアプローチ
11	モジュラーシンセの音作り① 宇宙、宇宙船のエンジン音など、架空音色のアプリーチ
12	モジュラーシンセの音作り② ドローン、アンビエント系のアプリーチ
13	モジュラーシンセ・パフォーマンス① パフォーマンスの構想
14	モジュラーシンセ・パフォーマンス② パフォーマンスの練習
15	モジュラーシンセ・パフォーマンス③ パフォーマンスの発表

科目名	ＤＡＷ演習ＩＩＡ　[水4]						
代表教員	三上　直子	授業コード	GE125600	科目コード	GE1256	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「DAW演習I」で習得した基礎的な技術を複合的に扱う。オーディオやMIDIに関して理論的に理解を深めると同時に、実践的な技法の習得により質の高い作品制作を目指す。

２．授業概要

MIDI応用とDigitalAudio（中級、上級）。

「DAW演習I」で学んだMIDIの初級のデータ作成とDigitalAudioの初級の段階から、さらに理論的な学習とアプローチを行い、DAWを使用した音楽的表現を追求し実現して行く。また、より質の高い音楽制作のための音素材の処理、編集、加工の技法を学び、最終的なミキシングまで行う。最終的に、各学生の作品の指向性を考慮し、それぞれが表現したい音楽や、映像表現などにおいて、学んだ技法を用いてのデータ制作を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題を授業時間内に仕上げられない場合は課外自習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の30%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の30%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「DAW演習I」の単位修得済の学生

授業計画	
	［前期］ MIDIとDigitalAudioについての理論的な理解を深める。 また、DAW上での音楽的表現について深く掘り下げる。
1	ガイダンス
2	MIDIについて/16進数、コントロールチェンジについて。
3	MIDIデータ制作の実習。設定された課題曲に対し、より効率的な入力の仕方。また、音楽的にデータを仕上げるためのポイントについて解説。
4	データ制作-２ 様々な編成、ジャンルにおけるデータ制作のアプローチの違いについて。
5	データ制作-３ ベロシティ、エクスプレッション、ボリュームの使い分けと変化による表現方法。
6	データ制作-４ 楽器の特性と、演奏表現について考え、データ制作の上でどう役立てたら良いか学ぶ（メロディー）。
7	データ制作-5 楽器の特性と、演奏表現について考え、データ制作の上でどう役立てたら良いか学ぶ（ベースライン等）。
8	データ制作-6 パート単位ではなくアンサンブルとしての表現について考える。
9	データ制作-7 テンポの変化、ヴォリュームの変化、音色の変化など、より音楽的な表現によるデータ制作。
10	データ制作-8 作成中のデータと生演奏を比べ、アプローチの違いを認識。「聞く」事の大切さを学ぶ。
11	データ制作-9 パンニング、エフェクト、イコライジング処理などの理論と実践。
12	データ制作-10 作成中のデータと生演奏を比べ、アプローチの違いを再び再確認する。
13	データ制作-11 データを仕上げる
14	前期作品発表
15	前期のまとめと復習。MIDI、DigitalAudioの理論についての筆記テスト。

授業計画	
	［後期］それぞれの学生の音楽的な指向（ジャンル）に合わせた対応をする。例えば、音楽的表現の追求、耳コピ、アレンジ、音素材の処理と編集、各種エフェクトの使用、ミキシングの方法、映像に対する音楽付けの実習など。シラバスの内容はその一例。
1	前期の復習・後期のガイダンス
2	ミュージック・コンクレート（現実音の加工による電子音楽）の歴史、鑑賞と分析
3	作品コンセプト、また音素材について。
4	音素材の録音、フィールドレコーディング。
5	音素材の加工
6	DigitalAudioによる作品制作実習。パンニング、エフェクト、イコライジング処理などの理論と実践。Logicのサンプリング機能EXS24を用いての制作方法。
7	ミキシング-1 compressor、equalizerの使用、modulation系エフェクトによる帯域コントロールなど。
8	ミキシング-2 パートのグループ化、レヴェル調整、パンニングの設定、最終的な音圧調整など。
9	後期作品発表
10	ヴォーカルのピッチ修正
11	映像作品に対するBGM制作の解説と実習（様々なアプローチと音楽がもたらす効果）
12	映像作品に対するBGM制作の実習-１（コンセプトを絞り込む）
13	映像作品に対するBGM制作の実習-２（無音の効果等）
14	映像作品に対するBGM制作の実習-３（仕上げ）
15	後期作品発表　まとめ

科目名	ＤＡＷ演習ＩＩＢ　[火4]						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GE125700	科目コード	GE1257	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

DAWの進化に伴い、プロデューサーは全てのサウンドプロダクション工程を容易に行き来することが可能になった。
この講座では、DAW演習Ｉで学んだ基礎的な技術を発展させ、サウンドデザイン・アレンジ・打ち込み・ミックスの
工程が綿密に絡み合うサウンドプロダクションの理解を深めることを目的とする。
またその過程において、鋭敏な音楽的・音響的な耳（感覚）を養うことを目標にする

２．授業概要

前期は、MIDIの編集、オーディオ素材の取り扱いやサンプリング、ヴォーカルの編集を行う。
後期は、各ジャンル（主にエレクトロニックミュージック）のプロダクション手法を学び楽曲制作を行う。
またその過程において、Logic付属プラグインとともにサードパーティー製プラグインの使用法と紹介を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げたDAW・各種プラグイン操作方法、各楽曲の制作方法について復習をしておく必要がある。想定必要時間は90分程度。
授業計画に記載している参考プロデューサーの制作した楽曲を調べ各演習前に聴いておく必要がある。想定必要時間は３０分程度。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出(評価の50%)
平常点(評価の50%)
平常点は授業への参加姿勢・授業態度を総合的に判断する。
各提出課題では、楽曲のクオリティー、授業で取り扱った内容の理解度を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・授業中に、適宜、資料を配布する。

・Logic Pro X 10.2 徹底操作ガイド 高山 博

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

2/3 以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［前期］ MIDIの打ち込み・オーディオ編集・ボーカル編集処理を学ぶ。 またDAW内でのミックス方法と使用するプラグインの操作方法を学び、それらを活かした課題を制作する。
1	前期ガイダンス MIDI情報の編集① ・イベントリスト・MIDIトランスフォーム・MIDIエフェクト
2	MIDI情報の編集② ・MIDオートメーション・コントロールサーフェース
3	オーディオ編集 解説と演習① ・オーディオファイル/トラック 各エディター
4	オーディオ編集 解説と演習② ・Flex・オーディオチョップ
5	ミキシングテクニック解説と演習 ・ボリューム・定位・リバーブ
6	中間課題提出 ・アドバイスとディスカッション
7	サンプリング・サンプラー 解説 ・Exs24・Kontakt
8	ヒップホップのプロダクション解説 （ヒップホップ特有のビート/ローファイサウンド/ボーカルチョップ ） 参考プロデューサー Madlib/DJShadow/Prefuse73 ets.
9	ヒップホップのプロダクション演習① ヒップホップの楽曲制作
10	ヒップホップのプロダクション演習② ヒップホップの楽曲制作（仕上げ）
11	ミキシングテクニック解説と演習 ・コンプレッサー・EQ
12	ボーカル編集 解説 演習① ・ノイズ除去・ボリュームオートメーション
13	ボーカル編集 解説 演習② ・ピッチ修正
14	ボーカル編集 解説 演習③ ・タイミング修正
15	期末課題提出 ・アドバイスとディスカッション

授業計画	
	［後期］ 様々なジャンルのプロダクションを学び、その過程においてドラム音源ー、シンセサイザーについて解説する。またDAW内でのミックス方法と使用するプラグインの操作方法を学び、それらを活かした課題を制作する。
1	後期のガイダンス ドラム音源の解説と操作方法 ・Kick・Snare・Hihatの作り方　・Ultrabeat・Battery
2	プラグインシンセサイザーの解説と操作方法 ・ベース/パッドの作り方 ・Alchemy・RetroSynth・Massive
3	ハウス・テクノのプロダクション解説 (4つ打ち　/サイドチェイン/フィルター　) 参考プロデューサー Akufen/Theo Parrish　ets.
4	ハウス・テクノのプロダクション演習 ① ハウス・テクノの楽曲制作
5	ハウス・テクノのプロダクション演習② ハウス・テクノの楽曲制作(仕上げ)
6	ミキシングテクニック解説と演習 ・ディレイ・モジュレーション系
7	中間課題提出 ・アドバイスとディスカッション
8	エレクトロニカのプロダクション解説 （グリッチ/グラニュラー） 参考プロデューサー　Autechre /Four tet/Fennesz ets.
9	エレクトロニカのプロダクション演習① エレクトロニカの楽曲制作
10	エレクトロニカのプロダクション演習 ② エレクトロニカの楽曲制作(仕上げ)
11	ダブステップ・ポストダブステップのプロダクション解説 (2stepのビート/Dub/ダブステップ特有のベース　) 参考プロデューサー Burial/Mala/James Blake ets.
12	ダブステップ・ポストダブステップのプロダクション演習 ① ダブステップ・ポストダブステップの楽曲制作
13	ダブステップ・ポストダブステップのプロダクション演習② ダブステップ・ポストダブステップの楽曲制作（仕上げ）
14	ミキシングテクニック解説と演習 ・歪み系・パラレルプロセッシング・MS処理
15	期末課題提出 ・アドバイスとディスカッション

科目名	ＤＡＷ演習ＩＩＣ　［月4］						
代表教員	久木山　直	授業コード	GE125800	科目コード	GE1258	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「DAW演習I」で習得した基礎的な技術を複合的に扱い、オーディオやMIDIに関して理論的に理解を深めると同時に、実践的な技法の習得の上での作品制作を目指します。デジタル作品の人間のフィジカルな感覚に基づいた演奏表現がよりできるようになります。PureDataをつかった音源の製作ができるようになります。FaustProgramingを利用した VST音源エフェクトの製作ができるようになります。物理モデリング音源の知識が深まるようになります。デジタル音源についての知識がふかまるとどうじに、知識にもとづいた楽曲の質をコントロールできるようになります。

２．授業概要

MIDI応用とDigitalAudio（中級、上級）。
「DAW演習I」で学んだMIDIの初級のデータ作成とDigitalAudioの初級の段階から、さらに理論的な学習とアプローチを行う。プログラミング言語も使用しながらシンセサイザの原理方法を学び、その原理にもとづいた音楽表現のスキルの向上を目指して行きます。音素材の処理、編集、加工の技法を学び、最終的なミキシングでを通じて商品（芸術作品もひとつのマーケットとして考えます）レベルの作品を製作して行きます。また映像の付帯音楽としての経験も他分野とのコラボレーションとして将来にたいする可能性を広げるために行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

様々な作品を聞いてみてください。音楽外のアートにも多くふれてみましょう。アートの歴史、音楽の歴史についても様々な本などで知識を深めるとよいでしょう。我々の作り出すものはすべて人類の歴史の流れの現在に位置するものである以上それを知らずして何かを作りだして行くことは不可能だと思います。無自覚、無意識でやっている作業もそうした歴史が蓄積したものがあたりまえのものとなった結果それに無自覚に影響を受けていると思われます。なにか新しい、新鮮な価値を生み出す上でも外部リソース、歴史リソースのリサーチは重要です。すでにあったものに新しい視点を与えることでも新しいものは生まれてくるかもしれませんしね。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験として製作した作品を提示してもらいます。（評価の70%）
提出は2作品で、一つは教員が出したものと同じものを同じレベルに似せるというもの、と完全にオリジナルな作品とします。
オリジナルについては評価基準があいまいな点もあるので、まず、提示した作品と同じものをシミュレートし、類似具合によって評価します。これは真似るということをめざしています。そこでは真似られるだけの技術が明確に査定できるので、手本と同じかどうかによって技術力を評価します。もう一点のオリジナルな作品は、「こういうものです」、といわれてしまえば評価はあいまいにならざるおえないわけなので、基準としては、どういう意図でどういう方法でやったかを明示してもらい、その意図と結果が一致しているかという点を踏まえたうえで審美的な評価も多少加えさせていただきます。
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の30%）
授業内での取り組んでいる姿勢、および簡単な質問での評価です。作品はできるかできないか、できたものがすべてなので製作過程や論理的理解や態度は基本どうでも良いと考えますが、補足的なものとして若干の査定は行います。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストはつかいませんが、必要な場合は授業内でも指示します。
参考文献＆サイト：
「映画にとって音とはなにか」ミッシェル・シオン勁草書房ISBN-10: 4326851260 ISBN-13: 978-4326851263
「MIDIバイブルI~MIDI規格基礎編」リットーミュージックISBN-10: 4845602679 ISBN-13: 978-4845602674
[Programming Electronic Music in Pdhttp:] //www.pd-tutorial.com/
[Faust Programming Language] https://faust.grame.fr/
[pierreguillot/Camomile]https://github.com/pierreguillot/Camomile
[Physical Modeling Synthesis Update]JULIUS O. SMITH III https://ccrma.stanford.edu/~jos/pmupd/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特にありません。

授業計画	
	［前期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） 　MIDIとDigitalAudioについての理論的な理解を深め、MIDI＋Audio+コントロール情報による小作品と、サンプリングソフトを用いたDigitalAudioの小作品を制作する。
1	DTM音楽の成り立ち コンピュータ音楽についての歴史の流れを見てもらいます。
2	MIDIについて 1980年始めてDX7に搭載された電子楽器規格のMIDI について、 その情報の流れ、構造についての知識を学習します。
3	MIDI情報をつかって、色々なものを操作してみましょう。グラフィカルインターベースをもつプログラム言語であるPureDataを利用してMIDI情報について知ってもらいます。
4	MIDI情報をつかって、色々なものを操作してみましょう。グラフィカルインターベースをもつプログラム言語であるPureDataを利用してプログラムを行ってみます。
5	ロジック上でのベース音の加工 エンヴェロープ、とフィルタ機能を利用したベース音の加工。
6	ロジック上でのベース音の加工続き エンヴェロープ、とフィルタ機能を利用したベース音の加工 持続時間ないの変化が音色に与える影響について考察し、スキルアップを図る。
7	ドラム音色の加工 フィルターを利用したドラムの音色エディット。
8	パッド系のスイープな音色変化 フィルターのLFO(ロー・フリケンシー・オシレータ）という低い周波数を利用した変化機能を扱います。
9	FM合成 ロジックのFM音源を利用した金属的な音色の作成。 PureDataを利用したFMサウンドの制作。
10	物理モデル音源 近年注目を集めている物理モデル音源について。 物理モデルのシンプルな例であるKarplus-Strong stri ng synthesisをPureDataを使って体験してみましょう。
11	ロジックの搭載されている物理モデル音源Sculptureで のエディットを通じて物理モデル音源を活用します。
12	Sculptureを利用したフルート、チェロ、ギターサウンドの製作と活用。とくにモジュレーションをつかった持続時間内の柔軟でループ再生とは違った変化のある音色の特性についてスキルアップを図ります。
13	AU,VSTマウント 様々な音源をロジックにマウントしてカスタマイズして行く方法。 PureDataで作成した自分のシンセをマウントする方法などについても学習します。
14	オートメーションデータによる、さまざまなパラメータのリアルタイムな変化 ロジック上でのオートメーションの活用法。
15	前期のまとめと復習。 MIDI、DigitalAudioの理論についての復習を兼ねてみなさんの作品を鑑賞し、色々な特性がどのように生かされているかについて見て行きます。

授業計画	
	［後期］各担当教官によって異なる。（下記、一例） 　音素材に対する適切な処理と編集、各種エフェクトの使用、ミキシングの方法を学び、映像に対する音楽付けの実習を行う。CM映像に対する適切な音楽制作、映像作品のBGM制作など。
1	前期の復習・後期のガイダンス
2	MIDIコンティニュアスコントローライベントの編集
3	Ultrabeatによるドラムのプログラミング より立体的で躍動感のあるドラムパートの作成法
4	オーディオ素材のクリーンアップなど、素材の準備について。 stripsilence、denoiser他の使用、ヴォーカルのピッチ修正やダブルヴォーカルの手法。
5	ミキシング-1 compressor、equalizerの使用、modulation系エフェクトによる帯域コントロールなど。
6	ミキシング-2 パートのグループ化、レヴェル調整、パンニングの設定、最終的な音圧調整など。
7	ムービーのスコア制作実習１。映像作品に対する音楽の役割について考える。ミッシェル・シオンの「映画にとって音とはなにか」勁草書房は大変有意義な本であるので一読をお勧めします。
8	映像作品に対するバックグラウンドミュージックとしての役割、俗に言うミッキマウスダンシングの手法について考えてみます。
9	映像作品に対する音楽と音響の役割の違いについて考え つつ、フレーム外の音が映像に寄与する効果についても 考えながら作品を製作してみます。
10	作品をどのように作ったらよいのか、という一定の法則はないので、個人個人のやり方で音楽と映像について考えながら自分のスタイル、自分の音楽が社会に対してどのように役立ち存在価値をもつかを自分で考えながら作業してもらいます。十分な作業時間を確保できるように考慮する予定でおります。
11	映画の音楽とCMやジングルなどの商品を売ったり、何かの注意を喚起したり、操作にたいしてインターフェースとしての反応を確認するための音、音楽のあり方の違いについて考えながらそのような現場、依頼に即した商品を製作することについて考えながら趣味レーション的な製作を行ってみます。
12	表情というものがどこから生まれ、それがどういう効果を与えるのかを考えながら前期、後期のいままでに学習してきたさまざまなスキルを総合しながら演奏表現のもつ可能性を最大限に生かせるようなデジタル音楽音響製作を行います。
13	ファジーな揺れとと予測可能な周期性がもたらす表情の差というものについて熟考しながら製作を続けていただきます。
14	EQ,音量、フィルターなどのオートメーションを駆使し、人間のフィジカルな演奏行為を観察し、それをどうしたらシミレ＝ションできるかについて考え、あえてそういう方向を否定した場合の作品との差異について考察しながら信念をもって作品を製作して行きます。
15	皆さんの作品がどのようなコンセプトで作られているのか、それを踏まえたうえで、それと作られた結果が同じなのか、あるいはずれているのかを考慮しながら発表を聞いて行きます。

科目名	音楽プログラミング入門　[木3]						
代表教員	森　威功	授業コード	GE125900	科目コード	GE1259	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	CO・SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年注目されているメディア系プログラミングとは、音・音楽の制作に加えてインタラクティブアート制作やプロジェクションマッピング、照明を駆使した舞台演出など様々な分野に応用可能な技術である。本講座では初心者を対象に、2年次から本格的な作品制作へスムーズに移行できるよう基礎レベルから丁寧に指導していく。

２．授業概要

主にCycling74 Max7とProcessingを用いて、MIDI、オーディオ、画像処理の各プログラミングを学ぶ。必要に応じてシンセサイザーや音響機器の使用方法等も指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中に紹介するwebサイトや配布プリントなどで復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

課題提出（評価の５０％）　平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてオリジナルテキストを配布する。
参考文献：
『コンピュータ音楽』Curtis Roads（著）：東京電機大学出版
『Maxの教科書』ノイマンピアノ（著）：リット-ミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

プログラミング未経験者向けの授業である。メディア系の創作や実験的な表現に興味がある学生に履修してほしい。

プログラミングの学習経験がある者は「Max/MSP実習」、「コンピュータ音楽表現」、「メディコンテンツ制作実習」の履修を勧める。

授業計画	
	前期
1	ガイダンス
2	シンセサイザーとMIDI規格
3	サウンドプログラミング基礎
4	Maxプログラミング　MIDI-オブジェクトの説明
5	Maxプログラミング　MIDI-乱数生成
6	Maxプログラミング MIDI-確率テーブル
7	自動作曲プログラム演習
8	Maxプログラミング MSP-オシレーター
9	Maxプログラミング MSP-フィルター
10	Maxプログラミング MSP-LFOとEG
11	様々なコントローラーとの接続
12	シグナルルーティングとインターフェイス制作
13	前期作品制作-プランニング
14	前期作品制作-実装
15	前期作品発表

授業計画	
	後期
1	映像プログラミング基礎
2	Processing プログラミング基礎-スケッチの説明と実行
3	Processing プログラミング基礎-色指定と変数
4	Processing　プログラミング基礎-繰り返しの処理
5	Processing　プログラミング基礎-条件分岐
6	Processing　プログラミング基礎-アニメーション処理
7	Processing　作品発表
8	3DCG　制作-OpenGL
9	3DCG　制作-３次元座標処理と移動
10	3DCG　制作-コントローラーとの関連付け
11	3DCG　制作-Maxとの相互接続(OSC)
12	後期作品制作-プランニング
13	後期作品制作-実装
14	後期作品制作-実装とバグ修正
15	後期作品発表

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－１　（前）［水4］Aクラス						
代表教員	山本　佳世子	授業コード	GE1376A0	科目コード	GE1376	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは、幅広い表現力を持つゆえに、ソロのみではなく、室内楽や伴奏における表現力も修得する必要がある。伴奏、合奏におけるアンサンブルテクニックを学ぶことによって、ソロテクニックだけでは学ぶことの出来ない実に多くのことを身につけることができる。それは、音に対する感受性であり、柔軟性であり、音楽の表現力の豊かさ等である。本講座では、上記に加え、一緒に音楽する喜びを感じて欲しい。「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」では、技術的には比較的楽な小品を扱い、まず伴奏することの楽しさや基礎を学ぶ。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の演奏要員並びに先生方が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお本講座において、ソロ楽器はフルート、ヴァイオリン、クラリネットを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Violin：ガボット（ゴセック）、メヌエット（モーツァルト）、タイスの瞑想曲（マスネ）、Ｇ線上のアリア（バッハ）、美しきロスマリン、プレリュードとアレグロ（クライスラー）、愛の挨拶（エルガー）、チャールダーシュ（モンティ）他
Flute：「アルルの女」よりメヌエット（ビゼー）、妖精の踊り（グルック）、シチリアーノ（フォーレ）、子守歌（フォーレ）、小舟にて（ドビュッシー）、歌の翼に（メンデルスゾーン）他
clarinet:小品、クラリネットポルカ、ソナタ（サンサーンス）第1楽章 他
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業の時に履修学生全員に集まってもらい、そこでクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分け後にガイダンスと次週から学習する曲の説明。
2	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ①譜読みの確認
3	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ②応用と定着
4	課題曲中の合わせのポイント、呼吸の合わせ方、音量のバランスに重点を置き、具体例を挙げながら伴奏を付ける。
5	音楽面での合わせ方について総合的に研究する。 第2回～第4回の授業のまとめ。
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） 伴奏に於ける基本的な演奏法についての考察。
7	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ①譜読みの確認
8	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ②応用と定着
9	呼吸の合わせ方、音量バランス等を学ぶ。ソロ楽器とのアンサンブルをより発展させる。
10	ソロ楽器とのアンサンブルについて総合的に研究する。 第6回～第9回の授業のまとめ。
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾き、曲全体を把握する練習。
12	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上①実践
13	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上②応用と定着
14	フレーズの作り方、ペダルの使い方を工夫し、表現力を磨く。
15	ソロ楽器とのアンサンブルについて第11回～第14回の授業と前期の授業の総まとめ。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－１　（前）［水4］Bクラス						
代表教員	長谷　正一	授業コード	GE1376B0	科目コード	GE1376	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは、幅広い表現力を持つゆえに、ソロのみではなく、室内楽や伴奏における表現力も修得する必要がある。伴奏、合奏におけるアンサンブルテクニックを学ぶことによって、ソロテクニックだけでは学ぶことの出来ない実に多くのことを身につけることができる。それは、音に対する感受性であり、柔軟性であり、音楽の表現力の豊かさ等である。本講座では、上記に加え、一緒に音楽する喜びを感じて欲しい。「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」では、技術的には比較的楽な小品を扱い、まず伴奏することの楽しさや基礎を学ぶ。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の演奏要員並びに先生方が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお本講座において、ソロ楽器はフルート、ヴァイオリン、クラリネットを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Violin：ガボット（ゴセック）、メヌエット（モーツァルト）、タイスの瞑想曲（マスネ）、Ｇ線上のアリア（バッハ）、美しきロスマリン、プレリュードとアレグロ（クライスラー）、愛の挨拶（エルガー）、チャールダーシュ（モンティ）他
Flute：「アルルの女」よりメヌエット（ビゼー）、妖精の踊り（グルック）、シチリアーノ（フォーレ）、子守歌（フォーレ）、小舟にて（ドビュッシー）、歌の翼に（メンデルスゾーン）他
clarinet:小品、クラリネットポルカ、ソナタ（サンサーンス）第1楽章 他
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業の時に履修学生全員に集まってもらい、そこでクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分け後にガイダンスと次週から学習する曲の説明。
2	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ①譜読みの確認
3	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ②応用と定着
4	課題曲中の合わせのポイント、呼吸の合わせ方、音量のバランスに重点を置き、具体例を挙げながら伴奏を付ける。
5	音楽面での合わせ方について総合的に研究する。 第2回～第4回の授業のまとめ。
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） 伴奏に於ける基本的な演奏法についての考察。
7	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ①譜読みの確認
8	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ②応用と定着
9	呼吸の合わせ方、音量バランス等を学ぶ。ソロ楽器とのアンサンブルをより発展させる。
10	ソロ楽器とのアンサンブルについて総合的に研究する。 第6回～第9回の授業のまとめ。
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾き、曲全体を把握する練習。
12	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上①実践
13	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上②応用と定着
14	フレーズの作り方、ペダルの使い方を工夫し、表現力を磨く。
15	ソロ楽器とのアンサンブルについて第11回～第14回の授業と前期の授業の総まとめ。

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－１　（前）［水4］Cクラス						
代表教員	吉永　恵	授業コード	GE1376C0	科目コード	GE1376	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは、幅広い表現力を持つゆえに、ソロのみではなく、室内楽や伴奏における表現力も修得する必要がある。伴奏、合奏におけるアンサンブルテクニックを学ぶことによって、ソロテクニックだけでは学ぶことの出来ない実に多くのことを身につけることができる。それは、音に対する感受性であり、柔軟性であり、音楽の表現力の豊かさ等である。本講座では、上記に加え、一緒に音楽する喜びを感じて欲しい。「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」では、技術的には比較的楽な小品を扱い、まず伴奏することの楽しさや基礎を学ぶ。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の演奏要員並びに先生方が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお本講座において、ソロ楽器はフルート、ヴァイオリン、クラリネットを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Violin：ガボット（ゴセック）、メヌエット（モーツァルト）、タイスの瞑想曲（マスネ）、Ｇ線上のアリア（バッハ）、美しきロスマリン、プレリュードとアレグロ（クライスラー）、愛の挨拶（エルガー）、チャールダーシュ（モンティ）他
Flute：「アルルの女」よりメヌエット（ビゼー）、妖精の踊り（グルック）、シチリアーノ（フォーレ）、子守歌（フォーレ）、小舟にて（ドビュッシー）、歌の翼に（メンデルスゾーン）他
clarinet:小品、クラリネットポルカ、ソナタ（サンサーンス）第1楽章 他
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業の時に履修学生全員に集まってもらい、そこでクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分け後にガイダンスと次週から学習する曲の説明。
2	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ①譜読みの確認
3	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ②応用と定着
4	課題曲中の合わせのポイント、呼吸の合わせ方、音量のバランスに重点を置き、具体例を挙げながら伴奏を付ける。
5	音楽面での合わせ方について総合的に研究する。 第2回～第4回の授業のまとめ。
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） 伴奏に於ける基本的な演奏法についての考察。
7	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ①譜読みの確認
8	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ②応用と定着
9	呼吸の合わせ方、音量バランス等を学ぶ。ソロ楽器とのアンサンブルをより発展させる。
10	ソロ楽器とのアンサンブルについて総合的に研究する。 第6回～第9回の授業のまとめ。
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾き、曲全体を把握する練習。
12	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上①実践
13	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上②応用と定着
14	フレーズの作り方、ペダルの使い方を工夫し、表現力を磨く。
15	ソロ楽器とのアンサンブルについて第11回～第14回の授業と前期の授業の総まとめ。

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－２　（後）［水4］Aクラス						
代表教員	平沢　由美子	授業コード	GE1377A0	科目コード	GE1377	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」に引き続き、本講座ではヴァイオリンとクラリネットとフルートの伴奏実習を行う。自身の音色を磨き、共に音楽をつくり上げる楽しみ、良いリズム感・フレーズをつくる為の呼吸感を学ぶ。ソナタを主な課題とし、ソロ楽器とピアノの音楽的に深い関わりを通して発展した演習を行う。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の先生方並びに演奏要員が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお、本講座において、ソロ楽器は３クラスがそれぞれフルート、クラリネット、ヴァイオリンを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロパートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ヴァイオリン：ソナタ（モーツァルト）、ソナタ（ヴェートーベン）、協奏曲（チャイコフスキー）その他小品等
クラリネット：コンチェルティーノ（ウェーバー）、ソナタ（サン＝サーンス）、ソナタ（プ-ランク）その他小品等
フルート:ソナタ（バッハ）その他小品等
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」を修得していること。
クラス間で人数調整を行い、3クラスに分ける。
出席を重視します。

授業計画	
	［半期］
1	ピアノパート譜読みの授業 楽譜の音楽的全体構造を理解し、伴奏上の難所を指摘して効率的な指使いを教示する。
2	クラリネットの演習① 2人で１つの音楽を作ることを意識し、ソロ奏者のアインザッツを覚えてアンサンブルに慣れる。
3	クラリネットの演習② ソロ楽器の特性を把握し、強弱で変わるクラリネットの音の出るタイミング（遊び息）を習得する。
4	クラリネットの演習③ ソロ奏者とフレージングを共有し、タンギング、スラー等に注目してアンサンブルのバランス調整を習得する。
5	クラリネットの演習④ ①～③の演習内容を定着させクラリネットの伴奏のまとめとする。ソロ演奏者からの音楽的要求の察知能力を高め、ソロパートを良く聴きメロディーラインを常に意識して演奏する。
6	ピアノパート譜読みの授業（この回よりソロ楽器を入れ替えて実施する） 課題が作曲された背景やソロ楽器の構造を知り、ピアノ譜を見て音楽的課題を確認する。
7	フルートとの演習① ソロ楽器の音質・音量を学び、ソロ奏者のブレスに呼吸をあわせながら伴奏を付ける。
8	フルートとの演習② バロック音楽の通奏低音を課題とし、ピアノのバスパートとソロ楽器のみで演奏して低音の響きに慣れる。
9	フルートとの演習③ バスパートの音楽的流れを意識した上に、音色の違いを意識したハーモニーを合わせて演奏する。
10	フルートとの演習④ ①～③の演習内容を定着させフルートの伴奏のまとめをする。ピアノは伴奏に留まらずソロ楽器と対等に音楽を作ることを理解する。
11	ピアノパート譜読みの授業（この回よりソロ楽器を入れ替えて実施する） ピアノパートの譜読みの仕方とポイントを確認するとともに、ソロパートにも目を通し曲の全体像を把握する。
12	ヴァイオリンとの演習① ヴァイオリンの音質・音量を聴き取り、ソロ楽器の演奏を十分に意識しながら伴奏を付ける。
13	ヴァイオリンとの演習② 弦楽器特有の弓を使った音の発生方法と、ピアノ音の発生方法の違いを学び、呼吸を合わせた演奏方法を習得する。
14	ヴァイオリンとの演習③ 曲の色々な場面で変化する伴奏の役割を認識し、一緒に音楽をつくる楽しさを感じる。
15	ヴァイオリンとの演習④ ①～③の演習内容を定着させヴァイオリンの伴奏のまとめをする。伴奏が担う和声感やソロパートと共有するフレーズを意識して演奏する。

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－２　（後）［水4］Bクラス						
代表教員	秦　江里奈	授業コード	GE1377B0	科目コード	GE1377	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」に引き続き、本講座ではヴァイオリンとクラリネットとフルートの伴奏実習を行う。自身の音色を磨き、共に音楽をつくり上げる楽しみ、良いリズム感・フレーズをつくる為の呼吸感を学ぶ。ソナタを主な課題とし、ソロ楽器とピアノの音楽的に深い関わりを通して発展した演習を行う。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の先生方並びに演奏要員が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお、本講座において、ソロ楽器は３クラスがそれぞれフルート、クラリネット、ヴァイオリンを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロパートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ヴァイオリン：ソナタ（モーツァルト）、ソナタ（ヴェートーベン）、協奏曲（チャイコフスキー）その他小品等
クラリネット：コンチェルティーノ（ウェーバー）、ソナタ（サン＝サーンス）、ソナタ（プ-ランク）その他小品等
フルート:ソナタ（バッハ）その他小品等
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」を修得していること。
クラス間で人数調整を行い、3クラスに分ける。
出席を重視します。

授業計画	
	［半期］
1	ピアノパート譜読みの授業 楽譜の音楽的全体構造を理解し、伴奏上の難所を指摘して効率的な指使いを教示する。
2	クラリネットの演習① 2人で１つの音楽を作ることを意識し、ソロ奏者のアインザッツを覚えてアンサンブルに慣れる。
3	クラリネットの演習② ソロ楽器の特性を把握し、強弱で変わるクラリネットの音の出るタイミング（遊び息）を習得する。
4	クラリネットの演習③ ソロ奏者とフレージングを共有し、タンギング、スラー等に注目してアンサンブルのバランス調整を習得する。
5	クラリネットの演習④ ①～③の演習内容を定着させクラリネットの伴奏のまとめとする。ソロ演奏者からの音楽的要求の察知能力を高め、ソロパートを良く聴きメロディーラインを常に意識して演奏する。
6	ピアノパート譜読みの授業（この回よりソロ楽器を入れ替えて実施する） 課題が作曲された背景やソロ楽器の構造を知り、ピアノ譜を見て音楽的課題を確認する。
7	フルートとの演習① ソロ楽器の音質・音量を学び、ソロ奏者のブレスに呼吸をあわせながら伴奏を付ける。
8	フルートとの演習② バロック音楽の通奏低音を課題とし、ピアノのバスパートとソロ楽器のみで演奏して低音の響きに慣れる。
9	フルートとの演習③ バスパートの音楽的流れを意識した上に、音色の違いを意識したハーモニーを合わせて演奏する。
10	フルートとの演習④ ①～③の演習内容を定着させフルートの伴奏のまとめをする。ピアノは伴奏に留まらずソロ楽器と対等に音楽を作ることを理解する。
11	ピアノパート譜読みの授業（この回よりソロ楽器を入れ替えて実施する） ピアノパートの譜読みの仕方とポイントを確認するとともに、ソロパートにも目を通し曲の全体像を把握する。
12	ヴァイオリンとの演習① ヴァイオリンの音質・音量を聴き取り、ソロ楽器の演奏を十分に意識しながら伴奏を付ける。
13	ヴァイオリンとの演習② 弦楽器特有の弓を使った音の発生方法と、ピアノ音の発生方法の違いを学び、呼吸を合わせた演奏方法を習得する。
14	ヴァイオリンとの演習③ 曲の色々な場面で変化する伴奏の役割を認識し、一緒に音楽をつくる楽しさを感じる。
15	ヴァイオリンとの演習④ ①～③の演習内容を定着させヴァイオリンの伴奏のまとめをする。伴奏が担う和声感やソロパートと共有するフレーズを意識して演奏する。

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－２　（後）［水4］Cクラス						
代表教員	蓼沼　恵美子	授業コード	GE1377C0	科目コード	GE1377	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」に引き続き、本講座ではヴァイオリンとクラリネットとフルートの伴奏実習を行う。自身の音色を磨き、共に音楽をつくり上げる楽しみ、良いリズム感・フレーズをつくる為の呼吸感を学ぶ。ソナタを主な課題とし、ソロ楽器とピアノの音楽的に深い関わりを通して発展した演習を行う。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の先生方並びに演奏要員が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお、本講座において、ソロ楽器は３クラスがそれぞれフルート、クラリネット、ヴァイオリンを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロパートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ヴァイオリン：ソナタ（モーツァルト）、ソナタ（ヴェートーベン）、協奏曲（チャイコフスキー）その他小品等
クラリネット：コンチェルティーノ（ウェーバー）、ソナタ（サン＝サーンス）、ソナタ（ﾌﾟﾗﾝｸ）その他小品等
フルート:ソナタ（バッハ）その他小品等
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」を修得していること。
クラス間で人数調整を行い、3クラスに分ける。
出席を重視します。

授業計画	
	［半期］
1	ピアノパート譜読みの授業 楽譜の音楽的全体構造を理解し、伴奏上の難所を指摘して効率的な指使いを教示する。
2	クラリネットの演習① 2人で１つの音楽を作ることを意識し、ソロ奏者のアインザッツを覚えてアンサンブルに慣れる。
3	クラリネットの演習② ソロ楽器の特性を把握し、強弱で変わるクラリネットの音の出るタイミング（遊び息）を習得する。
4	クラリネットの演習③ ソロ奏者とフレージングを共有し、タンギング、スラー等に注目してアンサンブルのバランス調整を習得する。
5	クラリネットの演習④ ①～③の演習内容を定着させクラリネットの伴奏のまとめとする。ソロ演奏者からの音楽的要求の察知能力を高め、ソロパートを良く聴きメロディーラインを常に意識して演奏する。
6	ピアノパート譜読みの授業（この回よりソロ楽器を入れ替えて実施する） 課題が作曲された背景やソロ楽器の構造を知り、ピアノ譜を見て音楽的課題を確認する。
7	フルートとの演習① ソロ楽器の音質・音量を学び、ソロ奏者のブレスに呼吸をあわせながら伴奏を付ける。
8	フルートとの演習② バロック音楽の通奏低音を課題とし、ピアノのバスパートとソロ楽器のみで演奏して低音の響きに慣れる。
9	フルートとの演習③ バスパートの音楽的流れを意識した上に、音色の違いを意識したハーモニーを合わせて演奏する。
10	フルートとの演習④ ①～③の演習内容を定着させフルートの伴奏のまとめをする。ピアノは伴奏に留まらずソロ楽器と対等に音楽を作ることを理解する。
11	ピアノパート譜読みの授業（この回よりソロ楽器を入れ替えて実施する） ピアノパートの譜読みの仕方とポイントを確認するとともに、ソロパートにも目を通し曲の全体像を把握する。
12	ヴァイオリンとの演習① ヴァイオリンの音質・音量を聴き取り、ソロ楽器の演奏を十分に意識しながら伴奏を付ける。
13	ヴァイオリンとの演習② 弦楽器特有の弓を使った音の発生方法と、ピアノ音の発生方法の違いを学び、呼吸を合わせた演奏方法を習得する。
14	ヴァイオリンとの演習③ 曲の色々な場面で変化する伴奏の役割を認識し、一緒に音楽をつくる楽しさを感じる。
15	ヴァイオリンとの演習④ ①～③の演習内容を定着させヴァイオリンの伴奏のまとめをする。伴奏が担う和声感やソロパートと共有するフレーズを意識して演奏する。

科目名	器楽曲伴奏法II－１　（前）［火4］						
代表教員	皆川　純一	授業コード	GE137800	科目コード	GE1378	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法I－２」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソロ楽器として高い芸術性をもつピアノ音楽も一面では他のソロ楽器の伴奏として音楽的に非常に重要な役割をもっている。「器楽曲伴奏法II」は他の楽器とのアンサンブルによって、お互いの音楽性を高め、さらに深く芸術性を追求し、伴奏としてのピアノ演奏スタイルを深く勉強する。

２．授業概要

器楽アンサンブルにおけるピアノパートの研究、チェロ、オーボエとのアンサンブル演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習　アンサンブルが成立するようにピアノパートの正確な読譜と練習をすること。
知らない楽曲については、ソロパートや全体の流れを知るために事前にCD等の音源を聴いておくことが望ましい。

復習　授業内で体得したアンサンブルにおける呼吸法、ピアノの音色や音量に留意しながら練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み方、演習の完成度によって判定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

〈チェロ〉
バッハ「 G線上のアリア」　サンサーンス 「白鳥」　ラフマニノフ 「ヴォカリーズ」　フォーレ 「夢のあとに」
シューベルト 「アルペジョーネソナタ」　カタロニア民謡 「鳥の唄」等

〈オーボエ〉シューマン 「３つのロマンス」　プーランク「オーボエソナタ」等の小品

上記楽曲より各自 １～２曲を選択し演習します。

参考：授業内オリエンテーションでCDを聴いて選曲します

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演習授業なのである程度の予習と練習が必要となります。
積極的な授業参加を心がけて下さい。
上記楽曲の他に演習してみたい希望曲があれば事前に申し出て下さい。

授業計画	
	［半期］
1	履修ガイダンス 次週から学習する曲目を各自選択（CD音源などを参考に）
2	伴奏における基礎的演習① ピアノパートのみの演習で正確な読譜をすること
3	伴奏における基礎的演習② チェロとのアンサンブル 弦楽器の特性ついて深く知ること。 呼吸、音量のバランスに重点を置き、伴奏をする。
4	発展と応用① 前回の授業を踏まえ、 より音楽面から総合的に楽曲を研究する。
5	発展と応用② 各楽曲における時代様式や演奏法の違い、ピアノパートのタッチや音色の研究を中心に考察する。
6	表現力の向上① フレージング、ペダルに留意しながら曲に相応しい表現を心がける。
7	表現力の向上② 前回の授業を踏まえ、チェロとのバランスに留意しながらまとめる。
8	第2回～第7回の授業のまとめ 演習した曲を通して演奏してみる。
9	管楽器とピアノ　における伴奏法の考察 学習する曲目の説明（CD音源等を用いて） ピアノパートのみで正確な読譜をする。
10	伴奏における基礎的演習③ 木管楽器（オーボエ）に慣れ親しむ。 楽器の構造や特性を知ることによりどのようなことを注意すべきかを伴奏を付けながら研究する。
11	伴奏における基礎的演習④ 木管楽器におけるブレスや音量バランスについて伴奏を付けながら研究する。
12	発展と応用③ 各楽曲における時代様式や演奏法の違い、ピアノパートのタッチや音色の研究を中心により深く考察する。
13	表現力の向上③ ピアノでのフレーズの作り方、ペダルの使い方を工夫して表現力を磨く。
14	表現力の向上④ 前回の授業を踏まえオーボエの特性に留意しながら、 さらに楽曲に相応しい表現方法を考察する。
15	第9回～第14回の授業及び前期授業の総まとめ。 演習した曲を通して演奏する。

科目名	器楽曲伴奏法II－２　（後）［火4］						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	GE137900	科目コード	GE1379	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法II-１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソロ楽器として高い芸術性をもつピアノも、一面では他の楽器とのアンサンブルや伴奏として音楽的に重要な役割を持っている。それにはピアノ曲のみの知識では不充分であるため、他の様々な楽器や様式に触れ、幅広く楽しみながら伴奏としての演奏スタイル、伴奏者としての勉強法や心構えを身につけてほしい。

２．授業概要

「器楽曲伴奏法II-２」ではヴァイオリン・トランペットとのアンサンブルを演習します。
それぞれの楽器の特性を生かした伴奏法、選曲方法等楽器の先生の貴重な体験なども伺いながら演習していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習　アンサンブルが成立するようにピアノパートの正確な読譜と練習をすること。
　　知らない楽曲についてはソロパートや全体の流れを知るために事前にCD等の音源を聴いておくことが望ましい。
復習　アンサンブルにおける呼吸法、ピアノの音色や音量に留意しながら練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を重視し、また取り組み方などを評価の基準とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

〈ヴァイオリンとのアンサンブル〉
クライスラー「愛の喜び・愛の悲しみ」
モーツアルト「ソナタ」等
〈トランペットとのアンサンブル〉
ハイドン「トランペット協奏曲」
ポピュラー小品集 等
（曲目は変更される場合もあります。）
授業に必要な楽譜は配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽器とのアンサンブル、伴奏に興味のある人。
演習の授業であるため、ただ出席しているだけでは単位は修得できません。
授業が円滑に行われるには、ある程度の練習を必要とします。積極的な授業参加を心掛けて下さい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（楽譜配布など）と次週から学習する曲の説明
2	前半はヴァイオリンとのアンサンブル この回はピアノパート譜のみの授業
3	ヴァイオリンとのアンサンブル 弦楽器との合わせに慣れ親しむ
4	ヴァイオリンとのアンサンブル 弦楽器の音色や響きに慣れ親しむ
5	ヴァイオリンとのアンサンブル 弦楽器とのアンサンブルの質の向上に重点を置く
6	ヴァイオリンとのアンサンブル 課題曲中の合わせのポイント、呼吸の合わせなどに重点を置き伴奏を付ける
7	ヴァイオリンとのアンサンブル ソロ楽器との音量バランス、テクニック的な事に重点を置き伴奏を付ける
8	ヴァイオリンとのアンサンブル 音楽面での合わせについて総合的に研究する
9	後半はトランペットとのアンサンブル この回はピアノパート譜のみの授業
10	トランペットとのアンサンブル 管楽器との合わせに慣れ親しむ
11	トランペットとのアンサンブル 管楽器の音色や響きに慣れ親しむ
12	トランペットとのアンサンブル 管楽器とのアンサンブルの質の向上に重点を置く
13	トランペットとのアンサンブル 弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、伴奏を付ける
14	トランペットとのアンサンブル ソロ楽器との音量バランス、テクニック的な事に重点を置き伴奏を付ける
15	トランペットとのアンサンブル 音楽面での合わせについて総合的に研究する

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ　（前）［月3］Aクラス						
代表教員	押川　涼子	授業コード	GE1382A0	科目コード	GE1382	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業では歌曲伴奏法の導入編として、よく知られたイタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を伴奏することによって、歌い手との協調性、歌詞の重要性、表現の多様性などを学びます。そして、これらのことを習得するための勉強法やコツを歌い手と実際に合わせることによって身につけていきます。

２．授業概要

イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲の伴奏法を勉強します。授業は、まず最初にピアノ伴奏のパートのみで行い、 次に声楽の先生と実際に合わせるという形で進めていきます。
また全授業終了後には、前期で勉強した曲の中から各自一曲を選び、声楽の先生方と共演する試演会を行います。
（この試演会での演奏の評価を含む、前期全体での評価によって、後期の歌曲伴奏法１−２の履修希望者のクラス分けを再度行います。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

あらかじめ歌詞の意味を調べ、曲の内容をつかんでおくこと。そして、ＣＤなどを聴いて参考にしながら曲想を把握して、授業内できちんと通奏ができるように準備しておくこと。また可能ならば、授業中に取り上げる全ての曲（下記参照）を自主的に練習しておくことも、各自のレパートリーの拡大、実力向上につながるので積極的に行うこと。

＊歌曲伴奏法１−１　学習予定曲
・待ちぼうけ（山田耕作）
・平城山（平井康三郎）
・Ａｍａｒｉｌｌｉ（Ｃａｃｃｉｎｉ）
・Ｃａｒｏ　ｍｉｏ　ｂｅｎ（Ｇｉｏｒｄａｎｉ）
・Ｏ　ｄｅｌ　ｍｉｏ　ａｍａｔｏ　ｂｅｎ（Ｄｏｎａｕｄｙ）
・Ｍａｌｉｎｃｏｎｉａ（Ｂｅｌｌｉｎｉ）
・Ideale (Tost i)
・Ｄａｓ　Ｖｅｉｌｃｈｅｎ（Ｍｏｚａｒｔ）
・Lachen und Weinen（Ｓｃｈｕｂｅｒｔ）
・Liederkreis op.39（Ｓｃｈｕｍａｎｎ）より
In der Fremde,Intermezzo,Waldgespraech
（曲目は 多少変更になる事があります。）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（レポート提出）（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
試演会での演奏（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「イタリア歌曲集」（全音または教芸）「シューベルト」「モーツァルト」「シューマン」
「ベッリーニ」「トスティ」「ドナウディ」「中田喜直」「山田耕作」などの歌曲集 他
参考文献：
『伴奏者の発言』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『お耳ざわりですか』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『伴奏の芸術』　ヘルムート・ドイチュ（ムジカノーヴァ）
「ロマン派の芸術の世界」　坂崎二郎（講談社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「歌曲伴奏」に興味のある学生。
後期の「歌曲伴奏法Ⅰ−２」の履修希望学生は必ず履修すること。
「歌曲伴奏」は、とにかく少しでも多く経験を積むことが大切です。この講座で声楽家と実際に合わせることにより、たくさん弾いたり聴いたりしながら、どんどん経験を積んでいって欲しいと思います。このことは同時に、自分自身の音楽の幅を広げることにもつながっています。そのため出席を重視しますので、意欲的に授業に参加してください。
初回の授業で、経験別（自己申告）によりＡ、Ｂ、Ｃの３クラスにクラス分けをします。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。
注：出席率は、８０％以上を必須とする。

授業計画	
	［半期］ 　イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を通して、伴奏法を基礎から学んでいきます。 　ピアノパートのみの授業で取り上げた曲を、その後の３回の授業で声楽の先生と合わながら、伴奏のコツを習得していきます。最終授業終了後に試演会を行います。
1	ガイダンス（楽譜の配布、授業の内容と進め方・予定等の説明）
2	ピアノパートのみの授業 （待ちぼうけ、平城山、Amarilli,Caro mio ben）
3	声楽の先生との合わせと曲目解説 （待ちぼうけ、平城山）
4	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Amarilli,Caro mio ben）
5	声楽の先生との合わせと総括 （待ちぼうけ、平城山、Amarilli、 Caro mio ben）
6	ピアノパートのみの授業 （O del mio amato ben, Malinconia, Ideale）
7	声楽の先生との合わせと曲目解説 （O del mio amato ben）
8	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Malinconia、Ideale）
9	声楽の先生との合わせと総括 （O del mio amato ben、Malinconia、Ideale）
10	ピアノパートのみの授業 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より In der Fremde、 Intermezzo、Wａｌｄgesoreach）
11	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より 　In der Fremde）
12	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Liederkreis op.39より　Intermezzo、　　Waldgespreach）
13	声楽の先生との合わせと総括 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より In der Fremde、Intermezzo、Waldgespreach）
14	試演会の曲のピアノパートのみの授業
15	試演会に向けての声楽の先生方との合わせ

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ　（前）［月3］Bクラス						
代表教員	小市　香澄	授業コード	GE1382B0	科目コード	GE1382	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業では歌曲伴奏法の導入編として、よく知られたイタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を伴奏することによって、歌い手との協調性、歌詞の重要性、表現の多様性などを学びます。そして、これらのことを習得するための勉強法やコツを歌い手と実際に合わせることによって身につけていきます。

２．授業概要

イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲の伴奏法を勉強します。授業は、まず最初にピアノ伴奏のパートのみで行い、 次に声楽の先生と実際に合わせるという形で進めていきます。
また全授業終了後には、前期で勉強した曲の中から各自一曲を選び、声楽の先生方と共演する試演会を行います。
（この試演会での演奏の評価を含む、前期全体での評価によって、後期の歌曲伴奏法１−２の履修希望者のクラス分けを再度行います。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

あらかじめ歌詞の意味を調べ、曲の内容をつかんでおくこと。そして、ＣＤなどを聴いて参考にしながら曲想を把握して、授業内できちんと通奏ができるように準備しておくこと。また可能ならば、授業中に取り上げる全ての曲（下記参照）を自主的に練習しておくことも、各自のレパートリーの拡大、実力向上につながるので積極的に行うこと。

＊歌曲伴奏法１−１　学習予定
・待ちぼうけ（山田耕作）
・平城山（平井康三郎）
・Ａｍａｒｉｌｌｉ（Ｃａｃｃｉｎｉ）
・Ｃａｒｏ　ｍｉｏ　ｂｅｎ（Ｇｉｏｒｄａｎｉ）
・Ｏ　ｄｅｌ　ｍｉｏ　ａｍａｔｏ　ｂｅｎ（Ｄｏｎａｕｄｙ）
・Ｍａｌｉｎｃｏｎｉａ（Ｂｅｌｌｉｎｉ）
・Ideale (Tost i)
・Ｄａｓ　Ｖｅｉｌｃｈｅｎ（Ｍｏｚａｒｔ）
・Lachen und Weinen（Ｓｃｈｕｂｅｒｔ）
・Liederkreis op.39（Ｓｃｈｕｍａｎｎ）より
In der Fremde,Intermezzo,Waldgespraech
（曲目は 多少変更になる事があります。）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（レポート提出）（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
試演会での演奏（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「イタリア歌曲集」（全音または教芸）「シューベルト」「モーツァルト」「シューマン」
「ベッリーニ」「トスティ」「ドナウディ」「中田喜直」「山田耕作」などの歌曲集 他
参考文献：
『伴奏者の発言』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『お耳ざわりですか』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『伴奏の芸術』　ヘルムート・ドイチュ（ムジカノーヴァ）
「ロマン派の芸術の世界」　坂崎二郎（講談社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「歌曲伴奏」に興味のある学生。
後期の「歌曲伴奏法Ⅰ−２」の履修希望学生は必ず履修すること。
「歌曲伴奏」は、とにかく少しでも多く経験を積むことが大切です。この講座で声楽家と実際に合わせることにより、たくさん弾いたり聴いたりしながら、どんどん経験を積んでいって欲しいと思います。このことは同時に、自分自身の音楽の幅を広げることにもつながっています。そのため出席を重視しますので、意欲的に授業に参加してください。
初回の授業で、経験別（自己申告）によりＡ、Ｂ、Ｃの３クラスにクラス分けをします。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。
注：出席率は、８０％以上を必須とする。

授業計画	
	［半期］ イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を通して、伴奏法を基礎から学んでいきます。 ピアノパートのみの授業で取り上げた曲を、その後の３回の授業で声楽の先生と合わながら、伴奏のコツを習得していきます。最終授業終了後に試演会を行います。
1	ガイダンス（楽譜の配布、授業の内容と進め方・予定等の説明）
2	ピアノパートのみの授業 （待ちぼうけ、平城山、Amarilli,Caro mio ben）
3	声楽の先生との合わせと曲目解説 （待ちぼうけ、平城山）
4	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Amarilli,Caro mio ben）
5	声楽の先生との合わせと総括 （待ちぼうけ、平城山、Amarilli、 Caro mio ben）
6	ピアノパートのみの授業 （O del mio amato ben, Malinconia, Ideale）
7	声楽の先生との合わせと曲目解説 （O del mio amato ben）
8	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Malinconia、Ideale）
9	声楽の先生との合わせと総括 （O del mio amato ben、Malinconia、Ideale）
10	ピアノパートのみの授業 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より In der Fremde、 Intermezzo、Wａｌｄgesoreach）
11	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より In der Fremde）
12	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Liederkreis op.39より　Intermezzo、　Waldgespreach）
13	声楽の先生との合わせと総括 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より In der Fremde、Intermezzo、Waldgespreach）
14	試演会の曲のピアノパートのみの授業
15	試演会に向けての声楽の先生方との合わせ

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ　（前）［月3］Cクラス						
代表教員	小助川　眞美	授業コード	GE1382C0	科目コード	GE1382	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業では歌曲伴奏法の導入編として、よく知られたイタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を伴奏することによって、歌い手との協調性、歌詞の重要性、表現の多様性などを学びます。そして、これらのことを習得するための勉強法やコツを歌い手と実際に合わせることによって身につけていきます。

２．授業概要

イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲の伴奏法を勉強します。授業は、まず最初にピアノ伴奏のパートのみで行い、 次に声楽の先生と実際に合わせるという形で進めていきます。
また全授業終了後には、前期で勉強した曲の中から各自一曲を選び、声楽の先生方と共演する試演会を行います。
（この試演会での演奏の評価を含む、前期全体での評価によって、後期の歌曲伴奏法１−２の履修希望者のクラス分けを再度行います。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

あらかじめ歌詞の意味を調べ、曲の内容をつかんでおくこと。そして、ＣＤなどを聴いて参考にしながら曲想を把握して、授業内できちんと通奏ができるように準備しておくこと。また可能ならば、授業中に取り上げる全ての曲（下記参照）を自主的に練習しておくことも、各自のレパートリーの拡大、実力向上につながるので積極的に行うこと。

＊歌曲伴奏法１−１　学習予定曲
・待ちぼうけ（山田耕作）
・平城山（平井康三郎）
・Ａｍａｒｉｌｌｉ（Ｃａｃｃｉｎｉ）
・Ｃａｒｏ　ｍｉｏ　ｂｅｎ（Ｇｉｏｒｄａｎｉ）
・Ｏ　ｄｅｌ　ｍｉｏ　ａｍａｔｏ　ｂｅｎ（Ｄｏｎａｕｄｙ）
・Ｍａｌｉｎｃｏｎｉａ（Ｂｅｌｌｉｎｉ）
・Ideale (Tost i)
・Ｄａｓ　Ｖｅｉｌｃｈｅｎ（Ｍｏｚａｒｔ）
・Lachen und Weinen（Ｓｃｈｕｂｅｒｔ）
・Liederkreis op.39（Ｓｃｈｕｍａｎｎ）より
In der Fremde,Intermezzo,Waldgespraech
（曲目は 多少変更になる事があります。）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（レポート提出）（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
試演会での演奏（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「イタリア歌曲集」（全音または教芸）「シューベルト」「モーツァルト」「シューマン」
「ベッリーニ」「トスティ」「ドナウディ」「中田喜直」「山田耕作」などの歌曲集 他
参考文献：
『伴奏者の発言』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『お耳ざわりですか』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『伴奏の芸術』　ヘルムート・ドイチュ（ムジカノーヴァ）
「ロマン派の芸術の世界」　坂崎二郎（講談社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「歌曲伴奏」に興味のある学生。
後期の「歌曲伴奏法Ⅰ−２」の履修希望学生は必ず履修すること。
「歌曲伴奏」は、とにかく少しでも多く経験を積むことが大切です。この講座で声楽家と実際に合わせることにより、たくさん弾いたり聴いたりしながら、どんどん経験を積んでいって欲しいと思います。このことは同時に、自分自身の音楽の幅を広げることにもつながっていきます。そのため出席を重視しますので、意欲的に授業に参加してください。
初回の授業で、経験別（自己申告）によりＡ、Ｂ、Ｃの３クラスにクラス分けをします。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。
注：出席率は、８０％以上を必須とする。

授業計画	
	［半期］ 　イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を通して、伴奏法を基礎から学んでいきます。 　ピアノパートのみの授業で取り上げた曲を、その後の３回の授業で声楽の先生と合わながら、伴奏のコツを習得していきます。最終授業終了後に試演会を行います。
1	ガイダンス（楽譜の配布、授業の内容と進め方・予定等の説明）
2	ピアノパートのみの授業 （待ちぼうけ、平城山、Amarilli,Caro mio ben）
3	声楽の先生との合わせと曲目解説 （待ちぼうけ、平城山）
4	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Amarilli,Caro mio ben）
5	声楽の先生との合わせと総括 （待ちぼうけ、平城山、Amarilli、 Caro mio ben）
6	ピアノパートのみの授業 （O del mio amato ben, Malinconia, Ideale）
7	声楽の先生との合わせと曲目解説 （O del mio amato ben）
8	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Malinconia、Ideale）
9	声楽の先生との合わせと総括 （O del mio amato ben、Malinconia、Ideale）
10	ピアノパートのみの授業 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より In der Fremde、 Intermezzo、Wａｌｄgesoreach）
11	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より 　In der Fremde）
12	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Liederkreis op.39より　Intermezzo、　　Waldgespreach）
13	声楽の先生との合わせと総括 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より In der Fremde、Intermezzo、Waldgespreach）
14	試演会の曲のピアノパートのみの授業
15	試演会に向けての声楽の先生方との合わせ

科目名	歌曲伴奏法Ⅱ　（後）［月3］Aクラス						
代表教員	服部　真由子	授業コード	GE1383A0	科目コード	GE1383	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲伴奏法I－１」または「歌曲伴奏法Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「歌曲伴奏法I－１/歌曲伴奏法Ⅰ」で学んだ基礎的な知識、経験を土台にして、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲を学びます。
歌詞による情景をもとに、演奏に際しての想像力を豊かにし、具体的な奏法を身につける。そして歌の息の流れを学ぶことによってフレージングを体感し、楽曲への理解を深め、読譜力をつけるようにしていきます。
また、この授業を通して歌詞に見合う音質や音色の選択を学び、独奏においても展開できる力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

モーツァルト、シューベルト、シューマン、トスティ、マスカーニ、ドナウディ、チマーラ、山田耕筰、越谷達之助、中田喜直の歌曲を学びます。また、上級クラスにおいては、上記の曲目にフォーレ、グラナドスの歌曲が加えられます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自らのパートの習熟が浅いと、アンサンブルの際に歌のパートを聴く余裕が生まれないため、必ず予習をすること。指定された曲の歌詞を朗読し、意味を調べ内容を理解しておく。それをふまえた上で歌の旋律も実際に歌い、ピアノパートを充分練習しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び15回の授業終了後の試演会による。
また、前期試演会の成績により、上級クラスを設ける。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教員が準備し、配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業では、できるだけ多くの曲を弾いて頂きたいと思っています。
ピアノパートの準備はもちろんのこと、外国語の曲が多いので、歌詞の下調べも十分にしてきてください。
クラス分けについては、別途ポータル掲示をするので確認すること。

授業計画	
	［半期］
1	本授業のガイダンス。次回より取り上げられる楽譜の配布。
2	声楽コース講師との共演を通して、モーツァルト作曲「クローエに」を演習する。歌詞の解釈、アンサンブルとして良きクオリティーを目指す。またそれを聴講することにより応用力を身につける。
3	声楽コース講師との共演により、呼吸やフレージングを学ぶ。各学生がモーツァルト作曲「ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき」を演習する。
4	シューベルト作曲「セレナーデ」を演習する。 この曲を通して古典派とロマン派の様式の特徴を考えながら、音質、音色の選択について学ぶ。
5	これから学習する歌曲の理解力を深める。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。
6	シューマン作曲「くるみの木」を演習する。アンサンブルとして良きクオリティーを目指すことに加え、ピアニストとしてどのように歌い手を支えるかを学ぶ。
7	チマーラ作曲「郷愁」を演習する。ドイツ歌曲とイタリア歌曲の違いについて学ぶ。表現法の違いや様式の違いを実践から体感する。
8	マスカーニ作曲「セレナータ」を演習する。歌い手と共にピアニストの独奏とは違う表現力を最大限に活かす奏法を学ぶ。
9	これから学習する歌曲の理解力を深め、声楽担当教員とのアンサンブルに備える。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。またピアニストの役割を考え、学生同士ディスカッションをする。
10	トスティ作曲「ローザ」を演習する。ピアノパートの流れから、歌い手がいかに表現力を最大限に出せるかを考え実践する。ピアニストの音質や音色によって、歌い手の表現が変化することを実践から体感する。
11	これから学習する日本歌曲の理解を深める。日本人として、我が国におけるクラシック音楽の歴史を学び、現代における日本歌曲の発展を学ぶ。
12	山田耕筰作曲「からたちの花」を演習する。日本語の発音についての理解も深め、歌詞の内容から音質や音色の選択を学ぶ。さらには、西洋音楽との違いについて実践を通して体感する。
13	越谷達之助作曲「初恋」を演習する。歌詞である石川啄木の短歌について理解を深め、表現の拡大を図る。歌詞の裏にある背景についても考え、音にすることを学んでいく。
14	声楽コース講師との共演を通して習得した楽曲から1曲選択し、ピアノパートの復習、適宜アドヴァイスを受け試演会に備える。
15	習得した楽曲を1曲選択し、声楽コース講師との共演により授業成果を披露する試演会にむけてのリハーサル。

科目名	歌曲伴奏法Ⅱ　（後）［月3］Bクラス						
代表教員	立石　智子	授業コード	GE1383B0	科目コード	GE1383	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲伴奏法I−１」または「歌曲伴奏法Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「歌曲伴奏法I−１/歌曲伴奏法Ⅰ」で学んだ基礎的な知識、経験を土台にして、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲を学びます。
歌詞による情景をもとに、演奏に際しての想像力を豊かにし、具体的な奏法を身につける。そして歌の息の流れを学ぶことによってフレージングを体感し、楽曲への理解を深め、読譜力をつけるようにしていきます。
また、この授業を通して歌詞に見合う音質や音色の選択を学び、独奏においても展開できる力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

モーツァルト、シューベルト、シューマン、トスティ、マスカーニ、ドナウディ、チマーラ、山田耕筰、越谷達之助、中田喜直の歌曲を学びます。また、上級クラスにおいては、上記の曲目にフォーレ、グラナドスの歌曲が加えられます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自らのパートの習熟が浅いと、アンサンブルの際に歌のパートを聴く余裕が生まれないため、必ず予習をすること。指定された曲の歌詞を朗読し、意味を調べ内容を理解しておく。それをふまえた上で歌の旋律も実際に歌い、ピアノパートを充分練習しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び15回の授業終了後の試演会による。
また、前期試演会の成績により、上級クラスを設ける。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教員が準備し、配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業では、できるだけ多くの曲を弾いて頂きたいと思っています。
ピアノパートの準備はもちろんのこと、外国語の曲が多いので、歌詞の下調べも十分にしてきてください。
クラス分けについては、別途ポータル掲示をするので確認すること。

授業計画	
	［半期］
1	本授業のガイダンス。次回より取り上げられる楽譜の配布。
2	声楽コース講師との共演を通して、モーツァルト作曲「クローエに」を演習する。歌詞の解釈、アンサンブルとして良きクオリティーを目指す。またそれを聴講することにより応用力を身につける。
3	声楽コース講師との共演により、呼吸やフレージングを学ぶ。各学生がモーツァルト作曲「ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき」を演習する。
4	シューベルト作曲「セレナーデ」を演習する。 この曲を通して古典派とロマン派の様式の特徴を考えながら、音質、音色の選択について学ぶ。
5	これから学習する歌曲の理解力を深める。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。
6	シューマン作曲「くるみの木」を演習する。アンサンブルとして良きクオリティーを目指すことに加え、ピアニストとしてどのように歌い手を支えるかを学ぶ。
7	チマーラ作曲「郷愁」を演習する。ドイツ歌曲とイタリア歌曲の違いについて学ぶ。表現法の違いや様式の違いを実践から体感する。
8	マスカーニ作曲「セレナータ」を演習する。歌い手と共にピアニストの独奏とは違う表現力を最大限に活かす奏法を学ぶ。
9	これから学習する歌曲の理解力を深め、声楽担当教員とのアンサンブルに備える。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。またピアニストの役割を考え、学生同士ディスカッションをする。
10	トスティ作曲「ローザ」を演習する。ピアノパートの流れから、歌い手がいかに表現力を最大限に出せるかを考え実践する。ピアニストの音質や音色によって、歌い手の表現が変化することを実践から体感する。
11	これから学習する日本歌曲の理解を深める。日本人として、我が国におけるクラシック音楽の歴史を学び、現代における日本歌曲の発展を学ぶ。
12	山田耕筰作曲「からたちの花」を演習する。日本語の発音についての理解も深め、歌詞の内容から音質や音色の選択を学ぶ。さらには、西洋音楽との違いについて実践を通して体感する。
13	越谷達之助作曲「初恋」を演習する。歌詞である石川啄木の短歌について理解を深め、表現の拡大を図る。歌詞の裏にある背景についても考え、音にすることを学んでいく。
14	声楽コース講師との共演を通して習得した楽曲から1曲選択し、ピアノパートの復習、適宜アドヴァイスを受け試演会に備える。
15	習得した楽曲を1曲選択し、声楽コース講師との共演により授業成果を披露する試演会にむけてのリハーサル。

科目名	歌曲伴奏法Ⅱ　（後）［月3］Cクラス						
代表教員	吉武　雅子	授業コード	GE1383C0	科目コード	GE1383	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲伴奏法I－１」または「歌曲伴奏法Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「歌曲伴奏法I－１/歌曲伴奏法Ⅰ」で学んだ基礎的な知識、経験を土台にして、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲を学びます。
歌詞による情景をもとに、演奏に際しての想像力を豊かにし、具体的な奏法を身につける。そして歌の息の流れを学ぶことによってフレージングを体感し、楽曲への理解を深め、読譜力をつけるようにしていきます。
また、この授業を通して歌詞に見合う音質や音色の選択を学び、独奏においても展開できる力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

モーツァルト、シューベルト、シューマン、トスティ、マスカーニ、ドナウディ、チマーラ、山田耕筰、越谷達之助、中田喜直の歌曲を学びます。また、上級クラスにおいては、上記の曲目にフォーレ、グラナドスの歌曲が加えられます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自らのパートの習熟が浅いと、アンサンブルの際に歌のパートを聴く余裕が生まれないため、必ず予習をすること。指定された曲の歌詞を朗読し、意味を調べ内容を理解しておく。それをふまえた上で歌の旋律も実際に歌い、ピアノパートを充分練習しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び15回の授業終了後の試演会による。
また、前期試演会の成績により、上級クラスを設ける。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教員が準備し、配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業では、できるだけ多くの曲を弾いて頂きたいと思っています。
ピアノパートの準備はもちろんのこと、外国語の曲が多いので、歌詞の下調べも十分にしてきてください。
クラス分けについては、別途ポータル掲示をするので確認すること。

授業計画	
	［半期］
1	本授業のガイダンス。次回より取り上げられる楽譜の配布。
2	声楽コース講師との共演を通して、モーツァルト作曲「クローエに」を演習する。歌詞の解釈、アンサンブルとして良きクオリティーを目指す。またそれを聴講することにより応用力を身につける。
3	声楽コース講師との共演により、呼吸やフレージングを学ぶ。各学生がモーツァルト作曲「ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき」を演習する。
4	シューベルト作曲「セレナーデ」を演習する。 この曲を通して古典派とロマン派の様式の特徴を考えながら、音質、音色の選択について学ぶ。
5	これから学習する歌曲の理解力を深める。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。
6	シューマン作曲「くるみの木」を演習する。アンサンブルとして良きクオリティーを目指すことに加え、ピアニストとしてどのように歌い手を支えるかを学ぶ。
7	チマーラ作曲「郷愁」を演習する。ドイツ歌曲とイタリア歌曲の違いについて学ぶ。表現法の違いや様式の違いを実践から体感する。
8	マスカーニ作曲「セレナータ」を演習する。歌い手と共にピアニストの独奏とは違う表現力を最大限に活かす奏法を学ぶ。
9	これから学習する歌曲の理解力を深め、声楽担当教員とのアンサンブルに備える。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。またピアニストの役割を考え、学生同士ディスカッションをする。
10	トスティ作曲「ローザ」を演習する。ピアノパートの流れから、歌い手がいかに表現力を最大限に出せるかを考え実践する。ピアニストの音質や音色によって、歌い手の表現が変化することを実践から体感する。
11	これから学習する日本歌曲の理解を深める。日本人として、我が国におけるクラシック音楽の歴史を学び、現代における日本歌曲の発展を学ぶ。
12	山田耕筰作曲「からたちの花」を演習する。日本語の発音についての理解も深め、歌詞の内容から音質や音色の選択を学ぶ。さらには、西洋音楽との違いについて実践を通して体感する。
13	越谷達之助作曲「初恋」を演習する。歌詞である石川啄木の短歌について理解を深め、表現の拡大を図る。歌詞の裏にある背景についても考え、音にすることを学んでいく。
14	声楽コース講師との共演を通して習得した楽曲から1曲選択し、ピアノパートの復習、適宜アドヴァイスを受け試演会に備える。
15	習得した楽曲を1曲選択し、声楽コース講師との共演により授業成果を披露する試演会にむけてのリハーサル。

科目名	二重奏／二重奏I ［金3］Aクラス						
代表教員	松浦　健	授業コード	GE1401A0	科目コード	GE1401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座は、ピアノによる二重奏のうち、一台四手連弾を主な題材として演習形式で進められます。
日頃はソロの勉強が主となるピアノコースの学生にとって、アンサンブルは新鮮、かつ楽しいものであることは間違いありません。また、相手と共により良い演奏を目指す過程に於いては、実に多くを学ぶことができます。中でも一つの楽器で行うピアノ連弾は、その特性により、相手の奏する音を聴く耳、全体の音楽や広い音域の中での自分の立場や役割を把握する力などを育んでくれます。また、音楽の上で共有すべきものやお互い自由であるべきものは何か、などを考えたりコミュニケーションする貴重な機会でもあり、ピアノの可能性や表現の多様性を体験することで、ソロに於いても一廻り大きな世界を自分のものとすることができるはずです。
ピアノ二重奏はすばらしい作品にも恵まれています。音楽する喜びを大いに味わってください。
更に、学内のオーディションやコンクールへの積極的な参加も望みます。
秋に行われるアンサンブルコンペティションに際しては、参加希望かつ、前期試演会にて優秀と認められる組には特別レッスンも行っています。

２．授業概要

各クラスの教員の指示に従い、基本的には毎回数組ずつローテーションしながらレッスン形態で進められる。他の組の演奏にも興味を持ち、参加できる工夫もされている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パートナーとの合わせの時間を必ず作り、授業で演奏するときまで充分に練習をしておくこと。
自分のパートのみならず、相手のパートについてもよく理解しておくこと。
選曲した作品の内容を理解するために必要と思われる事柄（作曲者、国や時代、楽譜に書かれている楽語などについて）は、調べられる範囲で各自調べておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試演会（評価の３０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

練習曲　：ベルティーニ『四手の為の２５の練習曲』
古典派の作品　：モーツァルト・ベートーヴェンのソナタ、交響曲の編曲など
ロマン派の作品　：シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークの舞曲集など
近現代の作品　：フォーレ・ドリー・ドビュッシーの小組曲など

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「二重奏」に興味を持つ学生なら経験を問わず履修可。
二人一組が年間を通してペアを組むことになり、その組み合わせは初回の授業で決定するが、組む相手を予め決めておくことが望ましい。
演習形式の授業なので他者の演奏には静粛を保つこと。
パートナーとはよく連絡を取り合い、相手に迷惑をかけないようにすること。
自分達の演奏のための準備には努め、演奏当日は欠席しないこと。
クラス分けは、初回の授業でペアの決定後直ちに行うので、ポータルに掲示された教室に全員集合すること。

授業計画	
	［前期］ バロック・古典 ／　ロマン ／ 近現代 の３つのカテゴリーから各組のレヴェルに合った選曲をし、計画をたてる。 前期末の試演会を発表の場とする。
1	ペアを決定し、クラス分けを行う。
2	先ずは練習曲から始める。経験の有無にもよるが、慣れることを目標に、ベルティーニの練習曲などを用い、お互いをよく聴くことを学ぶ。
3	担当教員によるレクチャー。内容は、連弾の歴史、音源などを交えながらの代表曲紹介、および、連弾に於ける注意点の説明など。
4	各クラスの担当教員の指導の下、それぞれのペアの進度に合ったローテーションを組み授業を進めていく。年間ですべての時代（バロック及び古典、ロマン、近現代）から選曲できるように、教員もアドヴァイスするが、基本的に各組自主的にプログラミングする。
5	各クラスのローテーションに従った演習授業 オーディションや、コンクールを受けることを希望している組など、それぞれの目標も把握しながら選曲していく。
6	各組、初めに取り組む曲を決め、ローテーションに従っての演習。必ずしも年代順の必要はなく、やりやすいものを選ぶことを勧める。作曲者や曲の成り立ち等を調べ、発表できるように準備する。
7	1曲目の演習授業。ソナタのような規模の曲を毎週少しずつ進めていく組や、小品を毎回仕上げていく組等、それぞれの組に合うやり方で進める。
8	1曲目が終わった組は、別のカテゴリーから２曲目を選ぶようにする。時代のスタイルの違いを如何に表現するかを、弾き手と聴き手の両方の立場に立ちながら学習していく。
9	２曲目の演習。曲によっては、プリモとセコンドを交換し、音色、曲のキャラクター等、より表現しやすい方を選択することも勧める。
10	３曲目にも入り、前期中に全てのカテゴリーを学習するよう促していく。
11	前期末の試演会も考慮しながら、それぞれの組の課題に取り組んで行く。
12	各組のテーマとなる課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを中心に、より説得力のある演奏を目指して弾く側、聴く側、両方の立場から、様々に試みてみる。
14	前期試演会のリハーサル
15	３クラス合同の前期試演会

授業計画	
	［後期］ 　各組それぞれの取り組み方に応じた内容となる。 　前期に３つすべてのカテゴリーの連弾曲を学習した組は、２台４手も可能とし同様に３つのカテゴリーから選曲し、計画を立てる。 　学年末の試演会を発表の場とする。
1	前期に引き続き、各クラスの担当教員の指導の下、ローテーションに従って授業を進めていく。アンサンブルコンペティションを受ける組に対する指導も行なっていく。
2	前期に学習しきれなかったカテゴリーがある組や、アンサンブルコンペティションを目指し曲を練り込む組等、それぞれの目標に従って進める。
3	基本的には、いずれの組もすべてのカテゴリーをバランスよく学習できるように進めていく。
4	学習したカテゴリーに偏りがないかをチェックしながら、各組の個性を生かせる方向もアドヴァイスしていく。
5	ソロと連弾での弾き手の意識の違い等、演習を通して学習していく。
6	アンサンブルにコンペティションに参加する組は仕上げに入る。
7	各組が本当に取り組みたいのは何か、時代や曲の性格等々、２人のアンサンブルがよりレヴェルアップ出来るよう、考えさせながらアドヴァイスを行っていく。
8	各組が具体的な目標や課題を認識し、お互いを高める意識をもって臨めば良いアンサンブルになることを学習していく。
9	各組それぞれの課題により深く取り組んで行く。
10	後期終わりに行う試演会も考慮し、課題に取り組む。
11	各組の個性を生かし、より表現豊かな演奏を目指す。 コンペティション本選参加の組には、それに向けた指導を行う。
12	試演会のプログラムを中心に課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを仕上げていく。
14	後期試演会のリハーサル
15	３クラス合同の後期試演会

科目名	二重奏／二重奏I ［金3］Bクラス						
代表教員	泉　ゆりの	授業コード	GE1401B0	科目コード	GE1401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

本講座は、ピアノによる二重奏のうち、一台四手連弾を主な題材として演習形式で進められます。
日頃はソロの勉強が主となるピアノコースの学生にとって、アンサンブルは新鮮、かつ楽しいものであることは間違いありません。また、相手と共により良い演奏を目指す過程に於いては、実に多くを学ぶことができます。中でも一つの楽器で行うピアノ連弾は、その特性により、相手の奏する音を聴く耳、全体の音楽や広い音域の中での自分の立場や役割を把握する力などを育んでくれます。また、音楽の上で共有すべきものやお互い自由であるべきものは何か、などを考えたりコミュニケーションする貴重な機会でもあり、ピアノの可能性や表現の多様性を体験することで、ソロに於いても一廻り大きな世界を自分のものとすることができるはずです。
ピアノ二重奏はすばらしい作品にも恵まれています。音楽する喜びを大いに味わってください。
更に、学内のオーディションやコンクールへの積極的な参加も望みます。
秋に行われるアンサンブルコンペティションに際しては、参加希望かつ、前期試演会にて優秀と認められる組には特別レッスンも行っています。

2．授業概要

各クラスの教員の指示に従い、基本的には毎回数組ずつローテーションしながらレッスン形態で進められる。他の組の演奏にも興味を持ち、参加できる工夫もされている。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

パートナーとの合わせの時間を必ず作り、授業で演奏するときまで充分に練習をしておくこと。
自分のパートのみならず、相手のパートについてもよく理解しておくこと。
選曲した作品の内容を理解するために必要と思われる事柄（作曲者、国や時代、楽譜に書かれている楽語などについて）は、調べられる範囲で各自調べておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

学年末試演会（評価の３０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

練習曲　：ベルティーニ『四手の為の２５の練習曲』
古典派の作品　：モーツァルト・ベートーヴェンのソナタ、交響曲の編曲など
ロマン派の作品　：シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークの舞曲集など
近現代の作品　：フォーレ・ドリー・ドビュッシーの小組曲など

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「二重奏」に興味を持つ学生なら経験を問わず履修可。
二人一組が年間を通してペアを組むことになり、その組み合わせは初回の授業で決定するが、組む相手を予め決めておくことが望ましい。
演習形式の授業なので他者の演奏には静粛を保つこと。
パートナーとはよく連絡を取り合い、相手に迷惑をかけないようにすること。
自分達の演奏のための準備には努め、演奏当日は欠席しないこと。
クラス分けは、初回の授業でペアの決定後直ちに行うので、ポータルに掲示された教室に全員集合すること。

授業計画	
	［前期］ バロック・古典 ／　ロマン ／ 近現代 の３つのカテゴリーから各組のレヴェルに合った選曲をし、計画をたてる。 前期末の試演会を発表の場とする。
1	ペアを決定し、クラス分けを行う。
2	先ずは練習曲から始める。経験の有無にもよるが、慣れることを目標に、ベルティーニの練習曲などを用い、お互いをよく聴くことを学ぶ。
3	担当教員によるレクチャー。内容は、連弾の歴史、音源などを交えながらの代表曲紹介、および、連弾に於ける注意点の説明など。
4	各クラスの担当教員の指導の下、それぞれのペアの進度に合ったローテーションを組み授業を進めていく。年間ですべての時代（バロック及び古典、ロマン、近現代）から選曲できるように、教員もアドヴァイスするが、基本的に各組自主的にプログラミングする。
5	各クラスのローテーションに従った演習授業 オーディションや、コンクールを受けることを希望している組など、それぞれの目標も把握しながら選曲していく。
6	各組、初めに取り組む曲を決め、ローテーションに従っての演習。必ずしも年代順の必要はなく、やりやすいものを選ぶことを勧める。作曲者や曲の成り立ち等を調べ、発表できるように準備する。
7	1曲目の演習授業。ソナタのような規模の曲を毎週少しずつ進めていく組や、小品を毎回仕上げていく組等、それぞれの組に合うやり方で進める。
8	1曲目が終わった組は、別のカテゴリーから２曲目を選ぶようにする。時代のスタイルの違いを如何に表現するかを、弾き手と聴き手の両方の立場に立ちながら学習していく。
9	２曲目の演習。曲によっては、プリモとセコンドを交換し、音色、曲のキャラクター等、より表現しやすい方を選択することも勧める。
10	３曲目にも入り、前期中に全てのカテゴリーを学習するよう促していく。
11	前期末の試演会も考慮しながら、それぞれの組の課題に取り組んで行く。
12	各組のテーマとなる課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを中心に、より説得力のある演奏を目指して弾く側、聴く側、両方の立場から、様々に試みてみる。
14	前期試演会のリハーサル
15	３クラス合同の前期試演会

授業計画	
	［後期］ 　各組それぞれの取り組み方に応じた内容となる。 　前期に３つすべてのカテゴリーの連弾曲を学習した組は、２台４手も可能とし同様に３つのカテゴリーから選曲し、計画を立てる。 　学年末の試演会を発表の場とする。
1	前期に引き続き、各クラスの担当教員の指導の下、ローテーションに従って授業を進めていく。アンサンブルコンペティションを受ける組に対する指導も行なっていく。
2	前期に学習しきれなかったカテゴリーがある組や、アンサンブルコンペティションを目指し曲を練り込む組等、それぞれの目標に従って進める。
3	基本的には、いずれの組もすべてのカテゴリーをバランスよく学習できるように進めていく。
4	学習したカテゴリーに偏りがないかをチェックしながら、各組の個性を生かせる方向もアドヴァイスしていく。
5	ソロと連弾での弾き手の意識の違い等、演習を通して学習していく。
6	アンサンブルにコンペティションに参加する組は仕上げに入る。
7	各組が本当に取り組みたいのは何か、時代や曲の性格等々、２人のアンサンブルがよりレヴェルアップ出来るよう、考えさせながらアドヴァイスを行っていく。
8	各組が具体的な目標や課題を認識し、お互いを高める意識をもって臨めば良いアンサンブルになることを学習していく。
9	各組それぞれの課題により深く取り組んで行く。
10	後期終わりに行う試演会も考慮し、課題に取り組む。
11	各組の個性を生かし、より表現豊かな演奏を目指す。 コンペティション本選参加の組には、それに向けた指導を行う。
12	試演会のプログラムを中心に課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを仕上げていく。
14	後期試演会のリハーサル
15	３クラス合同の後期試演会

科目名	二重奏II ［金5］Aクラス						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	GE1402A0	科目コード	GE1402	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「二重奏I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「二重奏Ⅱ」は、「二重奏Ⅰ」に引き続き、ピアノによる二重奏、即ち一台四手連弾、および、二台四手を題材とした演習形式で進められる講座である。

「二重奏Ⅰ」に於いて学習した〝お互いをよく聴く〟というアンサンブルの基本は大切に、本講座ではより積極的に作品と関わり理解を深め、共感できることを二人で探求しながら〝お互いを活かす〟 創造的な演奏を目指したいと考える。

連弾と二台ピアノではそれぞれのパートに求められることも違うので、その点も理解して行きたい。

学内のオーディションやコンクールへの積極的な参加を望み、秋に行われるアンサンブルコンペティションに際しては、参加希望かつ、前期試演会にて優秀と認められるペアには特別レッスンも行う。

２．授業概要

各クラスの教員の指示に従い、基本的には毎回数組ずつローテーションしながらレッスン形態で進められる。他のペアの演奏にも興味を持ち、参加できる工夫もされている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パートナーとの合わせの時間を必ず作り、授業で演奏するときまで充分に練習をしておくこと。

自分のパートのみならず、相手のパートもよく知っておくこと。

選曲した作品の内容を理解するために必要と思われることは、調べておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試演会（評価の３０％）

平常点（評価の３０％）

授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

バロック、古典派、ロマン派、近現代の種々の連弾曲、および、二台四手作品については、初回の授業で「主要作品リスト」を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「二重奏Ⅰ」を履修した学生。

ペアは予め組んでいることを望む。

演習形式の授業なので他者の演奏には静粛を保つこと。

パートナーとはよく連絡を取り合い、相手に迷惑をかけないようにすること。

自分達の演奏のための準備には努め、演奏当日は欠席しないこと。

クラス分けは、初回の授業で行うので、ポータルに掲示された教室に全員集合すること。

授業計画	
	［前期］ バロック・古典 ／　ロマン ／ 近現代 の３つのカテゴリーをバランスよく学習できるよう選曲し計画をたてる。 前期末の試演会を発表の場とする。
1	ペアの確認後、クラス分けを行う。 「二重奏Ⅰ」に於いて配布された「連弾曲リスト」に加えられる「二台四手主要作品リスト」の配布と教員による紹介。
2	それぞれのペアが目標を決め、担当教員と話し合い、プログラミングしていく。
3	各クラスの担当教員の指導の下、それぞれのペアの進度に合ったローテーションを組み、授業を進めていく。
4	各ペア、最初に取り組む曲を決め、ローテーションに従った演習を行う。
5	各クラスのローテーションに従った演習授業。 オーディションやコンクールを受けることを希望しているペアなど、それぞれの目標も考慮しながら選曲する。
6	1曲目の演習授業。ソナタのような規模の曲を毎回少しずつ学んでいくペアや、小品を毎回仕上げていくペアなど、それぞれのペアに合うやり方で進めていく。
7	１曲目、ないし2曲目の演習授業。曲の内容についても「二重奏Ⅰ」よりも一歩踏み込んだ理解ができるよう、作曲者の国や時代背景等、自主的に調べ、作品がより身近に感じられるよう努め、聴き手も共有出来るような発表も行い、これを習慣化していく。
8	各ペアの計画に従った演習授業。曲の内容を表現できるレヴェルに到達することを目指す。
9	基本的には、各ペアが３つすべてのカテゴリーの様々なスタイルの曲を学習することを望むが、徐々に各ペアの個性を活かす方向を見つけていくのも良い。
10	ペアにより、２曲目、ないし３曲目の演習に入る。
11	前期末の試演会も考慮しながら、それぞれのペアの課題に取り組んで行く。
12	各ペアのテーマとなる課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを中心に、より説得力のある演奏を目指して弾く側、聴く側、両方の立場から、様々に試みてみる。
14	前期試演会のリハーサル
15	2クラス合同の前期試演会

授業計画	
	［後期］ 各ペアそれぞれの取り組み方に応じた内容となる。 学年末の試演会を発表の場とする。
1	前期に引き続き、各クラスの担当教員の指導の下、ローテーションに従って授業を進めていく。アンサンブルコンペティションを受けるペアに対する指導も行なっていく。
2	前期に学習しきれなかった曲に取り組むペア、アンサンブルコンペティションを目指し曲を練り込むペア、又、連弾か２台ピアノか、新たにプログラムを見直すのも良い。
3	基本的には、いずれのペアも３つすべてのカテゴリーをバランスよく学習できることが望ましい。
4	学習したカテゴリーに偏りがないかを確認しながら、各ペアの個性を活かす方向も探っていく。
5	連弾と２台ピアノ、それぞれのパートに必要な意識が充分行き渡っているか確認する。
6	聴き手側からの意見を自由に述べ、立場が変わると気付くことを活発に交換し合い、クラス内の自発的な向上を目指す。 アンサンブルにコンペティションに参加するペアは仕上げに入る。
7	２人のアンサンブルがよりレヴェルアップ出来るよう、様々なアプローチを試してみる。
8	各ペアが具体的な目標や課題を認識し、お互いを高める意識を持ち、良いアンサンブルを目指す。
9	各ペアそれぞれの課題により深く取り組んで行く。
10	後期終わりに行う試演会も考慮し、課題に取り組む。
11	各ペアの個性を活かし、より表現豊かな演奏を目指す。 コンペティション本選参加のペアには、それに向けた指導を行う。
12	試演会のプログラムを中心に課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを仕上げていく。
14	後期試演会のリハーサル
15	2クラス合同の後期試演会

科目名	二重奏II ［金5］Bクラス						
代表教員	三宅　麻美	授業コード	GE1402B0	科目コード	GE1402	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「二重奏I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「二重奏Ⅱ」は、「二重奏Ⅰ」に引き続き、ピアノによる二重奏、即ち一台四手連弾、および、二台四手を題材とした演習形式で進められる講座である。

「二重奏Ⅰ」に於いて学習した〝お互いをよく聴く〟というアンサンブルの基本は大切に、本講座ではより積極的に作品と関わり理解を深め、共感できることを二人で探求しながら〝お互いを活かす〟 創造的な演奏を目指したいと考える。

連弾と二台ピアノではそれぞれのパートに求められることも違うので、その点も理解して行きたい。

学内のオーディションやコンクールへの積極的な参加を望み、秋に行われるアンサンブルコンペティションに際しては、参加希望かつ、前期試演会にて優秀と認められるペアには特別レッスンも行う。

２．授業概要

各クラスの教員の指示に従い、基本的には毎回数組ずつローテーションしながらレッスン形態で進められる。他のペアの演奏にも興味を持ち、参加できる工夫もされている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パートナーとの合わせの時間を必ず作り、授業で演奏するときまで充分に練習をしておくこと。

自分のパートのみならず、相手のパートもよく知っておくこと。

選曲した作品の内容を理解するために必要と思われることは、調べておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試演会（評価の３０％）

平常点（評価の３０％）

授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

バロック、古典派、ロマン派、近現代の種々の連弾曲、および、二台四手作品については、初回の授業で「主要作品リスト」を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「二重奏Ⅰ」を履修した学生。

ペアは予め組んでいることを望む。

演習形式の授業なので他者の演奏には静粛を保つこと。

パートナーとはよく連絡を取り合い、相手に迷惑をかけないようにすること。

自分達の演奏のための準備には努め、演奏当日は欠席しないこと。

クラス分けは、初回の授業で行うので、ポータルに掲示された教室に全員集合すること。

授業計画	
	［前期］ バロック・古典 ／　ロマン ／ 近現代 の３つのカテゴリーをバランスよく学習できるよう選曲し計画をたてる。 前期末の試演会を発表の場とする。
1	ペアの確認後、クラス分けを行う。 「二重奏Ⅰ」に於いて配布された「連弾曲リスト」に加えられる「二台四手主要作品リスト」の配布と教員による紹介。
2	それぞれのペアが目標を決め、担当教員と話し合い、プログラミングしていく。
3	各クラスの担当教員の指導の下、それぞれのペアの進度に合ったローテーションを組み、授業を進めていく。
4	各ペア、最初に取り組む曲を決め、ローテーションに従った演習を行う。
5	各クラスのローテーションに従った演習授業。 オーディションやコンクールを受けることを希望しているペアなど、それぞれの目標も考慮しながら選曲する。
6	1曲目の演習授業。ソナタのような規模の曲を毎回少しずつ学んでいくペアや、小品を毎回仕上げていくペアなど、それぞれのペアに合うやり方で進めていく。
7	１曲目、ないし2曲目の演習授業。曲の内容についても「二重奏Ⅰ」よりも一歩踏み込んだ理解ができるよう、作曲者の国や時代背景等、自主的に調べ、作品がより身近に感じられるよう努め、聴き手も共有出来るような発表も行い、これを習慣化していく。
8	各ペアの計画に従った演習授業。曲の内容を表現できるレヴェルに到達することを目指す。
9	基本的には、各ペアが３つすべてのカテゴリーの様々なスタイルの曲を学習することを望むが、徐々に各ペアの個性を活かす方向を見つけていくのも良い。
10	ペアにより、２曲目、ないし３曲目の演習に入る。
11	前期末の試演会も考慮しながら、それぞれのペアの課題に取り組んで行く。
12	各ペアのテーマとなる課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを中心に、より説得力のある演奏を目指して弾く側、聴く側、両方の立場から、様々に試みてみる。
14	前期試演会のリハーサル
15	2クラス合同の前期試演会

授業計画	
	［後期］ 各ペアそれぞれの取り組み方に応じた内容となる。 学年末の試演会を発表の場とする。
1	前期に引き続き、各クラスの担当教員の指導の下、ローテーションに従って授業を進めていく。アンサンブルコンペティションを受けるペアに対する指導も行なっていく。
2	前期に学習しきれなかった曲に取り組むペア、アンサンブルコンペティションを目指し曲を練り込むペア、又、連弾か２台ピアノか、新たにプログラムを見直すのも良い。
3	基本的には、いずれのペアも３つすべてのカテゴリーをバランスよく学習できることが望ましい。
4	学習したカテゴリーに偏りがないかを確認しながら、各ペアの個性を活かす方向も探っていく。
5	連弾と２台ピアノ、それぞれのパートに必要な意識が充分行き渡っているか確認する。
6	聴き手側からの意見を自由に述べ、立場が変わると気付くことを活発に交換し合い、クラス内の自発的な向上を目指す。 アンサンブルにコンペティションに参加するペアは仕上げに入る。
7	２人のアンサンブルがよりレヴェルアップ出来るよう、様々なアプローチを試してみる。
8	各ペアが具体的な目標や課題を認識し、お互いを高める意識を持ち、良いアンサンブルを目指す。
9	各ペアそれぞれの課題により深く取り組んで行く。
10	後期終わりに行う試演会も考慮し、課題に取り組む。
11	各ペアの個性を活かし、より表現豊かな演奏を目指す。 コンペティション本選参加のペアには、それに向けた指導を行う。
12	試演会のプログラムを中心に課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを仕上げていく。
14	後期試演会のリハーサル
15	2クラス合同の後期試演会

科目名	初見視奏I （前） ［火4］Aクラス						
代表教員	辻田　由利子	授業コード	GE1416A0	科目コード	GE1416	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初見視奏の基礎から入り、正確で速い読譜に加え、更に音楽的内容を読み取って表現できる力も身につけます。

２．授業概要

できるだけ多くの作品を初見で演奏し、さまざまな曲に対応できる力を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・手持ちの楽譜や興味の持てる曲など、新たな曲を弾いてみる機会を増やす（始めは平易な作品が望ましい）。
・日々の練習においても、黙読してから弾く事を習慣づける。
・授業でとりあげた曲も再度弾いてみる。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。
クラス分けのための短い課題を体験して頂きます。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。

授業計画	
	［半期］ 初見視奏の基本の確認に重点を置き、演習形式で授業を行います。
1	クラス分け、及びガイダンス。
2	初見視奏の基本的な考え方を知る。
3	細かいことにこだわり過ぎずに止まらず弾く。
4	調性と和声の変化に着目して弾く（調号の少ない簡素なもの）。
5	調性と和声の変化に着目して弾く（より複雑なもの）。
6	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴わないもの）。
7	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴うもの）。
8	まとめと小テスト（予定）。
9	連弾で初見視奏する。
10	楽語や記号を演奏で表現する。
11	全体を把握し、曲に合った表現を考えて演奏する。
12	素早く正確に読み取って演奏する。
13	試験を想定した予見時間で課題を弾いてみる。
14	まとめと試験（予定）。
15	さまざまなスタイルの曲を弾いてみる。

科目名	初見視奏I （前） ［火4］Bクラス						
代表教員	石田　多紀乃	授業コード	GE1416B0	科目コード	GE1416	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初見視奏の基礎から入り、正確で速い読譜に加え、更に音楽的内容を読み取って表現できる力も身につけます。

２．授業概要

できるだけ多くの作品を初見で演奏し、さまざまな曲に対応できる力を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・手持ちの楽譜や興味の持てる曲など、新たな曲を弾いてみる機会を増やす（始めは平易な作品が望ましい）。
・日々の練習においても、黙読してから弾く事を習慣づける。
・授業でとりあげた曲も再度弾いてみる。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。
クラス分けのための短い課題を体験して頂きます。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。

授業計画	
	［半期］ 初見視奏の基本の確認に重点を置き、演習形式で授業を行います。
1	クラス分け、及びガイダンス。
2	初見視奏の基本的な考え方を知る。
3	細かいことにこだわり過ぎずに止まらず弾く。
4	調性と和声の変化に着目して弾く（調号の少ない簡素なもの）。
5	調性と和声の変化に着目して弾く（より複雑なもの）。
6	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴わないもの）。
7	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴うもの）。
8	まとめと小テスト（予定）。
9	連弾で初見視奏する。
10	楽語や記号を演奏で表現する。
11	全体を把握し、曲に合った表現を考えて演奏する。
12	素早く正確に読み取って演奏する。
13	試験を想定した予見時間で課題を弾いてみる。
14	まとめと試験（予定）。
15	さまざまなスタイルの曲を弾いてみる。

科目名	初見視奏I （前） ［火4］Cクラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GE1416C0	科目コード	GE1416	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初見視奏の基礎から入り、正確で速い読譜に加え、更に音楽的内容を読み取って表現できる力も身につけます。

２．授業概要

できるだけ多くの作品を初見で演奏し、さまざまな曲に対応できる力を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・手持ちの楽譜や興味の持てる曲など、新たな曲を弾いてみる機会を増やす（始めは平易な作品が望ましい）。
・日々の練習においても、黙読してから弾く事を習慣づける。
・授業でとりあげた曲も再度弾いてみる。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。
クラス分けのための短い課題を体験して頂きます。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。

授業計画	
	［半期］ 初見視奏の基本の確認に重点を置き、演習形式で授業を行います。
1	クラス分け、及びガイダンス。
2	初見視奏の基本的な考え方を知る。
3	細かいことにこだわり過ぎずに止まらず弾く。
4	調性と和声の変化に着目して弾く（調号の少ない簡素なもの）。
5	調性と和声の変化に着目して弾く（より複雑なもの）。
6	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴わないもの）。
7	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴うもの）。
8	まとめと小テスト（予定）。
9	連弾で初見視奏する。
10	楽語や記号を演奏で表現する。
11	全体を把握し、曲に合った表現を考えて演奏する。
12	素早く正確に読み取って演奏する。
13	試験を想定した予見時間で課題を弾いてみる。
14	まとめと試験（予定）。
15	さまざまなスタイルの曲を弾いてみる。

科目名	初見視奏II （後） ［火4］Aクラス						
代表教員	飯野　明日香	授業コード	GE1417A0	科目コード	GE1417	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏I」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間の中で、楽譜を把握し特徴を捉え表現出来る事。
表面の読譜は勿論、その奥にあるものを考えられるようにしていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進め、できるだけ多くの種類の楽譜に向きあうことで、対応できる力を養う。
個人個人の状況に応じて可能な限り「初見」のコツを発見、実施出来るように演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常、黙読してから弾く習慣を身につける。音を出さずに、頭の中で音楽を組み立てる。
一回で弾けなかった部分を考えて、二回目を弾いてみる。
なるべく多くの楽譜(ピアノ譜にかぎらず)に触れて、経験を増やし、自信を得る事。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは、前期末テストの結果により行う。

授業計画	
	［半期］ 担当教員によって授業の内容の順序や方法はかわります。 授業期間中に、小テストを行う。 学年末試験は、最終日、もしくは試験期間に実施する。
1	ガイダンスと前期の復習/確認
2	初見とは何か？の再確認, 個別能力の確認
3	曲の様式、意味を考える
4	デュナーミクとアゴーギクを含めた楽譜の表情を読む
5	技術の訓練①和音を素早く読む
6	技術の訓練②加線に強くなる
7	技術の訓練③楽譜の先を読みながら弾く
8	技術の訓練④跳躍の感覚をつかみ、鍵盤を見ないで弾く
9	まとめと小テスト（予定）
10	楽語の意味を理解し、表現力につなげる
11	全体像をつかむ
12	黙読して、頭の中で演奏してみる
13	アンサンブルによって、柔軟な対応力を身につける
14	個別での仕上げ
15	学年末試験・まとめ

科目名	初見視奏II （後） ［火4］Bクラス						
代表教員	竹原　暁子	授業コード	GE1417B0	科目コード	GE1417	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏I」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間の中で、楽譜を把握し特徴を捉え表現出来る事。
表面の読譜は勿論、その奥にあるものを考えられるようにしていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進め、できるだけ多くの種類の楽譜に向きあうことで、対応できる力を養う。
個人個人の状況に応じて可能な限り「初見」のコツを発見、実施出来るように演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常、黙読してから弾く習慣を身につける。音を出さずに、頭の中で音楽を組み立てる。
一回で弾けなかった部分を考えて、二回目を弾いてみる。
なるべく多くの楽譜(ピアノ譜にかぎらず)に触れて、経験を増やし、自信を得る事。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは、前期末テストの結果により行う。

授業計画	
	［半期］ 担当教員によって授業の内容の順序や方法はかわります。 授業期間中に、小テストを行う。 学年末試験は、最終日、もしくは試験期間に実施する。
1	ガイダンスと前期の復習/確認
2	初見とは何か？の再確認, 個別能力の確認
3	曲の様式、意味を考える
4	デュナーミクとアゴーギクを含めた楽譜の表情を読む
5	技術の訓練①和音を素早く読む
6	技術の訓練②加線に強くなる
7	技術の訓練③楽譜の先を読みながら弾く
8	技術の訓練④跳躍の感覚をつかみ、鍵盤を見ないで弾く
9	まとめと小テスト（予定）
10	楽語の意味を理解し、表現力につなげる
11	全体像をつかむ
12	黙読して、頭の中で演奏してみる
13	アンサンブルによって、柔軟な対応力を身につける
14	個別での仕上げ
15	学年末試験・まとめ

科目名	初見視奏II （後） ［火4］Cクラス						
代表教員	林　直美	授業コード	GE1417C0	科目コード	GE1417	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏I」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間の中で、楽譜を把握し特徴を捉え表現出来る事。
表面の読譜は勿論、その奥にあるものを考えられるようにしていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進め、できるだけ多くの種類の楽譜に向きあうことで、対応できる力を養う。
個人個人の状況に応じて可能な限り「初見」のコツを発見、実施出来るように演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常、黙読してから弾く習慣を身につける。音を出さずに、頭の中で音楽を組み立てる。
一回で弾けなかった部分を考えて、二回目を弾いてみる。
なるべく多くの楽譜(ピアノ譜にかぎらず)に触れて、経験を増やし、自信を得る事。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは、前期末テストの結果により行う。

授業計画	
	［半期］ 担当教員によって授業の内容の順序や方法はかわります。 授業期間中に、小テストを行う。 学年末試験は、最終日、もしくは試験期間に実施する。
1	ガイダンスと前期の復習/確認
2	初見とは何か？の再確認, 個別能力の確認
3	曲の様式、意味を考える
4	デュナーミクとアゴーギクを含めた楽譜の表情を読む
5	技術の訓練①和音を素早く読む
6	技術の訓練②加線に強くなる
7	技術の訓練③楽譜の先を読みながら弾く
8	技術の訓練④跳躍の感覚をつかみ、鍵盤を見ないで弾く
9	まとめと小テスト（予定）
10	楽語の意味を理解し、表現力につなげる
11	全体像をつかむ
12	黙読して、頭の中で演奏してみる
13	アンサンブルによって、柔軟な対応力を身につける
14	個別での仕上げ
15	学年末試験・まとめ

科目名	初見視奏III （前） ［木3］						
代表教員	西脇　千花	授業コード	GE141800	科目コード	GE1418	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

読譜の基礎を見直し、更に広範囲の曲を理解して表現することを学びます。

２．授業概要

様々な時代の異ったスタイルの楽曲を、初見で演習し学習します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布したプリントを練習してください。それ以外にも、簡単な楽曲を、予見してから初見で練習してください。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の７０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実習の授業のため、出席を重視します。

授業計画	
	［半期］ 調性・拍子・曲想を把握するなど基礎の整理をし、すばやく対応できるように研究します。リズム打ち・和音の把握などのトレーニングを交え、また、アンサンブルにも取り組み、音楽の流れを止めずに、初見でも曲の全体像を表現できることを目標とします。
1	調性、拍子をすばやく把握できるような研究
2	複数課題を使用した第1回目授業の実践
3	テンポ、曲想をすばやく把握できるような研究
4	複数課題を使用した第1回目から第3回目授業の実践
5	第1回目から第4回目の授業の整理
6	リズムの把握
7	複数課題を使用したリズムの把握とトレーニング
8	和音の把握
9	複数課題を使用した和音の把握とトレーニング
10	第1回目から第9回目までの授業の整理　定着
11	第1回目から第10回目の授業の応用. 複数課題を使用し、実践をしながらより素早い対応を目指す
12	2台ピアノや連弾の作品を通し、音楽の流れを止めずに初見でも曲の全体像を表現できることを目指す
13	器楽曲伴奏にも取り組み、音楽の流れを止めずに初見でも曲の全体像を表現できることを目指す
14	歌曲伴奏にも取り組み、音楽の流れを止めずに初見でも曲の全体像を表現できることを目指す
15	試験・まとめ

科目名	初見視奏IV （後） ［木3］						
代表教員	奥平　純子	授業コード	GE141900	科目コード	GE1419	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏III」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

読譜の基礎を見直し、更に広範囲の曲を理解して表現することを学びます。

２．授業概要

様々な時代の異ったスタイルの楽曲を、アンサンブル（４手連弾、2台ピアノ、8手連弾など）も交えて初見で演習し学習します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

できるだけ多くの楽曲と向き合い、予見してから初見で練習してください。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
授業への参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実習の授業のため、出席を重視します。

授業計画	
	［半期］ 「初見視奏III」をさらに進めて様々な時代、様式の楽曲の構成を理解し、テンポ・リズム・ダイナミクス・フレージング・タッチ・バランス・ペダリングなどにも気を配り、表現できるように目指します。
1	ガイダンスと初見視奏ⅠⅡⅢの復習、確認
2	予見時にtempo（表情記号）、調性、拍子を把握することを徹底します。
3	視線を先の小節に向け、音楽の流れを止めずに演奏します。
4	初見で演奏するのが難しい場合、瞬時に音楽の骨格となる大切な音（旋律とバスなど）に集中し、確実に演奏します。
5	複数の音をまとめて見て、音の流動性を感じて演奏します。できるだけ楽譜から目を離さずに演奏するために、指で鍵盤の位置を把握します。
6	ダイナミクス、楽語を理解し表現します。
7	ハーモニーを味わい、バランスにも気を配ります。
8	フレージング、アーティキュレーションも正確に表現します。
9	楽曲の様式を理解し、曲想をイメージして、多様なタッチで演奏します。
10	楽曲の作曲家にふさわしい適切なペダリングをします。
11	楽曲の構成を理解し（三部形式、ソナタ形式など）、全体像をつかみます。
12	近・現代の曲にも取り組み、音部記号の変化、加線の多い部分にも対応できるようにします。
13	転調、多くの臨時記号にも対応します。
14	複雑なリズム、変拍子にも取り組みます。
15	試験・まとめ

科目名	音楽教室グレード対策講座Ⅰ　[月4]						
代表教員	齊藤　香織	授業コード	GE145500	科目コード	GE1455	期間	通年
担当教員	久行　敏彦						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前期：カワイグレードテスト演奏・指導それぞれ4級に合格できるためのスキル、知識を会得する。
後期：「ヤマハ音楽能力検定」のピアノ演奏グレード、指導グレード５級の取得を目指す学生を対象に行う授業。

２．授業概要

前期：演奏グレード、指導グレードに含まれる試験科目を毎回演習とリポート交換の形で行います。また、筆記試験に対応できるよう、さらには音楽教師として教育の現場に立った時に、「このくらいは身につけていてほしい」というような音楽についての「常識」についてもケアをしていきます。
後期：ヤマハグレード試験（５級）に必要な即興演奏を主体として、各学生が弾きながら授業を進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期：和声課題についてはリポート交換の形で行います。個別添削は必要とあらば授業時間最後に質問として受け付けますが基本はリポート交換ですので課題の実施は各自宅で行ってください。また、あらかじめ楽譜の予習が必要な場合はその都度授業で指示します。
後期：グレード取得を目的とするので練習を確実に行うこと。コードネームでの和音の練習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

前期：学期末試験（評価の１０％）平常点（評価の４０％）参加姿勢（評価の５０％）
後期：平常点（評価の５０％）テスト（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期：特にはありません。
後期：参考文献については、必要に応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前期：カワイ講師グレードを取得したいと考えている学生。今年度、カワイ委託講師採用試験を受験予定の者。及び、企業にかかわらず音楽教室にて指導を希望している者。
４年生で採用試験を受験予定の者は専門選択科目の「ソルフェージュⅠ～Ⅲ」、「和声学Ⅰ～Ⅲ」、「キーボードハーモニー」の履修できていることが望ましい。
後期：特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンスおよび和声学、伴奏付の実力チェック。ガイダンスでは１３、14回目の授業で行う研究発表について、各自の研究テーマを決めていただきます。ある一つのことを深く研究することはその研究対象の周りに存在する事象についても研究することになり、それらが広がって幅広い知識となるからです。
2	メロディにふさわしい和音による伴奏をつけるために、基本的な和音の配置と連結・和音記号を正しく認識して演奏する能力をつける
3	調性感や和声感を備え基本的な力をつけて、音楽的な演奏に結びつける
4	コードネームの基本知識を身に付ける ♯３つ、♭３つの長調
5	コードネームの基本知識を身に付ける ♯３つ、♭３つの短調
6	コードネームを正しく認識し、コードネームから、右手でコードを、左手でベースを演奏出来るように例題を基に実習を重ねトレーニングする
7	右手のコードの音をどのように並べるか、自然なラインになるように１つの和音につき適宜音を選べるようにトレーニングする
8	カデンツ、完全終止・半終止の方法を勉強し、転回形を使えるようにしてメロディーから適切な和音を導き出し、伴奏づけをする
9	音楽に彩りをそえる副Ｖの和音を勉強する♯１つ♭１つの長調・短調
10	♯３つ、♭３つまでの調性で和音記号を正確に読んで演奏出来るようにする
11	響きの良い伴奏形にするために転調を認識して、借用和音をスムーズに用いる事が出来るようにする
12	伴奏音形を工夫し、美しいバスライン、流れを実習を通して身に付ける
13	与えられた課題を正確に弾き、限られた時間で音楽的に演奏出来るように仕上げる
14	副Ｖの復習と演奏試験
15	筆記試験とまとめ

授業計画	
	［半期］
1	即興演奏（変奏）１ C dur
2	即興演奏（変奏）２ a moll
3	即興演奏（変奏）３ 調号1個の長調
4	即興演奏（変奏）４ 調号1個の短調
5	即興演奏（変奏）５ 調号2個の長調
6	即興演奏（変奏）６ 調号2個の短調
7	即興演奏（変奏）７ 調号3個の長調
8	即興演奏（変奏）８ 調号3個の短調 即興演奏（モティーフ）１　C dur
9	即興演奏（変奏）９ 調号4個の長調 即興演奏（モティーフ）２ a moll
10	即興演奏（変奏）１０ 調号4個の短調 即興演奏（モティーフ）３　調号1個の長調
11	即興演奏（変奏）１１ 調号5個の長調 即興演奏（モティーフ）４ 調号1個の短調
12	即興演奏（変奏）１２ あらゆる調での実習 即興演奏（モティーフ）５ 調号2個の長調
13	ひきうたい 長調
14	ひきうたい 短調
15	試験とまとめ

科目名	音楽教室グレード対策講座II　[水4]						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GE145600	科目コード	GE1456	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「音楽教室グレード対策講座Ⅰ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヤマハグレード指導3・4級及び演奏4級、カワイグレード6級を取得できる能力を会得する。
幼児～中学生への演奏指導・グループ指導において必要とされる条項を理解し、それを会得する。

２．授業概要

（１）視唱・弾き歌い・伴奏付け、移調奏等の音楽的に応用力を必要とするソルフェージュ演習。
（２）変奏曲形式による即興演奏、形式自由な即興演奏。
（３）平易な歌曲の合唱編作。
（４）指揮法の基礎とアンサンブル指導法

以上4つを柱として演習形式、講座形式で授業を展開していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

グレード試験の課題曲は出版されているので日常の練習の中で常にレパートリーとして暗譜での演奏ができるようにしておくこと。また、授業内で配布した初見試奏、移調奏の課題以外にも類似した課題を自分で探し、日常の練習の中に組み込んでおくこと。あくまでも授業はグレード試験に対する準備の方法を学ぶ場で、授業に勤勉に出席しているだけではグレート取得はできない、日々の修練にかかっていると認識しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
リポート（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度授業内で指示または配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として和声学Ⅰ～Ⅱを履修済みであること。

授業計画	
	演奏グレード対策（前期）
1	ガイダンス ～演奏グレードで求められるもの～
2	伴奏づけ１（コードネームつき・長調の8小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演（課題曲の試演は毎回必ず1人～2人に行ってもらいます）
3	伴奏づけ2（コードネームつき・短調の8小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演
4	伴奏づけ3（コードネームつき・長調の16小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演
5	伴奏づけ4（コードネームつき・短調の16小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演
6	a-a'-b-aのスタイルによる即興演奏１（長調・4拍子） 課題曲試演
7	a-a'-b-aのスタイルによる即興演奏2（長調・3拍子・6拍子） 課題曲試演
8	伴奏づけ5（コードネームなし・長調の16小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演
9	伴奏づけ6（コードネームなし・短調の16小節課題） そのテーマによる変奏形式の即興演奏 課題曲試演
10	a-a'-b-aのスタイルによる即興演奏3（短調・4拍子） 課題曲試演
11	a-a'-b-aのスタイルによる即興演奏4（短調・3拍子・6拍子） 課題曲試演
12	A-B-Aの三部形式による即興演奏１（長調・4拍子） 課題曲試演
13	A-B-Aの三部形式による即興演奏2（短調・3拍子・6拍子） 課題曲試演
14	A-B-Aの三部形式による即興演奏3（短調・4拍子） 課題曲試演
15	A-B-Aの三部形式による即興演奏4（長調・3拍子・6拍子） 課題曲試演

授業計画	
	指導グレード対策（後期）
1	ガイダンス ～指導グレードに求められるもの～
2	弾き歌い１（12～16小節程度の長調　Major、Minor、 Dominant　7thを含むもの） 移調奏１（4小節程度・2度上または2度下の移調）
3	弾き歌い2（12～16小節程度の短調　Major、Minor、 Dominant　7thを含むもの） 移調奏2（4小節程度・2度上または2度下の移調）
4	弾き歌い3（12～16小節程度の長調　Major、Minor、 Dominant　7th、dim、augを含むもの） 移調奏3（8小節程度・2度上または2度下の移調）
5	弾き歌い4（12～16小節程度の短調　Major、Minor、 Dominant　7th、dim、augを含むもの） 移調奏4（8小節程度・2度上または2度下の移調）
6	弾き歌い5（12～16小節程度の長調　全てのコードを含むもの） 移調奏5（8小節程度・2度上または2度下の移調）
7	弾き歌い6（12～16小節程度の短調　全てのコードを含むもの） 移調奏6（8小節程度・2度上または2度下の移調）
8	移調奏7（8小節程度・3度～4度上または下の移調） 初見試奏１（8小節程度）
9	移調奏8（8小節程度・3度～4度上または下の移調） 初見試奏2（16小節程度）
10	移調奏9（12小節程度・2度上または2度下の移調） 初見試奏3（16小節程度）
11	移調奏10（16小節程度・2度上または2度下の移調） 初見試奏4（16小節程度）
12	初見試奏5（20小節程度） 合唱編作（ヴェルナー作曲　のばら）
13	初見試奏6（20小節程度） 合唱編作（フォスター作曲　夢路より）
14	合唱編作（自選の歌曲による） アンサンブル指揮演習１
15	アンサンブル指揮演習2 まとめ

科目名	ピアノ指導法Ⅰ ［金4］						
代表教員	木幡　律子	授業コード	GE145700	科目コード	GE1457	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ピアノ指導法Ⅰ」は、初歩のピアノ導入を指導する方法を考察して実践する授業です。 そのために必要な様々な教材に精通し、ピアノ演奏を将来楽しむための大切な基礎を築く教育理念や指導方法について研究することを目標とします。

２．授業概要

前期は様々な導入教材を取り上げ、その特徴、用い方などを考察します。
後期は応用として、時代の異なる様式を持つ併用曲、また発表会に適した曲等を、先生役、生徒役のペアを組み、模擬レッスン形式で実践体験します。実技テストも同様の形で行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期は最終日に、それまで授業で取り上げた教材について特徴などをまとめるレポートを提出してもらいます。
配布資料は大切に保管し、復習を心がけてください。
後期は先生役と生徒役でペアを組み、模擬レッスン形式での発表が中心となります。
前期から学んで来た事の実践になりますから、二人でよく相談し、予行練習を十分行ってください。
課題曲は１～２週間前に指定します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末実技試験（評価の30%）
授業内の課題発表、及びレポート提出（評価の40%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教本・楽曲は、必要に応じて提示します。
主な参考書：
『夢がふくらむレッスンのハンドブック』中村菊子著（ヤマハミュージックメディア出版）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

将来子供達にピアノを教える事に興味、関心があることが望ましいです。
授業では、順番に指導曲を演奏したり、模擬レッスン形式で発表してもらうなどの割り当てがあります。
経験を積み、お互いの発表から益を得るためにも、積極的態度での参加を期待します。

授業計画	
	［前期］（教材研究基礎） 現在多くの指導者に使われている導入教材を検証します。
1	ガイダンス
2	導入教材の変遷 ミュージック・ツリー
3	バーナム ピアノ テクニック（ミニ ブック、導入、1巻・・・）
4	バーナム ピアノ 教本 バーナム ピアノ テクニック （全調）
5	ラーニング　トゥ　プレイ リラ　フレッチャー
6	バスティン・ピアノベーシックス ベース・メソッド
7	クルターク 三善メソッド
8	ピアノランド…他
9	バロック期小品の様式、特徴、奏法
10	バロック小品(アンナマグダレーナ)
11	バロック小品(テレマン、ヘンデル、他)
12	古典期小品の様式、特徴、奏法
13	古典派小品（ハイドン、モーツァルト、ベート-ヴェン 、他)
14	古典期ソナチネ
15	前期導入教材まとめレポート作成

授業計画	
	［後期］（教材研究応用） 発表会、コンクールでもよく弾かれる重要な小品を、模擬レッスン形式で実践しながら考察します。
1	模擬レッスン(生徒とのコミュニュケーション)
2	練習曲（ＡＢＣ、ツェルニー、ブルグミュラー・・・）
3	ロマン派の様式、特徴、奏法
4	ロマン派小品　（シューマン ユーゲントアルバム）
5	ロマン派小品（チャイコフスキー、ギロック、他）
6	近現代小品の様式、特徴、奏法
7	近・現代小品（カバレフスキー）
8	近・現代小品（バルトーク，ショスターコビッチ、プロコフィエフ、他）
9	法人作品(湯山昭、他)
10	発表会用作品
11	実技試験（模擬レッスン形式） 課題：バロック期・・・講評
12	実技試験（模擬レッスン形式） 課題：古典期・・・講評
13	実技試験（模擬レッスン形式） 課題：ロマン期・・・講評
14	実技試験（模擬レッスン形式） 課題：近現代・・・講評
15	まとめレポート 一年を振り返って発見したこと、学んだこと

科目名	ピアノ指導法II ［金4］						
代表教員	岡本　有子	授業コード	GE145800	科目コード	GE1458	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ピアノ指導法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前期はピアノのレッスンで使用する楽曲の指導のポイントと,その曲に必要なテクニックをどのように指導するべきなのかを知る。
実践を通して考える力を身につけ、教える際のヒントを得る。
後期はピアノという楽器の特性をより深く知り、演奏の際に必要な体の使い方や、音楽教室の現場の話を聞き将来ピアノ指導者として活動するための知識を深める。

２．授業概要

前期は導入期を終えた子どもに適した教材を選び、レッスン形式で、生徒と先生の両方の立場を経験しながら実践していく。
模擬レッスンを通して教材研究をすることにより曲について深く知る。それと同時に様々な方法で生徒が上達するためのヒントを得ることを目的とし、考える力、ひらめきを大切にし、生徒とのコミュニケーションの取り方を研究する。
後期は各界で活躍している講師からオムニバス形式で講義をしていただき、将来に役立つ幅広い知識を修得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期は毎回課題を提示しますので、授業での模擬レッスンができるように予習をしてください。
後期は授業後に授業内容をまとめておくこと

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
授業内の課題発表、及びレポート提出（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期は授業計画に掲載したテキストから抜粋します。
後期は必要に応じてプリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

質疑応答を含め授業への積極的な参加を希望します。
前期は課題の予習をして積極的に授業に参加してください。
後期は出席を重視します。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	平吉毅州「虹のリズム」より一演奏到達目標について考える
3	カイエ ドゥ ルモワンヌより一曲の構成と音色について研究する
4	ギロック「叙情小曲集」より一ペダルの使い方の工夫を学ぶ
5	バッハ 「インヴェンション」より一曲の構成を研究する
6	三善晃「音の森」「海の日記帳」より一音の響きと音楽の流れを理解する
7	「ソナチネアルバム」より一速いパッセージの奏法、練習法を考える
8	野平一郎「音の旅」より一音のバランスに注意して曲をまとめる
9	カバレフスキー「ロシア民謡による舞曲風変奏曲」他一変奏曲のまとめ方を学ぶ
10	湯山昭「こどもの国」「お菓子の世界」より一表現に合わせた手の使い方を考える
11	ハチャトゥリアン「少年時代の画集」より一作曲家の特徴をつかむ
12	池辺晋一郎「雲の散歩／リズムの小箱」より一曲の雰囲気を理解し表現方法を考える。
13	ドビュッシー「小さな黒人」他一作曲家の特徴を生かした曲のまとめ方を研究する
14	まとめ（1）前期の曲集を使用したレッスン形式の発表及び考察
15	まとめ（2）前期の曲集を使用したレッスン形式の発表及び考察　後期への展望

授業計画	
	［後期］
1	電子オルガン奏法（1）　奏法を学ぶ
2	電子オルガン奏法（2）　曲想に合った音色の選択、表現テクニックを学ぶ。
3	パイプオルガン奏法（1）　奏法の基礎を知る
4	パイプオルガン奏法（2）実践による演奏法の確認
5	パイプオルガン奏法（3）音をよく聞き、曲にあった表現方法を学ぶ。
6	御木本フィンガートレーニング（1）手指、腕の構造および自分の手の特徴を知る。
7	御木本フィンガートレーニング　（2）トレーニングを体験し、合理的で自然なテクニックの習得方法を学ぶ。
8	こんにゃく体操(1) 体の脱力の方法を学ぶ
9	こんにゃく体操（2）　体の柔軟な動きを学ぶ
10	音楽教室の現場（1）　音楽教室の教育内容を学ぶ
11	音楽教室の現場（2）　子供にレッスンする際の工夫について学ぶ
12	ピアノの話（1）　ピアノの歴史を学ぶ
13	ピアノの話（2）　ピアノの構造を学び楽器の特性を知る
14	呼吸法ー呼吸と演奏の関係について考える
15	まとめ

科目名	管弦楽内ピアノ奏法研究１～４　［木4］Aクラス						
代表教員	山内　のり子	授業コード	GE1495A0	科目コード	GE1495d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは一台で管弦楽曲をも再現できる能力を持つ万能楽器である。 しかし現状はピアノ曲の習得のみに追われ、 楽器の持つ大きな能力を奏者自身が使いこなすことは難しい。 本講座を履修することによって、スコア（総譜）を読むことから得られる多彩な音色表現の具現化、また指揮を見ながら演奏することに慣れ、協奏曲や室内楽演奏時に必要な高いアンサンブル能力を発揮出来るようになることが期待される。 実際の合奏総譜（スコア）研究と指揮視奏による合奏授業への参加をする授業を経て、演奏会へ参加することを目的とする。従ってこの専門選択科目は専攻交流参加型授業の性質を帯びている。（管弦打⇔ ピアノ）

２．授業概要

発表されたベーシックオーケストラ、レパートリーオーケストラ、マスターオーケストラの課題を含めて、授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

管弦楽総譜（スコア）の読み方に習熟すべく、 リーディングの速度を高める努力を怠らないこと。 また課題曲等のCD ・ DVD類を用いて、自らの頭の中で鳴る響きと実際の音響の差異が少なくなるように、日々感覚を磨く こと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点と演奏参加態度を評価する。またオーディションへの積極的な参加も評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献 ：〈スコアリーディング（スコアを読む手引き)〉 校閲 諸井三郎（全音楽譜出版社刊）など
前年度まで、そして今年度以降の課題例 ：
ベートーヴェン ：「エグモント」、交響曲「運命」、ブラームス ：「ハンガリー舞曲」、シューベルト:交響曲 「未完成」、ラヴェル:「マ・メール・ロワ」、 ロッシーニ ・ ヴェルディ ・ ワーグナー等の 「オペラ序曲」、 シベリウス:交響詩 「フィンランディア」、ビゼー:組曲 「カルメン」、 チャイコフスキー ：バレエ音楽 「くるみ割り人形」 「白鳥の湖」、バーンスタイ:交響曲「エレミア」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。集合教室については事前にポータル掲示で確認すること。
ベーシック ・ オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽授業にを行うことがある。同様にベーシック・オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽 ・ 合唱の学内外の演奏会に、 ピアノ・チェレスタ・チェンバロ等鍵盤楽器で 〈参加推薦〉 を行うことがある(オーディションの有無に関わらず)。 普段、多人数でのコミュニケーションを持たない専攻（ピアノ)なので、 大規模の演奏会スタイルを体験してほしい。

授業計画	
	［前期］ スコアリーディングの基礎を学ぶと共に、ピアノ付き管弦楽曲のレパートリーを知り、その効果と役目の知識を得る。
1	ガイダンス
2	スコアリーディング解説①各パート、弦楽器群等
3	スコアリーディング解説②管楽器等、打楽器群とピアノなどの編入楽器
4	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業①音楽の構造と読譜
5	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業②内声と手の配置
6	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業③音域、省略法など
7	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業④弦楽器の特性とピアノでの表現方法の研究
8	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業⑤指揮者に従う奏法練習
9	ベーシックオーケストラの授業見学
10	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験を通して、響きを体感する。
11	指揮とそれぞれの楽器のタイミングを体験した上で、呼吸法を考える。
12	指揮者の要求を理解する。
13	指揮を見ながら全体のアンサンブルを考える。
14	指揮者の指導に基づき、アンサンブル、読譜、音楽的欲求、バランス等を考える。
15	学内ホールにて ベーシック・オーケストラとの研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］ 　学内オーケストラ授業への鍵盤楽器の派遣（オーディション）及びピアノ編曲された管弦楽の曲を用いてスコア解析を通して演奏。前期より更にレヴェルアップできる内容を探求する。
1	後期授業説明
2	スコア解析①前期での読譜の例にならい、楽器群の読譜を行う
3	スコア解析②各楽器群の音色の研究と奏法
4	スコア解析③アンサンブルの実際
5	スコア解析④指揮者に従うアンサンブルやバランス
6	スコア解析⑤音楽の構造や様式など総合的な音楽研究
7	スコア解析⑥以前とは異なる作品に対する研究が加味される。
8	スコア解析⑦各パートの交換など適宜行う
9	スコア解析⑧総合的な音楽へのアプローチ
10	楽器による音色や音出しのタイミングの違いを理解する
11	指揮者とのコンタクトを取って演奏する
12	学内オーケストラのリハーサル見学①管弦楽の響きを聞く
13	学内オーケストラのリハーサル見学②各楽器毎の音楽的欲求について留意する
14	学内オーケストラのリハーサル見学③管弦楽とピアノによる奏法との違いなど総合的に考察
15	学内演奏会場にて研究発表演奏会

科目名	管弦楽内ピアノ奏法研究１～４　［木4］Bクラス						
代表教員	小林　裕子	授業コード	GE1495B0	科目コード	GE1495d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは一台で管弦楽曲をも再現できる能力を持つ万能楽器である。 しかし現状はピアノ曲の習得のみに追われ、 楽器の持つ大きな能力を奏者自身が使いこなすことは難しい。 本講座を履修することによって、スコア（総譜）を読むことから得られる多彩な音色表現の具現化、また指揮を見ながら演奏することに慣れ、協奏曲や室内楽演奏時に必要な高いアンサンブル能力を発揮出来るようになることが期待される。 実際の合奏総譜（スコア）研究と指揮視奏による合奏授業への参加をする授業を経て、演奏会へ参加することを目的とする。従ってこの専門選択科目は専攻交流参加型授業の性質を帯びている。（管弦打⇔ ピアノ）

２．授業概要

発表されたベーシックオーケストラ、レパートリーオーケストラ、マスターオーケストラの課題を含めて、授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

管弦楽総譜（スコア）の読み方に習熟すべく、 リーディングの速度を高める努力を怠らないこと。 また課題曲等のCD ・ DVD類を用いて、自らの頭の中で鳴る響きと実際の音響の差異が少なくなるように、日々感覚を磨く こと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点と演奏参加態度を評価する。またオーディションへの積極的な参加も評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献 ：〈スコアリーディング（スコアを読む手引き)〉 校閲 諸井三郎（全音楽譜出版社刊）など
前年度まで、そして今年度以降の課題例 ：
ベートーヴェン ：「エグモント」、交響曲「運命」、ブラームス ：「ハンガリー舞曲」、シューベルト:交響曲 「未完成」、ラヴェル:「マ・メール・ロワ」、 ロッシーニ ・ ヴェルディ ・ ワーグナー等の 「オペラ序曲」、 シベリウス:交響詩 「フィンランディア」、ビゼー:組曲 「カルメン」、 チャイコフスキー ：バレエ音楽 「くるみ割り人形」 「白鳥の湖」、バーンスタイ:交響曲「エレミア」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。集合教室については事前にポータル掲示で確認すること。
ベーシック ・ オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽授業にを行うことがある。同様にベーシック・オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽 ・ 合唱の学内外の演奏会に、 ピアノ・チェレスタ・チェンバロ等鍵盤楽器で 〈参加推薦〉 を行うことがある(オーディションの有無に関わらず)。 普段、多人数でのコミュニケーションを持たない専攻（ピアノ)なので、 大規模の演奏会スタイルを体験してほしい。

授業計画	
	［前期］ スコアリーディングの基礎を学ぶと共に、ピアノ付き管弦楽曲のレパートリーを知り、その効果と役目の知識を得る。
1	ガイダンス
2	スコアリーディング解説①各パート、弦楽器群等
3	スコアリーディング解説②管楽器等、打楽器群とピアノなどの編入楽器
4	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業①音楽の構造と読譜
5	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業②内声と手の配置
6	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業③音域、省略法など
7	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業④弦楽器の特性とピアノでの表現方法の研究
8	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業⑤指揮者に従う奏法練習
9	ベーシックオーケストラの授業見学
10	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験を通して、響きを体感する。
11	指揮とそれぞれの楽器のタイミングを体験した上で、呼吸法を考える。
12	指揮者の要求を理解する。
13	指揮を見ながら全体のアンサンブルを考える。
14	指揮者の指導に基づき、アンサンブル、読譜、音楽的欲求、バランス等を考える。
15	学内ホールにて ベーシック・オーケストラとの研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］ 　学内オーケストラ授業への鍵盤楽器の派遣（オーディション）及びピアノ編曲された管弦楽の曲を用いてスコア解析を通して演奏。前期より更にレヴェルアップできる内容を探求する。
1	後期授業説明
2	スコア解析①前期での読譜の例にならい、楽器群の読譜を行う
3	スコア解析②各楽器群の音色の研究と奏法
4	スコア解析③アンサンブルの実際
5	スコア解析④指揮者に従うアンサンブルやバランス
6	スコア解析⑤音楽の構造や様式など総合的な音楽研究
7	スコア解析⑥以前とは異なる作品に対する研究が加味される。
8	スコア解析⑦各パートの交換など適宜行う
9	スコア解析⑧総合的な音楽へのアプローチ
10	楽器による音色や音出しのタイミングの違いを理解する
11	指揮者とのコンタクトを取って演奏する
12	学内オーケストラのリハーサル見学①管弦楽の響きを聞く
13	学内オーケストラのリハーサル見学②各楽器毎の音楽的欲求について留意する
14	学内オーケストラのリハーサル見学③管弦楽とピアノによる奏法との違いなど総合的に考察
15	学内演奏会場にて研究発表演奏会

科目名	アコースティックミュージカルスタディ１～４　［金2］						
代表教員	鵜木　絵里	授業コード	GE153100	科目コード	GE1531d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージカルやクロスオーヴァーと言った作品に関して、マイクなどを使用せずに体に響せる発声で歌唱する。
演奏会などでも積極的に自らの演出で歌唱できる状態をめざす。

２．授業概要

毎回３～４名程度ずつ、配布した作品の中から学生自ら選んだ曲を演習。ミュージカルのみならずその前進でもあるオペレッタの作品（日本語訳歌唱）や近年のクラシック歌手によって歌われているクロスオーヴァーポップス作品なども取り上げる。その為にも基礎として声楽の要素を重要視する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

歌唱する作品は前もって映像など資料を見ておく事。作品が外国語であった場合は前もって発音などを丁寧にしらべる事。クラッシックコンサート以外の舞台にも積極的に足を運び、より豊かな表現を体験する事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点４０％、演習発表会６０％
平常点は普段の授業への取り組み、演習発表会とは前期・後期それぞれ最後の授業にするもの。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

講師側から前期・後期の授業開始時に譜面を配布する。
参考文献(譜面)
『50Showstoppers TheBlackBook』
『50Showstoppers TheWhiteBook』
　Wise Publications (the United States of America)
『ShowbyShow　BroadwayMusicals 1950-1959』
　Hal Leonard Publishing Corporation
『AndrewLloydWebber GOLD』
　Hal Leonard Publishing Corporation
『ウエストサイド物語全曲集』
　全音楽譜出版社
『The Sound of Music』
　YAMAHA MUSIC MEDIA CORPORATION
『ディズニーソングス』
　YAMAHA MUSIC MEDIA CORPORATION
『MusicalBestCollection ピアノ弾き語り』
　Shinko Music Pub. Co. Ltd.
『The Singer’s Musical Theatre Anthology
　Hal Leonard Publishing Corporation

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

地声を用いた歌唱は無いため、あくまで声楽の授業であることを理解する事が望ましい。
２/３以上の出席が無い場合は、試験を受ける事ができない。
２０分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻３回で欠席１回とみなす。

授業計画	
	１９６０年代のミュージカル作品やオペレッタ（日本語訳）、クロスオーヴァー作品を中心にソロ演習
1	ガイダンス、譜面についての説明、銘々選曲計画を立てる
2	約１３曲ほどの中から課題曲を学ぶ　（１）背景について発表すること
3	選択曲を学ぶ　（２）　言葉と作品への理解
4	選択曲を学ぶ　（３）　発音と歌唱確認を中心に
5	選択曲を学ぶ　（４）　アコースティックによる奏法を理解する　＃１確認
6	選択曲を学ぶ　（５）　アコースティックによる奏法を理解する　＃２定着
7	選択曲を学ぶ　（６）　アコースティックによる奏法を理解する　＃３工夫
8	選択曲を学ぶ　（７）　言葉から表現へ
9	選択曲を学ぶ　（８）　音色を掘り下げる　＃１確認
10	選択曲を学ぶ　（９）　音色を掘り下げる　＃２定着
11	選択曲を学ぶ　（１０）　音色を掘り下げる　＃３工夫してこだわる
12	選択曲を学ぶ　（１１）　簡単な演出プランを自分で表現する　＃１確認
13	選択曲を学ぶ　（１２）　簡単な演出プランを自分で表現する　＃２定着と工夫
14	選択曲を学ぶ　（１３）　演習発表会に向けて同じ状態で歌唱と表現が出来るかを自分で見極める
15	演習発表会　自分の音楽を表現として発表できたのかについて話し合いも含む

授業計画	
	２重唱、アンサンブルも取り入れ引き続き前期と同じ作品群の演習
1	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１）背景について発表すること
2	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（２）言葉と作品への理解
3	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（３）奏法について　＃１前期で学んだ奏法を用いての歌唱確認
4	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（４）奏法について　＃２定着
5	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（５）奏法について　＃３音域による奏法の理解
6	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（６）言葉から表現へ
7	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（７）音色を掘り下げる　＃１確認
8	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（８）音色を掘り下げる　＃２定着
9	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（９）音色を掘り下げる　＃３工夫
10	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１０）簡単な演出プランを付ける　＃１確認
11	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１１）簡単な演出プランを付ける　＃２定着
12	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１２）演出と歌唱のバランスを中心に　＃１確認
13	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１３）演出と歌唱のバランスを中心に　＃２定着と工夫
14	アンサンブルやソロの選択曲を学ぶ（１４）演習発表会に向けて同じ状態で歌唱と表現が出来るかを自分で見極める
15	演習発表会　自分の音楽を表現として発表できたのかについて話し合いも含む

科目名	室内オペラスタディ１～４　[月5]						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE154100	科目コード	GE1541d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オペラにおける台本・時代背景・音楽分析などの解釈を積み重ね、一つの舞台作品の解釈から制作、上演までを知るプロフェッショナルへの第一歩となる様な学びとする

２．授業概要

モーツァルト作曲 歌劇『魔笛』における台本、時代背景、音楽分析の解釈を、それぞれの専門の教員による講義の中で学ぶ。また、オペラ制作の進行の仕方を学ぶことにより、オペラ上演までの実践的な経験に触れることが出来る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

『魔笛』について積極的な興味を持ち、台本を読みドイツ語の歌詞のデイクションに触れる事。2019年度洗足学園音楽大学オペラ公演『魔笛』へのキャストとしての参加や、舞台制作の過程としての稽古参加での学習の可能性がある。

４．成績評価の方法及び基準

各授業内における質疑応答、プレゼンテーション(100%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

W.A.Mozart [Die Zauberflöte] ピアノ・ヴォーカルスコア（ベーレンライター版）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

歌劇『魔笛』の作品解釈に対する強い興味と、2019年度 洗足学園音楽大学オペラ公演 におけるオペラ制作の実践的体験への希望がある事が望ましい。実践の場として、授業外でのキャストや制作部としての、オペラ公演へ向けての稽古や制作会議などに参加する場合がある。 2019年度 洗足学園音楽大学オペラ公演　モーツァルト作曲 歌劇『魔笛』2020年2月29日(土)・3月1日(日) 前田ホール14:00開演予定

授業計画	
	［前期］ 歌劇『魔笛』に関する全般的な学習
1	ガイダンス
2	W.A.モーツァルトの生涯と作品
3	『魔笛』台本の検証 ①～時代背景とフリーメイソンの教団との関わり、教義と儀式
4	『魔笛』台本の検証 ②～夜の女王とザラストロ、善悪・相対的な世界
5	『魔笛』台本の検証 ③～パパゲーノとエマヌエル・シカネーダ
6	『魔笛』台本の検証 ④～3人の侍女と3人の童子
7	『魔笛』台本の検証 ⑤～弟子と師&娘と母（タミーノとザラストロ&パミーナと夜の女王）
8	『魔笛』ドイツ語のデイクションと日本語訳詞 ① タミーノ～王子の役割
9	『魔笛』ドイツ語のデイクションと日本語訳詞 ②3人の侍女
10	『魔笛』ドイツ語のデイクションと日本語訳詞 ③パパゲーノ&パパゲーナ
11	『魔笛』ドイツ語のデイクションと日本語訳詞 ④パミーナと3人の童子
12	『魔笛』ドイツ語のデイクションと日本語訳詞 ④夜の女王とザラストロ
13	『魔笛』ジングシュピールの考察と検証
14	『魔笛』ジングシュピールの実践
15	オペラにおけるキャスティング・オーディションの進行とまとめ

授業計画	
	［後期］ 『魔笛』の音楽的分析と音楽稽古から立ち稽古までの進行、オペラ公演の制作における本番に向けた進行の仕方を知る。
1	『魔笛』におけるオペラ制作の検証 ①制作部とは何か～スケジューリング
2	『魔笛』におけるオペラ制作の検証 ②チラシ制作と動員方法について
3	『魔笛』におけるオペラ制作の検証 ③まとめ
4	『魔笛』コレペティトールによる音楽分析の考察
5	『魔笛』コレペティトールによる音楽分析の検証
6	『魔笛』コレペティトールによる音楽分析の実践
7	『魔笛』コレペティトールによる音楽分析のまとめ
8	『魔笛』指揮者による音楽稽古の考察
9	『魔笛』指揮者による音楽稽古の検証
10	『魔笛』指揮者による音楽稽古の実践
11	『魔笛』演出家によるワークショップの考察
12	『魔笛』演出家によるワークショップの検証
13	『魔笛』演出家によるワークショップの実践
14	『魔笛』指揮者、演出家、コレペティトールによる稽古のまとめ
15	『魔笛』公演プログラムの作成～まとめ

科目名	コーラスアンサンブル実習１～４　[木2]						
代表教員	相澤　直人	授業コード	GE155100	科目コード	GE1551d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0(コーラスアンサンブルクラスのみ)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

・主にクラシックスタイルでのアンサンブルに必要なテクニックを習得する。
・特に当授業では、受講者の中から「指揮者」を立て、少人数編成の合唱を通じて、音楽そのものはもちろん、リハーサルテクニックを学ぶことが中心となる。
・合唱指導のシーンで必要なスキル（指揮法、楽曲分析、リハーサルテクニック、業界についての知識や将来の展望など）を総合的に学ぶ。
・合唱、アンサンブルに必要である４つのニュアンス（旋律、リズム、和声、ことば）についての理解を深め、表現できるようになる。

２．授業概要

　アンサンブル・合唱の演奏者としてはもちろんのこと、将来的に指導者として携わるための技術、心構えや知識までを、主に現代の合唱曲を用いながら総合的に指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業時に扱う曲の音取りは必ず事前にしてくること。
・また、自分のパートだけではなく「指揮を振れる」「指導ができる」程度の準備をしてくることが望ましい。
・技術は一朝一夕で身につくものではないので、日頃から定着を心がけ、反復練習や復習をすること。

４．成績評価の方法及び基準

積極的な姿勢、個人の技能、レポートなどの課題提出、授業内での発表など、総合的に（平常点３０％＋課題提出・発表７０％）判定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・相澤直人著 合唱エクササイズ ニュアンス編（カワイ出版）

{PanaMusica,https://www.panamusica.co.jp/ja/}などから購入可能。（各1,000円/税別）

※上記は授業内テキストとしても使用するので、初回授業までに準備すること。
※授業内で取り扱う楽曲に関しては、都度、授業内に指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アンサンブルは役割はそれぞれ違えど、全員が主役である。自分はもちろん、は他人も主役である。他人の立場で物事を考え、共に悩み、喜ぶ。アンサンブルとは思いやりの芸術であることを心得て参加すること。

授業計画	
	主にアンサンブルの演奏者（歌い手）としての技術の習得、ソルフェージュ能力の向上を目指す。
1	ガイダンス
2	音楽のニュアンス（１）三和音に関する知識
3	音楽のニュアンス（２）リズムと旋律の演奏法
4	音楽のニュアンス（３）和声やExpressive accentの演奏法
5	言葉のニュアンス（１）息と響き
6	言葉のニュアンス（2）音色座標と母音調整
7	アンサンブルテクニック（１）合唱エクササイズを用いて　日本語の扱い
8	アンサンブルテクニック（２）合唱エクササイズを用いて　アンサンブルの基礎練習法
9	アンサンブルテクニック（３）合唱エクササイズを用いて　カノンを用いてのアンサンブル実習
10	楽曲を用いての実践（１）　フレーズ分析
11	楽曲を用いての実践（２）　リュシーのリズム理論の解説
12	楽曲を用いての実践（３）　リュシーのリズム理論の実践と実際の楽曲での活用法
13	楽曲を用いての実践（４）　楽曲のトータルコーディネートについて
14	課題曲を用いての自主的なアンサンブル実践
15	前記の総括とニュアンスについてのまとめ

授業計画	
	前期に引き続き、楽曲を通じて奏者としての技術向上を大きな目的とするのはもちろんのこと、楽曲分析や、和声学、それらを演奏に生かすアプローチなど、指導者、もしくはコーラスマスター（リーダー）としての能力を養う。また、指揮法やリハーサルビルディングなど、実際の現場で指導者として必要なスキルも身につける。
1	詩の解釈・曲の解釈
2	アンサンブルのための和声学（１）固有和音と機能
3	アンサンブルのための和声学（２）和音の機能とカデンツ
4	アンサンブルのための和声学（３）非和声音の分析と演奏法
5	合唱指導に必要な能力と心構え
6	合唱指揮法（１）アクティブな拍点、パッシブな拍点
7	合唱指揮法（２）図形と予備拍、開始と終了
8	合唱指揮法（３）フェルマータの解釈、ほか
9	楽曲を用いての歌唱と指揮、指導法（１）　ニュアンス全般の表現
10	楽曲を用いての歌唱と指揮、指導法（２）　特にアウフタクト、イメージの前取りについての解説と実践
11	楽曲を用いての歌唱と指揮、指導法（３）　楽器と歌の表現、体の使い方、指揮法の違い
12	合唱文化の現在（日本の合唱曲のアイデンティティ、課題など）
13	アーティスト、トレーナーとしての立場
14	課題曲を用いての自主的なアンサンブル実践
15	発表会形式による総括と、１年間のまとめ講義「アンサンブルに大切な要素」

科目名	アンサンブルヴォイストレーニング１～４　[水2]						
代表教員	髙田　正人	授業コード	GE156100	科目コード	GE1561d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	V0（コーラスアンサンブルクラスのみ）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブルの基本となる声の技術を身につける。
大人数での合唱ではなく、4人からの小編成のアンサンブルを習得する。
古今東西の様々なスタイルのアンサンブル曲を高いレベルで演奏できるようになる。
様々な言語で書かれたアンサンブル曲を演奏できるよう、それぞれの言語での歌唱法・スタイルを習得する。
履修後はすぐにプロの現場で仕事として通用するレベルを目指す。

２．授業概要

前半はアンサンブルの素となる発声・リズム・ハモリ・身体表現などのエクササイズを行い、アンサンブルの素地を作る。
中盤以降では実際にクラシカルクロスオーヴァーからポップス、ミュージカル、日本や海外の様々な楽曲を演奏することを通して、アンサンブルの表現力とスキルを養う。英語のディクション・マイクの使い方・スタジオ録音など専門的な分野においてはその分野のスペシャリストをゲスト講師に招き、現場での即戦力を育てる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各項目について授業で扱える時間が限られているので、授業はなるべく録音するなどして十分にその内容を復習し、
次回以降に繋げること。
授業で使う楽譜は1週間以上前に渡すので、必ず自分のパートを譜読みしてから授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への意欲、準備、態度など75%、授業内成果発表演奏25%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

資料や楽譜は授業時に適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アンサンブルという性格上、欠席や遅刻は可能な限り少なくすること。特に最終の発表会には必ず出席できること。
また、他者との関わりが大切になるので、人との協調性が持てること。

授業計画	
	前期はアンサンブルの基礎となる声・リズム・フレージングなどを学ぶ。また、実際に日本の唱歌・歌謡曲・ポップスなどをアンサンブルにしたものを歌い、学んだ基礎を実践し体得する。
1	ガイダンス
2	発声のエクササイズ(1) 呼吸・支え・姿勢
3	ミュージカルの曲をアンサンブルで歌う(1) Seasons of love (レ・ミゼラブル)　他
4	音程・和声のエクササイズ
5	フレージング・リズムのエクササイズ
6	ジャズミサを歌う(1) Gloria
7	ジャズミサを歌う(2) Sanctus
8	身体表現のエクササイズ
9	日本の唱歌をアレンジアンサンブルで歌う (1) 春の歌
10	日本の唱歌をアレンジアンサンブルで歌う(2) 夏の歌
11	日本の唱歌・ポップスをアレンジアンサンブルで歌う(3) はなみずき
12	日本の唱歌・ポップスをアレンジアンサンブルで歌う(4) Over Drive (JUDY AND MARY) 他
13	クラシカル・クロスオーヴァーの曲を歌う(1) Time to say Goodbye
14	クラシカル・クロスオーヴァーの曲を歌う(2) Nella fantasia 他
15	前期のまとめ グループに分かれてアンサンブル発表

授業計画	
	後期はより複雑なアレンジのアンサンブルや、英語の曲などに挑戦する。ゲスト講師によるマイクの効果的な使い方や、ＣＤ録音の時の歌唱技術などプロの現場を意識した授業となる。
1	英語の名曲・ポップスをアンサンブルで歌う(1) You raise me up
2	英語の名曲・ポップスをアンサンブルで歌う(2) Yesterday
3	英語のディクション (ゲスト講師による)
4	ジャズミサを歌う(3) Benedictus
5	ジャズミサを歌う(4) 3曲の復習
6	クリスマスソングを歌う
7	これまでの曲の復習とまとめ(1) 前期の曲を中心に
8	曲やシチュエーションによる声の使い分け
9	マイクを使って歌ってみよう(ゲスト講師)
10	ミュージカルの曲をアンサンブルで歌う(2) 美女と野獣 他
11	ミュージカルの曲をアンサンブルで歌う(2) すべての山に登れ(サウンドオブミュージック)
12	自分たちの曲をスタジオ録音してCDにしてみよう(1) リハーサル(ゲスト講師)
13	自分たちの曲をスタジオ録音してみよう(2) (ゲスト講師を招いて)
14	これまでの曲の復習とまとめ(3) グループごとに精度を高める
15	演奏会形式での発表会(後期試験を兼ねる)

科目名	サックスオーケストラ１～４　[水4-5]						
代表教員	岩本　伸一	授業コード	GE163100	科目コード	GE1631d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソプリロからコントラバスまで ８種のサクソフォーンと打楽器から成る、同族楽器のオーケストラ。サクソフォーは、アドルフサックスにより19世紀半ばに特許が取得されて以来、今日まで飛躍的な発展を成している。しかしながら吹奏楽ではとても必要な楽器であるが、管弦楽ではロマン派以降、限られた作品にしか起用されていない。そのリスクを逆転の発想により、更には同族楽器としてとても恵まれている点から、サクソフォーンと打楽器により、音楽歴史上優れた作品の数々を、演奏して学んで行く。本番にプロの指揮者を招聘することで、より質の高い音楽表現を目標とする。

２．授業概要

主題で述べた学習曲はすべて編曲となる。客演指揮者と相談し、夏と冬の年間２回の成果発表演奏会のプログラムを決め、本番に向け合奏中心に授業を進める。指導教員が合奏＆各セクションを担当し、細かい指導を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏曲の事前勉強は必須。オリジナルスコアと共にCD(本学図書館活用) やYouTubeを視聴し、理解を深める。
必要に応じパート練習をする場合がある。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢８０％）
その他（ 貢献度など総合点２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業概要で述べた、当団のために編曲された楽譜を使用。
参考資料として、オリジナルスコア（管弦楽、吹奏楽など）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期に４回以上欠席した場合、演奏会に参加できない場合がある

授業計画	
	［前期］ 　客演指揮に増井信貴先生をお迎えし、7月10日（水）本学前田ホールにて、前期授業成果発表演奏会を行う。またミュージカルコースとの共演も予定。 曲目：三善 晃、矢代秋雄各氏の優れた邦人の作品など。ガーシュイン・ポギーとベス（ミュージカルコースと共演）
1	ガイダンス 顔合わせ 係り、パート決め
2	邦人作品①、②初合奏
3	邦人作品①、②曲目合奏、課題点の確認
4	邦人作品①、②曲目合奏、表現の工夫
5	邦人作品③、ポギーとベス初合奏
6	邦人作品③、ポギーとベス合奏、課題点の確認
7	邦人作品③、ポギーとベス合奏、表現の工夫
8	増井先生初合奏
9	ミュージカルコースとの合わせ中心
10	プログラム全曲合奏、表現の工夫
11	プログラム全曲合奏その2、表現の工夫（必用に応じセクション練習）
12	増井先生による全曲合奏
13	増井先生による合奏（プログラム前半）
14	増井先生による合奏（後半）
15	ゲネプロ＆前期演奏会

授業計画	
	［後期］ 　客演指揮に大井剛史先生（東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者）をお迎えし、12月13日(金)本学前田ホールにて、後期授業成果発表演奏会を行う。 プログラム:未定
1	ガイダンス パート調整等 音出し
2	プログラム前半、初合奏
3	前半曲目の合奏、課題点の確認
4	前半曲目の合奏(または分奏)、表現の工夫
5	プログラム後半、初合奏
6	後半曲目の合奏、課題点の確認
7	後半曲目の合奏(または分奏)、表現の工夫
8	プログラム全曲の合奏
9	プログラム全曲の合奏(または分奏)、質の向上
10	全曲合奏、総仕上げ
11	大井先生による全曲合奏
12	大井先生による合奏(プログラム前半)
13	大井先生による合奏(後半)
14	ゲネプロ＆後期演奏会
15	年間の総括、反省会

科目名	打楽器アンサンブル１～４　[水4-5]						
代表教員	神谷　百子	授業コード	GE163400	科目コード	GE1634d	期間	通年
担当教員	山澤　洋之、古川　玄一郎、野本　洋介、村瀬　秀美、井手上　達						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

打楽器アンサンブルでは多種の打楽器アンサンブル作品に取り組み、その過程で各種楽器奏法をマスターし、それと共に教材として取りあげる作品に関連する歴史や、作品の楽曲構造も学習していく。複数の担当教員の指導のもとアンサンブルを研究することによって、色々な視点からより良いアンサンブル演奏に仕上げていく方法や考え方を深く研究し、その成果を前期では発表会,後期では本格的な演奏会として発表することを授業の到達目標とする。また付随して、その過程で、演奏会を開催する上で必要な準備、舞台上のセッティングについてなどについても知識を広げていく。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げる楽曲については、授業までに各自で練習・研究しておくこと。また、各授業後、その授業で学んだことの復習と、次回に向けての練習をすることが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業に取り組む姿勢を考慮、また、各授業に向けての自分が担当している楽曲、そのパートの事前準備、授業内での演奏レベルについても成績決定の判断基準とする。原則として前期発表会、後期演奏会への出演は必須とするが、履修学生の学習姿勢などの理由により指導教員が出演出来ないと判断することもあり得る。その場合、またその他やむを得ない事情により発表会、演奏会に出演出来ない場合は場合はその代わりの課題について個別に相談する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で取り上げる打楽器アンサンブル楽曲の楽譜は各授業以前に配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業。アンサンブルクラス分けは、原則として授業担当教員が、受講生の状況を見ながら決定する。ただし後期演奏会に向けては、履修学生間で相談して取り上げる楽曲のうち数曲についての演奏メンバーを組む。その他授業進行にともなう諸注意については初回授業ガイダンスで確認すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、前期授業についての説明
2	基礎打楽器奏法１（膜質打楽器等）
3	基礎打楽器奏法２（金属打楽器等）
4	基礎打楽器奏法３（鍵盤打楽器等）
5	基礎打楽器奏法４（特殊打楽器等）
6	アンサンブルクラス分け、およびガイダンス
7	クラス別内容１ 基本的なレパートリーを教材とし、リハーサル開始. 教材曲の楽曲分析を交えながら進める
8	クラス別内容２ ７で行ったリハーサルの復習と、細部の確認
9	クラス別内容３ リハーサル最終確認。アンサンブルとしての完成度を高めることを強く意識する。
10	クラス別内容４ 基本的レパートリーとして取り上げた教材曲のアンサンブル完成
11	クラス別内容５ より高度なアンサンブルレパートリーを教材として取り上げ、リハーサル開始
12	クラス別内容６ １１のリハーサルの復習、細部確認
13	クラス別内容７ リハーサル最終確認。各自の担当するパートを理解した上でのアンサンブルの完成度を高める
14	総合演習（発表会）に向けてのクラス別各教材曲最終リハーサル　（試演を含む）
15	前期内容の総合演習（発表会）と総括

授業計画	
	［後期］
1	学年総合演習演奏会プログラム決定・楽譜配布
2	教材曲について、作曲家について、また、それらに関連する事等についての講義
3	演奏会楽曲リハーサル１ リハーサル開始、教材曲の楽曲分析を交えながら進める
4	演奏会楽曲リハーサル２ 楽曲に現れるビート、リズム、メロディー、フレーズ感、ハーモニーなどの確認
5	演奏会楽曲リハーサル３ 更に細部を確認しながらリハーサルを進める
6	演奏会楽曲リハーサル４ 教材曲のアンサンブル最終確認
7	演奏会楽曲リハーサル５ ２～６と同様に別のレパートリーを教材として講義、その後リハーサルを進める
8	演奏会楽曲リハーサル７ 楽曲の中の各パートの細部確認
9	演奏会楽曲リハーサル８ 楽曲に出てくるビート、リズムに焦点を置いたリハーサル
10	演奏会楽曲リハーサル９ 楽曲に現れるメロディー、フレーズ感、ハーモニー感に焦点をあてたリハーサル
11	演奏会楽曲リハーサル１０ アンサンブルの確認。複数のパートが一つの音楽を作るという意識を高めるリハーサル
12	演奏会楽曲リハーサル１１ 学年総合演習演奏会に向けて、各教材曲アンサンブルの完成度を高めていく
13	演奏会楽曲リハーサル１２ 演奏会進行等の確認
14	学年総合演習演奏会最終リハーサル
15	学年総合演習演奏会と授業統括

科目名	フルートオーケストラ１～４　[水4-5]						
代表教員	岩花　秀文	授業コード	GE163700	科目コード	GE1637d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フルート族のみ（ピッコロ・フルート・アルトフルート・バスフルート・F-バスフルート・コントラバスフルート・F管ダブルコントラバスフルート）のアンサンブル授業です。フルート独特の爽やかなサウンドで重要な作曲家の名曲を、洗足音大のオリジナルの編曲で、フルーティストにとって、最も大切な合奏技術を学びます。

本年度前期は、7月14日(土)に前田ホールで、昨年の前期コンサート同様、瀬尾宗則氏を指揮者に迎え、授業成果発表会を行ないます。プログラムは、セジョルネの『マリンバ･コンチェルト」とカール・ニールセンの「フルート協奏曲」，そして、瀬尾先生からのたっての願いで、ブロードウェイミュージカルナンバーの名曲「ラ･マンチャの男」の演奏会用組曲を予定しています。
また、福岡フルートコンベンションに参加希望者を募り8月２０日～参加する予定です。

後期は、三年前より本校の客員教授に就任した、フィリップ・ベルノルド客員教授を指揮者に迎えて様々な曲を演奏します。彼は、現パリ国立音楽院（コンセルバトワール）のフルート科教授であり、ヨーロッパで指揮者としても活躍しています。彼のソロでモーツァルトの「フルート協奏曲Ｄ-ｄｕｒＫ．３１４.」を、そして彼の指揮で、Ａ・ピアソラ等のプログラムを11月２０日（水）に前田ホールで企画しております。また彼の希望で「フルート・オーケストラ履修者の為のフルート基礎講座（グループに分けたロングトーン、身体の使い方、姿勢、タファネル・ゴーベールの全調の音階練習と分散和音でのデイリー・エクササイズ）」や公開レッスンも行ないます。
また、ベルノルド氏に頼んで、洗足学園フルート･オーケストラをヨーロッパでのフルート・フェスティバルに招待してもらえるように、企画中です。また、パウエル社に頼み、韓国の演奏旅行も企画中です。

そして、前期のコンチェルト「ニールセンのフルート協奏曲」と、セジョルネの『マリンバ･コンチェルト」のソリストは、フルートオケの履修者全員の中からオーディションで選ぶ予定です。
後期のモーツァルトのコンチェルトの練習用ソリストもオーディションで選出いたします。

昨年度の前期は、４００人の集客で、また、後期モ４２９人のお客さんが来てくれました。

演奏のレヴェルも前後期共に、これまでで、最高の出来であったと好評をいただいております。後期のコンサートでは、ベルノルド先生からも、「ここのフルート･オーケストラは、来る度に上手くなっている。今年の出来栄えは、過去最高であった。」と、お褒めの言葉を頂きました。

本来フランス国立音楽院の入学試験合格者しか受けられない、パリ・コンセルバトワール教授のフィリップ・ベルノルド先生から直々に学べる絶好の機会です。フルート・オーケストラ履修者のみの特典ですので、皆さん奮って参加してください。

２．授業概要

7月14日(土)に前田ホールで、昨年の前期演奏会同様、瀬尾宗則氏を指揮者に迎え、授業成果発表会を行ないます。
プログラムは、セジョルネの『マリンバ』協奏曲、ニールセンの「フルート協奏曲]，　「ラ･マンチャの男」フルートオーケストラ用組曲をオリジナル編曲で予定しています。

11月２０日(水)に前田ホールでフィリップ・ベルノルド客員教授を指揮者に迎えて様々な曲を演奏します。
彼のソロでモーツァルトの「フルート協奏曲Ｄ-ｄｕｒＫ．３１４.」を、そして彼の指揮で、同じくモーツァルトの「ディヴェルティメントＤ－dur K.136」　Ａ・ピアソラ　「ブエノスアイレスの四季」等のプログラムをで企画しております。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習
必要に応じてパート分奏

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と　その他演奏技術及び音楽性、合奏力の総合点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 授業計画に沿って授業を進める。
1	ガイダンス 係り、前期プログラムのパート決め, 譜面配布,音だし（譜読み）
2	Piccolo講座 前期プログラムの譜読み（高音域楽器の音程を中心に）
3	アルト・バス講座 斉藤和志講師 前期プログラムの譜読み（低音間特殊楽器を中心に）
4	前期プログラムの譜読み「フルート協奏曲」
5	前期プログラムの楽曲の構成やオーケストレーションの確認。(客演指揮者、瀬尾氏と共に)五回後は全て。
6	７月前期演奏会の為の合奏　前期プログラムの表現の工夫 「マリンバ協奏曲」の楽曲の構成やオーケストレーションの確認
7	７月前期演奏会の為の合奏「マリンバ協奏曲」の定着。 フルート協奏曲の表現の工夫と定着。
8	「フルート協奏曲」「マリンバ協奏曲」ソリスト・オーデション ７月前期演奏会の為の合奏　協奏曲の仕上げ。
9	７月前期演奏会の為の合奏　ニールセン「フルート協奏曲」の構成やオーケストレーションの確認
10	７月前期演奏会の為の合奏 ニールセン「フルート協奏曲」のソリストを交えた合奏、表現と工夫。 他の楽曲の校正やオーケストレーションの確認。
11	７月前期演奏会の為の合奏（客演指揮者）セジョルネ 「マリンバ協奏曲」の表現の定着。 表現の工夫。
12	７月前期演奏会の為の合奏（客演指揮者） {ラ・マンチャの男}表現の定着。 セジョルネの仕上げ演奏。
13	７月前期演奏会の為の合奏（客演指揮者）演奏会に向けたまとめの演奏。
14	７月前期演奏会本番
15	本番前の臨時練習（１３回目授業の後の時間帯に） 演奏会に向けたまとめの演奏。

授業計画	
	［後期］
1	後期冬の音楽祭参加の為のパート調整、譜面配布、音出し
2	後期演奏会の曲目譜読み 特種管講座～導入～
3	特種管講座～実践～
4	後期プログラム　の合奏 楽曲の構成やオーケストレーションの確認
5	後期プログラムの表現の工夫と定着
6	後期演奏会プログラム の合奏 楽曲の構成やオーケストレーションの確認
7	モーツアルト協奏曲学生ソリスト･オーディション 後期演奏会のプログラム合奏 表現の工夫と定着
8	後期演奏会のプログラム モーツアルト｢フルート協奏曲ニ長調｣のオーケストラ伴奏の合奏（学生ソリスト）
9	後期演奏会プログラムの合奏コンサート指揮者に渡す前の仕上げ。
10	後期演奏会プログラム モーツアルトとピアソラの合奏
11	後期演奏会 全てのプログラムの合奏（客演指揮者）
12	後期演奏会のプログラム　ソリストを入れての合奏（客演指揮者）
13	後期演奏会 全てのプログラムの合奏（客演指揮者） 最終確認
14	後期演奏会、本番当日
15	１年間の反省会

科目名	ブリティッシュブラス１～４　[水4-5]						
代表教員	福田　昌範	授業コード	GE164000	科目コード	GE1640d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ブリティッシュブラスは、コルネット、フリューゲルホーン、テナーホーン、バリトン、ユーフォニアム、バスなどのサクソルン属の楽器にトロンボーン、打楽器を加えた英国スタイルの金管バンドの形態や歴史を学び、ハーモニー、サウンドなど、合奏に必要な多くのスキルを、様々なジャンルの曲を通じて学習、実践していくことを主題としている。

到達目標
・金管バンドに関するレパートリーを広げることで、様々なジャンルのブラスバンドの作品を演奏できるようになる。
・金管バンドの奏法を研究、実践することのより、技術的にも音楽的にも金管バンドで演奏する際の表現力を高めることが出来る。
・金管バンドの知識・能力を養い、金管バンドの指導者としてのスキルを磨くことができる。
・金管バンドのオリジナル作品を演奏することにより、吹奏楽編曲作品とオリジナル作品との違いを学習することができる。

２．授業概要

授業の形態としては、基本編成、中編成、大編成の３つの形態で合奏を行ない、前期、後期に授業成果の発表（定期演奏会）を行う。
基本編成では、イギリスやヨーロッパの様々なブラスバンド選手権の課題曲を取り上げることで、最も高いレヴェルの曲に取り組むことができる。
中編成ではイギリスを中心とした世界の作曲者によるオリジナル作品を演奏することにより、様々なジャンルの金管バンド作品に触れることが出来る。また、中編成は基本編成とは違い多い人数でアンサンブルすることにより、その技術やサウンド作りを学ぶことが出来る。
大編成は履修者全員のマスバンドで、オーケストラのアレンジ作品、映画音楽等を演奏することにより、大きな編成の作品を学びその醍醐味を味わうことが出来る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「授業前に配布してある楽譜の譜読みをしてくること。必要時間 は 2 時間程度かかることが想定されます。」

「授業前に配布してある楽譜の様々な表情記号の意味や、曲の背景を学んでくることを求めます。予習には 1 時間程度かかることが予想されます。

「参考音源をよく聴き、全体的な楽曲の雰囲気や自分のパートの役割を理解してくる事を求めます。毎回の予習には 90 分程度 の時間がかかることが想定されます。」

「授業後毎に、パートやセクションで打ち合わせを持ち、演奏の反省や次回への課題に取り組む事を求めます。想定必要時間は 90 分程度 の時間がかかることが想定されます。」

４．成績評価の方法及び基準

（ア）評価種別
・平常点、定期演奏会の演奏達成度で評価を行う。

（イ）
・ 平常点 70%、定期演奏会 30%。平常点は授業への参加状況で総合的に判断する。

（ウ）評価基準
・ 平常点は、ブリティッシュブラスに積極的に演奏や係活動に寄与しているか。その貢献度を評価する。
・ 年２回の授業成果の発表（定期演奏会）に於いて、特筆に値する演奏を行ったか。その成果を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

金管楽器専攻、打楽器専攻、吹奏楽指導者コースの学生のみ履修できる。
授業で使用する楽器がある場合は、授業前に各自準備しておくこと。
合奏授業のための各コース別の諸注意は、初回授業ガイダンスで確認すること。

授業計画	
	［前期］ 　指揮者に、本学客員教授でありロイヤルウエリッシュ音楽大学教授（イギリス）のロバートチャイルズ氏、名誉教授の山本武雄氏を招聘し、ブラスバンドの基礎から、本場イギリスの演奏法を学ぶ。
1	前期ガイダンス
2	小編成：全英チャンピオンシップコンテストピース-①確認（譜読み） 中編成：ブラスバンドの基礎知識とオリジナル作品-①確認（譜読み）
3	大編成：ブラスバンドの基礎知識とオーケストラのアレンジ作品-①確認（譜読み）
4	小編成：全英チャンピオンシップコンテストピース-②確認（アーティキュレーション、ダイナミクス） 中編成：ブラスバンドの基礎練習とオリジナル作品-②確認（アーティキュレーション、ダイナミクス）
5	大編成：ブラスバンドの基礎練習とオーケストラのアレンジ作品-②確認（アイティキュレーション、ダイナミクス）
6	小編成：全英チャンピオンシップコンテストピース-③表現の工夫 中編成：オリジナル作品-③表現の工夫
7	大編成：オーケストラのアレンジ作品-③表現の工夫とまとめ
8	小編成：全英チャンピオンシップコンテストピース-④定着 中編成：オリジナル作品-④まとめ
9	＜指揮者合わせ＞ 小編成：全英チャンピオンシップコンテストピース-⑤定着 中編成：オリジナル作品-⑤指揮者との確認
10	＜指揮者合わせ＞ 大編成：オーケストラのアレンジ作品-④指揮者との確認
11	＜指揮者合わせ＞ 大編成：オーケストラのアレンジ作品-⑤指揮者との表現の工夫
12	＜指揮者合わせ＞ 小編成：全英チャンピオンシップコンテストピース-⑥指揮者との表現の工夫 中編成：オリジナル作品-⑥指揮者との表現の工夫
13	＜指揮者合わせ＞ 大編成：オーケストラのアレンジ作品-⑥指揮者との仕上げの演奏
14	＜指揮者合わせ＞ 小編成：全英チャンピオンシップコンテストピース-⑦指揮者との仕上げの演奏 中編成：オリジナル作品-⑦指揮者との仕上げの演奏
15	＜指揮者合わせ＞ 前期演奏会でのまとめの演奏（自らの課題やアンサンブルを意識しながら）

授業計画	
	［後期］ 　指揮者に、本学客員教授でありロイヤルノーザン音楽大学教授（イギリス）/ブラックダイクバンド指揮者のニコラスチャイルズ氏、名誉教授の山本武雄氏を招聘し、ブラスバンドの基礎から、本場イギリスの演奏法を学ぶ。
1	後期ガイダンス
2	小編成：全欧チャンピオンシップコンテストピース-①確認（譜読み） 中編成：オリジナル作品-①確認（譜読み）
3	大編成：オーケストラのアレンジ作品と映画音楽-①確認(譜読み)
4	小編成：全欧チャンピオンシップコンテストピース-②確認（アーティキュレーション、ダイナミクス） 中編成：オリジナル作品-②確認（アーティキュレーション、ダイナミクス）
5	大編成：オーケストラのアレンジ作品と映画音楽-②確認（アイティキュレーション、ダイナミクス）
6	小編成：全欧チャンピオンシップコンテストピース-③表現の工夫 中編成：オリジナル作品-③表現の工夫
7	大編成：オーケストラのアレンジ作品と映画作品-③表現の工夫とまとめ
8	小編成：全欧チャンピオンシップコンテストピース-④定着 中編成：オリジナル作品-④まとめ
9	＜指揮者合わせ＞ 小編成：全欧チャンピオンシップコンテストピース-⑤定着 中編成：オリジナル作品-⑤指揮者との確認
10	＜指揮者合わせ＞ 大編成：オーケストラのアレンジ作品と映画音楽-④指揮者との確認
11	＜指揮者合わせ＞ 大編成：オーケストラのアレンジ作品と映画音楽-⑤指揮者との表現の工夫
12	＜指揮者合わせ＞ 小編成：全欧チャンピオンシップコンテストピース-⑥指揮者との表現の工夫 中編成：オリジナル作品-⑥指揮者との表現の工夫
13	＜指揮者合わせ＞ 大編成：オーケストラのアレンジ作品と映画音楽-⑥指揮者との仕上げの演奏
14	＜指揮者合わせ＞ 小編成：全欧チャンピオンシップコンテストピース-⑦指揮者との仕上げの演奏 中編成：オリジナル作品-⑦指揮者との仕上げの演奏
15	＜指揮者合わせ＞ 後期演奏会でのまとめの演奏（自らの課題やアンサンブルを意識しながら）

科目名	オーケストラ演習１　［金2］						
代表教員	三宅　康弘	授業コード	GE194100	科目コード	GE1941	期間	通年
担当教員	松元　宏康						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	EO・ME・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

指揮を伴った、スコアリーディングによる電子オルガンアンサンブルができるようになる。
そのために、古典派を中心とした様々な室内楽作品および管弦楽作品を用い、電子オルガンにおけるオーケストラ奏法を基礎から学んでいく。

２．授業概要

電子オルガンア4台によるアンサンブルが基本である。まずオーケストラの譜面からレジストを作っておく。そしてハ音記号や移調楽器を含むスコアリーディングをしながら、曲の中における自分の受け持つ役割を認識し、拍を数え、バランスを常に留意しながら、息を合わせて演奏する。その上で指揮を見て、反応し、音楽的なコミュニケーションをとりながら曲を仕上げていく。
以上のような内容のため、この授業は電子オルガンと指揮の両教員によって行われる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた楽譜の自分のパートを弾けるようにし、レジストも準備しておくこと。特に後期は曲の難易度が上がるため、各グループの自主的なアンサンブル練習も期待される。また、図書館で自分が演奏する作品の背景や作曲家について調べておくことや、CDやDVDを視聴しておくことも大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%、試演会50%。
平常点は、個人の演奏の準備状況、楽器の準備と片付け、およびグループワークにおける貢献度を評価する。
試演会は年に3回行い、「指揮を伴った、スコアリーディングによる電子オルガンアンサンブル」に対する理解力や表現力を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業のため、遅刻・欠席は極力しないこと。
本授業履修後は、様々な時代のオーケストラ曲を演奏し、他楽器とも共演する「オーケストラ演習２～４」を受講することが望まれる。

授業計画	
	［前期］ ＊各回の授業内容は、進度により変更することがある。
1	ガイダンス
2	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎① （ハ音記号）
3	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎② （ヴァイオリン１・２）
4	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎③ （ヴィオラ、チェロ）
5	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎④ （木管・金管の移調楽器）
6	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎⑤ （木管楽器群をまとめて弾く）
7	電子オルガンにおけるオーケストラ奏法の基礎⑥ （金管・打楽器群をまとめて弾く）
8	室内楽曲① （電子オルガンアンサンブルを中心に）
9	室内楽曲② （指揮に合わせることを中心に）
10	室内楽曲③ （仕上げとまとめ）
11	小規模の管弦楽曲① （電子オルガンアンサンブルを中心に）
12	小規模の管弦楽曲② （指揮に合わせることを中心に）
13	小規模の管弦楽曲③ （音色を中心に）
14	小規模の管弦楽曲④ （仕上げとまとめ）
15	前期試演会

授業計画	
	［後期］ ＊各回の授業内容は、進度により変更することがある。
1	室内楽曲④ （指揮体験）
2	中規模の管弦楽曲① （電子オルガンアンサンブルを中心に）
3	中規模の管弦楽曲② （指揮に合わせることを中心に）
4	中規模の管弦楽曲③ （奏法を中心に）
5	中規模の管弦楽曲④ （和声を中心に）
6	中規模の管弦楽曲⑤ （形式を中心に）
7	中規模の管弦楽曲⑥ （仕上げとまとめ）
8	後期試演会①
9	大規模の管弦楽曲① （ヴァイオリン体験）
10	大規模の管弦楽曲② （電子オルガンアンサンブルを中心に）
11	大規模の管弦楽曲③ （指揮に合わせることを中心に）
12	大規模の管弦楽曲④ （様式を中心に）
13	大規模の管弦楽曲⑤ （表現法を中心に）
14	大規模の管弦楽曲⑥ （仕上げとまとめ）
15	後期試演会②とまとめ

科目名	オーケストラ演習２～４　［水4-5］						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	GE194700	科目コード	GE1947d	期間	通年
担当教員	竹内　聡、担当教員						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オーケストラ曲、協奏曲、オペラを研究し、演奏会で発表することを主題とする。電子オルガン２台から３台でオーケストレーションを担当し、音色豊かな合奏として曲を表現していく。

２．授業概要

指揮者、ソリストとのアンサンブルを練習計画に沿って行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏会の曲目決定後、譜読み、音色作りを行う。それと同時に楽曲について下調べを行っておくこと。
演奏会本番に向けて、十分練習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（演奏の準備状況）（評価の５０％）
楽曲に対する理解力、表現力（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当講師と協議の上、曲目を選定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

オーケストラ演習１を受講していることが望ましい。授業時間以外での個人練習が必要など、努力と熱心さが求められる。また、演奏の発表を目的とした講座のため、ソリストとの合わせの都合により、授業時間以外にも臨時練習が必要になる。このため授業時間を振り替えるような処置を講ずることもある。
全員が音楽性の統一を図って演奏会に臨むこと。

授業計画	
	［前期］ 7月に行われる演奏会に照準を合わせて、譜読み、音楽作りを行う。各自の演奏力向上とともにアンサンブルを学ぶ。
1	ガイダンス
2	電子オルガンアンサンブル、コンチェルト（曲選定、パート分け）
3	電子オルガンアンサンブル、コンチェルト（曲選定、パート分け）時代背景や様式を学ぶ
4	アンサンブル演習（１）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。形式や和声を研究する。
5	アンサンブル演習（2）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。各パートの役目を確認
6	アンサンブル演習（3）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。読譜を確認
7	電子オルガン合わせ(1)（音楽解釈）アンサンブルを通して、解釈を学ぶ
8	電子オルガン合わせ(2)（音楽解釈）アンサンブルのバランスを確認
9	ソリスト合わせ(1)電子オルガン合わせ。ソリストと共にアンサンブル演奏を行う。
10	ソリスト合わせ(2)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行い、表現を工夫
11	ソリスト合わせ(3)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。表現の掘り下げ
12	ソリスト合わせ(1)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。打楽器も加わり、全体のバランスなども確認する。
13	ソリスト合わせ(2)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。打楽器も加わり、全体のバランスなども確認。指揮者とともに演奏の表現
14	ソリスト合わせ(3)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。打楽器も加わり、全体のバランスなども確認する。専攻科演奏会曲パート分け
15	コンチェルト・アリアのタベ演奏会とまとめの演奏

授業計画	
	［後期］ 専攻科の演奏会に照準を合わせ、授業を進めていく。前期で学んだこと活かしながら、レヴェルアップを目指す。
1	アンサンブル演習（１）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。ソロ楽器の研究
2	アンサンブル演習（2）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。ソロ楽器の奏法研究
3	アンサンブル演習（3）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。
4	アンサンブル演習（4）。スコアリーディングを通して、電子オルガンのパート分けを確認する。形式や和声を研究
5	電子オルガン合わせ(1)（音楽解釈）アンサンブルを通して、解釈を学び、バランスなどを研究する。読譜の確認
6	電子オルガン合わせ(2)（音楽解釈）アンサンブルを通して、解釈を学び、バランスなどを研究する。各パートの役目を確認
7	電子オルガン合わせ(3)（音楽解釈）アンサンブルを通して、解釈を学び、バランスなどを研究する。
8	電子オルガン合わせ(4)（音楽解釈）アンサンブルを通して、解釈を学び、バランスなどを研究する。表現の工夫
9	ソリスト合わせ(1)電子オルガン合わせ。ソリストと共にアンサンブル演奏を行う。表現の掘り下げ
10	ソリスト合わせ(2)電子オルガン合わせ。ソリストと共にアンサンブル演奏を行う。指揮者からの音楽表現を学ぶ
11	ソリスト合わせ(3)電子オルガン合わせ。ソリストと共にアンサンブル演奏を行う。コンチェルトの形態について学ぶ
12	ソリスト合わせ(1)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。打楽器も加わり、全体のバランスなども確認する。
13	ソリスト合わせ(2)電子オルガン合わせ。ソリスト共にアンサンブル演奏を行う。打楽器も加わり、全体のバランスなども確認する。 アンサンブルを聴講することにより、バランスなどを確認
14	専攻科演奏会　演奏の確認
15	専攻科演奏会とまとめの演奏

科目名	ポピュラー奏法研究１　［水4］						
代表教員	小川　真澄	授業コード	GE195300	科目コード	GE1953	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々なスタイルのコードバッキングを通してリズムに対しての意識を高めていきます。
一度、一段鍵盤のシンプルな形に戻って他楽器とアンサンブルすることにより各パートの本来の役割を学び、全体の音をきちんと聴きながら楽しんでアンサンブルできるようなトレーニングを積んでいきます。
そしてそれが即興的なアプローチでも発揮できるようになり、最終的には電子オルガンでのソロ演奏に繋がることを目標とします。

２．授業概要

コードプログレッションやスケール等のポピュラー理論にも触れながら進めていきます。毎回渡す課題をソロまたはアンサンブルで演奏し、数回後にはギター、ベース、ドラムとのアンサンブルを通じて自分の演奏や他の人の演奏も聴きながらリズムの感覚を磨いていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配る課題をしっかり譜読みしてきてください。

４．成績評価の方法及び基準

確認テスト、授業への参加姿勢、平常点等から総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中にプリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画はある程度の履修人数を想定して作ってあります。実際の履修者人数によっては、計画を変更することもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、課題-他のパートを聴きながら弾く
2	課題-シンコペーション
3	コードポジショニング、様々なスタイルのバッキング、8分音符・16分音符ウラのリズムの取り方
4	コード進行について、8分音符・16分音符ウラのリズムの取り方応用
5	テンション・ノートについて、リズムトレーニング
6	テンションを含むボイシング実践、アドリブについて
7	テンションを含むボイシング、アドリブ、シャッフルのリズムについて
8	シャッフル課題、音価
9	3連符の様々なリズム、タイミング
10	ベースの音価について、ベースラインの作り方
11	両足ベース、ウォーキングベース
12	《ここからGt、Ba、Drサポートありの予定》 8beat1-シンコペーション、音価の作り方
13	8beat2-指づかいを考える、タイミング
14	8beat3-両手のタテの線をそろえる
15	8beatまとめ

授業計画	
	［後期］
1	シャッフル1-休符の感じ方
2	シャッフル2-フレーズのアーティキュレーション
3	シャッフル3-オープン・ボイシング
4	シャッフル4-応用
5	オルガンの仕組み、奏法
6	16Beat1-リズムの取り方
7	オルガン課題まとめ
8	１６beatハネ1-リズムの取り方
9	１６beatハネ2-パラディドル
10	コンサート演習1-Cメロ譜からのアレンジ
11	コンサート演習2-合わせ
12	コンサート演習3-演奏表現
13	コンサート演習4-仕上げ
14	試験曲合わせ
15	確認テスト・まとめ

科目名	オーケストレーション ［火2］						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GE197000	科目コード	GE1970	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの特性を活かして、オーケストラ作品を演奏するには、アコースティック楽器の扱い方や特性を知る必要がある。多くの楽器の知識を広めながら、オーケストレーションにつなげていく。そして、最終的には自ら二管編成のスコアを書くことを目標とする。

２．授業概要

スコアを読む力をつけながら、管弦楽曲で使われる楽器について学ぶ。ピアノ曲（ソナチネ）などを弦楽四重奏にアレンジすることから、編曲の意味を考え、徐々に二管編成を理解できるように充実させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：常に、演奏する立場、書く立場からの両方で作品に向き合う様に心掛けること。
復習：実習しながら進める授業です。読書するようにスコアを読むことが習慣になるのが理想です。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（課題制作を含む）（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
いずれも絶対評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

個々の実力に応じ、　随時授業内にて紹介、配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

これまでオーケストラのスコアを読むことが得意でないと感じていても全く問題ありません。
授業中、課題に真剣に取り組むことを積み重ねれば、必ずスコアを読み、書けるようになります。
調べものなどにも熱心に取り組むこと。

授業計画	
	［前期］ 二管編成の作品を見ながら、学生自らオーケストラ作品についての思考を深めていく。
1	ガイダンス。オーケストラで扱う楽器の名前、音色等をCDを聞きながら確認。
2	段数の少ないスコアを読み取る訓練も兼ねた、古典派の弦楽四重奏曲のピアノリダクション。
3	古典派の弦楽四重奏曲のピアノリダクションを各自で確認しながら演奏する。
4	ロマン派の弦楽合奏作品のピアノリダクション。
5	移調楽器の読み取り方。主にB管、A管をスコアリーディングする。
6	ソルフェージュの要素も加え、移調楽器（主にF管）を読み取る実習。
7	ホルンの音の重ね方を学びながらの、スコアリーディング。
8	ディアベリやクーラウのソナチネを弦楽四重奏に編曲する。
9	ディアベリやクーラウのソナチネを弦楽四重奏に編曲（ その２）
10	モーツァルト等の弦楽四重奏曲をピアノリダクションし、また原曲への復元。
11	弦楽器の扱い方を復習。
12	ピアノの作品を弦楽四重奏に編曲する。
13	それぞれのアイディアについてのディスカッション。
14	既存の弦楽四重奏曲のスコアを見ながら、弦楽器の扱い方や奏法を学ぶ。
15	これまでに習得した知識（音域、奏法等）の総復習。

授業計画	
	［後期］ 更に、オーケストレーションへの興味を深めながら、各自が二管編成のスコアを書く実習へと繋げていく。
1	シューマンのピアノ作品（こどもの情景等）を弦楽四重奏に編曲。ピアノのダンパーペダルの扱い方をみて、低音の持続音の必要性等を考える。
2	各自が書いた楽音の定着性について考える。
3	ドビュッシーのピアノ作品を用いて、オーケストラの音色を考える。ピアノ曲をオーケストレーションされた実作品も見る。
4	スコアの読み取り方を復習しながら、楽器の扱い方を学ぶ。挿入楽器についても触れる。
5	二管編成の仕組みを中心に、実作品を見ながら楽器の特性について学ぶ（主に木管楽器群）。
6	二管編成の仕組みを中心に、実作品を見ながら楽器の特性について学ぶ（主に金管楽器群）。
7	二管編成の仕組みを中心に、実作品を見ながら楽器の特性について学ぶ（主に弦楽器群）。
8	二管編成の仕組みを中心に、実作品を見ながら楽器の特性について学ぶ（主に打楽器、ハープ）。ハープのペダリングについて理解する。
9	前期に取り上げたソナチネ（クーラウやディアベリ等のピアノ曲）を二管編成の音色で考える。
10	ソナチネを二管編成にする準備。大まかな骨組みを考える。ラヴェル編の「展覧会の絵」等を写譜しながら楽器の扱い方やバランスを学ぶ。
11	ソナチネを二管編成にする準備。３つの楽器郡に分け、自由な発想を練る。ブリテンのオーケストラ作品に触れて、楽器の特性を認識する。
12	ソナチネを二管編成にする（スコアを書く）。プロコフィエフのオーケストラ作品を聞き、各自の作品を充実させる。
13	ソナチネの二管編成版を進める。サンサーンスのオーケストラ作品等を見ながら楽器の扱い方等を振り返る。
14	ソナチネの二管編成版を完成させる。
15	完成した作品を学生それぞれで、閲覧し合う。 これまでに習得した技術の見直し、確認。総まとめ。

科目名	ポピュラー奏法研究２　[水2]						
代表教員	上野山　英里	授業コード	GE197300	科目コード	GE1973	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンは１人で完結してしまえることが特徴のひとつでもあるため、アンサンブルを体験する機会が少ないのが現状。複数の人と一緒に音楽を創っていくことを通して、人とのコミュニケーションや自己表現の大切さ、楽しさを知る。
また、楽器の特性上、ひとりで沢山の音を同時に操ることが多いため、音数を減らしたシンプルな状態で、一音一音を大切にすること、鍵盤楽器の基礎的な演奏能力を身につけることを目標とする。

実際に他の楽器と共演することによって、電子オルガンのソロ演奏に還元していくことと、キーボーディストとしてセッションに参加できる力を身につけること、両方を到達目標とする。

２．授業概要

・ギター、ベース、ドラムのサポートのもと、アンサンブルを通じて様々なことを学んでいく。
・前期は主にこちらで用意した譜面を演奏しながら練習、後期は履修生自身で譜面を作って、イメージする音を形にしていくことも学習していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

アンサンブルを楽しむためには、ひとりひとりが個人練習・準備をしっかりしてくることが重要なので、提出した課題はもちろんのこと、積極的な予習・復習をして授業に臨んでほしい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、平常点、学期末試験、すべてを重要視します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中にプリントを配布。教材は随時紹介。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・「ポピュラー奏法研究１」を履修していることが望ましい。
・授業計画はある程度の履修人数を想定して作ってあります。実際の履修者人数によっては、計画を変更することもあります。
・使用楽器…ELC-02, ELS-01C, ピアノ（必要に応じて他楽器）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	基本事項の確認　メジャーコードとマイナーコード
3	基本事項の確認　コードの転回形　コードのスムーズな連結
4	コードプログレッションの基礎　ダイアトニックコードとマイナースケール
5	コードプログレッションの基礎　I,V7,IV以外のダイアトニックコードｓ
6	アレンジとアドリブ　ベースラインの作り方
7	アレンジとアドリブ　メロディフェイク
8	アレンジとアドリブ　曲の理解とモチーフの展開
9	セブンスコードの連結、3声で押さえるセブンスコード
10	4声スプレッドのトレーニング
11	コードプログレッション　ドミナントモーション
12	バンドスタイル実習（ギター・ベース・ドラム）リズムトレーニング
13	バンドスタイル実習　課題曲をバンドの中のキーボードとして
14	バンドスタイル実習　コードプログレッションの分析
15	授業内発表会　バンドスタイルでの演奏

授業計画	
	［後期］
1	オリジナルアレンジのための記譜法
2	代理コードについて　作品例の演奏と分析　作品a（バンドスタイル）
3	ノン・コードトーン　作品例の演奏と分析　作品b（バンドスタイル）
4	テンション・トレーニング　作品例の演奏と分析　作品c（バンドスタイル）
5	ディミニッシュ・コードのトレーニング　作品例の演奏と分析　作品d（バンドスタイル）
6	アドリブフレーズ①　トニックのフレーズ　作品例の演奏と分析　作品e（バンドスタイル）
7	アドリブフレーズ②　ドミナントセブンのフレーズ　作品例の演奏と分析　作品f（バンドスタイル）
8	アドリブフレーズ③　トゥーファイブのフレーズ　作品例の演奏と分析　作品g（バンドスタイル）
9	アドリブフレーズ④　循環コードのフレーズ　作品例の演奏と分析　作品h（バンドスタイル）
10	アドリブフレーズ⑤　7つのスケール　作品例の演奏と分析　作品i（バンドスタイル）
11	個別作品のチェック　作品例の演奏と分析　作品j（バンドスタイル）
12	個別作品のチェック　ヴォイシングのトレーニング　作品例の演奏と分析　作品k（バンドスタイル）
13	個別作品のチェック　エンディングコードの例　個別作品のアンサンブルトレーニング
14	個別作品のアンサンブル実習と復習
15	授業内発表と総括

科目名	創作演習　[月4]						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GE197600	科目コード	GE1976	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

いろいろな実作品を見ながら曲の構成、動機の展開方法等を学び、電子オルガンソロのためのオリジナル作品を仕上げる作業に役立つことを実習します。
自作自演する意味や、電子オルガンについても考える。

2．授業概要

作曲経験の有無を問わず、習作を繰り返し作ることで曲作りのプロセスを体験する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

作曲は即興演奏と全く異なるものです。要領よく短時間で作品を仕上げることは不可能です。思うように進まなくても、地道に自分の作品と向き合ってください。
時間を経て残っている作品は、ジャンルを問わず興味を持って勉強してください。必ず、創作活動の役に立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と課題実習の成果を総合して評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作品（音楽に限らず）から何かを感じ取ること、何かしら吸収しようとする姿勢は重要です。耳に入ってくる音楽のハーモニーを追いかけたり、何故流行っているのか？、構成を分析してみる等、五感をしっかり使うことを心掛けて下さい。

授業計画	
	［前期］ 　変奏曲を書く。 楽譜の記譜についても緻密に学ぶ。
1	ガイダンス
2	変奏曲の構造を見る
3	変奏の模倣1（倚音に注目）
4	変奏の模倣２（刺繍音に注目）
5	変奏の模倣３（経過音に注目）
6	変奏の模倣４（反行形に注目）
7	変奏の模倣５（拡大、縮小形に注目）
8	変奏曲制作１（簡単な単旋律を主題にする）
9	変奏曲制作２（非和声音を意識する）
10	変奏曲制作３（伴奏形の変化を意識する）
11	変奏曲制作4（Adagioについて考える）
12	変奏曲制作５（三連符などのリズムの変容について考える）
13	変奏曲制作6（変奏の種類、曲数、全体の流れ、バランス等の見直し
14	変奏曲制作７（音出し、記譜等の見直し）
15	作品についての考察（シャコンヌ、パッサカリアなども参考にする）

授業計画	
	［後期］ オリジナル曲を書き、自作自演につなげる。
1	自作品曲に向けての準備
2	ソナチネなどの構造を見る（簡単な分析）
3	ソナタ形式の確認
4	作品制作と添削指導1（提示部の主題について考える）
5	作品制作と添削指導2（２つの主題の特徴を考える）
6	作品制作と添削指導3（展開部の調の変遷を考える）
7	作品制作と添削指導4（再現部前の処理について）
8	作品制作と添削指導5（コーダについて）
9	作品制作の中間チェックと主に古典派のピアノソナタの考察
10	既存のソナチネの主題を用いて提示部を制作（２つの主題の調性と特徴の見直し）
11	既存のソナチネを用いて提示部を制作（移行部の処理）
12	展開部の制作（効果的な賞の変遷を試みる）
13	展開部のまとめと再現部の制作
14	形式にこだわらない自由な発想の作品制作
15	自作自演による作品発表

科目名	編曲演習　[木4]						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	GE197700	科目コード	GE1977	期間	通年
担当教員	岩崎　孝昭、高田　和泉、加曽利　康之						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

電子オルガンの持つ多様性に、積極的に向き合う。個々の演奏者により、音楽のジャンルやスタイルも違い、それぞれ個性豊かなアレンジ法がある。クラシック、ポピュラーの分野で、現在活躍している4名のプレーヤーから、アレンジのノウハウを学ぶことにより、受講者が自由にアレンジを行えるようになることを目標とする。

2．授業概要

クラシックのアレンジ法①、②、ポピュラーのアレンジ法①、②・・・4名の教員が、それぞれのアレンジ法について、講義並びに実習を行う。
＊やむを得ず、授業計画に変更がある場合がある。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

担当の教員により、課題については異なるが、授業で学んだことは、自分の作品で試してみること。
授業を聞くだけでなく、積極的に幅広い音楽を聴くことも、同時進行すること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
平常点（課題、発表など・・・評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で随時配布。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に条件はないが、授業内で出される課題には、積極的に取り組んでほしい。様々なアレンジ法を習得して下さい。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス。様々な編曲法についての授業内容、進め方について。
2	編曲概論　クラシック並びにポピュラーアレンジ例を分析する。
3	編曲概論　編曲のスタイル研究　スコアの読み方
4	ポピュラー編曲法①講義（ポピュラーアレンジの基礎概論）
5	ポピュラー編曲法①講義（ポピュラーアレンジの基礎概論）定着
6	クラシック編曲法①講義並びに実習　スコアリーディングの実習
7	クラシック編曲法①講義並びに実習　スコアリーディングについて（2管編成）
8	ポピュラー編曲法①講義並びに実習　コードについて
9	ポピュラー編曲法①講義並びに実習　コードプログレッションについて
10	クラシック編曲法①講義と実習　弦楽合奏のアレンジ
11	クラシック編曲法①講義と実習　フルオーケストラのリダクションについて
12	ポピュラー編曲法①講義と実習　バッキングについて
13	ポピュラー編曲法①講義と実習　ベースラインについて
14	クラシック編曲法①講義と実習　フルオーケストラのリダクションについて
15	クラシック編曲法①講義と実習　授業内発表

授業計画	
	[後期]
1	ポピュラー編曲法②（ガイダンス）
2	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　様々なポピュラーのスタイルについて
3	クラシック編曲法（ガイダンス）ピアノ譜から、弦楽合奏のスタイルにアレンジ実習。
4	クラシック編曲法②電子オルガンアレンジのアナリーゼ オーケストレーションを作曲家ごとに研究する。
5	クラシック編曲法②電子オルガンアレンジのアナリーゼ 様式やスタイルからの研究。
6	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　様々なスタイルのアレンジについて
7	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　ポピュラーアレンジの構成について
8	クラシック編曲法②実習（ピアノの小品より）弦楽器とソロ楽器編成のアレンジについて
9	クラシック編曲法②実習（ピアノの小品より）オーケストレーションを考えたアレンジについて
10	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　実際、アレンジしたものへのクリニック　形式の確認
11	ポピュラー編曲法②講義並びに実習　実際、アレンジを行ったものへのクリニック　楽譜を仕上げる。
12	クラシック編曲法②実習（ピアノの作品より）電子音を使ったアレンジ
13	メロディ譜より、自由なスタイルのアレンジ実習 全体のスタイルを決め、楽譜を書く。
14	メロディ譜より、自由なスタイルのアレンジ実習　仕上げの演奏。
15	まとめ並びに成果発表

科目名	電子オルガン・スタジオエレクトロニクス　[木3]						
代表教員	上原　直	授業コード	GE197800	科目コード	GE1978	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

①電子オルガン・ソロ演奏の可能性を探る
YAMAHA STAGEAのさまざまな機能を音楽的に有効活用する方法を学びます。
（New STAGEA ELS-02Cの新機能、演奏表現法についても解説 / 実習します。）
②様々な音楽ジャンル(クラシック/ジャズ/ポップス等)の代表的な曲のテーマ部分の音色をSTAGEAで創り、その再現法と演奏表現法を学びます。
③電子オルガンと周辺機器
（１）YAMAHA STAGEAとコンピュータを接続し、様々な音楽シーンに対応する能力を身に付ける
（２）音楽系アプリケーション（Digital Audio Workstation、波形編集 & 楽譜浄書）の操作法を習得します。
④電子オルガン関連の学内演奏会音響スタッフを経験し、ライブでの音響設定や演奏会の進行等を学びます。

２．授業概要

授業の課題は、授業内または数日前にメール添付で配布されます。
（個人用コンピュータを所有していない学生は図書館のコンピュータを使用可）
学生はその課題をプリントアウトし、木曜日の授業までに実施します。
授業内で全員で課題を試聴及び演奏します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

STAGEAの取扱説明書を熟読しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）
授業内の小テスト及びレポート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキストを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

電子オルガン1年生は学内での演奏会及び試験会場でのスタッフ業務が義務づけられていますので、必ず履修してください。

授業計画	
	［前期］ 電子オルガン STAGEAの様々な機能を音楽的に有効活用する方法を学びます。
1	基本的なレジストレーション ① クラシック音楽編
2	基本的なレジストレーション ② ポピュラー音楽編
3	基本的なレジストレーション ③ エレクトロミュージック編
4	STAGEA用拡張スピーカーYAMAHA MSR400+800Wとの接続 ① ソロ編
5	STAGEA用拡張スピーカーYAMAHA MSR400+800Wとの接続 ② アンサンブル編
6	ELS-01C & ELS-02C エフェクトの概念と活用法 ① リバーブ・ディレイ系
7	ELS-01C & ELS-02C エフェクトの概念と活用法 ② モジュレーション系
8	ELS-01C & ELS-02C エフェクトの概念と活用法 ③ 複合エフェクト系
9	ELS-01C & ELS-02C ボイスエディット ① 基本編
10	ボイスエディット ②
11	ボイスエディット ③ Filterの活用法
12	ボイスエディット ④ L.F.Oやエフェクトを使ったSFX音色
13	ELS-01C & ELS-02C リズムプログラミング（基本編）
14	リズムプログラミング（様々なジャンルのリズムパターン）
15	リズムプログラミング（変拍子 & 高度なプログラミング）

授業計画	
	［後期］ 電子オルガン STAGEAと周辺機器を使用し、様々な音楽シーンに対応する能力を身に付ける
1	ELS-02C Super Articulation Voice の演奏表現 ①　導入
2	ELS-02C Super Articulation Voice の演奏表現 ②　基礎
3	ELS-02C Super Articulation Voice の演奏表現 ③　応用
4	ELS-02C Super Articulation Voice の演奏表現 ④　発展
5	STAGEAとコンピュータを繋ぐ ①
6	STAGEAとコンピュータを繋ぐ ②　仕上げ
7	STAGEAのXG音源の有効活用法 ①
8	STAGEAのXG音源の有効活用法 ②　仕上げ
9	オーディオ録音、波形編集、楽譜浄書ソフト活用法 ①　導入
10	オーディオ録音、波形編集、楽譜浄書ソフト活用法 ②　基礎
11	オーディオ録音、波形編集、楽譜浄書ソフト活用法 ③　応用
12	オーディオ録音、波形編集、楽譜浄書ソフト活用法 ④　発展
13	映像とシンクロした作品制作法 ①
14	映像とシンクロした作品制作法 ②　仕上げ
15	作品発表

科目名	電子オルガン演奏法１　［火3］						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	GE198000	科目コード	GE1980	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの歴史はまだ浅いが、楽器のモデルチェンジにより、操作並びに奏法も変化している。その楽器を使いこなし、音楽を表現するために、基本的な奏法を学ぶ。電子オルガンの歴史を辿りながら、素晴らしい作品にも触れ、演奏力をアップしていく。テクニックを学ぶだけでなく、音楽の解釈などにも目を向け、音の大切さを感じ取り表現することを目標とする。

２．授業概要

アーティキュレーションやダイナミクスを正確に表現することを学びながら、音楽を解釈し、感じたものを表現できるように、ジャンルを問わず、数多くの楽曲に触れながら)進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げる課題は、必ず繰り返し練習を行うこと。学んだことを、実際の曲（レッスン曲等）で、試してみること。
指のトレーニング（オルガン奏法における指変え等）については、トレーニングの仕方を指示するので、積極的に行ってほしい。

４．成績評価の方法及び基準

前期、後期試験（評価の50%）
平常点（授業内の課題取り組み等、授業への参加姿勢、評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

課題は、随時配布。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス
2	電子オルガン奏法の歴史
3	音価のコントロールによる様々な表現（アーティキュレーション）
4	アーティキュレーション（レガート奏法）
5	アーティキュレーション（スタッカート奏法）
6	アーティキュレーション（テヌート、ノンレガート）
7	アーティキュレーション（ポルタートなど）
8	指広げと指寄せ
9	指くぐりと指こえ
10	指のおきかえ
11	重音奏
12	ダイナミクスの表現
13	ペダル奏法（レガート奏法）
14	ペダル奏法（アーティキュレーション）
15	課題チェック（前期のまとめ）

授業計画	
	[後期]
1	エクスプレッションペダルを使った表現（ダイナミクスの表現）
2	エクスプレッションペダルの使い方（アクセントの表現）
3	エクスプレッションペダルと指による表現
4	イニシャルタッチ研究（基礎的な使い方）
5	イニシャルタッチ研究（減衰音色の場合）
6	アフタータッチコントロールの基礎
7	アフタータッチコントロールによるフレーズの表現
8	エクスプレッションペダル・アフタータッチコントロールのコンビネーション
9	総合（応用編）・・実際の曲を通して、演奏法を学ぶ。音程、非和声音、リズム、音高、音の強さのアーティキュレーションへの影響
10	総合（応用編）・・実際の曲を通して、演奏法を学ぶ。音色とタッチの関係
11	総合（応用編）・・実際の曲を通して、演奏法を学ぶ。エクスプレッションペダルとアフタータッチ、イニシャルタッチの使用の可能性
12	総合（応用編）・・実際の曲を通して、演奏法を学ぶ。発表。
13	PCを使用して、演奏のアナリーゼ（試弾）
14	PCを使用して、演奏のアナリーゼ（録音分析）
15	まとめ並びに成果発表。

科目名	指導グレードマスター講座１～４　[火4]						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GE198200	科目コード	GE1982d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	EO・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を色々な角度から理解し、指導するための実力を実習を通して身につけることを目標とする。

２．授業概要

初見視唱、視奏を軸とした基礎的な読譜力のトレーニング、指導グレード取得に役立つキーボードハーモニー及び移調奏の実践、合唱編作など、指導するために必要な実力を身につけられるような内容で授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：課題を実践することに加え、より多くの時間、ピアノに触れることを心掛けて下さい。
復習：一度弾いた課題も、くり返し弾いて、自分の物にして下さい。必ず上達します。旋律を声に出して歌う事も習慣にして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

上達度、授業内のテスト（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
いずれも絶対評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：実力に応じて授業内に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実習をしながら進めていく授業のため、人数が多い場合に限って、上級生及びグレード試験を受ける予定が具体的にある学生の履修を優先することがあります。
必ず「出来るようになるまで諦めずに」復習すること。
継続が力となります。
熱心に取り組むこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	やさしいイタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート1）。 各自に合う移調方法を見つける（パート1）。
3	やさしいイタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート2）。 各自に合う移調方法を見つける（パート2）。アルト記号に置き換える等。
4	やさしいイタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート3）。 各自に合う移調方法を見つける（パート3）。テノール記号に置き換える等。
5	旋律から非和声音を除き、適切な和音を感じられる様にする。 各自定着した移調方法を用いての移調奏（パート1）。
6	旋律から非和声音を除き、和音の連結（ 主に度数）を意識しながらコード付けをする（パート1）。 各自定着した移調方法を用いての移調奏（パート2）。
7	旋律から非和声音を除き、和音の連結（主に指の配置）を意識しながらコード付けをする（パート2）。 各自定着した移調方法を用いての移調奏（パート3）。
8	旋律の持つ性格を見極め、適切な伴奏型を考える（パート1）。 重音の移調奏。
9	旋律の持つ性格を見極め、適切な伴奏型を考える（パート2）。 簡単な3声の移調奏。
10	旋律の持つ性格を見極め、適切な伴奏型を考える（パート3）。 簡単な4声の移調奏。
11	ピアノのペダリングに注意しながら、旋律に相応しい伴奏を付ける（パート1）。 離れた調への移調奏。
12	ピアノのペダリングに注意しながら、旋律に相応しい伴奏をつける（パート2）。 各自の移調方法の確認、見直し。
13	ピアノのペダリングに注意しながら、旋律に相応しい伴奏を付ける（パート3）。 移調楽器を読みながら、移調方法を確認する。
14	ピアノ連弾の楽曲を用いて、初見視奏の練習をする。 同時に和音の進行も学ぶ。
15	これまでに、習得したテクニックの見直し。 総復習。

授業計画	
	［後期］
1	イタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート１）。 各自の移調方法の確認と見直し。
2	イタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート２）。 移調方法の定着（パート１）。
3	イタリア歌曲を用いての弾き歌い（パート３）。 移調方法の定着（パート２）。仕上げ。
4	非和声音を意識しながら、旋律に適切な和音付けをする（パート１）。 重音の移調を確実にする。
5	非和声音を意識しながら、旋律に適切な和音付けをする（パート２）。 3声体の移調を確実にする。
6	非和声音を意識しながら、旋律に適切な和音付けをする（パート３）。 ４声体の移調。
7	旋律の持つ性格に適した伴奏型を考える（パート１）。 特に拍子を意識する。 移調楽器の読み替えを参考にして、移調する。
8	旋律の持つ性格に適した伴奏型を考える（パート２）。 ハ音記号等の読み方を反映させた移調奏（パート１）。 主にアルト記号とテノール記号を用いる。
9	旋律の持つ性格に適した伴奏型を考える（パート３）。 ハ音記号等の読み方を反映させた移調奏（パート２）。 主にソプラノ記号、メゾソプラノ記号を用いる。
10	ピアノのペダリングに注意しながら、適切な和音と、旋律の持つ性格を活かす伴奏型をつける（パート１）。 離れた調への移調（パート１）。アルト譜表で旋律聴音を試みる。
11	ピアノのペダリングに注意しながら、適切な和音と、旋律の持つ性格を活かす伴奏型をつける（パート２）。 離れた調への移調（パート２）。テノール譜表で旋律聴音を試みる。
12	多声作品を用いての弾き歌い（パート１）。 和音度を意識した移調奏（パート１）。
13	コードネームを意識しながら多声作品を用いての弾き歌い（パート２）。 和音度を意識した移調奏（パート２）。
14	ピアノ連弾作品を用いて、初見力を強化する。 移調方法の完全な定着。
15	習得したテクニックの総復習。

科目名	演奏グレードマスター講座１～４　[水2]						
代表教員	岡田　久常	授業コード	GE198600	科目コード	GE1986d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演奏グレード5級・4級を取得するために必要な即興演奏能力を獲得することを目標とする。

２．授業概要

コード進行トレーニングと即興演奏課題実習

３．授業時間外の学習（予習復習について）

16小節のコード進行表（長調・短調）をもとに伴奏付け、メロディーのせを全調で行うトレーニングを継続的に練習すること。
グレード即興課題を熟考してまとめること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
実力（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に指示をする

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

将来的にグレード取得の必要性を感じている者の履修を希望する。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	（前期課題）コードトレーニング 長調①　基礎
3	（前期課題）コードトレーニング 長調②　応用
4	（前期課題）コードトレーニング 短調①　基礎
5	（前期課題）コードトレーニング 短調②　応用
6	（前期課題）コードトレーニング 全調
7	5級 B即興①　基礎
8	5級 B即興②　応用
9	5級 B即興③　発展
10	5級 A即興①　基礎
11	5級 A即興②　応用
12	5級 A即興③　発展
13	（前期課題）模擬テスト①　前半
14	（前期課題）模擬テスト②　後半
15	前期まとめ

授業計画	
	［後期］
1	（後期課題）コードトレーニング 長調①　基礎
2	（後期課題）コードトレーニング 長調②　応用
3	（後期課題）コードトレーニング 短調①　基礎
4	（後期課題）コードトレーニング 短調②　応用
5	（後期課題）コードトレーニング 全調①　基礎
6	（後期課題）コードトレーニング 全調②　応用
7	4級 B即興①　基礎
8	4級 B即興②　応用
9	4級 B即興③　発展
10	4級 A即興①　基礎
11	4級 A即興②　応用
12	4級 A即興③　発展
13	（後期課題）模擬テスト①　前半
14	（後期課題）模擬テスト②　後半
15	後期まとめ

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月3］A1クラス						
代表教員	松山　修	授業コード	GE2011A1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［金2］A3クラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GE2011A3	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月3］B1クラス						
代表教員	原　朋直	授業コード	GE2011B1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［金2］B3クラス						
代表教員	原　朋直	授業コード	GE2011B3	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火3］B4クラス						
代表教員	原　朋直	授業コード	GE2011B4	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月3］C1クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2011C1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火4］C2クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2011C2	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火3］C3クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2011C3	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月3］C4クラス						
代表教員	川嶋　哲郎	授業コード	GE2011C4	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月4］D1クラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE2011D1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水3］E1クラス						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GE2011E1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火2］E4クラス						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GE2011E4	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［月4］F1クラス						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE2011F1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［木4］F2クラス						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE2011F2	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水4］J1クラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GE2011J1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水4］K1クラス						
代表教員	瀬田　創太	授業コード	GE2011K1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［木2］K2クラス						
代表教員	片倉　真由子	授業コード	GE2011K2	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水3］L1クラス						
代表教員	岡田　治郎	授業コード	GE2011L1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水2］L2クラス						
代表教員	岡田　治郎	授業コード	GE2011L2	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［水4］W1クラス						
代表教員	白仁“KOTETSU”賢哉	授業コード	GE2011W1	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　（前）［火4］W3クラス						
代表教員	若井　俊也	授業コード	GE2011W3	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞ Ⅱ(5Saxes)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ4　(前)　[木4]						
代表教員	松本　治	授業コード	GE204300	科目コード	GE2043	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本的な５パート・ライティング、ソリ・ライティングについて学ぶ（５サックス）

２．授業概要

「ホーン・アレンジI（２～４Ｖｏｉｃｅｓ）」で学んだ４パート・ライティングから発展し５パート・ライティングについて学ぶ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題提出とファイナル・プロジェクトの制作

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
ファイナル・プロジェクト（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて随時提供

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

＊「規定数の出席と全課題の提出」が単位認定の必須条件。

スーパーサックス等の中編成による作品を聴きましょう

授業計画	
	［半期］ 「ホーン・アレンジI（２～４Ｖｏｉｃｅｓ）」で学んだ４パート・ライティングの復習から５パート・スプレッド・ヴォイシングまでを、アプローチ・テクニックを含むソリ・ライティングに応用する方法を学んでいく
1	４パート・ライティングの復習
2	ダブルリードを使った５パート・ライティング
3	異なる５声による５パート・ヴォイシング
4	異なる５声による５パート・ヴォイシング、課題のチェック
5	アプローチ・ノートのリハモナイゼーション
6	アプローチ・ノートのリハモナイゼーション、課題のチェック
7	５声のスプレッド・ヴォイシング
8	５声のスプレッド・ヴォイシング、課題のチェック
9	ドロップ２を使った５パート・サックス・ソリのアナライズ
10	ソリ・メロディーの作成
11	メロディーのアナライズ
12	メロディーをドロップ２、スプレッド・ヴォイシング等の方法を使ってヴォイシング
13	ファイナル・プロジェクトのガイダンス
14	スコアチェック
15	ファイナル・プロジェクトの音出しと解説

科目名	ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞ Ⅲ(6~8Brass)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ5　(後)　[木3]						
代表教員	松本　治	授業コード	GE204400	科目コード	GE2044	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コードスケール・ヴォイシング等を使って大編成に対応するライティング・テクニックを身につける

２．授業概要

４ｔｈ・ヴォイシング、クラスター・ヴォイシング、アッパーストラクチャー・ヴォイシング等を使った６－８パート・ライティングを学ぶ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題提出、６パート・ライティングのスコア作成、ファイナル・プロジェクトのスコア作成

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）
課題提出（評価の30%）
ファイナル・プロジェクトの音出し（評価の４０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時提供

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 今まで勉強したヴォイシング法に加えてコードスケール・ヴォイシングを学び、様々なヴォイシング法によるライティングを学ぶ
1	コードスケールを考える（キーボードを使って）
2	コードスケールを考える（論理的考察）
3	フォース・インターバル・ビルド（4way）
4	フォース・インターバル・ビルド（5way）
5	フォース・インターバル・ビルド（3way）
6	クラスター・ヴォイシング（4way）
7	クラスター・ヴォイシング（5way）
8	クラスター・ヴォイシング（3way）
9	アッパー・ストラクチャー・トライアドヴォイシング（5way）
10	様々な方法を使ってメロディーをヴォイシングしてみる
11	６パート・ライティングの方法
12	６パート・ライティングを様々なヴォイシング法で試してみる
13	８パートライティングの方法
14	ファイナル・プロジェクトのガイダンス
15	スコアチェック

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［月3］A1クラス						
代表教員	松山　修	授業コード	GE2085A1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［金2］A3クラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GE2085A3	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［月3］B1クラス						
代表教員	原　朋直	授業コード	GE2085B1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［金2］B3クラス						
代表教員	原　朋直	授業コード	GE2085B3	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［火3］B4クラス						
代表教員	原　朋直	授業コード	GE2085B4	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［月3］C1クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2085C1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［火4］C2クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2085C2	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［火3］C3クラス						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE2085C3	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［月3］C4クラス						
代表教員	川嶋　哲郎	授業コード	GE2085C4	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［月4］D1クラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE2085D1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［水3］E1クラス						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GE2085E1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［火2］E4クラス						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GE2085E4	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［月4］F1クラス						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE2085F1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［木4］F2クラス						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE2085F2	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［水4］J1クラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GE2085J1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［水4］K1クラス						
代表教員	瀬田　創太	授業コード	GE2085K1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［木2］K2クラス						
代表教員	片倉　真由子	授業コード	GE2085K2	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［水3］L1クラス						
代表教員	岡田　治郎	授業コード	GE2085L1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［水2］L2クラス						
代表教員	岡田　治郎	授業コード	GE2085L2	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［水4］W1クラス						
代表教員	白仁“KOTETSU”賢哉	授業コード	GE2085W1	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－１　（前）［火4］W3クラス						
代表教員	若井　俊也	授業コード	GE2085W3	科目コード	GE2085d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	シアターダンス１－１　（前）［金4］						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE231500	科目コード	GE2315	期間	半期
担当教員	小林　瑶子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの基礎を学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊る事の楽しさ」の体得を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラシックバレエの基礎レッスンにおいて前期授業を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエのＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、髪が長い場合は結ぶなどしてまとめること。（バレエ用品を持っている場合は着用する事が好ましい。）
男女共、バレエシューズ（色自由）が必要な為、事前に各自購入する等して用意しておくか、初回授業での説明後に購入（約２千円程度）するように。
　初回授業はガイダンスの為着替え等不要。２回目からは、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
1	ガイダンス（受講する際の服装・バレエレッスンの流れ・バレエ基礎の説明など）
2	ストレッチ バレエの基礎　正しい姿勢
3	ストレッチ バレエの基礎　柔軟性
4	ストレッチ バレエの基礎　呼吸
5	ストレッチ バレエの基礎　足のポジション
6	ストレッチ バレエの基礎　手のポジション
7	ストレッチ バレエの基礎 バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（前）
8	ストレッチ バレエの基礎 バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（後）
9	ストレッチ バレエの基礎と応用
10	ストレッチ バレエの基礎と応用 音楽に合わせた振り付けの練習①　首・顔の位置
11	ストレッチ バレエの基礎と応用 音楽に合わせた振り付けの練習②　目線
12	ストレッチ バレエの基礎と応用 マイム 音楽に合わせた振り付けの練習③　表現力
13	ストレッチ バレエの基礎と応用 音楽に合わせた振り付けの練習④　音楽性
14	ストレッチ バレエの基礎と応用 音楽に合わせた振り付けの練習⑤　空間の使い方
15	ストレッチ バレエの基礎と応用 音楽に合わせた振り付けの練習⑥　まとめ

科目名	シアターダンス１－１　（前）［金1］（AS専用）Aクラス						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE2315A0	科目コード	GE2315	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの基礎を学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊る事の楽しさ」の体得を目標とする。また、DVD鑑賞やマイムの学習を通してバレエ作品について学ぶ。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラシックバレエの基礎レッスンにおいて半期授業を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、髪が長い場合は結ぶなどしてまとめること。（バレエ用品を持っている場合は着用する事が好ましい。）
男女共、バレエシューズ（色自由）が必要な為、事前に各自購入する等して用意しておくか、初回授業で注文・購入（約２千円程度）するように。
初回授業はガイダンスの為着替え等不要。２回目からは、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［半期］前期
1	ガイダンス（バレエレッスンの流れ・バレエ基礎・受講についての説明など）
2	バレエの基礎　柔軟性
3	バレエの基礎　正しい姿勢
4	バレエの基礎　呼吸
5	バレエの基礎　足のポジション
6	バレエの基礎　手のポジション
7	バレエの基礎　マイム
8	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（前）
9	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（後）
10	バレエの基礎　マイムの復習
11	バレエの基礎　役柄の理解
12	バレエの基礎　音楽性
13	バレエの基礎　表現力
14	バレエの基礎　応用力
15	バレエの基礎　まとめ

科目名	シアターダンス１－１　（前）［金1］（AS専用）Bクラス						
代表教員	草間　華奈	授業コード	GE2315B0	科目コード	GE2315	期間	半期
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの基礎を学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊る事の楽しさ」の体得を目標とする。また、DVD鑑賞やマイムの学習を通してバレエ作品について学ぶ。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラシックバレエの基礎レッスンにおいて半期授業を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、髪が長い場合は結ぶなどしてまとめること。（バレエ用品を持っている場合は着用する事が好ましい。）
男女共、バレエシューズ（色自由）が必要な為、事前に各自購入する等して用意しておくか、初回授業で注文・購入（約２千円程度）するように。
初回授業はガイダンスの為着替え等不要。２回目からは、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［半期］前期
1	ガイダンス（バレエレッスンの流れ・バレエ基礎・受講についての説明など）
2	バレエの基礎　柔軟性
3	バレエの基礎　正しい姿勢
4	バレエの基礎　呼吸
5	バレエの基礎　足のポジション
6	バレエの基礎　手のポジション
7	バレエの基礎　マイム
8	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（前）
9	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（後）
10	バレエの基礎　マイムの復習
11	バレエの基礎　役柄の理解
12	バレエの基礎　音楽性
13	バレエの基礎　表現力
14	バレエの基礎　応用力
15	バレエの基礎　まとめ

科目名	シアターダンス１－２　（後）［水4］						
代表教員	花柳　珂穂月	授業コード	GE231600	科目コード	GE2316	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・MS・BL・AS・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
着物を着ての立ち居振舞いを通じて日本古来の文化に親しむ。古典舞踊一演目を習得する。
【目標】
（１）着物の着方を習得する。
（２）基本的な所作を習得する。
（３）和用小道具の使い方を習得する。
（４）舞台上での表現力を習得する。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
着付が出来たら、あいさつの後、前回の授業で学習した歩き方など基本の動作、課題の演目を復習し、新しい振りの説明・実践をします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

街の中や、TVなどで和服の人を見たら、着こなし等を注意する。普段の生活から自分の姿勢を意識する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０％）
平常点（授業内のテスト）（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業形態が主として実技であるから、テキストまたはそれに準じるものは原則として使用しない。ただし、講義内容に応じて必要があれば適宜プリント類を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）浴衣一式（足袋、浴衣、帯、ひも）が用意できることが望ましい。
（２）自国の文化を理解することは、活躍せんとする分野を問わず大切なことです。日本人であることが自分の武器であると思えるように、好奇心や向上心を持って日本の文化を体で覚えて下さい。

授業計画	
	［半期］
1	着物の着方①（説明・実践） 立ち方・坐り方・歩き方・あいさつ①(基礎、練習)
2	着物の着方②(実践、定着) 立ち方・坐り方・歩き方・あいさつ②(実践、定着) 課題曲の練習①(導入部、実践)
3	着物の着方③(まとめ) 課題曲の練習②(リズム部分、実践)
4	基本の動き①(女性の歩き方) 課題曲の練習③(目線の基本、実践)
5	基本の動き②(役ごとの歩き方) 課題曲の練習④(パントマイム的な要素、実践)
6	扇を使う練習 小曲（さくらさくら）①(歌詞の説明、扇の使い方基本) 課題曲の練習⑤(冬の情景導入部、実践)
7	扇を使う練習 小曲（さくらさくら）②(扇の使い方応用) 課題曲の練習⑥(冬の情景、実践)
8	扇を使う練習 小曲（さくらさくら）③(歌いながら踊る 前半) 課題曲の練習⑦(リズム部分②、実践)
9	扇を使う練習 小曲（さくらさくら）④(歌いながら踊る 後半) 課題曲の練習⑧(終焉部前半、実践)
10	扇を使う練習 小曲（さくらさくら）⑤(まとめ) 課題曲の練習⑨(終焉部後半)
11	扇以外の小道具(説明) 課題曲の練習⑩(基本の動きから表現のための動きへ)
12	課題曲の練習⑪(日本舞踊らしい動き 基礎)
13	課題曲発表のためのまとめ①(日本舞踊らしい動き 応用)
14	課題曲発表のためのまとめ②(単独で踊る練習)
15	課題曲の発表（試験）

科目名	シアターダンス１－２　（後）［金1］（AS専用）Aクラス						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE2316A0	科目コード	GE2316	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの基礎を学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊る事の楽しさ」の体得を目標とする。また、DVD鑑賞やマイムの学習を通してバレエ作品について学ぶ。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラシックバレエの基礎レッスンにおいて半期授業を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、髪が長い場合は結ぶなどしてまとめること。（バレエ用品を持っている場合は着用する事が好ましい。）
男女共、バレエシューズ（色自由）が必要な為、事前に各自購入する等して用意しておくか、初回授業で注文・購入（約２千円程度）するように。
　初回授業はガイダンスの為着替え等不要。２回目からは、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［半期］後期
1	ガイダンス（バレエレッスンの流れ・バレエ基礎・受講についての説明など）
2	バレエの基礎　柔軟性
3	バレエの基礎　正しい姿勢
4	バレエの基礎　呼吸
5	バレエの基礎　足のポジション
6	バレエの基礎　手のポジション
7	バレエの基礎　マイム
8	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（前）
9	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（後）
10	バレエの基礎　マイムの復習
11	バレエの基礎　役柄の理解
12	バレエの基礎　音楽性
13	バレエの基礎　表現力
14	バレエの基礎　応用力
15	バレエの基礎　まとめ

科目名	シアターダンス１－２　（後）　［金1］　（AS専用）Bクラス						
代表教員	草間　華奈	授業コード	GE2316B0	科目コード	GE2316	期間	半期
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの基礎を学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊る事の楽しさ」の体得を目標とする。また、DVD鑑賞やマイムの学習を通してバレエ作品について学ぶ。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラシックバレエの基礎レッスンにおいて半期授業を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、髪が長い場合は結ぶなどしてまとめること。（バレエ用品を持っている場合は着用する事が好ましい。）
男女共、バレエシューズ（色自由）が必要な為、事前に各自購入する等して用意しておくか、初回授業で注文・購入（約２千円程度）するように。
　初回授業はガイダンスの為着替え等不要。２回目からは、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［半期］後期
1	ガイダンス（バレエレッスンの流れ・バレエ基礎・受講についての説明など）
2	バレエの基礎　柔軟性
3	バレエの基礎　正しい姿勢
4	バレエの基礎　呼吸
5	バレエの基礎　足のポジション
6	バレエの基礎　手のポジション
7	バレエの基礎　マイム
8	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（前）
9	バレエの基礎　バレエ作品ＤＶＤ鑑賞（後）
10	バレエの基礎　マイムの復習
11	バレエの基礎　役柄の理解
12	バレエの基礎　音楽性
13	バレエの基礎　表現力
14	バレエの基礎　応用力
15	バレエの基礎　まとめ

科目名	シアターダンス２－１　（前）［月3］						
代表教員	クリス　チャベス	授業コード	GE231700	科目コード	GE2317	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・BL・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ストレッチを通してしなやかな体作り、基本姿勢の認識。
ダンスの基本的なルーティンから、筋肉の柔軟性や持久・瞬発性の両面からトレーニングし、関節の可動範囲を広げ、体の開発、開放を行う。ダンスコンビネーションでは、４ビート系のオーソドックスなスタイルから、ヴォードビルやミュージカルなどのシアター・ダンスでリズム感や、バランス感覚、またグループの中で動くフォーメーション感覚を養います。
ジャズ・ダンスを通して舞台人としての姿勢（心身両面）と表現力（舞台の歩き方や効果的な顔や体の見せ方等）の向上を目指した実践的でわかりやすいレッスンを展開します。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。
ウォームアップ インナーマッスルトレーニング（40分）
クロスフロア（20分）
振り付け（30分）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、体の動きの復習
イメージトレーニング

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすく、体のラインがわかり易いウェア（例:レオタード、スパッツ等。Tシャツ、ジャージ、トレパンなどは体にフィットし伸縮性のあるものが良い）、ダンスシューズ（ジャズ・シューズ、ダンスヒール、バレエシューズ可）、タオル、飲み物、筆記用具等を用意。
休み時間中に着替えを済ませ、授業の開始時刻に遅れないように教室へ入室。

授業計画	
	［半期］
1	・オリエンテーション ・クラス紹介
2	・呼吸法からストレッチ ・自分の姿勢を認識・修正 ・姿勢づくりのトレーニング
3	・ストレッチ ・筋力トレーニング ・基本姿勢からの正しいウォーキング
4	・ストレッチからクロスフロア ・筋力トレーニング ・クロスフロアなどで基本的なステップを使い、音と体をなじませる
5	・ストレッチからクロスフロア ・簡単なダンスのステップ（キックや上半身のダイナミックな動き）
6	・ストレッチからクロスフロア ・音楽に合わせた振付を覚える。またそれを通して多様な体づかいの認識
7	・ストレッチからクロスフロア ・振付に加えフォーメーションを作り舞台上での感覚を養う
8	・ストレッチからクロスフロア ・ペアダンス(2人で踊る）を学ぶ
9	・ストレッチからクロスフロア ・ペアダンスを学ぶ （パートナーとの間隔を養う）
10	・ストレッチからクロスフロア ・ラインダンス等で他人との距離やラインの感覚を学ぶ
11	・ストレッチからクロスフロア ・歌に合わせて体を動かす
12	・ストレッチからクロスフロア ・試験のための振り付け
13	・ストレッチからクロスフロア ・つけられた振りを習得
14	・ストレッチからクロスフロア ・試験の振付を整え復習する
15	試験 各自授業を通して習得したことを発表 講師からのまとめの話

科目名	シアターダンス２－２　（後）　[木2]						
代表教員	池村　太郎	授業コード	GE231800	科目コード	GE2318	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・MS・BL・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

舞台でも社交としても、ダンスは姿勢と歩き方が最も重要であります。
以前、外国では子どもたちに辞書のような重い本を頭上に乗せて良い姿勢で歩かせていたそうですが、現在は殆どの学校でマナーやエチケットと共に楽しみながらダンスで自然に身に付けさせている所が多いのです。
易しく楽しいダンスを学ぶことによって優雅で活動的な動き、リズミカルな音楽に合った身体の動作が自然と身に付きます。また、将来外国に行った時などでも、自信を持って舞踏会やパーティに出席することが出来ましょう。ダンスも世界の共通語です。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。生徒の進捗状況に応じて多少の変更あり。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習ったウォーキングを日頃から気をつけて歩いてください。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）
但し、授業への参加姿勢についても評価に含む。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修人数の制限（３０名以内）があります。
服装はなるべく動きやすいものが良いでしょう。
ダンスシューズ（女子はヒールが５～７センチ程度のパンプス）が必要です。
購入方法が分からない方は、第１回目の授業でご紹介いたします。

授業計画	
	［半期］
1	マンボ：ソシアルダンスの導入としてペアと踊る事を目的としてます。
2	スクエアルンバ：揃えた足の中での体重の乗換えを目的。
3	ジルバⅠ：パーティダンスで必ず踊る種目、シンプルなリズムの習得。
4	ジルバⅡ：前回の続きと合わせて、複雑なステップに挑戦。
5	ワルツⅠ：ベースとなるステップの習得。
6	ワルツⅡ：前回の続きを合わせて、複雑なステップの習得。
7	ワルツⅢ：ステップ習得と合わせて、体（スウェイ）、足（フットワーク）、脚（ライズアンドフォール）の説明
8	ルンバⅠ：ベースとなるステップの習得。
9	ルンバⅡ：前回の続きと合わせて、複雑なステップの習得。
10	ルンバⅢ：ステップ習得と合わせて、体（クカラチャ）、足（フットワーク）の説明。
11	タンゴⅠ：ベースとなるステップの習得。
12	タンゴⅡ：前回の続きと合わせて、複雑なステップに挑戦。
13	チャチャチャⅠ：ベースとなるステップの習得。
14	チャチャチャⅡ：前回の続きと合わせて、複雑なステップに挑戦。
15	まとめ：全種目の復習。

科目名	声楽基礎演習Ｉ－１　[月3]						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE235100	科目コード	GE2351	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声楽家として必要な基礎科目全般にわたって演習をするため、毎回の授業に必ず出席すること。
この授業は、自分の将来を見つめて、声楽を専門とする分野、進路を決定するための重要な授業である。
「声楽基礎演習Ｉ－２」も必ず履修すること。
2年次に開講される「声楽基礎演習II－１」および「声楽基礎演習II－２」に継続していくこと。

２．授業概要

「声楽基礎演習Ｉ－２」とあわせて年間60コマの授業を、リズムソルフェージュ、新曲視唱、舞台表現法、ボディ・マッピング、ディクション（伊・独）、詩の解釈（伊・独）、レパートリー声楽史、等をそれぞれの専門の教員の指導により演習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は数回ごとに、内容が変化するので、それに対応できるように準備すること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、それぞれの内容での習熟度を成績評価の目安とするが、
必要な場合は授業内での発表、小試験を行う場合もある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業のために必要な楽譜や資料は、譜読みなどの準備をして来られるように、事前に手配できるよう掲示するので、ポータルでの確認を忘れない事。その他、各授業担当教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「声楽基礎演習Ｉ－２」も必ず履修すること。
ボディマッピング、舞台表現法、アクティング等は動きやすい服装、靴で参加するように各授業担当講師より指示がある。
ボディ・マッピングでは「ひめトレ」という道具を使用するので、ドミナントで購入すること。

授業計画	
	［前期］ 授業の進み方により曲目などの変更有
1	イントロダクション(塩田美奈子 他)
2	リズムソルフェージュ１ 拍子・リズムの基礎 （石井喜久子）
3	リズムソルフェージュ 2 様々なリズムの考察 (石井喜久子)
4	リズムソルフェージュ 3 ボディパーカッションを用いて (石井喜久子)
5	リズムソルフェージュ 4 実際に打楽器を演奏して (石井喜久子)
6	リズムソルフェージュ 5 発表・まとめ (石井喜久子)
7	イタリア語ディクション&詩の解釈 1 イタリア語の発音と発語 (Flavio Parisi)
8	ボディ・マッピング１ ボディ・マッピングの活用法 (長井芽乃)
9	イタリア語ディクション&詩の解釈2 歌曲演習の為のイタリア語発音指導 歌唱におけるイタリア語の発音 (Flavio Parisi)
10	ボディ・マッピング２ 良い姿勢・悪い姿勢 （身体上の6つのバランスポイント） (長井芽乃)
11	ボディ・マッピング3 身体のリセット法 (長井芽乃)
12	イタリア語ディクション &詩の解釈3 歌曲演習の為のイタリア語発音指導 イタリア古典歌曲におけるイタリア語の発音と歌唱 （Flavio Parisi）
13	イタリア語ディクション&詩の解釈　4 歌曲演習の為のイタリア語発音指導 イタリア古典歌曲におけるイタリア語の発音と歌唱の実践 （Flavio Parisi）
14	レパートリー声楽史3 オペラの誕生～バロックオペラ （高田正人）
15	前期まとめ (塩田美奈子、飯田千夏、佐藤亜希子

授業計画	
	［後期］ 授業の進み方により曲目などの変更有
1	イントロダクション （甲斐栄次郎）
2	ボディ・マッピング４ 発声・発音・顎関節 （長井芽乃）
3	ボディ・マッピング５ 呼吸の真実 （長井芽乃）
4	レパートリー声楽史６ ロマン派のオペラ ドイツ(ワーグナー) （高田正人）
5	レパートリー声楽史７ ヴェリズモオペラ （高田正人）
6	レパートリー声楽史８ ロマン派のオペラ フランス （高田正人）
7	ボディ・マッピング６ コアコンディショニング① 呼吸の支えコアを整える （長井芽乃）
8	ボディマッピング７ 日常生活での意識改革 （長井芽乃）
9	イタリア語ディクション&詩の解釈 5 イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽の融合 ダンテの詩による作品 (Flavio Parisi)
10	イタリア語ディクション&詩の解釈 6 イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽の融合 ペトラルカの詩による作品 (Flavio Parisi)
11	ボディ・マッピング８ コアコンディショニング② 動きの安定はコアと体軸 （長井芽乃）
12	イタリア語ディクション&詩の解釈　7 イタリア語の詩のつくり、歴史と音楽の融合の実践 (相田麻純、Flavio Parisi)
13	イタリア語ディクション&詩の解釈　8 まとめ (相田麻純、Flavio Parisi)
14	演奏会プログラミング 2 プログラムの作成 (塩田美奈子)
15	演奏会プログラミング 3 プログラムの実践 (塩田美奈子)

科目名	声楽基礎演習Ｉ－２　［金3］						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE235200	科目コード	GE2352	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	VO・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「声楽基礎演習I-1」を履修中、または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声楽家として必要な科目全般にわたっての基礎演習をするため、毎回の授業には必ず出席すること。
自分の将来を見つめて、声楽の専門分野、進路を決定するための重要な授業である。
　「声楽基礎演習Ｉ－１」も必ず履修すること。
　２年次に開講される「声楽基礎演習II－１」および「声楽基礎演習II－２」に継続していくこと。

２．授業概要

「声楽基礎演習Ｉ－１」とあわせて、年間６０コマの授業を、リズムソルフェージュ、新曲視唱、舞台表現法、ボディ・マッピング、ディクション（伊・独）、歌曲詩の解釈（伊・独）、レパートリー声楽史、のそれぞれの専門の教員が担当して、授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　授業は数回ごとに、内容が変化するので、それに対応できるように準備すること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、演習の内容習熟度を基準とするが、
各科目内で必要に応じて小テストを実施する場合がある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業のために必要な楽譜や資料は、譜読みなどの準備をして来られるように、事前に手配できるよう掲示するので、ポータルでの確認を忘れない事。その他、各授業担当教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは特にない。
リズムソルフェージュ、舞台表現法は動きやすい服装、靴など担当教員より指示がある。

授業計画	
	［前期］ 授業の進み方により曲目などの変更有
1	新曲視唱 1 コールユーブンゲンから視唱へ （塩田美奈子）
2	新曲視唱 2 譜読みと音取りの違い （塩田美奈子）
3	新曲視唱 3 ソルフェージュ力の強化 （塩田美奈子）
4	レパートリー声楽史 1 オペラの誕生～バロックオペラ （高田正人）
5	レパートリー声楽史 2 古典派のオペラ（モーツァルト） （高田正人）
6	舞台表現法 1 舞台上の立ち居振る舞い～舞台の決まり （境 信博）
7	舞台表現法 ２ 舞台上の立ち居振る舞い～表現するという事 （境 信博）
8	舞台表現法 ３ 音楽と動きの表現の融合 （境　信博）
9	舞台表現法 4 音楽と動きの表現の実践 （境 信博）
10	舞台表現法５ 正しい姿勢とウォーキング （平田有美）
11	舞台表現法 ６ 舞台表現とダンス （岩崎多賀子）
12	舞台表現法 7 復習～まとめ （境 信博）
13	舞台表現法８ 舞台メイク （佐藤亜希子）
14	舞台表現法 9 まとめ～発表 （塩田美奈子）
15	レパートリー声楽史4 ロマン派のオペラ イタリア① ヴェルディ （高田正人）

授業計画	
	［後期］ 授業の進み方により曲目などの変更有
1	レパートリー声楽史5 ロマン派のオペラ イタリア②プッチーニ （高田正人）
2	ドイツ語ディクション１ 母音の発音～ウムラウト・複母音 (飯田千夏、Klaus Rüger)
3	ドイツ語ディクション２ 子音の発音～単子音と複子音 (飯田千夏、Klaus Rüger)
4	ドイツ語ディクション３ ドイツ歌曲を教材にドイツ語による詩を朗読する ウェルナー 野ばら (飯田千夏、Klaus Rüger)
5	ドイツ語ディクション４ ドイツ歌曲を教材にドイツ語による詩を朗読する シューベルト 野ばら (飯田千夏、Klaus Rüger)
6	ドイツ語ディクション５ まとめ (飯田千夏、Klaus Rüger)
7	シアトリカルリーディング 1 戯曲の読み方 (塩田美奈子)
8	シアトリカルリーディング 2 オペラの原作を読む (塩田美奈子)
9	シアトリカルリーディング 3 原作とリブレットの考察 (塩田美奈子)
10	シアトリカルリーディング 4 まとめ (塩田美奈子)
11	イタリア歌曲演習 1 レガート唱法の考察 (相田麻純)
12	イタリア歌曲演習 2 アクセントとスタッカートのテクニック (相田麻純)
13	イタリア歌曲演習 3 アジリタの歌唱法 (相田麻純)
14	演奏会プログラミング 1 プログラムの作り方 (塩田美奈子)
15	まとめ レポート発表 (塩田美奈子、飯田千夏、佐藤亜希子)

科目名	声楽基礎演習II－１　[火3]						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE235300	科目コード	GE2353	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「声楽基礎演習I－２」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次での「声楽基礎演習I－１・I－２」で履修したことを基に、更に声楽コース必須科目全般にわたっての基礎演習をし、自分の将来、目標を見つめて、専門分野のスキル向上のための授業である。
「声楽基礎演習II－２」も必ず履修すること。

２．授業概要

「声楽基礎演習II－２」とあわせて、年間６０コマの授業を、レパートリー演習、オペラワークショップ、オペラ文化史、詩の解釈、ディクション(独・仏)、アクティング、シアトリカルリーディング、等、それぞれの専門の教員が担当する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は数回ごとに、内容が変化するので、それに対応できるように準備すること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、演習内容習熟度を基準に評価をするが、
それぞれの科目の中で必要に応じて、発表会・小テストなどを行う場合がある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業のために必要な楽譜や資料は、譜読みなどの準備をして来られるように、事前に手配できるよう掲示するので、ポータルでの確認を忘れない事。その他、各授業担当教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは特にない。
オペラワークショップ、アクティングは動きやすい服装、靴など担当教員より指示がある。

授業計画	
	前期 授業の進み方により曲目などの変更有
1	新曲視唱 1 楽譜の読み方～新曲視唱へのアプローチ (馬場由香)
2	新曲視唱 2 譜読みと音取りの違い (馬場由香)
3	新曲視唱 2 ソルフェージュ力の強化 (馬場由香)
4	シアトリカルリーディング 1 詩の朗読とは (大山大輔)
5	シアトリカルリーディング 2 朗読の発声法 (大山大輔)
6	シアトリカルリーディング 3 間についての考察 (大山大輔)
7	レパートリー演習 1 コレペティから見る歌唱 (服部容子)
8	レパートリー演習 2 イタリア語歌唱の発語について (服部容子)
9	レパートリー演習 3 イタリア語歌唱のドラマ (服部容子)
10	レパートリー演習 4 イタリア語歌唱のドラマと音楽の融合 (服部容子)
11	レパートリー演習 5 イタリア語歌唱のドラマと音楽の融合の実践 (服部容子)
12	オペラワークショップ1 音楽を体に翻訳するとは？ (田尾下 哲)
13	オペラワークショップ 3 モーツァルトのオペラ作品を解釈する (田尾下 哲)
14	オペラワークショップ 5 発表へ向けての仕上げ (田尾下 哲)
15	オペラワークショップ 7 まとめ 発表 (塩田美奈子)

授業計画	
	［後期］ 授業の進み方により曲目などの変更有
1	詩の解釈 ドイツ歌曲 1 ゲーテの詩による作品 朗読の確認と背景の考察 （馬場由香）
2	詩の解釈 ドイツ歌曲 2 ゲーテの詩による作品の朗読と歌唱 （馬場由香）
3	詩の解釈 ドイツ歌曲 3 ハイネの詩による作品 朗読と背景の考察 （馬場由香）
4	詩の解釈 ドイツ歌曲 4 ハイネの詩による作品の朗読と歌唱 （馬場由香）
5	詩の解釈 ドイツ歌曲 5 まとめ （馬場由香）
6	レパートリー演習 6 モーツァルトのオペラについて （服部容子）
7	レパートリー演習 7 モーツァルトのオペラのレチタティーヴォ・セッコを学ぶ （服部容子）
8	レパートリー演習 8 モーツァルトのオペラのレチタティーヴォ・セッコを歌う （服部容子）
9	アクティング１ 演技の“間” （北澤秀人）
10	アクティング 2 聞くことと話すこと （北澤秀人）
11	アクティング３ 俳優の創造的選択 （北澤秀人）
12	アクティング４ 俳優のリソースとトレーニング （北澤秀人）
13	演奏会プログラミング 2 プログラムの作成 （塩田美奈子）
14	演奏会プログラミング 4 プログラムの実践 （塩田美奈子）
15	演奏会プログラミング 6 発表 まとめ （塩田美奈子）

科目名	声楽基礎演習II－２　[火4]						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE235400	科目コード	GE2354	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「声楽基礎演習II－１」を履修中、または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次の「声楽基礎演習I－１・I－２」で履修したことを基に、更に声楽全般にわたっての基礎演習をし、
自分の将来、目標を見つめて専門分野のスキルアップのための授業である。
「声楽基礎演習II－１」も必ず履修すること。

２．授業概要

「声楽基礎演習II－１」とあわせて、年間６０コマの授業を、レパートリー演習、オペラワークショップ、オペラ文化史、詩の解釈、ディクション(独・仏)、アクティング、シアトリカルリーディング、等、それぞれの専門の教員が担当する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業は数回ごとに、内容が変化するので、それに対応できるように準備すること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、演習内容の習熟度を基準とするが、
各科目内で必要に応じて小テストを行う場合がある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業のために必要な楽譜や資料は、譜読みなどの準備をして来られるように、事前に手配できるよう掲示するので、ポータルでの確認を忘れない事。その他、各授業担当教員より指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは特にない。
オペラワークショップ、アクティングは動きやすい服装、靴など担当教員より指示がある。

授業計画	
	前期 授業の進み方により曲目など変更有
1	ドイツ語ディクション 1 ドイツ歌曲演奏のための発音法を学ぶ ドイツ語特有の発音と発語の練習（1年次基礎演習の振り返り） (飯田千夏、Klaus Rüger)
2	ドイツ語ディクション　2 ゲーテの詩Das Veilchenを詠む 注意すべき単語の発音練習 (飯田千夏、Klaus Rüger)
3	ドイツ語ディクション 3 ゲーテの詩Das Veilchenを詠む 詩の内容の把握、及び、内容を踏まえた詩の朗読 (飯田千夏、Klaus Rüger)
4	ドイツ語ディクション 4 ゲーテの詩Wandrers Nachtliedを詠む 注意すべき単語の発音練習 (飯田千夏、Klaus Rüger)
5	ドイツ語ディクション 5 ゲーテの詩Wandrers Nachtliedを詠む 詩の内容の把握、及び、内容を踏まえた詩の朗読 (飯田千夏、Klaus Rüger)
6	ドイツ語ディクション 6 ゲーテの詩による歌曲を歌う～復習 F.シューベルトWandrers Nachtlied / W.A.モーツァルトDas Veilchen (飯田千夏、Klaus Rüger)
7	オペラ文化史 1 オペラとその歴史背景にあるもの (高田正人)
8	ドイツ語ディクション 7 ドイツ歌曲演奏のための発音法を学ぶ まとめ (飯田千夏、Klaus Rüger))
9	オペラ文化史 2 オペラの中の貴族 (高田正人)
10	オペラ文化史 3 階級社会について (高田正人)
11	オペラ文化史 4 オペラに登場するグリゼット達 (高田正人)
12	オペラワークショップ　2 物語を物語る身体とは？ (田尾下 哲)
13	オペラワークショップ　4 実際に曲に取り組む (田尾下 哲)
14	オペラワークショップ　6 復習 まとめ (田尾下 哲)
15	前期まとめ～レポート発表 (塩田美奈子、飯田千夏、佐藤亜希子)

授業計画	
	［後期］ 授業の進み方により曲目など変更有
1	フランス語ディクション 1 フランス語 音の基本 （小川浩美）
2	フランス語ディクション 2 フランス語の音の基本と演習 （小川浩美）
3	フランス語ディクション 3 発音記号による正確な読み方 （小川浩美）
4	フランス語ディクション 4 アクセントとリズムのフレーズを読む （小川浩美）
5	フランス語ディクション 5 アクセントと抑揚のニュアンス （小川浩美）
6	オペラ文化史 5 ボヘミアンの位置 （高田正人）
7	オペラ文化史 6 まとめ （高田正人）
8	シアトリカルリーディング 4 戯曲へのアプローチ （大山大輔）
9	シアトリカルリーディング 5 戯曲へのアプローチの実践 （大山大輔）
10	シアトリカルリーディング 6 朗読の発表 （大山大輔）
11	シアトリカルリーディング 7 オペラの原作を読む （塩田美奈子）
12	演奏会プログラミング 1 プログラムの作り方 （塩田美奈子）
13	演奏会プログラミング 3 プログラムの作成の考察 （塩田美奈子）
14	演奏会プログラミング 5 プログラムの印刷の仕方 （塩田美奈子）
15	まとめ レポート発表 （塩田美奈子、飯田千夏、佐藤亜希子）

科目名	イタリア歌曲研究１　[火5]						
代表教員	相田　麻純	授業コード	GE235600	科目コード	GE2356	期間	通年
担当教員	立石　智子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ベル・カント時代を代表する作曲家であるロッシーニ・ベッリーニ・ドニゼッティの歌曲作品を学ぶことで、この時代の演奏様式を知り、楽曲における歌唱法を探求していく。

また、言葉を音楽に乗せるという、他の楽器には無い声楽の利点を重視し、イタリア語の意味を理解した上で楽譜から様々なことが読み取れるようになることを到達目標とする。

２．授業概要

日本では外国歌曲というと、イタリア古典歌曲が最も多く歌われている。入門ともいえるこれらの歌曲は音楽大学の受験などに必要となり、声楽を学ぶ上では馴染みがある。この古典歌曲からの流れを汲んだ上で、さらに音楽面で高い水準に引き上げたのが、ロッシーニ・ベッリーニ・ドニゼッティの３人の歌曲作品である。

ベル・カント時代において活躍し、オペラの作曲においても秀でていた３人は歌曲においてもその才能を発揮している。彼らの作曲における特色と歌唱法を知り、それらの歌曲を実際に歌唱することを通じて楽曲への理解を深めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当することになった曲への理解を深め、各学期末の試験に向けて歌唱研究しておくこと。

前期は資料を配布する形を取るが、後期においては学生自身がイタリア語の単語の意味調べや楽曲研究したことを発表する時間を設けるため、あらかじめ担当教員にまとめた資料を提出すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点及び授業への参加姿勢（評価の50%）
授業内の演奏（評価の15%）
授業内の提出物（評価の15%）
学期末試験（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で取り上げる曲の楽譜は、担当学生が授業開始前にコピーをしておくこと。

主に使用する楽譜：
ロッシーニ歌曲集　岡村喬夫編（全音楽譜出版社）
ベッリーニ歌曲集　岡村喬夫編（全音楽譜出版社）
ドニゼッティ歌曲集　　岡村喬夫編（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

積極的に考え、積極的に取り入れ、貴重な歌唱研究の場にして欲しいと考える。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 授業の進め方等を説明
2	ベル・カント時代の演奏様式とイタリア語における言葉のさばき方の学習
3	ロッシーニ作品における特色・歌唱法を学ぶ ロッシーニの歌曲「La promessa」の解釈と演奏研究
4	ベッリーニ作品における特色・歌唱法を学ぶ ベッリーニの歌曲「Vaga luna, che inargenti」の解釈と演奏研究
5	ドニゼッティ作品における特色・歌唱法を学ぶ ドニゼッティの歌曲「Eterno amore e fè」の解釈と演奏研究
6	ロッシーニの歌曲「Il rimprovero」の解釈と演奏研究
7	ロッシーニの歌曲「L'invito」の解釈と演奏研究
8	ベッリーニの歌曲「Il fervido desiderio」の解釈と演奏研究
9	ベッリーニの歌曲「Dolente immagine di Fille mia」の解釈と演奏研究
10	ドニゼッティの歌曲「Il sospiro」の解釈と演奏研究
11	ドニゼッティの歌曲「Una lacrima」の解釈と演奏研究
12	ロッシーニ作品におけるまとめ 前期実技試験に向けての伴奏合わせ
13	ベッリーニ作品におけるまとめ 前期実技試験に向けての伴奏合わせ
14	ドニゼッティ作品におけるまとめ 前期実技試験に向けての伴奏合わせ
15	授業内前期実技試験

授業計画	
	［後期］
1	ロッシーニの歌曲「La partenza」の解釈と演奏研究
2	ロッシーニの歌曲「La pastorella delle Alpi」の解釈と演奏研究
3	ロッシーニの歌曲「La danza」の解釈と演奏研究
4	ベッリーニの歌曲「Malinconia, Ninfa gentile」の解釈と演奏研究
5	ベッリーニの歌曲「Almen se non poss'io」の解釈と演奏研究
6	ベッリーニの歌曲「Per pietà, bell'idol mio」の解釈と演奏研究
7	ベッリーニの歌曲「Ma rendi pur contento」の解釈と演奏研究
8	ドニゼッティの歌曲「Me voglio fa ' na casa」の解釈と演奏研究
9	ドニゼッティの歌曲「Il barcaiolo」の解釈と演奏研究
10	ドニゼッティの歌曲「La zingara」の解釈と演奏研究
11	ロッシーニ作品におけるまとめ 後期実技試験に向けての伴奏合わせ
12	ベッリーニ作品におけるまとめ 後期実技試験に向けての伴奏合わせ
13	ドニゼッティ作品におけるまとめ 後期実技試験に向けての伴奏合わせ
14	授業内後期実技試験
15	ロッシーニの重唱歌曲「Duetto buffo di due gatti」の解釈と演奏研究 歌曲の祭典に向けての伴奏合わせ

科目名	イタリア歌曲研究２　[火5]						
代表教員	髙田　正人	授業コード	GE235700	科目コード	GE2357	期間	通年
担当教員	谷川　明						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

イタリア近代の歌曲に親しみ、レパートリーの拡充を図る。
歌曲を通してイタリア語の持つリズムやディクション、発音を習得する。
またイタリアの文化にも触れ生きたイタリア語を学び、
オペラを目指す者にとっても助けとなるような、イタリア語の表現を学ぶ。

２．授業概要

作曲家ごとの特徴や歴史的な背景を掘り下げつつ、その作品に触れる。
イタリア語の詩を読み、解釈をした上で、代表の者が歌い、皆で鑑賞しつつ作品の理解を深める。
少なくとも半期に1曲はすべての履修生がソロで歌うものとする。
扱う作曲家は以下の通り
F. Tosti, P. Mascagni, R. Leoncavallo, G. Puccini, P. Cimara, O. Respighi
E. Wolf-Ferrari, I. Pizzetti, R. Zandonai, F. Maripeiro, A. Casella
L. Dallapiccola, L. Arditi, L. Denza, F. Santoliquido, N. Rota 他

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で歌う曲についての譜読み、歌詞の意味調べをしっかりと行い授業に臨む。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０％）
授業内及びコンサートでの歌唱発表（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜はその都度こちらで用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 授業の進め方等を説明 その後、自分が担当する曲の選曲
2	P. Mascagniの歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 アヴェ・マリア　花占い　他
3	G. Puccini の歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、歌唱 太陽と愛　他
4	R. Leoncavallo の歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、歌唱 マッティナータ　他
5	P. Cimaraの歌曲(1) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、歌唱 Nostalgia他
6	P. Cimaraの歌曲(2) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、歌唱 Stornello 他
7	O. Respighiの歌曲(1) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、歌唱 舞踏への誘い 他
8	O. Respighi の歌曲(2) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、歌唱 最後の陶酔 バッラータ　他
9	O. Respighi の歌曲(3) 詩の朗読、解釈、歌唱 とても美しい人 他
10	E. Wolf-Ferrari(1) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 4つのリスペッティ　他
11	E. Wolf-Ferrari(2) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 夜ごと夢にあらわれる　他
12	E. Wolf-Ferrari(3) 詩の朗読、解釈、歌唱 貴方が通りかかると腹が立つ、道行く若者よ　他
13	R. Zandonai (1) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 みみずく　他
14	R. Zandonai(2) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 冬の幻、神秘　他
15	授業内ミニコンサート 前期に扱った曲を担当履修学生が歌う。

授業計画	
	［後期］
1	後期で扱う曲のガイダンス及び選曲 20世紀のイタリア歌曲の解説 アダ・ネグリ、ダンヌンツィオといった詩人のレクチャー
2	A. Casellaの歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 14世紀の3つの歌より 美しい娘よ、わが心の光よ 美しい鳥かごから
3	I. Pizzettiの歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 牧人たち　他
4	F. Maripieroの歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義・様式等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 ヤコポーネ・ダ・トーディとの対話　他
5	L. Dallapiccolaの歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義、様式等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 5つの抒情詩　他
6	L. Arditi の歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義、様式等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 口づけ　他
7	L. Denzaの歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 妖精の瞳　他
8	F. Santliquidoの歌曲(1) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 みみずくが歌っている　他
9	F. Santliquidoの歌曲(2) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 夕暮れの悲しみ　他
10	N. Lotaの歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 　他
11	S. Gastaldon/ D. Curtis の歌曲 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 禁じられた音楽、忘れな草　他
12	F. Tosti の歌曲(20世紀のものに限る) 作曲家の生い立ち、歴史的意義等のレクチャー 詩の朗読、解釈、歌唱 暁は光から　最後の歌　他
13	自薦によるイタリア近代歌曲(1) 学生自らが選んだ歌曲を歌う オペラ作曲家のものを中心に
14	自薦によるイタリア近代歌曲(2) 学生自らが選んだ歌曲を歌う 20世紀のものを中心に。多少カンツォーネによったものでも良しとする。
15	授業内ミニコンサート 後期の曲をすべて演奏する

科目名	ドイツ歌曲研究１　［水4］						
代表教員	飯田　千夏	授業コード	GE235800	科目コード	GE2358	期間	通年
担当教員	石田　多紀乃						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツ語の発音技法を習得し、詩と音楽が融合された美しい芸術歌曲を学ぶ。
ドイツ歌曲を通して、表現をより確かなものにするために必要なメソッドや技術を身につけていく。また、演奏と経験の積み重ねを通して、歌の技術の向上と演奏に対する意識も高めていく。

２．授業概要

■前期：モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲を演習。歌唱におけるドイツ語の発音に慣れるとともに、詩の内容を理解し、その詩の解釈をどのように演奏すべきかを研究していく。また、ドイツ歌曲が、歌とピアノのアンサンブルであるということを、演奏を通して体験していく。
■後期：前期演習曲以外のモーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲を演習。尚、演習する曲については、履修者の趣向と声質、進度に応じて適宜与えていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習として、授業で取り組む曲の譜読み、テキストの内容、対訳等を調べておくこと。また、授業内に習得した発音や歌唱法等を繰り返し練習し、試演会で充実した演奏ができるよう復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点および授業への参加姿勢（評価の７０％）
授業内の発表および試演会の演奏（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜：授業内で指示、または配布。
参考文献：ドイツ・リート名詩百選（佐々木庸一訳編・音楽之友社）／ドイツの詩と音楽（荒井秀直著・音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ドイツ歌曲に興味がある学生はもちろんのこと、ドイツ語、ドイツ歌曲がはじめてという学生の方も、授業を通して発音および、詩の解釈、表現法を学んで、自身の演奏に役立ててください。

授業計画	
	W.A.モーツァルト/F.シューベルト/R.シューマン/J.ブラームス
1	春を歌う・ヨーロッパの春 W.A.モーツァルト：Sehnsucht nach dem Frühlinge（オーヴァーベック）
2	F.シューベルト初期作品 Das Rosenband（クロプシュトック）
3	F.シューベルト初期作品 An die Musik（ショーバー）
4	F.シューベルト中期作品 Frühlingsglaube（ウーラント）
5	F.シューベルト後期作品 Lied der Mignon(ゲーテ)
6	歌とピアノのアンサンブル・変形した有節歌曲 F.シューベルト：Die Forelle（シューバルト）
7	歌とピアノのアンサンブル・通作歌曲 W.A.モーツァルト：Das Veilchen（ゲーテ）
8	R.シューマン 歌曲集「ミルテの花」より Die Lotosblume（ハイネ）
9	R.シューマン 歌曲集「子供のための歌のアルバム」より Schneeglöckchen（リュッケルト） 他
10	前期の復習① W.A.モーツァルト/ F.シューベルト
11	前期の復習② F.シューベルト/ R.シューマン
12	前期の復習③ W.A.モーツァルト/ F.シューベルト/ R.シューマン
13	前期のまとめ 試演会
14	曲に相応しいテンポを考える J.ブラームス/ F.シューベルト：Wiegenlied
15	後期演習曲の選曲

授業計画	
	W.A.モーツァルト/F.シューベルト/R.シューマン/J.ブラームス
1	W.A.モーツァルト An Chloe（ヤコービ） 他
2	F.シューベルト Lachen und Weinen（リュッケルト） 他
3	R.シューマン 歌曲集「子供のための歌のアルバム」より Er ist's（メーリケ） 他
4	R.シューマン 歌曲集「ミルテの花」より Widmung（リュッケルト） 他
5	J.ブラームスと民謡 「子供の民謡」「ドイツ民謡集」より
6	F.シューベルトのセレナーデを歌う 歌曲集「白鳥の歌」より Ständchen（レルシュタープ）
7	J.ブラームスのセレナーデを歌う Vergebliches Ständchen（ツッカルマリオ）
8	R.シューマン 連作歌曲集 「女の愛と生涯」（シャミッソー）より Seit ich ihn gesehen 他
9	R.シューマン 連作歌曲集 「詩人の恋」（ハイネ）より Im wunderschönen Monat Mai 他
10	後期の復習① W.A.モーツァルト
11	後期の復習② F.シューベルト
12	後期の復習③ R.シューマン
13	後期の復習④ J.ブラームス
14	後期のまとめ 試演会
15	合わせ（歌曲の祭典）

科目名	ドイツ歌曲研究２　［火4］						
代表教員	馬場　由香	授業コード	GE235900	科目コード	GE2359	期間	通年
担当教員	西川　麻里子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツ歌曲の主要作品における詩と音楽とのかかわりを楽譜の解釈等を踏まえ、実際に歌いながらコミュニケーションを図ることで表現を向上させる。

２．授業概要

授業は以下の３点に重点を置いて進める。
①ドイツ語の発音を再確認し、詩の朗読をする。
②詩に含まれる音楽的諸要素を鑑み歌唱する。
③個人及びグループで歌唱発表し合いコミュニケーションを図る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での楽曲を個人練習(発音・音楽的表現など)

４．成績評価の方法及び基準

授業・演奏会への参加姿勢　５０％
授業内試験（前期・後期）　５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示、また配布する。
参考文献 ：「ドイツの詩と音楽 」荒井秀直著 音楽之友社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽曲と詩の対話をよく理解し歌唱表現を研究する。

授業計画	
	［前期］ 　モーツァルト、シューマン、歌曲作品を中心に演奏研究をする。 授業の進度により曲目変更あり。
1	ガイダンス。ドイツ語の発音の再確認。
2	モーツァルトの歌曲 Das Veilchenの発音と演習 モーツァルトの歌曲 Der Zauererの発音
3	モーツァルトの歌曲 Der Zauererの発音の確認・演習
4	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より In der Fremde 発音・演習
5	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Intermezzo 発音・演習
6	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Waldesgespräch 発音・演習
7	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Die Stille 発音・演習
8	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Mondnacht 発音・演習
9	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Schöne Fremde 発音・演習
10	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より In der Fremde 発音・演習
11	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Wehmut 発音・演習
12	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Im Walde 発音・演習
13	シューマンの歌曲 「Liederkreis op.39」より Frühlingsnacht 発音・演習
14	前期のまとめ
15	研究発表(前期試演会)

授業計画	
	［後期］ 　ブラームス、マーラー、シュトラウスの歌曲作品を中心に演奏研究をする。 授業の進度により曲目変更あり。
1	ブラームスの歌曲 Vergebliches Ständchen 発音
2	ブラームスの歌曲 Vergebliches Ständchen 発音の確認・演習
3	ブラームスの歌曲 Die Mainacht 発音
4	ブラームスの歌曲 Die Mainacht 発音の確認・演習
5	マーラーの歌曲 Ablösung im Sommer 発音・演習
6	マーラーの歌曲 Frühlingsmorgen 発音・演習
7	マーラーの歌曲 Wer hat dies Liedlein erdacht ? 発音・演習
8	マーラーの歌曲 Starke Einbildungskraft 発音・演習
9	シュトラウスの歌曲 Nacht 発音・演習
10	シュトラウスの歌曲 Allerseelen 発音・演習
11	シュトラウスの歌曲 Das Rosenband 発音・演習
12	シュトラウスの歌曲 Zueignung 発音・演習
13	後期のまとめ
14	全体のまとめ
15	研究発表(後期試演会)

科目名	フランス歌曲研究１　［水4］						
代表教員	寺島　夕紗子	授業コード	GE236000	科目コード	GE2360	期間	通年
担当教員	服部　真由子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フランス語は読みにくいというイメージが強く、近寄りがたいと思われやすいフランス歌曲（メロディー）ですが、“難しい”という先入観で敬遠せず、実際のメロディーや詩の美しさを実感して、フランス歌曲を身近に感じられるように、その上で必要な基本的な発音や読み方、フレージングなどを研究し、一人一人が自主的に気楽に、自主的にフランス歌曲と向かい合えるようになることを目指しましょう。

２．授業概要

入門クラスとして発音記号を使わずにフランス語を読みながら、フランス歌曲独特の美しいメロディーにふれていく。
初年度の研究１では、フランス歌曲（mélodie）を確立したベルリオーズ、グノーから、フォーレの初期の作品までをあつかう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

円滑に授業を進めるため、教材で取り上げる歌曲についての譜読みを各授業後に予習・復習すること。
（授業内ではできるだけ細かく発音や、フランス語のニュアンスについて実習したいため）

４．成績評価の方法及び基準

平常点、授業への参加姿勢（評価の70%）
年度末の授業内発表会（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な際は指示、あるいは配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

フランス語が読めなくても問題ありません。
むしろ、読めないからこそ履修してください。
この講座の一番の目的は、１月までに、フランス歌曲を自分から歌いたいと思えるようになることです。
フランス歌曲入門編として開設していますから、フランス歌曲を知らない学生がどんどん履修してくれるのを待っています！！

授業計画	
	［前期］
1	はじめましてフランス歌曲～フランス語は怖くない！
2	歌曲演習　フォーレ
3	歌曲演習　フォーレ続き～大切なのは繰り返し！
4	フランス語の発音～美しい詩にふれてみよう
5	歌曲演習グノー
6	フランス語の発音～リエゾンの妙
7	歌曲演習　ベルリオーズ
8	これまでの発音復習　規則を少しずつ覚えよう
9	フランス語の発音～身近なところにフランス語
10	歌曲演習　サン=サーンス
11	フランス語の発音～5拍子の中のフランス語
12	歌曲演習 ショーソン
13	フランス語の発音～フランス語でハモりましょう！
14	歌曲演習 二重唱
15	前期まとめ

授業計画	
	［後期］
1	フランス語の発音～有名なオペラのあの作曲家も！
2	歌曲演習　ビゼー
3	フランス語の発音～サロンの音楽って？
4	歌曲演習　シャブリエ
5	フランス語の発音～行間までおしゃれな詩
6	歌曲演習　グノー
7	これまでの発音復習　そろそろふりがなは卒業！
8	フランス語の発音～まだまだ名曲はたくさん！
9	歌曲演習　ドリーブ
10	歌曲演習　デュパルク
11	フランス語の発音～無音のeにもすっかり慣れました
12	歌曲演習　ひと足早いクリスマスを歌おう！
13	後期のまとめ 歌曲の祭典および授業内発表会の選曲
14	授業内発表会準備 歌曲の祭典準備
15	授業内発表会 1年のまとめ～Au revoir!

科目名	フランス歌曲研究２　［水4］						
代表教員	神谷　明美	授業コード	GE236100	科目コード	GE2361	期間	通年
担当教員	林　順子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フランス歌曲を演奏するための基本的なフランス語の発音を繰り返し演習し、演奏の向上を目指す。
多くのフランス歌曲の作品に触れ、音楽と詩の観点から作品を研究する。
履修学生の声や感性に合う作品を見出し、プログラムを考え演奏できるようにしましょう。

２．授業概要

フランス語特有の発音を学び、繰り返し練習をして習得する。
フォーレ中期以降から印象派、そして近現代の時代により作風が違う面など様々な作品に触れ、演奏できるように探求する。
フランス語文法の初歩に触れ、詩の解釈につながる学習を行う。
作曲者や詩人について、人物像や時代背景など探求する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

まずは、予習として持ち曲の読譜は各自が行って下さい。
復習は、授業内で発音練習した事や、歌唱方法を繰り返し練習して下さい。
授業の始めに、前回の曲の発音復習を行います。
楽譜は授業時に配りますが対訳は用意しませんので、各自調べて下さい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
前期末と後期末の演奏・試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示します。
参考図書
『フランス歌曲の演奏と解釈』　ピエール・ベルナック著／林田きみ子訳（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

フランス語の知識がなくても、履修は可能です。
授業内で発音練習と同時に言葉(詩)について精読します。
必要なフランス語文法は、授業内で学習します。

授業計画	
	［前期］ フォーレ、アーン、ドビュッシーによる印象派の作品の演奏と研究
1	フランス語の発音を母音と子音と細分化して練習する（発音記号表を配布） フランス語特有の母音を中心に、歌唱時の発音・発声について演習を行う (鼻母音を中心に実施)
2	フランス語の綴り、読み方を学習する (鼻母音、複合母音) フランス語文法の初歩を学習する (冠詞、êtreとavoirの動詞) フォーレ「En prière 祈りながら」の発音練習と歌唱演習
3	フォーレ「En prière 祈りながら」の発音復習、歌唱演習 フォーレ「Nell ネル」の発音練習 フランス語文法、動詞の活用の基本形を学習する
4	フォーレ「Nell ネル」発音復習、歌唱演習 フォーレ「Les roses d'Ispahan イスパアンの薔薇」の発音練習 フランス語の形容詞について (beauとbelleなど、形を変える単語)
5	フォーレ「Les roses d'Ispahan イスパアンの薔薇」の発音復習、歌唱演習 アーン「Si mes vers avaient des ailes 私の詩に翼があったなら」の発音練習
6	アーン「Si mes vers avaient des ailes 私の詩に翼があったなら」の発音復習、歌唱演習 アーン「D'une prison 牢獄にて」の発音練習 詩人ヴェルレーヌの作品を探求する
7	アーン「D'une prison 牢獄にて」の発音復習、歌唱演習 フォーレの同一詩による「Prison 牢獄」との比較研究 アーン「A Chloris クロリスに」の発音練習
8	アーン「A Chloris クロリスに」の発音復習、歌唱演習 フォーレ「Mandoline マンドリン」の発音練習
9	フォーレ「Mandoline マンドリン」の発音復習、歌唱演習 同時に、同一詩によるアーン「Fêtes galantes 雅やかな宴」とドビュッシー「Mandoline マンドリン」の歌唱演習。
10	アーン「Fêtes galantes 雅やかな宴」及びドビュッシー「Mandoline マンドリン」の発音復習、歌唱演習 ドビュッシー「Beau soir 美しき夕べ」の発音練習
11	ドビュッシー「Beau soir 美しき夕べ」の発音復習、歌唱演習 前期の復習(フォーレの作品) 作曲家研究(フォーレについて)
12	前期の復習(アーンの作品) 作曲家研究(アーンについて) 個人の歌唱チェック
13	前期の復習(ドビュッシーの作品) 作曲家研究(ドビュッシーについて) 個人の歌唱チェック
14	前期のまとめ 個人の歌唱チェック
15	前期総まとめ（前期に勉強した曲の演奏）

授業計画	
	［後期］ フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、サティ、プーランクの印象派や近代歌曲の作品の演奏と研究
1	フランス語の発音復習(発音記号を用いて) ドビュッシー「Nuit d'étoiles 星の夜」の発音練習と歌唱演習
2	ドビュッシー「Nuit d'étoiles 星の夜」の発音復習、歌唱演習 ドビュッシー「Romance ロマンス」の発音練習
3	ドビュッシー「Romance ロマンス」の発音復習、歌唱演習 フォーレ「Clair de lune 月の光」の発音練習
4	フォーレ「Clair de lune 月の光」の発音復習、歌唱演習 ドビュッシー「Clair de lune 月の光」と比較研究、歌唱演習
5	フォーレ「Automne 秋」の発音復習、歌唱演習 ラヴェル「５つのギリシャ民謡」１、２の発音練習
6	ラヴェル「５つのギリシャ民謡」１、２の発音復習、歌唱演習 ラヴェル「５つのギリシャ民謡」３、４、５の発音練習
7	ラヴェル「５つのギリシャ民謡」３、４、５の発音復習、歌唱演習 サティ「Je te veux あなたが欲しい」発音練習、歌唱演習
8	プーランク「Hôtel ホテル」の発音練習、歌唱演習 プーランク「Voyage à Paris パリへの旅」の発音練習、歌唱練習 プーランク「Les chemins de l'amour 愛の小径」の発音練習
9	プーランク「Les chemins de l'amour 愛の小径」の発音復習と歌唱演習 プーランク「Reines des mouettes かもめの女王」発音練習
10	プーランク「Reines des mouettes かもめの女王」の発音復習と歌唱演習 プーランク「C'est ainsi que tu es お前はこんな風」の発音練習 プーランク「C セー」の発音練習
11	プーランク「C'est ainsi que tu es お前はこんな風」の発音復習、歌唱演習 プーランク「C セー」発音復習、歌唱演習
12	後期の復習(フォーレ、ドビュッシーの作品) 個人の歌唱チェック
13	後期の復習（ラヴェル、プーランクの作品） 作曲家研究(ラヴェル、プーランク) 個人の歌唱チェック
14	後期のまとめ 個人の歌唱チェック
15	後期の総まとめ（後期に勉強した曲の演奏）

科目名	日本歌曲研究１　［水2］						
代表教員	二見　忍	授業コード	GE236200	科目コード	GE2362	期間	通年
担当教員	皆川　純一						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

伝統的なクラシックの声楽唱法をもって日本語で創り上げられた歌曲を、日本人としていかに捉え、演奏してゆくかを考え、実践に結びつける事を学ぶ。日本語を美しく歌い、日本語の詩のもつ情緒をいかに表現するかを実践を通して体得する。

２．授業概要

美しく、はっきりした日本語の発音の技術と日本歌曲の情緒の表現法を身につけるべく初期の作品から勉強する。授業のテーマとして扱う作品と、個人の自由な選曲による作品と平行して演習できたら良いと考えている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習は、指示された各回授業テーマの作曲家の作品を演奏出来る様に準備して授業に臨む事。作曲家について及びその曲の成り立ち、背景まで調べ授業に臨む事を希望する。

復習として授業内容を考え演奏をくり返し自分で納得のゆく所まで歌う事が望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業での探求的態度（評価の５０％）
演奏試験（評価の２５％）
平常授業内での演奏（評価の２５％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

日本歌曲作品を授業の際、指定する。
参考文献：授業の中で指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日本人の声楽家として、日本の言葉で創り上げられた作品を、自信と愛着をもって演奏する様（できる様）になって欲しいと願います。

授業計画	
	［前期］ （注）下記曲目は変更する場合がある。
1	ガイダンス。各回、詩（時代背景等含む）音楽解釈、譜の発音、表現法、発声について実習しながら理解を深めてゆく。 第一回は履修者全員にそれぞれ好きな歌を演奏してもらう
2	日本歌曲の成り立ち。瀧廉太郎作品を実習する。
3	瀧廉太郎の歌曲 春の歌
4	瀧廉太郎の歌曲　秋の歌 ，小松耕輔の歌曲
5	中山晋平、山田耕作の歌曲
6	山田耕筰の歌曲「かやの木山の」を中心に
7	山田耕筰の歌曲「この道」を中心に
8	山田耕筰の歌曲「からたちの花」を中心に
9	山田耕筰の歌曲「待ちぼうけ」を中心に
10	山田耕筰の歌曲「野薔薇」を中心に
11	成田為三の歌曲
12	大中寅二の歌曲
13	夏の歌
14	唱歌（前期楽曲）
15	日本歌曲創成期のまとめ

授業計画	
	［後期］ （注）下記曲目は変更する場合がある。
1	前期の復習と秋の歌
2	信時潔の歌曲
3	平井康三郎の歌曲「平城山」を中心に
4	平井康三郎の歌曲「日本の笛」を中心に
5	越谷達之助の歌曲
6	中田喜直の歌曲「むこう　むこう」を中心に
7	中田喜直の歌曲「風の子供」を中心に
8	中田喜直の歌曲「たあんきぽーんき」を中心に
9	中田喜直の歌曲「さくら横ちょう」を中心に
10	團伊久磨の歌曲「花の街」を中心に
11	團伊久磨の歌曲「秋の野」を中心に
12	團伊久磨の歌曲「ひぐらし」を中心に
13	唱歌（後期楽曲）
14	演奏試験・まとめ
15	１年間のまとめ

科目名	日本歌曲研究２　［火3］						
代表教員	沢崎　恵美	授業コード	GE236300	科目コード	GE2363	期間	通年
担当教員	齊藤　香織						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在まで、数多くの作曲家が、日本の音楽芸術の一側面をなす日本歌曲を作り続け、その作品は日本の詩人による詩に作曲されたものが大部分であり、詩と音楽の芸術性の高さが相俟って、その数は厖大な数に上る。
そこで、演奏する側も、言葉の意味、詩の解釈、演奏法（唱法）等を確立していく必要が求められている。

２．授業概要

この授業では、学生各自の演奏を通して、日本語唱法の研究をしていく。
また、声楽コース主催の「歌曲の祭典」に出演すべく準備をしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

初回授業で決定した、各自演奏研究する曲、チクルス（歌曲集）の作曲家、作詞家、作品の内容等を調べ、発表（提出）、また演奏できるように準備すること。

演奏曲の楽譜は用意してくること。
（こちらで配布するものもあります。）

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の40%）
授業への出席・参加姿勢・態度（評価の60%）課題レポート提出物等も含む。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『解説付き 日本歌曲選集』第１巻、第２巻　第3巻
　大賀寛 監修（全音出版社）

購入でなくても構いません。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出席が3分の2以下の場合、単位取得資格を失います。

母語である日本語を美しく表現できる演奏家となるため、授業には積極的に参加し、演奏、発表、発言、研究。

★初回授業で歌唱する曲を一曲用意してくる。
（教師、伴奏者用の楽譜を用意してきてください。）

授業計画	
	［前期］ 各回の順番の入れ替わり（内容が変更）の場合がある
1	ガイダンス 日本語の概要 各自、年間を通して演奏研究していく曲の選定
2	日本語の特色 歌唱時に注意すべき日本語の特徴
3	歌唱時における日本語の扱い方 各自の演奏を通して、歌唱法の研究
4	明治、大正、昭和の作品を中心に
5	瀧廉太郎　荒城の月など
6	山田耕筰　からたちの花　赤とんぼなど
7	山田耕筰　砂山　曼珠沙華 など
8	信時潔　北秋の　行々子　中山晋平　砂山など
9	橋本國彦　お菓子と娘　城ケ島の雨　など
10	成田為三　浜辺の歌 弘田瀧太郎　叱られてなど
11	各自の演奏を通して、歌唱法の研究
12	團 伊玖磨　「わがうた」より
13	高田三郎　「パリ旅情」より
14	前期のまとめ
15	各自の演奏研究の発表

授業計画	
	［後期］ 各回の順番の入れ替わり（内容が変更）の場合がある
1	前期の復習 歌唱時における日本語の特徴
2	近代・現代作品を中心に各自の演奏を通して、歌唱法の研究
3	別宮貞雄　　さくら横ちょうなど
4	平井康三郎　　うぬぼれ鏡越谷達之助　初恋　　諸井三郎 少年など
5	林光の作品より
6	中田喜直の作品より
7	中田喜直 「ほしとたんぽぽ」より 歌曲の祭典に向けて、または試験に向けての選曲
8	大中恩　小林秀雄の作品より
9	湯山 昭 の作品より
10	木下牧子の作品より
11	歌曲の祭典と試験、発表に向け各自準備、演奏
12	各自の演奏を通して歌唱法の研究
13	各自の演奏を通して歌唱法の研究　仕上げ
14	日本歌曲唱法のまとめ1
15	日本歌曲唱法のまとめ2 発表 。歌曲の祭典準備。

科目名	ミュージカルⅠ－１　（前）［金1］						
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	GE240600	科目コード	GE2406	期間	半期
担当教員	ダイアナ　ボール　石山、星野　苗緒						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【概論・演技・ダンス】担当：ダイアナ・ボール・マリー・石山
　ミュージカルは、オペラ、オペレッタ、バレエなどと同様日本でも一般的になりつつある舞台芸術です。とてもわかり易く、良質の作品はアーティスティックな部分とエンターテイメントの部分のバランスが程よく取れている。授業で取り上げるブロードウェイやロンドン産のミュージカル作品群も、その要素を満たしているものが多いと言えよう。
　学生は「演じる側」に立ちたいと考えている者が多いと思うがこの授業は誰でも参加自由である。しかしながらわたしは、舞台に立つ人が忘れてはならないこととして、エナジーとメッセージを持つことと共に「上品さ」を挙げる。授業では先ず体をほぐし、姿勢の矯正、無駄やブレのない合理的な動き、筋肉や関節の使い方を身につけて欲しい。動きに慣れたら少しずつダンスのテクニックを入れ、ミュージカルの音楽に合わせて優雅に表現していく。ここで得るものはそれぞれの学業分野で、また日常生活において、そして将来に渡り役立つものと思う。もちろんプロの舞台人を目指す方も歓迎する。ちなみにわたしは日本語をある程度喋ることができるので、怖がらずに受講して欲しい。Let's study and enjoy Musical Theater！
【ヴォーカル】担当：三橋千鶴
より美しく響きのある音色を求めて、基本的な発声法・呼吸法を楽しく勉強する。また有名なミュージカルナンバーをソロ・デュオ・アンサンブル等いろいろな形でとり上げ、メロディ・リズム・ハーモニーを体で感じ聴き手の心に響くように歌う事を目標とする。

２．授業概要

【概論・演技・ダンス】
　授業計画に沿って授業を進め、ダンステクニックを習得する。演技の基礎を勉強します。
　ダンスと歌と隔週で受講。
【ヴォーカル】
　授業計画に沿って授業を進め、歌による表現力を習得し演技につなげる過程を学ぶ。
　ダンスと歌と隔週で受講。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【概論・演技・ダンス】ミュージカルステージ、映画など観て各自勉強すること。ストレッチエクササイズを日々欠かさない。（このことが踊りの基礎となる）振付やインプローの練習準備をすること。
【ヴォーカル】自分が歌うミュージカルソングの内容（作曲者、作詞者、初演、ミュージカル名、役名、あらすじ、歌詞の内容、歌われる場面）等を予習。内容に沿った歌唱ができたかどうかを見極め次のステップアップにつなげること。2回目受講まで2週間空くので暗譜をして臨むこと。後期受講者で複数で歌唱するデュエット、トリオ等を希望する場合は、授業以外に相手との練習時間を取り予習をして臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
発表及びそれに関するレポート（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【概論・演技・ダンス】
　参考文献については、授業でリストを配付する。
【ヴォーカル】
　参考文献については、授業でリストを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　履修人数の制限（３０名）あり。履修希望学生多数の場合は抽選を行う。初回の授業でクラス分けを行う。集合教室B225。
隔週でダンスと歌を履修します。
【概論・演技・ダンス】歌はミュージカルⅠ－１，Ⅰ－２（ヴォーカル）を参照のこと。動きやすい服装（できれば体のラインがわかり易いものが好ましい。例：レオタード、スパッツ。Tシャツ、ジャージ、トレパンなどは体にフィットし伸縮性のあるものが良い）、ダンスシューズ（最初は上履きのような運動靴でも可）、各自タオル、飲み物、筆記用具などを用意すること。また、最初のウォーミングアップは全体でそろって行いたいので、休み時間中に着替えを済ませて、授業の開始時刻に遅れないように入室すること。興味のある学生は、上演されているミュージカルや演劇を観劇、またビデオ、CDなどで有名なミュージカル作品を鑑賞しておくと良いと思う。
【ヴォーカル】服装は動きやすいものを着用。ミニスカートや足が上がらないジーンズまたはパンツは禁止。各自筆記用具・飲料水等を用意。遅刻厳禁歌の場合は20分以上の遅刻は見学とし、原則として個人指導は受けられない。

授業計画	
	［半期］概論・演技・ダンス
1	ガイダンス、自己紹介、クラス分け(履修者全員合同授業) テキスト配布
2	Bクラス シアターゲームズ、ストレッチ、ダンスポジション1～6番まで、ダンス基礎運動、ダンスコンビネーション
3	Aクラス シアターゲームズ、ストレッチ、ダンスポジション1～6番まで、ダンス基礎運動、ダンスコンビネーション
4	Bクラス シアターゲームズ、ダンス専門用語の知識、ストレッチ、ダンスコンビネーション
5	Aクラス シアターゲームズ、ダンス専門用語の知識、ストレッチ、ダンスコンビネーション
6	Bクラス インプロヴィゼイション（即興演技表現）体で表現。ストレッチ、ウオーキングステップ、シャッセ、バテマン、ダンスコンビネーション
7	Aクラス インプロヴィゼイション（即興演技表現）体で表現。ストレッチ、ウオーキングステップ、シャッセ、バテマン、ダンスコンビネーション
8	Bクラス インプロヴィゼイション（即興演技表現）グループで機械になる表現。ストレッチ、ウォーキングステップ、ジャズラン、バランス、ダンスコンビネーション
9	Aクラス インプロヴィゼイション（即興演技表現）グループで機械になる表現。ストレッチ、ウォーキングステップ、ジャズラン、バランス、ダンスコンビネーション
10	Bクラス インプロヴィゼイション（即興演技表現）グループで動物になる表現。ストレッチ、ウォーキングステップ、ジャズラン、バランスとピルエット、ダンスコンビネーション
11	Aクラス インプロヴィゼイション（即興演技表現）グループで動物になる表現。ストレッチ、ウォーキングステップ、ジャズラン、バランスとピルエット、ダンスコンビネーション
12	Bクラス インプロヴィゼイション（即興演技表現）グループで乗り物になる表現。ストレッチ、ウォーキングステッップ、ダンスコンビネーション
13	Aクラス インプロヴィゼイション（即興演技表現）グループで乗り物になる表現。ストレッチ、ウォーキングステッップ、ダンスコンビネーション
14	Bクラス インプロヴィゼイション（即興演技表現）遠いところにあるものを見る表現。ストレッチ、ウォーキングステッップ、ダンスコンビネーション クラス発表 とまとめ。
15	Aクラス インプロヴィゼイション（即興演技表現）遠いところにあるものを見る表現。ストレッチ、ウォーキングステッップ、ダンスコンビネーション　クラス発表 とまとめ。 クラス発表 とまとめ

授業計画	
	［半期］ヴォーカル
1	ガイダンス、自己紹介、クラス分(履修者全員合同授業) テキスト配布
2	Aクラス 身体の仕組み（ボディーマッピング）について、ウォーミングアップ、発声、声部分け
3	Bクラス 身体の仕組み（ボディーマッピング）について、ウォーミングアップ、発声、声部分け
4	Aクラス ウォーミングアップ、発声、 ミュージカルナンバーの歌唱および配役
5	Bクラス ウォーミングアップ、発声、 ミュージカルナンバーの歌唱と配役
6	Aクラス ウォーミングアップ、発声、 グループごとに歌唱
7	Bクラス ウォーミングアップ、発声、 グループごとに歌唱
8	Aクラス ウォーミングアップ、発声、 アンサンブル部分の歌唱
9	Bクラス ウォーミングアップ、発声、 アンサンブル部分の歌唱
10	Aクラス ウォーミングアップ、発声、 ステージングと振付
11	Bクラス ウォーミングアップ、発声、 ステージングと振付
12	Aクラス ウォーミングアップ、発声、 学生主体によるグループごとの稽古
13	Bクラス ウォーミングアップ、発声、 学生主体によるグループごとの稽古
14	Aクラス 発表とまとめ レポート提出
15	Bクラス 発表とまとめ レポート提出

科目名	ミュージカルI－２　（後）［金1］						
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	GE240700	科目コード	GE2407	期間	半期
担当教員	ダイアナ　ボール　石山、星野　苗緒						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（MS除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ミュージカルＩ－１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【概論・演技・ダンス】担当：ダイアナ・ボール・マリー・石山
　ミュージカルは、オペラ、オペレッタ、バレエなどと同様日本でも一般的になりつつある舞台芸術です。とてもわかり易く、良質の作品はアーティスティックな部分とエンターテイメントの部分のバランスが程よく取れている。授業で取り上げるブロードウェイやロンドン産のミュージカル作品群も、その要素を満たしているものが多いと言えよう。学生は「演じる側」に立ちたいと考えている者が多いと思うがこの授業は誰でも参加自由である。しかしながらわたしは、舞台に立つ人が忘れてはならないこととして、エナジーとメッセージを持つことと共に「上品さ」を挙げる。授業では先ず体をほぐし、姿勢の矯正、無駄やブレのない合理的な動き、筋肉や関節の使い方を身につけて欲しい。動きに慣れたら少しずつダンスのテクニックを入れ、ミュージカルの音楽に合わせて優雅に表現していく。ここで得るものはそれぞれの学業分野で、また日常生活において、そして将来に渡り役立つものと思う。もちろんプロの舞台人を目指す方も歓迎する。ちなみにわたしは日本語をある程度喋ることができるので、怖がらずに受講して欲しい。Let's study and enjoy Musical Theater！
【ヴォーカル】担当：三橋千鶴
より美しく響きのある音色を求めて、基本的な発声法・呼吸法を楽しく勉強する。また有名なミュージカルナンバーをソロ・デュオ・等いろいろな形でとり上げ、メロディ・リズム・ハーモニーを体で感じ聴き手の心に響くように歌う事を目標とする。

２．授業概要

【概論・演技・ダンス】
　授業計画に沿って授業を進め、ダンステクニックを習得する。演技の基礎を勉強します。
　ダンスと歌と隔週で受講。
【ヴォーカル】
　授業計画に沿って授業を進め、歌による表現方法を習得し演技に結びつける過程を学ぶ。
　ダンスと歌と隔週で受講。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【概論・演技・ダンス】
　ミュージカルステージ、映画など観て各自勉強すること。ストレッチエクササイズを日々欠かさない。（このことが踊りの基礎となる）
　振付やインプローの練習準備をすること。
【ヴォーカル】自分が歌うミュージカルソングの内容（作曲者、作詞者、初演、ミュージカル名、役名、あらすじ、歌詞の内容、歌われる場面）等を予習。内容に沿った歌唱ができたかどうかを見極め次のステップアップにつなげること。2回目受講まで2週間空くので暗譜をして臨むこと。後期受講者で複数で歌唱するデュエット、トリオ等を希望する場合は、授業以外に相手との練習時間を取り予習をして臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
発表及びそれに関するレポート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【概論・演技・ダンス】
　参考文献については、授業でリストを配付する。
【ヴォーカル】
　参考文献については、授業でリストを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　履修人数の制限（３０名）あり。履修希望学生多数の場合は抽選を行う。初回の授業でクラス分けを行う。集合教室はB225。隔週でダンスと歌を履修します。
【概論・演技・ダンス】歌はミュージカルＩ－１，Ｉ－２（ヴォーカル）を参照のこと。動きやすい服装（できれば体のラインがわかり易いものが好ましい。例：レオタード、スパッツ。Tシャツ、ジャージ、トレパンなどは体にフィットし伸縮性のあるものが良い）、ダンスシューズ（最初は上履きのような運動靴でも可）、各自タオル、飲み物、筆記用具などを用意すること。また、最初のウォーミングアップは全体でそろって行いたいので、休み時間中に着替えを済ませて、授業の開始時刻に遅れないように入室すること。興味のある学生は、上演されているミュージカルや演劇を観劇、またビデオ、CDなどで有名なミュージカル作品を鑑賞しておくと良いと思う。
【ヴォーカル】服装は動きやすいものを着用。ミニスカートや足が上がらないジーンズまたはパンツは禁止。2回目の歌唱時には暗譜で臨むこと。各自筆記用具・飲料水等を用意。遅刻厳禁歌の場合は20分以上の遅刻は見学とし、原則として個人指導は受けられない。

授業計画	
	［半期］概論・演技・ダンス
1	ガイダンス、クラス分け(受講者全員合同授業) Aクラス インプロビゼーション(即興演技表現)乗り物に乗る表現、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
2	Bクラス インプロビゼーション(即興演技表現)乗り物に乗る表現、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
3	Aクラス インプロビゼーション(即興演技表現)物を売る表現、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
4	Bクラス インプロビゼーション(即興演技表現)物を売る表現、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
5	Aクラス インプロビゼーション(即興演技表現)部屋を使う表現、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
6	Bクラス インプロビゼーション(即興演技表現)部屋を使う表現、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
7	Aクラス インプロビゼーション(即興演技表現)ワンシーンを作る。起承転結ディスカッション、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
8	Bクラス インプロビゼーション(即興演技表現)ワンシーンを作る。起承転結ディスカッション、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
9	Aクラス インプロビゼーション(即興演技表現)設定エチュード、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
10	Bクラス インプロビゼーション(即興演技表現)設定エチュード、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
11	Aクラス インプロビゼーション(即興演技表現)新聞記事の内容をエチュードにする、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
12	Bクラス インプロビゼーション(即興演技表現)新聞記事の内容をエチュードにする、ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
13	Aクラス インプロビゼーション(即興演技表現)少人数で障害となるものを除くシーンを作る。ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション
14	Bクラス インプロビゼーション(即興演技表現)少人数で障害となるものを除くシーンを作る。ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション。発表とまとめ
15	Aクラス グループで言葉を足して物語を作る即興演技。ストレッチ、ウォーキングステップ、ダンスコンビネーション。発表とまとめ

授業計画	
	［半期］ヴォーカル
1	ガイダンス、クラス分け（受講者全員合同授業） Bクラス 曲目選定、公開レッスン形式による自由曲歌唱
2	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 公開レッスン形式による自由曲の歌唱 1 アーティキレーション
3	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 公開レッスン形式による自由曲の歌唱1 アーティキレーション
4	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 公開レッスン形式による自由曲の歌唱2 フレージング
5	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 公開レッスン形式による自由曲の歌唱2 フレージング
6	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱3 ステージング
7	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱3 ステージング
8	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱4 感情表現
9	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱4 感情表現
10	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱5 フォーカス
11	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱5 フォーカス
12	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱6 通し稽古
13	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 自由曲の歌唱6 通し稽古
14	Aクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 パフォーマンスとまとめ レポート提出
15	Bクラス 各自でウォーミングアップ、発声、 パフォーマンスとまとめ レポート提出

科目名	専門合唱１～４　[木3-4]						
代表教員	相澤　直人	授業コード	GE243100	科目コード	GE2431d	期間	通年
担当教員	永易　理恵						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前期は現在、恒例となっているNHK全国学校音楽コンクールの課題曲（全部門）に集中的に取り組み、分析を含めて曲を音楽的に高めていく過程を共有し、学ぶことが中心となる。詩、曲ともに毎年書き下ろされるこの課題曲を、全国の小中高の合唱部と同時期に取り組むことによって、日本の合唱界を支える音楽教育にも興味を拡大し、将来の活動の糧となることを期待する。　また、本年度は、通年でドブロゴス作曲のミサを取り上げる。（その他の曲目は未定。受講生のレベルや音色などを加味して決定し、授業内で指示をする。）

授業内では他声部、伴奏楽器との対峙・融和といった、合唱ならではの要素はもちろんだが、音楽そのもの（特に、作曲家が楽譜に書ききれないニュアンスや、最も音楽的であるべきexpressive noteについて）を、作曲家でも合唱指揮者でもある目線から指導する。また、声楽家が合唱の指導（ヴォイストレーニングや指揮／指導）を依頼されるケースは非常に多いため、現場で必要な考え方やスキルなども授業内で積極的に共有し、考えていきたい。

なお、成果発表の場として、前期は６月２２日（土）、また後期は１２月１日（日）の「合唱の祭典」が決定しているので、各自出演することを了承の上で履修をすること。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。演奏会の曲目の反復練習を中心とし、前期・後期の演奏会（「合唱の祭典」）に向けて自身の技術の向上を図り、その経緯を将来の自身の演奏・指導現場に生かせる様にすることを最終の目標とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各曲の音取り、読み込みを必ずしてから講義に臨み、楽譜との個人的な戦い、プライベートな時間、場にならないよう留意すること。
また、　声楽コースの学生としてのプライドと自覚を持ち、発声練習など、毎回の稽古に必要な事前のウォーミングアップは各自で行ってから臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と受講態度、個人の技術、表現者としての意欲を総合して評価をする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

学内カワイの売店「ドミナント」に於いて、以下の楽譜を事前に購入し、備えること。

・ＮＨＫ全国学校音楽コンクール 小学校の部課題曲（女声のみ購入のこと）
・ＮＨＫ全国学校音楽コンクール 中学校の部課題曲 混声
・ＮＨＫ全国学校音楽コンクール 高等学校の部課題曲 混声
・Mass by Steve Dobrogosz（ドブロゴス）： Introitus/Kyrie/Gloria/Credo/Sanctus/Agnus Dei

注意
・後期で取り上げる作品は、Dobrogsz（ドブロゴス）作曲の「Mass」の他に追加予定。前期講義内で紹介し、前記売店にて各自購入してもらう予定である。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

繰り返しになるが、上述した前期、後期の演奏会に欠席した者の単位は認められないため、スケジュール管理、体調管理など、プロ意識を持って臨むこと。
また、前期及び後期の講義日程（演奏会後の授業分を、演奏会前に振り替えるなど、イレギュラーがある）を初回授業時に説明するので、全員参加のこと。
※上述した前期、後期の演奏会に欠席した者の単位は認められない。

授業計画	
	NHK全国学校音楽コンクール小学校の部・中学校の部・高等学校の部の課題曲を取り上げ演奏する他、時間と相談をしながらドブロゴスのミサを徐々に扱い始める。
1	ガイダンス。NHK全国学校音楽コンクール課題曲（小・中・高校生）のパート・歌唱部分を確認し、演奏会に向けて講義を進める際の確認事項を説明する。その後に、全曲練習予定。
2	ドブロゴスにミサを取り組むに当たり、合唱音楽とミサ、ミサの式次第などを説明する
3	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲のテキストの理解と音の確認
4	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲の作品の流れの展開を把握する
5	音楽稽古（１）　リーディング
6	音楽稽古（２）　曲全体のフォルムを構築する
7	音楽稽古（３）　楽譜に書かれないニュアンスなど
8	NHK全国学校音楽コンクール中学校の部・高等学校の部課題曲の完成と、女声（女子学生）は小学校の部の課題曲の音楽稽古も行う。
9	音楽稽古（４）　詩と音楽の解釈について
10	演奏会に向けての総合練習（１）　これまでのポイントの再確認
11	演奏会に向けての総合練習（２）　通し稽古・ピアニストとのトータルアンサンブル
12	演奏会に向けての総合練習（３）　G.P.
13	演奏会当日リハーサル
14	演奏会本番（於：シルバーマウンテン）
15	後期に扱う楽曲の事前練習

授業計画	
	後期の講義内容、扱う楽曲については未定。前期講義中にパートバランスや音楽的な内容、いま学生にとって必要と思われることなどを考え、指示する。
1	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（１）　リズムのニュアンス
2	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（２）　メロディー及びフレーズにニュアンス
3	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（３）　ハーモニーのニュアンス
4	合唱曲を通して、音楽のニュアンスを学ぶ（４）　ことばのニュアンス
5	１２月１日の演奏会に向けて（楽曲の分析、解説など）
6	１２月１日の演奏会に向けての練習（１）　音取りや詩（発音）などの確認
7	１２月１日の演奏会に向けての練習（２）　ハーモニーを確認しながらのリーディング
8	１２月１日の演奏会に向けての練習（３）　全体の流れを把握
9	１２月１日の演奏会に向けての練習（４）　これまでに学んだ各種ニュアンスの確認
10	１２月１日の演奏会に向けての練習（５）　ピアノ及び伴奏楽器とのアンサンブルを考える
11	１２月１日の演奏会に向けての総合練習（１）　これまでのポイントの再確認
12	１２月１日の演奏会に向けての総合練習（２）　通し稽古とアンサンブルの精度を整えるための練習
13	１２月１日の演奏会に向けての総合練習（３）　一年間の総まとめ
14	演奏会前リハーサル
15	演奏会本番（於：前田ホール）

科目名	合唱指導法（含指揮法）　[火4]						
代表教員	辻　志朗	授業コード	GE244600	科目コード	GE2446	期間	通年
担当教員	希代　智子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	VO・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

大学を卒業後に教員になられる方は中学校や高校の授業或いはクラブ活動で、また将来合唱団の指導者を目指す方にも、まず必要となる基本的なバトンテクニックや所作を実践を通して身に付けます。

２．授業概要

「どうアクションをすれば相手に伝わるのか？」を基礎技術から学びます。
楽譜をどう理解し、どう伝えるかを共に考え、指摘し合います。
誰からも理解される合唱指揮の基本スタイルを身につけていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

初めて指揮を学ぶ際、正しい図形の描き方と所作による表現力、その維持が大切なポイントとなる。専門のコースで学んだ音楽的表現力を相手にいかに正しく伝えるかが重要なのである。鏡に向かって図形を描く練習、強弱の表現、アインザッツの出し方の練習、メトロノームを使ったテンポの維持の練習他、講義で学んだ所作を繰り返し練習することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

前期末、後期末試験（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

指揮棒、五線ノート、筆記用具の持参
講義内容の知識的、技術的な復習を要する
講義への出席が３分の２以下の学生は試験の受験資格は無いものとする。

授業計画	
	［前期］ 図形、強弱の表示等、指揮の基本的なテクニックを学び、やさしい合唱作品を使って合唱指揮を体験する。
1	指揮をする際の基本姿勢　ポイントの表し方 図形の描き方（２，３，４拍子）
2	ポイントの表し方　図形の描き方（２，３，４拍子） 打枠による強弱の表し方 やさしい2拍子の合唱曲を講師の所作に合わせて一緒に振ってみる。
3	ポイントの表し方　図形の描き方（２，３，４拍子） 打枠による強弱の表し方を練習曲を使って練習 やさしい2拍子と3拍子の合唱作品を講師の所作に合わせて振ってみる。
4	ポイントの表し方　図形の描き方（２，３，４拍子） 打枠による強弱の表し方を練習曲を使って練習 やさしい2拍子、3拍子、4拍子の合唱作品を講師の所作に合わせながら一緒に振ってみる。
5	ポイントの表し方　図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 2拍子、3拍子、4拍子の練習曲をピアノをリードしつつ指揮する練習をする。 打枠による強弱の表し方を練習曲を使って練習。
6	ポイントの表し方　レガートの表し方 図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 打枠による強弱の表し方を練習曲を使って練習。 左手を使った強弱、合図の表し方の練習。 ５拍子、６拍子の合唱作品を講師の所作に合わせて振ってみる。
7	ポイントの表し方　レガートの表し方 図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 打枠による強弱の表し方を練習曲を使って練習。 左手を使った強弱の他、アインザッツの出し方を練習曲を使って練習。 ５拍子、６拍子の合唱作品をピアノをリードしつつ指揮をする練習をする。
8	ポイントの表し方　レガートの表し方 図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 左手による強弱、合図の表し方を練習曲を使って練習。 2拍子、3拍子、4拍子の作品を使って、各自が数分間の模擬レッスンを体験する。
9	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 左手による強弱、合図、レガート他の表現の表し方 様々な表現の振り方を練習曲を使って練習。 2拍子、3拍子、4拍子の作品を使って各自が模擬レッスンを体験する。
10	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 左手による強弱、合図、レガート他の表現の表し方 様々な表現の振り方を練習曲を使って練習 5拍子、6拍子の作品を使って各自が模擬レッスン体験をする。
11	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 左手による強弱、合図、レガート他の表現の表し方。 テキストを考えながら、音楽をどう作るかを模索する。 5拍子、6拍子の作品を使って、各自が模擬レッスンを体験をする。
12	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 前期に学んだ様々な拍子の作品を、各自が模擬レッスンを体験する中で全曲振れるようにする。 学生同士の意見交換も取り入れる。
13	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 前期に学んだ作品を順番に前に出て指揮をし、学生間で評価し合い、よりよい表現やレッスンを考える。
14	図形の描き方（２，３，４，５、６拍子） 実技試験曲を各自が指揮体験をしながら練習をする。
15	前期のまとめ（試験形式） 前期に学んだテクニックを使って、練習曲の中から作品を指揮してみる。 課題曲1曲と当日指定の作品合計2曲を指揮する。

授業計画	
	［後期］ 変拍子の振り方、テキストに合わせた振りかえ他、実際の現場に必要な様々な所作を学び、現場対応力を養う。
1	図形の復習(2、3、4、5、6拍子) 前期に学んだテクニックの再確認をする。
2	図形の練習。 前期に学んだテクニックの再確認。 より実践的なテクニックを求められる邦人作品を、どう振るかを考えてみる。
3	図形の練習。 前期に学んだテクニックの再確認。 作品のテキストのイントネーションに合わせた振り方を考えてみる。
4	図形の練習。 前期に学んだテクニックの再確認。 現代の邦人作品を振る際に不可欠なテクニックを、練習曲を使って練習する。
5	図形の練習。 前期に学んだテクニックの再確認。 右手で変拍子を振る中での左手の使い方を練習する。 邦人作品を使ってテキストとメロディーライン、和声との兼ね合いを考えてみる。
6	図形の練習。 変拍子の練習。 邦人作品を使ってテキストとメロディーライン、和声他、作曲家の意図を皆で考えてみる。
7	図形の練習。 変拍子の練習。 変拍子を振りながら左手の所作をより正確に行う練習。 比較的やさしく、曲調の異なる作品を数曲使って、音楽的な雰囲気をいかに伝えるかを考えてみる。
8	図形の練習。 右手で変拍子を振りながら、いかに自由に左手の表現を行うかを繰り返し練習する。 作品のテキストの内容、曲の構成を共に考える。
9	模擬レッスン 実際に前に立ち、順番に合唱指導を体験し、指摘し合う。 テキストの内容、音楽の解釈を共に考える。
10	模擬レッスン。 講義で取り上げた作品ではあるが、その作品を各自の解釈を加え、表現方法を考える。 指揮者として作品を伝える練習。
11	模擬レッスン。 学生間の意見交換からも多くを学び、作品をより深く解釈し、各自の音楽をつくる。 1年を通して学んだ中で、解決されない問題点があれば対応し、全員でその難所を集中的に練習し、克服を目指す。
12	指揮の実践。 実際に繰り返し人前で指揮をする。 学生間で個々の問題点を指摘し合い、共に考え、解決を目指す。
13	指揮の実践。 １年間学んで来た様々なテクニックを生かし、試験曲の中に個々の音楽を作り上げる。 問題点は最後まで諦めずに解決策を模索する。
14	試験課題曲の実践練習 試験と同じ形式での実践練習。 履修者の人数にもよるが、何度か繰り返し行えることが望ましい。
15	後期のまとめ(試験形式) 後期試験 後期に学んだ作品の中から課題曲1曲と当日指定の合計2曲を指揮する。

科目名	オペラ実習II／オペラ実習２　[月1-2]						
代表教員	境　信博	授業コード	GE245400	科目コード	GE2454	期間	通年
担当教員	塩田　美奈子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	3年生以上の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

総合芸術であるオペラは、劇場という広い空間でのパフォーマンスが必要になる。オペラの役柄を通して、声での表現、体の動かし方等所作を研究し、習得していく。

２．授業概要

前期は「cosi fan tutte」日本語訳を使い、日本語での演奏法や小劇場での演奏法や身体表現を学習する。
並行して主にモーツアルトのオペラアンサンブルを原語で学習する

後期は前期で学習したモーツアルトを主にしたアンサンブルに、それぞれ研究し考えた演技を加え
12月の試演会に向けて仕上げて行く。
場合によって大学オペラの合唱も練習する可能性あり。

小劇場公演は8月
本年度の試演会は12月

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期、後期とも授業で決定された役の研究、オペラ原語のディクション、譜読み、作品に関しての研究等をしっかりと準備すること。
毎回の授業で、音楽的にも、芝居に関しても注意されたことを次回にはしっかり出来るように予習復習をすること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の20%）
授業への参加姿勢,学習、研究意欲(評価の80%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期のみ　　W.A.モーツァルト作曲：
「cosi fan tutte」日本語訳
この楽譜は授業側より配布　１月 台詞は4月初回に配布

通年　W.A.モーツァルト作品（アンサンブル）
各自、演奏するスコアを用意すること。
＜ベーレンライター版＞

初回授業に通年で演奏する楽譜（演奏箇所）を
ピアニスト等に必要な分、5部コピーで用意すること

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽稽古では譜読み等準備をしっかりして、積極的に授業に 臨むこと。
立ち稽古では各自、役柄に適した、動きやすい洋服、靴等を準備すること。

相手役がいる授業ですので基本全出席

本年度の前田ホール試演会は１２月で全員出席
授業外の火曜日が本番となるため、他の授業も,
しっかり出席してください。(公欠扱いにはなりません)

８月に多摩美術大学とのコラボ公演。
(衣裳は異なりますが学内でも公演を予定しています)
年度末に大学オペラの合唱参加。

授業計画	
	［前期］小劇場日本語公演の研究及び モーツアルト作品（原語）オペラアンサンブルの研究
1	音楽稽古とセリフ稽古1幕前半中心
2	音楽稽古とセリフ稽古　1幕後半中心
3	音楽稽古とセリフ稽古　2幕前半中心
4	音楽稽古とセリフ稽古　2幕後半中心
5	暗譜テスト
6	立ち稽古と通年演目のディクション 1幕前半の立ち　Aチームのディクション
7	立ち稽古と通年演目のディクション 1幕後半の立ち　Bチームのディクション
8	立ち稽古tと通年演目のディクション 2幕前半の立ち　Cチームのディクション
9	立ち稽古と通年演目のディクション 2幕後半の立ち　Dチームのディクション
10	立ち稽古　1幕両組
11	立ち稽古　2幕両組
12	立ち稽古　直し　両組
13	通し稽古　A組
14	通し稽古　B組
15	通し稽古（小劇場公演学内ゲネプロ）

授業計画	
	［後期］ モーツアルト作品（原語）オペラアンサンブルの研究
1	音楽稽古と曲目研究発表
2	音楽稽古A/Bグループと とC。Dグループディクション
3	音楽稽古とディクション A.Bグループのディクションと C.Dグループの音楽稽古
4	全音楽稽古と残りのディクション
5	音楽稽古　マエストロ中心稽古
6	立ち稽古　Aグループの立ち
7	立ち稽古　Bグループの立ち
8	立ち稽古　Cグループの立ち
9	立ち稽古　全グループ
10	通し稽古と衣装合わせ
11	通し稽古　舞台転換確認付き通し
12	通し稽古　1回目
13	通し稽古　2回目
14	ホールでの場当たり稽古とゲネプロ
15	１年のまとめディスカッション

科目名	オペラ実習III／オペラ実習３　[月3-4]						
代表教員	境　信博	授業コード	GE245500	科目コード	GE2455	期間	通年
担当教員	塩田　美奈子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	「オペラ実習Ⅱ」の単位取得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

総合芸術であるオペラは、劇場という広い空間でのパフォーマンスが必要となる。オペラの役柄を通して、声の表現、体の表現を研究し習得していく。

２．授業概要

前期は「cosi fan tutte」日本語訳を使い、日本語での演奏法や小劇場での演奏法や身体表現を学習する。
並行して自分の声、技術にあったオペラアンサンブルを原語で学習する

後期は前期で学習したアンサンブルに、それぞれ研究し考えた演技を加え
12月の試演会に向けて仕上げて行く。
場合によって大学オペラの合唱も練習する可能性あり。

小劇場公演は8月
本年度の試演会は12月

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期、後期とも授業で決定された役の研究、オペラ原語のディクション、譜読み、作品に関しての研究等をしっかりと準備すること。
　毎回の授業で、音楽的にも、芝居に関しても注意されたことを次回にはしっかり出来るように予習復習をすること。

４．成績評価の方法及び基準

試演会(評価の20%)
授業への参加姿勢,学習、研究意欲(評価の80%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期のみ
　W.A.モーツァルト作曲：
「cosi fan tutte」日本語訳
この楽譜は授業側より配布　１月 台詞は4月初回に配布

通年
ベルカントオペラなど自分の声や技術にあった曲の
スコアを用意すること。

初回授業に通年で演奏する楽譜（演奏箇所）を
ピアニスト等に必要な分、5部コピーで用意すること

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽稽古では譜読み等をしっかりと準備して、積極的に授業参加してください。
立ち稽古では各自、役に適した服装や靴をを用意すること。
相手役のいる授業ですので全出席を目指してください。
本年度の前田ホール試演会は12月
例年と同じく授業日以外が公演日となりますので、他の授業もしっかり出席してください。
年度末の大学オペラに合唱参加

授業計画	
	［前期］　小劇場日本語公演の研究と 自分の声と技術に適したオペラアンサンブル研究
1	音楽稽古とセリフ稽古 1幕前半
2	音楽稽古とセリフ稽古 1幕　後半
3	音楽稽古とセリフ稽古 2幕前半
4	音楽稽古とセリフ稽古 2幕後半
5	暗譜テスト
6	立ち稽古と通年演目のディクション 両組1幕立ち稽古
7	立ち稽古と通年演目のディクション 両組2幕立ち稽古
8	立ち稽古と通年演目のディクション 両組1幕立ち稽古2回目
9	立ち稽古と通年演目のディクション 両組２幕立ち稽古2回目
10	立ち稽古　A組通し稽古
11	立ち稽古　B組通し稽古
12	立ち稽古　全体直し稽古
13	通し稽古　A組通し稽古2回目
14	通し稽古　B組通し稽古2回目
15	通し稽古（小劇場公演学内ゲネプロ）

授業計画	
	［後期］自分の声と技術に適したオペラアンサンブル研究
1	音楽稽古と曲目研究発表
2	音楽稽古とAグループディクション
3	音楽稽古とBグループディクション
4	音楽稽古とCグループディクション
5	全体音楽稽古
6	立ち稽古　　Aグループ中心
7	立ち稽古　Bグループ中心
8	立ち稽古　Cグループ中心
9	全体立ち稽古
10	通し稽古と衣装合わせ
11	通し稽古と舞台転換説明
12	通し稽古　舞台転換付き
13	通し稽古　（舞台転換アリ）
14	ホールでの場当たり稽古とゲネプロ
15	１年のまとめディスカッション

科目名	アンサンブル実習Ⅰ　[金3-4]						
代表教員	馬場　由香	授業コード	GE245600	科目コード	GE2456	期間	通年
担当教員	塩田　美奈子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽曲の背景や音楽理論などを学び、総合的に知識を深めオラトリオのソリストとして技術的向上とアンサンブル力を身に付け高度な演奏を目指す。

２．授業概要

バロック、古典派、ロマン派時代の声楽アンサンブル及びオラトリオ（宗教音楽）を研修する。英語のテキストの作品・モーツァルトの作品を研修。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習（譜読み）を必ず終えて授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業・演奏会への参加姿勢　５０％
授業内試験（前期・後期）　５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で楽譜を購入する。
教材楽譜は事前に配布、ポータルに発信を確認し各自準備して来る。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声楽アンサンブルやオラトリオ（宗教音楽）に興味があり、常に予習＆復習をすること。
「定期演奏会」「前期・後期試験」に参加。

授業計画	
	［前期］ 　定期演奏会で行われるA.ヴィヴァルディ『Gloria』、G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』、J.S.バッハ『Magnificat』の中のA.ヴィヴァルディ『Gloria』、G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』を演習。 　英語のテキストの作品・モーツァルトの作品を研修。 ※曲目は、履修者の人数、声種により変更する場合がある。
1	ガイダンス・声聴き 課題としてW.A.モーツァルト『Ave verum corpus』の各パートを勉強してきたものを聴く。
2	楽曲の背景など学ぶ。
3	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習１ C.d.ローレ　『Ancor che col partire』発音と演習
4	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習２ L.　マレンツィオ『Zefiro Torna』発音と演習
5	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習３ W.A.モーツァルト『ミサ・ソレムニス』よりLaudamus te 楽曲について
6	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習４ W.A.モーツァルト『ミサ・ソレムニス』よりLaudamus te演習
7	7.　A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習５ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus楽曲について
8	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習１ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus演習１
9	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習２ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus演習２
10	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習３ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus 演習３
11	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習４ W.A.モーツァルト『処女聖母マリアのためのリタニア』よりRegina angelorum楽曲について
12	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習５ W.A.モーツァルト『処女聖母マリアのためのリタニア』よりRegina angelorum演習
13	これまで演習した楽曲について考察
14	前期のまとめ
15	前期試験（試演会）と振り返り

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会の曲目の演習。（前期から行っているA.ヴィヴァルディ『Gloria』 、G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』とJ.S.バッハ『Magnificat』の演習。） 前期同様、英語のテキストの作品・モーツァルトの作品を研修。 ※曲目は、履修者の人数、声種により変更する場合がある。
1	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習１ G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習１
2	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習２ G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習２ W.A.モーツァルト『レクイエム』Tuba mirum楽曲について
3	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習１ W.A.モーツァルト『レクイエム』Tuba mirum演習
4	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習２ J.S.バッハ『ロ短調ミサ曲』Recordare楽曲について
5	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習３ W.A.モーツァルト『レクイエム』Recordare演習
6	『Magnificat』アンサンブル演習４ W.A.モーツァルト『レクイエム』Benedictus楽曲について
7	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習５ W.A.モーツァルト『レクイエム』Benedictus演習
8	ソリストオーディション（声楽アンサンブル第24回定期演奏会）
9	総合演習１ A.ヴィヴァルディ『Gloria』 G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』 J.S.バッハ『Magnificat』
10	総合演習２ A.ヴィヴァルディ『Gloria』 G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』 J.S.バッハ『Magnificat』
11	総合演習３ A.ヴィヴァルディ『Gloria』 G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』 J.S.バッハ『Magnificat』
12	後期まとめ
13	後期試験（ピロティにて）と振り返り
14	定期演奏会オーケストラ合わせ
15	声楽アンサンブル第24回定期演奏会

科目名	アンサンブル実習II　[金3-4]						
代表教員	馬場　由香	授業コード	GE245700	科目コード	GE2457	期間	通年
担当教員	塩田　美奈子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「アンサンブル実習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽曲の背景や音楽理論などを学び、総合的に知識を深めオラトリオのソリストとして技術的向上とアンサンブル力を身に付け高度な演奏を目指す。

2．授業概要

バロック、古典派、ロマン派時代の声楽アンサンブル及びオラトリオ（宗教音楽）を研修する。英語のテキストの作品・モーツァルトの作品を研修。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習（譜読み）を必ず終えて授業に臨むこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業・演奏会への参加姿勢　５０％
授業内試験（前期・後期）　５０％

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で楽譜を購入する。
教材楽譜は事前に配布、ポータルに発信を確認し各自準備して来る。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声楽アンサンブルやオラトリオ（宗教音楽）に興味があり、常に予習＆復習をすること。
「定期演奏会」「前期・後期試験」に参加。

授業計画	
	［前期］ 　定期演奏会で行われるA.ヴィヴァルディ『Gloria』、G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』、J.S.バッハ『Magnificat』の中のA.ヴィヴァルディ『Gloria』、G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』を演習。 　英語のテキストの作品・モーツァルトの作品を研修。 ※曲目は、履修者の人数、声種により変更する場合がある。
1	ガイダンス・声聴き 課題としてW.A.モーツァルト『Ave verum corpus』の各パートを勉強してきたものを聴く。
2	楽曲の背景など学ぶ。
3	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習１ C.d.ローレ　『Ancor che col partire』発音と演習
4	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習２ L.　マレンツィオ『Zefiro Torna』発音と演習
5	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習３ W.A.モーツァルト『ミサ・ソレムニス』よりLaudamus te 楽曲について
6	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習４ W.A.モーツァルト『ミサ・ソレムニス』よりLaudamus te演習
7	7.　A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習５ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus楽曲について
8	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習１ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus演習１
9	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習２ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus演習２
10	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習３ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus 演習３
11	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習４ W.A.モーツァルト『処女聖母マリアのためのリタニア』よりRegina angelorum楽曲について
12	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習５ W.A.モーツァルト『処女聖母マリアのためのリタニア』よりRegina angelorum演習
13	これまで演習した楽曲について考察
14	前期のまとめ
15	前期試験（試演会）と振り返り

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会の曲目の演習。（前期から行っているA.ヴィヴァルディ『Gloria』 、G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』とJ.S.バッハ『Magnificat』の演習。） 前期同様、英語のテキストの作品・モーツァルトの作品を研修。 ※曲目は、履修者の人数、声種により変更する場合がある。
1	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習１ G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習１
2	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習２ G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習２ W.A.モーツァルト『レクイエム』Tuba mirum楽曲について
3	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習１ W.A.モーツァルト『レクイエム』Tuba mirum演習
4	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習２ J.S.バッハ『ロ短調ミサ曲』Recordare楽曲について
5	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習３ W.A.モーツァルト『レクイエム』Recordare演習
6	『Magnificat』アンサンブル演習４ W.A.モーツァルト『レクイエム』Benedictus楽曲について
7	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習５ W.A.モーツァルト『レクイエム』Benedictus演習
8	ソリストオーディション（声楽アンサンブル第24回定期演奏会）
9	総合演習１ A.ヴィヴァルディ『Gloria』 G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』 J.S.バッハ『Magnificat』
10	総合演習２ A.ヴィヴァルディ『Gloria』 G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』 J.S.バッハ『Magnificat』
11	総合演習３ A.ヴィヴァルディ『Gloria』 G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』 J.S.バッハ『Magnificat』
12	後期まとめ
13	後期試験(ピロティにて）と振り返り
14	定期演奏会オーケストラ合わせ
15	声楽アンサンブル第24回定期演奏会

科目名	アンサンブル実習III　[金3-4]						
代表教員	馬場　由香	授業コード	GE245800	科目コード	GE2458	期間	通年
担当教員	塩田　美奈子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	VO・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「アンサンブル実習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

楽曲の背景や音楽理論などを学び、総合的に知識を深めオラトリオのソリストとして技術的向上とアンサンブル力を身に付け高度な演奏を目指す。

2．授業概要

バロック、古典派、ロマン派時代の声楽アンサンブル及びオラトリオ（宗教音楽）を研修する。英語のテキストの作品・モーツァルトの作品を研修。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習（譜読み）を必ず終えて授業に臨むこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業・演奏会への参加姿勢　５０％
授業内試験（前期・後期）　５０％

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で楽譜を購入する。
教材楽譜は事前に配布、ポータルに発信を確認し各自準備して来る。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声楽アンサンブルやオラトリオ（宗教音楽）に興味があり、常に予習＆復習をすること。
「定期演奏会」「前期・後期試験」に参加。

授業計画	
	［前期］ 　定期演奏会で行われるA.ヴィヴァルディ『Gloria』、G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』、J.S.バッハ『Magnificat』の中のA.ヴィヴァルディ『Gloria』、G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』を演習。 　英語のテキストの作品・モーツァルトの作品を研修。 ※曲目は、履修者の人数、声種により変更する場合がある。
1	ガイダンス・声聴き 課題としてW.A.モーツァルト『Ave verum corpus』の各パートを勉強してきたものを聴く。
2	楽曲の背景など学ぶ。
3	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習１ C.d.ローレ　『Ancor che col partire』発音と演習
4	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習２ L.　マレンツィオ『Zefiro Torna』発音と演習
5	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習３ W.A.モーツァルト『ミサ・ソレムニス』よりLaudamus te 楽曲について
6	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習４ W.A.モーツァルト『ミサ・ソレムニス』よりLaudamus te演習
7	7.　A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習５ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus楽曲について
8	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習１ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus演習１
9	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習２ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus演習２
10	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習３ W.A.モーツァルト『ハ短調ミサ』Domine Deus／Quoniam tu souls sanctus／Benedictus 演習３
11	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習４ W.A.モーツァルト『処女聖母マリアのためのリタニア』よりRegina angelorum楽曲について
12	G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習５ W.A.モーツァルト『処女聖母マリアのためのリタニア』よりRegina angelorum演習
13	これまで演習した楽曲について考察
14	前期のまとめ
15	前期試験（試演会）と振り返り

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会の曲目の演習。（前期から行っているA.ヴィヴァルディ『Gloria』 、G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』とJ.S.バッハ『Magnificat』の演習。） 前期同様、英語のテキストの作品・モーツァルトの作品を研修。 ※曲目は、履修者の人数、声種により変更する場合がある。
1	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習１ G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習１
2	A.ヴィヴァルディ『Gloria』アンサンブル演習２ G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』アンサンブル演習２ W.A.モーツァルト『レクイエム』Tuba mirum楽曲について
3	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習１ W.A.モーツァルト『レクイエム』Tuba mirum演習
4	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習２ J.S.バッハ『ロ短調ミサ曲』Recordare楽曲について
5	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習３ W.A.モーツァルト『レクイエム』Recordare演習
6	『Magnificat』アンサンブル演習４ W.A.モーツァルト『レクイエム』Benedictus楽曲について
7	J.S.バッハ『Magnificat』アンサンブル演習５ W.A.モーツァルト『レクイエム』Benedictus演習
8	ソリストオーディション（声楽アンサンブル第24回定期演奏会）
9	総合演習１ A.ヴィヴァルディ『Gloria』 G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』 J.S.バッハ『Magnificat』
10	総合演習２ A.ヴィヴァルディ『Gloria』 G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』 J.S.バッハ『Magnificat』
11	総合演習３ A.ヴィヴァルディ『Gloria』 G.B.ペルゴレージ『Stabat Mater』 J.S.バッハ『Magnificat』
12	後期まとめ
13	後期試験（ピロティにて）と振り返り
14	定期演奏会オーケストラ合わせ
15	声楽アンサンブル第24回定期演奏会

科目名	合唱活動指導法１　［火5］						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE271100	科目コード	GE2711	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

授業及びクラブ活動での合唱の指導法を学ぶ。併せて基礎訓練の方法を修得し、応用出来る事を目標とする。
学校音楽において、合唱活動はその大半を占めます。そこで重要なのは多くの曲に触れ、多くの経験を重ねる事です。
教育現場で演奏される頻度の高い曲を多く学び、現場にて活用出来るように、豊かな表現力に富んだ合唱実習を作品を通じて学び実践していきます。

２．授業概要

発声について、ハーモニーについて、バランスについて等合唱作りのプロセスを順に習得していく。
また歌詞から導き出す曲作りも合わせて習得していく。
その全てを実際の授業で指導、活用できる事を目標に学ぶ。
合わせて音程、声質、変声期等の指導について探っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本の合唱界の各組織団体のホームページなどで自分の知らない合唱界の存在の下調べをして欲しい。
可能であれば近隣のアマチュア合唱団に所属して、合唱が如何に「一生モノの趣味」であるかを学ぼう！
小学　中学　高校ではどの様な曲が多く歌われているか？等も調べて欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に試験を行うので各自準備して臨むこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜紹介または配布、購入をする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の欠席が、３分の１を超える者については定期試験の受験資格を失う。
先ずは自分の声の高さを性別により高めの声か低めの声かを自己判断し、その結果に基づいて申告制で女性はソプラノ＆アルト、男声はテノールとバスに分かれてみよう。
学校における合唱は授業にとどまらず学内 学外のイベントや学内　学外コンクールと多岐にわたります。合唱曲やその演奏に積極的に接し授業に意欲的に取り組んでください

授業計画	
	［前期］ 腹式呼吸、発声指導の基礎を学ぶ。身体を使い歌の声について支え、響き等身体をどのように使うのか討論しながら実践形式で進めます。また中高生に伝わりやす表現法を見出し分かりやすい指導法の習得を目指します。
1	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得する
2	腹式呼吸とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う
3	発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う
4	腹式呼吸・発声指導を交え曲を使い指導実習を行う
5	各自が選んだ教材を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
6	教科書に載っている楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
7	各自が選んだ外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
8	教科書に載っている外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
9	各自が指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
10	各自がイタリア語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
11	各自がドイツ語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
12	中学校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
13	高校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
14	音楽の授業をテーマにどんな授業が受けたいか、どうな授業をしたいか自分の経験体験を踏まえて後期に向けた各自の指導テーマを挙げる。
15	前期講義の総括

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会を踏まえ曲の選択、指導計画を立てる。 前期の指導経験をさらに伸ばしステージでその成果を発揮することを目標とする。また各自の挙げた指導テーマを進めていく。
1	前期で行った呼吸法、発声法の復習。 各自が選択した教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
2	各自が選択したイタリア語教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
3	各自が選択したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
4	指定したイタリア語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
5	指定したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
6	定期演奏会の曲を教材にしたパート練習実践
7	定期演奏会の曲を教材にし自分と違うパートの指導実践
8	定期演奏会の曲を教材にしてリズム、音程についての指導実習
9	定期演奏会の曲を教材にして指導実習を行う
10	定期演奏会リハーサル
11	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニックを学ぶ
12	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を学ぶ
13	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を実践する
14	最終講義日での発表リハーサル
15	指導成果の発表と総括。

科目名	合唱活動指導法２　［火5］						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE271200	科目コード	GE2712	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

授業及びクラブ活動での合唱の指導法を学ぶ。併せて基礎訓練の方法を修得し、応用出来る事を目標とする。
学校音楽において、合唱活動はその大半を占めます。そこで重要なのは多くの曲に触れ、多くの経験を重ねる事です。
教育現場で演奏される頻度の高い曲を多く学び、現場にて活用出来るように、豊かな表現力に富んだ合唱実習を作品を通じて学び実践していきます。

２．授業概要

発声について、ハーモニーについて、バランスについて等合唱作りのプロセスを順に習得していく。
また歌詞から導き出す曲作りも合わせて習得していく。
その全てを実際の授業で指導、活用できる事を目標に学ぶ。
合わせて音程、声質、変声期等の指導について探っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本の合唱界の各組織団体のホームページなどで自分の知らない合唱界の存在の下調べをして欲しい。
可能であれば近隣のアマチュア合唱団に所属して、合唱が如何に「一生モノの趣味」であるかを学ぼう！
小学　中学　高校ではどの様な曲が多く歌われているか？等も調べて欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に試験を行うので各自準備して臨むこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜紹介または配布、購入をする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の欠席が、３分の１を超える者については定期試験の受験資格を失う。
先ずは自分の声の高さを性別により高めの声か低めの声かを自己判断し、その結果に基づいて申告制で女性はソプラノ＆アルト、男声はテノールとバスに分かれてみよう。
学校における合唱は授業にとどまらず学内 学外のイベントや学内　学外コンクールと多岐にわたります。合唱曲やその演奏に積極的に接し授業に意欲的に取り組んでください

授業計画	
	［前期］ 腹式呼吸、発声指導の基礎を学ぶ。身体を使い歌の声について支え、響き等身体をどのように使うのか討論しながら実践形式で進めます。また中高生に伝わりやす表現法を見出し分かりやすい指導法の習得を目指します。
1	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得して頂く
2	腹式呼吸発とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う
3	発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う
4	腹式呼吸・発声指導と交え曲を使い指導実習を行う
5	各自が選んだ教材を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
6	教科書に載っている楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
7	各自が選んだ外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
8	教科書に載っている外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
9	各自が指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
10	各自がイタリア語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
11	各自がドイツ語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
12	中学校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
13	高校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
14	音楽の授業をテーマにどんな授業が受けたいか、どうな授業をしたいか自分の経験体験を踏まえて後期に向けた各自の指導テーマを挙げる
15	前期講義の総括

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会を踏まえ曲の選択、指導計画を立てる。 前期の指導経験をさらに伸ばしステージでその成果を発揮することを目標とする。また各自の挙げた指導テーマを進めていく。
1	前期で行った呼吸法、発声法の復習。 各自が選択した教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
2	各自が選択したイタリア語教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
3	各自が選択したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
4	指定したイタリア語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
5	指定したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
6	定期演奏会の曲を教材にしたパート練習実践
7	定期演奏会の曲を教材にし自分と違うパートの指導実践
8	定期演奏会の曲を教材にしてリズム、音程についての指導実習
9	定期演奏会の曲を教材にして指導実習を行う
10	定期演奏会リハーサル
11	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニックを学ぶ
12	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を学ぶ
13	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を実践する
14	最終講義日での発表リハーサル
15	指導成果の発表と総括。

科目名	リコーダーアンサンブル１　[木3]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE271600	科目コード	GE2716	期間	通年
担当教員	柿原　順子、高橋　明日香						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME・GT・WM	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーアンサンブルの基礎を学び、かつ音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい可能性を追究する。
【到達目標】
（１）アルトリコーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホールコンソート）を実習する。
（３）打楽器、弦楽器、鍵盤楽器等、他楽器とのアンサンブルを実習する。

２．授業概要

【前期】
各種リコーダーの奏法と、クラシカルなレパートリーを中心にリコーダーアンサンブルの基礎を学ぶ。
【後期】
音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい編成形態、新しいレパートリーを開拓し、その成果発表の演奏会で演奏する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題として与えられた演習曲の予見(予習)と授業受講後の練習(復習)を毎週欠かさないこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、試験またはレポート提出の成績、演奏会への参加姿勢とその成果などを根拠とした、前期と後期のそれぞれの評価を照合し、代表教員と各期担当教員が協議し総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『アルト・リコーダーの世界』　河西保郎編著（ｋｍｐ）
参考文献：『現代リコーダー教本』　ワルター・フアン・ハウヴェ著　大竹尚之訳（日本ショット）
『木管楽器　演奏の新理論』　佐伯茂樹（ヤマハミュージックメディア）
この他に使用するテキストは授業内で随時配布し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏法とアンサンブルを学ぶ意欲のある者。アルトリコーダーとテキストは必ず持参すること。

授業計画	
	［前期］担当:柿原順子 アルトリコーダーの基本的奏法とリコーダーアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス ～リコーダーの特性と歴史について
2	リコーダーの基本的奏法 （１）腹式呼吸 （２）ロングトーン （３）タンギング
3	アルトリコーダー二重奏の音の合わせ方
4	アルトリコーダー三重奏の音の合わせ方
5	ソロ奏法の基本 （与えられた課題曲の中から各自任意で1曲選択して演奏）
6	ソロの試演会 （ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする）
7	アンサンブルの実習(1) 少人数のグループを作り、グループ内でパートを決め、やさしいルネサンス時代の作品を通して、バス・テナーなどの楽器に慣れる
8	アンサンブルの実習(2) ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く
9	アンサンブルの実習(3) ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習(4) ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習(5) 即興による装飾法の実習
12	アンサンブルの実習(6) バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習(7) 試験曲の決定と譜読み
14	アンサンブルの実習(8) 試験曲の練習
15	前期総括 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して楽曲を演奏 （２）発表した内容をまとめたレポートを提出

授業計画	
	［後期］担当:高橋明日香 音楽教育の分野での新しいリコーダーアンサンブルのレパートリーの開拓と演奏会での成果発表
1	ガイダンス～リコーダーとリコーダーアンサンブルの現在(いま)
2	レパートリー選び(1)ジャンルと編成の検討
3	レパートリー選び(2)試演
4	レパートリー選び(3)演奏曲の決定
5	演奏会に向けての練習 (1)精確な譜読みと音出し
6	演奏会に向けての練習 (2)楽曲の性格を把握する
7	演奏会に向けての練習 (3)楽曲の構造、形式を理解する
8	演奏会に向けての練習 (4)各パートの役割を明確に認識する
9	演奏会に向けての練習 (5)全体の響きのバランスをとることを主眼に
10	演奏会に向けての練習 (6)合奏の基本についての見直し
11	演奏会に向けての練習 (7)適切な奏法と表現に留意して
12	演奏会に向けての練習 (8)楽曲の特色をより活かした演奏表現を目指して
13	演奏会に向けての練習 (9)訴求力の高い合奏を目指し精度を高める
14	演奏会に向けての練習 (10)本番を意識した合奏の仕上げ
15	後期総括 ～これまでの学習をふまえ、これからの学校教育におけるリコーダー合奏指導についてディスカッション～

科目名	リコーダーアンサンブル２　[木3]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE271700	科目コード	GE2717	期間	通年
担当教員	柿原　順子、高橋　明日香						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	ME・GT・WM	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーアンサンブルの基礎を学び、かつ音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい可能性を追究する。
【到達目標】
（１）アルトリコーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホールコンソート）を実習する。
（３）打楽器、弦楽器、鍵盤楽器等、他楽器とのアンサンブルを実習する。

２．授業概要

【前期】
各種リコーダーの奏法と、クラシカルなレパートリーを中心にリコーダーアンサンブルの基礎を学ぶ。
【後期】
音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい編成形態、新しいレパートリーを開拓し、その成果発表の演奏会で演奏する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題として与えられた演習曲の予見(予習)と授業受講後の練習(復習)を毎週欠かさないこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、試験またはレポート提出の成績、演奏会への参加姿勢とその成果などを根拠とした、前期と後期のそれぞれの評価を照合し、代表教員と各期担当教員が協議し総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『アルト・リコーダーの世界』　河西保郎編著（ｋｍｐ）
参考文献：『現代リコーダー教本』　ワルター・フアン・ハウヴェ著　大竹尚之訳（日本ショット）
『木管楽器　演奏の新理論』　佐伯茂樹（ヤマハミュージックメディア）
この他に使用するテキストは授業内で随時配布し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏法とアンサンブルを学ぶ意欲のある者。アルトリコーダーとテキストは必ず持参すること。

授業計画	
	［前期］担当:柿原順子 アルトリコーダーの基本的奏法とリコーダーアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス ～リコーダーの特性と歴史について
2	リコーダーの基本的奏法 （１）腹式呼吸 （２）ロングトーン （３）タンギング
3	アルトリコーダー二重奏の音の合わせ方
4	アルトリコーダー三重奏の音の合わせ方
5	ソロ奏法の基本 （与えられた課題曲の中から各自任意で1曲選択して演奏）
6	ソロの試演会 （ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする）
7	アンサンブルの実習(1) 少人数のグループを作り、グループ内でパートを決め、やさしいルネサンス時代の作品を通して、バス・テナーなどの楽器に慣れる
8	アンサンブルの実習(2) ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く
9	アンサンブルの実習(3) ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習(4) ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習(5) 即興による装飾法の実習
12	アンサンブルの実習(6) バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習(7) 試験曲の決定と譜読み
14	アンサンブルの実習(8) 試験曲の練習
15	前期総括 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して楽曲を演奏 （２）発表した内容をまとめたレポートを提出

授業計画	
	［後期］担当:高橋明日香 音楽教育の分野での新しいリコーダーアンサンブルのレパートリーの開拓と演奏会での成果発表
1	ガイダンス～リコーダーとリコーダーアンサンブルの現在(いま)
2	演奏会のレパートリー選び(1)ジャンルと編成の検討
3	演奏会のレパートリー選び(2)試演
4	演奏会のレパートリー選び(3)演奏曲の決定
5	演奏会に向けての練習 (1)精確な譜読みと音出し
6	演奏会に向けての練習 (2)楽曲の性格を把握する
7	演奏会に向けての練習 (3)楽曲の構造、形式を理解する
8	演奏会に向けての練習 (4)各パートの役割を明確に認識する
9	演奏会に向けての練習 (5)全体の響きのバランスをとることを主眼に
10	演奏会に向けての練習 (6)合奏の基本についての見直し
11	演奏会に向けての練習 (7)適切な奏法と表現に留意して
12	演奏会に向けての練習 (8)楽曲の特色をより活かした演奏表現を目指して
13	演奏会に向けての練習 (9)訴求力の高い合奏を目指し精度を高める
14	演奏会に向けての練習 (10)本番を意識した合奏の仕上げ
15	後期総括 ～これまでの学習をふまえ、これからの学校教育におけるリコーダー合奏指導についてディスカッション～

科目名	リコーダーアンサンブル３　[木3]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE271800	科目コード	GE2718	期間	通年
担当教員	柿原　順子、高橋　明日香						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	ME・GT・WM	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
リコーダーアンサンブルの基礎を学び、かつ音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい可能性を追究する。
【到達目標】
（１）アルトリコーダーの基本的奏法を学ぶ。
（２）ソプラノ、アルト、テナー、バス、など様々な大きさのリコーダーによるアンサンブル（ホールコンソート）を実習する。
（３）打楽器、弦楽器、鍵盤楽器等、他楽器とのアンサンブルを実習する。

２．授業概要

【前期】
各種リコーダーの奏法と、クラシカルなレパートリーを中心にリコーダーアンサンブルの基礎を学ぶ。
【後期】
音楽教育の分野でのリコーダーアンサンブルの新しい編成形態、新しいレパートリーを開拓し、その成果発表の演奏会で演奏する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題として与えられた演習曲の予見(予習)と授業受講後の練習(復習)を毎週欠かさないこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、試験またはレポート提出の成績、演奏会への参加姿勢とその成果などを根拠とした、前期と後期のそれぞれの評価を照合し、代表教員と各期担当教員が協議し総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『アルト・リコーダーの世界』　河西保郎編著（ｋｍｐ）
参考文献：『現代リコーダー教本』　ワルター・フアン・ハウヴェ著　大竹尚之訳（日本ショット）
『木管楽器　演奏の新理論』　佐伯茂樹（ヤマハミュージックメディア）
この他に使用するテキストは授業内で随時配布し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

リコーダーの演奏法とアンサンブルを学ぶ意欲のある者。アルトリコーダーとテキストは必ず持参すること。

授業計画	
	［前期］担当:柿原順子 アルトリコーダーの基本的奏法とリコーダーアンサンブルの基礎実習
1	ガイダンス ～リコーダーの特性と歴史について
2	リコーダーの基本的奏法 （１）腹式呼吸 （２）ロングトーン （３）タンギング
3	アルトリコーダー二重奏の音の合わせ方
4	アルトリコーダー三重奏の音の合わせ方
5	ソロ奏法の基本 （与えられた課題曲の中から各自任意で1曲選択して演奏）
6	ソロの試演会 （ペアを組んでお互いにピアノ伴奏をする）
7	アンサンブルの実習(1) 少人数のグループを作り、グループ内でパートを決め、やさしいルネサンス時代の作品を通して、バス・テナーなどの楽器に慣れる
8	アンサンブルの実習(2) ルネサンスの舞曲 長三和音、短三和音の響きを聴く
9	アンサンブルの実習(3) ルネサンス時代の声楽曲
10	アンサンブルの実習(4) ルネサンス時代の器楽曲
11	アンサンブルの実習(5) 即興による装飾法の実習
12	アンサンブルの実習(6) バロック時代の器楽曲
13	アンサンブルの実習(7) 試験曲の決定と譜読み
14	アンサンブルの実習(8) 試験曲の練習
15	前期総括 （１）試験曲について（作曲者、形式等）調べてきた内容を発表して楽曲を演奏 （２）発表した内容をまとめたレポートを提出

授業計画	
	［後期］担当:高橋明日香 音楽教育の分野での新しいリコーダーアンサンブルのレパートリーの開拓と演奏会での成果発表
1	ガイダンス～リコーダーとリコーダーアンサンブルの現在(いま)
2	演奏会のレパートリー選び(1)ジャンルと編成の検討
3	演奏会のレパートリー選び(2)試演
4	演奏会のレパートリー選び(3)演奏曲の決定
5	演奏会に向けての練習 (1)精確な譜読みと音出し
6	演奏会に向けての練習 (2)楽曲の性格を把握する
7	演奏会に向けての練習 (3)楽曲の構造、形式を理解する
8	演奏会に向けての練習 (4)各パートの役割を明確に認識する
9	演奏会に向けての練習 (5)全体の響きのバランスをとることを主眼に
10	演奏会に向けての練習 (6)合奏の基本についての見直し
11	演奏会に向けての練習 (7)適切な奏法と表現に留意して
12	演奏会に向けての練習 (8)楽曲の特色をより活かした演奏表現を目指して
13	演奏会に向けての練習 (9)訴求力の高い合奏を目指し精度を高める
14	演奏会に向けての練習 (10)本番を意識した合奏の仕上げ
15	後期総括 ～これまでの学習をふまえ、これからの学校教育におけるリコーダー合奏指導についてディスカッション～

科目名	邦楽実習（民謡）１～４　［金5］						
代表教員	柿崎　竹美	授業コード	GE272100	科目コード	GE2721d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	ME:必修/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本の民謡について、特徴的な発声（地声）や技法（こぶし・間・訛りや方言等）を体験的に学ぶ。
「民謡って何だろう・・」を学び、また唄い継ぐ人々の想いについて理解を深め、現代の音楽を通して民謡のあり方や可能性について学ぶ。
到達目標としては学年末に課題曲3～4曲程の民謡を唄えるようにしたい。

２．授業概要

民謡の発声・技法等を学び課題曲を唄う。

実務経験のある教員による授業科目
{教員プロフィール,https://www.senzoku.ac.jp/music/teacher/takemi-kakizaki}

３．授業時間外の学習（予習復習について）

１．前期3回以降の授業においては、授業前の空き時間などを活用して、身体全体のストレッチや発声の為のウオーミングアップに努めること。
２．新しい曲目に入る時には、曲目の背景を自分なりにイメージしてみること。授業前に軽く唄ってみること。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（特に実際の歌唱に積極的に参加する姿勢、評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

講義中随時配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「公欠」の諸届け提出は授業の前に済ませること。授業内容と関連して、挨拶等において明確な発声を心がけること。

授業計画	
	［前期］ 「民謡って何だろう？」を学ぶ。 呼吸法～技法、民謡3曲・ソーラン節・斉太郎節・花笠音頭（花笠を手作りし、歌の他に踊りも行う）の実演
1	第1回　民謡とは？何か。基礎知識～唄の種類～唄の特性
2	第2回　民謡の呼吸法・基本的な発声（地声の出し方） 民謡に必要な技法～こぶしを学ぶ
3	第3回　民謡課題曲《ソーラン節》①解説～声を出して唄ってみる（発声の仕方）
4	第4回　民謡課題曲《ソーラン節》②こぶしを学び、みんなで唄ってみる
5	第5回　民謡課題曲《ソーラン節》③一人ずつ唄ってみる
6	第6回　民謡課題曲《斉太郎節》①解説～声を出して唄ってみる
7	第7回　民謡課題曲《斉太郎節》②こぶしを学び、みんなで唄ってみる
8	第8回　民謡課題曲《斉太郎節》③一人ずつ唄ってみる
9	第9回　民謡課題曲《花笠音頭》①解説～声を出して唄ってみる～この曲には花笠を使った花笠踊りもあることを知る
10	第10回　民謡課題曲《花笠音頭》②花笠を作成する
11	第11回　民謡課題曲《花笠音頭》③花笠作成 ④-1　踊り指導-作成した花笠を使い、全体的なの踊り流れ指導
12	第12回　民謡課題曲《花笠音頭》⑤-2　踊り指導-細かな部分の確認
13	第13回　民謡課題曲《花笠音頭》⑥-3　踊り指導-表現、仕上げの工夫
14	第14回　民謡課題曲《ソーラン節》《斉太郎節》《花笠音頭》唄の復習
15	第15回　民謡課題曲《ソーラン節》《斉太郎節》《花笠音頭》前期課題曲まとめ-独唱

授業計画	
	［後期］ 前期のソーラン節・斉太郎節・花笠音頭3曲の復習. 新たに津軽三味線を実際に体験する。新曲（秋田音頭）1曲の課題曲～まとめ
1	第1回　前期 《ソーラン節》 《斉太郎節》 《花笠音頭》の唄の復習-実際三味線の伴奏に合わせて唄ってみる 民謡に必要な三味線を学ぶ
2	第2回　三味線に実際に触れて、実践してみる。
3	第3回　三味線で《さくら》を演奏してみる。
4	第4回　民謡課題曲《秋田音頭》①解説～訛り・方言を学び、唄ってみる
5	第5回　民謡課題曲《秋田音頭》②オリジナル歌詞を創り、オリジナルの歌詞を唄ってみる
6	第6回　民謡課題曲《秋田音頭》③-1 踊り指導-1Ｃをしっかりと覚える。表現を身につける　基本
7	第7回　民謡課題曲《秋田音頭》④-2　踊り指導-2Ｃをしっかりと覚える。表現を身につける　基本確認
8	第8回　民謡課題曲《秋田音頭》⑤-3　踊り指導-3Ｃをしっかりと覚える。表現を身につける　応用
9	第9回　民謡課題曲《秋田音頭》⑥-4　踊り指導-4Ｃをしっかりと覚える。表現を身につける　応用確認
10	第10回　民謡課題曲《秋田音頭》⑦-5　踊り指導-5Ｃをしっかりと覚える。表現を身につける　発展
11	第11回　民謡課題曲《秋田音頭》⑧-6　踊り指導-6Ｃをしっかりと覚える。表現を身につける　発展確認
12	第12回　民謡課題曲《秋田音頭》⑨-7踊り指導-1Ｃ～6Ｃの仕上げ
13	第13回　民謡課題曲～前期と後期の曲　全4曲復習し唄う
14	実技試験・まとめ等（前半）
15	実技試験・まとめ等（後半）

科目名	言語表現演習Ⅰ （前） ［火3］						
代表教員	重本　正明	授業コード	GE272500	科目コード	GE2725	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	なし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

相手に伝えたい内容を最適な形にまとめ、相手やその場の状況に応じて言葉を微調整しながら、インパクト重視の個性溢れる表現方法で伝えることができるようにしましょう。

２．授業概要

毎回、与えられた課題を実践的に表現することで、言葉の広く深い世界の中から最大限の楽しさを引き出す訓練をします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

言語表現能力を向上させるためには、常に実践を繰り返すことが一番効果的です。各段階の演習内容を、研究発表の場や日常生活のコミュニケーション時に試し効果を確認するように心掛けてください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（４０％）
授業内容の理解と表現意欲（３０％）
達成度試験の成績（３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト・課題はその都度配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

テーマは言葉を使って楽しさを表現することです。どのような状況においても常に楽しさを見出すことを心掛けて欲しいし、それを実践する授業でありたいと思います。

授業計画	
	［半期］
1	台本を元にした言語表現（1）　言葉とセンテンスに存在するリズムを感じる練習
2	台本を元にした言語表現（2）　言葉とセンテンスに内蔵するリズムを実践的に表現する練習
3	台本を元にした言語表現（3）　言葉とセンテンスに内蔵されるリズムに個性の色付けをする練習
4	台本を元にした言語表現（4）　言葉とセンテンスを表現する際に音程が存在することを知る
5	台本を元にした言語表現（5）　言葉とセンテンスに存在する音程を感じ表現する練習
6	台本を元にした言語表現（6）　言葉とセンテンスに存在する音程に独自のテイストを加味する練習
7	台本を元にした言語表現(7) 言葉とセンテンスに色彩が存在することを知る
8	台本を元にした言語表現(8) 言葉とセンテンスに存在する色彩を表現する練習
9	台本を元にした言語表現(9) 言葉とセンテンスに存在する色彩に独自の感覚を加味する練習
10	リズムとテンポと間の実践（1）　リズムとテンポの変化が聞き手に与えるインパクトの違いを感じる
11	リズムとテンポと間の実践（2）　リズムとテンポと間の関係性を知る
12	リズムとテンポと間の実践（3）　リズムとテンポと間の活用を実践する
13	台本を用いて楽しく表現をするための技術を実践的に確認し向上させる（1）　ダイナミックレンジを体得する練習
14	台本を用いて楽しく表現をするための技術を実践的に確認し向上させる（2）　アクションとの関連を体得する練習
15	台本を音楽的に扱うことで、楽しさを表現するということの意味を感じる練習

科目名	言語表現演習II （後） ［火3］						
代表教員	牛頭　真也	授業コード	GE272600	科目コード	GE2726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義・演習	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	「言語表現演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・音楽教育者としての基礎的な文章表現の技術を身につけること
・文章を読み、そこから有益な情報を選びとり、それをもとにして自分で文章を書くための能力や態度を培うこと

【目標】
・音楽について書かれた文章から情報を取り出し、文章を解釈し、省察・評価できる
・曲目解説では、実際の演奏会を想定し、自分の言葉で解説できる
・演奏批評では、根拠を具体的に示し、自分の言葉で批評できる

２．授業概要

本授業は、音楽に関する文章を読み書きするために必要な能力や態度を培う。そのため、各授業、言葉で表現（言語化）する活動がある。文法、文章の組み立て方、音楽用語について確認し、読み手が理解できる文章作成の訓練を積む。
添削課題は、問題点を指摘し返却するので、指摘された部分を見直して修正すること。

(1)音楽関連書籍・雑誌の文章を読解し、その中でポイントとなる情報をおさえる練習（要約文作成）
(2)曲目解説、音楽批評、お気に入りの作品等の執筆
(3)教員採用試験での論作文練習

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキストや配布資料を読み、要点をまとめておくこと
・授業の初めに前回授業の内容に関する小テスト（確認テスト）を行うので、復習しておくこと。
・予習と復習には、２時間程度かかることが想定される

復習に関しては、添削課題の指摘箇所を必ず確認したうえで、修正版を提出すること。
疑問点があれば積極的に質問をすること。

４．成績評価の方法及び基準

【評価種別と割合】
平常点（関心意欲態度、発言、課題提出等）　50%
小テスト20%
学期末レポート　30%

【評価基準について】
・各課題は、学習内容を踏まえて自分の言葉で表現できていること。
・学期末レポート課題は、第１３回の授業で提示する。
　与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・久保田慶一　2016　『改訂版　音楽の文章セミナー　プログラム・ノートから論文まで』　東京：音楽之友社
　入手方法は、大学構内「ショップドミナント」　価格　２２００円程度
・授業中に、適宜、資料を配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日頃より様々な文章を読む習慣、自発的に文章を書く習慣を身に付けることがそのまま文章力上達へとつながるので、積極的な態度で臨んでほしい。

授業計画	
	［半期］
1	導入：音楽とリテラシー
2	音楽の文章
3	書式
4	要約文の作成（1)ポイントをどう読み取るか?
5	要約文の作成（2)ポイントをどうまとめるか?
6	主題を説明する
7	形式を説明する
8	歌曲を説明する
9	オペラを説明する
10	曲目解説文の作成（1）基本データ(作曲年等)について
11	曲目解説文の作成（2)楽曲の内容について
12	演奏批評の作成
13	論作文課題（1)教員採用試験
14	論作文課題（2)表記や細かな言い回し等の推敲を中心に
15	総括と自己評価

科目名	身体表現演習Ⅰ （前） ［水5］						
代表教員	野火　杏子	授業コード	GE272700	科目コード	GE2727	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME・MS・BL・AS	科目分類	必修科目				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

南インド古典舞踊、インドミュージカルダンス(ボリウッドダンス)の基礎に触れ、簡単な演目を覚える。（進行は学生の到達状況に合わせます。）

２．授業概要

南インド古典舞踊バラタナティヤムの基本ステップの初歩や理論を実践し、発表する。
ボリウッドダンスの曲を習得し、発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基本ステップ、ハスタ、演目を覚える。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）
教場で実技試験を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その度にコピーし配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

インド舞踊に興味があり、ハードな運動について来られる者。
少なくとも、身体を動かすことが好きであること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	古典の基礎的動きの練習 ボリウッドダンス練習曲1（前半）を練習
3	古典の基礎的動きをブラッシュアップ ボリウッドダンス練習曲1（後半）を練習
4	古典舞踊の基礎ステップ1を練習 ボリウッド練習曲1を練習
5	古典舞踊の基礎ステップ2を練習 ボリウッド練習曲1の仕上げ
6	古典舞踊の基礎ステップ3を練習 ボリウッド練習曲1を発表し合う
7	古典舞踊の基礎ステップ4を練習 ボリウッド練習曲2（前半）を練習
8	古典舞踊の基礎ステップ5を練習 ボリウッド練習曲2（中間）を練習
9	古典舞踊の練習曲を練習始める ボリウッド練習曲2（後半）を練習
10	古典舞踊の練習曲を練習続ける ボリウッド練習曲2（前半～後半）を練習
11	古典舞踊の練習曲を練習続ける ボリウッド練習曲2を仕上げる
12	古典舞踊の練習曲を仕上げる ボリウッドの練習曲2を発表し合う
13	古典舞踊の練習曲を発表し合う ボリウッドの練習曲1、2復習
14	教場試験とまとめ
15	発表会

科目名	身体表現演習Ⅰ （前） ［木1］AS専用(日舞)						
代表教員	花柳　輔瑞佳	授業コード	GE2727A0	科目コード	GE2727	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本舞踊特有の動きを学ぶと同時に着物を着ての美しい所作や邦楽曲の独特な音の間の取り方を学ぶなど様々な日本の伝統に触れ、自然と日常にも取り入れられるようしっかりと身に付ける。

２．授業概要

日本舞踊特有の動きを学ぶ。邦楽（主に長唄）の曲で踊る。所作を学ぶことにより仕草を美しくする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習はないため授業後必ず復習を反復して行う。また、日頃より姿勢や所作を意識して過ごす。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢７０％、授業内テスト３０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技のため特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

着物を着ての所作を学ぶため稽古着として着物（浴衣）を必ず着用すること。日本舞踊用の稽古扇子も用意すること。

授業計画	
1	ガイダンス、着物の着方、簡単な所作
2	着物の着方、着物を着ての所作、基礎的な踊り（手踊り）
3	基礎的な踊り（手踊り、応用）
4	基礎的な踊り（手踊り、型の徹底）
5	扇子の扱い方、基礎的な踊り（扇子）
6	基礎的な踊り（曲全体の音と型の徹底）
7	課題曲１（男踊りの基礎）
8	課題曲１（曲全体の把握）
9	課題曲１（振りと音の徹底）
10	課題曲１（まとめ）
11	課題曲２（導入）、課題曲１の復習
12	課題曲２（振りと所作）、課題曲１の復習
13	課題曲２（振りと音の徹底）、課題曲１の復習
14	課題曲２（まとめ）, 課題曲１の復習
15	まとめと試験

科目名	身体表現演習II （後） ［水5］						
代表教員	林　七重	授業コード	GE272800	科目コード	GE2728	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME・MS・BL・AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「身体表現演習Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

身体表現の基礎を学び、それぞれにあった魅せ方と、
身体と空間。身体と音楽との可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

身体表現とは鍛錬したダンサーだけのものではありません。
動きにはそれぞれに魅力と個性があります。
先入観を持たずに体の感覚を意識的に観察して、解放する。
そうすることで新しい自分の表現、能力を体得していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習、舞台（舞踊、演劇）鑑賞、映画鑑賞、美術鑑賞,読書等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD等

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ダンスシューズ、または動きやすいシューズを使用。
　動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体の動きが見えるものが望ましい。
　汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	[半期]後期
1	ガイダンス及び身体表現演習　動きで表現するための肉体の使い方を知る（基礎）ボディワークを基礎としたエクササイズを理解する。
2	身体表現演習　肉体の使い方を知る（応用） 身体のコントロール、正しい使い方を学ぶ。
3	身体表現演習　肉体の使い方を知る（発展） ボディワークで整えた身体で動きの質の変化を体感する。
4	基本の動きの習得（基礎）基礎を理解し、肉体についても正しい認識を持つ。
5	基本の動きの習得（応用）基礎を正確に動けるように意識しながら実践する。
6	演習してきた基礎や動きを振付の中でより深く学ぶ。
7	身体の感覚の視点を変え意識し、動く。（基礎）
8	身体の感覚の視点を人と関わることで変わることを知る。（応用）
9	身体の感覚の視点が空間を意識することで変わることを知る。（発展）
10	成果発表に向けて必要事項の検討。
11	成果発表に向けての演習（振付）
12	成果発表に向けての演習（応用）
13	前期成果発表に向けての演習（発展）
14	前期成果発表に向けての仕上げ
15	成果発表、総括

科目名	身体表現演習II （後） ［木1］AS専用（狂言）						
代表教員	金田　弘明	授業コード	GE2728A0	科目コード	GE2728	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本古来の伝統芸能、狂言の舞踊「小舞」の稽古を通して、自己の身体を見つめ直し、個々の身体表現の更なる深化をすすめる。

２．授業概要

構え（姿勢）や運び（歩き方）といった基本的な所作にはじまり、狂言小舞の舞と謡、その型と発声から、狂言独自の表現における強さ・美しさを体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で稽古した内容を復習し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の７０パーセント）、おさらい（評価の３０パーセント）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

謡本はコピーして配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

白足袋持参のこと。（初回授業で説明）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、狂言についての説明（歴史、特徴、小舞についてなど）、実演の鑑賞、構え・運びなど基本的な所作。小舞「兎」の謡。
2	構え、運び。小舞「兎」の謡と舞。
3	小舞「兎」のおさらい。小舞「花の袖」の謡。
4	小舞「花の袖」謡、舞。
5	小舞「花の袖」おさらい。 小舞「宇治の晒し」謡（前半部）。
6	小舞「宇治の晒し」謡。舞。（後半部）
7	小舞「宇治の晒し」謡、舞。（全体）
8	小舞「宇治の晒し」おさらい。 小舞「暁」（前半部）の謡。
9	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。
10	小舞「暁」（前半部通し）の謡、舞。 小舞「暁」後半部の謡。
11	小舞「暁」の謡、舞。前半部、後半部、通しの稽古。
12	小舞「暁」のおさらい。 小舞「福の神」の謡。
13	小舞「福の神」の謡、舞。（前半部）
14	小舞「福の神」の謡、舞。（後半部）
15	小舞「福の神」の謡、舞。おさらい。

科目名	合唱実習１　[火5]						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE272900	科目コード	GE2729	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

授業及びクラブ活動での合唱の指導法を学ぶ。併せて基礎訓練の方法を修得し、応用出来る事を目標とする。
学校音楽において、合唱活動はその大半を占めます。そこで重要なのは多くの曲に触れ、多くの経験を重ねる事です。
教育現場で演奏される頻度の高い曲を多く学び、現場にて活用出来るように、豊かな表現力に富んだ合唱実習を作品を通じて学び実践していきます。

２．授業概要

発声について、ハーモニーについて、バランスについて等合唱作りのプロセスを順に習得していく。
また歌詞から導き出す曲作りも合わせて習得していく。
その全てを実際の授業で指導、活用できる事を目標に学ぶ。
合わせて音程、声質、変声期等の指導について探っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本の合唱界の各組織団体のホームページなどで自分の知らない合唱界の存在の下調べをして欲しい。
可能であれば近隣のアマチュア合唱団に所属して、合唱が如何に「一生モノの趣味」であるかを学ぼう！
小学　中学　高校ではどの様な曲が多く歌われているか？等も調べて欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に試験を行うので各自準備して臨むこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜紹介または配布、購入をする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の欠席が、３分の１を超える者については定期試験の受験資格を失う。
先ずは自分の声の高さを性別により高めの声か低めの声かを自己判断し、その結果に基づいて申告制で女性はソプラノ＆アルト、男声はテノールとバスに分かれてみよう。
学校における合唱は授業にとどまらず学内 学外のイベントや学内　学外コンクールと多岐にわたります。合唱曲やその演奏に積極的に接し授業に意欲的に取り組んでください

授業計画	
	［前期］ 腹式呼吸、発声指導の基礎を学ぶ。身体を使い歌の声について支え、響き等身体をどのように使うのか討論しながら実践形式で進めます。また中高生に伝わりやす表現法を見出し分かりやすい指導法の習得を目指します。
1	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得して頂く
2	腹式呼吸とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う
3	発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う
4	腹式呼吸・発声指導と交え曲を使い指導実習を行う
5	各自が選んだ教材を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
6	教科書に載っている楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
7	各自が選んだ外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
8	教科書に載っている外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
9	各自が指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
10	各自がイタリア語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
11	各自がドイツ語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
12	中学校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
13	高校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
14	音楽の授業をテーマにどんな授業が受けたいか、どうな授業をしたいか自分の経験体験を踏まえて後期に向けた各自の指導テーマを挙げる
15	前期講義の総括

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会を踏まえ曲の選択、指導計画を立てる。 前期の指導経験をさらに伸ばしステージでその成果を発揮することを目標とする。また各自の挙げた指導テーマを進めていく。
1	前期で行った呼吸法、発声法の復習。 各自が選択した教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
2	各自が選択したイタリア語教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
3	各自が選択したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
4	指定したイタリア語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
5	指定したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
6	定期演奏会の曲を教材にしたパート練習実践
7	定期演奏会の曲を教材にし自分と違うパートの指導実践
8	定期演奏会の曲を教材にしてリズム、音程についての指導実習
9	定期演奏会の曲を教材にして指導実習を行う
10	定期演奏会リハーサル
11	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニックを学ぶ
12	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を学ぶ
13	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を実践する
14	最終講義日での発表リハーサル
15	指導成果の発表と総括

科目名	合唱実習２　［火5］						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE273000	科目コード	GE2730	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

授業及びクラブ活動での合唱の指導法を学ぶ。併せて基礎訓練の方法を修得し、応用出来る事を目標とする。
学校音楽において、合唱活動はその大半を占めます。そこで重要なのは多くの曲に触れ、多くの経験を重ねる事です。
教育現場で演奏される頻度の高い曲を多く学び、現場にて活用出来るように、豊かな表現力に富んだ合唱実習を作品を通じて学び実践していきます。

２．授業概要

発声について、ハーモニーについて、バランスについて等合唱作りのプロセスを順に習得していく。
また歌詞から導き出す曲作りも合わせて習得していく。
その全てを実際の授業で指導、活用できる事を目標に学ぶ。
合わせて音程、声質、変声期等の指導について探っていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本の合唱界の各組織団体のホームページなどで自分の知らない合唱界の存在の下調べをして欲しい。
可能であれば近隣のアマチュア合唱団に所属して、合唱が如何に「一生モノの趣味」であるかを学ぼう！
小学　中学　高校ではどの様な曲が多く歌われているか？等も調べて欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に試験を行うので各自準備して臨むこと。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜紹介または配布、購入をする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の欠席が、３分の１を超える者については定期試験の受験資格を失う。
先ずは自分の声の高さを性別により高めの声か低めの声かを自己判断し、その結果に基づいて申告制で女性はソプラノ＆アルト、男声はテノールとバスに分かれてみよう。
学校における合唱は授業にとどまらず学内 学外のイベントや学内　学外コンクールと多岐にわたります。合唱曲やその演奏に積極的に接し授業に意欲的に取り組んでください

授業計画	
	［前期］ 腹式呼吸、発声指導の基礎を学ぶ。身体を使い歌の声について支え、響き等身体をどのように使うのか討論しながら実践形式で進めます。また中高生に伝わりやす表現法を見出し分かりやすい指導法の習得を目指します。
1	腹式呼吸・発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得して頂く
2	腹式呼吸とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う
3	発声指導とは何かを、具体的に身体を使い、声を出して体得し指導実習を行う
4	腹式呼吸・発声指導と交え曲を使い指導実習を行う
5	各自が選んだ教材を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
6	教科書に載っている楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
7	各自が選んだ外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
8	教科書に載っている外国語の楽曲を使いながら呼吸法・発声法を生かしたハーモニー造りを実践する
9	各自が指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
10	各自がイタリア語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
11	各自がドイツ語の指導曲を選択しその演奏、表現等の目標掲げ実践する
12	中学校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
13	高校合唱コンクールをテーマに企画、進行をシュミレーションする。どの様な準備が必要か？どんな曲を選ぶか等議論しながら進めていく
14	音楽の授業をテーマにどんな授業が受けたいか、どうな授業をしたいか自分の経験体験を踏まえて後期に向けた各自の指導テーマを挙げる
15	前期講義の総括

授業計画	
	［後期］ 定期演奏会を踏まえ曲の選択、指導計画を立てる。 前期の指導経験をさらに伸ばしステージでその成果を発揮することを目標とする。また各自の挙げた指導テーマを進めていく。
1	前期で行った呼吸法、発声法の復習。 各自が選択した教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
2	各自が選択したイタリア語教材を使いこちらが指示した指導目標を実践する
3	各自が選択したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
4	指定したイタリア語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
5	指定したドイツ語の楽曲を使いこちらが指示した指導目標を実践する
6	定期演奏会の曲を教材にしたパート練習実践
7	定期演奏会の曲を教材にし自分と違うパートの指導実践
8	定期演奏会の曲を教材にしてリズム、音程についての指導実習
9	定期演奏会の曲を教材にして指導実習を行う
10	定期演奏会リハーサル
11	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニックを学ぶ
12	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を学ぶ
13	指揮、伴奏と組みを作り演奏曲を選択し最終講義日での発表を目指す。また合唱団の指導のテクニック・話術を実践する
14	最終講義日での発表リハーサル
15	指導成果の発表と総括

科目名	音楽創作ワークショップ１　［木5］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE273500	科目コード	GE2735	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	ME・CO	科目分類	ME/CO専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】

学校教育の音楽科授業における「創作」の分野について、その意義や手法を理解すべく、実践、研究をします。
【目標】
学校をはじめとしたさまざまな教育の場で、音楽創作、音楽づくりが指導できるノウハウを身につけます。

２．授業概要

【前期】『演習を通じて創作を体験』
声、楽器などを用いて、いくつかのテーマ(素材)を、クラスで創作、即興をします。音楽のさまざまな仕組みや要素を創作のための手がかりとし、それらを豊かに活用して、いきいきとした音楽表現に結びつける過程を体験します。
【後期】『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究』
「創作」は「鑑賞」とも大きな関連を持ちます。ジャンル、時代を問わず、幅広いさまざま音楽作品にふれながら、多様な創作の手法を研究し、それらを生かした、履修生による創作の授業づくりを行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業での創作の演習、研究のための準備に、各自真摯にに取り組む必要があります。授業の各回のテーマが異なるため、個々に準備する内容が求められるケースと、グループで力を合わせて準備する内容が求められるケースがありますが、どちらも履修生の積極的な姿勢が望まれます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と模擬授業実践の成果等を基準に、総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
授業の各回で資料を配付しますので、各自ファイリングをして下さい。
【参考文献】
「中学校新学習指導要領ポイント総整理」2017（東洋館出版社）
「音楽づくりの授業アイディア集」坪能克裕、坪能由紀子他著 2012（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業で得られる知識と理解は、学習指導要領が定める「表現」「鑑賞」の両方に関わってきます。将来、教壇に立つことを想定して受講して下さい。

授業計画	
	［前期］『演習を通じて創作を体験』
1	前期ガイダンス
2	創作（音楽表現）と鑑賞の関わり合いについて
3	音楽づくり（小学校）と音楽創作（中学校、高等学校）の違いについて
4	音楽素材の教材化について
5	言葉を使った音楽づくり、音楽創作の実践
6	ポリリズムを使った音楽づくり、音楽創作の実践
7	五音音階、琉球音階による音楽づくり、音楽創作の実践
8	リコーダーを用いた音楽創作の実践
9	鍵盤ハーモニカを用いた音楽創作の実践
10	箏を用いた音楽創作の実践
11	音楽素材の組み合わせと即興表現について
12	打楽器を用いた音楽創作の実践
13	トーンチャイムを用いた音楽創作の実践
14	ブルースをテーマとした音楽づくりの実践
15	前期総括

授業計画	
	［後期］ 『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究して授業づくりに生かす』
1	後期ガイダンス
2	音楽の構造について～J.S.バッハの作品を例に
3	変奏の手法について
4	反復の手法について
5	反復、変奏に基づく創作の実践
6	全音音階、移調の限られた旋法について
7	教会旋法について
8	種々の音階に基づく創作の実践
9	ドローンの手法について
10	カノンの手法について
11	ドローン、カノンを活用した創作の実践
12	循環コードの手法について
13	循環コードを活用した創作の実践
14	現代音楽のさまざまな手法から
15	後期総括

科目名	音楽創作ワークショップ２　［木5］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE273600	科目コード	GE2736	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	ME・CO	科目分類	ME/CO専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】

学校教育の音楽科授業における「創作」の分野について、その意義や手法を理解すべく、実践、研究をします。
【目標】
学校をはじめとしたさまざまな教育の場で、音楽創作、音楽づくりが指導できるノウハウを身につけます。

２．授業概要

【前期】『演習を通じて創作を体験』
声、楽器などを用いて、いくつかのテーマ(素材)を、クラスで創作、即興をします。音楽のさまざまな仕組みや要素を創作のための手がかりとし、それらを豊かに活用して、いきいきとした音楽表現に結びつける過程を体験します。
【後期】『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究』
「創作」は「鑑賞」とも大きな関連を持ちます。ジャンル、時代を問わず、幅広いさまざま音楽作品にふれながら、多様な創作の手法を研究し、それらを生かした、履修生による創作の授業づくりを行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業での創作の演習、研究のための準備に、各自真摯にに取り組む必要があります。授業の各回のテーマが異なるため、個々に準備する内容が求められるケースと、グループで力を合わせて準備する内容が求められるケースがありますが、どちらも履修生の積極的な姿勢が望まれます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と模擬授業実践の成果等を基準に、総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
授業の各回で資料を配付しますので、各自ファイリングをして下さい。
【参考文献】
「中学校新学習指導要領ポイント総整理」2017（東洋館出版社）
「音楽づくりの授業アイディア集」坪能克裕、坪能由紀子他著 2012（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業で得られる知識と理解は、学習指導要領が定める「表現」「鑑賞」の両方に関わってきます。将来、教壇に立つことを想定して受講して下さい。

授業計画	
	［前期］『演習を通じて創作を体験』
1	前期ガイダンス
2	創作（音楽表現）と鑑賞の関わり合いについて
3	音楽づくり（小学校）と音楽創作（中学校、高等学校）の違いについて
4	音楽素材の教材化について
5	言葉を使った音楽づくり、音楽創作の実践
6	ポリリズムを使った音楽づくり、音楽創作の実践
7	五音音階、琉球音階による音楽づくり、音楽創作の実践
8	リコーダーを用いた音楽創作の実践
9	鍵盤ハーモニカを用いた音楽創作の実践
10	箏を用いた音楽創作の実践
11	音楽素材の組み合わせと即興表現について
12	打楽器を用いた音楽創作の実践
13	トーンチャイムを用いた音楽創作の実践
14	ブルースをテーマとした音楽づくりの実践
15	前期総括

授業計画	
	［後期］ 『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究して授業づくりに生かす』
1	後期ガイダンス
2	音楽の構造について～J.S.バッハの作品を例に
3	変奏の手法について
4	反復の手法について
5	反復、変奏に基づく創作の実践
6	全音音階、移調の限られた旋法について
7	教会旋法について
8	種々の音階に基づく創作の実践
9	ドローンの手法について
10	カノンの手法について
11	ドローン、カノンを活用した創作の実践
12	循環コードの手法について
13	循環コードを活用した創作の実践
14	現代音楽のさまざまな手法から
15	後期総括

科目名	音楽創作ワークショップ３　[木5]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE273700	科目コード	GE2737	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	ME・CO	科目分類	ME/CO専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】

学校教育の音楽科授業における「創作」の分野について、その意義や手法を理解すべく、実践、研究をします。
【目標】
学校をはじめとしたさまざまな教育の場で、音楽創作、音楽づくりが指導できるノウハウを身につけます。

２．授業概要

【前期】『演習を通じて創作を体験』
声、楽器などを用いて、いくつかのテーマ(素材)を、クラスで創作、即興をします。音楽のさまざまな仕組みや要素を創作のための手がかりとし、それらを豊かに活用して、いきいきとした音楽表現に結びつける過程を体験します。
【後期】『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究』
「創作」は「鑑賞」とも大きな関連を持ちます。ジャンル、時代を問わず、幅広いさまざま音楽作品にふれながら、多様な創作の手法を研究し、それらを生かした、履修生による創作の授業づくりを行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業での創作の演習、研究のための準備に、各自真摯にに取り組む必要があります。授業の各回のテーマが異なるため、個々に準備する内容が求められるケースと、グループで力を合わせて準備する内容が求められるケースがありますが、どちらも履修生の積極的な姿勢が望まれます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と模擬授業実践の成果等を基準に、総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
授業の各回で資料を配付しますので、各自ファイリングをして下さい。
【参考文献】
「中学校新学習指導要領ポイント総整理」2017（東洋館出版社）
「音楽づくりの授業アイディア集」坪能克裕、坪能由紀子他著 2012（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この授業で得られる知識と理解は、学習指導要領が定める「表現」「鑑賞」の両方に関わってきます。将来、教壇に立つことを想定して受講して下さい。

授業計画	
	［前期］『演習を通じて創作を体験』
1	前期ガイダンス
2	創作（音楽表現）と鑑賞の関わり合いについて
3	音楽づくり（小学校）と音楽創作（中学校、高等学校）の違いについて
4	音楽素材の教材化について
5	言葉を使った音楽づくり、音楽創作の実践
6	ポリリズムを使った音楽づくり、音楽創作の実践
7	五音音階、琉球音階による音楽づくり、音楽創作の実践
8	リコーダーを用いた音楽創作の実践
9	鍵盤ハーモニカを用いた音楽創作の実践
10	箏を用いた音楽創作の実践
11	音楽素材の組み合わせと即興表現について
12	打楽器を用いた音楽創作の実践
13	トーンチャイムを用いた音楽創作の実践
14	ブルースをテーマとした音楽づくりの実践
15	前期総括

授業計画	
	［後期］ 『さまざまな音楽作品から創作の手法を研究して授業づくりに生かす』
1	後期ガイダンス
2	音楽の構造について～J.S.バッハの作品を例に
3	変奏の手法について
4	反復の手法について
5	反復、変奏に基づく創作の実践
6	全音音階、移調の限られた旋法について
7	教会旋法について
8	種々の音階に基づく創作の実践
9	ドローンの手法について
10	カノンの手法について
11	ドローン、カノンを活用した創作の実践
12	循環コードの手法について
13	循環コードを活用した創作の実践
14	現代音楽のさまざまな手法から
15	後期総括

科目名	邦楽実習（箏） １～４　［月5］						
代表教員	野澤　佐保子	授業コード	GE274100	科目コード	GE2741d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年学校教育現場や社会の様々な場で日本音楽が重視されて来ています。
本授業はそれに対応できることを目標とし、基本奏法から小中学生が演奏できる曲や、「さくら」「六段」などの教科書収載曲の演奏法を身につけます。さらには、楽器の扱いや、流派の相違など基礎的な知識を身につけ、古典や現代の箏曲の知見を深めることを目指しています。

２．授業概要

前期は基本奏法を中心に「さくら」や「わらべうた」などの簡単な曲を習得し、後期は「六段」や「合奏曲」をしながら色々な奏法を身に付け、アンサンブルも楽しみたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜を読む復習をする。希望者は楽器の購入も可能。楽器での奏法予習、復習が望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の８０％）
学年末実技テスト（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
　初回授業時に販売します。
『やさしい箏入門』野澤佐保子著（ドレミ楽譜出版社）1,944円税込
楽譜：
プリントを配布します。
必要に応じて、楽譜を購入すること。
参考文献：
『和楽器にチャレンジ！３　箏をひいてみよう』
現代邦楽研究所編（汐文社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

箏爪がない場合は初回の授業で爪を購入すること。
〈１組 6,480円税込。各自の指に合わせて作ります。〉
人数によっては履修を制限する場合があります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	基本奏法１右手奏法
3	基本奏法２左手奏法
4	基本奏法３確認
5	基本奏法４定着
6	応用練習１小曲奏法説明
7	応用練習２小曲確認
8	応用練習３表現の工夫
9	応用練習４定着
10	「六段」奏法説明
11	「六段」演奏練習１奏法確認
12	「六段」演奏練習２定着
13	「簡単な合奏曲」練習１奏法説明
14	「簡単な合奏曲」練習２確認
15	「簡単な合奏曲」練習３定着

授業計画	
	［後期］
1	「六段」復習１奏法確認
2	「六段」復習２定着
3	「六段」復習３表現の工夫
4	「六段」復習４仕上げの演奏
5	「六段」復習５試験に向けての確認 「合奏曲」奏法説明１確認
6	「合奏曲」奏法説明２定着
7	「合奏曲」奏法練習１表現の工夫
8	「合奏曲」奏法練習２精度の向上
9	「合奏曲」奏法練習３より良い演奏を考える
10	「合奏曲」奏法練習４各パートの仕上げ
11	「合奏曲」合奏練習１確認
12	「合奏曲」合奏練習２定着
13	「合奏曲」合奏練習３精度の向上
14	「合奏曲」合奏練習４表現の工夫
15	「合奏曲」合奏練習５仕上げの演奏

科目名	即興伴奏法　[月5]						
代表教員	谷川　マユコ	授業コード	GE276100	科目コード	GE2761	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	ME	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・小学校　中学校　高等学校における音楽の授業及び、生涯音楽教育に役立つ即興伴奏の技術を身につける。
・コードネームが書かれた楽譜に基づき、ピアノで即興伴奏ができるようになる。
・旋律を弾かない伴奏（両手伴奏）及び、旋律を弾く伴奏（メロディ奏）の基礎的な技術を身につける。
・メロディに合う和音を付け、ベースラインを考慮に入れながら伴奏を作成する。

2．授業概要

・コード（和音）そのものと、和音進行（和声感）を理解し、簡単なメロディにコードをつけて伴奏できるようにする。
・いろいろなリズムパターンを習得し、コードのみの譜面で伴奏する。
・いろいろな音階（モード）を使って即興伴奏をする。
・伴奏しながら歌う（弾き歌い）ことを習得する。
・一人一台のピアノで授業を行うのを理想としているので、授業全体を通し複数でのセッションを積極的に取り入れる。積極的に参加することにより、教育現場等の様々な場面をシュミレートすることができる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽を学ぶ学生は大学の外でも音楽に触れる機会があるだろう。例えば個人入会しているピアノ等の教室、
ボランティアの活動中、もちろん自宅での練習等。そんな時は積極的にピアノ伴奏をして欲しい。
授業で学習したことは、実地で生かすよう、日頃から意識して伴奏する機会を自分自身で作るよう努力する。

4．成績評価の方法及び基準

実技試験（授業内発表を含む）評価の30%
授業への参加姿勢　評価の70%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・プリントによる自主テキストを用いる
・中・高音楽教科書
・『ポピュラーリズムの弾き方』ジョン・プリムホール著（ATM.inc.）1968
・『歌謡曲のすべて』上・下（全音楽譜出版社）2004

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

欠席する際は事前連絡をすること。
楽典や和声の知識が必要になるので、復習すること。

授業計画	
	［前期］
1	オリエンテーション
2	コードの成り立ちⅠ　三和音
3	コードの成り立ちⅡ　セブンス
4	コードの成り立ちⅢ 複雑な和音
5	ベース及びベースライン
6	簡単なコード伴奏実践Ⅰ　抜粋して練習
7	簡単なコード伴奏実践Ⅱ 一曲弾く
8	コード伴奏応用Ⅰ（両手伴奏）
9	コード伴奏応用Ⅱ ポジションを変えて
10	いろいろな伴奏型Ⅰ3拍子・4拍子の主なリズム系
11	いろいろな伴奏型Ⅱ ラテンリズム
12	いろいろな伴奏型Ⅲ　弾き歌いⅠ
13	両手伴奏まとめ　　弾き歌いⅡ
14	両手伴奏まとめ（移調含）　　弾き歌いⅢ
15	前期到達発表

授業計画	
	［後期］
1	旋律を弾く伴奏Ⅰ　コードの開離配置
2	旋律を弾く伴奏Ⅱ　ベースラインの確認
3	旋律を弾く伴奏Ⅲ　内声の響き
4	コード設定Ⅰ　簡単なコード付け
5	コード設定Ⅱ　付加音　代理コード
6	前奏と後奏Ⅰ　前奏
7	前奏と後奏Ⅱ　後奏
8	モードを使った伴奏Ⅰ　日本音階
9	モードを使った伴奏Ⅱ　ブルース
10	モードを使った伴奏Ⅲ　実践
11	コードの拡張（テンション）
12	複数の声部を弾く・移調
13	４声帯を弾く　弾き歌いⅣ
14	4声帯を弾く・移調　　弾き歌いⅤ
15	まとめ　コード伴奏・弾き歌い　発表

科目名	邦楽実習（笛） １～４　［火5］						
代表教員	福原　徹	授業コード	GE279100	科目コード	GE2791d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	ME:必修/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題
・日本の笛（篠笛）実習（実技と講義）
到達目標
・篠笛でやさしい楽曲が吹けるようになる。
・笛の特性を生かした創作への手がかりを得る。
・笛や日本伝統音楽への理解を深め、音楽や文化について幅広い視点を持つことができる。
・素朴でシンプルな「篠笛」を吹く体験、また日本の伝統的な音楽を体感することを通じて、音や音楽の新たな発見や感性を磨くことができる。

２．授業概要

日本の笛の中で、最もポピュラーである「篠笛」の実技です。
前期は、取り扱いや持ち方、音の出し方から始めて、やさしい楽曲が吹けるよう練習します。古典的・基本的な曲を中心に楽しく吹いて行きます。その中で、篠笛、あるいは和楽器や邦楽の特徴なども自然に体感できるでしょう。
後期は、さらに曲の枠を広げて技術向上を目指します。また、皆さんが将来直面するかもしれない篠笛を用いた教材作りやアレンジ、創作の手がかりとなるよう、笛の特性を生かした音楽を創る実習をします。高度なものをめざすのではなく、自分で吹けるような短く簡単なものでどんなことができるのか、という方向で考えてみたいと思います。
グループレッスンが中心ですが、時々一人で吹いてもらったり演奏を聴いてもらったり、笛や日本の伝統音楽についての講義、また演奏家としての体験談などもお話しするつもりです。
今まで笛や管楽器、邦楽に触れてこなかった人も歓迎します。

実務経験のある教員による授業科目
{教員プロフィール, https://www.senzoku.ac.jp/music/teacher/toru-fukuhara}

３．授業時間外の学習（予習復習について）

笛の実技なので、週一回の授業時間内だけでは技術を習得できません。毎日15分～30分程度の練習が必要です。忙しくても、短時間でも必ず毎日練習してください。夜間など音が出せない状況でも、必ず篠笛に触れてください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加度（50%）、演奏発表の成果（50%）で評価します。
授業では、毎回コメントシートを書いて提出してもらいます。また、基本はクラス全体でのグループレッスンですが、交代で一人で吹く機会を作って練習状況の確認をします。これらによって参加度を評価します。
演奏発表は、前期（授業で学習した楽曲）と、後期（各自が作った小品）の計2回。演奏結果の良し悪しだけでなく、取り組み方や積極性を重視します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽器
篠笛（プラスチック製、七本調子。1800円程度）
ドミナントにて購入。個人ですでに篠笛（竹製、プラスチック製にかかわらず）を持っていても、調子が合わない場合は新たに購入してもらいます。（クラス全体でのグループレッスンとなるため。）

テキスト
「やさしく学べる笛教本」（福原徹著、洗足学園音楽大学現代邦楽研究所編、汐文社発行。2000円＋税）
ドミナントにて購入。（現在絶版のため、他所で購入するのは困難です。）

その他、随時プリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

繊細な音を扱い、集中力が必要なので、私語厳禁です。また、スマートフォンや携帯電話等の使用は、特に許可した場合以外、厳禁とします。発覚した場合は退席してもらいます。

授業も演奏発表も、積極的な参加を望みます。
最初は音を出すのが難しいですが、練習すれば必ず吹けるようになります。そして、声と同じように、一人ひとり異なる音色になります。歌うように吹くことで自分の思いを音に託すことができます。生涯の友になってくれる楽器です。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 篠笛の基本的知識
2	基礎練習1 構え方、持ち方、音の出し方
3	基礎練習2 低音域、高音域の音の出し方
4	基礎練習3 特殊な指づかい、半音
5	基礎練習4 さし指、メリカリ
6	楽曲練習1 「かごめかごめ」「さくらさくら」
7	楽曲練習2 「荒城の月」「子守唄」
8	楽曲練習3 長唄めりやす「明の鐘」（前半）
9	楽曲練習4 長唄めりやす「明の鐘」（後半）
10	楽曲練習5 「月」「お江戸日本橋」
11	楽曲練習6 長唄「越後獅子」より（前半）
12	楽曲練習7 長唄「越後獅子」より（後半）
13	演奏発表に向けた楽曲練習 笛を吹く時の姿、マナー
14	前期演奏発表とまとめ （前期に練習した楽曲）
15	（演奏発表予備日） 前期学習事項の確認と発展

授業計画	
	［後期］
1	前期に練習した楽曲の総復習 音質の向上、奏法の研究
2	楽曲練習8 長唄「元禄花見踊」より
3	楽曲練習9 「鞠と殿さま」
4	楽曲練習10 「ふたり」
5	楽曲練習11 「竹の踊り」
6	楽曲練習12 邦楽以外のメロディを吹いてみる
7	能管（のうかん）と篠笛 唱歌（しょうが）について
8	創作実習1 限られた音だけで曲を作ってみる
9	創作実習2 既成の曲を題材、ヒントにして作ってみる
10	創作実習3 シチュエーション設定して短い曲を作ってみる
11	創作実習4 演奏発表作品（1分～3分）を作る
12	創作実習5 作品を完成させる
13	演奏発表に向けた練習 創作小品の最終確認
14	後期演奏発表とまとめ （各自の創作小品）
15	（演奏発表予備日） これまで学習したことの総復習

科目名	教育アンサンブル1～4　[月4]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE279600	科目コード	GE2796d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

この授業では、音楽教育の分野で極めて重要な役割を果たす「器楽合奏」について、一から考察し、学習をしていきながら、演習を重ねていく。実際の教育の現場では、十分に楽器が揃っていなかったり、生徒たちの演奏能力がまちまちであったり、編成に見合った編曲譜がなかったりすることが実にしばしばであり、そのような環境においても、楽しく実り大きな指導というものが求められている昨今である。このような現場での多様なニーズに応えられるように、授業を通じて自らも実際の合奏に参加し、知識や経験を積んでいくことが当講座の主眼となる。この授業で習得したことが、将来の教育現場での指導法、教材の開発へとつながっていくことを望む。

2．授業概要

前期は、履修者の音楽スキルに見合った合奏形態の検討と確立を核として授業を進めていく。後期は、「音楽教育コース定期演奏会」出演に向けての合奏練習と、合奏指導のシミュレーションを核として授業を進めていく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏楽曲のアンサンブルを仕上げていくために、各自が準備、練習等、積極的に取り組む必要がある。それは履修者各自が個人で行うものと、履修者同士が互いに力を合わせてみんなでつくりあげていくものの両面にわたり積極的な姿勢が望まれる。そして「音楽教育コース定期演奏会」での出演という機会が、この講座での学習の成果発表の場となる。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（合奏に取り組む熱意、練習への意欲等）を評価の100%とする。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

用途に応じ、授業内で随時、配布、紹介をしていく。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ アンサンブルに関する概論と実習　【基礎編】
1	ガイダンス～合奏で音楽を作り上げていくといことは、どういうことか？
2	概論1：合奏形態についての考察～デュオからオーケストラまで
3	概論2：楽譜から何を読み取り、何を指導するか？
4	概論3：合奏レパートリーについて
5	演奏スキルを含めた履修者の自己プレゼンテーション
6	全員参加アンサンブルに向けての編成とレパートリーの検討
7	合奏編曲法の基礎知識
8	合奏編曲法の基礎理論
9	簡単な合奏編曲の実践
10	初めての合奏～ベーシックハーモニー
11	合奏試演1～精確な譜読みと音出し
12	合奏試演2～全体の響きのバランスをとることを主眼に
13	合奏試演3～適切な奏法と表現に留意して
14	合奏試演4～合奏の仕上げを目標に
15	「音楽教育コース定期演奏会」準備計画立案

授業計画	
	［後期］ アンサンブルに関する概論と実習　【応用編】
1	「音楽教育コース定期演奏会」準備計画始動
2	編曲と合奏の実践1～精確な譜読みと音出し
3	編曲と合奏の実践2～全体の響きのバランスをとることを主眼に
4	編曲と合奏の実践3～あらためて楽曲のスタイル、形式を見つめ直して
5	編曲と合奏の実践4～適切な奏法と表現に留意して
6	編曲と合奏の実践5～一段階上の合奏を目指し音色に注目
7	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル1～演奏の基本の見直し
8	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル2～楽曲の特色を活かした演奏表現を目指す
9	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル3～訴求力の高い合奏を目指す
10	「音楽教育コース定期演奏会」リハーサル4～本番を意識して合奏を仕上げる
11	「音楽教育コース定期演奏会」最終リハーサル
12	「音楽教育コース定期演奏会」の反省会
13	合奏指導案のプレゼンテーション
14	合奏指導法についてのディスカッション
15	総括

科目名	ｳﾞｫｲｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(ｼﾞｬｽﾞ)1/ｳﾞｫｰｶﾙﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ1　(前)　[金3]						
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	GE291500	科目コード	GE2915	期間	半期
担当教員	瀬田　創太、蟻正　行義						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヴォーカリストの音楽家としての向上に必要なことは、ただ漠然と歌を練習するだけにでなく、声楽としての楽器力、ヴォーカリストとしての表現の理解、歌詞の理解、また、他の楽器とアンサンブルするための基礎的な知識とその体験、グルーブについての理解など多岐にわたる。ヴォーカルパフォーマンス１ー８ではこれらの内容を段階的、また多角的に学んでいく

２．授業概要

２人の教員（ヴォーカル教員、器楽教員）による各７回の授業で（１回目はガイダンス）、それぞれの教員がヴォーカルの特性やヴォーカリストとしてどのようにバンドの中で機能するべきかを実技を中心として指導する。教員のスケジュールは変更される場合がある

３．授業時間外の学習（予習復習について）

この授業で学ぶことは、ヴォーカリストとしての技術だけでなくコンセプトや他の楽器とのコミュニケーションであるため、授業外で自ら体験として他の楽器と練習したり、自分のコンセプトを模索するなどの努力が必要である

４．成績評価の方法及び基準

２人の教員が、それぞれの７回分の授業について成績をつけ、その平均を最終的な成績とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な場合は教員から指示される

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヴォーカリストが自ら演奏家の一員となり他の楽器とコミュニケーションをとりながらバンド全体として高い音楽性を目指すという積極的な姿勢が望まれる

ヴォーカル以外の楽器の学生も履修可

ヴォイストレーニングの授業では、服装はなるべく動きやすいものを着用すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	三橋千鶴：２回目ー８回目　ヴォイストレーニング１概要
3	ヴォイストレーニング２身体の構造について、個々の声質と声域のチェック
4	ヴォイストレーニング３発声、練習曲(前回の授業から個々の学生の程度に合わせ、コンコーネ50番より抜粋して配布)
5	ヴォイストレーニング４発声、姿勢について(公開レッスン形式で1人ずつ歌唱)
6	ヴォイストレーニング５発声、癖について(公開レッスン形式で歌唱)、次週のテキスト配布(イタリア歌曲集から個々の声域にあったキーを探る)
7	ヴォイストレーニング６発声、表現について(公開レッスン形式で歌唱)
8	ヴォイストレーニング７発声、声と身体のリンクについて(公開レッスン形式で歌唱)
9	瀬田創太：９回目ー１５回目　楽曲の基礎知識
10	楽曲のハーモニーについて
11	イントロやエンディングなどのアレンジ
12	他楽器とのコミュニケーション：ピアノ
13	他楽器とのコミュニケーション：ベース
14	他楽器とのコミュニケーション：ドラム
15	グルーブとリズムスタイル

科目名	ｳﾞｫｲｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(ｼﾞｬｽﾞ)2/ｳﾞｫｰｶﾙﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ2　(後)　[金3]						
代表教員	ＣＨＡＫＡ	授業コード	GE291600	科目コード	GE2916	期間	半期
担当教員	白仁“KOTETSU”賢哉、蟻正　行義						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヴォーカリストの音楽家としての向上に必要なことは、ただ漠然と歌を練習するだけにでなく、声楽としての楽器力、ヴォーカリストとしての表現の理解、歌詞の理解、また、他の楽器とアンサンブルするための基礎的な知識とその体験、グルーブについての理解など多岐にわたる。ヴォーカルパフォーマンス１ー８ではこれらの内容を段階的、また多角的に学んでいく

２．授業概要

２人の教員（ヴォーカル教員、器楽教員）による各７回の授業で（１回目はガイダンス）、それぞれの教員がヴォーカルの特性やヴォーカリストとしてどのようにバンドの中で機能するべきかを実技を中心として指導する。教員のスケジュールは変更される場合がある

３．授業時間外の学習（予習復習について）

この授業で学ぶことは、ヴォーカリストとしての技術だけでなくコンセプトや他の楽器とのコミュニケーションであるため、授業外で自ら体験として他の楽器と練習したり、自分のコンセプトを模索するなどの努力が必要である

４．成績評価の方法及び基準

２人の教員が、それぞれの７回分の授業について成績をつけ、その平均を最終的な成績とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な場合は教員から指示される

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヴォーカリストが自ら演奏家の一員となり他の楽器とコミュニケーションをとりながらバンド全体として高い音楽性を目指すという積極的な姿勢が望まれる

ヴォーカル以外の楽器の学生も履修可

またヴォイストレーニングの授業では、　動きやすい服装で受講のこと（ミニスカート、足の開かないきついジーンズ等は不可）
履物はかかとの高いハイヒール、ミュール等は不可

授業計画	
	［半期］ 様々な発声練習方法や、体の使い方、ボディーマッピングをしながら声を出すことのメカニズムを知ることにより歌うことへ結びつくトレーニングを習得する。歌唱は公開レッスン形式で行う。
1	ガイダンス
2	ヴォーカル？ヴォーカリストとは？
3	様々なボーカリストについて知ろう
4	ボーカリストの個性についての考察
5	自分自身のスタイルとは？
6	. 発表会準備
7	発表会
8	総括
9	Chaka：９回目ー１５回目　レパートリーについて
10	曲の構成、譜面の書き方と曲構成の柔軟な捉え方
11	歌唱以外の体の使い方
12	マイクの特性とその使い方
13	曲中の歌っていない時間をどうするか
14	バンドメンバーとのコミュニケーション
15	ステージング

科目名	ヴォーカルパフォーマンス３　（前）　[金3]						
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	GE292300	科目コード	GE2923	期間	半期
担当教員	瀬田　創太、蟻正　行義						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヴォーカリストの音楽家としての向上に必要なことは、ただ漠然と歌を練習するだけにでなく、声楽としての楽器力、ヴォーカリストとしての表現の理解、歌詞の理解、また、他の楽器とアンサンブルするための基礎的な知識とその体験、グルーブについての理解など多岐にわたる。ヴォーカルパフォーマンス１ー８ではこれらの内容を段階的、また多角的に学んでいく

２．授業概要

２人の教員（ヴォーカル教員、器楽教員）による各７回の授業で（１回目はガイダンス）、それぞれの教員がヴォーカルの特性やヴォーカリストとしてどのようにバンドの中で機能するべきかを実技を中心として指導する。教員のスケジュールは変更される場合がある

３．授業時間外の学習（予習復習について）

この授業で学ぶことは、ヴォーカリストとしての技術だけでなくコンセプトや他の楽器とのコミュニケーションであるため、授業外で自ら体験として他の楽器と練習したり、自分のコンセプトを模索するなどの努力が必要である

４．成績評価の方法及び基準

２人の教員が、それぞれの７回分の授業について成績をつけ、その平均を最終的な成績とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な場合は教員から指示される

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヴォーカリストが自ら演奏家の一員となり他の楽器とコミュニケーションをとりながらバンド全体として高い音楽性を目指すという積極的な姿勢が望まれる

ヴォーカル以外の楽器の学生も履修可

ヴォイストレーニングの授業では、服装はなるべく動きやすいものを着用すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	三橋千鶴：２回目ー８回目　ヴォイストレーニング１概要
3	ヴォイストレーニング２ 身体の構造について、個々の声質と声域のチェック
4	ヴォイストレーニング３ 発声、練習曲（前回の授業から個々の学生の程度に合わせ、コンコーネ50番より抜粋して配布）
5	ヴォイストレーニング４ 発声、姿勢について（公開レッスン形式で1人ずつ歌唱）
6	ヴォイストレーニング5 発声、癖について（公開レッスン形式で歌唱）、次週のテキスト配布（イタリア歌曲集から個々の声域にあったキーを探る）
7	ヴォイストレーニング６ 発声、表現について（公開レッスン形式で歌唱）
8	ヴォイストレーニング７ 発声、声と身体のリンクについて（公開レッスン形式で歌唱）
9	瀬田創太：９回目ー１５回目　楽曲の基礎知識
10	楽曲のハーモニーについて
11	イントロやエンディングなどのアレンジ
12	他楽器とのコミュニケーション：ピアノ
13	他楽器とのコミュニケーション：ベース
14	他楽器とのコミュニケーション：ドラム
15	グルーブとリズムスタイル

科目名	ヴォーカルパフォーマンス４　（後）　[金3]						
代表教員	ＣＨＡＫＡ	授業コード	GE292400	科目コード	GE2924	期間	半期
担当教員	白仁“KOTETSU”賢哉、蟻正　行義						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヴォーカリストの音楽家としての向上に必要なことは、ただ漠然と歌を練習するだけにでなく、声楽としての楽器力、ヴォーカリストとしての表現の理解、歌詞の理解、また、他の楽器とアンサンブルするための基礎的な知識とその体験、グルーブについての理解など多岐にわたる。ヴォーカルパフォーマンス１ー８ではこれらの内容を段階的、また多角的に学んでいく

２．授業概要

２人の教員（ヴォーカル教員、器楽教員）による各７回の授業で（１回目はガイダンス）、それぞれの教員がヴォーカルの特性やヴォーカリストとしてどのようにバンドの中で機能するべきかを実技を中心として指導する。教員のスケジュールは変更される場合がある

３．授業時間外の学習（予習復習について）

この授業で学ぶことは、ヴォーカリストとしての技術だけでなくコンセプトや他の楽器とのコミュニケーションであるため、授業外で自ら体験として他の楽器と練習したり、自分のコンセプトを模索するなどの努力が必要である

４．成績評価の方法及び基準

２人の教員が、それぞれの７回分の授業について成績をつけ、その平均を最終的な成績とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な場合は教員から指示される

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヴォーカリストが自ら演奏家の一員となり他の楽器とコミュニケーションをとりながらバンド全体として高い音楽性を目指すという積極的な姿勢が望まれる

ヴォーカル以外の楽器の学生も履修可

またヴォイストレーニングの授業では、　動きやすい服装で受講のこと（ミニスカート、足の開かないきついジーンズ等は不可）
履物はかかとの高いハイヒール、ミュール等は不可

授業計画	
	［半期］ 様々な発声練習方法や、体の使い方、ボディーマッピングをしながら声を出すことのメカニズムを知ることにより歌うことへ結びつくトレーニングを習得する。歌唱は公開レッスン形式で行う。
1	ガイダンス
2	ボーカル/ボーカリストとは？
3	様々なボーカリストについて知ろう
4	ボーカリストの個性についての考察
5	自分自身のスタイルとは？
6	発表会準備
7	発表会
8	総括
9	Chaka：９回目ー１５回目　レパートリーについて
10	曲の構成、譜面の書き方と曲構成の柔軟な捉え方
11	歌唱以外の体の使い方
12	マイクの特性とその使い方
13	曲中の歌っていない時間をどうするか
14	バンドメンバーとのコミュニケーション
15	ステージング

科目名	ミュージックインリリックス１－１　（前）［月2］						
代表教員	ＣＨＡＫＡ	授業コード	GE294900	科目コード	GE2949	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌には演奏と違って歌詞があります。楽器だけの演奏より内容を説明しやすくはなりますが、その分、イメージは制限されます。だからこそ、歌手は自分が歌う曲の歌詞を正しく理解し、同時にその歌詞の中に自分のイメージを持って歌うことが、とても大事です。これは説得力のある歌を歌う歌手の絶対条件です。

また、アドリブスキャットが出来る様になりたいと希望する歌手も多くいますが、ジャズフレーバーのあるスキャットをするには、米語のリズムを体得することなしには、ほとんど不可能です。　そして、歌と共演する機会の多い楽器プレーヤーにとっても、歌詞の意味やイメージをつかめないまま演奏することは、良いことではありませんね。この授業は外国語の歌詞について語学／発音を学びながら、歌詞についての自分のイメージを含めさまざまな観点から学びます。

２．授業概要

日本のシンガーがジャズを歌う時に、まずは英語の発音という大きな課題があると指摘されます。英語の発音やリズムやイントネーションを、少しでも良くし、自分のものにできれば、それだけで、その歌は立体感を増し、素敵なものになります。　これはnativeの人と全く同じにするという意味ではなく、英語を「自分のもの」にするということです。

この授業では英語と日本語の歌詞を扱います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で歌いたい曲の歌詞カードを用意して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点および授業態度（評価の60%）
実技（評価の20%）
レポート（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学生の学びたい曲・歌いたい曲を取り上げていきますので、積極的に参加してください。

授業計画	
	［半期］
1	スタンダードナンバーの歌詞の解釈：学生から学びたい曲のリクエストを募り、その歌詞の意味を、作られた年代や背景なども含めて勉強します。意味を確認後、その歌の登場人物に、それぞれの学生に、有名な俳優を当てはめてキャスティングしてもらい、各々の解釈を発表。 毎回、リクエストで進めていくので、曲は未定です。
2	スタンダードナンバーの歌詞の解釈：学生から学びたい曲のリクエストを募り、その歌詞の意味を、作られた年代や背景なども含めて勉強します。意味を確認後、その歌の登場人物に、それぞれの学生に、有名な俳優を当てはめてキャスティングしてもらい、各々の解釈を発表。リクエストがない場合は、講師が選曲します。（確認）
3	スタンダードナンバーの歌詞の解釈：学生から学びたい曲のリクエストを募り、その歌詞の意味を、作られた年代や背景なども含めて勉強します。意味を確認後、その歌の登場人物に、それぞれの学生に、有名な俳優を当てはめてキャスティングしてもらい、各々の解釈を発表。毎回、リクエストで進めていくので、曲は未定です。（仕上げ）
4	ジャズカテゴリーではない曲の解釈：ジャズを学ぶには、ジャズ以外の音楽も学ぶことが必要です。学生が学びたい曲を、ポップス、ソウル、ロックなどのカテゴリーからリクエストを募り、その曲の歌詞の意味、作られた年代や背景も含め、学んでいきます。（確認）
5	ジャズカテゴリーではない曲の解釈：ジャズを学ぶには、ジャズ以外の音楽も学ぶことが必要です。学生が学びたい曲を、ポップス、ソウル、ロックなどのカテゴリーからリクエストを募り、その曲の歌詞の意味、作られた年代や背景も含め、学んでいきます。（仕上げ）
6	CD聞き比べ：スタンダードナンバーを一曲、学生からのリクエストで決め、その曲を歌っているシンガーや、インストゥルメンタルも含めて、皆で違うヴァージョンを持ち寄り、聴き比べ、印象・感想を交換しあいます。
7	キャラクターを決めて歌う①　ヴォーカリストも楽器プレーヤーも問わず、スタンダードナンバーの歌詞の主人公のキャラクター（年齢、性別、性格、など）をあらかじめ決めて、歌うことに挑戦する、演技のレッスンです。
8	キャラクターを決めて歌う②　ヴォーカリストも楽器プレーヤーも問わず、スタンダードナンバーの歌詞の主人公のキャラクター（年齢、性別、性格、など）をあらかじめ決めて、歌うことに挑戦する、演技のレッスンです。　（仕上げ）
9	言葉のイメージゲーム。　学生が意味を知らない日本語の方言や、外国語の単語を、サウンドだけを聞いて、どういうことを想像するか連想するか？など、イメージを膨らませるゲーム。
10	英語の発音トレーニング１　１では、まず基本のAlphabetと、そのphonicsを学びます。話す時の英語と、メロディーがついた時の英語では、linking（つながり）やイントネーションがかなり違うので、linkingとイントネーションとリズムに重点を置き、簡単な単語と熟語の発音トレーニングをします。
11	英語の発音トレーニング。　話す時の英語と、メロディーがついた時の英語では、linking（つながり）やイントネーションがかなり違うので、linkingとイントネーションとリズムに重点を置き、簡単な単語と熟語の発音トレーニングをします。
12	日本語の曲の歌詞の解釈。　日本語の曲の歌詞を、学び、英語の歌詞との違いや、背景にある文化・風習なども含めて、比較しながら学んでいきます。
13	スタンダードナンバーの歌詞の解釈：学生から学びたい曲のリクエストを募り、その歌詞の意味を、作られた年代や背景なども含めて勉強します。意味を確認後、その歌の登場人物に、それぞれの学生に、有名な俳優を当てはめてキャスティングしてもらい、各々の解釈を発表。毎回、リクエストで進めていくので、曲は未定です。（確認）
14	スタンダードナンバーの歌詞の解釈：学生から学びたい曲のリクエストを募り、その歌詞の意味を、作られた年代や背景なども含めて勉強します。意味を確認後、その歌の登場人物に、それぞれの学生に、有名な俳優を当てはめてキャスティングしてもらい、各々の解釈を発表。毎回、リクエストで進めていくので、曲は未定です。（仕上げ）
15	聴覚以外を使う。動物などの映像を見て、その映像に声で効果音をつけたり。香水を嗅いで、その感想を言葉や擬音で表現する、ソムリエのようなレッスンをします。

科目名	ミュージックインリリックス１－２　（後）［月2］						
代表教員	ＣＨＡＫＡ	授業コード	GE295000	科目コード	GE2950	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	１−１を履修していない者も履修可能						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌には演奏と違って歌詞があります。楽器だけの演奏より内容を説明しやすくはなりますが、その分、イメージは制限されます。だからこそ、歌手は自分が歌う曲の歌詞を正しく理解し、同時にその歌詞の中に自分のイメージを持って歌うことが、とても大事です。これは説得力のある歌を歌う歌手の絶対条件です。

また、アドリブスキャットが出来る様になりたいと希望する歌手も多くいますが、ジャズフレーバーのあるスキャットをするには、米語のリズムを体得することなしには、ほとんど不可能です。　そして、歌と共演する機会の多い楽器プレーヤーにとっても、歌詞の意味やイメージをつかめないまま演奏することは、良いことではありませんね。この授業は外国語の歌詞について語学／発音を学びながら、歌詞についての自分のイメージを含めさまざまな観点から学びます。

２．授業概要

日本のシンガーがジャズを歌う時に、まずは英語の発音という大きな課題があると指摘されます。英語の発音やリズムやイントネーションを、少しでも良くし、自分のものにできれば、それだけで、その歌は立体感を増し、素敵なものになります。　これはnativeの人と全く同じにするという意味ではなく、英語を「自分のもの」にするということです。

この授業では英語、ポルトガル語、日本語の歌詞を扱います。

外国語に関してはnative speakerのゲスト講師と言葉の意味や発音を学び、また毎週の授業で曲を憶え、実際に歌いながら、その歌詞をどのように自分のもにしていくかを考えます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で歌いたい曲の歌詞カードを用意して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点および授業態度（評価の60%）
実技（評価の20%）
レポート（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する資料等は、事前にポータルにアップロードするので、各自、ダウンロードして来てください。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学生の学びたい曲・歌いたい曲を取り上げていきますので、積極的に参加してください。

授業計画	
	［半期］
1	Be A Teacher 講師が歌い、学生が指導をすることに挑戦する授業です。
2	Be A Teacher 講師が歌い、学生が指導をすることに挑戦する授業です。（仕上げ）
3	スタンダードナンバーの歌詞の解釈：学生から学びたい曲のリクエストを募り、その歌詞の意味を、作られた年代や背景なども含めて勉強します。意味を確認後、その歌の登場人物に、それぞれの学生に、有名な俳優を当てはめてキャスティングしてもらい、各々の解釈を発表。毎回、リクエストで進めていくので、曲は未定です。（基本）
4	スタンダードナンバーの歌詞の解釈：学生から学びたい曲のリクエストを募り、その歌詞の意味を、作られた年代や背景なども含めて勉強します。意味を確認後、その歌の登場人物に、それぞれの学生に、有名な俳優を当てはめてキャスティングしてもらい、各々の解釈を発表。毎回、リクエストで進めていくので、曲は未定です。（確認）
5	スタンダードナンバーの歌詞の解釈：学生から学びたい曲のリクエストを募り、その歌詞の意味を、作られた年代や背景なども含めて勉強します。意味を確認後、その歌の登場人物に、それぞれの学生に、有名な俳優を当てはめてキャスティングしてもらい、各々の解釈を発表。毎回、リクエストで進めていくので、曲は未定です。（仕上げ）
6	ヴォーカリーズ・スタイルの研究。ヴォーカリーズとは、器楽演奏のアドリブに、歌詞をつけたもの。オーソドックスな歌詞とは全く違います。それについての研究。また、リズムと言葉の関連性について、研究します。
7	ソロシンガーとコーラスの比較。同じ曲でも、ソロシンガーが歌った場合と、コーラスになった場合とでは、どのように違うか？その場合のヴォーカルアレンジなどは、どうするべきか？等を学びます。
8	CD聞き比べ。スタンダードナンバーを一曲、学生からのリクエストで決め、その曲を歌っているシンガーや、インストゥルメンタルも含めて、皆で違うヴァージョンを持ち寄り、聴き比べ、印象・感想を交換しあいます。
9	英語の発音レッスン：歌詞の発音、特に日本人が苦手とされているリンキング（繋がり）、リズム、などに特化してトレーニングをします。
10	発音のイメージ：同じ曲でも、出身地の違うシンガーの発音の特徴を比較し、その違いが作品全体にどう影響しているかを学びます。
11	スタンダードナンバーの歌詞の解釈：学生から学びたい曲のリクエストを募り、その歌詞の意味を、作られた年代や背景なども含めて勉強します。意味を確認後、その歌の登場人物に、それぞれの学生に、有名な俳優を当てはめてキャスティングしてもらい、各々の解釈を発表。毎回、リクエストで進めていくので、曲は未定です。（確認）
12	スタンダードナンバーの歌詞の解釈：学生から学びたい曲のリクエストを募り、その歌詞の意味を、作られた年代や背景なども含めて勉強します。意味を確認後、その歌の登場人物に、それぞれの学生に、有名な俳優を当てはめてキャスティングしてもらい、各々の解釈を発表。毎回、リクエストで進めていくので、曲は未定です。（仕上げ）
13	ジャズシンガーではないシンガーが歌うジャズスタンダードナンバー。ロックシンガー、クラシックシンガー、日本のポップシンガーなどが歌っているスタンダードナンバーを聞き、皆で印象を語り、意見交換。
14	英語以外のジャズ。フランス語、ポルトガル語、スペイン語、日本語、などのジャズチューンを聞き比べます。
15	日本語の可能性：日本語でスタンダードナンバーの作詞に挑戦します。

科目名	吹奏楽指導法１～４　[月4]						
代表教員	宍倉　晃	授業コード	GE317100	科目コード	GE3171d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI（吹奏楽指導者マスタークラスのみ）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アマチュアの普及率の高い吹奏楽という分野において、「教育のための吹奏楽」という考え方を原点に持ち、音楽のみならず
「人としての心を育てる事を重要視する指導者」になるために必要な事を学んでいく。

２．授業概要

「基礎」というものをあらゆる角度から見ていき、基礎と音楽表現がイコールで結ばれていく事を学んでいく。
知識を豊富にし、指導に役立てるために吹奏楽の歴史を学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

学生の母校である中学校や高校の部活動の指導の機会があった場合には、率先して引き受けていく。
楽曲を使った合奏指導で使用する楽譜を事前に読み、音源を聴いて予習してくる事。
毎回の授業でノート等に細かく記入し、次の授業に生かせるように復習してくる事。

４．成績評価の方法及び基準

授業においての実習的な事項の成果、提出物等の出来映え、「教育のための吹奏楽」の考え方への理解度を見て判断していく。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用する楽曲のスコア、編曲に使用するピアノ譜やオーケストラスコア。CD,DVD等。参考文献はなし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

これまで学んできた管、打楽器（弦楽器はコントラバス）の経験を生かし、学生間で知識を共有しあっていく事。

授業計画	
	[前期] ・各楽器の初歩的な奏法についての指導法 ・基礎合奏の指導法（ユニゾントレーニング） ・楽曲を使った合奏指導法 使用曲: G. ホルスト「吹奏楽のための第一組曲」
1	菅、弦楽器の奏法の指導法 各楽器の初歩的な奏法についての指導法。 頭部管音、マウスピース音、リード音等の良い奏法と音色を学ぶ。
2	基礎合奏指導法 基礎合奏を行う事の必要性と重要性を学ぶ。 楽器で音を出す以前にやらなければならない事項を学ぶ。 基礎合奏を楽曲の中で応用させ生かしていく方法を学ぶ。
3	基礎合奏指導法 ユニゾントレーニングの指導。 ユニゾンを作る上での重要な事項として、″音量をそろえる″″息のスピード感をそろえる″″音程をそろえる″事の指導法を学ぶ。 歌唱と楽器演奏の結びつきについて学ぶ。
4	合奏指導法 G. ホルスト″吹奏楽のための第一組曲 第一楽章 ″ を使用し、菅、弦楽器の奏法面の問題点を考えていき、改善方法を学ぶ。
5	合奏指導法 G. ホルスト ″ 吹奏楽のための第一組曲 第一楽章 ″ を使用し、「基礎合奏のユニゾントレーニングを応用させていく」という角度から見ていき、合奏音を向上させていく指導法を学ぶ。
6	合奏指導法 G. ホルスト ″ 吹奏楽のための第一組曲 第一楽章 ″ を使用し、打楽器の重要性を学び、管楽器と打楽器を結びつけ、合奏音として作り上げる指導法を学ぶ。
7	合奏指導法 G. ホルスト ″ 吹奏楽のための第一組曲 第一楽章 ″ を使用し、″ シャコンヌ ″ という様式感から見ていき、基礎を生かしつつ音楽として仕上げていく指導法、及び指揮法を学ぶ。
8	合奏指導法 G. ホルスト ″ 吹奏楽のための第一組曲 第二楽章 ″ を使用し、楽曲の構成、テーマの使われ方、及び構造を分析していく。
9	合奏指導法 G. ホルスト ″ 吹奏楽のための第一組曲 第二楽章 ″ を使用し、テンポ感の重要性をについて学ぶ。 メトロノームを使った練習法を学ぶ。(表がけと裏がけの効果の違いを理解する)
10	合奏指導法 G. ホルスト ″ 吹奏楽のための第一組曲 第二楽章 ″ を使い、アーティキュレイションの効果と重要性を見ていき、それぞれのテーマの扱い方の違いを学ぶ。 音楽として仕上げていく指導法、及び指揮法を学ぶ。
11	合奏指導法 G. ホルスト ″ 吹奏楽のための第一組曲 第三楽章 ″ を使用し、第三楽章の演奏に不可欠な基礎力を見ていき、基礎と音楽を一致させる重要性を学ぶ。 タンギングを向上させる効果的な練習法を学ぶ。
12	合奏指導法 G. ホルスト ″ 吹奏楽のための第一組曲 第三楽章 ″ を使用し、安定したテンポ感を身につける指導法を学ぶ。 行進をしながらの練習法、メトロノームを効果的に使った指導法を学ぶ。
13	合奏指導法 G. ホルスト ″ 吹奏楽のための第一組曲 第三楽章 ″ を使用し、打楽器についてスネアドラム、バスドラム、シンバルの重要性を見ていき、アクセントのつけ方、アップとダウンの音の方向性の違い、リズムの捉え方を考え、菅、弦楽器に与える影響を学ぶ。
14	合奏指導法 G. ホルスト ″ 吹奏楽のための第一組曲 第三楽章 ″ を使用し、″ マーチ″ という様式感を見ていく。 イギリスのマーチのスタイルを考え、裏打ちのないプロセッション・マーチやTrioの表現方法を理解し、具体的な演奏法と指導法、及び指揮法を学ぶ。
15	前期のまとめ 前期授業で学習した事項を総復習し、基礎指導と音楽指導を一致させるために必要な考え方、指導の仕方を学ぶ。

授業計画	
	[後期] ・基礎合奏の指導法（ハーモニートレーニング） ・楽曲を使った合奏指導法 ・吹奏楽編曲法 ・吹奏楽史（海外の吹奏楽作品の流れについて） 使用曲：J. オリヴァドーティ 「バラの謝肉祭」 C. タイケ 「ツェッペリン伯爵行進曲」 高 昌師 「吹奏楽のためのワルツ」
1	基礎合奏指導法 ハーモニートレーニングの指導。純正律と平均律の特徴を理解する。 ユニゾントレーニングを応用させ、ハーモニーを美しく響かせる指導法を学ぶ。 ハーモニートレーニングA の楽譜を使用し、楽譜上でもハーモニーを美しく響かせる事を学ぶ。
2	基礎合奏指導法 ハーモニートレーニングの指導。 ハーモニートレーニングB の楽譜を使用し、ハーモニーを分散させて美しく響かせる指導法を学ぶ。 ハーモニートレーニングC の楽譜を使用し、主要音符を美しく響かせる指導法を学ぶ。 ハーモニー作りとユニゾン作りを一致させる指導法を学ぶ。
3	基礎合奏指導法 練習用コラール曲集を使用し、楽曲の中でハーモニーを美しく響かせる指導法を学ぶ。 ハーモニーを分析し、楽譜からハーモニーの性質と表情を読み取る事を学ぶ。
4	合奏指導法 J. オリヴァドーティ ″ バラの謝肉祭 ″ を使用し、中学生を対象とした初歩の楽曲指導法を学ぶ。 奏法上の問題点と楽曲を演奏する上で不可欠な基礎力を学ぶ。
5	合奏指導法 J. オリヴァドーティ ″ バラの謝肉祭 ″ を使用し、基礎合奏で学習した ″ユニゾンの作り方″ と ″ハーモニーの作り方″ を楽曲で応用させる指導法を学ぶ。
6	合奏指導法 J. オリヴァドーティ ″ バラの謝肉祭 ″ を使用し、スコアリーディングをして楽曲の構成を理解し、音楽性の高い演奏をするための指導法を学ぶ。 打楽器の重要性を理解し、管、弦、打楽器のバランスの取れた演奏の指導法、及び指揮法を学ぶ。
7	合奏指導法（マーチ） マーチの演奏スタイルと様式感を理解し、マーチの持つ独特の世界観と表現方法を学ぶ。 吹奏楽におけるマーチの存在感を学ぶ。
8	合奏指導法（マーチ） K. タイケ ″ ツェッペリン伯爵行進曲 ″ を使用し、具体的なマーチの指導法を学ぶ。 リズムの取り方、フレーズの作り方、″ 国民性 ″ を意識した考え方からより良いマーチを演奏する事を学ぶ。
9	合奏指導法（ワルツ） ″ 吹奏楽におけるワルツ ″ という考え方からワルツの芸術性と必然性を学ぶ。 オーケストラのワルツ作品を参考にし、吹奏楽で演奏するために必要な技術と音楽性について学ぶ。
10	合奏指導法（ ワルツ ） 高 昌師 ″ 吹奏楽のためのワルツ ″ を使用し、レガート奏法の問題点と改善方法を考えていく。基礎合奏で学習したユニゾントレーニングの応用方法を考え、旋律を優美に美しく演奏するための指導法を学ぶ。
11	合奏指導法（ ワルツ ） 高 昌師 ″ 吹奏楽のためのワルツ ″ を使用し、ワルツ特有の表現方法を考え、吹奏楽での効果的かつ特性を生かした指導法、及び指揮法を学ぶ。
12	吹奏楽編曲法 吹奏楽に編曲する基礎を学ぶ。吹奏楽での編成における各楽器の特性や音楽的な特徴を考え、効果的な楽器の使い方と楽譜の書き方を学ぶ。
13	吹奏楽編曲法 吹奏楽に編曲する基礎を学ぶ。 易しい単旋律を使い、バランスの良い対旋律の作り方、旋律と調和の取れた和声ののせ方を学ぶ。
14	吹奏楽史（ 海外の吹奏楽作品の流れ） これまでに作られてきた海外の有名な吹奏楽作品を時代の流れと共に見ていき、作品と作曲者の特徴と歴史について学ぶ。
15	作文の作成と総括 前期、後期の授業で学習した事項から課題を出し、作文を作成する。 一年間の学習内容を総括し、指導性を高めるために必要な事項を考えていく。

科目名	マーチングディレクター概論１～４　[火5]						
代表教員	田中　久仁明	授業コード	GE317500	科目コード	GE3175d	期間	通年
担当教員	大川　勝己、中村　裕治						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI（吹奏楽指導者マスタークラスのみ）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

卒業後は現場で即実践出来るプロのマーチングバンド指導者という視点で、あらゆる角度から演習を行います。第１に一般社団法人　日本マーチングバンド協会の指導者ライセンス検定、３級、２級、１級を４年間で取得し、マーチングバンド指導者の概論的スキルを習得、第２に専門的内容として、ドリルデザイン、マーチング管楽器アレンジ、マーチングパーカッションアレンジ、以上３つの専門的スキルを習得することで、将来学生が指導の現場に赴いた時、確実に現場のスキルアップに寄与できることを目指す。そしてそのスキルアップの実績を世に問う為に前期、後期それぞれに演奏会を企画し、その作品の構成演出を自主制作し、発表する演奏演技内容についての「成功」を目指す。

２．授業概要

習講座であり、一般社団法人　日本マーチングバンド協会の指導者ライセンス検定カリキュラムの実施及びライセンス取得、ドリルデザイン、マーチング管楽器アレンジ、マーチングパーカッションアレンジのスキルを習得、以上４つの内容を基に、授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習は課題楽曲の細部に渡るアナリーゼを行い、楽曲の理解を深め、ドリルデザイン、管、打楽器アレンジが行える準備をする。マーチング指導者は同時に教育者としてのスキルが要求される為、教育論に関する知識を備える。復習は授業で指摘された内容をさらに掘り下げ、自分のものに出来る様に反復実習を行なう。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢は勿論、マーチング指導ライセンスの取得、ドリルデザイン、管、打楽器アレンジの達成度を見極める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏会で使用する楽曲のポケットスコア、
一般社団法人　日本マーチングバンド協会発行の指導書上下巻

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

マーチングバンド指導者としての能力を高めるべく、強い自覚と責任感を持ち、学習すること、授業及び臨時練習に出席し、年間の演奏会の成功に貢献して欲しい。

授業計画	
1	マーチング指導者３級ライセンス実習１ １学年 基本動作、停止間動作、の指導法、気をつけ、休め、セットアップ、ダウン、足踏み、マークタイムピボット、方向変換、前進、上記の内容の指導法研修
2	ドリルデザイン１、（１学年） ドリル記号解読、方眼紙使用法、コンビネーション記載方法 マーチング指導者２級ライセンス実習２基本動作２（２学年） T字パターンを利用した指導法の多角的考察
3	管楽器アレンジ １学年 マーチングショー制作について（いつどこで誰が何のために） ビデオ鑑賞～バンド編成、ショー類型、テーマ設定、選曲についてディスカッション ２学年 マーチングビデオ鑑賞～ディスカッション
4	打楽器アレンジ １学年 マーチングにおける打楽器の種類と編成の違い。 楽器毎の名称考察。 ２学年 マーチングにおける楽器毎の役割りについての考察。 基礎練習パターンの実技、及び練習方法についての考察。
5	マーチング指導者３級ライセンス実習２（１学年） スピン、L字パターン、ポイントの使い方、 L字パターンの効果について考える マーチング指導者２級ライセンス実習３コンビネーション１（２学年） ３級でのコンビネーション復習 新たなコンビネーション、RO,LO,LC,RC LSS,RSSの習得
6	ドリルデザイン（１学年） ６４拍、１２８拍のドリルの解読 １０m×１０mの範囲、１６名の動き方考察 ドリルデザイン（２学年） 行進曲「海兵隊」のセグメント 「海兵隊」を課題に１６名のコンテ作成-１
7	管楽器アレンジ １学年 マーチングショー制作について　その２ ビデオ鑑賞～ディスカッション ２学年 モードについての学習
8	打楽器アレンジ １学年 マーチングにおける、マーチングパーカッションの担う役割りについての考察。 マーチングパーカッションのアレンジと基本的な方向性の考察。 ２学年 基礎練習パターンの実技。 前期発表会用楽曲の実技。
9	マーチング指導者３級ライセンス実習３（１学年） コンビネーションについて考察、４人一組の動き方 FM&MT#の使い方 RP,LP,RTS,LTS,FTLの習得 マーチング指導者２級ライセンス実習４コンビネーション２（２学年） 検定用コンビネーション２題提示 ４名のラインの揃え方研究 完成度を上げるためのアプローチ
10	ドリルデザイン（１学年） ２０m×２０mの範囲、１６名の動き方考察 ドリルデザイン（２学年） 前期発表会用作品の創作、
11	管楽器アレンジ １学年 コンサート（７月１６日）練習 使用曲アナリーゼ 2学年

12	打楽器アレンジ １学年 マーチングパーカッションにおける基礎技術考察と実技。 シングルストローク、ダブルストローク、アクセントタップの実演。 ２学年 基礎練習パターンの実技。 前期発表会用楽曲の実技。
13	ドリルデザイン（１学年） 楽曲分析（アナリーゼ）をお元に、フォーメーションをイメージする 曲線の描き方、計算方法を習得 マーチング指導者２級ライセンス実習5（２学年） 検定課題を利用した効果的指導方法の考察
14	管楽器アレンジ 1学年 コンサート（７月１６日）練習 使用曲アナリーゼ ２学年 コンサート（７月１６日）練習 使用曲アナリーゼ
15	打楽器アレンジ １学年 マーチングパーカッションにおける基礎技術考察と実技。 シングルストローク、ダブルストローク、アクセントタップの実演。 ２学年 基礎練習パターンの実技。 前期発表会用楽曲の実技。

授業計画	
1	マーチング指導者３級ライセンス実習４（１学年） 検定課題8x128x8のコンビネーション提示 検定課題を基に指導者としての考え方を習得 揃える大切さ、揃え方について考察 マーチング指導者２級ライセンス実習6（２学年） ドラムメジャーとは？ 基本操法、（休め、気をつけ、拍子取り）
2	ドリルデザイン（１学年） ３０m×３０mの範囲、３２名の動き方考察 フォーメーションの流れについて マーチング指導者２級ライセンス実習７ドラムメジャー２ （２学年） パレーディングに必要なサインの出し方習得
3	管楽器アレンジ 1学年 コードについての学習 各管楽器の特徴についての学習 2学年
4	打楽器アレンジ １学年 Rudimentsの起源と歴史の考察。 現代におけるRudimentsの種類、分類の考察と実技。 Paradiddle/Paradiddlediddle/Flamの実技と、実技課題の提示。 ２学年 マーチングパーカッション譜のアレンジ手順の考察。 様々な楽譜の様式についての考察。
5	ドリルデザイン １学年 発表会用ドリル１曲目を分析 ２学年 マーチング指導者２級ライセンス実習８ フォーメーションと体形変換の考え方について ドリルルーティーンについての考え方
6	ドリルデザイン（１学年） 発表会用ドリル２曲目を分析 ドリルデザイン（２学年）
7	管楽器アレンジ 1学年 ダイアトニックスケール＆ハーモニーについての学習 2学年 セカンダリードミナントについての学習
8	打楽器アレンジ １学年 Rudiments実技課題の確認。 Double Paradiddle/Flam Accentsの実技と実技課題の提示。 Drag Rudimentsの解説と考察。
9	ドリルデザイン（１学年） 発表会用ドリル３曲目を分析 マーチング指導者２級ライセンス実習９（２学年） 教育者としての視点からのクラブ活動についてディスカッション
10	マーチング指導者３級ライセンス実習５（１学年） マーチングバンド指導者としての基本的考え方 マーチングの教育的意義について マーチング用語の確認
11	管楽器アレンジ 1学年 編曲演習１ ２学年 編曲演習１

12	打楽器アレンジ １学年 Rudiments実技課題の確認。 Drag/Roll　Rudimentsの解説と、近代的な記譜方法の考察。 Diddle/Drag/Roll Rudimentsの違いと使い分けについての考察。 ２学年 演奏しやすく効果的な楽譜と演奏しずらい避けるべき楽譜の考察と実技第二回目 様々な記譜方法についての考察第二回目 マーチングパーカッション譜のアレンジ実技。
13	１学年 マーチング指導者ライセンス３級検定 ２学年 マーチング指導者２級ライセンス検定
14	管楽器アレンジ 1学年 編曲演習２～作品の演奏発表 ２学年 編曲演習２～作品の演奏発表
15	打楽器アレンジ １学年Rudiments実技課題の確認。 マーチングパーカッションにおける効率の良いRudimentsno練習方法についての考察。 ２学年 アレンジ発表と実演。

科目名	管打合奏１～４　［火4］						
代表教員	大和田　雅洋	授業コード	GE317900	科目コード	GE3179d	期間	通年
担当教員	オリタ　ノボッタ						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI（吹奏楽指導者マスタークラスのみ）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座の中で、将来の「吹奏楽指導」に必要な要件、指標などを、合奏を通して各自が掴み取ることが主題となる。
講座の課程で指導を受けるケースでは、そのことこそが「実践的」であり将来の「吹奏楽指導」の糧となるよう繋げていきたい。

２．授業概要

本年度は人数の少ない小編成アンサンブルが主体となるが、基礎トレーニング、勉強すべき古典名曲を中心に合奏練習をおこなう。
現代吹奏楽においては、クラシックのみならず、ポップスも将来指導において大切なものとなるため、織田講師による
「ポップス講座」を開設する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

配布された譜面の予習は必須とし、オーケストラアレンジを取り上げるときは各自ポケットスコアを用意し取り組んでいただきたい。
とりあげた、楽曲の視聴も必須とする。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢、課題への取組）を主とするが、「将来の実践の場としての指導法」を身につけているか、に基づいて評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

配布されたパート譜を主とする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

選択授業ではあるが、新しく開設マスタークラス特設の講座であるため、多くの履修者を望みたい。

授業計画	
	前期授業
1	ガイダンス、パートリーダー、コンサートマスターの選出
2	学生全員での選曲（小編成作品を元に）
3	大編成の楽譜はほとんど使えないが音源、スコアを学び演奏可能楽曲を列挙する。
4	前授業の件は将来、少子化のバンド指導に役立つものであり、相応しい楽曲を選定する。
5	ポップス曲のアナリーゼと実践法。
6	将来のバンド指導に向けてのポップス講座。
7	精査選定したクラシック小編成曲の音出し。
8	選定したクラシック曲、コンサート本番曲の考察。
9	ポップス講座（世界のリズム形態について） ジャズ、ボサノヴァ、カリプソ等。
10	前期授業成果発表曲の決定と演習。
11	ポップス曲の決定と演習。
12	コンサートプログラミングの考察（クラシック、ポップス、マーチングをどのように曲順等を決定していくか）
13	決定したコンサートプログラム演習。
14	全曲通し練習を行い、本番の流れをつかむ。
15	本番当日のゲネプロへ充当。

授業計画	
	後期授業
1	前期授業成果の反省と修正点等の討議。
2	前回の反省点等を踏まえて後期演奏曲の列挙を行う。
3	後期演奏曲のアナリーゼ。
4	オリタ氏によるポップス講座応用で、更に世界のリズムや音楽を経験する。
5	ジャズとクラシックの明らかな奏法の違いを体得する。
6	吹奏楽のポップス曲を用い、将来の指導に必要となる事項を習得する。
7	クラシック、ポップスにおいても、いかに美しい良い音で演奏するのが不可欠というテーマの元、演習を行う。
8	後期授業成果コンサートへ向けてのリハーサルを開始する。
9	楽曲練習により、クラシックでのアーティキュレーション、ポップスでのアーティキュレーションやイントネーションの違いを網羅する。
10	クラシック曲に重点を置き、後期コンサート曲のリハーサルを行う。
11	ポップス曲のコンサート演奏曲を主にリハーサルを行う。
12	必要により、木管、金管打楽器の分奏練習を行い、細部のチェックを行う。
13	全コンサート曲の最終チェックを行う。
14	本番当日のゲネプロへ充当。
15	反省会を行い、これからの吹奏楽指導について意見交換を行う。

科目名	吹奏楽研究１　［金4-5］フレッシュマン						
代表教員	大和田　雅洋	授業コード	GE320100	科目コード	GE3201	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI・SI・PI・ME・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「フレッシュマン」の名に相応しく、合奏の基本に重点を置きながら、一年生のみでのアンサンブルを行うことにより、連帯感や向上心をより高め、意欲的な音楽表現へと結び付けて行く。

２．授業概要

・国内外の著名指揮者をコンサートへ招聘し、本番へ向けてのリハーサルが授業の中心となる。
・代表的な吹奏楽オリジナル作品（古典的名曲から新しいレパートリー）を主に、合奏、分奏練習を行う。
・基礎合奏を取り入れ、サウンドの基盤を作り上げていく。
・以上の事項を学ぶことにより、将来の吹奏楽指導へも結び付けていくものとしたい。
・前期コンサート　7/5（金）　前田ホール　指揮：増井信貴
・後期コンサート　11/23（土）前田ホール　指揮：ティモシー・マー
・予定演奏曲目　F.スパーク　宇宙の音楽　/　G.ホルスト　第二組曲　/　S.メリロ　ゴットスピード　他

３．授業時間外の学習（予習復習について）

事前に配布されたパート譜の各自での譜読みを必須とする。
各個人での個人練習は当然のことながら、演奏楽曲の視聴をあらかじめ行って頂きたい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を評価の１００％とするが、各solo奏者等必要に応じて加点あり。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・配布されたコンサート使用楽譜
・閲覧用スコアを用意するので各自参考のこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・コンサートに向けての楽曲練習が中心となるが、履修者には個人練習での授業準備など、意欲的な参加姿勢を望みたい。
・履修者が多いパートについては、全員がコンサートに出演出来るように、演奏曲のローテーションを行うが、その点を理解のうえ、協力していただく事を条件とする。

授業計画	
	［前期］ 前期コンサートへ向けてのリハーサル
1	ガイダンス、パートリーダー、インスペクター、コンサートマスター選出
2	各首席奏者の選出を兼ねた合奏の開始
3	各指導教員を交えての首席奏者、ソロ奏者の決定（場合によりオーディションを行う）
4	フレッシュマンならではの古典名曲の練習を開始
5	ホルスト作曲　吹奏楽の為の組曲を主とした古典名曲のアナリーゼ
6	ホルスト第二組曲の合奏により、基礎を主としたサウンド作り
7	音程や和声面等を中心とした細かな練習を行う
8	前期授業成果発表へのリハーサル開始
9	各楽曲のソロ奏者の選出（オーディションを含む）
10	基礎合奏の導入、合奏曲と共に
11	将来の指導を見越した基礎合奏の大切さを学び、実践方法を取得する
12	招聘指揮者によるリハーサルを開始する
13	指揮者を前にしての演奏感覚を養う
14	各楽曲の最終チェック
15	前期本番当日のゲネプロに充当

授業計画	
	［後期］ 後期コンサートへ向けてのリハーサル
1	新譜の配布とアナリーゼ
2	分奏練習の導入（木管、金管打楽器に分かれて）
3	分奏で音程面等の基礎力を養い、合奏の場で実践して行くノウハウを学ぶ
4	全曲を分奏することで、授業成果発表コンサートへの細やかなアンサンブルを取得する
5	各曲の分奏指導成果の確認
6	全曲合奏での通し練習
7	完成度の低いと思われるパートを中心に分奏練習を行う
8	必要により各パートソロのオーディションを行う
9	外国人招聘指揮者のリハーサル開始
10	コンサート前半古典名曲のリハーサル開始
11	コンサート後半曲へのアプローチ 作曲者自身の指揮で、その曲のイメージや世界に触れ、表現面の拡充に役立てる
12	前期で習得した基礎力をコンサート本番曲に役立てているか、各パートでチェックを行う
13	外国人指揮者とのコミニュケーションを図る 音のミスやアゴーギグ等の質問を行う
14	本番直前の最終チェックを全曲行う
15	後期本番当日のゲネプロへ充当

科目名	吹奏楽研究２～４　［火4-5］ブルー・タイ						
代表教員	渡邉　功	授業コード	GE3202B0	科目コード	GE3202d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「吹奏楽」の理想的なサウンドとは何か？を追求する。よりプロフェッショナルな「演奏」の為、どのような経過が必要なのかを経験する。学生個々は将来プレイヤーは勿論、吹奏楽指導者として活躍出来る為に必要不可欠な「技術と知識」を習得する。

２．授業概要

前期、後期に、2回の演奏会を持ち、「成果発表」の機会とする。
選曲はアレンジ曲 オリジナル曲に拘らず、幅広い音楽から取り上げ 深く掘り下げる。
前期客演指揮：原田慶太楼
後期客演指揮：ケヴィン・セダトール

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パート譜の個人練習
スコアの把握
各パート内グループ練習

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢を重視し、合奏への取り組み方と演奏能力を加味する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期曲
D.Maslanka：Give Us This Day
F.Ticheli：Vesuvius
M.Daugherty：Rio Grande

J.Mackey：Wine Dark Sea Symphony

後期曲
未定。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業のための各コース別の諸注意は、初回授業ガイダンスで確認すること。

授業計画	
	［前期］ 5/3の課題曲クリニック 指揮者は中村睦郎先生 6/26の演奏会 指揮者は原田慶太楼先生 のための練習
1	メンバー顔合わせ パート・ローテーション決め パート譜配布 インスペクター・パートリーダー決定 音出し、合奏、譜読み
2	課題曲クリニックのための譜読み Ⅰ~Ⅴ
3	課題曲クリニックのため 曲の理解を深め表現する練習
4	課題曲クリニックの指揮者による練習
5	課題曲クリニックのための最終調整
6	6/29の曲目の理解を深める練習
7	ハーモニーに重点をおき、それを身につける練習
8	リズムに重点をおき、それを表現する練習 合奏
9	曲の雰囲気及び表現を統一する練習
10	前期本番指揮者との音楽性を共有、確認する練習
11	前期本番指揮者との音楽を表現するための練習
12	前期本番指揮者との音楽を更に深く表現するための練習
13	前期本番指揮者との本番に向けての最終調整
14	前期演奏会のゲネプロ・本番
15	前期演奏会の反省とまとめ

授業計画	
	［後期］ 12/8の演奏会 指揮者はケヴィン・セダトール先生 のための練習
1	パート・ローテーション決め パート譜配布
2	合奏で曲を理解するための練習
3	曲をより深く理解するための練習 分奏
4	合奏で曲のハーモニーを理解するための練習
5	曲のハーモニーをより深く理解するための分奏練習
6	重点的にリズム感を養う練習
7	曲の歌い方やフレージングの練習
8	音楽の表現とフレージングの練習
9	後期本番指揮者との音楽性を共有、確認するための練習
10	後期本番指揮者による分奏
11	後期本番指揮者との音楽を表現するための練習
12	後期本番指揮者の音楽を更に深く表現するための練習
13	後期本番指揮者との本番に向けての最終調整
14	後期演奏会のゲネプロ・本番
15	後期演奏会の反省とまとめ

科目名	吹奏楽研究２～４　［火4-5］グリーン・タイ						
代表教員	伊藤　康英	授業コード	GE3202G0	科目コード	GE3202d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・CG・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

吹奏楽のために書かれた優れた作品を取り上げ、作曲家からの視点も加えた学習を行うことで、吹奏楽の芸術的価値を考える。これは音楽大学の吹奏楽にとっての一つの使命である。
本年度も、前期、後期ともイギリスの指揮者を招いた。イギリスから世界を見たレパートリーを通して、これからの吹奏楽を考えたい。
また、ACを中心としたマネジメント関連の活動にも積極的に取り組み、成果をあげる。

２．授業概要

前期、後期のコンサート等に向けてのリハーサルを通して、吹奏楽のサウンド作り、アンサンブルのテクニック、楽曲の理解と表現法を学ぶ。
トレーナーとして、近藤久敦先生の協力を得、吹奏楽指導に役立つノウハウも学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自予めしっかりと練習して、合奏授業に臨みましょう。
また、ACを中心としたコンサート作りのための準備やマネジメント活動にも力を入れる。

４．成績評価の方法及び基準

授業、コンサート、マネジメント関連の活動への積極的な参加姿勢で評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

取り上げる作品のパート譜のみならず、スコアに接する機会を多くすること。スコアは、その音楽全てが見渡せる地図である。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

予めクラス分けがされているので、とくにここに記載すべき事項はありません。

授業計画	
	［前期］ 5月3日（金・祝）全日本吹奏楽コンクール課題曲クリニックにモデルバンドとして出演 ６月25日（日）前期コンサート（指揮：ティモシー・レイニッシュ） なお、指揮者との臨時練習として以下の中から調整予定。 6月17日 18日18:30- 19日18:30- 23日10:00-15:00 24日18:30-
1	4月9日 ガイダンス 吹奏楽コンクール課題曲音出し（５曲） 前期レパートリー音出し（時間の許す限りなるべく多くの作品を予定） ※早めにパート譜を配布する予定なので、しっかりと譜読みをしてくること。
2	4月16日 課題曲クリニックのリハーサル（１曲予定） 前期レパートリーのリハーサル（音出し中心に）
3	4月23日 課題曲クリニックのリハーサル（１曲予定） 前期レパートリーのリハーサル（楽曲分析を中心として） プログラム資料の蒐集。
4	5月3日 課題曲クリニック当日
5	5月7日 前期コンサートのリハーサル（楽曲分析を中心として） サウンド作り（より良いサウンド、ハーモニーを目指す） プログラム解説資料の精査 ACを中心としたコンサート宣伝活動（プレスリリースの書き方など）を学ぶ
6	5月14日 前期コンサートのリハーサル（詳細なリハーサル。各楽曲の表現方法について学ぶ） プログラム解説執筆。 コンサートの宣伝活動等、ACを中心とした活動も積極的に行う。
7	5月21日 前期コンサートのリハーサル（詳細なリハーサル。各楽曲のスタイルを知り、もっとも適した表現方法を探る） ここまでの段階で、前期コンサートのレパートリーをおおまかに仕上げる。 コンサートの宣伝活動等、ACを中心とした活動も積極的に行う。
8	5月28日 前期コンサートのリハーサル プログラム原稿完成 コンサート宣伝方法の確認
9	6月4日 前期コンサートのリハーサル 第８回に引き続いてのリハーサル プログラム校正 宣伝活動についての確認をACとともに行う
10	6月11日 前期コンサートのリハーサル 全曲通し練習。これまでに学んだことの総復習 プログラム校了、入稿
11	6月18日（延長練習あり） 前期指揮者によるリハーサル リハーサル内容については、指揮者との打ち合わせにより決定される
12	6月24日（月）18:30- 前期指揮者による「ゲネプロ」（全曲通し練習）
13	6月25日 前期コンサート当日
14	7月2日 前期コンサート反省会 後期レパートリー音出し
15	7月9日 後期レパートリーについて、楽曲分析などを通して作品の理解を深めておく

授業計画	
	［後期］ 12月12日（火）後期コンサート 吹奏楽の古典的名曲を名匠ボストックと vol.9（指揮：ダグラス・ボストック） なお、臨時練習として以下の中から調整予定。 12月5日 18:30- 12月8日10:00-15:00 12月9日10:00-15:00 12月10日 18:30-
1	9月3日 後期コンサートのリハーサル（全曲） ※7月にも一度、音出しをしているので、しっかりと譜読みを済ませてリハーサルに臨むこと。
2	9月10日 後期コンサートのリハーサル 作品の分析を通して音楽全体をつかむ。
3	9月17日 後期コンサートのリハーサル サウンド作りを通して、作品の理解を高める。
4	9月24日 後期コンサートのリハーサル サウンドやピッチ、リズムに留意したリハーサル。
5	10月1日 後期コンサートのリハーサル 作品の様式を通しての表現力を学ぶ
6	10月8日 後期コンサートのリハーサル リズムとアンサンブルについてより理解を深める
7	10月15日 後期コンサートのリハーサル 作品の時代背景なども調べつつリハーサルに臨む。 プログラム解説資料の精査 ACを中心としたコンサート宣伝活動（プレスリリースの書き方など）を学ぶ
8	10月22日 後期コンサートのリハーサル よりよいサウンド作りの方法を学ぶ プログラム解説執筆。 コンサートの宣伝活動等、ACを中心とした活動も積極的に行う。
9	10月29日 後期コンサートのリハーサル 作品の時代背景なども調べつつリハーサルに臨む。 プログラム執筆資料等も各自蒐集。 コンサートの宣伝活動等、ACを中心とした活動も積極的に行う。
10	11月5日 後期コンサートのリハーサル 仕上げ プログラム原稿完成 コンサート宣伝方法の確認
11	11月12日 後期コンサートのリハーサル 仕上げ プログラム校正 宣伝活動についての確認をACとともに行う
12	11月19日 後期コンサートのリハーサル 仕上げ プログラム校了、入稿
13	11月26日（延長あり） 後期指揮者とのリハーサル第１回
14	12月3日（延長あり） 後期指揮者とのリハーサル第2回　仕上げ
15	12月10日 コンサート当日

科目名	吹奏楽研究２～４　［火4-5］洗足ウインド･シンフォニー						
代表教員	池上　政人	授業コード	GE3202W0	科目コード	GE3202d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【仕事としての吹奏楽】という視点で吹奏楽にアプローチする。第1に「レパートリー」演奏会のプログラミングは、即ちその演奏団体の聴衆に対しての見識である。学生が将来、吹奏楽のレパートリーを考える立場に置かれた時、未来の吹奏楽を見据えたプログラムを組めむための「ヒント」となるレパートリーを教材として用いる。第2に「合奏の掟」プロフェッショナルな観点から、指揮の見方、自発的なアンサンブルへの指標を示し、将来学生がプロの団体の中で演奏する機会を想定して、合奏法を伝授する。第3に「指導法」楽曲を完成させる過程において将来、学生が指導する立場に置かれて時を想定し、その指導法を伝授する。
このような視点で吹奏楽に取り組み、その成果を世に問うために前期、後期それぞれに演奏会を企画し、レパートリー、聴衆の動員、勿論演奏内容についての「成功」を目指す。

２．授業概要

演習講座であり、演奏会の練習計画を組み、それに沿って合奏の完成に向けて授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習は、スコアの細部まで目を通し、楽曲の理解を（CD等で聴き）深め、合奏に対して十分な準備を（指揮者からの、あらゆる要求に応じられる余裕を持つ。）する事。
復習は、合奏での課題はもちろんの事、指摘された場所のみ重点的にではなく、（合奏・分奏時の練習を録音してみるなどの工夫をして）より水準の高い、演奏へ繋げる事を目標とする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢は勿論、主題である【仕事としての吹奏楽】への達成度を見極める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏会に使用する楽譜。特にオーケストラの編曲を実践知る場合、ポケットスコアを各自用意する事。
参考文献については、特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業であるのでアンサンブル能力を高めるべく個々の責任を果せるよう、強い自覚のもとで譜読み等の準備が出来る事。
洗足ウインド・シンフォニーは洗足学園音楽大学の顔であり、フラッグシップ・バンドとしての使命を果すため、演奏水準の維持が大きな課題となる。実技試験結果から履修者を決定する。

授業計画	
	［前期］ ・課題曲クリニック（5/3）指揮・講座：仲田守 ・自衛隊キャンパスコンサート（6/1)指揮：大澤健一 ・前期演奏会（7/6)指揮：保科洋 通常練習 指揮：池上政人 ◆前期プログラム 保科洋／交響曲第2番 ネリベル ／交響的断章 他
1	合奏 課題曲1から5 譜読み
2	合奏 課題曲1から5 分奏とタイミング合わせ
3	合奏 課題曲5を中心に分奏とハーモニー確認
4	合奏 自衛隊譜読み ハーモニーの確認
5	合奏 自衛隊合奏 音程を中心に
6	合奏 自衛隊合奏 縦の線、タイミングについて
7	前期演奏会合奏 譜読み ハーモニーの確認
8	前期演奏会分奏 セクションの音作りについて
9	合奏 自衛隊 本番直前練習
10	前期演奏会合奏　フレージングを中心に
11	前期演奏会 分奏 タイミング、音色のスピードについて
12	前期演奏会合奏 楽曲の構築について
13	前期演奏会合奏 保科先生 直前練習
14	前期演奏会合奏 保科先生 直前練習（仕上げ）
15	前期演奏会 指揮 保科洋

授業計画	
	［後期］ ・FUYUON（12/7)指揮：ジェリー・ジャンキン 曲目：ジャンキン氏と折衝中 アメリカの新作が中心となる。 通常練習　指揮：池上政人
1	合奏 FUYUON 譜読み タイミングの対処法
2	合奏 FUYUON 譜読み ハーモニーの確認
3	合奏 FUYUON テクニカルな問題についての対処法
4	分奏 FUYUON バランスについて
5	分奏 FUYUON テンポ、リズムについて
6	合奏 FUYUON フレージングについて
7	合奏 FUYUON 楽曲の和声感について
8	合奏FUYUON 指揮の見方について
9	合奏 FUYUON 音程を中心に
10	合奏 FUYUON テンポ、リズムを中心に
11	合奏 FUYUON 楽曲の構築について
12	合奏 FUYUON リズム、タイミングについての対処法
13	合奏 FUYUON ジェリー・ジャンキン　直前練習
14	合奏 FUYUON ジェリー・ジャンキン 直前練習（仕上げ）
15	FUYUON 演奏会 指揮 ジェリー・ジャンキン

科目名	オーケストラ研究１－１～１－４　［月4-5］ベーシック						
代表教員	渡部　亨	授業コード	GE3211B0	科目コード	GE3211d	期間	通年
担当教員	神谷　百子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2回程度の演奏会に向けてオーケストラを作り上げる事を学ぶ。
〈レパートリーオーケストラ〉
管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。
※履修希望者多数の場合は履修制限を行うことがある。また、履修希望者少数の場合は再募集を行うことがある。

授業計画	
	［前期］演奏会出演パートはオーディションによって決定する。
1	ガイダンス（前期授業説明）
2	楽曲分析:作曲コース教員によるオーケストラ曲の分析
3	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
4	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
5	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第5番 「運命」第1楽章
7	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第5番 「運命」第1楽章　定着
8	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
9	合奏・管打合奏 スッペ:軽騎兵 序曲 他
10	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
11	合奏・管打合奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
12	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ブラームス:ハンガリー舞曲
13	合奏・管打合奏 前期学習した研究演奏会プログラム
14	合奏・管打合奏 研究演奏会プログラムでのリハーサル
15	前田ホールでの研究発表演奏会 （ピアノ2台を含む） 後期楽譜配布

授業計画	
	［後期］演奏会出演パートはオーディションによって決定する。
1	ガイダンス（後期授業説明）グループ変更が有る場合は提示する
2	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第5番「運命」2、3、4楽章
3	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:交響曲第3番「英雄」1.2楽章
4	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
5	合奏・管打合奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
7	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
8	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:交響曲第5番「運命」全楽章
9	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
10	合奏・管打合奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
11	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 エルガー:行進曲「威風堂々第1番」
12	合奏・管打合奏 後期演奏会全てのプログラム
13	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 後期演奏会全てのプログラム
14	合奏・管打合奏 後期演奏会プログラムでのリハーサル
15	前田ホール後期研究発表演奏会

科目名	オーケストラ研究１－１～１－４　［月4-5］マスター						
代表教員	辻　功	授業コード	GE3211MO	科目コード	GE3211d	期間	通年
担当教員	中　一乃、神谷　百子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2程度の定期演奏会を行いオーケストラにおける演奏技術、合奏法を研究する。
〈レパートリーオーケストラ〉
管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期授業説明）
2	（前期課題曲）楽曲分析
3	（前期課題曲）管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏での譜読み
4	（前期課題曲）全体合奏での譜読み
5	（前期課題曲）全体合奏での課題を、管打合奏・弦合奏で修正
6	（前期課題曲）管打楽器合奏・弦楽器分奏で学習した課題のパート練習による修正
7	（前期課題曲）課題修正確認の為の全体合奏
8	（前期課題曲）楽曲の歴史的、文化的背景を学習
9	（前期課題曲）全体合奏で前回学習した楽曲の背景の表現方法を学習
10	（前期課題曲）演奏会指揮者による全体合奏
11	（前期課題曲）指揮者に指摘された課題の修正の為の全体合奏
12	（前期課題曲）管打合奏・弦楽器分奏での課題確認と修正
13	（前期課題曲）演奏会指揮者による表現指導
14	（前期課題曲）演奏会指揮者によるアンサンブル、表現の最終確認
15	前期研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス（後期授業説明）
2	（後期課題曲）楽曲分析
3	（後期課題曲）管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏での譜読み
4	（後期課題曲）全体合奏での譜読み
5	（後期課題曲）全体合奏での課題を、管打合奏・弦合奏で修正
6	（後期課題曲）管打楽器合奏・弦楽器分奏で学習した課題のパート練習による修正
7	（後期課題曲）課題修正確認の為の全体合奏
8	（後期課題曲）楽曲の歴史的、文化的背景を学習
9	（後期課題曲）全体合奏で前回学習した楽曲の背景の表現方法を学習
10	（後期課題曲）演奏会指揮者による全体合奏
11	（後期課題曲）指揮者に指摘された課題の修正の為の全体合奏
12	（後期課題曲）管打合奏・弦楽器分奏での課題確認と修正
13	（後期課題曲）演奏会指揮者による表現指導
14	（後期課題曲）演奏会指揮者によるアンサンブル、表現の最終確認
15	後期研究発表演奏会

科目名	オーケストラ研究１－１～１－４　［月4-5］レパートリー						
代表教員	菅原　潤	授業コード	GE3211RO	科目コード	GE3211d	期間	通年
担当教員	中　一乃、神谷　百子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2回程度の演奏会に向けてオーケストラを作り上げる事を学ぶ。
〈レパートリーオーケストラ〉
管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期授業説明）
2	オーケストラ運営に必要なインスペクター等の係の選出
3	前期課題曲の楽曲分析
4	前期課題曲の作曲家、作品の歴史的、文化的背景の考察
5	前期課題曲の分奏での譜読み
6	前期課題曲の全体合奏
7	前期課題曲の全体合奏での問題点の確認、修正、改善
8	前期課題曲の合奏での問題点を踏まえての分奏
9	前期課題曲の問題点、修正点を改善が成されたかの確認の合奏
10	演奏会指揮者による前期課題曲の全体合奏
11	指揮者によって指摘された問題点、課題の修正のための前期課題曲の分奏
12	前期課題曲の合奏によって問題点、課題の改善の確認
13	前期コンサートの集客に関する取り組みの確認
14	指揮者によるアンサンブル、表現方法、前期コンサートの最終的な確認
15	前期研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス（後期授業説明）
2	前期の演奏会を踏まえての反省、修正点等の話し合い
3	後期課題曲の楽曲分析
4	後期課題曲の作曲家、作品の歴史的、文化的背景の考察
5	後期課題曲の分奏での譜読み
6	後期課題曲の全体合奏
7	後期課題曲の全体合奏での問題点の確認、修正、改善
8	後期課題曲の合奏での問題点を踏まえての分奏
9	後期課題曲の問題点、修正点を改善が成されたかの確認の合奏
10	演奏会指揮者による後期課題曲の全体合奏
11	指揮者によって指摘された問題点、課題の修正のための後期課題曲の分奏
12	後期課題曲の合奏によって問題点、課題の改善の確認
13	後期コンサートの集客に関する取り組みの確認
14	指揮者によるアンサンブル、表現方法の最終的な確認、後期コンサートの最終的な確認
15	後期研究発表演奏会

科目名	オーケストラ研究２－１～２－４　［木4-5］ベーシック						
代表教員	渡部　亨	授業コード	GE3215B0	科目コード	GE3215d	期間	通年
担当教員	神谷　百子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2回程度の演奏会に向けてオーケストラを作り上げる事を学ぶ。
〈レパートリーオーケストラ〉
管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。
※履修希望者多数の場合は履修制限を行うことがある。また、履修希望者少数の場合は再募集を行うことがある。

授業計画	
	［前期］演奏会出演パートはオーディションによって決定する。
1	クラス毎に顔合わせとパート決定
2	楽曲分析:作曲コース教員によるオーケストラ曲の分析
3	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
4	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
5	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第5番 「運命」第1楽章
7	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第5番 「運命」第1楽章　定着
8	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
9	合奏・管打合奏 スッペ:軽騎兵 序曲 他
10	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:エグモント序曲
11	合奏・管打合奏 ビゼー:アルルの女第2組曲
12	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ブラームス:ハンガリー舞曲
13	合奏・管打合奏 前期学習した研究演奏会プログラム
14	合奏・管打合奏 前期学習した研究演奏会プログラム
15	前田ホールでの研究発表演奏会 反省会と後期授業説明

授業計画	
	［後期］演奏会出演パートはオーディションによって決定する。
1	ガイダンス（後期授業説明）グループ変更が有る場合は提示する
2	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ベートーヴェン:交響曲第5番「運命」2、3、4楽章
3	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:交響曲第5番「運命」全楽章
4	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
5	合奏・管打合奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
6	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 チャイコフスキー:バレエ「白鳥の湖」組曲
7	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
8	合奏・管打合奏 ベートーヴェン:交響曲第5番「運命」全楽章
9	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
10	合奏・管打合奏 ショスタコーヴィッチ:祝典前奏曲
11	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 エルガー:行進曲「威風堂々第1番」
12	合奏・管打合奏 後期演奏会全てのプログラム
13	管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏 後期演奏会全てのプログラム
14	合奏・管打合奏 後期演奏会プログラムでのリハーサル
15	前田ホール後期研究発表演奏会

科目名	オーケストラ研究２－１～２－４　[木4-5] マスター						
代表教員	辻　功	授業コード	GE3215MO	科目コード	GE3215d	期間	通年
担当教員	中　一乃、神谷　百子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2程度の定期演奏会を行いオーケストラにおける演奏技術、合奏法を研究する。
〈レパートリーオーケストラ〉
管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期授業説明）
2	（前期課題曲）楽曲分析
3	（前期課題曲）管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏での譜読み
4	（前期課題曲）全体合奏での譜読み
5	（前期課題曲）全体合奏での課題を、管打合奏・弦合奏で修正
6	（前期課題曲）管打楽器合奏・弦楽器分奏で学習した課題のパート練習による修正
7	（前期課題曲）課題修正確認の為の全体合奏
8	（前期課題曲）楽曲の歴史的、文化的背景を学習
9	（前期課題曲）全体合奏で前回学習した楽曲の背景の表現方法を学習
10	（前期課題曲）演奏会指揮者による全体合奏
11	（前期課題曲）指揮者に指摘された課題の修正の為の全体合奏
12	（前期課題曲）管打合奏・弦楽器分奏での課題確認と修正
13	（前期課題曲）演奏会指揮者による表現指導
14	（前期課題曲）演奏会指揮者によるアンサンブル、表現の最終確認
15	前期研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス（後期授業説明）
2	（後期課題曲）楽曲分析
3	（後期課題曲）管打合奏・管打パート分奏・弦楽器分奏での譜読み
4	（後期課題曲）全体合奏での譜読み
5	（後期課題曲）全体合奏での課題を、管打合奏・弦合奏で修正
6	（後期課題曲）管打楽器合奏・弦楽器分奏で学習した課題のパート練習による修正
7	（後期課題曲）課題修正確認の為の全体合奏
8	（後期課題曲）楽曲の歴史的、文化的背景を学習
9	（後期課題曲）全体合奏で前回学習した楽曲の背景の表現方法を学習
10	（後期課題曲）演奏会指揮者による全体合奏
11	（後期課題曲）指揮者に指摘された課題の修正の為の全体合奏
12	（後期課題曲）管打合奏・弦楽器分奏での課題確認と修正
13	（後期課題曲）演奏会指揮者による表現指導
14	（後期課題曲）演奏会指揮者によるアンサンブル、表現の最終確認
15	後期研究発表演奏会

科目名	オーケストラ研究２－１～２－４　［木4-5］レパートリー						
代表教員	菅原　潤	授業コード	GE3215R0	科目コード	GE3215d	期間	通年
担当教員	中　一乃、神谷　百子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・SI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〈マスターオーケストラ〉
管、弦、打楽器コースの学生が各自の責任においてスコアを読み、アンサンブルを理解し、年2回程度の演奏会に向けてオーケストラを作り上げる事を学ぶ。
〈レパートリーオーケストラ〉
管、打楽器コースの学生が各楽器の特性を互いに知り、オーケストラの一員として年2回程度の演奏会を目指して練習し、アンサンブルの基礎、奏法などを研究する。
〈ベーシックオーケストラ〉
1年生の管、弦、打楽器コースを対象とし、オーケストラの基礎的な楽曲を取り上げ、年2回程度の演奏会を行う。

２．授業概要

授業計画に沿って、三つのオーケストラがそれぞれのプログラムで授業を進める。
合奏はスコアからオーケストラ全体を把握し、指揮者の下で演習をする。
管打合奏は木管金管打楽器のみが合奏し、指導教員の下で演習をする。
管弦打パート分奏はパート毎に、各専門楽器指導教員の下で演習をする。
弦楽器分奏は専門楽器指導教員の下で「ボーイング・フィンガリング等」を演習をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人パートの練習をし、パートによってはグループで部分練習を行ってから授業に臨むこと。
授業前に総譜（スコア）を読み込み楽曲を研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

オーディションの結果と、授業への参加姿勢、演奏会における演奏技術・表現力などを総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい。
演奏会で取り上げる曲を名曲解説全集（音楽の友社）やCDなどで事前に楽曲を理解しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈マスターオーケストラ〉
管打楽器：4年生を中心に履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
弦楽器：2～4年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈レパートリーオーケストラ〉
管打楽器：2～3年生の履修希望者の中から学年末試験の成績などにより選抜される。
〈ベーシックオーケストラ〉
管弦打楽器：1年生の履修希望者。
※ただし編成や演奏技術によっては、3つのオーケストラの中でメンバーの入れ替えをすることもあります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期授業説明）
2	オーケストラ運営に必要なインスペクター等の係の選出
3	前期課題曲の楽曲分析
4	前期課題曲の作曲家、作品の歴史的、文化的背景の考察
5	前期課題曲の分奏での譜読み
6	前期課題曲の全体合奏
7	前期課題曲の全体合奏での問題点の確認、修正、改善
8	前期課題曲の合奏での問題点を踏まえての分奏
9	前期課題曲の問題点、修正点を改善が成されたかの確認の合奏
10	演奏会指揮者による前期課題曲の全体合奏
11	指揮者によって指摘された問題点、課題の修正のための前期課題曲の分奏
12	前期課題曲の合奏によって問題点、課題の改善の確認
13	前期コンサートの集客に関する取り組みの確認
14	指揮者によるアンサンブル、表現方法、前期コンサートの最終的な確認
15	前期研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス（後期授業説明）
2	前期の演奏会を踏まえての反省、修正点等の話し合い
3	後期課題曲の楽曲分析
4	後期課題曲の作曲家、作品の歴史的、文化的背景の考察
5	後期課題曲の分奏での譜読み
6	後期課題曲の全体合奏
7	後期課題曲の全体合奏での問題点の確認、修正、改善
8	後期課題曲の合奏での問題点を踏まえての分奏
9	後期課題曲の問題点、修正点を改善が成されたかの確認の合奏
10	演奏会指揮者による後期課題曲の全体合奏
11	指揮者によって指摘された問題点、課題の修正のための後期課題曲の分奏
12	後期課題曲の合奏によって問題点、課題の改善の確認
13	後期コンサートの集客に関する取り組みの確認
14	指揮者によるアンサンブル、表現方法の最終的な確認、後期コンサートの最終的な確認
15	後期研究発表演奏会

科目名	ファンファーレオルケスト１～４　［金4-5］						
代表教員	露木　薫	授業コード	GE331500	科目コード	GE3315d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	WI・PI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ファンファーレオルケスト」とはアドルフ・サックスが考案した演奏形態で、ベルギー・オランダ・ルクセンブルグを中心に発展した長い歴史を持つ合奏形態である。オーケストラのヴァイオリンの役割をフリューゲルホルンやサキソフォーンが担い、円筒形金管楽器（トランペット・ホルン・トロンボーン）、円錐形金管楽器（フリューゲルホルン・バリトン・ユーフォニアム・バス等）、サキソフォーン族と打楽器群の合奏で創り出す豊かなサウンドは独特な美しさが魅力である。オリジナル作品も豊富であり、その魅力あるサウンドを追求する他、管弦楽の編曲作品にも積極的に取り組み、合奏能力の向上と音楽性の高い表現力の修得を目的とする。

２．授業概要

合奏を中心とした演奏研究を行う授業内容となる。
授業では、各パートには指導教員が付き添い実践的な演奏指導も行われる。
前期・後期に一回ずつ、授業の成果発表として定期演奏会を開催する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

履修者各々が担当する楽器の予備練習、個々のパートについての事前の譜読み、合奏授業で得た表現方法の復習等を十分に行い、作品・作曲家に対する見識を深めて、授業発表である演奏会に向けて最大限の準備・復習を行う事。

４．成績評価の方法及び基準

授業への貢献度を中心に、参加姿勢及び演奏内容を総合的にに評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし.
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回授業ガイダンス内での、合奏における各コース別の諸注意を確認する事。

授業計画	
	［前期］ ファンファーレオルケストについての知識や理解を深め、前期定期演奏会に向け授業を進める。 第27回定期演奏会 本番日時：6月22日㈯14：30 開演　前田ホール 指揮：近藤久敦先生
1	授業ガイダンス及び担当楽器とパートの割り振りを行う。その後合奏に移り前期演奏曲による音出しを行う。
2	合奏(譜読み) 正確に楽譜を読み込む事を中心に合奏を進め、新たなメンバーによるファンファーレオルケストのサウンドを体感する。
3	合奏(構造と調性) 各曲目の構造や調性について分析し、その上で各パートの役割を研究しながら合奏を進めて行く。
4	合奏(スタイル)各曲目のスタイルについて考察・分析し、そのスタイルに合ったリズムの演奏法を研究しながら合奏を進めて行く。
5	合奏（ハーモニー）各曲目の特徴的なハーモニーに注目し、より美しいハーモニーを生み出すための音程・バランスの調整を研究しながら合奏を進めて行く。
6	合奏(音質・音色)各曲目の各場面に相応しい音質・音色を考察し、演奏法によるその効果の可能性を模索・研究しながら合奏を進めて行く。
7	合奏(ブレンド)各曲目の楽器間の音のブレンドについて研究し、ファンファーレオルケスト独特な音のブレンドの美しさを追求しながら合奏を進めて行く。
8	合奏(形式)各曲目の音楽形式について分析し、各曲目それぞれの形式に相応しい演奏法を研究しながら合奏を進めて行く。
9	合奏(打楽器の効果)各曲目における打楽器の効果を分析・考察し、管楽器の演奏表現への相乗効果を研究しながら合奏を進めて行く。
10	合奏(ヴィブラート) 各曲目におけるヴィブラート奏法の効果的使用法について研究し、ファンファーレオルケストとしての演奏表現をさらに高めながら合奏を進めて行く。
11	合奏（息のスピード）各曲目の各場面における息のスピードに注目し、パート内や各楽器間の息使いの調整による表現の統一感を高めながら合奏を進めて行く。
12	合奏（テンポ）各曲目の各場面におけるテンポ設定について、仕上げの段階としての最良なテンポを見極めながら合奏を進めて行く。
13	合奏（表現の練磨）各曲目の各場面に相応しい演奏表現について総合的に練磨し、仕上げとして合奏を進めて行く。
14	合奏（総仕上げ）演奏会全体のプログラミングをふまえて、効果的な演奏表現の流れを頭に描きながら総仕上げとしての合奏を進めて行く。
15	前期定期演奏会　前期授業の総括として演奏会を行い、これまでの研究成果を発表する。

授業計画	
	［後期］ 前期授業での成果をもとに洗足学園音楽大学ファンファーレオルケストとして独自の魅力を追求し、後期定期演奏会に向けて取り組む。 第28回定期演奏会 本番日時：11月16日㈯　開演時間未定　　前田ホール 客演指揮：フィリップ・スパーク先生
1	授業ガイダンス及び新たな担当楽器とパートの割り振り・調整を行う。その後、後期演奏曲の合奏による音出しを行う。
2	合奏(譜読み) 正確に楽譜を読み込む事を中心に合奏を進め、後期演奏曲目によるファンファーレオルケストのサウンドを体感する。
3	合奏(構造と調性) 各曲目の構造や調性について分析し、その上で各パートの役割やパート間の連携関係を研究しながら合奏を進めて行く。
4	合奏(スタイル)各曲目のスタイルについて考察・分析し、そのスタイルに合った各楽器での音のタッチやリズムの演奏法を研究しながら合奏を進めて行く。
5	合奏（ハーモニー）各曲目の特徴的なハーモニーに注目し、より美しいハーモニーを生み出すための音程・バランスの調整やハーモニーの連結を研究しながら合奏を進めて行く。
6	合奏(音質・音色)各曲目の各場面に相応しい音質・音色を考察し、演奏法によるその効果の可能性を更に拡げるための模索・研究を行いながら合奏を進めて行く。
7	合奏(ブレンド)各曲目の楽器間の音のブレンドについて研究し、洗足学園音楽大学ファンファーレオルケスト独自の音のブレンドの美しさを追求しながら合奏を進めて行く。
8	合奏(形式)各曲目の音楽形式について分析し、各曲目それぞれの形式に相応しい演奏法を研究しながら合奏を進めて行く。前期に行った音楽形式の分析を基に数名による発表形式での分析も行う。
9	合奏(打楽器の効果)各曲目における打楽器の効果を分析・考察し、管楽器の演奏表現への相乗効果を研究しながら合奏を進めて行く。打楽器教員によるデモンストレーションに合わせての演奏も体験し、専門家からの観点も学ぶ。
10	合奏(ヴィブラート) 各曲目におけるヴィブラート奏法の効果的使用法について研究し、洗足学園音楽大学ファンファーレオルケストならではの演奏表現をさらに高めながら合奏を進めて行く。
11	合奏（息のスピード）各曲目の各場面における息のスピードに注目し、パート内や各楽器間の息使いの調整による表現の統一感を高め、息のスピードの変化による多彩な音楽表現を研究しながら合奏を進めて行く。
12	合奏（テンポ）各曲目の各場面におけるテンポ設定について、仕上げの段階として作曲家の意図するテンポを見極めながら合奏を進めて行く。
13	合奏（表現の練磨）各曲目の各場面に相応しい演奏表現について総合的に練磨し、洗足学園音楽大学ファンファーレオルケストの今年度の仕上げとして合奏を進めて行く。
14	合奏（総仕上げ）演奏会全体のプログラミングをふまえて、演奏会場でのファンファーレオルケスト全体のバランスや効果的な演奏表現の流れを頭に描きながら総仕上げとしての合奏を進めて行く。
15	後期定期演奏会　後期プログラムによる演奏会を行い、一年間の授業総括としての成果発表を披露する。

科目名	室内楽研究１　［金2］打楽器						
代表教員	中村　祐子	授業コード	GE3401D0	科目コード	GE3401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

打楽器を通して室内楽の基礎を学び、今後の他楽器との合奏への足掛かりを作る。
前期は、膜質楽器、鍵盤楽器の基礎から同楽器の二重奏を勉強し、そこから三重奏以上の知識を深め、前期最終回には、それらを踏まえながら45分のコンサートを行う。担当教員と話し合いながら、自分達の実力に合った選曲をし、室内楽の基礎は勿論、コンサートを作り上げる基礎も学ぶ。
後期は、前期で学んだ事を生かしながら自分達でグループを組み、個人の技量を上げながら一曲の完成度を高め、上級生の試演会と同じステージに立ち、発表をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

前後期の研究発表会の演奏評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年生希望者が履修できる。
弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器・サクソフォンのコースに分かれる。
コース別に教員と相談しグループを編成する。

授業計画	
	前期 膜質楽器、鍵盤楽器の基本奏法、その他、オーケストラや吹奏楽で使用する楽器の基本奏法を習得し、アンサンブルに生かす。
1	各コース別ガイダンス、前期授業計画発表。前半グループ、インスペクター決め。楽譜探し。
2	膜質楽器の基礎、楽器の選び方、セッティング他の講義、レッスン（スネアドラムDUO）
3	２の発表・ディスカッション（膜質楽器）
4	鍵盤楽器の基礎、セッティング、バッハの演奏法の講義・レッスン（マリンバDUO）
5	４の発表・ディスカッション（鍵盤楽器）
6	前期研究発表会の曲目、パート、係決め
7	小編成１・２譜読み、練習
8	小編成１、２　練習
9	小編成３・大編成　譜読み、練習
10	小編成３・大編成　練習
11	小編成レッスン
12	大編成レッスン
13	全曲レッスン
14	前期研究発表会ゲネプロ
15	前期研究発表会

授業計画	
	後期 前期に習得した技術、知識を活かして、一曲を丁寧に且つ楽曲として仕上げる。
1	後期研究発表曲の決定、パート決め
2	各曲譜読み
3	各曲練習
4	グループ①②レッスン グループ③④練習
5	グループ①②レッスン後直し練習 グループ③④レッスン
6	グループ①②練習 グループ③④レッスン後直し練習
7	グループ①レッスン グループ②③④練習
8	グループ②レッスン グループ①③④練習
9	グループ③レッスン グループ①②④練習
10	グループ④レッスン グループ①②③練習
11	グループ①②レッスン グループ③④練習
12	グループ③④レッスン グループ①②練習
13	後期研究発表会ゲネプロ
14	後期研究発表会
15	後期反省会とまとめ

科目名	室内楽研究１　［金2］弦楽器						
代表教員	安藤　裕子	授業コード	GE3401G0	科目コード	GE3401	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

前後期の研究発表会の演奏評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。

参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年生希望者が履修できる。

弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器・サクソフォンのコースに分かれる。

コース別に教員と相談しグループを編成する。

授業計画	
	弦楽器 履修者の専攻をみながら、3重奏から6重奏までの室内楽曲を勉強します。 前期は1つの曲を全員で共有し、合奏練習ののち、その場でグループをくみ、室内楽の技術向上をめさし、個別に指導します。
1	各コース別ガイダンス、前期授業計画作成とグループ分け。インスペクター決め。
2	合奏・和声の基礎知識のレッスン
3	弦楽合奏授業の曲（チャイコフスキー弦楽セレナード）の分析 １、２楽章
4	前回に引き続き、チャイコフスキー作品。３、４楽章 小編成で、演奏法の確認
5	ハイドン　弦楽四重奏曲　第１楽章 作品の構成を学ぶ
6	第１楽章　調性の変化と曲想の捉え方
7	室内楽としての、バランスの取り方の研究
8	第１楽章　音型の違いとテンポの共有について
9	第２楽章　　構成を知る。フレーズの共有について
10	第２楽章　弦楽器特有の技術、ヴィヴラートや運弓で生じる音楽的効果
11	第２楽章　奏者の違いと音楽作りについて
12	第３楽章　外声と内声の役割について
13	第３、４楽章　音量のコントロールのなせる技
14	第４楽章　作品の骨格を理解する
15	作品全体の作りを意識しての、各楽章の捉え方

授業計画	
	弦楽器 古典の作品からスタートする前期授業で基礎的な技術を身につけた受講者に、可能な範囲で編成を変え、より発展的な経験を積んでいきます。 事前のリハーサルの重要性、スコアの活用法など、オーケストラ授業につながる指導をおこないます。
1	ベートーベン　作品１８−４　第１楽章 前半の構成を知る
2	第１楽章　調性の持つエネルギーを感じた音楽づくりとは
3	第１楽章　後半の構成を知る
4	第１楽章　テンポ、拍子感、リズム感の重要性
5	第１楽章　フレーズの共有について
6	第２楽章　作品の仕組みを検証
7	第２楽章　構成を踏まえた上で、４声のバランスの保ち方
8	第２楽章　フレーズの共有について
9	第３楽章　拍子感の重要性。楽譜からのメッセージを受け取る 第４楽章　構成を知る
10	第４楽章　曲想の変化の表現方法について
11	第４楽章　調性があらわす音楽を感じ取る
12	第４楽章　拍子とテンポ感について
13	第４楽章　全体の構築を意識した演奏の為に考えること
14	次回成果発表に向けて、担当楽章と、研究テーマを各自決定。
15	作品の時代背景、作品そのものの作曲経緯、本人の演奏上の工夫の考察など研究発表の後、成果発表演奏。

科目名	室内楽研究１　［金2］金管						
代表教員	古田　賢司	授業コード	GE3401K0	科目コード	GE3401	期間	通年
担当教員	橋本　晋哉						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

前後期の研究発表会の演奏評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。

参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年生希望者が履修できる。

弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器・サクソフォンのコースに分かれる。

コース別に教員と相談しグループを編成する。

授業計画	
	［前期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	各コース別ガイダンス、前期授業計画作成とグループ分け。インスペクター等の係決め。
2	合奏・和声の基礎知識のレッスン:　コラールを用いて
3	合奏・和声の基礎知識のレッスン:ルネサンス時代の舞曲を用いて
4	5~10重奏の楽曲研究①（前期の前半はバロック以前～古典の作品が望ましい）
5	金管楽器の基礎トレーニング/呼吸法を中心に 楽曲研究②　曲の構成を中心に
6	楽曲研究/展開①　スタイルの研究
7	楽曲研究/展開②　和声の面からの研究
8	楽曲研究/展開③　全体の構成の研究
9	楽曲研究③　編曲作品も含めバロック、ルネサンス時代より新しい作品に取り組む
10	楽曲研究④　構成、和声面からのアナリーゼ
11	金管楽器の基礎トレーニング/倍音について 楽曲研究/展開④ 編成、作品の年代から演奏スタイルのプランを立てる
12	楽曲研究/展開⑤　和音の進行を重視したアプローチ
13	楽曲研究/展開⑥　ダイナミクス、全体のバランス等の合奏に必要な要素を研究する
14	前期研究発表会
15	前期反省会と後期の授業計画作成

授業計画	
	［後期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	後期のグループ分け。　後期は同族楽器のアンサンブルも含め編成する。
2	楽曲研究①　ルネサンス時代の舞曲から近代作品まで、広い範囲で選曲する
3	楽曲研究② それぞれの楽曲に対して演奏プランを考える
4	金管楽器奏法のトレーニング/アタックについて 楽曲研究/展開①　演奏スタイルの研究
5	楽曲研究/展開②　和音、リズムの面からの研究、実践
6	楽曲研究/展開③　最も効果的な表現の方法を考える
7	楽曲研究③　現代作品も選曲可能　試験に向けて時間をかけて取り組める楽曲を選ぶ
8	楽曲研究④　それぞれの楽曲の演奏スタイル、練習内容のプランを立てる
9	楽曲研究/展開④　和音の進行、リズムの面から楽曲を研究する
10	金管楽器奏法のトレーニング/レンジ（音域）の拡大について 楽曲研究/展開⑤　合奏に必要な表現をアップデートさせる
11	楽曲研究/展開⑥　金管アンサンブルの場合、楽器の並び方、奏者の間隔で響きが変わるので最も効果的なセッティングを試行錯誤しながら研究する
12	楽曲研究/展開⑦　改めて楽曲の構成感、スタイルを意識し室内楽と言えるレベルに到達しているか確認する
13	楽曲研究/展開⑧　次週の発表会に向け、楽曲全体を通して演奏し、より高いパフォーマンスがf出来るよう研究する
14	後期研究発表会
15	後期反省会とまとめ

科目名	室内楽研究１　［金2］木管						
代表教員	渡部　亨	授業コード	GE3401M0	科目コード	GE3401	期間	通年
担当教員	秋山　かえで						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

前後期の研究発表会の演奏評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。

参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年生希望者が履修できる。

弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器・サクソフォンのコースに分かれる。

コース別に教員と相談しグループを編成する。

授業計画	
	［前期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期9月に４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	各コース別ガイダンス、前期授業計画作成とグループ分け。インスペクター決め。
2	合奏・和声の基礎知識のレッスン 同属楽器
3	合奏・和声の基礎知識のレッスン 木管四重奏曲
4	演習①2グループに分かれ2～4重奏で同族楽器のアンサンブルを行う。 OBモーツァルト:オーボエ三重奏曲、 FLカステレード:アルカディ CLドンディーネ:コラール など
5	演習②同じく同族楽器　メンバーを交換する。
6	演習③木管4重奏曲を演習する。 ボザ:夜の音楽 1楽章
7	演習④木管4重奏を演習する。メンバーを交換する。 ボザ:夜の音楽 2、3楽章
8	演習⑤同族楽器　メンバーを交換する。クラリネットはバスクラリネットも使用する
9	演習⑥同族楽器　パート担当メンバーを交換する。
10	演習⑦木管4重奏曲を演習する。 ドビュッシー、イベールなど小品
11	演習⑧木管4重奏を演習する。パートメンバーを交換する。 ダマーズ:木管四重奏曲
12	演習⑨同族楽器　研究発表会のプログラムを演習する。
13	演習⑩木管4重奏曲　研究発表会の演習をする。
14	前期研究発表会
15	前期反省会と後期の授業計画作成

授業計画	
	［後期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期9月に４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。
1	演習①ホルンを加えた木管5重奏曲の演習を行う。 ハイドン:ディヴェルティメント1、2楽章
2	演習②ホルンを加えた木管5重奏曲の演習を行う。 ハイドン:ディヴェルティメント3、4楽章
3	演習③ホルンを加えた木管5重奏曲の演習を行う。 イベール:3つの小品 1楽章
4	演習④ホルンを加えた木管5重奏曲の演習を行う。 イベール:3つの小品2、3楽章
5	演習⑤同族楽器で後期研究発表会のプログラムを決定する。
6	演習⑥同族楽器の演習をする。アーノルド、ドニゼッティなど
7	演習⑦同族楽器の演習を行う。 ボザ、ベートーヴェンなど
8	演習⑧木管4重奏の研究発表会のプログラム選定。
9	演習⑨木管4重奏の研究発表会の演習を行う。 ボザ:木管四重奏曲
10	演習⑩木管4重奏の研究発表会の演習を行う。 フランセ:木管四重奏曲 他
11	演習⑪木管4重奏の研究発表会の演習を行う。 フランセ:木管四重奏曲 他　定着
12	演習⑫同族楽器・木管4重奏の演習を行う。
13	演習⑬2つのグループで同族楽器・木管4重奏の演習を行う。
14	後期研究発表会
15	後期反省会とまとめ

科目名	室内楽研究１　［金2］サックス						
代表教員	江川　良子	授業コード	GE3401S0	科目コード	GE3401	期間	通年
担当教員	本堂　誠						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

出席及び前後期の研究発表会の演奏評価とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。

参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年生希望者が履修できる。

弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器・サクソフォンのコースに分かれる。

コース別に教員と相談しグループを編成する。

授業計画	
	［前期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。 注4 ）サクソフォーンは前期2回、後期2回研究発表会を行う。毎回グループ及び担当楽器を変更し、ソプラノ・アルト・テナー・バリトンの4種類の楽器を経験する。演奏曲はグループ毎に決定する。（下記の作品名は参考程度とする。）
1	各コース別ガイダンス、前期授業計画作成とグループ分け。インスペクター決め。
2	合奏・和声の基礎知識のレッスン
3	合奏・和声の基礎知識のレッスン　定着
4	演習1:A・Bグループ サンジュレー:サクソフォーン四重奏曲第1番 第1楽章など
5	演習1:C・Dグループ ジャンジャン:サクソフォーン四重奏曲 第1・2楽章など
6	演習2:A・Bグループ サンジュレー:サクソフォーン四重奏曲第1番 第2楽章 など
7	演習2:C・Dグループ ジャンジャン:サクソフォーン四重奏曲 第3・4楽章など
8	◎前期研究発表会、次回のグループ・楽器決めなど
9	演習1:A・Bグループ サンジュレー:サクソフォーン四重奏曲第1番 第3楽章など
10	演習1:C・Dグループ ランティエ: アンダンテとスケルツェット /アンダンテ など
11	演習2:A・Bグループ サンジュレー:サクソフォーン四重奏曲第1番 第4楽章など
12	演習2:C・Dグループ ランティエ: アンダンテとスケルツェット /スケルツェット など
13	演習3:A・Bグループ サンジュレー:サクソフォーン四重奏曲第1番 第3・4楽章など
14	演習3:C・Dグループ ランティエ: アンダンテとスケルツェット など
15	◎前期研究発表会と後期の授業計画作成

授業計画	
	［後期］ 注１）　金管楽器は、一年を通して、基礎トレーニングを授業の始めに３０分程度行ってから、アンサンブルのレッスンに入ります。 注２）　木管楽器は後期４回木管五重奏を研究する。 注３）　コースによっては適時研究発表会を行う。 注4 ）サクソフォーンは前期2回、後期2回研究発表会を行う。毎回グループ及び担当楽器を変更し、ソプラノ・アルト・テナー・バリトンの4種類の楽器を経験する。演奏曲はグループ毎に決定する。（下記の作品名は参考程度とする。）
1	演習1:A・Bグループ ボザ: アンダンテとスケルツォ/ アンダンテ など
2	演習1:C・Dグループ グラズノフ:サクソフォーン四重奏曲より カンツォーナ・ヴァリエ など
3	演習2:A・Bグループ ボザ: アンダンテとスケルツォ/ スケルツォ など
4	演習2:C・Dグループ グラズノフ:サクソフォーン四重奏曲より カンツォーナ・ヴァリエ など　確認
5	演習3:A・Bグループ ボザ: アンダンテとスケルツォ など
6	演習3:C・Dグループ グラズノフ:サクソフォーン四重奏曲より カンツォーナ・ヴァリエ など　定着
7	◎後期研究発表会、次回のグループ・楽器決めなど
8	演習1:A・Bグループ デザンクロ:サクソフォーン四重奏曲 第1楽章など
9	演習1:C・Dグループ パスカル:サクソフォーン四重奏曲 第1・2楽章など
10	演習2:A・Bグループ デザンクロ:サクソフォーン四重奏曲 第2楽章など
11	演習2:C・Dグループ パスカル:サクソフォーン四重奏曲 第3・4楽章 など
12	演習3:A・Bグループ デザンクロ:サクソフォーン四重奏曲 第3楽章など
13	演習3:C・Dグループ パスカル:サクソフォーン四重奏曲 など
14	◎後期研究発表会
15	後期反省会とまとめ

科目名	室内楽研究1～4 ［ワールドミュージック］						
代表教員	中根　康美	授業コード	GE3401WM	科目コード	GE3401d	期間	
担当教員	大江　千佳子						
授業形態		配当学年	1				
対象コース		科目分類					
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブルを基本から学び、音の響きを捉える感覚を養い各自の演奏の向上を図る。
さまざまな作品の演奏スタイルや音楽解釈の方法を学び、自身の音楽表現の幅を広げていく。

到達目標
アンサンブルにおいて必要な感覚を磨き、どのような楽器編成であっても自分なりの音楽表現ができる。

２．授業概要

古典的な作品では、和音の響き、フレージング、演奏スタイルといった音楽の基本的な事柄に重点をおいてレッスンを進めていく。
近・現代の作品においては、特殊奏法、色彩のある音色づくり、躍動感のあるリズムの表現といったより高度な演奏技術の修得を目指していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・各パートの個人練習
・グループでの合わせの練習
・作品についての研究

４．成績評価の方法及び基準

試験の成績　70%
平常点（授業への参加姿勢）３０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

曲についてはガイダンスにおいて決定する。

参考文献は曲に取り組む際に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回の授業でアドバイスされたことを復習し、各自の演奏能力を向上させるようにしていくこと

授業計画	
	演習曲により授業回を交替することがある。
1	ガイダンス
2	アンサンブルの基礎練習
3	古典的な作品 ― 形式と演奏スタイルの考察
4	古典的な作品 ― 装飾音について
5	古典的な作品 ― アーティキュレーションについて
6	古典的な作品 ― 各パートの旋律的な動きの考察
7	古典的な作品 ― 対位法的な動きの考察
8	古典的な作品 ― 和声の考察① ベースライン
9	古典的な作品 ― 和声の考察② 和音の響き
10	古典的な作品 ― 和声の考察③ 響きのバランス
11	古典的な作品 ― リズムについて
12	古典的な作品 ― アゴーギク、ニュアンスについて
13	古典的な作品 ― 演奏解釈について
14	古典的な作品 ― 即興演奏について
15	前期のまとめ

授業計画	
1	後期の演習曲目の決定
2	近代の作品 ― 演奏スタイルの考察
3	近代の作品 ― 曲のイメージをつかむ
4	近代の作品 ― 曲の構造の考察
5	近代の作品 ― 和声の考察① 和音の響きのニュアンス
6	近代の作品 ― 和声の考察② 響きのバランス
7	近代の作品 ― リズムについて
8	近代の作品 ― 音色の研究
9	近代の作品 ― 音楽表現について
10	現代の作品 ― 音の響きについて
11	現代の作品 ― リズムについて
12	現代の作品 ― 特殊奏法について
13	現代の作品 ― 音楽表現について
14	さまざまなジャンルの音楽との共演について
15	後期のまとめ

科目名	ギター合奏１～４　[水4-5]						
代表教員	小林　徹	授業コード	GE341100	科目コード	GE3425d	期間	通年
担当教員	柿原　順子、児嶋　絢子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	GT	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックギターによる重奏、合奏や他楽器(マンドリン、リコーダー)との二重奏によって、アンサンブル能力、初見力を養い、ギター奏者として自分の役割を果たし協調する人格を培うことを目標とする。年２回のクラシックギターコース演奏会に出演する。

２．授業概要

クラシックギターによる二重奏、三重奏、四重奏、及び合奏をはじめ、音域や表現力を高める目的を持ってアルトギター、バスギターなどの合奏用ギター（大学に常備）を用いたアンサンブル、また同じ撥弦楽器であるマンドリン、演奏機会の多いリコーダーとの二重奏、合奏を実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自パートの個人練習はもちろん、演奏会に向けて必要に応じて自主的なパート、合奏練習をする。

４．成績評価の方法及び基準

成績は演奏会での成果、貢献度を総合的に判断。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が配布　（バロック時代のJS.バッハ、A.ヴィヴァルディ。ロマン派のF.カルリ、F.ソル。近代のF.トローバの編曲作品及びオリジナル作品を使用する。）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合奏授業は全回出席が前提となる。

授業計画	
	［前期］ ギターアンサンブルに必用な基礎練習と前期クラシックギターコース演奏会にむけた楽曲の練習。
1	4限　ガイダンス 　　ギター重奏、合奏について 5限　ガイダンス 　　マンドリンとギターの違い、アンサンブルについて
2	4限　ギター重奏、合奏のための基礎練習 5限　　マンドリンとギターのアンサンブルのための基礎練習
3	4限　ギターアンサンブルのレパートリー紹介 5限　マンドリンとギターアンサンブルのレパートリー紹介
4	4限　ギターアンサンブルによる バロック時代の楽曲紹介 5限　マンドリンとギターによるバロック時代の楽曲紹介
5	4限　ギターアンサンブルによるバロック時代の楽曲練習 5限　マンドリンとギターによるバロック時代の楽曲練習
6	4限　ギターアンサンブルによるイギリスバロック時代の楽曲練習 5限　マンドリンとギターによるイタリアバロック時代の楽曲練習
7	4限　古典派時代のギターアンサンブル曲の紹介 5限　古典派時代のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の紹介
8	4限　古典派時代のギターアンサンブル曲の練習 5限　古典派時代のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習
9	4限　古典派時代のギターアンサンブル曲の練習指揮付き 5限　古典派時代のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習　演奏会形式による小発表会
10	4限　前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定 5限　前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の選定
11	4限　前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 5限　前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習
12	4限　前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 演奏会形式による発表練習 5限　前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲の練習　指揮付き
13	4限　前期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル 5限　前期クラシックギター演奏会のマンドリンとギターによるアンサンブル曲のリハーサル
14	4限　前期クラシックギター演奏会の評価と反省 5限　前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	4限　後期に向けた夏休み中の課題 演奏曲の配布 5限　マンドリンとクラシックギターのアンサンブルについてまとめ

授業計画	
	［後期］ 後期クラシックギターコース演奏会に向けた取り組みと、ギターアンサンブルの主要レパートリーの研究。
1	4限　ガイダンス 　後期のギターアンサンブルの課題と目標設定 5限　ガイダンス 　リコーダーとギターのアンサンブルの課題と目標設定
2	4限 ロマン派のギターアンサンブル曲の紹介 5限 バロック時代のリコーダーとギターのアンサンブル曲の紹介
3	4限 ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 F. カルリの作品 5限 バロック時代のリコーダーとギターのアンサンブル曲の練習
4	4限 ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 F. ソルの作品 5限 バロック時代のリコーダーとギターのアンサンブル曲の練習　演奏会形式の小発表
5	4限 ロマン派のギターアンサンブル曲の練習 発表会形式による小発表会 5限 ロマン派のリコーダーとギターのアンサンブル曲の紹介
6	4限　近代のギターアンサンブル曲の紹介 5限　ロマン派のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習
7	4限　近代のギターアンサンブル曲の練習 5限　ロマン派のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習 小発表会形式による演奏会
8	4限　現代のギターアンサンブル曲の紹介 5限　ロマン派のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習　発表会形式による小発表会
9	4限　現代のギターアンサンブル曲の練習 5限　近・現代のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の紹介と練習
10	4限　後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の選定 5限　後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の選定
11	4限　後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 ロマン派 5限　後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習 バロック時代曲
12	4限　後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲の練習 現代曲 5限　後期クラシックギター演奏会のりリコーダーとギターによるアンサンブル曲の練習　近、現代曲
13	4限　後期クラシックギター演奏会のギターアンサンブル曲のリハーサル 5限　後期クラシックギター演奏会のリコーダーとギターによるアンサンブル曲のリハーサル
14	4限　前期クラシックギター演奏会の評価と反省 5限　前期クラシックギター演奏会の評価と反省
15	自由討論

科目名	邦楽合奏演習１～４　[土4]						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE353100	科目コード	GE3531d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	GH	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本奏法の習得と五線譜による邦楽アンサンブルの経験を積む。

２．授業概要

楽譜を正確に且つ深く読み取り、他パートを聴きながら演奏し、音楽全体をつくりあげる能力を高める。
講義と実技の組合せによるカリキュラム。担当講師は複数教員。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で指摘された課題を次回の授業までに克服するよう、充分に練習（個人練習、パート練習）することに努めること。

４．成績評価の方法及び基準

演奏会での演奏実績（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布あるいは自身で購入し用意すること。課題曲の音源があれば、入手し予め視聴しておくことが望ましい。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出来るだけ多くの邦楽器作品を聴く（CD、コンサートなど）ことを心掛ける。尚、本科目は現代邦楽研究所の実技授業に合流しての授業となる。

授業計画	
	［前期］
1	合奏実習のための準備講義入門　森重行敏
2	合奏実習のための準備講義応用　森重行敏
3	合奏実習のための準備講義まとめ　森重行敏
4	研究曲A　譜読み　吉原佐知子
5	研究曲A　定着　山中信人
6	研究曲A　まとめ　山口賢治
7	研究曲B　譜読み　吉原佐知子
8	研究曲B　定着　山中信人
9	研究曲B　まとめ　野澤徹也
10	「和のいろは」コンサート練習 譜読み　野澤佐保子
11	「和のいろは」コンサート練習 定着　冨田慎平
12	「和のいろは」コンサート練習 確認　野澤徹也
13	「和のいろは」コンサート練習 まとめ　山口賢治
14	「和のいろは」リハーサル　松尾祐孝
15	「和のいろは」コンサート本番

授業計画	
	［後期］
1	音楽づくりワークショップ　導入　味譜美香
2	音楽づくりワークショップ　応用　味譜美香
3	研究曲C　譜読み　冨田慎平
4	研究曲C　定着　野澤佐保子
5	研究曲C　まとめ　山口賢治
6	冬の音楽祭コンサート練習 譜読み　野澤佐保子
7	冬の音楽祭コンサート練習　定着　冨田慎平
8	冬の音楽祭コンサート練習　確認　吉原佐知子
9	冬の音楽祭コンサート練習　まとめ　松尾祐孝 ※リハーサルは別日に追加指定
10	冬の音楽祭コンサート本番
11	現邦研修了コンサート練習 譜読み　野澤佐保子
12	現邦研修了コンサート練習　定着　野澤徹也
13	現邦研修了コンサート練習　確認　山中信人
14	現邦研修了コンサート練習　まとめ　吉原佐知子
15	現邦研修了コンサート　リハーサル　松尾祐孝 ※コンサート本番は1/20（日）

科目名	シーンスタディⅠ　[水3-4]						
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	GE370500	科目コード	GE3705	期間	通年
担当教員	高谷　あゆみ、山下　順子、山田　宏平、高野　直子、関　与志雄、ｔｅｋｋａｎ、田野　邦彦、小林　瑶子、牧　華子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌・ダンス・バレエ・演技など、それぞれの授業で学んだことをこのシーンスタディで総括する。いろいろなジャンルのミュージカルの一シーンを演出をつけながら勉強し、夏冬の音楽祭でのレビューや本公演などの多岐にわたる授業成果発表の場に向け、実践能力やコミュニケーション能力の向上とそのプロセスを学ぶ。

２．授業概要

声を使った演技「シアトリカル・リーディング」及び　歌、ダンス、芝居の3要素を含む「有名ミュージカルのワンシーン」を学ぶ。
アンサンブル実習とタイアップしてより作品内容を深く学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に暗譜を心がけること。ダンスの振り付け、歌や芝居のアンサンブル等全員で取り組まなければならないものについては、授業以外で集まって稽古をする習慣を身につけ次回の授業に臨むこと。
課題のミュージカルについての知識を事前に調べて授業に臨むこと。（作詞作曲者、時代背景、初演、作品名、等）

４．成績評価の方法及び基準

レポート提出を含む授業への参加姿勢（評価の５０％）
後期実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

チームで取り組む作業が大半を占めるので欠席の内容健康　面での自己管理を怠らないこと。
テキストは常に携帯。常に暗譜を心がける。
服装は稽古着着用のこと。
他に筆記用具、タオル、飲み物を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。
遅刻欠席は必ず届け出ること。

授業計画	
	［前期］ 　前期は7月初旬に行われる授業成果発表でもある「シアトリカルリーディング」公演に向けての授業とする。 リーディング公演終了後の授業は、後期演目のリサーチと課題曲歌唱を夏休みの課題とするため、そのための楽曲指導と7月下旬の授業成果発表「サマー・ミュージカル・ショウケース」の準備にあてる。
1	ガイダンス（年間進行、休補講案内） 教員、学生、自己紹介。 グループエクササイズ（一言自己紹介） シアトリカルリーディングガイダンス
2	シアトリカルリーディング読み合わせ
3	リーディングオーディション
4	キャスティングのための稽古
5	前期ステージング
6	スケジュールと上演回の発表。ステージング、グループごとに稽古
7	チーム毎の稽古 1場
8	チーム毎の稽古 2場
9	チーム毎の稽古 3場
10	チーム毎の稽古 4場
11	チーム毎の稽古 1場と3場のブラッシュアップ（キャラクターと場面の掘り下げ）
12	通し稽古
13	後期ウィンターショウケースについて 後期課題のためのガイダンス 楽譜確認
14	ウィンターショウケースに向けてロジャース＆ハマースタイン作品オーディションについて
15	配役オーディション

授業計画	
	［後期 ミュージカルの古典ともいうべきロジャース＆ハマースタインⅡコンビの作品のハイライトを課題として取り上げ、歌、演技、ダンスの三要素を含む作品としてチームごとに取り組み、年度末に発表をする。
1	後期ガイダンスと全体曲歌唱 夏課題レポート提出 各作品ごとに分かれての授業 作品ごとの資料視聴など
2	ウオーミングアップ。 各作品ごとに分かれて音楽稽古。振り付け アーティキレーション
3	ウオーミングアップ。音楽稽古。振り付け フレージング
4	ウオーミングアップ。音楽稽古。振り付け ハーモニー
5	ウオーミングアップ。音楽稽古。振り付け 演技との融合、演技と振付の違い。見せかた
6	後期ステージング
7	ステージングと演技指導
8	演技指導と歌唱指導
9	Aチーム荒通しおよび講評
10	Bチーム荒通し及び講評
11	衣装パレード
12	全体曲歌唱のあとセクション抜き稽古（前半部分）
13	全体曲歌唱のあと各セクション抜き稽古（後半部分）
14	Aチーム衣装付き通し稽古、Bチームからの講評
15	Bチーム衣装付き通し稽古とAチームからの講評

科目名	シーンスタディII　[水3-4]						
代表教員	横山　仁一	授業コード	GE370600	科目コード	GE3706	期間	通年
担当教員	篠原　真、ダイアナ　ボール　石山、井上　友美、家田　淳、マリタ　ストライカー、堂園　愛子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「シーンスタディI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌・ダンス・バレエ・演技など、それぞれの授業で学んだことをこのシーンスタディで統合、2年次では1年次で学習したことをさらに発展させる。いろいろなジャンルのミュージカルの一シーンを演出をつけながら勉強し、夏の音楽祭でのレビューや本公演などの多岐にわたる授業成果発表の場に向け、実践能力やコミュニケーション能力の向上とそのプロセスを学ぶ。

２．授業概要

歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのワンシーンを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に暗譜を心がけること。ダンスの振り付け、歌や芝居のアンサンブル等全員で取り組まなけれならないものについては、授業以外で集まって稽古をする習慣を身につけ次回の授業に臨むこと。課題のミュージカル作品についてのリサーチ、演じる役についてのキャラクター考察をレポートとして提出する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
後期実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのいくつかのシーンを創り上げていく。前期の演目はSummerMusicalShowcaseとして前田ホールにて上演する。 ※演目は演奏会のテーマや学年の男女比等特性鑑みて選定、キャスティングはオーディションで決定するものとする。
1	前期課題の資料配布とガイダンス 作品紹介／演目選択の意図と到達目標の共有／参考映像鑑賞／オーディション箇所の説明と練習
2	（前期課題）キャスティングオーディション
3	（前期課題）キャスティング決定を踏まえ、課題演目に応じた進行イメージの共有 音楽稽古／振付・ステージングに向けたエクササイズやワークショップ① 課題演目の作品リサーチ指示
4	（前期課題）作品分析とディスカッション① 音楽稽古／振付・ステージングに向けたエクササイズやワークショップ② キャラクター考察レポート指示
5	（前期課題）作品分析とディスカッション② 音楽稽古／振付・ステージングに向けたエクササイズやワークショップ③
6	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導① 第6回から第10回の計5回を使って、全てのナンバー、シーンの振付・ステージングを行い、同時にその日に振付・ステージングがないキャストの歌唱・演技指導を行う。
7	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導② ①とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①の確認反復練習や指導を行う
8	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導③ ①②とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②の確認反復練習や指導を行う
9	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導④ ①②③とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③の確認反復練習や指導を行う
10	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導⑤ ①②③④とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③④の確認反復練習や指導を行う
11	（前期課題）通し稽古① 流れの確認
12	（前期課題）修正・調整／通し稽古② ①で確認した流れについて必要に応じて修正、調整の上で通し稽古②を行う
13	（前期課題）修正・調整／通し稽古③ ②を踏まえ、大人数シーンの振付やステージングを整理ブラッシュアップの上で通し稽古③を行う
14	（前期課題）修正・調整／通し稽古④ ③までを踏まえ必要に応じて修正、それぞれのナンバーやシーンの細部を詰めた上で通し稽古④を行う
15	（前期課題）仕上げ・最終調整

授業計画	
	［後期］ 歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのいくつかのシーンを創り上げていく。後期の演目は2nd Year Class Revueとしてビッグマウスにて上演する。 ※キャスティングはオーディション、または前期までのパフォーマンス機会を踏まえ教員間の協議で決定する。
1	後期課題の資料配布とガイダンス （「コーラスライン」等より） 作品紹介／演目選択の意図と到達目標の共有／参考映像鑑賞
2	（後期課題）キャスティングオーディション
3	（後期課題）キャスティング決定を踏まえ、課題演目に応じた進行イメージの共有 音楽稽古／振付・ステージングに向けたエクササイズやワークショップ① 課題演目の作品リサーチ指示
4	（後期課題）作品分析とディスカッション① 音楽稽古／振付・ステージングに向けたエクササイズやワークショップ② キャラクター考察レポート指示
5	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導① 第5回から第12回の計7回を使って、全てのナンバー、シーンの振付・ステージングを行い、同時にその日に振付・ステージングがないキャストの歌唱・演技指導を行う。
6	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導② ①とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①の確認反復練習や指導を行う
7	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導③ ①②とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②の確認反復練習や指導を行う
8	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導④ ①②③とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③の確認反復練習や指導を行う
9	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導⑤ ①②③④とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③④の確認反復練習や指導を行う
10	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導⑥ ①②③④⑤とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③④⑤の確認反復練習や指導を行う
11	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導⑦ ①②③④⑤⑥とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③④⑤⑥の確認反復練習や指導を行う
12	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導⑧ ①②③④⑤⑥⑦とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③④⑤⑥⑦の確認反復練習や指導を行う
13	（後期課題）通し稽古① 流れの確認
14	（後期課題）修正・調整／通し稽古② ①で確認した流れについて必要に応じて修正、調整の上で通し稽古②を行う
15	（後期課題）ゲネプロ／修正・調整

科目名	シーンスタディIII　[木3-4]						
代表教員	横山　仁一	授業コード	GE370700	科目コード	GE3707	期間	通年
担当教員	ダイアナ　ボール　石山、清水　菜穂子、井上　友美、打越　麗子、マリタ　ストライカー						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「シーンスタディII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌・ダンス・バレエ・演技など、それぞれの授業で学んだことをこのシーンスタディで統合、2年次までで学習したことを3年次ではさらに発展させる。いろいろなジャンルのミュージカルのーシーンを演出をつけながら勉強し、夏冬の音楽祭でのレビューや本公演などの多岐にわたる授業成果発表の場に向け、実践能力やコミュニケーション能力の向上とそのプロセスを学ぶ。

２．授業概要

歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのシーンを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に暗譜を心がけること。ダンスの振り付け、歌や芝居のアンサンブル等全員で取り組まなけれならないものについては、授業以外で集まって稽古をする習慣を身につけ次回の授業に臨むこと。課題のミュージカル作品についてのリサーチ、演じる役についてのキャラクター考察をレポートとして提出する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
後期実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのいくつかのシーンを創り上げていく。前期の演目は3rd Year Class Revueとしてビッグマウスにて上演する。 ※演目は学年の男女比等特性鑑みて選定、キャスティングはオーディション、または3年次までのパフォーマンス機会を踏まえ教員間の協議で決定する。
1	前期課題の資料配布とガイダンス （「イーストウィックの魔女たち」等より） 作品紹介／演目選定の意図と到達目標の共有／参考映像鑑賞
2	（前期課題）キャスティングオーディション
3	（前期課題）キャスティング決定を踏まえ、課題演目に応じた進行イメージの共有 音楽稽古／振付・ステージングに向けたエクササイズやワークショップ① 課題演目の作品リサーチ指示
4	（前期課題）作品分析とディスカッション① 音楽稽古／振付・ステージングに向けたエクササイズやワークショップ② キャラクター考察レポート指示
5	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導① 第5回から第12回の計7回を使って、全てのナンバー、シーンの振付・ステージングを行い、同時にその日に振付・ステージングがないキャストの歌唱・演技指導を行う。
6	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導② ①とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①の確認反復練習や指導を行う
7	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導③ ①②とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②の確認反復練習や指導を行う
8	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導④ ①②③とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③の確認反復練習や指導を行う
9	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導⑤ ①②③④とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③④の確認反復練習や指導を行う
10	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導⑥ ①②③④⑤とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③④⑤の確認反復練習や指導を行う
11	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導⑦ ①②③④⑤⑥とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③④⑤⑥の確認反復練習や指導を行う
12	（前期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導⑧ ①②③④⑤⑥⑦とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③④⑤⑥⑦の確認反復練習や指導を行う
13	（前期課題）通し稽古① 流れの確認
14	（前期課題）修正・調整／通し稽古② ①で確認した流れについて必要に応じて修正、調整の上で通し稽古②を行う
15	（前期課題）ゲネプロ／修正・調整

授業計画	
	［後期］ 歌、ダンス、芝居の3要素を含む有名ミュージカルのいくつかのシーンを創り上げていく。後期の演目はWinter Musical Showcaseとして前田ホールにて上演する。 ※演目は演奏会のテーマや学年の男女比等特性鑑みて選定、キャスティングはオーディションで決定するものとする。
1	後期課題の資料配布とガイダンス 作品紹介／演目選定の意図と到達目標の共有／参考映像鑑賞／オーディション箇所の説明と練習
2	（後期課題）キャスティングオーディション
3	（後期課題）キャスティング決定を踏まえ、課題演目に応じた進行イメージの共有 音楽稽古／振付・ステージングに向けたエクササイズやワークショップ① 課題演目の作品リサーチ指示
4	（後期課題）作品分析とディスカッション① 音楽稽古／振付・ステージングに向けたエクササイズやワークショップ② キャラクター考察レポート指示
5	（後期課題）作品分析とディスカッション② 音楽稽古／振付・ステージングに向けたエクササイズやワークショップ③
6	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導① 第6回から第10回の計5回を使って、全てのナンバー、シーンの振付・ステージングを行い、同時にその日に振付・ステージングがないキャストの歌唱・演技指導を行う。
7	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導② ①とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①の確認反復練習や指導を行う
8	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導③ ①②とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②の確認反復練習や指導を行う
9	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導④ ①②③とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③の確認反復練習や指導を行う
10	（後期課題）振付・ステージング／歌唱・演技指導⑤ ①②③④とは違うナンバー、シーン 必要に応じて①②③④の確認反復練習や指導を行う
11	（後期課題）通し稽古① 流れの確認
12	（後期課題）修正・調整／通し稽古② ①で確認した流れについて必要に応じて修正、調整の上で通し稽古②を行う
13	（後期課題）修正・調整／通し稽古③ ②を踏まえ、大人数シーンの振付やステージングを整理ブラッシュアップの上で通し稽古③を行う
14	（後期課題）修正・調整／通し稽古④ ③までを踏まえ必要に応じて修正、それぞれのナンバーやシーンの細部を詰めた上で通し稽古④を行う
15	（後期課題）仕上げ・最終調整

科目名	シーンスタディⅣ　[木3-4]						
代表教員	倉迫　康史	授業コード	GE370800	科目コード	GE3708	期間	通年
担当教員	青木　さおり、クリス　チャベス、星野　苗緒、平塚　美和子、ｔｅｋｋａｎ、牧　華子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「シーンスタディIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌・ダンス・バレエ・演技など、それぞれの授業で学んだことをこのシーンスタディで総括する。前期は「Summer Musical Showcase」に向けて様々なジャンルのミュージカルの1シーンを創作、後期は学生が主体となって選曲・構成・演出する演出をする卒業公演に向けてクリエーションを実践していく。

２．授業概要

歌、ダンス、演技の3要素を含む有名ミュージカルの1シーンを学ぶ。
一人一人がミュージカルでやりたいことを発見し、実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に暗譜を心がけること。ダンスの振り付け、歌や芝居のアンサンブル等全員で取り組まなければならないものについては、授業以外で集まって稽古をする習慣を身につけ次回の授業に臨むこと。
課題のミュージカル作品について、各自が事前に調べて授業に臨むこと。（作詞・作曲者、時代背景、初演、作品のテーマなど）

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）
授業成果発表（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 4月5月は学生個人のこれまでの成長を確かめるオーディションのシミュレーションとクリティークを4グループに分けて行うのと、7月後半に公演予定の「Summer Musical Showcase」に向けて演目と楽曲理解を並行して行う。6月からは公演に向けた歌、ダンス、ステージングなど公演稽古を行う。
1	年間の授業計画についてガイダンス 卒業公演に向けてレクチャー
2	A・Bグループはダンス、歌唱のオーディション実習。C・Dグループはクリティークに向けた準備
3	C・Dグループはダンス、歌唱のオーディション実習。A・Bグループはクリティークに向けた準備
4	「Summer Musical Showcase」のオーディション（前後の回と変わる場合もあります）
5	Aグループは個人発表をして講評を受けるクリティーク。他のグループは「Summer Musical Showcase」に向けた歌稽古
6	Bグループは個人発表をして講評を受けるクリティーク。他のグループは「Summer Musical Showcase」に向けた歌稽古
7	Cグループは個人発表をして講評を受けるクリティーク。他のグループは「Summer Musical Showcase」に向けた歌稽古
8	Dグループは個人発表をして講評を受けるクリティーク。他のグループは「Summer Musical Showcase」に向けた歌稽古
9	「Summer Musical Showcase」前半曲の振付
10	「Summer Musical Showcase」後半曲の振付
11	「Summer Musical Showcase」前半の通し稽古と修正
12	「Summer Musical Showcase」後半の通し稽古と修正
13	「Summer Musical Showcase」通し稽古。主に歌唱を修正。
14	「Summer Musical Showcase」通し稽古。主にダンスを修正。
15	「Summer Musical Showcase」最終の通し稽古。衣裳、MC、登退場など細かい点をチェック。

授業計画	
	［後期］ 卒業公演に向けて選曲、キャスティング、演出、稽古進行などを学生が教員のアドバイスのもと主体的に行っていく。なお、公演はA・Bキャストによるダブルキャストを想定する。
1	卒業公演に向けての準備「選曲」
2	卒業公演に向けての準備「キャスティング」
3	卒業公演に向けての準備「楽譜作成」
4	卒業公演に向けての準備「前半曲の演出案作成」
5	卒業公演に向けての準備「後半曲の演出案作成」
6	卒業公演に向けての稽古「前半曲の振付」
7	卒業公演に向けての稽古「後半曲の振付」
8	卒業公演に向けての稽古「前半のソロ歌唱曲の歌稽古」
9	卒業公演に向けての稽古「後半のソロ歌唱曲の歌稽古」
10	卒業公演に向けての稽古「前半のアンサンブル歌唱曲の歌稽古」
11	卒業公演に向けての稽古「後半のアンサンブル歌唱曲の歌稽古」
12	卒業公演に向けての稽古「Aキャストの楽団合わせ」
13	卒業公演に向けての稽古「Bキャストの楽団合わせ」
14	卒業公演に向けての稽古「Aキャスト通し稽古」
15	卒業公演に向けての稽古「Bキャスト通し稽古」

科目名	伝統芸能実習１　（前）［木2］MS専用　日舞（Ａクラス）						
代表教員	花柳　輔瑞佳	授業コード	GE3709A0	科目コード	GE3709	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年日本の伝統芸能に触れる機会が少なくなり意識しないと学ぶこともできない。そこで表現者として伝統芸能の一つである日本舞踊を学ぶことにより知識を少しでも増やし、芸の幅を広げ、その上で表現力を向上させる。

２．授業概要

着物を着ての自然な所作、日本舞踊特有の身体の使い方、役による表現の違い、また邦楽曲（主に長唄）の音の間の取り方を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習はないため授業後は必ず復習を反復して行う。日頃より姿勢や所作を意識して過ごす。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢７０％、授業内テスト３０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技のため特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

着物を着ての所作を学ぶため、稽古着として着物（浴衣）を必ず着用すること。日本舞踊用の稽古扇子を用意すること。

授業計画	
	[半期] 日舞
1	ガイダンス、着物の着方、簡単な所作
2	着物の着方、着物を着ての所作、基礎的な踊り（手踊り）
3	基礎的な踊り（手踊り応用）
4	基礎的な踊り（手踊り、型の徹底）
5	扇子の扱い方、基礎的な踊り（扇子）
6	基礎的な踊り（曲全体の型と音の徹底）
7	課題曲１（導入）
8	課題曲１（曲全体の把握）
9	課題曲１（振りと音の徹底）
10	課題曲１（まとめ）
11	男踊りの基本、課題曲２（導入）、課題曲1の復習
12	課題曲２（曲全体の把握）、課題曲1の復習
13	課題曲２（振りと音の徹底）、課題曲１の復習
14	課題曲２（まとめ）、課題曲1の復習
15	まとめと試験

科目名	伝統芸能実習１　（前）［木2］MS専用　狂言（Ｂクラス）						
代表教員	金田　弘明	授業コード	GE3709B0	科目コード	GE3709	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本古来の伝統芸能、狂言の舞踊「小舞」の稽古を通して、自己の身体を見つめ直し、個々の身体表現の更なる深化をすすめる。

２．授業概要

＜狂言＞
構え（姿勢）や運び（歩き方）といった基本的な所作にはじまり、狂言小舞の舞と謡、その型と発声から、狂言独自の表現における強さ・美しさを体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で稽古した内容を復習し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の７０パーセント）、おさらい（評価の３０パーセント）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

謡本はコピーして配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

白足袋持参のこと。（初回授業で説明）

授業計画	
	[狂言]
1	ガイダンス、狂言についての説明（歴史、特徴、小舞についてなど）、実演の鑑賞、構え・運びなど基本的な所作。小舞「兎」の謡。
2	構え、運び。小舞「兎」の謡と舞。
3	小舞「兎」のおさらい。小舞「花の袖」の謡。
4	小舞「花の袖」謡、舞。
5	小舞「花の袖」おさらい。 小舞「宇治の晒し」謡。（前半部）。
6	小舞「宇治の晒し」謡。舞。（後半部）。
7	小舞「宇治の晒し」謡、舞。（全体）。
8	小舞「宇治の晒し」おさらい。 小舞「暁」（前半部）の謡。
9	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。
10	小舞「暁」（前半部通し）の謡、舞。 小舞「暁」後半部の謡。
11	小舞「暁」前半部、後半部、通しの稽古。
12	小舞「暁」のおさらい。 小舞「福の神」の謡。
13	小舞「福の神」の謡、舞。
14	小舞「福の神」の謡、舞。定着
15	小舞「福の神」の謡、舞。おさらい。

科目名	伝統芸能実習２　（後）　[木2] MS専用　狂言（Ａクラス）						
代表教員	金田　弘明	授業コード	GE3710A0	科目コード	GE3710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本古来の伝統芸能、狂言の舞踊「小舞」の稽古を通して、自己の身体を見つめ直し、個々の身体表現の更なる深化をすすめる。

２．授業概要

＜狂言＞
構え（姿勢）や運び（歩き方）といった基本的な所作にはじまり、狂言小舞の舞と謡、その型と発声から、狂言独自の表現における強さ・美しさを体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で稽古した内容を復習し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の７０パーセント）、おさらい（評価の３０パーセント）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

謡本はコピーして配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

白足袋持参のこと。（初回授業で説明）

授業計画	
	[狂言]
1	ガイダンス、狂言についての説明（歴史、特徴、小舞についてなど）、実演の鑑賞、構え・運びなど基本的な所作。小舞「兎」の謡。
2	構え、運び。小舞「兎」の謡と舞。
3	小舞「兎」のおさらい。小舞「花の袖」の謡。
4	小舞「花の袖」謡、舞。
5	小舞「花の袖」おさらい。 小舞「宇治の晒し」謡。（前半部）。
6	小舞「宇治の晒し」謡。舞。（後半部）。
7	小舞「宇治の晒し」謡、舞。（全体）。
8	小舞「宇治の晒し」おさらい。 小舞「暁」（前半部）の謡。
9	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。
10	小舞「暁」（前半部通し）の謡、舞。 小舞「暁」後半部の謡。
11	小舞「暁」前半部、後半部、通しの稽古。
12	小舞「暁」のおさらい。 小舞「福の神」の謡。
13	小舞「福の神」の謡、舞。
14	小舞「福の神」の謡、舞。定着
15	小舞「福の神」の謡、舞。おさらい。

科目名	伝統芸能実習２　（後）［木2］MS専用　日舞（Ｂクラス）						
代表教員	花柳　輔瑞佳	授業コード	GE3710B0	科目コード	GE3710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年日本の伝統芸能に触れる機会が少なくなり意識しないと学ぶこともできない。そこで表現者として伝統芸能の一つである日本舞踊を学ぶことにより知識を少しでも増やし、芸の幅を広げ、その上で表現力を向上させる。

２．授業概要

着物を着ての自然な所作、日本舞踊特有の身体の使い方、役による表現の違い、また邦楽曲（主に長唄）の音の間の取り方を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習はないため授業後は必ず復習を反復して行う。日頃より姿勢や所作を意識して過ごす。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢７０％、授業内テスト３０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技のため特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

着物を着ての所作を学ぶため、稽古着として着物（浴衣）を必ず着用すること。日本舞踊用の稽古扇子を用意すること。

授業計画	
	[半期] 日舞
1	ガイダンス、着物の着方、簡単な所作
2	着物の着方、着物を着ての所作、基礎的な踊り（手踊り）
3	基礎的な踊り（手踊り応用）
4	基礎的な踊り（手踊り、型の徹底）
5	扇子の扱い方、基礎的な踊り（扇子）
6	基礎的な踊り（曲全体の型と音の徹底）
7	課題曲１（導入）
8	課題曲１（曲全体の把握）
9	課題曲１（振りと音の徹底）
10	課題曲１（まとめ）
11	男踊りの基本、課題曲２（導入）、課題曲1の復習
12	課題曲２（曲全体の把握）、課題曲1の復習
13	課題曲２（振りと音の徹底）、課題曲１の復習
14	課題曲２（まとめ）、課題曲1の復習
15	まとめと試験

科目名	ＭＳアンサンブル実習Ⅰ ［月3］						
代表教員	山下　順子	授業コード	GE371500	科目コード	GE3715	期間	通年
担当教員	ダイアナ　ボール　石山、倉迫　康史、高野　二郎、星野　苗緒、打越　麗子、田野　邦彦、マリタ　ストライカー、松本　麻衣						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演技の基礎である、呼吸、コンタクト、解放と開放、相手役とのコミュニケーション、姿勢、動き、表情等、自分の身体や感覚を自覚することを学び、尚かつ操作する能力を訓練し、アンサンブルにおける、明確なキャラクター付けがされていない人物達を、単にキャラクターを表現するのではなく、自分の中から生まれた感情を行動に反映し、実感を持って演じられるようになることを目指します。

全員で呼吸やタイミング、強弱やニュアンス等を感じ取るトレーニングを通して、アンサンブルで歌うことの楽しさを感じながら、必要な感覚を養います。

様々なトレーニングをしながら、ミュージカルの曲を使い、アンサンブルのシーンを作り上げていきます。

２．授業概要

前期で「ダンス」「歌」「演技」の基礎習得、「ダンス+歌」「歌+演技」「演技+ダンス」への融合をはかり、ミュージカル俳優としての舞台に立つ身体と感覚を養う。
後期は代表的なミュージカル曲の実習を行い実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回課題（ダンスの振り付け、音とり、暗譜など）を与えるので各自稽古し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
実技試験（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用すること。
他に筆記用具、タオル、飲み物を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］「ダンス」「歌」「演技」の基礎習得を通して、「ダンス+歌」「歌+演技」「演技+ダンス」への融合をはかり、ミュージカル俳優としての舞台に立つ身体・声・感覚を養う。
1	ガイダンス この授業の目的・役割の説明 ミュージカル「Sister Act 2」より「Joyful, joyful」音とり稽古
2	歌の基礎編「JOYFUL,JOYFUL」の音楽稽古ー英語発音のトレーニングと歌詞のディクション指導
3	ダンスの基礎編「JOYFUL,JOYFUL」振り付け、映像鑑賞。「No Musical,No Life」音楽鑑賞
4	演技の基礎編ー演技についての基本的な考え方の共有、用語の解説
5	「歌+演技」融合編ー「No Musical,No Life」音とり稽古、パート確認。【サブテキスト】と【感情】をとらえて歌う。個別のコンテクストを持ったアンサンブルとしての演技の習得。
6	「歌+演技」融合編②ー「レ・ミゼラブル」の「One Day More」を題材にアンサンブルとしての演技を思考と実習。
7	「歌+演技」融合編③ー「JOYFUL,JOYFUL」「No Musical,No Life」に戻って「歌+演技」融合編①②の体験をあてはめて実習。
8	演技基礎習熟編①ーアンサンブルが世界観をつくる意識を持つ。身体が伝えることの重要性を認識し、舞台に立てる状態をつくる。
9	演技基礎習熟編②ー身体+動作（歩く）ことで空間を満たす。感覚の開放。
10	演技基礎習熟編③ーニュートラルで立つ、歩く。空間を感じて歩く。他者との共有と協働、アンサンブルへつなげる。
11	「ダンス+歌」融合編①ーウォーミングアップストレッチ。「JOYFUL,JOYFUL」振り付け復習。「No Musical,No Life」振り付け。
12	「ダンス+歌」融合編②ー「JOYFUL,JOYFUL」「No Musical,No Life」音楽稽古と振り付け復習並びにブラッシュアップ。歌唱と動きをリンクさせて定着させる。
13	「ダンス+歌」融合編③ー「JOYFUL,JOYFUL」「No Musical,No Life」の総仕上げを行う。実際の公演で使用されるテンポにあわせて実習。（楽譜のテンポ指定より速い）
14	前期の総仕上げとして「JOYFUL,JOYFUL」「No Musical,No Life」のグループごとの発表を行いかつ、鑑賞する。講評と前期総括。
15	後期の実践学習に向けて、作品提示。オーディションに向けて歌唱指導。夏休みの課題としてロジャース＆ハマースタイン作品鑑賞と時代背景等レポート課題提示。

授業計画	
	［後期］代表的なミュージカル曲の実習。WINTER MUSICAL SHOWCASEに向けて前期に習得した「歌+ダンス+演技」の基礎力を実践に移す。
1	ガイダンスーWINTER MUSICAL SHOWCASEに向けての流れの説明 ロジャース＆ハマースタインについてのレクチャー。 「回転木馬」より「You'll never walk alone」映像鑑賞と音楽稽古。
2	作品分析、時代背景考察①ー「Sound of Music」 作品より６曲音楽稽古。
3	作品分析、時代背景考察②ー「Oklahoma」 ミュージカル「Oklahoma」での基礎的な動きの練習、社交ダンスの練習。
4	作品分析、時代背景考察③ー「南太平洋」 ミュージカル「南太平洋」より5曲音楽稽古、パート分け。
5	ロジャース＆ハマースタインの作品より抜粋メドレー「ガールズメドレー」の音楽稽古。「You'll never walk alone」ステージング。
6	「Sound of Music」1幕ダイジェスト版台本読み合わせ。キャラクターと人間関係を理解する。
7	ミュージカル「Oklahoma」より「Oklahoma」振り付け。
8	ミュージカル「南太平洋」より「Wonderful Guy」ステージング、「Honey Bun」振り付け復習。 「ガールズメドレー」ステージング。
9	ミュージカル「Sound of Music」より「Maria」「Sound of Music」ステージング。歌詞の内容、関係性の理解を深めグループで共有する作業。
10	ミュージカル「Oklahoma」より「The Farmer and the Cowman」振り付け。
11	ミュージカル「南太平洋」より数曲ステージング。 「Bali Ha'i」「I'm gonna Wash That Man Right Outa My Hair」「Some Enchanted Evening」
12	ミュージカル「Sound of Music」より振り付け復習。「ドレミ」「もうすぐ17才」。ステージング「何か良いこと」「My Favorite Things」。
13	ミュージカル「Sound of Music」より抜粋の6曲、並びにミュージカル「Oklahoma」より抜粋の6曲の通し稽古
14	ミュージカル「南太平洋」より抜粋5曲、並びに「ガールズメドレー」の通し稽古。
15	「ガールズメドレー」「Oklahoma」「Sound of Music」「南太平洋」「You'll never walk alone」全部の通し稽古。講評。

科目名	ＭＳアンサンブル実習II　[金4]						
代表教員	家田　淳	授業コード	GE371600	科目コード	GE3716	期間	通年
担当教員	ダイアナ　ボール　石山、清水　菜穂子、星野　苗緒、マリタ　ストライカー						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「MSアンサンブル実習I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

MSアンサンブル実習Iで学習したことを踏まえ、さらにスキルアップすることを目標とする。演技面については、あらゆる作品で使える人物造形、台本分析、身体表現、空間の使用、場面構成のテクニックを学び、具体的な作品・場面に俳優自身が応用できるようになることを目指す。歌唱・ダンスについては、ミュージカルの表現は単なる音や動きの技術ではなく、すべてが物語を語ることを目的としている意識を持たせる。最終的にセリフの場面から楽曲までが一貫した表現となることを目標とする。

２．授業概要

前期は大規模な発表機会であるサマーショーケースの稽古を通して、プロのパフォーマーに必要な稽古の全段階を体験する。オーディションテクニック、オーディションの実践、様々な楽曲の勉強方法、ヴォーカルテクニック、物語としての歌唱表現、物語としてのダンス表現、ソロやデュエット曲の表現、アンサンブルとしての演技、チームワーク、オーケストラとの共演、稽古と本番に際しての心構えと臨み方、体調の整え方などを含む。
後期は各自が一作品、一場面を集中的に学ぶことにより具体的なテクニックを身につける。ミュージカル史における重要な作品の中から、二人の場面～デュエット曲を実際に演じ歌うことを通じて、あらゆる作品で使える普遍的な演技と歌唱のテクニックを学ぶ。生徒は二人組になり、課題場面の中から選択する。学期最後にクラスで発表を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

前期は、参加作品について調べ、各曲の背景を知った上で演じること。英語歌唱の場合は歌詞の意味を調べること。常時、音取りなどは各自行い、クラスの復習も自主的に行って、ソロのみならずアンサンブルについても責任を持つこと。
後期は、課題作品について調べる宿題を学期最初に提出のこと（詳細は授業内で）。
課題曲の譜読み、暗譜、台本を覚えることは必須。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）
授業成果発表（評価の３０％）
宿題（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用すること。
他に筆記用具、タオル、飲み物を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	年間のオリエンテーション。サマーショーケースの説明と作品紹介
2	サマーショーケース作品の譜読み、オーディションテクニックについて
3	ショーケース作品の譜読み。オーディションテクニックを踏まえてのプレオーディション
4	ショーケースオーディション
5	ショーケース稽古　全員参加曲の音楽稽古
6	ショーケース稽古　その他アンサンブル曲の音楽稽古
7	ショーケース稽古　アンサンブル曲の振付
8	)ショーケース稽古　アンサンブル曲の振付復習
9	ショーケース稽古　ソロ曲の譜読み
10	ショーケース稽古　ソロ曲の音楽稽古
11	ショーケース稽古　ソロ曲の振付・演技
12	ショーケース稽古　MC、セリフの本読み
13	ショーケース稽古　MC、セリフの稽古
14	ショーケース稽古　通し稽古
15	ショーケース稽古　ダメ出し、直し

授業計画	
	［後期］
1	課題作品と場面の紹介。資料配布。授業の目標と試験審査項目の説明。課題作品選び、組分け決定。
2	楽曲の譜読み
3	作品が設定されている時代背景について。及び音楽稽古
4	台本分析手法：事実の書き出し。音楽稽古
5	台本分析手法：スタニスラフスキーの９つの質問。音楽稽古
6	本読み、疑問点の洗い出し。ステージングのテクニック。
7	人物造形の身体技術。ラバンメソッド
8	スタニスラフスキー：「目的」について
9	スタニスラフスキー：「障害」について
10	「ステータス」のテクニック
11	グループごとに作品づくりの自主作業
12	作業の中間発表、フィードバック
13	グループごとに作品の完成
14	作品発表＃1
15	作品発表＃2　まとめ

科目名	ＭＳアンサンブル実習III　[水2]						
代表教員	田野　邦彦	授業コード	GE371700	科目コード	GE3717	期間	通年
担当教員	篠原　真、星野　苗緒、堂園　愛子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「MSアンサンブル実習II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「MSアンサンブル実習II」で学習したことを踏まえ、さらにスキルアップすることを目標とする。その役の感情や感覚に合わせて、自分の「歌＝声」と「ダンス＝体」を自在に操り、表現の技術を高めることを目標とする。（歌は声を主とした表現だが、体とことばも重要であり、ダンスは体を主とした表現だが、声にならない声が重要である。）

２．授業概要

代表的なミュージカル曲の実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回課題（ダンスの振り付け、音とり、暗譜など）を与えるので各自稽古し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用すること。なおキャスティング後は役作りにふさわしい稽古着を着用すること。
他に筆記用具、タオル、飲み物を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス DVD鑑賞
2	基礎エクササイズ 3rd Year Course Revueで上演する演目の作品理解
3	基礎エクササイズ 3rd Year Course Revueで上演する演目の音楽稽古 キャスティング発表、本読み
4	基礎エクササイズ 3rd Year Course Revueで上演する演目の暗譜稽古(暗譜できているか確認) 本読み(台詞が身体に入っているか確認)
5	基礎エクササイズ 3rd Year Course Revueで上演する演目の音楽稽古 振付開始、立ち稽古開始
6	基礎エクササイズ 3rd Year Course Revueで上演する演目の音楽稽古 立ち稽古、振付、ステージング
7	基礎エクササイズ 3rd Year Course Revueで上演する演目の音楽稽古 作品理解を進めるためのディスカッション
8	基礎エクササイズ 3rd Year Course Revueで上演する演目の音楽稽古 振付、ステージングの確認
9	基礎エクササイズ 3rd Year Course Revueで上演する演目の音楽稽古 通し稽古
10	基礎エクササイズ 3rd Year Course Revueで上演する演目の音楽稽古 通し稽古とフィードバック
11	基礎エクササイズ 3rd Year Course Revueで上演する演目の音楽稽古 本番同様の衣装と小道具を使っての通し稽古
12	3rd Year Course Revueで上演する演目の会場での場当たりおよび稽古
13	3rd Year Course Revueで上演する演目の稽古 上演を想定した稽古（ゲネプロ）
14	3rd Year Course Revueで上演する演目を使って、前期実技試験に向けてのリハーサル
15	前期実技試験・まとめ

授業計画	
	［後期］
1	基礎エクササイズ 冬音の演目の音取り
2	基礎エクササイズ 冬音の演目に向けた身体エクササイズ
3	基礎エクササイズ 冬音の演目に向けた身体エクササイズ、音楽稽古
4	基礎エクササイズ 冬音の演目に向けた身体エクササイズ、作品理解のためのプロジェクトに向けた課題の共有
5	基礎エクササイズ 冬音の演目に向けた身体エクササイズ、作品理解のためのプロジェクト・グループ発表（Aグループ）他グループからのフィードバック
6	基礎エクササイズ 冬音の演目に向けた身体エクササイズ、作品理解のためのプロジェクト・グループ発表（Bグループ）他グループからのフィードバック
7	基礎エクササイズ 冬音の演目に向けた身体エクササイズ、作品理解のためのプロジェクト・グループ発表（Cグループ）他グループからのフィードバック
8	基礎エクササイズ 冬音の演目の音楽稽古、振り付け確認
9	基礎エクササイズ 冬音の演目の音楽稽古、セクションごとに稽古
10	基礎エクササイズ 冬音の演目の音楽稽古、セクションごとに通し稽古
11	基礎エクササイズ 冬音の演目の音楽稽古、立ち稽古ブラッシュアップ
12	基礎エクササイズ 冬音の演目の音楽稽古、全体通し稽古
13	基礎エクササイズ 冬音の演目の音楽稽古、衣装確認、衣装付きの稽古
14	後期実技試験にむけてのリハーサル（歌稽古を中心に）
15	後期実技試験にむけてのリハーサル（演技や振り付けなどを含めて）

科目名	ＭＳアンサンブル実習Ⅳ　[月4]						
代表教員	田野　邦彦	授業コード	GE371800	科目コード	GE3718	期間	通年
担当教員	梶木　良子、打越　麗子、マリタ　ストライカー						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	必修				
前提科目	「MSアンサンブル実習III」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「MSアンサンブル実習III」で学習したことを踏まえ、さらにスキルアップすることを目標とする。その役の感情や感覚に合わせて、自分の「歌＝声」と「ダンス＝体」を自在に操り、表現の技術を高めることを目標とする。（歌は声を主とした表現だが、体とことばも重要であり、ダンスは体を主とした表現だが、声にならない声が重要である。）

２．授業概要

代表的なミュージカル曲の実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回課題（ダンスの振り付け、音とり、暗譜など）を与えるので各自稽古し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用すること。
他に筆記用具、タオル、飲み物を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス DVD鑑賞
2	基礎エクササイズ 夏音演目の確認と音取り
3	基礎エクササイズ 夏音演目の音取り、パート分け
4	基礎エクササイズ 夏音演目に関する作品理解、映像資料の鑑賞
5	基礎エクササイズ 夏音演目をキャスティングに合わせて音楽稽古
6	基礎エクササイズ 夏音演目の振り付けの習得
7	基礎エクササイズ 夏音演目の振り付け確認、音楽稽古
8	基礎エクササイズ 夏音演目の音楽稽古、セクションごとに分かれて場面稽古
9	基礎エクササイズ 夏音演目の音楽稽古、セクションごとに通し稽古
10	基礎エクササイズ 夏音演目の音楽稽古、作品およびキャラクター分析の確認
11	基礎エクササイズ 夏音演目の音楽稽古、全セクションの通し稽古
12	基礎エクササイズ 夏音演目の音楽稽古、衣装を着けた状態での通し稽古
13	基礎エクササイズ 夏音演目の本番を想定した通し稽古
14	基礎エクササイズ 夏音演目の音楽稽古、振り付け等の最終確認
15	基礎エクササイズ 夏音演目の音楽稽古、本番の会場を想定した最終稽古

授業計画	
	［後期］
1	基礎エクササイズ オーディション・プロジェクトの説明、グループ決め
2	基礎エクササイズ オーディション・プロジェクトに向けた打ち合わせ
3	基礎エクササイズ オーディション・プロジェクトに向けた準備、グループディスカッション
4	基礎エクササイズ オーディション・プロジェクトの発表　Aグループ 他グループからのフィードバック
5	基礎エクササイズ オーディション・プロジェクトの発表　Bグループ 他グループからのフィードバック
6	基礎エクササイズ オーディション・プロジェクトの発表　Cグループ 他グループからのフィードバック
7	基礎エクササイズ オーディション・プロジェクトの発表　Dグループ 他グループからのフィードバック
8	基礎エクササイズ オーディション・プロジェクトの発表　Eグループ 他グループからのフィードバック
9	基礎エクササイズ Senior Musical Showcaseに向けた音楽稽古
10	基礎エクササイズ Senior Musical Showcaseに向けた音楽稽古、振り付け稽古
11	基礎エクササイズ Senior Musical Showcaseに向けた音楽稽古、セクションごとの稽古
12	基礎エクササイズ Senior Musical Showcaseに向けた音楽稽古、セクションごとに通し稽古
13	基礎エクササイズ Senior Musical Showcaseに向けた全体の通し稽古
14	基礎エクササイズ Senior Musical Showcaseに向けてセクションごとの最終確認
15	個別オーディションのスタイルによる１分間プレゼンテーションの発表 全体のまとめ

科目名	狂言実習１　［木2］前期:日舞/後期:狂言（Aクラス）						
代表教員	花柳　輔瑞佳	授業コード	GE3771A0	科目コード	GE3771	期間	通年
担当教員	金田　弘明、篠原　真						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年日本の伝統芸能に触れる機会が少なくなり意識しないと学ぶこともできない。そこで表現者として伝統芸能の一つである日本舞踊を学ぶことにより知識を少しでも増やし、芸の幅を広げ、その上で表現力を向上させる。

日本古来の伝統芸能、狂言の舞踊「小舞」の稽古を通して、自己の身体を見つめ直し、個々の身体表現の更なる深化をすすめる。

２．授業概要

着物を着ての自然な所作、日本舞踊特有の身体の使い方、役による表現の違い、また邦楽曲（主に長唄）の音の間の取り方を学ぶ。

＜狂言＞
構え（姿勢）や運び（歩き方）といった基本的な所作にはじまり、狂言小舞の舞と謡、その型と発声から、狂言独自の表現における強さ・美しさを体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習はないため授業後は必ず復習を反復して行う。日頃より姿勢や所作を意識して過ごす。

授業で稽古した内容を復習し、次回の授業に臨むこと。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢７０％、授業内テスト３０％

平常点（評価の７０パーセント）、おさらい（評価の３０パーセント）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技のため特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。

謡本はコピーして配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

着物を着ての所作を学ぶため、稽古着として着物（浴衣）を必ず着用すること。日本舞踊用の稽古扇子を用意すること。

白足袋持参のこと。（初回授業で説明）

授業計画	
	［日舞］
1	ガイダンス、着物の着方、簡単な所作
2	着物の着方、着物を着ての所作、基礎的な踊り（手踊り）
3	基礎的な踊り（手踊り応用）
4	基礎的な踊り（手踊り、型の徹底）
5	扇子の扱い方、基礎的な踊り（扇子）
6	基礎的な踊り（曲全体の型と音の徹底）
7	課題曲１（導入）
8	課題曲１（曲全体の把握）
9	課題曲１（振りと音の徹底）
10	課題曲１（まとめ）
11	男踊りの基本、課題曲２（導入）、課題曲1の復習
12	課題曲２（曲全体の把握）、課題曲1の復習
13	課題曲２（振りと音の徹底）、課題曲１の復習
14	課題曲２（まとめ）、課題曲1の復習
15	まとめと試験

授業計画	
	[狂言]
1	ガイダンス、狂言についての説明（歴史、特徴、小舞についてなど）、実演の鑑賞、構え・運びなど基本的な所作。小舞「兎」の謡。
2	構え、運び。小舞「兎」の謡と舞。
3	小舞「兎」のおさらい。小舞「花の袖」の謡。
4	小舞「花の袖」謡、舞。
5	小舞「花の袖」おさらい。小舞「宇治の晒し」謡。
6	小舞「宇治の晒し」謡。舞。
7	小舞「宇治の晒し」謡、舞。定着
8	小舞「宇治の晒し」おさらい。小舞「暁」（前半部）の謡。
9	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。
10	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。小舞「暁」後半部の謡。
11	小舞「暁」（後半部）の謡、舞。前半部、後半部、通しの稽古。
12	小舞「暁」のおさらい。小舞「福の神」の謡。
13	小舞「福の神」の謡、舞。
14	小舞「福の神」の謡、舞。定着
15	小舞「福の神」の謡、舞。おさらい。

科目名	狂言実習１　［木2］前期:狂言/後期:日舞（Bクラス）						
代表教員	金田　弘明	授業コード	GE3771B0	科目コード	GE3771	期間	通年
担当教員	花柳　輔瑞佳						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本古来の伝統芸能、狂言の舞踊「小舞」の稽古を通して、自己の身体を見つめ直し、個々の身体表現の更なる深化をすすめる。

近年日本の伝統芸能に触れる機会が少なくなり意識しないと学ぶこともできない。そこで表現者として伝統芸能の一つである日本舞踊を学ぶことにより知識を少しでも増やし、芸の幅を広げ、その上で表現力を向上させる。

２．授業概要

＜狂言＞
構え（姿勢）や運び（歩き方）といった基本的な所作にはじまり、狂言小舞の舞と謡、その型と発声から、狂言独自の表現における強さ・美しさを体得する。

着物を着ての自然な所作、日本舞踊特有の身体の使い方、役による表現の違い、また邦楽曲（主に長唄）の音の間の取り方を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で稽古した内容を復習し、次回の授業に臨むこと。

予習はないため授業後は必ず復習を反復して行う。日頃より姿勢や所作を意識して過ごす。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の７０パーセント）、おさらい（評価の３０パーセント）

受講姿勢７０％、授業内テスト３０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

謡本はコピーして配布します。

実技のため特に使用しないが、必要に応じてプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

白足袋持参のこと。（初回授業で説明）

着物を着ての所作を学ぶため、稽古着として着物（浴衣）を必ず着用すること。日本舞踊用の稽古扇子を用意すること。

授業計画	
	[前期]狂言
1	ガイダンス、狂言についての説明（歴史、特徴、小舞についてなど）、実演の鑑賞、構え・運びなど基本的な所作。小舞「兎」の謡。
2	構え、運び。小舞「兎」の謡と舞。
3	小舞「兎」のおさらい。小舞「花の袖」の謡。
4	小舞「花の袖」謡、舞。
5	小舞「花の袖」おさらい。 小舞「宇治の晒し」謡（前半部）。
6	小舞「宇治の晒し」謡。舞。（後半部）
7	小舞「宇治の晒し」謡、舞。（全体）
8	小舞「宇治の晒し」おさらい。 小舞「暁」（前半部）の謡。
9	小舞「暁」（前半部）の謡、舞。
10	小舞「暁」（前半部通し）の謡、舞。 小舞「暁」後半部の謡。
11	小舞「暁」の謡、舞。前半部、後半部、通しの稽古。
12	小舞「暁」のおさらい。 小舞「福の神」の謡。
13	小舞「福の神」の謡、舞。（前半部）
14	小舞「福の神」の謡、舞。（後半部）
15	小舞「福の神」の謡、舞。おさらい。

授業計画	
	[後期]日舞
1	ガイダンス、着物の着方、簡単な所作
2	着物の着方、着物を着ての所作、基礎的な踊り（手踊り）
3	基礎的な踊り（手踊り応用）
4	基礎的な踊り（手踊り、型の徹底）
5	扇子の扱い方、基礎的な踊り（扇子）
6	基礎的な踊り（曲全体の型と音の徹底）
7	課題曲１（導入）
8	課題曲１（曲全体の把握）
9	課題曲１（振りと音の徹底）
10	課題曲１（まとめ）
11	男踊りの基本、課題曲２（導入）、課題曲1の復習
12	課題曲２（曲全体の把握）、課題曲1の復習
13	課題曲２（振りと音の徹底）、課題曲１の復習
14	課題曲２（まとめ）、課題曲1の復習
15	まとめと試験

科目名	舞台芸術概論　[木2]						
代表教員	横山　仁一	授業コード	GE378200	科目コード	GE3782	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS・AS・DC・WM・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

舞台芸術（パフォーミングアーツ）とはそもそもなんなのか？という問いかけに始まり、その起源と変遷を西洋と日本の舞台芸術史を通じて、主要ジャンルを網羅しつつ、アートマネージメントの現在を知り、職業俳優や舞台人として必要な見識、教養を習得する。

２．授業概要

明日すぐに役立つ「舞台芸術用語の基礎知識」や、実際のテキストを用いた朗読や、映像資料の鑑賞を交えながら、授業計画に沿って、各論の講義を行い、実践的な見識・教養を身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては、該当項目に関して予め自分なりに調べ、質問をひとつ考えてくる。復習は該当項目講義後、興味の湧いた事項に関して自分で調べて報告、発表する。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『演劇学のキーワーズ』ぺりかん社
『演劇制作マニュアル』財団法人地域創造

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

現在行われている舞台芸術は全て長い歴史の中で発展してきたものであり、互いに影響を与えながら進化し続けている。「舞台芸術とは何か」に興味を持って、舞台芸術の歴史と現在を学ぶことに意欲をもって取り組んで欲しい。
※前後期それぞれ4回を超える欠席については原則単位を認定しない。2回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

授業計画	
	［前期］
1	クラスオリエンテーリング 「舞台芸術とは何か？ その必要性」
2	舞台芸術用語の基礎知識#1（劇場の構造と名称） 西洋舞台芸術史概観前編 「歴史とは何か？」（レクチャーと映像鑑賞）
3	舞台芸術用語の基礎知識#2（幕関連） 西洋舞台芸術史概観後編 「時代毎の概観」（レクチャーと映像鑑賞）
4	舞台芸術用語の基礎知識#3（舞台道具編） 古代ギリシア#1（導入レクチャーと映像鑑賞）
5	舞台芸術用語の基礎知識#4（足場・台組ユニット編） 古代ギリシア#2（レクチャーとリサーチ発表）
6	舞台芸術用語の基礎知識#5（床材・仕込道具編） 古代ローマ
7	舞台芸術用語の基礎知識#6（芸術賞・フェスティバル編） 中世
8	舞台芸術用語の基礎知識#7（単位編） 近世（ルネッサンス期概観）
9	舞台芸術用語の基礎知識#8（照明編#1種類） 英国エリザベス朝（シェイクスピア劇） #1（レクチャーと映像鑑賞）
10	舞台芸術用語の基礎知識#9（照明編#2使い方） 英国エリザベス朝（シェイクスピア劇）#2（作品紹介とリサーチ発表）
11	バレエの歴史
12	オペラの歴史
13	舞台芸術用語の基礎知識#10（音響編） 近世その他の演劇（フランス・イタリア・スペイン）
14	前期総括
15	前期試験とまとめ

授業計画	
	［後期］
1	オペレッタの歴史
2	ミュージカルの歴史
3	レビューの歴史
4	近代現代の舞台芸術概観
5	リアリズム演劇
6	不条理演劇
7	現代その他のジャンル（パフォーマンス・サーカス・大道芸・即興劇）
8	西洋舞台芸術史まとめ
9	日本演劇史・アートマネージメント概観
10	最新動向（伝統芸能編#1：能・狂言・歌舞伎） 導入レクチャーと映像鑑賞
11	最新動向（伝統芸能編#2：能・狂言・歌舞伎） レクチャー
12	最新動向（演劇・コンテンポラリーダンス#1） レクチャー
13	最新動向（演劇・コンテンポラリーダンス#2） 映像鑑賞
14	後期総括
15	後期試験とまとめ

科目名	舞台音楽論／舞台音楽論Ｉ　（前）　[月4]						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE378500	科目コード	GE3785	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

100年以上の歴史を持つミュージカル音楽を中心に、その作曲技法やストーリとの関連性を研究する。また、作品の中でのメロディー・リズム・ハーモニーの役割、重要性を学ぶ。前期は、1950年代から1960年代の作品を研究する。

２．授業概要

授業計画に沿って、作曲技法の習得、および楽曲研究を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた楽曲を次回の授業で各自歌い、またピアノ伴奏譜を簡単なコードで弾くことを課す。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０％）
試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（1950年代から1970年代の代表的なミュージカル曲の作品解説、および楽曲分析について大まかな内容を説明する。）
2	サウンド・オブ・ミュージックより「サウンド・オブ・ミュージック」を中心に
3	サウンド・オブ・ミュージックより「シックスティーン・ゴーイング・オン・セブンティーン」を中心に
4	サウンド・オブ・ミュージックより「クライム・エブリ・マウンテン」を中心に
5	サウンド・オブ・ミュージックより「私のお気に入り」を中心に
6	南太平洋より「ハッピートーク」を中心に
7	南太平洋より「バリハイ」を中心に
8	王様と私より「シャル・ウィー・ダンス」を中心に
9	オクラホマより「オクラホマ」を中心に
10	ファンタスティックスより「マッチ・モア」を中心に
11	ファンタスティックスより「ゼイ・フェア・ユー」を中心に
12	ウエスト・サイド・ストーリーより「プロローグ」「バルコニーにて」を中心に
13	ウエスト・サイド・ストーリーより「クール」「マンボ」を中心に
14	ウエスト・サイド・ストーリーより「アメリカ」「シンフォニック・ダンス」を中心に
15	ウエスト・サイド・ストーリーより「アイ・フィール・プリティ」「マリア」を中心に

科目名	舞台音楽論II （後） ［月4］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE378600	科目コード	GE3786	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「舞台音楽論Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

100年以上の歴史を持つミュージカル音楽を中心に、その作曲技法やストーリとの関連性を研究する。また、作品の中でのメロディー・リズム・ハーモニーの役割、重要性を学ぶ。後期は、1960年代から現代までの作品を研究する。

２．授業概要

授業計画に沿って、作曲技法の習得、および楽曲研究を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた楽曲を次回の授業で各自歌い、またピアノ伴奏譜を簡単なコードで弾くことを課す。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の７０％）
試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	コーラスラインより「愛は消えない」「ダンステン・ルックススリー」を中心に
2	コーラスラインより「ワン」「プロローグ」を中心に
3	イントゥ・ザ・ウッズより「オープニング」を中心に
4	イントゥ・ザ・ウッズより「ジャイアンツ・インザ・スカイ」を中心に
5	イントゥ・ザ・ウッズより「アイ・ノウ・シングス・ナウ」を中心に
6	イントゥ・ザ・ウッズより「フィナーレ」を中心に
7	オペラ座の怪人「シンク・オブ・ミー」を中心に
8	オペラ座の怪人「エンジェル・オブ・ミュージック」を中心に
9	オペラ座の怪人「ファントム・オブ・ザ・オペラ」を中心に
10	リトル・マーメードより「パート・オブ・ユア・ワールド」を中心に
11	ムーランより「リフレクション」を中心に
12	アラジンより「ア・フォール・ニュー・ワールド」を中心に
13	モーツァルト「僕こそミュージック」を中心に
14	エリザベート「私だけに」を中心に
15	日本のミュージカル曲および全体の総括

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［水1］バレエ						
代表教員	小畑　奈美子	授業コード	GE3801B1	科目コード	GE3801Ad	期間	通年
担当教員	高野　直子、小林　瑶子、牧　華子、飛沢　由衣、佐古　えりな、斉藤　加津代、飛田　美央						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［水2］バレエ						
代表教員	飛沢　由衣	授業コード	GE3801B2	科目コード	GE3801Bd	期間	通年
担当教員	高野　直子、小畑　奈美子、林　麻衣子、新井　望、小林　瑶子、牧　華子、横岡　諒						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4　［木1］バレエ						
代表教員	林　麻衣子	授業コード	GE3801B3	科目コード	GE3801Cd	期間	通年
担当教員	井上　友美、高野　直子、小畑　奈美子、新井　望、柿崎　俊也、小林　瑶子、飛沢　由衣、佐古　えりな、斉藤　加津代、細山田　愛美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［木2］バレエ						
代表教員	新井　望	授業コード	GE3801B4	科目コード	GE3801Dd	期間	通年
担当教員	井上　友美、小畑　奈美子、林　麻衣子、小林　瑶子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金2］バレエ						
代表教員	小畑　奈美子	授業コード	GE3801B5	科目コード	GE3801Ed	期間	通年
担当教員	井上　友美、星野　苗緒、丸山　まどか、高野　直子、中武　啓吾、飛沢　由衣						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金3］バレエ						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE3801B6	科目コード	GE3801Fd	期間	通年
担当教員	星野　苗緒、丸山　まどか、高野　直子、小畑　奈美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、各年次で学んだ経験を活かし「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を 総合的に身に付け表現できる事を 目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・試験振付において年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。
男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
バレエ用品を持っていない場合は初回授業時に注文購入可能。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習①全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習②背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 試験の振付・練習　ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 試験の振付・練習　全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 試験の振付・練習　　重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 試験の振付・練習　大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 試験の振付・練習　動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 試験の振付・練習　空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 試験の振付・練習　応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 試験の振付・練習　表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 試験の振付・練習　総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン 試験の振付・練習 後期まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月4］前期ﾀｯﾌﾟ後期ﾌﾗﾒﾝｺ（BL専用）						
代表教員	三寺　郷美	授業コード	GE3801F1	科目コード	GE3801Ud	期間	通年
担当教員	アントニオ　アロンソ						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

＜タップ＞
タップダンスの基礎ステップ習得。タップダンスを通じて重心移動、タイミング、リズム、音色を追求することにより、自身の身体を細部までコントロールする意識と力を養う。視覚、聴覚ともに楽しめる踊りであることを自覚しタップダンスへの理解を深める。

＜フラメンコ＞
フラメンコのリズムの理解、振付の習得を通して、フラメンコへの興味の入り口とする。タンゴ、ブレリア、セビジャーナスの3種類の踊りについて、それらの歌の基本的な構造、踊り方、精神性を理解し、自ら積極的に踊れるようになることを目指すすと共に、学んだすべての素材をクラシックバレエのドン・キホーテ、カルメンなどで応用出来ることを目標とする。

2．授業概要

＜タップ＞
基礎ステップ 、リズムトレーニング、振り付けを通して各回に設定した目標を体得できるプログラムで授業を進める。

＜フラメンコ＞
授業計画に沿って授業を進める。具体的には、タンゴ(4拍子)、ブレリア(12拍子)、セビジャーナス(6拍子)の3曲のリズムの理解、リズム特性にのっとった足の打ち方、腕の使い方、基本的な振付を習得する。また、ファルダ(長いスカート)、マントン(三角形のショール)、アバニコ(扇子)、パリージョ(カスタネット)の使い方を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

＜タップ＞
ストレッチ、ステップ、リズムトレーニングの復習
イメージトレーニング

＜フラメンコ＞
体の動きや振付の復習
資料映像の視聴

4．成績評価の方法及び基準

＜タップ＞
平常点100%（タップダンスの理解度、課題曲の完成度等で総合的に評価する）

＜フラメンコ＞
平常点100%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適宜配布する

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

＜タップ＞
動きやすい服装（スカート、ジーンズ不可）、タップダンスシューズ（タップダンスシューズがなければヒールの太い革靴またはスニーカー。タップシューズ購入希望者は初回授業時に相談可。）、タオル、飲み物、筆記用具を用意。
休み時間中に着替えを済ませ、授業の開始時に遅れないように教室へ入室。

＜フラメンコ＞
動きやすい服装 靴はキャラクターシューズを使用する。
ファルダ(長いスカート)、マントン(三角形のショール)、アバニコ(扇子)、パリージョ(カスタネット)を使用の折には事前に指示する。

授業計画	
	［前期］タップ
1	ガイダンス デモストレーション ～視覚、聴覚両方からのアプローチ～ 基礎（プレーン、シャッフルなど）
2	～響く音を出す方法～ 基礎（スタンプ、スラップ、ホップなど）
3	～音の形と方向～ 基礎（バッファローなど）
4	～音の方向と次へ向かう準備～ 基礎（タイムステップなど）
5	～相手を意識。音の形と方向～ 基礎（回転ステップなど）
6	～体幹引き上げと重心移動～ 基礎（ピックアップ、マキシフォードなど）
7	～「静」と「動」の動き～ 基礎（スライドなど）
8	～呼吸、音を揃える意識～ 基礎（マキシフォード応用編など）
9	リズムトレーニング（振付をしてみよう！①） グループごとに指定されたステップを応用し、各自で作ったリズムでステップを作る
10	リズムトレーニング（振付をしてみよう！②） 指定された曲の旋律にのせてステップを作る
11	リズムトレーニング（変拍子） 指定された拍子のビートにのってステップを作る
12	リズムトレーニング（即興）
13	～音色と強弱～ 基礎（プルバックなど）
14	基礎ステップと課題曲振付（総復習）
15	基礎ステップ総復習と課題曲発表、まとめ

授業計画	
	［後期］フラメンコ
1	オリエンテーション、フラメンコの概要説明 。最初の手と腕の動き
2	正しい立ち方、上半身(腕、手のひら)の技法
3	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)の習得
4	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)と腕の動きのコンビネーション
5	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)とアバニコ(扇子)の使い方
6	マントン(三角形のショール)のテクニック、使い方
7	パリージョ(カスタネット)奏法と腕の動き
8	サパテアード(足の打ち方)とマントン、パリージョのコンビネーション
9	セビジャーナス ①振付
10	セビジャーナス ②振付(習熟度によりパリージョとのコンビネーション)
11	セビジャーナス・ボレロとの対比 振付
12	タンゴス 振付
13	ブレリアス 振付
14	セビジャーナス、タンゴス、ブレリアス 復習
15	まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4　[火2] ﾌﾗﾒﾝｺ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ・牧ｸﾗｽ（BL専用）						
代表教員	アントニオ　アロンソ	授業コード	GE3801F2	科目コード	GE3801Rd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フラメンコのリズムの理解、振付の習得を通して、フラメンコへの興味の入り口とする。タンゴ、ブレリア、セビジャーナスの3種類の踊りについて、それらの歌の基本的な構造、踊り方、精神性を理解し、自ら積極的に踊れるようになることを目指すと共に、学んだすべての素材をクラシックバレエのドン・キホーテ、カルメンなどで応用出来ることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進める。具体的には、タンゴ(4拍子)、ブレリア(12拍子)、セビジャーナス(6拍子)の3曲のリズムの理解、リズム特性にのっとった足の打ち方、腕の使い方、基本的なカルメン前奏曲などの振付を習得する。また、ファルダ(長いスカート)、マントン(三角形のショール)、アバニコ(扇子)、パリージョ(カスタネット)の使い方を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

身体の動きや振付の復習
資料映像の視聴

４．成績評価の方法及び基準

授業での意欲、受講態度、習熟度(100%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

資料は必要に応じて適宜コピーして配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装 靴はキャラクターシューズを使用する。
ファルダ(長いスカート)、マントン(三角形のショール)、アバニコ(扇子)、パリージョ(カスタネット)を使用する為、事前に用意する事。

授業計画	
	［前期］
1	イントロダクション フラメンコの概要。最初の手と腕の動き。
2	正しい立ち方、上半身(腕、手のひら)の技法
3	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)の技法
4	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)と腕の動きのコンビネーション
5	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)とアバニコ(扇子)の使い方
6	マントン(三角形の大判ショール)のテクニック、使い方
7	パリージョ(カスタネット)奏法と腕の動き
8	サパテアード(足の打ち方)とマントン、パリージョのコンビネーション
9	セビジャーナス 第1番 振付
10	セビジャーナス 第2番 振付(習熟度によりパリージョとのコンビネーション)
11	セビジャーナス 第3番 振付
12	セビジャーナス 第4番 振付
13	セビジャーナス・ボレロとの対比 振付
14	セビジャーナス 第1番～第4番の復習
15	前期 まとめ

授業計画	
1	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)と腕の動きの復習
2	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)とアバニコ(扇子)のコンビネーション
3	マントン(三角形の大判ショール)の応用テクニック
4	パリージョ(カスタネット)奏法と腕の動きの応用
5	サパテアード(足の打ち方)とマントン、パリージョのコンビネーションの復習と応用
6	エル・ビトの振付
7	エル・ビトの振付の復習
8	ブレリアの振付
9	ブレリアの振付の復習
10	カルメン前奏曲の振付 前半
11	カルメン前奏曲の振付 後半
12	1年間の振付のアバニコ、パリージョ、マントンとのコンビネーション
13	1年間の振付の復習
14	1年間の振付の更なる応用
15	後期 まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4　[火4] ﾌﾗﾒﾝｺ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ・谷ｸﾗｽ（BL専用）						
代表教員	アントニオ　アロンソ	授業コード	GE3801F3	科目コード	GE3801Vd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

フラメンコのリズムの理解、振付の習得を通して、フラメンコへの興味の入り口とする。タンゴ、ブレリア、セビジャーナスの3種類の踊りについて、それらの歌の基本的な構造、踊り方、精神性を理解し、自ら積極的に踊れるようになることを目指すと共に、学んだすべての素材をクラシックバレエのドン・キホーテ、カルメンなどで応用出来ることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進める。具体的には、タンゴ(4拍子)、ブレリア(12拍子)、セビジャーナス(6拍子)の3曲のリズムの理解、リズム特性にのっとった足の打ち方、腕の使い方、基本的なカルメン前奏曲などの振付を習得する。また、ファルダ(長いスカート)、マントン(三角形のショール)、アバニコ(扇子)、パリージョ(カスタネット)の使い方を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

身体の動きや振付の復習
資料映像の視聴

４．成績評価の方法及び基準

授業での意欲、受講態度、習熟度(100%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

資料は必要に応じて適宜コピーして配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装 靴はキャラクターシューズを使用する。
ファルダ(長いスカート)、マントン(三角形のショール)、アバニコ(扇子)、パリージョ(カスタネット)を使用する為、事前に用意する事。

授業計画	
	［前期］
1	イントロダクション フラメンコの概要。最初の手と腕の動き。
2	正しい立ち方、上半身(腕、手のひら)の技法
3	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)の技法
4	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)と腕の動きのコンビネーション
5	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)とアバニコ(扇子)の使い方
6	マントン(三角形の大判ショール)のテクニック、使い方
7	パリージョ(カスタネット)奏法と腕の動き
8	サパテアード(足の打ち方)とマントン、パリージョのコンビネーション
9	セビジャーナス 第1番 振付
10	セビジャーナス 第2番 振付(習熟度によりパリージョとのコンビネーション)
11	セビジャーナス 第3番 振付
12	セビジャーナス 第4番 振付
13	セビジャーナス・ボレロとの対比 振付
14	セビジャーナス 第1番～第4番の復習
15	前期 まとめ

授業計画	
1	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)と腕の動きの復習
2	上半身の使い方、サパテアード(足の打ち方)とアバニコ(扇子)のコンビネーション
3	マントン(三角形の大判ショール)の応用テクニック
4	パリージョ(カスタネット)奏法と腕の動きの応用
5	サパテアード(足の打ち方)とマントン、パリージョのコンビネーションの復習と応用
6	エル・ビトの振付
7	エル・ビトの振付の復習
8	ブレリアの振付
9	ブレリアの振付の復習
10	カルメン前奏曲の振付 前半
11	カルメン前奏曲の振付 後半
12	1年間の振付のアバニコ、パリージョ、マントンとのコンビネーション
13	1年間の振付の復習
14	1年間の振付の更なる応用
15	後期 まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月4］前期ﾌﾗﾒﾝｺ後期ﾀｯﾌﾟ（DC専用）						
代表教員	やの　ちえみ	授業コード	GE3801F4	科目コード	GE3801Ud	期間	半期
担当教員	三寺　郷美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

＜フラメンコ＞
フラメンコのリズムの理解、振付の習得を通して、フラメンコへの興味の入り口とする。タンゴ、ブレリア、セビジャーナスの3種類の踊りについて、それらの歌の基本的な構造、踊り方、精神性を理解し、自ら積極的に踊れるようになることを目指す。

＜タップ＞
タップダンスの基礎ステップ習得。タップダンスを通じて重心移動、タイミング、リズム、音色を追求することにより、自身の身体を細部までコントロールする意識と力を養う。視覚、聴覚ともに楽しめる踊りであることを自覚しタップダンスへの理解を深める。

２．授業概要

＜フラメンコ＞
授業計画に沿って授業を進める。具体的には、タンゴ(4拍子)、ブレリア(12拍子)、セビジャーナス(6拍子)の3曲のリズムの理解、リズム特性にのっとった足の打ち方、腕の使い方、基本的な振付を習得する。

＜タップ＞
基礎ステップ 、リズムトレーニング、振り付けを通して各回に設定した目標を体得できるプログラムで授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

＜フラメンコ＞
体の動きや振付の復習、資料映像の視聴

＜タップ＞
ストレッチ、ステップ、リズムトレーニングの復習

４．成績評価の方法及び基準

＜フラメンコ＞
平常点100%　授業への参加態度(自ら積極的に踊ろうという意欲があるか、疑問点については質問をし解決する努力が感じられるか等)を評価の対象とする。

＜タップ＞
平常点100%（タップダンスの理解度、課題曲の完成度等で総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜フラメンコ＞
資料は必要に応じて適宜コピーして配布する。

＜タップ＞
必要に応じて適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

＜フラメンコ＞
体のラインがわかりやすいウェア着用のこと（レオタード、スパッツなど。Tシャツ、ジャージ等は体にフィットしているもの）、靴（女性はヒールのあるパンプス状のもの、男性はできればかかとのある靴。フラメンコ靴でなくてよい。フラメンコ靴であれば釘なしもしくは釘の部分を覆う）、タオル、飲み物、筆記用具等。

＜タップ＞
動きやすい服装（スカート、ジーンズ不可）、タップダンスシューズ（タップダンスシューズがなければヒールの太い革靴またはスニーカー。タップシューズ購入希望者は初回授業時に相談可。）、タオル、飲み物、筆記用具を用意。
休み時間中に着替えを済ませ、授業の開始時に遅れないように教室へ入室。

授業計画	
	［前期］フラメンコ
1	オリエンテーション、フラメンコの概要説明
2	正しい立ち方、足の打ち方、上半身（腕、手のひら）の使い方、ジャマーダ（合図）とマルカールの理解
3	上半身の使い方、足の打ち方、タンゴ①振付、レマーテ（合図）の理解
4	上半身の使い方、足の打ち方、タンゴ①振付
5	上半身の使い方、足の打ち方（タンゴのリズムバリエーション）、タンゴ②振付
6	足の打ち方（タンゴのリズムバリエーション）、腰の動かし方、タンゴ①②まとめ
7	足の打ち方（ブレリアのリズムバリエーション）、ジャマーダとマルカールの理解
8	足の打ち方（ブレリアのリズムバリエーション）、ブレリア①振付、レマーテの理解
9	上半身の使い方、ブレリア①、②振付
10	ブレリア②振付
11	セビジャーナス①振付
12	タンゴ①、②復習
13	ブレリア①、②復習
14	タンゴ①、②、ブレリア①、②、セビジャーナス①復習
15	タンゴ、ブレリア、セビジャーナスのまとめ

授業計画	
	［前期］タップ
1	ガイダンス デモストレーション ～視覚、聴覚両方からのアプローチ～ 基礎（プレーン、シャッフルなど）
2	～響く音を出す方法～ 基礎（スタンプ、スラップ、ホップなど）
3	～音の形と方向～ 基礎（バッファローなど）
4	～音の方向と次へ向かう準備～ 基礎（タイムステップなど）
5	～相手を意識。音の形と方向～ 基礎（回転ステップなど）
6	～体幹引き上げと重心移動～ 基礎（ピックアップ、マキシフォードなど）
7	～「静」と「動」の動き～ 基礎（スライドなど）
8	～呼吸、音を揃える意識～ 基礎（マキシフォード応用編など）
9	リズムトレーニング（振付をしてみよう！①） グループごとに指定されたステップを応用し、各自で作ったリズムでステップを作る
10	リズムトレーニング（振付をしてみよう！②） 指定された曲の旋律にのせてステップを作る
11	リズムトレーニング（変拍子） 指定された拍子のビートにのってステップを作る
12	リズムトレーニング（即興）
13	～音色と強弱～ 基礎（プルバックなど）
14	基礎ステップと課題曲振付（総復習）
15	基礎ステップ総復習と課題曲発表、まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［火5］ヒップホップ						
代表教員	GOTO	授業コード	GE3801H2	科目コード	GE38010d	期間	通年
担当教員	篠原　真、内海　貴司						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、ミュージカル「ハミルトン」のように、ヒップホップダンスを取り入れる作品が増えている。
この授業ではヒップホップに必要なリズムトレーニングや基礎的な体の使い方などを習得し、ミュージカルやその他の舞台など様々な活動の場でのパフォーマンス力の一つとなるダンス能力の向上を目指す。また、通年授業を通してアフタービートの音楽に慣れ親しみ、表現力と音楽への知識を高めることを目標とする。

２．授業概要

基礎リズム、ステップ、ストレッチや体幹強化など年間を通してトレーニングを行う。必要に応じて、ガールズヒップホップやジャズヒップホップ・フリースタイルも実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回必ず復習し、次の授業までに課題をクリアすること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点80%、試験20%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装・靴（スニーカー）を各自用意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	ダンス演習（基礎導入） 柔軟性と基礎
3	ダンス演習（リズム基礎） 体幹の強化
4	ダンス演習（リズム基礎） ダウンビート・アップビート
5	ダンス演習（基礎応用） 柔軟性向上のためのダウンビート・アップビート
6	ダンス演習（リズム基礎） エイトビート
7	ダンス演習（リズム基礎） アップビート
8	ダンス演習（リズム基礎） ダウンビート・アップビート
9	ダンス演習（基礎応用） 体幹トレーニング・筋力（腹筋・腕）アップ
10	ダンス演習（基礎応用） ボックスステップ・基礎ステップ
11	ダンス演習（基礎応用） 音楽（ヒップホップミュージック）
12	ダンス演習（基礎応用） ボディーコントロール
13	ダンス演習（基礎応用） 5・6人のグループワーク（創作）
14	前期成果発表
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	ダンス演習（基礎） 可動域を広げるリズムトレーニング
2	ダンス演習（リズム基礎） 腹筋・体幹トレーニング
3	ダンス演習（リズム基礎応用） リズムトレーニング（フロント・バック）
4	ダンス演習（リズム基礎応用） リズムトレーニング（基礎リズム・胸・首・ヒップロール）
5	ダンス演習（リズム基礎応用） リズムトレーニング（基礎リズム・胸・腰・ヒップロール）
6	ダンス演習（基礎応用） 重心の意識（胸・手・ウェーブ）
7	ダンス演習（リズム基礎応用） 重心運動（クロスフロア）
8	ダンス演習（リズム基礎応用） 手の動き（８ビート、16ビート）
9	ダンス演習（リズム基礎応用） 基礎ステップ（足の動かし方・下半身の動かし方）・応用ステップ
10	ダンス演習（リズム基礎応用） コンビネーション
11	ダンス演習（基礎応用） 10人～16人の大人数グループワーク（スタイルヒップホップ）
12	ダンス演習（基礎応用） 10人～16人の大人数グループワーク（ジャズヒップホップ）
13	ダンス演習（基礎応用） 10人～16人の大人数グループワーク（ガールズヒップホップ）
14	学年末成果発表
15	後期のまとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金2］ジャズ						
代表教員	関　与志雄	授業コード	GE3801J2	科目コード	GE3801Hd	期間	通年
担当教員	篠原　真、ダイアナ　ボール　石山、クリス　チャベス、堂園　愛子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージカル作品の中でも特に重要なダンスシーンについて、その役割を研究し、いろいろな曲やスタイルに合わせたダンスを学ぶ。基本ステップからはじめ、ヴァリエーションを順次増やし、最終的にミュージカルシーンを踊れることを目標とする。また、舞台人としてのマナーや顔の表情などを細かく指導し、踊ることの喜び、楽しさを学んでいく。

２．授業概要

授業計画に沿って、ダンステクニックの習得、および実習を行う。
但し、履修者のレベルに合わせより良く進めるため、細かい授業内容は変動することがある。
またsummer showcaseや本公演などの期間、ダンス稽古に充てることがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日ストレッチをして、振付を復習すること。自分のパーソナルスタイルと表現を見つける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ダンスシューズ」は必ず用意すること。服装については、女性はレオタードにジャズパンツ。男性はTシャツ等にスウエットパンツやジャズパンツ。体のラインの見える動きやすいものを着用すること。他にタオル、筆記用具、飲み物等を用意し、授業開始時刻には着替えを済ませて入室するように。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（クラスでの明確な目的を再確認する） 担当講師の基本的なクラス概要を紹介
2	ストレッチ、動きを覚える クロスフロア、基本的なステップ 振付、シンプルなリズム
3	ストレッチ、動きを覚え自分で考える クロスフロア、音楽を聴きながら基本的なステップ 振付、先週の振付に表現を加える
4	ストレッチ、動かしている筋肉を意識する クロスフロア、基本的なステップにターンやジャンプなど技術的な動きを加える 振付、クロスフロアで得た動きを取り入れる
5	ストレッチ、筋肉の細かな動きを意識 クロスフロア、基本的なステップに技術を加える 振付、技術やテンポの速い曲に挑戦
6	ストレッチ、筋肉を意識し技術的な動きとの関係を学ぶ クロスフロア、基本的なステップからジャンプやターンを加える 振付、先週の振り付けを磨く
7	ストレッチ、短時間で動ける体を作れるようなストレッチを心がける クロスフロア、基本的なステップだが表現力を付け個性を付けていく 振付、先週までの振り付けを舞台でも見せれるように個人でも踊れるようにする
8	ストレッチ、二人組になりダイナミックなストレッチを取り入れる クロスフロア、表現力を付け楽しく魅せていく 振付、自信をもって踊れるようにする
9	ストレッチ、ダイナミックなストレッチ クロスフロア、基本のステップを組み合わせて長いコンビネーションなどをする 振付、複雑なリズムや動きを取り入れる
10	ストレッチ、マッサージなどを取り入れケガなどの予防を認識 クロスフロア、長いコンビネーションを取り入れる 振付、先週の振り付けを復習
11	ストレッチ、けが予防の知識を深める クロスフロア、コンビネーションに技術を取り入れる 振付、先週の振り付けに表現力を意識する
12	ストレッチ、肉体疲労改善の大事さを伝えコンスタントに動ける体を意識 クロスフロア、ターンやジャンプを取り入れ自信を付ける 振付、先週までの振り付けを個人で踊れるようにする
13	ストレッチ、流れを付けながら自分で体と向かい合う クロスフロア、慣れた動きを体の中心から使い大きく動く 振付、新しい振付
14	ストレッチ、流れるように余分な力を抜きながら動く クロスフロア、体を大きく使う 振付、先週の振り付けを磨く
15	前期のまとめとしてディスカッション ストレッチや振付を復習 夏休み期間の過ごし方について話し合う

授業計画	
	［後期］
1	後期クラスでの明確な目的を確認する 担当講師のクラス概要を紹介
2	ストレッチ、動きを覚える 基本エクササイズ、筋力トレーニングを取り入れる 振付コンビネーション①
3	ストレッチ、動きを理解する 基本エクササイズ、筋力、主にコアを鍛える 振付コンビネーション①を表現力をつけて踊る
4	ストレッチ、理解しきれいに動く 筋力トレーニング、主にコア 基本ムーヴメントから応用まで 振付コンビネーション②
5	ストレッチ、知識を加える 筋力トレーニング、主にコア 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション②を表現力を付けて踊る
6	ストレッチ 筋力トレーニング、主に下肢 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション③　即時振りを入れ表現力を付ける
7	ストレッチ 筋力トレーニング、主に下肢 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション③　振付を更に磨く
8	ストレッチ、ダイナミックな動きを取り入れる 筋力トレーニング、主にコアと下肢 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション④　曲と振付を理解し表現する
9	ストレッチ、ダイナミックな動きを取り入れる 筋力トレーニング、主にコアと下肢の連動 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション④　先週からの続き
10	ストレッチ、マッサージなどを取り入れる 筋力トレーニング、主に広背筋 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション⑤ リラクゼーション（体を緩ませて神経を休ませる大事さを体感）
11	ストレッチ、マッサージなどを取り入れる 筋力トレーニング、主に広背筋 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション⑤ リラクゼーション
12	ストレッチ、学んだことを思い出し動く 筋力トレーニング、主にコア 基本から応用のムーヴメント 試験に向けての振り付け
13	ストレッチ 筋力トレーニング、復習 基本から応用のムーヴメント、 試験に向けての振り付け　表現力を付ける
14	ストレッチ 筋力トレーニング 試験の振り付け　少人数で練習
15	ジャズダンス実技試験 一年間のまとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金3］ジャズ						
代表教員	打越　麗子	授業コード	GE3801J3	科目コード	GE3801Id	期間	通年
担当教員	篠原　真、ダイアナ　ボール　石山、クリス　チャベス、関　与志雄、堂園　愛子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージカル作品の中でも特に重要なダンスシーンについて、その役割を研究し、いろいろな曲やスタイルに合わせたダンスを学ぶ。基本ステップからはじめ、ヴァリエーションを順次増やし、最終的にミュージカルシーンを踊れることを目標とする。また、舞台人としてのマナーや顔の表情などを細かく指導し、踊ることの喜び、楽しさを学んでいく。

２．授業概要

授業計画に沿って、ダンステクニックの習得、および実習を行う。
但し、履修者のレベルに合わせより良く進めるため、細かい授業内容は変動することがある。
またsummer showcaseや本公演などの期間、ダンス稽古に充てることがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日ストレッチをして、振付を復習すること。自分のパーソナルスタイルと表現を見つける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ダンスシューズ」は必ず用意すること。服装については、女性はレオタードにジャズパンツ。男性はTシャツ等にスウエットパンツやジャズパンツ。体のラインの見える動きやすいものを着用すること。他にタオル、筆記用具、飲み物等を用意し、授業開始時刻には着替えを済ませて入室するように。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（クラスでの明確な目的を再確認する） 担当講師の基本的なクラス概要を紹介
2	ストレッチ、動きを覚える クロスフロア、基本的なステップ 振付、シンプルなリズム
3	ストレッチ、動きを覚え自分で考える クロスフロア、音楽を聴きながら基本的なステップ 振付、先週の振付に表現を加える
4	ストレッチ、動かしている筋肉を意識する クロスフロア、基本的なステップにターンやジャンプなど技術的な動きを加える 振付、クロスフロアで得た動きを取り入れる
5	ストレッチ、筋肉の細かな動きを意識 クロスフロア、基本的なステップに技術を加える 振付、技術やテンポの速い曲に挑戦
6	ストレッチ、筋肉を意識し技術的な動きとの関係を学ぶ クロスフロア、基本的なステップからジャンプやターンを加える 振付、先週の振り付けを磨く
7	ストレッチ、短時間で動ける体を作れるようなストレッチを心がける クロスフロア、基本的なステップだが表現力を付け個性を付けていく 振付、先週までの振り付けを舞台でも見せれるように個人でも踊れるようにする
8	ストレッチ、二人組になりダイナミックなストレッチを取り入れる クロスフロア、表現力を付け楽しく魅せていく 振付、自信をもって踊れるようにする
9	ストレッチ、ダイナミックなストレッチ クロスフロア、基本のステップを組み合わせて長いコンビネーションなどをする 振付、複雑なリズムや動きを取り入れる
10	ストレッチ、マッサージなどを取り入れケガなどの予防を認識 クロスフロア、長いコンビネーションを取り入れる 振付、先週の振り付けを復習
11	ストレッチ、けが予防の知識を深める クロスフロア、コンビネーションに技術を取り入れる 振付、先週の振り付けに表現力を意識する
12	ストレッチ、肉体疲労改善の大事さを伝えコンスタントに動ける体を意識 クロスフロア、ターンやジャンプを取り入れ自信を付ける 振付、先週までの振り付けを個人で踊れるようにする
13	ストレッチ、流れを付けながら自分で体と向かい合う クロスフロア、慣れた動きを体の中心から使い大きく動く 振付、新しい振付
14	ストレッチ、流れるように余分な力を抜きながら動く クロスフロア、体を大きく使う 振付、先週の振り付けを磨く
15	前期のまとめとしてディスカッション ストレッチや振付を復習 夏休み期間の過ごし方について話し合う

授業計画	
	［後期］
1	後期クラスでの明確な目的を確認する 担当講師のクラス概要を紹介
2	ストレッチ、動きを覚える 基本エクササイズ、筋力トレーニングを取り入れる 振付コンビネーション①
3	ストレッチ、動きを理解する 基本エクササイズ、筋力、主にコアを鍛える 振付コンビネーション① 表現力をつけて踊る
4	ストレッチ、理解しきれいに動く 筋力トレーニング、主にコア 基本ムーヴメントから応用まで 振付コンビネーション②
5	ストレッチ、知識を加える 筋力トレーニング、主にコア 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション② 表現力を付けて踊る
6	ストレッチ 筋力トレーニング、主に下肢 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション③　即時振りを入れ表現力を付ける
7	ストレッチ 筋力トレーニング、主に下肢 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション③　振付を更に磨く
8	ストレッチ、ダイナミックな動きを取り入れる 筋力トレーニング、主にコアと下肢 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション④　曲と振付を理解し表現する
9	ストレッチ、ダイナミックな動きを取り入れる 筋力トレーニング、主にコアと下肢の連動 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション④　先週からの続き
10	ストレッチ、マッサージなどを取り入れる 筋力トレーニング、主に広背筋 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション⑤ リラクゼーション（体を緩ませて神経を休ませる大事さを体感）
11	ストレッチ、マッサージなどを取り入れる 筋力トレーニング、主に広背筋 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション⑤ リラクゼーション
12	ストレッチ、学んだことを思い出し動く 筋力トレーニング、主にコア 基本から応用のムーヴメント 試験に向けての振り付け
13	ストレッチ 筋力トレーニング、復習 基本から応用のムーヴメント、 試験に向けての振り付け　表現力を付ける
14	ストレッチ 筋力トレーニング 試験の振り付け　少人数で練習
15	ジャズダンス実技試験 一年間のまとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金4］ジャズ						
代表教員	関　与志雄	授業コード	GE3801J4	科目コード	GE3801Jd	期間	通年
担当教員	篠原　真、高谷　あゆみ、クリス　チャベス、打越　麗子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージカル作品の中でも特に重要なダンスシーンについて、その役割を研究し、いろいろな曲やスタイルに合わせたダンスを学ぶ。基本ステップからはじめ、ヴァリエーションを順次増やし、最終的にミュージカルシーンを踊れることを目標とする。また、舞台人としてのマナーや顔の表情などを細かく指導し、踊ることの喜び、楽しさを学んでいく。

２．授業概要

授業計画に沿って、ダンステクニックの習得、および実習を行う。
但し、履修者のレベルに合わせより良く進めるため、細かい授業内容は変動することがある。
またsummer showcaseや本公演などの期間、ダンス稽古に充てることがある

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日ストレッチをして、振付を復習すること。自分のパーソナルスタイルと表現を見つける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ダンスシューズ」は必ず用意すること。服装については、女性はレオタードにジャズパンツ。男性はTシャツ等にスウエットパンツやジャズパンツ。体のラインの見える動きやすいものを着用すること。他にタオル、筆記用具、飲み物等を用意し、授業開始時刻には着替えを済ませて入室するように。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（クラスでの明確な目的を再確認する） 担当講師の基本的なクラス概要を紹介
2	ストレッチ、動きを覚える クロスフロア、基本的なステップ 振付、シンプルなリズム
3	ストレッチ、動きを覚え自分で考える クロスフロア、音楽を聴きながら基本的なステップ 振付、先週の振付に表現を加える
4	ストレッチ、動かしている筋肉を意識する クロスフロア、基本的なステップにターンやジャンプなど技術的な動きを加える 振付、クロスフロアで得た動きを取り入れる
5	ストレッチ、筋肉の細かな動きを意識 クロスフロア、基本的なステップに技術を加える 振付、技術やテンポの速い曲に挑戦
6	ストレッチ、筋肉を意識し技術的な動きとの関係を学ぶ クロスフロア、基本的なステップからジャンプやターンを加える 振付、先週の振り付けを磨く
7	ストレッチ、短時間で動ける体を作れるようなストレッチを心がける クロスフロア、基本的なステップだが表現力を付け個性を付けていく 振付、先週までの振り付けを舞台でも見せられるように個人でも踊れるようにする
8	ストレッチ、二人組になりダイナミックなストレッチを取り入れる クロスフロア、表現力を付け楽しく魅せていく 振付、自信をもって踊れるようにする
9	ストレッチ、ダイナミックなストレッチ クロスフロア、基本のステップを組み合わせて長いコンビネーションなどをする 振付、複雑なリズムや動きを取り入れる
10	ストレッチ、マッサージなどを取り入れケガなどの予防を認識 クロスフロア、長いコンビネーションを取り入れる 振付、先週の振り付けを復習
11	ストレッチ、けが予防の知識を深める クロスフロア、コンビネーションに技術を取り入れる 振付、先週の振り付けに表現力を意識する
12	ストレッチ、肉体疲労改善の大事さを伝えコンスタントに動ける体を意識 クロスフロア、ターンやジャンプを取り入れ自信を付ける 振付、先週までの振り付けを個人で踊れるようにする
13	ストレッチ、流れを付けながら自分で体と向かい合う クロスフロア、慣れた動きを体の中心から使い大きく動く 振付、新しい振付
14	ストレッチ、流れるように余分な力を抜きながら動く クロスフロア、体を大きく使う 振付、先週の振り付けを磨
15	前期のまとめとしてディスカッション ストレッチや振付を復習 夏休み期間の過ごし方について話し合う

授業計画	
	［後期］
1	後期クラスでの明確な目的を確認する 担当講師のクラス概要を紹介
2	ストレッチ、動きを覚える 基本エクササイズ、筋力トレーニングを取り入れる 振付コンビネーション①
3	ストレッチ、動きを理解する 基本エクササイズ、筋力、主にコアを鍛える 振付コンビネーション① 表現力をつけて踊る
4	ストレッチ、理解しきれいに動く 筋力トレーニング、主にコア 基本ムーヴメントから応用まで 振付コンビネーション②
5	ストレッチ、知識を加える 筋力トレーニング、主にコア 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション② 表現力を付けて踊る
6	ストレッチ 筋力トレーニング、主に下肢 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション③　即時振りを入れ表現力を付ける
7	ストレッチ 筋力トレーニング、主に下肢 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション③　振付を更に磨
8	ストレッチ、ダイナミックな動きを取り入れる 筋力トレーニング、主にコアと下肢 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション④　曲と振付を理解し表現する
9	ストレッチ、ダイナミックな動きを取り入れる 筋力トレーニング、主にコアと下肢の連動 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション④　先週からの続き
10	ストレッチ、マッサージなどを取り入れる 筋力トレーニング、主に広背筋 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション⑤ リラクゼーション（体を緩ませて神経を休ませる大事さを体感）
11	ストレッチ、マッサージなどを取り入れる 筋力トレーニング、主に広背筋 基本から応用のムーヴメント 振付コンビネーション⑤ リラクゼーション
12	ストレッチ、学んだことを思い出し動く 筋力トレーニング、主にコア 基本から応用のムーヴメント 試験に向けての振り付け
13	ストレッチ 筋力トレーニング、復習 基本から応用のムーヴメント、 試験に向けての振り付け　表現力を付ける
14	ストレッチ 筋力トレーニング 試験の振り付け　少人数で練習
15	ジャズダンス実技試験 一年間のまとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月2］ジャズ（BL専用）						
代表教員	河内　達弥	授業コード	GE3801J5	科目コード	GE3801Qd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンスに必要なステップテクニックを習得し、コンビネーションでは様々なスタイルを学ぶことによって自分の個性を発見し育む。最終的には頭ではなくハートに従って表情豊かに踊れることを目指す。バレエ出身者にありがちな癖をジャズではどのように適応していくかを学ぶ。

２．授業概要

ウォーミングアップ、ストレッチ、ジャズダンスに必要なクロスフロア、コンビネーションの実践。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

コンビネーションの復習、舞踊、映画、美術等の芸術鑑賞。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（ジャズダンスの理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、シューズはジャズダンスシューズもしくは靴下を推奨。タオルと水分補給できるものを持参。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス、シアタージャズ（基本）
2	ポップジャズ（基本）
3	モダンジャズ（基本）
4	リリカルジャズ（基本）
5	テーマパーク（基本）
6	シアタージャズ（表現）
7	ポップジャズ（表現）
8	モダンジャズ（表現）
9	リリカルジャズ（表現）
10	テーマパーク（表現）
11	シアタージャズ（テクニック）
12	ポップジャズ（テクニック）
13	モダンジャズ（テクニック）
14	リリカルジャズ（テクニック）
15	テーマパーク（テクニック）

授業計画	
	[後期]
1	シアタージャズ（応用1）
2	ポップジャズ（応用1）
3	モダンジャズ（応用1）
4	リリカルジャズ（応用1）
5	テーマパーク（応用1）
6	シアターダンス（応用2）
7	ポップジャズ（応用2）
8	モダンジャズ（応用2）
9	リリカルジャズ（応用2）
10	テーマパーク（応用2）
11	シアタージャズ（まとめ）
12	ポップジャズ（まとめ）
13	モダンジャズ（まとめ）
14	リリカルジャズ（まとめ）
15	テーマパーク(まとめ)

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月2］ジャズ（BL専用）						
代表教員	MasamiE	授業コード	GE3801J6	科目コード	GE3801Qd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンスの魅力、表現力を学びそれぞれの個性にあった魅せ方、表現の可能性を模索し身につけて行く。
また、通年授業を通して必要な基礎を身につけていき表現者としての基盤を作って行く事を目標とする。

２．授業概要

ストレッチ、アイソレーション、ステップ、体感トレーニング、筋力トレーニング、コンビネーション
年間を通して各回の課題を体得できる内容で進め、必要に応じて振付けや制作、グループワークなども実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

筋力強化トレーニング、授業の復習、舞台または音楽、美術、芸術に関する鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点　１００％（基礎、理解度、実技、授業への取り組む姿勢などを総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲　CD　必要がある場合プリント配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズシューズ
なるべく身体のラインのわかる服装
運動に適した動きやすい格好　水分をとること　タオルも持参

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス
2	ダンス演習（基礎）　①ストレッチと呼吸の仕方
3	ダンス演習（基礎）　②ストレッチ　体感トレーニング
4	ダンス演習（基礎）　③ストレッチ　基礎ステップ
5	ダンス演習（基礎）　④筋力トレーニング　ボディコントロール
6	ダンス演習（基礎応用）　⑤ストレッチ　体感トレーニング応用
7	ダンス演習（基礎応用）　⑥筋力トレーニング強化　ターン基礎
8	ダンス演習（基礎応用）　⑦ターン応用　アイソレーション
9	ダンス演習（基礎応用）　⑧アイソレーション　基礎表現トレーニング
10	ダンス演習（基礎応用）　⑨表現力の基礎　振付け基礎
11	ダンス演習（応用）　⑩ターン応用　軸の確認　振付け　ショート
12	ダンス演習（応用）　⑪振付け応用　手の使い方　リズムの取り方
13	前期成果発表（準備）　グループ制作　構成
14	前期成果発表（発表）　表現力の使い方
15	前期到達度の確認　基礎力の確認　ターン、振付けの魅せ方

授業計画	
	[後期]
1	ダンス演習（基礎）　①筋力トレーニング応用　ストレッチ
2	ダンス演習（基礎）　②体感トレーニング応用　ステップ　ストレッチ
3	ダンス演習（基礎）　③ターン　ボディコントロール
4	ダンス演習（基礎）　④リズム感強化　アイソレーションの基本
5	ダンス演習（基礎）　⑤バランスの取り方　表現方法（個性を生かす方法）
6	ダンス演習（基礎応用）　⑥ターン応用　振付け基礎　スロー
7	ダンス演習（基礎応用）　⑦ステップ応用　振付け基礎　アップテンポ
8	ダンス演習（基礎応用）　⑧基礎体力強化　振付け応用　スロー
9	ダンス演習（基礎応用）　⑨バランス感覚応用　ステップ　振付け応用　アップテンポ
10	ダンス演習（基礎応用）　⑩表現力応用　振付け応用の振り返りと修正
11	ダンス演習（応用）　①グループワーク　構成の仕方
12	ダンス演習（応用）　②グループワーク　振付け
13	後期成果発表（準備）　振付け発表　構成と表現力
14	後期成果発表（発表）　制作力と表現力
15	学年末到達度の確認　基礎力、自己表現力　総合的な成果の確認

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4　[火2] ジャズ（BL専用）						
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE3801J8	科目コード	GE3801Rd	期間	通年
担当教員	平田　有美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンスの魅力と表現を学び、それぞれの個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

筋力強化トレーニング、授業の復習、舞台（舞踊、演劇）鑑賞、映画鑑賞、美術鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスシューズを使用。
　動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
　汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ８小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ１６小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ２４小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ３２小節振り付け
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの表現
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの魅せ方
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズを個性的に踊る
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ８小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ１６小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ２４小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ３２小節振り付け
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの表現
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの魅せ方
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズを個性的に踊る

授業計画	
	［後期］
1	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ８小節振り付け
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ１６小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ２４小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ３２小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの表現
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの魅せ方
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズを個性的に踊る
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ８小節振り付け
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ１６小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ２４小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ３２小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを表現
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴの魅せ方
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを個性的に踊る
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーション一年間の総仕上げ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金2］ジャズ（DC専用）						
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE3801K1	科目コード	GE3801Td	期間	通年
担当教員	古賀　明美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンスの魅力と表現を学び、それぞれの魅力と個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

筋力強化トレーニング、授業の復習、舞台鑑賞（舞踊、演劇）、映画鑑賞、美術鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスジャズダンスシューズ、もしくは動きやすいシューズを使用。
動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ８小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ１６小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ２４小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ３２小節振り付け
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの表現
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの魅せ方
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズを個性的に踊る
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ８小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ１６小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ２４小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ３２小節振り付け
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの表現
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの魅せ方
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズを個性的に踊る

授業計画	
	［後期］
1	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ８小節振り付け
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ１６小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ２４小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ３２小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの表現
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの魅せ方
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズを個性的に踊る
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ８小節振り付け
9	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ１６小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ２４小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ３２小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを表現
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴの魅せ方
14	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを個性的に踊る
15	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーション一年間の総仕上げ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［木3］ジャズ（DC専用）						
代表教員	前田　清実	授業コード	GE3801K2	科目コード	GE3801Td	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

身体構造の理解とジャズダンスの魅力と表現を学び、
それぞれの魅力と個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

ボディーワークを基礎としたエクササイズ、
ステップ、クロスフロアでダンステクニックを学ぶ。
身体知覚、空間の認識。コンビネーションやテーマでイメージと動きの連動、身体コントロール。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習、舞台鑑賞（舞踊、演劇）、映画鑑賞、美術鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスジャズダンスシューズ、もしくは動きやすいシューズを使用。
動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス及びジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（基礎）ボディワークを基礎としたエクササイズを理解する。
2	ジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（応用）身体のコントロール、正しい使い方を学ぶ。
3	ジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（応用）ボディワークで整えた身体で動きの質の変化を体感する。
4	ジャズダンス演習 基本スッテプの習得（基礎）基礎を理解し、肉体についても正しい認識を持つ。
5	ジャズダンス演習 基本スッテプの習得（応用）基礎ステップを正確に動けるように意識しながら実践する。
6	ジャズダンス演習　基本スッテプの習得（発展）演習してきた基礎やスッテプを振付の中でより深く学ぶ。
7	モダンダンス演習　（基礎）動きの基礎、バランス、体重移動を理解する。
8	モダンダンス演習（応用）基礎の動きを身につける。
9	モダンダンス演習（発展）振付の中で学んだ動きを使い表現する。
10	前期成果発表に向けて必要事項の検討。
11	前期成果発表に向けての演習（振付）
12	前期成果発表に向けての演習（応用）
13	前期成果発表に向けての演習（発展）
14	前期成果発表に向けての仕上げ
15	前期成果発表

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス及び成果発表に向けての題材設定。
2	シアターダンス演習（基礎）シアターダンス特有のスッテプ、身体の使い方を理解する。
3	シアターダンス演習（応用）シアターダンステクニックを身につける。
4	コンテジャズ演習　（基礎）コンテンポラリージャズの基礎を理解する。
5	コンテジャズ演習（応用）コンテンポラリージャズ特有の動きを身につける。
6	ジャズダンス演習（姿勢肉体強化）前期の学びをもとにより深く理解する。
7	ジャズダンス演習（リズム強化）
8	ジャズダンス演習（体幹強化）
9	総合ダンス演習 ボブフォッシーや有名な作品の振付を理解する。（基礎）
10	総合ダンス演習 振付の世界観や動きを身につける。（応用）
11	総合ダンス演習 振付を踊り表現する。（発展）
12	後期成果発表に向けての演習（振付）
13	後期成果発表に向けての仕上げ
14	後期成果発表
15	後期総括

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金4］ストリート（BL専用）						
代表教員	内海　貴司	授業コード	GE3801R1	科目コード	GE3801Wd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

まだ歴史の浅い近代・現代的な舞踊であるストリートダンス。ストリートダンスと呼ばれる舞踊には様々な種類とやり方があるので、それぞれの種類を理解し基礎を学び、応用した動きの習得を目指す。

２．授業概要

毎回基礎的な動きを繰り返しながら技術を高め、年間を通して学んだ技術の応用を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ　アイソレーション　映像鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（基本技術の理解度等、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ配布予定

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすい運動着、スニーカー要着用、他にタオル、飲み物等を用意し、授業開始時には着替えを済ませ入室する事。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング
2	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング　ジャンルA 基礎STEP①遅いリズム
3	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 基礎STEP②早いリズム
4	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 基礎STEP③コンビネーション
5	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 基礎STEP④表現力を合わせたアレンジ
6	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング　ジャンルB 基礎STEP①手を中心に使う表現
7	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 基礎STEP②足を中心に使う表現
8	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 基礎STEP③手と足のコンビネーション表現
9	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 基礎STEP④ターンやジャンプのコンビネーション
10	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング　ジャンル C 基礎STEP①筋力強化
11	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 基礎STEP②ポージング強化
12	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 基礎STEP③軸の強化
13	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 基礎STEP④フロアを使った表現
14	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング ジャンルA B C 応用 様々なリズムの動きをクリーンに繋げる
15	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング　前期まとめ

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング ジャンル A 復習
2	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 応用STEP①ソロダンス強化
3	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 応用STEP②ユニゾンダンス強化
4	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 応用STEP③ルーティーンダンス強化
5	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング ジャンル B 復習
6	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 応用STEP①フォーメーション強化
7	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 応用STEP②空間を意識した踊り方
8	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 応用STEP③カノンを使った踊り方
9	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング ジャンル C 復習
10	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 応用STEP①床に手をついた踊り方
11	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 応用STEP②相手を意識した踊り方
12	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング 応用STEP③移動しながらの踊り方
13	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング ジャンルA B C 応用①ソロによる創作ダンス
14	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング ジャンルA B C 応用②グループによる創作ダンス
15	ストレッチ　アイソレーション　リズムトレーニング　後期まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［木3］ストリート（DC専用）						
代表教員	TOMOMI	授業コード	GE3801S1	科目コード	GE3801Sd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ストリートダンスに必要な基礎的な身体の使い方・アイソレーション・基礎リズムトレーニングを通し、ステージや舞台など様々な活動の場でのパフォーマンス力の一つとなるダンス基礎の習得を目指す。授業では、身体の柔軟性と筋力アップ、体幹トレーニング、リズムトレーニングを通して身体的表現力向上を目指す。通年授業を通してストリートダンス基礎力・表現力と音楽への知識を高め、ダンス力の向上を目標とする。

２．授業概要

ストレッチ、筋力トレーニング、アイソレーション、HipHop基礎リズムトレーニング&Stepトレーニング。年間を通して各回の課題を体得できる内容で進め、必要に応じて、振付や振付制作・Freestyle・ 個別指導・グループワークも実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業での内容を毎回反復練習するなど、自主的なトレーニングを習慣付けることが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%(基礎リズム理解度・習得度・表現力・授業態度等を総合的に評価する)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

身体を動かす授業なので、体調管理に気をつけること。各自水分補給を心がけ、動きやすい服装・靴（スニーカー）で授業に臨むこと。

授業計画	
	【前期】
1	前期ガイダンス及びダンス演習（基礎導入） ⑴柔軟性
2	ダンス演習（基礎導入） ⑵柔軟性とアイソレーション
3	ダンス演習（リズム基礎） ⑶コアの強化
4	ダンス演習（リズム基礎） ⑷リズム基礎（Down）
5	ダンス演習（基礎応用） ⑸柔軟性とアイソレーションの意識
6	ダンス演習（リズム基礎） ⑹リズム感（オンビート）
7	ダンス演習（リズム基礎） ⑺リズム感（UP）
8	ダンス演習（リズム基礎） ⑻リズム基礎の強化（Down&UP）
9	ダンス演習（基礎応用） ⑼筋力アップと基本Step
10	ダンス演習（基礎応用） ⑽基本Stepと軸・ボディバランス
11	ダンス演習（基礎応用） ⑾音楽性
12	ダンス演習と前期末成果発表に向けたグループワーク演習 ⑿リズム感とボディコントロール
13	ダンス演習と前期末成果発表に向けたグループワーク演習 ⒀チームワーク
14	前期末成果発表 ⒁目線と表情
15	前期到達度の確認 ⒂表現力

授業計画	
	【後期】
1	ダンス演習（基礎） (1)16ビート
2	ダンス演習（リズム基礎） (2)腹筋・体幹トレーニング
3	ダンス演習（リズム基礎応用） (3)リズム感（フロント・バック）
4	ダンス演習（リズム基礎応用） (4)リズム感（基礎リズム＆アイソレーション・首）
5	ダンス演習（リズム基礎応用） (5)リズム感（基礎リズム＆アイソレーション・肩）
6	ダンス演習（基礎応用） (6)重心の意識
7	ダンス演習（リズム基礎応用） (7)重心移動（クロスフロア）
8	ダンス演習（リズム基礎応用） (8)手の動き
9	ダンス演習（リズム基礎応用） (9)軸の意識（Step&ターン）
10	ダンス演習（リズム基礎応用） (10)コンビネーション
11	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク (11)音楽性と基礎・応用力
12	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク (12)フロア
13	ダンス演習と学年末成果発表に向けたグループワーク (13)構成力
14	学年末成果発表 (14)表現力
15	後期到達度の確認 (15)リズム基礎＆Step・応用の確認

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［金3］ストリート（DC専用）						
代表教員	ERIKA	授業コード	GE3801S2	科目コード	GE3801Sd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ストリートダンスの基礎を固める（ヒップホップ／ロッキング／ポッピング／ワッキング／フロワームーブ、ブレイキン／ハウス／ジャズファンク）
ストリートダンスの魅力と表現を学び、それぞれの個性にあった魅せ方と表現のかのせいを模索し身につける。

２．授業概要

年間を通して各回の課題を体得出来る様、ダンステクニックの習得及び実習を行う。
ストレッチ、ウォームアップ（ボディーワーク）、アイソレーション、ステップ、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習
筋力アップトレーニング、ストレッチ
芸術観賞、音楽鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ストリートダンスの基礎、応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

室内用スニーカーを使用
動きやすい服装
汗をかくのでタオル、水分補給が出来る様に飲み物の用意
授業開始時刻には着替えを済ませ入室する様に
遅刻厳禁
身体を使う授業なので体調、自己管理に十分留意する事

授業計画	
1	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①基礎ステップ ②アイソレーション基礎（ハンドウェーブ／ボディーウェーブ） ③筋トレ（ブレーキング基礎） 基礎を用いたコンビネーション
2	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①基礎ステップ２ ②アイソレーション基礎2（ハンドウェーブ／ボディーウェーブ） ③筋トレ（ブレーキング展開） コンビネーション
3	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①発展ステップ ②アイソレーション発展（コブラ／ブガルー） ③筋トレ（ブレーキング応用） コンビネーション
4	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①応用ステップ ②アイソレーション発展（サイド／ムーンウォーク） ③筋トレ（ブレーキング発展） コンビネーション
5	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ロッキング基礎 ②アイソレーション ③筋トレ（トップロック） コンビネーション
6	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ロッキング展開 ②アイソレーション ③筋トレ（フリーズ１） コンビネーション
7	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ロッキング応用 ②アイソレーション ③筋トレ（フリーズ２） コンビネーション
8	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ロッキング発展 ②アイソレーション ③筋トレ（フリーズ３） コンビネーション
9	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング基礎 ②筋トレ（フロアームーブ①） コンビネーション
10	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング展開 ②筋トレ（フロアームーブ②） コンビネーション 前期末成果発表に向けた必要事項の検討
11	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング応用 ②筋トレ（フロアームーブ③） コンビネーション
12	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 前期末成績発表に向けての企画策定
13	前期末成績発表向けての演習
14	前期末成績発表に向けての総仕上げ
15	前期総括

授業計画	
1	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①基礎ステップ ②アイソレーション基礎 ③筋トレ（ブレーキング基礎） 基礎を用いたコンビネーション
2	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①基礎ステップ２ ②アイソレーション基礎2 ③筋トレ（ブレーキング展開） コンビネーション
3	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①発展ステップ ②アイソレーション発展 ③筋トレ（ブレーキング応用） コンビネーション
4	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①応用ステップ１ ②アイソレーション発展 ③筋トレ（ブレーキング発展） コンビネーション
5	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①応用ステップ２ ②アイソレーション発展 ③筋トレ（ブレーキング発展２） コンビネーション
6	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ワッキング基礎 ②アイソレーション ③筋トレ（フリーズ１） コンビネーション
7	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ワッキング発展 ②アイソレーション ③筋トレ（フリーズ２） コンビネーション
8	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス基礎 ②筋トレ（フロアームーブ１） コンビネーション
9	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス展開 ②筋トレ（フロアームーブ２） コンビネーション
10	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス展開 ②筋トレ（フロアームーブ3） コンビネーション 後期末成果発表に向けた必要事項の検討
11	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス応用 ②筋トレ（フロアームーブ4） コンビネーション
12	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 後期末成績発表に向けての企画策定
13	後期末成績発表向けての演習
14	後期末成績発表に向けての総仕上げ
15	後期総括

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月2］タップ						
代表教員	平塚　美和子	授業コード	GE3801T1	科目コード	GE3801Kd	期間	通年
担当教員	篠原　真、クリス　チャベス、風真　弘子、畠山　眞葵						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

プロのステージに立つ為に必要な基本～応用までのタップテクニックの習得を目指します。基本的なタップのウォーミングアップから応用ステップまでを明確な説明をしながら、回転や組み合わせのスキルを伸ばすフロアタップテクニックも取り入れて、ミュージカルシアタースタイルを基本とした振り付けを明瞭な音を出しながら様々な表現が出来る様に完成させていきます。

２．授業概要

学生がオーディションに行き、基本的なステップを踏むことが出来た上で舞台人として充分に通用するようになる事、また年間を通して行なわれる学内ステージのタップナンバーでしっかりとしたパフォーマンスが出来る事を目指します。今やバレエやジャズと同じくらい重要なタップダンスは、外部に出ても当たり前に出来る様になれたらと思います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、タップのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)
授業への参加姿勢・参加態度(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすく、膝の動きがわかり易いウェア。
タップシューズ（ローヒールorハイヒール）、タオル、飲み物、筆記用具等を用意。
休み時間中に着替えを済ませ、授業の開始時刻に遅れないように教室へ入室。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、クラス分け
2	基本的な説明と演習
3	ストレッチ～バーレッスン(シャッフル)
4	ストレッチ～バーレッスン(スラップ&ヒール)
5	ストレッチ～バーレッスン(スラップヒール&ダブルヒール)
6	ストレッチ～バーレッスン(シャッフルボールチェンジ)
7	ストレッチ～バーレッスン(ランニングスラップ&クランプロール)
8	ストレッチ～スラップツーステップ&バッファロー
9	ストレッチ～ホップシャッフル&マキシフォードターン
10	ストレッチ～スカッフ&スカッフル
11	ストレッチ～ウィング
12	ストレッチ～振付(COOL)
13	ストレッチ～振付の続き(COOL)作品の世界観をしっかり把握する
14	ストレッチ～振付の続き(COOL)ブラッシュアップ音との融合を図る
15	ストレッチ～前期復習(足だけにならずにダンスの 表現的要素をしっかり取り入れる)

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ～前期復習
2	ストレッチ～タイムステップ(シングル&ダブル)
3	ストレッチ～タイムステップ(トリプル&ダブルトリプル)
4	ストレッチ～タイムステップ(ウィング&ブレイク)
5	ストレッチ～バックステップ
6	ストレッチ～プルバック
7	ストレッチ～シャッフルプルバック
8	ストレッチ～試験振付スタート(The Nicest Kids in Town)
9	ストレッチ～試験振付続き(The Nicest Kids in Town)上半身と足(下半身)の融合を目指す
10	新しい振付&ステップの継続。 振付の中で効果的な腕の動きを教える。 また、音楽的パフォーマンステクニックも。
11	引き続き試験の振付 一人で正確に音を刻む事を目標とする
12	引き続き試験の振付 動きの中で重心の位置の重要性を伝える
13	試験の振付ブラッシュアップ 自分なりの表現力をつける方法を教える
14	試験の振付ブラッシュアップ 最後までパフォーマンスする為のスタミナの重要性と、記憶に残るパフォーマンスの仕方。
15	ストレッチ～試験

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月3］タップ						
代表教員	平塚　美和子	授業コード	GE3801T2	科目コード	GE3801Ld	期間	通年
担当教員	篠原　真、風真　弘子、畠山　眞葵						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

プロのステージに立つ為に必要な基本～応用までのタップテクニックの習得を目指します。基本的なタップのウォーミングアップから応用ステップまでを明確な説明をしながら、回転や組み合わせのスキルを伸ばすフロアタップテクニックも取り入れて、ミュージカルシアタースタイルを基本とした振り付けを明瞭な音を出しながら様々な表現が出来る様に完成させていきます。

２．授業概要

学生がオーディションに行き、基本的なステップを踏むことが出来た上で舞台人として充分に通用するようになる事、また年間を通して行なわれる学内ステージのタップナンバーでしっかりとしたパフォーマンスが出来る事を目指します。今やバレエやジャズと同じくらい重要なタップダンスは、外部に出ても当たり前に出来る様になれたらと思います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、タップのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)
授業への参加姿勢・参加態度(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすく、膝の動きがわかり易いウェア。
タップシューズ（ローヒールorハイヒール）、タオル、飲み物、筆記用具等を用意。
休み時間中に着替えを済ませ、授業の開始時刻に遅れないように教室へ入室。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、クラス分け
2	基本的な説明と演習
3	ストレッチ～バーレッスン(シャッフル)
4	ストレッチ～バーレッスン(スラップ&ヒール)
5	ストレッチ～バーレッスン(スラップヒール&ダブルヒール)
6	ストレッチ～バーレッスン(シャッフルボールチェンジ)
7	ストレッチ～バーレッスン(ランニングスラップ&クランプロール)
8	ストレッチ～スラップツーステップ&バッファロー
9	ストレッチ～ホップシャッフル&マキシフォードターン
10	ストレッチ～スカッフ&スカッフル
11	ストレッチ～ウィング
12	ストレッチ～振付(COOL)
13	ストレッチ～振付の続き(COOL)作品の世界観をしっかり把握する
14	ストレッチ～振付の続き(COOL)ブラッシュアップ音との融合を図る
15	ストレッチ～前期復習(足だけにならずにダンスの 表現的要素をしっかり取り入れる)

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ～前期復習
2	ストレッチ～タイムステップ(シングル&ダブル)
3	ストレッチ～タイムステップ(トリプル&ダブルトリプル)
4	ストレッチ～タイムステップ(ウィング&ブレイク)
5	ストレッチ～バックステップ
6	ストレッチ～プルバック
7	ストレッチ～シャッフルプルバック
8	ストレッチ～試験振付スタート(The Nicest Kids in Town)
9	ストレッチ～試験振付続き(The Nicest Kids in Town)上半身と足(下半身)の融合を目指す
10	新しい振付&ステップの継続。 振付の中で効果的な腕の動きを教える。 また、音楽的パフォーマンステクニックも。
11	引き続き試験の振付 一人で正確に音を刻む事を目標とする
12	引き続き試験の振付 動きの中で重心の位置の重要性を伝える
13	試験の振付ブラッシュアップ 自分なりの表現力をつける方法を教える
14	試験の振付ブラッシュアップ 最後までパフォーマンスする為のスタミナの重要性と、記憶に残るパフォーマンスの仕方。
15	ストレッチ～試験

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月4］タップ						
代表教員	平塚　美和子	授業コード	GE3801T3	科目コード	GE3801Md	期間	通年
担当教員	篠原　真、クリス　チャベス、風真　弘子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

プロのステージに立つ為に必要な基本～応用までのタップテクニックの習得を目指します。基本的なタップのウォーミングアップから応用ステップまでを明確な説明をしながら、回転や組み合わせのスキルを伸ばすフロアタップテクニックも取り入れて、ミュージカルシアタースタイルを基本とした振り付けを明瞭な音を出しながら様々な表現が出来る様に完成させていきます。

２．授業概要

学生がオーディションに行き、基本的なステップを踏むことが出来た上で舞台人として充分に通用するようになる事、また年間を通して行なわれる学内ステージのタップナンバーでしっかりとしたパフォーマンスが出来る事を目指します。今やバレエやジャズと同じくらい重要なタップダンスは、外部に出ても当たり前に出来る様になれたらと思います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、タップのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)
授業への参加姿勢・参加態度(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすく、膝の動きがわかり易いウェア。
タップシューズ（ローヒールorハイヒール）、タオル、飲み物、筆記用具等を用意。
休み時間中に着替えを済ませ、授業の開始時刻に遅れないように教室へ入室。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、クラス分け
2	基本的な説明と演習
3	ストレッチ～バーレッスン(シャッフル)
4	ストレッチ～バーレッスン(スラップ&ヒール)
5	ストレッチ～バーレッスン(スラップヒール&ダブルヒール)
6	ストレッチ～バーレッスン(シャッフルボールチェンジ)
7	ストレッチ～バーレッスン(ランニングスラップ&クランプロール)
8	ストレッチ～スラップツーステップ&バッファロー
9	ストレッチ～ホップシャッフル&マキシフォードターン
10	ストレッチ～スカッフ&スカッフル
11	ストレッチ～ウィング
12	ストレッチ～振付(COOL)
13	ストレッチ～振付の続き(COOL)作品の世界観をしっかり把握する
14	ストレッチ～振付の続き(COOL)ブラッシュアップ音との融合を図る
15	ストレッチ～前期復習(足だけにならずにダンスの 表現的要素をしっかり取り入れる)

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ～前期復習
2	ストレッチ～タイムステップ(シングル&ダブル)
3	ストレッチ～タイムステップ(トリプル&ダブルトリプル)
4	ストレッチ～タイムステップ(ウィング&ブレイク)
5	ストレッチ～バックステップ
6	ストレッチ～プルバック
7	ストレッチ～シャッフルプルバック
8	ストレッチ～試験振付スタート(The Nicest Kids in Town)
9	ストレッチ～試験振付続き(The Nicest Kids in Town)上半身と足(下半身)の融合を目指す
10	新しい振付&ステップの継続。 振付の中で効果的な腕の動きを教える。 また、音楽的パフォーマンステクニックも。
11	引き続き試験の振付 一人で正確に音を刻む事を目標とする
12	引き続き試験の振付 動きの中で重心の位置の重要性を伝える
13	試験の振付ブラッシュアップ 自分なりの表現力をつける方法を教える
14	試験の振付ブラッシュアップ 最後までパフォーマンスする為のスタミナの重要性と、記憶に残るパフォーマンスの仕方。
15	ストレッチ～試験

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［木2］タップ						
代表教員	平塚　美和子	授業コード	GE3801T4	科目コード	GE3801Nd	期間	通年
担当教員	篠原　真、クリス　チャベス、風真　弘子、畠山　眞葵						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

プロのステージに立つ為に必要な基本～応用までのタップテクニックの習得を目指します。基本的なタップのウォーミングアップから応用ステップまでを明確な説明をしながら、回転や組み合わせのスキルを伸ばすフロアタップテクニックも取り入れて、ミュージカルシアタースタイルを基本とした振り付けを明瞭な音を出しながら様々な表現が出来る様に完成させていきます。

２．授業概要

学生がオーディションに行き、基本的なステップを踏むことが出来た上で舞台人として充分に通用するようになる事、また年間を通して行なわれる学内ステージのタップナンバーでしっかりとしたパフォーマンスが出来る事を目指します。今やバレエやジャズと同じくらい重要なタップダンスは、外部に出ても当たり前に出来る様になれたらと思います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、タップのＤＶＤ鑑賞　等

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)
授業への参加姿勢・参加態度(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすく、膝の動きがわかり易いウェア。
タップシューズ（ローヒールorハイヒール）、タオル、飲み物、筆記用具等を用意。
休み時間中に着替えを済ませ、授業の開始時刻に遅れないように教室へ入室。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、クラス分け
2	基本的な説明と演習
3	ストレッチ～バーレッスン(シャッフル)
4	ストレッチ～バーレッスン(スラップ&ヒール)
5	ストレッチ～バーレッスン(スラップヒール&ダブルヒール)
6	ストレッチ～バーレッスン(シャッフルボールチェンジ)
7	ストレッチ～バーレッスン(ランニングスラップ&クランプロール)
8	ストレッチ～スラップツーステップ&バッファロー
9	ストレッチ～ホップシャッフル&マキシフォードターン
10	ストレッチ～スカッフ&スカッフル
11	ストレッチ～ウィング
12	ストレッチ～振付(COOL)
13	ストレッチ～振付の続き(COOL)作品の世界観をしっかり把握する
14	ストレッチ～振付の続き(COOL)ブラッシュアップ音との融合を図る
15	ストレッチ～前期復習(足だけにならずにダンスの 表現的要素をしっかり取り入れる)

授業計画	
	［後期］
1	ストレッチ～前期復習
2	ストレッチ～タイムステップ(シングル&ダブル)
3	ストレッチ～タイムステップ(トリプル&ダブルトリプル)
4	ストレッチ～タイムステップ(ウィング&ブレイク)
5	ストレッチ～バックステップ
6	ストレッチ～プルバック
7	ストレッチ～シャッフルプルバック
8	ストレッチ～試験振付スタート(The Nicest Kids in Town)
9	ストレッチ～試験振付続き(The Nicest Kids in Town)上半身と足(下半身)の融合を目指す
10	新しい振付&ステップの継続。 振付の中で効果的な腕の動きを教える。 また、音楽的パフォーマンステクニックも。
11	引き続き試験の振付 一人で正確に音を刻む事を目標とする
12	引き続き試験の振付 動きの中で重心の位置の重要性を伝える
13	試験の振付ブラッシュアップ 自分なりの表現力をつける方法を教える
14	試験の振付ブラッシュアップ 最後までパフォーマンスする為のスタミナの重要性と、記憶に残るパフォーマンスの仕方。
15	ストレッチ～試験

科目名	ダンスパフォーマンス1-1～4-4 ［月3］タップ（DC専用）						
代表教員	三寺　郷美	授業コード	GE3801U1	科目コード	GE3801Xd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

タップダンスの歴史（ルーツ）を学ぶ。基礎ステップを習得し、それを応用したステップを習得する。タップダンスを通じて重心移動、タイミング、リズム、音色を追求することにより、自身の身体を細部までコントロールする意識と力を養う。視覚、聴覚ともに楽しめる踊りであることを自覚しタップダンスへの理解を深める。

２．授業概要

基礎ステップ 、リズムトレーニング、振り付けを通して各回に設定した目標を体得できるプログラムで授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、ステップ、リズムトレーニングの復習
イメージトレーニング

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（タップダンスの理解度、課題曲の完成度等で総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適宜配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装（スカート、ジーンズ不可）、タップダンスシューズ（タップダンスシューズがなければヒールの太い革靴またはスニーカー。タップシューズ購入希望者は初回授業時に相談可。）、タオル、飲み物、筆記用具を用意。
休み時間中に着替えを済ませ、授業の開始時に遅れないように教室へ入室。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス デモストレーション タップダンス映画、舞台作品DVD鑑賞
2	～タップダンスのルーツを知る～ 基礎（アイリッシュなど）
3	～タップダンスのルーツに触れる～ 基礎（アイリッシュ応用編など）
4	～音色と強弱～ 基礎（パドルなど）
5	～準備と呼吸～ 基礎（ホップとリープなど）
6	～視覚的効果と聴覚的効果～
7	～音楽の持つ力を感じた表現方法～
8	～長い音（ロングトーン）の表現方法～
9	～呼吸、音を揃える意識～
10	リズムトレーニング（振付をしてみよう！①） 指定されたステップを応用し、各自が作ったリズムでステップを作る
11	リズムトレーニング（振付をしてみよう！②） 指定された曲の旋律にのせてステップを作る
12	リズムトレーニング（振付をしてみよう！③変拍子） 指定された拍子のビートにのってステップを作る
13	リズムトレーニング（即興）
14	基礎ステップと課題曲振付（総復習）
15	基礎ステップ総復習と課題曲発表、前期まとめ

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス タップダンス映画、舞台DVD鑑賞 基礎（ウィングなど）
2	BSコーラスを学ぶ（前半編）
3	BSコーラスを学ぶ（後半編）
4	リズムトレーニング（振付をしてみよう！④応用編） 指定された曲の旋律にのせてステップを作る
5	リズムトレーニング（振付をしてみよう！⑤発展編） 指定された曲の旋律にのせてステップを作る
6	～素早い動きに対応するための体幹引き上げ～
7	～音の方向と次へ向かう準備～
8	～ねじれから生まれる反動と力～
9	～綺麗な音色を出す方法～
10	～全身で音を奏でる（音楽性）～
11	～全身で音を奏でる（表現力）～
12	～全身で音を奏でる（コントロール）～
13	～全身で音を奏でる（独創性）～
14	基礎ステップと課題曲振付（総復習）
15	基礎ステップ総復習と課題曲発表、後期まとめ

科目名	ダンスパフォーマンス３－１　［木2］ジャズ（AS専用）						
代表教員	田之上　桃慧	授業コード	GE380900	科目コード	GE3809	期間	通年
担当教員	米島　史子						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

身体構造の理解とジャズダンスの表現と基礎を学び、
それぞれの個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

ボディーワークを基礎としたエクササイズ、ダンステクニックを学ぶ。
身体知覚、空間の知覚。設定されるコンビネーションやテーマでイメージと動きの連動、身体コントロール。□

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習、舞台（舞踊、演劇）鑑賞、映画鑑賞、美術鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスシューズ、または動きやすいシューズを使用。
　動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
　汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス及びジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（基礎）ボディワークを基礎としたエクササイズを理解する。
2	ジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（応用）身体のコントロール、正しい使い方を学ぶ。
3	ジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（応用）ボディワークで整えた身体で動きの質の変化を体感する。
4	ジャズダンス演習 基本スッテプの習得（基礎）基礎を理解し、肉体についても正しい認識を持つ。
5	ジャズダンス演習 基本スッテプの習得（応用）基礎ステップを正確に動けるように意識しながら実践する。
6	ジャズダンス演習　基本スッテプの習得（発展）演習してきた基礎やスッテプを振付の中でより深く学ぶ。
7	モダンダンス演習　（基礎）動きの基礎、バランス、体重移動を理解する。
8	モダンダンス演習（応用）基礎の動きを身につける。
9	モダンダンス演習（発展）振付の中で学んだ動きを使い表現する。
10	シアターダンス演習（基礎）シアターダンス特有のスッテプ、身体の使い方を理解する。
11	シアターダンス演習（応用）シアターダンステクニックを身につける。
12	シアターダンス演習（発展）振付の中でシアターダンスの動きを表現する。
13	コンテジャズ演習　（基礎）コンテンポラリージャズの基礎を理解する。
14	コンテジャズ演習（応用）コンテンポラリージャズ特有の動きを身につける。
15	コンテジャズ演習（発展）振付の中でコンテンポラリージャズを表現する。

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス及び成果発表に向けての題材設定。
2	ジャズダンス演習（姿勢肉体強化）前期の学びをもとにより深く理解する。
3	ジャズダンス演習（リズム強化）
4	ジャズダンス演習（体幹強化）
5	総合ダンス演習 ボブフォッシーや有名な作品の振付を理解する。（基礎）
6	総合ダンス演習 振付の世界観や動きを身につける。（応用）
7	総合ダンス演習 振付を踊り表現する。（発展）
8	総合ダンス演習（群舞及びペア）
9	成果発表に向けて必要事項の検討。
10	成果発表に向けての演習（振付）
11	成果発表に向けての演習（応用）
12	成果発表に向けての演習（発展）
13	成果発表に向けての仕上げ
14	成果発表
15	後期総括

科目名	アクティング１　［火4］						
代表教員	横山　仁一	授業コード	GE381700	科目コード	GE3817	期間	通年
担当教員	大倉　マヤ、兵藤　公美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座では、アクティング＝演技の基礎習得を中心に授業を進める。まずは、舞台上で観客に見せるに耐えうる「身体」と、観客に心に届く「ことば」を、身体制御訓練や、滑舌訓練等を通じて獲得する。次に、演技を成立させる上で重要な「衝動の鮮度」（＝その瞬間にその演技が本当に必要で生まれたのか）と、「個性的で魅力的なキャラクター」（＝いつまでも観ていたいと思わせたり、観客の共感を呼ぶ人物造型）について、エクササイズや、戯曲の実演を通して学ぶ。

２．授業概要

授業計画に沿って、演技テクニックの習得、および実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

2回目以降の授業は事前配布した資料や戯曲を通読したり、覚えてきている前提で行うため、日々そのための時間を確保することが重要である。また、授業内で学んだことは、各自反復練習し、身につけること。授業内の発表でフィードバックを受けたことは必ずそのままにせず、次回の授業までに改善を目指すこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の40%）
授業内でのパフォーマンス（評価の30%）
試験（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布、適宜紹介

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装。タオル、着替え等汗をかいた際のコンディショニングに必要なもの。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	オリエンテーリング：授業の目的、授業へ取り組むべき姿勢を理解する。アクセント記号等発語についてのルールを学ぶ。
2	身体の基礎１：ストップモーション（身体のキレと集中を養うためのトレーニング） ことばの基礎１：発声、滑舌（あ行、か行）
3	身体の基礎２：前回の反復練習＋焦点を意識する。反応スピードのアップを心がける。 ことばの基礎２：発声、滑舌（さ行、た行）
4	身体の基礎３：前回の反復練習＋自分の身体を内側から認識し、エネルギーを高める。 ことばの基礎３：発声、滑舌（な行、は行）＋焦点を意識して話す。
5	身体の基礎４：前回の反復練習＋他の人の身体を観察し、自己の身体を客観化する。 ことばの基礎４：発声、滑舌（ま行、や行、ら行）＋焦点を意識して話す。
6	身体の基礎5：前回の反復練習＋空間を意識して歩く。 ことばの基礎5：発声、滑舌＋劇場の大きさをイメージして伝える。
7	演技基礎反復＋場所や役柄の設定のイメージを加える。 魅力的なキャラクターづくり１：自分の行動を観察し、再現する。
8	演技基礎反復＋共演者や空間と自分の関係を意識する。 魅力的なキャラクターづくり２：他人の行動を観察し、再現する。
9	演技基礎反復 魅力的なキャラクターづくり３：人物観察の精度を高める。
10	演技基礎反復 魅力的なキャラクターづくり４：再現の精度を高める。
11	演技基礎反復 シーン創作１：身近な一言の会話を使ったシーン創作を通じ、セリフを発する際の衝動をとらえる。
12	演技基礎反復 シーン創作２：相手役と呼吸をあわせる。
13	演技基礎反復 シーン創作３：衝動を新鮮に保って反復する。
14	演技基礎反復 シーン創作４：７回-10回で学んだキャラクター作りと衝動の鮮度の両立を試みる。
15	演技基礎反復 シーン創作５：前回までのフィードバックを生かし、ブラッシュアップする。

授業計画	
	［後期］
1	演技基礎反復 グループ創作１：前期で獲得したキャラクター造型を生かして、より人数の多い長めのシーンの創作する。
2	演技基礎反復 グループ創作２：演じる上で、生きた演技の持続を目指す。
3	演技基礎反復 グループ創作３：自分たちが創作したものを客観的に検証し、観客に伝える方法を模索する。
4	演技基礎反復 グループ創作４：他のグループの創作に対し、フィードバックする。
5	演技基礎反復 グループ創作５：前回のフィードバックを生かして、発表する。
6	演技基礎反復 実演１：シーンスタディで使用した戯曲「DOLL」如月小春などを使って、今迄学んだことを実践していく。
7	演技基礎反復 実演２：読み合わせ（個人の衝動、キャラクターを大切に）
8	演技基礎反復 実演３：読み合わせ（相手役との呼吸、フォーカスを意識して）
9	演技基礎反復 実演４：立ち稽古（相手役との関係性を意識して）
10	演技基礎反復 実演５：立ち稽古（ブラッシュアップ）
11	演技基礎反復 実演６：中間発表、フィードバック
12	演技基礎反復 実演７：前回のフィードバックを受けてブラッシュアップ
13	演技基礎反復 実演８：新鮮な衝動を失わないように、反復する。
14	演技基礎反復 実演９：ブラッシュアップ
15	成果発表

科目名	アクティング２　［火3］						
代表教員	田野　邦彦	授業コード	GE381800	科目コード	GE3818	期間	通年
担当教員	横山　仁一						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次で学修したことを２年次ではさらに発展させる。
この講座では、アクティング＝演技の基礎の習得を中心に授業を進める。
まずは、舞台上で観客に見せるに耐えうる「身体」と、観客に心に届く「ことば」を、身体制御訓練や、滑舌訓練等を通じて獲得する。
次に、演技を成立させる上で重要な「衝動の鮮度」（＝その瞬間にその演技が本当に必要で生まれたのか）と、「個性的で魅力的なキャラクター」（＝いつまでも観ていたいと思わせたり、観客の共感を呼ぶ人物造型）について、シェイクスピアの書いた戯曲をテキストとして使用し、実演を通して学ぶ。

２．授業概要

授業計画に沿って、演技テクニックの習得、および実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で学んだことは、各自反復練習し、身につけること。授業内の発表でフィードバックを受けたことは必ずそのままにせず、次回の授業までに改善を目指すこと。配布されたプリントは必ず事前に読み込むこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の40%）
授業内でのパフォーマンス（評価の40%）
試験（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布
参考文献については、特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装。タオル、着替え等汗をかいた際のコンディショニングに必要なもの。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］ シェイクスピアの作品（「ロミオとジュリエット」「夏の夜の夢」「ハムレット」「お気に召すまま」等）からモノローグ／ダイアローグを選び、テキストとして使用する。
1	ガイダンス：授業の目的、授業へ取り組むべき姿勢を理解する。
2	舞台上での対話１：舞台での対話とは
3	舞台上での対話２：相手にかけるエネルギーを高める
4	舞台上での対話３：エネルギーのキャッチボールを意識した対話
5	舞台上での対話４：言葉のイメージを意識する
6	舞台上での対話５：言葉を渡す、投げる、ぶつける
7	舞台上での対話６：台詞に目的を持たせる
8	舞台上での対話７：相手の言葉を受け止める
9	一人台詞の練習１：体の中心線を意識した演技
10	一人台詞の練習２：台詞に合った体の状態を見つける
11	一人台詞の練習３：長台詞を会話のようにやり取りする
12	一人台詞の練習４：実感を伴った台詞を言う
13	一人台詞の練習５：実感をもとに台詞を組み立てる
14	前期のまとめ１：これまでの成果を発表する
15	前期のまとめ２：これまでの成果を発表し、後期の課題を共有する。

授業計画	
	［後期］ シェイクスピアの作品から「十二夜」「夏の夜の夢」等の戯曲を一本選択し、作品理解を進める。
1	演技実践１：相手との距離をつくる
2	演技実践２：対話の言葉と独り言の違い
3	演技実践３：記憶・観察・想像
4	演技実践４：かみあわない会話をどう作るか
5	演技実践５：人間らしさを役の人物に与える
6	演技実践６：相手の心を動かす
7	演技実践７：相手に心を動かされる
8	演技実践８：変化と葛藤
9	演技実践９：言葉と身体に出会いなおす
10	演技実践１０：立ち稽古① 場当たり
11	演技実践１１：立ち稽古② 観客の存在を想定する
12	演技実践１２：立ち稽古③ 前後の場面との連携を意識する
13	演技実践１３：立ち稽古④ いくつかの場面の部分的な通し稽古
14	学年末試験・解説
15	一年のまとめ

科目名	アクティング３　［火4］						
代表教員	山田　宏平	授業コード	GE381900	科目コード	GE3819	期間	通年
担当教員	田野　邦彦						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

2年次のアクティングで学修したことを3年次ではさらに発展させる。
この講座ではアクティング=演技の基礎の習得と実践を中心に授業を進める。
前期は少人数でのシーンづくりを通じて対話の基本を習得し、後期では多人数 によるシーンづくりを行ないながらより複雑な対話の実践を試みることで、 舞台上で役として生きるために必要な二つの要素「行動(アクション)」と「反応(リアクション)」について、
講義やエクササイズを交えながら取り組む。

２．授業概要

授業計画に沿って演技術の習得を行なう。また、複数人数による授業内創作を通 じて、演出眼を持って演じる力の強化を行なう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

3. 授業時間外の学習(予習復習について) 授業で行なう戯曲のセリフは指定された期日までに入れてくること。また授業で指導を受けたことはそのままにせず、次回の授業までに反復練習し改善を目指すこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の４０％）
授業内でのパフォーマンス（評価の４０％）
試験でのパフォーマンス（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布。書き込みができるようにプリントアウトして使用すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件は特になし。 動きやすく、授業にふさわしい服装で参加すること(スカート・アクセサリー不可)。

授業計画	
	［前期］ ニール・サイモン「はだしで散歩」「おかしな二人」 ※テキストは変更の可能性あり
1	ガイダンス：２年間の経験を踏まえ、現時点での各自のガイダンス：この1年の目標を設定し、共有する。
2	ワークショップ1:イメージを持つことと、共有することについて、ワークショップ形式で試行する。
3	ワークショップ2:前回習得したことを踏まえ、課題を発表する。
4	舞台での対話1:この週からは2つのクラスに分け、演出家からの指導と演技トレーナーからの指導をそれぞれ受ける。この回は使用戯曲についてガイダンスを行なう。
5	舞台での対話2:使用戯曲の読解。セリフの裏に隠れている各キャラクターの目的と動機を見つける。
6	舞台での対話3:読み合わせ。シーンそれぞれの状況にふさわしい速度・音色・ 質感について考える。
7	舞台での対話4:実践1。ペアに分かれて対話のレッスンを行なう。シーンの導入について必要なことを習得する。
8	舞台での対話5:実践2。ペアに分かれて対話のレッスンを行なう。激しい口論の演技に必要なことを習得する。
9	舞台での対話6:この回からクラスを交換して行なう。この回はガイダンスと エクササイズを中心に行ない、授業の到達目標を共有し浸透させる。
10	舞台での対話7:実践3。ペアに分かれて対話のレッスンを行なう。シーン内での状況や関係性の変化について考察し実践する。
11	舞台での対話8:実践4。ペアに分かれて対話のレッスンを行なう。前回に続き変化について考察し、変化を生み出す技術を習得する。
12	舞台での対話9:実践5。ペアに分かれて対話のレッスンを行なう。クラス内で発表とフィードバックを行なう。
13	舞台での対話10:実践6。ペアに分かれて対話のレッスンを行なう。クラス内での発表2回目。前回出た課題に対して取り組み、俳優に必要な「演技プランを修正する技術と意識」について考察と実践を行なう。
14	前期のおさらい:全員合同で、ほかの学内公演の素材を用いて稽古を行なう。稽古を通じて前期習得したことを振り返るとともに、今後の課題を明確にする。
15	後期ガイダンス:後期使用戯曲を配布し、レクチャーと試し読みをし、後期までの課題を共有する。

授業計画	
	［後期］ 鄭義信「焼肉ドラゴン」 ※テキストは変更の可能性あり
1	対話応用1:後期使用戯曲で使われている、学生が日頃使わないコンテクスト（文脈・文法)の対話にワークショップ形式で取り組む。
2	対話応用2:使用戯曲分析。戯曲のキーワード別にリサーチを行ない発表、共有する。
3	対話応用3:12を踏まえて戯曲本読み。多人数での会話に必要なことを考察し実践する。
4	演技実践1:この週からは2つのクラスに分け、演出家からの指導と演技指導者からの指導をそれぞれ受ける。この回は本読みと戯曲分析を行なう。
5	演技実践2: 舞台上でのエネルギーのつくりかたについて、エクササイズを中心に行なう。
6	演技実践3:創作1。上演するシーンにふさわしいエネルギーについて考察し アイデアを試行する。
7	演技実践4:創作2。細かく区切ったシーン内での状況や関係性の変化について考察しアイデアを試行する。
8	演技実践5:創作3。前回に引き続き細かいシーン内での変化について実践し、変化を生み出す技術を習得する。
9	演技実践6:この回からクラスを交換して行なう。この回は舞台上のレイアウトについて演出的視点と俳優的視点から考察しアイデアを試行する。
10	演技実践7:創作4。シーンを長く続けて実践し、舞台上でのエネルギーの流れと変化について考察する。
11	演技実践8:創作5。セリフのないときのアクションとリアクションについて考察し実践する。
12	演技実践9:創作6。舞台演技に必要な「語りかける」ことと「訴える」ことに必要な技術を習得し、シーン内で試行する。
13	演技実践10:学年末試験リハーサル。チームごとのフィードバックを行なうことで課題を共有する。
14	学年末試験:後期使用テキストを用いて試験を行なう。また講師からフィードバックを行ない、成果と次年度への課題を共有する。
15	1年間のまとめ:ほかの学内公演の素材を試行することで、この授業で習得したことが実践できるかを試行し、今後の課題を明確にする。

科目名	アクティング４　［火3］						
代表教員	大倉　マヤ	授業コード	GE382000	科目コード	GE3820	期間	通年
担当教員	兵藤　公美、山田　宏平						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

3年次で学修したことを4年次ではさらに発展させる。
まずは、舞台上で観客に見せるに耐えうる「身体」と、観客に心に届く「ことば」を、身体制御訓練や、滑舌訓練等を通じて獲得する。
次に、演技を成立させる上で重要な「衝動の鮮度」（＝その瞬間にその演技が本当に必要で生まれたのか）と、「個性的で魅力的なキャラクター」（＝いつまでも観ていたいと思わせたり、観客の共感を呼ぶ人物造型）について、グループ創作や、戯曲の実演を通して学ぶ。

２．授業概要

４年次ということで、今後の進路を見据え、各人の目標、興味に沿った学びができるよう、常時複数のクラスを開講する。
・単発クラス：原則として９０分で完結するクラス。
・継続クラス：４回～８回を目処に１つの作品に集中して取り組む。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で学んだことは、各自反復練習し、身に付けること。授業内の発表でフィードバックを受けたことはそのままにせず、必ず時間の授業までに改善を目指すこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の４０％）
授業内でのパフォーマンス（評価の４０％）
試験でのパフォーマンス（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件は特になし。

動きやすく、授業にふさわしい服装。タオル、着替え等汗をかいた際のコンディショニングに必要なもの。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス：年間進行と今年度の到達目標について共有する。
2	演技訓練１：五感をしっかり使った演技とは？
3	演技訓練２：感覚の認知をクリアにする。
4	演技訓練３：解釈を加え、シーンを作りこむ。
5	演技訓練４：明確なヴィジョンを持った演技とは？
6	演技訓練５：刺激的なやり取りをどう作るか。
7	演技訓練６：リアクションの意識を持つ。
8	演技訓練７：役の状態を意識する。
9	演技訓練８：前の時間に何が起こったか？
10	演技実践１：シーンをつくってみる。
11	演技実践２：関係性を明確にする。
12	演技実践３：シーンの変化を意識する。
13	言葉と身体応用１：古典戯曲を用い、最終学年に相応しい強い言葉と身体を獲得する。
14	言葉と身体応用２：戯曲の理解を深める。
15	言葉と身体応用３：読み合わせと夏休みの課題説明

授業計画	
	［後期］
1	言葉と身体応用４：立ち稽古１　その場で起こっていることを意識する。
2	言葉と身体応用５：立ち稽古２　セリフの向かう方向を意識する。
3	言葉と身体応用６：立ち稽古３　状況に基づいた理由によってアクションする。
4	言葉と身体応用４：立ち稽古４　観客への見せ方を意識する
5	集団演技応用１：使用戯曲本読み。背景を理解する。
6	集団演技応用２：状況を整理し、舞台の空気を作り上げる。
7	集団演技応用３：作品にふさわしいテンポを獲得する。
8	集団演技応用４：他者との関係を整理し、演技に利用する。
9	集団演技応用５：目的と葛藤をハッキリさせる。
10	集団演技応用６：試験で上演する演目を決め、上演に向けて稽古をはじめる。
11	集団演技応用７：試験課題のブラッシュアップ。再現が難しいことを再現するとは？
12	集団演技応用８：試験課題のブラッシュアップ　個性的な演技、観客の心に残る演技とは？
13	集団演技応用９：試験課題のブラッシュアップ。自分だけではなく、共演者の良さを引き出す演技とは？
14	集団演技応用１０：試験課題のブラッシュアップ。　観客を劇世界に引き込むには？
15	発表（試験）とフィードバック

科目名	ヴォーカルミュージック１　[火3]						
代表教員	家田　淳	授業コード	GE382100	科目コード	GE3821	期間	通年
担当教員	篠原　真、砂田　恵美、三橋　千鶴、高野　直子、マリタ　ストライカー、松本　麻衣						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

発声法、発語法を正しく学び、より美しく響きのある音色と言葉の伝え方を研究すると共に、内外のミュージカルナンバーのソロを中心に勉強し、そのストーリーや時代背景、役柄など、いろいろな角度から解釈し、歌唱能力、表現力を高めることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ヴォーカル技法の習得、および実習を行う。
教科書及び各自で選択したソロのミュージカルナンバーを課題とし、基本的な発声法、発語法を習得する。前期は夏の音楽祭を目標に各自の歌の技量を高め、様々な表現方法の獲得を目指す。その舞台経験を生かし、年度末には授業時間内で各自ソロのミュージカルナンバーを発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲の内容、（作曲、作詞者名、作品名、役名、役のキャラクター、時代背景、等）歌唱するにあたって最低限の知識を習得しておくこと。参考資料の視聴等。
上記を踏まえ、注意されたことを会得できたかどうか毎回の歌唱で確認。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の３０％）
平常点（ただし最後の授業で評価に値する発表を行う）（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
参考文献：公演で使用する曲。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装はなるべく動きやすいものを着用すること。
その他、筆記用具、タオル、飲み物等を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	イントロダクション、１分歌唱パフォーマンス
2	１分歌唱パフォーマンス続き
3	１分歌唱パフォーマンス続き　（まとめ）
4	グループ１：ヴォーカルウォームアップとは？　何故なんのために行うか？ グループ２：　譜読みの基本
5	グループ１：　歌の呼吸 グループ２：　音楽性について
6	グループ１：　歌唱における身体 グループ２：　ヴォーカルウォームアップとは？　何故なんのために行うか？
7	グループ１：　譜読みの基本 グループ２：　楽曲を学ぶ：最初のステップ
8	グループ１：　楽曲を学ぶ：最初のステップ グループ２：　歌の呼吸
9	グループ１：　音楽性 グループ２：　歌唱における身体
10	グループ１：　英語ディクショん：母音 グループ２：　コンコーネ１
11	グループ１：　英語ディクション：子音 グループ２：　コンコーネ２
12	グループ１：　英語ディクション：IPA グループ２：　コンコーネ３
13	グループ１：　コンコーネ１ グループ２：　英語ディクション：母音
14	グループ１：　コンコーネ２ グループ２：　英語ディクション：子音
15	グループ１：　コンコーネ３ グループ２：　英語ディクション：IPA

授業計画	
	［後期］
1	発声の解剖学
2	声質
3	Belting（地声）と発声の健康
4	グループ１：テキスト分析（外国語での歌唱） グループ２：コンコーネ４
5	グループ１：背景、サブテキスト、表現の選択 グループ２：コンコーネ５
6	グループ１：パフォーマンスと自主性 グループ２：コンコーネ６
7	グループ１：コンコーネ４ グループ２：テキスト分析（外国語での歌唱）
8	グループ１：コンコーネ５ グループ２：背景、サブテキスト、表現の選択
9	グループ１：コンコーネ６ グループ２：パフォーマンスと自主性
10	グループ１：試験準備：歌（１−３０） グループ２：試験準備：コンコーネ（１−３０）
11	グループ１：試験準備：歌（３０−６０） グループ２：試験準備：コンコーネ（３０−６０）
12	グループ１：試験準備：歌（６０−９０） グループ２：試験準備：コンコーネ（６０−９０）
13	グループ１：試験準備：コンコーネ（１−３０） グループ２：試験準備：歌（１−３０）
14	グループ１：試験準備：コンコーネ（３０-60） グループ２：試験準備：歌（３０-60）
15	グループ１：試験準備：コンコーネ（６０−９０） グループ２：試験準備：歌（６０−９０）

科目名	ヴォーカルミュージック１　［金3］（DC専用）						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE3821A0	科目コード	GE3821	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスを踊る上でも呼吸はとても大切です。この授業では、呼吸法、「発声」のための身体の使い方、発語、歌唱を基礎から丁寧に学びます。
そして自分の声の可能性を広げると共に、身体表現の１つとして「声」による表現力を高めることを目標とします。

２．授業概要

全員での演習が基本です。
必要に応じ、グループに分かれてのアンサンブルや個別の指導も行います。
課題曲は学生からの希望も取り入れながら選定していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題を習得する上でも、発声の基礎トレーニングなどは毎日積み重ねることが大切です。また、課題曲の楽譜も読み込んで授業に備えてください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢などから総合的に判断します(100%)。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、必要に応じて資料を配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は自由。
声を出すことが中心となるので、飲み物など必要と思われるものは各自で準備してください。

授業計画	
	前期は、歌うための身体づくりや発声の基本を重視し取り組む。
1	ガイダンス 前期の内容の説明と個々の音域調査。
2	発声の基礎と身体の使い方1 ～力の抜き方～
3	発声の基礎と身体の使い方2 ～呼吸法（ブレス）と身体の連動～
4	発声課題における基礎トレーニング1 ～母音での歌唱～
5	発声課題における基礎トレーニング2 ～リズムヴァリエーション～
6	発声課題における基礎トレーニング3 ～跳躍音程の身体の使い方～
7	胸声発声（チェストボイス）への導入
8	胸声発声（チェストボイス）の歌唱のポイントと実習
9	胸声発声（チェストボイス）でのヴォーカルトレーニング1 ～課題の音取り～
10	胸声発声（チェストボイス）でのヴォーカルトレーニング2 ～演習～
11	胸声発声（チェストボイス）でのヴォーカルトレーニング3 ～仕上げ～
12	歌唱課題①のヴォーカルトレーニング1 ～課題の音取り～
13	歌唱課題①のヴォーカルトレーニング2 ～演習～
14	歌唱課題①のヴォーカルトレーニング3 ～仕上げ～
15	前期の復習と到達度の確認

授業計画	
	後期は前期で習得したことを更に掘り下げ、ダンスに通じるリズムトレーニングも取り入れながら声と歌唱を磨く。
1	ガイダンス 前期の復習と後期の内容説明
2	ボディパーカッション課題1 ～取り組みについて～
3	ボディパーカッション課題2 ～導入～
4	ボディパーカッション課題3 ～演習～
5	ボディパーカッション課題4 ～仕上げ～
6	喉・声帯のリラックスの習得
7	舌根のリラックスの習得
8	頭声（ファルセット）発声への導入
9	頭声（ファルセット）発声の演習
10	歌唱課題②のヴォーカルトレーニング1 ～課題の音取り～
11	歌唱課題②ヴォーカルトレーニング2 ～演習～
12	歌唱課題②のヴォーカルトレーニング3 ～個別歌唱指導～
13	歌唱課題②のヴォーカルトレーニング4 ～仕上げ～
14	後期の復習と成果発表
15	１年間の統括と到達度の確認

科目名	ヴォーカルミュージック２　[火4]						
代表教員	清水　菜穂子	授業コード	GE382200	科目コード	GE3822	期間	通年
担当教員	篠原　真、砂田　恵美、井上　友美、家田　淳、鶴田　愛、マリタ　ストライカー						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ブロードウェイやウェストエンド等における本場のミュージカル発声法、発語法を正しく学び、また日本語もより美しく響きのある音色と言葉の伝え方を研究すると共に、ステージ上での表現方法等を学ぶ。 これらを踏まえて、ミュージカルナンバーのソロを中心に、そのもとの作品のストーリーや時代背景、役柄など、いろいろな角度から解釈し、歌唱能力、表現力を高めることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ヴォーカル技法の習得、および実習を行う。
各課題に沿ったレクチャーや資料を基に、各自で選択したソロのミュージカルナンバーで、基本的な発声法・表現等を実践し習得する。また、前期はSummer Musical Showcase を目標に各自の歌の技量を高め、ソロだけでなくアンサンブル等も含めた様々な表現方法の獲得を目指す。
授業内では、レクチャーの内容や必要と思われることを書き留めるノート(日記)を各自用意する。授業内で気付いた必要と思われること〔発声や表現についての注意点。選択した作品の下調べ。役柄・曲の解釈。自己分析…等〕を書き記し、自分のレパートリーシートを作るための基礎となるものを作る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲の内容、（作曲、作詞者名、作品名、役名、役のキャラクター、時代背景、等）歌唱するにあたって最低限の知識を習得しておくこと。参考資料の視聴等。
授業内でメモするノート（日記）を読み返し、不足分を補えるようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の３０％）
平常点（評価の７０％）
ノート（日記）の内容を確認（基本的に評価点は加えないが、提出が無かったり、あまりにも希薄な内容だった場合は、平常点へのマイナス参考とする）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

練習曲としてコンコーネ50番中声用（全音版）を使用。　一年次に購入していない者は、予め各自で購入しておくこと。
その他の楽曲については、必要に応じて配布。
各自で用意する場合は事前に指導する＝参考文献：公演で使用する曲。
尚、授業で使用する個々のソロ曲の楽譜はそれぞれに名前を明記し、常に先生用とピアニスト用に２部携帯すること。
提出する場合は、ピアニスト用の１部を、必要とする授業の１週間前（又は指示された提出期限）までに必ず提出すること。先生用には自分が実習を受ける都度渡すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装はなるべく動きやすいものを着用すること。
その他、筆記用具、タオル、飲み物等を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス。 自己紹介を兼ねて、１～２分程度の曲を披露する（学籍番号順：前半）
2	自己紹介を兼ねて、１～２分程度の曲を披露する（学籍番号：中位）
3	自己紹介を兼ねて、１～２分程度の曲を披露する（学籍番号順：後半）
4	今回より担当教員により学生を学籍番号順にABCの３チーム［Ａ;学籍番号1～29番、Ｂ;学籍番号30～58番、Ｃ;学籍番号59～87番］に分け、それぞれ以下のレクチャーや実践を行う。このチームは３週を１クールとしてローテーションする。 【１巡目】 ・Aチーム：ミュージカルのステージにおける発声法と歌唱スタイルのレクチャーと実践 ・Bチーム：基礎発声及びコンコーネ50番（No.21～30）の練習 ・Cチーム：歌唱力アップのためのレクチャーと実践 尚、授業時には各自ノートを用意してもらい、レクチャーで受けた注意点や選曲に関して調べたこと、自身が受けた注意点や反省、他人のレッスン等で気付いたこと、自分に活かせることなどを、日記のように書き留める事を指示する(各チーム共通)
5	第４回からの内容の継続【1巡目】 ・Aチーム：自己タイプの分析とそれに基づくソングブック（レパートリーシート）作成の開始 ・Bチーム：基礎発声及びコンコーネ50番（No.21～30）の練習 ・Cチーム：歌唱力アップのための実践と指導(ソロ曲を中心に)
6	第4回のから内容の継続【1巡目】 ・Aチーム：楽曲のカットの仕方～短縮版を作る場合のカットの仕方を学ぶ ・Bチーム：基礎発声及びコンコーネ50番（No.21～30）の練習 ・Cチーム：歌唱力アップのための実践と指導(ソロ曲を中心に)
7	第4～6回の内容の【２巡目】 ・Bチーム：ミュージカルのステージにおける歌唱発声法とスタイルのレクチャーと実践 ・Cチーム：基礎発声及びコンコーネ50番（No.21～30）の練習 ・Aチーム：歌唱力アップのためのレクチャーと実践
8	第4～6回の内容の【２巡目】 ・Bチーム：自己タイプの分析とそれに基づくソングブック（レパートリーシート）作成の開始 ・Cチーム：基礎発声及びコンコーネ50番（No.21～30）の練習 ・Aチーム：歌唱力アップのための実践と指導(ソロ曲を中心に)
9	第4~6回の内容の【2巡目】 ・Bチーム：楽曲のカットの仕方～短縮版を作る場合のカットの仕方を学ぶ ・Cチーム：基礎発声及びコンコーネ50番（No.21～30）の練習 ・Aチーム：歌唱力アップのための実践と指導(ソロ曲を中心に)
10	第4～6回の内容の【3巡目】 ・Cチーム：ミュージカルのステージにおける歌唱発声法とスタイルのレクチャーと実践 ・Aチーム：基礎発声及びコンコーネ50番（No.21～30）の練習 ・Bチーム：歌唱力アップのためのレクチャーと実践 上記と並行して〈サマーショウケース〉パフォーマンス曲の実習
11	第4～6回の内容の【３巡目】 ・Cチーム：自己タイプの分析とそれに基づくソングブック（レパートリーシート）作成の開始 ・Aチーム：基礎発声及びコンコーネ50番（No.21～30）の練習 ・Bチーム：歌唱力アップのためのレクチャーと実践 上記と並行して〈サマーショウケース〉パフォーマンス曲の実習
12	第4~6回の内容の【３巡目】 ・Cチーム：楽曲のカットの仕方～短縮版を作る場合のカットの仕方を学ぶ ・Aチーム：基礎発声及びコンコーネ50番（No.21～30）の練習 ・Bチーム：歌唱力アップのための実践と指導 上記と並行して〈サマーショウケース〉パフォーマンス曲の実習
13	上記(第４～12回)で学んだ内容から各自ソロ曲を発表 及び〈サマーショウケース〉の実習 (ソロ曲の場合は各チーム毎、ショウケース曲の実習は曲によって分かれる)
14	上記(第４～12回)で学んだ内容から各自ソロ曲を発表 及び〈サマーショウケース〉の実習 (ソロ曲の場合は各チーム毎、ショウケース曲の場合は曲によって分かれる)
15	上記(第４～12回)で学んだ内容から各自ソロ曲を発表 (各チーム毎) ○夏期課題の提示：（予定内容）1930年代から2018年までのミュージカル作品を年代別（20年単位）に分け、指定された年代の中から各自が１作品を選び、作品についての調査と考察、また作品の中の１曲を選択して歌唱実習する

授業計画	
	［後期］
1	ミュージカル発声法の一つ" Belting"についての健康的な発声法のレクチャーと実践実習(合同授業)
2	この回より前期と同じくABCの３チームでソロ曲を実習。週替わりの短いローテーションで出来るだけ全員を視聴。 ・Aチーム：前期の内容を反映しつつ、自己選択曲（夏期課題も含める）を実習 〔解釈に於ける相違点を探ってみる〕 B、Cチーム：上記(A)ソロ曲の実習と並行してコンコーネ50番による声楽指導も行う
3	・Bチーム：前期の内容を反映しつつ、自己選択曲（夏期課題も含める）を実習 〔解釈に於ける相違点を探ってみる〕 ・C、Aチーム：上記(B)ソロ曲の実習と並行してコンコーネ50番による声楽指導も行う
4	・Cチーム：前期の内容を反映しつつ、自己選択曲（夏期課題も含める）を実習 〔解釈に於ける相違点を探ってみる〕 ・A、Bチーム：上記(C)ソロ曲の実習と並行してコンコーネ50番による声楽指導も行う
5	・Aチーム：〔空間の活用法〕レクチャーと自己選択曲（夏期課題も含める）で実習 ・B、Cチーム：ソロ曲の実習と並行してコンコーネ50番による声楽指導も行う
6	・Bチーム：〔空間の活用法〕レクチャーと自己選択曲（夏期課題も含める）で実習 ・C、Aチーム：ソロ曲の実習と並行してコンコーネ50番による声楽指導も行う
7	・Cチーム：〔空間の活用法〕レクチャーと自己選択曲（夏期課題も含める）で実習 ・A、Bチーム：ソロ曲の実習と並行してコンコーネ50番による声楽指導も行う
8	〔自身のレパートリーを考える〕 ・Aチーム： ノートにおける見直しと歌唱の際の具体的な動作・身ぶりなどを、目的・規則性を交えて実践 ・B、Cチーム：コンコーネ試験の為の指導及び第７回までの復習を兼ねて自己選択曲の指導
9	〔自身のレパートリーを考える〕 ・Bチーム： ノートにおける見直しと歌唱の際の具体的な動作・身ぶりなどを、目的・規則性を交えて実践 ・C、Aチーム：コンコーネ試験の為の指導及び第７回までの復習を兼ねて自己選択曲の指導
10	〔自身のレパートリーを考える〕 ・Cチーム： ノートにおける見直しと歌唱の際の具体的な動作・身ぶりなどを、目的・規則性を交えて実践 ・Ａ、Bチーム：コンコーネ試験の為の指導及び第７回までの復習を兼ねて自己選択曲の指導
11	〔レパートリーシートを作る〕 ・Ａチーム：レパートリーを考える～ 声や歌唱の質に基づいて考察。また、キャラクターの違う役を演じる場合についても考える ・Ｂ、Ｃチーム：コンコーネによる指導の継続と第８回以降で学んだことを加味しながら、学年末試験を念頭に置いた楽曲の歌唱実習 ※コンコーネ試験（ヴォーカルミュージック２内(第１４回頃)で実施予定）の詳細発表 ※学年末歌唱試験の詳細についてもこの時期に発表の予定
12	〔レパートリーシートを作る〕 ・Ｂチーム： レパートリーを考える～声や歌唱の質に基づいて考察。また、キャラクターの違う役を演じる場合についても考える ・Ｃ，Ａチーム：コンコーネによる指導の継続と第８回以降で学んだことを加味しながら、学年末試験を念頭に置いた楽曲の歌唱実習
13	〔レパートリーシートを作る〕 ・Ｃチーム： レパートリーを考える～声や歌唱の質に基づいて考察。また、キャラクターの違う役を演じる場合についても考える ・Ａ，Ｂチーム：コンコーネによる指導の継続と第８回以降で学んだことを加味しながら、学年末試験を念頭に置いた楽曲の歌唱実習
14	コンコーネ試験実施 ［範囲］コンコーネ50番の№.21～30の中から、指定された課題曲を、母音(死因＋母音も可)で暗譜で歌唱 ※人数的に1日での実施が難しい場合は、第13回か15回との2回に分けて実施する
15	各チーム、学年末試験を念頭に置いた楽曲の歌唱試演 年頭に指示したノート(日記)の提出

科目名	ヴォーカルミュージック２　［火3］（DC専用）						
代表教員	安士　百合野	授業コード	GE3822A0	科目コード	GE3822	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスにおいても歌唱においても、身体を使った「呼吸」のコントロールが大切です。
ひとりひとりが自分の声と向き合えるよう、歌唱の基礎から丁寧に学びます。
呼吸法・歌唱法を習得した上で、「声」を使った表現力を高めていきましょう。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて全員で演習をしていきます。
課題曲に対しては個別の指導も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業内容への理解をより深めるために、日々の予習復習と実技の反復練習を推奨します。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢50%、レポートや実技課題に対する評価50%の割合で、総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

扱うテーマに応じて教員より教材を配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は自由。
声を出すことが中心となるので、飲み物など必要と思われるものは各自で準備してください。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	発声の基礎１（呼吸と発声）
3	発声の基本２（滑舌と言葉）
4	課題曲・合唱１（導入）
5	課題曲・合唱２（演習）
6	課題曲・合唱３（仕上げ）
7	課題曲・童謡１（導入）
8	課題曲・童謡２（演習）
9	自由曲１（導入）
10	自由曲２（演習）
11	発声の演習１（チェストボイスの習得）
12	発声の演習２（チェストボイスを用いた歌唱）
13	歌唱課題①のヴォーカルトレーニング１ ～課題の音取り～
14	歌唱課題①のヴォーカルトレーニング２ ～演習～
15	前期の復習と到達度の確認

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	母音法による歌唱１（導入）
3	母音法による歌唱２（演習）
4	母音法による歌唱３（仕上げ）
5	演じて歌ってみよう１（導入）
6	演じて歌ってみよう２（演習）
7	演じて歌ってみよう３（仕上げ）
8	発声の応用１（ファルセットの習得）
9	発声の応用２（ファルセットを用いた歌唱）
10	歌唱課題②のヴォーカルトレーニング１ ～課題の音取り～
11	歌唱課題②ヴォーカルトレーニング２ ～演習～
12	歌唱課題②のヴォーカルトレーニング３ ～個別歌唱指導～
13	歌唱課題②のヴォーカルトレーニング４ ～仕上げ～
14	後期の復習と成果発表
15	１年間の統括と到達度の確認

科目名	ヴォーカルミュージック３　[火3]						
代表教員	青木　さおり	授業コード	GE382300	科目コード	GE3823	期間	通年
担当教員	清水　菜穂子、井上　友美、ｔｅｋｋａｎ、小林　瑶子、鶴田　愛						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各自の歌唱力、表現力を高めていく事を主軸とし、良い姿勢、良い呼吸から生まれる豊かな響きのある声を目指したクラシックの発声をベースとしながらも、現代のミュージカルシアターにおいて要求される多様なスタイルの歌唱法に対応していけるような声と身体の使い方を研究していく。
内外のミュージカルナンバーのソロ、デュエット、トリオなどに触れ、そのストーリーや時代背景、役柄などを踏まえた上で、それによりふさわしい歌唱、表現を模索する。

２．授業概要

授業計画に沿って、ヴォーカル技法の習得、および実習を行う。

1.コンコーネ歌唱：No.31以降の歌唱。クラシックベースの発声法の習得及び楽譜を正しく読み、より音楽性の高い表現へと繋げる。
2.課題曲歌唱：指定された課題曲の歌唱。それについてのフィードバック。なお課題曲は年代、スタイル、声種、役年齢などを考慮していくつか提示されるので、学生はより自己の資質にあったものを選択し取り組む。
3.自由曲歌唱：各自が選び提出したミュージカルナンバー（主にソロ曲）の歌唱。それについてのフィードバック。

前期は夏の音楽祭を目標に各自の歌の技量を高め、様々な表現方法の獲得を目指す。
後期は身に付けた歌の技量と前期の舞台経験を生かし、オーディションなどの場で力を発揮できるよう更に研鑽を積む。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲の背景となる作品の内容及びシーンを理解し、またその作品の作曲家、作詞家についても積極的に調べるなど、歌唱するにあたっての最低限の知識を習得しておくこと。参考資料の視聴等。
ヴォイストレーニングとヴォーカルミュージックを上手く連携させ、人前でしっかり歌唱できるようできるだけ早い暗譜を心がける。

上記を踏まえ、注意されたことを会得できたかどうか毎回の歌唱で確認。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の３０％）
平常点（ただし最後の授業で評価に値する発表を行う）（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
参考文献：公演で使用する曲。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装はなるべく動きやすいものを着用すること。
その他、筆記用具、タオル、飲み物等を各自用意すること。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、課題曲楽譜の配布と楽曲の説明 参考音源試聴
2	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.31歌唱 前期課題曲：音取り稽古（全員で）
3	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.32歌唱 前期課題曲：歌詞付きでの歌唱（全員で） 各自、暗譜歌唱する一曲を決定
4	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.33歌唱 前期課題曲：曲ごとに分かれ、少人数での指導
5	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.34歌唱 前期課題曲：曲ごとに分かれ、少人数での指導及び発表に向けピアノ伴奏での歌唱
6	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.35歌唱 前期課題曲:指定箇所をピアノ伴奏で一人ずつ暗譜歌唱
7	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.36歌唱 前期課題曲:指定箇所をピアノ伴奏で暗譜歌唱 講評 自由ソロ曲のエントリー
8	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.37歌唱 自由ソロ曲演習（姿勢）
9	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.38歌唱 夏の音楽祭・参加曲の実習：全体で確認 自由ソロ曲演習（呼吸）
10	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.39歌唱 夏の音楽祭・参加曲の実習:曲ごとに分かれ、コーラスパートなど確認 自由ソロ曲演習（リズム）
11	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.40歌唱 夏の音楽祭・参加曲の実習:ソロパートがあるもの、コーラスパートなど確認 自由ソロ曲演習（音程）
12	夏の音楽祭・参加曲の実習：特に動きがつくと崩れるところや問題が出てきた箇所を中心に確認 自由ソロ曲演習（歌唱スタイル）
13	夏の音楽祭・参加曲の実習：全体ナンバーの総復習 自由ソロ曲演習（表現）
14	夏の音楽祭・参加曲の実習：音楽祭前の調整音楽稽古
15	ソロ曲演習でやってきた曲の試演会

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス、後期課題曲楽譜（デュエットorトリオ）の配布 参考音源試聴
2	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.31,32復習 後期課題曲：全体で歌唱 各自、暗譜歌唱する一曲を決定
3	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.33,34復習 後期課題曲：曲毎に分かれ、稽古(音程、リズムを楽譜から正確に読み込む)
4	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.35,36復習 後期課題曲：曲毎に分かれ、稽古（楽譜に書かれているダイナミクスや楽語を見逃さずに曲の中身を捉えていく）
5	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.37,38 後期課題曲：曲毎に分かれ、稽古（ハーモニーをしっかり取れるように）
6	基本的な発声法、発語法の訓練：コンコーネNo.39,40復習 後期課題曲：曲毎に分かれ、稽古（歌詞と曲の内容をよく理解した表現を目指す）
7	後期課題曲：暗譜歌唱
8	後期課題曲：暗譜歌唱と講評 試験曲を想定した自由ソロ曲のエントリー
9	コンコーネ試験の課題曲歌唱（番号未定） 自由ソロ曲をピアノ伴奏で歌う（姿勢と呼吸）
10	コンコーネ試験の課題曲歌唱（番号未定） 自由ソロ曲をピアノ伴奏で歌う（音程とリズム）
11	コンコーネ試験の課題曲歌唱（番号未定） 自由ソロ曲をピアノ伴奏で歌う　（発語、言葉の表現）
12	自由ソロ曲をピアノ伴奏で歌う(歌唱スタイル)
13	自由ソロ曲をピアノ伴奏で歌う（伝わるということ）
14	コンコーネ試験：前期から取り組んできたコンコーネNo.31～40の中から指定の一曲を発表
15	後期課題曲暗譜歌唱及びコンコーネ試験予備日 試演会

科目名	ヴォーカルミュージック４　[火4]						
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	GE382400	科目コード	GE3824	期間	通年
担当教員	青木　さおり、高野　直子、ｔｅｋｋａｎ、小林　瑶子、松本　麻衣						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

発声法、発語法を正しく学び、より美しく響きのある音色と言葉の伝え方を研究すると共に、内外のミュージカルナンバーのソロを中心に勉強し、そのストーリーや時代背景、役柄など、いろいろな角度から解釈し、歌唱能力、表現力を高めることを目指す。

２．授業概要

4年間の集大成として前期はアメリカミュージカル界に影響を与えた作曲家の作品を選択し、授業計画に沿って、ヴォーカル技法の習得、および実習、発表を行う。(ガーシュイン、バーンスタイン、ソンドハイム、JRBなど)
テキスト及び各自で選択したソロのミュージカルナンバーを課題とし、基本的な発声法、発語法を習得する。
選択科目ということを意識し、より高度な表現方法の獲得を目指す。
年度末には授業時間内で各自ソロのミュージカルナンバーを発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

曲の内容、（作曲、作詞者名、作品名、役名、役のキャラクター、時代背景、等）歌唱するにあたって最低限の知識を習得しておくこと。参考資料の視聴等。
上記を踏まえ、注意されたことを会得できたかどうか毎回の歌唱で確認。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）
前期、後期の最後の授業で評価に値する発表とそれに関するレポートの提出（評価の７０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。自由曲歌唱の場合は学生各自がピアニスト分の楽譜を用意する。
参考文献：公演で使用する曲。(ミュージカルコース所蔵楽譜]、図書館内hal leonald社cd付き楽譜等)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

使用楽曲の楽譜は事前にピアニストに提出すること。当日提出厳禁。
クラス分けについてはその都度指示する。
服装はなるべく動きやすいものを着用すること。
その他、筆記用具、タオル、飲み物等を各自用意すること。
必要に応じて履物持参のこと。
遅刻厳禁のこと。

授業計画	
	［前期］ 4年目を考え、その学年に足りない部分の補てんとなるようなウオーミングアップとアメリカミュージカル界に影響を与えた作曲家の楽曲の知識と歌唱指導
1	ガイダンス。 アメリカミュージカル界に影響を与えた作曲家の作品の鑑賞。（ソンドハイム、バーンスタイン、ガーシュイン、JRB,コール・ポーター、その他） 他人の歌唱、自分の歌唱で注意点や気づいたことをメモするノートを各自で作成する。
2	バーンスタインの男声用アンサンブル曲、女声用デュエット曲の英語歌唱
3	公開レッスン形式による前回のアンサンブル曲を一組ずつ歌唱
4	アンサンブル、デュエット曲の発表
5	アンサンブル、デュエット曲の発表の続きおよび講評
6	アメリカのミュージカル界に影響を与えた作曲家の作品のレポート提出及びその作品のソロ曲を公開レッスン形式で歌唱。
7	アメリカのミュージカル界に影響を与えた作曲家の作品のレポート提出及びその作品のソロ曲を公開レッスン形式で歌唱。後半
8	指導者を交代して歌唱　前半
9	指導者を交代して歌唱　後半
10	ソロ曲の発表　前半
11	ソロ曲の発表　後半
12	発表曲の講評および次の課題曲の歌唱
13	課題曲の続き並びにサマーショウケースのアンサンブル曲の歌唱と講評
14	前回の続きの歌唱およびサマーショウケースアンサンブル、ソロ曲の歌唱
15	発表の講評および後期ガイダンス 夏休みの課題

授業計画	
	［後期］ シニアミュージカルショウケースにむけてのサジェスチョン及び卒業試験にむけた楽曲指導。
1	4年次で関わる公演及び卒業試験で使用する楽曲の研究 夏の課題提出と発表に向けてのプレゼンテーション
2	夏課題発表
3	夏課題発表の続きと講評
4	シニア、卒試をみこした楽曲の歌唱及び講評
5	シニア、卒試を見越した楽曲歌唱の講評続き
6	指導者を交代して歌唱および講評　前半
7	指導者を交代して歌唱および講評　後半
8	自由曲の発表
9	自由曲発表の続きと講評
10	シニアミュージカルショウケースに向けたアンサンブル曲の歌唱 正しい音程、和声の響き
11	シニアミュージカルショウケースに向けたアンサンブル曲の歌唱 楽曲構成について
12	シニアミュージカルショウケースに向けたソロ曲の歌唱 曲想について
13	シニアミュージカルショウケースに向けての歌唱 踊りながら歌う技術　ブレスを支える位置について
14	シニアミュージカルショウケースに向けての歌唱 聴き手に伝わる日本語の歌唱法、アーティキュレーション
15	卒試候補曲の試聴会とまとめ（時間延長の可能性あり）

科目名	卒業研究　［火6］［音楽・音響デザイン］						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GE4890B0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽・音響デザインコース在籍中に制作された楽曲をまとめ上げ４年間を総括する。これまで学んだスキルを活用し、卒業後において活用できるデジタルポートフォリオの制作を目標とする。

２．授業概要

卒業研究で制作するデジタルポートフォリオは、iOS又はMacOSのiBooksでの再生を念頭に置き、MacOS フリーアプリケーション iBooks Author を使用する。最初に各自のテーマ、インターフェイスを設定し、前期はその材料となる音や映像の収集及び制作に集中する。後期は文字情報を整理し、各自のインターフェイスに沿ったレイアウトを構築する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

データの管理には細心の注意が必要であり、各自の責任で管理すること。また、各アプリケーションの操作は各自予習しておくこと。ファイル変換等は、事前に処理しておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

作品（ポートフォリオ）のクオリティ、コンテンツの工夫、アイディアなどが総合評価される。(評価の50%)
授業への取り組み（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

＜参考文献＞
iBooks Authorレッスンノート 単行本（ソフトカバー）
林 拓也（著）　（現在中古のみ）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修に際して、以下の項目すべてに該当するか検討すること。

＊卒業制作の内容を主体的に取り組む意思のある学生。
＊作品を公開する意思のある学生。（音デ関連イベントでの公開等）

進捗が良くない場合（前期）、あるいは作品が完成しない場合は単位を付与できないので十分注意すること。
履修者が多数の場合は履修制限することがある。
その他、MacBookやiPadなど各自持参できることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 各自テーマを設定し、企画書、計画書を作成。その後、音や映像の編集、ファイルフォーマットの調整をする。
1	卒業研究のコンセプト等の説明
2	各自テーマを設定
3	企画書の作成
4	企画書のチェックと調整
5	企画書の完成
6	計画書の作成
7	計画書のチェックと調整
8	計画書の完成
9	静止画コンテンツ素材の制作（写真データの整理）
10	静止画コンテンツ素材の制作（データの加工）
11	動画コンテンツ　素材の編集
12	動画コンテンツ素材の完成
13	各映像系ファイルフォーマットの確認と調整
14	音声系ファイルフォーマットの確認と調整
15	前期中間報告発表

授業計画	
	［後期］ 文字情報を整理し、レイアウトなどを経て完成発表を目指す。
1	iBooks Author について
2	テキストデータの制作
3	テキストデータの校正
4	外部Webサイトのリンクなど埋め込み情報の整理
5	イラストなど追加コンテンツの制作（Illustrator）
6	特殊文字データの制作（Illustrator）
7	コンテンツ素材の組み上（iBooks Authorで基本レイアウト）
8	コンテンツ素材の組み上（詳細設定）
9	iBooks Authorでの動作チェック
10	iBooksファイルの仮出力と動作チェック
11	プレビュー用PDFとiBooksファイルの出力作業
12	作品発表会（前半）
13	作品発表会（後半）と総評
14	作品の修正作業
15	iBooksファイルの完成とアーカイブ

科目名	卒業研究［木2］［ピアノ］						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GE4890C0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノに関連する事柄への理解を深めるとともに、音楽について自らの考えを言葉で表現できるようになることを目標とする。そのことによって、音楽性・技術・知識など、大学生活を通じて研鑽を積んだ成果の集約を目指す。

２．授業概要

ピアノに関連する事柄について、多角的に考察する。また、自らが演奏する曲目について、授業内で発表し、その後レポートにまとめる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う作品等について、主体的に文献を調べ、音源を聴くこと。
予習・復習で１時間程度。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（30%）、授業内での口頭発表（30%）、レポート（40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で適宜紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	上記授業概要参照
1	ガイダンス
2	ピアノの歴史１：ピアノの誕生
3	ピアノの歴史２：18世紀
4	ピアノの歴史３：19世紀
5	ピアノの歴史４：20世紀
6	奏法研究１：18世紀
7	奏法研究２：19世紀
8	奏法研究３：20世紀
9	奏法研究４：21世紀
10	ピアノをめぐる文化史１：編曲作品
11	ピアノをめぐる文化史２：ヴィルトゥオーソの人気
12	ピアノをめぐる文化史３：女性とピアノ
13	ピアノをめぐる文化史４：日本のピアノ産業
14	資料の調べ方
15	楽曲解説の書き方

授業計画	
1	楽曲解説：講評
2	楽譜について１：出版のプロセス
3	楽譜について２：作品全集
4	楽譜について３：バッハの場合
5	楽譜について４：ショパンの場合
6	作品分析１：モーツァルト
7	作品分析２：ベートーヴェン
8	履修者による発表１：バッハ
9	履修者による発表２：ハイドン
10	履修者による発表３：シューマン
11	履修者による発表４：リスト
12	履修者による発表５：ドビュッシー
13	履修者による発表６：ラフマニノフ
14	レポートの書き方
15	まとめ

科目名	卒業研究　［電子オルガン］						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	GE4890D0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

卒業試験を、演奏面だけでなく学術面も研究して、学部4年間の研鑽の集大成とする。卒業試験の全体のプログラムついてのコンセプト、個々の演奏楽曲ついての作品研究と音楽語法の分析（自作である場合も含め）、演奏表現の意図等を明確に文章化することに取り組む。3年生は、電子オルガンの可能性を探る作品を選び、演奏並びに研究発表を行なえることを目標とする。

２．授業概要

卒業試験のプログラミングおよび演奏楽曲について、副論文的レポートを作成。
学会でのポスターセッションなどへの参加なども目標とする。3年生、4年生ともに、研究作品と研究レポートを作成し、学会に於ける演奏研究会に参加をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

卒業試験のプログラミングにあたっては、レッスン担当教員とよく相談し、明確な意図と目標設定をもったものにまで練ること。プログラム決定後は演奏楽曲について、さまざまな録音や文献にあたって調べ、主体的に研究を進めていくこと。

４．成績評価の方法及び基準

レポート作成への取り組み姿勢、レポートの完成度、およびレポートの内容と実際の演奏との整合性を主な判断基準として評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

演奏楽曲に関する種々の資料。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

4年間の大学生活の最後になる卒業試験に於いて演奏する楽曲を、演奏のみならず、作品としての魅力を研究することにより、一層、説得力の演奏を目指してほしい。

授業計画	
	レポート執筆に必要な知識を学び、レポートの概要を固める。学会での発表を目標に、研究を進める。
1	前期ガイダンス
2	参考資料の分析①（演奏がテーマになっているものA）基本
3	参考資料の分析②（演奏がテーマになっているものB）応用
4	参考資料の分析③（演奏がテーマになっているものC）発展
5	参考資料の分析④（楽器編成がテーマになっているものA）基本
6	参考資料の分析⑤（楽器編成がテーマになっているものB）応用
7	参考資料の分析⑥（電子オルガンの社会化がテーマになっているものA）基本
8	参考資料の分析⑦（電子オルガンの社会化がテーマになっているものB）応用
9	研究計画の立案
10	具体的な研究方法について
11	ポスターセッションの内容検証
12	ポスターセッションの資料作成並びにチェック
13	演奏法研究資料とディスカッション
14	演奏法研究の発表のための準備とリハーサル
15	前期のまとめ、学会発表のリハーサル

授業計画	
	学会での演奏法研究の発表並びにポスターセッション発表、その後、研究論文の作成。
1	後期ガイダンス
2	学会発表から学んだこと、今後の論文作成に向けて
3	序論について、作成と個別指導
4	本論について、作成と個別指導
5	本論の展開について説明
6	本論に展開について作成と個別指導
7	本論のまとめについての作成と個別指導
8	結論についての作成と個別指導
9	仮発表と見直し
10	結論についてディスカッションする
11	研究資料、参考文献などの確認
12	論文発表リハーサルとディスカッション（テーマ別）①個別指導　前半
13	論文発表リハーサルとディスカッション（テーマ別）②個別指導　後半
14	論文仕上げ
15	論文提出と発表、総括

科目名	卒業研究　［管楽器］						
代表教員	池上　政人	授業コード	GE4890E0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	WI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

4年間、管楽器コースで学んだ学生が、自己の研鑽の集大成として、「演奏」または「論文」と云う形で成果発表する。その過程において、履修者は4年間の研鑽をふり返り、改めて自己と向き合う事によって、今後の更なる自己啓発の一助とされたい。

２．授業概要

後期の時点で、「演奏」か「論文」か決定しているのが望ましい。
◆「演奏」を選択した者
①演奏時間は15分～20分（複数曲可　卒業実技試験の曲と重複は不可）②当該年度内で、卒業実技試験以前に実行する事とする。③履修者は、演奏会場、審査員（最低2名）の確保を授業担当教員と相談の上、自ら手配、確保する。④履修者は「卒業研究」の演奏のための「プログラム」（任意）を作成する。⑤演奏審査実施は2020年1月31日までに実施する。
◆「論文」を選択した者
①400字原稿20枚（8000字）以上（PC可）②テーマ卒業実技試験で演奏する曲について（作品・作曲家・時代背景等を盛り込む）
③提出期限 2019年12月20日（金）正午 提出方法はポータルより提出とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏及び論文に関しては実技担当教員から適切なアドバイスを受けること。

４．成績評価の方法及び基準

◆「演奏」を選択した者
単位認定の審査員（本学教員）は2名以上とする。審査員の選定については履修者が担当教員と相談の上担当教員が認定する。
◆「論文」を選択した者
「論文審査」は実技担当教員を含む2名以上の教員が必要。審査員の選定については履修者が担当教員と相談の上担当教員が認定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則的に、履修時に選択した「演奏」「論文」の途中変更は不可とする。
前期、後期に複数回、諸説明、打ち合わせの為集合（18時以降）するので、協力を請う。

授業計画	
1	ガイダンス
2	研究主題の設定
3	演奏テーマ及び研究テーマの決定
4	演奏状況の確認
5	研究練習曲１－１　楽曲の概要を知る
6	研究練習曲１－２　楽曲の様式を理解し構造への理解を深める
7	研究練習曲１－３　楽曲の特性から導かれる表現への理解
8	研究練習曲１－４　楽曲に即した表現、かつ研究主題の視点からの表現
9	研究練習曲１－５　試演による課題の抽出
10	研究練習曲１－６　再試演による理解度習熟度の確認
11	前期課題曲１　概要・様式・構造を理解する
12	前期課題曲２　楽曲の特性から導かれる表現への理解
13	前期課題曲３　楽曲に即した表現、かつ研究主題の視点からの表現
14	前期課題曲４　試演による課題の抽出
15	前期課題曲５　再試演による理解度習熟度の確認

授業計画	
	9月中に審査についての申し送り、打ち合わせを実施する。
1	研究、及び演奏における進捗確認
2	演奏と研究テーマの整合性の確認
3	レポート試筆１　卒業試験楽曲の概要・様式について
4	レポート試筆２　研究主題への理解、言及について
5	研究練習曲２－１　概要・様式・構造を理解する
6	研究練習曲２－２　楽曲の特性から導かれる表現への理解
7	研究練習曲２－３　楽曲に即した表現、かつ研究主題の視点からの表現
8	研究練習曲２－４　試演による課題の抽出
9	研究練習曲２－５再試演による理解度習熟度の確認
10	卒業研究曲１　楽曲の構造・構成を踏まえた全体的な音楽的アプローチの構築
11	卒業研究曲２　楽曲構造に基づく自己発現表現への踏み込み
12	卒業研究曲３　研究主題を踏まえた全体構造と均整化
13	卒業研究曲４　試演による課題の抽出
14	卒業研究曲５　再試演による理解度習熟度の確認
15	演奏内容と研究内容の最終確認

科目名	卒業研究　［弦楽器］						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	GE4890F0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	SI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

レッスン・オーケストラ・室内楽等で学んできた４年間の集大成としてのCDを制作する。
アルバム制作に関わることについて学び、知識を得た上で録音にとりかかり、著作権等についても学ぶ。
各自　テーマを決めて演奏だけでなく、１枚のCDとしてライナーノート、ジャケットを含め完成させる。

２．授業概要

前期はアルバム制作に関わることについての講義中心。
学生は必ずしも演奏だけでなく、１枚のCDを作るためのどの分野において参加することも可能で、何等かの役割を担うことによって単位を取得できるものとする。
後期は録音の実践。
ソロ、室内楽等、各自テーマを決めて担当教員と相談の上進めること。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自が準備すること

４．成績評価の方法及び基準

音源だけでなく、全体の仕上がりを100点満点で評価し、その結果により成績が評価されます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて担当教員が指示。
楽譜は各自が用意。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のガイダンスには必ず出席すること。

授業計画	
	［前期］ 音楽・音響デザインコースの前田康徳教授による講義を中心にレコーディングの歴史、成り立ちなどを学ぶ。 CD、レコードの歴史、内容について学ぶ。
1	卒業研究ガイダンス
2	CD制作についての概要・スケジュール設定
3	レコーディングの歴史について
4	演奏者として知っておくべき録音の知識(基礎編)
5	演奏者と知っておくべき録音の知識(応用編)
6	著作権について(基礎)
7	著作権について(応用)
8	企画書の作成
9	ライナートの書き方、ジャケットの作成について学ぶ(写真撮影・デザイン・帯のキャッチコピーなどを含む)
10	計画書作成(演奏グループの設定)
11	スタジオの見学をし、簡易録音による試演
12	視聴会(自分たちの演奏についてよく聴いて反省をする)
13	視聴会(市販されているCDをよく聴き、自分たちの演奏と比べる)
14	簡易録音による試演
15	CD制作の構成を考える

授業計画	
	［後期］ 録音された演奏を聴きながら録音後のサウンドイメージを構築
1	後期制作スケジュールの確認
2	各グループによる曲目など担当教員と打ち合わせ
3	録音の楽曲について著作権などの確認、歴史を知る
4	レコーディング前の試演会　前半(A.Bグループ)
5	レコーディング前の試演会　後半(C.DＥグループ)
6	レコーディング(ソロ)　バイオリンとピアノ
7	レコーディング(ソロ)　チェロとピアノ、その他の楽器
8	レコーディング(室内楽)　前半(グループI)
9	レコーディング(室内楽)　後半(グループII)
10	レコーディング(合奏)　前半(グループI、II)
11	レコーディング(合奏)　後半(グループⅢ)
12	ライナートの制作
13	ジャケットの制作
14	音源チェックとレポート準備
15	視聴会、及び反省　卒業後、将来へむけての計画

科目名	卒業研究　［打楽器］						
代表教員	山澤　洋之	授業コード	GE4890G0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員	神谷　百子						
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	PI	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

大学で学んだ成果を発表する場である卒業試験の演奏楽曲に対し、学術的研究・音楽理論分野のより高度な追及をする知識・能力を養い、自身の演奏や楽曲について説明できるようになる。

２．授業概要

主にレッスンを通じて楽曲の研究を行い、主担当教員からの奏法研究・楽曲研究の指導を受ける。演奏技能だけではなく、知識・理解にも踏み込む。また卒業試験の演奏楽曲に関するレポートを執筆し、実技試験後にレポート内容に関し打楽器教員より口頭試問を行う。レポートの規定・締切等は、５月上旬に発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

打楽器奏法研究の際に演奏技術だけではなく、普段より理論的内容を研究しておく事が望ましい。
卒業試験曲だけではなく、関連した項目に関しての演奏・理論研究を含めて普段の練習の他にレッスン毎に120分程度の練習・研究を想定上必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レポート内容、および打楽器科教員による口頭試問（100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

卒業試験楽曲の楽譜。および、その楽曲に関する資料。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	研究主題の設定
3	演奏テーマ及び研究テーマの決定
4	演奏状況の確認
5	研究練習曲１－１　楽曲の概要を知る
6	研究練習曲１－２　楽曲の様式を理解し構造への理解を深める
7	研究練習曲１－３　楽曲の特性から導かれる表現への理解
8	研究練習曲１－４　楽曲に即した表現、かつ研究主題の視点からの表現
9	研究練習曲１－５　試演による課題の抽出
10	研究練習曲１－６　再試演による理解度習熟度の確認
11	前期課題曲１　概要・様式・構造を理解する
12	前期課題曲２　楽曲の特性から導かれる表現への理解
13	前期課題曲３　楽曲に即した表現、かつ研究主題の視点からの表現
14	前期課題曲４　試演による課題の抽出
15	前期課題曲５　再試演による理解度習熟度の確認

授業計画	
	［後期］
1	研究、及び演奏における進捗確認
2	演奏と研究テーマの整合性の確認
3	レポート試筆１　卒業試験楽曲の概要・様式について
4	レポート試筆２　研究主題への理解、言及について
5	研究練習曲２－１　概要・様式・構造を理解する
6	研究練習曲２－２　楽曲の特性から導かれる表現への理解
7	研究練習曲２－３　楽曲に即した表現、かつ研究主題の視点からの表現
8	研究練習曲２－４　試演による課題の抽出
9	研究練習曲２－５再試演による理解度習熟度の確認
10	卒業研究曲１　楽曲の構造・構成を踏まえた全体的な音楽的アプローチの構築
11	卒業研究曲２　楽曲構造に基づく自己発現表現への踏み込み。
12	卒業研究曲３　研究主題を踏まえた全体構造と均整化
13	卒業研究曲４　試演による課題の抽出
14	卒業研究曲５　再試演による理解度習熟度の確認
15	演奏内容と研究内容の最終確認

科目名	卒業研究［木3］［ジャズ］						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GE4890H0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員	鹿内　耀一						
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	なし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽器やヴォーカル技術の習得だけではなく、自らの音楽を総合的に表現し、制作することができるようになること。

２．授業概要

“音楽を創り、表現し制作することのできる学生を育てる”という理念に基づき、これを目標として課される最終プロジェクトです。ライブイベントかレコーディングのいずれかを選択し、録音はジャズの学生同士で行います。その際に必要な基本的なレコーディングのノウハウは、前期の授業で学びます。音楽制作は、音楽を演奏するミュージシャンだけでなく、企画する人、録音する人の協力があって始めて成り立ちます。ですので、この卒業研究で、録音の側で何が起こっているのかを学ぶことは貴重な体験になります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽制作には、共演するミュージシャン、録音する人などとのコミュニケーションが必要です。色々な人の意見に対してオープンな気持ちになり、尚且つ、自分の主張を確かに持つというのは簡単なことではありませんが、どのミュージックビジネスでも、また音楽以外のどの仕事においても大切です。授業時間外にこのような人とのコミュニケーションが必要なことを念頭に入れ、担当教員のアドバイスも仰ぎながらプロジェクトを進めてください

４．成績評価の方法及び基準

レポート、音源等をそれぞれ別個に１００点満点で評価し、その結果に基づき成績が評価されます。各提出期限が守られない場合は原則単位修得不可となります。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて、別途指示します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

卒業研究は、学生の皆さんが“自分で音楽を創る”キャリアの第一歩と言えます。授業の中では表現しきれなかった皆さんの個性とアイデアをふんだんに使って、夢のある作品創りをするよう希望します。

以下の日程て行われる7回の授業（木曜日3限）、また9月に行われるガイダンスに出席することを履修の条件とします。
4月25日
5月9日、5月16日、5月23日、5月30日
6月6日、6月13日

授業計画	
	担当教員の指導のもとに、各自が主体的かつ計画的に制作に取り組む。
1	卒業研究ガイダンス
2	ガイダンスⅠ「レコーディング」
3	ガイダンスⅡ「ライブイベント」
4	企画書作成
5	担当教員との打ち合わせ（１）
6	企画書の修正
7	演奏（制作）グループの設定
8	計画書作成
9	レコーディング：ベーシックなzoom本体の取り扱い方法
10	レコーディング：マイク、DI、の接続方法（マイキングを含む）
11	レコーディング：モニターの方法（モニターミックス）
12	レコーディング：チャンネルストリップについて
13	レコーディング：センドエフェクト、ミックスダウン
14	レコーディング：コンピューターとの連携（DAWのオーディオインタフェースとして使用）
15	レコーディング：録音したパラデータをDAWにロード、マスタリング

授業計画	
1	後期制作スケジュールの確認
2	プログラム決定
3	作品の制作、編曲ー基本
4	作品の制作、編曲ー応用
5	担当教員との打ち合わせー楽曲のチェック
6	作品の制作、編曲、修正
7	コンサート／レコーディングの準備１（スケジュール調整）
8	コンサート／レコーディングの準備２（会場選定）
9	コンサート／レコーディングの準備（スタッフ打ち合わせ）
10	教員との打ち合わせーレコーディング手順のチェック
11	コンサート／レコーディングの準備（最終調整）
12	レコーディング／ライブイベント実施
13	提出音源、映像、レポート準備
14	担当教員との打ち合わせー提出物修正
15	提出音源、映像、レポート完成

科目名	卒業研究　［現代邦楽］						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	GE4890J0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	ＧＨ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代邦楽コースでの４年間の総括を行い、卒業後に社会で活躍するための基盤を形成する。
参考までに、当コースのディプロマ・ポリシーのを掲げておく。
（１）自らの専門分野である邦楽及び邦楽器に関する専門的知識や技能を用いて、独創的な発想や思考を適切に表現することができる。
・古典、現代邦楽、現代作品など、広範な様式に関心を持ち、それぞれに相応しい演奏表現を修得している。
・独奏の技術と音楽性を高めると共に、アンサンブルにおいて、協調性を発揮することができる。
・日本の文化における邦楽及び邦楽器の存在意義を認識し、その魅力を国内はもとより世界に発信する気概を身に付けている。
（２）社会への開かれた関心と態度を身に付け、その多様性を理解し、共感する
ことができる。
（３）自らとは異なる意見・価値観・感性・文化を持つ他者と協働することができる。
（４）自らの専門分野である音楽を通して、社会に貢献しようとする実践的態度を身に付けている。
（５）論理的思考力に基づき、自ら問題を発見し解決することができる。

２．授業概要

現代邦楽コースは少人数体制で運営しているので、実質的に一人一人の個別指導方式になる。指導教員と連絡を綿密の取りながら、各自が研究を進めて行く。最終的に「卒業研究レポート」を作成して提出する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

研究テーマの策定、邦楽や邦楽器に関する調査・研究、課題克服のための練習等、様々な面での自主的な活動が強く望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

指導教員の総合的判断により成績評価を行う。総合的判断の基本線は下記の通り。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により、各自準備する。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

卒業に向けての最終研究という性質を持つ科目なので、卒業見込みがしっかりしている学生の履修が優先される。積極的な姿勢で履修されたい。

授業計画	
	実際には個別指導（個人レッスン形式）による随時開講方式を採用するが、半期15回授業を想定する場合は概ね下記のような進行となる。
1	ガイダンス（在学中の今までの自分を振り返る）
2	1年次の学修成果の検証
3	２年次の学修成果の検証
4	3年次の学修成果の検証
5	4年次（最終学年）の研究行動計画を考える
6	4年次（最終学年）の研究行動計画を策定する
7	研究行動計画を基に最終レポートのテーマを検討する。
8	最終レポートの研究テーマを決定する。
9	専攻楽器についてのリサーチ
10	専攻楽器についての再認識の形成
11	専攻楽器が活躍する分野についてのリサーチ（古典領域）
12	専攻楽器が活躍する分野のリサーチ（近代分野）
13	専攻楽器が活躍する分野のリサーチ（現代分野）
14	夏期休業中の研究計画の検討
15	夏期休業中の研究計画の策定

授業計画	
	実際には個別指導（個人レッスン形式）による随時開講方式を採用するが、半期15回授業を想定する場合は概ね下記のような進行となる。
1	夏期休業中の研究の報告
2	夏期休業中の研究の検証
3	最終レポートの研究テーマの最終確認
4	最終レポートの段落構成の検討
5	最終レポートの段落構成の仮決定
6	最終レポート序盤の執筆の進行
7	最終レポート序盤の確認
8	最終レポート中盤の執筆の進行
9	最終レポート中盤の確認
10	最終レポート終盤の執筆の進行
11	最終レポート終盤の確認
12	最終レポート全体の検証
13	最終レポートのブラッシュアップ
14	最終レポート完成版の確認
15	総括

科目名	卒業研究　［ロック＆ポップス］						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE4890K0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員	川村　ケン						
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

４年間で学んだ音楽制作技術を活かし、「フルアルバム制作」「PV制作」「ソロライヴ制作」の内から１つのプロジェクトを選択し、企画・制作を行う。
プロフェッショナルを目指す以上、自己満足に終わらない「商品になる」作品制作を目指す。
４月中に企画書を作成して提出。その後は各プロジェクト毎に担当プロデューサーの指示に従い制作作業に入る。
９月中に「経過報告書」を提出すること。
最終提出
・「フルアルバム制作」「PV制作」に関しては、年度末までに実施報告書を添えて作品提出を行う。
・「ソロライヴ制作」に関しては、年度末までに実施（学内、学外を問わない）し、担当プロデューサー以外に最低２名のR&P講師が評価のため観覧できるスケジュールを確保すること。

２．授業概要

各プロジェクト毎に担当講師がプロデューサーとして参加する。
プロジェクトは個人でもグループでも履修可能であるが、グループの場合は最後まで協力し合って作品制作に臨むこと。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

どのプロジェクトも多くの時間とエネルギーが必要となるため、決して人まかせにせず、積極的に取り組むこと。

４．成績評価の方法及び基準

作品自体のクオリティー（評価の７０％）
企画書及び経過報告書の内容に沿った作品であるか（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当プロデューサーが必要に応じて用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

４年次の学生であること。プロジェクトグループに１～３年次の学生が参加していてもかまわないが、１～３年次の学生は単位を取得できない。

授業計画	
1	卒業研究ガイダンス
2	企画書作成
3	プリプロダクション
4	選曲
5	M1,M2アレンジ（基本）
6	M3,M4アレンジ（応用）
7	M5,M6アレンジ（発展）
8	M7,M8アレンジ（確認）
9	M1,M2リズムRec（基本）
10	M3,M4リズムRec（応用）
11	M5,M6リズムRec（発展）
12	M7,M8リズムRec（確認）
13	M1,M2ダビング（基本）
14	M3,M4ダビング（応用）
15	M5,M6ダビング（発展）

授業計画	
1	M7,M8ダビング（確認）
2	M1,M2Vo Rec（基本）
3	M3,M4Vo Rec（応用）
4	M5,M6Vo Rec（発展）
5	M7,M8Vo Rec（確認）
6	M1,M2トラックダウン（基本）
7	M3,M4トラックダウン（応用）
8	M5,M6トラックダウン（発展）
9	M7,M8トラックダウン（確認）
10	マスタリング
11	ジャケットデザイン（表紙）
12	ジャケットデザイン（内面）
13	エラーチェック
14	パッケージ制作
15	作品提出

科目名	卒業研究　［声楽］						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	GE4890L0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	V0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

卒業試験で演奏する曲目に関しての研究とレポートの作成。作曲家、作詞家、台本、時代背景、音楽上の留意点、演奏表現に関すること等を盛り込んだ内容のレポートを作成し提出する。

２．授業概要

通常レッスン内で、各レッスン担当教員のアドヴァイスを受け、レポートを作成する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

通常のレッスンに於いて、レッスン担当教員より指示されたことを基に図書館などで資料、文献を研究する。

４．成績評価の方法及び基準

レポートの内容や完成度に関しての基準は特に無いが、自分が歌う曲を深く掘り下げるために資料や文献を研究し、それを自分なりに勉強の成果として、自分の言葉でまとめる。提出にあたっては必ずレッスン担当教員のチェックを受けたうえ、サインと印鑑を受けての提出とする事。（レポートは2000字以上、12月20日締切。学務部に提出。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自、レッスン担当教員からアドヴァイスを受けること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件は特に無い。

授業計画	
1	前期ガイダンス
2	卒業研究主題の為の考察
3	テーマ決定のスケジュール設定
4	研究課題の為の練習曲の選択
5	研究課題の為の練習曲の歌唱
6	研究課題の為の練習曲の表現法
7	研究課題の為の練習曲の仕上げ
8	研究課題の時代背景・楽曲の概要
9	研究課題の作曲家について
10	研究課題の試演による課題の考察
11	研究課題の試演による習熟度の確認
12	研究課題の再試演による表現法
13	研究課題の再試演による理解度の確認
14	研究課題の仕上げ
15	前期のまとめ

授業計画	
1	後期ガイダンス
2	卒業研究 演奏と研究主題の考察
3	卒業演奏曲目の選択
4	卒業演奏曲目の実践
5	卒業演奏曲目の決定へのアプローチ
6	卒業演奏研究の為の練習曲の選択
7	卒業演奏研究の為の練習曲の歌唱
8	卒業演奏研究の為の練習曲の表現法
9	卒業演奏候補曲目の選出
10	卒業演奏候補曲目の歌唱
11	卒業研究主題の資料選択
12	卒業演奏レポート主題の考察
13	卒業演奏と研究レポートの整合性
14	卒業演奏曲目と卒業研究内容の確認
15	全体のまとめ

科目名	卒業研究　［ミュージカル］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GE4890N0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

4年間の学習の総括として、本コースの教育理念である『ミュージカル俳優育成』に基づいた成果発表の場である卒業公演及び卒業試験に向け、他者とのコミュニケーション能力の向上を図りながら演者として自らの技術や表現力を高め、そのスキルに磨きをかけること。

２．授業概要

卒業公演(Senior Musical Showcase)に向け、必修科目であるシーンスタディの担当教員と連携を取りながら指導していく。企画・プログラミング・運営・演出・演技・ダンス・衣装・美術・楽譜製作・アレンジ・制作など各セクションの担当者を決定し、公演稽古を実施していく。(公演1ヶ月前から授業外稽古あり)　また、卒業試験は、レッスン担当教員のアドバイスを受けながら、楽曲の構成・時代背景・音楽のスタイル・キャラクターを考察し、演奏技術もさることながら豊かな表現力で完成度の高いパフォーマンスが出来るよう探求していく。その演奏楽曲に関するレポート(1600字以内)も作成すること。なお、楽曲やステージングに関しては、既成の作品、オリジナル作品どちらでも構わない。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業で課題を提示するが、読譜・台本読み・ダンス振り付けは各自必ず練習しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学習態度(50%)・レポート(20%)・卒業試験(30%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

卒業後の様々な現場に対応出来る授業なので意欲的に取り組んで欲しい。

授業計画	
1	前期ガイダンス
2	卒業公演のテーマ・コンセプト及び内容について
3	各セクション(演出部・舞台部・制作部・音楽部・ダンス部)の内容について
4	各セクションの代表とメンバー決定
5	全体の構成及びプログラミングの検討
6	ヴォーカルナンバー(ソロ・アンサンブル・全員曲)の検討
7	ダンスナンバーの検討
8	ヴォーカルナンバー・ダンスナンバーの研究及び楽譜・音源資料検討
9	大まかな構成の再検討
10	ヴォーカルナンバー・ダンスナンバー希望者リスト作成
11	プログラム検討及び決定
12	ヴォーカルナンバー音楽稽古
13	ダンスナンバー振り付け稽古
14	ヴォーカルナンバー・ダンスナンバー各オーディション
15	前期総括

授業計画	
1	後期ガイダンス
2	卒業公演各セクション稽古及び卒業試験作品プランニングスケジュール確認
3	卒業公演各セクション稽古及び卒業試験作品選曲
4	卒業公演各セクション稽古及び卒業試験作品演技プランニング
5	卒業公演各セクション稽古及び卒業試験作品決定・楽曲研究
6	音源・楽譜制作のレクチャー及び卒業試験作品レポート指導
7	卒業公演演目の楽譜の最終確認及び舞台美術・衣装・ヘアメイク確認
8	卒業公演プログラムノート作成、香盤表作成、舞台・音響・照明ミーティング
9	卒業公演楽団音楽合わせ、舞台美術・衣装・ヘアメイク最終確認
10	卒業公演場当たり・ランスルー、各セクション最終確認
11	卒業公演ゲネプロ、本番
12	卒業公演フィードバック及び卒業試験作品音楽的プランニングの確認
13	卒業試験作品レポート仮提出、見直し及び楽曲の構成を含めた表現力の向上チェック
14	卒業試験作品レポート提出及びヴォーカル・ステージング・衣装・ヘアメイク最終確認
15	卒業試験本番及び講評

科目名	卒業研究　［バレエ］						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE4890S0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	BL	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

４年間、クラシック・バレエのダンサーに必要な芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションを向上させるために研鑽を積んだ、総合的な成果を示し総括することを目的とする。

２．授業概要

クラシック・バレエダンサーとして、楽器となる身体を作り、技術を磨き、作品の解釈のために学習、研究してきたことの仕上げ・集大成として卒業試験で発表を行う。
研究発表課題曲（ヴァリエーション）は、年間を通じて準備し、踊り込み、完成度を高めていくように指導する。
研究発表課題曲（ヴァリエーション）に関して、学術面を研究し、レポートを作成するように指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ヴァリエーションの動きの練習だけでなく、作品の解釈に結びつくように、図書館などで資料、文献を研究するように指示する。

４．成績評価の方法及び基準

卒業試験のパフォーマンスに関して、芸術性、技術、完成度を基に評価し成績をつける。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

それぞれが選んだヴァリエーションによって、決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	前期ガイダンス
2	研究する内容を検討
3	研究するヴァリエーションを検討
4	演技する内容を検討
5	演技するヴァリエーションを検討
6	演技状況の確認
7	自分の身体を客観的に感じる
8	自分の技術を客観的に把握する
9	自分の表現したい内容を探る
10	研究テーマの決定
11	研究テーマに沿って作品の選定のための練習１　振付の概要の理解
12	研究テーマに沿って作品の選定のための練習２　振付の音楽性の理解
13	研究テーマに沿って作品の選定のための練習３　振付のスタイルの理解
14	研究テーマに沿って作品の選定のための練習４　振付の表現の理解
15	前期の総括

授業計画	
1	後期ガイダンス
2	研究、及び演技における進捗状況の確認
3	演技と研究テーマの整合性の確認
4	卒業研究 試験の作品 ヴァリエーションを決定
5	レポート試筆１卒業試験作品の概要・様式について
6	レポート試筆２ 研究主題への理解、言及について
7	卒業研究・試験作品 音楽の選定方法
8	卒業研究・試験作品 音楽(CD) 製作、確認
9	卒業研究・試験作品 衣装の選定方法
10	卒業研究・試験作品 衣装の確認、決定
11	卒業研究作品１ヴァリエーションの構造・構成を踏まえた全体的なアプローチの構築
12	卒業研究作品２作品のスタイルとその中で選んだヴァリエーションの特徴に基づく自己発現表現への踏み込み
13	試演による課題の抽出
14	全体リハーサルでの再試演による理解度習熟度の確認
15	演技内容と研究内容の最終確認

科目名	卒業研究　［声優アニメソング］						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE4890T0	科目コード	GE4890	期間	通年
担当教員							
授業形態	卒業研究	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコース 4年生全体が集まる授業である。年間スケジュールにそって自主的にプロジェクトを企画・運営していく他、４年間の集大成となる前田ホールでの成果発表に向けて通年で取り組むなど、イベント制作の拠点となる。他者とのコミュニケーションの能力、社会性、積極性等が問われる場にもなる。
最終的な到達目標は、３年次に習得した内容に加え、イベント、放送現場、制作現場等で細やかに配慮できる姿勢も身に付け、現場に必要とされる人材になることである。

２．授業概要

学生の自主性をできるだけ尊重しながら授業を進めていく。年間スケジュールにある４年生主体のイベントを中心に、実際に実現可能なプロジェクトの概要策定、企画立案、準備活動、実施・運営、反省・総括といったプロセスを経験していく。
特に後期成果発表に向けて、〈演技〉〈歌〉の授業を隔週に設定する。
上記のように、「ASアンサンブル実習Ⅳ」とセットで行われる。集大成となる「ASコース成果発表」の直前に行われるリハーサルを中心に短期集中で行うものとする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自分が担当する役柄や曲に対しての研究を重ね、表現できるように、毎日の滑舌、発声などの基本トレーニングを怠らないこと。加えて授業前後の読譜、台本の読み込みは欠かせない。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の継続的な鍛練が重要なので、学習態度で評価する(100%)。その上で、授業中での提案力・発言力・企画力、公演での実行力等の能力の発揮の評価を加味していく。年度末に学習内容と習得スキルについての自己判断をまとめたレポートや、公演のプログラムノートを作成するなども併せて総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

指導教員よりその都度配布される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学年全体のコミュニケーションの場にもなるので、社会性を認識しながら履修に臨んでほしい。卒業後の実践を想定し、積極的に取り組むことを期待する。

授業計画	
1	前期ガイダンス
2	前期及び通年のプロジェクトの内容検討
3	プロジェクトで使用する素材検討と研究
4	プロジェクトで使用する曲目検討と研究
5	企画運営体制決定後のグループディスカッション
6	プロジェクトを遂行するためのミーティング
7	自分の身体を客観的に感じ、コントロールするための演習
8	科学的に喉の仕組みを知り、声についての研究
9	身体を解放し、楽な声を出すための演習
10	頭声発声を体感し、自分の歌唱に取り入れる演習
11	ASコース成果発表「朗読劇」の題材研究
12	ASコース成果発表「アニソン」の曲目研究
13	ASコース成果発表「朗読劇」の役柄研究
14	ASコース成果発表「アニソン」の譜読みと演習
15	前期の統括

授業計画	
1	後期ガイダンス
2	ASコース成果発表の内容確認とミーティング
3	作品の背景や人物像の研究
4	ソロ曲とアンサンブル曲の歌い方について
5	作品に対して個々で掘り下げ、表現の幅を広げる
6	アニソンのハモリ（合唱）の演習
7	朗読劇チーム：オーディション後の個々の研究課題と講評
8	アニソンチーム：オーディション後の個々の研究課題と講評
9	朗読劇チームのプログラムノート作成
10	アニソンチームのプログラムノート作成
11	朗読劇チームの衣裳合わせ
12	アニソンチームの衣裳合わせ
13	ASコース成果発表の合唱との合わせ稽古
14	ASコース成果発表のオケ合わせ
15	ASコース成果発表及び統括

科目名	卒業研究　[火3]　[音楽教育]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GE4894R0	科目コード	GE4894	期間	通年
担当教員	金井　公美子						
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	ME	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

[主題]研究テーマの探究、掘り下げ、その明文化と総括
[到達目標]研究テーマに基づく卒業論文の作成、および卒業研究発表の実施

2．授業概要

音楽教育コースにおけるこれまでの様々な学習を通して、「音楽教育」または「音楽(全般)」のいずれかの分野における研究テーマを自ら設定し、そのテーマに基づき文献研究、実践研究、調査研究等を行い、卒業論文としてまとめ、1月に提出、2月に卒業研究発表を行う(年度末の諸状況によって発表は選抜となる可能性もあり)。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

1年を通して各自の研究テーマに取り組み、指導教員のアドヴァイスを活かしつつ、論文作成を計画的に進めること。

4．成績評価の方法及び基準

・論文指導時における研究状況(評価の30%)
・提出された卒業論文の評価(評価の70%)　その内訳は①論理性、②独創性、③資料性、④文章表現力、⑤全体の構成、⑥テーマの掘り下げ

5．授業で使用するテキスト・参考文献

各自の研究テーマに応じた文献を、授業の中で指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

研究テーマは途中で変更することのないよう、十分な予備研究をすること。

授業計画	
	［前期］研究テーマの設定から中間発表の準備まで
1	前期オリエンテーション
2	研究計画立案
3	研究方法について
4	研究の実践について
5	研究テーマの絞り込み
6	各自の研究テーマを焦点化
7	予備研究の始動
8	資料の探索
9	資料の整理
10	資料についての検証
11	研究テーマの確定
12	論文構成法について
13	論文構成の仮案作成
14	論文構成の仮案の検討
15	前期総括～中間発表に向けて

授業計画	
	［後期］中間発表から論文完成まで
1	後期オリエンテーション
2	中間発表
3	先行研究の取り扱いについて
4	研究資料について
5	論文の執筆に向けて
6	論文作成個別指導1～序論
7	論文作成個別指導2～本論着手
8	論文作成個別指導3～本論の最初の展開
9	論文作成個別指導4～本論の更なる展開
10	論文作成個別指導5～本論のまとめ
11	論文作成個別指導6～結論
12	論文仮提出と全体ディスカッション
13	論文見直し
14	論文仕上げ
15	論文本提出と総括

科目名	ピアノ作曲基礎演習１～４　［火5］Aクラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GE5140A0	科目コード	GE5140d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF(P-Com、PPP)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

多角的な分析を伴う読譜・演奏・編曲などの演習を通じて、取り上げる多様な作品と音楽文化の総合的な理解を深め、演奏表現や作品研究、創作活動および音楽理論の実践的な理解と発展を促す。

２．授業概要

拍節やリズム、調性や音楽語法の把握、および和声・構造分析を前提とする独奏または合奏による（初見）演奏演習や、与えられた課題の変奏や編曲演習を集団授業形態で行う。出来るだけ初見による実施が望ましいため、扱う作品は具体的にシラバスには明記しない。習熟度に応じて2クラス制をとるものとする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

さまざまな作品の視聴と読譜、および授業で行う課題の予習・復習を行うこと。また必要に応じて発表の準備を行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点５０％、発表会５０％（年2回程度行われる発表会で自己の作曲した作品を中心に演奏を行う）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度教員が用意するが、予習の必要がある場合など事前に指示する場合がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラス(P-com)及びプロフェッショナルピアノパフォーマンスクラス(PPP)の学生が対象となる。

授業計画	
	［前期］ ※前期・後期ともにそれぞれの回で適宜幾つかの項目を常に繰り返しとり上げて演習を行うものとする。
1	授業の概要、前期・後期発表の目標設定
2	譜読みのコツと実践
3	拍節とリズムの把握と分析
4	音階と調性の把握と分析
5	和声と終止の把握と分析
6	楽節構造の把握と分析
7	形式の把握と分析
8	演奏におけるペダルと運指の可能性
9	楽器法の準備と研究
10	古典派作品の初見視奏と変奏の試み
11	古典派作品のスコアリーディング
12	古典派作品の編曲の試み
13	古典派作品の構成の研究
14	編曲作品演奏の考察
15	演奏における音色の多様性の研究

授業計画	
	［後期］前期授業計画に準ずる
1	前期の復習と後期目標の再設定、考察
2	ロマン派作品の初見視奏
3	ロマン派歌曲作品の分析と移調の試み
4	ロマン派室内楽作品の分析の試み
5	ロマン派作品の編曲の試み
6	ロマン派作品のスコアリーディング
7	バロック作品の初見視奏と変奏の試み
8	バロック舞曲の研究
9	ロマン派以降の作品の初見視奏
10	ロマン派以降の作品のスコアリーディング
11	ロマン派以降の作品の編曲の試み
12	20世紀以降の作品の読譜、演奏法の研究
13	分析と演奏の関わりと実践
14	発表のための準備
15	総括

科目名	ピアノ作曲基礎演習１～４　[火5] Bクラス						
代表教員	浦壁　信二	授業コード	GE5140B0	科目コード	GE5140d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF(P-Com、PPP)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

多角的な分析を伴う読譜・演奏・編曲などの演習を通じて、取り上げる多様な作品と音楽文化の総合的な理解を深め、演奏表現や作品研究、創作活動および音楽理論の実践的な理解と発展を促す。

２．授業概要

拍節やリズム、調性や音楽語法の把握、および和声・構造分析を前提とする独奏または合奏による（初見）演奏演習や、与えられた課題の変奏や編曲演習を集団授業形態で行う。出来るだけ初見による実施が望ましいため、扱う作品は具体的にシラバスには明記しない。習熟度に応じて2クラス制をとるものとする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

さまざまな作品の視聴と読譜、および授業で行う課題の予習・復習を行うこと。また必要に応じて発表の準備を行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点５０％、発表会５０％（年2回程度行われる発表会で自己の作曲した作品を中心に演奏を行う）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度教員が用意するが、予習の必要がある場合など事前に指示する場合がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラス(P-com)及びプロフェッショナルピアノパフォーマンスクラス(PPP)の学生が対象となる。

授業計画	
	［前期］ ※前期・後期ともにそれぞれの回で適宜幾つかの項目を常に繰り返しとり上げて演習を行うものとする。
1	授業の概要、前期・後期発表の目標設定
2	譜読みのコツと実践
3	拍節とリズムの把握と分析
4	音階と調性の把握と分析
5	和声と終止の把握と分析
6	楽節構造の把握と分析
7	形式の把握と分析
8	演奏におけるペダルと運指の可能性
9	楽器法の準備と研究
10	古典派作品の初見視奏と変奏の試み
11	古典派作品のスコアリーディング
12	古典派作品の編曲の試み
13	古典派作品の構成の研究
14	編曲作品演奏の考察
15	演奏における音色の多様性の研究

授業計画	
	［後期］前期授業計画に準ずる
1	前期の復習と後期目標の再設定、考察
2	ロマン派作品の初見視奏
3	ロマン派歌曲作品の分析と移調の試み
4	ロマン派室内楽作品の分析の試み
5	ロマン派作品の編曲の試み
6	ロマン派作品のスコアリーディング
7	バロック作品の初見視奏と変奏の試み
8	バロック舞曲の研究
9	ロマン派以降の作品の初見視奏
10	ロマン派以降の作品のスコアリーディング
11	ロマン派以降の作品の編曲の試み
12	20世紀以降の作品の読譜、演奏法の研究
13	分析と演奏の関わりと実践
14	発表のための準備
15	総括

科目名	キーボードレアリゼーション１～４　［木3］Aクラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GE5144A0	科目コード	GE5144d	期間	通年
担当教員	齋藤　圭子、浦壁　信二						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF(P-Com、PPP)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

鍵盤上および譜面上の和声実習を通して視覚・聴覚・鍵盤上の触覚が連携した鋭敏な和声感覚の獲得を目指す。演奏における表現や理解、創作活動の深化を促す。

２．授業概要

和声理論の鍵盤上での実施と応用（移調奏、変奏などの演習）、コードネームや数字付き通奏低音の基礎学習、伴奏付けや限定的な即興演奏の基礎演習などを集団授業の形態で行う。習熟度に応じて2クラスに分かれて指導が行われる。なお、授業で扱う作品課題はできる限り初見で提示するため授業計画の各回では具体的な作品名は示さない。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う課題の予習・復習を行うこと。また必要に応じて発表の準備を行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内小テストを含む）１００％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度教員が用意するが、予習などの必要などに応じて事前に指示する場合がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラス(P-com)及びプロフェッショナルピアノパフォーマンスクラス(PPP)の学生が対象となる。関連科目として「キーボードハーモニー」での学習も大いに活用されたい。

授業計画	
	［前期］音楽史の流れに沿ってピアノ及びその他の音楽作品を引用しながら和声的な分析や考察、応用を行い下記項目についての理解を深める。それぞれの回で適宜いくつかの項目を常に繰り返し取り上げて演習を行うものとする。
1	授業の概要、授業運営の計画設定
2	和声記号の確認と鍵盤上での実施
3	各種終止の確認と鍵盤上での実施
4	基本形と第一転回形
5	和音の連結
6	和音の連結、応用と鍵盤上での実施
7	コードネームの学習
8	数字付き低音の基本学習と実施
9	バス課題と実習
10	属七と第二転回形
11	各種7の和音と掛留、解決
12	初見作品の和声還元
13	バロック作品の和声分析
14	バスと上声の関係と分析
15	与えられた両外声に和声付けを実施する

授業計画	
	［後期］前期授業計画に準ずる
1	各自の後期の授業計画の設定と考察
2	メロディー課題の和声分析
3	メロディー課題のバス付けの実施
4	メロディ課題の和声付け
5	古典派作品の和声分析
6	属九の和音と伴奏型
7	メロディー課題の伴奏付け
8	和声記号によるバス課題の実施
9	ロマン派作品の和声分析
10	転調の考察
11	メロディー課題の変奏
12	バス課題の変奏
13	与えられたバスからメロディーを創作する
14	近代作品の和声分析
15	総括

科目名	キーボードレアリゼーション１～４　［木3］Bクラス						
代表教員	担当教員	授業コード	GE5144B0	科目コード	GE5144d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF(P-Com、PPP)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

鍵盤上および譜面上の和声実習を通して視覚・聴覚・鍵盤上の触覚が連携した鋭敏な和声感覚の獲得を目指す。演奏における表現や理解、創作活動の深化を促す。

２．授業概要

和声理論の鍵盤上での実施と応用（移調奏、変奏などの演習）、コードネームや数字付き通奏低音の基礎学習、伴奏付けや限定的な即興演奏の基礎演習などを集団授業の形態で行う。習熟度に応じて2クラスに分かれて指導が行われる。なお、授業で扱う作品課題はできる限り初見で提示するため授業計画の各回では具体的な作品名は示さない。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う課題の予習・復習を行うこと。また必要に応じて発表の準備を行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内小テストを含む）１００％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度教員が用意するが、予習などの必要などに応じて事前に指示する場合がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラス(P-com)及びプロフェッショナルピアノパフォーマンスクラス(PPP)の学生が対象となる。関連科目として「キーボードハーモニー」での学習も大いに活用されたい。

授業計画	
	［前期］音楽史の流れに沿ってピアノ及びその他の音楽作品を引用しながら和声的分析や考察、応用を行い下記項目についての理解を深める。それぞれの回で適宜幾つかの項目を常に繰り返しとり上げて演習を行うものとする。
1	授業の概要、授業運営の計画設定
2	和声記号の確認と鍵盤上での実施
3	各種終止の確認と鍵盤上での実施
4	基本形と第一転回形
5	和音の連結
6	和音の連結、応用と鍵盤上での実施
7	コードネームの学習
8	数字付き低音の基本学習と実施
9	バス課題と実習
10	属七と第二転回形
11	各種7の和音と掛留、解決
12	初見作品の和声還元
13	バロック作品の和声分析
14	バスと上声の関係と分析
15	与えられた両外声に和声付けを実施する

授業計画	
	［後期］前期授業計画に準ずる
1	各自の後期の授業計画の設定と考察
2	メロディー課題の和声分析
3	メロディー課題のバス付けの実施
4	メロディ課題の和声付け
5	古典派作品の和声分析
6	属九の和音と伴奏型
7	メロディー課題の伴奏付け
8	和声記号によるバス課題の実施
9	ロマン派作品の和声分析
10	転調の考察
11	メロディー課題の変奏
12	バス課題の変奏
13	与えられたバスからメロディーを創作する
14	近代作品の和声分析
15	総括

科目名	ピアノ作品分析演奏法１～４　［金4］						
代表教員	浦壁　信二	授業コード	GE514800	科目コード	GE5148d	期間	通年
担当教員	久行　敏彦、山田　武彦						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノ作品を中心にさまざまな観点からの分析とそれに関連する演習を行う。音楽的教養と分析力の向上、ひいては自らの演奏に於ける作品の理解と表現の深化を図る。

２．授業概要

選択されたピアノ作品（一部その他の作品も含む）に対しての教員の講義、学生の分析演習発表、学生の演奏演習の３つの形態から授業を構成する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

関連する作品の視聴や作曲家・様式・時代背景などを研究し、授業で扱う課題の予習・復習を行う。また必要に応じて発表の準備を行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内発表を含む）１００％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

研究対象となっている作品の楽譜は各自用意のこと。それ以外は授業の際、またはポータル掲示で指示されたものを印刷し準備すること(授業の準備は平常点評価の対象とする)。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

全ピアノコース対象。授業内で演習(研究作品を履修者が演奏する)を行う。櫃等に応じて各自準備すること。

授業計画	
	［前期］年間を通じての計画は以下の通りであるが、学生がその時々に取り組んでいる作品について優先的に採り上げ演習を行う場合がある。 各教員による正式な日程の分担、内容の順番については改めて通達されるものとする。
1	バッハのフーガにつながる道(1)(久行) フレスコバルディ：音楽の花束 より スヴェーリンク：半音階的幻想曲
2	バッハのフーガにつながる道(2)(久行) フィッシャー：アリアドネ・ムジカ より バッハ：平均律クラヴィア曲集 より
3	バッハの名人芸(久行) バッハ：音楽の捧げもの より バッハ：フーガの藝術 より
4	古典派時代のピアノソナタとマニエーレン(1)(久行) モーツァルト：ピアノソナタ11番 K.331
5	古典派時代のピアノソナタとマニエーレン(2)(久行) モーツァルト：ピアノソナタ12番 K.332
6	フォルテピアノの表現領域(1)(久行) ベートーヴェン：ピアノソナタ14番 Op.27-2
7	フォルテピアノの表現領域(2)(久行) ベートーヴェン：ディアベリ変奏曲
8	古典様式の考え方～古典的とは何か(山田) ハイドン：ソナタHob.XVI：52、モーツァルト：K.333など
9	アーティキュレーションとフレーズについての歴史的考察(山田) バッハ：インヴェンション、モーツァルト、ベートーヴェン、ショパンなどの作品より
10	和声の機能と非和声音(和声外音)のピアノ演奏法(山田) ベートーヴェン：ソナタOp.13 ショパン：バラード ラフマニノフ：音の絵 など
11	ペダルの用法～ピアノ作品の歴史的観点から(山田)
12	ロマン派の作品における創作の姿勢とアプローチ(山田)
13	ドビュッシーの作品分析概説と20世紀音楽の様式におけるピアノ演奏法(山田)
14	曲の構造・構成要素とピアノの音色・音量の使い分け、その奏法(山田) モーツァルト：協奏曲21番、ラフマニノフ：協奏曲２番など
15	変奏曲の歴史的変遷と演奏法(山田)

授業計画	
	［後期］前期に準ずるものとする。
1	初期ロマン派のピアノ曲（1）（久行） ウェーバー：ピアノと管弦楽のためのコンチェルトシュトック
2	初期ロマン派のピアノ曲（2）（久行） シューベルト：楽興の時op.94
3	19世紀前半のピアノ作品（1）（久行） シューマン：子供の情景より シューマン：暁の歌
4	19世紀前半のピアノ作品（2）（久行） ショパン：前奏曲op.45 ショパン：舟歌op.60
5	19世紀後半のピアノ作品（1）（久行） リスト：波を渡るパオラの聖フランシス リスト：エステ荘の噴水
6	19世紀後半のピアノ作品（2）（久行） チャイコフスキー：四季より
7	20世紀前半のピアノ作品（1）（久行） ラヴェル：ピアノ協奏曲ト長調より
8	20世紀前半のピアノ作品（2）（久行） スクリアビン：ピアノソナタ７番
9	装飾音の演奏法（バロック、古典、19世紀以降）（山田）
10	運指、手の移動、練習法などの解析（エチュード作品を中心に）（山田） ショパン：練習曲集 ドビュッシー：練習曲集
11	対位法を用いた作品の分析と演奏法（山田）
12	舞曲のフレーズ構造と演奏法（山田）
13	Fantasy、Recitativo、Rubato、Cadenzaの演奏法（山田）
14	２０世紀以降における非クラシック音楽のピアノ演奏法（山田）
15	アンサンブル作品（ソロから室内楽）の読譜、分析、ソルフェージュ（山田）

科目名	録音技術研究１～４　［木1］						
代表教員	鹿内　耀一	授業コード	GE536100	科目コード	GE5361d	期間	通年
担当教員	前田　康徳						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

録音技術を習得するために、録音の基礎から技術的な勉強を行ってゆく。
基本的な録音の考え方、マイキング方法などを学んで行く中で、音楽に対する幅広い見識を備えた人材の育成を目標とする。
到達目標は一人でマイクを立てソロ楽器や室内楽程度のアンサンブルを録音できるようになる事。

２．授業概要

前期は録音の基礎となる録音技術の基礎を学ぶ。後期はシンプルなアコースティクな録音を中心とした録音実習を行い録音の実際を学んで行く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

コンサート、ライブ、CDなどであらゆるジャンルの音楽を数多く聴く。
録音物を聴く場合、漫然と聴くのではなくバランス音色等に注意を払う。

毎週、次週の項目について指示するのでそれについて予習を行う事。授業後は授業内容を復習する事。

４．成績評価の方法及び基準

授業での積極的な発言や実習への関わりの態度と試験及び　レポート点の合計で評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』（日本音楽スタジオ協会編）
『ハンドブック・オブ・レコーディング・エンジニアリング』（ジョン・アーグル著／ステレオサウンド）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

録音を基礎から学びたい学生を対象とする。１、２年生を対象とする。
授業に対する積極的な参加と発言をを持つものを求める。

授業計画	
	［前期］ 録音の基本技術、機材の扱い方の習得を目指す
1	ガイダンス、スタジオ機能紹介 スタジオの機能、系統について説明
2	ケーブル類の取り扱い、マイクスタンド ケーブルやスタンドなどのスタジオ什器の使用方法の習得
3	マイクの種類と特性 マイクの基本的な構造と特性、使用用途について
4	コンソール機能１ コンソールの信号の流れ、考え方について学ぶ
5	コンソール機能２ コンソールの機能、使用方法
6	周辺機器１ 外部機器の種類、使用方法等　基本
7	周辺機器２ 外部機器の種類、使用方法等　応用
8	プロツールスの機能、取り扱い１ プロツールスの基本と機能
9	プロツールスの機能、取り扱い２ プロツールスの実践的な使い方
10	マイキング研究１ 各楽器のマイキングについて
11	マイキング研究２ ドラム等のマイキングについて
12	ステレオ録音技術研究１ ステレオ録音の基礎について
13	ステレオ録音技術研究２ 様々なステレオ録音
14	ミキシング技術研究 ミキシングの考え方と方法について
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 前期で習得した基礎を元に様々な素材の録音を通じて実践的な録音手法を学ぶ
1	ステレオ録音技術研究　-1- マイキングの基礎
2	ステレオ録音技術研究 -2- アコースティックギターの録音
3	ステレオ録音技術研究 -3- エレキギターの録音
4	ステレオ録音技術研究 -4- ピアノの録音
5	ステレオ録音技術研究 -5-ストリングスの録音
6	ステレオ録音技術研究 -6- アンサンブルの録音
7	サラウンド録音技術研究 -1- サラウンドの基礎知識
8	サラウンド録音技術研究 -2- サラウンドのベーシック録音手法について
9	サラウンド録音技術研究 -3- サラウンドのマイキングの基礎
10	サラウンド録音技術研究 -4- 様々なサラウンド録音手法
11	ミキシング技術研究 -1- 音楽バランスの基礎
12	ミキシング技術研究 -2- DAWを用いたミキシング
13	ミキシング技術研究 -3-プラグインについて
14	ミキシング技術研究 -4- 音量バランスと周波数バランス
15	後期のまとめ

科目名	メディアコンテンツ制作実習１～４　[木5]						
代表教員	森　威功	授業コード	GE536500	科目コード	GE5365d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「DAW演習１」、「音楽プログラミング入門」						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座では「Senzoku Digital Music & Arts Project」を中心に、音楽・音響デザインのコースイベントや他コースとのコラボレーションで発表するための音楽・映像コンテンツを、MaxやProcessingなどのメディア系プログラミングツールとセンシングデバイスを用いて制作する。ステージ・パフォーマンス、デジタルアートや体験型アトラクションなど創作の方向性は様々であるが、履修生はこれらの経験を通して技術面だけではなくイベントのプロデュース方法を学び、自身の活動をアピールするためのセルフ・プロデュース能力を身につけてほしい。

２．授業概要

授業は基本的にプロジェクト形式で行う。コンテンツ制作、イベントプロデュースについて個人またはグループで企画書を提出し、授業内においてプレゼンテーションを実施する。その後、グループ分けを行いそれぞれの目標にむかって作業をすすめていく。また、必要に応じて全体ミーティングの実施やコンテンツ制作に関して技術的な指導をする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CG実習やインタラクティブ・コンテンツ制作に関しては、授業内に紹介するwebサイトや配布プリントなどで必ず復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学年末レポート提出（評価の30%）
課題提出（評価の40%）
平常点（企画書の提出を含む）（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

メディアプログラミングや映像制作などのスキルが不可欠なので、「音楽プログラミング入門」または「コンピュータ音楽表現」を履修済みの学生、およびメディアコンテンツ系レッスンの受講生を対象とする。上記以外にも本講座を継続して履修する学生は履修可とする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	年間スケジュールやグループの作成など
3	グループ制作 I-プランニング
4	グループ制作 I-各モジュールの制作
5	グループ制作 I-モジュールの相互接続
6	グループ制作 I-映像入力やセンシングデバイスの接続
7	グループ制作 I-発表の準備とバグ修正
8	プロジェクト内発表会 I（ベーシック）
9	Senzoku Digital Music & Arts Project作品-プランニング
10	Senzoku Digital Music & Arts Project作品-各モジュールの制作
11	Senzoku Digital Arts & Projet作品-モジュールの相互接続
12	Senzoku Digital Music & Arts Project作品-映像入力やセンシングデバイスの接続
13	Senzoku Digital Music & Arts Project作品-発表の準備とバグ修正
14	プロジェクト内発表会(アドバンスト)
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	全体ミーティング-夏休み中の活動内容報告
2	グループ制作 II-プランニング
3	グループ制作 II-各モジュールの制作
4	グループ制作 II-モジュールの相互接続
5	グループ制作 II-映像入力やセンシングデバイスの接続
6	グループ制作 II-発表の準備とバグ修正
7	プロジェクト内発表会 II（ベーシック）
8	MUSIC DESIGN SYMPHONIC ORCHESTRA & ELECTRO CARNIVAL コンテンツ制作-プランニング
9	MUSIC DESIGN SYMPHONIC ORCHESTRA & ELECTRO CARNIVAL コンテンツ制作-各モジュールの制作
10	MUSIC DESIGN SYMPHONIC ORCHESTRA & ELECTRO CARNIVAL コンテンツ制作-モジュールの相互接続
11	MUSIC DESIGN SYMPHONIC ORCHESTRA & ELECTRO CARNIVAL コンテンツ制作-映像入力やセンシングデバイスの接続
12	MUSIC DESIGN SYMPHONIC ORCHESTRA & ELECTRO CARNIVAL コンテンツ制作-テクニカルリハーサル
13	MUSIC DESIGN SYMPHONIC ORCHESTRA & ELECTRO CARNIVAL コンテンツ制作-プロジェクト内発表会
14	プロジェクト全体の反省会
15	総括と次年度に向けたミーティング

科目名	スタジオレコーディング演習１～４　[木2]						
代表教員	鹿内　耀一	授業コード	GE538100	科目コード	GE5381d	期間	通年
担当教員	前田　康徳						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

録音とは記録ではなく表現である。
しかし、録音には音楽の知識、空間音響の知識、楽器の特性などの多くの知識と共に実際の音がどのようにマイクロフォンに捉えられるのかという経験が必要になる。
この授業はプロとして通用するスタジオエンジニアリング技術を学び。スタジオワークやレコーディングの実際を体験する事で音楽制作の手順を理解することを目的とする。
到達目標は、アシスタントエンジニアとしてProTools のオペレーション及びアシスタント業務が可能になること。
演奏家と対話しながら作品作りに望めるエンジニアとして録音をリードできる人材になること。

２．授業概要

レコーディングの実践の中から学ぶ授業であるのでスタジオなどでの集中講義となる。
スタジオ機材の知識やProToolsのオペレーション、エンジニアとしての技量など要求されるレベルは高い。
積極的な参加と学んだ事の復習は必須である。
自分が何を学びたいのかを明確にして授業に参加してほしい。
スタジオでの作業となるため、３.４年生を中心とした３０名ほどにしたい。録音技術研究を終了していることが望ましい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

技術的な知識は基礎として必要なので、参考文献等で常日頃から学習しておく必要がある。授業で得た新しい知識については必ず記録し復習すること。次の授業に質問すべき項目について予習しておく事。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組みと質問等の積極的な参加をベーシックな評価とする。さらに期末に行うレポート及びテストでの授業の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』（日本音楽スタジオ協会編）
『ハンドブック・オブ・レコーディング・エンジニアリング』（ジョン・アーグル著／ステレオサウンド）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業に出席する事が大前提で、出席率が悪いと単位は取得できない。
前向きに参加意識を持って受講することが条件である。
基本的に３、４年生を中心とする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、スタジオ機能紹介
2	スタジオの回線系統の把握、信号の流れ
3	コンソールの機能、周辺機器
4	プロツールスオペレーション
5	レコーディング実習１ スタジオでの楽器配置の実際
6	レコーディング実習２ スタジオでのケーブルルーティング、CUEシステムの使い方
7	レコーディング実習３ ドラムブース、ピアノブースの使用法
8	レコーディング実習４ ピアノの運搬方法（ブースからスタジオへの移動等）
9	レコーディング実習５ アコーステックギターのマイキング実習
10	レコーディング実習６ ギターアンプへのマイキング実習
11	レコーディング実習７ ピアノのレコーディング実習
12	レコーディング実習８ 木管楽器の録音手法について
13	レコーディング実習９ 金管楽器の録音手法
14	レコーディング実習１０ パーカッションの録音手法
15	前期まとめ

授業計画	
	［後期］
1	レコーディング実習１１ ドラムの録音手法
2	レコーディング実習１２ ドラムのマイキング実習
3	レコーディング実習１３ 弾き語りの録音手法
4	レコーディング実習１４ Vocalの録音手法
5	レコーディング実習１５ ロックバンドの録音実習
6	レコーディング実習１６ ジャズバンドの録音手法
7	レコーディング実習１７ 弦楽器アンサンブルの録音手法
8	レコーディング実習１８ 木管アンサンブルの録音手法
9	レコーディング実習１９ 邦楽器の録音手法
10	レコーディング実習２０ クラシックの録音手法
11	ミキシング実習１ コンソールミックスの実習
12	ミキシング実習２ DAW内部ミックスの実習
13	ミキシング実習３ ミックスバスの構成法
14	ミキシング実習４ ファイナルミックスとマスタリング
15	後期まとめ

科目名	ワイヤリング実習　[水2]						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GE538900	科目コード	GE5389	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音響・映像関連の技術スタッフとして活動する場において、機器のトラブルに対処できるような知識、手業を身につける。

２．授業概要

機器の接続を理解する。
可能な範囲で自前の工具を持ち、それらの基礎的な使い方を学ぶ。
様々なｹｰﾌﾞﾙの断面を見て用途を理解し、プラグへ半田付けができ、現場での様々なトラブルに対応する。
音響用小物機器を製作し、エレクトロニクスへの興味を広げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

希望により、秋葉原電気街などへ部品・工具の調達に出る。
FUYUONなどの現場で起きる結線トラブルへの対処。

４．成績評価の方法及び基準

以下の項目から、総合的に判断する。
・授業への参加姿勢　４０％
・試験・レポート　３０％
・製作物　３０％
製作物は「完成」させること。自主的な製作物も認める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて配布、紹介する。

・電気実用講座
・ハンドメイド･プロジェクト1&2
・ハンドメイド・プロジェクト３

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自前工具をある程度揃えること。最低限必要なものはガイダンスで案内し、まとめ買いを調整する。
出席が少ないと、試験・レポートとも受理しない。

授業計画	
	［前期］ プラグ、ジャック、ケーブルなどの概略を知る。 工具の入手状況により、授業順序は変わることがある。
1	ガイダンス。工具の入手準備。
2	プラグの種類と用途
3	電気信号の種類
4	電気の基礎（電圧など）
5	電気の基礎（並列・直列など）
6	安全で確実な作業環境の確保
7	断面から見たケーブルの種類と用途
8	測定器(テスタ、オシロスコープ)の使い方
9	工具の使い方（ニッパ、ラジオペンチ、半田鏝）
10	工具の使い方（ノギス、半田吸い取り、ワイアストリッパ、ピンセット）
11	断線チェックと各種測定
12	ケーブルの皮むき練習
13	プラグへの半田付け（XLR）
14	プラグへの半田付け（TRS）
15	前期製作

授業計画	
	［後期］ 自主的な製作
1	各自の製作物への立案
2	製作物の情報収集
3	設計、部品の調達
4	製作開始
5	製作 工具の使い方の確認
6	製作 部品の確認 過不足分の調整
7	製作 途中経過の報告
8	製作 レポートのための資料作成ガイダンス
9	製作（基板などのチェック）
10	製作（部品配列の検討）
11	製作（半田付け）
12	製作（シャーシ加工など）
13	製作（半田付け）
14	製作（実装）
15	製作の発表

科目名	ワイヤリング研究　（前）［水2］Aクラス						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GE5399A0	科目コード	GE5399	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音響・映像関連の技術スタッフとして活動する場において、機器のトラブルに対処できるような知識、手業を身につける。

２．授業概要

機器の接続を理解する。
可能な範囲で自前の工具を持ち、それらの基礎的な使い方を学ぶ。
様々なｹｰﾌﾞﾙの断面を見て用途を理解し、プラグへ半田付けができ、現場での様々なトラブルに対応する。
音響用小物機器を製作し、エレクトロニクスへの興味を広げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

希望により、秋葉原電気街などへ部品・工具の調達に出る。
FUYUONなどの現場で起きる結線トラブルへの対処。

４．成績評価の方法及び基準

以下の項目から、総合的に判断する。
・授業への参加姿勢　４０％
・試験・レポート　３０％
・製作物　３０％
製作物は「完成」させること。自主的な製作物も認める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて配布、紹介する。

・電気実用講座
・ハンドメイド･プロジェクト1&2
・ハンドメイド・プロジェクト３

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自前工具をある程度揃えること。最低限必要なものはガイダンスで案内し、まとめ買いを調整する。
出席が少ないと、試験・レポートとも受理しない。

授業計画	
	［半期］ プラグ、ジャック、ケーブルなどの概略を知る。 工具の入手状況により、授業順序は変わることがある。
1	ガイダンス。工具の入手準備。
2	プラグの種類と用途
3	電気信号の種類
4	電気の基礎（電圧など）
5	電気の基礎（並列・直列など）
6	安全で確実な作業環境の確保
7	断面から見たケーブルの種類と用途
8	測定器(テスタ、オシロスコープ)の使い方
9	工具の使い方（ニッパ、ラジオペンチ、半田鏝）
10	工具の使い方（ノギス、半田吸い取り、ワイアストリッパ、ピンセット）
11	断線チェックと各種測定
12	ケーブルの皮むき練習
13	プラグへの半田付け（XLR）
14	プラグへの半田付け（TRS）
15	製作

科目名	ワイヤリング研究　（後）［水2］Bクラス						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GE5399B0	科目コード	GE5399	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音響・映像関連の技術スタッフとして活動する場において、機器のトラブルに対処できるような知識、手業を身につける。

２．授業概要

機器の接続を理解する。
可能な範囲で自前の工具を持ち、それらの基礎的な使い方を学ぶ。
様々なｹｰﾌﾞﾙの断面を見て用途を理解し、プラグへ半田付けができ、現場での様々なトラブルに対応する。
音響用小物機器を製作し、エレクトロニクスへの興味を広げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

希望により、秋葉原電気街などへ部品・工具の調達に出る。
FUYUONなどの現場で起きる結線トラブルへの対処。

４．成績評価の方法及び基準

以下の項目から、総合的に判断する。
・授業への参加姿勢　４０％
・試験・レポート　３０％
・製作物　３０％
製作物は「完成」させること。自主的な製作物も認める。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて配布、紹介する。

・電気実用講座
・ハンドメイド･プロジェクト1&2
・ハンドメイド・プロジェクト３

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自前工具をある程度揃えること。最低限必要なものはガイダンスで案内し、まとめ買いを調整する。
出席が少ないと、試験・レポートとも受理しない。

授業計画	
	［半期］ プラグ、ジャック、ケーブルなどの概略を知る。 工具の入手状況により、授業順序は変わることがある。
1	ガイダンス。工具の入手準備。
2	プラグの種類と用途
3	電気信号の種類
4	電気の基礎（電圧など）
5	電気の基礎（並列・直列など）
6	安全で確実な作業環境の確保
7	断面から見たケーブルの種類と用途
8	測定器(テスタ、オシロスコープ)の使い方
9	工具の使い方（ニッパ、ラジオペンチ、半田鏝）
10	工具の使い方（ノギス、半田吸い取り、ワイアストリッパ、ピンセット）
11	断線チェックと各種測定
12	ケーブルの皮むき練習
13	プラグへの半田付け（XLR）
14	プラグへの半田付け（TRS）
15	製作

科目名	ｳﾞｫｲｽｱｰﾃｨｽﾄ基礎研究/ｳﾞｫｲｽｱｰﾃｨｽﾄ基礎演習　［金2］Aクラス						
代表教員	石川　光太郎	授業コード	GE5441A0	科目コード	GE5441	期間	通年
担当教員	園田　恵子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次で基礎を固める重要な必修授業です。声優という分野で活躍するために必要な最も基本的な基盤となる“発声”と“発音”の基礎を固めながら、演技の勉強につなげていきます。２年次以降の本格的な演技の講座など、様々なゼミ系授業で研鑽を積むための基礎を習得することが、この講座の到達目標となります。台詞や歌唱の基盤となる体幹の形成や腹式呼吸、発声の基礎、正確な日本語の発音、そして身体を使って表現することを身につけていきます。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていきます。必要に応じて、個別の指導も盛り込まれます。視聴覚教材も活用し、期末成果発表も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

“発音”と“発声”そして“演技”は、声優やアニソン歌手として活躍するための基盤の根幹を成します。毎日継続する自主練習が不可欠です。毎回の授業で学習した内容を根気強く復習する習慣を持つことが望まれます。

４．成績評価の方法及び基準

学習態度を重要視しつつ、試験や成果発表等での状況等を通じて、達成度を評価します。
　成果発表や試験における実力評価＝50%　　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から個別に指示されます。必要に応じてレジュメが配布される場合もあります。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声優アニメソングコース１年次必修授業であり、２年次以降の様々な講座を履修するための基盤となる授業であることをしっかり認識して、真摯に履修してください。また、人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をして、クラス配分を決定します。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	基本的な身体作り①ストレッチ
3	基本的な身体作り②ほぐすことと支えること
4	腹式呼吸の知識を習得
5	発声練習①ハミング（振動、共鳴）
6	発声練習②声を前に出す
7	発声練習③声のベクトル
8	発声練習④舌、唇、顔ストレッチ
9	発声練習⑤母音
10	発声練習⑥子音（カ～ナ）
11	発声練習⑦子音（ハ～ワ）
12	発声練習⑧鼻濁音、無声音
13	発声練習⑨アクセント
14	発声練習⑩総合演習（早口言葉、活舌例文）
15	前期総括

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	演技の基礎①緊張とリラックス
3	演技の基礎②感情の表現
4	演技の基礎③距離感
5	演技の基礎④エチュード
6	台本を読む①本読み
7	台本を読む②解釈、シチュエーション
8	台本を読む③動いてみよう！
9	台本を読む④仕上げ
10	学年末成果発表にむけての企画策定
11	学年末成果発表にむけての演習～導入編
12	学年末成果発表にむけての演習～展開編
13	学年末成果発表にむけての仕上げ
14	学年末成果発表模擬公演
15	総括

科目名	ｳﾞｫｲｽｱｰﾃｨｽﾄ基礎研究/ｳﾞｫｲｽｱｰﾃｨｽﾄ基礎演習　［木2］Bクラス						
代表教員	園田　恵子	授業コード	GE5441B0	科目コード	GE5441	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次で基礎を固める重要な必修授業です。声優という分野で活躍するために必要な最も基本的な基盤となる“発声”と“発音”の基礎を固めながら、演技の勉強につなげていきます。２年次以降の本格的な演技の講座など、様々なゼミ系授業で研鑽を積むための基礎を習得することが、この講座の到達目標となります。台詞や歌唱の基盤となる体幹の形成や腹式呼吸、発声の基礎、正確な日本語の発音、そして身体を使って表現することを身につけていきます。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていきます。必要に応じて、個別の指導も盛り込まれます。視聴覚教材も活用し、期末成果発表も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

“発音”と“発声”そして“演技”は、声優やアニソン歌手として活躍するための基盤の根幹を成します。毎日継続する自主練習が不可欠です。毎回の授業で学習した内容を根気強く復習する習慣を持つことが望まれます。

４．成績評価の方法及び基準

学習態度を重要視しつつ、試験や成果発表等での状況等を通じて、達成度を評価します。
　成果発表や試験における実力評価＝50%　　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から個別に指示されます。必要に応じてレジュメが配布される場合もあります。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声優アニメソングコース１年次必修授業であり、２年次以降の様々な講座を履修するための基盤となる授業であることをしっかり認識して、真摯に履修してください。また、人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をして、クラス配分を決定します。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	基本的な身体作り①ストレッチ
3	基本的な身体作り②ほぐす事と支える事
4	腹式呼吸の知識を習得
5	発声練習①ハミング（振動、共鳴）
6	発声練習②声を前に出す
7	発声練習③声のベクトル
8	発声練習④舌、唇、顔ストレッチ
9	発声練習⑤母音
10	発声練習⑥子音（カ～ナ）
11	発声練習⑦子音（ハ～ワ）
12	発声練習⑧鼻濁音、無声音
13	発声練習⑨アクセント
14	発声練習⑩総合演習（早口言葉、活舌例文）
15	前期総括

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	演技の基礎①緊張とリラックス
3	演技の基礎②感情の表現
4	演技の基礎③距離感
5	演技の基礎④エチュード
6	台本を読む①本読み
7	台本を読む②解釈、シチュエーション
8	台本を読む③動いてみよう！
9	台本を読む④仕上げ
10	学年末成果発表にむけての企画策定
11	学年末成果発表にむけての演習～導入編
12	学年末成果発表にむけての演習～展開編
13	学年末成果発表にむけての仕上げ
14	学年末成果発表模擬公演
15	総括

科目名	ＡＳスタジオワーク　［木2］Aクラス						
代表教員	逢坂　力	授業コード	GE5442A0	科目コード	GE5442	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次で基礎を固める重要な必修授業です。
声優や歌手といった音声表現者の主要な活躍の場はスタジオとなります。
特に、動画作品や海外ドラマ･映画作品の吹き替えではアフレコ専門のスタジオという特異な環境でパフォーマンスを行うため、この講座は実際にスタジオを使用しながらの演習に徹します。
到達目標は、プロとして活動するために必要なマイクワークと声だけで演技をする基本を習得することにあります。

２．授業概要

原則として毎回の授業はASコース専用スタジオで行われる。
各回で使用する台本や設定された題材に基づいて、全員で演習をしていく。
映像教材も活用し、スタジオ機材の操作も含めた学習を行う。
生徒個々の状態に合わせて必要な訓練のアドバイスも行われる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

スタジオワークの授業時間はスタジオを使用して演技の収録を行う発表の場でもあるので、
各回で提示された台本を事前に読み込み発声練習をしておくなど自主練習して臨むことが肝要である。
授業前の自主練習には30分以上の時間が必要であると想定される。

４．成績評価の方法及び基準

平常点は授業へ積極的に参加しているか、学習態度で総合的に判断する。
課題達成度は収録の際、個別の演出に対応した演技ができているかを判断し評価する。
　　平常点　50%　　課題達成度　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

朗読やナレーション題材など、必要に応じて台本が配布される。
また、自ら台本を用意し発表する授業も行われる。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

スタジオの収容人数に限りがあるため、人数に応じて複数クラスを開講することもある。
その場合は各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をし、クラス配分を決定する。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス～スタジオマナーと使用機材解説
2	マイクワーク基礎と発声
3	滑舌練習台本を使用しての発声
4	滑舌練習台本を使用しての録音練習
5	滑舌練習台本を使用しての収録
6	距離感、感情表現の基本
7	マイク前でのアクション演技技術
8	アドリブ演技実践
9	ボイスドラマ台本での演技・キャスティング
10	ボイスドラマ台本での演技・読み合わせ
11	ボイスドラマ台本での演技・収録
12	朗読・ナレーションの表現技法
13	朗読・ナレーション台本を使用しての録音練習
14	朗読・ナレーション台本を使用しての収録
15	収録素材プレイバック・課題確認

授業計画	
	［後期］
1	ボイスオーバー番組演習・登場人物の表現考察
2	ボイスオーバー番組演習・録音練習
3	ボイスオーバー番組演習・収録
4	ボイスドラマ台本での演技・収録
5	映像作品へのアフレコ・キャスティング
6	映像作品へのアフレコ・台本チェック作業と映像確認
7	映像作品へのアフレコ・録音練習
8	映像作品へのアフレコ・完成版収録
9	映像作品プレイバック・課題確認
10	スタジオ演技応用編・別録り（単独収録）
11	音声表現者の自己ＰＲ方法考察
12	ボイスサンプル・素材準備
13	ボイスサンプル・録音練習
14	ボイスサンプル・完成版収録
15	一年の総括と次年度以降への目標設定

科目名	ＡＳスタジオワーク　［金2］Bクラス						
代表教員	田口　宏子	授業コード	GE5442B0	科目コード	GE5442	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次で基礎を固める重要な必修授業です。
声優や歌手といった音声表現者の主要な活躍の場はスタジオとなります。
特に、動画作品や海外ドラマ･映画作品の吹き替えではアフレコ専門のスタジオという特異な環境でパフォーマンスを行うため、この講座は実際にスタジオを使用しながらの演習に徹します。
到達目標は、プロとして活動するために必要なマイクワークと声だけで演技をする基本を習得することにあります。

２．授業概要

原則として毎回の授業はASコース専用スタジオで行われる。
各回で使用する台本や設定された題材に基づいて、全員で演習をしていく。
映像教材も活用し、スタジオ機材の操作も含めた学習を行う。
生徒個々の状態に合わせて必要な訓練のアドバイスも行われる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

スタジオワークの授業時間はスタジオを使用して演技の収録を行う発表の場でもあるので、
各回で提示された台本を事前に読み込み発声練習をしておくなど自主練習して臨むことが肝要である。
授業前の自主練習には30分以上の時間が必要であると想定される。

４．成績評価の方法及び基準

平常点は授業へ積極的に参加しているか、学習態度で総合的に判断する。
課題達成度は収録の際、個別の演出に対応した演技ができているかを判断し評価する。
　　平常点　50%　　課題達成度　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

朗読やナレーション題材など、必要に応じて台本が配布される。
また、自ら台本を用意し発表する授業も行われる。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

スタジオの収容人数に限りがあるため、人数に応じて複数クラスを開講することもある。
その場合は各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をし、クラス配分を決定する。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス～スタジオマナーと使用機材解説
2	マイクワーク基礎と発声
3	滑舌練習台本を使用しての発声
4	滑舌練習台本を使用しての録音練習
5	滑舌練習台本を使用しての収録
6	距離感、感情表現の基本
7	マイク前でのアクション演技技術
8	アドリブ演技実践
9	ボイスドラマ台本での演技・キャスティング
10	ボイスドラマ台本での演技・読み合わせ
11	ボイスドラマ台本での演技・収録
12	朗読・ナレーションの表現技法
13	朗読・ナレーション台本を使用しての録音練習
14	朗読・ナレーション台本を使用しての収録
15	収録素材プレイバック・課題確認

授業計画	
	［後期］
1	ボイスオーバー番組演習・登場人物の表現考察
2	ボイスオーバー番組演習・録音練習
3	ボイスオーバー番組演習・収録
4	ボイスドラマ台本での演技・収録
5	映像作品へのアフレコ・キャスティング
6	映像作品へのアフレコ・台本チェック作業と映像確認
7	映像作品へのアフレコ・録音練習
8	映像作品へのアフレコ・完成版収録
9	映像作品プレイバック・課題確認
10	スタジオ演技応用編・別録り（単独収録）
11	音声表現者の自己ＰＲ方法考察
12	ボイスサンプル・素材準備
13	ボイスサンプル・録音練習
14	ボイスサンプル・完成版収録
15	一年の総括と次年度以降への目標設定

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［月3］Aクラス						
代表教員	森田　順平	授業コード	GE5443A0	科目コード	GE5443Ad	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊声は身体の一部であるという理念をもとに、声を出すための身体の使い方を習得する。
＊「声優である前に俳優たれ」という考えから、感覚を磨き、感情のコントロールを習得し、表現につなげる。
＊リーディングを主とした発表に向けて、その方法とテクニックを習得する。
＊以上で修得した内容とスタジオでの表現の関連性を実践的に学んでいく。

２．授業概要

全て、実技・実習として進めていく。演劇ワークショップ的な進め方になる。
音声表現実習に関しては、フリーフロアで自由に身体を使って学んでもらい、ヴォイスアーティスト演習に関しては、スタジオを利用して、より実践的に学んでもらう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回、次回への課題が必然的に個々に生じていくことになる。そのため自宅等での練習は欠かせない。セリフの暗記などを課することもある。ＤＶＤやデータを持ち帰って、自宅でリハーサルをしてくることも必要。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、その進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、平常点100%で評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

都度都度、必要な素材をコピーして配布する。（戯曲、ドラマ台本など）　スタジオに関しては、実際の作品を使用する。（外画、アニメなど）そのため、必要なDVD などを購入して貰う事が生じる。
推薦図書として、「魅せる声のつくり方」篠原さなえ著（講談社ブルーバックス）を薦める。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習（1クラス目）」「ヴォイスアーティスト演習２（2クラス目）」の3科目は同時に履修すること。「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習１」はフリースペースの教室で行うので、動きやすい服装を用意すること。授業開始までに着替えること。段階を踏んで毎回進展して行くので、欠席をするとその分遅れていくことになる。グループレッスンなどもあるので、協力精神が必要。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	1年次に習得したことの確認と反省。
2	声のコントロール法。
3	声の高低のコントロール。
4	声の距離感のコントロール。
5	声色のコントロール。
6	笑いのテクニック。
7	怒りのテクニック。
8	外画作品を所作を交えて表現する。
9	スタジオ収録の基礎。
10	スタジオ収録の実践。
11	スタジオ収録における演技術の基礎。
12	スタジオ収録における演技術の発展。
13	前期発表会への導入。
14	前期発表会の練習。
15	前期発表会に向けての仕上げ。

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	サイコロジカルジェスチャーの理解と体験。
3	アクターズスタジオのメソード入門。
4	リラクゼーションの基礎。
5	メソードアクティングのエクササイズ（１～７）
6	寸劇を利用した掛け合いの練習。
7	古典劇を利用したセリフ術の練習。
8	オーディオドラマ台本を利用した掛け合いの練習。
9	時代劇のセリフ術の練習。
10	作品を決めてのグループレッスン。
11	スタジオ収録の発展。
12	模擬スタジオ収録。
13	後期発表の導入。
14	後期発表に向けての稽古。
15	後期発表に向けての仕上げ。

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［月3］Bクラス						
代表教員	鈴木　勝美	授業コード	GE5443B0	科目コード	GE5443Bd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・本質を捉えて、レベルの高い言語表現が出来る声優を目指す
・舞台演技を通して身体表現が生まれる言語表現を学ぶ
・自分自身が変わる事を信じて、創造する事を楽しみ舞台上で表現する
・受信力の必要性を知る
・主体の表現が出来る様にする

２．授業概要

・論理的に考え、感じる事で台本（戯曲）を読み取る力を習得する
・知覚する為に授業で他人の演技・科白を見て、聞いて、感じる様にする
・台本に書かれている事を授業を通して、知覚し、本質を捉え創造し、人前で演じる

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・発信力と受信力と読める為に台本（戯曲）をしっかり読む事
・舞台演技なので科白を暗記する事は最低条件

４．成績評価の方法及び基準

・努力のプロセス、個々の進捗状況等を総合的に判断し評価を決定する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・斎藤隆介「ベロ出しチョンマ」をコピーして配布
・前期はコント適時台本をコピーして配布
・後期は戯曲 適時台本をコピーして配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・身体表現をするので動きやすい服装で
・共同作業表現の為、一人一人前向きな姿勢と台本（戯曲）をしっかり読む事
・舞台演技なので、科白の暗記をする事は承知して受講するように

授業計画	
	［前期］ 「ベロ出しチョンマ」のコントの台本を使い舞台表現をする
1	オリエンテーション　5つの目標・4つの約束　本質・知覚・プロセス・創造
2	「ベロ出しチョンマ」1 ・大きな声・明るい声で読む
3	「ベロ出しチョンマ」2 ・鼻濁音・無声化が出来る ・距離感を考える
4	「ベロ出しチョンマ」3 ・TIPを使う ・創造の世界で遊ぶ
5	舞台本読み1 初見で楽しむ
6	舞台本読み2 分析して知覚する
7	舞台荒立ち1 相手との距離感を考えて
8	舞台荒立ち2 相手に科白をしっかり伝える
9	舞台荒立ち3 目線をしっかりつくる
10	舞台立ち1 暗記して動く
11	舞台立ち2 相手の動きを知覚する
12	舞台立ち3 相手の科白を知覚する
13	舞台立ち4 音と照明を考えて
14	舞台通し1 全体の流れを感じて
15	舞台通し2 音と明かりに合わせて

授業計画	
	［後期］ 戯曲を使い舞台表現をする
1	本読み1 初見で台本を読む
2	本読み2 本質を捉えて読む
3	本読み3 キャスティングして本役を読む
4	荒立ち1 相手を知覚して動く
5	荒立ち2 目線をしっかりつくる
6	荒立ち3 呼吸を考えて科白を言う
7	立ち1 科白を暗記して動く
8	立ち2 受信力を高めて表現する
9	立ち3 Tempを考えて表現する
10	立ち4 間を考えて表現する
11	立ち5 舞台空間を意識して科白を言う
12	通し1 全体の流れを感じて表現する
13	通し2 より一層創造的な表現を
14	通し3 音と明かりを合わせて
15	総見・個人面談

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　[火3] Cクラス						
代表教員	堀江　美都子	授業コード	GE5443C0	科目コード	GE5443Cd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊歌うことの楽しさ、素晴らしさを実感できる授業
＊一年時に習得したことを復習しつつ、アニメソングの普遍的な魅力を理解し学ぶ。

＊アニメソングの特色である、多種多様な音楽スタイルに対応できるスキルを習得する。

２．授業概要

アニメソングアーティストを目標とする学生を対象に、アニメソングに特化した授業を進めて行く。発声、ボイストレーニングはピアノ伴奏で行い、課題曲及び自由選択曲ではカラオケを使った授業を行う。またダンスの実習を取り入れ、ステージングの技術の向上をはかる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

歌の表現力を養う上では、日ごろから色々な事柄に関心・興味を持つことが大切である。普段の生活において、それを実践することが必要である。また演奏会などで音楽を体感することも大切である。自宅での歌唱予習復習も欠かせない。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組み方、レポート提出、個々の進捗状況などを総合的に判断し評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ボイストレーニングと発声法については、独自のメソッドで作った資料を配布する。課題曲の楽譜はその都度配布する。成果発表に必要な楽譜については個人で用意して頂きます。(バンドスコア等実費)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年生は初めて選択するゼミとなるので、各自の時間割を勘案して多くの学生に履修して頂きたい。
前期成果発表ステージで揃いのTシャツ製作(実費)有り。
その他、楽器演奏・映像制作編集・カラオケ編集等のスキルを持つ学生はフルにそれを発揮して頂きたい。

授業計画	
	［前期］前期はアニメソング歌唱のための基礎と情報を習得する。
1	年間ガイダンス及び、日本のアニメーションの始まりから現在までの変遷
2	アニメソングの誕生とその音楽性を学ぶ
3	歌の起源と歌が人にもたらす影響、歌の力
4	歌うための基本スタンス、姿勢とウォーミングアップ
5	歌うために必要な筋肉、器官の使い方
6	発声練習　日本語の母音の発音と発声
7	発声練習　テヌート、レガート、スタッカートで歌う
8	発声練習　音節表現の仕方、濁音・鼻濁音の習得
9	発声練習　音符の長さの違いやリズムの違いで歌う
10	発声練習　声域を拡げる。
11	リズム練習　曲にのってリズムを表現する
12	ダンス　振り付けされた曲を踊る
13	アニソン歌手に必要な歌唱技術の習得。創成期から飛躍期迄のアニメソングを学ぶ。
14	前期発表に向けての練習
15	前期発表に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］前期の発声練習を随時行いながら後期発表に向けて総合的パフォーマンスを仕上げる
1	前期で学んだ基本的な歌唱法から現在の代表的なアニメソングを学ぶ。
2	表現力を学ぶ　多種多彩なアニソンを歌唱出来るスキル習得
3	発声練習　バンド等の演奏で歌える声量を付ける。
4	課題曲　アップテンポ曲の歌唱
5	課題曲　バラード曲の歌唱
6	特別研究　キャラクターソングの歌唱法　発声の違いを知る
7	課題曲を素に歌詞やメロディーの表現方法を学ぶ
8	客観的評価力を付ける　他の人の歌を聴く、自分の歌を考える
9	マイクワークやステージングを学ぶ
10	ステージ制作に係わる仕事を知る　音響、照明
11	レコーディングに係わる仕事を知る　ディレクター、エンジニア、アニメ制作会社
12	海外における日本のアニメ、アニソンの魅力を考える。
13	後期発表に向けての総合的パフォーマンス練習。バンドとの練習を通して音楽の楽しさを知る。
14	後期発表に向けての総合的パフォーマンスの仕上げ
15	年間成果の発表　レポート提出

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　[火3] Dクラス						
代表教員	尾田木　美衣	授業コード	GE5443D0	科目コード	GE5443Dd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

いままで学んできた基礎をふり返り、将来プロとして通用する力を身に付けるために、アニメ、外画、ナレーションの実習をする。あわせて舞台の演技のアプローチから声の演技を考察して、応用する。

２．授業概要

教室で基礎練習から応用までを復習。アニメ、外画、ナレーションの収録をスタジオを使って実践。外画はとくに「無声映画」の素材を使い、声優としてのエンターテインメント性の可能性も研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業に参加していない時間をいかに過ごすかが、役者として一番大事なことなので、参加した授業内容を常に復習する心構えを常に持って欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％。
個々のスキルや、進捗状態、授業への取り組み、役者としての心構えなどを総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

表現することを貪欲に学ぼうとする方を望む。

授業計画	
	［前期］ 表現することを基礎からふり返る。 相手に伝えることを大事にして作品をつくりながら、 自らもその楽しさ、喜びを味わう。
1	今までに習得してきたことの確認
2	今までに習得してきたことの実践
3	舞台演技の基礎・身体作り・発声
4	喜怒哀楽を表現する
5	自分の感情・言葉を相手に伝える
6	舞台の演技の技術を声の演技に生かすアプローチ
7	外画（無声映画）のスタジオ実習① 台本の読み込み・キャラクターを掴む
8	外画（無声映画）のスタジオ実習② マイクワーク
9	外画（無声映画）のスタジオ実習③ 録音とレビュー
10	ナレーション・語りのスタジオ実習①原稿の読み込み
11	ナレーション・語りのスタジオ実習② マイクワーク
12	ナレーション・語りのスタジオ実習③録音とレビュー
13	前期の発表会に向けて 題材の読み込み・読み合わせ
14	前期の発表会の配役決め・稽古
15	前期発表会に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］ 声の演技を仕事に生かせるようにより実践的な学習をする。
1	前期のふり返り
2	前期の習得度合いのテスト
3	アニメのスタジオ実習① 台本の読み込み
4	アニメのスタジオ実習② キャラクターを掴む
5	アニメのスタジオ実習③ マイクワーク・ 録音とレビュー
6	長いセリフ・一人語りの考察
7	長いセリフ・一人語りの実践
8	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習① 台本の読み込み
9	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習② ナレーション
10	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習③　ボイスオーバー
11	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習① 総合
12	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習⑤ 録音とレビュー
13	後期の発表会に向けて 題材の読み込み・読み合わせ
14	後期の発表会の配役決め・稽古
15	後期の発表会に向けての仕上げ

科目名	音声表現実習Ｉ－１～Ⅲ－２　[水3] Eクラス						
代表教員	亀井　芳子	授業コード	GE5443E0	科目コード	GE5443Ed	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演技の基礎から応用へ。朗読のレッスンやスタジオ実習を通して、今まで習得してきたことの確認そしてそこからのさらなる飛躍を目指します。声優という分野で活躍するためのスキルを身につけること、また、自分らしい声の表現を探求し見つけていくことが到達目標です。

２．授業概要

朗読の授業では、小説や絵本などを用いて、全員で演習をしていきます。
いろいろな物語の世界を通して、読解力も養っていきます。
スタジオ実習は、外画作品を中心のアフレコ演習を行い、より実戦的に学んでいきます。
どちらの授業も、必要に応じて、個別の指導も盛り込まれます。
期末成果発表も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱った作品は、必ず自宅等で復習することが望ましいです。
また声優には想像力も必要です。日頃からいろいろなことに関心を持ちながら生活しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％
個々のスキルや、進捗状態、授業への取り組み、表現者としての心構えなどを総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時、資料を配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

常に向上心を高く持ち、目標にむかって努力を惜しまない方が望ましいです。

授業計画	
	［前期］声の表現とはを常に考え、探求していく。
1	前期ガイダンス
2	外画作品を使ったスタジオ実習 ①基礎の復習
3	外画作品を使ったスタジオ実習 ②セリフ練習
4	外画作品を使ったスタジオ実習 ③映像と合わせる
5	外画作品を使ったスタジオ実習 ④マイクワーク
6	外画作品を使ったスタジオ実習 ⑤収録とプレビュー
7	前期朗読題材１（導入編） ①演習
8	前期朗読題材１（導入編） ②再チャレンジ
9	前期朗読題材１（展開編） ①演習
10	前期朗読題材１（展開編） ②再チャレンジ
11	前期朗読題材１（応用編） ①演習
12	前期朗読題材１（応用編） ②まとめ
13	前期末発表に向けての企画、導入
14	前期末発表に向けての練習
15	前期末発表に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］自分らしい声の表現を発見していく。
1	後期ガイダンス
2	外画アニメを使ったスタジオ実習 ①セリフの練習
3	外画アニメを使ったスタジオ実習 ②映像と合わせる
4	外画アニメを使ったスタジオ実習 ③マイクワーク
5	外画アニメを使ったスタジオ実習 ④収録とプレビュー
6	外画アニメを使ったスタジオ実習 ⑤まとめ
7	後期朗読題材２（導入編） ①演習
8	後期朗読題材２（導入編） ②再チャレンジ
9	後期朗読題材２（展開編） ②演習
10	後期朗読題材２（展開編） ②再チャレンジ
11	後期朗読題材２（応用編） ①演習
12	朗読題材２（応用編） ②まとめ
13	後期末発表に向けての企画、導入
14	後期末発表に向けての練習
15	後期末発表に向けての仕上げ

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　[水3] Fクラス						
代表教員	石原　慎一	授業コード	GE5443F0	科目コード	GE5443Fd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・声優としてのVoice Performanceにも有効なVocalテクニックの向上を目指し、アニメの世界観を表現し得る表現力を獲得する。
【到達目標】
・歌い手としての基本的な知識や音楽性の基礎を身に付ける。
・声だけを使って表現し得る感情やダイナミズムの可能性を広げ、表情豊かな声の開発を目指す。
・アニソンや声優の仕事に特化した特別な表現能力の向上を目指し、声のスペシャリストとしてのキャリアの醍醐味を発見する。

２．授業概要

＜アニソン歌手の創造-自らを"声"のスペシャリストに育てる人材の必要十分条件＞
アイドル声優もアニソン歌手も、今や若者憧れの花形職業の一つと言われて久しいが、それだけに決して広いとは言えないその職場を取り巻く競争は熾烈を極め、特別な狭き門として激しい競争社会が形成されている。その中にあって自己の表現力という抽象的な能力のみを武器に生き残り、第一線で仕事をし続ける事の厳しさは並大抵ではない。故に、そこを目指す学生は、厳しい競争を勝ち抜いて、自らが求めた表現者としての人生に到達するための確かな自己分析能力と、セルフプロデュースの視点をしっかりと身につけて社会に飛び立って貰いたい。ただやみくもに情熱を抱いたり頑張ってさえいれば結果が出る世界ではない事の厳しさを、実際に声を出し、楽曲と向きあい、作品と対峙する中で、プロフェッショナルな表現者たるには「何が必要か」を確実に見出して欲しい。そしてまた同時に情熱や頑張りこそが大切であることは言うまでもない。本講義では、先ず音楽に関わる基礎的な楽典の知識とリズム感などポップスの表現のコツを身に付けて頂きたい。「感動」には必ずその要因が存在し、それをオーディエンスにもたらす為には心身の習練と確固たるモチベーションが必要であることをその五感で感じられるパフォーマーを育てる、そんな講義にしたいと思っている。向上心ある、ポジティブな思考に溢れた学生の皆さんに是非とも受講していただきたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

講義内で理解できなかった部分は必ず次の講義までにキャッチ・アップして頂きたい。適宜配布する教材の一部を、次の講義までの宿題として自宅で取り組んで頂く事も、必要に応じて課題としたい。講義の内容の特殊な表現能力の研鑽の為に、積極的に他のアーティストのLIVEを観たり、楽曲を鑑賞したり、更には様々な映画や小説、絵画や舞踊、ミュージカルや演劇など、あらゆる表現の場に足を運んで感性を刺激し続ける事は積極的に奨励したい。また、それらの感想を折に触れて取り上げ、ケースワークとして講義に取り入れてもいきたい。

４．成績評価の方法及び基準

・講義への参加度（50%）、実技発表会での技術的な成長度(50%）で評価します。
・講義への参加度としては、基礎的な能力の向上(音域の変化や発声技術の向上、発音や音感の進歩など)を独自に採点し、更に授業への参加姿勢などを加味して評価します。パフォーマンスを発表する機会には、逆に日頃の授業の参加態度には関わらず、出来るだけ純粋に技術的な能力(呼吸・発声・音程・リズム感・表現力など)を採点、積極的にアーティスト(表現者)としての魅力を評価したいと考えています。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（使用テキスト）
・基本的には財団法人ヤマハ音楽振興会発行の「ヴォーカルトレーニング①(ポピュラー・ソルフェージュ)」と「ヴォーカルトレーニング②インターバル編(ポピュラーソルフェージュ)」の編集方針に沿って作曲し直したオリジナルテキストを配布します。習得技術の目標は変えずに、現代のポップスや受講学生の資質、性別などに合わせて作曲し直したオリジナル楽曲を適宜使用しますので、学生には使用テキストの購入の必要は生じません。

（参考図書）
・講義内で個々に取り組む楽曲の参考音源やカラオケ音源の取得、楽譜の製作、取得は必須。.
その他、学生自信が必要と感じた技術の習得に有意義と思われる素材や、作品鑑賞や研究に必要な文献

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Vocalistとしてのアニソン・ヒーローソングアーティストに興味のある皆さん、音楽や演劇など、表現者としての生活にあこがれる皆さんをお待ちしています。技術的な習熟度を条件にしたりクラス分けの基準にしたりする事はありません。ポピュラーヴォーカルの表現力や声優のポテンシャルには一定の決まりがある訳ではありません。才能も確かに重要ですが、モチベーションが高ければ可能性は必ず0ではないのが、この世界の素敵なところですから。自分の魅力をアピールしたい人、自分のセンスを磨きたい人に会える事を楽しみにしています。やる気と努力を惜しまない積極性を重要視したいと思います。ポジティブシンキングは人をしてより早く目標に到達させます。好きなことに立ち向かう積極性を求めます。Ｎｏとは言わないことが上達の近道です。

授業計画	
	前期成果発表に向けて
1	ガイダンス ・授業内容の説明 ・学生へのインタビュー ・自己紹介（自己表現の端緒の発見と個性の発見、適性の度合いを想像する） ・質疑応答（フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める）
2	楽典の基礎① ・ポピュラーヴォーカルの発声のテクニック ・音程と音階（西洋音楽の基礎知識） ・ソロ曲選定①（好きなアニソンアンケート）
3	楽典の基礎② ・ポピュラーヴォーカルにおける呼吸法について ・音程と音階（メジャースケール、マイナースケールの違いと感情への作用の差異） ・ソロ曲選定②（好きなアニソン歌手アンケート）
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認（五線紙に自分の音域を書いてみる。後期との変化の確認の為に） ・発声法の研究①（呼吸法） ・楽曲研究③（アンケートに上がった楽曲や歌手の魅力と個性の研究。ディスカッション）→全体曲選定 課題（自分が取り組むべき楽曲の選曲）
5	発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究②（軟口蓋のストレッチ） ・発表曲の選曲発表（感想をもとにディスカッション） 課題（自分が取り組むべき楽曲の決定）
6	発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究③（舌根の位置） ・決定発表曲の発表（感想をもとにディスカッション） 課題（決定した曲への取り組み。努力目標の設定）
7	発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究④（開口） ・発表曲の歌唱発表（講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント） ・歌唱の録音① 課題（録音を聴きながら、どうすればもっと魅力的な歌唱になるか、自己採点としポートを作成）
8	発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑤（母音法） ・発表曲の歌唱指導①（楽譜の解釈） ・これまでの講義に関する質疑応答
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する小テストの実施① ・小テストの答え合わせと解説 ・小テストの採点を終えての各自の努力目標の発表
10	発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習①（ソルフェージュ） ・発表曲の歌唱指導②（リズムの解釈） 課題（練習曲の移動ドへの読み替え練習）
11	発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・移動ドによる読み替えの実習②（ソルフェージュ） ・発表曲の歌唱指導③（発表曲を移動ドに読み替える） 課題（発表曲を移動ドで歌えるように読み替えを完成させる）
12	発表に向けての楽曲への取り組み⑦ ・移動ドによる読み替えの実習③（母音で歌う） ・発表楽曲の歌唱指導④（ソルフェージュによる歌唱を通して音程のチェックを行う） ・歌唱の録音②
13	発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・歌詞の表現力の確認 ・歌唱録音の①と②の比較検討会 ・発表楽曲の歌唱指導⑤
14	発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・発表楽曲の歌唱指導⑥（総合パフォーマンスチェック） ・クラス内発表
15	前期成果発表会の最終チェック ・最終パフォーマンスチェック（クラス内実技） ・ステージング確認、ランスルー、ゲネプロなど

授業計画	
	後期成果発表に向けて
1	後期授業内容の説明 ・学生へのインタビュー(年度初めとのモチベーションの変化などを中心に…) ・前期発表会の間奏・反省点など発表 ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎③ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎①(ロック) ・コード(和音)の概念 ・全体曲製作①(歌詞を考えてみる) ・全体曲候補を歌ってみる
3	楽典の基礎④ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎②(8ビート) ・和声(ハーモニー)の仕組み ・全体曲製作②(メロディーのモチーフを書いてみる)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。前期との比較) ・発声法の研究⑥(姿勢) ・全体曲製作③(コーラス譜を歌ってみる→ハーモニーの魅力の発見) 課題(後期の発表に於いて自分が取り組むべき楽曲の選曲)
5	後期発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究⑦(地声とファルセット) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(後期の発表に於いて自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	後期発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究⑧(ロングトーンとビブラート) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション)
7	後期発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究⑨(スタッカートと横隔膜) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント)
8	後期発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑩(正しいインターバルで歌う為の発声) ・発表曲の歌唱指導①(楽譜を読み下す力)
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する復讐・質疑応答 ・移動ドの概念の理解度を確認する。 ・それらを総合して並行調と同主調(メジャーとマイナーの関係性)への理解を求める。
10	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習⑥(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導②
11	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・全体曲製作④(1コーラスを完成させる。) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替えて歌唱し、細かい音程チェックを行う)
12	全体曲製作⑤(楽曲の完成からレコーディングへ) ・オリジナルソング発表までのプロセスの確認 ・発表楽曲の歌唱指導④(加えて衣装の選び方、プランを持ち寄りディスカッション) ・パフォーマンス(衣装付き)の録画②
13	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・全体曲・ソロ曲ともに最終確認。 ・ステージング最終確認。 ・発表楽曲の歌唱指導⑤(パフォーマンスアクション)
14	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・最終チェック事項の確認。 ・発表楽曲の歌唱指導⑥(立ち方やアクション、視線のチェックなど魅力的なパフォーマンスの研究)
15	後期の受講を終えて… これまでの講義内容に関する小テストの実施② ・小テストの答え合わせと解説 ・質疑応答

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［木3］Gクラス						
代表教員	篠原　恵美	授業コード	GE5443G0	科目コード	GE5443Gd	期間	通年
担当教員	兵藤　まこ						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次に習得した基礎をふまえた、録音スタジオでの実践編として、アニメ・外画・ボイスオーバー・音声ドラマのアフレコ実習をすることで、声優の技術を磨く。
スタジオでの振舞い、マイクワーク、スピーカーを通しての自身の声の聞こえ方など、プロの声優の仕事を意識し、実践的な能力を身に付ける。

２．授業概要

教室での台本読みと、録音スタジオでのアフレコ実習を繰り返して行う。
アフレコ後には試聴を行ない、分析検討する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中以外の時間も高い意識をもって反復しないと身に付かないので、授業後には必ず復習を行い、次回の授業に向けて問題点・疑問点を解決する心構えを持つ。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

プロフェッショナルな声優の現場を想定した実践的な授業なので、意識が高い学生を望む。

授業計画	
	［前期］ マイクの前で芝居をすることの意義やその方法論を、様々な体験を通して学習してゆく。 前期担当教員：篠原恵美
1	前年度までに習得したことの確認
2	アニメスタジオ実習Ⅰ①／立ち稽古
3	アニメスタジオ実習Ⅰ②／マイクワーク
4	アニメスタジオ実習Ⅰ③／録音とプレビュー
5	外画スタジオ実習①／立ち稽古
6	外画スタジオ実習②／マイクワーク
7	外画スタジオ実習③／録音とプレビュー
8	アニメスタジオ実習Ⅱ①／立ち稽古　仕上げ
9	アニメスタジオ実習Ⅱ②／マイクワーク　仕上げ
10	アニメスタジオ実習Ⅱ③／録音とプレビュー　仕上げ
11	前期発表会の練習①／本読み
12	前期発表会の練習②／役の振り分け
13	前期発表会の練習③／役の解釈・表現を深める為の稽古
14	前期発表会の練習④／ステージング
15	前期発表会本番に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］ 個々の才能を分析し、それぞれに合った役柄で表現力を高めてゆく訓練と、様々な現場に対応出来る能力を身につける。 後期担当教員：兵藤まこ
1	ラジオドラマのシナリオでキャラクターの分析と読解力を養う
2	ラジオドラマの通し稽古とスタジオ収録
3	海外アニメのシナリオでキャラクターの分析と読解力を養う
4	海外アニメのスタジオ収録
5	画像のタイムコードに合わせたナレーション訓練
6	画像のタイムコードに合わせたナレーション収録
7	海外テレビドラマのシナリオでキャラクターの分析と読解力を養う
8	海外テレビドラマのスタジオ収録
9	日本のアニメの台本でキャラクターの分析と読解力を高める訓練
10	日本のアニメのスタジオ収録
11	後期成果発表作品の収録準備
12	後期成果発表作品の収録
13	後期成果発表作品の収録　録音と編集の確認
14	後期成果発表の総仕上げ
15	後期成果発表の反省

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［金3］Hクラス						
代表教員	宇治川　まさなり	授業コード	GE5443H0	科目コード	GE5443Hd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
プロの現場で通用する表現者としての技術と人間性の獲得を目指す。
個人個人に向き合った演出家だからできる実践指導を行う。

【到達目標】
・演技者としての専門的分析力、理解力・体現力を身につける。
・演技・声優・歌手・ダンスに共通する確かなパフォーマンス力を体得する。
・自己を表現者として演出する能力・センスを獲得する。

２．授業概要

現在、2.5次元舞台作品で大人気の「あんさんぶるスターズ！」を教材に、演技、歌、ダンスの表現方法、パフォーマンス力を演出家自らの実践指導を通して身につけていく。

ゼミクラスならではの個人に根ざした演技指導を用いながら進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で課題となる台本のセリフ、動き、歌、ダンスなど含め自主的な練習を必ず行い授業に参加するよう心がける。
さまざまな舞台、映画、アニメ、ドラマなどを見て、自身の実践力と照らし合わせ訓練、学習を怠らない。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度と意識（60%）・成果発表に至る成長、取り組み方(40%)を見て評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

現在人気舞台2.5次元作品「あんさんぶるスターズ！オンステージ」台本を使用する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・音声表現実習（３限）
・ヴォイスアーティスト演習（４限）
・ヴォイスアーティスト演習（５限）
以上の３科目を同時に履修してください。必ず稽古着で行います。
台本などを使用して実践的な訓練、演出を付けていきますので欠席をすると遅れてしまいます。
シーン稽古も行なっていきますので、同じ出演シーンの人に迷惑が掛からないようプロとして通用する意識を持って参加してください。
※発表の際には、2.5次元作品では衣装、ウィッグが必要になります。履修者の方で準備をしていただきます。　（衣装、ウィッグをどこまで使用するかは授業内で決定します）

授業計画	
	【前期】 演技の基本技術、表現力、パフォーマンス力を身につけられるよう訓練を行う。 2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	各人のモチベーションや演技演劇に対する意識を確認。 個人個人の目標、希望、夢などを理解出来るようコミニュケーションをとる。 授業の概要と学習計画を理解する。 前期演目DVD鑑賞
2	2.5次元作品についての理解と学習 台本の分析 配役オーディション
3	演技・歌・ダンス基本訓練① 舞台台本を用いて実践的アプローチ ・本読み、台本の解釈、役の解釈について学ぶ ・キャラクター衣装、小道具についても考える
4	演技・歌・ダンス基本訓練② ・演技（役の解釈・配役本読み） ・歌唱練習（楽曲・譜面確認） ・ダンス基本練習
5	演技・歌・ダンス基本訓練③　（感情の扱いについての理解） ・シーン作り（演出指導：オープニング～起） ・歌唱練習（表現の工夫・役の歌唱方を練習） ・ダンス振付（課題曲①）
6	演技・歌・ダンス基本訓練④　（動き（ミザンス）の理解と研究） ・シーン作り（演出指導：承①） ・歌唱練習（課題曲①） ・ダンス振付（課題曲②）
7	演技・歌・ダンス基本訓練⑤（行為、行動について） ・シーン作り（演出指導：承②） ・歌唱練習（課題曲②③④） ・ダンス振付（課題曲③）
8	演技・歌・ダンス基本訓練⑥（役の関係性の分析体現） ・シーン作り（演出指導：承③） ・歌唱練習（課題曲⑤⑥⑦） ・ダンス振付（課題曲④⑤）
9	演技・歌・ダンス基本訓練⑥（台詞の緩急強弱の扱いを習得） ・シーン作り（演出指導：転①） ・歌唱練習（表現の掘り下げ） ・ダンス振付（課題曲⑥⑦）
10	演技・歌・ダンス基本訓練⑦（流れでの稽古） ・シーン作り（演出指導：転②　結末） ・歌唱表現（キャラクター歌唱表現・技術の確認） ・ダンス表現（見せ方・肉体の使い方の工夫）
11	演技・歌・ダンス基本訓練⑧（自らの課題の抽出） ・シーン作り（流れでの稽古・前半） ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
12	演技・歌・ダンスの基本訓練⑨（発表時を想定した稽古） ・シーン作り（流れでの稽古・後半） ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
13	前期発表への試演（自らの課題の抽出） ・衣装、小道具などの決定装着 ・流れでの全体止め通し
14	前期発表時への通し稽古 ・演技、歌、ダンスの表現掘り下げ
15	前期発表会に向けての最終通し稽古 ・全体の理解度・習熟度を確認 ・仕上げとまとめ ※各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	【後期】前期での反省点と新たな目標の確認 表現の基本技術を前期に引き続き身につけられるようレベルアップの訓練を行う。 前期に引き続き、2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	前期の各自の課題を確認 後期の学習計画を理解 ・後期演目DVD鑑賞
2	演技・歌・ダンス応用訓練①（喜怒哀楽の応用） ・後期台本、役作りの理解 ・後期キャスティングについて
3	演技・歌・ダンス応用訓練②（物語の概要、背景、関係性を深める） ・歌唱訓練（課題曲８・９）楽曲の理解 ・ダンス基本訓練
4	演技・歌・ダンス応用訓練③（行動の演出分析） ・前半シーン創り（演出指導：起）　基本的な役の振舞い、行動の理解表現 ・歌唱訓練（課題曲１０・１１）楽曲の理解・音取り ・ダンス振付（課題曲８・９）
5	演技・歌・ダンス応用訓練④（シーンのテンポを理解及び表現） ・前半シーン創り（演出指導：承①） ・歌唱訓練（課題曲１２・１３） ・ダンス振付（１０・１１）
6	演技・歌・ダンス応用訓練⑤（シーンのテーマ分析と行動の成立） ・中盤シーン創り（演出指導：承②） ・歌唱訓練（課題曲１４・１５） ・ダンス振付（課題曲１２・１３）
7	演技・歌・ダンス応用訓練⑥（シーンにおける存在の仕方） ・中盤シーン創り（演出指導：転①） ・歌唱指導（旋律性質、リズムの習得） ・ダンス振付（課題曲１４・１５）
8	演技・歌・ダンス応用訓練⑦（全体中での役割を理解と体現） ・中盤シーン創り（演出指導：転② 結末） ・歌唱訓練（歌詞への理解、技術、表現の体得） ・ダンス振付（振付の理解、技術、体現の体得）
9	後期発表作品創り（前半部分） 作品前半部分の演技・歌・ダンス全てにおいて個人課題の克服。 自主的な役についてのアイディアを発信する作業。
10	後期発表作品創り（中盤部分） 作品前半部分の演技・歌・ダンス全てにおいて個人課題の克服。 自主的な役についてのアイディアを発信する作業。
11	後期発表作品創り（後半部分） 作品前半部分の演技・歌・ダンス全てにおいて個人課題の克服。 自主的な役についてのアイディアを発信する作業。 ・役衣装、小道具の準備
12	後期発表への通し稽古１ ・全体の流れ把握、個人においての課題箇所の改善克服
13	後期発表への通し稽古２ シーンにおける成立の分析。 演技、歌、ダンスの習熟。
14	後期発表への通し稽古２（物語・感情の流れの確認） 音楽、衣装など含めた総合的な物語の流れの成立
15	一年間の成長と反省と今後の目標確認 ※各回の授業内容は、進度により変更することがある。

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［金3］Jクラス						
代表教員	石川　光太郎	授業コード	GE5443J0	科目コード	GE5443Jd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優として幅広い仕事に対応するために、フリートーク、プレゼン、ナレーション、インタビュー能力を身に着ける。
リポート能力を習得し発表に向けて、ＶＴＲを制作する。
ナレーション、朗読を通して、文章を読む力を身に着ける。
カメラ、スタジオでの実践を通して学んでいく。

２．授業概要

実技・実習として進めていく。
リポーター、出演者、制作者などを自分たちで決め、発表につなげる。
ナレーション、朗読では実際の作品を使用し、録画したＶＴＲを確認することで、自分の読み方を第三者の視点から検証する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リポートＶＴＲを制作するにあたり、自分で内容を考え構成、コメントを作成したり、ナレーションや朗読において、課題原稿を自宅で練習することも不可欠である。発声、発音、滑舌の練習などは常に自分で鍛錬する。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進捗状況、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、必要な素材を配布する。（ナレーション、朗読原稿など）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

協力してＶＴＲを制作することになるため、欠席をすると他者に迷惑をかけるとともに、全体的に授業の進行が遅れていくことになる。授業冒頭には軽い発声、滑舌稽古をするため、動きやすい服装での参加が望ましい。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	自己紹介、自己ＰＲ。ガイダンス。
2	発声、発音、アクセントなど言葉の基礎について
3	写真から創る物語
4	カメラ実習を行うにあたって必要なこと。題材設定、構成作成
5	カメラリポート実習①　リポートの解釈
6	カメラリポート実習②　マイクの使い方
7	カメラリポート実習③　カメラワーク
8	カメラリポート実習④　録画と視聴
9	インタビュー実習①　　相手の話を聞く
10	インタビュー実習②　　質問項目の整理
11	インタビュー実習③　　何を聞きだすか？
12	ナレーション、朗読実習①　文章の構成
13	ナレーション、朗読実習②　音の動きを知る
14	前期成果発表の練習
15	前期成果発表への仕上げ

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	グループ分けをし、制作発表に向けての準備
3	題材選び、構成制作、役柄決め
4	リポート制作の準備、グループごと
5	リポート制作①　　リポーター、出演者としての心構え
6	リポート制作②　　カメラワークと構成確認
7	リポート制作③　　音入れ、編集
8	映像での寸劇表現①　　立ち位置の確認
9	映像での寸劇表現②　　会話の重要性を学ぶ
10	映像での寸劇表現③　　録画、確認
11	ナレーション、朗読実習①　　文のかたまりで読む
12	ナレーション、朗読実習②　　文章の意味を考える
13	ナレーション、朗読実習③　　情感を込めて読む
14	後期成果発表の練習
15	後期成果発表への仕上げ

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　[月3] Kクラス						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GE5443K0	科目コード	GE5443Kd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊制作する事の楽しさ、素晴らしさを実感する。

＊チャンスは常に同じ環境で発生するとは限らない。特定の環境のみでしか制作活動が出来ないという訳ではなく、幅広い環境で活動出来る様、知識とテクニックを習得する。

２．授業概要

様々な活動の仕方がある現代において、アーティスト自身がコンテンツを制作出来ることは大きな武器となる。
また、自身の表現を形にしていく過程には成長する糧がたくさんある。
それらを自ら行い発信していけるクリエイティブなアーティストを目指し、スキルを身につけると共に新たな楽しさを発見していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

制作を行うに当たって、その時間内以外にアイディアを形にしていく取り組みが必要になる。
またそれぞれの制作物の内容により、必要となるスキルや、過程が前後する場合もあるので、その都度自ら調べ深めていく習慣も必要となる。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組み方、レポートやデータの提出、個々の進捗状況などを総合的に判断し、平常点100%で評価を決定する。
また共同作業においてはグループメンバーに頼りきらず自らも行動していけているかどうかについても判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ノートパソコンを持っていることが必要。
購入の際は各自で購入せず、授業にて必ず相談しに来る事。（スペックや相性により使えない事がある為）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	これまで習得してきたことの確認
3	きちんとしたリスニング方法、および環境構築
4	他のDAWとの連携（様々な条件に対応した書き出し方法）
5	波形編集のコツ
6	音源の仕組み
7	エフェクタについて　（イコライザ、フィルタ）
8	エフェクタについて　（コンプレッサー、リミッター）
9	エフェクタについて（ディレイ、リバーブ）
10	プリセットについて
11	コード入門
12	MIDIデータの編集テクニック
13	簡易的なスコアの作成方法
14	オンラインシステム
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	前期制作課題の個別確認。
2	ピアノについて
3	ギター,ベースについて
4	ドラムについて
5	作るときの都合・仕上げるときの都合
6	色々なRecordingの流れ
7	ピッチ修正（ProToolsの機能を使用）
8	ピッチ修正（サードパーティ製品を使用）
9	Mixingの流れ
10	Masteringの流れ
11	テレビや舞台で起こっている不思議（仕組み）
12	知っていると演技しやすくなる裏事情（仕組み）
13	ライブでの同期システムについて
14	AIについて
15	後期のまとめ

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　[火3] Lクラス						
代表教員	松本　梨香	授業コード	GE5443L0	科目コード	GE5443Ld	期間	通年
担当教員	柴田　新						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌うためのテクニックとして、様々な呼吸法や発声・発音法がありますが、それらを会得するために何が必要なのか一緒に探求していきましょう。歌い方に正解はありません。ただしプロの表現者になるために最低限必要なメソッドがあります。声という音の伝達量と伝達速度の調整が重要になります。これらを向上させるために体幹を知る必要があります。体幹を知るということは己を知るということです。そして、己を知るということは・・・？そんなことを探求しながら心と技術を磨いていきます。

２．授業概要

アニメソング、特撮ソングを歌い上げることのトレーニングはもちろんのこと、キャラクターソングと呼ばれる、いわゆる演じた声のままメロディーに乗せる歌がアニメの現場では求められます。声帯模写ともいえるこの技術を会得することで活動の幅はグンとひろがります。熱唱と模唱、通常のポップアーティストとは一線を画す世界が体験できます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

エンターテインメントにおける情報(音楽コンサート、映画、舞台等）は貪欲に吸収してください。発声と演技表現のメソッドにおける課題に対応するための予習と復習は適宜行ってください。目に見えるもの、すべてはメッセージです。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業参加姿勢（20%）、技術成長度（30%）、そして課題達成度（50%）を目安に総合的に判断して評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

松本梨香作による絵本や実際に舞台で使用した台本や楽譜をコピーして配布します。生徒それぞれが所有する書籍や音源を使用してレッスンします。その他必要に応じて資料を配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服と靴を用意して臨んでください。また、睡眠は十分にとり声帯のチェックは日々注意して管理してください。そして、自分自身と向き合い、表現することの楽しさと厳しさをつかんでください。１００%元気な自分を感じてください。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	表現者として必要なこと／心と身体の在り方
3	歌うために必要なこと／楽曲分析（テーマソング歌唱のための解説）
4	歌うために必要なこと／楽曲分析（キャラクターソング歌唱のための解説）
5	演じるために必要なこと／シナリオ分析（奥行きのある演技のための解説）
6	目標の設定と実践指導
7	実践演習-Ⅰ（テーマソング歌唱）
8	実践演習-Ⅱ（キャラクターソング歌唱）
9	実践演習-Ⅲ（声優技術：朗読、アフレコ、吹替え、ボイスオーバー等）
10	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備① 内容の検討＆決定
11	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備② 稽古（本読み、歌稽古）
12	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備③ 稽古（歌稽古、立ち稽古）
13	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備④ 稽古（立ち稽古）
14	発表会準備⑤ 稽古（ステージング）
15	発表会準備⑥ 総まとめ（通し）

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス／前期リフレクション
2	目標の設定と実践指導
3	実践演習-Ⅰ、Ⅱ（テーマソングとキャラクターソング歌唱） ／ 前期課題克服度確認
4	実践演習-Ⅲ （声優技術）／ 前期課題克服度確認
5	実践演習-Ⅳ （仕上げ）／ 前期課題克服度確認
6	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備①内容の検討、オーディション・ガイダンス
7	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備②内容の決定、オーディション
8	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備③キャスト・スタッフの決定
9	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備④稽古（本読み・音楽稽古）
10	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑤稽古（音楽稽古・立ち稽古）
11	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑥稽古（立ち稽古）
12	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑦稽古（ステージング他）
13	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑧最終チェック（衣装他）
14	発表会準備⑨総まとめ（通し）
15	発表会準備⑩ゲネプロ（最終チェック）

科目名	音声表現実習Ⅰ－１～Ⅲ－２　［木3］Mクラス						
代表教員	速水　けんたろう	授業コード	GE5443MO	科目コード	GE5443Md	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

表現者としてプロフェッショナルを目指す上で必要なことを理解し、様々なジャンルに対応出来る歌唱力（音程、リズム感、表現力）やその他のスキルアップを図る。
自分の枠だけにとらわれず常に周りに眼を向ける意識を養う。

お互いに協力し合って一つのステージを一緒に創り上げる苦労と喜びを体感しよう！

２．授業概要

歌のお兄さん、お姉さんの司会進行による音楽番組の制作。
つまりそこには司会者、色んなジャンルの歌手、ディレクター、AD、カメラマン、メイク担当などの配役があり、歌唱力・演技力のいずれも求められるとの観点から個々それぞれが自己分析をし、かつ意見の交換をしながらスキルの習得を図る。
歌唱においては、ピアノによる基本的な発声練習を毎回授業に取り入れ、課題曲をカラオケ音源で歌唱し表現力アップを目指す。
演技においては、台本資料を使用してセリフやナレーション実習を行い演技力アップを目指す。
ステージを創る上でダンスも必要であると考えられるので、時にはダンス実習を行うこともある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

目標に向けて課題をこなしていく上で、歌唱課題の音取りや台詞のチェック、振り付けの確認など日々の予習や復習に取り組んでおくことが大事。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組む姿勢、個々の進歩度合いなどから総合的に判断し評価とする（１００％）。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

課題に応じた資料をその都度配布する。

参考文献『絶対うまくなる　目的別ヴォイス・トレーニング』（著：高田三郎）等

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

やる気のある人、明るく元気な人、もしくは明るく元気な人になりたいと思っている人あつまれ‼

歌の得意な人もそうでない人も、トークや演技の得意な人もそうでない人も、協調性があって粘り強く最後まで諦めずに頑張れる人を求む。

適材適所を見極め基本的に話し合いで決めるが、場合によっては指名することもある。

授業計画	
	歌のお兄さんお姉さんが司会進行をする音楽番組の公開放送!!
1	ガイダンス、自己紹介（得意なもの、やりたいことなど）
2	（前期課題）ステージ構成の確認、及び配役の選定（歌手、司会者、スタッフなど）
3	（前期課題）全体合唱曲の選曲及び決定、個人歌唱の選曲及び決定 スタッフなどその他の配役の決定
4	（前期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、振付の確認及び練習
5	（前期課題）スタッフなどその他の配役のセリフ及び動きの確認、全体合唱曲の練習
6	（前期課題）個人歌唱の練習、ステージ上で使用する映像及び後期発表に向けての舞台裏映像の打ち合わせ
7	（前期課題）ステージ上で使用する映像及び後期発表に向けての舞台裏映像の最終打ち合わせ、全体合唱曲の練習及び振り付けの確認、スタッフなどその他の配役の練習
8	（前期課題）ステージ上で使用する映像及び後期発表に向けての舞台裏映像の確認、個人歌唱の練習
9	（前期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、スタッフなどその他の配役の練習
10	（前期課題）個人歌唱の仕上げ、全体合唱曲の仕上げ、スタッフなどその他の配役の仕上げ
11	（前期課題）ブロックリハーサル前半①後半①、照明プラン打ち合わせ 各場面におけるBGMの打ち合わせ
12	（前期課題）ブロックリハーサル前半②後半②、照明プラン最終確認 各場面におけるBGMの最終確認
13	（前期課題）ブロックリハーサル前半③後半③
14	（前期課題）通しリハーサル①、通しリハーサル②
15	（前期課題）ゲネプロ①、ゲネプロ②

授業計画	
	前期のステージ”音楽番組の公開放送”の舞台裏を含めた”音楽番組の公開放送２”
1	前期の反省と改善点の確認
2	（後期課題）ステージ構成の確認、及び配役の選定（歌手、司会者、スタッフなど）
3	（後期課題）全体合唱曲の選曲及び決定、個人歌唱の選曲及び決定 スタッフなどその他の配役の決定
4	（後期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、振付の確認及び練習
5	（後期課題）スタッフなどその他の配役のセリフ及び動きの確認、全体合唱曲の練習
6	（後期課題）個人歌唱の練習、ステージ上で使用する映像及び前期舞台裏映像の打ち合わせ
7	（後期課題）ステージ上で使用する映像及び前期舞台裏映像の最終打ち合わせ、全体合唱曲の練習及び振り付けの確認、スタッフなどその他の配役の練習
8	（後期課題）ステージ上で使用する映像及び前期舞台裏映像の確認、個人歌唱の練習
9	（後期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、スタッフなどその他の配役の練習
10	（後期課題）個人歌唱の仕上げ、全体合唱曲の仕上げ、スタッフなどその他の配役の仕上げ
11	（後期課題）ブロックリハーサル前半①後半①、照明プラン打ち合わせ 各場面におけるBGMの打ち合わせ
12	（後期課題）ブロックリハーサル前半②後半②、照明プラン最終確認 各場面におけるBGMの最終確認
13	（後期課題）ブロックリハーサル前半③後半③
14	（後期課題）通しリハーサル①、通しリハーサル②
15	（後期課題）ゲネプロ①、ゲネプロ②

科目名	ＡＳアンサンブル実習 Ⅰ ［木3］						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE544900	科目コード	GE5449	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの学年全体が一同に会する授業である。学年毎に自主的にプロジェクトを企画・運営していく、イベント制作の拠点となる。他者とのコミュニケーションの能力、社会性、積極性等が問われる場にもなる。最終的な到達目標は、社会人としての基本的な行動様式を身につけ、イベント、放送現場、制作現場等で活躍できるスキルを身に付けることである。

２．授業概要

学生の自主性をできるだけ尊重しながら授業を進めていく。実際に実現可能なプロジェクトの概要策定、企画立案、準備活動、実施・運営、反省・総括といったプロセスを経験していく過程で、学外への訪問や活動を展開することもある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リサーチ、準備、練習、等々で自主的な予習や復習に相当する活動が必要になってくるので、履修者は自覚をもって発声の基礎トレーニング、滑舌練習、台本の読み込み等を励行すること。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の継続的な鍛練が極めて重要なので、学習態度を重要視する（１００%）。その上で、プロジェクト遂行の中での提案力・発言力・企画力・実行力、等の面での能力の発揮の評価を加味していく。年度末に学習内容と習得スキルについての自己判断をまとめたレポートを提出してもらい、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて指示、あるいはレジュメ、台本の配布を行う。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学年毎の１クラスの設定とする。学年全体のコミュニケーションの場にもなるので、社会性を認識しながら履修に臨んでいただきたい。

授業計画	
	［前期］　学生による自主的な企画立案に基づく授業の展開になるので、具体的な内容を詳細にわたって提示することは困難だが、１年目のモデルケースとして授業計画を記す。
1	前期ガイダンス
2	前期プロジェクト内容の検討
3	前期プロジェクトの策定
4	企画運営体制の構築
5	企画運営体制の決定
6	自主イベントの企画立案
7	自主イベントの運営会議
8	自主イベントの準備
9	「読み聞かせ実習」の取り組みについて
10	「読み聞かせ実習」の演習
11	前期成果発表の取り組みについて
12	前期成果発表の導入
13	前期成果発表の演習
14	前期成果発表の仕上げ
15	前期の総括

授業計画	
	［後期］後期成果発表を含むプロジェクトを、演習形式で展開する。
1	後期ガイダンス
2	後期プロジェクトの内容の検討
3	後期プロジェクトの策定
4	プロジェクト①の導入
5	プロジェクト①の演習
6	プロジェクト①の仕上げ
7	プロジェクト②（例：バレエコラボ公演）の取り組みについて
8	プロジェクト②（例：バレエコラボ公演）の導入
9	プロジェクト②（例：バレエコラボ公演）の演習
10	プロジェクト②（例：バレエコラボ公演）の仕上げ
11	後期成果発表の取り組みについて
12	後期成果発表の導入
13	後期成果発表の演習
14	後期成果発表の仕上げ
15	総括

科目名	ＡＳアンサンブル実習II　[金2]						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE545000	科目コード	GE5450	期間	通年
担当教員	亀井　芳子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	「ＡＳアンサンブル実習I」 の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコース 2年生全体が集まる授業である。年間スケジュールにそって自主的にプロジェクトを企画・運営していく、イベント制作の拠点となる。他者とのコミュニケーションの能力、社会性、積極性等が問われる場にもなる。最終的な到達目標は、１年次に習得した内容に加え、イベント、放送現場、制作現場等で細やかに配慮できる姿勢も身に付けたい。

２．授業概要

学生の自主性をできるだけ尊重しながら授業を進めていく。年間スケジュールにある２年生主体のイベントを中心に、実際に実現可能なプロジェクトの概要策定、企画立案、準備活動、実施・運営、反省・総括といったプロセスを経験していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

準備、練習等、自主的な予習復習に相当する活動が必要になってくるので、履修者は自覚をもってそれらを励行すること。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の継続的な鍛練が重要なので、学習態度で評価する(100%)。その上で、授業中での提案力・発言力・企画力・実行力、等の面での能力の発揮の評価を加味していく。年度末に学習内容と習得スキルについての自己判断をまとめたレポートを提出してもらい、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて、教員より配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学年毎の１クラスの設定とする。学年全体のコミュニケーションの場にもなるので、社会性を認識しながら履修に臨んでほしい。

授業計画	
	《前期》基本、学生による自主的な企画立案に基づく授業の展開になるが、後期中に予定されている「オーケストラwithナレーション」の実習が多くなると見込まれる。
1	前期ガイダンス
2	前期プロジェクトの内容の検討
3	前期プロジェクトの策定
4	企画運営体制の構築
5	企画運営体制の決定
6	自主イベントの企画立案
7	自主イベントの運営会議と準備
8	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の概要説明
9	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の取り組みについて
10	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の導入
11	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の配役別演習
12	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の配役選定
13	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の演習
14	プロジェクト①（例：オーケストラwithナレーション）の仕上げ
15	前期の総括

授業計画	
	《後期》後期成果発表を含むプロジェクトの演習、運営を中心に展開する。
1	後期ガイダンス
2	後期プロジェクトの内容の検討
3	後期プロジェクトの策定
4	プロジェクト②の導入
5	プロジェクト②の演習
6	プロジェクト②の仕上げ
7	プロジェクト③（例：フリートーク）の導入
8	プロジェクト③（例：フリートーク）の演習
9	プロジェクト③（例：フリートーク）の個別指導
10	プロジェクト④（例：自己PR）の演習
11	プロジェクト④（例：自己 PR）の個別指導
12	後期成果発表の導入
13	後期成果発表の演習
14	後期成果発表の仕上げ
15	後期の総括

科目名	ＡＳアンサンブル実習III　[月2]						
代表教員	山下　順子	授業コード	GE545100	科目コード	GE5451	期間	通年
担当教員	安士　百合野						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	「ＡＳアンサンブル実習II」 の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコース３年生全体が集まる授業である。着ぐるみ人形朗読劇を協同して作り上げていく体験を通し、他者とのコミュニケーション能力、自己と集団の表現力を磨く。具体的には将来の現場の仕事を想定して、人形の動きに合わせた声の表現の習得。声主体の表現、朗読劇に必要な人形操作の体験。両方からのアプローチを試みる。
舞台表現としての劇づくりを通して演技の基本を身につける。すなわち他者（相手役、もしくは人形）との対話を訓練する。どのようなキャラクターが、どういう体の状態で発語したセリフかを考え練り上げる。すなわち心（感情）、頭（何をどのくらい考えているか）、身体の状態に即した、体現する声の習得。「生きた言葉をしゃべる。シチュエーションの中でしゃべる。」「セリフが相手役にかかること。声の表現には対象と距離があるということ。」「会話のキャッチボール。相手役のリアクション、表情に影響を受けて自分の発する言葉は出てくるのだということ。」それらが演技者のアンサンブル能力であることを理解し習得する。

２．授業概要

日本の代表的絵本のひとつ『ぐりとぐら』を着ぐるみ人形による音楽朗読劇化する。本読み、オーディション、配役決定、舞台セッティング練習、人形着用・操作練習、朗読・合唱リハーサル、朗読・合唱と人形劇との合わせ稽古、SE/MEとの合わせ稽古、小道具稽古、通し稽古、総括という進行。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：台本を繰り返し読む。読みながら演技のアイディアを想像する。キャラクターと状況にあった声を想像し練習する。セリフ・歌を覚える。なぜそのセリフを発するのか、どういう状況で発するのかを考え個人練習する。きっかけを覚える。グループ自主練習。

復習：授業で行った内容を思い出しながら個人練習、並びにグループ練習しておく。授業でうまくいかなかったところは必ず克服しておく。常に新たな発想をつけたしておく、これが次回授業の個人目標となる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内発表および上演での表現力）評価の50%。
授業への参加姿勢（熱意、授業態度）評価の50%。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『ぐりとぐら』中川李枝子文・大村百合子絵（福音館書店）による台本。『ぐりとぐら』中川李枝子文・大村百合子絵（福音館書店）とそのシリーズ。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装着用のこと。パネルセットの運搬、組み立て、人形運搬が５月以降毎回の授業で行うため、各自軍手を用意すること。着ぐるみ人形に配役された場合、茶色のさらし布を各自用意すること、詳細後日説明。
集団創作（劇づくり）を通して協働精神を養い、コミュニケーション能力の向上をはかり、集団劇の魅力やその効果、1人では体験できない効果を共同体験し、感受する意欲をもって授業に臨むこと。
演技者、朗読以外に合唱、演出助手、音響、舞台スタッフとしての履修もあり。キャスト、朗読、合唱、スタッフのグループ分けは希望調査後、オーディションにて決定。

授業計画	
	［前期］ 劇全体の流れを、キャラクターによる声の表現、人形操作も含め身体全体の表現として習得。
1	ガイダンス、コミュニケーションシアターゲーム、本読み（劇全体の流れを理解する）。 上演DVD鑑賞。 オーディション・スタッフ説明。
2	準備体操、発声。 着ぐるみ人形オーディション。 キャスト・スタッフ希望調査。
3	小動物人形操作練習（自分が興味を持って生命を吹き込むことのできる人形を探す。実際に動かしてみる。人形の可動性をかんがみオリジナルな表現を想像する）。 小動物、ナレーター、オーディション。
4	キャスティング発表。 本役で本読みＡ・Ｂグループ。 着ぐるみ人形フィッティング。 小動物人形操作練習①「登場、歩く、しゃべる、退場」。
5	舞台セッティング①基礎編。 小動物人形操作練習②Aグループ「パネルの上での動きの考案」。 着ぐるみ人形着用練習Aグループ「キャラクターで歩く」。Bグループ朗読稽古「動物に合わせてセリフをしゃべる」。
6	舞台セッティング②習熟編。 小動物人形操作練習③Bグループ「パネルの上での動きの考案」。 着ぐるみ人形着用練習Bグループ「キャラクターで歩く」。Aグループ朗読稽古「動物にあわせてセリフをしゃべる」。
7	舞台セッティング③自立編。 合唱練習基礎編Ａ・Ｂグループ。 人形操作と朗読（マイク使用）の稽古Aグループシーン１から３．宿題、振付考案。
8	合唱練習習熟編。 振付決定M３,M１５。 人形操作と朗読（マイク使用）の稽古Bグループシーン１から３「森の状況を感じる、ぐりとぐらのアンサンブル」
9	振付復習M３,M１５（全員習得）。 Aグループシーン４から６「全動物登場位置と動きの習得。 カステラ配布の段取りの習得」。 朗読のマイク香盤表作成のための動きの整理。
10	Bグループシーン４から６「Aグループで練習したことがBグループでも同じようにできるように習得。 劇のクライマックスに向けて動物の登場の状態、カステラ完成への期待のふくらみがシーンで表現できるようにする」。 朗読、マイク香盤表作成。
11	Aグループシーン７から９「クライマックスの歌と踊りの習得。帰っていく順番の把握。ナレーターの客との対話。たまご車動線確認」。 作成したマイク香盤表でうまく進行できるか確認、修正。
12	Bグループシーン７から９「Aグループで練習したことがBグループでもできるか確認。登場する動物の誰がセリフを言っているのかわかりやすくするための練習」。 マイク香盤表確認。
13	Aグループシーン１０．歌のお兄さんとお姉さんのプロローグづくりABグループ。 マイク香盤表決定。
14	Bグループシーン１０「カーテンコールと劇の終わらせ方の習得」。Bグループ止めながら通し、プロローグ～シーン１０．
15	Aグループ止め通し、プロローグ～シーン１０．全員が劇全体の流れと各自の動線を習得。

授業計画	
	［後期］ 発表上演にむけて個々の表現技術を高め、かつ劇全体の芸術レベルを高める。役を掘り下げ深めることによってでてくる声を発見し習得する。集団劇のアンサンブルの魅力（複数の人で作って積み重ねていく場面の空気感、雰囲気などの効果）を共同体験することで、自己と他者の成長を感じ表現の幅を身につけ向上する。
1	思い出し稽古①（前期の復習）。 履修学生全員が前期獲得していた劇の世界観を取り戻す。 Bグループ、プロローグ～シーン５.
2	思い出し稽古②。 Aグループ、プロローグ～シーン５．歌と踊りの復習。
3	思い出し稽古③Bグループ、シーン６～シーン１０「カステラをみんなで分け合って食べることの幸福感が表現できるようにする」。
4	思い出し稽古④Aグループ、シーン６～シーン１０「劇のクライマックスが１番よい状態で表現できているか確認。アンサンブルの魅力が最大限に伝わるか確認。」
5	全員登場するシーンを細かく抜き稽古、ブラッシュアップを図る、Bグループ、シーン４～シーン１０.
6	全員登場するシーン４～シーン１０を細かく抜き稽古Aグループ。 キャラクターが最もよく生かされる形で表現できるようにする。
7	小道具なし、着ぐるみ着用通し稽古Bグループ。
8	小道具なし、着ぐるみ着用通し稽古Aグループ。 声（朗読）と人形の動きの合体が生き生きとして最大限生かされて表現できているか確認。
9	小道具搬入、Bグループ着ぐるみ人形小道具練習。 Ａ・Ｂグループ着ぐるみフィッティング（前田ホール倉庫にて）、最終決定したものを搬入。 小動物は声と動きの合わせ練習。倉庫収納段取りを覚える。
10	Aグループぐりとぐら小道具練習。 Aグループ、全員登場するシーンから小道具ありの稽古「かまどとカステラの段取りを実物を使って覚える」。
11	Bグループぐりとぐら小道具練習。 Bグループ、全員登場するシーンから小道具ありの稽古。朗読、カステラを食べる音が表現できているか、効果音が本番用小道具を使用しながらの動きとフィットするかどうか確認。
12	Aグループ通し。Bグループより講評。
13	Bグループ通し。Aグループより講評。
14	Aグループ、黒子衣装つき通し。
15	Bグループ、黒子衣装つき通し。 総括・倉庫収納整理。

科目名	ＡＳアンサンブル実習Ⅳ ［木2］						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE545200	科目コード	GE5452	期間	通年
担当教員	山下　順子						
授業形態		配当学年	4				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	「ASアンサンブル実習Ⅲ」の単位取得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコース 4年生全体が集まる授業である。年間スケジュールにそって自主的にプロジェクトを企画・運営していく他、４年間の集大成となる前田ホールでの成果発表に向けて通年で取り組むなど、イベント制作の拠点となる。他者とのコミュニケーションの能力、社会性、積極性等が問われる場にもなる。
最終的な到達目標は、３年次に習得した内容に加え、イベント、放送現場、制作現場等で細やかに配慮できる姿勢も身に付け、現場に必要とされる人材になることである。

２．授業概要

学生の自主性をできるだけ尊重しながら授業を進めていく。年間スケジュールにある４年生主体のイベントを中心に、実際に実現可能なプロジェクトの概要策定、企画立案、準備活動、実施・運営、反省・総括といったプロセスを経験していく。
特に後期成果発表に向けて、〈演技〉〈歌〉の授業を隔週に設定する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

準備、練習等、自主的な予習復習に相当する活動が必要になってくるので、履修者は自覚をもってそれらを励行すること。
毎日の滑舌、発声などの基本トレーニングに加え、授業前後の読譜、台本の読み込みを行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の継続的な鍛練が重要なので、学習態度で評価する(100%)。その上で、授業中での提案力・発言力・企画力、公演での実行力等の能力の発揮の評価を加味していく。年度末に学習内容と習得スキルについての自己判断をまとめたレポートを提出してもらい、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

指導教員がその都度配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学年毎の１クラスの設定とする。学年全体のコミュニケーションの場にもなるので、社会性を認識しながら履修に臨んでほしい。卒業後の実践を想定し、積極的に取り組むことを期待する。

授業計画	
	《前期》基本、学生による自主的な企画立案に基づく授業の展開になるが、後期に予定されている「ASコース成果発表」の準備を前提とした授業となる。
1	前期ガイダンス
2	前期及び通年のプロジェクトの内容検討
3	前期プロジェクトの策定
4	企画運営体制の構築
5	企画運営体制の決定
6	イベントの運営会議と準備
7	演技授業①～身体について～
8	歌唱授業①～深い発声について～
9	演技授業②～身体と声の連動について～
10	歌唱授業②～アニソンに声楽要素を取り入れよう～
11	演技授業③～ASコース成果発表「朗読劇」の導入～
12	歌唱授業③～ASコース成果発表「アニソン」導入～
13	演技授業④～ASコース成果発表「朗読劇」演習～
14	歌唱授業④～ASコース成果発表「アニソン」演習～
15	前期の統括

授業計画	
	《後期》成果発表を含むプロジェクトの演習、運営を中心に展開する。
1	後期ガイダンス
2	ASコース成果発表の内容確認
3	演技授業⑤～ASコース成果発表「朗読劇」役別演習～
4	歌唱授業⑤～ASコース成果発表「アニソン」個人曲指導～
5	演技授業⑥～ASコース成果発表「朗読劇」役別個人指導～
6	歌唱授業⑥～ASコース成果発表「アニソン」アンサンブル曲演習～
7	演技授業⑦~ASコース成果発表「朗読劇」配役オーディション～
8	歌唱授業⑦～ASコース成果発表「アニソン」オーディション～
9	演技授業⑧～ASコース成果発表「朗読劇」配役別演習～
10	歌唱授業⑧～ASコース成果発表「アニソン」担当曲別演習～
11	ASコース成果発表の仕上げ①～「朗読劇」通し稽古～
12	ASコース成果発表の仕上げ②～「アニソン」通し稽古～
13	ASコース成果発表の仕上げ③～全体稽古～
14	ASコース成果発表の仕上げ④～ランスルー～
15	ASコース成果発表及び統括

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［月4］Aクラス						
代表教員	森田　順平	授業コード	GE5458A0	科目コード	GE5458Ad	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊声は身体の一部であるという理念をもとに、声を出すための身体の使い方を習得する。
＊「声優である前に俳優たれ」という考えから、感覚を磨き、感情のコントロールを習得し、表現につなげる。
＊リーディングを主とした発表に向けて、その方法とテクニックを習得する。
＊以上で修得した内容とスタジオでの表現の関連性を実践的に学んでいく。

２．授業概要

全て、実技・実習として進めていく。演劇ワークショップ的な進め方になる。
音声表現実習に関しては、フリーフロアで自由に身体を使って学んでもらい、ヴォイスアーティスト演習に関しては、スタジオを利用して、より実践的に学んでもらう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回、次回への課題が必然的に個々に生じていくことになる。そのため自宅等での練習は欠かせない。セリフの暗記などを課することもある。ＤＶＤやデータを持ち帰って、自宅でリハーサルをしてくることも必要。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、その進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、平常点100%で評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

都度都度、必要な素材をコピーして配布する。（戯曲、ドラマ台本など）　スタジオに関しては、実際の作品を使用する。（外画、アニメなど）そのため、必要なDVD を購入して貰う事が生じる。
推薦図書として「魅せる声のつくり方」篠原さなえ著（講談社ブルーバックス）を薦める。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習（1クラス目）」「ヴォイスアーティスト演習２（2クラス目）」の3科目は同時に履修すること。「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習１」はフリースペースの教室で行うので、動きやすい服装を用意すること。授業開始までに着替えること。段階を踏んで毎回進展して行くので、欠席をするとその分遅れていくことになる。グループレッスンなどもあるので、協力精神が必要。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	1年次に習得したことの確認と反省。
2	声のコントロール法。
3	声の高低のコントロール。
4	声の距離感のコントロール。
5	声色のコントロール。
6	笑いのテクニック。
7	怒りのテクニック。
8	外画作品を所作を交えて表現する。
9	スタジオ収録の基礎。
10	スタジオ収録の実践。
11	スタジオ収録における演技術の基礎。
12	スタジオ収録における演技術の発展。
13	前期発表会への導入。
14	前期発表会の練習。
15	前期発表会に向けての仕上げ。

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	サイコロジカルジェスチャーの理解と体験。
3	アクターズスタジオのメソード入門。
4	リラクゼーションの基礎。
5	メソードアクティングのエクササイズ（１～７）
6	寸劇を利用した掛け合いの練習。
7	古典劇を利用したセリフ術の練習。
8	オーディオドラマ台本を利用した掛け合いの練習。
9	時代劇のセリフ術の練習。
10	作品を決めてのグループレッスン。
11	スタジオ収録の発展。
12	模擬スタジオ収録。
13	後期発表の導入。
14	後期発表に向けての稽古。
15	後期発表に向けての仕上げ。

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[月5] Bクラス						
代表教員	森田　順平	授業コード	GE5458B0	科目コード	GE5458Bd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊声は身体の一部であるという理念をもとに、声を出すための身体の使い方を習得する。
＊「声優である前に俳優たれ」という考えから、感覚を磨き、感情のコントロールを習得し、表現につなげる。
＊リーディングを主とした発表に向けて、その方法とテクニックを習得する。
＊以上で修得した内容とスタジオでの表現の関連性を実践的に学んでいく。

２．授業概要

全て、実技・実習として進めていく。演劇ワークショップ的な進め方になる。
音声表現実習に関しては、フリーフロアで自由に身体を使って学んでもらい、ヴォイスアーティスト演習に関しては、スタジオを利用して、より実践的に学んでもらう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回、次回への課題が必然的に個々に生じていくことになる。そのため自宅等での練習は欠かせない。セリフの暗記などを課することもある。ＤＶＤやデータを持ち帰って、自宅でリハーサルをしてくることも必要。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、その進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、平常点100%で評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

都度都度、必要な素材をコピーして配布する。（戯曲、ドラマ台本など）　スタジオに関しては、実際の作品を使用する。（外画、アニメなど）そのため、必要なDVD を購入して貰うことが生じる。
推薦図書として「魅せる声のつくり方」篠原さなえ著（講談社ブルーバックス）を薦める。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習（1クラス目）」「ヴォイスアーティスト演習２（2クラス目）」の3科目は同時に履修すること。「音声表現実習」「ヴォイスアーティスト演習１」はフリースペースの教室で行うので、動きやすい服装を用意すること。授業開始までに着替えること。段階を踏んで毎回進展して行くので、欠席をするとその分遅れていくことになる。グループレッスンなどもあるので、協力精神が必要。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	1年次に習得したことの確認と反省。
2	声のコントロール法。
3	声の高低のコントロール。
4	声の距離感のコントロール。
5	声色のコントロール。
6	笑いのテクニック。
7	怒りのテクニック。
8	外画作品を所作を交えて表現する。
9	スタジオ収録の基礎。
10	スタジオ収録の実践。
11	スタジオ収録における演技術の基礎。
12	スタジオ収録における演技術の発展。
13	前期発表会への導入。
14	前期発表会の練習。
15	前期発表会に向けての仕上げ。

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	サイコロジカルジェスチャーの理解と体験。
3	アクターズスタジオのメソード入門。
4	リラクゼーションの基礎。
5	メソードアクティングのエクササイズ（１～７）
6	寸劇を利用した掛け合いの練習。
7	古典劇を利用したセリフ術の練習。
8	オーディオドラマ台本を利用した掛け合いの練習。
9	時代劇のセリフ術の練習。
10	作品を決めてのグループレッスン。
11	スタジオ収録の発展。
12	模擬スタジオ収録。
13	後期発表の導入。
14	後期発表に向けての稽古。
15	後期発表に向けての仕上げ。

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［月4］Cクラス						
代表教員	鈴木　勝美	授業コード	GE5458C0	科目コード	GE5458Cd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・本質を捉えて、レベルの高い言語表現が出来る声優を目指す
・舞台演技を通して身体表現が生まれる言語表現を学ぶ
・自分自身が変わる事を信じて、創造する事を楽しみ舞台上で表現する
・受信力の必要性を知る
・主体の表現が出来る様にする

2．授業概要

・論理的に考え、感じる事で台本（戯曲）を読み取る力を習得する
・知覚する為に授業で他人の演技・科白を見て、聞いて、感じる様にする
・台本に書かれている事を授業を通して、知覚し、本質を捉え創造し、人前で演じる

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・発信力と受信力と読める為に台本（戯曲）をしっかり読む事
・舞台演技なので科白を暗記する事は最低条件

4．成績評価の方法及び基準

・努力のプロセス、個々の進捗状況等を総合的に判断し評価を決定する

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・斎藤隆介「ベロ出しチョンマ」をコピーして配布
・前期はコント適時台本をコピーして配布
・後期は戯曲 適時台本をコピーして配布

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・身体表現をするので動きやすい服装で
・共同作業表現の為、一人一人前向きな姿勢と台本（戯曲）をしっかり読む事
・舞台演技なので、科白の暗記をする事は承知して受講するように

授業計画	
	［前期］ 「ベロ出しチョンマ」のコントの台本を使い舞台表現をする
1	オリエンテーション　5つの目標・4つの約束　本質・知覚・プロセス・創造
2	「ベロ出しチョンマ」1 ・大きな声・明るい声で読む
3	「ベロ出しチョンマ」2 ・鼻濁音・無声化が出来る ・距離感を考える
4	「ベロ出しチョンマ」3 ・TIPを使う ・創造の世界で遊ぶ
5	舞台本読み1 初見で楽しむ
6	舞台本読み2 分析して知覚する
7	舞台荒立ち1 相手との距離感を考えて
8	舞台荒立ち2 相手に科白をしっかり伝える
9	舞台荒立ち3 目線をしっかりつくる
10	舞台立ち1 暗記して動く
11	舞台立ち2 相手の動きを知覚する
12	舞台立ち3 相手の科白を知覚する
13	舞台立ち4 音と照明を考えて
14	舞台通し1 全体の流れを感じて
15	舞台通し2 音と明かりに合わせて

授業計画	
	［後期］ 戯曲を使い舞台表現をする
1	本読み1 初見で台本を読む
2	本読み2 本質を捉えて読む
3	本読み3 キャスティングして本役を読む
4	荒立ち1 相手を知覚して動く
5	荒立ち2 目線をしっかりつくる
6	荒立ち3 呼吸を考えて科白を言う
7	立ち1 科白を暗記して動く
8	立ち2 受信力を高めて表現する
9	立ち3 Tempを考えて表現する
10	立ち4 間を考えて表現する
11	立ち5 舞台空間を意識して科白を言う
12	通し1 全体の流れを感じて表現する
13	通し2 より一層創造的な表現を
14	通し3 音と明かりを合わせて
15	総見・個人面談

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［月5］Dクラス						
代表教員	鈴木　勝美	授業コード	GE5458D0	科目コード	GE5458Dd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・本質を捉えて、レベルの高い言語表現が出来る声優を目指す
・舞台演技を通して身体表現が生まれる言語表現を学ぶ
・自分自身が変わる事を信じて、創造する事を楽しみ舞台上で表現する
・受信力の必要性を知る
・主体の表現が出来る様にする

2．授業概要

・論理的に考え、感じる事で台本（戯曲）を読み取る力を習得する
・知覚する為に授業で他人の演技・科白を見て、聞いて、感じる様にする
・台本に書かれている事を授業を通して、知覚し、本質を捉え創造し、人前で演じる

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・発信力と受信力と読める為に台本（戯曲）をしっかり読む事
・舞台演技なので科白を暗記する事は最低条件

4．成績評価の方法及び基準

・努力のプロセス、個々の進捗状況等を総合的に判断し評価を決定する

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・斎藤隆介「ベロ出しチョンマ」をコピーして配布
・前期はコント適時台本をコピーして配布
・後期は戯曲 適時台本をコピーして配布

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・身体表現をするので動きやすい服装で
・共同作業表現の為、一人一人前向きな姿勢と台本（戯曲）をしっかり読む事
・舞台演技なので、科白の暗記をする事は承知して受講するように

授業計画	
	［前期］ 「ベロ出しチョンマ」のコントの台本を使い舞台表現をする
1	オリエンテーション　5つの目標・4つの約束　本質・知覚・プロセス・創造
2	「ベロ出しチョンマ」1 ・大きな声・明るい声で読む
3	「ベロ出しチョンマ」2 ・鼻濁音・無声化が出来る ・距離感を考える
4	「ベロ出しチョンマ」3 ・TIPを使う ・創造の世界で遊ぶ
5	舞台本読み1 初見で楽しむ
6	舞台本読み2 分析して知覚する
7	舞台荒立ち1 相手との距離感を考えて
8	舞台荒立ち2 相手に科白をしっかり伝える
9	舞台荒立ち3 目線をしっかりつくる
10	舞台立ち1 暗記して動く
11	舞台立ち2 相手の動きを知覚する
12	舞台立ち3 相手の科白を知覚する
13	舞台立ち4 音と照明を考えて
14	舞台通し1 全体の流れを感じて
15	舞台通し2 音と明かりに合わせて

授業計画	
	［後期］ 戯曲を使い舞台表現をする
1	本読み1 初見で台本を読む
2	本読み2 本質を捉えて読む
3	本読み3 キャスティングして本役を読む
4	荒立ち1 相手を知覚して動く
5	荒立ち2 目線をしっかりつくる
6	荒立ち3 呼吸を考えて科白を言う
7	立ち1 科白を暗記して動く
8	立ち2 受信力を高めて表現する
9	立ち3 Tempを考えて表現する
10	立ち4 間を考えて表現する
11	立ち5 舞台空間を意識して科白を言う
12	通し1 全体の流れを感じて表現する
13	通し2 より一層創造的な表現を
14	通し3 音と明かりを合わせて
15	総見・個人面談

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［火4］Eクラス						
代表教員	堀江　美都子	授業コード	GE5458E0	科目コード	GE5458Ed	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊歌うことの楽しさ、素晴らしさを実感できる授業
＊一年時に習得したことを復習しつつ、アニメソングの普遍的な魅力を理解し学ぶ。

＊アニメソングの特色である、多種多様な音楽スタイルに対応できるスキルを習得する。

２．授業概要

アニメソングアーティストを目標とする学生を対象に、アニメソングに特化した授業を進めて行く。発声、ボイストレーニングはピアノ伴奏で行い、課題曲及び自由選択曲ではカラオケを使った授業を行う。またダンスの実習を取り入れ、ステージングの技術の向上をはかる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

歌の表現力を養う上では、日ごろから色々な事柄に関心・興味を持つことが大切である。普段の生活において、それを実践することが必要である。また演奏会などで音楽を体感することも大切である。自宅での歌唱予習復習も欠かせない。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組み方、レポート提出、個々の進捗状況などを総合的に判断し評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ボイストレーニングと発声法については、独自のメソッドで作った資料を配布する。課題曲の楽譜はその都度配布する。
成果発表に必要な楽譜については個人で用意して頂きます。(バンドスコア等実費)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年生は初めて選択するゼミとなるので、各自の時間割を勘案して多くの学生に履修して頂きたい。
又、前期成果発表ステージで揃いのTシャツ製作(実費)有り。
その他、楽器演奏・映像制作編集・カラオケ編集等のスキルを持つ学生はフルにそれを発揮して頂きたい。

授業計画	
	［前期］前期はアニメソング歌唱のための基礎と情報を習得する。
1	年間ガイダンス及び、日本のアニメーションの始まりから現在までの変遷
2	アニメソングの誕生とその音楽性を学ぶ
3	歌の起源と歌が人にもたらす影響、歌の力
4	歌うための基本スタンス、姿勢とウォーミングアップ
5	歌うために必要な筋肉、器官の使い方
6	発声練習　日本語の母音の発音と発声
7	発声練習　テヌート、レガート、スタッカートで歌う
8	発声練習　音節表現の仕方、濁音・鼻濁音の習得
9	発声練習　音符の長さの違いやリズムの違いで歌う
10	発声練習　声域を拡げる。
11	リズム練習　曲にのってリズムを表現する
12	ダンス　振り付けされた曲を踊る
13	アニソン歌手に必要な歌唱技術の習得
14	前期発表に向けての練習
15	前期発表に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］前期の発声練習を随時行いながら後期発表に向けて総合的パフォーマンスを仕上げる
1	前期で学んだ基本的な歌唱法から現在の代表的なアニメソングを学ぶ。
2	表現力を学ぶ　多種多彩なアニソンを歌唱出来るスキル習得
3	発声練習　バンド等の演奏で歌える声量を付ける。
4	課題曲　アップテンポ曲の歌唱
5	課題曲　バラード曲の歌唱
6	特別研究　キャラクターソングの歌唱法　発声の違いを知る
7	課題曲を素に歌詞やメロディーの表現方法を学ぶ
8	客観的評価力を付ける　他の人の歌を聴く、自分の歌を考える
9	マイクワークやステージングを学ぶ
10	ステージ制作に係わる仕事を知る　音響、照明
11	レコーディングに係わる仕事を知る　ディレクター、エンジニア、アニメ制作会社
12	海外における日本のアニメ、アニソンの魅力を考える。
13	後期発表に向けての総合的パフォーマンス練習。バンドとの練習を通して音楽の楽しさを知る。
14	後期発表に向けての総合的パフォーマンスの仕上げ
15	年間成果の発表　レポート提出

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[火5] Fクラス						
代表教員	堀江　美都子	授業コード	GE5458F0	科目コード	GE5458Fd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

＊歌うことの楽しさ、素晴らしさを実感できる授業
＊一年時に習得したことを復習しつつ、アニメソングの普遍的な魅力を理解し学ぶ。

＊アニメソングの特色である、多種多様な音楽スタイルに対応できるスキルを習得する。

2．授業概要

アニメソングアーティストを目標とする学生を対象に、アニメソングに特化した授業を進めて行く。発声、ボイストレーニングはピアノ伴奏で行い、課題曲及び自由選択曲ではカラオケを使った授業を行う。またダンスの実習を取り入れ、ステージングの技術の向上をはかる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

歌の表現力を養う上では、日ごろから色々な事柄に関心・興味を持つことが大切である。普段の生活において、それを実践することが必要である。また演奏会などで音楽を体感することも大切である。自宅での歌唱予習復習も欠かせない。

4．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組み方、レポート提出、個々の進捗状況などを総合的に判断し評価を決定する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

ボイストレーニングと発声法については、独自のメソッドで作った資料をコピーして配布する。課題曲の楽譜は、その都度配布する。成果発表に必要な楽譜については個人で用意して頂きます。(バンドスコア等実費)

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年生は初めて選択するゼミとなるので、各自の時間割を勘案して多くの学生に履修して頂きたい。
又、前期成果発表ステージで揃いのTシャツ製作(実費)有り。
その他、楽器演奏・映像制作編集・カラオケ編集等のスキルを持つ学生はフルにそれを発揮して頂きたい。

授業計画	
	［前期］前期はアニメソング歌唱のための基礎と情報を習得する。
1	年間ガイダンス及び、日本のアニメーションの始まりから現在までの変遷
2	アニメソングの誕生とその音楽性を学ぶ
3	歌の起源と歌が人にもたらす影響、歌の力
4	歌うための基本スタンス、姿勢とウォーミングアップ
5	歌うために必要な筋肉、器官の使い方
6	発声練習　日本語の母音の発音と発声
7	発声練習　テヌート、レガート、スタッカートで歌う
8	発声練習　音節表現の仕方、濁音・鼻濁音の習得
9	発声練習　音符の長さの違いやリズムの違いで歌う
10	発声練習　声域を拡げる。
11	リズム練習　曲にのってリズムを表現する
12	ダンス　振り付けされた曲を踊る
13	アニソン歌手に必要な歌唱技術の習得
14	前期発表に向けての練習
15	前期発表に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］前期の発声練習を随時行いながら後期発表に向けて総合的パフォーマンスを仕上げる
1	前期で学んだ基本的な歌唱法から現在の代表的なアニメソングを学ぶ。
2	表現力を学ぶ　多種多彩なアニソンを歌唱出来るスキル習得
3	発声練習　バンド等の演奏で歌える声量を付ける。
4	課題曲　アップテンポ曲の歌唱
5	課題曲　バラード曲の歌唱
6	特別研究　キャラクターソングの歌唱法　発声の違いを知る
7	課題曲を素に歌詞やメロディーの表現方法を学ぶ
8	客観的評価力を付ける　他の人の歌を聴く、自分の歌を考える
9	マイクワークやステージングを学ぶ
10	ステージ制作に係わる仕事を知る　音響、照明
11	レコーディングに係わる仕事を知る　ディレクター、エンジニア、アニメ制作会社
12	海外における日本のアニメ、アニソンの魅力を考える。
13	後期発表に向けての総合的パフォーマンス練習
14	後期発表に向けての総合的パフォーマンスの仕上げ
15	年間成果の発表　レポート提出

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[火4] Gクラス						
代表教員	尾田木　美衣	授業コード	GE5458G0	科目コード	GE5458Gd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

いままで学んできた基礎をふり返り、将来プロとして通用する力を身に付けるために、アニメ、外画、ナレーションの実習をする。あわせて舞台の演技のアプローチから声の演技を考察して、応用する。

２．授業概要

教室で基礎練習から応用までを復習。アニメ、外画、ナレーションの収録をスタジオを使って実践。外画はとくに「無声映画」の素材を使い、声優としてのエンターテインメント性の可能性も研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業に参加していない時間をいかに過ごすかが、役者として一番大事なことなので、参加した授業内容を常に復習する心構えを常に持って欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％。
個々のスキルや、進捗状態、授業への取り組み、役者としての心構えなどを総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

表現することを貪欲に学ぼうとする方を望む。

授業計画	
	［前期］ 表現することを基礎からふり返る。 相手に伝えることを大事にして作品をつくりながら、 自らもその楽しさ、喜びを味わう。
1	今までに習得してきたことの確認
2	今までに習得してきたことの実践
3	舞台演技の基礎・身体作り・発声
4	喜怒哀楽を表現する
5	自分の感情・言葉を相手に伝える
6	舞台の演技の技術を声の演技に生かすアプローチ
7	外画（無声映画）のスタジオ実習① 台本の読み込み・キャラクターを掴む
8	外画（無声映画）のスタジオ実習② マイクワーク
9	外画（無声映画）のスタジオ実習③ 録音とレビュー
10	ナレーション・語りのスタジオ実習①原稿の読み込み
11	ナレーション・語りのスタジオ実習② マイクワーク
12	ナレーション・語りのスタジオ実習③録音とレビュー
13	前期の発表会に向けて 題材の読み込み・読み合わせ
14	前期の発表会の配役決め・稽古
15	前期発表会に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］ 声の演技を仕事に生かせるようにより実践的な学習をする。
1	前期のふり返り
2	前期の習得度合いのテスト
3	アニメのスタジオ実習① 台本の読み込み
4	アニメのスタジオ実習② キャラクターを掴む
5	アニメのスタジオ実習③ マイクワーク・ 録音とレビュー
6	長いセリフ・一人語りの考察
7	長いセリフ・一人語りの実践
8	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習① 台本の読み込み
9	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習② ナレーション
10	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習③　ボイスオーバー
11	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習① 総合
12	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習⑤ 録音とレビュー
13	後期の発表会に向けて 題材の読み込み・読み合わせ
14	後期の発表会の配役決め・稽古
15	後期の発表会に向けての仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[火5] Hクラス						
代表教員	尾田木　美衣	授業コード	GE5458H0	科目コード	GE5458Hd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

いままで学んできた基礎をふり返り、将来プロとして通用する力を身に付けるために、アニメ、外画、ナレーションの実習をする。あわせて舞台の演技のアプローチから声の演技を考察して、応用する。

２．授業概要

教室で基礎練習から応用までを復習。アニメ、外画、ナレーションの収録をスタジオを使って実践。外画はとくに「無声映画」の素材を使い、声優としてのエンターテインメント性の可能性も研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業に参加していない時間をいかに過ごすかが、役者として一番大事なことなので、参加した授業内容を常に復習する心構えを常に持って欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％。
個々のスキルや、進捗状態、授業への取り組み、役者としての心構えなどを総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

表現することを貪欲に学ぼうとする方を望む。

授業計画	
	［前期］ 表現することを基礎からふり返る。 相手に伝えることを大事にして作品をつくりながら、 自らもその楽しさ、喜びを味わう。
1	今までに習得してきたことの確認
2	今までに習得してきたことの実践
3	舞台演技の基礎・身体作り・発声
4	喜怒哀楽を表現する
5	自分の感情・言葉を相手に伝える
6	舞台の演技の技術を声の演技に生かすアプローチ
7	外画（無声映画）のスタジオ実習① 台本の読み込み・キャラクターを掴む
8	外画（無声映画）のスタジオ実習② マイクワーク
9	外画（無声映画）のスタジオ実習③ 録音とレビュー
10	ナレーション・語りのスタジオ実習①原稿の読み込み
11	ナレーション・語りのスタジオ実習② マイクワーク
12	ナレーション・語りのスタジオ実習③録音とレビュー
13	前期の発表会に向けて 題材の読み込み・読み合わせ
14	前期の発表会の配役決め・稽古
15	前期発表会に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］ 声の演技を仕事に生かせるようにより実践的な学習をする。
1	前期のふり返り
2	前期の習得度合いのテスト
3	アニメのスタジオ実習① 台本の読み込み
4	アニメのスタジオ実習② キャラクターを掴む
5	アニメのスタジオ実習③ マイクワーク・ 録音とレビュー
6	長いセリフ・一人語りの考察
7	長いセリフ・一人語りの実践
8	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習① 台本の読み込み
9	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習② ナレーション
10	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習③　ボイスオーバー
11	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習① 総合
12	外国制作番組の吹き替えスタジオ実習⑤ 録音とレビュー
13	後期の発表会に向けて 題材の読み込み・読み合わせ
14	後期の発表会の配役決め・稽古
15	後期の発表会に向けての仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　［水4］Jクラス						
代表教員	亀井　芳子	授業コード	GE5458J0	科目コード	GE5458Jd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演技の基礎から応用へ。朗読のレッスンやスタジオ実習を通して、今まで習得してきたことの確認そしてそこからのさらなる飛躍を目指します。声優という分野で活躍するためのスキルを身につけること、また、自分らしい声の表現を探求し見つけていくことが到達目標です。

２．授業概要

朗読の授業では、小説や絵本などを用いて、全員で演習をしていきます。
いろいろな物語の世界を通して、読解力も養っていきます。
スタジオ実習は、外画作品を中心のアフレコ演習を行い、より実戦的に学んでいきます。
どちらの授業も、必要に応じて、個別の指導も盛り込まれます。
期末成果発表も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱った作品は、必ず自宅等で復習することが望ましいです。
また声優には想像力も必要です。日頃からいろいろなことに関心を持ちながら生活しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％
個々のスキルや、進捗状態、授業への取り組み、表現者としての心構えなどを総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時、資料を配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

常に向上心を高く持ち、目標にむかって努力を惜しまない方が望ましいです。

授業計画	
	［前期］声の表現とはを常に考え、探求していく。
1	前期ガイダンス
2	前期外画作品を使ったスタジオ実習 ①基礎の復習
3	前期外画作品を使ったスタジオ実習 ②セリフ練習
4	前期外画作品を使ったスタジオ実習 ③映像と合わせる
5	前期外画作品を使ったスタジオ実習 ④マイクワーク
6	前期外画作品を使ったスタジオ実習 ⑤収録とプレビュー
7	前期朗読題材１（導入編） ①演習
8	前期朗読題材１（導入編） ②再チャレンジ
9	前期朗読題材１（展開編） ①演習
10	前期朗読題材１（展開編） ②再チャレンジ
11	前期朗読題材１（応用編） ①演習
12	前期朗読題材１（応用編） ②まとめ
13	前期末発表に向けての企画、導入
14	前期末発表に向けての練習
15	前期末発表に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］自分らしい声の表現を発見していく。
1	後期ガイダンス
2	後期外画アニメを使ったスタジオ実習 ①セリフの練習
3	後期外画アニメを使ったスタジオ実習 ②映像と合わせる
4	後期外画アニメを使ったスタジオ実習 ③マイクワーク
5	後期外画アニメを使ったスタジオ実習 ④収録とプレビュー
6	後期外画アニメを使ったスタジオ実習 ⑤まとめ
7	後期朗読題材２（導入編） ①演習
8	後期朗読題材２（導入編） ②再チャレンジ
9	後期朗読題材２（展開編） ②演習
10	後期朗読題材２（展開編） ②再チャレンジ
11	後期朗読題材２（応用編） ①演習
12	後期朗読題材２（応用編） ②まとめ
13	後期末発表に向けての企画、導入
14	後期末発表に向けての練習
15	後期末発表に向けての仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[水5] Kクラス						
代表教員	亀井　芳子	授業コード	GE5458K0	科目コード	GE5458Kd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演技の基礎から応用へ。朗読のレッスンやスタジオ実習を通して、今まで習得してきたことの確認そしてそこからのさらなる飛躍を目指します。声優という分野で活躍するためのスキルを身につけること、また、自分らしい声の表現を探求し見つけていくことが到達目標です。

２．授業概要

朗読の授業では、小説や絵本などを用いて、全員で演習をしていきます。
いろいろな物語の世界を通して、読解力も養っていきます。
スタジオ実習は、外画作品を中心のアフレコ演習を行い、より実戦的に学んでいきます。
どちらの授業も、必要に応じて、個別の指導も盛り込まれます。
期末成果発表も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱った作品は、必ず自宅等で復習することが望ましいです。
また声優には想像力も必要です。日頃からいろいろなことに関心を持ちながら生活しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％
個々のスキルや、進捗状態、授業への取り組み、表現者としての心構えなどを総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時、資料を配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

常に向上心を高く持ち、目標にむかって努力を惜しまない方が望ましいです。

授業計画	
	［前期］声の表現とはを常に考え、探求していく。
1	前期ガイダンス
2	前期外画作品を使ったスタジオ実習 ①基礎の復習
3	前期外画作品を使ったスタジオ実習 ②セリフ練習
4	前期外画作品を使ったスタジオ実習 ③映像と合わせる
5	前期外画作品を使ったスタジオ実習 ④マイクワーク
6	前期外画作品を使ったスタジオ実習 ⑤収録とプレビュー
7	前期朗読題材１（導入編） ①演習
8	前期朗読題材１（導入編） ②再チャレンジ
9	前期朗読題材１（展開編） ①演習
10	前期朗読題材１（展開編） ②再チャレンジ
11	前期朗読題材１（応用編） ①演習
12	前期朗読題材１（応用編） ②まとめ
13	前期末発表に向けての企画、導入
14	前期末発表に向けての練習
15	前期末発表に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］自分らしい声の表現を発見していく。
1	後期ガイダンス
2	後期外画アニメを使ったスタジオ実習 ①セリフの練習
3	後期外画アニメを使ったスタジオ実習 ②映像と合わせる
4	後期外画アニメを使ったスタジオ実習 ③マイクワーク
5	後期外画アニメを使ったスタジオ実習 ④収録とプレビュー
6	後期外画アニメを使ったスタジオ実習 ⑤まとめ
7	後期朗読題材２（導入編） ①演習
8	後期朗読題材２（導入編） ②再チャレンジ
9	後期朗読題材２（展開編） ②演習
10	後期朗読題材２（展開編） ②再チャレンジ
11	後期朗読題材２（応用編） ①演習
12	後期朗読題材２（応用編） ②まとめ
13	後期末発表に向けての企画、導入
14	後期末発表に向けての練習
15	後期末発表に向けての仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［水4］Lクラス						
代表教員	石原　慎一	授業コード	GE5458L0	科目コード	GE5458Ld	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
・声優としてのVoice Performanceにも有効なVocalテクニックの向上を目指し、アニメの世界観を表現し得る表現力を獲得する。
【到達目標】
・歌い手としての基本的な知識や音楽性の基礎を身に付ける。
・声だけを使って表現し得る感情やダイナミズムの可能性を広げ、表情豊かな声の開発を目指す。
・アニソンや声優の仕事に特化した特別な表現能力の向上を目指し、声のスペシャリストとしてのキャリアの醍醐味を発見する。

2．授業概要

＜アニソン歌手の創造-自らを"声"のスペシャリストに育てる人材の必要十分条件＞
アイドル声優もアニソン歌手も、今や若者憧れの花形職業の一つと言われて久しいが、それだけに決して広いとは言えないその職場を取り巻く競争は熾烈を極め、特別な狭き門として激しい競争社会が形成されている。その中にあって自己の表現力という抽象的な能力のみを武器に生き残り、第一線で仕事をし続ける事の厳しさは並大抵ではない。故に、そこを目指す学生は、厳しい競争を勝ち抜いて、自らが求めた表現者としての人生に到達するための確かな自己分析能力と、セルフプロデュースの視点をしっかりと身につけて社会に飛び立って貰いたい。ただやみくもに情熱を抱いたり頑張ってさえいれば結果が出る世界ではない事の厳しさを、実際に声を出し、楽曲と向きあい、作品と対峙する中で、プロフェッショナルな表現者たるには「何が必要か」を確実に見出して欲しい。そしてまた同時に情熱や頑張りこそが大切であることは言うまでもない。本講義では、先ず音楽に関わる基礎的な楽典の知識とリズム感などポップスの表現のコツを身に付けて頂きたい。「感動」には必ずその要因が存在し、それをオーディエンスにもたらす為には心身の習練と確固たるモチベーションが必要であることをその五感で感じられるパフォーマーを育てる、そんな講義にしたいと思っている。向上心ある、ポジティブな思考に溢れた学生の皆さんに是非とも受講していただきたい。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

講義内で理解できなかった部分は必ず次の講義までにキャッチ・アップして頂きたい。適宜配布する教材の一部を、次の講義までの宿題として自宅で取り組んで頂く事も、必要に応じて課題としたい。講義の内容の特殊な表現能力の研鑽の為に、積極的に他のアーティストのLIVEを観たり、楽曲を鑑賞したり、更には様々な映画や小説、絵画や舞踊、ミュージカルや演劇など、あらゆる表現の場に足を運んで感性を刺激し続ける事は積極的に奨励したい。また、それらの感想を折に触れて取り上げ、ケースワークとして講義に取り入れてもいきたい。

4．成績評価の方法及び基準

・講義への参加度（50%）、実技発表会での技術的な成長度(50%）で評価します。
・講義への参加度としては、基礎的な能力の向上(音域の変化や発声技術の向上、発音や音感の進歩など)を独自に採点し、更に授業への参加姿勢などを加味して評価します。パフォーマンスを発表する機会には、逆に日頃の授業の参加態度には関わらず、出来るだけ純粋に技術的な能力(呼吸・発声・音程・リズム感・表現力など)を採点、積極的にアーティスト(表現者)としての魅力を評価したいと考えています。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

（使用テキスト）
・基本的には財団法人ヤマハ音楽振興会発行の「ヴォーカルトレーニング①(ポピュラー・ソルフェージュ)」と「ヴォーカルトレーニング②インターバル編(ポピュラーソルフェージュ)」の編集方針に沿って作曲し直したオリジナルテキストを配布します。習得技術の目標は変えずに、現代のポップスや受講学生の資質、性別などに合わせて作曲し直したオリジナル楽曲を適宜使用しますので、学生には使用テキストの購入の必要は生じません。

（参考図書）
・講義内で個々に取り組む楽曲の参考音源やカラオケ音源の取得、楽譜の製作、取得は必須。.
その他、学生自信が必要と感じた技術の習得に有意義と思われる素材や、作品鑑賞や研究に必要な文献

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Vocalistとしてのアニソン・ヒーローソングアーティストに興味のある皆さん、音楽や演劇など、表現者としての生活にあこがれる皆さんをお待ちしています。技術的な習熟度を条件にしたりクラス分けの基準にしたりする事はありません。ポピュラーヴォーカルの表現力や声優のポテンシャルには一定の決まりがある訳ではありません。才能も確かに重要ですが、モチベーションが高ければ可能性は必ず0ではないのが、この世界の素敵なところですから。自分の魅力をアピールしたい人、自分のセンスを磨きたい人に会える事を楽しみにしています。やる気と努力を惜しまない積極性を重要視したいと思います。ポジティブシンキングは人をしてより早く目標に到達させます。好きなことに立ち向かう積極性を求めます。Ｎｏとは言わないことが上達の近道です。

授業計画	
	前期成果発表に向けて
1	ガイダンス ・授業内容の説明 ・学生へのインタビュー ・自己紹介(自己表現の端緒の発見と個性の発見、適性の度合いを想像する) ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎① ・ポピュラーヴォーカルの発声のテクニック ・音程と音階(西洋音楽の基礎知識) ・ソロ曲選定①(好きなアニソンアンケート)
3	楽典の基礎② ・ポピュラーヴォーカルにおける呼吸法について ・音程と音階(メジャースケール、マイナースケールの違いと感情への作用の差異) ・ソロ曲選定②(好きなアニソン歌手アンケート)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。後期との変化の確認の為に) ・発声法の研究①(呼吸法) ・楽曲研究③(アンケートに上がった楽曲や歌手の魅力と個性の研究。ディスカッション)→全体曲選定 課題(自分が取り組むべき楽曲の選曲)
5	発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究②(軟口蓋のストレッチ) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究③(舌根の位置) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション) 課題(決定した曲への取り組み。努力目標の設定)
7	発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究④(開口) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント) ・歌唱の録音① 課題(録音を聴きながら、どうすればもっと魅力的な歌唱になるか、自己採点とレポートを作成)
8	発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑤(母音法) ・発表曲の歌唱指導①(楽譜の解釈) ・これまでの講義に関する質疑応答
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する小テストの実施① ・小テストの答え合わせと解説 ・小テストの採点を終えての各自の努力目標の発表
10	発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習①(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導②(リズムの解釈) 課題(練習曲の移動ドへの読み替え練習)
11	発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・移動ドによる読み替えの実習②(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替える) 課題(発表曲を移動ドで歌えるように読み替えを完成させる)
12	発表に向けての楽曲への取り組み⑦ ・移動ドによる読み替えの実習③(母音で歌う) ・発表楽曲の歌唱指導④(ソルフェージュによる歌唱を通して音程のチェックを行う) ・歌唱の録音②
13	発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・歌詞の表現力の確認 ・歌唱録音の①と②の比較検討会 ・発表楽曲の歌唱指導⑤
14	発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・発表楽曲の歌唱指導⑥(総合パフォーマンスチェック) ・クラス内発表
15	前期成果発表会の最終チェック ・最終パフォーマンスチェック(クラス内実技) ・ステージング確認、ランスルー、ゲネプロなど

授業計画	
	後期成果発表に向けて
1	後期授業内容の説明 ・学生へのインタビュー(年度初めとのモチベーションの変化などを中心に…) ・前期発表会の間奏・反省点など発表 ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎③ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎①(ロック) ・コード(和音)の概念 ・全体曲製作①(歌詞を考えてみる) ・全体曲候補を歌ってみる
3	楽典の基礎④ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎②(8ビート) ・和声(ハーモニー)の仕組み ・全体曲製作②(メロディーのモチーフを書いてみる)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。前期との比較) ・発声法の研究⑥(姿勢) ・全体曲製作③(コーラス譜を歌ってみる→ハーモニーの魅力の発見) 課題(後期の発表に於いて自分が取り組むべき楽曲の選曲)
5	後期発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究⑦(地声とファルセット) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(後期の発表に於いて自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	後期発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究⑧(ロングトーンとビブラート) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション)
7	後期発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究⑨(スタッカートと横隔膜) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント)
8	後期発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑩(正しいインターバルで歌う為の発声) ・発表曲の歌唱指導①(楽譜を読み下す力)
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する復讐・質疑応答 ・移動ドの概念の理解度を確認する。 ・それらを総合して並行調と同主調(メジャーとマイナーの関係性)への理解を求める。
10	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習⑥(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導②
11	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・全体曲製作④(1コーラスを完成させる。) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替えて歌唱し、細かい音程チェックを行う)
12	全体曲製作⑤(楽曲の完成からレコーディングへ) ・オリジナルソング発表までのプロセスの確認 ・発表楽曲の歌唱指導④(加えて衣装の選び方、プランを持ち寄りディスカッション) ・パフォーマンス(衣装付き)の録画②
13	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・全体曲・ソロ曲ともに最終確認。 ・ステージング最終確認。 ・発表楽曲の歌唱指導⑤(パフォーマンスアクション)
14	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・最終チェック事項の確認。 ・発表楽曲の歌唱指導⑥(立ち方やアクション、視線のチェックなど魅力的なパフォーマンスの研究)
15	後期の受講を終えて… これまでの講義内容に関する小テストの実施② ・小テストの答え合わせと解説 ・質疑応答

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［水5］Mクラス						
代表教員	石原　慎一	授業コード	GE5458MO	科目コード	GE5458Md	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
・声優としてのVoice Performanceにも有効なVocalテクニックの向上を目指し、アニメの世界観を表現し得る表現力を獲得する。
【到達目標】
・歌い手としての基本的な知識や音楽性の基礎を身に付ける。
・声だけを使って表現し得る感情やダイナミズムの可能性を広げ、表情豊かな声の開発を目指す。
・アニソンや声優の仕事に特化した特別な表現能力の向上を目指し、声のスペシャリストとしてのキャリアの醍醐味を発見する。

2．授業概要

＜アニソン歌手の創造-自らを"声"のスペシャリストに育てる人材の必要十分条件＞
アイドル声優もアニソン歌手も、今や若者憧れの花形職業の一つと言われて久しいが、それだけに決して広いとは言えないその職場を取り巻く競争は熾烈を極め、特別な狭き門として激しい競争社会が形成されている。その中にあって自己の表現力という抽象的な能力のみを武器に生き残り、第一線で仕事をし続ける事の厳しさは並大抵ではない。故に、そこを目指す学生は、厳しい競争を勝ち抜いて、自らが求めた表現者としての人生に到達するための確かな自己分析能力と、セルフプロデュースの視点をしっかりと身につけて社会に飛び立って貰いたい。ただやみくもに情熱を抱いたり頑張ってさえいれば結果が出る世界ではない事の厳しさを、実際に声を出し、楽曲と向きあい、作品と対峙する中で、プロフェッショナルな表現者たるには「何が必要か」を確実に見出して欲しい。そしてまた同時に情熱や頑張りこそが大切であることは言うまでもない。本講義では、先ず音楽に関わる基礎的な楽典の知識とリズム感などポップスの表現のコツを身に付けて頂きたい。「感動」には必ずその要因が存在し、それをオーディエンスにもたらす為には心身の習練と確固たるモチベーションが必要であることをその五感で感じられるパフォーマーを育てる、そんな講義にしたいと思っている。向上心ある、ポジティブな思考に溢れた学生の皆さんに是非とも受講していただきたい。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

講義内で理解できなかった部分は必ず次の講義までにキャッチ・アップして頂きたい。適宜配布する教材の一部を、次の講義までの宿題として自宅で取り組んで頂く事も、必要に応じて課題としたい。講義の内容の特殊な表現能力の研鑽の為に、積極的に他のアーティストのLIVEを観たり、楽曲を鑑賞したり、更には様々な映画や小説、絵画や舞踊、ミュージカルや演劇など、あらゆる表現の場に足を運んで感性を刺激し続ける事は積極的に奨励したい。また、それらの感想を折に触れて取り上げ、ケースワークとして講義に取り入れてもいきたい。

4．成績評価の方法及び基準

・講義への参加度（50%）、実技発表会での技術的な成長度(50%）で評価します。
・講義への参加度としては、基礎的な能力の向上(音域の変化や発声技術の向上、発音や音感の進歩など)を独自に採点し、更に授業への参加姿勢などを加味して評価します。パフォーマンスを発表する機会には、逆に日頃の授業の参加態度には関わらず、出来るだけ純粋に技術的な能力(呼吸・発声・音程・リズム感・表現力など)を採点、積極的にアーティスト(表現者)としての魅力を評価したいと考えています。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

（使用テキスト）
・基本的には財団法人ヤマハ音楽振興会発行の「ヴォーカルトレーニング①(ポピュラー・ソルフェージュ)」と「ヴォーカルトレーニング②インターバル編(ポピュラーソルフェージュ)」の編集方針に沿って作曲し直したオリジナルテキストを配布します。習得技術の目標は変えずに、現代のポップスや受講学生の資質、性別などに合わせて作曲し直したオリジナル楽曲を適宜使用しますので、学生には使用テキストの購入の必要は生じません。

（参考図書）
・講義内で個々に取り組む楽曲の参考音源やカラオケ音源の取得、楽譜の製作、取得は必須。.
その他、学生自信が必要と感じた技術の習得に有意義と思われる素材や、作品鑑賞や研究に必要な文献

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Vocalistとしてのアニソン・ヒーローソングアーティストに興味のある皆さん、音楽や演劇など、表現者としての生活にあこがれる皆さんをお待ちしています。技術的な習熟度を条件にしたりクラス分けの基準にしたりする事はありません。ポピュラーヴァーカルの表現力や声優のポテンシャルには一定の決まりがある訳ではありません。才能も確かに重要ですが、モチベーションが高ければ可能性は必ず0ではないのが、この世界の素敵なところですから。自分の魅力をアピールしたい人、自分のセンスを磨きたい人に会える事を楽しみにしています。やる気と努力を惜しまない積極性を重要視したいと思います。ポジティブシンキングは人をしてより早く目標に到達させます。好きなことに立ち向かう積極性を求めます。Ｎｏとは言わないことが上達の近道です。

授業計画	
	前期成果発表に向けて
1	ガイダンス ・授業内容の説明 ・学生へのインタビュー ・自己紹介(自己表現の端緒の発見と個性の発見、適性の度合いを想像する) ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎① ・ポピュラーヴォーカルの発声のテクニック ・音程と音階(西洋音楽の基礎知識) ・ソロ曲選定①(好きなアニソンアンケート)
3	楽典の基礎② ・ポピュラーヴォーカルにおける呼吸法について ・音程と音階(メジャースケール、マイナースケールの違いと感情への作用の差異) ・ソロ曲選定②(好きなアニソン歌手アンケート)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。後期との変化の確認の為に) ・発声法の研究①(呼吸法) ・楽曲研究③(アンケートに上がった楽曲や歌手の魅力と個性の研究。ディスカッション)→全体曲選定 課題(自分が取り組むべき楽曲の選曲)
5	発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究②(軟口蓋のストレッチ) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究③(舌根の位置) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション) 課題(決定した曲への取り組み。努力目標の設定)
7	発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究④(開口) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント) ・歌唱の録音① 課題(録音を聴きながら、どうすればもっと魅力的な歌唱になるか、自己採点とレポートを作成)
8	発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑤(母音法) ・発表曲の歌唱指導①(楽譜の解釈) ・これまでの講義に関する質疑応答
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する小テストの実施① ・小テストの答え合わせと解説 ・小テストの採点を終えての各自の努力目標の発表
10	発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習①(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導②(リズムの解釈) 課題(練習曲の移動ドへの読み替え練習)
11	発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・移動ドによる読み替えの実習②(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替える) 課題(発表曲を移動ドで歌えるように読み替えを完成させる)
12	発表に向けての楽曲への取り組み⑦ ・移動ドによる読み替えの実習③(母音で歌う) ・発表楽曲の歌唱指導④(ソルフェージュによる歌唱を通して音程のチェックを行う) ・歌唱の録音②
13	発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・歌詞の表現力の確認 ・歌唱録音の①と②の比較検討会 ・発表楽曲の歌唱指導⑤
14	発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・発表楽曲の歌唱指導⑥(総合パフォーマンスチェック) ・クラス内発表
15	前期成果発表会の最終チェック ・最終パフォーマンスチェック(クラス内実技) ・ステージング確認、ランスルー、ゲネプロなど

授業計画	
	後期成果発表に向けて
1	後期授業内容の説明 ・学生へのインタビュー(年度初めとのモチベーションの変化などを中心に…) ・前期発表会の間奏・反省点など発表 ・質疑応答(フリートークを通して表現力の向上と対象分野への学習のモチベーションを高める)
2	楽典の基礎③ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎①(ロック) ・コード(和音)の概念 ・全体曲製作①(歌詞を考えてみる) ・全体曲候補を歌ってみる
3	楽典の基礎④ ・ポピュラーヴォーカルのリズム基礎②(8ビート) ・和声(ハーモニー)の仕組み ・全体曲製作②(メロディーのモチーフを書いてみる)
4	パフォーマーとしての自己の現状を知る ・各自の音域の確認(五線紙に自分の音域を書いてみる。前期との比較) ・発声法の研究⑥(姿勢) ・全体曲製作③(コーラス譜を歌ってみる→ハーモニーの魅力の発見) 課題(後期の発表に於いて自分が取り組むべき楽曲の選曲)
5	後期発表に向けての楽曲への取り組み① ・発声法の研究⑦(地声とファルセット) ・発表曲の選曲発表(感想をもとにディスカッション) 課題(後期の発表に於いて自分が取り組むべき楽曲の決定)
6	後期発表に向けての楽曲への取り組み② ・発声法の研究⑧(ロングトーンとビブラート) ・決定発表曲の発表(感想をもとにディスカッション)
7	後期発表に向けての楽曲への取り組み③ ・発声法の研究⑨(スタッカートと横隔膜) ・発表曲の歌唱発表(講義内でクラスメイト内発表。講師のコメント)
8	後期発表に向けての楽曲への取り組み④ ・発声法の研究⑩(正しいインターバルで歌う為の発声) ・発表曲の歌唱指導①(楽譜を読み下す力)
9	学習進度の確認 ・これまでの講義内容に関する復讐・質疑応答 ・移動ドの概念の理解度を確認する。 ・それらを総合して並行調と同主調(メジャーとマイナーの関係性)への理解を求める。
10	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑤ ・移動ドによる読み替えの実習⑥(ソルフェージュ) ・発表曲の歌唱指導②
11	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑥ ・全体曲製作④(1コーラスを完成させる。) ・発表曲の歌唱指導③(発表曲を移動ドに読み替えて歌唱し、細かい音程チェックを行う)
12	全体曲製作⑤(楽曲の完成からレコーディングへ) ・オリジナルソング発表までのプロセスの確認 ・発表楽曲の歌唱指導④(加えて衣装の選び方、プランを持ち寄りディスカッション) ・パフォーマンス(衣装付き)の録画②
13	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑧ ・全体曲・ソロ曲ともに最終確認。 ・ステージング最終確認。 ・発表楽曲の歌唱指導⑤(パフォーマンスアクション)
14	後期発表に向けての楽曲への取り組み⑨ ・最終チェック事項の確認。 ・発表楽曲の歌唱指導⑥(立ち方やアクション、視線のチェックなど魅力的なパフォーマンスの研究)
15	後期の受講を終えて… これまでの講義内容に関する小テストの実施② ・小テストの答え合わせと解説 ・質疑応答

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［木4］Nクラス						
代表教員	篠原　恵美	授業コード	GE5458NO	科目コード	GE5458Nd	期間	通年
担当教員	兵藤　まこ						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次に習得した基礎をふまえた、録音スタジオでの実践編として、アニメ・外画・ボイスオーバー・音声ドラマのアフレコ実習をすることで、声優の技術を磨く。
スタジオでの振舞い、マイクワーク、スピーカーを通しての自身の声の聞こえ方など、プロの声優の仕事を意識し、実践的な能力を身に付ける。

２．授業概要

教室での台本読みと、録音スタジオでのアフレコ実習を繰り返して行う。
アフレコ後には試聴を行ない、分析検討する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中以外の時間も高い意識をもって反復しないと身に付かないので、授業後には必ず復習を行い、次回の授業に向けて問題点・疑問点を解決する心構えを持つ。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

プロフェッショナルな声優の現場を想定した実践的な授業なので、意識が高い学生を望む。

授業計画	
	［前期］ マイクの前で芝居をすることの意義やその方法論を、様々な体験を通して学習してゆく。 前期担当教員：篠原恵美
1	前年度までに習得したことの確認
2	アニメスタジオ実習Ⅰ①／立ち稽古
3	アニメスタジオ実習Ⅰ②／マイクワーク
4	アニメスタジオ実習Ⅰ③／録音とプレビュー
5	外画スタジオ実習①／立ち稽古
6	外画スタジオ実習②／マイクワーク
7	外画スタジオ実習③／録音とプレビュー
8	アニメスタジオ実習Ⅱ①／立ち稽古　仕上げ
9	アニメスタジオ実習Ⅱ②／マイクワーク　仕上げ
10	アニメスタジオ実習Ⅱ③／録音とプレビュー　仕上げ
11	前期発表会の練習①／本読み
12	前期発表会の練習②／役の振り分け
13	前期発表会の練習③／役の解釈・表現を深める為の稽古
14	前期発表会の練習④／ステージング
15	前期発表会本番に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］ 個々の才能を分析し、それぞれに合った役柄で表現力を高めてゆく訓練と、様々な現場に対応出来る能力を身につける。 後期担当教員：兵藤まこ
1	ラジオドラマのシナリオでキャラクターの分析と読解力を養う
2	ラジオドラマの通し稽古とスタジオ収録
3	海外アニメのシナリオでキャラクターの分析と読解力を養う
4	海外アニメのスタジオ収録
5	画像のタイムコードに合わせたナレーション訓練
6	画像のタイムコードに合わせたナレーション収録
7	海外テレビドラマのシナリオでキャラクターの分析と読解力を養う
8	海外テレビドラマのスタジオ収録
9	日本のアニメの台本でキャラクターの分析と読解力を高める訓練
10	日本のアニメのスタジオ収録
11	後期成果発表作品の収録準備
12	後期成果発表作品の収録
13	後期成果発表作品の収録　録音と編集の確認
14	後期成果発表の総仕上げ
15	後期成果発表の反省

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[木4] Pクラス						
代表教員	速水　けんたろう	授業コード	GE5458P0	科目コード	GE5458Pd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

表現者としてプロフェッショナルを目指す上で必要なことを理解し、様々なジャンルに対応出来る歌唱力（音程、リズム感、表現力）やその他のスキルアップを図る。
自分の枠だけにとらわれず常に周りに眼を向ける意識を養う。

お互いに協力し合って一つのステージを一緒に創り上げる苦労と喜びを体感しよう！

２．授業概要

歌のお兄さん、お姉さんの司会進行による音楽番組の制作。
つまりそこには司会者、色んなジャンルの歌手、ディレクター、AD、カメラマン、メイク担当などの配役があり、歌唱力・演技力のいずれも求められるとの観点から個々それぞれが自己分析をし、かつ意見の交換をしながらスキルの習得を図る。
歌唱においては、ピアノによる基本的な発声練習を毎回授業に取り入れ、課題曲をカラオケ音源で歌唱し表現力アップを目指す。
演技においては、台本資料を使用してセリフやナレーション実習を行い演技力アップを目指す。
ステージを創る上でダンスも必要であると考えられるので、時にはダンス実習を行うこともある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

目標に向けて課題をこなしていく上で、歌唱課題の音取りや台詞のチェック、振り付けの確認など日々の予習や復習に取り組んでおくことが大事。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組む姿勢、個々の進歩度合いなどから総合的に判断し評価とする（１００％）。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

課題に応じた資料をその都度配布する。

参考文献『絶対うまくなる　目的別ヴォイス・トレーニング』（著：高田三郎）等

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

やる気のある人、明るく元気な人、もしくは明るく元気な人になりたいと思っている人あつまれ‼

歌の得意な人もそうでない人も、トークや演技の得意な人もそうでない人も、協調性があって粘り強く最後まで諦めずに頑張れる人を求む。

適材適所を見極め基本的に話し合いで決めるが、場合によっては指名することもある。

授業計画	
	歌のお兄さんお姉さんが司会進行をする音楽番組の公開放送!!
1	ガイダンス、自己紹介（得意なもの、やりたいことなど）
2	（前期課題）ステージ構成の確認、及び配役の選定（歌手、司会者、スタッフなど）
3	（前期課題）全体合唱曲の選曲及び決定、個人歌唱の選曲及び決定 スタッフなどその他の配役の決定
4	（前期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、振付の確認及び練習
5	（前期課題）スタッフなどその他の配役のセリフ及び動きの確認、全体合唱曲の練習
6	（前期課題）個人歌唱の練習、ステージ上で使用する映像及び後期発表に向けての舞台裏映像の打ち合わせ
7	（前期課題）ステージ上で使用する映像及び後期発表に向けての舞台裏映像の最終打ち合わせ、全体合唱曲の練習及び振り付けの確認、スタッフなどその他の配役の練習
8	（前期課題）ステージ上で使用する映像及び後期発表に向けての舞台裏映像の確認、個人歌唱の練習
9	（前期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、スタッフなどその他の配役の練習
10	（前期課題）個人歌唱の仕上げ、全体合唱曲の仕上げ、スタッフなどその他の配役の仕上げ
11	（前期課題）ブロックリハーサル前半①後半①、照明プラン打ち合わせ 各場面におけるBGMの打ち合わせ
12	（前期課題）ブロックリハーサル前半②後半②、照明プラン最終確認 各場面におけるBGMの最終確認
13	（前期課題）ブロックリハーサル前半③後半③
14	（前期課題）通しリハーサル①、通しリハーサル②
15	（前期課題）ゲネプロ①、ゲネプロ②

授業計画	
	前期のステージ”音楽番組の公開放送”の舞台裏を含めた”音楽番組の公開放送２”
1	前期の反省と改善点の確認
2	（後期課題）ステージ構成の確認、及び配役の選定（歌手、司会者、スタッフなど）
3	（後期課題）全体合唱曲の選曲及び決定、個人歌唱の選曲及び決定 スタッフなどその他の配役の決定
4	（後期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、振付の確認及び練習
5	（後期課題）スタッフなどその他の配役のセリフ及び動きの確認、全体合唱曲の練習
6	（後期課題）個人歌唱の練習、ステージ上で使用する映像及び前期舞台裏映像の打ち合わせ
7	（後期課題）ステージ上で使用する映像及び前期舞台裏映像の最終打ち合わせ、全体合唱曲の練習及び振り付けの確認、スタッフなどその他の配役の練習
8	（後期課題）ステージ上で使用する映像及び前期舞台裏映像の確認、個人歌唱の練習
9	（後期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、スタッフなどその他の配役の練習
10	（後期課題）個人歌唱の仕上げ、全体合唱曲の仕上げ、スタッフなどその他の配役の仕上げ
11	（後期課題）ブロックリハーサル前半①後半①、照明プラン打ち合わせ 各場面におけるBGMの打ち合わせ
12	（後期課題）ブロックリハーサル前半②後半②、照明プラン最終確認 各場面におけるBGMの最終確認
13	（後期課題）ブロックリハーサル前半③後半③
14	（後期課題）通しリハーサル①、通しリハーサル②
15	（後期課題）ゲネプロ①、ゲネプロ②

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[木5] Qクラス						
代表教員	速水　けんたろう	授業コード	GE5458Q0	科目コード	GE5458Qd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

表現者としてプロフェッショナルを目指す上で必要なことを理解し、様々なジャンルに対応出来る歌唱力（音程、リズム感、表現力）やその他のスキルアップを図る。
自分の枠だけにとらわれず常に周りに眼を向ける意識を養う。

お互いに協力し合って一つのステージを一緒に創り上げる苦労と喜びを体感しよう！

２．授業概要

歌のお兄さん、お姉さんの司会進行による音楽番組の制作。
つまりそこには司会者、色んなジャンルの歌手、ディレクター、AD、カメラマン、メイク担当などの配役があり、歌唱力・演技力のいずれも求められるとの観点から個々それぞれが自己分析をし、かつ意見の交換をしながらスキルの習得を図る。
歌唱においては、ピアノによる基本的な発声練習を毎回授業に取り入れ、課題曲をカラオケ音源で歌唱し表現力アップを目指す。
演技においては、台本資料を使用してセリフやナレーション実習を行い演技力アップを目指す。
ステージを創る上でダンスも必要であると考えられるので、時にはダンス実習を行うこともある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

目標に向けて課題をこなしていく上で、歌唱課題の音取りや台詞のチェック、振り付けの確認など日々の予習や復習に取り組んでおくことが大事。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組む姿勢、個々の進歩度合いなどから総合的に判断し評価とする（１００％）。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

課題に応じた資料をその都度配布する。

参考文献『絶対うまくなる　目的別ヴォイス・トレーニング』（著：高田三郎）等

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

やる気のある人、明るく元気な人、もしくは明るく元気な人になりたいと思っている人あつまれ‼

歌の得意な人もそうでない人も、トークや演技の得意な人もそうでない人も、協調性があって粘り強く最後まで諦めずに頑張れる人を求む。

適材適所を見極め基本的に話し合いで決めるが、場合によっては指名することもある。

授業計画	
	歌のお兄さんお姉さんが司会進行をする音楽番組の公開放送!!
1	ガイダンス、自己紹介（得意なもの、やりたいことなど）
2	（前期課題）ステージ構成の確認、及び配役の選定（歌手、司会者、スタッフなど）
3	（前期課題）全体合唱曲の選曲及び決定、個人歌唱の選曲及び決定 スタッフなどその他の配役の決定
4	（前期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、振付の確認及び練習
5	（前期課題）スタッフなどその他の配役のセリフ及び動きの確認、全体合唱曲の練習
6	（前期課題）個人歌唱の練習、ステージ上で使用する映像及び後期発表に向けての舞台裏映像の打ち合わせ
7	（前期課題）ステージ上で使用する映像及び後期発表に向けての舞台裏映像の最終打ち合わせ、全体合唱曲の練習及び振り付けの確認、スタッフなどその他の配役の練習
8	（前期課題）ステージ上で使用する映像及び後期発表に向けての舞台裏映像の確認、個人歌唱の練習
9	（前期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、スタッフなどその他の配役の練習
10	（前期課題）個人歌唱の仕上げ、全体合唱曲の仕上げ、スタッフなどその他の配役の仕上げ
11	（前期課題）ブロックリハーサル前半①後半①、照明プラン打ち合わせ 各場面におけるBGMの打ち合わせ
12	（前期課題）ブロックリハーサル前半②後半②、照明プラン最終確認 各場面におけるBGMの最終確認
13	（前期課題）ブロックリハーサル前半③後半③
14	（前期課題）通しリハーサル①、通しリハーサル②
15	（前期課題）ゲネプロ①、ゲネプロ②

授業計画	
	前期のステージ”音楽番組の公開放送”の舞台裏を含めた”音楽番組の公開放送２”
1	前期の反省と改善点の確認
2	（後期課題）ステージ構成の確認、及び配役の選定（歌手、司会者、スタッフなど）
3	（後期課題）全体合唱曲の選曲及び決定、個人歌唱の選曲及び決定 スタッフなどその他の配役の決定
4	（後期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、振付の確認及び練習
5	（後期課題）スタッフなどその他の配役のセリフ及び動きの確認、全体合唱曲の練習
6	（後期課題）個人歌唱の練習、ステージ上で使用する映像及び前期舞台裏映像の打ち合わせ
7	（後期課題）ステージ上で使用する映像及び前期舞台裏映像の最終打ち合わせ、全体合唱曲の練習及び振り付けの確認、スタッフなどその他の配役の練習
8	（後期課題）ステージ上で使用する映像及び前期舞台裏映像の確認、個人歌唱の練習
9	（後期課題）個人歌唱の練習、全体合唱曲の練習、スタッフなどその他の配役の練習
10	（後期課題）個人歌唱の仕上げ、全体合唱曲の仕上げ、スタッフなどその他の配役の仕上げ
11	（後期課題）ブロックリハーサル前半①後半①、照明プラン打ち合わせ 各場面におけるBGMの打ち合わせ
12	（後期課題）ブロックリハーサル前半②後半②、照明プラン最終確認 各場面におけるBGMの最終確認
13	（後期課題）ブロックリハーサル前半③後半③
14	（後期課題）通しリハーサル①、通しリハーサル②
15	（後期課題）ゲネプロ①、ゲネプロ②

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[木5] Rクラス						
代表教員	篠原　恵美	授業コード	GE5458R0	科目コード	GE5458Rd	期間	通年
担当教員	兵藤　まこ						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１年次に習得した基礎をふまえた、録音スタジオでの実践編として、アニメ・外画・ボイスオーバー・音声ドラマのアフレコ実習をすることで、声優の技術を磨く。
スタジオでの振舞い、マイクワーク、スピーカーを通しての自身の声の聞こえ方など、プロの声優の仕事を意識し、実践的な能力を身に付ける。

２．授業概要

教室での台本読みと、録音スタジオでのアフレコ実習を繰り返して行う。
アフレコ後には試聴を行ない、分析検討する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中以外の時間も高い意識をもって反復しないと身に付かないので、授業後には必ず復習を行い、次回の授業に向けて問題点・疑問点を解決する心構えを持つ。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進歩状態、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

プロフェッショナルな声優の現場を想定した実践的な授業なので、意識が高い学生を望む。

授業計画	
	［前期］ マイクの前で芝居をすることの意義やその方法論を、様々な体験を通して学習してゆく。 前期担当教員：篠原恵美
1	前年度までに習得したことの確認
2	アニメスタジオ実習Ⅰ①／立ち稽古
3	アニメスタジオ実習Ⅰ②／マイクワーク
4	アニメスタジオ実習Ⅰ③／録音とプレビュー
5	外画スタジオ実習①／立ち稽古
6	外画スタジオ実習②／マイクワーク
7	外画スタジオ実習③／録音とプレビュー
8	アニメスタジオ実習Ⅱ①／立ち稽古　仕上げ
9	アニメスタジオ実習Ⅱ②／マイクワーク　仕上げ
10	アニメスタジオ実習Ⅱ③／録音とプレビュー　仕上げ
11	前期発表会の練習①／本読み
12	前期発表会の練習②／役の振り分け
13	前期発表会の練習③／役の解釈・表現を深める為の稽古
14	前期発表会の練習④／ステージング
15	前期発表会本番に向けての仕上げ

授業計画	
	［後期］ 個々の才能を分析し、それぞれに合った役柄で表現力を高めてゆく訓練と、様々な現場に対応出来る能力を身につける。 後期担当教員：兵藤まこ
1	ラジオドラマのシナリオでキャラクターの分析と読解力を養う
2	ラジオドラマの通し稽古とスタジオ収録
3	海外アニメのシナリオでキャラクターの分析と読解力を養う
4	海外アニメのスタジオ収録
5	画像のタイムコードに合わせたナレーション訓練
6	画像のタイムコードに合わせたナレーション収録
7	海外テレビドラマのシナリオでキャラクターの分析と読解力を養う
8	海外テレビドラマのスタジオ収録
9	日本のアニメの台本でキャラクターの分析と読解力を高める訓練
10	日本のアニメのスタジオ収録
11	後期成果発表作品の収録準備
12	後期成果発表作品の収録
13	後期成果発表作品の収録　録音と編集の確認
14	後期成果発表の総仕上げ
15	後期成果発表の反省

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［金4］Sクラス						
代表教員	宇治川　まさなり	授業コード	GE5458S0	科目コード	GE5458Sd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
プロの現場で通用する表現者としての技術と人間性の獲得を目指す。
個人個人に向き合った演出家だからできる実践指導を行う。

【到達目標】
・演技者としての専門的分析力、理解力・体現力を身につける。
・演技・声優・歌手・ダンスに共通する確かなパフォーマンス力を体得する。
・自己を表現者として演出する能力・センスを獲得する。

２．授業概要

現在、2.5次元舞台作品で大人気の「あんさんぶるスターズ！」を教材に、演技、歌、ダンスの表現方法、パフォーマンス力を演出家自らの実践指導を通して身につけていく。

ゼミクラスならではの個人に根ざした演技指導を用いながら進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で課題となる台本のセリフ、動き、歌、ダンスなど含め自主的な練習を必ず行い授業に参加するよう心がける。
さまざまな舞台、映画、アニメ、ドラマなどを見て、自身の実践力と照らし合わせ訓練、学習を怠らない。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度と意識（60%）・成果発表に至る成長、取り組み方(40%)を見て評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

現在人気舞台2.5次元作品「あんさんぶるスターズ！オンステージ」台本を使用する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・音声表現実習（３限）
・ヴォイスアーティスト演習（４限）
・ヴォイスアーティスト演習（５限）
以上の３科目を同時に履修してください。必ず稽古着で行います。
台本などを使用して実践的な訓練、演出を付けていきますので欠席をすると遅れてしまいます。
シーン稽古も行なっていきますので、同じ出演シーンの人に迷惑が掛からないようプロとして通用する意識を持って参加してください。
※発表の際には、2.5次元作品では衣装、ウィッグが必要になります。履修者の方で準備をしていただきます。　（衣装、ウィッグをどこまで使用するかは授業内で決定します）

授業計画	
	【前期】 演技の基本技術、表現力、パフォーマンス力を身につけられるよう訓練を行う。 2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	各人のモチベーションや演技演劇に対する意識を確認。 個人個人の目標、希望、夢などを理解出来るようコミニュケーションをとる。 授業の概要と学習計画を理解する。 前期演目DVD鑑賞
2	2.5次元作品についての理解と学習 台本の分析 配役オーディション
3	演技・歌・ダンス基本訓練① 舞台台本を用いて実践的アプローチ ・本読み、台本の解釈、役の解釈について学ぶ ・キャラクター衣装、小道具についても考える
4	演技・歌・ダンス基本訓練② ・演技（役の解釈・配役本読み） ・歌唱練習（楽曲・譜面確認） ・ダンス基本練習
5	演技・歌・ダンス基本訓練③　（感情の扱いについての理解） ・シーン作り（演出指導：オープニング～起） ・歌唱練習（表現の工夫・役の歌唱方を練習） ・ダンス振付（課題曲①）
6	演技・歌・ダンス基本訓練④　（動き（ミザンス）の理解と研究） ・シーン作り（演出指導：承①） ・歌唱練習（課題曲①） ・ダンス振付（課題曲②）
7	演技・歌・ダンス基本訓練⑤（行為、行動について） ・シーン作り（演出指導：承②） ・歌唱練習（課題曲②③④） ・ダンス振付（課題曲③）
8	演技・歌・ダンス基本訓練⑥（役の関係性の分析体現） ・シーン作り（演出指導：承③） ・歌唱練習（課題曲⑤⑥⑦） ・ダンス振付（課題曲④⑤）
9	演技・歌・ダンス基本訓練⑥（台詞の緩急強弱の扱いを習得） ・シーン作り（演出指導：転①） ・歌唱練習（表現の掘り下げ） ・ダンス振付（課題曲⑥⑦）
10	演技・歌・ダンス基本訓練⑦（流れでの稽古） ・シーン作り（演出指導：転② 結末） ・歌唱表現（キャラクター歌唱表現・技術の確認） ・ダンス表現（見せ方・肉体の使い方の工夫）
11	演技・歌・ダンス基本訓練⑧（自らの課題の抽出） ・シーン作り（流れでの稽古・前半） ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
12	演技・歌・ダンスの基本訓練⑨（発表時を想定した稽古） ・シーン作り（流れでの稽古・後半） ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
13	前期発表への試演（自らの課題の抽出） ・衣装、小道具などの決定装着 ・流れでの全体止め通し
14	前期発表時への通し稽古 ・演技、歌、ダンスの表現掘り下げ
15	前期発表会に向けての最終通し稽古 ・全体の理解度・習熟度を確認 ・仕上げとまとめ ※各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	【後期】前期での反省点と新たな目標の確認 表現の基本技術を前期に引き続き身につけられるようレベルアップの訓練を行う。 前期に引き続き、2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	前期の各自の課題を確認 後期の学習計画を理解 ・後期演目DVD鑑賞
2	演技・歌・ダンス応用訓練①（喜怒哀楽の応用） ・後期台本、役作りの理解 ・後期キャスティングについて
3	演技・歌・ダンス応用訓練②（物語の概要、背景、関係性を深める） ・歌唱訓練（課題曲８・９）楽曲の理解 ・ダンス基本訓練
4	演技・歌・ダンス応用訓練③（行動の演出分析） ・前半シーン創り（演出指導：起）　基本的な役の振舞い、行動の理解表現 ・歌唱訓練（課題曲１０・１１）楽曲の理解・音取り ・ダンス振付（課題曲８・９）
5	演技・歌・ダンス応用訓練④（シーンのテンポを理解及び表現） ・前半シーン創り（演出指導：承①） ・歌唱訓練（課題曲１２・１３） ・ダンス振付（１０・１１）
6	演技・歌・ダンス応用訓練⑤（シーンのテーマ分析と行動の成立） ・中盤シーン創り（演出指導：承②） ・歌唱訓練（課題曲１４・１５） ・ダンス振付（課題曲１２・１３）
7	演技・歌・ダンス応用訓練⑥（シーンにおける存在の仕方） ・中盤シーン創り（演出指導：転①） ・歌唱指導（旋律性質、リズムの習得） ・ダンス振付（課題曲１４・１５）
8	演技・歌・ダンス応用訓練⑦（全体中での役割を理解と体現） ・中盤シーン創り（演出指導：転② 結末） ・歌唱訓練（歌詞への理解、技術、表現の体得） ・ダンス振付（振付の理解、技術、体現の体得）
9	後期発表作品創り（前半部分） 作品前半部分の演技・歌・ダンス全てにおいて個人課題の克服。 自主的な役についてのアイディアを発信する作業。
10	後期発表作品創り（中盤部分） 作品前半部分の演技・歌・ダンス全てにおいて個人課題の克服。 自主的な役についてのアイディアを発信する作業。
11	後期発表作品創り（後半部分） 作品前半部分の演技・歌・ダンス全てにおいて個人課題の克服。 自主的な役についてのアイディアを発信する作業。 ・役衣装、小道具の準備
12	後期発表への通し稽古１ ・全体の流れ把握、個人においての課題箇所の改善克服
13	後期発表への通し稽古２ シーンにおける成立の分析。 演技、歌、ダンスの習熟。
14	後期発表への通し稽古２（物語・感情の流れの確認） 音楽、衣装など含めた総合的な物語の流れの成立
15	一年間の成長と反省と今後の目標確認 ※各回の授業内容は、進度により変更することがある。

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［金5］Tクラス						
代表教員	宇治川　まさなり	授業コード	GE5458T0	科目コード	GE5458Td	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
プロの現場で通用する表現者としての技術と人間性の獲得を目指す。
個人個人に向き合った演出家だからできる実践指導を行う。

【到達目標】
・演技者としての専門的分析力、理解力・体現力を身につける。
・演技・声優・歌手・ダンスに共通する確かなパフォーマンス力を体得する。
・自己を表現者として演出する能力・センスを獲得する。

２．授業概要

現在、2.5次元舞台作品で大人気の「あんさんぶるスターズ！」を教材に、演技、歌、ダンスの表現方法、パフォーマンス力を演出家自らの実践指導を通して身につけていく。

ゼミクラスならではの個人に根ざした演技指導を用いながら進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で課題となる台本のセリフ、動き、歌、ダンスなど含め自主的な練習を必ず行い授業に参加するよう心がける。
さまざまな舞台、映画、アニメ、ドラマなどを見て、自身の実践力と照らし合わせ訓練、学習を怠らない。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度と意識（60%）・成果発表に至る成長、取り組み方(40%)を見て評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

現在人気舞台2.5次元作品「あんさんぶるスターズ！オンステージ」台本を使用する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・音声表現実習（３限）
・ヴォイスアーティスト演習（４限）
・ヴォイスアーティスト演習（５限）
以上の３科目を同時に履修してください。必ず稽古着で行います。
台本などを使用して実践的な訓練、演出を付けていきますので欠席をすると遅れてしまいます。
シーン稽古も行なっていきますので、同じ出演シーンの人に迷惑が掛からないようプロとして通用する意識を持って参加してください。
※発表の際には、2.5次元作品では衣装、ウィッグが必要になります。履修者の方で準備をしていただきます。　（衣装、ウィッグをどこまで使用するかは授業内で決定します）

授業計画	
	【前期】 演技の基本技術、表現力、パフォーマンス力を身につけられるよう訓練を行う。 2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	各人のモチベーションや演技演劇に対する意識を確認。 個人個人の目標、希望、夢などを理解出来るようコミニュケーションをとる。 授業の概要と学習計画を理解する。 前期演目DVD鑑賞
2	2.5次元作品についての理解と学習 台本の分析 配役オーディション
3	演技・歌・ダンス基本訓練① 舞台台本を用いて実践的アプローチ ・本読み、台本の解釈、役の解釈について学ぶ ・キャラクター衣装、小道具についても考える
4	演技・歌・ダンス基本訓練② ・演技（役の解釈・配役本読み） ・歌唱練習（楽曲・譜面確認） ・ダンス基本練習
5	演技・歌・ダンス基本訓練③　（感情の扱いについての理解） ・シーン作り（演出指導：オープニング～起） ・歌唱練習（表現の工夫・役の歌唱方を練習） ・ダンス振付（課題曲①）
6	演技・歌・ダンス基本訓練④　（動き（ミザンス）の理解と研究） ・シーン作り（演出指導：承①） ・歌唱練習（課題曲①） ・ダンス振付（課題曲②）
7	演技・歌・ダンス基本訓練⑤（行為、行動について） ・シーン作り（演出指導：承②） ・歌唱練習（課題曲②③④） ・ダンス振付（課題曲③）
8	演技・歌・ダンス基本訓練⑥（役の関係性の分析体現） ・シーン作り（演出指導：承③） ・歌唱練習（課題曲⑤⑥⑦） ・ダンス振付（課題曲④⑤）
9	演技・歌・ダンス基本訓練⑥（台詞の緩急強弱の扱いを習得） ・シーン作り（演出指導：転①） ・歌唱練習（表現の掘り下げ） ・ダンス振付（課題曲⑥⑦）
10	演技・歌・ダンス基本訓練⑦（流れでの稽古） ・シーン作り（演出指導：転②　結末） ・歌唱表現（キャラクター歌唱表現・技術の確認） ・ダンス表現（見せ方・肉体の使い方の工夫）
11	演技・歌・ダンス基本訓練⑧（自らの課題の抽出） ・シーン作り（流れでの稽古・前半） ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
12	演技・歌・ダンスの基本訓練⑨（発表時を想定した稽古） ・シーン作り（流れでの稽古・後半） ・キャラクターでの歌い方、ダンスの実習
13	前期発表への試演（自らの課題の抽出） ・衣装、小道具などの決定装着 ・流れでの全体止め通し
14	前期発表時への通し稽古 ・演技、歌、ダンスの表現掘り下げ
15	前期発表会に向けての最終通し稽古 ・全体の理解度・習熟度を確認 ・仕上げとまとめ ※各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	【後期】前期での反省点と新たな目標の確認 表現の基本技術を前期に引き続き身につけられるようレベルアップの訓練を行う。 前期に引き続き、2.5次元作品の台本を使用し演出を行いながら役作りの方法論と実践力を体得する。
1	前期の各自の課題を確認 後期の学習計画を理解 ・後期演目DVD鑑賞
2	演技・歌・ダンス応用訓練①（喜怒哀楽の応用） ・後期台本、役作りの理解 ・後期キャスティングについて
3	演技・歌・ダンス応用訓練②（物語の概要、背景、関係性を深める） ・歌唱訓練（課題曲８・９）楽曲の理解 ・ダンス基本訓練
4	演技・歌・ダンス応用訓練③（行動の演出分析） ・前半シーン創り（演出指導：起）　基本的な役の振舞い、行動の理解表現 ・歌唱訓練（課題曲１０・１１）楽曲の理解・音取り ・ダンス振付（課題曲８・９）
5	演技・歌・ダンス応用訓練④（シーンのテンポを理解及び表現） ・前半シーン創り（演出指導：承①） ・歌唱訓練（課題曲１２・１３） ・ダンス振付（１０・１１）
6	演技・歌・ダンス応用訓練⑤（シーンのテーマ分析と行動の成立） ・中盤シーン創り（演出指導：承②） ・歌唱訓練（課題曲１４・１５） ・ダンス振付（課題曲１２・１３）
7	演技・歌・ダンス応用訓練⑥（シーンにおける存在の仕方） ・中盤シーン創り（演出指導：転①） ・歌唱指導（旋律性質、リズムの習得） ・ダンス振付（課題曲１４・１５）
8	演技・歌・ダンス応用訓練⑦（全体中での役割を理解と体現） ・中盤シーン創り（演出指導：転② 結末） ・歌唱訓練（歌詞への理解、技術、表現の体得） ・ダンス振付（振付の理解、技術、体現の体得）
9	後期発表作品創り（前半部分） 作品前半部分の演技・歌・ダンス全てにおいて個人課題の克服。 自主的な役についてのアイディアを発信する作業。
10	後期発表作品創り（中盤部分） 作品前半部分の演技・歌・ダンス全てにおいて個人課題の克服。 自主的な役についてのアイディアを発信する作業。
11	後期発表作品創り（後半部分） 作品前半部分の演技・歌・ダンス全てにおいて個人課題の克服。 自主的な役についてのアイディアを発信する作業。 ・役衣装、小道具の準備
12	後期発表への通し稽古１ ・全体の流れ把握、個人においての課題箇所の改善克服
13	後期発表への通し稽古２ シーンにおける成立の分析。 演技、歌、ダンスの習熟。
14	後期発表への通し稽古２（物語・感情の流れの確認） 音楽、衣装など含めた総合的な物語の流れの成立
15	一年間の成長と反省と今後の目標確認 ※各回の授業内容は、進度により変更することがある。

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[金4] Uクラス						
代表教員	石川　光太郎	授業コード	GE5458U0	科目コード	GE5458Ud	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優として幅広い仕事に対応するために、フリートーク、プレゼン、ナレーション、インタビュー能力を身に着ける。
リポート能力を習得し発表に向けて、ＶＴＲを制作する。
ナレーション、朗読を通して、文章を読む力を身に着ける。
カメラ、スタジオでの実践を通して学んでいく。

２．授業概要

実技・実習として進めていく。
リポーター、出演者、制作者などを自分たちで決め、発表につなげる。
ナレーション、朗読では実際の作品を使用し、録画したＶＴＲを確認することで、自分の読み方を第三者の視点から検証する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リポートＶＴＲを制作するにあたり、自分で内容を考え構成、コメントを作成したり、ナレーションや朗読において、課題原稿を自宅で練習することも不可欠である。発声、発音、滑舌の練習などは常に自分で鍛錬する。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進捗状況、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、必要な素材を配布する。（ナレーション、朗読原稿など）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

協力してＶＴＲを制作することになるため、欠席をすると他者に迷惑をかけるとともに、全体的に授業の進行が遅れていくことになる。授業冒頭には軽い発声、滑舌稽古をするため、動きやすい服装での参加が望ましい。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	自己紹介、自己ＰＲ。ガイダンス。
2	発声、発音、アクセントなど言葉の基礎について
3	写真から創る物語
4	カメラ実習を行うにあたって必要なこと。題材設定、構成作成
5	カメラリポート実習①　リポートの解釈
6	カメラリポート実習②　マイクの使い方
7	カメラリポート実習③　カメラワーク
8	カメラリポート実習④　録画と視聴
9	インタビュー実習①　　相手の話を聞く
10	インタビュー実習②　　質問項目の整理
11	インタビュー実習③　　何を聞きだすか？
12	ナレーション、朗読実習①　文章の構成
13	ナレーション、朗読実習②　音の動きを知る
14	前期成果発表の練習
15	前期成果発表への仕上げ

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	グループ分けをし、制作発表に向けての準備
3	題材選び、構成制作、役柄決め
4	リポート制作の準備、グループごと
5	リポート制作①　　リポーター、出演者としての心構え
6	リポート制作②　　カメラワークと構成確認
7	リポート制作③　　音入れ、編集
8	映像での寸劇表現①　　立ち位置の確認
9	映像での寸劇表現②　　会話の重要性を学ぶ
10	映像での寸劇表現③　　録画、確認
11	ナレーション、朗読実習①　　文のかたまりで読む
12	ナレーション、朗読実習②　　文章の意味を考える
13	ナレーション、朗読実習③　　情感を込めて読む
14	後期成果発表の練習
15	後期成果発表への仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［金5］Vクラス						
代表教員	石川　光太郎	授業コード	GE5458V0	科目コード	GE5458Vd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優として幅広い仕事に対応するために、フリートーク、プレゼン、ナレーション、インタビュー能力を身に着ける。
リポート能力を習得し発表に向けて、ＶＴＲを制作する。
ナレーション、朗読を通して、文章を読む力を身に着ける。
カメラ、スタジオでの実践を通して学んでいく。

２．授業概要

実技・実習として進めていく。
リポーター、出演者、制作者などを自分たちで決め、発表につなげる。
ナレーション、朗読では実際の作品を使用し、録画したＶＴＲを確認することで、自分の読み方を第三者の視点から検証する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リポートＶＴＲを制作するにあたり、自分で内容を考え構成、コメントを作成したり、ナレーションや朗読において、課題原稿を自宅で練習することも不可欠である。発声、発音、滑舌の練習などは常に自分で鍛錬する。

４．成績評価の方法及び基準

個々のスキルや、進捗状況、授業への取り組みなどを総合的にみて、評価を決定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、必要な素材を配布する。（ナレーション、朗読原稿など）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

協力してＶＴＲを制作することになるため、欠席をすると他者に迷惑をかけるとともに、全体的に授業の進行が遅れていくことになる。授業冒頭には軽い発声、滑舌稽古をするため、動きやすい服装での参加が望ましい。

授業計画	
	［前期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	自己紹介、自己ＰＲ。ガイダンス。
2	発声、発音、アクセントなど言葉の基礎について
3	写真から創る物語
4	カメラ実習を行うにあたって必要なこと。題材設定、構成作成
5	カメラリポート実習①　リポートの解釈
6	カメラリポート実習②　マイクの使い方
7	カメラリポート実習③　カメラワーク
8	カメラリポート実習④　録画と視聴
9	インタビュー実習①　　相手の話を聞く
10	インタビュー実習②　　質問項目の整理
11	インタビュー実習③　　何を聞きだすか？
12	ナレーション、朗読実習①　文章の構成
13	ナレーション、朗読実習②　音の動きを知る
14	前期成果発表の練習
15	前期成果発表への仕上げ

授業計画	
	［後期］前・後期を通じて、下記の全ての内容を、随時、復習を交えながら進めていく。
1	前期課程の確認と反省。
2	グループ分けをし、制作発表に向けての準備
3	題材選び、構成制作、役柄決め
4	リポート制作の準備、グループごと
5	リポート制作①　　リポーター、出演者としての心構え
6	リポート制作②　　カメラワークと構成確認
7	リポート制作③　　音入れ、編集
8	映像での寸劇表現①　　立ち位置の確認
9	映像での寸劇表現②　　会話の重要性を学ぶ
10	映像での寸劇表現③　　録画、確認
11	ナレーション、朗読実習①　　文のかたまりで読む
12	ナレーション、朗読実習②　　文章の意味を考える
13	ナレーション、朗読実習③　　情感を込めて読む
14	後期成果発表の練習
15	後期成果発表への仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［月4］Wクラス						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GE5458WO	科目コード	GE5458Wd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊制作する事の楽しさ、素晴らしさを実感する。

＊チャンスは常に同じ環境で発生するとは限らない。特定の環境のみでしか制作活動が出来ないという訳ではなく、幅広い環境で活動出来る様、知識とテクニックを習得する。

２．授業概要

様々な活動の仕方がある現代において、アーティスト自身がコンテンツを制作出来ることは大きな武器となる。
また、自身の表現を形にしていく過程には成長する糧がたくさんある。
それらを自ら行い発信していけるクリエイティブなアーティストを目指し、スキルを身につけると共に新たな楽しさを発見していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

制作を行うに当たって、その時間内以外にアイディアを形にしていく取り組みが必要になる。
またそれぞれの制作物の内容により、必要となるスキルや、過程が前後する場合もあるので、その都度自ら調べ深めていく習慣も必要となる。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組み方、レポートやデータの提出、個々の進捗状況などを総合的に判断し、平常点100%で評価を決定する。
また共同作業においてはグループメンバーに頼りきらず自らも行動していけているかどうかについても判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ノートパソコンを持っていることが必要。
購入の際は各自で購入せず、授業にて必ず相談しに来る事。（スペックや相性により使えない事がある為）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	これまで習得してきたことの確認
3	きちんとしたリスニング方法、および環境構築
4	他のDAWとの連携（様々な条件に対応した書き出し方法）
5	波形編集のコツ
6	音源の仕組み
7	エフェクタについて　（イコライザ、フィルタ）
8	エフェクタについて　（コンプレッサー、リミッター）
9	エフェクタについて（ディレイ、リバーブ）
10	プリセットについて
11	コード入門
12	MIDIデータの編集テクニック
13	簡易的なスコアの作成方法
14	オンラインシステム
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	前期制作課題の個別確認。
2	ピアノについて
3	ギター,ベースについて
4	ドラムについて
5	作るときの都合・仕上げるときの都合
6	色々なRecordingの流れ
7	ピッチ修正（ProToolsの機能を使用）
8	ピッチ修正（サードパーティ製品を使用）
9	Mixingの流れ
10	Masteringの流れ
11	テレビや舞台で起こっている不思議（仕組み）
12	知っていると演技しやすくなる裏事情（仕組み）
13	ライブでの同期システムについて
14	AIについて
15	後期のまとめ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［月5］Xクラス						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GE5458X0	科目コード	GE5458Xd	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

＊制作する事の楽しさ、素晴らしさを実感する。

＊チャンスは常に同じ環境で発生するとは限らない。特定の環境のみでしか制作活動が出来ないという訳ではなく、幅広い環境で活動出来る様、知識とテクニックを習得する。

２．授業概要

様々な活動の仕方がある現代において、アーティスト自身がコンテンツを制作出来ることは大きな武器となる。
また、自身の表現を形にしていく過程には成長する糧がたくさんある。
それらを自ら行い発信していけるクリエイティブなアーティストを目指し、スキルを身につけると共に新たな楽しさを発見していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

制作を行うに当たって、その時間内以外にアイディアを形にしていく取り組みが必要になる。
またそれぞれの制作物の内容により、必要となるスキルや、過程が前後する場合もあるので、その都度自ら調べ深めていく習慣も必要となる。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組み方、レポートやデータの提出、個々の進捗状況などを総合的に判断し、平常点100%で評価を決定する。
また共同作業においてはグループメンバーに頼りきらず自らも行動していけているかどうかについても判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ノートパソコンを持っていることが必要。
購入の際は各自で購入せず、授業にて必ず相談しに来る事。（スペックや相性により使えない事がある為）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	これまで習得してきたことの確認
3	きちんとしたリスニング方法、および環境構築
4	他のDAWとの連携（様々な条件に対応した書き出し方法）
5	波形編集のコツ
6	音源の仕組み
7	エフェクタについて　（イコライザ、フィルタ）
8	エフェクタについて　（コンプレッサー、リミッター）
9	エフェクタについて（ディレイ、リバーブ）
10	プリセットについて
11	コード入門
12	MIDIデータの編集テクニック
13	簡易的なスコアの作成方法
14	オンラインシステム
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	前期制作課題の個別確認。
2	ピアノについて
3	ギター,ベースについて
4	ドラムについて
5	作るときの都合・仕上げるときの都合
6	色々なRecordingの流れ
7	ピッチ修正（ProToolsの機能を使用）
8	ピッチ修正（サードパーティ製品を使用）
9	Mixingの流れ
10	Masteringの流れ
11	テレビや舞台で起こっている不思議（仕組み）
12	知っていると演技しやすくなる裏事情（仕組み）
13	ライブでの同期システムについて
14	AIについて
15	後期のまとめ

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4 ［火4］Yクラス						
代表教員	松本　梨香	授業コード	GE5458Y0	科目コード	GE5458Yd	期間	通年
担当教員	柴田　新						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌うためのテクニックとして、様々な呼吸法や発声・発音法がありますが、それらを会得するために何が必要なのか一緒に探求していきましょう。歌い方に正解はありません。ただしプロの表現者になるために最低限必要なメソッドがあります。声という音の伝達量と伝達速度の調整が重要になります。これらを向上させるために体幹を知る必要があります。体幹を知るということは己を知るということです。そして、己を知るということは・・・？そんなことを探求しながら心と技術を磨いていきます。

２．授業概要

アニメソング、特撮ソングを歌い上げることのトレーニングはもちろんのこと、キャラクターソングと呼ばれる、いわゆる演じた声のままメロディーに乗せる歌がアニメの現場では求められます。声帯模写ともいえるこの技術を会得することで活動の幅はグンとひろがります。熱唱と模唱、通常のポップアーティストとは一線を画す世界が体験できます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

エンターテインメントにおける情報(音楽コンサート、映画、舞台等）は貪欲に吸収してください。発声と演技表現のメソッドにおける課題に対応するための予習と復習は適宜行ってください。目に見えるもの、すべてはメッセージです。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業参加姿勢（20%）、技術成長度（30%）、そして課題達成度（50%）を目安に総合的に判断して評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

松本梨香作による絵本や実際に舞台で使用した台本や楽譜をコピーして配布します。生徒それぞれが所有する書籍や音源を使用してレッスンします。その他必要に応じて資料を配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服と靴を用意して臨んでください。また、睡眠は十分にとり声帯のチェックは日々注意して管理してください。そして、自分自身と向き合い、表現することの楽しさと厳しさをつかんでください。１００％元気な自分を感じてください。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	表現者として必要なこと／心と身体の在り方
3	歌うために必要なこと／楽曲分析（テーマソング歌唱のための解説）
4	歌うために必要なこと／楽曲分析（キャラクターソング歌唱のための解説）
5	演じるために必要なこと／シナリオ分析（奥行きのある演技のための解説）
6	目標の設定と実践指導
7	実践演習-Ⅰ（テーマソング歌唱）
8	実践演習-Ⅱ（キャラクターソング歌唱）
9	実践演習-Ⅲ（声優技術：朗読、アフレコ、吹替え、ボイスオーバー等）
10	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備① 内容の検討＆決定
11	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備② 稽古（本読み、歌稽古）
12	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備③ 稽古（歌稽古、立ち稽古）
13	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備④ 稽古（立ち稽古）
14	発表会準備⑤ 稽古（ステージング）
15	発表会準備⑥ 総まとめ（通し）

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス／前期リフレクション
2	目標の設定と実践指導
3	実践演習-Ⅰ、Ⅱ（テーマソングとキャラクターソング歌唱） ／ 前期課題克服度確認
4	実践演習-Ⅲ （声優技術）／ 前期課題克服度確認
5	実践演習-Ⅳ （仕上げ）／ 前期課題克服度確認
6	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備①内容の検討、オーディション・ガイダンス
7	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備②内容の決定、オーディション
8	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備③キャスト・スタッフの決定
9	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備④稽古（本読み・音楽稽古）
10	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑤稽古（音楽稽古・立ち稽古）
11	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑥稽古（立ち稽古）
12	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑦稽古（ステージング他）
13	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑧最終チェック（衣装他）
14	発表会準備⑨総まとめ（通し）
15	発表会準備⑩ゲネプロ（最終チェック）

科目名	ヴォイスアーティスト演習1-1～3-4　[火5] Zクラス						
代表教員	松本　梨香	授業コード	GE5458Z0	科目コード	GE5458Zd	期間	通年
担当教員	柴田　新						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌うためのテクニックとして、様々な呼吸法や発声・発音法がありますが、それらを会得するために何が必要なのか一緒に探求していきましょう。歌い方に正解はありません。ただしプロの表現者になるために最低限必要なメソッドがあります。声という音の伝達量と伝達速度の調整が重要になります。これらを向上させるために体幹を知る必要があります。体幹を知るということは己を知るということです。そして、己を知るということは・・・？そんなことを探求しながら心と技術を磨いていきます。

２．授業概要

アニメソング、特撮ソングを歌い上げることのトレーニングはもちろんのこと、キャラクターソングと呼ばれる、いわゆる演じた声のままメロディーに乗せる歌がアニメの現場では求められます。声帯模写ともいえるこの技術を会得することで活動の幅はグンとひろがります。熱唱と模唱、通常のポップアーティストとは一線を画す世界が体験できます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

エンターテインメントにおける情報(音楽コンサート、映画、舞台等）は貪欲に吸収してください。発声と演技表現のメソッドにおける課題に対応するための予習と復習は適宜行ってください。目に見えるもの、すべてはメッセージです。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業参加姿勢（20%）、技術成長度（30%）、そして課題達成度（50%）を目安に総合的に判断して評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

松本梨香作による絵本や実際に舞台で使用した台本や楽譜をコピーして配布します。生徒それぞれが所有する書籍や音源を使用してレッスンします。その他必要に応じて資料を配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服と靴を用意して臨んでください。また、睡眠は十分にとり声帯のチェックは日々注意して管理してください。そして、自分自身と向き合い、表現することの楽しさと厳しさをつかんでください。１００%元気な自分を感じてください。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	表現者として必要なこと／心と身体の在り方
3	歌うために必要なこと／楽曲分析（テーマソング歌唱のための解説）
4	歌うために必要なこと／楽曲分析（キャラクターソング歌唱のための解説）
5	演じるために必要なこと／シナリオ分析（奥行きのある演技のための解説）
6	目標の設定と実践指導
7	実践演習-Ⅰ（テーマソング歌唱）
8	実践演習-Ⅱ（キャラクターソング歌唱）
9	実践演習-Ⅲ（声優技術：朗読、アフレコ、吹替え、ボイスオーバー等）
10	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備① 内容の検討＆決定
11	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備② 稽古（本読み、歌稽古）
12	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備③ 稽古（歌稽古、立ち稽古）
13	実践演習-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備④ 稽古（立ち稽古）
14	発表会準備⑤ 稽古（ステージング）
15	発表会準備⑥ 総まとめ（通し）

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス／前期リフレクション
2	目標の設定と実践指導
3	実践演習-Ⅰ、Ⅱ（テーマソングとキャラクターソング歌唱） ／ 前期課題克服度確認
4	実践演習-Ⅲ （声優技術）／ 前期課題克服度確認
5	実践演習-Ⅳ （仕上げ）／ 前期課題克服度確認
6	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備①内容の検討、オーディション・ガイダンス
7	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備②内容の決定、オーディション
8	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備③キャスト・スタッフの決定
9	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備④稽古（本読み・音楽稽古）
10	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑤稽古（音楽稽古・立ち稽古）
11	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑥稽古（立ち稽古）
12	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑦稽古（ステージング他）
13	実践演習：後期応用編-Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ／ 発表会準備⑧最終チェック（衣装他）
14	発表会準備⑨総まとめ（通し）
15	発表会準備⑩ゲネプロ（最終チェック）

科目名	アニメソング総合演習１　［火3］Aクラス						
代表教員	鈴木　結女	授業コード	GE5470A0	科目コード	GE5470	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・近年の多様化するアニメソングを歌いこなす『スキル』と『表現力』を身につけられるよう、
ときに様々なジャンルの音楽にも触れながら『発声』『リズム』『表現力』をしっかり学んでいく。

・自分の声の特性を理解し、その魅力を活かせるよう、各々に合った表現のアプローチを学んでいく。

・将来プロのアニメソングシンガーとして、どのような現場にも対応出来るスキルを身につけられるよう、
『基礎力』をベースに、柔軟性を持った『応用力』を習得する事を目標とする。

２．授業概要

・授業では、テーマに基づき選択した課題曲を全員で演習していく。必要に応じて個別指導も行う。
　（課題曲には、学生からの推薦曲なども取り入れていく）

・毎回の授業テーマに沿った様々な発声、ボイストレーニング、リズム演習も多く盛り込んでいく。

・前期／後期ラストの授業内での成果発表会には、学生各々の選ぶ自由選択曲によるパフォーマンスを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業で学んだスキル／内容をしっかり自分のものとする為には、授業時間外の日々の自主練習が大切である。
（特に復習）

・同時に、表現者として必要な感性を磨く為、日頃から様々な事象に関心を持ち、アンテナを鋭く張っていること
が望まれる。様々なジャンルの音楽に触れ、舞台、映画、絵画等、あらゆる芸術に触れ、日々何かを ”感じて” いくことが
大切である。

４．成績評価の方法及び基準

・授業態度（毎回の課題への取り組み方／授業そのもの、クラスメイト及び講師に向き合う姿勢）ー　５０％
・授業、及び発表会においての歌唱レベル、上達状況などから総合的に判断した実技点数　ー　５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・授業で使用する課題曲資料（楽譜／歌詞等）はその都度授業で配布・指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・人数に応じて複数クラスを開講する場合は、アカデミックアドバイザーと相談し、クラス配分を決定する。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス（アンケート配布）
2	自由選択アニソン歌唱による自己紹介／『他人の歌を聴く』
3	歌唱の基本姿勢と発声
4	様々なリズムを学ぼう
5	アニメソングを歌おう１（アップテンポ／メジャーコード）（基礎編）
6	アニメソングを歌おう２（アップテンポ／メジャーコード）（応用編）
7	アニメソングを歌おう３（アップテンポ／マイナーコード）（基礎編）
8	アニメソングを歌おう４（アップテンポ／マイナーコード）（応用編）
9	アニメソングを歌おう５（ミディアムテンポ／メジャーコード）（基礎編）
10	アニメソングを歌おう６（ミディアムテンポ／マイナーコード）（応用編）
11	アニメソングを歌おう７（バラード）
12	前期成果発表会に向けての歌唱曲策定
13	前期成果発表会に向けての演習
14	前期成果発表会に向けての最終チェック
15	前期成果発表会

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス　（アンケート配布）
2	英語の歌を歌おう　１（ロック）
3	英語の歌を歌おう　２（ポップス）
4	英語の歌を歌おう　３（バラード／ディズニー曲）
5	英語の歌を歌おう　４（R&B）
6	様々な音楽ジャンルを聴き、様々な表現を学ぶ。『歌詞』を表現するということ。（シャンソン／演歌／唱歌等）
7	自由選択アニメソング歌唱による自己表現１・『他人の歌を聴く』
8	自由選択アニメソング歌唱による自己表現２・『互いに評価し合う』
9	後期成果発表会に向けて（ガイダンス及び歌唱曲策定）
10	後期成果発表会に向けての演習１・歌唱／個別指導
11	後期成果発表会に向けての演習２・総合ステージパフォーマンス／個別指導
12	個別歌唱指導（発表リハーサル１）『互いに評価し合う』
13	個別総合ステージパフォーマンス指導（発表リハーサル２）『実際に採点し合う』
14	後期成果発表会に向けての最終チェック
15	後期成果発表会／学年末総括

科目名	アニメソング総合演習１　［火4］Bクラス						
代表教員	鈴木　結女	授業コード	GE5470B0	科目コード	GE5470	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・近年の多様化するアニメソングを歌いこなす『スキル』と『表現力』を身につけられるよう、
ときに様々なジャンルの音楽にも触れながら『発声』『リズム』『表現力』をしっかり学んでいく。

・自分の声の特性を理解し、その魅力を活かせるよう、各々に合った表現のアプローチを学んでいく。

・将来プロのアニメソングシンガーとして、どのような現場にも対応出来るスキルを身につけられるよう、
『基礎力』をベースに、柔軟性を持った『応用力』を習得する事を目標とする。

２．授業概要

・授業では、テーマに基づき選択した課題曲を全員で演習していく。必要に応じて個別指導も行う。
（課題曲には、学生からの推薦曲なども取り入れていく）

・毎回の授業テーマに沿った様々な発声、ボイストレーニング、リズム演習も多く盛り込んでいく。

・前期／後期ラストの授業内での成果発表会には、学生各々の選ぶ自由選択曲によるパフォーマンスを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業で学んだスキル／内容をしっかり自分のものとする為には、授業時間外の日々の自主練習が大切である。
（特に復習）

・同時に、表現者として必要な感性を磨く為、日頃から様々な事象に関心を持ち、アンテナを鋭く張っていること
が望まれる。様々なジャンルの音楽に触れ、舞台、映画、絵画等、あらゆる芸術に触れ、日々何かを ” 感じて” いくことが
大切である。

・また、日頃、人と関わる上での全ての感情も、表現への理解を深める上での重要な要素となる。
常に自分の心を真っ直ぐに見つめ、己との対話を意識するよう心掛ける。

４．成績評価の方法及び基準

・授業態度（毎回の課題への取り組み方／授業そのもの、クラスメイト及び講師に向き合う姿勢）ー　５０％
・授業、及び発表会においての歌唱レベル、上達状況などから総合的に判断した実技点数　ー　５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・授業で使用する課題曲資料（楽譜／歌詞等）はその都度授業で配布・指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・人数に応じて複数クラスを開講する場合は、アカデミックアドバイザーと相談し、クラス配分を決定する。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス（アンケート配布）
2	自由選択アニソン歌唱による自己紹介／『他人の歌を聴く』
3	歌唱の基本姿勢と発声
4	様々なリズムを学ぼう
5	アニメソングを歌おう１（アップテンポ／メジャーコード）（基礎編）
6	アニメソングを歌おう２（アップテンポ／メジャーコード）（応用編）
7	アニメソングを歌おう３（アップテンポ／マイナーコード）（基礎編）
8	アニメソングを歌おう４（アップテンポ／マイナーコード）（応用編）
9	アニメソングを歌おう５（ミディアムテンポ／メジャーコード）（基礎編）
10	アニメソングを歌おう６（ミディアムテンポ／マイナーコード）（応用編）
11	アニメソングを歌おう７（バラード）
12	前期成果発表会に向けての歌唱曲策定
13	前期成果発表会に向けての演習
14	前期成果発表会に向けての最終チェック
15	前期成果発表会

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス　（アンケート配布）
2	英語の歌を歌おう　１（ロック）
3	英語の歌を歌おう　２（ポップス）
4	英語の歌を歌おう　３（バラード／ディズニー曲）
5	英語の歌を歌おう　４（R&B）
6	様々な音楽ジャンルを聴き、様々な表現を学ぶ。『歌詞』を表現するということ。（シャンソン／演歌／唱歌等）
7	自由選択アニメソング歌唱による自己表現１・『他人の歌を聴く』
8	自由選択アニメソング歌唱による自己表現２・『互いに評価し合う』
9	後期成果発表会に向けて（ガイダンス及び歌唱曲策定）
10	後期成果発表会に向けての演習１・歌唱／個別指導
11	後期成果発表会に向けての演習２・総合ステージパフォーマンス／個別指導
12	個別歌唱指導（発表リハーサル１）『互いに評価し合う』
13	個別総合ステージパフォーマンス指導（発表リハーサル２）『実際に採点し合う』
14	後期成果発表会に向けての最終チェック
15	後期成果発表会／学年末総括

科目名	アニメソング総合演習２　［火1］Aクラス						
代表教員	Salia	授業コード	GE5471A0	科目コード	GE5471	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アニメソング総合演習２では、1年生で学んだ基礎となる発声やスキルを活かし、現代の多様化するアニメソングにも対応出来るようさらなるテクニックを身につけていきます。
授業の中では基礎力を持続しながら、リズム感の向上、そ れぞれの個性を生かした表現方法や歌唱方法を伸ばしていきます。
将来、 声優、アニメソングアーティストとして、歌う事の喜び、表現する事の素晴らしさを学び、人に伝える力を身につけて行きましょう。

２．授業概要

まず、良い発声をする為のストレッチ、呼吸のリズムメソッドを行う。
テーマや課題曲に基ずいて全員で演習、そして個人歌唱を行っていきま す。
アニメソングアーティストとしてアップテンポの曲からバラードの曲まで幅 広い曲調を歌いこなせるように指導していきます。
課題曲に よっては歌唱しながらの簡単な振付け、ステージングなど個別指導も行っていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

①授業内で行う横隔膜のコントロール、リズムキープのメソッドを各々時間外に常に反復練習することにより基礎力を固めて行く。
②アニメの鑑 賞、それらの書籍などを読み深く内容を分析する。それによりアニメソングの歌詞を理解し、テーマや世界観を表現することにつなげていく。
この2点を時間外に行うことによって技 術力が向上して行くと考える。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み態度（40%）
授業内に行う課題曲の個人歌唱（20%）
発表会などのパフォーマンス（30%）
レポート提出(10%)
など総合的 に判断し成績評価とする。
個々それぞれのレベルにあった成長も 考慮判断とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト、課題曲などはそのつど担当講師より配布されます。
参考文献 「人生最高の声を手に入れる6つのステップ」 音楽之友社 など

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等考慮した上でアカデミックアドバイザーと相談してクラス配分を決定します。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス～年間を通しての目標到達の設定
2	歌唱するにあたっての基本姿勢と発声 歌唱するにあたってのリズムトレーニ ング①（基礎編）
3	歌唱するにあたってのリズムトレーニング②（応用編）
4	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポな曲 （基礎編）
5	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポな曲 （応用編）
6	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポな曲 （仕上げ）個人歌唱
7	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲 （基礎編）
8	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲 （応用編）
9	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲 （仕上げ）個人歌唱
10	戦隊シリーズソングを歌い学ぼう（基礎編）
11	戦隊シリーズソングを歌い学ぼう（応用編）
12	戦隊シリーズソングを歌い学ぼう（仕上げ）個人歌唱
13	POPS系のアニメソングを歌い学ぼう（基礎編）
14	POPS系のアニメソングを歌い学ぼう（応用編）
15	前期成果発表会

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス ～年間目標到達への再確認、調整
2	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポ（導入編）
3	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポ（応用編）
4	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポ（仕上げ）個人歌唱
5	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲（基礎編）
6	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲（応用編）
7	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲（仕上げ）個人歌唱
8	歌唱しながら振付け、グループによるフォーメーションを習得する（導入編）
9	歌唱しながら振付け、グループによるフォーメーションを習得する （応用編）
10	歌唱しながら振付け、グループによるフォーメーションを習得する（仕上げ）グループによる歌唱
11	合唱曲を歌い学ぼう ～（応用編）
12	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法 （導入編）
13	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法 （応用編）
14	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法 （仕上げ）個人歌唱
15	後期成果発表会

科目名	アニメソング総合演習２　[火2] Bクラス						
代表教員	Salia	授業コード	GE5471B0	科目コード	GE5471	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アニメソング総合演習２では、1年生で学んだ基礎となる発声やスキルを活かし、現代の多様化するアニメソングにも対応出来るようさらなるテクニックを身につけていきます。
授業の中では基礎力を持続しながら、リズム感の向上、そ れぞれの個性を生かした表現方法や歌唱方法を伸ばしていきます。
将来、 声優、アニメソングアーティストとして、歌う事の喜び、表現する事の素晴らしさを学び、人に伝える力を身につけて行きましょう。

２．授業概要

まず、良い発声をする為のストレッチ、呼吸のリズムメソッドを行う。
テーマや課題曲に基ずいて全員で演習、そして個人歌唱を行っていきま す。
アニメソングアーティストとしてアップテンポの曲からバラードの曲まで幅 広い曲調を歌いこなせるように指導していきます。
課題曲に よっては歌唱しながらの簡単な振付け、ステージングなど個別指導も行っていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

①授業内で行う横隔膜のコントロール、リズムキープのメソッドを各々時間外に常に反復練習することにより基礎力を固めて行く。
②アニメの鑑 賞、それらの書籍などを読み深く内容を分析する。それによりアニメソングの歌詞を理解し、テーマや世界観を表現することにつなげていく。
この2点を時間外に行うことによって技 術力が向上して行くと考える。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み態度（40%）
授業内に行う課題曲の個人歌唱（20%）
発表会などのパフォーマンス（30%）
レポート提出(10%)
など総合的 に判断し成績評価とする。
個々それぞれのレベルにあった成長も 考慮判断とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト、課題曲などはそのつど担当講師より配布されます。
参考文献 「人生最高の声を手に入れる6つのステップ」 音楽之友社 など

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等考慮した上でアカデミックアドバイザーと相談してクラス配分を決定します。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス～年間を通しての目標到達の設定
2	歌唱するにあたっての基本姿勢と発声 歌唱するにあたってのリズムトレーニ ング①（基礎編）
3	歌唱するにあたってのリズムトレーニング②（応用編）
4	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポな曲 （基礎編）
5	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポな曲 （応用編）
6	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポな曲 （仕上げ）個人歌唱
7	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲 （基礎編）
8	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲 （応用編）
9	20世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲 （仕上げ）個人歌唱
10	戦隊シリーズソングを歌い学ぼう（基礎編）
11	戦隊シリーズソングを歌い学ぼう（応用編）
12	戦隊シリーズソングを歌い学ぼう（仕上げ）個人歌唱
13	POPS系のアニメソングを歌い学ぼう（基礎編）
14	POPS系のアニメソングを歌い学ぼう（応用編）
15	前期成果発表会

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス ～年間目標到達への再確認、調整
2	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポ（導入編）
3	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポ（応用編）
4	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～アップテンポ（仕上げ）個人歌唱
5	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲（基礎編）
6	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲（応用編）
7	21世紀のアニメソングを歌い学ぼう ～バラード調の曲（仕上げ）個人歌唱
8	歌唱しながら振付け、グループによるフォーメーションを習得する（導入編）
9	歌唱しながら振付け、グループによるフォーメーションを習得する （応用編）
10	歌唱しながら振付け、グループによるフォーメーションを習得する（仕上げ）グループによる歌唱
11	合唱曲を歌い学ぼう ～（応用編）
12	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法 （導入編）
13	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法 （応用編）
14	楽譜、歌詞から読み解く歌唱方法 （仕上げ）個人歌唱
15	後期成果発表会

科目名	アニメソング総合演習３　［火1］Aクラス						
代表教員	安士　百合野	授業コード	GE5472A0	科目コード	GE5472	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

皆さんは「アニメソング」と聞いて、どんな曲をイメージするでしょうか?
世代や性別、趣味嗜好によっても様々に異なるアニメ作品や楽曲が思い浮か ぶはずです。
現代におけるアニメソングは多種多様化し、歌い手にも様々なタイプが存在します。
アニメソング総合実習２ではあらゆる楽曲に対応できるよう、歌唱の基礎力と応用力 を高めていきます。
テーマ別の課題を学びながら、自分に合ったジャンルや自分ならではの表現方法を探していきましょう。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて全員で演習をしていきます。
課題曲に対しては個別の指導も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業内容への理解をより深めるために、日々の予習復習と実技の反復練習を推奨します。

４．成績評価の方法及び基準

授業や発表会における実技評価50%、参加姿勢に対する評価50%で、総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

扱うテーマに応じて教員より教材を配布します。
参考文献
アニメ・ ソング大百科Vol.1(株式会社ドレミ楽譜出版社)
アニメ・ソング大百科Vol.2(株式会社ドレミ楽譜出版社)
新装版楽典 理論と実習（株式会社音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を考慮した上で人数に応じてクラス配分を決定します。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	歌唱の基本１（呼吸と発声）
3	歌唱の基本２（滑舌と言葉）
4	課題曲・合唱１（導入）
5	課題曲・合唱２（演習）
6	課題曲・合唱３（仕上げ）
7	課題曲・童謡１（導入）
8	課題曲・童謡２（演習）
9	課題曲・アニメソング１（導入）
10	課題曲・アニメソング２（オーディション）
11	課題曲・アニメソング３（演習）
12	課題曲・アニメソング４（仕上げ）
13	前期末成果発表に向けての演習
14	前期末成果発表に向けての最終チェック
15	前期末発表会

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	キャラクターとして歌おう（演習）
3	課題曲・外国のアニメ１（導入）
4	課題曲・外国のアニメ２（演習）
5	課題曲・外国のアニメ３（仕上げ）
6	課題曲・日本のアニメ１（導入）
7	課題曲・日本のアニメ２（演習）
8	課題曲・日本のアニメ３（仕上げ）
9	コンサート制作１（グループ分け）
10	コンサート制作２（プログラム作成・演習）
11	コンサート制作３（仕上げ）
12	後期末成果発表に向けての構成策定
13	後期成果発表に向けての演習
14	後期成果発表に向けての最終チェック
15	後期末発表会

科目名	アニメソング総合演習３　［火2］Bクラス						
代表教員	安士　百合野	授業コード	GE5472B0	科目コード	GE5472	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

皆さんは「アニメソング」と聞いて、どんな曲をイメージするでしょうか?
世代や性別、趣味嗜好によっても様々に異なるアニメ作品や楽曲が思い浮か ぶはずです。
現代におけるアニメソングは多種多様化し、歌い手にも様々なタイプが存在します。
アニメソング総合実習２ではあらゆる楽曲に対応できるよう、歌唱の基礎力と応用力 を高めていきます。
テーマ別の課題を学びながら、自分に合ったジャンルや自分ならではの表現方法を探していきましょう。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて全員で演習をしていきます。
課題曲に対しては個別の指導も行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業内容への理解をより深めるために、日々の予習復習と実技の反復練習を推奨します。

４．成績評価の方法及び基準

授業や発表会における実技評価50%、参加姿勢に対する評価50%で、総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

扱うテーマに応じて教員より教材を配布します。
参考文献
アニメ・ ソング大百科Vol.1(株式会社ドレミ楽譜出版社)
アニメ・ソング大百科Vol.2(株式会社ドレミ楽譜出版社)
新装版楽典 理論と実習（株式会社音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を考慮した上で人数に応じてクラス配分を決定します。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	歌唱の基本１（呼吸と発声）
3	歌唱の基本２（滑舌と言葉）
4	課題曲・合唱１（導入）
5	課題曲・合唱２（演習）
6	課題曲・合唱３（仕上げ）
7	課題曲・童謡１（導入）
8	課題曲・童謡２（演習）
9	課題曲・アニメソング１（導入）
10	課題曲・アニメソング２（オーディション）
11	課題曲・アニメソング３（演習）
12	課題曲・アニメソング４（仕上げ）
13	前期末成果発表に向けての演習
14	前期末成果発表に向けての最終チェック
15	前期末発表会

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	キャラクターとして歌おう（演習）
3	課題曲・外国のアニメ１（導入）
4	課題曲・外国のアニメ２（演習）
5	課題曲・外国のアニメ３（仕上げ）
6	課題曲・日本のアニメ１（導入）
7	課題曲・日本のアニメ２（演習）
8	課題曲・日本のアニメ３（仕上げ）
9	コンサート制作１（グループ分け）
10	コンサート制作２（プログラム作成・演習）
11	コンサート制作３（仕上げ）
12	後期末成果発表に向けての構成策定
13	後期成果発表に向けての演習
14	後期成果発表に向けての最終チェック
15	後期末発表会

科目名	アニメソング総合演習４　［月2］						
代表教員	江原　陽子	授業コード	GE547300	科目コード	GE5473	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	AS	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アニメソング総合演習４では、今まで学んだ基礎となる発声や経験をもとに、クラシックな曲から現代のアニメソングまで対応出来る能力を磨いていきます。
授業では基礎トレーニングはもちろんのこと、他に二つと無い自分の声の持ち味を理解し、「伝わる歌」を習得し、自分の声の可能性を高め、「話すように歌い、歌うように話す」ことを到達目標とします。

２．授業概要

授業では、課題曲や学生からの希望曲など全員で演習をしていくのが基本ですが、曲によってはアンサンブルや個人指導も取り入れながら行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「声帯」は体の中にあります。楽器を弾く手足のように見えないので、注意深く鍛錬することが大切です。
体調を見ながら発声の基礎トレーニング、体調に関わらず続けられるリップロールなど、毎日反復練習をすることが必要です。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(50%)、授業への積極的な取り組み姿勢(50%)で総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、その都度教員より教材を配布します。

参考文献
合唱と独唱のためのヴォーカル・ウォームアップ200(クラウス・ハイツマン／PANAMUSICA)
音楽家なら誰でも知っておきたい「呼吸」のこと(バーバラ・コナブル／誠信書房)　他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１クラスの設定とする。
声は乾燥が大敵なので、飲み物を各自持参のこと。

授業計画	
	前期は今までの復習に加え、声楽的な発声を取り入れた楽曲を演習していく
1	前期ガイダンス
2	発声の基礎トレーニング①（姿勢と呼吸の再確認）
3	発声の基礎トレーニング②（顔の筋肉と唇～リップロール）
4	発声のトレーニング①（舌～タングロールと顎関節）
5	発声のトレーニング②（ロングトーンとスタッカート）
6	課題曲：声楽曲①～導入～
7	課題曲：声楽曲②～演習～
8	課題曲：声楽曲③～仕上げ～
9	課題曲：アニメ映画の歌①～導入～
10	課題曲：アニメ映画の歌②～演習～
11	課題曲：アニメ映画の歌③～仕上げ～
12	前期成果発表の楽曲選定
13	前期成果発表の演習
14	前期成果発表の最終リハーサル
15	前期成果発表会と統括

授業計画	
	後期は実際にコンサートやライブを想定した魅せ方を習得し、発表まで計画する
1	後期ガイダンス
2	自分の声を生かす歌①～楽曲選定～
3	自分の声を生かす歌②～個人指導～
4	自分の声を生かす歌③～仕上げ～
5	コーラスパートの付け方①～ハモリの仕組み～
6	コーラスパートの付け方②～実践～
7	コーラスパートの付け方③～仕上げ～
8	ア・カペラの歌唱法①～導入～
9	ア・カペラの歌唱法②～演習～
10	ア・カペラの歌唱法③～仕上げ～
11	後期成果発表の企画立案
12	後期成果発表のプログラム会議
13	後期成果発表の演習
14	後期成果発表の最終リハーサル
15	後期成果発表会と統括

科目名	ＡＳダンス演習１　［月2］Aクラス						
代表教員	MaSaKo	授業コード	GE5479A0	科目コード	GE5479	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンス・バレエの基本的な知識、ステップテクニックを習得し、コンビネーションでは振り覚えの鍛錬、そしてどんな振付が来ても怖気付くことなく自分らしく踊れるメンタルを目指す。

２．授業概要

ウォーミングアップ、ストレッチ、簡単なジャズダンス・バレエのテクニック、コンビネーションの実践。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

コンビネーションの復習、苦手な動きの克服。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（ジャズダンスの理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてレジュメが配布される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、シューズはジャズダンスシューズを履く。タオルと水分補給できるものを持参。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	演習（ステップ）基本
3	演習（ステップ）応用
4	演習（ステップ）まとめ
5	演習（アムスライン）基本
6	演習（アムスライン）応用
7	演習（アムスライン）まとめ
8	演習（膝・つま先）基本
9	演習（膝・つま先）応用
10	演習（膝・つま先）まとめ
11	演習（リズム）基本
12	演習（リズム）応用
13	演習（リズム）まとめ
14	演習（アクセント）基本
15	演習（アクセント）応用／まとめ

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス及び成果発表に向けての題材設定
2	演習（シアタージャズ初級）応用／まとめ
3	演習（ポップジャズ）基本
4	ジャズダンス演習(体幹強化)
5	演習（ポップジャズ）応用／まとめ
6	演習（テーマパークジャズ初級）応用／まとめ
7	演習（アニメソングダンス）基本
8	演習（アニメソングダンス）応用／まとめ
9	演習（テーマパークジャズ初中級）基本
10	演習（テーマパークジャズ初中級）応用／まとめ
11	ステージング、フォーメーション付き演習（基本）
12	ステージング、フォーメーション付き演習（応用）
13	ステージング、フォーメーション付き演習（仕上げ）
14	ステージング、フォーメーション付き演習（まとめ）
15	ステージング、フォーメーション付き演習（発表／統括）

科目名	ＡＳダンス演習１　［金3］Bクラス						
代表教員	MaSaKo	授業コード	GE5479B0	科目コード	GE5479	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンス・バレエの基本的な知識、ステップテクニックを習得し、コンビネーションでは振り覚えの鍛錬、そしてどんな振付が来ても怖気付くことなく自分らしく踊れるメンタルを目指す。

２．授業概要

ウォーミングアップ、ストレッチ、簡単なジャズダンス・バレエのテクニック、コンビネーションの実践。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

コンビネーションの復習、苦手な動きの克服。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（ジャズダンスの理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてレジュメが配布される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は動きやすいものを着用し、シューズはジャズダンスシューズを履く。タオルと水分補給できるものを持参。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	演習（ステップ）基本
3	演習（ステップ）応用
4	演習（ステップ）まとめ
5	演習（アムスライン）基本
6	演習（アムスライン）応用
7	演習（アムスライン）まとめ
8	演習（膝・つま先）基本
9	演習（膝・つま先）応用
10	演習（膝・つま先）まとめ
11	演習（リズム）基本
12	演習（リズム）応用
13	演習（リズム）まとめ
14	演習（アクセント）基本
15	演習（アクセント）応用／まとめ

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス及び成果発表に向けての題材設定
2	演習（シアタージャズ初級）応用／まとめ
3	演習（ポップジャズ）基本
4	ジャズダンス演習(体幹強化)
5	演習（ポップジャズ）応用／まとめ
6	演習（テーマパークジャズ初級）応用／まとめ
7	演習（アニメソングダンス）基本
8	演習（アニメソングダンス）応用／まとめ
9	演習（テーマパークジャズ初中級）基本
10	演習（テーマパークジャズ初中級）応用／まとめ
11	ステージング、フォーメーション付き演習（基本）
12	ステージング、フォーメーション付き演習（応用）
13	ステージング、フォーメーション付き演習（仕上げ）
14	ステージング、フォーメーション付き演習（まとめ）
15	ステージング、フォーメーション付き演習（発表／統括）

科目名	ＡＳダンス演習２　［金1］Aクラス						
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE5480A0	科目コード	GE5480	期間	通年
担当教員	岩﨑　多賀子						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンスの魅力と表現を学び、それぞれの個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

筋力強化トレーニング、授業の復習、舞台（舞踊、演劇）鑑賞、映画鑑賞、美術鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD　。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスシューズ、または動きやすいシューズを使用。
　動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
　汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	［前期］ ジャズダンスの基礎的な動きを学ぶ。
1	ガイダンス
2	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ８小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ１６小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ２４小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ３２小節振り付け
6	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの表現
7	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの魅せ方
8	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズを個性的に踊る
9	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ８小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ１６小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ２４小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズ３２小節振り付け
13	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの表現
14	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズの魅せ方
15	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションポップジャズを個性的に踊る

授業計画	
	［後期］ ジャズダンスの応用編と表現力を学ぶ。
1	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ８小節振り付け
2	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ１６小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ２４小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ３２小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの表現
6	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズの魅せ方
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズを個性的に踊る
8	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ８小節振り付け
9	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ１６小節振り付け
10	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ２４小節振り付け
11	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴ３２小節振り付け
12	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを表現
13	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴの魅せ方
14	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションジャズタンゴを個性的に踊る
15	ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーションソウルジャズ魅せ方

科目名	ＡＳダンス演習３　［月1］Aクラス						
代表教員	河内　達弥	授業コード	GE5481A0	科目コード	GE5481	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ASダンス実習3では、二年次までに学習した内容を基盤として更なる発展を目標とする。声優や歌手になるために必用なリズム感、姿勢、表現する為の体作りを主軸とし、更に高度な表現を目指す。

２．授業概要

毎回の授業では、ストレッチ、バレエテクニック、リズム練習をした後に設定されるテーマや題材にそって全員で演習していく。必用によって個別指導も盛り込まれる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業内容を根気強く復習すること、また欠席した回の授業内容はできるだけ把握し次回までに練習することが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

成果発表や試験における実力評価＝50%　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で望むこと。（ジーンズ等の私服に近いものは不可）靴はジャズスニーカーなどターンやリズム系両方に活用できるものを推奨し毎回それを持参すること。各々受講準備ができたら直ちに鏡の前に来てストレッチをし授業開始を待つこと。見学の場合は必ず一言その旨を講師に伝えること。体調管理には十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	アップ、ストレッチ、身体作りの手引き基礎
3	アップ、ストレッチ、身体作りの手引き応用
4	アップ、ストレッチ、リズム演習基礎
5	アップ、ストレッチ、リズム演習応用
6	アップ、ストレッチ、リズム演習発展
7	アップ、ストレッチ、リズム演習まとめ
8	アップ、ストレッチ、クロスフロア基礎
9	アップ、ストレッチ、クロスフロア応用
10	アップ、ストレッチ、クロスフロア発展
11	アップ、ストレッチ、クロスフロアまとめ
12	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス基礎
13	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス応用
14	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス発展
15	アップ、ストレッチ、テーマパークダンスまとめ

授業計画	
	［後期］
1	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズ基礎
2	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズ応用
3	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズまとめ
4	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズ基礎
5	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズ応用
6	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズまとめ
7	アップ、ストレッチ、クロスフロア、アイドル系ダンス基礎
8	アップ、ストレッチ、クロスフロア、アイドル系ダンス応用
9	アップ、ストレッチ、クロスフロア、アイドル系ダンスまとめ
10	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンス基礎
11	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンス応用
12	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンスまとめ
13	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス振付
14	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス表現
15	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス発表

科目名	ＡＳダンス演習３　[月1] Bクラス						
代表教員	MasamiE	授業コード	GE5481B0	科目コード	GE5481	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ASダンス実習3では、二年次までに学習した内容を基盤として更なる発展を目標とする。声優や歌手になるために必用なリズム感、姿勢、表現する為の体作りを主軸とし、更に高度な表現を目指す。

２．授業概要

毎回の授業では、ストレッチ、バレエテクニック、リズム練習をした後に設定されるテーマや題材にそって全員で演習していく。必用によって個別指導も盛り込まれる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業内容を根気強く復習すること、また欠席した回の授業内容はできるだけ把握し次回までに練習することが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

成果発表や試験における実力評価＝50%　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で望むこと。（ジーンズ等の私服に近いものは不可）靴はジャズスニーカーなどターンやリズム系両方に活用できるものを推奨し毎回それを持参すること。各々受講準備ができたら直ちに鏡の前に来てストレッチをし授業開始を待つこと。見学の場合は必ず一言その旨を講師に伝えること。体調管理には十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	アップ、ストレッチ、身体作りの手引き基礎
3	アップ、ストレッチ、身体作りの手引き応用
4	アップ、ストレッチ、リズム演習基礎
5	アップ、ストレッチ、リズム演習応用
6	アップ、ストレッチ、リズム演習発展
7	アップ、ストレッチ、リズム演習まとめ
8	アップ、ストレッチ、クロスフロア基礎
9	アップ、ストレッチ、クロスフロア応用
10	アップ、ストレッチ、クロスフロア発展
11	アップ、ストレッチ、クロスフロアまとめ
12	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス基礎
13	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス応用
14	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス発展
15	アップ、ストレッチ、テーマパークダンスまとめ

授業計画	
	［後期］
1	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズ基礎
2	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズ応用
3	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズまとめ
4	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズ基礎
5	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズ応用
6	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズまとめ
7	アップ、ストレッチ、クロスフロア、アイドル系ダンス基礎
8	アップ、ストレッチ、クロスフロア、アイドル系ダンス応用
9	アップ、ストレッチ、クロスフロア、アイドル系ダンスまとめ
10	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンス基礎
11	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンス応用
12	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンスまとめ
13	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス振付
14	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス表現
15	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス発表

科目名	ＡＳダンス演習４　［月1］Aクラス						
代表教員	河内　達弥	授業コード	GE548200	科目コード	GE5482	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ASダンス実習4では、三年次までに学習した内容を基盤として更なる発展を目標とする。声優や歌手になるために必用なリズム感、姿勢、表現する為の体作りを主軸とし、更に高度な表現を目指す。

２．授業概要

毎回の授業では、ストレッチ、バレエテクニック、リズム練習をした後に設定されるテーマや題材にそって全員で演習していく。必用によって個別指導も盛り込まれる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業内容を根気強く復習すること、また欠席した回の授業内容はできるだけ把握し次回までに練習することが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

成果発表や試験における実力評価＝50%
総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で望むこと。（ジーンズ等の私服に近いものは不可）靴はジャズスニーカーなどターンやリズム系両方に活用できるものを推奨し毎回それを持参すること。各々受講準備ができたら直ちに鏡の前に来てストレッチをし授業開始を待つこと。見学の場合は必ず一言その旨を講師に伝えること。体調管理には十分注意すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	アップ、ストレッチ、身体作りの手引き基礎
3	アップ、ストレッチ、身体作りの手引き応用
4	アップ、ストレッチ、リズム演習基礎
5	アップ、ストレッチ、リズム演習応用
6	アップ、ストレッチ、リズム演習発展
7	アップ、ストレッチ、リズム演習まとめ
8	アップ、ストレッチ、クロスフロア基礎
9	アップ、ストレッチ、クロスフロア応用
10	アップ、ストレッチ、クロスフロア発展
11	アップ、ストレッチ、クロスフロアまとめ
12	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス基礎
13	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス応用
14	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス発展
15	アップ、ストレッチ、テーマパークダンスまとめ

授業計画	
	［後期］
1	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズ基礎
2	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズ応用
3	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズまとめ
4	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズ基礎
5	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズ応用
6	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズまとめ
7	アップ、ストレッチ、クロスフロア、アイドル系ダンス基礎
8	アップ、ストレッチ、クロスフロア、アイドル系ダンス応用
9	アップ、ストレッチ、クロスフロア、アイドル系ダンスまとめ
10	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンス基礎
11	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンス応用
12	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンスまとめ
13	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス振付
14	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス表現
15	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス発表

科目名	ナレーション基礎演習　［火4］Bクラス						
代表教員	金野　恵子	授業コード	GE5483A0	科目コード	GE5483	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次の必修科目で基礎を固める重要な授業である。ある人格になりきって声の演技をするという吹き替えの前段階として、まずひとりで正確なアナウンスやナレーションができるという基盤を形成していく。自分の声の質やリズムを知りより良く改善させていくことが２年次以降の研鑽に向けての成長の基盤となる。

２．授業概要

設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていく。題材として、まずは歌舞伎十八番『ういろう売り』の暗誦からからスタートさせ、発声、滑舌の基礎を徹底的に身に付けて行く。それから、共通題材、個別題材と広げていき、必要に応じて、個別の指導も盛り込まれる。後期にはバレエコースとのコラボ公演も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ういろう売りの復唱は表現者として毎日行い、確実に自分のものにすることが望ましい。毎回の授業で指摘されたことを基に復習することが成長の因となる。また、常日頃から自分にあった題材を探し予習することも必要である。

４．成績評価の方法及び基準

学習態度を重要視しつつ、試験や成果発表等での状況等を通じて、達成度を評価する。
　　成果発表や試験における実力評価＝50%　　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から個別に指示される。必要に応じてレジュメが配布される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をして、クラス配分を決定する。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	ナレーションの基本確認
3	前期ナレーション題材１ういろう売り
4	前期ナレーション題材１（導入編）再チャレンジ
5	前期ナレーション題材２（展開編）演習
6	前期ナレーション題材２（展開編）再チャレンジ
7	アナウンスの基本確認題材
8	アナウンス題材１（導入編）演習
9	アナウンス題材１（導入編）再チャレンジ
10	アナウンス題材２（導入編）演習　確認
11	アナウンス題材２（購入編）再チャレンジ　定着
12	前期末成果発表にむけての企画策定
13	前期末成果発表に向けての演習
14	前期末成果発表の仕上げ
15	前期総括

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス
2	朗読の基本確認
3	朗読題材１（導入編）演習
4	朗読題材１（導入編）再チャレンジ
5	朗読題材１（展開編）演習　確認
6	朗読題材２（展開編）再チャレンジ　定着
7	後期ナレーション題材３（展開編）演習
8	後期ナレーション題材３（展開編）再チャレンジ
9	後期ナレーション題材４（展開編）演習　確認
10	後期ナレーション題材４（展開編）再チャレンジ　定着
11	学年末成果発表に向けての企画策定
12	学年末成果発表に向けての演習
13	学年末成果発表の仕上げ
14	学年末成果発表模擬公演
15	総括

科目名	ナレーション基礎演習　［火3］Aクラス						
代表教員	亀井　芳子	授業コード	GE5483B0	科目コード	GE5483	期間	通年
担当教員	金野　恵子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの１年次の必修科目で基礎を固める重要な授業である。ある人格になりきって声の演技をするという吹き替えの前段階として、まずひとりで正確なアナウンスやナレーションができるという基盤を形成していく。自分の声の質やリズムを知りより良く改善させていくことが２年次以降の研鑽に向けての成長の基盤となる。

２．授業概要

設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていく。題材として、まずは歌舞伎十八番『ういろう売り』の暗誦からからスタートさせ、発声、滑舌の基礎を徹底的に身に付けて行く。それから、共通題材、個別題材と広げていき、必要に応じて、個別の指導も盛り込まれる。後期にはバレエコースとのコラボ公演も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ういろう売りの復唱は表現者として毎日行い、確実に自分のものにすることが望ましい。毎回の授業で指摘されたことを基に復習することが成長の因となる。また、常日頃から自分にあった題材を探し予習することも必要である。

４．成績評価の方法及び基準

学習態度を重要視しつつ、試験や成果発表等での状況等を通じて、達成度を評価する。
　　成果発表や試験における実力評価＝50%　　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から個別に指示される。必要に応じてレジュメが配布される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数に応じて複数クラスを開講する場合は、各自の時間割等を勘案しながらアカデミックアドバイザーと相談をして、クラス配分を決定する。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	ナレーションの基本確認
3	前期ナレーション題材１ういろう売り
4	前期ナレーション題材１（導入編）再チャレンジ
5	前期ナレーション題材２（展開編）演習
6	前期ナレーション題材２（展開編）再チャレンジ
7	アナウンスの基本確認題材
8	アナウンス題材１（導入編）演習
9	アナウンス題材１（導入編）再チャレンジ
10	アナウンス題材２（導入編）演習　確認
11	アナウンス題材２（購入編）再チャレンジ　定着
12	前期末成果発表にむけての企画策定
13	前期末成果発表に向けての演習
14	前期末成果発表の仕上げ
15	前期総括

授業計画	
	[後期]
1	後期ガイダンス
2	朗読の基本確認
3	朗読題材１（導入編）演習
4	朗読題材１（導入編）再チャレンジ
5	朗読題材１（展開編）演習　確認
6	朗読題材２（展開編）再チャレンジ　定着
7	後期ナレーション題材３（展開編）演習
8	後期ナレーション題材３（展開編）再チャレンジ
9	後期ナレーション題材４（展開編）演習　確認
10	後期ナレーション題材４（展開編）再チャレンジ　定着
11	学年末成果発表に向けての企画策定
12	学年末成果発表に向けての演習
13	学年末成果発表の仕上げ
14	学年末成果発表模擬公演
15	総括

科目名	ＡＳ身体表現実習　［木1］						
代表教員	宮本　英喜	授業コード	GE548400	科目コード	GE5484	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

〇殺陣や空手・クンフー（中国拳法）等アクションの要素を取り入れることで、チカラの入れ方・抜き方や間合い・距離感の感覚を養い、同時に相手を思いやる大切さに氣づけるように
〇ダンスを通じて、リズムの安定と不安定に氣づき、身体のパーツパーツを余す所なく表現できるよう目指す
〇身体を使って表現するどの要素も、声を使うことや芝居をすること等すべての要素につながっている事に氣づけるように
〇身体表現を体現することで自分に向き合うことができ、それが肉体的のみならず精神的向上にもつながり、ひとりの人間味として発展していけるように

２．授業概要

〇基本授業計画に沿って授業を進める（状況により変化する場合有り）
〇殺陣の要素
〇空手の要素
〇ボクシングの要素
〇クンフー（中国拳法）の要素
〇ダンス（ヒップホップ・ロッキング・ソウル・暗黒舞踏・即興・マイム的）
〇能楽大鼓の要素

３．授業時間外の学習（予習復習について）

〇日々『自分は声優だ・声優になる』という意識を持って過ごす
〇みられてるという意識を常にもつ
〇3つの動き（背中を反る丸める／腰を捻る／脇を伸ばす縮める）
〇適度の筋トレ（腕立て・腹筋・スクワット）

４．成績評価の方法及び基準

〇平常点100パーセント（取り組む姿勢・理解力）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

〇『ジャッキーチェン』の映画（『蛇拳』『拳精』）や『ブルース・リー』の映画（『燃えよドラゴン』）等のクンフー映画
〇『7人の侍』『たそがれ清兵衛』等の時代劇
〇ダンスボーカルユニット等のPVやヒップホップ・ロッキング・ソウル等のダンス動画
〇『大駱駝艦』等の暗黒舞踏
〇能楽においての大鼓の動画等

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〇動きやすい服装であればOK
〇スニーカー（内容によりくつ下や裸足のときも有り）
〇タオル

授業計画	
	［前期］
1	○3つの動き（背中を丸める反る・腰を捻る・脇を伸ばす縮める） ○立ち姿・ウォーキング（見られてる意識を付ける） ○スローモーション・摺り足（バランスと重心の感覚） ○簡単なステップでリズム取り ○筋トレ（ベイシックな腕立て・腹筋・スクワット）
2	○3つの動き（背中を反る丸める・腰を捻る・脇を伸ばす縮める） ○身体を使ったアタマの体操（リトミック・手足バラバラの動き） ○ステップやクラップによるリズム（表と裏の認識） ○基礎（アップ・ダウン・アイソレーション） ○筋トレ（リズムに乗って腕立て・腹筋・スクワット・背筋）
3	○基礎ルーティン（3つの動き・アップ・ダウン・アイソレーション） ○ステップのバリエーション（ツイストやリバース等を入れる） ○内容を踏まえた振付 ○筋トレ（ベイシックな腕立て・腹筋・側筋・スクワット）
4	○3つの動き ○足を振り上げたり股関節を回したりのストレッチ ○空手の要素（正拳突き・前ゲリ等）やボクシングの要素（フットワーク・パンチ等）をリズムに乗せて ○ペア等組になっての攻撃と受けの体感（パンチや前ゲリ等で相手がいることでの間合い・相手を思いやる感覚を養う・安全をキチンと踏まえたカタチで） ○筋トレ（リズム）
5	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング） ○タオルヌンチャク ○ペア等組になって（ペアを変えて前回とちがうアクション） ○筋トレ（ベイシック）
6	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング） ○クンフー（中国拳法）の型（バランスと重心の感覚） ○空手の突きケリの応用の動き ○筋トレ（リズム）
7	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー） ○大極拳的な動き（リズムにあてて） ○手刀での剣殺陣の動き（上半身と下半身の使い方・斬るときの切っ先の動かし方） ○筋トレ（ベイシック）
8	○ダンス基礎ルーティン（3つの動き・アップ・ダウン・アイソレーション） ○基礎の応用（基礎の動きを使ったステップ等） ○ロッキングの基礎（トゥエル・ロッキング・ポイント・ペイシング） ○筋トレ（リズム）
9	○ダンス基礎ルーティン（3つの動き・アップ・ダウン・アイソレーション） ○アイソレーションを使ったダンス（ナスティ・ジゴロ） ○ステップ（ランニングマン・ポップコーン・パドブレ等） ○内容に沿った振付 ○筋トレ（ベイシック）
10	○殺陣・アクションの基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー） ○刀を振る（新聞紙を棒状にした新聞紙刀を使用） ○剣殺陣の型（正眼の構え・袈裟斬りなどの基本的な型を15コ） ○筋トレ（リズム）
11	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー・15の型） ○刀を捌きをいれて振る（面打ちを前後にゆっくりと早く） ○捌き振りをペアになって（対峙するカタチで面の打ち込みと捌き） ○筋トレ（ベイシック）
12	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー・15の型） ○刀を振りながらの捌き（マッコウ・ケサ・キリアゲ等） ○ペア等組になっての簡単な殺陣 ○筋トレ（リズム）
13	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー・15の型） ○手刀で文字を書く ○ペア等の組になって手刀での殺陣を付ける ○筋トレ（ベイシック）
14	○ダンス前期総括（振付をしてみる側とやる側の体験）
15	○殺陣・アクション前期総括（単独でのパンチ・キック・型・手刀等の動きから組み手）

授業計画	
	［後期］
1	○ダンス基礎ルーティン（3つの動き・アップ・ダウン・アイソレーション） ○ボディパーカッションでのリズム構築 ○暗黒舞踏の動き（雲の動き・ひょっとこ・水面浮沈み） ○ハウスステップの基礎（トレイン・ツーステップ・シャッフル等） ○筋トレ（ベイシック）
2	○基礎ルーティン（3つの動き・アップ・ダウン・アイソレーション） ○ロッキング基礎バリエーション（ペイシング・トゥエル・シャッフル） ○暗黒舞踏の動き（縛りあげ・十字まわり・写楽） ○内容を踏まえた振付 ○筋トレ（リズム）
3	○ダンス基礎ルーティン（3つの動き・アップ・ダウン・アイソレーション） ○暗黒舞踏の動き（酒飲み・狼ブルブル・四股地団駄） ○ソウルステップ（ロックステディ・ロッカーズステップ等） ○内容を踏まえた振付 ○筋トレ（ベイシック）
4	○ダンス基礎ルーティン（3つの動き・アップ・ダウン・アイソレーション） ○暗黒舞踏の動き（総括的に） ○ソウルステップ（スキーター・スクビドゥ等） ○内容を踏まえた振付 ○筋トレ（リズム）
5	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー・15の型） ○セリフを言いながらの正拳突き・前ゲリ・足の捌き（セリフは外郎売りでペアになりお互いの確認） ○空手の型のバリエーション ○筋トレ（ベイシック）
6	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー・15の型） ○セリフ正拳前ゲリ ○刀を振りながらの捌き（マッコウ・ケサ・キリアゲ等つなげて） ○シン（主役）とかかり（斬りこみ）を巡る打ち込み ○筋トレ（リズム）
7	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー・15の型） ○セリフ正拳前ゲリ ○大鼓の要素（掌にあてての打ち方・足腰の強化・声と打ち込みの連動） ○打ち込み（シンとかかりの） ○筋トレ（ベイシック）
8	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー・15の型） ○セリフ正拳前ゲリ ○大鼓の要素（掛け合い・声と打ち込みのタイミング） ○筋トレ（リズム）
9	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー・15の型） ○セリフ正拳前ゲリ ○大鼓の要素（掛け合いのバリエーション） ○組になっての殺陣（組を変えて） ○筋トレ（ベイシック）
10	○ダンス基礎ルーティン（3つの動き・アップ・ダウン・アイソレーション） ○総括に向けた振付（ヒップホップ・ソウルに殺陣・アクション・クンフーの要素を取り入れた内容で1曲作品を構築する） ○筋トレ（リズム）
11	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー・15の型） ○総括に向けた振付 ○筋トレ（リズム）
12	○ダンス基礎ルーティン（3つの動き・アップ・ダウン・アイソレーション） ○総括に向けた振付
13	○殺陣・アクション基本ルーティン（3つの動き・ストレッチ・空手・ボクシング・クンフー・15の型） ○総括に向けた振付
14	○総括①（繰り返してカラダに振付作品をなじませる）
15	○総括②（振付をやる側と見る側にわかれて発表）

科目名	弦楽合奏１～４　[金4-5]						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	GE582500	科目コード	GE5825d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	SI・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

弦楽合奏を通して、合奏の基本である、アインザッツ、音程のとり方、ハーモニー、各楽器のバランス、音色のつくり方、ボーイング等、各自スコアを用意し、考えながら一緒に音楽をつくり上げ、一人一人の技術・音楽性の向上につなげる。日本の作曲家を始め、様々な国の作曲家の背景等をふまえ、弦楽合奏ならではの響き、喜びを伝えられるような演奏ができるように共に学びあいたい。

２．授業概要

前期・後期の各演奏会に向けて、スコアを読みながら自分のパートだけでなく、他のパートのことも理解し、色々な方向から作品にとり組む。分奏・合奏を行い完成度の高い仕上りにする。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスそれぞれの楽器の日本を代表する弦楽器奏者の先生方を指導教員に迎え、各曲の解釈、ボーイング、フィンガリング、練習の仕方など自分たちでも考え、それに対して先生方の指導が行われる。コンサートに向けての仕上方も学ぶ。コンサートを聴いていただくお客様をどのように集客するかも考え、実践する　。
、

３．授業時間外の学習（予習復習について）

最初の授業までに譜読みをする。スコアを読み、CD等を聴いて曲について勉強しておく、授業前も練習をよくして授業後も必ず復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組み（出席を含む）（評価の40%）
平常点（評価の40%）
演奏会に向けての姿勢（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

総譜（スコア）を各自用意することが望ましい
演奏会で取り上げる曲について事前に調べ、CDなどで理解しておくことが望ましい。
応募者多数の場合はオーディションによって選抜する。

授業計画	
	［前期］古澤巌先生から学ぶ マリーノのコンチェルト サンサースン死の舞踏 シチリアーナ、リンピダ モーツァルト作品　他
1	ガイダンス（前期授業説明） 前期課題曲の作曲家について学ぶ
2	マリーノのコンチェルト　譜読み
3	マリーノのコンチェルト　パート分奏
4	マリーノのコンチェルト　全体合奏
5	サンサースン死の舞踏とシチリアーナの譜読み
6	サンサースン死の舞踏とシチリアーナ　パート分奏
7	サンサースン死の舞踏とシチリアーナ　全体合奏
8	モーツァルト作品の譜読み
9	モーツァルト作品　パート分奏
10	モーツァルト作品　全体合奏
11	前期課題曲前半の通し練習
12	前期課題曲後半の通し練習
13	前期課題曲全体の通し練習
14	前期演奏会リハーサル最終確認
15	前期演奏会

授業計画	
	［後期］フェデリコ　アゴスティーニ先生から学ぶ ・ハイドンのヴァイオリン協奏曲ハ長調 ・シューベルト ・ラター組曲 ・ブリテン　シンプルシンフォニー
1	ガイダンス（後期授業説明） 後期課題曲の作曲家について学ぶ
2	ハイドン協奏曲　譜読み
3	ハイドン協奏曲　パート分奏
4	ハイドン協奏曲　全体合奏
5	シューベルト　譜読み
6	シューベルト　パート分奏
7	シューベルト　全体合奏
8	ラター組曲　譜読み
9	ブリテン　譜読み
10	ラター組曲とブリテン　パート分奏
11	ラター組曲とブリテン　全体合奏
12	後期課題曲全体の通し練習
13	後期課題曲ハイドン、シューベルト　通し練習
14	後期課題曲ラター、ブリテン　通し練習
15	後期演奏会

科目名	リズミックトレーニングI （前） ［月4］						
代表教員	松山　修	授業コード	GE594100	科目コード	GE5941	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

リズムは音楽に欠くことのできない大切な要素の１つである。このクラスでは、１年を通してリズム全般について学ぶ。

2．授業概要

「リズミックトレーニングI」では基本的なリズム譜の読み方、書き方、そして聞き取り。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業でできなかったことは必ず復習。
課題は提出期限厳守。

4．成績評価の方法及び基準

授業内に実施する試験、平常点（課題提出）、授業への参加姿勢を総合的に評価して判定する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。随時プリントを配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特別な理由がない限り、「リズミックトレーニングII」は「リズミックトレーニングI」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	学生のレベルを知る為の簡単な模擬試験
2	全、２分、４分、８分音符の読み、及び聞き取り①
3	全、２分、４分、８分音符の読み、及び聞き取り② （CDからの様々なリズムの聞き取り）
4	８分音符の譜面のSwing読み及び聞き取り①
5	８分音符の譜面のSwing読み及び聞き取り① （CDからの様々なリズムの聞き取り）
6	Music Notationとタイ①
7	Music Notationとタイ②　確認
8	１６分音符の読み、及び聞き取り①
9	１６分音符の読み、及び聞き取り② （CDからの様々なリズムの聞き取り）
10	３連符の読み、及び聞き取り①
11	３連符の読み、及び聞き取り② （CDからの様々なリズムの聞き取り）
12	１６分、３連符等、総合リズムを用いた曲の作曲
13	リズムの Duet曲の演奏
14	Final Project 発表会
15	試験・まとめ

科目名	リズミックトレーニングII （後） ［月4］						
代表教員	松山　修	授業コード	GE594200	科目コード	GE5942	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「リズミックトレーニングI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

リズムは音楽に欠くことのできない大切な要素の１つである。このクラスでは、１年を通してリズム全般について学ぶ。

2．授業概要

「リズミックトレーニングII」では変拍子、ポリリズム、リズムアンサンブルと世界の様々なリズムやグルーヴについても触れる。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業でできなかったことは必ず復習。
課題は提出期限厳守。

4．成績評価の方法及び基準

授業内に実施する試験、平常点（課題提出）、授業への参加姿勢を総合的に評価して判定する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。随時プリントを配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特別な理由がない限り、「リズミックトレーニングII」は「リズミックトレーニングI」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	１６分、３連符等、総合リズムの読み、及び聞き取り①
2	１６分、３連符等、総合リズムの読み、及び聞き取り② （CDからの様々なリズムの聞き取り）
3	３拍子
4	６及び１２拍子
5	５拍子
6	７拍子
7	サンバやマンボ等の民族音楽のリズムについての学習及びリズムアンサンブル①（CDからの聞き取りも含む。）
8	サンバやマンボ等の民族音楽のリズムについての学習及びリズムアンサンブル②
9	２拍３連、４拍３連、５拍４連符
10	ダブル、ハーフをはじめとする、タイムモジュレーション①
11	ダブル、ハーフをはじめとする、タイムモジュレーション②　確認
12	ポリリズム①
13	ポリリズム②　確認
14	Final Project発表会
15	試験・まとめ

科目名	スタジオ・アレンジング　（後）［木3］						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE594500	科目コード	GE5945	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アニメや映画音楽のテーマ曲、ポップス、ロック、童謡 etc. の楽曲をジャズにアレンジして（ビッグバンドを除く）、スタジオで実際にディレクションしてレコーディングすること。

２．授業概要

アレンジャーは楽曲を選べる場合と選べない場合がある。自分がリーダーである場合を除いてほとんどは後者。ジャズのスタンダード曲もかつてはミュージカル楽曲や映画音楽がほとんどだった。まずは楽曲選びと様々なアレンジのヴァリエーション（リハーモナイズ、リズムなど）を学んで、本格的なジャズにアレンジして行く。また、レコーディングにおけるアレンジャーやプロデューサーの役割を学ぶ。学生はアレンジした楽曲を期末の集中授業でレコーディングする。またレコーディングに演奏で参加する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

履修者は、与えられた楽曲（課題曲）と自分が選んだ楽曲（自由曲）のメロディーを採譜してジャズにアレンジする課題をレコーディング前に提出する。

４．成績評価の方法及び基準

ファイナル・プロジェクト＝8分以内の楽曲アレンジと演奏の録音ディレクション（評価の20%）
授業への参加姿勢と学習態度（評価の30%）
課題提出（評価の50%）

課題を期限までに提出できなかった場合は単位修得できません。また、レコーディングスケジュールは学期末に集中するので、授業スケジュールに注意してください。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音出し作業（録音）の時間的制約から、実際にスタジオで履修者全員が録音できるとは限りません。録音できる学生は、提出された課題の評価順で決定します。

編曲作業は、授業時間以外に相当な量にのぼることを自覚しなければなりません。

授業計画	
	［半期］
1	既存曲をジャズアレンジする様々な事例を紹介し、レコーディングにおけるアレンジャーやプロデューサーの役割について説明する
2	ジャズアレンジのヴァリエーションについて（コード進行、リハーモナイズについて）
3	ジャズアレンジのヴァリエーションについて（リズムやリフについて）
4	シンプルな課題曲数曲のメロディーの採譜練習
5	課題曲アレンジ例と解説
6	学生提出課題曲アレンジ音出しチェック＆リハーサル
7	学生提出課題曲アレンジ音出しチェック＆リハーサル　復習
8	学生提出課題曲アレンジ音出しチェック＆リハーサル　確認
9	学生提出自由曲アレンジ音出しチェック＆リハーサルとレコーディングの心得
10	レコーディング　導入
11	レコーディング　基本
12	レコーディング　応用
13	レコーディング　発展
14	レコーディング　仕上げ
15	レコーディングと授業総括しての反省

科目名	ﾋﾞｯｸﾞﾊﾞﾝﾄﾞ･ｱﾚﾝｼﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ6　（前）　[木2]						
代表教員	松本　治	授業コード	GE594600	科目コード	GE5946	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	4				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ホーン・アレンジIII（６～８Ｂｒａｓｓ）」迄の講座で学んだ知識を基に、大編成（ビッグバンド）アンサンブルのアレンジに取り組む

２．授業概要

大編成に対応するヴォイシングの基礎を学び、有名作家の作品をアナライズすることで知識を生かす方法を身につける

３．授業時間外の学習（予習復習について）

5&5/7&5による小課題提出。8&5＋リズムセクションによるファイナル・プロジェクトの音出し

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）
5&5/7&5による課題提出と、中間音出し（それぞれ評価の15%）
ファイナル・プロジェクトの課題提出と音出し（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

今までに学習したjazz harmonyやVoicinng法の復習をしてください、そして　多くのビッグバンド作品を聴いておきましょう。

授業計画	
	［半期］ メロディーの分解～各パートに割り振ることで行うことによる再構成、５＆５、７＆５、８＆５のライティング、ビッグバンド有名作品のアナライズ
1	メロディック・サブディヴィジョン
2	５＆５ライティング（説明）
3	５＆５ライティング（作成）
4	７＆５ライティング（説明）
5	７＆５ライティング（作成）
6	８＆５ライティング（説明）
7	８＆５ライティング（作成）
8	有名作家による作品のアナライズ
9	どのようにアレンジするのか、リズムを考える
10	どのようにアレンジするのか、構成を考える
11	スケッチを書くために必要なこと
12	スケッチの作成
13	ファイナル・プロジェクトのガイダンス
14	スコアを書いてみよう
15	スコアのチェック

科目名	ﾘｽﾞﾑ楽器管楽器の楽器法･記譜法/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ1　（後）　[木2] Aクラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE5947A0	科目コード	GE5947	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音楽的な発想を他の演奏家に正確に伝えるためには各楽器の個性を掌握した上で、それぞれの楽器にとって判り易い譜面を作成できることが必要です。

この講座ではメディアム・アンサンブルに多用される楽器について理解を深めると同時に、各楽器に対応した記譜法を身につけます。

2．授業概要

正しい記譜を学ぶ。様々な楽譜の種類と役割を理解する。
リズム楽器（ドラムス、ベース、ギター、鍵盤楽器）、および金管楽器（トランペット、ドロンボーン）、木管楽器（アルト、テナー、バリトンの各サックス）の楽器法と記譜法。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各項目ごとに出題される課題。

4．成績評価の方法及び基準

学習態度及び課題達成について、到達目標に対し80%以上修得が認められる場合をAとし、単位修得には60%以上が必要。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽家・音楽教育者にとって必要な知識を習得するための講座です。基本的に一回の授業でひとつの楽器について学んでいくので、欠席をするとその楽器についての知識を持たないまま先に進むことになります。まずは出席すること、そして課題提出を着実にこなしていくことが大切です。また入試レベルの楽典（調と調号、音程など）の知識がないと、途中でついていけなくなる可能性があるので、必要に応じて十分に復習してから臨んでください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／楽譜の決まりごと
2	正しい符割り
3	いろいろな楽譜（リードシート、スコア、パート譜、マスターリズム譜）
4	リズムセクションの楽器法と記譜法：ドラムス
5	リズムセクションの楽器法と記譜法：ベース
6	リズムセクションの楽器法と記譜法：ギター
7	リズムセクションの楽器法と記譜法：鍵盤楽器
8	金管楽器の楽器法と記譜法：トランペット
9	金管楽器の楽器法と記譜法：トロンボーン
10	木管楽器の楽器法と記譜法：アルトサックス
11	木管楽器の楽器法と記譜法：テナーサックス、バリトンサックス
12	トランスポーズ・ドリル１　基本
13	トランスポーズ・ドリル２　応用
14	トランスポーズ・ドリル３　発展
15	テストとまとめ

科目名	ﾘｽﾞﾑ楽器管楽器の楽器法･記譜法/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ1　（前）　[火4] Bクラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE5947B0	科目コード	GE5947	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音楽的な発想を他の演奏家に正確に伝えるためには各楽器の個性を掌握した上で、それぞれの楽器にとって判り易い譜面を作成できることが必要です。

この講座ではメディアム・アンサンブルに多用される楽器について理解を深めると同時に、各楽器に対応した記譜法を身につけます。

2．授業概要

正しい記譜を学ぶ。様々な楽譜の種類と役割を理解する。
リズム楽器（ドラムス、ベース、ギター、鍵盤楽器）、および金管楽器（トランペット、ドロンボーン）、木管楽器（アルト、テナー、バリトンの各サックス）の楽器法と記譜法。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各項目ごとに出題される課題。

4．成績評価の方法及び基準

学習態度及び課題達成について、到達目標に対し80%以上修得が認められる場合をAとし、単位修得には60%以上が必要。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽家・音楽教育者にとって必要な知識を習得するための講座です。基本的に一回の授業でひとつの楽器について学んでいくので、欠席をするとその楽器についての知識を持たないまま先に進むことになります。まずは出席すること、そして課題提出を着実にこなしていくことが大切です。また入試レベルの楽典（調と調号、音程など）の知識がないと、途中でついていけなくなる可能性があるので、必要に応じて十分に復習してから臨んでください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／楽譜の決まりごと
2	正しい符割り
3	いろいろな楽譜（リードシート、スコア、パート譜、マスターリズム譜）
4	リズムセクションの楽器法と記譜法：ドラムス
5	リズムセクションの楽器法と記譜法：ベース
6	リズムセクションの楽器法と記譜法：ギター
7	リズムセクションの楽器法と記譜法：鍵盤楽器
8	金管楽器の楽器法と記譜法：トランペット
9	金管楽器の楽器法と記譜法：トロンボーン
10	木管楽器の楽器法と記譜法：アルトサックス
11	木管楽器の楽器法と記譜法：テナーサックス、バリトンサックス
12	トランスポーズ・ドリル１　基本
13	トランスポーズ・ドリル２　応用
14	トランスポーズ・ドリル３　発展
15	テストとまとめ

科目名	スタイルスタディＢ　（前）［水5］						
代表教員	瀬田　創太	授業コード	GE594900	科目コード	GE5949	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	JZ	科目分類					
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々な音楽のスタイルを勉強する上でピアノでコードが弾けるという事は必要不可欠と考えます。それはピアニストはもちろんのこと、それ以外の全楽器奏者に必要なことであり、必ず自分の専門楽器を演奏する上でも役に立つことであると言えます。
そこでこの授業では、多様なスタイルの音楽を題材にハーモニーやメロディをピアノで弾けるようになってもらうという目的を持ち、講義を進めていきます。対象となる学生は全楽器奏者です。
到達目標としては、コード譜を見ながらのピアノでのソロ演奏(メロディを弾きながらコードも弾く)です。

２．授業概要

題材となる曲のリードシート見ながら、生徒一人一人に与えられたキーボードで練習し、出来た生徒からグランドピアノでその曲を弾くという小テストを繰り返していきます。
回が進むごとに、曲の難易度や与える課題も複雑化していく仕組みです。
鍵盤奏者には相応の課題を出すので、生徒各自が自分のレベルに合わせて練習していけるように授業を進めていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

事前に次回やる課題を配布し、それぞれの課題に応じた弾き方を予習する。
コードを見て演奏できるようになるにつれて、自分の作ったオリジナルなどもピアノで弾くことができるようになる。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の７０％）、課題提出（毎回の小テスト）（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

大学用意の譜面を使用する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コードを読んだり弾けるようになりたいという意欲、やる気があるものが望ましい。
ピアニストもさらなる向上を目指す生徒は大歓迎である。

授業計画	
1	概要説明、および設備の説明。
2	㊏課題 コードのルートを左、3度の音を右で弾く
3	㊏課題 コードのルートを左、3度と7度の音を右で弾く
4	㊏課題 コードのルートと5度を左、3度と7度の音を右で弾く
5	㊏課題 コードのルートと5度を左、3度と7度の音を右で弾きながら、メロディを歌う
6	課題㊏ コードの構成音を全て左で弾く
7	㊏課題 コードの構成音を全て左で弾き、右手でメロディを弾く
8	㊏課題 コードの3度と7度を左で弾く。
9	㊏課題 コードの3度と7度を左で弾きながら、1度と5度を右で弾く。
10	㊏課題 コードの3度と7度を左で弾きながら、1度と5度を右で弾き、その状態でメロディを歌う。
11	㊏課題 コードの1度を9度に置き換え、全ての和音に9thを入れてみて、合う合わないを見極める。
12	㊏課題 コードの3度と7度を左で、9度と5度を右手で弾く。
13	課題 リードシートを参考に、メロディ奏者が別にいることを想定して適切な伴奏スタイルを見つける。
14	課題 リードシートを参考に、メロディとコード、ルートを場合に応じて弾く。
15	最終課題。リードシートを参考に、ピアノソロで曲を演奏する

科目名	ジャズフレージング入門　（後）　[水4]						
代表教員	布川　俊樹	授業コード	GE597700	科目コード	GE5977	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

あまりジャズに親しんだことのないレベルのプレイヤーに対してジャズにおけるフレージングの根本的な考え方、その可能性をなるべく平易に教授する。

２．授業概要

【授業の進め方】
予め学生にフレージングの譜面をテキストとして渡し、講師が音源（カラオケ）などを使って様々なフレージングを実際に弾いてみせる。考え方を教授した次の回の授業で、学生にも実際に演奏してもらう。また学生が作った実際の曲のソロ譜面をチェックし、添削する。
【基本授業内容】
（１）IIm７-V７-IM-VII７（逆循環進行）を素材として様々なアイディアでフレージングを練習する。
（２）（１）の考え方を使って実際の曲のソロを作る（作れなければアドリブソロはできないので）。これを学生への課題とする予定。
（３）より高度なフレージングのアイディアについて。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で説明したアイディアを使ってフレージングを考えるのが最も学生にとって効果的な復習である。それが次回の授業のセッションへの予習となる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
課題提出（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	授業の進み方についてのオリエンテーション。まずジャズのフレージングはどんな考え方で行われているか、どのような発想法があるのか、その概要、考え方の変遷、歴史的経緯などをいくつかの音源を視聴しながら大まかに解説。スケール（モード）的アプローチ、コード的アプローチの簡単な説明。その後、最も基本的なスケール的アプローチであるブルーノートペンタトニックスケールを使ったブルージーなフレージングを解説。
2	スケール的アプローチの第２回。メジャーペンタトニックを加えて幅を拡げる。ブルーススケールについて解説。
3	コード的アプローチを導入。IV-V-Iのトライアドでのフレージング練習。素材はIIm７-V７-IM-VII７（逆循環進行）。まず、コード進行のサウンドを知るためにアルペジオでフレージング。第３～７回までは基礎編。逆循環進行を使ってアイディアを解説。
4	コード的アプローチの初歩的なアイディア。トーナリティースケール（メジャースケール）のみ使ってサブドミナント、トニックのフレージングを弾き分ける練習。
5	ノンコードトーンも使ったサブドミナント、トニックのフレージングの練習。ダブルクロマチックアプローチなど経過音の使い方などについて解説。
6	ドミナントモーションのフレージング練習
7	総まとめとして、IIm7-V7-IM、IM-VI7-IIm7のフレージングなどを解説。いままでのすべてのアイディアを使って逆循環進行でのフレージング練習。ここまでの内容で、かなりモダンジャズ的なフレージングのアイディアは理解できる。
8	この回から応用編に入る。いままでのアイディアを使って実際の楽曲のフレージングを考える。まずは「Satin Doll」でのフレージング。
9	「Blues」でのフレージング。
10	「Softly As In A Morning Sunrise」でのフレージング。マイナーキー曲でのフレージングを考察。トニックマイナーやディミニッシュ系フレージング、IIm7(b5)-V7-Imのフレージングなどを解説。
11	「So What」でのフレージング。モード系楽曲でのフレージング解説。
12	フレージングの考え方総まとめ。頻出コードとそれに対するフレージングの考え方を説明。
13	実際の楽曲のソロを音源を譜面と照らし合わせて聴く。ソロ分析と解説。
14	フレージングのリズム的要因を考察。ポリリズムやシンコペーションの練習。
15	総まとめ演習として、実際の楽曲におけるソロを１コーラス時間内に書き、譜面を提出。

科目名	ハウトゥインプロヴァイズ （前） ［月2］						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE597900	科目コード	GE5979	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズのアドリブをやる時に必要な知識（知っておいた方が良い事）を学ぶ。

２．授業概要

インプロヴィゼイションするときに使う様々な道具、例えばコード、スケール、リズム、テンション、ペンタトニック、メロディックマイナー、アッパーストラクチャー等、それらの道具を使ってフレーズを作ったり、練習方法を考えたりする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回授業の度に次回やっておくべきホームワークを与える。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％・課題と授業への参加姿勢を重視）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回授業内で配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

プロジェクト発表の日にはアンサンブルをするので楽器を持参すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	ベース・ライン
3	コード・トーンその１（トライアド、７th コード）
4	コード・トーンその２（テトラ・トニック）
5	アプローチ・ノート
6	プロジェクト発表の日 （オリジナル・ソロを作る）
7	モードの解釈その１（メージャー・スケール）
8	モードの解釈その２（メロディックマイナー・スケール）
9	モードの解釈その３（ハーモニック・マイナー・スケール）
10	プロジェクト発表の日 （オリジナル・ソロを作る）
11	コード進行に対するスケールの使用法 その１
12	コード進行に対するスケールの使用法 その２
13	ペンタ・トニック・スケール
14	アウトサイドのアドリブ
15	プロジェクト発表の日 （オリジナル・ソロを作る）

科目名	ハウトゥコンポーズ　（後）［月2］						
代表教員	道下　和彦	授業コード	GE598000	科目コード	GE5980	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲って何？そもそも「曲」って…
そういう疑問から始めます。簡単な作曲法を使って、とにかくなんか書いてみませんか？
名曲は千の迷曲から生まれる by道下和彦

２．授業概要

作曲という言葉にはいろんな意味がこめられていますが、英語のComposeとはそもそも「…を構成する、組み立てる」という意味です。組み立てる方法はさまざまですが、最終的に形になればいいんです。
作曲法を使って書く。
他の曲を参考にして（コピーして）書く。
鉛筆を転がして（偶然性を頼りにして）書く。
等々いろんな取り組み方があると思います。
このクラスでは既にあるオーソドックスな作曲法から、ユニークなものまでいろんなアプローチを紹介し、そしてそれを使ってオリジナルを作ってみる、そんな事をします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回授業の度に次の回にやっておくべきホームワークを出す。

４．成績評価の方法及び基準

平常点及び授業への参加姿勢（評価の５０％）
課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作曲に興味が有る人。
作品発表のときに楽器持参（１５回のうち３回のみ）
履修制限は特にありませんが、あまりにも多いときは履修できない人もいるかもしれません。

授業計画	
	［半期］
1	授業内容説明と一回目（作曲の面白さ）
2	形式を学ぶ その１（ブルース）
3	形式を学ぶ その２（AABA ＆ ABAC）
4	楽曲の形式の分析
5	作品発表（楽器持参）
6	簡単な作曲法 その１
7	簡単な作曲法 その２　確認
8	コード進行とメロディ
9	モチーフの使い方
10	作品発表（楽器持参）
11	リズムという概念
12	インアンドアウト
13	コンテンポラリーなサウンド
14	著名な作曲家の話
15	作品発表（楽器持参）まとめ

科目名	インプロビゼーションテクニック　（後）［金2］						
代表教員	多田　誠司	授業コード	GE598800	科目コード	GE5988	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

インプロビゼーションのアプローチについて様々な角度から考察する。

２．授業概要

実際に演奏を通して実戦で役立つノウハウを習得する。必要に応じてソロを書くなどの課題を提出させることがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

次週の予定曲について自分なりに調べたり練習しておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）
演奏技術（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリント等を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

熱意のある学生を求む。インプロビゼーションという性格上、ボーカルはスキャット等を学びたい者を希望する。

授業計画	
	［半期］
1	「ケン・バーンズ・ジャズ Vol.1」鑑賞 ジャズの起源、インプロビゼーションの誕生などについて学ぶ。
2	テーマとアドリブの関係１ Blues 様々なブルースを時系列ならびにスタイル別に鑑賞し、その違いについて学ぶ。
3	テーマとアドリブの関係２ Blues 様々なブルースを時系列ならびにスタイル別に鑑賞し、その違いについて学ぶ。　確認
4	アドリブの基本1 Autumn Leaves 色々なアーティストのAutumn Leavesを鑑賞することで、そのスタイルの違い、インプロビゼーションの方法論などについて学ぶ。
5	アドリブの基本２ Autumn Leavesなど 実際にAutumn Leavesを演奏してみる。コードに対するアプローチの仕方など基本的な部分について今一度検証してみる。
6	アドリブの基本３ Autumn Leavesなど Autumn Leavesを色々なKeyや拍子で演奏してみる。
7	アドリブの応用１ All The Things You Areなど 転調の激しい曲について、ていねいにアドリブしていく。練習法などについて議論する。
8	アドリブの応用２ All The Things You Areなど 前週の結果を踏まえてさらに完成度の高いものにしていく。
9	アドリブの応用３ Joy Springなど さらに転調の激しい曲でアップテンポのものをいかに展開して行くかを学ぶ。
10	アドリブの応用４ Joy Springなど 前週の結果を踏まえて、さらに完成度を高めて行く。
11	芸術的なアドリブ1 デュオでの演奏を通してコミュニケーションについて学ぶ。リズム、ハーモニー、メロディについて自分が責任を持って表現できることを目指す。
12	芸術的なアドリブ2 前週の結果を踏まえてさらに完成度の高いものを求めて行く。
13	芸術的なアドリブ３ Body&Soulなど バラードの表現方法を学ぶ。メロディをいかに歌うか、テンポをいかに守りながら演奏できるかを目指す。
14	芸術的なアドリブ４ Body&Soulなど 前週の結果を踏まえて、さらに芸術性の高いバラード演奏を目指して行く。
15	インプロビゼーションについてのまとめ これまでの授業を踏まえて、学んだことを再確認する。

科目名	サーヴェイ・オブ・ジャズ１　（前）　[月2]						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GE598900	科目コード	GE5989	期間	半期
担当教員	原　朋直、布川　俊樹						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズに限らず全ての音楽スタイルにおいて、音楽家がクリエイティブな活動をする上で、過去にあった音楽を深く感じ、理解することは必要不可欠である。
現存する音楽の中で過去の音楽とつながりのないものは皆無であり、この授業を通してジャズを中心とする音楽の発展の過程を学び、今の音楽を理解する基礎を得ることを目的とする。

２．授業概要

ジャズを中心とする音楽および演奏について、現在に至るまでのその発展の歴史をCD/DVDまたは参考文献を通して学ぶ。
３人の教員がが担当し、ギター、ピアノ、金管楽器についてそれぞれ違った視点から授業を行い、さまざまな角度からジャズという音楽に触れる。　トピックの中心となる楽器／音楽的観点は各教員により異なるため、授業計画を参照のこと。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内で視聴できる音楽には限りがあるため、授業のトピックに関係する音楽を授業外でも積極的に視聴し、その内容をより深く理解することが必要である。

４．成績評価の方法及び基準

3人の教員がそれぞれの5回目の授業終了時にレポートまたは試験により成績評価し、その平均が最終成績となる。各ブロック（1回～5回、6回～10回、11回～15回）ごとで成績評価を受けることが必須。
担当教員の授業スケジュールは変更になる場合がある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献が講師から指示される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽は全ていろいろなスタイルが影響しあいながら発展してきたことを深く認識し、幅広いスタイルの中で音楽を理解しようという強い姿勢を望む。
全てのブロックで十分な出席率を保つこと。

授業計画	
	［半期］
1	蟻正行義：１回目－５回目ピアノ ラグタイム
2	ストライドピアノ
3	ビバップ
4	ポストビバップ
5	現代のピアニスト
6	布川俊樹：６回目－１０回目 ジャズ黎明期からビバップ時代まで
7	モダンジャズギタリストの巨匠（1）
8	モダンジャズギターの発展（2）
9	ジャズロック～フュージョン
10	コンテンポラリージャズギタリスト
11	原朋直：１１回目－１５回目金管楽器 金管楽器とジャズについて
12	デキシーランドジャズの金管楽器奏者
13	ビッグバンドジャズの金管楽器奏者
14	ビバップの金管楽器奏者
15	現代のジャズ金管楽器奏

科目名	サーヴェイ・オブ・ジャズ２　（後）　[火4]						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GE599000	科目コード	GE5990	期間	半期
担当教員	佐藤　達哉、多田　誠司、有田　純弘						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズに限らず全ての音楽スタイルにおいて、音楽家がクリエイティブな活動をする上で、過去にあった音楽を深く感じ、理解することは必要不可欠である。
現存する音楽の中で過去の音楽とつながりのないものは皆無であり、この授業を通してジャズを中心とする音楽の発展の過程を学び、今の音楽を理解する基礎を得ることを目的とする。

２．授業概要

ジャズを中心とする音楽を、現在に至るまでのその発展の歴史をCD/DVDまたは参考文献を通して学ぶ。
3人の担当教員が各5回の授業をそれぞれ違った視点から行い、さまざまな角度からジャズという音楽に触れる。
トピックの中心となる楽器／音楽的観点は各教員により異なるため、授業計画を参照のこと。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内で視聴できる音楽には限りがあるため、授業のトピックに関係する音楽を授業外でも積極的に視聴し、その内容をより深く理解することが必要である。

４．成績評価の方法及び基準

3人の教員がそれぞれの5回目の授業終了時にレポートまたは試験により成績評価し、その平均が最終成績となる。各ブロック（1回～5回、6回～10回、11回～15回）ごとで成績評価を受けることが必須。
担当教員の授業スケジュールは変更になる場合がある。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。
参考文献が講師から指示される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽は全ていろいろなスタイルが影響しあいながら発展してきたことを深く認識し、幅広いスタイルの中で音楽を理解しようという強い姿勢を望む。
全てのブロックで十分な出席率を保つこと。

授業計画	
	［半期］
1	多田誠司：1回目-5回目 サックス ビバップ期のサックス奏者達
2	ジャズメッセンジャーズのサックス奏者達Vol.1　前半
3	ジャズメッセンジャーズのサックス奏者達Vol.2　後半
4	マイルスバンドのサックス奏者達Vol.1　前半
5	マイルスバンドのサックス奏者達Vol.2　後半
6	佐藤達哉：6回目-10回目 サックス ジョン・コルトレーン
7	スタン・ゲッツ
8	マイケル・ブレッカー
9	ブランフォード・マルサリス
10	ウエイン・ショーター
11	有田純弘：11回目-15回目 アコースティックミュージック アパラチア音楽～アメリカン・ルーツ・ミュージックの原点
12	ブルーグラス・ミュージックの改革
13	ジャンゴ・ラインハルトのジプシージャズ
14	80年代のニュー・アコースティック・ムーヴメント
15	アメリカーナ音楽～現代のアコースティック・シーン事情

科目名	楽曲研究／和声学研究　[月3]						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GE613100	科目コード	GE6131	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（CO除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」または「和声学Ⅱ（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・楽曲の基本的な形式（複合三部形式、フーガ形式、ソナタ形式など）や、和音（音楽分析基礎講座や和声学での学習）などの理論的側面についての理解を深める。
・その上で、実際の楽曲における「非理論的側面」に関する考察、研究を行うことにより、総合的に作曲家の意図を理解できるようになる。

２．授業概要

・和声学での学習内容と、実際の楽曲中に用いられている和音連結に見られる相違点について学ぶ。
（限定進行音、連続５度、連続８度、増音程などの禁則、和声学で用いられない和音や進行など）
・楽式などで説明される基本的な形式（ソナタ形式を中心とする）と、実際の楽曲中に見られる例外的な応用について、調性のあり方を中心に学ぶ。
・音楽分析基礎講座で学習した基本的な非和声音に加え、実際の楽曲中に用いられるより複雑な非和声音の使われ方とその解釈ついて学ぶ。
・以上の点をより理解するために、実際の楽曲を応用した和声課題を実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・楽曲は、授業で一度、一部分に接しただけでは到底全体を理解することはできない。
そのため同じ楽曲を繰り返し取り上げる場合もあるが、原則として図書館に資料がある作品を扱うので、楽譜を用意して全曲を聴いておくこと。
・授業内容を確認するため、必要な部分を中心に改めて聴き直すこと。その際、異なる演奏家のものを聴くことは、新たな発見をもたらすことある効果的な方法である。
・授業中に出される「和声課題」は、楽曲の理論的側面をより確実に理解するためのものであり、必ず実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
・授業への取り組み方、課題の実施状況などについて評価する。

学年末試験（評価の50%）
・授業で学習した内容についての理解度、また扱った楽曲についての把握度などについて問う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・モーツァルト：交響曲第４０番K.550 ~ 第１楽章。
・モーツァルト：交響曲第４１番「ジュピター」K.551~ 第４楽章。
・モーツァルト：ピアノ・ソナタ第１５番K.545~第１楽章。
・ショパン：マズルカOp.17-4。
・ドビュッシー：「牧神の午後への前奏曲」。
・ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第２１番Op.53~ 第１楽章。

・その他　必要な教材があれば、その都度指示する。
・必要最低限の楽譜は必要に応じて配布、あるいは板書するが、いずれもごく一部分になるので、なるべく各自で準備すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・「前提科目」は上記の通りだが、少なくとも「和声学Ⅲ」(属九、ドッペルドミナント等)まで履修した者（成績は問わない）、または履修しようと考えている者が望ましい。
・授業では、「和声学Ⅳ、Ⅴ」に関する内容についても含まれることは言うまでもないので、基本的な知識が必要である。
・しかし何よりもまず、楽曲に対する好奇心や興味を持って臨むことが最も重要である。
・３分の２以上の出席が無い学生（遅刻や早退は３回で欠席１回となる）は、試験を受けても単位認定は行わない。
・欠席、遅刻、私語、居眠り、その他授業態度に問題がある場合は、平常点において考慮する。

授業計画	
	［前期］研究に関する基礎
1	旋律、和声と調の関係（1） 「運命」はハ短調で扉をたたくのか
2	旋律、和声と調の関係（2） 「グレート」な交響曲は単旋律で始まる~解説編
3	旋律、和声と調の関係（3） 「グレート」な交響曲は単旋律で始まる～実施編
4	長調と短調について（1） 「ト短調」の明と暗～長調と短調の分かれ目
5	長調と短調について（2） 「トスカ」～生きるか死ぬかの分かれ目
6	長調と短調（3） 「レニングラード」～勝利と敗北の分かれ目
7	調性の拡大（1） 踊れない、終われない「マズルカ」
8	調性の拡大（2） 「トリスタンとイゾルデ」～恋の行方は
9	バーンスタインによる、ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」のアナリーゼについて考える（1）～和声について
10	バーンスタインによる、ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」のアナリーゼについて考える（2）～調性について
11	借用和音（1） 「喜びの歌」どこで喜べるか～解説編
12	借用和音（2） 「喜びの歌」どこで喜べるか～実施編
13	禁則について（1） 導かれない「レクイエム」
14	禁則について（2） 対立か、融和か、「ウエストサイド物語」～対立編
15	禁則について（3） 対立か、融和か、「ウエストサイド物語」～融和編

授業計画	
	[後期]研究に関する応用
1	ソナタ形式の和声学的考察（1） 「易しいソナタ」は簡易なソナタか
2	ソナタ形式の和声学的考察（2） 「ワルトシュタイン」氏はどこへ行く
3	ソナタ形式の和声学的考察（3） 個性輝く「ホ短調」～メンデルスゾーンとブラームス
4	ソナタ形式の和声学的考察（4） 個性輝く「ホ短調」～チャイコフスキーとドヴォルザーク
5	ソナタ形式の和声学的考察（5） 「七年目の浮気」～発端のハーモニー
6	ソナタ形式の和声学的考察（6） 「七年目の浮気」～予期せぬ展開
7	和声学と対位法（1） 「親方歌手」恋の手ほどき～役者は一度に現れない
8	和声学と対位法（1） 「親方歌手」恋の手ほどき～絡み合う物語
9	和声学と対位法（2） 「親方歌手」恋の手ほどき～物語がまとまる時
10	和声学と対位法（3） 「ジュピター」神の技
11	転調の極意（1） 「ト短調」の限界とは
12	転調の極意（2） 楽聖～匠の技
13	転調の極意（3） 音色へのこだわり
14	転調の極意（4） 「ローマの休日」の過ごし方
15	終止について 「冗談」で終われるか

科目名	パイプオルガン実習　（集）						
代表教員	荻野　由美子	授業コード	GE663200	科目コード	GE6632	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

パイプオルガンは、電子オルガンのアイディアの基となった楽器であり、同じように複数の手鍵盤と足鍵盤を持ち、様々な音色を持っています。しかし、その発音原理は全く異なり、パイプオルガンは、管楽器（笛）の集合体です。本講座ではパイプオルガンの構造・歴史を学び、また演奏を通して、パイプオルガンという楽器を体験します。

２．授業概要

・オルガン奏法（レガート奏法、両足を用いるペダル奏法、アーティキレーションの付け方など）の実習。
・パイプオルガンの構造と、その歴史を学ぶ。
・オルガンのストップの種類と、その組み合わせ方（レジストレーション）を学ぶ。
・J.S.バッハがオルガンのために編曲したヴィヴァルディの「調和の霊感」を題材に、パイプオルガンでの編曲を体験する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業には必ず練習してから臨むこと。授業後は指摘された点を復習して、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（練習での目標到達度合い、及びレポート）（評価の50%）
授業時の演習姿勢と内容（（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実習課題の楽譜は事前に配布する。
その他の資料は、授業内で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

事前に配布する楽譜をよく練習してくること。また、講義期間中は、各自の積極的な参加姿勢を望む。

授業日程　※初回授業は必ず出席すること
5月7日(火)6限　E113
5月18日(土) 2、3、4限　E113, K103,SM BF1
6月11日(火)6限　前田ホール
6月22日(土)2、3、4限　E113, K103,SM BF1
7月2日(火)6限　前田ホール

授業計画	
	［集中］
1	ガイダンス、体験
2	パイプオルガンの構造、歴史
3	レガート奏法の演習
4	ペダル奏法の演習
5	アーティキレーションの演習
6	ストップの種類
7	レジストレーションの実際、演習
8	前田ホールでの演奏
9	まとめ
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ギター奏法演習　[火4]						
代表教員	中根　康美	授業コード	GE664100	科目コード	GE6641	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初めてギターを手にする人のための講座です。
クラシックギターの基礎を学習し、メロディ、コードによる伴奏、簡単な独奏曲を弾けるようにします。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。
グループレッスンにより、初歩からわかりやすく指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽器の上達には練習が必要不可欠です。　できれば毎日、ギターに触れる時間を作ってください。、

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の40%）
授業への参加姿勢（評価の60%）
最後の2回の授業は発表会で、ここで演奏しないと単位は取れません。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初めてギターを手にする学生を対象とします。
クラシックギター、足台、チューナーを各自用意すること。
アコースティック（フォーク）ギター、エレキギターでの受講は認めません。

授業計画	
	［前期］ ギターの持ち方から簡単な独奏曲と伴奏を学ぶ。
1	ガイダンス クラシックギターについて ギターの持ち方 調弦について
2	調弦のしかた 指番号と記号について ＣとＧ７のコード ハ長調のメロディ 「かっこう」「ちょうちょう」
3	CとG7のコード ハ長調のメロディ２ 「いとしのクレメンタイン」「大きな古時計」
4	Ａｍ、Ｅのコード イ短調のメロディ 「一週間」
5	イ短調のメロディ Ａｍ-Ｄｍ-Ｅ７-Amのコード進行 「ドナドナ」
6	復習（前期既習曲・前半）
7	ト長調のメロディと伴奏 G-C-D7-G 「Ｈａｐｐｙ　Ｂｉｒｔｈｄａｙ」
8	復習と応用 「卒業写真」
9	復習と応用２ 「涙そうそう」
10	復習と応用3 「少年時代」
11	復習と応用４　発展
12	簡単な独奏曲を弾く。 カルリ「アンダンティーノ」
13	簡単な独奏曲を弾く2
14	復習（前期既習曲・後半）
15	前期発表会

授業計画	
	［後期］ 前期で学んだことを応用し、色々な曲を弾いてみる。 各自の弾いてみたい曲にチャレンジする。
1	前期の総復習
2	ホ短調のメロディ Em-Am-B7-Em、のコード進行
3	ホ短調のメロディ２ 「グリーンスリーブス」
4	復習 「ひこうき雲」
5	復習（後期既習曲・前半）
6	dim（ディミニッシュ）コード アルペジオの練習 「星に願いを」
7	復習（後期既習曲・後半）
8	中間発表会
9	応用 それぞれ自分の好きな曲を練習
10	応用2　発展
11	クリスマスソングを弾く1　基本
12	クリスマスソングを弾く2　応用
13	クリスマスソングを弾く３　発展
14	後期発表会　前半
15	後期発表会　後半

科目名	和楽器演習（箏）　[月5]						
代表教員	野澤　佐保子	授業コード	GE664400	科目コード	GE6644	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年学校教育現場や社会の様々な場で日本音楽が重視されて来ています。
本授業はそれに対応できることを目標とし、基本奏法から小中学生が演奏できる曲や、「さくら」「六段」などの教科書収載曲の演奏法を身につけます。さらには、楽器の扱いや、流派の相違など基礎的な知識を身につけ、古典や現代の箏曲の知見を深めることを目指しています。

２．授業概要

前期は基本奏法を中心に「さくら」や「わらべうた」などの簡単な曲を習得し、後期は「六段」や「合奏曲」をしながら色々な奏法を身に付け、アンサンブルも楽しみたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜を読む復習をする。希望者は楽器の購入も可能。楽器での奏法予習、復習が望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の８０％）
学年末実技テスト（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
　初回授業時に販売します。
『やさしい箏入門』野澤佐保子著（ドレミ楽譜出版社）1,944円税込
楽譜：
プリントを配布します。
必要に応じて、楽譜を購入すること。
参考文献：
『和楽器にチャレンジ！３　箏をひいてみよう』
現代邦楽研究所編（汐文社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

箏爪がない場合は初回の授業で爪を購入すること。
〈１組 6,480円税込。各自の指に合わせて作ります。〉
人数によっては履修を制限する場合があります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	基本奏法１右手奏法
3	基本奏法２左手奏法
4	基本奏法３確認
5	基本奏法４定着
6	応用練習１小曲奏法説明
7	応用練習２小曲確認
8	応用練習３表現の工夫
9	応用練習４定着
10	「六段」奏法説明
11	「六段」演奏練習１奏法確認
12	「六段」演奏練習２定着
13	「簡単な合奏曲」練習１奏法説明
14	「簡単な合奏曲」練習２確認
15	「簡単な合奏曲」練習３定着

授業計画	
	［後期］
1	「六段」復習１奏法確認
2	「六段」復習２定着
3	「六段」復習３表現の工夫
4	「六段」復習４仕上げの演奏
5	「六段」復習５試験に向けての確認 「合奏曲」奏法説明１確認
6	「合奏曲」奏法説明２定着
7	「合奏曲」奏法練習１表現の工夫
8	「合奏曲」奏法練習２精度の向上
9	「合奏曲」奏法練習３より良い演奏を考える
10	「合奏曲」奏法練習４各パートの仕上げ
11	「合奏曲」合奏練習１確認
12	「合奏曲」合奏練習２定着
13	「合奏曲」合奏練習３精度の向上
14	「合奏曲」合奏練習４表現の工夫
15	「合奏曲」合奏練習５仕上げの演奏

科目名	和楽器演習（三味線）　[火5]						
代表教員	野澤　徹也	授業コード	GE664500	科目コード	GE6645	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

（１）三味線の演奏法の学習。
（２）三味線奏法における五線譜・三味線譜の学習。

２．授業概要

三味線の扱い方、演奏法、楽譜の読み方等を課題曲を通して学習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽器を持っているものは演奏しての復習。
持っていないものは、楽譜をよむ復習。

４．成績評価の方法及び基準

(1)授業への参加姿勢
(2)課題提出：CDを鑑賞してレポート

５．授業で使用するテキスト・参考文献

(1)「三味線基礎練習プリント」野澤徹也作成（無料）

(2)CD『三絃／野澤徹也』3000円（税込）
授業時に販売。レポート課題に必要。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽器は大学のものを使用（無料）
楽器を持っている人は自分の楽器使用可能。
楽器は購入可能。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、楽器の扱い方、基本的な奏法
2	開放絃、さくらさくら、荒城の月
3	人差し指の運指
4	中指の運指
5	薬指の運指
6	二分音符
7	カンドコロ
8	同音異絃
9	八分音符
10	繰り返し
11	ウラ拍
12	シンコペーション
13	付点音符
14	ハジキ奏法
15	鑑賞「和のいろは」

授業計画	
	［後期］
1	前期反復
2	スクイ奏法
3	スクイ奏法確認
4	メリーさんの羊
5	3拍子
6	ウチ
7	コキ
8	タイとスラー
9	16分音符
10	付点八分音符
11	コカシ撥
12	鑑賞「冬の音楽祭邦楽コンサート」
13	特殊な奏法
14	特殊なスクイ
15	特殊なハジキ

科目名	尺八奏法　（集）１，２限　Dクラス						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE6646D0	科目コード	GE6646	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

尺八の基本奏法を習得し、簡単な曲を演奏することを目標とする。
また、尺八の奏法を通じて他の管楽器への奏法や呼吸法への応用についても検討する。

２．授業概要

尺八や、尺八を中心とする日本の伝統音楽について知ってもらい、自分にとっての日本の音楽とは何かについて、考えてもらう機会を作る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

今後の活動や勉強の中で尺八や尺八音楽について拘わることがあれば、講習で学んだことを活用してください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
授業終了後のレポート・アンケート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

プリント教材を用意する。

参考文献
汐文社　刊　現代邦楽研究所　編
「和楽器にチャレンジ4　　尺八を吹いてみよう」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽器は個人で用意してください。
練習用尺八は、現代邦楽研究所（C503）にて￥6,000 円で販売。

授業計画	
	［集中］
1	音の出し方
2	尺八の構え方 基本的な指運
3	尺八の楽譜について
4	音程の作り方
5	尺八特有の奏法や表現法
6	小品の演奏
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	尺八奏法　（集）３，４限　Eクラス						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE6646E0	科目コード	GE6646	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

尺八の基本奏法を習得し、簡単な曲を演奏することを目標とする。
また、尺八の奏法を通じて他の管楽器への奏法や呼吸法への応用についても検討する。

２．授業概要

尺八や、尺八を中心とする日本の伝統音楽について知ってもらい、自分にとっての日本の音楽とは何かについて、考えてもらう機会を作る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

今後の活動や勉強の中で尺八や尺八音楽について拘わることがあれば、講習で学んだことを活用してください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
授業終了後のレポート・アンケート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

プリント教材を用意する。

参考文献
汐文社　刊　現代邦楽研究所　編
「和楽器にチャレンジ4　　尺八を吹いてみよう」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽器は個人で用意してください。
練習用尺八は、現代邦楽研究所（C503）にて￥6,000 円で販売。

授業計画	
	［集中］
1	音の出し方
2	尺八の構え方 基本的な指運
3	尺八の楽譜について
4	音程の作り方
5	尺八特有の奏法や表現法
6	小品の演奏
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	篠笛奏法　（集）１，２限　Fクラス						
代表教員	福原　徹	授業コード	GE6647F0	科目コード	GE6647	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（GH・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題
・日本の笛（篠笛）実習（実技と講義）
到達目標
・篠笛でやさしい楽曲が吹けるようになる。
・笛の特性を生かした創作への手がかりを得る。
・笛や日本伝統音楽への理解を深め、音楽や文化について幅広い視点を持つことができる。
・素朴でシンプルな「篠笛」を吹く体験、また日本の伝統的な音楽を体感することを通じて、音や音楽の新たな発見や感性を磨くことができる。

２．授業概要

日本の笛の中で、最もポピュラーである「篠笛」の実技です。
取り扱いや持ち方、音の出し方から始めて、やさしい楽曲が吹けるよう練習します。古典的・基本的な曲を中心に楽しく吹いて行きます。その中で、篠笛、あるいは和楽器や邦楽の特徴なども自然に体感できるでしょう。
グループレッスンが中心ですが、時々一人で吹いてもらったり演奏を聴いてもらったり、笛や日本の伝統音楽についての講義、また演奏家としての体験談などもお話しするつもりです。
今まで笛や管楽器、邦楽に触れてこなかった人も歓迎します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

笛の実技なので、授業時間内だけでは技術を習得できません。毎日30分～1時間程度の練習が必須です。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加度（50%）、演奏発表の成果（50%）で評価します。
授業では、コメントシートを書いて提出してもらいます。また、基本はクラス全体でのグループレッスンですが、交代で一人で吹く機会を作って練習状況の確認をします。これらによって参加度を評価します。
演奏発表は、授業で学習した楽曲から選択して吹いてもらいます。演奏結果の良し悪しだけでなく、取り組み方や積極性を重視します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽器
篠笛（プラスチック製、七本調子。1800円程度）
ドミナントにて購入。個人ですでに篠笛（竹製、プラスチック製にかかわらず）を持っていても、調子が合わない場合は新たに購入してもらいます。（クラス全体でのグループレッスンとなるため。）

テキスト
「やさしく学べる笛教本」（福原徹著、洗足学園音楽大学現代邦楽研究所編、汐文社発行。2000円＋税）
ドミナントにて購入。（現在絶版のため、他所で購入するのは困難です。）

その他、随時プリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

繊細な音を扱い、集中力が必要なので、私語厳禁です。また、スマートフォンや携帯電話等の使用は、特に許可した場合以外、厳禁とします。発覚した場合は退席してもらいます。

授業も演奏発表も、積極的な参加を望みます。
最初は音を出すのが難しいですが、練習すれば必ず吹けるようになります。そして、声と同じように、一人ひとり異なる音色になります。歌うように吹くことで自分の思いを音に託すことができます。生涯の友になってくれる楽器です。

授業計画	
	［集中］
1	基礎練習1　構え方、持ち方、音の出し方 基礎練習2　低音域、高音域の音の出し方
2	基礎練習3　特殊な指づかい、半音 楽曲練習1　「さくらさくら」「荒城の月」
3	基礎練習4　さし指、メリカリ 楽曲練習2　長唄めりやす「明の鐘」
4	楽曲練習3　「月」「鞠と殿さま」 長唄「越後獅子」より
5	演奏発表に向けた練習 唱歌（しょうが）について
6	演奏発表とまとめ 日本の笛についての知識
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	篠笛奏法　（集）３，４限　Gクラス						
代表教員	福原　徹	授業コード	GE6647G0	科目コード	GE6647	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（GH・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題
・日本の笛（篠笛）実習（実技と講義）
到達目標
・篠笛でやさしい楽曲が吹けるようになる。
・笛の特性を生かした創作への手がかりを得る。
・笛や日本伝統音楽への理解を深め、音楽や文化について幅広い視点を持つことができる。
・素朴でシンプルな「篠笛」を吹く体験、また日本の伝統的な音楽を体感することを通じて、音や音楽の新たな発見や感性を磨くことができる。

２．授業概要

日本の笛の中で、最もポピュラーである「篠笛」の実技です。
取り扱いや持ち方、音の出し方から始めて、やさしい楽曲が吹けるよう練習します。古典的・基本的な曲を中心に楽しく吹いて行きます。その中で、篠笛、あるいは和楽器や邦楽の特徴なども自然に体感できるでしょう。
グループレッスンが中心ですが、時々一人で吹いてもらったり演奏を聴いてもらったり、笛や日本の伝統音楽についての講義、また演奏家としての体験談などもお話しするつもりです。
今まで笛や管楽器、邦楽に触れてこなかった人も歓迎します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

笛の実技なので、授業時間内だけでは技術を習得できません。毎日30分～1時間程度の練習が必須です。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加度（50%）、演奏発表の成果（50%）で評価します。
授業では、コメントシートを書いて提出してもらいます。また、基本はクラス全体でのグループレッスンですが、交代で一人で吹く機会を作って練習状況の確認をします。これらによって参加度を評価します。
演奏発表は、授業で学習した楽曲から選択して吹いてもらいます。演奏結果の良し悪しだけでなく、取り組み方や積極性を重視します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽器
篠笛（プラスチック製、七本調子。1800円程度）
ドミナントにて購入。個人ですでに篠笛（竹製、プラスチック製にかかわらず）を持っていても、調子が合わない場合は新たに購入してもらいます。（クラス全体でのグループレッスンとなるため。）

テキスト
「やさしく学べる笛教本」（福原徹著、洗足学園音楽大学現代邦楽研究所編、汐文社発行。2000円＋税）
ドミナントにて購入。（現在絶版のため、他所で購入するのは困難です。）

その他、随時プリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

繊細な音を扱い、集中力が必要なので、私語厳禁です。また、スマートフォンや携帯電話等の使用は、特に許可した場合以外、厳禁とします。発覚した場合は退席してもらいます。

授業も演奏発表も、積極的な参加を望みます。
最初は音を出すのが難しいですが、練習すれば必ず吹けるようになります。そして、声と同じように、一人ひとり異なる音色になります。歌うように吹くことで自分の思いを音に託すことができます。生涯の友になってくれる楽器です。

授業計画	
	［集中］
1	基礎練習1　構え方、持ち方、音の出し方 基礎練習2　低音域、高音域の音の出し方
2	基礎練習3　特殊な指づかい、半音 楽曲練習1　「さくらさくら」「荒城の月」
3	基礎練習4　さし指、メリカリ 楽曲練習2　長唄めりやす「明の鐘」
4	楽曲練習3　「月」「鞠と殿さま」 長唄「越後獅子」より
5	演奏発表に向けた練習 唱歌（しょうが）について
6	演奏発表とまとめ 日本の笛についての知識
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	箏奏法　（集）１，２限　Hクラス						
代表教員	吉原　佐知子	授業コード	GE6648H0	科目コード	GE6648	期間	集中
担当教員	野澤　佐保子、現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

教育現場や、社会の様々な場面で対応出来る、箏に関する知識や演奏法を身に付ける。

２．授業概要

３日間で「さくら」「わらべうた」などの簡単な曲を習得し、「六段の調」にもチャレンジします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜を読む予習・復習をする。講習終了後も箏を弾く、聴く機会を設ける事が望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の80%）
さくらの実技テスト(評価の20%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：C503室（現代邦楽研究所）にて販売中。
　『やさしく学べる箏教本』福永千恵子著現代邦楽研究所編（汐文社）2,160円税込
参考文献：
　『和楽器にチャレンジ！３　箏をひいてみよう』現代邦楽研究所編（汐文社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

箏爪がない場合は爪を購入すること。
〈１組6,480円税込、授業の初めに各自の指に合わせて作ります。〉
人数によっては履修を制限する場合があります。

授業計画	
	［集中］
1	箏に関する基礎知識
2	主に「さくら」を用いて基本奏法の説明・練習
3	基本奏法の復習と特殊奏法の練習
4	「さくら」「わらべ唄」「六段」など、学校でよく使われる曲の実践
5	箏による音楽づくり
6	「さくら」の実技テスト、まとめ
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	箏奏法　（集）３，４限　Jクラス						
代表教員	吉原　佐知子	授業コード	GE6648J0	科目コード	GE6648	期間	集中
担当教員	野澤　佐保子、現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

教育現場や、社会の様々な場面で対応出来る、箏に関する知識や演奏法を身に付ける。

２．授業概要

３日間で「さくら」「わらべうた」などの簡単な曲を習得し、「六段の調」にもチャレンジします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜を読む予習・復習をする。講習終了後も箏を弾く、聴く機会を設ける事が望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の80%）
さくらの実技テスト(評価の20%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：C503室（現代邦楽研究所）にて販売中。
　『やさしく学べる箏教本』福永千恵子著現代邦楽研究所編（汐文社）2,160円税込
参考文献：
　『和楽器にチャレンジ！３　箏をひいてみよう』現代邦楽研究所編（汐文社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

箏爪がない場合は爪を購入すること。
〈１組6,480円税込、授業の初めに各自の指に合わせて作ります。〉
人数によっては履修を制限する場合があります。

授業計画	
	［集中］
1	箏に関する基礎知識
2	主に「さくら」を用いて基本奏法の説明・練習
3	基本奏法の復習と特殊奏法の練習
4	「さくら」「わらべ唄」「六段」など、学校でよく使われる曲の実践
5	箏による音楽づくり
6	「さくら」の実技テスト、まとめ
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	三味線奏法　（集）１，２限　Kクラス						
代表教員	野澤　徹也	授業コード	GE6650K0	科目コード	GE6650	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

三味線の扱い方や基本的な奏法をマスターした上で、演奏出来るようにする。

２．授業概要

三味線の扱い方、演奏法、楽譜の読み方等を課題曲を通して学習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

購入したCDを聴いてのレポート

４．成績評価の方法及び基準

(1)授業への参加姿勢
(2)購入したCDを聴いてのレポート

５．授業で使用するテキスト・参考文献

(1)「三味線基礎練習プリント」野澤徹也作成（無料）

(2)CD『三絃／野澤徹也』3000円（税込）
授業時に販売。レポート課題に必要。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽器は大学のものを使用（無料）
楽器を持っている人は自分の楽器使用可能。
楽器は購入可能。

授業計画	
	［集中］
1	楽器の扱い方、開放絃、さくらさくら
2	荒城の月、人差し指
3	中指の運指、薬指の運指
4	カンドコロ、同音異絃
5	ハジキ
6	スクイ、メリーさんの羊、ウチとコキ
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	三味線奏法　（集）３，４限　Lクラス						
代表教員	野澤　徹也	授業コード	GE6650L0	科目コード	GE6650	期間	集中
担当教員	現代邦楽・和楽器担当教員						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

三味線の扱い方や基本的な奏法をマスターした上で、演奏出来るようにする。

２．授業概要

三味線の扱い方、演奏法、楽譜の読み方等を課題曲を通して学習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

購入したCDを聴いてのレポート

４．成績評価の方法及び基準

(1)授業への参加姿勢
(2)購入したCDを聴いてのレポート

５．授業で使用するテキスト・参考文献

(1)「三味線基礎練習プリント」野澤徹也作成（無料）

(2)CD『三絃／野澤徹也』3000円（税込）
授業時に販売。レポート課題に必要。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽器は大学のものを使用（無料）
楽器を持っている人は自分の楽器使用可能。
楽器は購入可能。

授業計画	
	［集中］
1	楽器の扱い方、開放絃、さくらさくら
2	荒城の月、人差し指
3	中指の運指、薬指の運指
4	カンドコロ、同音異絃
5	ハジキ
6	スクイ、メリーさんの羊、ウチとコキ
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ジャズ実習　（前）［木3］Pクラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE6654P0	科目コード	GE6654	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

講義ではジャズの略史やスタイル、演奏システムなどに触れ、「音楽人」としての常識レベルの知識を身につける。
実演ではコードのしくみを学び、コードトーン→スケール→ブルースフレーズ→2・5・1フレーズによるアドリブに挑戦する。
リズムセクションはそれぞれの楽器の基本的なバッキング方法を学ぶ。
最終的にはブルースや2・5・1チェンジを基本とした曲で自由にアドリブができ、自主的にセッションを運営できるようにする。

２．授業概要

授業計画に沿って、アドリブやバッキングのメソッド，セッションの運営，ジャズアンサンブルのコツを学ぶ。なお、条件が整えば「ジャズコースライブ」に出演するので、後半はそれに向けての練習を中心に実習を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

譜読みやフレーズの暗記等の予習

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
実習の習熟度（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

少なくともジャズに強い関心と情熱を持っていることが条件となります。経験は問いません。
　１・２年生は、後期クラス
　３・４年生は、前期クラス
定員20名前後（履修希望者の楽器の偏りによって変化します）。履修希望者が20名を超える場合はポータルの「課題」によるレポートに選考を行います。ポータルのでの通知に気をつけてください。
なお、ボーカルパートも受け入れていますが、楽器主体の実習になるため、とくにボーカルの指導はありません。自主的に参加方法を工夫（できる楽器を持ってきて演奏する、フレーズをスキャットで歌ってみる、歌いたい曲を持ってくる etc）しないと、結局モチベーションが維持できなくなる例が多いです。

授業計画	
	［半期］
1	自己紹介 担当パートおよびセッティングの確認と打ち合わせ 「ジャズ」とは？　（略史、スタイルなどの講義）
2	コードネームのしくみ／コードバッキングの作り方
3	コードネームのしくみ／バッキングのつくりかた（基本）
4	バッキングの作り方（発展）　コードトーンを用いたアドリブ
5	コードトーン，スケール，ペンタトニックスケールを用いたアドリブを組み込んだセッションを完成させる
6	「ブルース」とは／ブルースのバッキング／コードトーンでブルースをアドリブしてみる。
7	ブルースフレーズを用いたアドリブ／ブルースフレーズとコードトーンをミックスしたアドリブ
8	「２・５・１」とは～コードやスケールを学ぶ
9	「２・５・１フレーズ」を学ぶ／コードトーンおよびスケールによるアドリブと組み合わせてソロをつくる
10	ブルース曲、２・５・１練習曲のアンサンブル部分の練習
11	上記曲にアドリブソロを組み込み、セッションを構成する
12	ビバップ・コード進行のブルース
13	セッションの進め方を学ぶ
14	自分たちでセッションを運営する
15	仕上げ

科目名	ジャズ実習　（後）［木3］Qクラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE6654Q0	科目コード	GE6654	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（JZ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

講義ではジャズの略史やスタイル、演奏システムなどに触れ、「音楽人」としての常識レベルの知識を身につける。
実演ではコードのしくみを学び、コードトーン→スケール→ブルースフレーズ→2・5・1フレーズによるアドリブに挑戦する。
リズムセクションはそれぞれの楽器の基本的なバッキング方法を学ぶ。
最終的にはブルースや2・5・1チェンジを基本とした曲で自由にアドリブができ、自主的にセッションを運営できるようにする。

２．授業概要

授業計画に沿って、アドリブやバッキングのメソッド，セッションの運営，ジャズアンサンブルのコツを学ぶ。なお、条件が整えば「ジャズコースライブ」に出演するので、後半はそれに向けての練習を中心に実習を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

譜読みやフレーズの暗記等の予習

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
実習の習熟度（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

少なくともジャズに強い関心と情熱を持っていることが条件となります。経験は問いません。
　１・２年生は、後期クラス
　３・４年生は、前期クラス
定員20名前後（履修希望者の楽器の偏りによって変化します）。履修希望者が20名を超える場合はポータルの「課題」によるレポートに選考を行います。ポータルのでの通知に気をつけてください。
なお、ボーカルパートも受け入れていますが、楽器主体の実習になるため、とくにボーカルの指導はありません。自主的に参加方法を工夫（できる楽器を持ってきて演奏する、フレーズをスキャットで歌ってみる、歌いたい曲を持ってくる etc）しないと、結局モチベーションが維持できなくなる例が多いです。

授業計画	
	［半期］
1	自己紹介 担当パートおよびセッティングの確認と打ち合わせ 「ジャズ」とは？　（略史、スタイルなどの講義）
2	コードネームのしくみ／コードバッキングの作り方
3	コードネームのしくみ／バッキングのつくりかた（基本）
4	バッキングの作り方（発展）　コードトーンを用いたアドリブ
5	コードトーン，スケール，ペンタトニックスケールを用いたアドリブを組み込んだセッションを完成させる
6	「ブルース」とは／ブルースのバッキング／コードトーンでブルースをアドリブしてみる。
7	ブルースフレーズを用いたアドリブ／ブルースフレーズとコードトーンをミックスしたアドリブ
8	「２・５・１」とは～コードやスケールを学ぶ
9	「２・５・１フレーズ」を学ぶ／コードトーンおよびスケールによるアドリブと組み合わせてソロをつくる
10	ブルース曲、２・５・１練習曲のアンサンブル部分の練習
11	上記曲にアドリブソロを組み込み、セッションを構成する
12	ビバップ・コード進行のブルース
13	セッションの進め方を学ぶ
14	自分たちでセッションを運営する
15	仕上げ

科目名	コンピュータ楽譜浄書演習／記譜法概論　[月5]						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GE665600	科目コード	GE6656	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

現在、様々な局面でコンピューターによるスコア制作が必要とされています。卒業後、もっとも需要のある仕事の一つと言っても良いでしょう。
また、手軽に伴奏譜を移調出来る様になる等プレイヤーにとっても身近に重宝されるスキルになりつつあります。この演習はFinale等のソフトを用い、コンピューターによる綺麗で見やすいスコアを制作出来るようになるのが目標です。

2．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

配布したプリントは授業後も熟読し、毎回の講義に持ってくること。
時間内に提出課題が終わらなかった場合、教室の開放時間などを利用して完成させること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
課題提出（評価の30%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

主として担当教員が作成するテキストをもとに授業を進めます。その他必要な文献等については、授業の中でその都度紹介します。
（参考文献）
『Finale User’s Bible 2011/2012/2014』
五木 悠他 著
『フィナーレ2011実用全ガイド ～楽譜作成の
ヒントとテクニック・初心者から上級者まで』
スタイルノート楽譜制作部 著

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第一週のガイダンスに出席しなかった場合は履修不可。
遅刻は授業開始時より20分後までとし、それ以降の入室は原則として出席と認めません。
履修希望者が多数の場合、上の学年から順に受講することが出来ます。
基本的に専攻は問いませんが、ある程度読譜の出来る者、作曲コース、音楽・音響デザインコースの学生を優先します。
パソコンとFinale（浄書ソフト）を所有している者が望ましいですが、その限りではありません。
作曲コース以外の学生は「コンピュータ楽譜浄書演習基礎演習」「和声学I」「音楽分析基礎講座」及び「管弦楽概論」を履修済の者が望ましいです。
パソコンの使用にあたり、個々によって理解度の差があっても問題はありません。教員が一人一人個別に指導します。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	音符、発想記号の入力方法
3	変形図形、アーティキュレーションの入力方法
4	様々な編集方法とショートカット
5	各種イレギュラーな記号の入力
6	小節やパートのカスタマイズ
7	ピアノスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
8	ピアノスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
9	音部記号の変化
10	移調について
11	プレイバックやプラグインなどの付加機能
12	歌詞の入力
13	ボーカルスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
14	ボーカルスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
15	コードネームの入力

授業計画	
	［後期］
1	タブ譜の入力
2	ドラムスコアの入力
3	バンドスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
4	バンドスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
5	バランスの良いレイアウト
6	パート譜の作成
7	オーケストラスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
8	オーケストラスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
9	浄書困難とされるスコアの入力方法
10	MIDIデータを活用したスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
11	MIDIデータを活用したスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
12	スキャン画像を活用したスコアの作成 1確認と基礎的な入力方法
13	スキャン画像を活用したスコアの作成 2完成と効率的な編集方法
14	楽譜浄書ソフトを使用した編曲 1確認と基礎的な入力方法
15	楽譜浄書ソフトを使用した編曲 2完成と効率的な編集方法

科目名	ポピュラー奏法特別研究１～４　（集）金4						
代表教員	三原　善隆	授業コード	GE6668A0	科目コード	GE6668d	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの特徴・機能・優位性などを理解し基本となる奏法を身に付けます。
電子オルガン特有のアレンジ手法やコードプログレッションを身に付け、ソロ・アンサンブルなど演奏表現力に結び付けます。

２．授業概要

授業計画に沿って進行する。
グループ講義を活かし、毎時出される課題を相互に聴き合い幅広い感性を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲を提示し毎時授業で習得したアレンジ要素やコード進行などを五線譜に書いて習得する。
書き上げた楽譜は音色感を持って演奏表現できるように練習し発表する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と課題実習の成果を総合して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布・授業で紹介

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

専攻楽器に造詣を抱き前向きに取り組む姿勢を持つ。
オリジナリティーのあるアレンジや演奏表現を目指す姿勢。
ソロ・アンサンブルを問わず専攻楽器を主体として取り組む姿勢。

授業計画	
	［集中］Aクラス
1	電子オルガンの概念（ヒストリー・３段鍵盤・音源構成・Feet等）
2	奏法（タッチ・ベース）　音色に伴う奏法（レガート奏法・ノンレガート奏法・ホリゾンタルタッチ等）
3	音色研究（音群・波形・バランス・定位等）　関連奏法
4	音色研究（音色Edit・エフェクトの概念等）　関連奏法
5	リズムプログラミング（リズムの理解・入力法・設定等）　関連奏法
6	楽器法まとめ（その他昨日研究等）
7	楽曲に対するオリジナル音色制作（レジストレーション・奏法）
8	Aクラス：作品発表・ディスカッション（評価）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［集中］Bクラス
1	エレクトーンアレンジの基礎（アレンジ手法・構成・ジャンル）
2	エレクトーンアレンジの基礎（イントロ・エンディング・間奏等）
3	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション１　（３段鍵盤に於けるコードの基礎知識と応用）
4	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション２ （ベースと左手のポジショニング等）
5	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション３ （コード進行法・テンション等）
6	エレクトーンアンサンブル4アレンジ・コードプログレッション４ （３段鍵盤を意識したボイシング）
7	エレクトーンアンサンブル4アレンジ・コードプログレッション５ （リハモナイズ）
8	Bクラス：作品発表・ディスカッション（評価）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ポピュラー奏法特別研究１～４　（集）金3						
代表教員	三原　善隆	授業コード	GE6668B0	科目コード	GE6668d	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの特徴・機能・優位性などを理解し基本となる奏法を身に付けます。
電子オルガン特有のアレンジ手法やコードプログレッションを身に付け、ソロ・アンサンブルなど演奏表現力に結び付けます。

２．授業概要

授業計画に沿って進行する。
グループ講義を活かし、毎時出される課題を相互に聴き合い幅広い感性を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲を提示し毎時授業で習得したアレンジ要素やコード進行などを五線譜に書いて習得する。
書き上げた楽譜は音色感を持って演奏表現できるように練習し発表する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と課題実習の成果を総合して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布・授業で紹介

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

専攻楽器に造詣を抱き前向きに取り組む姿勢を持つ。
オリジナリティーのあるアレンジや演奏表現を目指す姿勢。
ソロ・アンサンブルを問わず専攻楽器を主体として取り組む姿勢。

授業計画	
	［集中］Aクラス
1	電子オルガンの概念（ヒストリー・３段鍵盤・音源構成・Feet等）
2	奏法（タッチ・ベース）　音色に伴う奏法（レガート奏法・ノンレガート奏法・ホリゾンタルタッチ等）
3	音色研究（音群・波形・バランス・定位等）　関連奏法
4	音色研究（音色Edit・エフェクトの概念等）　関連奏法
5	リズムプログラミング（リズムの理解・入力法・設定等）　関連奏法
6	楽器法まとめ（その他昨日研究等）
7	楽曲に対するオリジナル音色制作（レジストレーション・奏法）
8	Aクラス：作品発表・ディスカッション（評価）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［集中］Bクラス
1	エレクトーンアレンジの基礎（アレンジ手法・構成・ジャンル）
2	エレクトーンアレンジの基礎（イントロ・エンディング・間奏等）
3	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション１　（３段鍵盤に於けるコードの基礎知識と応用）
4	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション２ （ベースと左手のポジショニング等）
5	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション３ （コード進行法・テンション等）
6	エレクトーンアンサンブル4アレンジ・コードプログレッション４ （３段鍵盤を意識したボイシング）
7	エレクトーンアンサンブル4アレンジ・コードプログレッション５ （リハモナイズ）
8	Bクラス：作品発表・ディスカッション（評価）
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ＤＴＭ基礎演習　（前）［月3］Aクラス						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GE6672A0	科目コード	GE6672	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（SC・RP除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音や音楽をコンピュータによってコントロールする。
【到達目標】コンピュータを使ってシンセサイザーの音作りやプログラミング（音の入力）が出来るようになる。

２．授業概要

コンピュータ（Mac）を利用してMIDIデータのレコーディング及び、編集を行います。
その過程で、アレンジ（編曲）の基礎と楽器の基本的な役割を学んでいきます。
自分の専攻する以外の楽器や分野を知る事で、音楽や楽曲を多角的な視点で捉えられるようになります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

私たちが普段の生活から耳にする様々な「音」に対してより注意深く耳を傾けて、
どのような音が発せられているか記録しておくこと。（例；音楽、自然音、人工的な音など）

４．成績評価の方法及び基準

期末課題提出（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に板書、または資料配布します。
参考文献：『DTM打ち込みフレーズ制作技法』篠田元一監修（リットーミュージック）
DTMソフト（Logic Pro X関連）のリファレンスブック等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・機材の台数上、「履修希望学生多数の場合」は履修登録時に抽選で人数調整を行います。
・コンピュータやソフトの使い方に関しては初歩から教えますが、課題の資料として譜面（スコア）を取り扱うので、本学入試の際の「楽典」に相当する読譜力は必要です。

授業計画	
	［半期］
1	演習内容の説明、DTMの概要について
2	教室のシステムセットアップ、PCとソフトウェアの操作概要
3	ソフトウェア音源によるプログラミング１（録音）
4	ソフトウェア音源によるプログラミング２（編集）
5	ソフトウェア音源によるプログラミング３（ミックスダウン）
6	課題曲を使ったケーススタディ１（入力と編集）
7	課題曲を使ったケーススタディ２（音色作り）
8	課題曲を使ったケーススタディ３（エフェクトの基礎）
9	課題曲を使ったケーススタディ４（ミックスダウンとファイルフォーマットの基礎）
10	応用的な編集の実践１（オートメーション等）
11	応用的な編集の実践２（様々なエフェクトの使用方法）
12	応用的な編集の実践３（より幅広い表現方法について）
13	期末課題制作１（課題で用いるパート、アレンジを決める）
14	期末課題制作２（録音、編集及びミックスダウン）
15	期末課題制作３（作品発表会）

科目名	ＤＴＭ基礎演習　（後）［金3］Bクラス						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GE6672B0	科目コード	GE6672	期間	半期
担当教員	和田　洋平						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（SC・RP除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音や音楽をコンピュータによってコントロールする。
【到達目標】コンピュータを使ってシンセサイザーの音作りやプログラミング（音の入力）が出来るようになる。

２．授業概要

コンピュータ（Mac）を利用してMIDIデータのレコーディング及び、編集を行います。
その過程で、アレンジ（編曲）の基礎と楽器の基本的な役割を学んでいきます。
自分の専攻する以外の楽器や分野を知る事で、音楽や楽曲を多角的な視点で捉えられるようになります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

私たちが普段の生活から耳にする様々な「音」に対してより注意深く耳を傾けて、
どのような音が発せられているか記録しておくこと。（例；音楽、自然音、人工的な音など）

４．成績評価の方法及び基準

期末課題提出（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に板書、または資料配布します。
参考文献：『DTM打ち込みフレーズ制作技法』篠田元一監修（リットーミュージック）
DTMソフト（Logic Pro X関連）のリファレンスブック等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・機材の台数上、「履修希望学生多数の場合」は履修登録時に抽選で人数調整を行います。
・コンピュータやソフトの使い方に関しては初歩から教えますが、課題の資料として譜面（スコア）を取り扱うので、本学入試の際の「楽典」に相当する読譜力は必要です。

授業計画	
	［半期］
1	演習内容の説明、DTMの概要について
2	教室のシステムセットアップ、PCとソフトウェアの操作概要
3	ソフトウェア音源によるプログラミング１（録音）
4	ソフトウェア音源によるプログラミング２（編集）
5	ソフトウェア音源によるプログラミング３（ミックスダウン）
6	課題曲を使ったケーススタディ１（入力と編集）
7	課題曲を使ったケーススタディ２（音色作り）
8	課題曲を使ったケーススタディ３（エフェクトの基礎）
9	課題曲を使ったケーススタディ４（ミックスダウンとファイルフォーマットの基礎）
10	応用的な編集の実践１（オートメーション等）
11	応用的な編集の実践２（様々なエフェクトの使用方法）
12	応用的な編集の実践３（より幅広い表現方法について）
13	期末課題制作１（課題で用いるパート、アレンジを決める）
14	期末課題制作２　（録音、編集及びミックスダウン）
15	期末課題制作３（作品発表会）

科目名	ＤＴＭプログラミング演習　[水5]						
代表教員	三上　直子	授業コード	GE667300	科目コード	GE6673	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

シンセサイザーの音作りを通して「音」について考え、DTMにおける音楽の表現力を高める。

２．授業概要

シンセサイザーの音作りと、LOGICproXを使った打ち込み技術と音楽表現力の向上。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

身近にある音について常に興味を持つように心がける。
自分の音楽表現について考え、どのような表現をしたいか考える。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の20% ）
作品評価80%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修者が多い場合は抽選とする。
初回の授業欠席者は原則として履修できない。
出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 音について考え、シンセサイザーの音作りを通して様々な音への可能性を探る。
1	音について考える
2	シンセサイザーの基礎
3	OSCについて
4	FILTERについて
5	EGとAMPについて
6	EGの他の機能への割当（OSC）
7	EGの他の機能への割当（FILTER１）　基本
8	EGの他の機能への割当（FILTER２）　応用
9	EGを使った音色合成課題の実習１　基本
10	EGを使った音色合成課題の実習２　応用
11	LFOについて
12	LFOを使った音色合成課題の実習１　基本
13	LFOを使った音色合成課題の実習２　応用
14	自由課題の作成
15	前期作品提出と試聴

授業計画	
	［後期］ MIDIの基礎から、応用的な打ち込み技術を学ぶことで、技術の習得および学生それぞれの音楽表現に役立てられるようにする。
1	MIDIの流れや周辺機器について
2	リアルタイムレコーディング
3	ベロシティーやクオンタイズ等の基本的な機能について
4	コントローラーの活用１　基本
5	コントローラーの活用２　応用
6	ミキサーの活用
7	エフェクトの活用
8	課題の実習１
9	課題の実習と提出
10	自分の音楽表現として、どのようにDTMを活用するか考える。
11	作品制作１（個別にデータのチェックとアドバイスを行う）基本
12	作品制作２（個別にデータのチェックとアドバイスを行う）応用
13	作品制作３（個別にデータのチェックとアドバイスを行う）発展
14	作品制作４（個別にデータのチェックとアドバイスを行う）仕上げ
15	後期作品提出

科目名	邦楽ワークショップ２～４　[水5]						
代表教員	山口　賢治	授業コード	GE668500	科目コード	GE6685d	期間	通年
担当教員	吉原　佐知子、味府　美香、市川　香里						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	GH・GM・WM：専門選択（各ｺｰｽ）全：専門選択（全ｺｰｽ共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

邦楽器もしくは日本の伝統音楽の方法論や要素を活用した音楽づくりワークショップを行う。様々な演習を通じて、知識と実践の両面から日本の伝統音楽やワークショップの手法を学ぶ。さらにワークショップとは何か、またその学校教育や社会教育における意味を知り、ワークショップ・リーダーとして必要な技術を身につける。

２．授業概要

箏、三味線、尺八などの邦楽器の初歩的な演奏技術を身に付け、主に邦楽器を使い、邦楽の音楽的な特徴をもとにした音楽づくりを行う。２年目以降の受講学生には自らワークショップリーダーとして計画立案からワークショップ実施までの機会を積極的に設ける。担当教員は複数教員により分担して行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

〈予習〉授業に関連のある邦楽作品を聴き、基本的な情報を得ると共に、作品に対する自分なりの見解をまとめる。
〈復習〉授業の振り返り、自分の専攻分野にフィードバックする。また、機会があればこの授業を得た経験を活かして学外でのワークショップ活動に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、課題、授業内での発表などで総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

邦楽ワークショップブログ
{http://blog.senzoku.ac.jp/hougaku/}
過去に行った授業や活動の記録を視聴、閲覧することが可能。

参考文献
音楽之友社　刊　　坪能克裕・坪能由紀子　他　著
「音楽づくりの授業アイディア集 音楽をつくる・音楽を聴く 学習指導要領対応」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受動的な授業への参加ではなく、常に積極的に自分の音楽的な力を活かして講師と共に授業をつくっていく姿勢を求めます。邦楽器の演奏経験は不要。音楽づくりワークショップや日本の伝統音楽に興味関心があれば誰でも受講を歓迎します。特に教職免許取得検討者は受講することを勧めます。

授業計画	
	［前期］ 履修者の人数等により，授業内容変更の可能性あり。
1	授業概要説明。ワークショップ活動の意味と意義
2	身近なものを使って音楽づくり　導入
3	身近なものを使って音楽づくり　まとめ
4	打楽器による音楽づくり　導入
5	打楽器による音楽づくり　応用
6	打楽器による音楽づくり　まとめ
7	箏による音楽づくり　導入
8	箏による音楽づくり　応用
9	箏による音楽づくり　まとめ
10	三味線による音楽づくり　導入
11	三味線による音楽づくり　まとめ
12	尺八による音楽づくり　導入
13	尺八による音楽づくり　まとめ
14	箏、三味線、尺八　その他の邦楽器による音楽づくり
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 履修者の人数等により，授業内容変更の可能性あり。
1	後期の授業についての概要説明
2	音楽づくりワークショップの歴史
3	ワークショップ計画の立て方、計画書の書き方について
4	ゲスト演奏家を招いての音楽づくりワークショップ
5	ゲスト作曲家を招いての音楽づくりワークショップ
6	ゲスト音楽教育研究家を招いての音楽づくりワークショップ
7	邦楽器と洋楽器のコラボレーションワークショップ 導入
8	邦楽器と洋楽器のコラボレーションワークショップ 応用
9	邦楽器と洋楽器のコラボレーションワークショップ　まとめ
10	学生によるワークショップ実習1　声を使って
11	学生によるワークショップ実習2　音具を使って
12	学生によるワークショップ実習3　声と音具を組み合わせて
13	学生によるワークショップ実習4　図形楽譜
14	学生によるワークショップ実習5　音楽と身体性をテーマに
15	後期のまとめ

科目名	コンピュータ楽譜浄書基礎演習／記譜法基礎　（前）［金4］Pクラス						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GE6688P0	科目コード	GE6688	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

浄書ソフトでの楽譜作成が一般的なものとなった現在、そのスキルは作編曲家にとってはもちろんのこと演奏家からのニーズも高まって来ている。この授業では楽譜浄書ソフトFinale（MacOS版）について初歩から学び、小編成アンサンブルのスコア・パート譜を出力できるまでのスキルの習得が目標である。

２．授業概要

Finaleの使い方について初歩からスタートする。五線の設定から始まり、単旋律の入力、和音の入力、複数パートの入力という具合に段階的に必要な知識を増やし、それに付随して必要となる記号やアーティキュレーション等の扱いも学ぶ。教員が説明をした後、実際にその作業を各自で行う演習の形態で授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中に習った操作方法のポイントやキーコマンド等を各自でメモを取り、次回の授業までに覚えて来ること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（80%）、課題提出（20%）

平常点は授業への参加状況と練習題材に取り組む姿勢により総合的に判断する。
課題提出については提出された楽譜に対し、授業で取り上げた内容が実践できているかどうかで判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で取り上げる内容については必要に応じてプリント等を配布する。自習用に書籍を購入したい場合は、OSやバージョンによって書籍が異なるので自身で選定ができない場合は教員に相談すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Finaleに関する知識は一切問わないが、本講座はPCの操作を一から学ぶ為の授業ではない為、MacOSの基本的な操作はすでに問題ない、もしくは簡単な説明のみで理解できる自信のある学生が望ましい。また、読譜のスキルは必須となる。PCの台数に限りがある為、履修希望人数が多い場合、履修制限を行う場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／Finaleの概要について
2	基本操作／五線の設定
3	音符と休符の入力方法
4	臨時記号／付点／連符／タイの入力方法
5	和音の入力方法とレイヤーの分け方
6	課題実施①　ここまでの内容を含んだ課題
7	アーティキュレーションと反復記号の入力方法
8	コードネームと歌詞の入力方法
9	アンサンブル楽譜の作成／移調楽器の扱いについて
10	レイアウトの調整方法／パート譜の作成方法
11	便利な機能／移調や楽曲構成の変更など
12	特殊な音符の入力方法
13	学年末課題実施 小編成サンサンブルのスコア作成
14	学年末課題実施 小編成サンサンブルのパート譜作成
15	学年末課題の仕上げと総括

科目名	コンピュータ楽譜浄書基礎演習／記譜法基礎　（後）［金4］Qクラス						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GE6688Q0	科目コード	GE6688	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

浄書ソフトでの楽譜作成が一般的なものとなった現在、そのスキルは作編曲家にとってはもちろんのこと演奏家からのニーズも高まって来ている。この授業では楽譜浄書ソフトFinale（MacOS版）の操作を初歩から学び、小編成アンサンブルのスコア・パート譜を出力できるまでのスキルの習得が目標である。

２．授業概要

Finaleの使い方について初歩からスタートする。五線の設定から始まり、単旋律の入力、和音の入力、複数パートの入力という具合に段階的に必要な知識を増やし、それに付随して必要となる記号やアーティキュレーション等の扱いも学ぶ。教員が説明をした後、実際にその作業を各自で行う演習の形態で授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中に習った操作方法のポイントやキーコマンド等を各自でメモを取り、次回の授業までに覚えて来ること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（80%）、課題提出（20%）

平常点は授業への参加状況と練習題材に取り組む姿勢により総合的に判断する。
課題提出については提出された楽譜に対し、授業で取り上げた内容が実践できているかどうかで判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で取り上げる内容については必要に応じてプリント等を配布する。自習用に書籍を購入したい場合は、OSやバージョンによって書籍が異なるので自身で選定ができない場合は教員に相談すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Finaleに関する知識は一切問わないが、本講座はPCの操作を一から学ぶ為の授業ではない為、MacOSの基本的な操作はすでに問題ない、もしくは簡単な説明のみで理解できる自信のある学生が望ましい。また、読譜のスキルは必須となる。PCの台数に限りがある為、履修希望人数が多い場合、履修制限を行う場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／Finaleの概要について
2	基本操作／五線の設定
3	音符と休符の入力方法
4	臨時記号／付点／連符／タイの入力方法
5	和音の入力方法とレイヤーの分け方
6	課題実施①　ここまでの内容を含んだ課題
7	アーティキュレーションと反復記号の入力方法
8	コードネームと歌詞の入力方法
9	アンサンブル楽譜の作成／移調楽器の扱いについて
10	レイアウトの調整方法／パート譜の作成方法
11	便利な機能／移調や楽曲構成の変更など
12	特殊な音符の入力方法
13	学年末課題実施 小編成サンサンブルのスコア作成
14	学年末課題実施 小編成サンサンブルのパート譜作成
15	学年末課題の仕上げと総括

科目名	楽式論I （前） ［木3］Aクラス						
代表教員	市川　景之	授業コード	GE6750A0	科目コード	GE6750	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。
到達目標
・ソナチネや子供のための作品等の小品の分析ができる。

２．授業概要

・楽曲分析に必要な基礎知識を学ぶ。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％（期末試験＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例のプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修希望者が定員を超えた場合は、第１回目の授業でのアンケートにより選考する。
条件はとくにないが理論的な勉強が好きであることが望ましい。

授業計画	
	［半期］Ⅰ 基礎編 　楽曲分析に必要な基礎知識を身につける。 記載した楽曲は履修者の専攻を考慮して変更する場合もある。
1	授業概要 楽曲分析から得られること。演奏や作曲への役立て方
2	楽節、動機、旋律と和声
3	二部形式
4	三部形式
5	基礎形式まとめ
6	変奏曲（１）　様々な変奏方法 ベートーヴェン　変奏曲Wo0.28など
7	変奏曲（２）　楽曲全体の構成 ベートーヴェン　６つの変奏曲Op.76, モーツァルト　ピアノソナタ　K.３３１第１楽章など
8	複合三部形式
9	ロンド形式（１）　概説
10	ロンド形式（2）　種々のロンド形式 モーツァルト、ベートーヴェンなどのロンド形式の楽曲
11	変奏曲、複合三部形式、ロンド形式まとめ
12	ソナタ形式（１）　概説
13	ソナタ形式（２）　提示部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　Op.2-1　第１楽章
14	ソナタ形式（３）　展開部、再現部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　Op.2-1　第１楽章 Op.2-2　第1楽章など
15	前期のまとめ、テスト

科目名	楽式論I （前） ［木3］Bクラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE6750B0	科目コード	GE6750	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。
到達目標
・ソナチネや子供のための作品等の小品の分析ができる。

２．授業概要

・楽曲分析に必要な基礎知識を学ぶ。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％（期末試験＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例のプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修希望者が定員を超えた場合は、第１回目の授業でのアンケートにより選考する。
条件はとくにないが理論的な勉強が好きであることが望ましい。

授業計画	
	［半期］Ⅰ 基礎編 　楽曲分析に必要な基礎知識を身につける。 記載した楽曲は履修者の専攻を考慮して変更する場合もある。
1	授業概要 楽曲分析から得られること。演奏や作曲への役立て方
2	楽節、動機、旋律と和声
3	二部形式
4	三部形式
5	基礎形式まとめ
6	変奏曲（１）　様々な変奏方法 ベートーヴェン　変奏曲Wo0.28など
7	変奏曲（２）　楽曲全体の構成 ベートーヴェン　６つの変奏曲Op.76, モーツァルト　ピアノソナタ　K.３３１第１楽章など
8	複合三部形式
9	ロンド形式（１）　概説
10	ロンド形式（2）　種々のロンド形式 モーツァルト、ベートーヴェンなどのロンド形式の楽曲
11	変奏曲、複合三部形式、ロンド形式まとめ
12	ソナタ形式（１）　概説
13	ソナタ形式（２）　提示部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　Op.2-1　第１楽章
14	ソナタ形式（３）　展開部、再現部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　Op.2-1　第１楽章 Op.2-2　第1楽章など
15	前期のまとめ、テスト

科目名	楽式論II （後） ［木3］Aクラス						
代表教員	市川　景之	授業コード	GE6751A0	科目コード	GE6751	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「楽式論I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。

到達目標
・作曲家による音の響きの違いを認識できるようになる。
・バロック、古典、ロマン、近・現代それぞれの音楽の特徴を理解し、自分の演奏解釈、作曲に取り入れられるようになる。

２．授業概要

・バロックおよびロマン派の作品を中心に分析する。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

授業計画にあげた作品は授業の進み具合、履修者の専攻などにより変更することがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％　（期末テスト＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例はプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］II 応用編 記載した楽曲は履修者の専攻などを考慮して変更する場合がある。
1	対位法的楽曲について
2	フーガ（１） 主唱の扱い方、答唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第1巻 第1番、第14番など
3	フーガ（2）　対唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第１巻　第2番など
4	フーガ（3）　楽曲全体の構成について J.S.Bach 平均律クラヴィーア曲集より 第2巻 第2番など
5	対位法的楽曲のまとめ
6	歌曲（１） 有節歌曲、通作歌曲
7	歌曲（２） 歌詞と和声の関わりについて
8	歌曲（３） 作曲家の表現方法—同じ詩による歌曲を比較して Beethoven,Schubert,Schumann　《Mignon》、 Faure, Debussy　《Clair de lune》　など
9	ロマン派のソナタ形式（１）提示部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
10	ロマン派のソナタ形式(2) 展開部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
11	ロマン派のソナタ形式(３)　再現部、コーダ Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
12	循環形式（１） 古典派、ロマン派の作品を中心として
13	循環形式（２） 近代の作品を中心として
14	楽曲分析と演奏についての考察
15	後期のまとめ

科目名	楽式論II （後） ［木3］Bクラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GE6751B0	科目コード	GE6751	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「楽式論I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。

到達目標
・作曲家による音の響きの違いを認識できるようになる。
・バロック、古典、ロマン、近・現代それぞれの音楽の特徴を理解し、自分の演奏解釈、作曲に取り入れられるようになる。

２．授業概要

・バロックおよびロマン派の作品を中心に分析する。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

授業計画にあげた作品は授業の進み具合、履修者の専攻などにより変更することがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％　（期末テスト＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例はプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］II 応用編 記載した楽曲は履修者の専攻などを考慮して変更する場合がある。
1	対位法的楽曲について
2	フーガ（１） 主唱の扱い方、答唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第1巻 第1番、第14番など
3	フーガ（2）　対唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第１巻　第2番など
4	フーガ（3）　楽曲全体の構成について J.S.Bach 平均律クラヴィーア曲集より 第2巻 第2番など
5	対位法的楽曲のまとめ
6	歌曲（１） 有節歌曲、通作歌曲
7	歌曲（２） 歌詞と和声の関わりについて
8	歌曲（３） 作曲家の表現方法—同じ詩による歌曲を比較して Beethoven,Schubert,Schumann　《Mignon》、 Faure, Debussy　《Clair de lune》　など
9	ロマン派のソナタ形式（１）提示部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
10	ロマン派のソナタ形式(2) 展開部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
11	ロマン派のソナタ形式(３)　再現部、コーダ Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
12	循環形式（１） 古典派、ロマン派の作品を中心として
13	循環形式（２） 近代の作品を中心として
14	楽曲分析と演奏についての考察
15	後期のまとめ

科目名	古典邦楽作品研究１　［木4］						
代表教員	森重　行敏	授業コード	GE675200	科目コード	GE6752	期間	
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	GH、ほか全コース	科目分類					
前提科目	なし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古典邦楽曲の分析、鑑賞を通じて、日本音楽の楽曲構成、歌詞の意味、演奏上の特徴などを理解する。

２．授業概要

古典邦楽曲の鑑賞と楽譜を通じた分析を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

特に指定された場合はあらかじめ曲についての予備調査をする。復習としては演奏や鑑賞を積極的に実施して理解を深める。

４．成績評価の方法及び基準

各期末には指定されたテーマによる課題を提出すること。授業への参加姿勢も重視する。課題の内容評価と授業への参加姿勢を半々の割合を基準として成績評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

あらかじめ購入するものはない。授業で必要なものは紹介する。参考資料はプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特別な履修条件はないが、邦楽に対する興味を持つことを最低条件とする。クラス分けは行わない。定員超過の場合は、現代邦楽コースを優先とする。また、上級生を優先とする。

授業計画	
	前期は古典作品の理解に必要なおおまかな歴史的背景と、各分野の代表的な作品を取り上げる。
1	オリエンテーション、基礎知識
2	古典邦楽の歴史1（雅楽）
3	古典邦楽の歴史2　（能楽）
4	古典邦楽の歴史3　（劇音楽）
5	古典邦楽の歴史4　（室内楽）
6	古典邦楽の歴史5　（近代以降）
7	古典邦楽の歴史6（その他）
8	前期中間まとめ
9	作品分析1(箏曲段物1・八橋作品ほか)
10	作品分析2(箏曲段物2・その他)
11	作品分析3(箏曲組歌)
12	作品分析4(三味線組歌)
13	作品分析5(舞踊曲1)　前半
14	作品分析6(舞踊曲2)　後半
15	前期まとめ

授業計画	
	後期は近世邦楽から現代邦楽に至る過程の重要な作品を研究する。
1	浄瑠璃1(義太夫節)
2	浄瑠璃2(常磐津、清元)
3	浄瑠璃3(新内、ほか)
4	その他の語り物
5	三曲合奏1(編成と典型例)
6	三曲合奏2(手事物)
7	三曲合奏3(特殊なもの)
8	後期中間まとめ
9	近代の邦楽1(明治新曲)
10	近代の邦楽2(大正)
11	近代の邦楽3(昭和前期)
12	現代の邦楽1(理念と概要)
13	現代の邦楽2(編成と特性)
14	現代の邦楽3(その他)
15	後期まとめ

科目名	古典邦楽作品研究２　［木4］						
代表教員	森重　行敏	授業コード	GE675300	科目コード	GE6753	期間	
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	GH、ほか全コース	科目分類					
前提科目	なし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古典邦楽曲の分析、鑑賞を通じて、日本音楽の楽曲構成、歌詞の意味、演奏上の特徴などを理解する。

２．授業概要

古典邦楽曲の鑑賞と楽譜を通じた分析を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

特に指定された場合はあらかじめ曲についての予備調査をする。復習としては演奏や鑑賞を積極的に実施して理解を深める。

４．成績評価の方法及び基準

各期末には指定されたテーマによる課題を提出すること。授業への参加姿勢も重視する。課題の内容評価と授業への参加姿勢を半々の割合を基準として成績評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

あらかじめ購入するものはない。授業で必要なものは紹介する。参考資料はプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特別な履修条件はないが、邦楽に対する興味を持つことを最低条件とする。クラス分けは行わない。定員超過の場合は、現代邦楽コースを優先とする。また、上級生を優先とする。

授業計画	
	前期は古典作品の理解に必要なおおまかな歴史的背景と、各分野の代表的な作品を取り上げる。
1	オリエンテーション、基礎知識
2	古典邦楽の歴史1（雅楽）
3	古典邦楽の歴史2　（能楽）
4	古典邦楽の歴史3　（劇音楽）
5	古典邦楽の歴史4　（室内楽）
6	古典邦楽の歴史5　（近代以降）
7	古典邦楽の歴史6（その他）
8	前期中間まとめ
9	作品分析1(箏曲段物1・八橋作品)
10	作品分析2(箏曲段物2・その他)
11	作品分析3(箏曲組歌)
12	作品分析4(三味線組歌)
13	作品分析5(舞踊曲1)　前半
14	作品分析6(舞踊曲2)　後半
15	前期まとめ

授業計画	
	後期は近世邦楽から現代邦楽に至る過程の重要な作品を研究する。
1	浄瑠璃1(義太夫節)
2	浄瑠璃2(常磐津、清元)
3	浄瑠璃3(新内、その他)
4	その他の語り物
5	三曲合奏1(形態と典型)
6	三曲合奏2(手事物)
7	三曲合奏3(特殊例)
8	後期中間まとめ
9	近代の邦楽1(明治新曲)
10	近代の邦楽2(大正)
11	近代の邦楽3(昭和前期)
12	現代の邦楽1(理念と特性)
13	現代の邦楽2(作例)
14	現代の邦楽3(その他)
15	後期まとめ

科目名	邦楽実習（謡曲） １～４　［金3］						
代表教員	鵜澤　光	授業コード	GE675400	科目コード	GE6754d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	全	科目分類	ME:必修/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

700年前室町時代に大成した総合芸術である『能』　。古典演劇とも言われる体現芸術である能における謡曲（声楽的側面）の基礎的歌唱法の技術と表現、あわせて仕舞（舞踊的側面）を学び、実際に一曲を通して稽古し、演じ、発表することにより日本固有の芸術である『能』に関する理解を深める。最終的には学生だけで能を演じる（囃子はプロに助演して頂きます）

２．授業概要

「能」という日本の伝統演劇の講義だけでなく体を通しての授業を展開する。実際に『能』を演じ、発表するため、実技が中心。腹筋を使って声を出す。体を使って型を知り、その上で能の演技、「間」とは何かなど、リズム理論など様々な角度から理解して行く内容。日本人としての感性を引き出して行く。
本年は室町時代の能役者観世小次郎信光作の能『紅葉狩』の前半部分を取り上げ、実際に演じる所まで仕上げていく。
ここまで本格的に能の実技を授業で学べるのは洗足学園音楽大学のみである。

実務経験のある教員による授業科目
{教員プロフィール,https://www.senzoku.ac.jp/music/teacher/hikari-uzawa}

３．授業時間外の学習（予習復習について）

伝統芸能というものは繰り返すことによって身についていくものなので復習は絶対不可欠なものです。暗記の指示が出た場合、期日までに覚えること。
又一年の間に一回以上は能の公演を見に行き感想をレポート提出すること（公演のインフォメーションは授業にてします）

４．成績評価の方法及び基準

学期末および学年末実技試験、レポート（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

観世流謡本その他〈初回の授業の際に指示する。〉

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻・私語は禁ずる。また髪型・服装も能を学ぶにふさわしいように心がける。
授業には白足袋を持参する〈初回の授業の際に説明〉。裸足での参加は許されない。また謡の際は正座する場合もあるので、なるべく坐りやすく、かつ動きやすい服装をすること。
授業に積極的に関わり、欠席しないこと。

授業計画	
1	７００年前から続く古典演劇、能とは何か？歴史的側面、演劇的側面から学ぶ
2	例として数曲を取り上げ、総合芸術「能」への理解を深める。 能「紅葉狩」の映像を見る。構成を理解する。
3	《実技実習》 基本の発声（コトバ、節、強吟、弱吟など）の習得に向けた稽古。 基本の型習得に向けての実習（カマエ、ハコビ中心）。
4	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（シテ、ツレの登場部分を途中まで謡えるようにする）。 基本の型習得に向けての実習（幾つかの型の単元を学ぶ）
5	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（シテ、ツレの登場部分を途中まで謡えるようにする）。 基本の型の習得に向けての実習（連続性のある型を学ぶ）。
6	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（シテ、ツレの登場部分を最後まで謡えるようにする）。 基本の型習得に向けての実習（「紅葉狩」のクセの部分を仕舞の形式で全員で少しづづ学ぶ）
7	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（ワキ、ワキツレの登場部分を途中まで謡えるようにする）。 基本の型習得に向けての実習（「紅葉狩」クセの前半途中までを舞えるようにする）。
8	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（ワキ、ワキツレの登場部分を最後まで謡えるようにする）。 基本の型習得に向けての実習（「紅葉狩」クセの前半を途中までを舞えるようにする）。　確認
9	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（ワキ、ワキツレの問答、地謡パートそ①の部分までを謡えるようにする）。 基本の型習得に向けての実習（「紅葉狩」クセの前半を最後まで舞えるようにする）。
10	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（シテとワキの問答の部分から地謡パート②を謡えるようにする）。 基本の型習得に向けての実習（「紅葉狩」クセの後半を途中まで舞えるようにする）。
11	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（ここまでの復習と習熟度チェック）。 基本の型習得に向けての実習（「紅葉狩」クセの後半を途中までを舞えるようにする）。　確認
12	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（クセの前半部分の地謡を謡えるようにする）。 基本の型習得に向けての実習（「紅葉狩」クセの後半の最後までを舞えるようにする）。
13	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（クセの中盤部分の地謡を謡えるようにする）。 能「紅葉狩」の配役決めに向けて、登場人物ごとの型の実習に入る（シテ、ツレ、ワキ、ワキツレ、アイ）
14	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（クセを最後まで謡えるようにする）。 能「紅葉狩」配役決めに向けて、登場人物ごとの謡、型の実習を進める（先生の手本を見つつ役ごとの謡、型を覚えて行く）。
15	《実技実習》 能「紅葉狩」の謡の実習（クセの後の地謡を謡えるようにする）。 能「紅葉狩」配役決めに向けて、登場人物ごとの謡、型の実習を進める（役ごとの謡、型を覚える）。 学期末の習熟度チェック。

授業計画	
1	《実技実習》 能「紅葉狩」の劇中で舞われる”中の舞”の笛の唱歌の実習。 能「紅葉狩」配役決めに向けて、登場人物ごとの謡、型の実習を進める（前学期で学んだところまでの復習）。
2	《実技実習》 配役を決定する。 地頭（地謡のリーダー）及び地謡を決定する。 後見を決定する。 これまで学んできた部分の暗記度チェック。
3	《実技実習》 中の舞から急の舞にかけての唱歌を学ぶ。 各役ごとに一曲を小段毎に学び、謡の暗記、型の暗記を進める。 囃子が入ることを前提として、地拍子謡を学ぶ（基礎理論を学びつつまず暗記に努める）。
4	《実技実習》 舞アト中入まで（今回は中入にて終演予定）の地謡部分を謡えるようにする。それとともに暗記も進める。 各役ごとに一曲を小段毎に学び、謡の暗記、型の暗記を進める（まずは自分の部分を確実に理解する） 囃子が入ることを前提として、地拍子謡を学ぶ（拍子に合っている部分のリズムを確実に理解し、暗記する）。
5	《実技実習》 各役ごとに一曲を小段毎に学び、謡の暗記、型の暗記を進める（囃子や地謡を聞き、合わせて自分の謡、型を実践できるようにする） 囃子が入ることを前提として、地拍子謡を学ぶ（謡本を見ずに間違えずに、外さずに謡えるようにする）。
6	《実技実習》 暗記度チェック（暗記しているか、囃子に合わせて謡えるか、外さないかを一人一人テストする）。
7	《実技実習》 本番に向けて一曲を通す稽古（舞台全体の流れを立体的に身体で理解する。役と役との関わり、やりとり、同時進行で何が起きているか、楽屋での流れ、などなどをまずもって理解する）。 作り物（舞台で使う大道具）の作り方を学ぶ。 紋付、帯の結び方、着物のたたみ方の実習。
8	《実技実習》 本番に向けて一曲を通す稽古（舞台進行でのミスをなくす。細かいミスを減らす。歌うのではなく、謡う、語ることを意識する。）。 作り物（舞台で使う大道具）の作り方を引き続き学ぶ。 紋付、帯の結び方、袴の着付け方、着物のたたみ方の実習。
9	《実技実習》 本番に向けて一曲を通す稽古（それぞれの役割を全うするだけでなく、相手を受けて自分を変化、深化させることを目指す。同調させるべき所作がきちんと揃うように稽古する）。 作り物（舞台で使う大道具）を確実に、迅速に、丁寧に作ることが出来るようにする。 お互いに紋付、袴を着付け合うことが出来るようにする。
10	《実技実習》 本番に向けて一曲を通す稽古（もう一度戯曲を丁寧に読み込み、理解を深め、自分の身体を通して物語ることが出来るようにする。強い声、強い存在感を獲得する）。 作り物（舞台で使う大道具）を確実に、迅速に、丁寧に作ることが出来るようにする。 お互いに紋付、袴を着付け合うことが出来るようにする。
11	《実技実習》 本番に向けての最終段階 （楽屋の流れ、舞台前から舞台後まで全てを細部まで確認する。疑問点があればここで全て解消する）。
12	《実技実習》 本番に向けての最終段階 （謡、型の凡庸なミスを一切なくす。決まりごとを完璧に遂行する。トラブルにも柔軟に対応できるようにする。 演じる部分だけでなく、装束、作り物、紋付袴の着付けなど、能に関わる全てのことを出来るだけ学ぶ。決まりごとを覚える。）
13	下申合。 最終の合わせに向けて本番に近い形で通す。 楽屋での礼儀作法、準備。舞台での作法の最終確認。 うまくいかなかった箇所を直す。
14	本申合。 本番前最後の稽古。 楽屋での礼儀作法、立ち居振る舞い、作り物を作ること、着付け、すべてを本番さながらに通す。
15	一年間をふり返る。 実技を通して、声と体を使って稽古してきたこと、全員で演じた上で能をどのように捉えてきたか、そしてプロの舞台を鑑賞してのレポートを期日までに提出。

科目名	シンガーソングライター講座１～４　[水5]						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GE676200	科目コード	GE6762d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業は、とにかく歌ものを作ることからプロデビューに適した作品の制作まで様々なシンガーソングライティングスキルの向上を目指します。
また制作だけではなくイベント運営、ディレクションなど作品を効果的に第三者へ伝える方法も勉強します。
演奏会実習からの移行科目につきその活動は多岐にわたり、授業時間外での学習に多くの時間を費やすことになります。
実習では全てのセクション（歌い手・作家・プレイヤー・スタッフ）が協同し、その経験を生かしてコンサートやメディアで自作曲を発表したり、更には音楽業界にアプローチすることが目標です。

２．授業概要

・既成曲の楽曲分析・歌ものの作曲法・楽曲の様々な発展（アレンジと演奏）・デモ音源制作の為のレクチャー
・各ユニットに分かれての楽曲制作実習・グループワーク・発表コンサートの企画と運営・履修生発案によるレクチャー、プロジェクト

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽曲課題の制作、リハーサルなどは主に授業時間外で行ってもらいます。
イベントスタッフのミーティングなど授業内で補いきれないものは補習を設けて行います。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
課題提出（評価の30%）
試験は行いません。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

主として担当教員が作成するテキストをもとに授業を進めます。その他必要な文献等については、授業の中でその都度紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第一週のガイダンスに出席しなかった場合は履修不可。
出席登録されているにも関わらず「授業に参加していない」ことが発覚した場合には即不可判定。
履修希望生が多数の場合には人数制限を行います。
遅刻は授業開始時より10分後までとし、それ以降の入室は原則として出席と認めません。単年度評価ですが、引き続き次年度も履修することで4年間学ぶことが出来ます。課題提出はリードシートとデモ音源の形になります。したがって最低限ボイスレコーダー等の簡単な録音機器が必要となります。
プロ活動へのアウトプットとして作用するような内容になりますが、個々によって上達度の差があっても問題はありません。教員が一人一人個別に指導します。この授業ではコンスタントに音楽活動に参加することが求められています。また、積極的に意見交換を行い自発的に行動できる学生を望みます。個人的な仕事だけではなく企画、運営、雑務も活動に含みます。自分で歌わない人でも敏腕シンガーがこぞって集まってきますので依頼して歌ってもらいましょう。質問はこちらまで gsemiinfo@gmail.com

授業計画	
	授業計画はコンサート会場確保により前後することがあります。 また状況により講義内容がカスタマイズされることがあります。 毎回授業の終わりに希望者による楽曲発表があります。 有志によるコンサート等も企画されています。
1	ガイダンス
2	デモ曲制作レクチャー(楽曲分析、オリジナル曲への応用)
3	デモ曲制作レクチャー(コードワーク、メロディ)
4	デモ曲制作レクチャー(バッキング、ワンコーラス)
5	「春Sonic」オーディション
6	「春Sonic」本番
7	「春Sonic」反省会
8	「Summer Concert」準備（クレジット決定、各ユニットに別れてミーティング）
9	「Summer Concert」準備（ユニットに別れて楽曲基礎作成 ）
10	「Summer Concert」準備（ユニットに別れて楽曲作成完成）
11	「Summer Concert」オーディション
12	「Summer Concert」準備（アレンジ実習-クリシェなどの半音階進行-）
13	「Summer Concert」準備（アレンジ実習-アンサンブルの構築方法-）
14	「Summer Concert」本番
15	「Summer Concert」反省会、及び前期反省会

授業計画	
	［後期］
1	アレンジレクチャー（リハーモナイズ、抑揚）
2	演奏レクチャー（グルーヴ、サウンドメイク）
3	グループワーク(課題提示、グループ分け)
4	グループワーク(グループ学習プロット作り)
5	グループワーク(グループ学習資料完成)
6	グループワーク(プレゼンテーション前半グループ)
7	グループワーク(プレゼンテーション後半グループ)
8	「Xmas Concert」企画会議
9	「Xmas Concert」オーディション
10	「Xmas Concert」スタッフ説明クレジット決定
11	「Xmas Concert」スタッフワーク
12	「Xmas Concert」本番
13	「Xmas Concert」反省会
14	グレードアップレクチャー 転調について
15	講義の総括

科目名	ヴォイスアンサンブル１～４　［水2］（AS専用）						
代表教員	速水　けんたろう	授業コード	GE677100	科目コード	GE6771d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	ASコース	科目分類	専門選択（ASコース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースでは「ヴォイスアンサンブル」を毎年履修する事ができる。
この授業では、ポピュラー音楽における合唱（コーラス）を中心に学ぶことを目的とする。
ヴォイスアンサンブル、つまり声によって創り出されるハーモニーの心地よさと響きのなかで、声にしか表現出来ない広がりと奥深さを体感し、ソロにはない魅力を知ってもらう。
ポピュラー音楽と言っても様々なジャンルがあるので、広く対応できる歌唱力の基礎を身につけることが大切であることは言うまでもなく、正しい発声、発音、腹式呼吸の重要性を確認しながら、多彩なスタイルの合唱、つまり斉唱、重唱、バックコーラスのスキルを身に付け、磨くことでポピュラー音楽の現場で通用するようになることを到達目標とする。
目標に到達することは容易ではないが、毎年異なる楽曲を取り上げていくので、続けて履修することで可能性を期待できる。

２．授業概要

毎回の授業では、設定されたテーマや題材に基づいて、全員で演習をしていく。
時にはグループに分かれて少人数で斉唱、重唱等を経験、更にはハーモニーを自分達で作る。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業で学習した内容を継続的に復習することと、次回に取り組む課題の音取りをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組む姿勢、全員演習やグループ演習による歌唱評価及び個々の進歩度合い、レポートなどにより総合的に判断する

５．授業で使用するテキスト・参考文献

指導教員から個別に指示される。必要に応じてレジュメが配布される場合もある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

声優アニメソングコース生のみ履修できる。

やる気があって意欲的に取り組む人を求む。

授業計画	
	個々の歌唱力アップと共に周りと調和する意識を高めよう！
1	履修調整及び前期ガイダンス，合唱においての心構え
2	歌唱課題１（にほんのうた）の斉唱
3	歌唱課題１（にほんのうた）の斉唱及び重唱
4	歌唱課題１（にほんのうた）仕上げ＆歌唱課題２（にほんのうた）の斉唱
5	歌唱課題２（にほんのうた）の斉唱＆重唱　確認
6	歌唱課題２（にほんのうた）の仕上げ＆歌唱課題３（バラード系アニソン）の斉唱
7	歌唱課題３（バラード系アニソン）の斉唱＆重唱
8	歌唱課題３（バラード系アニソン）の仕上げ＆歌唱課題４（バラード系アニソン）の斉唱
9	歌唱課題４（バラード系アニソン）の斉唱＆重唱　確認
10	歌唱課題４（バラード系アニソン）の仕上げ＆歌唱課題５（ポップス系アニソン）の斉唱
11	歌唱課題５（ポップス系アニソン）の斉唱＆重唱
12	歌唱課題５（ポップス系アニソン）の仕上げ
13	歌唱課題１（にほんのうた）～歌唱課題３（バラード系アニソン）グループ発表
14	歌唱課題４（バラード系アニソン）～歌唱課題５（ポップス系アニソン）グループ発表
15	前期総括

授業計画	
	周りとの調和を意識する中でより深い抑揚のあるアンサンブルを目指そう！
1	後期ガイダンス
2	歌唱課題６（ポップス系アニソン)の斉唱
3	歌唱課題６（ポップス系アニソン）の斉唱＆重唱　確認
4	歌唱課題６（ポップス系アニソン）の仕上げ＆歌唱課題７(ミュージカルナンバー）の斉唱
5	歌唱課題７（ミュージカルナンバー）の斉唱&重唱
6	歌唱課題７（ミュージカルナンバー）の仕上げ＆歌唱課題８(ミュージカルナンバー）の斉唱
7	歌唱課題８（ミュージカルナンバー）の斉唱＆重唱　確認
8	歌唱課題８（ミュージカルナンバー）の仕上げと歌唱課題９(歌謡曲）の斉唱
9	歌唱課題９（歌謡曲）の斉唱＆重唱
10	歌唱課題９（歌謡曲）の仕上げ＆歌唱課題１０(クリスマスナンバー）の斉唱
11	歌唱課題１０（クリスマスナンバー）の斉唱＆重唱 及び歌唱課題１１（Jポップ)のアンサンブル制作１
12	歌唱課題１０（クリスマスナンバー）の仕上げ 及び歌唱課題１１（Jポップ）のアンサンブル制作２
13	歌唱課題１１（Jポップ）のアンサンブル制作３
14	歌唱課題１１（Jポップ）のアンサンブル制作４　仕上げ
15	総括

科目名	舞踊研究Ⅰ～Ⅳ ［水4］ ［木4］ ［金4］（コンテンポラリー）						
代表教員	安藤　洋子	授業コード	GE7001C1	科目コード	GE7001d	期間	通年
担当教員	アレッシオ　シルヴェストリン、井口　美穂、小林　洋壱、上田　舞香						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では、多様な質をともなった身体的な緊張や空間における存在感と連関した調整技術を身につけるべく、ダンサーを多角的な動作へと導入する。動作中の気づきに対する感覚を鋭敏にすることにより、指定された振付に基づく即興へと応用していく。

The class will introduce the dancers to multi-directional movements with the intention of developing their coordination skills in connection with the use of different qualities of physical tension and presence in space. By inducing a higher sense of awareness in motion, it will occasionally be applied tasks of improvisation based on preset choreography.

２．授業概要

身体の様々な部分を中心として始まるバレエの語彙・モダンダンスのテクニックからの諸々の動きから構成される、バーを使用した、あるいは、使用しないウォームアップ、そして、最終的には、床を使用したウォームアップ。
躯幹の多様な螺旋状の動きに相当な注意を払うよう照準を合わせたウォームアップ。これは、芸術的なパフォーマンスへ向けて身体を物理的な側面から整え、改善していくことを意図している。
呈示された振付素材を覚え、身体的表現の可能性という観点から分析することが授業の中心となる。また、ダンサー相互のボディ・コンタクトのさまざまなアプローチの仕方を応用することにもよりながらそのような作業を進めていく。
授業は、世界的に認められている振付家ウィリアム・フォーサイスとフランクフルト・バレエによって開発された『インプロヴィゼーション・テクノロジーズ 』に部分的に基づき、種々の「インプロヴィゼーショナル・モダリティ」を取り上げ考察していく。
参加者の身体的・知的能力に応じて上の素材を用い、必要があれば最終的には別の種類のダンス課題に変更することもあり得る。
下に参考としてリストしたカテゴリーは、この通りの順番にならないかもしれないし、ダンサーの習熟度に応じて変更される可能性もある。

The warm-up with, or without bar and eventually also with the use of the floor,
will be composed of movements concerning the ballet vocabulary and modern dance techniques, initiated by the different centers of the body.
The warm-up aims to offer substantial attention to the movement of the torso with a variety of spiral moves, thus it intends to prepare and improve the physical aspect body related towards the artistic performance.
The center work will present a choreographic material which will be memorized and analyzed in its expressive physical potential, also by introducing the dancers to apply various approaches of body contact between each other.
The class partially based on the Improvisational Technologies, developed by world renown choreographer William Forsythe and the Frankfurt Ballet, intends to examine the different Improvisational Modalities.
The working material will be applied according to the physical and intellectual capacities if of the participants and eventually replaced by another kind of dance work in case of necessity.
The contents of the categories are listed below as a reference, and might not follow the same chronological order.
The contents of the list will eventually change according to the development of the dancers during the period of the course.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ／コンテンポラリー／パフォーマンス、視覚芸術関連の鑑賞（舞台、DVD等）日々の復習と自習が大切である。20世紀に作られたクラシック音楽を聴くこと。下のリンク先のチャンネルにあるすべてのビデオを観ること。

William Forsythe Improvisation Technologies

https://www.youtube.com/user/GrandpaSafari

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%(コンテンポラリーダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

推薦文献：
ルドルフ・フォン・ラバン『コロティックス，舞踊［動作］分析』
Rudolf Laban: CHOREUTICS

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

レオタードその他の関節の動きが見えるような衣服。薄すぎない靴下を素足に着用。入手可能なバレエ・シューズも持参してください。頭を床に真直ぐ置けるように髪を適切にまとめる。ジュエリーや腕時計は外すこと。

パフォーマンスのために、以下のものがあれば望ましい。ストレッチ素材でできたフィットするズボン、色：黒。フィットしたＴシャツ、あるいは、レオタード、色：黒。靴下、色：黒。

Leotards, or other clothes adherent to the body which allows you to see the movement of the joints. Bare feet are wearing socks which are not too thin. Please bring also ballet shoes as well.
Hair adequately collected in a way that may also allow placing the head straight on the floor.
Jewellery or watches are not allowed.

It will be useful the student will have available for possible presentations, or performances:
1 tight trouser made of a stretch material, color: black.
1 tight t-shirt, or leotard, color: black.
1 pair of socks, color: black.

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス LINES: POINT-POINT LINE
2	LINES: EXTRUSION
3	LINES: MATCHING
4	LINES: FOLDING
5	LINES: BRIDGING
6	APPROACHES - AVOIDANCE: ANGLE AND SURFACE
7	APPROACHES - AVOIDANCE: TORSION
8	APPROACHES - AVOIDANCE: VOLIUMES
9	APPROACHES - AVOIDANCE: BACK APPROACH
10	APPROACHES - AVOIDANCE: LOWER LIMBS
11	COMPLEX OPERATION: INCLINATION EXTENSION
12	COMPLEX OPERATION: TRANSPORTING
13	COMPLEX OPERATION: DROPPING CURVES
14	COMPLEX OPERATION: PARALLEL SHEAR
15	COMPLEX OPERATION: COMPLEX MOVEMENTS

授業計画	
	[後期]
1	WRITING: ROTATING INSCRIPTION
2	WRITING: UNIVERSAL WRITING
3	WRITING: ARC AND AXIS
4	WRITING: TRANSFORMATIVE OPERATION
5	WRITING: INSCRIPTIVE MODES
6	ISOMETRIES - ADDITION: DIFFERENT SCALES
7	ISOMETRIES - ADDITION: FLOOR PATTERN
8	ISOMETRIES - ADDITION: ANATOMICAL
9	ISOMETRIES - ADDITION: SOFT BODY PART
10	ISOMETRIES - ADDITION: CZ EXCERSISE
11	REORGANIZING: ROOM ORIENTATION
12	REORGANIZING: ASIGMENT TO A LINE
13	REORGANIZING: FRAGMENTATION
14	REORGANIZING: SPACIAL RECOVERY
15	REORGANIZING: COMPRESSION

科目名	舞踊研究Ⅰ～Ⅳ　［水4］　［木4］　［金4］（ジャズ）						
代表教員	前田　清実	授業コード	GE7001J1	科目コード	GE7001d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、林　七重、米島　史子、田之上　桃慧						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

身体構造の理解とダンステクニックの基礎と応用を学び、プロダンサーになるための表現力、リズム感を養うと共に、複雑な動きに対応できる体作りを行っていく。

２．授業概要

ボディーワークを基礎としたエクササイズ。ダンステクニックを学ぶ。身体知覚、空間の知覚。設定されるコンビネーションやテーマでイメージと動きの連動、身体コントロール。□
必要に応じて個別指導も盛り込まれる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の内容を根気強く復習することが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて配布される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスシューズ使用（ジャズスニーカ不可）
体調管理に十分留意すること。
動きやすい服装、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
　汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス及びジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（基礎）ボディワークを基礎としたエクササイズを理解する。
2	ジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（応用）身体のコントロール、正しい使い方を学ぶ。
3	ジャズダンス演習　ダンスのための肉体の使い方を知る（応用）ボディワークで整えた身体で動きの質の変化を体感する。
4	ジャズダンス演習 基本スッテプの習得（基礎）基礎を理解し、肉体についても正しい認識を持つ。
5	ジャズダンス演習 基本スッテプの習得（応用）基礎ステップを正確に動けるように意識しながら実践する。
6	ジャズダンス演習　基本スッテプの習得（発展）演習してきた基礎やスッテプを振付の中でより深く学ぶ。
7	モダンダンス演習　（基礎）動きの基礎、バランス、体重移動を理解する。
8	モダンダンス演習（応用）基礎の動きを身につける。
9	モダンダンス演習（発展）振付の中で学んだ動きを使い表現する。
10	シアターダンス演習（基礎）シアターダンス特有のスッテプ、身体の使い方を理解する。
11	シアターダンス演習（応用）シアターダンステクニックを身につける。
12	シアターダンス演習（発展）振付の中でシアターダンスの動きを表現する。
13	コンテジャズ演習　（基礎）コンテンポラリージャズの基礎を理解する。
14	コンテジャズ演習（応用）コンテンポラリージャズ特有の動きを身につける。
15	コンテジャズ演習（発展）振付の中でコンテンポラリージャズを表現する。

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス及び成果発表に向けての題材設定。
2	ジャズダンス演習（姿勢肉体強化）前期の学びをもとにより深く理解する。
3	ジャズダンス演習（リズム強化）
4	ジャズダンス演習（体幹強化）
5	総合ダンス演習（フォッシー作品振付を理解する）ボブフォッシーや有名な作品の振付を理解する。（基礎）
6	総合ダンス演習（フォッシー作品振付を理解する）振付の世界観や動きを身につける。（応用）
7	総合ダンス演習（フォッシー作品振付を理解する）振付を踊り表現する。（発展）
8	総合ダンス演習（群舞及びペア）
9	成果発表に向けて必要事項の検討、企画作成。
10	成果発表に向けての演習（振付）
11	成果発表に向けての演習（応用）
12	成果発表に向けての演習（発展）
13	成果発表に向けての仕上げ
14	成果発表
15	後期総括

科目名	舞踊研究Ⅰ～Ⅳ　［水4］　［木4］　［金4］（ジャズ）						
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE7001J2	科目コード	GE7001d	期間	通年
担当教員	岩﨑　多賀子、井口　美穂、古賀　明美、平田　有美						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズダンスの基礎、身体の使い方、魅力と表現を学び、それぞれ個人の魅力と個性にあった魅せ方と表現の可能性を模索し、身につける。

２．授業概要

□ウォームアップ、アイソレーション、ステップ、クロスフロア、コンビネーション、前期と後期発表に向けての振り付け

３．授業時間外の学習（予習復習について）

筋力強化トレーニング、授業の復習、舞台鑑賞（舞踊、演劇）、映画鑑賞、美術鑑賞等
発表会の振り付けを確実に自分のものにする

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ジャズダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽曲、CD、必要に応じて資料を配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズダンスジャズダンスシューズ、もしくは動きやすいシューズを使用。
動きやすい服装であれば自由ですが、なるべく体のラインが見えるものが望ましい。
汗をかくので、タオルと水分補給が出来るように水等を持参。

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ８小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ１６小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ２４小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズ３２小節振り付け
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの表現
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズの魅せ方
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションスウィングジャズを個性的に踊る
9	前期発表会に向けて、テーマの検討、企画作成
10	前期発表会に向けての振り付け
11	前期発表会に向けての振り付けの固め
12	前期発表会に向けての振り付けの探求
13	前期発表会に向けての作品の仕上げ
14	前期発表会に向けて、作品のテーマ、意図に沿ったダンス表現をさらに深める
15	前期発表会に向けての総仕上げ

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションコンテジャズ８小節振り付け
3	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションコンテジャズ１６小節振り付け
4	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションコンテジャズ２４小節振り付け
5	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションコンテジャズ３２小節振り付け
6	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションコンテジャズの表現
7	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションコンテジャズの魅せ方
8	ウォームアップ、アイソレーション、基礎ステップ、クロスフロア、コンビネーションコンテジャズを個性的に踊る
9	後期発表会に向けて、テーマの検討、企画作成
10	後期発表会に向けての振り付け
11	後期発表会に向けての振り付けの固め
12	後期発表会に向けての振り付けの探求
13	後期発表会に向けての作品の仕上げ
14	後期発表会に向けて、作品のテーマ、意図に沿ったダンス表現をさらに深める
15	後期発表会に向けての総仕上げ

科目名	舞踊研究Ⅰ～Ⅳ　［水4］　［木4］　［金4］（ストリート）						
代表教員	ERIKA	授業コード	GE7001S1	科目コード	GE7001d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、ぐっさん						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ストリートダンスの基礎を固める（ヒップホップ／ロッキング／ポッピング／ワッキング／フロワームーブ、ブレイキン／ハウス／ジャズファンク）
ストリートダンスの魅力と表現を学び、それぞれの個性にあった魅せ方と表現のかのせいを模索し身につける。

２．授業概要

年間を通して各回の課題を体得出来る様、ダンステクニックの習得及び実習を行う。
ストレッチ、ウォームアップ（ボディーワーク）、アイソレーション、ステップ、コンビネーション

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の復習
筋力アップトレーニング、ストレッチ
芸術観賞、音楽鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ストリートダンスの基礎、応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

室内用スニーカーを使用
動きやすい服装
汗をかくのでタオル、水分補給が出来る様に飲み物の用意
授業開始時刻には着替えを済ませ入室する様に
遅刻厳禁
身体を使う授業なので体調、自己管理に十分留意する事

授業計画	
1	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①基礎ステップ ②アイソレーション基礎（ハンドウェーブ／ボディーウェーブ） ③筋トレ（ブレーキング基礎） 基礎を用いたコンビネーション１
2	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①基礎ステップ２ ②アイソレーション基礎（ハンドウェーブ／ボディーウェーブ） ③筋トレ（ブレーキング展開） コンビネーション２
3	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①発展ステップ ②アイソレーション発展（コブラ／ブガルー） ③筋トレ（ブレーキング応用） コンビネーション３（フォーメーション）
4	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①応用ステップ ②アイソレーション発展（サイド／ムーンウォーク） ③筋トレ（ブレーキング発展） コンビネーション４、クリーンアップ（１曲目終了）
5	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング／ロッキング基礎 ②アイソレーション ③筋トレ（トップロック） コンビネーション１
6	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング／ロッキング展開 ②アイソレーション ③筋トレ（フリーズ１） コンビネーション２
7	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング／ロッキング応用 ②アイソレーション ③筋トレ（フリーズ２） コンビネーション３（フォーメーション）
8	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ポッピング／ロッキング発展 ②アイソレーション コンビネーション４（クリーンアップ） 衣装案
9	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス基礎 ②筋トレ（フロアームーブ①） ニューコンビネーション１ 衣装決定
10	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス展開 ②筋トレ（フロアームーブ②） コンビネーション２ 前期末成果発表に向けた必要事項の検討
11	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス応用 ②筋トレ（フロアームーブ③） コンビネーション３ ドレスリハーサルスタート
12	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ①ハウス発展 コンビネーション３ 前期末成績発表に向けての企画策定
13	前期末成績発表向けての演習
14	前期末成績発表に向けての総仕上げ
15	前期総括

授業計画	
1	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（実践的な作品作り導入編） コンビネーション
2	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（実践的な作品作り基礎編） コンビネーション
3	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（実践的な作品作り応用編） コンビネーション
4	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（実践的な作品作り発展編１） コンビネーション
5	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（実践的な作品作り発展編２） コンビネーション　確認
6	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（インプロバゼーション導入編） コンビネーション
7	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（インプロバゼーション基礎編） コンビネーション
8	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ 基本エクササイズ ストリートダンス演習（インプロバゼーション応用編） コンビネーション
9	ワームアップ／ジャンプ／カーディオトレーニング／ダイナミックストレッチ ストリートダンス演習（インプロバゼーション発展編） コンビネーション
10	前期末成果発表に向けた必要事項の検討
11	前期末成績発表に向けての企画策定
12	学年末成績発表向けての演習
13	学年末成績発表に向けての総仕上げ
14	学年末成果発表模擬公演
15	後期総括

科目名	舞踊研究Ⅰ～Ⅳ　[水4]　[木4]　[金4]（ストリート）						
代表教員	TOMOMI	授業コード	GE7001S2	科目コード	GE7001d	期間	通年
担当教員	TERARIE、井口　美穂						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ストリートダンスの基礎を学び深め、独自の表現力を身につける。
（HipHop／Lockin'／Poppin'／Breakin'／House／Punking）
ストリートダンスの様々なジャンルを通して、それぞれの音楽性や表現を豊かにし基礎的な技術を身につける。

２．授業概要

ストレッチ、筋力トレーニング(体幹)、アイソレーション、リズムトレーニング&Stepトレーニング/コンビネーション。
年間を通して各回の課題を体得できる内容で進め、必要に応じて、振付や振付制作・Freestyle・ 個別指導・グループワークも実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内容の復習と自主的なトレーニングを習慣付けることが望まれる。
舞台鑑賞や音楽への知識を深めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ストリートダンスの基礎、応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

身体を動かす授業なので、体調管理に気をつけること。
各自水分補給を心がけ、動きやすい服装・靴（スニーカー）で授業に臨むこと。

授業計画	
1	前期ガイダンス及びダンス演習 ⑴ストレッチ／アイソレーション基礎 リズムトレーニング コンビネーション
2	ダンス演習 ⑵アイソレーション基礎/応用 リズムトレーニング コンビネーション
3	ダンス演習 (3)アイソレーション応用(首/肩リズム導入) リズムトレーニング(変速) コンビネーション
4	ダンス演習 (4)アイソレーション応用(胸／腰リズム導入) リズムトレーニング&Step(変速) コンビネーション
5	ダンス演習 (5)Lockin'／Punking基礎導入(腕) リズムトレーニングUP基礎／応用 コンビネーション
6	ダンス演習 (6)Lockin'／Punking基礎導入(リズム&Step) リズムトレーニングUP基礎／応用(変速) コンビネーション
7	ダンス演習 (7)Lockin'／Punking応用(リズム&Step) リズムトレーニング基礎／応用(腰バリエーション変速) コンビネーション
8	ダンス演習 (8)Lockin'／Punking応用(インプロビゼーション導入) リズムトレーニング基礎／応用(腰バリエーション変速) コンビネーション 前期公演に向けて①
9	ダンス演習 (9)Punking応用 リズムトレーニング基礎／HOUSEステップ コンビネーション 前期公演に向けて②衣装案／構成
10	ダンス演習 (10)HipHop／Lockin'／Punking／HOUSE／インプロビゼーション リズムトレーニング基礎／応用 コンビネーション 前期公演に向けて③フォーメーション 前期末成果発表に向けてのグループワーク
11	ダンス演習 (11)表現力 リズムトレーニング基礎／応用 コンビネーション 前期公演に向けて④ソロ 前期末成果発表に向けてのグループワーク
12	ダンス演習 (12)表現力② リズムトレーニング基礎／応用 コンビネーション 前期公演に向けて⑤グループワーク
13	前期末成果発表／公演に向けての演習
14	前期末成果発表／公演に向けての演習　仕上げ
15	前期到達度の確認

授業計画	
1	後期ガイダンス及びダンス演習 (1)Poppin'（導入） リズムトレーニング&Stepバリエーション コンビネーション
2	ダンス演習 (2)HipHop／Poppin'（基礎）アイソレーション応用 リズムトレーニング&Stepバリエーション コンビネーション
3	ダンス演習 (3)HipHop／Poppin'（基礎）アイソレーション応用 Stepバリエーション（サイドウォーク／バックスライド） コンビネーション
4	ダンス演習 (4)HipHop／Poppin'（基礎）アイソレーション応用 Stepバリエーション（クロスフロア） コンビネーション
5	ダンス演習 (5)HipHop／Breakin'（フロアムーブ基礎） リズムトレーニング&Stepバリエーション コンビネーション
6	ダンス演習 (6)振付 リズムトレーニング&Stepバリエーション コンビネーション
7	ダンス演習 (7)振付（構成について） リズムトレーニング&Stepバリエーション コンビネーション
8	ダンス演習 (8)インプロビゼーション①（HipHop／Punking／Lockin'/HOUSE/Poppin'／Breakin'） リズムトレーニング&Stepバリエーション コンビネーション
9	ダンス演習 (9)インプロビゼーション②（HipHop／Punking／Lockin'/HOUSE/Poppin'／Breakin'） リズムトレーニング&Stepバリエーション コンビネーション　仕上げ
10	学年末成果発表に向けてグループワーク①
11	学年末成果発表に向けてグループワーク②　仕上げ
12	学年末成果発表／後期公演に向けての演習
13	学年末成果発表／後期公演に向けての演習　確認
14	学年末成果発表／後期公演に向けての演習　仕上げ
15	後期到達度の確認

科目名	舞踊創作研究１－１～４－５［シラバス用］						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE701100	科目コード	GE7011Xd	期間	集中
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１－１／２－１［コンテンポラリーダンスクラス］						
代表教員	アレッシオ　シルヴェストリン	授業コード	GE7011C1	科目コード	GE7011d	期間	集中
担当教員	井口　美穂、小林　洋壱、安藤　洋子						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１－１［ジャズダンスクラス］						
代表教員	前田　清実	授業コード	GE7011J1	科目コード	GE7011	期間	集中
担当教員	井口　美穂、林　七重、米島　史子、田之上　桃慧						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１－１［ストリートダンスクラス］						
代表教員	ERIKA	授業コード	GE7011S1	科目コード	GE7011	期間	集中
担当教員	井口　美穂						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１−２/２−２［コンテンポラリーダンスクラス］						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE7012C2	科目コード	GE7012d	期間	集中
担当教員	井口　美穂、アレッシオ　シルヴェストリン、安藤　洋子						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１−２［ジャズダンスクラス］						
代表教員	前田　清実	授業コード	GE7012J2	科目コード	GE7012	期間	集中
担当教員	井口　美穂、林　七重、米島　史子、田之上　桃慧						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１−２［ストリートダンスクラス］						
代表教員	ERIKA	授業コード	GE7012S2	科目コード	GE7012	期間	集中
担当教員	井口　美穂						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究１−３［ジャズダンスクラス］						
代表教員	前田　清実	授業コード	GE7013J3	科目コード	GE7013	期間	集中
担当教員	井口　美穂、林　七重、米島　史子、田之上　桃慧						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究２－１［ジャズダンスクラス］						
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE7016J1	科目コード	GE7016	期間	集中
担当教員	井口　美穂、古賀　明美、平田　有美、岩﨑　多賀子						
授業形態	実技	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究２－１［ストリートダンスクラス］						
代表教員	TOMOMI	授業コード	GE7016S1	科目コード	GE7016	期間	集中
担当教員	井口　美穂、TERARIE						
授業形態	実技	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究２−２［ジャズダンスクラス］						
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE7017J2	科目コード	GE7017	期間	集中
担当教員	井口　美穂、古賀　明美、平田　有美、岩﨑　多賀子						
授業形態	実技	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究２-２［ストリートダンスクラス］						
代表教員	TOMOMI	授業コード	GE7017S1	科目コード	GE7017	期間	集中
担当教員	井口　美穂、TERARIE						
授業形態	実技	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	舞踊創作研究２－３［ジャズダンスクラス］						
代表教員	舘形　比呂一	授業コード	GE7018J3	科目コード	GE7018	期間	集中
担当教員	井口　美穂、古賀　明美、平田　有美、岩﨑　多賀子						
授業形態	実技	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスコース主催の公演・自主企画公演において、発想豊かな企画力を高め、「舞踊研究」の担当教員から振付の創作過程を学び、幅広く活躍できるスキルを身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

振付からパフォーマンスへとつなげるダンスの構成を体験するとともに、公演の企画制作を行う。各回に挙げた課題を、企画・創作の過程に合わせて年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ダンスのDVD・動画鑑賞、振付の復習、ストレッチ、筋力トレーニング等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（ダンスの理解度、企画・振付の発想力、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各ダンスジャンルの教員から指定されたシューズ、動きやすい服装で参加すること。その他、タオル、飲み物、筆記用具等、必要に応じて各自持参。

授業計画	
1	ガイダンス、顔合わせ、ストレッチ等
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① ダンス（各ジャンル）の理解
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 企画書制作
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ シノプシス制作
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 構成の仕上げ
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 楽曲決め
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 香盤表制作
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 各作品の振付の振分
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ 各楽曲のミザン
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ 各楽曲のミザンセーヌ
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ 各振付の世界観のシェア
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ 振付のブラッシュアップ及び固め
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 全曲を繋ぐ為のミーティング
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ オールアップ後の構成見直し
15	前期 まとめ

授業計画	
1	前期の復習
2	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル① 衣装の決定
3	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル② 小道具の決定
4	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル③ テクニックの向上
5	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル④ 表現力の向上
6	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑤ 直しのテクニックを学ぶ
7	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑥ 照明イメージのミーティング
8	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑦ 作品の客観視
9	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑧ トータル力の向上
10	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑨ テーマの追求
11	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑩ コンセプトの追求
12	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑪ チームワークへのマナー等確認
13	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑫ 公演全体のブラッシュアップ及び固め
14	ダンスコース主催公演に向けての振付・リハーサル⑬ 劇場でのスペース等確認
15	ダンスコース公演本番に向けてのまとめ

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GE7390A0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

２．授業概要

本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：教育実習への心構え
2	教育実習の内容と方法①：学校の一日を知る、実習日誌の使い方等
3	教育実習の内容と方法②：授業見学のポイント、学校における服務等
4	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識技能　模擬授業①
5	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・授業計画　模擬授業②
6	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技能　　模擬授業③
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意・生徒理解　模擬授業④
8	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　模擬授業⑤
9	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　模擬授業⑥
10	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　模擬授業⑦
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Bクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GE7390B0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員	担当教員						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

２．授業概要

本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：教育実習への心構え
2	教育実習の内容と方法①：学校の一日を知る、実習日誌の使い方等
3	教育実習の内容と方法②：授業見学のポイント、学校における服務等
4	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識技能　模擬授業①
5	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・授業計画　模擬授業②
6	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技能　　模擬授業③
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意・生徒理解　模擬授業④
8	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　模擬授業⑤
9	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　模擬授業⑥
10	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　模擬授業⑦
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Cクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GE7390C0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員	担当教員						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

２．授業概要

本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：教育実習への心構え
2	教育実習の内容と方法①：学校の一日を知る、実習日誌の使い方等
3	教育実習の内容と方法②：授業見学のポイント、学校における服務等
4	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識技能　模擬授業①
5	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・授業計画　模擬授業②
6	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技能　　模擬授業③
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意・生徒理解　模擬授業④
8	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　模擬授業⑤
9	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　模擬授業⑥
10	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　模擬授業⑦
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Dクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GE7390D0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員	担当教員						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

２．授業概要

本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：教育実習への心構え
2	教育実習の内容と方法①：学校の一日を知る、実習日誌の使い方等
3	教育実習の内容と方法②：授業見学のポイント、学校における服務等
4	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識技能　模擬授業①
5	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・授業計画　模擬授業②
6	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技能　　模擬授業③
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意・生徒理解　模擬授業④
8	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　模擬授業⑤
9	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　模擬授業⑥
10	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　模擬授業⑦
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Eクラス						
代表教員	三戸　誠	授業コード	GE7390E0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員	担当教員						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

２．授業概要

本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：教育実習への心構え
2	教育実習の内容と方法①：学校の一日を知る、実習日誌の使い方等
3	教育実習の内容と方法②：授業見学のポイント、学校における服務等
4	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識技能　模擬授業①
5	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・授業計画　模擬授業②
6	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技能　　模擬授業③
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意・生徒理解　模擬授業④
8	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　模擬授業⑤
9	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　模擬授業⑥
10	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　模擬授業⑦
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）　（前）［火1］Fクラス						
代表教員	和田　崇	授業コード	GE7390F0	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員	担当教員						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

2．授業概要

本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

4．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：教育実習への心構え
2	教育実習の内容と方法①：学校の一日を知る、実習日誌の使い方等
3	教育実習の内容と方法②：授業見学のポイント、学校における服務等
4	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識技能　模擬授業①
5	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・授業計画　模擬授業②
6	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技能　　模擬授業③
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意・生徒理解　模擬授業④
8	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　模擬授業⑤
9	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　模擬授業⑥
10	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　模擬授業⑦
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

科目名	教育実習I						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GE739100	科目コード	GE7391	期間	集中
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教職課程で学んだことを、教育実習の実践を通して検証する。
【到達目標】
（１）学校及び教師の役割と職責を、実践を通しながら理解する。
（２）生徒理解を基本にした指導法等の改善のための研究を行う。
（３）自らの実践的指導を評価するための視点を体得するとともに、授業改善に向けた工夫、方法を明らかにする。
（４）教育実習を通して、教職に対する意欲を一層高めることができる。

２．授業概要

学校教育の場において、大学で学んだ知識や理論を活かし、実践的な知識・技能・姿勢を培う。本科目は、中学校１種と高等学校１種の両方の免許状取得に必要な科目である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育実習I」は、１週間または２週間の教育実習を実践的に行うものであり、学習指導計画に基づく教材研究、生徒指導等の研究は不可欠である。十分な時間をとって準備を進めるとともに、日ごとの評価等、その日のうちに「教育実習日誌」等に整理すること。

４．成績評価の方法及び基準

①　実習校による成績評価
②　「教育実習日誌」の記載内容
③　「教育実習日誌」の提出状況　等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「教育実習日誌」
参考文献：「音楽科教育法」その他で紹介された文献

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

中学校教員免許取得希望者は、必ず「教育実習II」も併せて履修しなければならない。「履修要項」に定める「教育実習の参加要件」を満たしていること。
また、教育実習に関わるガイダンスには必ず出席すること。（実施日はポータルで掲示します）

授業計画	
	教育実習（１週間または２週間）を行う。（中学校の教員免許を取得するには「教育実習I」と「教育実習II」の両方を履修する必要がある。）
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育実習II						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GE739200	科目コード	GE7392	期間	集中
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教職課程で学んだことを、教育実習の実践を通して検証する。
【到達目標】
（１）学校及び教師の役割と職責を、実践を通して理解する。
（２）生徒理解を基本にした指導法等の改善のための研究を行う。
（３）自らの実践的指導を評価するための視点を体得するとともに、授業改善に向けた工夫、方法を明らかにする。
（４）教育実習を通して、教職に対する意欲を一層高めることができる。

２．授業概要

学校教育の場において、大学で学んだ知識や理論を活かし、実践的な知識・技能・姿勢を培う。本科目は、高等学校１種免許状のみ、もしくは中学校１種と高等学校１種の両方の免許状取得に必要な科目である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育実習II」は、２週間の教育実習を実践的に行うものであり、学習指導計画に基づく教材研究、生徒指導等の研究は不可欠である。十分な時間をとって準備を進めるとともに、日ごとの評価等、その日のうちに「教育実習日誌」等に整理すること。

４．成績評価の方法及び基準

①　実習校による成績評価
②　「教育実習日誌」の記載内容
③　「教育実習日誌」の提出状況　等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「教育実習日誌」
参考文献：「音楽科教育法」その他で紹介された文献

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「履修要項」に定める「教育実習の参加要件」を満たしていること。
また、教育実習に関わるガイダンスには必ず出席すること。（実施日はポータルで掲示します）

授業計画	
	教育実習（２週間）を行う。（中学校の教員免許を取得するには「教育実習I」も併せて履修する必要がある）
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GE7395A0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、特別支援教育、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

２．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定と特別支援教育の評定を合算する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）　なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：特別支援教育の概要
2	講義②：特別支援教育の実際
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義③：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義④：新学習指導要領について
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習①：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	HR演習②：教職実践演習のまとめ　（教職科目の履修を踏まえての各自の成果と課題）

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Bクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GE7395B0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、特別支援教育、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

２．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定と特別支援教育の評定を合算する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）　なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：特別支援教育の概要
2	講義②：特別支援教育の実際
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義③：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義④：新学習指導要領について
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習①：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	HR演習②：教職実践演習のまとめ　（教職科目の履修を踏まえての各自の成果と課題）

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Cクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GE7395C0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、特別支援教育、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

２．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定と特別支援教育の評定を合算する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）　なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：特別支援教育の概要
2	講義②：特別支援教育の実際
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義③：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義④：新学習指導要領について
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習①：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	HR演習②：教職実践演習のまとめ　（教職科目の履修を踏まえての各自の成果と課題）

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Dクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GE7395D0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、特別支援教育、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

２．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定と特別支援教育の評定を合算する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）　なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：特別支援教育の概要
2	講義②：特別支援教育の実際
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義③：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義④：新学習指導要領について
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習①：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	HR演習②：教職実践演習のまとめ　（教職科目の履修を踏まえての各自の成果と課題）

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Eクラス						
代表教員	三戸　誠	授業コード	GE7395E0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、特別支援教育、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

２．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定と特別支援教育の評定を合算する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）　なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：特別支援教育の概要
2	講義②：特別支援教育の実際
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義③：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義④：新学習指導要領について
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習①：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	HR演習②：教職実践演習のまとめ　（教職科目の履修を踏まえての各自の成果と課題）

科目名	教職実践演習（中・高）　（後）［火1］Fクラス						
代表教員	和田　崇	授業コード	GE7395F0	科目コード	GE7395	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	「教育実習II」、「教育実習法（事前事後の指導を含む）」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】これまでの教職課程での学習や関連する様々な活動を総合的に振り返り、確認するとともに、教員として最小限必要な資質能力を身に付けたかどうかを最終的に見極めて補完する。
【到達目標】音楽科教員や音楽の指導者に必要な、教育に対する使命感、責任感、愛情、社会性や対人関係能力、生徒理解や学級経営、特別支援教育、そして音楽科の内容の理解力や指導力について、自身に不足している部分を補い、課題を自覚する。

２．授業概要

本学の学生は、音楽人としての誇りを抱きつつ社会へと巣立って行く。教職課程のラストを担う本科目では、音楽の専門家としての使命を生かしながら教育にかかわって行く能力育成の集大成として、既習の各教職科目の学習内容の補完・統合を図り、学校教育の実際場面を想定した教科指導や生徒指導等の実践的指導力を定着させたい。
本科目では特に音楽科にかかわる実践力の育成に焦点を当て、履修学生全体を対象とした講演とクラス別活動（HR：ホームルーム及び演習）に分けて進める。とりわけ本科目担当者６名がそれぞれの専門性を生かした内容の演習を行う。履修学生はその６つの演習から３つの希望するテーマにかかわる内容を選択することができる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習によって示される課題に応じて準備（予習）や仕上げ（復習）をする。とりわけ本科目はポートフォリオとして履修カルテに学習成果を保管し、それが成績としても反映されるために成果としてペーパーに残すことが重要となる。したがって授業外でも課題に対する高いモティベーションで自己実現を図るよう努める姿勢が望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

・ポートフォリオ
・演習の評価は各演習毎に本学における評価基準で評価する。希望する３つの演習から出される評定と特別支援教育の評定を合算する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各演習の担当者が必要に応じて資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

３コマ完結の演習の３コマ全て欠席した場合は単位を取得できない場合があるので注意すること。
それぞれの演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。具体的な持ち物は事前にインフォメーションをする。
《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもってポートフォリオ並びに合算された演習の評定等による単位認定対象者の資格を得られるものとする。（欠席は５回までとする）　なお、この授業期間に教育実習に赴く場合は、９回以上の出席（欠席は公欠扱いの教育実習を含む６回）とする。
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］演習は音楽科学習の表現領域と鑑賞領域の範囲を基本とする。選択の仕方によって、学習の順序が異なってくる。
1	オリエンテーション 講義①：特別支援教育の概要
2	講義②：特別支援教育の実際
3	演習①ー１：表現領域（歌唱・器楽）
4	演習①ー２：表現領域（歌唱・器楽：振り返り）
5	演習①ー３：表現領域（歌唱・器楽：今後の課題）
6	講義③：生徒指導（道徳の指導、学級経営を含む）と学校経営への参加（校務分掌）の重要性
7	演習②ー１：鑑賞領域
8	演習②ー２：鑑賞領域（振り返り）
9	演習②ー３：鑑賞領域（今後の課題）
10	講義④：新学習指導要領について
11	演習③ー１：表現領域（創作）
12	演習③ー２：表現領域（創作：振り返り）
13	演習③ー３：表現領域（創作：今後の課題）
14	HR演習①：演習のまとめ。グループ討議。発表。
15	HR演習②：教職実践演習のまとめ　（教職科目の履修を踏まえての各自の成果と課題）

科目名	バレエ研究Ⅰ～Ⅳ ［水2.3］［木2.3］［金2.3］（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7401G1	科目コード	GE7401d	期間	通年
担当教員	小林　洋壱、信田　洋子、草間　華奈、沖田　貴士、樫村　理沙、林　萌美、安藤　江利、加藤　浩子、担当教員						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、作品に触れることによって、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
クラスレッスン：　基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。
作品の練習と舞台出演：　作品の解釈、踊りのスタイル、スペーシング、舞台マナーなどを学ぶ。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される。
重点目標を設定し、それらを複数教員同士で共有しながら授業を進める。
公演の為の作品のリハーサルも行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
クラス分けについては、教員より指示する。

授業計画	
	［前期］
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢(表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）　ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール(表現の工夫）ポアントワーク 作品
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）　ポアントワーク 作品
6	クラスレッスン　正しいプリエ　（表現の工夫）ポアントワーク 作品
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）　ポアントワーク 作品
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク 作品
9	クラスレッスン　足の使い方　（表現の掘り下げ）　ポアントワーク 作品
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）　　ポアントワーク 作品
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ(表現の工夫）ポアントワーク 作品
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）　ポアントワーク 作品
13	クラスレッスン　音楽と呼吸 ポアントワーク 作品
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク 作品
15	前期まとめ

授業計画	
	［後期］
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）　ポアントワーク
3	本公演配役オーディション ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク 作品
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）　ポアントワーク 作品
6	クラスレッスン　回転の強化(表現の工夫）ポアントワーク 作品
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク 作品
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）　ポアントワーク 作品
9	クラスレッスン　アレグロの強化　（表現の工夫）ポアントワーク 作品
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク 作品
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法） ポアントワーク 作品
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握(表現の工夫）ポアントワーク 作品
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク 作品
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク 作品
15	後期まとめ

科目名	バレエ研究Ⅰ～Ⅳ　［水2］［木2］［金2］（牧クラス）						
代表教員	奥田　さやか	授業コード	GE7401M1	科目コード	GE7401d	期間	通年
担当教員	館野　若葉、鈴木　理奈、中島　哲也、柿崎　俊也、中村　望、オトゴンニャム　ラグワスレン、尾形　結実、松本　麻衣、担当教員						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、舞台に立つ為の技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスン、公演を通して、より高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。
様々なアンサンブルの音楽を体で受け、踊りで表現することを学び、舞台で実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)
授業への参加姿勢(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識　基礎）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識　発展）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ　基礎）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいプリエ　発展）　公演振付、リハーサル
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト 基礎）　公演振付、リハーサル
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト　発展）　公演振付、リハーサル
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識　基礎）　公演振付、リハーサル
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識　発展）　公演振付、リハーサル
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ　基礎）　公演振付、リハーサル
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（正しい腕の使い方　ポールドブラ　発展）　公演振付、リハーサル
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線　基礎）　公演振付、リハーサル
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線　発展）　公演振付、リハーサル
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）　公演振付、リハーサル
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）　公演振付、リハーサル
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）　公演振付、リハーサル

授業計画	
	[後期]
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①（前期の復習）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しいアンシェヌマンの理解　基礎）　公演振付、リハーサル
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解　発展）　公演振付、リハーサル
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいアンシェヌマンの理解　回転　基礎）　公演振付、リハーサル
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化　回転　発展）　公演振付、リハーサル
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化　アレグロ　基礎）　公演振付、リハーサル
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化　アレグロ　発展）　公演振付、リハーサル
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化　まとめ）　公演振付、リハーサル
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション　基礎）　公演振付、リハーサル
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション　発展）　公演振付、リハーサル
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）　公演振付、リハーサル
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）　公演振付、リハーサル
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）　公演振付、リハーサル
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（応用力）　公演振付、リハーサル
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　総合力）　公演振付、リハーサル

科目名	バレエ研究Ⅰ～Ⅳ［水2.3］［木2.3］［金2.3］（谷クラス）						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE7401T1	科目コード	GE7401d	期間	通年
担当教員	齊藤　拓、日原　永美子、髙部　尚子、佐藤　麻利香、市橋　万樹、中武　啓吾、西﨑　希、担当教員						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスン・振り付け・リハーサルを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスン・振り付け・リハーサルにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	前期
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑮　音楽性

授業計画	
	後期
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演オーディション③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク・公演の振り付け・リハーサル⑮　総合力

科目名	バレエ実習１－１　［水2］（DC専用）						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE740500	科目コード	GE7405	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を総合的に身に付け表現できる事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
　他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス　ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	[後期]
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習① 全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習② 背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　まとめ

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月1]（グローバルクラス）						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7405G0	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	牧　華子、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月2]（グローバルクラス）						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7405G1	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	牧　華子、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ(表現の掘り下げ)　　ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月3]（グローバルクラス）						
代表教員	長谷川　祐子	授業コード	GE7405G2	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	黄　凱、安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月3]　(牧クラス)						
代表教員	鈴木　理奈	授業コード	GE7405M0	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、舞台に立つ為の技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスン、公演を通して、より高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)授業への参加姿勢(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識　基礎）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識　発展）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ　基礎）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいプリエ　発展）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト　基礎）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト　発展）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識　基礎）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識　発展）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ　基礎）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（正しい腕の使い方　ポールドブラ　発展）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線　　基礎）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線　　発展）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）

授業計画	
	[後期]
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①（前期の復習）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しいアンシェヌマンの理解　　基礎）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解　　発展）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（テクニックの強化　回転　基礎）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化　回転　発展）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化　アレグロ　基礎）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化　アレグロ　発展）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化　まとめ）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション　基礎）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション　発展）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（応用力）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　　総合力）

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月1]（谷クラス）						
代表教員	永橋　あゆみ	授業コード	GE7405T0	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	朝枝　めぐみ、井口　美穂						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月3]　(谷クラス)						
代表教員	大川　敦子	授業コード	GE7405T1	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	バレエ実習１－１～４－１　[月2]　(谷クラス)						
代表教員	永橋　あゆみ	授業コード	GE7405T2	科目コード	GE7405d	期間	通年
担当教員	朝枝　めぐみ、井口　美穂						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	バレエ実習１－２　［火3］（DC専用）						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE740600	科目コード	GE7406	期間	通年
担当教員	林　麻衣子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を総合的に身に付け表現できる事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
　他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス　ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	[後期]
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習① 全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習② 背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　まとめ

科目名	バレエ実習１－２～４－２　[火1]（グローバルクラス）						
代表教員	木村　規予香	授業コード	GE7406G0	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、中村　望、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	バレエ実習１－２～４－２　[火2]　(グローバルクラス)						
代表教員	木村　規予香	授業コード	GE7406G1	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、中村　望						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	バレエ実習１－２～４－２　[火3]　(グローバルクラス)						
代表教員	金田　あゆ子	授業コード	GE7406G2	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現法）ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ(表現の掘り下げ)　ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	バレエ実習１－２～４－２　[火3]　(グローバルクラス)						
代表教員	アレッシオ　シルヴェストリン	授業コード	GE7406G3	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	若生　加世子、安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現法）　ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ　（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方　（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ　（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ　（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化　（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	バレエ実習１－２～４－２　[火3]　(牧クラス)						
代表教員	吉岡　まな美	授業コード	GE7406M0	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか、中村　望						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、舞台に立つ為の技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスン、公演を通して、より高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)授業への参加姿勢(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識　基礎）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識　発展）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ　基礎）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④(正しいプリエ　発展）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト　基礎）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト　発展）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識　基礎）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識　発展）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ　基礎）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩(正しい腕の使い方　ポールドブラ　発展）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線　基礎）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線　発展）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）

授業計画	
	[後期]
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①(前期の復習)
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しいアンシェヌマンの理解　基礎）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解　　発展）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（テクニックの強化　回転　基礎）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化　回転　発展）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化　アレグロ　基礎）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化　アレグロ　発展）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化　まとめ）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション　基礎）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション　発展）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭(応用力)
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　　総合力）

科目名	バレエ実習１－２～４－２　[火2]　(谷クラス)						
代表教員	高岸　直樹	授業コード	GE7406T0	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	バレエ実習１－２～４－２　［火3］（谷クラス）						
代表教員	植田　理恵子	授業コード	GE7406T1	科目コード	GE7406d	期間	通年
担当教員	井口　美穂						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	バレエ実習２－１　［水1］（DC専用）						
代表教員	井口　美穂	授業コード	GE740700	科目コード	GE7407	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を総合的に身に付け表現できる事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
　他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス　ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	[後期]
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習① 全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習② 背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　まとめ

科目名	バレエ実習２－２　［月2］（DC専用）						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE740800	科目コード	GE7408	期間	通年
担当教員	井口　美穂、松本　麻衣						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての舞踊の基本となるバレエは、ヨーロッパで生まれ育った歴史の深い舞台芸術である。基礎・応用を徹底的に学び、「動きの美しさ」「姿勢の美しさ」「踊ることの楽しさ」を総合的に身に付け表現できる事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。男性はＴシャツ等に男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
　他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス　ストレッチ、バーレッスンなど
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎① 柔軟性
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎② 呼吸
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎③ 正しいプリエ
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎④ アライメントの意識
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑤ コアの強化
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　基礎⑥ ターンアウト 強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 足の裏からの安定
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 軸足の強化
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ 爪先の伸び
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ 上半身強化
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ ポールドブラ
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 目線
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 顔の位置・付け方
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期まとめ 音楽性

授業計画	
	[後期]
1	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習① 全身を引っ張る意識
2	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　前期の復習② 背中の意識
3	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用① 脚の伸び・ポジション
4	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用② 内腿の感覚
5	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用③ バランス
6	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用④ ホールドする力
7	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑤ 全身の筋力強化
8	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑥ 重心移動
9	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑦ 大きな動き
10	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑧ 動きのコーディネート
11	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑨ 空間の使い方
12	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑩ 応用力
13	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑪ 表現力
14	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　応用⑫ 総合力
15	ストレッチ、バーレッスン・センターレッスン　まとめ

科目名	身体表現実習　１－１　［月3］ジャイロ（DC専用）						
代表教員	宮内　真理子	授業コード	GE741300	科目コード	GE7413	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・元プリンシパルバレエダンサーが考案し「ダンサーのためのヨガ」として生まれた「ジャイロキネシス」（GYROKINESIS®）を通じて、踊るための動きやすい身体作り（ 柔軟性を高める、間接の可動域を広げる、中心軸、コアの強化 ）をする。
・外側から見えるポジションやムーブメントを内側にある感覚（解剖学的、心理的イメージ等）からどう身体の動きに繋げていくかを課題に、トレーニング、怪我の予防のエクササイズに留まらず、豊かな身体表現に繋げて行く。

２．授業概要

ジャイロキネシスの振り付け（クラスフォーマット）でリズミカルな呼吸と共に背骨を全ての方向に動かし、神経系に効率良く働きかける。その際に起こる感覚、イメージ、エネルギーの方向性、重力をどう感じ使うか等を確認し、ダンス、バレエの動きに繋げていく。股関節、骨盤の構造等ダンスに有効な解剖学を含め、機能的な使い方を学ぶ。各回の課題を、年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常に出来る呼吸法、丹田（下腹部の中心部＝身体を引き上げる際に最も必要な箇所）に働きかけるエクササイズ、授業で習った動きの復習

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（ジャイロキネシスの動きや、身体の使い方に対する理解度、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

資料は適時コピーして配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装、タイツ着用の場合は足裏に穴があり素足になれるもの。
ヨガマットまたは替りになる物、厚手のバスタオル等を用意すること（膝を付く、寝る体勢で動く時に膝、背中などが痛くならないように）

授業計画	
1	ガイダンス、フォーマット１、流れ、リズム､呼吸を重視
2	フォーマット１　基本の背骨の動き、骨盤の構造、骨盤と頭蓋骨のバランスの良い位置
3	フォーマット１　腕、肩との繋がり
4	フォーマット１　脚との繋がり､エネルギーの方向性
5	フォーマット１　ハムストリングのストレッチ､強化
6	フォーマット１　フロアワーク（キャットバック、股関節､膝、踵との繋がり）
7	フォーマット１　フロアワーク（仙骨の動き）
8	フォーマット１　フロアワーク（背筋）
9	フォーマット１　フロアワーク（腹筋）
10	フォーマット１　エアロビックシリーズ、中心軸、引き上げ､バネ感
11	フォーマット１　セルフマッサージ、固有受容感覚、重心のかけ方
12	フォーマット１　呼吸と目のエクササイズ、明確な方向性のある動き
13	フォーマット１　シバリング&ニーディング（エネルギーの凝縮、流す）アラインメント
14	フォーマット１　神経系を一気に起こすエクササイズ
15	フォーマット全体をなるべく流し、前期１５回での変化を確認、ディスカッション

授業計画	
1	フォーマット２　セルフマッサージ（固有受容感覚について）流れ、呼吸、詩的な表現
2	フォーマット２　背骨、骨盤、腕、脚、全体の動きのコンビネーションと動きの方向性
3	フォーマット２　のび、あくび”をするようなクオリティ＝動きの膨らみ、のびやかさ
4	フォーマット２　背骨を波打たせるウエーブ→動きに余韻をもたせる
5	フォーマット２　重力、流れに身をまかせる動き方
6	フォーマット２　フロワワーク（キャットバック＋手首ストレッチ）
7	フォーマット２　フロアワーク　胸、肩、腕の繋がり、仙骨からの動き
8	フォーマット２　フロアワーク（ウェーブの背骨の動きと脚のコントラスト）
9	フォーマット２　フロアワーク（背筋）
10	フォーマット２　フロアワーク（腹筋）呼吸法の確認
11	フォーマット２　スタンディングウェーブシリーズ（立位での踵、膝、座骨の繋がり）
12	フォーマット２　股関節、膝、つま先の関係
13	フォーマット２ 関節の構造、テコの原理→アラベスク、アラセゴンド、ドゥバン等確認
14	フォーマット２　中から自然に感じられる引き上げ、ターンアウト
15	フォーマット２　全体をなるべく流し、後期での変化を確認ディスカッション

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（安達悦子クラス）						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7413G1	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	樫村　理沙、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ　（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（小林洋壱クラス）						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE7413G2	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、林　萌美						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ　（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（草間華奈クラス）						
代表教員	草間　華奈	授業コード	GE7413G3	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ　（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸　（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化　（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（奥田さやかクラス）						
代表教員	奥田　さやか	授業コード	GE7413M1	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	柿崎　俊也、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスンを通してより高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）授業への参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード（巻スカート・フィットする短パンのみ着用可）、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からTシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性は、Tシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ（短パン着用可）、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ（ポニーテール等禁止）、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識　基礎）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識　　発展）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ　基礎）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいプリエ　発展）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト　基礎）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト　発展）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識　基礎）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識　　発展）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ　　基礎）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（正しい腕の使い方　ポールドブラ　　発展）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線　　基礎）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線　　発展）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①（前期の復習）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しいアンシェヌマンの理解　基礎）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解　発展）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（テクニックの強化　回転　基礎）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化　回転　発展）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化　　アレグロ　基礎）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化　　アレグロ　発展）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化　まとめ）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション　基礎）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション　　発展）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（応用力）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　総合力）

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（齊藤拓クラス）						
代表教員	齊藤　拓	授業コード	GE7413T1	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、日原　永美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－１～４－１　［水1］（佐藤麻利香クラス）						
代表教員	佐藤　麻利香	授業コード	GE7413T2	科目コード	GE7413d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、日原　永美子、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－２　［火4］コンテンポラリー（DC専用）						
代表教員	安藤　洋子	授業コード	GE741400	科目コード	GE7414	期間	通年
担当教員	アレッシオ　シルヴェストリン、上田　舞香						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自由な発想を持ちつつ、振付家または演出家の意図を深く理解し、身体表現として体現できるパフォーマーとしての身体基礎を養う。

ダンスの分野だけにとどまらず、芸術（美術、音楽、映像など）としてのコンテンポラリーと呼ばれる分野の理解を深める。
その上で身体表現においてのコンテンポラリーとは？パフォーミングアートとは？をディスカッションをしていき、それぞれ自己のカラダ及び思考の特徴と自己表現の可能性を多角的かつ具体的にどのように探していくのかを学ぶ。

身体が動くということの不思議と身体の物理的法則を学び、体と心を総合的に自分と自然に向き合えるように導きつつ、自分の発想を体現できる強く繊細な身体を作ることを目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

＜身体感覚を研ぎ澄ますトレーニング＞
カラダを連動させいく訓練を細部にわたって実施する。
このトレーニングを行うことで身体意識を高め、無駄な力みのないカラダを作っていきます。
柔軟性、瞬発力、集中力が向上を目指し、全てのダンス表現に通じる基礎技術を高めていきます。

＜コンビネーション&創作クリエーション＞
音楽性、空間把握能力の向上を目指し、振付を理解する能力と自分で創作できるチカラを高めていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ／コンテンポラリー／パフォーマンス、視覚芸術関連の鑑賞（舞台、DVD等）日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%(コンテンポラリーダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

歴史に残るモダンダンス、ヌーベルダンス、コンテンポラリーダンスの振付家の作品映像。
資料は必要に応じて適宜コピーする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

レオタードその他の関節の動きが見えるような衣服。
薄すぎない靴下を素足に着用。入手可能なバレエ・シューズも持参してください。
頭を床に真直ぐ置けるように髪を適切にまとめる。
ジュエリーや腕時計は外すこと。

パフォーマンスのために、以下のものがあれば望ましい。
ストレッチ素材でできたフィットするズボン、色：黒
フィットしたＴシャツ、あるいは、レオタード、色：黒
靴下、色：黒

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス。　コンテンポラリーダンスの概要説明、カラダの連動についての説明と実習。
2	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎①ワームアップ方法
3	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、　カラダの連動の習得　基礎②ストレッチ方法
4	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎③柔軟性
5	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎④正しいプリエ
6	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎⑤ポジションの作り方、コンビネーション 導入
7	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎⑥背中の意識、コンビネーション 基礎
8	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎⑦軸足の強化、コンビネーション 基礎応用
9	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎⑧無駄のない動き、コンビネーション 応用
10	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎⑨筋力の強化、振付クリエーション　導入
11	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、　カラダの連動の習得　基礎⑩重さの使い方、振付クリエーション 基礎
12	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得 基礎発展①、振付クリエーション基礎応用
13	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得 基礎発展② 、振付クリエーション応用
14	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得 基礎発展③、振付クリエーション応用発展
15	前期総括

授業計画	
	[後期]
1	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎（前期の復習）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション（ソロ編 基礎）
2	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎発展① フロアーテクニック（両手）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （ソロ編 応用）
3	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎発展②スモールジャンプテクニック、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （ソロ編 応用発展）
4	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎発展③ビックジャンプテクニック 、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （デュオ編 基礎）
5	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎発展④回転テクニック（片足）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （デュオ編 応用）
6	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎発展⑤回転テクニック（両足）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （デュオ編 応用発展）
7	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎発展⑦フロアーテクニック（片手）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （グループ編 基礎）
8	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎発展 ⑧バランス、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （グループ編 応用）
9	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎発展⑨コーディネーション、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （グループ編 応用発展）
10	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、外部からの刺激で身体を動かすコンタクトインプロビゼーションテクニック ①導入。
11	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、外部からの刺激で身体を動かすコンタクトインプロビゼーションテクニック② 基礎。
12	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、外部からの刺激で身体を動かすコクトタクトインプロビゼーションテクニック③ 基礎応用。
13	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、外部からの刺激で身体を動かすコンタクトインプロビゼーションテクニック ④応用。
14	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、外部からの刺激で身体を動かすコンタクトインプロビゼーションテクニック ⑤総合。
15	後期総括

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（信田洋子クラス）						
代表教員	信田　洋子	授業コード	GE7414G1	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、林　萌美、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）　ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）　ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）　ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）　ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ　（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）　ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）　ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）アントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（小林洋壱クラス）						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE7414G2	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、安藤　江利						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）　ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）　ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）　ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）　ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ　（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）　ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）　ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）アントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（加藤浩子クラス）						
代表教員	加藤　浩子	授業コード	GE7414G3	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール　（表現法）　ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）　ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）　ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）　ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ　（表現の工夫）ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）　ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）　ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ　（表現の工夫）ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現法）アントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（鈴木理奈クラス）						
代表教員	鈴木　理奈	授業コード	GE7414M2	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか、中村　望						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、舞台に立つ為の技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスン、公演を通して、より高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(評価の50%)授業への参加姿勢(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識　基礎）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識　　発展）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ　　基礎）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④(正しいプリエ　発展)
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト　　基礎）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト　　発展）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識　　基礎）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識　　発展）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ　　基礎）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（正しい腕の使い方　ポールドブラ　　発展）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線　　基礎）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線　　発展）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）

授業計画	
	［前期］
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①（前期の復習）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しいアンシェヌマンの理解　基礎）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解　発展）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（テクニックの強化　回転　基礎）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化　回転　発展）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化　アレグロ　基礎）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化　アレグロ　発展）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化　まとめ）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション　基礎）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション　発展）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭(応用力)
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　総合力）

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（髙部尚子クラス）						
代表教員	髙部　尚子	授業コード	GE7414T1	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、日原　永美子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－２～４－２　［木1］（三木雄馬クラス）						
代表教員	三木　雄馬	授業コード	GE7414T2	科目コード	GE7414d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、日原　永美子、西﨑　希、担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（安達悦子クラス）						
代表教員	安達　悦子	授業コード	GE7415G1	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）　ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）　ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）　ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）　ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（小林洋壱クラス）						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE7415G2	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、担当教員						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）　ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）　ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）　ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）　ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（沖田貴士クラス）						
代表教員	沖田　貴士	授業コード	GE7415G3	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」とも言われる総合芸術であり、ダンサーの身体は楽器である。
クラシック・バレエのクラスレッスンを行い、芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール、コーディネーションなどを向上させることを目標とする。
基本を理解し習得することによって、正しい姿勢、体の使い方を身につける。パを正しく理解し、アンシェヌマンへと繋げられるようにする。
音楽性、コーディネーションを大切に表現力の伴った芸術性ある踊り方を習得する。

２．授業概要

各授業のクラスレッスンは、バー・レッスンとセンター・レッスン、ポアントワークにより構成される

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞(舞台、DVDなど)。　日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
その都度指定する。

授業計画	
	[前期]
1	クラスレッスン　正しい姿勢（表現法）　ガイダンス
2	クラスレッスン　正しい姿勢（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現法）ポアントワーク
4	クラスレッスン　アン・ドゥオール（表現の工夫）　ポアントワーク
5	クラスレッスン　正しいプリエ（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　正しいプリエ（表現の工夫）　ポアントワーク
7	クラスレッスン　足の使い方（表現法）ポアントワーク
8	クラスレッスン　足の使い方（表現の工夫）　ポアントワーク
9	クラスレッスン　足の使い方（表現の掘り下げ）　ポアントワーク
10	クラスレッスン ポール・ド・ブラ（表現法）ポアントワーク
11	クラスレッスンポール・ド・ブラ（表現の工夫）　ポアントワーク
12	クラスレッスン　アダジオ（表現法）ポアントワーク
13	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現法）ポアントワーク
14	クラスレッスン　スペーシング ポアントワーク
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	クラスレッスン　前期の復習
2	クラスレッスン　アダジオ（表現の工夫）　ポアントワーク
3	クラスレッスン　音楽と呼吸（表現の工夫）　ポアントワーク
4	クラスレッスン アダジオ（表現の掘り下げ）ポアントワーク
5	クラスレッスン　回転の強化（表現法）ポアントワーク
6	クラスレッスン　回転の強化（表現の工夫）ポアントワーク
7	クラスレッスン　回転の強化　（表現の掘り下げ）ポアントワーク
8	クラスレッスン アレグロの強化（表現法）ポアントワーク
9	クラスレッスン　アレグロの強化（表現の工夫）ポアントワーク
10	クラスレッスン アレグロの強化（表現の掘り下げ）ポアントワーク
11	クラスレッスン アンシェヌマンの把握（表現法）ポアントワーク
12	クラスレッスン アンシェヌマンの把握　（表現の工夫）　ポアントワーク
13	クラスレッスン 音楽的な動き　ポアントワーク
14	クラスレッスン 表現力　ポアントワーク
15	後期まとめ

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（館野若葉クラス）						
代表教員	館野　若葉	授業コード	GE7415M3	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか、尾形　結実、松本　麻衣						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間のレッスンを通してクラシックバレエの基礎を学び、技術、表現力、音楽性を習得する。
生演奏でのレッスンを通してより高い音楽性を身につけることにより、舞台人としての表現の幅を広げる。

２．授業概要

各授業ごとに、正しいポジション・体の使い方・技術の習得・表現力・音楽性　等の目標を設定しレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業前に前回までの復習、ストレッチをしておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）授業への参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード（巻スカート・フィットする短パンのみ着用可）、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からTシャツ等の着用は禁止。トゥシューズを用意のこと。
男性は、Tシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ（短パン着用可）、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ（ポニーテール等禁止）、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、バーレッスン、センターレッスン①（正しい立ち方、軸を意識　基礎）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しい立ち方、軸を意識　発展）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいプリエ　基礎）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（正しいプリエ　発展）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（正しい足の使い方　ターンアウト　基礎）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（正しい足の使い方　ターンアウト　発展）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（正しい足の使い方　爪先の意識　基礎）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（正しい足の使い方　爪先の意識　発展）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（正しい腕の使い方　ポールドブラ　基礎）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（正しい腕の使い方　ポールドブラ　発展）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（正しい顔の位置、付け方、目線　基礎）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（正しい顔の位置、付け方、目線　発展）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（動きと呼吸の関連）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（体全体のコーディネーション）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（前期まとめ）

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク①（前期の復習）
2	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク②（正しいアンシェヌマンの理解　基礎）
3	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク③（正しいアンシェヌマンの理解　発展）
4	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク④（テクニックの強化　回転 基礎）
5	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑤（テクニックの強化　回転 発展）
6	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑥（テクニックの強化　アレグロ 基礎）
7	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑦（テクニックの強化　アレグロ　発展）
8	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑧（テクニックの強化　まとめ）
9	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑨（様々な動きのコンビネーション　基礎）
10	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑩（様々な動きのコンビネーション　発展）
11	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑪（空間の使い方　スペーシング）
12	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑫（音楽性）
13	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑬（表現力）
14	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑭（応用力）
15	バーレッスン、センターレッスン、ポアントワーク⑮（後期まとめ　総合力）

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（佐藤麻利香クラス）						
代表教員	佐藤　麻利香	授業コード	GE7415T1	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、日原　永美子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－３～４－３　［金1］（日原永美子クラス）						
代表教員	日原　永美子	授業コード	GE7415T2	科目コード	GE7415d	期間	通年
担当教員	井口　美穂						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエは「目で見る音楽」と言われるくらい音楽とは密接な関係である。生演奏でのクラスレッスンを通して感性を磨き、クラシックバレエの基礎、応用、正しい身体の使い方、技術、表現力を総合的に身に付ける事を目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、筋力強化エクササイズ、授業で習った動きの復習、バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞等

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％（バレエの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度、試験等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は、女性はシンプルなレオタード(巻スカート・フィットする短パンのみ着用可)、バレエ用タイツ、バレエシューズを着用し、レオタードの上からＴシャツ等の着用は禁止。トウシューズを用意のこと。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、バレエシューズを着用すること。
他にタオル・飲み物等を用意し、髪が長い場合はシニヨン等にして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　バーレッスン・センターレッスン①　柔軟性
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　呼吸
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　正しいプリエ
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　アライメントの意識
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　コアの強化
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ターンアウト強化
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　足の裏からの安定
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　軸足の強化
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　爪先の伸び
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　ポアントアライメントの意識
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　上半身強化
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　ポールドブラ
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　目線
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　顔の位置・付け方
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　音楽性

授業計画	
	［後期］
1	バーレッスン・センターレッスン①　全身を引っ張る意識
2	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク②　背中の意識
3	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク③　脚の伸び・ポジション
4	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク④　内腿の感覚
5	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑤　バランス
6	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑥　ホールドする力
7	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑦　全身の筋力強化
8	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑧　重心移動
9	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑨　大きな動き
10	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑩　動きのコーディネート
11	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑪　空間の使い方
12	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑫　応用力
13	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑬　役柄の理解力
14	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑭　表現力
15	バーレッスン・センターレッスン・ポアントワーク⑮　総合力

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　［月3］（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）						
代表教員	小林　洋壱	授業コード	GE7416G4	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員	安達　悦子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエの動きを基礎とし、新しい動きや身体の使い方の発見、そこから身体表現としての可能性を感じ、体験していく。
様々な振付家の要求する身体表現に対応出来るようになることを最終目標とする。

２．授業概要

通常のバレエレッスンを応用したバーレッスン、センターレッスンを行う。
センターレッスンでは、様々なコンテンポラリーの振付家により使われるテクニックを紹介し、実際に動いて体験していくことで習得していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

in case of possibility, it is eventually suggested the book: Choreutics by Rudolf Laban.
推奨する教材：Choreutics　　ルドルフ・ラバン著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

レオタード、あるいは、自分で関節の動きがよくわかる、体にぴったりした服装。
あまり薄すぎないソックスをはいた裸足。バレエシューズも用意すること。
髪は床に寝たときに邪魔にならないように、きちんとまとめる。
アクセサリーや時計の着用は認めない。

授業計画	
	[前期]
1	骨盤、腰部の動き
2	骨盤、腰部、胸郭の動き
3	骨盤、腰部、胸郭、頭部の動き
4	骨盤、股関節の動き
5	骨盤を中心とした下肢の動き
6	コントラクション
7	バーレッスンの中でのコントラクションの応用
8	フロアーとコントラクション
9	クラシックバレエテクニックを基礎とした動きの拡張
10	フロアテクニック基礎
11	クラシックバレエのテクニックからフロアテクニックへの導入
12	クラシックバレエのテクニックからフロアテクニック基礎
13	様々なフロアーテクニックの紹介
14	様々なフロアテクニックの体験
15	前期まとめ

授業計画	
	[後期]
1	骨盤、腰部、胸郭、頭部の動きの復習
2	骨盤、腰部、胸郭、頭部の動きの復習 フロアーとコントラクション
3	骨盤を中心とした下肢の動きの復習
4	クラシックバレエテクニックを基礎とした動きの拡張 コンテンポラリー作品への対応
5	フロアテクニック基礎 コンテンポラリー作品へのフロアテクニックの導入
6	クラシックバレエを基礎としたコンテンポラリー作品の振付
7	フロアテクニックを使ったコンテンポラリー作品の振り付け
8	コンテンポラリー作品振付
9	コンテンポラリー作品振付 動きのコーディネーションについて
10	作品発表
11	作品発表の鑑賞
12	即興の手法の紹介
13	即興を体験する
14	即興から動きを創る体験
15	後期まとめ

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　［月3］（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）						
代表教員	アレッシオ　シルヴェストリン	授業コード	GE7416G5	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員	安藤　洋子、安達　悦子、上田　舞香						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

The class will introduce the dancers to multi-directional movements with the intention of developing their coordination skills in connection with the use of different qualities of physical tension and presence in space. By inducing a higher sense of awareness in motion, also with tasks of improvisation based on set choreography, the dancers will be stimulated towards a creative dance approach and encouraged to discover their artistic self expression.

本授業では、異なった質の体の動きで空間での存在意識を高めることを通して、動きの組み合わせについての技術を発展させることを意図とした、多様な（多方向性の）体の動きを追及していく。動作中の意識の高度な感覚を引き起こすことにより、また決まった振付を基礎にした即興の練習により、ダンサー達は、クリエイティブなダンスへのアプローチに向かって刺激を与えられ、自身の芸術的な表現の発見を促す。

２．授業概要

The warm-up with, or without bar and eventually also with use of the floor, will be composed of movements in relation to the ballet vocabulary initiated by the different centers of the body.
The warm-up aims to offer more attention to the movement of the torso.
The center work will present a choreographic material which will be memorized and analyzed in its physical expressive potential, also by introducing the dancers to apply various approaches of body contact between each other.
As well, the class will be partially based on the Improvisational Technologies, developed by world renowned choreographer William Forsythe and the Ballett Frankfurt.
Each class intends to examine the different Improvisational Modality.
Still the contents for the list of classes below might not follow the chronological order and will be eventually changed in relation to the development of the dancers during the period.

授業は、記憶されその身体の表現豊かな可能性の中に分析される振付の題材を提示する。そしてまた、ダンサー達に、ボディ・コンタクトの様々なアプローチをお互いに行う方法を紹介していく。
ウォームアップはバー、或いはバーなし、また床を使って身体の異なった中心による、バレエのヴォキャブラリーに対しての動作により構成される。ウォームアップの目的は「胴」の動きに対する認識を高めることにある。
併せて、授業は部分的に世界的に有名な振付家ウィリアム・フォーサイスとフランクフルトバレエ団で開発された the Improvisational Technologiesに則って行われることがある。各授業では異なるImprovisational Modality -即興様式の指導が行われる。
下記の授業内容のリストの順番に関係なく、その期間の履修生の上達度に合わせて結果的に変更されることがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）日々の復習と自習が大切である。
ウィリアム・フォーサイス　Improvisation Technologies　参照のこと
｛ https://www.youtube.com/user/GrandpaSafari｝

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

in case of possibility, it is eventually suggested the book: Choreutics by Rudolf Laban.
推奨する教材：Choreutics　　ルドルフ・ラバン著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Leotards, or other clothes adherent to the body which allow you to see the movement of the joints.
Bare feet wearing socks not too thin. Please bring available ballet shoes as well.
Hair properly collected in a way that may also allow to place the head straight on the floor. Jewelry, or watches are not allowed.

レオタード、あるいは、自分で関節の動きがよくわかる、体にぴったりした服装。
あまり薄すぎないソックスをはいた裸足。バレエシューズも用意すること。
髪は床に寝たときに邪魔にならないように、きちんとまとめる。
アクセサリーや時計の着用は認めない。

授業計画	
	[前期]
1	（前期課題）LINES クラスレッスン 表現法
2	（前期課題）LINES クラスレッスン 表現の工夫
3	（前期課題）LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	（前期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現法
5	（前期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	（前期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の掘り下げ
7	（前期課題）WRITING クラスレッスン表現法
8	（前期課題）WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	（前期課題）WRITING クラスレッスン　表現の掘り下げ
10	（前期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン表現法
11	（前期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン表現の工夫
12	（前期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の掘り下げ
13	（前期課題）REORGANOZING クラスレッスン表現法
14	（前期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	（前期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の掘り下げ

授業計画	
	[後期]
1	（後期課題）LINES クラスレッスン表現法
2	（後期課題）LINES クラスレッスン　表現の工夫
3	（後期課題）LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	（後期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現法
5	（後期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	（後期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の掘り下げ
7	（後期課題）WRITING クラスレッスン表現法
8	（後期課題）WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	（後期課題）WRITING クラスレッスン　表現の掘り下げ
10	（後期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現法
11	（後期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の工夫
12	（後期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン 表現の掘り下げ
13	（後期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現法
14	（後期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	（後期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の掘り下げ

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　［月4］（ｺﾝﾃﾝﾎﾟﾗﾘｰ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）						
代表教員	アレッシオ　シルヴェストリン	授業コード	GE7416G6	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員	安藤　洋子、安達　悦子、上田　舞香、担当教員						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

The class will introduce the dancers to multi-directional movements with the intention of developing their coordination skills in connection with the use of different qualities of physical tension and presence in space. By inducing a higher sense of awareness in motion, also with tasks of improvisation based on set choreography, the dancers will be stimulated towards a creative dance approach and encouraged to discover their artistic self expression.

本授業では、異なった質の体の動きで空間での存在意識を高めることを通して、動きの組み合わせについての技術を発展させることを意図とした、多様な（多方向性の）体の動きを追及していく。動作中の意識の高度な感覚を引き起こすことにより、また決まった振付を基礎にした即興の練習により、ダンサー達は、クリエイティブなダンスへのアプローチに向かって刺激を与えられ、自身の芸術的な表現の発見を促す。

２．授業概要

The warm-up with, or without bar and eventually also with use of the floor, will be composed of movements in relation to the ballet vocabulary initiated by the different centers of the body.
The warm-up aims to offer more attention to the movement of the torso.
The center work will present a choreographic material which will be memorized and analyzed in its physical expressive potential, also by introducing the dancers to apply various approaches of body contact between each other.
As well, the class will be partially based on the Improvisational Technologies, developed by world renowned choreographer William Forsythe and the Ballett Frankfurt.
Each class intends to examine the different Improvisational Modality.
Still the contents for the list of classes below might not follow the chronological order and will be eventually changed in relation to the development of the dancers during the period.

授業は、記憶されその身体の表現豊かな可能性の中に分析される振付の題材を提示する。そしてまた、ダンサー達に、ボディ・コンタクトの様々なアプローチをお互いに行う方法を紹介していく。
ウォームアップはバー、或いはバーなし、また床を使って身体の異なった中心による、バレエのヴォキャブラリーに対しての動作により構成される。ウォームアップの目的は「胴」の動きに対する認識を高めることにある。
併せて、授業は部分的に世界的に有名な振付家ウィリアム・フォーサイスとフランクフルトバレエ団で開発された the Improvisational Technologiesに則って行われることがある。各授業では異なるImprovisational Modality -即興様式の指導が行われる。
下記の授業内容のリストの順番に関係なく、その期間の履修生の上達度に合わせて結果的に変更されることがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）日々の復習と自習が大切である。
ウィリアム・フォーサイス　Improvisation Technologies　参照のこと
｛ https://www.youtube.com/user/GrandpaSafari｝

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

in case of possibility, it is eventually suggested the book: Choreutics by Rudolf Laban.
推奨する教材：Choreutics　　ルドルフ・ラバン著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Leotards, or other clothes adherent to the body which allow you to see the movement of the joints.
Bare feet wearing socks not too thin. Please bring available ballet shoes as well.
Hair properly collected in a way that may also allow to place the head straight on the floor. Jewelry, or watches are not allowed.

レオタード、あるいは、自分で関節の動きがよくわかる、体にぴったりした服装。
あまり薄すぎないソックスをはいた裸足。バレエシューズも用意すること。
髪は床に寝たときに邪魔にならないように、きちんとまとめる。
アクセサリーや時計の着用は認めない。

授業計画	
	[前期]
1	（前期課題）LINES クラスレッスン 表現法
2	（前期課題）LINES クラスレッスン 表現の工夫
3	（前期課題）LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	（前期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現法
5	（前期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	（前期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の掘り下げ
7	（前期課題）WRITING クラスレッスン表現法
8	（前期課題）WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	（前期課題）WRITING クラスレッスン　表現の掘り下げ
10	（前期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン表現法
11	（前期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン表現の工夫
12	（前期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の掘り下げ
13	（前期課題）REORGANOZING クラスレッスン表現法
14	（前期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	（前期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の掘り下げ

授業計画	
	[後期]
1	（後期課題）LINES クラスレッスン表現法
2	（後期課題）LINES クラスレッスン　表現の工夫
3	（後期課題）LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	（後期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現法
5	（後期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	（後期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の掘り下げ
7	（後期課題）WRITING クラスレッスン表現法
8	（後期課題）WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	（後期課題）WRITING クラスレッスン　表現の掘り下げ
10	（後期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現法
11	（後期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の工夫
12	（後期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン 表現の掘り下げ
13	（後期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現法
14	（後期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	（後期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の掘り下げ

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　［月1］（コンテンポラリー/牧クラス）						
代表教員	アレッシオ　シルヴェストリン	授業コード	GE7416M4	科目コード	GE7416Cd	期間	通年
担当教員	安藤　洋子、奥田　さやか、安藤　江利、上田　舞香						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

The class will introduce the dancers to multi-directional movements with the intention of developing their coordination skills in connection with the use of different qualities of physical tension and presence in space. By inducing a higher sense of awareness in motion, also with tasks of improvisation based on set choreography, the dancers will be stimulated towards a creative dance approach and encouraged to discover their artistic self expression.

本授業では、異なった質の体の動きで空間での存在意識を高めることを通して、動きの組み合わせについての技術を発展させることを意図とした、多様な（多方向性の）体の動きを追及していく。動作中の意識の高度な感覚を引き起こすことにより、また決まった振付を基礎にした即興の練習により、ダンサー達は、クリエイティブなダンスへのアプローチに向かって刺激を与えられ、自身の芸術的な表現の発見を促す。

２．授業概要

The warm-up with, or without bar and eventually also with use of the floor, will be composed of movements in relation to the ballet vocabulary initiated by the different centers of the body.
The warm-up aims to offer more attention to the movement of the torso.
The center work will present a choreographic material which will be memorized and analyzed in its physical expressive potential, also by introducing the dancers to apply various approaches of body contact between each other.
As well, the class will be partially based on the Improvisational Technologies, developed by world renowned choreographer William Forsythe and the Ballett Frankfurt.
Each class intends to examine the different Improvisational Modality.
Still the contents for the list of classes below might not follow the chronological order and will be eventually changed in relation to the development of the dancers during the period.

授業は、記憶されその身体の表現豊かな可能性の中に分析される振付の題材を提示する。そしてまた、ダンサー達に、ボディ・コンタクトの様々なアプローチをお互いに行う方法を紹介していく。
ウォームアップはバー、或いはバーなし、また床を使って身体の異なった中心による、バレエのヴォキャブラリーに対しての動作により構成される。ウォームアップの目的は「胴」の動きに対する認識を高めることにある。
併せて、授業は部分的に世界的に有名な振付家ウィリアム・フォーサイスとフランクフルトバレエ団で開発された the Improvisational Technologiesに則って行われることがある。各授業では異なるImprovisational Modality -即興様式の指導が行われる。
下記の授業内容のリストの順番に関係なく、その期間の履修生の上達度に合わせて結果的に変更されることがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）日々の復習と自習が大切である。
ウィリアム・フォーサイス　Improvisation Technologies　参照のこと
｛https://www.youtube.com/user/GrandpaSafari｝

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

in case of possibility, it is eventually suggested the book: Choreutics by Rudolf Laban.
推奨する教材：Choreutics　　ルドルフ・ラバン著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

Leotards, or other clothes adherent to the body which allow you to see the movement of the joints.
Bare feet wearing socks not too thin. Please bring available ballet shoes as well.
Hair properly collected in a way that may also allow to place the head straight on the floor. Jewelry, or watches are not allowed.

レオタード、あるいは、自分で関節の動きがよくわかる、体にぴったりした服装。
あまり薄すぎないソックスをはいた裸足。バレエシューズも用意すること。
髪は床に寝たときに邪魔にならないように、きちんとまとめる。
アクセサリーや時計の着用は認めない。

授業計画	
	[前期]
1	（前期課題）LINES クラスレッスン 表現法
2	（前期課題）LINES クラスレッスン 表現の工夫
3	（前期課題）LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	（前期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現法
5	（前期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	（前期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の掘り下げ
7	（前期課題）WRITING クラスレッスン表現法
8	（前期課題）WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	（前期課題）WRITING クラスレッスン　表現の掘り下げ
10	（前期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン表現法
11	（前期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン表現の工夫
12	（前期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の掘り下げ
13	（前期課題）REORGANOZING クラスレッスン表現法
14	（前期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	（前期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の掘り下げ

授業計画	
	[後期]
1	（後期課題）LINES クラスレッスン表現法
2	（後期課題）LINES クラスレッスン　表現の工夫
3	（後期課題）LINES クラスレッスン　表現の掘り下げ
4	（後期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン表現法
5	（後期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の工夫
6	（後期課題）COMPLEX OERATION-APPROACHES-AVOIDANCE クラスレッスン　表現の掘り下げ
7	（後期課題）WRITING クラスレッスン表現法
8	（後期課題）WRITING クラスレッスン　表現の工夫
9	（後期課題）WRITING クラスレッスン　表現の掘り下げ
10	（後期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現法
11	（後期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン　表現の工夫
12	（後期課題）ISOMETRIES-ADDITION クラスレッスン 表現の掘り下げ
13	（後期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現法
14	（後期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の工夫
15	（後期課題）REORGANOZING クラスレッスン　表現の掘り下げ

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　［月3］（コンテンポラリー/谷クラス）						
代表教員	日原　永美子	授業コード	GE7416T4	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、安藤　江利						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前期はコンテンポラリーダンスに触れ、体感し、身体の成り立ちやメカニズムを学び、学生各自が内観し洞察する機会を作る。後期は作品創りからパフォーマンスへと向かうプロセスにおける実体験を通して、さらに学びを深めてゆく。

２．授業概要

クラシックバレエの型を根底からよく見つめ直し、構造を解体し、脱構築することで新たな意味を獲得してゆく。自己と向き合い、身体意識を高める為に、各回に設定した目標を毎回の基礎練習において、前期15回を通して体得してゆく。

後期は、前期に学んだことを応用し、作品創りに挑戦する。各回ごとに設定した目標を意識しながら実践的に組み立て、クリエイティブな力を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った事柄の復習

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%
（テクニックの理解度、ムーヴメントへの関心度と習得度、授業の参加態度、自己表現力等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすく体のラインが見える服装、裸足または靴下を着用。必要に応じて、バレエシューズ、フロアワークのしやすい袖付きのシャツやスウェットパンツなどを使用。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス 立ち方、落とし方 身体の左右対称の意識、脱力とコントラクションの体験 フロアーからコンビネーションまで①
2	身体の中心軸の取り方、体幹の意識 アライメントの整え方、重心の移動 フロアーからコンビネーションまで②
3	呼吸 背面の筋肉を使っての呼吸の体得 フロアーからコンビネーションまで③
4	インナーマッスル 身体の内側の筋肉を呼び覚ます体験 フロアーからコンビネーションまで④
5	コアの強化 オフバランスと激しい動きの体験 フロアーからコンビネーションまで⑤
6	身体意識 内観から動きのコントロールを学ぶ フロアーからコンビネーションまで⑥
7	エクステンション 自ら限界を作らない動きの体験 フロアーからコンビネーションまで⑦
8	音楽性 音楽を立体化することの体験 フロアーからコンビネーションまで⑧
9	共振 ユニゾンにおいて呼吸を一致させる体験 フロアーからコンビネーションまで⑨
10	コーディネーション能力 準備-実行の重要性を体感する フロアーからコンビネーションまで⑩
11	空間把握 所有できる空間を広げる体験　フロアーからコンビネーションまで⑪
12	第三者に伝える 共振が第三者の共鳴となり、共感を呼ぶことの体験 フロアーからコンビネーションまで⑫
13	総合復習① コンビネーションからクリエーションまで①
14	総合復習② コンビネーションからクリエーションまで②　確認
15	総合復習③ コンビネーションからクリエーションまで③　定着

授業計画	
	［後期］
1	クラス発表準備①　エクササイズ振付
2	クラス発表準備②　エクササイズ復習
3	クラス発表準備③　コンビネーション振付
4	クラス発表準備④　コンビネーション復習
5	クラス発表準備⑤　フォーメーション振付
6	クラス発表準備⑥　フォーメーション復習
7	クラス発表準備⑦　　場当たり稽古、復習
8	クラス発表準備⑧　　通し稽古
9	コンテンポラリーバーレッスン① 自己と向き合う
10	コンテンポラリーバーレッスン② 自己の身体と向き合う
11	コンテンポラリーバーレッスン③ 自己の精神と向き合う
12	コンテンポラリーバーレッスン④ ソロ即興演習①
13	コンテンポラリーバーレッスン⑤ ソロ即興演習②　確認
14	コンテンポラリーバーレッスン⑥ ソロ即興演習③　定着
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－４～４－４　［月4］（コンテンポラリー/谷クラス）						
代表教員	坂田　守	授業コード	GE7416T5	科目コード	GE7416d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、日原　永美子、安藤　江利、長谷川　まいこ						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

多種多様なスタイルの身体表現に効果的な「理にかなった動きやすい身体」を求め実習していきます。
受講者は自らの経験、感性、身体と向き合い、コンテンポラリーダンスの基礎と応用を学ぶ事で、作品や振付毎に柔軟に対応できる「心技体」そして「表(表現)」の習得を目指します。

２．授業概要

授業では、呼吸と動きの連動を重視し、「自覚する」「組み立てる」「動く」「自在に操る」を目的に数種類のエクササイズを繰り返します。その後、実践を意識した空間や音楽との関わり方を含めた振付（コンビネーション）を行います。コンテンポラリーダンスに必要な基礎エクササイズ、フロアーテクニック、コンタクトワーク、インプロビゼーションを学ぶ中で、踊る時に産まれるエネルギーの発動とその流れを正確に掴み、感覚と身体を鍛錬する方法と表現力を探求します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った事柄の復習。課題の実践(宿題)

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（エクササイズの理解度、ムーブメントへのアプローチの変化と習得度、授業の参加態度、出席率、コンビネーション(振付)における身体能力表現力を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすく体のラインが見える服装、基本的に素足。(慣れない間は靴下も可。)必要に応じてフロアワークのしやすい袖付きのシャツやスエットパンツなどを使用。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、基礎エクササイズ(1) 呼吸と動きの繋がり 前期コンビネーション実習1
2	基礎エクササイズ(2) 腹式呼吸、胸式呼吸と動きの連動 前期コンビネーション実習2
3	基礎エクササイズ(3) 骨盤底筋の意識と使い方 前期コンビネーション実習3
4	基礎エクササイズ(4) 骨盤底筋と呼吸、下半身と上半身の連動 前期コンビネーション実習4
5	基礎エクササイズ(5) ロールダウンとロールアップ 前期コンビネーション実習5
6	基礎エクササイズ(6) 骨から動くイメージの多様性 前期コンビネーション実習6
7	基礎エクササイズ(7) 関節を閉めないで使う方法 前期コンビネーション実習7
8	基礎エクササイズ(8) 身体の内側と外側を繋ぐ皮膚感覚 前期コンビネーション実習8
9	基礎エクササイズ(9) パラレルポジションとオープンポジションの使い分け 前期コンビネーション実習9
10	基礎エクササイズ(10) 手先と足底感覚のコントロール 前期コンビネーション実習10
11	基礎エクササイズ(11) 床へのアプローチ 前期コンビネーション実習11
12	基礎エクササイズ(12) 動きの緩急と呼吸 前期コンビネーション実習12
13	基礎エクササイズ(13) 動きの緩急と発声 前期コンビネーション実習13
14	基礎エクササイズ(14) 動きの質感の捉え方の明瞭性 前期コンビネーション実習14
15	前期コンビネーション ・ショウイング

授業計画	
	［後期］
1	基礎エクササイズ(1) 頚椎の意識と目線・胸骨と胸郭の意識と胸式呼吸 後期コンビネーション実習1(ショーイングに向けての構成1)
2	基礎エクササイズ(2) 背骨、肩甲骨から手先への意識・骨盤と股関節の連動と床との関係(垂直、斜め、平行、スパイラル) 後期コンビネーション実習2(ショーイングに向けての構成2)
3	基礎エクササイズ(3) フロアーテクニック入門「転がる」 後期コンビネーション実習3(ショーイングに向けての構成3)
4	基礎エクササイズ(4) フロアーテクニック基礎「滑る」 後期コンビネーション実習4(ショーイングに向けての構成4)
5	基礎エクササイズ(5) フロアーテクニック発展「躍動と吸収」 後期コンビネーション実習5(ショーイングに向けての構成5)
6	基礎エクササイズ(6) コンタクトワーク入門 「触れる、支える」 後期コンビネーション実習6(ショーイングに向けての構成6)
7	基礎エクササイズ(7) ショーイングに向けての実践的なリハーサル 後期コンビネーション実習7
8	基礎エクササイズ(8) ショーイング
9	基礎エクササイズ(9) コンタクトワーク基礎「操る、接点」 後期コンビネーション実習8
10	基礎エクササイズ(10) コンタクトワーク発展「体重と引力を使ったリフト」 後期コンビネーション実習9
11	基礎エクササイズ(11) インプロビゼーションへの導入「構築と解放」 後期コンビネーション実習10
12	基礎エクササイズ(12) 音楽へのアプローチとインプロビゼーション 後期コンビネーション実習11
13	基礎エクササイズ(13) 空間へのアプローチとインプロビゼーション 後期コンビネーション実習12
14	基礎エクササイズ(14) 他者へのアプローチとインプロビゼーション 後期コンビネーション実習13
15	まとめ

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　［火3］（ｷｬﾗｸﾀｰﾀﾞﾝｽ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）						
代表教員	イリイン　ゲンナジー	授業コード	GE7417G5	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、木賀　真佐子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前年度で学んだキャラクターダンスの基本ステップ、技術、表現等を発展させ、応用的に学び体得する。キャラクターダンスの踊り、またはバレエ作品の中のキャラクターダンスが踊れるようになることを目標とする。キャラクターダンスを学ぶ過程で、舞台芸術の表現の可能性も理解する。

２．授業概要

ロシアのバレエ学校のプログラムに基づいたキャラクターダンスを学ぶ。また、その過程で音楽性、表現力、舞踊性等を学び身に付けて行く。バーレッスン、センターレッスンで構成され、バレエ作品の中のキャラクターの踊りを習得する。授業、リハーサルの過程でそれぞれに合った踊りを特定して練習する場合もある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習、舞台、ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）提出物を含む参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒のひざ下丈スカート（必要に応じ、丈、素材の違うスカートを各自購入する場合もある）、キャラクターシューズ（新しく購入する場合は３cmヒール（例:ＢＬＯＳＨのＳＯ４２７Ｌパリス）、また、必要に応じて他のシューズを各自購入する場合もある）。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用タイツ（短パン着用可）。小道具として、必要に応じ扇子、タンバリン、カスタネット等、各自用意する場合もある。
他、タオル、水分補給のための飲み物を準備。髪の長さにかかわらず、首のラインが見えるように、また頭を振っても動きの邪魔にならない様に髪の毛はまとめる。
授業開始時刻には着替えを済ませて入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス [バーレッスン]　Plie,battement tendu　多種の修得、発展と応用 [センターレッスン]　色々なキャラクターのエレメント
2	[バーレッスン] Battement Tendu jete, Rond de jambe par terre, rond pied par terre　発展と応用 [センターレッスン]　基本のステップ、reverence、色々なキャラクターのエレメント
3	[バーレッスン]　復習と練習、修得　Battement Fonduの種類、 ベリョーボチカの応用 [センターレッスン] 復習と練習、修得　色々なキャラクターのエレメント
4	[バーレッスン]　復習と練習、修得　Pas Tortille, Passe　発展と応用 [センターレッスン] 復習と練習、修得　ハンガリーの踊り　（背景、特徴の理解）
5	[バーレッスン]　復習と練習、修得　Battement Developpe, Grand battement　多種の修得、発展と応用 [センターレッスン] 復習と練習、修得　ハンガリーの踊り　（表現法）
6	[バーレッスン]　復習と練習、修得　スペインのエレメント　発展と応用 [センターレッスン] 復習と練習、修得　ハンガリーの踊り　（表現の掘り下げ）
7	[バーレッスン]　復習と練習、修得　flic flac　発展と応用 [センターレッスン] 復習と練習、修得　ナポリの踊り　（背景、特徴の理解）
8	[バーレッスン]　復習と練習、修得　ヒールの動き　発展と応用 [センターレッスン]復習と練習、修得　ナポリの踊り　（表現法）
9	[バーレッスン]　復習と練習、修得　東洋の要素　応用 [センターレッスン] 復習と練習、修得　ナポリの踊り　（表現の掘り下げ）
10	[バーレッスン]　復習と練習、修得　ジプシーの動き　発展と応用 [センターレッスン] 復習と練習、修得　スペインの踊り　（背景と特徴の理解）
11	[バーレッスン]　復習と練習、修得　grand battemetnt　発展と応用 [センターレッスン] 復習と練習、修得　スペインの踊り　（表現法）
12	[バーレッスン]　復習と練習、修得　（自らの課題を意識して） [センターレッスン] 復習と練習、修得　スペインの踊り　（表現の掘り下げ）
13	[バーレッスン]　復習と練習、修得　（自らの課題を意識し、続けて動けるよう練習） [センターレッスン] 復習と練習、修得　ポーランドの踊り　（動きの特徴の理解）
14	[バーレッスン]　復習と練習、修得　（自らの課題の修得） [センターレッスン] 復習と練習、修得　ポーランドの踊り（表現法）
15	[バーレッスン]　前期のまとめ [センターレッスン] 復習と練習、修得　ポーランドの踊り　（表現の掘り下げ） 前期の理解度、修得度の確認

授業計画	
	[後期]
1	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　　ハンガリーの踊り（表現法）
2	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　　ハンガリーの踊り（表現の工夫）
3	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　　ハンガリーの踊り（表現の掘り下げ）
4	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　　ナポリの踊り（表現法）
5	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ナポリの踊り（表現の工夫）
6	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　スペインの踊り（表現法）
7	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　スペインの踊（表現の工夫）
8	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　スペインの踊り（表現の掘り下げ）
9	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ポーランドの踊り（表現法）
10	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ポーランドの踊り（表現の工夫）
11	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ポーランドの踊り（表現の掘り下げ）
12	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン]　各踊りの練習、修得、表現　（表現法）
13	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン]　各踊りの練習、修得、表現　（表現の工夫）
14	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン]　各踊りの練習、修得、表現　（表現の掘り下げ）
15	１年のまとめ

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　［火4］（ｷｬﾗｸﾀｰﾀﾞﾝｽ/ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｸﾗｽ）						
代表教員	イリイン　ゲンナジー	授業コード	GE7417G6	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員	安達　悦子、木賀　真佐子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

キャラクターダンスの特徴を理解し、基本ステップ、技術、表現を身に付ける。エチュード等、キャラクターダンスの簡単な踊り、またはバレエ作品の中のキャラクターダンスが踊れるようになることを目標とする。

２．授業概要

ロシアのバレエ学校のプログラムに基づいたキャラクターダンスを学ぶ。また、その過程で音楽性、表現力、舞踊性等を学び身に付けて行く。バーレッスン、センターレッスンで構成され、エチュード、バレエ作品の中のキャラクターの踊りを習得する。授業、リハーサルの過程でそれぞれに合った踊りを特定して練習する場合もある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習、舞台、ＤＶＤ鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）提出物を含む参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒のひざ下丈スカート（必要に応じ、丈、素材の違うスカートを各自購入する場合もある）、キャラクターシューズ（新しく購入する場合は３cmヒール（例:ＢＬＯＳＨのＳＯ４２７Ｌパリス）、また、必要に応じて他のシューズを各自購入する場合もある）。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用タイツ（短パン着用可）。小道具として、必要に応じ扇子、タンバリン、カスタネット等、各自用意する場合もある。
他、タオル、水分補給のための飲み物を準備。髪の長さにかかわらず、首のラインが見えるように、また頭を振っても動きの邪魔にならない様に髪の毛はまとる。
授業開始時刻には着替えを済ませて入室すること。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス 手・脚のポジション [バーレッスン]　Plie,battement tendu [センターレッスン]　色々なキャラクターのエレメント
2	[バーレッスン] Battement Tendu jete, Rond de jambe par terre, rond pied par terre [センターレッスン]　基本のステップ、reverence、色々なキャラクターのエレメント
3	[バーレッスン]　復習と練習、修得　Battement Fondu, ベリョーボチカの練習 [センターレッスン] 復習と練習、修得　色々なキャラクターのエレメント
4	[バーレッスン]　復習と練習、修得　Pas Tortille, Passe [センターレッスン] 復習と練習、修得　ハンガリーのエチュードまたはハンガリーの踊り
5	[バーレッスン]　復習と練習、修得　Battement Developpe, Grand battement [センターレッスン] 復習と練習、修得　ハンガリーのエチュードまたはハンガリーの踊り
6	[バーレッスン]　復習と練習、修得　スペインのエレメント [センターレッスン] 復習と練習、修得　ハンガリーのエチュードまたはハンガリーの踊り
7	[バーレッスン]　復習と練習、修得　flic flac [センターレッスン] 復習と練習、修得　ナポリのエチュードまたはナポリの踊り
8	[バーレッスン]　復習と練習、修得　ヒールの動き [センターレッスン]復習と練習、修得　ナポリのエチュードまたはナポリの踊り
9	[バーレッスン]　復習と練習、修得　東洋の要素 [センターレッスン] 復習と練習、修得 ナポリのエチュードまたはナポリの踊り
10	[バーレッスン]　復習と練習、修得　ジプシーの動き [センターレッスン] 復習と練習、修得　スペインのエチュードまたはスペインの踊り
11	[バーレッスン]　復習と練習、修得　grand battemetnt [センターレッスン] 復習と練習、修得　スペインのエチュードまたはスペインの踊り
12	[バーレッスン]　復習と練習、修得　（自らの課題を意識して） [センターレッスン] 復習と練習、修得　スペインのエチュードまたはスペインの踊り
13	[バーレッスン]　復習と練習、修得　（自らの課題を意識し、続けて動けるよう練習） [センターレッスン] 復習と練習、修得　ポーランドのエチュードまたはポーランドの踊り（動きの特徴の理解）
14	[バーレッスン]　復習と練習、修得　（自らの課題の修得） [センターレッスン] 復習と練習、修得　ポーランドのエチュードまたはポーランドの踊り（表現法）
15	[バーレッスン]　前期のまとめ [センターレッスン] 復習と練習、修得　ポーランドのエチュードまたはポーランドの踊り 前期の理解度、修得度の確認

授業計画	
	[後期]
1	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ハンガリーのエチュードまたはハンガリーの踊り（表現法）
2	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ハンガリーのエチュードまたはハンガリーの踊り（表現の工夫）
3	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ハンガリーのエチュードまたはハンガリーの踊り（表現の掘り下げ）
4	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ナポリのエチュードまたはナポリの踊り（表現法）
5	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ナポリのエチュードまたはナポリの踊り（表現の工夫）
6	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　スペインのエチュードまたはスペインの踊り（表現法）
7	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　スペインのエチュードまたはスペインの踊（表現の工夫）
8	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　スペインのエチュードまたはスペインの踊り（表現の掘り下げ）
9	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ポーランドのエチュードまたはポーランドの踊り（表現法）
10	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ポーランドのエチュードまたはポーランドの踊り（表現の工夫）
11	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン] 復習と練習、応用　ポーランドのエチュードまたはポーランドの踊り（表現の掘り下げ）
12	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン]　各エチュード、踊りの練習、修得（表現法）
13	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン]　各エチュード、踊りの練習、修得（表現の工夫）
14	[バーレッスン]　復習と練習、応用 [センターレッスン]　各エチュード、踊りの練習、修得（表現の掘り下げ）
15	１年間のまとめ

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　［月4］（ジャイロ）						
代表教員	宮内　真理子	授業コード	GE7417J0	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・元プリンシパルバレエダンサーが考案し「ダンサーのためのヨガ」として生まれた「ジャイロキネシス」（GYROKINESIS®）を通じて、踊るための動きやすい身体作り（ 柔軟性を高める、間接の可動域を広げる、中心軸、コアの強化 ）をする。
・外側から見えるポジションやムーブメントを内側にある感覚（解剖学的、心理的イメージ等）からどう身体の動きに繋げていくかを課題に、トレーニング、怪我の予防のエクササイズに留まらず、豊かな身体表現に繋げて行く。

２．授業概要

ジャイロキネシスの振り付け（クラスフォーマット）でリズミカルな呼吸と共に背骨を全ての方向に動かし、神経系に効率良く働きかける。その際に起こる感覚、イメージ、エネルギーの方向性、重力をどう感じ使うか等を確認し、ダンス、バレエの動きに繋げていく。股関節、骨盤の構造他、バレエに有効な解剖学を含み、機能的な使い方を学ぶ。各回の課題を、年間を通して体得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常に出来る呼吸法、丹田（下腹部の中心部＝身体を引き上げる際に最も必要な箇所）に働きかけるエクササイズ、授業で習った動きの復習

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%　（ジャイロキネシスの動きや、身体の使い方に対する理解度、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

資料は適時コピーして配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装、タイツ着用の場合は足裏に穴があり素足になれるもの。
ヨガマットまたは替りになる物、厚手のバスタオル等を用意すること（膝を付く、寝る体勢で動く時に膝、背中などが痛くならないように）

授業計画	
1	ガイダンス、フォーマット１、流れ、リズム､呼吸を重視
2	フォーマット１　基本の背骨の動き、骨盤の構造、骨盤と頭蓋骨のバランスの良い位置
3	フォーマット１　腕、肩との繋がり
4	フォーマット１　脚との繋がり､エネルギーの方向性
5	フォーマット１　ハムストリングのストレッチ､強化
6	フォーマット１　フロアワーク（キャットバック、股関節､膝、踵との繋がり）
7	フォーマット１　フロアワーク（仙骨の動き）
8	フォーマット１　フロアワーク（背筋）
9	フォーマット１　フロアワーク（腹筋）
10	フォーマット１　エアロビックシリーズ、中心軸、引き上げ､バネ感
11	フォーマット１　セルフマッサージ、固有受容感覚、重心のかけ方
12	フォーマット１　呼吸と目のエクササイズ、明確な方向性のある動き
13	フォーマット１　シバリング&ニーディング（エネルギーの凝縮、流す）アラインメント
14	フォーマット１　神経系を一気に起こすエクササイズ
15	フォーマット全体をなるべく流し、前期１５回での変化を確認、ディスカッション

授業計画	
1	フォーマット２　セルフマッサージ（固有受容感覚について）流れ、呼吸、詩的な表現
2	フォーマット２　背骨、骨盤、腕、脚、全体の動きのコンビネーションと動きの方向性
3	フォーマット２　のび、あくび”をするようなクオリティ＝動きの膨らみ、のびやかさ
4	フォーマット２　背骨を波打たせるウエーブ→動きに余韻をもたせる
5	フォーマット２　重力、流れに身をまかせる動き方
6	フォーマット２　フロワワーク（キャットバック＋手首ストレッチ）
7	フォーマット２　フロアワーク　胸、肩、腕の繋がり、仙骨からの動き
8	フォーマット２　フロアワーク（ウェーブの背骨の動きと脚のコントラスト）
9	フォーマット２　フロアワーク（背筋）
10	フォーマット２　フロアワーク（腹筋）呼吸法の確認
11	フォーマット２　スタンディングウェーブシリーズ（立位での踵、膝、座骨の繋がり）
12	フォーマット２　股関節、膝、つま先の関係
13	フォーマット２ 関節の構造、テコの原理→アラベスク、アラセゴンド、ドゥバン等確認
14	フォーマット２　中から自然に感じられる引き上げ、ターンアウト
15	フォーマット２　全体をなるべく流し、後期での変化を確認ディスカッション

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　［火4］（キャラクターダンス/牧クラス）						
代表教員	イルギス　ガリムーリン	授業コード	GE7417M5	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員	奥田　さやか						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

キャラクターダンス特有の動きを理解し、踊れるようになることを目標とする。

２．授業概要

ロシアのプログラムに基づいた、様々なキャラクターダンスのスタイル・表現力・音楽性などを学ぶ。
バー・レッスンとセンター・レッスン(様々なキャラクターダンスのエチュード)により構成される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習　舞台鑑賞

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度指定する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒の膝下丈スカート、キャラクターシューズを着用。
男性はTシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ（短パン着用可）、ジャズシューズを着用。

他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨンなどにして首のラインが出るようにまとめ、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	・手. 脚. 頭のポジション ・バーレッスン Plié Battement Tendu① 基礎
2	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Battement Tendu② 応用 Battemen Tendu Jete① 基礎
3	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Battement Tendu③　発展 Battemen Tendu Jete②　応用
4	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Battemen Tendu Jete③　発展 ヒールを使っての動き(ロシア)
5	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ヒールを使っての動き(スペイン)
6	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Flic-Flac
7	・前回の復習と応用 ・バーレッスン パセを用いた動き(ハンガリー・ロシア)
8	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Pas Tortillé
9	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Rond de jambe u rond de pied par terre
10	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Battment Fondu
11	・前回の復習と応用 ・バーレッスン 足の動き ヒールを打つ(ガルベッツ) 足を踏みかえる(シュトーパル)
12	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Grand battement développée
13	・前回の復習と応用 ・バーレッスン Grand battement jeté
14	バーレッスン総復習
15	まとめ

授業計画	
	［後期］
1	・バーレッスン ・センターレッスン Port de bras(ハンガリー)
2	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ロシアのダンス　基礎
3	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ロシアのダンス　発展
4	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ハンガリーのダンス　基礎
5	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ハンガリーのダンス　発展
6	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ポーランドのダンス(マズルカ)
7	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン ポーランドのダンス(クラコビャック)
8	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン イタリアのダンス　基礎
9	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン イタリアのダンス　発展
10	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン スペインのダンス　基礎
11	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン スペインのダンス　発展
12	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン 東洋の踊り　基礎
13	・前回の復習と応用 ・バーレッスン ・センターレッスン 東洋の踊り　発展
14	センターレッスン総復習
15	１年間のまとめ

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　［火3］（キャラクターダンス/谷クラス）						
代表教員	星野　絢香	授業コード	GE7417T6	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、牧　華子、担当教員						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前年次で学んだキャラクターダンスの基本ステップ、技術、表現等を発展させて、応用的に学び身に付けていく。

２．授業概要

ロシアのバレエ学校のカリキュラムに基づいて授業を進めていく。
ロシア舞踊、スペイン舞踊、ポーランド舞踊、イタリア舞踊、ハンガリー舞踊などの各国のスタイルを学んでいく中で、踊りに必要となってくる表現力・音楽性・舞踊性などを高めていく。
バー・レッスンとセンター・レッスンにより構成される。
各回に設定した内容を、レッスン・リハーサルにおいて年間を通して体得できるプログラムで進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習。
バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞。

４．成績評価の方法及び基準

平常点 100%
(キャラクターダンスでの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装 ：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒の膝下丈スカート、キャラクターシューズ(5cmヒール)を着用。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、ジャズシューズを着用。
他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨンなどにして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、
授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス キャラクターダンスでの脚のポジション，手のポジション ［バー・レッスン］ plie（ロシア）、battement tendu
2	［バー・レッスン］ battement tendu jete、rond de jambe par terre ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のステップ、お辞儀）
3	［バー・レッスン］ 中くらいのbattement、fondu ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （パ・ドゥ・バスク、ヨーロチカ、ベリョーボチカ）
4	［バー・レッスン］ pas tortille、passe ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （複雑なクリュチ）
5	［バー・レッスン］ battement developpe,grand battement（ロシア） ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （腕と顔の位置、バランセ、基本のステップ）
6	［バー・レッスン］ plie(スペイン) ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （ゴルベッツ、ド・ザ・ド、クリュチ）
7	［バー・レッスン］ flic flac ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （カブリオールを伴うステップ、アレグロの部分での動き）
8	［バー・レッスン］ zapateado ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のポールドブラ、歩き方）
9	［バー・レッスン］ plie（東洋） ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （パ・ドゥ・バスク、パ・ドゥ・ブーレ）
10	［バー・レッスン］ ジプシーの動き ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （サパテアード、ランベルセ）
11	［バー・レッスン］ grand battement（スペイン） ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （基本のステップ）
12	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （ド・ザ・ド、ポドスコック、スカチョク）
13	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （ペアで踊るタランテラ）
14	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （腕と顔の位置、パ・ドゥ・ブーレ、パ・クリュ）
15	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （バランセ、パ・ガラ）

授業計画	
	［後期］
1	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （ゴルベッツ、クリュチ）
2	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ 東洋舞踊のエレメント （腕と顔の位置）
3	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ 東洋舞踊のエレメント （基本のステップ）
4	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ジプシー舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のステップ）
5	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ジプシー舞踊のエレメント （タップを伴う歩き方、アレグロの部分の動き）
6	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うハンガリー舞踊 （ド・ザ・ド、ペアでの回転）
7	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うハンガリー舞踊 （パートナーの片手を持った回転）
8	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うポーランド舞踊 （ド・ザ・ド、ゴルベッツ）
9	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うポーランド舞踊 （ペアで行うパ・クリュ、クラコビャックの基本ステップ）
10	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ セギディリア（スペイン舞踊）
11	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ホタ（スペイン舞踊）
12	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ クラコビャック（ポーランド舞踊）
13	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ カルメン（スペイン舞踊）
14	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ チャルダッシュ （ ライモンダより ）
15	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ナポリの踊り（ 白鳥の湖より ）

科目名	身体表現実習　１－５～４－５　［火4］（キャラクターダンス/谷クラス）						
代表教員	星野　絢香	授業コード	GE7417T7	科目コード	GE7417d	期間	通年
担当教員	井口　美穂、中村　望						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

クラシックバレエと異なる手脚のポジション、身体や顔の方向性、キャラクターダンス特有のステップなどを学び、様々な様式がある各国の踊りを習得していく。

２．授業概要

ロシアのバレエ学校のカリキュラムに基づいて授業を進めていく。
ロシア舞踊、スペイン舞踊、ポーランド舞踊、イタリア舞踊、ハンガリー舞踊などの各国のスタイルを学んでいく中で、踊りに必要となってくる表現力・音楽性・舞踊性などを高めていく。
バー・レッスンとセンター・レッスンにより構成される。
各回に設定した内容を、レッスン・リハーサルにおいて年間を通して体得できるプログラムで進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習。
バレエの舞台・ＤＶＤ鑑賞。

４．成績評価の方法及び基準

平常点 100%
(キャラクターダンスでの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装 ：
女性はシンプルなレオタード、バレエ用タイツ、黒の膝下丈スカート、キャラクターシューズ(5cmヒール)を着用。
男性はＴシャツまたはレオタードと男性用バレエタイツ(短パン着用可)、ジャズシューズを着用。
他にタオル・飲み物を用意し、髪が長い場合はシニヨンなどにして首のラインが出るようにまとめ(ポニーテール等禁止)、
授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス キャラクターダンスでの脚のポジション，手のポジション ［バー・レッスン］ plie（ロシア）、battement tendu
2	［バー・レッスン］ battement tendu jete、rond de jambe par terre ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のステップ、お辞儀）
3	［バー・レッスン］ 中くらいのbattement、fondu ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （パ・ドゥ・バスク、ヨーロチカ、ベリョーボチカ）
4	［バー・レッスン］ pas tortille、passe ［センター・レッスン］ ロシア舞踊のエレメント （複雑なクリュチ）
5	［バー・レッスン］ battement developpe,grand battement（ロシア） ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （腕と顔の位置、バランセ、基本のステップ）
6	［バー・レッスン］ plie(スペイン) ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （ゴルベッツ、ド・ザ・ド、クリュチ）
7	［バー・レッスン］ flic flac ［センター・レッスン］ ハンガリー舞踊のエレメント （カブリオールを伴うステップ、アレグロの部分での動き）
8	［バー・レッスン］ zapateado ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のポールドブラ、歩き方）
9	［バー・レッスン］ plie（東洋） ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （パ・ドゥ・バスク、パ・ドゥ・ブーレ）
10	［バー・レッスン］ ジプシーの動き ［センター・レッスン］ スペイン舞踊のエレメント （サパテアード、ランベルセ）
11	［バー・レッスン］ grand battement（スペイン） ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （基本のステップ）
12	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （ド・ザ・ド、ポドスコック、スカチョク）
13	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ イタリア舞踊のエレメント（タランテラ） （ペアで踊るタランテラ）
14	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （腕と顔の位置、パ・ドゥ・ブーレ、パ・クリュ）
15	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （バランセ、パ・ガラ）

授業計画	
	［後期］
1	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ポーランド舞踊のエレメント （ゴルベッツ、クリュチ）
2	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ 東洋舞踊のエレメント （腕と顔の位置）
3	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ 東洋舞踊のエレメント （基本のステップ）
4	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ジプシー舞踊のエレメント （腕と顔の位置、基本のステップ）
5	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ジプシー舞踊のエレメント （タップを伴う歩き方、アレグロの部分の動き）
6	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うハンガリー舞踊 （ド・ザ・ド、ペアでの回転）
7	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うハンガリー舞踊 （パートナーの片手を持った回転）
8	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うポーランド舞踊 （ド・ザ・ド、ゴルベッツ）
9	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ペアで行うポーランド舞踊 （ペアで行うパ・クリュ、クラコビャックの基本ステップ）
10	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ セギディリア（スペイン舞踊）
11	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ホタ（スペイン舞踊）
12	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ クラコビャック（ポーランド舞踊）
13	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ カルメン（スペイン舞踊）
14	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ チャルダッシュ （ ライモンダより ）
15	［バー・レッスン］ 復習と応用 ［センター・レッスン］ ナポリの踊り（ 白鳥の湖より ）

科目名	身体表現実習　２－１　［火2］ピラティス（DC専用）						
代表教員	和田　清香	授業コード	GE741800	科目コード	GE7418	期間	通年
担当教員	井口　美穂						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピラティスの授業では、柔軟性や筋力の向上、正しい呼吸や姿勢の習得、怪我をしにくい体づくりなどを目標とする。さらに、健康的で太りにくい体づくりに必要な食生活、生活習慣を総合的に学習する。

２．授業概要

各回に設定した目標を年間を通して体得できるプログラムをすすめる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で習った動きの復習、日常生活での正しい姿勢や呼吸を習慣にする。

４．成績評価の方法及び基準

平均点100%（ピラティスの理解度、動作習得、解剖学＆身体力学、授業態度などを総合的に評価）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

服装は男女とも動きやすいもの（ピラティス＆ヨガウェア、レギンス、Tシャツ、短パンなど）
靴下は必要なし
ヨガマット、または、厚手のバスタオル（寝る体勢で動く場合に背中などが痛くならないもの）
その他、タオル、飲み物等を用意

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（ピラティスの目的、個々の目標、実演など）
2	基礎①ピラティスの８つの法則、呼吸やハンドレッドの練習、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
3	基礎②パワーハウスとコアの確認、最適な姿勢の確認、ロールアップやシングルレッグサークルの練習、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
4	基礎③ピラティスで重要な解剖学（骨）、Cカーブやスクープの確認、ローリングライクアボールやシングルレッグストレッチの練習、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
5	基礎④ピラティスで重要な解剖学（筋肉）、ニュートラルスパインの確認、ダブルレッグストレッチやシングルレッグストレートストレッチの練習、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
6	基礎⑤ピラティスムーブメントのコンセプト（腹筋力、骨盤部の安定、肩甲骨の安定）、骨盤の前傾と後傾の練習、スパイナルアーティキュレーションの確認、クリスクロスやスパインストレッチの練習、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
7	応用①基礎を元にしたピラティスマットクラスの実技（「呼吸を意識」：これまで練習してきたエクササイズの通し）、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
8	応用②基礎を元にしたピラティスマットクラスの実技（「コアを意識」：これまで練習してきたエクササイズの通し）、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
9	応用③基礎を元にしたピラティスマットクラスの実技と応用（「骨を意識」：これまで練習してきたエクササイズの通し）、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
10	応用④基礎を元にしたピラティスマットクラスの実技と応用（「筋肉を意識」：これまで練習してきたエクササイズの通し）、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
11	応用⑤基礎を元にしたピラティスマットクラスの実技と応用（「ムーブメントのコンセプトを意識」：これまで練習してきたエクササイズの通し）、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
12	総合①レッスンプランを作る（これまで練習してきた中から3つのエクササイズを用い、短いレッスンプログラムを作り上げる）、小グループで指導（自分が指導者の立場となる）
13	総合②レッスンプランを作る（総合①とは別の3つのエクササイズを用い、短いレッスンプログラムを作り上げる）、小グループで指導（自分が指導者の立場となる）
14	総合③２つのエクササイズを用い、短いレッスンプログラムを作り上げる
15	前期のまとめ、後期への課題

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習：前期で練習した全エクササイズを通し
2	応用①ウォームアップ、ソーやオープンレッグロッカーの練習、モディフィケーションやよく見られる間違いの確認、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
3	応用②ウォームアップ、スワンやシングルレッグキックの練習、モディフィケーションやよく見られる間違いの確認、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
4	応用③ウォームアップ、ダブルレッグキックやスイミングの練習、モディフィケーションやよく見られる間違いの確認、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
5	応用④ウォームアップ、サイドキックフロンやサイドキックレッグリフトの練習、モディフィケーションやよく見られる間違いの確認、クールダウン、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
6	応用⑤ウォームアップ、サイドキックサークル（大・小）の練習、モディフィケーションやよく見られる間違いの確認、クールダウン、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
7	応用⑥ウォームアップ、バイシクルとバナナの練習、モディフィケーションやよく見られる間違いの確認、クールダウン、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
8	応用⑦ウォームアップ、シールとブッシュアップの練習、モディフィケーションやよく見られる間違いの確認、クールダウン、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
9	応用⑧後期で練習してきたエクササイズの通し、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
10	応用⑨前期・後期で練習してきたエクササイズの通し、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
11	応用⑩前期・後期で練習してきたエクササイズの通しと応用＆アレンジ、正しいダイエットの知識（食事や生活習慣など）
12	総合①レッスンプランを作る（後期で練習してきた中から3つのエクササイズを用い、短いレッスンプログラムを作り上げる）、小グループで指導（自分が指導者の立場となる）
13	総合②レッスンプランを作る（総合①とは別の3つのエクササイズを用い、短いレッスンプログラムを作り上げる）、小グループで指導（自分が指導者の立場となる）
14	総合④後期エクササイズから２つを用い、短いレッスンプログラムを作り上げる
15	前期・後期のまとめ

科目名	身体表現実習 ２－２ ［火5］コンテンポラリー（DC専用）						
代表教員	安藤　洋子	授業コード	GE741900	科目コード	GE7419	期間	通年
担当教員	アレッシオ　シルヴェストリン、上田　舞香						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自由な発想を持ちつつ、振付家または演出家の意図を深く理解し、身体表現として体現できるパフォーマーとしての身体基礎を養う。

ダンスの分野だけにとどまらず、芸術（美術、音楽、映像など）としてのコンテンポラリーと呼ばれる分野の理解を深める。
その上で身体表現においてのコンテンポラリーとは？パフォーミングアートとは？をディスカッションをしていき、それぞれ自己のカラダ及び思考の特徴と自己表現の可能性を多角的かつ具体的にどのように探していくのかを学ぶ。

身体が動くということの不思議と身体の物理的法則を学び、体と心を総合的に自分と自然に向き合えるように導きつつ、自分の発想を体現できる強く繊細な身体を作ることを目標とする。

２．授業概要

各回に設定した目標を、クラスレッスンにおいて年間を通して体得できるプログラムで進める。

＜身体感覚を研ぎ澄ますトレーニング＞
カラダを連動させいく訓練を細部にわたって実施する。
このトレーニングを行うことで身体意識を高め、無駄な力みのないカラダを作っていきます。
柔軟性、瞬発力、集中力が向上を目指し、全てのダンス表現に通じる基礎技術を高めていきます。

＜コンビネーション&創作クリエーション＞
音楽性、空間把握能力の向上を目指し、振付を理解する能力と自分で創作できるチカラを高めていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ、エクササイズ、バレエ／コンテンポラリー／パフォーマンス、視覚芸術関連の鑑賞（舞台、DVD等）日々の復習と自習が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%(コンテンポラリーダンスの基本・応用の理解度、技術、表現力、授業態度等を総合的に評価する。)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

歴史に残るモダンダンス、ヌーベルダンス、コンテンポラリーダンスの振付家の作品映像。
資料は必要に応じて適宜コピーする。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

レオタードその他の関節の動きが見えるような衣服。
薄すぎない靴下を素足に着用。入手可能なバレエ・シューズも持参してください。
頭を床に真直ぐ置けるように髪を適切にまとめる。ジュエリーや腕時計は外すこと。
パフォーマンスのために、以下のものがあれば望ましい。
ストレッチ素材でできたフィットするズボン、
フィットしたＴシャツ、あるいは、レオタード。
靴下、バレエシューズ。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス。　コンテンポラリーダンスの概要説明。　カラダの連動についての説明と実習。
2	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎①（肋骨の意識）
3	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、　カラダの連動の習得　基礎②（骨盤の意識）
4	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎③（肩甲骨～腕）
5	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎④（背中の意識）
6	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎⑤（股関節内転）、コンビネーション 振付導入
7	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎⑥（股関節の外転）、コンビネーション 振付基礎
8	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎⑦（足の前側の意識）、コンビネーション 振付基礎応用
9	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動の習得　基礎⑧（足の後側の意識）、コンビネーション 振付応用
10	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動からのコンタクトムーブメント習得（手のひらからの動き）、振付クリエーション　導入
11	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動からのコンタクトムーブメント習得（肘からの動き）、 振付クリエーション基礎
12	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動からのコンタクトムーブメント習得（骨盤からの動き）、振付クリエーション基礎応用
13	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動からのコンタクトムーブメント習得（肩からの動き）　振付クリエーション応用
14	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、カラダの連動からのコンタクトムーブメント習得（足先からの動き）、振付クリエーション応用発展
15	前期総括

授業計画	
	[後期]
1	ワームアップ、ストレッチ、カラダの連動の習得　応用①（重心移動）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション（ソロ編 基礎）
2	ワームアップ、ストレッチ、カラダの連動の習得　応用②（胸骨の意識）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （ソロ編 応用）
3	ワームアップ、ストレッチ、カラダの連動の習得　応用③（身体を止めることについて）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （ソロ編 応用発展）
4	ワームアップ、ストレッチ、カラダの連動の習得　応用④ （回転テクニック）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （デュオ編 基礎）
5	ワームアップ、ストレッチ、カラダの連動の習得　応用⑤（身体の重さ）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （デュオ編 応用）
6	ワームアップ、ストレッチ、カラダの連動の習得　応用⑥（フロアーテクニック）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （デュオ編 応用発展）
7	ワームアップ、ストレッチ、カラダの連動の習得　応用⑦（ジャンプテクニック）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （グループ編 基礎）
8	ワームアップ、ストレッチ、カラダの連動の習得　応用 ⑧（リズム感）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （グループ編 応用）
9	ワームアップ、ストレッチ、カラダの連動の習得　応用⑨（全身の連動）、後期成果発表に向けたディスカッションと振付クリエーション （グループ編 応用発展）
10	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、コンビネーション、創作振付コンタクトインプロビゼーションテクニック ①導入。
11	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、コンビネーション、創作振付コンタクトインプロビゼーションテクニック② 基礎。
12	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、コンビネーション、創作振付コクトタクトインプロビゼーションテクニック③ 基礎応用。
13	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、コンビネーション、創作振付コクトタクトインプロビゼーションテクニック④ 応用。
14	ワームアップ、ストレッチ、ステップ、コンビネーション、創作振付コクトタクトインプロビゼーションテクニック④ 総合。
15	後期総括

科目名	Ｒ＆Ｐ・ハーモニーⅠ　（前）［水2］						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE752700	科目コード	GE7527	期間	前期
担当教員	高橋　利光						
授業形態	講座	配当学年	2				
対象コース	R&P	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「R&Pセオリー」単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽曲制作に必要な理論をより深く学ぶ。

２．授業概要

メロディーに対するコード付け、またコード進行から導き出されるメロディー、の双方向から学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

バンドワークショップや自身の音楽活動で出逢う楽曲に当てはめて考えてみる事

４．成績評価の方法及び基準

期末試験：６０％
平常点：４０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レジュメを配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	前期
1	基礎知識の確認
2	ハーモナイズ1（ダイアトニック・３声）
3	ハーモナイズ2（ダイアトニック・４声）
4	ハーモナイズ3（ダイアトニック・テンション）
5	ハーモナイズ4（ノン・ダイアトニック・コード）
6	転調１（属調、下属調）
7	転調２（同主調）
8	転調３（突然転調）
9	２声ハーモニーの作り方
10	アヴェイラブル・ノート・スケール（メジャー・ダイアトニック）
11	アヴェイラブル・ノート・スケール（マイナー・ダイアトニック）
12	アヴェイラブル・ノート・スケール（ノン・ダイアトニック）
13	コード進行とメロディーの関係
14	ヒット曲分析
15	前期総括及び試験

科目名	Ｒ＆Ｐ・ハーモニーⅡ　（後）［水2］						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE752800	科目コード	GE7528	期間	後期
担当教員	西平　彰						
授業形態	講座	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「R&Pハーモニー Ⅰ」単位取得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

楽曲制作に必要な理論をより深く学ぶ。
過去の楽曲を分析し、新しいメロディーを作るヒントを得られる。

２．授業概要

コードとメロディーの関係性をさらに深く学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

バンドワークショップや自身の音楽活動で出逢う楽曲に当てはめて考えてみる事

４．成績評価の方法及び基準

期末試験：６０％
平常点：４０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レジュメを配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	後期
1	ヴォイシング1（クロース）
2	ヴォイシング2（オープン）
3	３声ハーモニー
4	４声ハーモニー
5	リハーモナイズ１（ダイアトニック）
6	リハーモナイズ２（ノン・ダイアトニック）
7	アッパー・ストラクチャー・トライアド
8	アドリブのヒント
9	様々なモード
10	コンビネーション・オブ・ディミニッシュ
11	ブルースの影響
12	70年代ロックの特徴
13	80年代ポップスの特徴
14	９０年代～現代に至るまでの推移
15	後期総括及び試験

科目名	インストゥルメンツ研究　[木4]						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE756500	科目コード	GE7565	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロック＆ポップスで多く使用される楽器に実際に触れ、その歴史／種類／構造／奏法を理解する。

２．授業概要

それぞれの楽器の担当講師が、実際に音を出しながらレクチャーする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自分の専門パート以外の楽器にも、常に興味を持ち観察すること

４．成績評価の方法及び基準

レポート（評価の６０％）
平常点（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度用意する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

講師のスケジュールにより、順番、内容が変更になる可能性あり

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、楽器の分類
2	ギター１：歴史、種類
3	ギター２：構造
4	ギター３：奏法、チューニング
5	ギター４：歴史的名演
6	E.ベース１：歴史、種類
7	E.ベース２：構造
8	E.ベース3：奏法
9	E.ベース4：歴史的名演
10	ドラム１：歴史、種類、構造
11	ドラム2：奏法、リズム
12	ドラム3：同期のテクニック
13	ドラム4：グルーヴ、歴史的名演
14	A.ギター１：歴史、種類、構造
15	A.ギター２：奏法、歴史的名演

授業計画	
	［後期］
1	パーカッション１：歴史、種類、構造
2	パーカッション２：奏法、セッション
3	キーボード１：ピアノ属
4	キーボード２：アナログ・シンセサイザー
5	キーボード３：オルガン
6	キーボード４：デジタル・シンセサイザー
7	コンピューター１：ハードウェア、ソフトウェアの歴史
8	コンピューター２：サンプリング・テクノロジー
9	A.ベース：コントラ・バス
10	エスニック１：バンジョー
11	エスニック２：様々な民族楽器
12	エフェクター
13	マイクロフォン
14	ヴォーカル
15	コーラス

科目名	マスタークラス・セッション１～４　（集）						
代表教員	前野　知常	授業コード	GE757500	科目コード	GE7575d	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

プロの仕事現場に接することで、到達すべきレベル、仕事への取り組み方、スケール感、緊張感等を実体感する。

２．授業概要

企画内容により異なるが、R&P講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自分の制作過程に於けるルーティンをしっかり把握し、プロのルーティンと比較すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてその都度用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コース、講師のスケジュールにより、回数は変動する場合がある。

授業計画	
	［集中］
1	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする①（コンサート制作）
2	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする②（イベント制作）
3	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする③（レコーディング制作）
4	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする④（ネット制作）
5	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする⑤（映像制作）
6	Ｒ＆Ｐ講師がホストとなりプロの仕事の進め方、内容をレクチャーする⑥（プロデュース論）
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	ｱﾚﾝｼﾞﾝｸﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ2 （前） ［水2］Bクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GE7587B0	科目コード	GE7587	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし（ただし下記6.履修の条件を参照のこと）						
教員免許状							

１．主題・到達目標

原曲を分析し１ホーン４リズムのバンドアレンジを組み立てるまでのノウハウを修得する。とくにキックの作り方、アレンジャーズ・コーラスの作り方、アレンジ全体の構成の仕方を重点的に学び、ひとつの作品に仕上げスコアで表現できるようにする。

２．授業概要

講義、および課題の音出しを通じてアレンジングの訓練を行う。ファイナル・プロジェクトではアレンジ→リハーサル→音出しのプロセスを体験する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題とファイナル・プロジェクト作品の制作

４．成績評価の方法及び基準

課題30%、ファイナルプロジェクト40%、学習態度30%の割合で達成度を判断、80点（100点満点）以上Aを目安とし、60点以上が単位修得の条件

５．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト
他にスコアシートやパート譜用の五線紙の購入が必要となります（授業内で案内します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

内容的にはリズム楽器管楽器の楽器方・記譜法／ヴォイシング＆オーケストレーション１が前提となります。必ずそれを修得してから履修するようにしてください。同時履修も避けてください。

授業計画	
	［半期］
1	アレンジとは何か（なぜアレンジの勉強が必要か） ソングフォームの分析、アレンジメント・フォーム
2	アレンジャーズコーラスとは メロディーの分析（ハーモニック・アンティシペーション）
3	ドラムス，ベースのノーテーションの復習
4	ギター，鍵盤楽器のノーテーションの復習
5	リズムセクションのノーテーションの復習 キック（きめ）とは
6	リズムセクションによるキックの作り方（キックの課題）
7	キックの課題の音出し（実習）前半
8	キックの課題の音出し（実習）後半
9	楽器法・記譜法の復習（とくに管楽器の移調）
10	スコアシート，パート譜の書き方
11	ファイナル・プロジェクトのガイダンス
12	アレンジャーズ・コーラスについての考察（どうすればアレンジャーズ・コーラスになるのか）
13	ファイナルプロジェクト準備：作業進捗のチェックと質問
14	ファイナルプロジェクト準備：作業進捗のチェックと質問　確認
15	ファイナルプロジェクト準備：作業進捗のチェックと質問　仕上げ

科目名	ｱﾚﾝｼﾞﾝｸﾞの基礎/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ2　（前）　[火3] Cクラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE7587C0	科目コード	GE7587	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし（ただし下記6.履修の条件を参照のこと）						
教員免許状							

１．主題・到達目標

原曲を分析し１ホーン４リズムのバンドアレンジを組み立てるまでのノウハウを修得する。とくにキックの作り方、アレンジャーズ・コーラスの作り方、アレンジ全体の構成の仕方を重点的に学び、ひとつの作品に仕上げスコアで表現できるようにする。

２．授業概要

講義、および課題の音出しを通じてアレンジングの訓練を行う。ファイナル・プロジェクトではアレンジ→リハーサル→音出しのプロセスを体験する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題とファイナル・プロジェクト作品の制作

４．成績評価の方法及び基準

課題30%、ファイナルプロジェクト40%、学習態度30%の割合で達成度を判断、80点（100点満点）以上Aを目安とし、60点以上が単位修得の条件

５．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト
他にスコアシートやパート譜用の五線紙の購入が必要となります（授業内で案内します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

内容的にはリズム楽器管楽器の楽器方・記譜法／ヴォイシング＆オーケストレーション１が前提となります。必ずそれを修得してから履修するようにしてください。同時履修も避けてください。

授業計画	
	［半期］
1	アレンジとは何か（なぜアレンジの勉強が必要か） ソングフォームの分析、アレンジメント・フォーム
2	アレンジャーズコーラスとは メロディーの分析（ハーモニック・アンティシペーション）
3	ドラムス，ベースのノーテーションの復習
4	ギター，鍵盤楽器のノーテーションの復習
5	リズムセクションのノーテーションの復習 キック（きめ）とは
6	リズムセクションによるキックの作り方（キックの課題）
7	キックの課題の音出し（実習）前半
8	キックの課題の音出し（実習）後半
9	楽器法・記譜法の復習（とくに管楽器の移調）
10	スコアシート，パート譜の書き方
11	ファイナル・プロジェクトのガイダンス
12	アレンジャーズ・コーラスについての考察（どうすればアレンジャーズ・コーラスになるのか）
13	ファイナルプロジェクト準備：作業進捗のチェックと質問
14	ファイナルプロジェクト準備：作業進捗のチェックと質問　確認
15	ファイナルプロジェクト準備：作業進捗のチェックと質問　仕上げ

科目名	ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅠ(2~4Voices)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ3　(後)　[月3] Aクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GE7588A0	科目コード	GE7588	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし（ただし下記6.履修の条件を参照のこと）						
教員免許状							

1．主題・到達目標

管楽器による4声（５管編成）までのボイシングの基礎（クローズボイシング、オープンボイシング、アプローチリハモナイゼーション，スプレッドボイシング）を修得する。

2．授業概要

4声アレンジで用いる様々なボイシングテクニックを学び、スコアで正しくコントロールできるようにする。15回の授業が終了した後「ファイナルプロジェクト」を実施する。「ファイナルプロジェクト」では自分の書いた5管＋リズムセクションの作品を実際にアンサンブルを編成して音を出し、当授業で学んだことが全て修得できているかをチェックする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

課題と「ファイナルプロジェクト」作品の制作、音出しメンバーのブッキング→リハーサル

4．成績評価の方法及び基準

課題30%、ファイナルプロジェクト40%、学習態度30%の割合で達成度を判断、80点（100点満点）以上Aを目安とし、60点以上が単位修得の条件

5．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座で学ぶことは音楽家として活動する際に最低限身につけておくべき知識であり、その後の学習を進めるために不可欠な基礎となります。必ず修得しましょう。なお、一回一回の授業内容がかなりのボリュームになるので、できるだけ欠席をせず課題のひとつひとつをこなしてゆくことが大切です。
また、内容的にはリズム楽器管楽器の楽器方・記譜法／ヴォイシング＆オーケストレーション１とアレンジングの基礎／ヴォイシング＆オーケストレーション２が前提となります。必ずそれらを修得してから履修するようにしてください。同時履修も避けてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／「ユニゾン」
2	「2パート・ソリ」
3	「２パート・ソリ」音出し
4	「４ウェイ・クローズ」
5	「４ウェイ・クローズ」音出し
6	「アプローチ・リハモナイゼーション」
7	「アプローチ・リハモナイゼーション」実践
8	「オープン・ボイシング」
9	「オープン・ボイシング」実践
10	クローズとオープンの使い分け
11	「３パート・ソリ」（クローズ、オープン）
12	「スプレッド・ボイシング」
13	「スプレッド・ボイシング」 ファイナルプロジェクト準備：スコア～パート譜の要件
14	ファイナルプロジェクトが完成するまで、を実演
15	ファイナルプロジェクト、作業進捗のチェックと質問

科目名	ﾎｰﾝ･ｱﾚﾝｼﾞⅠ(2~4Voices)/ｳﾞｫｲｼﾝｸﾞ&ｵｰｹｽﾄﾚｰｼｮﾝ3　(後)　[火3] Cクラス						
代表教員	谷口　英治	授業コード	GE7588C0	科目コード	GE7588	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし（ただし下記6.履修の条件を参照のこと）						
教員免許状							

１．主題・到達目標

管楽器による4声（５管編成）までのボイシングの基礎（クローズボイシング、オープンボイシング、アプローチリハモナイゼーション，スプレッドボイシング）を修得する。

２．授業概要

4声アレンジで用いる様々なボイシングテクニックを学び、スコアで正しくコントロールできるようにする。15回の授業が終了した後「ファイナルプロジェクト」を実施する。「ファイナルプロジェクト」では自分の書いた5管＋リズムセクションの作品を実際にアンサンブルを編成して音を出し、当授業で学んだことが全て修得できているかをチェックする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題と「ファイナルプロジェクト」作品の制作、音出しメンバーのブッキング→リハーサル

４．成績評価の方法及び基準

課題30%、ファイナルプロジェクト40%、学習態度30%の割合で達成度を判断、80点（100点満点）以上Aを目安とし、60点以上が単位修得の条件

５．授業で使用するテキスト・参考文献

自主テキスト

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

この講座で学ぶことは音楽家として活動する際に最低限身につけておくべき知識であり、その後の学習を進めるために不可欠な基礎となります。必ず修得しましょう。なお、一回一回の授業内容がかなりのボリュームになるので、できるだけ欠席をせず課題のひとつひとつをこなしてゆくことが大切です。
また、内容的にはリズム楽器管楽器の楽器方・記譜法／ヴォイシング＆オーケストレーション１とアレンジングの基礎／ヴォイシング＆オーケストレーション２が前提となります。必ずそれらを修得してから履修するようにしてください。同時履修も避けてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／「ユニゾン」
2	「2パート・ソリ」
3	「２パート・ソリ」音出し
4	「４ウェイ・クローズ」
5	「４ウェイ・クローズ」音出し
6	「アプローチ・リハモナイゼーション」
7	「アプローチ・リハモナイゼーション」実践
8	「オープン・ボイシング」
9	「オープン・ボイシング」実践
10	クローズとオープンの使い分け
11	「３パート・ソリ」（クローズ、オープン）
12	「スプレッド・ボイシング」
13	「スプレッド・ボイシング」 ファイナルプロジェクト準備：スコア～パート譜の要件
14	ファイナルプロジェクトが完成するまで、を実演
15	ファイナルプロジェクト、作業進捗のチェックと質問

科目名	Ｒ＆Ｐ・ヴォイストレーニング［集中］						
代表教員	佐々木　久美	授業コード	GE7593A0	科目コード	GE7593	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

体力・腹筋力をつけるとともに 歌うことに必要な発声の基本を身につける。

２．授業概要

ストレッチ・筋トレ・発声など

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ・筋トレ・授業内で行った発声方法を繰り返し練習する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・授業態度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

床に座ります。気になる場合はバスタオルやストレッチマットなどを持参してください。
動きやすいものを着用してください。
（女子はスカートはNG。ジャージなど準備してください）

授業計画	
	ストレッチ、筋トレ、発声。 発声は都度進行状況で内容を変化する。
1	発声基礎の説明など（ストレッチ、筋トレ体幹運動など）
2	声を出すための基本姿勢の習得（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
3	発声のための体力つくり（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
4	発声の基礎の習得（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
5	発声の基礎（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
6	発声の基礎の自主練習法の習得（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
7	発声の基礎の復習（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
8	発声の基礎の習得状況の確認（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
9	総括
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・ヴォイストレーニング［集中］						
代表教員	佐々木　久美	授業コード	GE7593B0	科目コード	GE7593	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

体力・腹筋力をつけるとともに 歌うことに必要な発声の基本を身につける。

２．授業概要

ストレッチ・筋トレ・発声など

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ・筋トレ・授業内で行った発声方法を繰り返し練習する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・授業態度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

床に座ります。気になる場合はバスタオルやストレッチマットなどを持参してください。
動きやすいものを着用してください。
（女子はスカートはNG。ジャージなど準備してください）

授業計画	
	ストレッチ、筋トレ、発声。 発声は都度進行状況で内容を変化する。
1	発声基礎の説明など（ストレッチ、筋トレ体幹運動など）
2	声を出すための基本姿勢の習得（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
3	発声のための体力つくり（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
4	発声の基礎の習得（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
5	発声の基礎（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
6	発声の基礎の自主練習法の習得（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
7	発声の基礎の復習（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
8	発声の基礎の習得状況の確認（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
9	総括
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジＩ　（後）［水4］Aクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7613A0	科目コード	GE7613	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐベーシックス」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の実際のリハーサル、レコーディングにおいて用いられる基本的な記譜法に始まり、それぞれの楽器の楽曲に対する有効なアレンジアプローチを学び、主にジャンルとしてのロック、ポップス、のストリングス、ブラスのアレンジも覚えてもらって、最終的にはフルオーケストラのスコアも書けるまでにしたい。

コンピュータを使用するアレンジについても最新ソフトの情報をふくめ、研究していく。

２．授業概要

代表的なロック、ポップスの楽曲等を使用しながら勉強、研究する。耳コピーし、写譜できる能力を身につける。様々な楽曲（オリジナルも含む）のアレンジメントの可能性を探り、基本的なアレンジのノウハウを覚え、実践する。必要に応じ、コンピュータを駆使し、授業を進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源等、用意します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

分かりやすく、すぐに応用できるアレンジを教えます。
好奇心旺盛で音楽を楽しもうとする学生求む

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（アレンジの考え方、等）
2	記譜法（マスターリズム、スコア、パート譜、等）
3	リズムアレンジ１（ドラム、ベース、パーカッション等の研究）
4	リズムアレンジ２（ギター、キーボード等を含めた全体のリズム研究）
5	編曲構成（行き方等の研究）
6	アレンジ演習１（課題曲のリズムアレンジをする）
7	アレンジ演習２（課題曲の上物のアレンジをし、完成させる）
8	ガイダンス（ストリングス、ブラス、コーラス等）
9	ストリングスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
10	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
11	ブラスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
12	ブラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
13	コーラスアレンジ１（男声、女声、混声、それぞれの組み合わせパターン学習）
14	コーラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
15	アレンジ演習（まとめ）

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジＩ　（後）［水4］Bクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7613B0	科目コード	GE7613	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐベーシックス」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の実際のリハーサル、レコーディングにおいて用いられる基本的な記譜法に始まり、それぞれの楽器の楽曲に対する有効なアレンジアプローチを学び、主にジャンルとしてのロック、ポップス、のストリングス、ブラスのアレンジも覚えてもらって、最終的にはフルオーケストラのスコアも書けるまでにしたい。
コンピュータを使用するアレンジについても最新ソフトの情報をふくめ、研究していく。

２．授業概要

代表的なロック、ポップスの楽曲等を使用しながら勉強、研究する。耳コピーし、写譜できる能力を身につける。様々な楽曲（オリジナルも含む）のアレンジメントの可能性を探り、基本的なアレンジのノウハウを覚え、実践する。必要に応じ、コンピュータを駆使し、授業を進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源等、用意します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

分かりやすく、すぐに応用できるアレンジを教えます。
好奇心旺盛で音楽を楽しもうとする学生求む

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（アレンジの考え方、等）
2	記譜法（マスターリズム、スコア、パート譜、等）
3	リズムアレンジ１（ドラム、ベース、パーカッション等の研究）
4	リズムアレンジ２（ギター、キーボード等を含めた全体のリズム研究）
5	編曲構成（行き方等の研究）
6	アレンジ演習１（課題曲のリズムアレンジをする）
7	アレンジ演習２（課題曲の上物のアレンジをし、完成させる）
8	ガイダンス（ストリングス、ブラス、コーラス等）
9	ストリングスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
10	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
11	ブラスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
12	ブラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
13	コーラスアレンジ１（男声、女声、混声、それぞれの組み合わせパターン学習）
14	コーラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
15	アレンジ演習（まとめ）

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ　（前）［水4］Aクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE7614A0	科目コード	GE7614	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・アレンジＩ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アレンジ　Ｉ　で習得した　記譜法、その他方法論をより深いところまで学び、習得する

２．授業概要

基本的な楽典、ソルフェージュなども繰り返し学習しながら、アレンジ演習を増やしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源、映像等用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

入学当初の楽典、聴音はもとより最低限の記譜能力が必要。
簡単なペーパーテストの成績によりクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	記譜練習１（課題曲を用意しDr,Bass等リズム主体の採譜）
3	記譜練習２（課題曲のGt,Key等上物主体の採譜）
4	リズムアレンジ１（様々なリズムパターンの習得）
5	リズムアレンジ２（DTMの使用含め演習）
6	アレンジ演習１（課題曲のリズムアレンジをする）
7	アレンジ演習２（課題曲のGt,Key等のアレンジをし、完成させる）
8	ストリングスアレンジ１（実際のスコア等用いた学習）
9	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
10	アレンジ演習３（課題曲に対しストリングスアレンジの構想を練る）
11	アレンジ演習４（ストリングスアレンジをスコアにおこし、完成させる）
12	ブラスアレンジ１（様々なジャンルにて研究）
13	ブラスアレンジ２（実際の楽曲用いて演習）
14	アレンジ演習５（課題曲のブラスアレンジの構想を練る）
15	アレンジ演習６（ブラスアレンジをスコアにおこし完成させる）

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ　（前）［水4］Bクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE7614B0	科目コード	GE7614	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・アレンジＩ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アレンジ　Ｉ　で習得した　記譜法、その他方法論をより深いところまで学び、習得する

２．授業概要

基本的な楽典、ソルフェージュなども繰り返し学習しながら、アレンジ演習を増やしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源、映像等用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

入学当初の楽典、聴音はもとより最低限の記譜能力が必要。
簡単なペーパーテストの成績によりクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	記譜練習１（課題曲を用意しDr,Bass等リズム主体の採譜）
3	記譜練習２（課題曲のGt,Key等上物主体の採譜）
4	リズムアレンジ１（様々なリズムパターンの習得）
5	リズムアレンジ２（DTMの使用含め演習）
6	アレンジ演習１（課題曲のリズムアレンジをする）
7	アレンジ演習２（課題曲のGt,Key等のアレンジをし、完成させる）
8	ストリングスアレンジ１（実際のスコア等用いた学習）
9	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
10	アレンジ演習３（課題曲に対しストリングスアレンジの構想を練る）
11	アレンジ演習４（ストリングスアレンジをスコアにおこし、完成させる）
12	ブラスアレンジ１（様々なジャンルにて研究）
13	ブラスアレンジ２（実際の楽曲用いて演習）
14	アレンジ演習５（課題曲のブラスアレンジの構想を練る）
15	アレンジ演習６（ブラスアレンジをスコアにおこし完成させる）

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅢ　（後）［金3］						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE761500	科目コード	GE7615	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アレンジⅠ、アレンジⅡ、で学習、習得したスキルを持って、いますぐレコーディングスタジオへ持って行っても通用するアレンジができ、譜面にできる能力を身につける。

２．授業概要

様々な音楽に触れさせ、アレンジに触れさせ、グローバルな視野を持って活躍できるアーティスト、アレンジャーを目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
　授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源、映像等用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アレンジⅠ、Ⅱで習得したアレンジ、記譜能力が必要。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅣ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	記譜演習（課題曲１の採譜を行う）
3	記譜演習（課題曲２の採譜を行う）
4	アレンジ演習（課題曲１のアレンジを行う）
5	アレンジ演習（課題曲１のスコア、音源提出、研究）
6	リズムアレンジの復習
7	ストリングスアレンジの復習
8	ブラスアレンジの復習
9	アレンジ法研究
10	アレンジ演習（課題曲２のアレンジを行う）
11	アレンジ演習（課題曲２のスコア、音源提出、研究）
12	アレンジ演習（課題曲３のアレンジを行う）
13	アレンジ演習（課題曲３のスコア、音源提出、研究）
14	アレンジ演習（課題曲４のアレンジを行う）
15	アレンジ演習（課題曲４のスコア、音源提出、研究）

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅣ　（前）［金3］						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE761600	科目コード	GE7616	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	R&P	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅢ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アレンジⅢでは課題を出して基本的な実践をしました。それを元にさらなるオリジナリティーを発掘し、プロの仕事として完成させる。

２．授業概要

様々な音楽に触れさせ、アレンジに触れさせ、グローバルな視野を持って活躍できるアーティスト、アレンジャーを目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題を３回の授業のうちに完成させる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の４０％）、　平常点（評価の６０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源、映像等用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アレンジⅠ、Ⅱ、Ⅲの合格単位修得。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・アレンジⅢ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	記譜演習１（課題曲の４リズム（Dr,Bs,Gt,Key)の採譜）
3	記譜演習２（ブラス、ストリングス、その他の採譜）
4	記譜演習３（全ての楽器をスコアに採譜）
5	アレンジ演習（課題曲１のリズムアレンジ）
6	アレンジ演習（課題曲１の上物（ブラス、ストリングス等）アレンジ）
7	アレンジ演習（課題曲１のアレンジをスコア、音源にて提出）
8	アレンジ演習（課題曲２のリズムアレンジ）
9	アレンジ演習（課題曲２の上物（ブラス、ストリングス等）アレンジ）
10	アレンジ演習（課題曲２のアレンジをスコア、音源にて提出）
11	アレンジ演習（課題曲３のリズムアレンジ）
12	アレンジ演習（課題曲３の上物（ブラス、ストリングス等）アレンジ）
13	アレンジ演習（課題曲３のアレンジをスコア、音源にて提出）
14	まとめ（総合的な復習）
15	まとめ（感想レポート提出）

科目名	作詞／作曲Ｉ　（前）［金3］Aクラス						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	GE7617A0	科目コード	GE7617	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自己表現の一つとしての創作力（オリジナリティー）を身につける為に、作詞作曲にチャレンジする。
普段意識なく耳にしている優れた楽曲の作詞や作曲を研究する事で、作詞作曲のクオリティーの高さを知り、自分自身の作品の参考にしていく。
人に伝わる曲作りを目標に、まず１曲を仕上げる達成感を味わい、ステップアップする。
シンガーソングライターとしての弾き語りやバンドサウンドの作品作りを実践して、学内ライブなどで、積極的に発表できるように、曲数を書きためる。

２．授業概要

初心者、あるいは経験者の作品を個々に添削の上、完成度をあげていく。
出来上がったお互いの曲を視聴しあい、感想や意見をディスカッションする。
イマジネーションを高める為に、映像や写真を見ながら、歌詞やメロディーを作る。
必要に応じ、ガイドの音源や仮詞により、作詞作曲を試みる。
優れたアーティストの作品を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の50%）
作品評価（評価の30%）
レポート（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作詞作曲の醍醐味を味わって、楽しみながらチャレンジして下さ　い。自分の知らない自分の一面に出会える楽しみを、ぜひ体験して下さい！
なお、作詞作曲の経験値を考慮してクラス分けを行います。

授業計画	
	［半期］ 作詞作曲という視点を変えた歌の聞き方を、身につける。演習によって作詞作曲を体験しながら、まず自分の中に眠っている未知のイマジネーションを掘り起こす。
1	ガイダンス（作詞作曲の基本について） →各自にアンケート実施。
2	イメージトレーニング →写真やイラストを見ながら、心に浮かぶ思いや絵を言葉にしてみる。授業内での作詞の演習。まず１曲作詞のスケッチ（土台になる文章）を書いてみる。
3	作詞のスケッチを、詞の形にまとめる →文章から歌の詞へ、言葉を整理する。曲の構成を組み立てる。
4	自分の書いた作詞に曲をつけてみる。 →レベルによって違いは大きいが、まずは前回まとめた作詞にメロディーを当てはめて曲を作る、あるいは作詞スケッチのイメージでメロディーを考える。
5	作曲に必要なコード進行の基本を知る →メロディーに、メジャーコード、マイナーコードの主要なコードをつけてみる。簡単なコード進行から、メロディーを考える演習。
6	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(8小節からはじめる)を、コード譜や鍵盤、ギターで確認する。 どんな流れになっているか聴き取り、メロディーを発想する。
7	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(出だしAセクション、サビBセクションで出来上がったもの)から、メロディーを作り、1曲に仕上げる。
8	推薦アーティスト楽曲分析研究 →作詞作曲の観点で、曲の構成、メロディーの作り方や音符に対して詞の言葉の載り方などを探る。 作詞作曲の観点で、人に伝わる歌とは何かを考える。
9	名曲作詞の穴埋めにトライ →様々な名曲の作詞の言葉を深く理解する為に、抜けている言葉をを考える。完成された作品を聞いて、ひとつひとつの言葉の意味を知る。
10	メロディー(主旋律）のリズム研究 →同じメロディーラインでも、リズムやのせる言葉によって譜割りが変化する。一つのメロディーラインからのイージートレーニング。
11	推薦アーティストのDVD鑑賞 →ライブDVDやPV、あるいはドキュメント映像を見て、アイデンティティーを学ぶ。
12	アーティストのオリジナリティーを知る。 →同じテーマの同名異曲を聞いて、様々なアーティストの個性や完成を探る。
13	テーマを決めた曲作り →同じテーマで、各自方向性を探りながら、作詞作曲にトライする。
14	テーマを決めた曲作り →1曲にまとめるために、作詞、作曲共にしっかりと構成を見直す。
15	作品発表会 →作品を発表し、クラスのメンバーに曲の感想、意見を書いてもらう。

科目名	作詞／作曲Ｉ　（前）［金3］Bクラス						
代表教員	松藤　英男	授業コード	GE7617B0	科目コード	GE7617	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自己表現の一つとしての創作力（オリジナリティー）を身につける為に、作詞作曲にチャレンジする。
普段意識なく耳にしている優れた楽曲の作詞や作曲を研究する事で、作詞作曲のクオリティーの高さを知り、自分自身の作品の参考にしていく。
人に伝わる曲作りを目標に、まず１曲を仕上げる達成感を味わい、ステップアップする。
シンガーソングライターとしての弾き語りやバンドサウンドの作品作りを実践して、学内ライブなどで、積極的に発表できるように、曲数を書きためる。

２．授業概要

初心者、あるいは経験者の作品を個々に添削の上、完成度をあげていく。
出来上がったお互いの曲を視聴しあい、感想や意見をディスカッションする。
イマジネーションを高める為に、映像や写真を見ながら、歌詞やメロディーを作る。
必要に応じ、ガイドの音源や仮詞により、作詞作曲を試みる。
優れたアーティストの作品を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の50%）
作品評価（評価の30%）
レポート（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作詞作曲の醍醐味を味わって、楽しみながらチャレンジして下さ　い。自分の知らない自分の一面に出会える楽しみを、ぜひ体験して下さい！
なお、作詞作曲の経験値を考慮してクラス分けを行います。

授業計画	
	［半期］ 作詞作曲という視点を変えた歌の聞き方を、身につける。演習によって作詞作曲を体験しながら、まず自分の中に眠っている未知のイマジネーションを掘り起こす。
1	ガイダンス（作詞作曲の基本について） →各自にアンケート実施。
2	イメージトレーニング →写真やイラストを見ながら、心に浮かぶ思いや絵を言葉にしてみる。授業内での作詞の演習。まず１曲作詞のスケッチ（土台になる文章）を書いてみる。
3	作詞のスケッチを、詞の形にまとめる →文章から歌の詞へ、言葉を整理する。曲の構成を組み立てる。
4	自分の書いた作詞に曲をつけてみる。 →レベルによって違いは大きいが、まずは前回まとめた作詞にメロディーを当てはめて曲を作る、あるいは作詞スケッチのイメージでメロディーを考える。
5	作曲に必要なコード進行の基本を知る →メロディーに、メジャーコード、マイナーコードの主要なコードをつけてみる。簡単なコード進行から、メロディーを考える演習。
6	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(8小節からはじめる)を、コード譜や鍵盤、ギターで確認する。 どんな流れになっているか聴き取り、メロディーを発想する。
7	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(出だしAセクション、サビBセクションで出来上がったもの)から、メロディーを作り、1曲に仕上げる。
8	推薦アーティスト楽曲分析研究 →作詞作曲の観点で、曲の構成、メロディーの作り方や音符に対して詞の言葉の載り方などを探る。 作詞作曲の観点で、人に伝わる歌とは何かを考える。
9	名曲作詞の穴埋めにトライ →様々な名曲の作詞の言葉を深く理解する為に、抜けている言葉をを考える。完成された作品を聞いて、ひとつひとつの言葉の意味を知る。
10	メロディー(主旋律）のリズム研究 →同じメロディーラインでも、リズムやのせる言葉によって譜割りが変化する。一つのメロディーラインからのイージートレーニング。
11	推薦アーティストのDVD鑑賞 →ライブDVDやPV、あるいはドキュメント映像を見て、アイデンティティーを学ぶ。
12	アーティストのオリジナリティーを知る。 →同じテーマの同名異曲を聞いて、様々なアーティストの個性や完成を探る。
13	テーマを決めた曲作り →同じテーマで、各自方向性を探りながら、作詞作曲にトライする。
14	テーマを決めた曲作り →1曲にまとめるために、作詞、作曲共にしっかりと構成を見直す。
15	作品発表会 →作品を発表し、クラスのメンバーに曲の感想、意見を書いてもらう。

科目名	作詞／作曲Ⅱ　（後）［金3］Aクラス						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	GE7618A0	科目コード	GE7618	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「作詞／作曲Ⅰ」単位履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作詞作曲におけるオリジナリティーの追求をして、自分の世界を確立していく。
楽曲の種類を増やし、クオリティーを上げて、完成度の高い作品を目指す。
人に受け入れられるポピュラリティーを研究しながら、セルフプロデュース力を養う。

２．授業概要

授業のテーマの他に、常時各自の作品が完成次第、添削は個別に受けていく。
自分の作品への感想を積極的に聞いて、クリエーター同士のディスカッションで感性を高める。
自分の楽曲の表現力も追求。（歌唱法、アレンジ、パフォーマンス）
楽曲をためる事で、オリジナルの世界観を作りあげ、ライブやレコーディングなどで発表する

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の５０％）
作品評価（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人の心に響くオリジナル曲を、作りませんか？「伝える」「伝わる」曲は何かを、一緒に考えてみましょう！

授業計画	
	オリジナル作品は、各自の完成に応じて常時添削。授業内の他にもG-mail添付提出利用でのメール添削やレッスンでもアドバイス致します。
1	ガイダンス（各自の作詞作曲に取り組む姿勢や熱意を確認する） 各自の作品発表と添削／ディスカッション
2	イメージトレーニング（メロディーによる心象描写） →インストロメンタルや写真などによる、インスピレーションによる作詞の演習
3	イメージトレーニングの作詞に作曲をする →自分の書いた作詞をみながら、あるいはそのイメージにあった曲づくり。
4	コード進行から発想する作曲法 →テンションコードなども交えた、1曲の完成した形のコード進行に、メロディーを載せる。
5	コード進行から発想する作曲法 →出来上がったメロディーを、譜面にまとめ、リズムを考え、楽器でデモ音源を作る。
6	推薦アーティスト研究
7	各自の自作曲あるいは推薦曲の鑑賞とディスカッション
8	テーマを決めた曲作り →人に感謝する、季節を表す、人を愛する…と歌のテーマは様々。そこから、クラスでディスカッションの上一つテーマを決めて、それぞれが作詞ないし作曲のスケッチを始める。
9	テーマを決めた曲作り →作詞から始めた人はそれにメロディーを、作曲から始めた人はそれに作詞を載せる。譜面に書く。（デモ音源を作る。）
10	オリジナリティーとは？ →テーマが同じいろいろなアーティストの同名異曲を聞き比べ、アーティストの個性や感性を探る
11	作詞と作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲、歌手をそれぞれ分担して、プロ作家の仕事を体験する。
12	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲を分担する。パートナーを見つけ、曲作りのテーマを話し合う。決まったら、制作開始。
13	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →コラボレーションした作品を、デモ音源の形にしてみる。その中で、手直しをしていく。
14	セルフプロデュースとは？ →自分自身の作品を客観的に見つめ、自分の音楽の世界をいかしてに伝えるかを、自分に対してのクエッション＆アンサーアンケートを書き込みながら、考える。
15	作品鑑賞会

科目名	作詞／作曲Ⅱ　（後）［金3］Bクラス						
代表教員	松藤　英男	授業コード	GE7618B0	科目コード	GE7618	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「作詞／作曲Ⅰ」単位履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作詞作曲におけるオリジナリティーの追求をして、自分の世界を確立していく。
楽曲の種類を増やし、クオリティーを上げて、完成度の高い作品を目指す。
人に受け入れられるポピュラリティーを研究しながら、セルフプロデュース力を養う。

２．授業概要

授業のテーマの他に、常時各自の作品が完成次第、添削は個別に受けていく。
自分の作品への感想を積極的に聞いて、クリエーター同士のディスカッションで感性を高める。
自分の楽曲の表現力も追求。（歌唱法、アレンジ、パフォーマンス）
楽曲をためる事で、オリジナルの世界観を作りあげ、ライブやレコーディングなどで発表する

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の５０％）
作品評価（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人の心に響くオリジナル曲を、作りませんか？「伝える」「伝わる」曲は何かを、一緒に考えてみましょう！

授業計画	
	オリジナル作品は、各自の完成に応じて常時添削。授業内の他にもG-mail添付提出利用でのメール添削やレッスンでもアドバイス致します。
1	ガイダンス（各自の作詞作曲に取り組む姿勢や熱意を確認する） 各自の作品発表と添削／ディスカッション
2	イメージトレーニング（メロディーによる心象描写） →インストロメンタルや写真などによる、インスピレーションによる作詞の演習
3	イメージトレーニングの作詞に作曲をする →自分の書いた作詞をみながら、あるいはそのイメージにあった曲づくり。
4	コード進行から発想する作曲法 →テンションコードなども交えた、1曲の完成した形のコード進行に、メロディーを載せる。
5	コード進行から発想する作曲法 →出来上がったメロディーを、譜面にまとめ、リズムを考え、楽器でデモ音源を作る。
6	推薦アーティスト研究
7	各自の自作曲あるいは推薦曲の鑑賞とディスカッション
8	テーマを決めた曲作り →人に感謝する、季節を表す、人を愛する…と歌のテーマは様々。そこから、クラスでディスカッションの上一つテーマを決めて、それぞれが作詞ないし作曲のスケッチを始める。
9	テーマを決めた曲作り →作詞から始めた人はそれにメロディーを、作曲から始めた人はそれに作詞を載せる。譜面に書く。（デモ音源を作る。）
10	オリジナリティーとは？ →テーマが同じいろいろなアーティストの同名異曲を聞き比べ、アーティストの個性や感性を探る
11	作詞と作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲、歌手をそれぞれ分担して、プロ作家の仕事を体験する。
12	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲を分担する。パートナーを見つけ、曲作りのテーマを話し合う。決まったら、制作開始。
13	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →コラボレーションした作品を、デモ音源の形にしてみる。その中で、手直しをしていく。
14	セルフプロデュースとは？ →自分自身の作品を客観的に見つめ、自分の音楽の世界をいかしてに伝えるかを、自分に対してのクエッション＆アンサーアンケートを書き込みながら、考える。
15	作品鑑賞会

科目名	作詞／作曲Ⅲ　（前）［木3］						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	GE761900	科目コード	GE7619	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「作詞／作曲Ⅱ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作詞作曲におけるオリジナリティーの追求をして、自分の世界を確立していく。
　楽曲の種類を増やし、クオリティーを上げて、完成度の高い作品を目指す。
　人に受け入れられるポピュラリティーを研究しながら、セルフプロデュース力を養う。

２．授業概要

授業のテーマの他に、常時各自の作品が完成次第、添削は個別に受けていく。
　自分の作品への感想を積極的に聞いて、クリエーター同士のディスカッションで感性を高める。
　自分の楽曲の表現力も追求。（歌唱法、アレンジ、パフォーマンス）
　楽曲をためる事で、オリジナルの世界観を作りあげ、ライブやレコーディングなどで発表する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の５０％）
　作品評価（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　人の心に響くオリジナル曲を、作りませんか？「伝える」「伝わる」曲は何かを、一緒に考えてみましょう！

授業計画	
	授業外でもオリジナル作品は、各自の完成に応じて、Gmail添付などで常時添削します。 ［半期］
1	イメージトレーニング →テーマのインストロメンタルを聞いたり写真を見て、インスピレーションによる言葉並べ
2	イメージトレーニング →前回の言葉並べのスケッチを、作詞にまとめる
3	イメージトレーニング →作詞を見ながら、メロディーラインを考える
4	イメージトレーニング →思いついたメロディーの構成をまとめて、作詞を載せて完成させる
5	各自作品発表と添削／ディスカッション
6	視点を変えた作品創作方法を考える（作詞の世界観、作曲のリズムなど） →変わった思考や着眼点の曲を持ち寄り探る
7	作詞作曲と編曲のイメージトレーニング →作詞作曲の作業から、いかに編曲のイメージを固めるかのサゼッションと実際のレコーディングされたバンドでの音源を聞きながら、ディスカッション。同じ曲をいくつかの別バージョンでアレンジされているものを聞き比べる。
8	コード進行からイメージする曲作り →テーマのコード進行から、思いついたメロディーラインを譜面に書く
9	コード進行からイメージする曲作り →前回できたメロディーに作詞を載せる
10	各自作品発表と添削／ディスカッション　応用
11	オリジナリティーとは？ →同名異曲を聞き比べたり、いろいろな角度で、アーティストの感性を知る。
12	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲、歌手の分担を決める。チームで話し合って曲のイメージをまとめ、形にする。
13	作詞作曲のコラボレーション →形になった作詞、作曲の構成など詰めて完成させる。歌の人は覚えて、楽器の演奏、DTMなどでデモ音源を作る。
14	各自作品発表と添削／ディスカッション　発展
15	セルフプロデュースとは？ →自分自身の作品を客観的に見つめ、自分の音楽の世界をいかしてに伝えるかを、自分に対してのクエッション＆アンサーアンケートを書き込みながら、考える。

科目名	楽曲分析　（後）［木3］						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	GE762000	科目コード	GE7620	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「作詞／作曲Ⅲ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々なジャンルのアーティストやミュージシャンをゲストに呼び、いろいろな楽曲に親しみ、より深く理解していく。
自分の感性にインスピアするものに出会うように、より多くの音楽を受け入れていく。

２．授業概要

毎回、違うジャンルのアーティストやミュージシャンをゲストに呼び、それぞれのジャンルの音楽性や楽曲の持ち味などの話を聞く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で興味を持った楽曲を通じて、それを追求し、自分の音楽性を高める努力をする。

４．成績評価の方法及び基準

授業内でのレポート提出（１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に指定なし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 様々なジャンルのアーティストやミュジシャンを呼ぶ。 授業内容は、ゲストのスケジュールにより順不同。 毎回、感じた事や参考になった事、学んだ事などをレポートで提出。
1	オールドポップス
2	ロックンロール
3	ブルース
4	フォーク　　カントリー
5	JAZZ
6	ソウルミュージック
7	シンガーソングライター
8	ハードロック
9	ファンク　パンク
10	AOR
11	ダンスミュージック
12	ヘビーメタル
13	J-POPS
14	HIP HOP
15	ラテン

科目名	バーチャル・プロダクション　（前）　[火5] Aクラス						
代表教員	岡本　健志	授業コード	GE7621A0	科目コード	GE7621	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ミュージック・ビジネス」を単位習得済の学生または、履修中の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ロック＆ポップスコースのイベント、及びROPSレーベルの企画、制作を通じて、イベント・プロデュース、映像／音源制作プロデュースの手法を身につける。

2．授業概要

コースのイベントスケジュールに合わせ、チーム毎に企画、制作を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

常に新しいアイデアを持ち、進化型のプロデュースを心がけるように。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度、貢献度(評価の100%)

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ミュージック・ビジネス」の単位取得者及び履修者。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス～業界分析
2	Second Season企画
3	3/4企画
4	プリ・プロ／ポス・プロ研究１　基礎
5	プリ・プロ／ポス・プロ研究２　応用
6	The Debut!!企画
7	Last Spurt企画
8	イベント統括１　基礎
9	ROPS企画
10	Natsuon Street企画
11	イベント総括２　応用
12	ROPS制作
13	Next Generation企画
14	イベント総括３　発展
15	後期制作企画

科目名	バーチャル・プロダクション　（後）　[火5] Bクラス						
代表教員	岡本　健志	授業コード	GE7621B0	科目コード	GE7621	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ミュージック・ビジネス」を単位習得済の学生または、履修中の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ロック＆ポップスコースのイベント、及びROPSレーベルの企画、制作を通じて、イベント・プロデュース、映像／音源制作プロデュースの手法を身につける。

2．授業概要

コースのイベントスケジュールに合わせ、チーム毎に企画、制作を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

常に新しいアイデアを持ち、進化型のプロデュースを心がけるように。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度、貢献度(評価の100%)

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ミュージック・ビジネス」の単位取得者及び履修者。

授業計画	
	［半期］
1	Next Generation制作１　基礎
2	Next Generation制作２　応用
3	イベント総括１　基礎
4	Song Writers企画
5	プロモーション研究
6	Song Writers制作
7	映像作品研究１　基礎
8	映像作品研究２　応用
9	イベント総括２　応用
10	FUYUON企画
11	FUYUON制作１　基礎
12	FUYUON制作２　応用
13	FUYUON総括
14	HARVEST企画
15	卒業イベント企画

科目名	ＤＴＭ実習１　（前）［金2］Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7622A0	科目コード	GE7622	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、システム構築、基本的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用した簡単なデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行ないます。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習２」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション
2	PCのセットアップ／ソフトウェア（DAW）の基本操作1　基礎
3	ソフトウェア（DAW）の基本操作2　応用
4	ソフトウェア（DAW）の基本操作3　発展
5	基礎プログラミング1（ドラム）
6	基礎プログラミング2（キーボード）
7	基礎プログラミング3（ベース）
8	基礎プログラミング4（ギター）
9	基礎プログラミング5（ストリングス）
10	基礎プログラミング6（シンセサイザー）
11	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（MIDIトラック）
12	今まで実施したプログラミングの総復習
13	課題制作１　基礎
14	課題制作２　応用
15	課題製作３　発展　・課題提出

科目名	ＤＴＭ実習１　（前）［金2］Bクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7622B0	科目コード	GE7622	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、システム構築、基本的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用した簡単なデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行ないます。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習２」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション
2	PCのセットアップ／ソフトウェア（DAW）の基本操作1　基礎
3	ソフトウェア（DAW）の基本操作2　応用
4	ソフトウェア（DAW）の基本操作3　発展
5	基礎プログラミング1（ドラム）
6	基礎プログラミング2（キーボード）
7	基礎プログラミング3（ベース）
8	基礎プログラミング4（ギター）
9	基礎プログラミング5（ストリングス）
10	基礎プログラミング6（シンセサイザー）
11	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（MIDIトラック）
12	今まで実施したプログラミングの総復習
13	課題制作１　基礎
14	課題制作２　応用
15	課題製作３　発展　・課題提出

科目名	ＤＴＭ実習１　（前）［金2］Cクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GE7622C0	科目コード	GE7622	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、システム構築、基本的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用した簡単なデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行ないます。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習２」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション
2	PCのセットアップ／ソフトウェア（DAW）の基本操作1　基礎
3	ソフトウェア（DAW）の基本操作2　応用
4	ソフトウェア（DAW）の基本操作3　発展
5	基礎プログラミング1（ドラム）
6	基礎プログラミング2（キーボード）
7	基礎プログラミング3（ベース）
8	基礎プログラミング4（ギター）
9	基礎プログラミング5（ストリングス）
10	基礎プログラミング6（シンセサイザー）
11	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（MIDIトラック）
12	今まで実施したプログラミングの総復習
13	課題制作１　基礎
14	課題制作２　応用
15	課題製作３　発展　・課題提出

科目名	ＤＴＭ実習２　（後）［金2］Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE7623A0	科目コード	GE7623	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、現実的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用したデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行います。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習１」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	ソフトウェアシンセ・サンプラー概論
2	ソフトウェアシンセによる音色作り
3	ソフトウェアサンプラーによる簡単なサンプル作り
4	オーディオ・レコーディング1（ヴォーカル）
5	オーディオ・レコーディング2（インストゥルメンツ）
6	応用プログラミング1（グルーヴ・クォンタイズ／MIDI）
7	応用プログラミング2（グルーヴ・クォンタイズ／オーディオ）
8	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（オーディオ・トラック）
9	ミキシング1基礎
10	ミキシング2応用
11	ミックスダウン
12	マスタリング
13	課題制作1　基礎
14	課題制作2　応用
15	課題制作3　発展　・課題提出

科目名	ＤＴＭ実習２　（後）［金2］Bクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GE7623B0	科目コード	GE7623	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、現実的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用したデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行います。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習１」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	ソフトウェアシンセ・サンプラー概論
2	ソフトウェアシンセによる音色作り
3	ソフトウェアサンプラーによる簡単なサンプル作り
4	オーディオ・レコーディング1（ヴォーカル）
5	オーディオ・レコーディング2（インストゥルメンツ）
6	応用プログラミング1（グルーヴ・クォンタイズ／MIDI）
7	応用プログラミング2（グルーヴ・クォンタイズ／オーディオ）
8	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（オーディオ・トラック）
9	ミキシング1基礎
10	ミキシング2応用
11	ミックスダウン
12	マスタリング
13	課題制作1　基礎
14	課題制作2　応用
15	課題制作3　発展　・課題提出

科目名	ＤＴＭ実習２　（後）［金2］Cクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GE7623C0	科目コード	GE7623	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、現実的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用したデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行います。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習１」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	ソフトウェアシンセ・サンプラー概論
2	ソフトウェアシンセによる音色作り
3	ソフトウェアサンプラーによる簡単なサンプル作り
4	オーディオ・レコーディング1（ヴォーカル）
5	オーディオ・レコーディング2（インストゥルメンツ）
6	応用プログラミング1（グルーヴ・クォンタイズ／MIDI）
7	応用プログラミング2（グルーヴ・クォンタイズ／オーディオ）
8	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（オーディオ・トラック）
9	ミキシング1基礎
10	ミキシング2応用
11	ミックスダウン
12	マスタリング
13	課題制作1
14	課題制作2
15	課題制作3・課題提出

科目名	キャリアデザイン講座１　（前）［月2］						
代表教員	キャリアデザイン講座	授業コード	GE770400	科目コード	GE7704	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】自分のキャリアを自分で創っていく力を養う（基礎編）
～音大で今学んでいることが、将来につながることを知る～

※「前期」「後期」と同じテーマでの実施となりますが、「後期」は、就職活動やオーディション等、自分をアピールする場面でどのようにプレゼンテーションしていくかなど、より実践的なこともサポートします。
「前期」「後期」いずれかのみを受講することも、「前期」「後期」連続受講することも可能です。

【到達目標】
・自己理解、他者理解を深める。その結果、自己受容感や自己肯定感を高める。
・音大卒業後の多様な働き方や生き方、業界や企業の仕事理解を通して、卒業後の進路、キャリアをイメージする。
・音大生として身に付けた（これから身に付けていく）能力やスキル、資質が、社会でどのように役立つのか、繋がるのかを理解する。
・グループワークを通して、コミュニケーション力を身につけていく。
・自分のキャリアを創るための表現力、創造力を養う。
・結果的に、学生生活や将来に対するモチベーションがあがる。

２．授業概要

卒業後、様々な進路、キャリアの選択肢があります。決まった進路がないからこそ、自分の人生を自分で創るにはどうしたらいいのかを考え、実現していく力を養います。

これまで自分が身につけてきた、そしてこれから身につけていく力（CAN）は何か。
自分が大切にしたい価値観、モチベーションの源泉など（WILL）は何か。

本講座では、様々なワーク、仲間とのコミュニケーション、自分の資質や性格傾向を知るためのアセスメントなどを活用することで自己理解、他者理解を深めます。また、社会で活躍するゲストをお呼びし、仕事やキャリアについて理解を深めていきます。

※昨年受講した学生のふりかえりシートより
「人それぞれ考えや思うことがあり、どれも間違いではないことを知れた。だからこそ、自分の意見に自信を持って生きていこうと思った。」
「人と話したり、考えを伝えることが苦手だったが、最初の頃より抵抗なく話せることが増えたと思う。」
「「自分は自分」「自分らしく」ということを教えてくれた。」
「短所を見がちだったが、長所があることを知れた。」
「将来の道の選択として、固定観念や親からの期待に縛られず、自分が嬉しいと思えること、やりたいと思えることをやろうと、自信を持てるようになった。」
「就職に不安があったが、改めて何のために働きたいのかを再確認することができた。」

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業で学んだことを日常で活かしてください。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢（評価60%）
・課題提出（評価20%）
・振り返りシートの内容（評価20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・授業の都度、配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。その場合は、初回の授業参加者からの抽選とさせて頂きます。
・ゲストを予定しているので、講座内容は前後することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション
2	キャリアを自分で創る(1)　基礎
3	キャリアを自分で創る(2)　応用
4	自分を知る(1)　基礎
5	自分を知る(2)　応用
6	自分を知る(3)　発展
7	社会を知る(1)　基礎
8	社会を知る(2)　応用
9	社会を知る(3)　発展
10	自分を伝える表現力を養う(1)　基礎
11	自分を伝える表現力を養う(2)　応用
12	自分を伝える表現力を養う(3)　発展
13	キャリアを描く(1)　基礎
14	キャリアを描く(2)　応用
15	総まとめ

科目名	キャリアデザイン講座２　（後）［月2］						
代表教員	キャリアデザイン講座	授業コード	GE770500	科目コード	GE7705	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】自分のキャリアを自分で創っていく力を養う（基礎＋実践編）
～音大で今学んでいることが、将来につながることを知る～

※「前期」「後期」、同じテーマでの実施となりますが、「後期」は、基礎的なことに加えて、就職活動やオーディション等、自分をアピールする場面でどのようにプレゼンテーションしていくかなど、より実践的なこともサポートします。
「前期」「後期」いずれかのみを受講することも、「前期」「後期」連続受講することも可能です。

【到達目標】
・自己理解、他者理解を深める。その結果、自己受容感や自己肯定感を高める。
・音大卒業後の多様な働き方や生き方、業界や企業の仕事理解を通して、卒業後の進路、キャリアをイメージする。
・音大生として身に付けた（これから身に付けていく）能力やスキル、資質が、社会でどのように役立つのか、繋がるのかを理解する。
・グループワークを通して、コミュニケーション力を身につけていく。
・自分のキャリアを創るための表現力、創造力を養う。
・結果的に、学生生活や将来に対するモチベーションがあがる。

２．授業概要

卒業後、様々な進路、キャリアの選択肢があります。決まった進路がないからこそ、自分の人生を自分で創るにはどうしたらいいのかを考え、実現していく力を養います。

これまで自分が身につけてきた、そしてこれから身につけていく力（CAN）は何か。
自分が大切にしたい価値観、モチベーションの源泉など（WILL）は何か。

本講座では、様々なワーク、仲間とのコミュニケーション、自分の資質や性格傾向を知るためのアセスメントなどを活用することで自己理解、他者理解を深めます。また、社会で活躍するゲストをお呼びし、仕事やキャリアについて理解を深めていきます。

※昨年受講した学生のふりかえりシートより
「人それぞれ考えや思うことがあり、どれも間違いではないことを知れた。だからこそ、自分の意見に自信を持って生きていこうと思った。」
「人と話したり、考えを伝えることが苦手だったが、最初の頃より抵抗なく話せることが増えたと思う。」
「「自分は自分」「自分らしく」ということを教えてくれた。」
「短所を見がちだったが、長所があることを知れた。」
「将来の道の選択として、固定観念や親からの期待に縛られず、自分が嬉しいと思えること、やりたいと思えることをやろうと、自信を持てるようになった。」
「就職に不安があったが、改めて何のために働きたいのかを再確認することができた。」

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業で学んだことを日常で活かしてください。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢（評価60%）
・課題提出（評価20%）
・振り返りシートの内容（評価20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・授業の都度、配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。その場合は、初回の授業参加者からの抽選とさせて頂きます。
・ゲストを予定しているので、講座内容は前後することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション
2	キャリアを自分で創る(1)　基礎
3	キャリアを自分で創る(2)　応用
4	自分を知る(1)　基礎
5	自分を知る(2)　応用
6	自分を知る(3)　発展
7	社会を知る(1)　基礎
8	社会を知る(2)　応用
9	社会を知る(3)　発展
10	自分を伝える表現力を養う(1)　基礎
11	自分を伝える表現力を養う(2)　応用
12	自分を伝える表現力を養う(3)　発展
13	キャリアを描く(1)　基礎
14	キャリアを描く(2)　応用
15	総まとめ

科目名	英語１－Ｉ （前） ［水1］Aクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710A0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－Ⅰ （前） ［水2］Bクラス （1年生クラス）						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710B0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－Ｉ （前） ［水4］Cクラス						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE7710C0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－Ｉ （前） ［水4］Dクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710D0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－Ⅰ （前） ［水5］Eクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710E0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－Ⅰ （前） ［金2］Gクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710G0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－Ｉ （前） ［金3］Hクラス						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE7710H0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－Ⅰ （前） ［金3］Jクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7710J0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－Ⅰ （前） ［水2］Ｋクラス （1年生クラス）						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GE7710K0	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－II （後） ［水1］Aクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711A0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	英語１－II （後） ［水2］Bクラス （1年生クラス）						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711B0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	英語１－II （後） ［水4］Cクラス						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE7711C0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	英語１－II （後） ［水4］Dクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711D0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	英語１－II （後） ［水5］Eクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711E0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	英語１－II （後） ［金2］Gクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711G0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	英語１－II （後） ［金3］Hクラス						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE7711H0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	英語１－II （後） ［金3］Jクラス						
代表教員	永井　崇	授業コード	GE7711J0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	英語１－II （後） ［水2］Kクラス （1年生クラス）						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GE7711K0	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	英語２－Ⅰ （前） ［水5］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE771200	科目コード	GE7712	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌(Jazz＆Pops)とスピーキング・アクティビティーを通して「使える英語」を実践的に学び、英語でコミュニケーションやプレゼンテーションができる力を身につけられることである。

２．授業概要

英語によるプレゼンテーションや歌を通して、スピーキング力とリスニング力を高める。
(1) JazzやPopsを使って、音声変化のルールを学び、リスニング・スピーキング力の向上を目指す。歌詞の背景を探りながら、英語らしい発音で歌う-SMILE、 ALL OF ME、 WHEN YOU WISH UPON A STAR、 IF、 BECAUSEなど。
(2) プレゼンは＜リサーチ → 準備 → 練習 →発表＞を行い、プレゼンテーション・スキルのコツを学ぶ。
（３）プロジェクトはテーマに従って、シナリオを書き、発表し合う－Tour Project、Favorite Music Project など。
（４）覚えておくと必ず使えるフレーズを映画やTVドラマ、コマーシャルから実践的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、授業外に準備と練習。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう

４．成績評価の方法及び基準

プレゼンとプロジェクト（評価の５０％）
試験（評価の２０％）
宿題（評価の１０％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト名：　Viva! San Francisco　Video Approach to Survival English
著者: Hiroto Ohyagi, Timothy Kiggell
出版社：Macmillan Languagehouse
定価：2000円

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

英語が苦手な学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。
いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合がある。
1	シラバスの記載事項について確認する。 Guidance & Introduction
2	Short speech、UNIT 1-リスニング
3	プレゼン①-リサーチ、UNIT 1-スピーキング
4	プレゼン①-準備、UNIT 2-リスニング
5	プレゼン①-練習、UNIT 2-スピーキング
6	プレゼン①-発表、 プレゼン②-リサーチ、UNIT 3-リスニング
7	プレゼン②-準備、UNIT 3-スピーキング
8	プレゼン②-練習、UNIT 4-リスニング
9	プレゼン②-発表、プレゼン③-リサーチ、UNIT 4-スピーキング
10	プレゼン③-準備、UNIT 5-リスニング
11	プレゼン③-練習、UNIT 5-スピーキング
12	プレゼン③-発表、UNIT 6-リスニング
13	プロジェクト発表①-準備・練習、UNIT 6-スピーキング
14	プロジェクト発表②-練習と発表
15	前期総括

科目名	英語２－II （後） ［水5］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	GE771300	科目コード	GE7713	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語２－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌(Jazz＆Pops)とスピーキング・アクティビティーを通して「使える英語」を実践的に学び、英語でコミュニケーションやプレゼンテーションができる力を身につけられることである。

２．授業概要

英語によるプレゼンテーションや歌を通して、スピーキング力とリスニング力を高める。
(1) JazzやPopsを使って、音声変化のルールを学び、リスニング・スピーキング力の向上を目指す。歌詞の背景を探りながら、英語らしい発音で歌う-EVERY BREATH YOU TAKE、WHAT A WONDERFUL WORLD、A SONG FOR YOU、THAT'S WHAT FRIENDS ARE FOR、クリスマスソング、など。
(2) プレゼンは＜リサーチ → 準備 → 練習 →発表＞を行い、プレゼンテーション・スキルのコツを学ぶ。
（３）プロジェクトはテーマに従って、シナリオを書き、発表し合う－Tour Project、Favorite Music Project など。
（４）覚えておくと必ず使えるフレーズを映画やTVドラマ、コマーシャルから実践的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、授業外に準備と練習。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう

４．成績評価の方法及び基準

プレゼンとプロジェクト（評価の５０％）
試験（評価の２０％）
宿題（評価の１０％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト名：　Viva! San Francisco　Video Approach to Survival English
著者: Hiroto Ohyagi, Timothy Kiggell
出版社：Macmillan Languagehouse
定価：2000円

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

英語が苦手な学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。
いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合がある。
1	Guidance & Introduction、Review UNIT 1-3
2	Short speech、Review UNIT 4-6
3	プレゼン④-リサーチ、UNIT 7 -リスニング
4	プレゼン④-準備、UNIT 7-スピーキング
5	プレゼン④-練習、 UNIT 8-リスニング
6	プレゼン④-発表、 プレゼン⑤-リサーチ、UNIT 8-スピーキング
7	プレゼン⑤-準備、UNIT 9-リスニング
8	プレゼン⑤-練習、UNIT 9-スピーキング
9	プレゼン⑤-発表、プレゼン⑥-リサーチ、UNIT 10-リスニング
10	プレゼン⑥-準備、UNIT 10-スピーキング
11	プレゼン⑥-練習、歌（クリスマスソング)- リスニング、UNIT 11-リスニング
12	プレゼン⑥-発表、歌（クリスマスソング)-歌詞と発音指導、UNIT 11-スピーキング
13	プロジェクト発表①-準備・練習、UNIT 12-リスニング
14	プロジェクト発表②-練習と発表、UNIT 12-スピーキング
15	後期総括

科目名	独語１－Ⅰ （前） ［水1］Aクラス						
代表教員	大村　幸太	授業コード	GE7714A0	科目コード	GE7714	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

初めてドイツ語に触れる人を対象に、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5～6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉文字と文字の表す音：音価／変母音の発音／文字の組み合わせと発音
3	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉アクセントと母音の長さ／注意すべき文字の組み合わせ
4	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉不定詞／動詞の人称変化
5	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉発音の都合でちょっと変わった変化をする動詞
6	Lektion 2〈語順（1）〉不定詞句／否定詞nicht／不定詞句から文を作る：定動詞第2位／平叙文の語順
7	Lektion 2〈語順（1）〉並列の接続詞／補足疑問文
8	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉決定疑問文／否定疑問文とdoch
9	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉sein／haben
10	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉名詞の性／名詞の数／複数形
11	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉定冠詞つき名詞の格変化／不定冠詞
12	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉定冠詞類と定冠詞類つき名詞の格変化
13	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉人称代名詞／werとwasの格変化
14	まとめ
15	期末試験とその解説

科目名	独語１－Ⅰ （前） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	大村　幸太	授業コード	GE7714B0	科目コード	GE7714	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

初めてドイツ語に触れる人を対象に、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5～6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉文字と文字の表す音：音価／変母音の発音／文字の組み合わせと発音
3	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉アクセントと母音の長さ／注意すべき文字の組み合わせ
4	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉不定詞／動詞の人称変化
5	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉発音の都合でちょっと変わった変化をする動詞
6	Lektion 2〈語順（1）〉不定詞句／否定詞nicht／不定詞句から文を作る：定動詞第2位／平叙文の語順
7	Lektion 2〈語順（1）〉並列の接続詞／補足疑問文
8	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉決定疑問文／否定疑問文とdoch
9	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉sein／haben
10	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉名詞の性／名詞の数／複数形
11	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉定冠詞つき名詞の格変化／不定冠詞
12	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉定冠詞類と定冠詞類つき名詞の格変化
13	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉人称代名詞／werとwasの格変化
14	まとめ
15	期末試験とその解説

科目名	独語１－Ⅰ （前） ［水4］Cクラス						
代表教員	武藤　陽子	授業コード	GE7714C0	科目コード	GE7714	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

初めてドイツ語に触れる人を対象に、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5～6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉文字と文字の表す音：音価／変母音の発音／文字の組み合わせと発音
3	Lektion 0〈ドイツ語で使われる文字と発音〉アクセントと母音の長さ／注意すべき文字の組み合わせ
4	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉不定詞／動詞の人称変化
5	Lektion 1〈動詞の現在人称変化（1）〉発音の都合でちょっと変わった変化をする動詞
6	Lektion 2〈語順（1）〉不定詞句／否定詞nicht／不定詞句から文を作る：定動詞第2位／平叙文の語順
7	Lektion 2〈語順（1）〉並列の接続詞／補足疑問文
8	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉決定疑問文／否定疑問文とdoch
9	Lektion 3〈語順（2）seinとhaben〉sein／haben
10	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉名詞の性／名詞の数／複数形
11	Lektion 4〈定冠詞、不定冠詞〉定冠詞つき名詞の格変化／不定冠詞
12	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉定冠詞類と定冠詞類つき名詞の格変化
13	Lektion 5〈定冠詞類、人称代名詞〉人称代名詞／werとwasの格変化
14	まとめ
15	期末試験とその解説

科目名	独語１－II （後） ［水1］Aクラス						
代表教員	大村　幸太	授業コード	GE7715A0	科目コード	GE7715	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「独語１-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

「独語1-I」から引き続き、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5～6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	「独語1-I」での学習事項の確認
3	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉否定冠詞／nichtとkeinの使い分け
4	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉所有冠詞
5	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉語幹の母音が変化する動詞／母音と子音が変化する動詞
6	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉命令・依頼の表現
7	Lektion 8〈前置詞〉前置詞の格支配
8	Lektion 8〈前置詞〉熟語的表現／前置詞と定冠詞の融合形
9	Lektion 9〈分離動詞〉分離動詞／非分離動詞
10	Lektion 9〈分離動詞〉熟語的表現／非人称のes
11	Lektion 10〈助動詞〉助動詞の種類／助動詞の現在人称変化／語順
12	Lektion 10〈助動詞〉助動詞が単独で動詞として使われる場合
13	まとめ
14	「独語1-I」「独語1-II」を通してのまとめ
15	期末試験とその解説

科目名	独語１－II （後） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	大村　幸太	授業コード	GE7715B0	科目コード	GE7715	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「独語１-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

「独語1-I」から引き続き、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5～6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	「独語1-I」での学習事項の確認
3	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉否定冠詞／nichtとkeinの使い分け
4	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉所有冠詞
5	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉語幹の母音が変化する動詞／母音と子音が変化する動詞
6	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉命令・依頼の表現
7	Lektion 8〈前置詞〉前置詞の格支配
8	Lektion 8〈前置詞〉熟語的表現／前置詞と定冠詞の融合形
9	Lektion 9〈分離動詞〉分離動詞／非分離動詞
10	Lektion 9〈分離動詞〉熟語的表現／非人称のes
11	Lektion 10〈助動詞〉助動詞の種類／助動詞の現在人称変化／語順
12	Lektion 10〈助動詞〉助動詞が単独で動詞として使われる場合
13	まとめ
14	「独語1-I」「独語1-II」を通してのまとめ
15	期末試験とその解説

科目名	独語１－II （後） ［水4］Cクラス						
代表教員	武藤　陽子	授業コード	GE7715C0	科目コード	GE7715	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「独語１-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツの音楽を学ぶには、程度の差はあっても、その音楽が生まれた国の言葉（ドイツ語）の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルを磨くと共に、言葉も一緒にマスターしてゆけば、音楽に対する思いも一層深まることと思います。発音から始め、簡単な挨拶や会話の練習を通して、初級文法を無理なく身につけることを目的とします。

２．授業概要

「独語1-I」から引き続き、ドイツ語の基礎を理解するために最小限必要な文法事項、そしてドイツ語を話す地域の文化や現在の諸事情について学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学習事項の定着を図る簡易な復習課題を適宜指示します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の50%）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の20%）
授業への参加姿勢（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ひらめき、発見、ドイツ語文法』朝日出版社
参考文献：収録語数5～6万語の独和辞典（初回授業時に選びかたを指示します）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻をしないように。
独和辞典を必ず持参すること。
やむを得ず欠席した場合は、その授業内容を確認しておくこと。
履修者数によっては1クラスの人数を制限することがあります。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	「独語1-I」での学習事項の確認
3	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉否定冠詞／nichtとkeinの使い分け
4	Lektion 6〈否定冠詞、所有冠詞〉所有冠詞
5	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉語幹の母音が変化する動詞／母音と子音が変化する動詞
6	Lektion 7〈動詞の現在人称変化（2）〉命令・依頼の表現
7	Lektion 8〈前置詞〉前置詞の格支配
8	Lektion 8〈前置詞〉熟語的表現／前置詞と定冠詞の融合形
9	Lektion 9〈分離動詞〉分離動詞／非分離動詞
10	Lektion 9〈分離動詞〉熟語的表現／非人称のes
11	Lektion 10〈助動詞〉助動詞の種類／助動詞の現在人称変化／語順
12	Lektion 10〈助動詞〉助動詞が単独で動詞として使われる場合
13	まとめ
14	「独語1-I」「独語1-II」を通してのまとめ
15	期末試験とその解説

科目名	独語２－Ⅰ （前） ［水5］						
代表教員	武藤　陽子	授業コード	GE771600	科目コード	GE7716	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「独語1-I、II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツで生まれたさまざまな音楽を学ぶには、程度の差はあっても、ドイツ語の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルと共にドイツ語も学べば、ドイツやヨーロッパの音楽に対する思いも一層深まるのではないでしょうか。「独語１」で学んだ内容を確かなものにしながら、総合的なドイツ語の運用能力を高めていきましょう。

２．授業概要

「独語１」で学んだ内容を復習しながら短い文章や会話文に慣れていくなかで、一通りの初級文法の理解と定着を図ることを目標とします。ドイツ語文化圏事情についても、内容を理解しやすいように補助教材や映像資料なども活用していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の学習事項や単語の定着を図るため、簡易な復習課題を適宜指示します。また、その定着度について小テストで確認します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験：評価の５０％
平常点（課題提出、授業内の小テスト）：評価の２５％
授業への参加姿勢：評価の２５％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）
収録語数５～６万語程度の独和辞典

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件：
１．原則として「独語１」の単位を修得した学生
２．辞書（独和辞典）を必ず持参する
３．30分以上の遅刻は欠席とみなし、また遅刻は3回で1回の欠席とみなす。
４．全体の1／3以上欠席したものには原則として期末試験の受験を認めない

初回授業の際に、「独語１」の内容確認テスト（テキスト・辞書等持ち込み可）を行う。履修人数が多数の際には、このテストの結果によって履修制限を行う場合もある。

授業計画	
	［半期］2-I
1	ガイダンスおよび確認テスト
2	動詞の現在人称変化（規則・不規則変化）／語順／ja・neinの使い方
3	会話：自己紹介／読み物 Guten Tag
4	名詞（定冠詞・不定冠詞）の性と格／名詞の複数形／人称代名詞
5	会話：美術館で／読み物： Cool Japan
6	命令形／非人称のes／時刻の表現
7	会話：ヴィーン／読み物：Wien
8	定冠詞類／不定冠詞類／人称代名詞の3格と4格
9	会話：買い物／読み物：Porträt meiner Familie
10	前置詞／疑問代名詞
11	会話：バーゼルで／読み物：Basel
12	助動詞／従属の接続詞と副文／分離動詞と非分離動詞
13	会話：コンサートに行きたい／読み物：Ryota geht ins Konzert
14	前期の復習
15	前期試験とまとめ

科目名	独語２－II （後） ［水5］						
代表教員	武藤　陽子	授業コード	GE771700	科目コード	GE7717	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「独語2-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ドイツで生まれたさまざまな音楽を学ぶには、程度の差はあっても、ドイツ語の知識が不可欠でしょう。音楽のスキルと共にドイツ語も学べば、ドイツやヨーロッパの音楽に対する思いも一層深まるのではないでしょうか。「独語１」や「独語２－I」で学んだ内容を確かなものにしながら、総合的なドイツ語の運用能力を高めていきましょう。

２．授業概要

「独語１」で学んだ内容を復習しながら短い文章や会話文に慣れていくなかで、一通りの初級文法の理解と定着を図ることを目標とします。ドイツ語文化圏事情についても、内容を理解しやすいように補助教材や映像資料なども活用していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の学習事項や単語の定着を図るため、簡易な復習課題を適宜指示します。また、その定着度について小テストで確認します。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験：評価の５０％
平常点（課題提出、授業内の小テスト）：評価の２５％
授業への参加姿勢：評価の２５％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）
収録語数５～６万語程度の独和辞典

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件：
１．原則として「独語2-I」の単位を修得した学生
２．辞書（独和辞典）を必ず持参する
３．30分以上の遅刻は欠席とみなし、また遅刻は3回で1回の欠席とみなす。
４．全体の1／3以上欠席したものには原則として期末試験の受験を認めない

授業計画	
	［半期］2-I
1	ガイダンスおよび前期復習
2	形容詞の格語尾変化
3	形容詞・副詞の比較級
4	会話：レストランで食事／読み物：Atomkraft? Nein Danke!
5	動詞の３基本形
6	現在完了形
7	会話：週末の外出／読み物：Die Wartburg bei Eisenach
8	過去人称変化
9	再帰代名詞と再帰動詞
10	会話：ヴァイマルで／読み物：Weimar
11	zu不定詞
12	関係代名詞
13	会話：冬休みに／読み物：Kölnisch Wasser
14	後期の復習
15	後期試験とまとめ

科目名	仏語１－Ⅰ （前） ［水1］Aクラス						
代表教員	岡本　尚子	授業コード	GE7718A0	科目コード	GE7718	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を専門とする皆さんのために開講された初級フランス語の授業です。海外音楽研修に参加するとき、ホームステイをするとき、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、フランス人とコミュニケーションをとるときに活用できる、生きたフランス語の基礎と日常会話能力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

大切な会話表現やことばのきまりがやさしく説明されている、親しみやすいテキストを使用します。授業では、基本的な会話表現を通して、フランス語の正確な発音やリズムと基礎文法を自然に学びとれるように反復練習を取り入れますので、積極的に参加しましょう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の後は必ず復習し、その回でやったことを次の授業までにできるだけ理解するようにして下さい。解らないことがあれば、できるだけ早く質問に来ること。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」

なお成績評価は、相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『街かどのフランス語（三訂版）― Bonjour francais』（朝日出版社）
参考文献：
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
『ディコ仏和辞典』（白水社）
『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『新・リュミエール−フランス文法参考書』（駿河台出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

DELF/DALF（世界共通のフランス語検定試験）や仏検を受けてみたい人は、早めに申し出てください。
　履修人数によっては１クラスの人数を制限します。

授業計画	
	前期は、フランス語の音に慣れ、簡単な挨拶や自己紹介を中心とするやさしい会話表現の習得を目標とし、初歩的な基礎文法を学びます。（以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合もあります。）
1	ガイダンス　Lecon0　アルファベ、挨拶
2	Lecon0　数字0~10、曜日、名詞の性と数
3	Lecon1　Voici,Voila, C' est, 不定冠詞と定冠詞
4	Lecon1　主語人称代名詞、-er動詞、数字11~20、疑問文(1)
5	Lecon2　形容詞(1), 動詞etre, 所有・指示形容詞
6	Lecon2　数字21～60、何かを頼む表現、序数詞
7	Lecon3　動詞avoir, il y a
8	Lecon3　疑問文(2)、形容詞(2)
9	Lecon0~3の復習
10	Lecon4　場所・方向の表現、否定文、動詞aller
11	Lecon4　命令文、モノの位置
12	Lecon5　動詞prendre、部分冠詞、前置詞と定冠詞の縮約
13	Lecon5　動詞faire、天候表現と季節
14	Lecon4~5の復習
15	前期試験およびまとめ

科目名	仏語１－Ⅰ（前）［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	岡本　尚子	授業コード	GE7718B0	科目コード	GE7718	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を専門とする皆さんのために開講された初級フランス語の授業です。海外音楽研修に参加するとき、ホームステイをするとき、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、フランス人とコミュニケーションをとるときに活用できる、生きたフランス語の基礎と日常会話能力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

大切な会話表現やことばのきまりがやさしく説明されている、親しみやすいテキストを使用します。授業では、基本的な会話表現を通して、フランス語の正確な発音やリズムと基礎文法を自然に学びとれるように反復練習を取り入れますので、積極的に参加しましょう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の後は必ず復習し、その回でやったことを次の授業までにできるだけ理解するようにして下さい。解らないことがあれば、できるだけ早く質問に来ること。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」

なお成績評価は、相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『街かどのフランス語（三訂版）―Bonjour francais』（朝日出版社）
参考文献：
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
『ディコ仏和辞典』（白水社）
『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『新・リュミエール―フランス文法参考書』（駿河台出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

DELF/DALF（世界共通のフランス語検定試験）や仏検を受けてみたい人は、早めに申し出てください。
　履修人数によっては１クラスの人数を制限します。

授業計画	
	前期は、フランス語の音に慣れ、簡単な挨拶や自己紹介を中心とするやさしい会話表現の習得を目標とし、初歩的な基礎文法を学びます。（以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合もあります。）
1	ガイダンス　Lecon0　アルファベ、挨拶、
2	Lecon0　数字0~10、曜日、名詞の性と数
3	Lecon1　Voici,Voila, C' est, 不定冠詞と定冠詞
4	Lecon1　主語人称代名詞、-er動詞、数字11~20、疑問文(1)
5	Lecon2　形容詞(1), 動詞etre, 所有・指示形容詞
6	Lecon2　数字21～60、何かを頼む表現、序数詞
7	Lecon3　動詞avoir, il y a
8	Lecon3　疑問文(2)、形容詞(2)
9	Lecon0~3の復習
10	Lecon4　場所・方向の表現、否定文、動詞aller
11	Lecon4　命令文、モノの位置
12	Lecon5　動詞prendre、部分冠詞、前置詞と定冠詞の縮約
13	Lecon5　動詞faire、天候表現と季節
14	Lecon4~5の復習
15	前期試験およびまとめ

科目名	仏語１－II （後） ［水1］Aクラス						
代表教員	岡本　尚子	授業コード	GE7719A0	科目コード	GE7719	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「仏語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を専門とする皆さんのために開講された初級フランス語の授業です。海外音楽研修に参加するとき、ホームステイをするとき、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、フランス人とコミュニケーションをとるときに活用できる、生きたフランス語の基礎と日常会話能力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

大切な会話表現やことばのきまりがやさしく説明されている、親しみやすいテキストを使用します。授業では、発音指導に重点を置き、基本的な会話表現を通して、フランス語の正確な発音やリズムと基礎文法を自然に学びとれるように反復練習を取り入れますので、積極的に参加しましょう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の後は必ず復習し、その回でやったことを次の授業までにできるだけ理解するようにして下さい。解らないことがあれば、できるだけ早く質問に来ること。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」

なお成績評価は、相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『街かどのフランス語（三訂版）―Bonjour francais』（朝日出版社）
参考文献：
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
『ディコ仏和辞典』（白水社）
『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『新・リュミエール-フランス文法参考書』（駿河台出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・DELF/DALF（世界共通のフランス語検定試験）や仏検を受けてみたい人は、早めに申し出てください。
・履修人数によっては１クラスの人数を制限します。
・今年度前期に仏語1-Iを履修しない人は、できるだけ4月に担当教員まで連絡するようにして下さい。

授業計画	
	後期は、前期に学習した内容をさらに発展させ、より内容豊かな口語表現力と文法事項を学びます。　（以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合もあります。）
1	ガイダンス　前期の復習
2	Lecon6　疑問詞のある疑問文、時刻表現
3	Lecon6　月名、レストランで予約をする
4	Lecon7　比較級、色の形容詞
5	Lecon7　洋服を買う、目的語人称代名詞
6	Lecon8　代名動詞、最上級
7	Lecon8　非人称構文、地下鉄に乗る
8	Lecon6～8の復習
9	Lecon9　複合過去(1)
10	Lecon9　-ir動詞、レストランで注文する
11	Lecon10　複合過去(2)
12	Lecon10　近い未来
13	Lecon10　近い過去
14	Lecon9~10の復習
15	後期試験およびまとめ

科目名	仏語１－II （後） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	岡本　尚子	授業コード	GE7719B0	科目コード	GE7719	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「仏語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を専門とする皆さんのために開講された初級フランス語の授業です。海外音楽研修に参加するとき、ホームステイをするとき、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、フランス人とコミュニケーションをとるときに活用できる、生きたフランス語の基礎と日常会話能力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

大切な会話表現やことばのきまりがやさしく説明されている、親しみやすいテキストを使用します。授業では、発音指導に重点を置き、基本的な会話表現を通して、フランス語の正確な発音やリズムと基礎文法を自然に学びとれるように反復練習を取り入れますので、積極的に参加しましょう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の後は必ず復習し、その回でやったことを次の授業までにできるだけ理解するようにして下さい。解らないことがあれば、できるだけ早く質問に来ること。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」

なお成績評価は、相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『街かどのフランス語（三訂版）―Bonjour francais』（朝日出版社）
参考文献：
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
『ディコ仏和辞典』（白水社）
『クラウン仏和辞典』（三省堂）
『新・リュミエール―フランス文法参考書』（駿河台出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

DELF/DALF（世界共通のフランス語検定試験）や仏検を受けてみたい人は、早めに申し出てください。
　履修人数によっては１クラスの人数を制限します。

授業計画	
	後期は、前期に学習した内容をさらに発展させ、より内容豊かな口語表現力と文法事項を学びます。 （以下の予定で進めますが、受講者の様子を見て変更する場合もあります。）
1	ガイダンス　前期の復習
2	Lecon6　疑問詞のある疑問文、時刻表現
3	Lecon6　月名、レストランで予約をする
4	Lecon7　比較級、色の形容詞
5	Lecon7　洋服を買う、目的語人称代名詞
6	Lecon8　代名動詞、最上級
7	Lecon8　非人称構文、地下鉄に乗る
8	Lecon6~8の復習
9	Lecon9　複合過去（１）
10	Lecon9　-ir動詞、レストランで注文する
11	Lecon10　複合過去（２）
12	Lecon10　近い未来
13	Lecon10　近い過去
14	Lecon9~10の復習
15	後期試験およびまとめ

科目名	仏語２－Ⅰ （前） ［水5］						
代表教員	久保田　悠介	授業コード	GE772000	科目コード	GE7720	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「仏語１」で習った基本的な文法を復習しながら、過去形、未来形、条件法を視野に入れたさらに複雑な表現を学びます。
実際の場面で使われる会話表現のトレーニングを通し、フランス語によるコミュニケーション能力と文法の基礎的運用能力を培うことを目標とします。
また、フランス歌曲やフレンチ・ポップス、童謡など、フランスの音楽に触れることで、フランス語により親しみを持てるようになりましょう。

２．授業概要

基本的には教科書に沿って進めていき、基礎文法をしっかりと身につけてゆきます。
その応用編として、学期後半ではさまざまな詩（とくに音楽のついたもの）、つまりフランス歌曲の詞など、いろいろな文章を読む機会も作ります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

外国語をマスターするには、繰り返し学習することが極めて大切です。したがって、授業の後は必ず復習し、課題をおこない、次の授業に備えて、わからない所は辞書を引いて予め調べ、質問ができるようにしておいてください。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」
なお、成績評価は相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：「Rythmes & Communication」（朝日出版、2017）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として「仏語１」の単位を修得した学生であること（未修得者は応相談）。
既習事項の復習にも時間を割く予定なので、「仏語１」で学んだ内容をある程度忘れてしまっていても、やる気さえあれば受講は可能です。

授業計画	
	［半期］ 前期は前年度に学習した内容を基礎に学習を進め、後半ではフランスの音楽に触れる機会を作ります。
1	ガイダンス　一年次の復習
2	etre動詞・avoir動詞の現在形、名詞と冠詞、形容詞
3	-er動詞の現在形、否定文と疑問文など
4	動詞aller, venir, faire
5	これまでの復習
6	-ir動詞、疑問形容詞、所有形容詞
7	命令形、動詞vouloir, pouvoir
8	動詞prendreなど、さまざまな疑問詞
9	フランス歌曲の詩を読む（１）、文法の復習　基本（前半）
10	フランス歌曲の詩を読む（２）、文法の復習　基本（後半）
11	フランス歌曲の詩を読む（３）、文法の復習　応用（前半）
12	フランス歌曲の詩を読む（４）、文法の復習　応用（後半）
13	フランス歌曲の詩を読む（５）、文法の復習　発展（前半）
14	フランス歌曲の詩を読む（６）、文法の復習　発展（後半）
15	前期の総合復習

科目名	仏語２－II （後） ［水5］						
代表教員	久保田　悠介	授業コード	GE772100	科目コード	GE7721	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「仏語１」で習った基本的な文法を復習しながら、過去形、未来形、条件法を視野に入れたさらに複雑な表現を学びます。
実際の場面で使われる会話表現のトレーニングを通し、フランス語によるコミュニケーション能力と文法の基礎的運用能力を培うことを目標とします。
また、フランス歌曲やフレンチ・ポップス、童謡など、フランスの音楽に触れることで、フランス語により親しみを持てるようになりましょう。

２．授業概要

基本的には教科書に沿って進めていき、基礎文法をしっかりと身につけてゆきます。
その応用編として、学期後半ではさまざまな詩（とくに音楽のついたもの）、つまりフランス歌曲の詞など、いろいろな文章を読む機会も作ります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

外国語をマスターするには、繰り返し学習することが極めて大切です。したがって、授業の後は必ず復習し、課題をおこない、次の授業に備えて、わからない所は辞書を引いて予め調べ、質問ができるようにしておいてください。

４．成績評価の方法及び基準

「学期末試験　70%」
「授業への参加姿勢　30%」
なお、成績評価は相対評価ではなく、絶対評価でおこないます。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：「Rythmes & Communication」（朝日出版、2017）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として「仏語１」の単位を修得した学生であること（未修得者は応相談）。
既習事項の復習にも時間を割く予定なので、「仏語１」で学んだ内容をある程度忘れてしまっていても、やる気さえあれば受講は可能です。

授業計画	
	［半期］ 前期は前年度に学習した内容を基礎に学習を進め、後半ではフランスの音楽に触れる機会を作ります。
1	ガイダンス　前期の復習
2	代名動詞、比較級、最上級
3	複合過去形、関係代名詞que
4	受動態、目的語人称代名詞、関係代名詞qui
5	これまでの復習
6	半過去形
7	単純未来形
8	条件法
9	フランス歌曲の詩を読む（１）、文法の復習　基本（前半）
10	フランス歌曲の詩を読む（２）、文法の復習　基本（後半）
11	フランス歌曲の詩を読む（３）、文法の復習　応用（前半）
12	フランス歌曲の詩を読む（４）、文法の復習　応用（後半）
13	フランス歌曲の詩を読む（５）、文法の復習　発展（前半）
14	フランス歌曲の詩を読む（６）、文法の復習　発展（後半）
15	後期の総合復習

科目名	伊語１－Ⅰ （前） ［水1］Aクラス						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE7722A0	科目コード	GE7722	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

岡田先生クラスでは、教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。
Lieto先生クラスでは、配布された内容をしっかり覚えましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Lieto先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。
- 『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
- 『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。

辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。
- 『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
- 『伊和中辞典』（小学館）
- 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ イタリア語の発音に慣れましょう。
1	岡田：1. Pronti....? Via!：アルファベット、名詞 Lieto：”カンツォーネ1 、Piacere!-1”　アルファベット、人・街の名前、自己紹介、主語代名詞、動詞essere
2	岡田：1. Pronti...? Via!：形容詞、冠詞 Lieto：復習と練習
3	岡田：1. Pronti...? Via!：主語人称代名詞、動詞 Lieto：”カンツォーネ２”　数詞（0～10）、自己紹介・アルファベット・名詞の復習
4	岡田：1. Pronti...? Via!：まとめ Lieto：復習と練習
5	岡田：2. Piacere!：essere Lieto：”カンツォーネ３”　数詞（100まで）、年齢の表現、動詞avere
6	岡田：2. Piacere!：再帰動詞 chiamarsi Lieto：復習と練習
7	岡田：2. Piacere!：まとめ Lieto：”カンツォーネ４、Piacere!-2”　紹介と問い、動詞essereの用法
8	岡田：2. Piacere!：自己紹介 Lieto：復習と練習
9	岡田：3. La famiglia：avere Lieto：”カンツォーネ５、Il Bar 1”　不定冠詞
10	岡田：3. La famiglia：所有形容詞、数詞1~30 Lieto：復習と練習
11	岡田：3. La famiglia：前置詞と定冠詞の結合 Lieto：”カンツォーネ６”　人の性格を表現する形容詞、動詞essereの用法
12	岡田：3. La famiglia：まとめ Lieto：復習と練習
13	岡田：4. La posta：不規則動詞 uscire Lieto：”カンツォーネ７”　定冠詞、動詞guardare(規則活用の-are動詞)
14	岡田：4. La posta：不規則動詞 andare / venire Lieto：復習と練習
15	岡田：4. La posta：指示代名詞・指示形容詞 映画(イタリア語) Lieto：総復習

科目名	伊語１－Ⅰ （前） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE7722B0	科目コード	GE7722	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

岡田先生クラスでは、教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。
Lieto先生クラスでは、配布された内容をしっかり覚えましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Lieto先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。

- 『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
- 『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。

辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。

- 『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
- 『伊和中辞典』（小学館）
- 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ イタリア語の発音に慣れましょう。
1	岡田：1. Pronti....? Via!：アルファベット、名詞 Lieto：”カンツォーネ1 、Piacere!-1”　アルファベット、人・街の名前、自己紹介、主語代名詞、動詞essere
2	岡田：1. Pronti...? Via!：形容詞、冠詞 Lieto：復習と練習
3	岡田：1. Pronti...? Via!：主語人称代名詞、動詞 Lieto：”カンツォーネ２”　数詞（0～10）、自己紹介・アルファベット・名詞の復習
4	岡田：1. Pronti...? Via!：まとめ Lieto：復習と練習
5	岡田：2. Piacere!：essere Lieto：”カンツォーネ３”　数詞（100まで）、年齢の表現、動詞avere
6	岡田：2. Piacere!：再帰動詞 chiamarsi Lieto：復習と練習
7	岡田：2. Piacere!：まとめ Lieto：”カンツォーネ４、Piacere!-2”　紹介と問い、動詞essereの用法
8	岡田：2. Piacere!：自己紹介 Lieto：復習と練習
9	岡田：3. La famiglia：avere Lieto：”カンツォーネ５、Il Bar 1”　不定冠詞
10	岡田：3. La famiglia：所有形容詞、数詞1~30 Lieto：復習と練習
11	岡田：3. La famiglia：前置詞と定冠詞の結合 Lieto：”カンツォーネ６”　人の性格を表現する形容詞、動詞essereの用法
12	岡田：3. La famiglia：まとめ Lieto：復習と練習
13	岡田：4. La posta：不規則動詞 uscire Lieto：”カンツォーネ７”　定冠詞、動詞guardare(規則活用の-are動詞)
14	岡田：4. La posta：不規則動詞 andare / venire Lieto：復習と練習
15	岡田：4. La posta：指示代名詞・指示形容詞 映画(イタリア語) Lieto：総復習

科目名	伊語１－Ⅰ （前） ［水4］Cクラス						
代表教員	フィオーレ　リエート	授業コード	GE7722C0	科目コード	GE7722	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

岡田先生クラスでは、教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。
Lieto先生クラスでは、配布された内容をしっかり覚えましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Lieto先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。
・『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
・『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。
辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。
・『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
・『伊和中辞典』（小学館）
・『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ イタリア語の発音に慣れましょう。
1	岡田：1. Pronti....? Via!：アルファベット、名詞 Lieto：”カンツォーネ1 、Piacere!-1”　アルファベット、人・街の名前、自己紹介、主語代名詞、動詞essere
2	岡田：1. Pronti...? Via!：形容詞、冠詞 Lieto：復習と練習
3	岡田：1. Pronti...? Via!：主語人称代名詞、動詞 Lieto：”カンツォーネ２”　数詞（0～10）、自己紹介・アルファベット・名詞の復習
4	岡田：1. Pronti...? Via!：まとめ Lieto：復習と練習
5	岡田：2. Piacere!：essere Lieto：”カンツォーネ３”　数詞（100まで）、年齢の表現、動詞avere
6	岡田：2. Piacere!：再帰動詞 chiamarsi Lieto：復習と練習
7	岡田：2. Piacere!：まとめ Lieto：”カンツォーネ４、Piacere!-2”　紹介と問い、動詞essereの用法
8	岡田：2. Piacere!：自己紹介 Lieto：復習と練習
9	岡田：3. La famiglia：avere Lieto：”カンツォーネ５、Il Bar 1”　不定冠詞
10	岡田：3. La famiglia：所有形容詞、数詞1~30 Lieto：復習と練習
11	岡田：3. La famiglia：前置詞と定冠詞の結合 Lieto：”カンツォーネ６”　人の性格を表現する形容詞、動詞essereの用法
12	岡田：3. La famiglia：まとめ Lieto：復習と練習
13	岡田：4. La posta：不規則動詞 uscire Lieto：”カンツォーネ７”　定冠詞、動詞guardare(規則活用の-are動詞)
14	岡田：4. La posta：不規則動詞 andare / venire Lieto：復習と練習
15	岡田：4. La posta：指示代名詞・指示形容詞 映画(イタリア語) Lieto：総復習

科目名	伊語１－Ⅰ （前） ［水5］Dクラス						
代表教員	フィオーレ　リエート	授業コード	GE7722D0	科目コード	GE7722	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

岡田先生クラスでは、教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。
Lieto先生クラスでは、配布された内容をしっかり覚えましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Lieto先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。

- 『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
- 『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。

辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。

- 『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
- 『伊和中辞典』（小学館）
- 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ イタリア語の発音に慣れましょう。
1	岡田：1. Pronti....? Via!：アルファベット、名詞 Lieto：”カンツォーネ1 、Piacere!-1”　アルファベット、人・街の名前、自己紹介、主語代名詞、動詞essere
2	岡田：1. Pronti...? Via!：形容詞、冠詞 Lieto：復習と練習
3	岡田：1. Pronti...? Via!：主語人称代名詞、動詞 Lieto：”カンツォーネ２”　数詞（0～10）、自己紹介・アルファベット・名詞の復習
4	岡田：1. Pronti...? Via!：まとめ Lieto：復習と練習
5	岡田：2. Piacere!：essere Lieto：”カンツォーネ３”　数詞（100まで）、年齢の表現、動詞avere
6	岡田：2. Piacere!：再帰動詞 chiamarsi Lieto：復習と練習
7	岡田：2. Piacere!：まとめ Lieto：”カンツォーネ４、Piacere!-2”　紹介と問い、動詞essereの用法
8	岡田：2. Piacere!：自己紹介 Lieto：復習と練習
9	岡田：3. La famiglia：avere Lieto：”カンツォーネ５、Il Bar 1”　不定冠詞
10	岡田：3. La famiglia：所有形容詞、数詞1~30 Lieto：復習と練習
11	岡田：3. La famiglia：前置詞と定冠詞の結合 Lieto：”カンツォーネ６”　人の性格を表現する形容詞、動詞essereの用法
12	岡田：3. La famiglia：まとめ Lieto：復習と練習
13	岡田：4. La posta：不規則動詞 uscire Lieto：”カンツォーネ７”　定冠詞、動詞guardare(規則活用の-are動詞)
14	岡田：4. La posta：不規則動詞 andare / venire Lieto：復習と練習
15	岡田：4. La posta：指示代名詞・指示形容詞 映画(イタリア語) Lieto：総復習

科目名	伊語１－II （後） ［水1］Aクラス						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE7723A0	科目コード	GE7723	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「伊語１-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

岡田先生のクラスは教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。
Lieto先生のクラスは配布されたプリントの内容をしっかり覚えましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Lieto先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。

- 『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
- 『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。

辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。

- 『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
- 『伊和中辞典』（小学館）
- 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ ペアで会話をしてみましょう。
1	岡田：前期の総復習、5. Al telefono：疑問詞 Lieto：”カンツォーネ８”　規則動詞amare、再帰動詞chiamarsi
2	岡田：5. Al telefono：不規則動詞 stare Lieto：復習と練習
3	岡田：5. Al telefono：時間・月日の表現 Lieto：”カンツォーネ９”　不規則動詞fare
4	岡田：5. Al telefono：まとめ Lieto：復習と練習
5	岡田：5 Al telefono:疑問詞　不規則動詞stare　時間・月日の表現、 まとめ Lieto：”カンツォーネ10”　曜日、不規則動詞fareの用法
6	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 volere / dovere Lieto：復習と練習
7	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 potere / sapere Lieto：”カンツォーネ11”　-ere動詞の活用
8	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 まとめ Lieto：復習と練習
9	岡田：6 Permesso?:まとめ Lieto：”カンツォーネ12”　-ire動詞の活用
10	岡田：7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞 Lieto：復習と練習
11	岡田：7. Non mi sento bene：曜日の言い方 Lieto：”カンツォーネ13”　不規則動詞の練習
12	岡田：7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞、まとめ Lieto：復習と練習
13	岡田：7 Non mi sento bene:まとめ Lieto：”カンツォーネ14”　不規則動詞andare
14	岡田：辞書を使ってみよう Lieto：復習と練習
15	岡田：映画をイタリア語で観よう Lieto：総復習

科目名	伊語１－II （後） ［水2］Bクラス　１年生クラス						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE7723B0	科目コード	GE7723	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「伊語１-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

岡田先生のクラスは教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。
Lieto先生のクラスは配布されたプリントの内容をしっかり覚えましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Lieto先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。

- 『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
- 『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。

辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。

- 『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
- 『伊和中辞典』（小学館）
- 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ ペアで会話をしてみましょう。
1	岡田：前期の総復習、5. Al telefono：疑問詞 Lieto：”カンツォーネ８”　規則動詞amare、再帰動詞chiamarsi
2	岡田：5. Al telefono：不規則動詞 stare Lieto：復習と練習
3	岡田：5. Al telefono：時間・月日の表現 Lieto：”カンツォーネ９”　不規則動詞fare
4	岡田：5. Al telefono：まとめ Lieto：復習と練習
5	岡田：5 Al telefono:疑問詞　不規則動詞stare　時間・月日の表現、 まとめ Lieto：”カンツォーネ10”　曜日、不規則動詞fareの用法
6	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 volere / dovere Lieto：復習と練習
7	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 potere / sapere Lieto：”カンツォーネ11”　-ere動詞の活用
8	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 まとめ Lieto：復習と練習
9	岡田：6 Permesso?:まとめ Lieto：”カンツォーネ12”　-ire動詞の活用
10	岡田：7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞 Lieto：復習と練習
11	岡田：7. Non mi sento bene：曜日の言い方 Lieto：”カンツォーネ13”　不規則動詞の練習
12	岡田：7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞、まとめ Lieto：復習と練習
13	岡田：7 Non mi sento bene:まとめ Lieto：”カンツォーネ14”　不規則動詞andare
14	岡田：辞書を使ってみよう Lieto：復習と練習
15	岡田：映画をイタリア語で観よう Lieto：総復習

科目名	伊語１－II （後） ［水4］Cクラス						
代表教員	フィオーレ　リエート	授業コード	GE7723C0	科目コード	GE7723	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「伊語１-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

岡田先生のクラスは教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。
Lieto先生のクラスは配布されたプリントの内容をしっかり覚えましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Lieto先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。

- 『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
- 『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。

辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。

- 『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
- 『伊和中辞典』（小学館）
- 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ ペアで会話をしてみましょう。
1	岡田：前期の総復習、5. Al telefono：疑問詞 Lieto：”カンツォーネ８”　規則動詞amare、再帰動詞chiamarsi
2	岡田：5. Al telefono：不規則動詞 stare Lieto：復習と練習
3	岡田：5. Al telefono：時間・月日の表現 Lieto：”カンツォーネ９”　不規則動詞fare
4	岡田：5. Al telefono：まとめ Lieto：復習と練習
5	岡田：5 Al telefono:疑問詞　不規則動詞stare　時間・月日の表現、 まとめ Lieto：”カンツォーネ10”　曜日、不規則動詞fareの用法
6	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 volere / dovere Lieto：復習と練習
7	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 potere / sapere Lieto：”カンツォーネ11”　-ere動詞の活用
8	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 まとめ Lieto：復習と練習
9	岡田：6 Permesso?:まとめ Lieto：”カンツォーネ12”　-ire動詞の活用
10	岡田：7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞 Lieto：復習と練習
11	岡田：7. Non mi sento bene：曜日の言い方 Lieto：”カンツォーネ13”　不規則動詞の練習
12	岡田：7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞、まとめ Lieto：復習と練習
13	岡田：7 Non mi sento bene:まとめ Lieto：”カンツォーネ14”　不規則動詞andare
14	岡田：辞書を使ってみよう Lieto：復習と練習
15	岡田：映画をイタリア語で観よう Lieto：総復習

科目名	伊語１－II （後） ［水5］Dクラス						
代表教員	フィオーレ　リエート	授業コード	GE7723D0	科目コード	GE7723	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「伊語１-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

簡単なイタリア語の日常会話をもとに、イタリア語の初級文法を学び、さらに辞書を引いてイタリア歌曲等の単語を理解しよう。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進めます。
毎回、前回の復習をしてから、新しい文法に入ります。練習をして、最後は会話をして終わります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

岡田先生のクラスは教科書についているCDを利用して、会話を覚えましょう。また、練習問題帳を復習しましょう。
Lieto先生のクラスは配布されたプリントの内容をしっかり覚えましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末テスト（評価の７０％）
授業への参加姿勢および課題提出（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Lieto先生クラスについては、毎回プリントを配布します。テキストは、使用しません。
岡田先生クラスについては、テキストを２冊使用します。テキストは、以下の通りです。

- 『Facciamo esercizi！練習しましょう！-イタリア語問題集-』岡田由美子（白水社）（￥950＋税）
- 『Ho capito! オ・カピート』菅野ヴェロニカ（白水社）（￥2200+税）　参考文献については授業中に紹介します。

辞書が必要な場合は、以下の辞書がお勧めです。

- 『プリーモ伊和辞典 和伊付き』（白水社）
- 『伊和中辞典』（小学館）
- 『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人数が多い場合、希望のクラスに入れない場合があります。

授業計画	
	［半期］ ペアで会話をしてみましょう。
1	岡田：前期の総復習、5. Al telefono：疑問詞 Lieto：”カンツォーネ８”　規則動詞amare、再帰動詞chiamarsi
2	岡田：5. Al telefono：不規則動詞 stare Lieto：復習と練習
3	岡田：5. Al telefono：時間・月日の表現 Lieto：”カンツォーネ９”　不規則動詞fare
4	岡田：5. Al telefono：まとめ Lieto：復習と練習
5	岡田：5 Al telefono:疑問詞　不規則動詞stare　時間・月日の表現、 まとめ Lieto：”カンツォーネ10”　曜日、不規則動詞fareの用法
6	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 volere / dovere Lieto：復習と練習
7	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 potere / sapere Lieto：”カンツォーネ11”　-ere動詞の活用
8	岡田：6. Permesso?：不規則動詞 まとめ Lieto：復習と練習
9	岡田：6 Permesso?:まとめ Lieto：”カンツォーネ12”　-ire動詞の活用
10	岡田：7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞 Lieto：復習と練習
11	岡田：7. Non mi sento bene：曜日の言い方 Lieto：”カンツォーネ13”　不規則動詞の練習
12	岡田：7. Non mi sento bene：直接・間接目的語代名詞、まとめ Lieto：復習と練習
13	岡田：7 Non mi sento bene:まとめ Lieto：”カンツォーネ14”　不規則動詞andare
14	岡田：辞書を使ってみよう Lieto：復習と練習
15	岡田：映画をイタリア語で観よう Lieto：総復習

科目名	伊語２－Ⅰ （前） ［水5］						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE772400	科目コード	GE7724	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初級イタリア語の文法をさらに発展させ、会話だけでなく、歌曲等の歌詞を読む力をつける。

２．授業概要

イタリア語文法を進めながら、進度に沿った会話を練習するとともに、辞書を使ってイタリア語の歌曲の歌詞を理解したり、イタリア語で書かれた物語に触れる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

復習を重点的に行いましょう。練習問題集（Facciamo esercizi）を積極的に進めましょう。

４．成績評価の方法及び基準

授業に臨む姿勢５０％、学期末試験の結果５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書は2冊：

『Ho capito!』菅野ヴェロニカ著（白水社）（￥2200+税）

『Facciamo esercizi ！ 練習しましょう！-イタリア語問題集一』岡田由美子著（白水社）（￥950+税）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「伊語１-I」および「伊語１-II」の単位を修得した学生が望ましい。

授業計画	
	［半期］2-I
1	初級文法の総復習：動詞の活用、目的語代名詞
2	8 Mi piace uscire: piacereの使い方　目的語代名詞の複合形　導入
3	8 Mi piace uscire: piacereの使い方　目的語代名詞の複合形　基礎
4	8 Mi piace uscire: piacereの使い方　目的語代名詞の複合形　応用
5	8 Mi piace uscire: piacereの使い方　目的語代名詞の複合形　発展
6	辞書を使ってみよう　基礎
7	9 Ho conosciuto Veronica: 過去分詞　近過去　部分冠詞　導入
8	9 Ho conosciuto Veronica: 過去分詞　近過去　部分冠詞　基礎
9	9 Ho conosciuto Veronica: 過去分詞　近過去　部分冠詞　応用
10	9 Ho conosciuto Veronica: 過去分詞　近過去　部分冠詞　発展
11	辞書を使ってみよう　応用
12	10 Mi e' piaciuto subito: 近過去　不規則な過去分詞　関係代名詞　導入
13	10 Mi e` piaciuto subito: 近過去　不規則な過去分詞　関係代名詞　基礎
14	10 Mi e' piaciuto subito: 近過去　不規則な過去分詞　関係代名詞　応用
15	映画をイタリア語で観よう

科目名	伊語２ - II （後） ［水5］						
代表教員	岡田　由美子	授業コード	GE772500	科目コード	GE7725	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「伊語２-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初級イタリア語の文法をさらに発展させ、会話だけでなく、歌曲等の歌詞を読む力をつける。

２．授業概要

イタリア語文法を進めながら、進度に沿った会話を練習するとともに、辞書を使ってイタリア語の歌曲の歌詞を理解したり、イタリア語で書かれた物語に触れる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

復習を重点的に行いましょう。練習問題集（Facciamo esercizi）を積極的に進めましょう。

４．成績評価の方法及び基準

授業に臨む姿勢５０％、学期末試験の結果５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書は2冊：

『Ho capito!』菅野ヴェロニカ著（白水社）（￥2200+税）

『Facciamo esercizi ！ 練習しましょう！ －イタリア語問題集－』岡田由美子著（白水社）（￥950+税）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「伊語１-I」および「伊語１-II」の単位を修得した学生が望ましい。

授業計画	
	［半期］ 辞書を使って、イタリア語をさらに理解しましょう。
1	前期の総復習
2	11 Il lavoro:未来形　前未来　導入
3	11 Il lavoro:未来形　前未来　基礎
4	11 Il lavoro:未来形　前未来　応用
5	辞書を使ってみよう　基礎
6	12 Al grande magazzino:条件法　導入
7	12 Al grande magazzino:条件法　基礎
8	12 Al grande magazzino:条件法　応用
9	辞書を使ってみよう　応用
10	13 Lo sport:半過去　非人称の文　導入
11	13 Lo sport:半過去　非人称の文　基礎
12	14 Devi studiare!:stare+ジェルンディオ 命令形　導入
13	14 Devi studiare!:stare+ジェルンディオ命令形　基礎
14	15 Dante Alighieri:遠過去　最上級・比較級
15	映画をイタリア語で観よう

科目名	副科実技(器楽 - ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)1~4-2 （後） ［月2］ バレエ						
代表教員	日原　永美子	授業コード	GJ0971A0	科目コード	GJ0971d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	全（MS・BL・AS・DC除く）（PF一部除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエの名手でもあったルイ14世の時代、音楽・オペラ・バレエは密接な関係があった。バレエの基礎を学ぶことにより、身体で音楽を感じ自由に表現できることを目指し、音楽的な身体表現技術を向上させることを目標とする。

２．授業概要

バレエダンサーにとっては身体が表現するための楽器であり、楽器である身体を作り美しい動きを身につける為にバレエレッスンがある。この基本レッスンを通して、美しい姿勢・立ち居振る舞い・音楽的な動き（リズム・メロディ）・呼吸法・エレガンス等が身につくように指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽を身体に通して動くことができるかどうか、積み重ねの効果を体感して欲しいので、授業で学習した基本を少しずつ続けること。
バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）。

４．成績評価の方法及び基準

「平常点100%」（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

必ず稽古着を着用し、バレエシューズを使用すること。他にタオル・飲み物などを用意し、髪が長い場合は首のラインが出るようにまとめ、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
クラス分けについては、教師より指示する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　音楽とバレエ
2	ストレッチ　バーレッスン　正しい姿勢、足のポジション
3	ストレッチ　バーレッスン　En dehors、Plie
4	ストレッチ　バーレッスン　Tendu、Degage
5	ストレッチ　バーレッスン　Rond de jambe a terre, Rond de jambe en l'air
6	ストレッチ　バーレッスン　Fondu、Frappe
7	ストレッチ　バーレッスン　Développé Grand battement
8	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　Port de bras、Adage
9	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　Tendu
10	ストレッチ　バー＆センターレッスン　　Valse、Petits sauts
11	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　　回転
12	ストレッチ　バー＆センターレッスン　Grands sauts
13	ストレッチ　バー＆センターレッスン　音楽的な動き、呼吸法
14	ストレッチ　バー＆センターレッスン　表現力
15	まとめ

科目名	副科実技(器楽 - ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)1~4-2 （後） ［木5］ ダンス						
代表教員	河内　達弥	授業コード	GJ0971B0	科目コード	GJ0971d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	全（MS・BL・AS・DC除く） （PF一部除く）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

まずはアップ、ストレッチの正しい方法を習得し、ダンスでは初心者、経験者問わず、最低限必要な知識とテクニックの習得を目指す。様々なスタイルのコンビネーションからダンスの楽しさ、奥深さを体験し、苦手意識のある人はその克服を、更なる技術向上を目指したい人にはそこからダンスを今後どのように役立てていきたいかを探求する。

２．授業概要

毎回の授業では、アップ、ストレッチ、リズム練習をした後に、設定されるテーマや題材にそって全員で演習していく。必用によって個別指導も盛り込まれる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業内容を根気強く復習すること、また欠席した回の授業内容はできるだけ把握し次回までに練習することが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

成果発表や試験における実力評価＝50%　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で臨むこと。（ジーンズ等の私服に近いものは不可）靴はジャズスニーカーを推奨し毎回それを持参すること。各々受講準備ができたら直ちに鏡の前に来てストレッチをし授業開始を待つこと。見学の場合は必ず一言その旨を講師に伝えること。体調管理には十分注意すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズ基礎
2	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズ応用
3	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ストリートジャズまとめ
4	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズ基礎
5	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズ応用
6	アップ、ストレッチ、クロスフロア、ポップジャズまとめ
7	アップ、ストレッチ、クロスフロア、モダンジャズ基礎
8	アップ、ストレッチ、クロスフロア、モダンジャズ応用
9	アップ、ストレッチ、クロスフロア、モダンジャズまとめ
10	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンス基礎
11	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンス応用
12	アップ、ストレッチ、クロスフロア、シアターダンスまとめ
13	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス振付
14	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス表現
15	アップ、ストレッチ、クロスフロア、総合ダンス発表

科目名	副科実技(器楽 - ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)2-1~4-1 （前） ［月2］ バレエ						
代表教員	日原　永美子	授業コード	GJ0972A0	科目コード	GJ0972d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	全（MS・BL・AS・DC除く）（PF一部除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バレエの名手でもあったルイ14世の時代、音楽・オペラ・バレエは密接な関係があった。バレエの基礎を学ぶことにより、身体で音楽を感じ自由に表現できることを目指し、音楽的な身体表現技術を向上させることを目標とする。

２．授業概要

バレエダンサーにとっては身体が表現するための楽器であり、楽器である身体を作り美しい動きを身につける為にバレエレッスンがある。この基本レッスンを通して、美しい姿勢・立ち居振る舞い・音楽的な動き（リズム・メロディ）・呼吸法・エレガンス等が身につくように指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽を身体に通して動くことができるかどうか、積み重ねの効果を体感して欲しいので、授業で学習した基本を少しずつ続けること。
バレエ鑑賞（舞台、DVDなど）。

４．成績評価の方法及び基準

「平常点100%」（バレエの基本の理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

必ず稽古着を着用し、バレエシューズを使用すること。他にタオル・飲み物などを用意し、髪が長い場合は首のラインが出るようにまとめ、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。
クラス分けについては、教師より指示する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　音楽とバレエ
2	ストレッチ　バーレッスン　正しい姿勢、足のポジション
3	ストレッチ　バーレッスン　En dehors、Plie
4	ストレッチ　バーレッスン　Tendu、Degage
5	ストレッチ　バーレッスン　Rond de jambe a terre, Rond de jambe en l'air
6	ストレッチ　バーレッスン　Fondu、Frappe
7	ストレッチ　バーレッスン　Développé Grand battement
8	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　Port de bras、Adage
9	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　Tendu
10	ストレッチ　バー＆センターレッスン　　Valse、Petits sauts
11	ストレッチ　　バー＆センターレッスン　　回転
12	ストレッチ　バー＆センターレッスン　Grands sauts
13	ストレッチ　バー＆センターレッスン　音楽的な動き、呼吸法
14	ストレッチ　バー＆センターレッスン　表現力
15	まとめ

科目名	副科実技(器楽 - ｸﾞﾙｰﾌﾟ)/副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ)2-1~4-1 （前） ［木5］ ダンス						
代表教員	河内　達弥	授業コード	GJ0972B0	科目コード	GJ0972d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	全（MS・BL・AS・DC除く） （PF一部除く）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

まずはアップ、ストレッチの正しい方法を習得し、ダンスでは初心者、経験者問わず、最低限必要な知識とテクニックの習得を目指す。様々なスタイルのコンビネーションからダンスの楽しさ、奥深さを体験し、苦手意識のある人はその克服を、更なる技術向上を目指したい人にはそこからダンスを今後どのように役立てていきたいかを探求する。

２．授業概要

毎回の授業では、アップ、ストレッチ、リズム練習をした後に、設定されるテーマや題材にそって全員で演習していく。必用によって個別指導も盛り込まれる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業内容を根気強く復習すること、また欠席した回の授業内容はできるだけ把握し次回までに練習することが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

成果発表や試験における実力評価＝50%　総合的学習態度＝50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で臨むこと。（ジーンズ等の私服に近いものは不可）靴はジャズスニーカーを推奨し毎回それを持参すること。各々受講準備ができたら直ちに鏡の前に来てストレッチをし授業開始を待つこと。見学の場合は必ず一言その旨を講師に伝えること。体調管理には十分注意すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	アップ、ストレッチ、身体作りの手引き基礎
3	アップ、ストレッチ、身体作りの手引き応用
4	アップ、ストレッチ、リズム演習基礎
5	アップ、ストレッチ、リズム演習応用
6	アップ、ストレッチ、リズム演習発展
7	アップ、ストレッチ、リズム演習まとめ
8	アップ、ストレッチ、クロスフロア基礎
9	アップ、ストレッチ、クロスフロア応用
10	アップ、ストレッチ、クロスフロア発展
11	アップ、ストレッチ、クロスフロアまとめ
12	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス基礎
13	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス応用
14	アップ、ストレッチ、テーマパークダンス発展
15	アップ、ストレッチ、テーマパークダンスまとめ

科目名	ﾌﾟﾛｽﾀ1～4/ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙﾐｭｰｼﾞｯｸﾌﾟﾛﾀﾞｸｼｮﾝ1～4　（集）						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GJ124600	科目コード	GJ1246d	期間	集中
担当教員	渡辺　俊幸						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	総合音楽コース学生の履修については、音楽・音響デザインコース責任教員の承認が必要。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座は、セミナーあるいはワークショップの形式で実施される集中講義となっている。
植松伸夫氏、伊藤賢治氏、田中公平氏、他（順不同）の各氏の講演が予定されているが、集中講座のため実施内容の詳細については４月以降に発表される。この講座を通してプロの仕事や感覚に直に触れ、見聞を広めることがこの講座の目的である。

２．授業概要

セミナーあるいはワークショップの各回は各氏独自のテーマ設定により進められる。
授業計画はその一例である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各セッションに参加するにあたり、各氏のプロフィールなどを調べ、事前に適切な質問事項を準備することをお勧めする。
また、各セクションで得た内容を文字データとしてアーカイブすると良い。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）
レポート課題（評価の70%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献

ネット時代のクリエイターやミュージシャンが得する権利や著作権の本
杉本善徳（著）

図解入門業界研究 最新音楽業界の動向とカラクリがよ~くわかる本[第4版]
大川正義（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修登録後、実施日については別途アナウンスされるが、各回は事前の登録制となっており、その方法については４月に音デの電子掲示板などで行うので注意すること。

授業計画	
	［前期］ サウンド制作全般について、様々な視点から講義を行う。
1	植松伸夫のミュージック・プロダクション
2	伊藤賢治のミュージックプロダクション
3	田中公平のミュージックプロダクション
4	ゲストのミュージックプロダクション
5	植松伸夫のサウンドプロダクション
6	伊藤賢治のサウンドプロダクション
7	田中公平のサウンドプロダクション
8	ゲスト講師のサウンドプロダクション
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］ 各講師の音楽バックボーンから、現在に至るまでの音楽の広がりについて、様々な切り口で講義する。
1	植松伸夫のクロニクル・オブ・ミュージック
2	伊藤賢治のサウンドメイキング
3	田中公平のクロニクル・オブ・ミュージック
4	ゲストのクロニクル・オブ・ミュージック
5	植松伸夫のサウンドメイキング
6	伊藤賢治のサウンドメイキング
7	田中公平のサウンドメイキング
8	ゲスト講師のサウンドメイキング
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	リズムパフォーマンス　[金5]						
代表教員	高谷　あゆみ	授業コード	GJ149400	科目コード	GJ1494	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

基本的なダンスの動きを学び、ミュージカルなど様々なジャンルの音楽を使用し、楽しくダンスをする授業。
コミュニケーションを積極的にとり、自分たちでパフォーマンスを考え、文化祭での発表を目指します。
Let's Dance！！

2．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。
ウォームアップ、正しい姿勢を鏡を使用し確認(40分）、さまざまなジャンルの音楽でのダンスの振り付け（50分）

3．授業時間外の学習（予習復習について）

毎日のストレッチ、ウォーキング、呼吸法の復習、正しい姿勢

4．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
振付のテスト（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受講生が多い場合は、初回授業で選考する場合があります。
服装は運動しやすい服装
シューズはダンスシューズ（ジャズ・バレエ）。最初は運動靴でも可。
休み時間中に着替えをすませておくこと。他にタオル、飲み物、筆記用具を持参すること。
学園祭に出演する予定です。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス ウォームアップ・ストレッチ・色々な曲でウオーキングレッスン
2	ウォームアップ・ストレッチ・ボックスや簡単なステップレッスン
3	ウォームアップ・ストレッチ・ボックスや簡単なステップを繋げ、簡単な振り付け
4	ウォームアップ・ストレッチ・バレエの基礎のアームス、足のポジションレッスン
5	ウォームアップ・ストレッチ・バレエの基礎のアームス、足のポジションレッスンと簡単なバレエの振り付け
6	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付・リトミックレッスン1(アームスのリトミック)
7	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付・リトミックレッスン2(アームスと足のステップを同時に行う)
8	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付・学園祭で披露する内容について話し合い1回目(ダンス、ピアノ演奏、歌の中で何をするか)
9	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・振付・学園祭で披露する内容について話し合い2回目(ダンス、ピアノ演奏、歌などの選曲)
10	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・学園祭で披露するダンスの振り付け1回目(ダンスのステップを覚える)
11	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・学園祭で披露するダンスの振り付け2回目(ダンスの振り付けの細かなところの確認)
12	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・学園祭で披露するダンスの振り付け3回目(ダンスをお客様に観て頂くにあたり、表現の仕方、見せ方を学ぶ)
13	エウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・学園祭で披露するダンスの振り付け4回目(学生同士、ダンスを披露し、改善点を話し合う)
14	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・学園祭で披露するダンスの振り付け予備日
15	ウォームアップ・ストレッチ・ベーシックダンスステップ・学園祭で披露するダンスの振り付け確認

授業計画	
	［後期］
1	ウオーミングアツプ、学園祭のパフォーマンス準備1回目(ダンスの振り付け確認)
2	ウォーミングアップ、学園祭のパフォーマンス準備2回目(ダンスの振り付け確認とピアノ演奏の練習)
3	ウォーミングアップ、学園祭のパフォーマンス準備3回目(ダンスの振り付け確認とピアノ演奏や歌などの練習をし、MCを考える)
4	ウォーミングアップ、学園祭のパフォーマンス準備4回目(全てのパフォーマンスを通してみる)
5	ウォーミングアップ、学園祭のパフォーマンス準備5回目(前週の改善点を話し合い、練習する)
6	学園祭のパフォーマンス準備6回目(お客様がいらっしゃることを想定して練習)
7	学園祭のパフォーマンス準備7回目(前週の改善点を話し合い、練習する)
8	学園祭のパフォーマンス準備8回目(何回もパフォーマンスを通してみることによりパフォーマンスに慣れるようにする)
9	学園祭のパフォーマンス準備 9回目(通してみて、改善できるところを繰り返し練習する)
10	学園祭のパフォーマンス準備、最終確認
11	学年末テストのための振付1回目(ステップ、振り付けを覚える)
12	学年末テストのための振付2回目(お客様がいらっしゃることを想定しての表現の仕方、見せ方を研究してみる)
13	学年末テストのための振付最終確認
14	クラス試演会(ダンス・ピアノ)
15	クラス試演会(ダンス・ピアノ)の講評、今後の改善点を話し合い

科目名	体育実技（集中）　［タップダンス］風真ｸﾗｽ 入門１，２限						
代表教員	風真　弘子	授業コード	GJ7727A0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

タップダンスの基礎を学ぶ。

正しい姿勢でステップを踏むことから、
リズム感やビートのとり方、基本ステップを身につける。

音楽に合わせて易しいコンビネーションが踊れるように進めます。

２．授業概要

①　ウォーミングアップ／ストレッチから軽い筋トレ、クロスフロアー

②　タップダンスでの身体の使い方や、ステップの踏み方

③　タップの基本ステップ～コンビネーション

④　音楽に合わせて自分の足でリズムを刻む楽しさを感じつつ、ダンスとしての表現やムーブメントを学んで頂きます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。
基本的なステップ、足の使い方は、
学習した日に各自復習することが望ましいです。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢と基礎的なステップの習得度を加味して評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に入門・初級。
タップダンスが全く初めての方と、
新１年生はこちらのクラスをお勧めします。

なるべくタップシューズをご用意下さい。
新規に購入する場合の質問があれば、ご連絡下さい。

受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。

授業計画	
	［集中］
1	ウォーミングアップ／ストレッチから、ダンスで必要な腹筋や背筋等の筋トレ。 タップの基本的な説明と正しい姿勢、身体の使い方。
2	自分の足でビートを刻む基礎練習と、タップの基本ステップを学ぶ。
3	ウォーミングアップ／ストレッチから、ダンスで必要な腹筋や背筋等の筋トレ。 基本ステップの復習と、音の強弱やクラップも加えて音楽に合わせることを学ぶ。
4	リズムをとる基礎練習と、タップの基本ステップ（シャッフルやスラップetc）を学ぶ。
5	ウォーミングアップ／ストレッチから、ダンスで必要な腹筋や背筋等の筋トレ。 ステップを、少しテンポアップして足を動かせるよう重心の移動も含め習得。
6	易しいステップを組み合わせて、音楽に合わせて短いコンビネーションを踊る。
7	ウォーミングアップ／ストレッチから、ダンスで必要な腹筋や背筋等の筋トレ。 コンビネーション練習。
8	振付け曲をグループごとに成果発表。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［タップダンス］風真ｸﾗｽ 中級３，４限						
代表教員	風真　弘子	授業コード	GJ7727B0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

タップダンスの基礎を確認したうえで、
基本ステップ～テクニカルステップを練習し、
様々なリズムの取り方やコンビネーションを学ぶ。

リズムタップからブロードウェイスタイルタップ、アカペラ・・・。
タップダンスの巾を広げ、
舞台での多様なシーンに対応出来る表現力や可能性を知る。

２．授業概要

①　ウォーミングアップ／ストレッチから軽い筋トレ、クロスフロアー

②　タップダンスでの正しい姿勢、足の使い方などの基礎の確認

③　タップの基本ステップ～テクニカルステップ・スローステップからファストステップまで
履修者に合わせてそれぞれがスキルアップ出来るよう進めます

④　音楽に合わせて、またはアカペラでタップを踊ります

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。
学んだステップ、スムーズな重心移動、身体の使い方は
各自復習しておくことが望ましいです。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢、ステップのスキル、ダンスとしての完成度を総合的に評価。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

タップの基本ステップをほぼ習得していることが望ましいです。

タップシューズをご用意下さい。

受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［集中］
1	ウォーミングアップ／ストレッチから、ダンスで必要な腹筋や背筋等の筋トレ。 タップダンスの正しい姿勢や足の使い方を確認。
2	基本的なステップ、シャッフルからスラップ、フラップ、タイムステップを正確に習得。
3	ウォーミングアップ／ストレッチから、ダンスで必要な腹筋や背筋等の筋トレ。 ステップの復習と、音の強弱やクラップも加えて音楽に合わせることを学ぶ。
4	クロスフロアー、テクニカルステップを学ぶ。
5	ウォーミングアップ／ストレッチから、ダンスで必要な腹筋や背筋等の筋トレ。 ステップをより正確に、早く踏めるよう重心移動や体の使い方を学ぶ。
6	コンビネーション練習／振付を覚えて音楽に合わせる。
7	ウォーミングアップ／ストレッチから、ダンスで必要な腹筋や背筋等の筋トレ。 クリスフロアー、テクニカルステップ（プルバックやウイング等を組み入れる）。
8	振付け曲をグループごとに成果発表。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［タップダンス］三寺ｸﾗｽ 未経験者１，２限						
代表教員	三寺　郷美	授業コード	GJ7727C0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

タップダンスの基礎を学ぶ
基本姿勢、重心の移動方法、リズムトレーニングなどを軸に基礎ステップを身につける
音楽に合わせて易しいコンビネーションが踊れるように進める

２．授業概要

①ウォーミングアップ
②基礎ステップ～コンビネーション
③全身を使ったリズムトレーニング
④タップダンスの特徴である「足でリズムを奏でる打楽器的面白さ」を感じつつ、「踊り」としての表現の仕方を学ぶ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。
基本的なステップ、足の使い方など、学習した日に各自復習することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢と基礎的なステップの習得度を加味して評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

入門クラス
タップダンス未経験者対象

＜持参するもの＞
動きやすい服装（ジーンズ、スカート不可）なるべくタップシューズを持参。（なければスニーカーまたはローファーなどのヒールが太く低い革靴でも可。タップダンスシューズ購入希望者は事前に相談可。）飲み物、タオルを用意。

授業計画	
	［集中］
1	ウォーミングアップ／ストレッチから、ダンスで必要な腹筋や背筋等の筋トレ。 タップの基本的な説明と正しい姿勢、身体の使い方。
2	自分の足でリズムを刻む基礎練習と、タップの基本ステップを学ぶ。
3	音の強弱や音色を意識し、音楽に合わせて踊る
4	指定された旋律に合わせてグループごとに基本ステップを使って振付をしてみる
5	少しテンポアップしてステップが踏めるように体幹引き上げや重心移動について学ぶ
6	学んだステップを組み合わせて、音楽に合わせて短いコンビネーションを踊る。
7	コンビネーション復習と振付を覚える
8	グループごとに振付曲の成果発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［タップダンス］三寺ｸﾗｽ 未経験者３，４限						
代表教員	三寺　郷美	授業コード	GJ7727D0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

タップダンスの基礎を学ぶ
基本姿勢、重心の移動方法、リズムトレーニングなどを軸に基礎ステップを身につける
音楽に合わせて易しいコンビネーションが踊れるように進める

２．授業概要

①ウォーミングアップ
②基礎ステップ～コンビネーション
③全身を使ったリズムトレーニング
④タップダンスの特徴である「足でリズムを奏でる打楽器的面白さ」を感じつつ、「踊り」としての表現の仕方を学ぶ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。
基本的なステップ、足の使い方など、学習した日に各自復習することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

受講姿勢と基礎的なステップの習得度を加味して評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

入門クラス
タップダンス未経験者対象

＜持参するもの＞
動きやすい服装（ジーンズ、スカート不可）なるべくタップシューズを持参。（なければスニーカーまたはローファーなどのヒールが太く低い革靴でも可。タップダンスシューズ購入希望者は事前に相談可。）飲み物、タオルを用意。

授業計画	
	［集中］
1	ウォーミングアップ／ストレッチから、ダンスで必要な腹筋や背筋等の筋トレ。 タップの基本的な説明と正しい姿勢、身体の使い方。
2	自分の足でリズムを刻む基礎練習と、タップの基本ステップを学ぶ。
3	音の強弱や音色を意識し、音楽に合わせて踊る
4	指定された旋律に合わせてグループごとに基本ステップを使って振付をしてみる
5	少しテンポアップしてステップが踏めるように体幹引き上げや重心移動について学ぶ
6	学んだステップを組み合わせて、音楽に合わせて短いコンビネーションを踊る。
7	コンビネーション復習と振付を覚える
8	グループごとに振付曲の成果発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［ミュージカルダンス］１，２限　Eｸﾗｽ						
代表教員	関　与志雄	授業コード	GJ7727E0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスに必要な柔軟性、筋力、リズム感を養い、ダンスを通して表現力と創造性の幅を広げる。

２．授業概要

ストレッチ&筋力トレーニング＆ダンス基礎
JAZZの振付け

構成、振付けのアレンジから発表

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

４月の健康診断を受診していること。４日間全出席をすること。
遅刻、見学、早退は認めない。
運動用の服装およびシューズを着用のこと。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［集中］
1	基礎ストレッチ①
2	振付けを覚える
3	基礎ストレッチ②　確認
4	振付後半部分
5	応用ストレッチ①
6	ダンス振付応用編
7	応用ストレッチ②　確認
8	成果発表グループごとに発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［ミュージカルダンス］３，４限　Fｸﾗｽ						
代表教員	関　与志雄	授業コード	GJ7727F0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンスに必要な柔軟性、筋力、リズム感を養い、ダンスを通して表現力と創造性の幅を広げる。

２．授業概要

ストレッチ&筋力トレーニング＆ダンス基礎
JAZZの振付け

構成、振付けのアレンジから発表

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

４月の健康診断を受診していること。　４日間全出席をすること。
遅刻、見学、早退は認めない。
運動用の服装およびシューズを着用のこと。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［集中］
1	基礎ストレッチ①
2	振付けを覚える
3	基礎ストレッチ②　確認
4	振付後半部分
5	応用ストレッチ①
6	ダンス振付応用編
7	応用ストレッチ②　確認
8	成果発表グループごとに発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［ジャズダンス］入門１，２限　Ｌｸﾗｽ						
代表教員	林　七重	授業コード	GJ7727L0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基礎体力とバランス感覚、リズム感覚を養い
個々の表現力と創造の幅を広げる。

２．授業概要

ダンス初級クラス
★授業テーマ　ダンスにおける肉体の正しい使い方と動きの流れと身体の軸を知る。

授業計画　：
●ボディーワークを基礎としたエクササイズ、ストレッチ。ステップ、コンビネーション、
●身体の部位を意識したアイソレーションにてダンスの基礎となる身体の使い方
●身体知覚、空間の知覚、時間の知覚。
●音楽に合わせて振付を表現しムーブメントを学ぶ
●コミュニケーションと心の考え方。

最後は、グループに分かれて発表。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。
授業内の内容を復習し次の日に臨むようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装、靴を使用。
（持っていればダンス用の靴や室内用の靴を用意する）

授業計画	
	［集中］
1	ダンス演習（基礎）
2	ダンス演習（応用）
3	ダンスの基礎ムーブメント、ステップを習得し振付を覚える（基礎）
4	ダンスの基礎ムーブメント、ステップを習得し振付を覚える（応用）
5	成果発表に向けての演習（基礎）
6	成果発表に向けての演習（応用）
7	成果発表に向けての演習（発展）
8	成果発表／グループごとに発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［ジャズダンス］中級３，４限　Mｸﾗｽ						
代表教員	林　七重	授業コード	GJ7727MO	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

振付を理解し、個々の表現力と創造の幅を広げる。
中上級なのでより深く身体構造を学び、
動きの初動、連動、ダイナミズム、体重移動を修得すると共に、
複雑な動きに対応できる柔軟性と強い身体を作る。

２．授業概要

ダンス中級（経験者対象）
★授業テーマ：筋肉の正しい使い方と動きの流れとダイナミックな体重移動。そしてダンスに対しての考え方。

授業計画　：
●ボディーワークを基礎としたエクササイズ、ステップ、コンビネーション、
●自然な身体のあり方とエネルギーの質の変化。
●身体知覚、空間の知覚、時間の知覚。
●ダンステクニックを学ぶ意義、考え方。
●イメージと動きの連動、身体のコントロール。
●コミュニケーションと心の考え方。

最後は、グループに分かれて発表。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

体調を自己管理する意識を常に持つようにする。
授業内の内容を復習し次の日に臨むようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

身体ラインが見える動きやすい服装。ジューズを着用すること。（ダンス用の靴やバレエシューズを用意する。ジャズスニーカーは不可）
ダンスを学ぶ意味を考え、真剣に取り組み、修得する事で、よりダンスに対しての高い意識を持ってほしい。

授業計画	
	［集中］
1	ダンス演習（基礎） ●骨格のアライメントの理解に基づく動き方を学ぶ
2	ダンス演習（応用） ●コントラクション、リリース、スパイラルの動き
3	ダンス演習（発展） ●身体各部位の重さ、床との接触面への気づきを高める
4	ダンスのムーブメント、ステップを習得し振付を覚える（基礎）
5	ダンスのムーブメント、ステップを習得し振付を覚える（応用）
6	成果発表に向けての演習（応用） ●空間や他者との関係性の中で動きを展開する
7	成果発表に向けての演習（発展） ●フレーズと呼吸の関係を磨く
8	成果発表／グループごとに発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［ストリートダンス］入門１，２限Ｎｸﾗｽ						
代表教員	内海　貴司	授業コード	GJ7727N0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

リズムトレーニングやアイソレーション、ボディコントロールやステップ体の使い方の基礎の技術を習得する。コンビネーションや振り付けを練習し音楽に合わせて踊れるように進める。

２．授業概要

①ウォーミングアップ、ストレッチ、筋トレ
②アイソレーション、リズムトレーニング
③ステップ&コンビネーション練習
④振り付け練習

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎トレーニングの予習と復習が望ましいです。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（受講姿勢や習得の向上具合、完成度等を加味し評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要によって、動画資料等を使用します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

入門編のプログラムになっています。
ゆっくり丁寧に進めていこうと思っているので、未経験、初級の方にお勧めです。

服装は動きやすい服装と運動靴、タオルや飲み物等を各自ご用意ください。

授業計画	
	［集中］
1	ウォーミングアップ、ストレッチ、ダンス用のバランストレーニング
2	リズムトレーニングとアイソレーションとボディコントロール
3	ステップとコンビネーションの練習　入門
4	移動やフロアを使ったステップの練習　入門
5	フォーメーションを使ったステップ練習　入門
6	ユニゾンやルーティン合わせ技の練習　入門
7	振り付けやステップの総復習
8	振り付けやステップコンビネーションを成果発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	体育実技（集中）　［ストリートダンス］初中級３，４限Ｒｸﾗｽ						
代表教員	内海　貴司	授業コード	GJ7727R0	科目コード	GJ7727	期間	集中
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

リズムトレーニングやアイソレーション、ボディコントロールやステップ体の使い方の基礎の技術を習得する。コンビネーションや振り付けを練習し音楽に合わせて踊れるように進める。

２．授業概要

①ウォーミングアップ、ストレッチ、筋トレ
②アイソレーション、リズムトレーニング
③ステップ&コンビネーション練習
④振り付け練習

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎トレーニングの予習と復習が望ましいです。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%（受講姿勢や習得の向上具合、完成度等を加味し評価する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要によって、動画資料等を使用します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初中級のプログラムになっています。
少し技なども挑戦していただきますので経験者向けになっています。

服装は動きやすい服装と運動靴、タオルや飲み物等を各自ご用意ください。

授業計画	
	［集中］
1	ウォーミングアップ、ストレッチ、ダンス用のバランストレーニング
2	リズムトレーニングとアイソレーションとボディコントロール
3	ステップとコンビネーションの練習　初中級
4	移動やフロアを使ったステップの練習　初中級
5	フォーメーションを使ったステップ練習　初中級
6	ユニゾンやルーティン合わせ技の練習　初中級
7	振り付けやステップの総復習
8	振り付けやステップコンビネーションを成果発表
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	映像と音楽　[水2]						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GK010100	科目コード	GK0101	期間	通年
担当教員	冨永　憲治						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

映像が持つ訴求力の強さは今更言うまでもありませんが、今なぜ映像の時代なのでしょう。現代社会はあらゆる情報を要求します。報道は即時性と同時に目で確かめてこその真実性と現実感を、スポーツや映画は感動とよろこびを提供しようと、メディアはますますその活動領域を広げるのです。

とはいえ、映像が目で確かめられるからといって真実の全てを語っているわけではありません。そこにあるのは限られたフレームにおさめられた空間であり、誇張も虚構も、見る者を惑わすための作為すらありという“映像”の世界なのです。

一口に映像といっても多種多様です。映像のもつ表現力、可能性と限界というような文化論的意味に対し、音楽はどういう立場をとっているのでしょうか。多くの場合、音楽は重要な役割を果たしているとが分かります。この講座では、映像と音楽の関係を様々な作品を通して、両者の関係について自分の意見を述べられるようにすることが目的です。

２．授業概要

映像と音楽を、映画監督と作曲家という別々な視点から講義を行います。映画音楽の歴史や映像史に触れながら、その時代における特徴や手法を分析します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内では全編を観ることが難しいので、講義で話題になった作品を、授業内容に即した視点で改めて鑑賞して欲しいと思います。その際、気が付いたことや感じたことを記録してください。後期レポート課題の取り組みにおいて有益なデータとなります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の７０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）
授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは必要なときに都度配布します。

参考文献
日本映画発達史（1～５）田中 純一郎（著）

映像史—Image Media Wars
千葉 伸夫（著）

映画映像史—ムーヴィング・イメージの軌跡
出口 丈人（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

注意事項：映像と音楽の効果を確認するために、ホラーやサスペンス、殺陣などの暴力シーンが含まれることがあります。
受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。

授業計画	
	［前期］ 映像の出発と同時に音楽との関係も始まりますが、現代のような関係はまだ築かれていません。映像の幕開けから、その関係はどのような発展を遂げたのか探っていきます。
1	音と映像に関するあれこれ（ガイダンス）
2	映像とは？生活に密着した映像。メディア論的考察
3	映像と音楽の事件からディズニー映画へ
4	映像の変遷と発展。映画の発明
5	映像と音楽の実験からディズニー映画へ
6	映像の変遷と発展。映画の発展
7	映像と音楽のシンクロ　とその発展
8	映像の変遷と発展。映画の熟成
9	映画音楽の幕開け。トーキー！
10	映像の手法とその効果（レンズ・アングル）
11	初期ハリウッド映画音楽を牽引した「マックス・スタイナーとアルフレッド・ニューマン」
12	映像の手法とその効果(カット・編集)
13	映画音楽における時制「剱岳」「八甲田山」
14	映像の手法とその効果(モンタージュ・音響効果)
15	まとめ・課題提出

授業計画	
	［後期］ テクノロジーの発展が映像制作、音楽制作双方に大きな影響を与えますが、後期は映像と音楽の新しい感覚を探っていきます。
1	ガイダンス・映像と音楽の実際？
2	イタリア映画は音楽優位?音楽と演技が強く結びついた「エンニオ・モリコーネ」の音楽から～
3	映像の意味・仕組み
4	映画音楽の巨匠「ジェリー・ゴールドスミス」の音楽
5	イメージを伝えること
6	ミュージシャンが映画音楽監督を担当する意味は？
7	音楽を映像に・ノーマンマクラーレン
8	80年代のハリウッド映画にオーケストラを復活、牽引した「ジョン・ウィリアムズ」の音楽
9	カメラマンの仕事・宮川一夫
10	過去ー未来を集約する音楽の力　(Le concert 、のだめカンタービレ他)
11	映像における音響設計
12	現代音楽作曲家「マイケルナイマン」「フィリップ・グラス」の音楽と映像の関係
13	映像制作の実際
14	オーケストラサウンドを拡張させた「ハンス・ジマー・ファミリー」
15	総括・課題提出

科目名	音楽と宗教　（前）［月5］Pクラス						
代表教員	藤原　一弘	授業コード	GK0161P0	科目コード	GK0161	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
今年度は音楽、小説、映画を題材にキリスト教の諸問題を扱います。

まず映画「ボヘミアン・ラプソディ」を扱い、この映画に盛り込まれたテーマを探ってみます。それは偏見、差別、マイノリティ、自己否定と自己承認などの諸問題です。「ボヘミアン・ラプソディ」はこれらの問題をどう描き、それによって何を表現しようとしているのかを扱います。
また昨年度は扱えなかったスタニスワフ・レム著のSF小説『ソラリス』とアンドレイ・タルコフスキー監督による映画『惑星ソラリス』、同じくタルコフスキー監督の映画『ノスタルジア』を扱い、これらの作品が音楽をどう扱い、何をテーマとして描き出しているのかを探ります。

到達目標：
音楽、映画、小説という様々なジャンルを通してキリスト教における様々な問題を理解する。

２．授業概要

取り扱う作品を鑑賞し、ここで扱われている諸問題の発見、扱い方を受講生とともに考える。
受講生一人一人に毎回こちらから質問する形で、問題を全員で考え、発見してゆく。
映画作品の場合、そこで取り扱われている音楽、歌詞が作品中で果たす役割を考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う小説に関しては、授業前にあらかじめ必ず自分で読んでおくこと。
授業後は、音楽、映画、小説など繰り返し視聴、鑑賞して理解を深めること。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業での発言、随時行う小レポート（評価の50%）
学期末の筆記試験ないしレポート（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ブライアン・シンガー監督『ボヘミアン・ラプソディ』
スタニスワフ・レム著『ソラリス』、ハヤカワ文庫SF 2015
アンドレイ・タルコフスキー監督『惑星ソラリス』、DVD or Blu-ray
アンドレイ・タルコフスキー監督『ノスタルジア』、DVD or Blu-ray

必要な場合はプリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業で扱う映画、小説、音楽を、授業以外の時間にも自分で繰り返し鑑賞するための十分な時間が取れること、授業内でこれらの作品に対する意見、感想を積極的に発信できることが条件です。

授業計画	
	毎回、指定した作品を題材に講義、ディスカッションを進める。
1	ガイダンス
2	映画と小説『（惑星）ソラリス』(1) 導入
3	映画と小説『（惑星）ソラリス』(2) 発展
4	映画と小説『（惑星）ソラリス』(3) 深化
5	映画と小説『（惑星）ソラリス』(4) まとめ
6	映画『ノスタルジア』(1) 導入
7	映画『ノスタルジア』(2) 発展
8	映画『ノスタルジア』(3) 深化
9	映画『ノスタルジア』(4) まとめ
10	映画『ボヘミアン・ラプソディ』(1) 導入
11	映画『ボヘミアン・ラプソディ』(2) 発展
12	映画『ボヘミアン・ラプソディ』(3) 深化
13	映画『ボヘミアン・ラプソディ』(4) まとめ
14	キリスト教の今日的問題
15	まとめ

科目名	音楽と宗教　（後）［月5］Qクラス						
代表教員	藤原　一弘	授業コード	GK0161Q0	科目コード	GK0161	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
今年度は音楽、小説、映画を題材にキリスト教の諸問題を扱います。

まず映画「ボヘミアン・ラプソディ」を扱い、この映画に盛り込まれたテーマを探ってみます。それは偏見、差別、マイノリティ、自己否定と自己承認などの諸問題です。「ボヘミアン・ラプソディ」はこれらの問題をどう描き、それによって何を表現しようとしているのかを扱います。
また昨年度は扱えなかったスタニスワフ・レム著のSF小説『ソラリス』とアンドレイ・タルコフスキー監督による映画『惑星ソラリス』、同じくタルコフスキー監督の映画『ノスタルジア』を扱い、これらの作品が音楽をどう扱い、何をテーマとして描き出しているのかを探ります。

到達目標：
音楽、映画、小説という様々なジャンルを通してキリスト教における様々な問題を理解する。

２．授業概要

取り扱う作品を鑑賞し、ここで扱われている諸問題の発見、扱い方を受講生とともに考える。
受講生一人一人に毎回こちらから質問する形で、問題を全員で考え、発見してゆく。
映画作品の場合、そこで取り扱われている音楽、歌詞が作品中で果たす役割を考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱う小説に関しては、授業前にあらかじめ必ず自分で読んでおくこと。
授業後は、音楽、映画、小説など繰り返し視聴、鑑賞して理解を深めること。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業での発言、随時行う小レポート（評価の50%）
学期末の筆記試験ないしレポート（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ブライアン・シンガー監督『ボヘミアン・ラプソディ』
スタニスワフ・レム著『ソラリス』、ハヤカワ文庫SF 2015
アンドレイ・タルコフスキー監督『惑星ソラリス』、DVD or Blu-ray
アンドレイ・タルコフスキー監督『ノスタルジア』、DVD or Blu-ray

必要な場合はプリントを配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業で扱う映画、小説、音楽を、授業以外の時間にも自分で繰り返し鑑賞するための十分な時間が取れること、授業内でこれらの作品に対する意見、感想を積極的に発信できることが条件です。

授業計画	
	毎回、指定した作品を題材に講義、ディスカッションを進める。
1	ガイダンス
2	映画と小説『（惑星）ソラリス』(1) 導入
3	映画と小説『（惑星）ソラリス』(2) 発展
4	映画と小説『（惑星）ソラリス』(3) 深化
5	映画と小説『（惑星）ソラリス』(4) まとめ
6	映画『ノスタルジア』(1) 導入
7	映画『ノスタルジア』(2) 発展
8	映画『ノスタルジア』(3) 深化
9	映画『ノスタルジア』(4) まとめ
10	映画『ボヘミアン・ラプソディ』(1) 導入
11	映画『ボヘミアン・ラプソディ』(2) 発展
12	映画『ボヘミアン・ラプソディ』(3) 深化
13	映画『ボヘミアン・ラプソディ』(4) まとめ
14	キリスト教の今日的問題
15	まとめ

科目名	楽器学　（前）［水1］Pクラス						
代表教員	小日向　英俊	授業コード	GK0162P0	科目コード	GK0162	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

世界の多様な「楽器」を知り、音楽と人間の関係を考察する。さまざまな「楽器」について、自ら資料を探して体系的に考察が行えるようになる。

２．授業概要

「楽器」とは何か、楽器学とは何かなど、基本事項を「導入」段階で学び、地球の各地域に存在する代表的「楽器」について「各論」で学ぶ。また、後半には、様々な視点から「楽器」を考え、音楽と人間の関係へも目を向ける。
講義では、多くのビデオを参照する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ホームワークプリントの配布・回収を通じて、座学の基本的学習習慣を身につける。30分程度のビデオや音源を課題とし、これに対する回答を求める（所要時間：約1時間）。

４．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の70%）
課題提出（評価の30%）

具体的評価基準については、以下のURLに記載していますので、参照してください。

洗足学園音楽大学2019年度講義「楽器学」（小日向英俊担当）学科評価ルーブリック
URLは、{ここを参照してください。,https://www.evernote.com/l/AAjm1T4n6z9EuLCFNPm7A5IB9sVIhz8mamQ}

前期課題レポートの評価基準は、改めて課題文掲示の際（6月頃）に発表します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽を作り出す楽器の裏にある「製作技術」「職人」「環境」などにも関心を持ち、楽器を通して世界の音楽への興味を持つ学生。出席重視、授業中の飲食、私語禁止。出席に関する不正を行った者は、単位を認定しない。2/3以上の出席回数のない者は、単位認定評価対象とはしないため、学年末レポートを提出しても採点対象とはしない。

各クラス最大人数を50名とし、事前にランダム抽選により履修者を決定する。抽選に漏れた場合は、同内容の後期の履修を検討すること。

授業計画	
	[半期] 用語「楽器」、「楽器学」など基礎的事項を学び、各地域の代表的楽器について学ぶ。
1	導入：オリエンテーション
2	導入：楽器学について
3	西欧の楽器
4	西アジアの楽器
5	南アジアの楽器
6	東南アジアの楽器
7	東アジアの楽器
8	アフリカの楽器
9	ラテンアメリカの楽器
10	オセアニアの楽器
11	北アジアの楽器
12	楽器コレクション
13	電鳴楽器
14	楽器の考古学
15	文化の中の楽器

科目名	楽器学　（後）［水1］Qクラス						
代表教員	小日向　英俊	授業コード	GK0162Q0	科目コード	GK0162	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

世界の多様な「楽器」を知り、音楽と人間の関係を考察する。さまざまな「楽器」について、自ら資料を探して体系的に考察が行えるようになる。

2．授業概要

「楽器」とは何か、楽器学とは何かなど、基本事項を「導入」段階で学び、地球の各地域に存在する代表的「楽器」について「各論」で学ぶ。また、後半には、様々な視点から「楽器」を考え、音楽と人間の関係へも目を向ける。

講義では、多くのビデオを参照する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

ホームワークプリントの配布・回収を通じて、座学の基本的学習習慣を身につける。30分程度のビデオや音源を課題とし、これに対する回答を求める（所要時間：約1時間）。

4．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の70%）
課題提出（評価の30%）

具体的評価基準については、以下のURLに記載していますので、参照してください。

洗足学園音楽大学2019年度講義「楽器学」（小日向英俊担当）学科評価ルーブリック
URLは、{ここを参照してください。,https://www.evernote.com/l/AAjm1T4n6z9EuLCFNPm7A5IB9sVIhz8mamQ}

後期課題レポートの評価基準は、改めて課題文掲示の際（12月頃）に発表します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献については、授業中に紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽を作り出す楽器の裏にある「製作技術」「職人」「環境」などにも関心を持ち、楽器を通して世界の音楽への興味を持つ学生。出席重視、授業中の飲食、私語禁止。出席に関する不正を行った者は、単位を認定しない。2/3以上の出席回数のない者は、単位認定評価対象とはしないため、学年末レポートを提出しても採点対象とはしない。

各クラス最大人数を50名とし、事前にランダム抽選により履修者を決定する。抽選に漏れた場合は、同内容の後期の履修を検討すること。

授業計画	
	[半期] 用語「楽器」、「楽器学」など基礎的事項を学び、各地域の代表的楽器について学ぶ。
1	導入：オリエンテーション
2	導入：楽器学について
3	西欧の楽器
4	西アジアの楽器
5	南アジアの楽器
6	東南アジアの楽器
7	東アジアの楽器
8	アフリカの楽器
9	ラテンアメリカの楽器
10	オセアニアの楽器
11	北アジアの楽器
12	楽器コレクション
13	電鳴楽器
14	楽器の考古学
15	文化の中の楽器

科目名	発達心理学　[火5]						
代表教員	後藤　進吾	授業コード	GK034400	科目コード	GK0344	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

人の一生に起こりうる発達の軌跡を辿ることで、自分自身の人生を振り返る、或いは将来の見通しを立てることを目標とする。

2．授業概要

授業時間が、自身の現在・過去・未来を考えられるよう、身近な具体例を挙げて講義を実施する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

適宜、毎回の授業のプリントを再読して授業に臨むこと。また、授業の終わりにコメントペーパーを配布・記述するので、自身が記述した内容について自分なりの考えをまとめておくことが望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

前期レポート(40点)、学年末レポート(40点)、授業時の小レポート(20点)の得点を合計し、絶対評価で判定する。 60点以上に単位を 与える。(S: 90点～100点、A: 80点～89点、B: 70点～79点、 C: 60点～69点) 評価基準の詳細・具体的内容については初回授業時に説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は適時授業中に提示する。配布するプリントに関してはファイリングし、毎回授業に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語や飲食は厳禁など、講義を受けるに最低限のマナーは守ること。
レッスンや発表会等で止むをえず講義を欠席する際は必ず連絡等を入れること。

授業計画	
	［前期］
1	オリエンテーション：心理学と、発達心理学について
2	発達心理学：生命の誕生から死まで
3	発達心理学：胎児期と胎児の危機
4	発達心理学：乳児期と乳児の危機
5	発達心理学：乳児期の特徴
6	認知心理学：見る・見えるの心理１　基本
7	認知心理学：見る・見えるの心理２　応用
8	認知心理学：幼児期の発達
9	発達心理学：児童期の発達その１
10	発達心理学：記憶
11	認知心理学：認知症の実態と要因１　基本
12	認知心理学：認知症の実態と要因２　応用
13	臨床心理学：自己とストレスマネジメント１　基本
14	臨床心理学：自己とストレスマネジメント２　応用
15	自己理解：怒りの対処

授業計画	
	［後期］
1	オリエンテーション：前期のおさらいと後期の流れ
2	発達心理学：幼児期の特徴
3	発達心理学：発達障害とは
4	発達心理学：発達障害への支援　基本
5	発達心理学：発達障害への支援　応用
6	発達心理学：青年期前期・後期の特徴
7	発達心理学：成人期の特徴と危機
8	発達心理学：老年期の特徴と危機
9	社会心理学：人を惹きつける心理学
10	社会心理学：人と交わる心理学
11	臨床心理学：人格とは
12	臨床心理学：精神疾患とは
13	臨床心理学：カウンセリングのこころ
14	臨床心理学：心理療法
15	発達心理学と臨床心理学

科目名	管弦楽概論　［月3］Aクラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GK0571A0	科目コード	GK0571	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	C0:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲、編曲などで必要不可欠である基本的な楽器の知識を養い、また実際の管弦楽作品を聴きながらスコアを参照することにより、楽器の用法、用例を学ぶことを主題とする。その延長線として弦楽合奏のスコア、及び管弦楽のスコアの書き方を指導する。最終的に受講者がスコアを書くに際しての基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

２．授業概要

授業ではオーケストラに用いられる諸楽器について解説するとともに、それらの楽器が用いられている実例を提示する。スコアを参照しながら各楽器の役割を体得していく。
また、小テストを通して理解を深めるとともに、管弦楽への編曲等を通じて、実践的な知識を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では多くの管弦楽作品を扱うが、それらを含めた多くの管弦楽作品を日頃からスコアを参照しながら聴くことが重要な予習・復習となる。また、スコアの書き方などで提示される課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
提出物（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『管弦楽法』伊福部昭著（音楽之友社）
『管弦楽法』ウォルター・ピストン著（音楽之友社）
『新総合音楽講座８　管弦楽概論』（ヤマハ音楽振興会）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽の作曲や編曲などに興味があり、また和声学や対位法に関する知識を持っていることが望ましい。授業ではしばしば交響曲などを扱うため、ソナタ形式など諸形式についても理解していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器と木管楽器
1	弦楽器 総論
2	ヴァイオリン
3	ヴィオラ
4	チェロ
5	コントラバス
6	弦楽器の総括と小テスト
7	弦楽５部のスコアの書き方
8	木管楽器 総論
9	フルート、ピッコロ、アルトフルート
10	オーボエ、イングリッシュホルン
11	クラリネット、バスクラリネット
12	バスーン、ダブルバスーン
13	サクソフォーン
14	木管楽器の総括と小テスト
15	木管セクションの書き方

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器、編入楽器
1	金管楽器 総論
2	ホルン
3	トランペット
4	トロンボーン
5	テューバ、ユーフォニアム
6	金管楽器の総括と小テスト
7	金管セクションの書き方
8	打楽器 総論
9	ティンパニ
10	音律の定まらない打楽器
11	鍵盤打楽器
12	編入楽器（ハープ、チェレスタ他）
13	打楽器、編入楽器の総括と小テスト
14	管弦楽のスコアの書き方（基礎／譜割りなど）
15	管弦楽のスコアの書き方（応用／楽器の重ね方など）

科目名	管弦楽概論　［月3］Bクラス						
代表教員	小林　弘人	授業コード	GK0571B0	科目コード	GK0571	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	C0:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲、編曲などで必要不可欠である基本的な楽器の知識を養い、また実際の管弦楽作品を聴きながらスコアを参照することにより、楽器の用法、用例を学ぶことを主題とする。その延長線として弦楽合奏のスコア、及び管弦楽のスコアの書き方を指導する。最終的に受講者がスコアを書くに際しての基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

２．授業概要

授業ではオーケストラに用いられる諸楽器について解説するとともに、それらの楽器が用いられている実例を提示する。スコアを参照しながら各楽器の役割を体得していく。
また、小テストを通して理解を深めるとともに、管弦楽への編曲等を通じて、実践的な知識を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では多くの管弦楽作品を扱うが、それらを含めた多くの管弦楽作品を日頃からスコアを参照しながら聴くことが重要な予習・復習となる。また、スコアの書き方などで提示される課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
提出物（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『管弦楽法』伊福部昭著（音楽之友社）
『管弦楽法』ウォルター・ピストン著（音楽之友社）
『新総合音楽講座８　管弦楽概論』（ヤマハ音楽振興会）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽の作曲や編曲などに興味があり、また和声学や対位法に関する知識を持っていることが望ましい。授業ではしばしば交響曲などを扱うため、ソナタ形式など諸形式についても理解していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器と木管楽器
1	弦楽器 総論
2	ヴァイオリン
3	ヴィオラ
4	チェロ
5	コントラバス
6	弦楽器の総括と小テスト
7	弦楽５部のスコアの書き方
8	木管楽器 総論
9	フルート、ピッコロ、アルトフルート
10	オーボエ、イングリッシュホルン
11	クラリネット、バスクラリネット
12	バスーン、ダブルバスーン
13	サクソフォーン
14	木管楽器の総括と小テスト
15	木管セクションの書き方

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器、編入楽器
1	金管楽器 総論
2	ホルン
3	トランペット
4	トロンボーン
5	テューバ、ユーフォニアム
6	金管楽器の総括と小テスト
7	金管セクションの書き方
8	打楽器 総論
9	ティンパニ
10	音律の定まらない打楽器
11	鍵盤打楽器
12	編入楽器（ハープ、チェレスタ他）
13	打楽器、編入楽器の総括と小テスト
14	管弦楽のスコアの書き方（基礎／譜割りなど）
15	管弦楽のスコアの書き方（応用／楽器の重ね方など）

科目名	管弦楽概論　[月3] Cクラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GK0571C0	科目コード	GK0571	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	C0:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲、編曲などで必要不可欠である基本的な楽器の知識を養い、また実際の管弦楽作品を聴きながらスコアを参照することにより、楽器の用法、用例を学ぶことを主題とする。その延長線として弦楽合奏のスコア、及び管弦楽のスコアの書き方を指導する。最終的に受講者がスコアを書くに際しての基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

２．授業概要

授業ではオーケストラに用いられる諸楽器について解説するとともに、それらの楽器が用いられている実例を提示する。スコアを参照しながら各楽器の役割を体得していく。
また、小テストを通して理解を深めるとともに、管弦楽への編曲等を通じて、実践的な知識を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では多くの管弦楽作品を扱うが、それらを含めた多くの管弦楽作品を日頃からスコアを参照しながら聴くことが重要な予習・復習となる。また、スコアの書き方などで提示される課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
提出物（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『管弦楽法』伊福部昭著（音楽之友社）
『管弦楽法』ウォルター・ピストン著（音楽之友社）
『新総合音楽講座８　管弦楽概論』（ヤマハ音楽振興会）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽の作曲や編曲などに興味があり、また和声学や対位法に関する知識を持っていることが望ましい。授業ではしばしば交響曲などを扱うため、ソナタ形式など諸形式についても理解していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器と木管楽器
1	弦楽器 総論
2	ヴァイオリン
3	ヴィオラ
4	チェロ
5	コントラバス
6	弦楽器の総括と小テスト
7	弦楽５部のスコアの書き方
8	木管楽器 総論
9	フルート、ピッコロ、アルトフルート
10	オーボエ、イングリッシュホルン
11	クラリネット、バスクラリネット
12	バスーン、ダブルバスーン
13	サクソフォーン
14	木管楽器の総括と小テスト
15	木管セクションの書き方

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器、編入楽器
1	金管楽器 総論
2	ホルン
3	トランペット
4	トロンボーン
5	テューバ、ユーフォニアム
6	金管楽器の総括と小テスト
7	金管セクションの書き方
8	打楽器 総論
9	ティンパニ
10	音律の定まらない打楽器
11	鍵盤打楽器
12	編入楽器（ハープ、チェレスタ他）
13	打楽器、編入楽器の総括と小テスト
14	管弦楽のスコアの書き方（基礎／譜割りなど）
15	管弦楽のスコアの書き方（応用／楽器の重ね方など）

科目名	管弦楽概論　［月3］Ｄクラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0571D0	科目コード	GK0571	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	C0:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲、編曲などで必要不可欠である基本的な楽器の知識を養い、また実際の管弦楽作品を聴きながらスコアを参照することにより、楽器の用法、用例を学ぶことを主題とする。その延長線として弦楽合奏のスコア、及び管弦楽のスコアの書き方を指導する。最終的に受講者がスコアを書くに際しての基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

２．授業概要

授業ではオーケストラに用いられる諸楽器について解説するとともに、それらの楽器が用いられている実例を提示する。スコアを参照しながら各楽器の役割を体得していく。
また、小テストを通して理解を深めるとともに、管弦楽への編曲等を通じて、実践的な知識を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では多くの管弦楽作品を扱うが、それらを含めた多くの管弦楽作品を日頃からスコアを参照しながら聴くことが重要な予習・復習となる。また、スコアの書き方などで提示される課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
提出物（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『管弦楽法』伊福部昭著（音楽之友社）
『管弦楽法』ウォルター・ピストン著（音楽之友社）
『新総合音楽講座８　管弦楽概論』（ヤマハ音楽振興会）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽の作曲や編曲などに興味があり、また和声学や対位法に関する知識を持っていることが望ましい。授業ではしばしば交響曲などを扱うため、ソナタ形式など諸形式についても理解していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器と木管楽器
1	弦楽器 総論
2	ヴァイオリン
3	ヴィオラ
4	チェロ
5	コントラバス
6	弦楽器の総括と小テスト
7	弦楽５部のスコアの書き方
8	木管楽器 総論
9	フルート、ピッコロ、アルトフルート
10	オーボエ、イングリッシュホルン
11	クラリネット、バスクラリネット
12	バスーン、ダブルバスーン
13	サクソフォーン
14	木管楽器の総括と小テスト
15	木管セクションの書き方

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器、編入楽器
1	金管楽器 総論
2	ホルン
3	トランペット
4	トロンボーン
5	テューバ、ユーフォニアム
6	金管楽器の総括と小テスト
7	金管セクションの書き方
8	打楽器 総論
9	ティンパニ
10	音律の定まらない打楽器
11	鍵盤打楽器
12	編入楽器（ハープ、チェレスタ他）
13	打楽器、編入楽器の総括と小テスト
14	管弦楽のスコアの書き方（基礎／譜割りなど）
15	管弦楽のスコアの書き方（応用／楽器の重ね方など）

科目名	音楽史　[火2]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GK0572B0	科目コード	GK0572	期間	通年
担当教員	越懸澤　麻衣						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	前提科目は特にありませんが、他の授業に音楽史関連な科目が多く開講されていますので、できればそれらを並行して履修すること、または次年度以降に履修することが望ましいです。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

私たち現代人のさまざまな音楽文化は、いつから、どこから、どのようにして形づくられてきたのでしょう？ それを探り、知ることが音楽史を学ぶ意義であり、目的です。
【主題】
日本と世界における、さまざまなスタイル、さまざまなジャンルの音楽の歴史を、それぞれの音楽が生まれ栄えた時代の文化、社会情勢等と関連づけながらたどっていきます。
【到達目標】
① 専攻を問わず、音楽を志す者にとって必要とされる音楽史についての基礎知識、基本的な理解力を身につけます。
② 加えて、教職課程履修者にとっては、学校教育の教科書にとりあげられている音楽史に関わるさまざまなことがらを確実に理解できるための教養を身につけます。

2．授業概要

この授業でとりあげる音楽は、以下3つのカデゴリーとなります。
　A) ヨーロッパのクラシック音楽
　B) 日本の伝統音楽と諸民族の音楽
　C) 現代のポピュラー音楽と音楽テクノロジー
　よって時代の範囲は、古くは日本の奈良・平安時代の音楽から、新しくは現代のポピュラー音楽、音楽テクノロジーにいたるまでの音楽史となり、上記3つのカテゴリーを横断する形で、通年の授業計画は組まれます。授業は、代表教員と担当教員、もしくはゲストの講師と演奏家による講義と生演奏で、次の3点をポイントとして授業を行います。
　(1) さまざまな時代、さまざまな国の豊かな音楽遺産を広く紹介します。
　(2) それぞれの時代、それぞれの国の代表的音楽作品がどのように生まれ、作られたかを説明します。
　(3) それぞれの音楽が生まれた時代の「社会」「文化」「他の芸術」との関連性を読み解いていきます。
　なお、原則として後記の授業計画にそって授業は進めていきますが、講師、演奏者の都合で、各回の内容変更、順序入れ替えの場合もあります。前期は古代・中世から19世までの音楽を、後期は20世紀の音楽を中心とします。このように多様なジャンルを越境する現代的な「音楽史」を学ぶことで、音楽に対する広い視野と知識を獲得することを企図しています。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】
各回の授業テーマについて、自主的にその概要について調べてから授業にのぞみましょう。
【復習・発展的学習】
各回の授業で配付された資料をよく読み、テーマについての時代性、地域性、音楽性について把握し、
興味ある部分をより詳しく調べて知識を深めて下さい。さらにはテーマに関連したさまざまな曲を、関心を広げて自主的に聴くとよいでしょう。そこからいろいろな発見が期待されます。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度を評価の50%、学年末のレポート提出と筆記試験を評価の50%を基準として、成績評価をします。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
毎回、授業資料を配付しますので、履修者は各自これらをファイリングしてテキストとして下さい。
【参考文献】
① 『西洋音楽史』岡田暁生著（中公新書、2005年）
② 『決定版　はじめての音楽史』久保田慶一 他著（音楽之友社、2017年）
③ 『世界のポピュラー音楽史』 山室紘一（ヤマハミュージックメディア、2012年）
④ 『新　西洋音楽史　上,中,下』D.J.クラウド、C.D.パリスカ著　戸口幸策、津上英輔、寺西基之訳（音楽之友社、2001年）
●参考文献について
① 詳しい年代はあえて明記しないという異色の西洋音楽史ですが、読み物として非常に面白く、時代の流れがとてもよくわかります。
② こちらは詳しい年代が記された西洋音楽史と日本音楽史が中心となっています。
③ ワールドミュージックもふくまれる広範にわたるポピュラー音楽史が、アーティストを中心に紹介されています。
④ 現在、もっとも権威があり広く読まれている西洋音楽史の書籍です。ただし3巻にもわたり、それぞれの巻が大変厚く 高価ですので、購入は絶対ではありません。本学図書館に常備してありますので、それを利用されるのもよいでしょう。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大変多い人数の学生が受講する授業ですので、履修生の皆さんが毎回落ち着いて受講できるよう、以下の受講マナーをたがいに守りましょう。
・正当な理由なく授業途中に無断で入退出することは控えて下さい。
・授業中の私語、スマートフォンの操作は控えて下さい。これら授業の妨げとなるような行為が続く場合は、退室指示および評価減点の措置をとる場合があります。
・遅刻3回で欠席1回としてカウントし、 無断早退については欠席扱いとします。
・学生証の不備は出席にカウントされない場合があります。

　また、この授業は教職必修科目でもあり、教職課程を履修予定の受講生は、自分自身がいずれ指導するであろうことを想定して受講しましょう。

授業計画	
	【前期】古代・中世から19世紀までの音楽
1	ガイダンス、概要説明
2	A1　中世の西洋音楽　～グレゴリオ聖歌の成立と発展～
3	B1　古代・中世の日本音楽
4	A2　ルネサンス期の西洋音楽
5	B2　近世の日本音楽
6	A3　バロック期の西洋音楽　～オペラの誕生とコンチェルトの隆盛～
7	B3　諸民族の音楽　～インドの音楽～
8	A4　J.S.バッハ
9	A5　ヨーロッパ古典派　①ハイドンとモーツァルト
10	A6　ヨーロッパ古典派　②ベートーヴェン
11	A7　バレエの歴史
12	A8　ヨーロッパ ロマン派　①歌曲とピアノ曲
13	A9　ヨーロッパ ロマン派　②オペラと楽劇
14	A10　ヨーロッパ ロマン派　③標題音楽と後期ロマン派
15	A11　ヨーロッパの民族主義

授業計画	
	【後期】20世紀の音楽を中心に
1	C1　ジャズ　～デューク・エリントンからチック・コリアまで～
2	A12　ヨーロッパの近代　①フランス
3	C2　ミュージカルの歴史
4	A13　ヨーロッパの近代　②ロシア
5	C3　黒人音楽 ～R&B、ソウルを中心に～
6	A14　ヨーロッパの12音技法と現代音楽
7	C4　ロック　～そのルーツからクイーンまで～
8	C5　ボサノヴァ
9	C6　タンゴ
10	C7　音響技術と電子楽器・電子音楽
11	C8　映画音楽
12	C9　ビートルズ
13	C10　ダンス
14	C11　日本のポピュラー音楽　～歌謡曲からJ-POP、アニメソングまで～
15	総括

科目名	ジャズの歴史１　（前）［水4］Ａクラス						
代表教員	マーク　トゥリアン	授業コード	GK0611A0	科目コード	GK0611	期間	半期
担当教員	蟻正　行義						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズの歴史とそのルーツを知り、現在世界中で演奏されているようになったジャズというスタイルの音楽表現とアメリカ文化の関連を学ぶ

２．授業概要

ジャズの歴史を映像、音源と講義を通して学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽は文化の一部ですので、その音楽が生まれた国の歴史に深く関連しています。アメリカの歴史に関する知識はこの授業内容を理解することに役立ちます。各授業で取り上げられる音楽は事前に、その音源のリンクなどが伝えられるので、授業以前に予習としてそのミュージシャンの音楽を聴くことを必須とします

４．成績評価の方法及び基準

中間試験 15%
期末試験 20%
小テスト 25%
コンサート見学とレポート 10%
1ページレポート10%
授業態度 20%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時プリントを配布します

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 1) 20世紀で起こった、ジャズのリズム、ハーモニー、フォームの発展 2) 黒人文化の中で育ったエンタテーメントとしてのジャズ
1	ジャズとは何か？
2	起源 Field Hollers, Work Songs, Cake Walk, Ragtime
3	初期のニューオリンズ Caribbean, ヨーロッパかの影響、Buddy Bolden, Jelly Roll Morton, King Oliver, Kid Ory,ミシシッピー一体の文化
4	ルイアームストロングー新しいコンセプト
5	シカゴ、Earl Hines
6	ニューヨーク、Fletcher Henderson
7	Count Basie, Lester Young, Ben Webster
8	Duke Ellington, Billy Strayhorn
9	中間試験
10	スイングの音楽、Benny Goodman, Artie Shaw, Glenn Miller, Dorsey Brothers
11	Be-Bopの手前、Lester Young, Charlie Christian, Earl Hines Bille Ecksteine
12	Charlie Parker, バーチュオーソ
13	Be-bop 新しい言語
14	ジャズの女性たち
15	期末試験とまとめ

科目名	ジャズの歴史２　（後）［水4］Ａクラス						
代表教員	マーク　トゥリアン	授業コード	GK0612A0	科目コード	GK0612	期間	半期
担当教員	蟻正　行義						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズの歴史とそのルーツを知り、現在世界中で演奏されているようになったジャズというスタイルの音楽表現とアメリカ文化の関連を学ぶ

２．授業概要

ジャズの歴史を映像、音源と講義を通して学ぶ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽は文化の一部ですので、その音楽が生まれた国の歴史に深く関連しています。アメリカの歴史に関する知識はこの授業内容を理解することに役立ちます。各授業で取り上げられる音楽は事前に、その音源のリンクなどが伝えられるので、授業以前に予習としてそのミュージシャンの音楽を聴くことを必須とします

４．成績評価の方法及び基準

中間試験 15%
期末試験 20%
小テスト 25%
コンサート見学とレポート 10%
1ページレポート10%
授業態度 20%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時プリントを配布します

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 1）黒人のアイデンティティと社会的・芸術的主張としてのジャズ 2）世界的な広がりとアーティスティックなムーヴメントとしてのジャズ
1	ラテンジャズ
2	クールジャズ
3	ハードバップ
4	モードを用いたジャズ
5	ジョンコルトレーン
6	60年代のモダンジャズ
7	社会不安から見出した新しい方向性
8	中間試験と振り返り
9	ボサノバ
10	フュージョン音楽
11	マイルスデイビス
12	チックコリア
13	ハービーハンコック
14	ワールドミュージック
15	期末試験とまとめ

科目名	ピアノ演奏史　［木4］Aクラス						
代表教員	武田　一彦	授業コード	GK0615A0	科目コード	GK0615	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノとピアニスト。ピアノ音楽の魅力はピアニストの魅力でもある。超絶的な指さばきと華麗なステージ・マナーで聴衆を興奮に巻き込む「ヴィルトゥオーゾ」たち。流派固有のスタイルと響きを今に伝える伝統派ピアニスト。クラシックの枠を超えた斬新なレパートリーと解釈で、聞く者を挑発し続ける「異端」たち。SP時代の大家から現代の若手まで「表現」や「ピアニズム」は多種多様。同じピアノにも、弾き手それぞれの、異なったピアノの響きがある。

ピアノという楽器から、ピアニストによって、限りなく多彩で豊かな響きを生み出してしまう不思議な魅力。その魅力に迫るべく様々なピアニストの映像を鑑賞して、ピアニストや、ピアノ演奏に対する知識を深める。

２．授業概要

毎回、１～３名のピアニストの演奏、インタビュー、ドキュメンタリー等の映像を鑑賞します。
（授業計画に記載のピアニストは、変更になる場合があります。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

普段から、積極的にピアノ演奏のCD、ＤＶＤを鑑賞したり、有名なピアニストの演奏会に足を運んだりするよう心がける。

４．成績評価の方法及び基準

学年末レポート（評価の90%）
・指定期日までに提出していない場合は、失格となります。
平常点：授業内の小レポート、感想文（評価の10%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回、プリントを配布する。
参考文献：『ピアノとピアニスト２００３』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

普段から、ピアノ音楽に興味を持つこと。
３分の２以上の出席がない場合、学年末レポートの提出資格を失うことになります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（授業についての説明） ピアノ、その３００年の歴史
2	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　１ パデレフスキー　～　プランテのドキュメンタリー映像と解説
3	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　２ コルトー　～　アラウのドキュメンタリー映像と解説
4	ホロヴィッツ　１ 晩年の自宅の映像
5	ホロヴィッツ　２ モーツァルト　ピアノコンツェルトの収録風景
6	ホロヴィッツ　３ ウィーン、モスクワの演奏会
7	クライヴァーン
8	ラローチャ、ヘス
9	ルービンシュタイン
10	ロシア黄金時代 リヒテル　１ モスクワ音楽院リサイタル
11	リヒテル　２ ドキュメンタリー映像
12	グルダ
13	キーシン
14	リリー・クラウス、ホルショフスキー
15	グールド

授業計画	
	［後期］
1	世紀のピアニストたちの共演 ～ヴェルビエ音楽祭　2003～
2	アラウ、ペライア
3	シフラ、モイセヴィッチ、ボレット
4	ギレリス
5	ショパンコンクールについて
6	ミケランジェリ
7	バックハウス、ケンプ
8	アルゲリッチ
9	アシュケナージ、ポリーニ
10	ベルマン、バレンボイム
11	ブレンデル、カッチェン、ゼルキン
12	パデレフスキー、マガロフ、ペルルミュテール、ハラシェヴィッチ
13	ツィメルマン、ポゴレリッチ、ブーニン
14	フィッシャー、ニコラーエフ、ワイセンベルク
15	まとめ （ピアニストの黄金時代）

科目名	ピアノ演奏史　［木5］Bクラス						
代表教員	武田　一彦	授業コード	GK0615B0	科目コード	GK0615	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノとピアニスト。ピアノ音楽の魅力はピアニストの魅力でもある。超絶的な指さばきと華麗なステージ・マナーで聴衆を興奮に巻き込む「ヴィルトゥオーゾ」たち。流派固有のスタイルと響きを今に伝える伝統派ピアニスト。クラシックの枠を超えた斬新なレパートリーと解釈で、聞く者を挑発し続ける「異端」たち。SP時代の大家から現代の若手まで「表現」や「ピアニズム」は多種多様。同じピアノにも、弾き手それぞれの、異なったピアノの響きがある。

ピアノという楽器から、ピアニストによって、限りなく多彩で豊かな響きを生み出してしまう不思議な魅力。その魅力に迫るべく様々なピアニストの映像を鑑賞して、ピアニストや、ピアノ演奏に対する知識を深める。

２．授業概要

毎回、１～３名のピアニストの演奏、インタビュー、ドキュメンタリー等の映像を鑑賞します。
（授業計画に記載のピアニストは、変更になる場合があります。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

普段から、積極的にピアノ演奏のCD、ＤＶＤを鑑賞したり、有名なピアニストの演奏会に足を運んだりするよう心がける。

４．成績評価の方法及び基準

学年末レポート（評価の90%）
・指定期日までに提出していない場合は、失格となります。
平常点：授業内の小レポート、感想文（評価の10%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回、プリントを配布する。
参考文献：『ピアノとピアニスト２００３』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

普段から、ピアノ音楽に興味を持つこと。
３分の２以上の出席がない場合、学年末レポートの提出資格を失うことになります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（授業についての説明） ピアノ、その３００年の歴史
2	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　１ パデレフスキー　～　プランテのドキュメンタリー映像と解説
3	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　２ コルトー　～　アラウのドキュメンタリー映像と解説
4	ホロヴィッツ　１ 晩年の自宅の映像
5	ホロヴィッツ　２ モーツァルト　ピアノコンツェルトの収録風景
6	ホロヴィッツ　３ ウィーン、モスクワの演奏会
7	クライヴァーン
8	ラローチャ、ヘス
9	ルービンシュタイン
10	ロシア黄金時代 リヒテル　１ モスクワ音楽院リサイタル
11	リヒテル　２ ドキュメンタリー映像
12	グルダ
13	キーシン
14	リリー・クラウス、ホルショフスキー
15	グールド

授業計画	
	［後期］
1	世紀のピアニストたちの共演 ～ヴェルビエ音楽祭　2003～
2	アラウ、ペライア
3	シフラ、モイセヴィッチ、ボレット
4	ギレリス
5	ショパンコンクールについて
6	ミケランジェリ
7	バックハウス、ケンプ
8	アルゲリッチ
9	アシュケナージ、ポリーニ
10	ベルマン、バレンボイム
11	ブレンデル、カッチェン、ゼルキン
12	パデレフスキー、マガロフ、ペルルミュテール、ハラシェヴィッチ
13	ツィメルマン、ポゴレリッチ、ブーニン
14	フィッシャー、ニコラーエフ、ワイセンベルク
15	まとめ （ピアニストの黄金時代）

科目名	幼児音楽指導法（含リトミック）　[火5] Aクラス						
代表教員	曲尾　雅子	授業コード	GK0628A0	科目コード	GK0628	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

幼児期における効果的な音楽指導法。

２．授業概要

音楽に必要と思われるリズム感や音感が、子供たちに自然と身につく方法を実践を通して学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：日頃から幼児教育に興味を持ち、関連書籍や楽譜を見たり、機会があれば幼児を観察したり積極的に関わるように心掛ける。
復習：ひとつの曲（唄）の中に何を目的とした課題が含まれているかをより明確にするため、授業で使用したプリントを基に各個人のオリジナルな授業計画内容を作成する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点：授業への参加姿勢（評価の５０％）
課題：授業計画案と実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『ダルクローズのリトミック』
エリザベス・パンドゥレスパー著（ドレミ出版）等
参考文献は適宜紹介する。
他、授業内でプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業に積極的かつ意欲的に取り組む事を望む。
実践中心の授業なので遅刻をしないように。

授業計画	
	［前期］
1	前期授業内容の説明
2	幼児と音楽教育
3	手遊び唄の指導
4	童謡の指導
5	ボディ・パーカッション
6	ボディ・パーカッションとその応用
7	リズムについて
8	拍子について
9	楽器（すず、カスタネット）を使用した教材作成
10	楽器(タンバリン、トライアングル）を使用した教材作成
11	道具（ボール、なわとび等）を使用した教材作成
12	道具（フラフープ）を使用した教材作成
13	グループごとによる模擬レッスンへの話し合い、指導案作成
14	グループごとによる模擬レッスン実践と応用
15	前期試験とまとめ

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習と後期授業内容の説明
2	３～５歳児の発達とその違い
3	幼児期の成長発達に応じた教材の研究と実習
4	読譜とソルフェージュ、その効用
5	ピアノ導入とその指導について
6	ピアノ導入とその指導、リトミックとの関わりについて
7	ダルクローズ教育に関する講座ＤＶＤ
8	ミュージックベルを使用した音感教育～音程
9	ミュージックベルを使用した音感教育～和声
10	リトミックのピアノ伴奏
11	コードネームによる即興伴奏付け
12	既成の物語にリズムや音楽を付けてみよう
13	オリジナル教材作成
14	模擬レッスン形式での実践
15	後期試験とまとめ

科目名	幼児音楽指導法（含リトミック）　[金5] Bクラス						
代表教員	大澤　美紀	授業コード	GK0628B0	科目コード	GK0628	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

幼児期における効果的な音楽指導法。

２．授業概要

音楽に必要と思われるリズム感や音感が、子供たちに自然と身につく方法を実践を通して学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：日頃から幼児教育に興味を持ち、関連書籍や楽譜を見たり、機会があれば幼児を観察したり積極的に関わるように心掛ける。
復習：ひとつの曲（唄）の中に何を目的とした課題が含まれているかをより明確にするため、授業で使用したプリントを基に各個人のオリジナルな授業計画内容を作成する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点：授業への参加姿勢（評価の５０％）
課題：授業計画案と実技試験（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『ダルクローズのリトミック』
エリザベス・パンドゥレスパー著（ドレミ出版）等
参考文献は適宜紹介する。
他、授業内でプリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業に積極的かつ意欲的に取り組む事を望む。
実践中心の授業なので遅刻をしないように。

授業計画	
	［前期］
1	前期授業内容の説明
2	幼児と音楽教育
3	手遊び唄の指導
4	童謡の指導
5	ボディ・パーカッション
6	ボディ・パーカッションとその応用
7	リズムについて
8	拍子について
9	楽器（すず、カスタネット）を使用した教材作成
10	楽器(タンバリン、トライアングル）を使用した教材作成
11	道具（ボール、なわとび等）を使用した教材作成
12	道具（フラフープ）を使用した教材作成
13	グループごとによる模擬レッスンへの話し合い、指導案作成
14	グループごとによる模擬レッスン実践と応用
15	前期試験とまとめ

授業計画	
	［後期］
1	前期の復習と後期授業内容の説明
2	３～５歳児の発達とその違い
3	幼児期の成長発達に応じた教材の研究と実習
4	読譜とソルフェージュ、その効用
5	ピアノ導入とその指導について
6	ピアノ導入とその指導、リトミックとの関わりについて
7	ダルクローズ教育に関する講座ＤＶＤ
8	ミュージックベルを使用した音感教育～音程
9	ミュージックベルを使用した音感教育～和声
10	リトミックのピアノ伴奏
11	コードネームによる即興伴奏付け
12	既成の物語にリズムや音楽を付けてみよう
13	オリジナル教材作成
14	模擬レッスン形式での実践
15	後期試験とまとめ

科目名	管弦楽史 （前） ［水2］Aクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	GK0635A0	科目コード	GK0635	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

西洋音楽史における管弦楽曲の歴史を交響曲を中心に学ぶ。交響曲の形式や各作曲家の様式的特徴を理解し、それについて説明することができるようになることが主要目標である。

２．授業概要

西洋音楽史における主要な交響曲やそれに関連した音楽作品を概観する。視聴覚資料の鑑賞もまじえつつ、講義形式で授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では、交響曲や管弦楽曲を作曲した作曲家のうち、ごく一部の作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができません。授業で観賞した作品の全体を聴いたり、授業でとりあげた作曲家の他の作品について調べたりしてください。以上の復習をするためには、1回の授業につき60分ほどの時間がかかります。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（授業への参加姿勢、随時実施する授業後小テスト）が合計70点満点。
小テストの内容は、その日の授業を聴いていれば答えられる簡単なもの。
・期末レポートは30点満点。期末レポートは必ず提出しなければならない。
・以上の合計100点満点のうち、Ｓは95点以上、Ａは85～94点、Ｂは70～84点、Ｃは60～69点、Ｄ（単位取得不可）は59点以下。ただし、欠格条件もあります（履修条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと）。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

プリントを配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・授業開始時間の５分後～30分後に教室に現れた場合は、遅刻とみなす。
・授業開始後30分以上遅れて教室に現れた場合は、欠席とみなす。
・授業開始後１時間未満での早退は、欠席とみなす。
・遅刻・早退３回で、１回の欠席とみなす。
・不正出席（学生証をカードリーダーに通しただけで逃亡するなど）が２回以上発覚した場合は、単位取得不可とする（欠格条件）。
・３分の２以上の出席がない場合は、期末レポートを提出する資格を認めない（欠格条件）。
・授業中の私語は慎むこと。ひどい場合は退室してもらうこともある。
・授業中に食事をしないこと。飲み物は水分補給という意味で可。ただし、過剰にくつろがないこと。

授業計画	
	［半期］
1	導入：交響曲の誕生～ハイドンとモーツァルトの交響曲
2	ベートーヴェンの交響曲　その１：第3番、第5番、第6番を中心に
3	ベートーヴェンの交響曲　その２：第7番、第9番を中心に
4	19世紀前半の交響曲　その１（シューベルト）
5	19世紀前半の交響曲　その２（メンデルスゾーン、シューマン）
6	19世紀前半の交響曲　その３（ベルリオーズ）
7	交響詩（リスト、R.シュトラウス）
8	ワーグナー（楽劇と交響曲）
9	ブラームスとブルックナーの交響曲
10	19世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その１（ドヴォルザーク、チャイコフスキーほか）
11	19世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その２（サン＝サーンスほか）
12	マーラーの交響曲　その１　：第1番、第4番、第6番を中心に
13	マーラーの交響曲　その２：第8番を中心に
14	マーラーの交響曲　その３：《大地の歌》と第9番を中心に
15	20世紀の交響曲（ショスタコーヴィチ他）＆まとめ

科目名	管弦楽史 （前） ［金5］Bクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	GK0635B0	科目コード	GK0635	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

西洋音楽史における管弦楽曲の歴史を交響曲を中心に学ぶ。交響曲の形式や各作曲家の様式的特徴を理解し、それについて説明することができるようになることが主要目標である。

２．授業概要

西洋音楽史における主要な交響曲やそれに関連した音楽作品を概観する。視聴覚資料の鑑賞もまじえつつ、講義形式で授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では、交響曲や管弦楽曲を作曲した作曲家のうち、ごく一部の作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができません。授業で観賞した作品の全体を聴いたり、授業でとりあげた作曲家の他の作品について調べたりしてください。以上の復習をするためには、1回の授業につき60分ほどの時間がかかります。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（授業への参加姿勢、随時実施する授業後小テスト）が合計70点満点。
小テストの内容は、その日の授業を聴いていれば答えられる簡単なもの。
・期末レポートは30点満点。期末レポートは必ず提出しなければならない。
・以上の合計100点満点のうち、Ｓは95点以上、Ａは85～94点、Ｂは70～84点、Ｃは60～69点、Ｄ（単位取得不可）は59点以下。ただし、欠格条件もあります（履修条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと）。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

プリントを配布する。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・授業開始時間の５分後～30分後に教室に現れた場合は、遅刻とみなす。
・授業開始後30分以上遅れて教室に現れた場合は、欠席とみなす。
・授業開始後１時間未満での早退は、欠席とみなす。
・遅刻・早退３回で、１回の欠席とみなす。
・不正出席（学生証をカードリーダーに通しただけで逃亡するなど）が２回以上発覚した場合は、単位取得不可とする（欠格条件）。
・３分の２以上の出席がない場合は、期末レポートを提出する資格を認めない（欠格条件）。
・授業中の私語は慎むこと。ひどい場合は退室してもらうこともある。
・授業中に食事をしないこと。飲み物は水分補給という意味で可。ただし、過剰にくつろがないこと。

授業計画	
	［半期］
1	導入：交響曲の誕生～ハイドンとモーツァルトの交響曲
2	ベートーヴェンの交響曲　その１：第3番、第5番、第6番を中心に
3	ベートーヴェンの交響曲　その２：第7番、第9番を中心に
4	19世紀前半の交響曲　その１（シューベルト）
5	19世紀前半の交響曲　その２（メンデルスゾーン、シューマン）
6	19世紀前半の交響曲　その３（ベルリオーズ）
7	交響詩（リスト、R.シュトラウス）
8	ワーグナー（楽劇と交響曲）
9	ブラームスとブルックナーの交響曲
10	19世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その１（ドヴォルザーク、チャイコフスキーほか）
11	19世紀後半の交響曲・管弦楽曲　その２（サン＝サーンスほか）
12	マーラーの交響曲　その１　：第1番、第4番、第6番を中心に
13	マーラーの交響曲　その２：第8番を中心に
14	マーラーの交響曲　その３：《大地の歌》と第9番を中心に
15	20世紀の交響曲（ショスタコーヴィチ他）＆まとめ

科目名	オペラ史　（後）［火2］						
代表教員	青島　広志	授業コード	GK063600	科目コード	GK0636	期間	半期
担当教員	松浦　真沙						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

4世紀以上に渡って西洋の娯楽の中心となって来たオペラの歴史を半期のみでたどります。声楽コース学生のみならず、将来舞台芸術とかかわる可能性のある学生（ピアノ、オーケストラを含む）には絶対に欠かせない知識です。

２．授業概要

各時代ごとの作品の傾向・特徴を示し、実演や音・映像資料でその上演に触れます。また実際のオペラ上演の方法・手順についても知識を与えます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

限られた授業時間内ではオペラ全曲を鑑賞することは不可能です。またその中心となる歌唱部も全員が歌うことは不可能です。そのため声楽や合唱の授業に積極的に参加し、校外の公演には可能な限り足を運んでほしいものです。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加意欲など）、「魔笛」・「道化師」のビデオ鑑賞およびそのレポート（感想文）の各々50%ずつ

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：オペラへご招待！（学研：青島広志・水野英子共著）
参考文献：フィガロの結婚・魔笛（モーツァルト）、椿姫・リゴレット（ヴェルディ）、タンホイザー（ヴァーグナー）、ばらの騎士（R.シュトラウス）の各ヴォーカル・スコアおよび各声種別のオペラ・アリア集

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実際に声を出すことを嫌わないこと。黒板の板書を筆記できること（撮影ではなく）。
受講生が多い場合は、人数を制限する場合があります。

授業計画	
	［半期］
1	有名なオペラを通した全般的な考察（モーツァルト「フィガロの結婚」、ヴェルディ「椿姫」、プッチーニ「蝶々夫人」）
2	オペラの概要、その発生（モンテヴェルディ「オルフェオ」「ポッペアの戴冠」、オラトリオを含む）
3	ナポリ派（スカルラッティ、ヘンデルを含む）とオペラ改革（グルック）
4	古典派（モーツァルト「後宮への逃走」「コシ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」概説）
5	古典派（モーツァルト「魔笛」、ベートーヴェン）
6	ロマン派初期（ロッシーニ、ウェーバー）
7	ベルカント・オペラ（ベッリーニ、ドニゼッティ）
8	ロマン派中期（ヴェルディその1）
9	ロマン派中期（ヴェルディその2、ヴァーグナー）
10	国民楽派（チャイコフスキー、ビゼー、ドヴォルザークを含む）
11	ヴェリズモ（現実主義）とプッチーニ
12	R.シュトラウスと20世紀（ドビュッシーを含む）
13	20世紀と日本（ベルク、山田耕筰、團伊玖磨を含む）
14	上演の実際
15	上演の体験

科目名	音楽美学　（後）［火5］						
代表教員	大宅　緒	授業コード	GK063700	科目コード	GK0637	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義と演習	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

未知の音楽に出会ったときに、自分の考えをもってそれを受け止め、また自分の言葉でその音楽を語っていけるようになることをめざします。

２．授業概要

スロニムスキー編『音楽悪口事典ーベートーヴェン以降の名曲悪評集』を素材として、19世紀以降の音楽の聴かれかたの歴史をたどっていきます。こんにちでは「名曲」とされる作品も、初演やそれに近い時代には、容赦ない酷評をしばしば受けていました。まずは、批評家たちの毒舌ぶりを楽しんで読んでください。毒舌といっても、その作品や作曲家の本質をとらえたすばらしい批評がたくさんあります。

授業では、そのような批評を読んだあと、おもに図書館が所蔵する映像で、その作曲家の作品の演奏やリハーサル風景、伝記的なドキュメンタリーなどをみていきます。それをみて、ほぼ毎回、みなさんにコメントを書いてもらいます。これはその作曲家や作品についていいところを見つけるための練習です。すばらしい映像がそろっていて、なるべく休まないで出席すれば確実に力がつきます。安心して受講してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

テキストで批評の対象になっているのは、19世紀以降のよく知られた作品です。授業時間中にそのすべての作品を扱うことは時間的に不可能なので、なるべく図書館の資料やYoutubeの映像などを利用して、その作曲家の作品に触れる機会を作ってください。また、いい聴き手になるために、という観点からも、現在大学で受けている実技のレッスンや合奏の実習などの機会を大事にしてください。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業で書いてもらうコメントを1回あたり７点満点として評価します。
それにあたっては、自分の言葉でよく考えられているか、その映像のどんな点に着眼しているか、を重視し、その作曲家や作品についての知識が少なくても、対象に真摯に向きあっていることが明らかであれば、高く評価します。
その点数を合計して、原則として絶対評価により以下の評点を与えます。
90点以上＝S、80-89点＝A、70-79点＝B、60-69点＝C、59点以下＝D

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ニコラス・スロニムスキー編『名曲悪口事典ーベートーヴェン以降の名曲悪評集』（音楽之友社）にもとづく資料を、ポータルを通じて配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

古典派以降の西洋音楽史をすでに履修していることが望ましいところです。未修であれば、「古典派の音楽史」「ロマン派、近・現代の音楽史」をいずれかのクラスで履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス～ベートーヴェンの交響曲に対する批評
2	ベルリオーズ《幻想交響曲》をめぐって
3	ショパンの演奏をめぐって
4	リストに対する批評
5	ヴァーグナーに対する批評
6	ブラームスに対する批評
7	チャイコフスキーに対する批評
8	ムソルグスキーに対する批評
9	ビゼーに対する批評
10	マーラーに対する批評
11	ドビュッシーに対する批評
12	ラヴェルに対する批評
13	シェーンベルクに対する批評
14	ストラヴィンスキーに対する批評
15	バルトークに対する批評

科目名	現代音楽　（前）［火4］Pクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	GK0638P0	科目コード	GK0638	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

20世紀以降、とくに第２次大戦後の音楽で用いられてきた数々の作曲の技法に光を当てて、今日にいたるまで、音楽がどのように多様化してきたかを学びます。この授業で出会う作曲家の発想のひろがりから、みなさんがそれぞれの創作・演奏・演技などにおいて、創造的なヒントを得られるようになることを目標とします。

２．授業概要

20世紀以降の音楽では、作曲家があたかも過去との訣別を図るように、つぎつぎと新しい技法を提示することで、音楽の可能性をひろげてきました。19世紀までの音楽を基準とすれば、〈脱〉音楽と呼んでも差しつかえない状況も生じました（それがすべてではありませんが）。

従来この「現代音楽」の授業は、20世紀初頭からなるべく年代をたどるかたちで進めてきました。しかし、20世紀の後半に入ると、さまざまな作曲技法の説明に追われる一方で、今日の音楽の大きな流れを伝えにくい傾向にありました。

そこで今年度はシラバスを一新します。木石岳氏と川島素晴氏の力作『はじめての〈脱〉音楽――やさしい現代音楽の作曲法』を教科書に、20世紀後半以降の音楽が、どのような技法で書かれた結果、どのような響きを生み出してきたのか、作曲家の視点と聴き手の視点の両方から丁寧に扱っていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

テキストの指定箇所をよく読んできてください。またとりあげられた音楽作品を、AV資料やインターネットを活用して体験したり、テキストで提示されている「実践」に取り組んだりする時間を十分に確保しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学習内容の理解を問う試験（授業中の小テストを含む）を70%＋教科書にとりあげられている作曲技法に関連する作品について自由に論じるレポートを30%として、絶対評価で採点します。両者の合計を100点満点、S=95点以上、A=80点以上、B＝70点以上、C=60点以上、D=59点以下とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

木石岳編著・川島素晴監修『はじめての〈脱〉音楽―やさしい現代音楽の作曲法』（自由国民社）。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件は特にありません。どのような専攻の方も歓迎します。

５．のテキストは教科書として扱います。図表や譜例を見るため、補助的にプロジェクターを使用することもありますが、テキストの内容を理解し予習・復習を容易にするため、本書を入手しておいてください。

出席状況は評価の対象とせず、6回以上欠席した場合は失格となります。ただし、就職活動、病気その他で所定の出席回数に達することがむずかしくなった場合は遠慮なく相談してください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス―〈脱〉音楽の歴史に向かって
2	〈脱〉調性①―無調から12音技法へ
3	〈脱〉調性②―トータル・セリエリズムからポスト・セリエリズムへ
4	〈脱〉作曲①―アルゴリズム作曲と偶然性の音楽
5	〈脱〉作曲②―即興演奏と不確定性
6	〈脱〉作曲③―ミニマリズムとアンビエント
7	〈脱〉作曲④―引用とモザイク
8	〈脱〉音色①―新しい奏法と記譜
9	〈脱〉音色②―クラスター・微分音・電子音楽
10	〈脱〉音色③―スペクトル音楽・ノイズ音楽
11	〈脱〉音楽①―ミュージック・コンクレート
12	〈脱〉音楽②―サウンド・スケープ
13	〈脱〉音楽③―シアター／身体表現
14	〈脱〉音楽④―コンセプチュアリズム、そしてフルクサス
15	まとめと試験

科目名	現代音楽　（後）［火4］Qクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	GK0638Q0	科目コード	GK0638	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

20世紀以降、とくに第２次大戦後の音楽で用いられてきた数々の作曲の技法に光を当てて、今日にいたるまで、音楽がどのように多様化してきたかを学びます。この授業で出会う作曲家の発想のひろがりから、みなさんがそれぞれの創作・演奏・演技などにおいて、創造的なヒントを得られるようになることを目標とします。

２．授業概要

20世紀以降の音楽では、作曲家があたかも過去との訣別を図るように、つぎつぎと新しい技法を提示することで、音楽の可能性をひろげてきました。19世紀までの音楽を基準とすれば、〈脱〉音楽と呼んでも差しつかえない状況も生じました（それがすべてではありませんが）。

従来この「現代音楽」の授業は、20世紀初頭からなるべく年代をたどるかたちで進めてきました。しかし、20世紀の後半に入ると、さまざまな作曲技法の説明に追われる一方で、今日の音楽の大きな流れを伝えにくい傾向にありました。

そこで今年度はシラバスを一新します。木石岳氏と川島素晴氏の力作『はじめての〈脱〉音楽――やさしい現代音楽の作曲法』を教科書に、20世紀後半以降の音楽が、どのような技法で書かれた結果、どのような響きを生み出してきたのか、作曲家の視点と聴き手の視点の両方から丁寧に扱っていきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

テキストの指定箇所をよく読んできてください。またとりあげられた音楽作品を、AV資料やインターネットを活用して体験したり、テキストで提示されている「実践」に取り組んだりする時間を十分に確保しましょう。

４．成績評価の方法及び基準

学習内容の理解を問う試験（授業中の小テストを含む）を70%＋教科書にとりあげられている作曲技法に関連する作品について自由に論じるレポートを30%として、絶対評価で採点します。両者の合計を100点満点、S=95点以上、A=80点以上、B＝70点以上、C=60点以上、D=59点以下とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

木石岳編著・川島素晴監修『はじめての〈脱〉音楽―やさしい現代音楽の作曲法』（自由国民社）。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件は特にありません。どのような専攻の方も歓迎します。

５．のテキストは教科書として扱います。図表や譜例を見るため、補助的にプロジェクターを使用することもありますが、テキストの内容を理解し予習・復習を容易にするため、本書を入手しておいてください。

出席状況は評価の対象とせず、6回以上欠席した場合は失格となります。ただし、就職活動、病気その他で所定の出席回数に達することがむずかしくなった場合は遠慮なく相談してください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス―〈脱〉音楽の歴史に向かって
2	〈脱〉調性①―無調から12音技法へ
3	〈脱〉調性②―トータル・セリエリズムからポスト・セリエリズムへ
4	〈脱〉作曲①―アルゴリズム作曲と偶然性の音楽
5	〈脱〉作曲②―即興演奏と不確定性
6	〈脱〉作曲③―ミニマリズムとアンビエント
7	〈脱〉作曲④―引用とモザイク
8	〈脱〉音色①―新しい奏法と記譜
9	〈脱〉音色②―クラスター・微分音・電子音楽
10	〈脱〉音色③―スペクトル音楽・ノイズ音楽
11	〈脱〉音楽①―ミュージック・コンクレート
12	〈脱〉音楽②―サウンド・スケープ
13	〈脱〉音楽③―シアター／身体表現
14	〈脱〉音楽④―コンセプチュアリズム、そしてフルクサス
15	まとめと試験

科目名	諸民族の音楽　（前）［木5］Aクラス						
代表教員	山本　華子	授業コード	GK0639A0	科目コード	GK0639	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

世界には多くの民族が生活し、それぞれが独自の音楽文化を持っている。クラシック音楽やジャズもその音楽文化の一つと考えることができる。この授業ではその多様な諸民族の音楽とその背景にある社会や宗教・文化などもあわせて学び、音楽の多様性を理解する。また現在では、中学・高校の音楽教育においても諸民族の音楽の重要性が認識されつつある。そのためにも基礎的な知識を身に付ける。

２．授業概要

世界各地の諸民族が育んできた音楽を、映像や音資料を用いて学んでいきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

機会を見つけて、いろいろな民族音楽（生演奏、テレビ、DVD、CD、動画サイトなど）を聴いてみて下さい。
必要に応じて、コンサート情報もお伝えします。

４．成績評価の方法及び基準

授業内まとめのテスト（評価の50%）
平常点として授業内ミニレポート（50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『民族音楽概論』藤井知昭他 編（東京書籍）
『はじめての世界音楽』柘植元一・塚田健一　編（音楽之友社）
『アジア音楽史』柘植元一・植村幸生　編（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員免許をとりたい学生はもちろん、幅広い視点で音楽文化を考えるヒントとしても、この授業を受けて下さい。
・授業中の私語、イヤホン使用、SNS使用、ゲームは禁止。
・授業では映像や音資料を多く使うので、できるだけ出席すること。
・受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 基礎的なことを学ぶ理論編と世界各地の音楽
1	ガイダンス
2	文化と音楽
3	概論（音階・リズムなど）
4	概論（楽器）
5	音楽教育と諸民族の音楽
6	西ヨーロッパ
7	東ヨーロッパ
8	アフリカ大陸
9	アメリカ大陸
10	西アジア・中央アジア
11	南アジア
12	東南アジア・オセアニア
13	東アジア
14	概論（伝播と伝承）
15	まとめ

科目名	諸民族の音楽　（後）［木5］Bクラス						
代表教員	山本　華子	授業コード	GK0639B0	科目コード	GK0639	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

世界には多くの民族が生活し、それぞれが独自の音楽文化を持っている。クラシック音楽やジャズもその音楽文化の一つと考えることができる。この授業ではその多様な諸民族の音楽とその背景にある社会や宗教・文化などもあわせて学び、音楽の多様性を理解する。また現在では、中学・高校の音楽教育においても諸民族の音楽の重要性が認識されつつある。そのためにも基礎的な知識を身に付ける。

２．授業概要

世界各地の諸民族が育んできた音楽を、映像や音資料を用いて学んでいきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

機会を見つけて、いろいろな民族音楽（生演奏、テレビ、DVD、CD、動画サイトなど）を聴いてみて下さい。
必要に応じて、コンサート情報もお伝えします。

４．成績評価の方法及び基準

授業内まとめのテスト（評価の50%）
平常点として授業内ミニレポート（50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『民族音楽概論』藤井知昭他 編（東京書籍）
『はじめての世界音楽』柘植元一・塚田健一　編（音楽之友社）
『アジア音楽史』柘植元一・植村幸生　編（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員免許をとりたい学生はもちろん、幅広い視点で音楽文化を考えるヒントとしても、この授業を受けて下さい。
・授業中の私語、イヤホン使用、SNS使用、ゲームは禁止。
・授業では映像や音資料を多く使うので、できるだけ出席すること。
・受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 基礎的なことを学ぶ理論編と世界各地の音楽
1	ガイダンス
2	文化と音楽
3	概論（音階・リズムなど）
4	概論（楽器）
5	音楽教育と諸民族の音楽
6	西ヨーロッパ
7	東ヨーロッパ
8	アフリカ大陸
9	アメリカ大陸
10	西アジア・中央アジア
11	南アジア
12	東南アジア・オセアニア
13	東アジア
14	概論（伝播と伝承）
15	まとめ

科目名	日本の伝統芸能と音楽　［木3］Aクラス						
代表教員	森重　行敏	授業コード	GK0640A0	科目コード	GK0640	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の日本において、伝統芸能との接点は希薄になりがちである。しかし日本で音楽や舞台芸術に関わる者が、その専門分野の知識はもちろん、日本の伝統芸能についても最低限は知っているべきであることは疑いがない。日本の伝統音楽は日本語や舞踊、演劇などと密接に関わっているため、それを生み出す日本の社会的文化的脈絡および外来文化との関係について理解する。

２．授業概要

日本の伝統音楽や芸能について、映像や音源を通じて知るとともに、様々な楽器や楽譜などにも直接触れることにより、理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本音楽には独特の用語も多いため、下記の参考文献などにより予め知識を得ておくことが望ましい。また配付資料は必ずファイルし、受講後に講義で学んだことを合わせて読み深めておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

受講状況(授業中のミニレポートを含む)（評価の５０％）
学期末レポート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献については、講義中に随時紹介するが、以下の文献などを参考にすること。授業では随時プリントを配布する。
『日本音楽との出会い』月渓恒子(東京堂出版)
『図解・日本音楽史』田中健次(東京堂出版)
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社）
『日本の音を聴く』柴田南雄（青土社）
『日本の音』小泉文夫（青土社）
『音･言葉･人間』武満徹・川田順造（岩波書店）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

映像や音源の鑑賞をするため、遅刻・欠席はできるだけしないこと。出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 古代・中世の伝統芸能
1	導入：「伝統芸能」とは
2	伝統芸能の分類
3	芸能の起源1　神話と芸能
4	芸能の起源2　宗教と芸能
5	雅楽1　歴史と分類
6	雅楽2　舞楽の構造
7	雅楽3　管絃、催馬楽、朗詠
8	雅楽4　国風歌舞
9	仏教芸能
10	能楽1 能楽の歴史
11	能楽2 能楽の構造
12	能楽3 狂言の音楽
13	中世の芸能
14	語り物の発展
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 近世以降の古典芸能と民俗芸能
1	歌舞伎1 歌舞伎の歴史
2	歌舞伎２　文楽との相互交流
3	歌舞伎３　日本舞踊
4	文楽1 人形浄瑠璃の成立
5	文楽２　義太夫節の発展
6	箏曲1 箏曲の成立
7	箏曲2 箏曲の発展
8	三曲合奏1 その成立
9	三曲合奏2 その変革
10	民俗芸能1 芸能の原点を探る
11	民俗芸能2 祭礼の種類
12	民俗芸能3 新たな動向
13	伝統と現代1 芸能と社会の変化
14	伝統と現代2 メディアと芸能
15	後期のまとめ

科目名	日本の伝統芸能と音楽　［火5］Bクラス						
代表教員	山本　華子	授業コード	GK0640B0	科目コード	GK0640	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の日本において、伝統芸能との接点は希薄になりがちである。しかし日本で音楽や舞台芸術に関わる者が、その専門分野の知識はもちろん、日本の伝統芸能についても最低限は知っているべきであることは疑いがない。日本の伝統音楽は日本語や舞踊、演劇などと密接に関わっているため、それを生み出す日本の社会的文化的脈絡および外来文化との関係について理解する。

２．授業概要

日本の伝統音楽や芸能について、映像や音源を通じて知るとともに、様々な楽器や楽譜などにも直接触れることにより、理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本音楽には独特の用語も多いため、下記の参考文献などにより予め知識を得ておくことが望ましい。また配付資料は必ずファイルし、受講後に講義で学んだことを合わせて読み深めておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

受講状況(授業中のミニレポートを含む)（評価の５０％）
学期末レポート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献については、講義中に随時紹介するが、以下の文献などを参考にすること。授業では随時プリントを配布する。
『日本音楽との出会い』月渓恒子(東京堂出版)
『図解・日本音楽史』田中健次(東京堂出版)
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社）
『日本の音を聴く』柴田南雄（青土社）
『日本の音』小泉文夫（青土社）
『音･言葉･人間』武満徹・川田順造（岩波書店）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

映像や音源の鑑賞をするため、遅刻・欠席はできるだけしないこと。出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 古代・中世の伝統芸能
1	導入：「伝統芸能」とは
2	伝統芸能の分類
3	芸能の起源1　神話と芸能
4	芸能の起源2　宗教と芸能
5	雅楽1　歴史と分類
6	雅楽2　舞楽の構造
7	雅楽3　管絃、催馬楽、朗詠
8	雅楽4　国風歌舞
9	仏教芸能
10	能楽1 能楽の歴史
11	能楽2 能楽の構造
12	能楽3 狂言の音楽
13	中世の芸能
14	語り物の発展
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 近世以降の古典芸能と民俗芸能
1	歌舞伎1 歌舞伎の歴史
2	歌舞伎２　文楽との相互交流
3	歌舞伎３　日本舞踊
4	文楽1 人形浄瑠璃の成立
5	文楽２　義太夫節の発展
6	箏曲1 箏曲の成立
7	箏曲2 箏曲の発展
8	三曲合奏1 その成立
9	三曲合奏2 その変革
10	民俗芸能1 芸能の原点を探る
11	民俗芸能2 祭礼の種類
12	民俗芸能3 新たな動向
13	伝統と現代1 芸能と社会の変化
14	伝統と現代2 メディアと芸能
15	後期のまとめ

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Aクラス						
代表教員	相澤　直人	授業コード	GK0711A0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Bクラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0711B0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Cクラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GK0711C0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Dクラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0711D0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Eクラス						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	GK0711E0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Fクラス						
代表教員	鈴木　しのぶ	授業コード	GK0711F0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Gクラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0711G0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Hクラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0711H0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［金3］Aクラス（JZ専用）						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK0711J1	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 メジャーキー:シラブルの学習
2	単旋律 メジャーキー：ブルーノート
3	単旋律 メジャーキー：クロマティック
4	旋律／ルートモーション-I-VI-II-V
5	旋律／ルートモーション-：ドミナント
6	旋律／ルートモーション-セカンダリードミナント
7	リズム-：シンコペーション、スイング
8	リズム：シンコペーション、ボサノバ
9	リズム：シンコペーション、カットタイム
10	音程：３度、６度
11	音程：４度、５度
12	音程：２度、７度
13	アプローチノートを含む曲：デュークエリントン
14	アプローチノートを含む曲：ビバップ
15	曲の転調

科目名	ソルフェージュI （前）［金4］Bクラス（JZ専用）						
代表教員	松本　治	授業コード	GK0711J2	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 メジャーキー:シラブルの学習
2	単旋律 メジャーキー：ブルーノート
3	単旋律 メジャーキー：クロマティック
4	旋律／ルートモーション-I-VI-II-V
5	旋律／ルートモーション-：ドミナント
6	旋律／ルートモーション-セカンダリードミナント
7	リズム-：シンコペーション、スイング
8	リズム：シンコペーション、ボサノバ
9	リズム：シンコペーション、カットタイム
10	音程：３度、６度
11	音程：４度、５度
12	音程：２度、７度
13	アプローチノートを含む曲：デュークエリントン
14	アプローチノートを含む曲：ビバップ
15	曲の転調

科目名	ソルフェージュI （前）［金1］（MS専用）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0711K0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。ミュージカル俳優やダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（ソルフェージュの語源、意味、意義など）
2	高音部譜表の読譜、全音符・２分音符のリズム練習
3	高音部譜表の読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
4	２度の視唱および読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
5	２度～３度の視唱および読譜、４分音符・符点４分音符のリズム練習
6	単純拍子のリズム読み、４分音符・符点４分音符のリズム練習
7	２度～４度の視唱および読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
8	単純拍子のリズム読み、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
9	２度～４度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
10	２度～５度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	高音部譜表の読譜、視唱、８分音符を含むリズム練習
13	簡単な4小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	２分音符・４分音符・８分音符・シンコペーションを含むリズム練習
15	高音部譜表読譜、視唱、リズム練習の総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Lクラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GK0711L0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Mクラス						
代表教員	宮澤　幸子	授業コード	GK0711M0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Nクラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GK0711N0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Rクラス						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GK0711R0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木4］Aクラス（RP専用）						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK0711R1	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス・クラス分け試験
2	8ビートの聞き取り1（クラップリズム）
3	8ビートの聞き取り1（フレーズリズム）
4	16ビートの聞き取り1（クラップリズム）
5	16ビートの聞き取り2（フレーズリズム）
6	8ビートバウンス（シャッフル）の聞き取り
7	16ビートバウンス（ハーフタイムシャッフル）の聞き取り
8	ポリリズム
9	ドラムの聞き取り、採譜1（8ビート）
10	ドラムの聞き取り、採譜2（16ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜3（8ビートバウンス）
12	ドラムの聞き取り、採譜4（16ビートバウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	前期総括と試験

科目名	ソルフェージュⅠ （前） ［木4］Bクラス（RP専用）						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK0711R2	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンスとクラス分け試験
2	8ビートの聞き取り1（クラップリズム）
3	8ビートの聞き取り2（フレーズリズム）
4	16ビートの聞き取り1（クラップリズム）
5	16ビートの聞き取り2（フレーズリズム）
6	8ビートバウンス（シャッフル）の聞き取り
7	16ビートバウンス（ハーフタイムシャッフル）の聞き取り
8	ポリリズム
9	ドラムの聞き取り、採譜1（8ビート）
10	ドラムの聞き取り、採譜2（16ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜3（8ビートバウンス）
12	ドラムの聞き取り、採譜4（16ビートバウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	前期総括と試験

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Sクラス						
代表教員	和田　さやか	授業コード	GK0711S0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木1］Tクラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0711T0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （後） ［木2］Uクラス						
代表教員	鈴木　しのぶ	授業コード	GK0711U0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけて発展を目指します。
読譜、音程、リズム等、基礎力をしっかり固めつつ、バランス良くソルフェージュ能力の底上げを図ります。いろいろな課題に取り組むことで自身のソルフェージュ能力を客観的に把握し、問題点の克服につなげることを目指します。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （後） ［木2］Vクラス						
代表教員	宮澤　幸子	授業コード	GK0711V0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。
基礎力を身につけ更に高めます。リズム感を養うリズム練習や、様々な名曲の旋律等も使い、書くことや歌うことを通して、聴く力、読譜力、音感、表現力を強化します。各専攻分野に活かしていけるようにします。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木4］Aクラス（AS専用）						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GK0711W0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状	教職科目						

１．主題・到達目標

ソルフェージュは音楽の全体像を把握するために欠くことのできない能力である。
耳から音楽を把握する能力を養い、リズムを正確に捉えることができること、音程を正確に捉えて歌うことができることを目標とする。

２．授業概要

アニソン・ポップスを中心に既存の楽曲を取り入れながら、リズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を中心に進める。
課題は、音部記号、拍子記号、小節線の書き方から始まり、Cmajorを中心に2拍子・4拍子・3拍子、4分音符（休符）・8分音符（休符）・16分音符（休符）各付点音符、簡単なシンコペーションまで取り上げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌う、あるいは打つだけではなく、体で感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。
教師の提案した教材を必ず授業当日まで復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
学期末試験（評価の50%）
平常点は授業への参加姿勢と、毎回の課題に対する習熟度を総合的に判断する。
期末試験はリズム・メロディの書き取り、楽譜書法の一般知識を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト＞
・必要に応じプリントを配布する

＜参考文献＞
・担当教員が作成したibooksによる教材
・楽典―理論と実習 石桁 真礼生

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ASコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］主にリズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を学期を通して実施する。
1	音楽のビート感じる練習（ガイダンス）
2	ビートを感じながら特定のリズムを叩く練習
3	ビートを感じながらシンコペーションを含んだリズムを叩く練習
4	休符を意識する練習
5	特定のアクセントの位置を叩く練習
6	基本ビートを打ちながら、特定のリズムを叩く練習
7	基本ビートを打ちながら、16分音符が含まれた特定のリズムを叩く練習
8	基本ビートに乗りながら（自由なリズム）フィルインを入れる練習
9	1小節のリズムを覚えて楽譜に記そう（導入）
10	1小節のリズムを覚えて楽譜に記そう（8分音符まで）
11	1小節のリズムを楽譜にした後、音程を聞き取ろう（導入）
12	1小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（導入）
13	2小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（8分音符中心）
14	2小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（16分音符を含む）
15	試験と総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［金3］Bクラス（AS専用）						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GK0711X0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状	教職科目						

１．主題・到達目標

ソルフェージュは音楽の全体像を把握するために欠くことのできない能力である。
耳から音楽を把握する能力を養い、リズムを正確に捉えることができること、音程を正確に捉えて歌うことができることを目標とする。

２．授業概要

アニソン・ポップスを中心に既存の楽曲を取り入れながら、リズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を中心に進める。
課題は、音部記号、拍子記号、小節線の書き方から始まり、Cmajorを中心に2拍子・4拍子・3拍子、4分音符（休符）・8分音符（休符）・16分音符（休符）各付点音符、簡単なシンコペーションまで取り上げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌う、あるいは打つだけではなく、体で感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。
教師の提案した教材を必ず授業当日まで復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
学期末試験（評価の50%）
平常点は授業への参加姿勢と、毎回の課題に対する習熟度を総合的に判断する。
期末試験はリズム・メロディの書き取り、楽譜書法の一般知識を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト＞
・必要に応じプリントを配布する

＜参考文献＞
・担当教員が作成したibooksによる教材
・楽典―理論と実習 石桁 真礼生

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ASコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］主にリズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を学期を通して実施する。
1	音楽のビート感じる練習（ガイダンス）
2	ビートを感じながら特定のリズムを叩く練習
3	ビートを感じながらシンコペーションを含んだリズムを叩く練習
4	休符を意識する練習
5	特定のアクセントの位置を叩く練習
6	基本ビートを打ちながら、特定のリズムを叩く練習
7	基本ビートを打ちながら、16分音符が含まれた特定のリズムを叩く練習
8	基本ビートに乗りながら（自由なリズム）フィルインを入れる練習
9	1小節のリズムを覚えて楽譜に記そう（導入）
10	1小節のリズムを覚えて楽譜に記そう（8分音符まで）
11	1小節のリズムを楽譜にした後、音程を聞き取ろう（導入）
12	1小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（導入）
13	2小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（8分音符中心）
14	2小節のフレーズを覚えて楽譜に記そう（16分音符を含む）
15	試験と総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［木2］ （DC専用）						
代表教員	湖口　浩朗	授業コード	GK0711Y0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。ダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（ソルフェージュの語源、意味、意義など）
2	高音部譜表の読譜、全音符・２分音符のリズム練習
3	高音部譜表の読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
4	２度の視唱および読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
5	２度～３度の視唱および読譜、４分音符・符点４分音符のリズム練習
6	単純拍子のリズム読み、４分音符・符点４分音符のリズム練習
7	２度～４度の視唱および読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
8	単純拍子のリズム読み、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
9	２度～４度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
10	２度～５度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	高音部譜表の読譜、視唱、８分音符を含むリズム練習
13	簡単な4小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	２分音符・４分音符・８分音符・シンコペーションを含むリズム練習
15	高音部譜表読譜、視唱、リズム練習の総括

科目名	ソルフェージュI （前） ［金3］ （BL専用）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0711Z0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。バレエダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（ソルフェージュの語源、意味、意義など）
2	高音部譜表の読譜、全音符・２分音符のリズム練習
3	高音部譜表の読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
4	２度の視唱および読譜、２分音符・４分音符のリズム練習
5	２度～３度の視唱および読譜、４分音符・符点４分音符のリズム練習
6	単純拍子のリズム読み、４分音符・符点４分音符のリズム練習
7	２度～４度の視唱および読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
8	単純拍子のリズム読み、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
9	２度～４度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
10	２度～５度の視唱および読譜、シンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	高音部譜表の読譜、視唱、８分音符を含むリズム練習
13	簡単な4小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	２分音符・４分音符・８分音符・シンコペーションを含むリズム練習
15	高音部譜表読譜、視唱、リズム練習の総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Aクラス						
代表教員	相澤　直人	授業コード	GK0712A0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Bクラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0712B0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Cクラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GK0712C0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Dクラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0712D0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Eクラス						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	GK0712E0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Fクラス						
代表教員	鈴木　しのぶ	授業コード	GK0712F0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Gクラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0712G0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Hクラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0712H0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［金3］Aクラス（JZ専用）						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK0712J1	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュ１（JZ専用）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 マイナーキー：主音の聞き取り
2	単旋律 マイナーキー：平行調との関係
3	単旋律 マイナーキー：シラブル
4	モード（スケール）：スケールの構造
5	モード（スケール）スケールを歌う
6	モード（スケール）：メロディーを作る
7	モード（メロディー）：スケールの聞き取り
8	コードの7thを歌い、聴音
9	ルートを歌い、聴音
10	キーの聞き取り
11	II-Vによる聞き取り
12	曲の主音による転調
13	曲のII-Vによる転調
14	曲中での転調
15	コードタイプの聞き取り

科目名	ソルフェージュII （後） ［金4］Bクラス（JZ専用）						
代表教員	松本　治	授業コード	GK0712J2	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュ１（JZ専用）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 マイナーキー：主音の聞き取り
2	単旋律 マイナーキー：平行調との関係
3	単旋律 マイナーキー：シラブル
4	モード（スケール）：スケールの構造
5	モード（スケール）スケールを歌う
6	モード（スケール）：メロディーを作る
7	モード（メロディー）：スケールの聞き取り
8	コードの7thを歌い、聴音
9	ルートを歌い、聴音
10	キーの聞き取り
11	II-Vによる聞き取り
12	曲の主音による転調
13	曲のII-Vによる転調
14	曲中での転調
15	コードタイプの聞き取り

科目名	ソルフェージュII （後） ［金1］ （MS専用）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0712K0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。ミュージカル俳優やダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。
後期は、前期で習得したことを踏まえ、さらに発展させる。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	前期の復習
2	低音部譜表の読譜、シンコペーションのリズム練習
3	低音部譜表の読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
4	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習
5	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
6	単純拍子のリズム読み、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
7	２度～６度の視唱および読譜、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
8	複合拍子のリズム読み、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
9	複合拍子のリズム読み、複雑なシンコペーションのリズム練習
10	複合拍子のリズム読みおよび視唱、複雑なシンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	低音部譜表の読譜、視唱、１６分音符を含むリズム練習
13	簡単な８小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	低音部譜表と高音部譜表の読譜、視唱、リズム練習
15	視唱、リズム読み、読譜の総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Lクラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GK0712L0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Mクラス						
代表教員	宮澤　幸子	授業コード	GK0712M0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Nクラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GK0712N0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Rクラス						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GK0712R0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木4］Aクラス（RP専用）						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK0712R1	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュＩ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただロずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&Pソルフェージュ Ｉを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュ Ｉ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	8ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
4	16ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
5	バウンスビートのメロディー（ダイアトニック）
6	ペンタトニックの聞き取り
7	ノン・ダイアトニック・ノートの聞き取り
8	チャーチモードのメロディー
9	ブルーノート
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと採譜
11	２声ハーモニーの聞き取り
12	３声ハーモニーの聞き取り
13	メロディーコピー演習
14	メロディー譜作成演習
15	後期総括と試験

科目名	ソルフェージュII （後） ［木4］Bクラス（RP専用）						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK0712R2	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュＩ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただロずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&Pソルフェージュ Ｉを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュ Ｉ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	8ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
4	16ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
5	バウンスビートのメロディー（ダイアトニック）
6	ペンタトニックの聞き取り
7	ノン・ダイアトニック・ノートの聞き取り
8	チャーチモードのメロディー
9	ブルーノート
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと採譜
11	２声ハーモニーの聞き取り
12	３声ハーモニーの聞き取り
13	メロディーコピー演習
14	メロディー譜作成演習
15	後期総括と試験

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Sクラス						
代表教員	和田　さやか	授業コード	GK0712S0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木1］Tクラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0712T0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （前） ［木2］Uクラス						
代表教員	鈴木　しのぶ	授業コード	GK0712U0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけて発展を目指します。
読譜、音程、リズム等、基礎力をしっかり固めつつ、バランス良くソルフェージュ能力の底上げを図ります。いろいろな課題に取り組むことで自身のソルフェージュ能力を客観的に把握し、問題点の克服につなげることを目指します。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （前） ［木2］Vクラス						
代表教員	宮澤　幸子	授業コード	GK0712V0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。
基礎力を身につけ更に高めます。リズム感を養うリズム練習や、様々な名曲の旋律等も使い、書くことや歌うことを通して、聴く力、読譜力、音感、表現力を強化します。各専攻分野に活かしていけるようにします。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木4］Aクラス（AS専用）						
代表教員	郡司　崇	授業コード	GK0712W0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状	教職科目						

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解し演奏する力、リズム・ビートを正確に感じる力を育成するための音楽基礎教育である。それにより、音楽の全体像を理解し表現力を養うことを第一義とする。具体的には、読譜、リズム打ち、視唱などの継続的な訓練を行う。
ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表の読譜、視唱を中心に学習する。

２．授業概要

アニソン・ポップスを中心に既存の楽曲を取り入れながら、主にリズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を中心に進める。
課題は、Cmajor中心に2拍子・4拍子・3拍子、4分音符（休符）・8分音符（休符）・16分音符（休符）各付点音符、シンコペーションに加えAminorまた#♭１つずつの各調、6拍子まで取り上げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽基礎能力を高めるためには毎日の訓練を行う。予習・復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、実際に接しているアニソン・ポップス作品などを使って、読譜、視唱、リズムの訓練を行うこと。
教師の提案した教材を必ず授業当日まで復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
学期末試験（評価の50%）
平常点は授業への参加姿勢と、毎回の課題に対する習熟度を総合的に判断する。
期末試験はリズム・メロディの書き取り、楽譜書法の一般知識を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト＞
・必要に応じプリントを配布する

＜参考文献＞
・担当教員が作成したibooksによる教材
・楽典―理論と実習 石桁 真礼生

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ASコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］高音部譜表、リズム読み、視唱、聴音を学期を通してくまなく実施する。
1	ガイダンス 読譜（CとG）、リズム読み・打ち（8分音符・4分音符・2分音符など）を中心に行う
2	読譜（CとD・B、GとF・A）視唱（順次進行）を中心に行う
3	リズム・メロディ聴音（8分音符・4分音符・2分音符・順次進行・および短調を含む課題）を中心に行う
4	リズム読み・打ち（16分音符・8分音符・4分音符など）、視唱（2度3度の練習）を中心に行う
5	読譜（CとD・B、GとF・A）、リズム読み・打ち（16分音符・8分音符・4分音符・付点およびシンコペーション）を中心に行う
6	リズム・メロディ聴音（各音価・付点・シンコペーション・2度3度・臨時記号を含む）を中心に行う
7	読譜（CとD・B、GとF・A、速いテンポで）、視唱（Cmajor・4分の4拍子・4小節の課題、臨時記号を含む）を中心に行う
8	リズム読み・打ち（各音価・シンコペーションを含む）、視唱（C major・4分の3拍子・4小節の課題。3度までの跳躍進行を含む）を中心に行う
9	リズム・メロディ聴音（Cmajor・Aminor・4分の4拍子・4分の3拍子・4小節の課題。臨時記号、3度までの跳躍進行を含む）を中心に行う
10	読譜（CとE、GとB）、リズム読み・打ち（各音価・シンコペーション、8分の6拍子を含む）を中心に行う
11	読譜（5線内の3度までの跳躍）、視唱（各音価・C major・Aminor・4分の4拍子・4小節の課題）を中心に行う
12	リズム・メロディ聴音（各音価・4分の4拍子・4分の3拍子・4小節・♯♭1個ずつの調号を含む課題）を中心に行う
13	読譜（5線内の3度までの跳躍）、視唱（各音価・Cmajor・Aminor・8分の6拍子を含む・4小節の課題）を中心に行う
14	メロディー聴音、視唱とリズム読みの総括
15	聴音試験と総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［金3］Bクラス（AS専用）						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GK0712X0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状	教職科目						

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解し演奏する力、リズム・ビートを正確に感じる力を育成するための音楽基礎教育である。それにより、音楽の全体像を理解し表現力を養うことを第一義とする。具体的には、読譜、リズム打ち、視唱などの継続的な訓練を行う。
ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表の読譜、視唱を中心に学習する。

２．授業概要

アニソン・ポップスを中心に既存の楽曲を取り入れながら、主にリズムの練習、読譜の練習、視唱の練習、メロディ聴音を中心に進める。
課題は、Cmajor中心に2拍子・4拍子・3拍子、4分音符（休符）・8分音符（休符）・16分音符（休符）各付点音符、シンコペーションに加えAminorまた#♭１つずつの各調、6拍子まで取り上げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽基礎能力を高めるためには毎日の訓練を行う。予習・復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、実際に接しているアニソン・ポップス作品などを使って、読譜、視唱、リズムの訓練を行うこと。
教師の提案した教材を必ず授業当日まで復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
学期末試験（評価の50%）
平常点は授業への参加姿勢と、毎回の課題に対する習熟度を総合的に判断する。
期末試験はリズム・メロディの書き取り、楽譜書法の一般知識を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

＜授業で使用するテキスト＞
・必要に応じプリントを配布する

＜参考文献＞
・担当教員が作成したibooksによる教材
・楽典―理論と実習 石桁 真礼生

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ASコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。

授業計画	
	［半期］高音部譜表、リズム読み、視唱、聴音を学期を通してくまなく実施する。
1	ガイダンス 読譜（CとG）、リズム読み・打ち（8分音符・4分音符・2分音符など）を中心に行う
2	読譜（CとD・B、GとF・A）視唱（順次進行）を中心に行う
3	リズム・メロディ聴音（8分音符・4分音符・2分音符・順次進行・および短調を含む課題）を中心に行う
4	リズム読み・打ち（16分音符・8分音符・4分音符など）、視唱（2度3度の練習）を中心に行う
5	読譜（CとD・B、GとF・A）、リズム読み・打ち（16分音符・8分音符・4分音符・付点およびシンコペーション）を中心に行う
6	リズム・メロディ聴音（各音価・付点・シンコペーション・2度3度・臨時記号を含む）を中心に行う
7	読譜（CとD・B、GとF・A、速いテンポで）、視唱（Cmajor・4分の4拍子・4小節の課題、臨時記号を含む）を中心に行う
8	リズム読み・打ち（各音価・シンコペーションを含む）、視唱（C major・4分の3拍子・4小節の課題。3度までの跳躍進行を含む）を中心に行う
9	リズム・メロディ聴音（Cmajor・Aminor・4分の4拍子・4分の3拍子・4小節の課題。臨時記号、3度までの跳躍進行を含む）を中心に行う
10	読譜（CとE、GとB）、リズム読み・打ち（各音価・シンコペーション、8分の6拍子を含む）を中心に行う
11	読譜（5線内の3度までの跳躍）、視唱（各音価・C major・Aminor・4分の4拍子・4小節の課題）を中心に行う
12	リズム・メロディ聴音（各音価・4分の4拍子・4分の3拍子・4小節・♯♭1個ずつの調号を含む課題）を中心に行う
13	読譜（5線内の3度までの跳躍）、視唱（各音価・Cmajor・Aminor・8分の6拍子を含む・4小節の課題）を中心に行う
14	メロディー聴音、視唱とリズム読みの総括
15	聴音試験と総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［木2］ （DC専用）						
代表教員	湖口　浩朗	授業コード	GK0712Y0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。ダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。
後期は、前期で習得したことを踏まえ、さらに発展させる。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	前期の復習
2	低音部譜表の読譜、シンコペーションのリズム練習
3	低音部譜表の読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
4	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習
5	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
6	単純拍子のリズム読み、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
7	２度～６度の視唱および読譜、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
8	複合拍子のリズム読み、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
9	複合拍子のリズム読み、複雑なシンコペーションのリズム練習
10	複合拍子のリズム読みおよび視唱、複雑なシンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	低音部譜表の読譜、視唱、１６分音符を含むリズム練習
13	簡単な８小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	低音部譜表と高音部譜表の読譜、視唱、リズム練習
15	視唱、リズム読み、読譜の総括

科目名	ソルフェージュII （後） ［金3］ （BL専用）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0712Z0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成するための基礎教育である。バレエダンサーを目指す者にとっての基礎的なソルフェージュ能力を向上させることを目標とする。
読譜・音程・リズム・初見・視唱・移調・暗譜などの訓練を徹底して行い、それぞれの現場で求められる多種多様な要求に即応できる能力を育てる。また、提示された楽譜に対してその主題や曲想、そして曲全体の構成を把握し作者の意図を汲みながら正確かつ自由な発想で表現できることを目指す。
後期は、前期で習得したことを踏まえ、さらに発展させる。

２．授業概要

授業計画に沿って、ソルフェージュ実習を行う。リズム練習、読譜、視唱が中心である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

リズム、読譜課題は毎回印刷し、次回までに指定のテンポで習得できるように指示する。
また、視唱課題においては、暗譜奏、移調奏ができるように指導する。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
Etude du Rhythm、ManualPratique、Cent Rhthemes、Concone

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	前期の復習
2	低音部譜表の読譜、シンコペーションのリズム練習
3	低音部譜表の読譜、２分音符・４分音符・符点４分音符のリズム練習
4	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習
5	２度～５度の視唱および読譜、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
6	単純拍子のリズム読み、タイを含むシンコペーションのリズム練習、８小節の書き取り
7	２度～６度の視唱および読譜、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
8	複合拍子のリズム読み、休符を含むシンコペーションのリズム練習、リズム書き取り
9	複合拍子のリズム読み、複雑なシンコペーションのリズム練習
10	複合拍子のリズム読みおよび視唱、複雑なシンコペーションのリズム練習
11	リズム読譜、視唱、聴音
12	低音部譜表の読譜、視唱、１６分音符を含むリズム練習
13	簡単な８小節の書き取り、視唱、および暗譜唱
14	低音部譜表と高音部譜表の読譜、視唱、リズム練習
15	視唱、リズム読み、読譜の総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］大竹クラス						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GK0713A0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。
効率よく読譜するためには、自ら正しく記譜できることも必要ですので、名曲の旋律やハーモニーも取り入れながら聴くこと、書くこと等を学習します。専攻実技に役立つソルフェージュを目標とします。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］原田クラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0713B0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。
初見演奏も取り入れます。そのため、読譜のために必要な簡単な形式分析の方法や、和声の中での音の聴き方（和音の種類は何か、演奏時自分が担当している音が和音のどの音にあたるのか）なども学習します。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （後） ［木2］生野クラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0713C0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュができる、できないより、多くの作品に接し、そこから学ぶ経験を重要視します。課題や実作品による旋律、和声、また音色の聴き取りや視唱だけでなく、それらの分析や演奏などについても考えます。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］松下クラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0713D0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。
これまで学習してきた単旋律、二声、和声の聴音だけではなく、三声などの多声聴音にも取り組みます。また実際のオーケストラ作品などを用いて、作品様式を学習すると共に、ピアノ以外の音もしっかりと聞き取れるように授業を行います。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］井上クラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0713E0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
様々なジャンルの音楽や、耳にした事のある曲なども取り入れ、今までに培ってきた基礎的な力を実際の音楽に繋げていく事を目指します。
リズム打ち、クレ読み、新曲視唱、移調などから読譜力に、さらに瞬発力がつくように取り組みます。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］大原クラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GK0713F0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
一声、二声のリズム打ちや、室内楽作品の視唱・視奏など、グループワークも取り入れながらソルフェージュ能力の向上を目指すアクティブなクラスです。聴音では、幅広い音域や様々な音色を聴くことで、聴覚の発達に役立てます。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］木下クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0713G0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
聴音や視唱の教材として、なるべく幅広い時代・スタイルの課題を取り上げることにより、音楽への知見を広げ、音に対する注意力・観察力を養うことを目指します。また、演奏家にとって重要な鋭敏な音程感覚を身につけるための訓練も継続して行っていきます。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］松浦クラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GK0713H0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｂ】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
演奏する上で欠かせないリズム感やテンポ感。わかってはいてもなかなか普段の練習の中では強化できないものでもあります。このクラスでは、聴音や新曲視唱に加え、楽しみながらそれらの力をつけ、演奏につなげていけるような授業にしたいと思います。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［月3］Aクラス（JZ専用）						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK0713J1	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュIII」は「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	長音程
2	短音程
3	増…減音程
4	コードタイプ-１　トライアド
5	コードタイプ-2セヴンスを含む
6	コードタイプ-3様々なテンションを含む
7	ルートとM3rdを歌う
8	ルートとm3rdを歌う
9	ルート・3rd-7thを歌う
10	指定された調性でII-Vを弾く
11	II-V（セカンダリードミナントをふくむ）
12	II-V（全ての調性で演奏する）
13	簡単な旋律とコード進行の聴音
14	旋律・コード（セカンダリードミナントを含む）聴音
15	転調のある旋律・コード進行の聴音

科目名	ソルフェージュIII （前） ［月4］Bクラス（JZ専用）						
代表教員	松本　治	授業コード	GK0713J2	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュIII」は「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	長音程
2	短音程
3	増…減音程
4	コードタイプ-１　トライアド
5	コードタイプ-2セヴンスを含む
6	コードタイプ-3様々なテンションを含む
7	ルートとM3rdを歌う
8	ルートとm3rdを歌う
9	ルート・3rd-7thを歌う
10	指定された調性でII-Vを弾く
11	II-V（セカンダリードミナントをふくむ）
12	II-V（全ての調性で演奏する）
13	簡単な旋律とコード進行の聴音
14	旋律・コード（セカンダリードミナントを含む）聴音
15	転調のある旋律・コード進行の聴音

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］柳川クラス						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GK0713K0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
新曲視唱（クレ読み含）を取り上げます。またピアノ伴奏の初見や歌を含む視奏も行う予定です。座学だけでなく実践的な授業を多く行い、1人1人の演奏活動に結びつく様々な学習をします。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］白澤クラス						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	GK0713M0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｂ】【Ｃ】（基礎クラス）
視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。
ソロや重唱等での様々な視唱を中心に行い、「歌う」「ハモる」「相手を聴く」体感から、音感、和声感の認識を高め、正しく聴き取る力を磨きます。それぞれの苦手を共に解明しながら、一歩前進を目指します。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［木2］和田クラス						
代表教員	和田　さやか	授業コード	GK0713N0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】【C】（基礎クラス）
視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。
基礎訓練を重視し、様々な調性の旋律を通じて、より精度の高い音程感の育成を目指します。随時、各々の苦手分野を見極めながら、初見力、音楽の表現を磨く為のソルフェージュ能力強化を目指します。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII （前） ［火3］Aクラス（RP専用）						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK0713R1	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックやポップスを作る上で必要不可欠な「コード」を聞き取るために必要な知識を身につけ、作曲やアレンジに応用できるスキルを身につける

２．授業概要

「コード」を中心に耳を鍛える。
和音を聞き分けるのはもちろん、どのようなリズムかも捉え、記譜できるようにする。
また、ノンダイアトニックコードやテンションコード、転調も聞き取れるスキルを身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、コードの響きを体感する癖をつける。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡ（RP専用）の期末試験の結果により決定する。

授業計画	
	［前期］
1	レベルチェックテストと解説
2	ダイアトニック・コード（トライアド）
3	ダイアトニック・コード（4声体）
4	コードの展開形
5	コード進行と機能
6	代理コード
7	ノンダイアトニックコード
8	オルタード・コード
9	分数コード
10	テンションノート
11	転調のパターン
12	２声ハーモニーの聞き取り
13	３声ハーモニーの聞き取り
14	楽曲聞き取り実習
15	前期総括と試験

科目名	ソルフェージュIII （前） ［火3］Bクラス（RP専用）						
代表教員	西平　彰	授業コード	GK0713R2	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックやポップスを作る上で必要不可欠な「コード」を聞き取るために必要な知識を身につけ、作曲やアレンジに応用できるスキルを身につける

２．授業概要

「コード」を中心に耳を鍛える。
和音を聞き分けるのはもちろん、どのようなリズムかも捉え、記譜できるようにする。
また、ノンダイアトニックコードやテンションコード、転調も聞き取れるスキルを身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、コードの響きを体感する癖をつける。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡ（RP専用）の期末試験の結果により決定する。

授業計画	
	［前期］
1	レベルチェックテストと解説
2	ダイアトニック・コード（トライアド）
3	ダイアトニック・コード（4声体）
4	コードの展開形
5	コード進行と機能
6	代理コード
7	ノンダイアトニックコード
8	オルタード・コード
9	分数コード
10	テンションノート
11	転調のパターン
12	２声ハーモニーの聞き取り
13	３声ハーモニーの聞き取り
14	楽曲聞き取り実習
15	前期総括と試験

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］大竹クラス						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GK0714A0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。
効率よく読譜するためには、自ら正しく記譜できることも必要ですので、名曲の旋律やハーモニーも取り入れながら聴くこと、書くこと等を学習します。専攻実技に役立つソルフェージュを目標とします。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］原田クラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0714B0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。
初見演奏も取り入れます。そのため、読譜のために必要な簡単な形式分析の方法や、和声の中での音の聴き方（和音の種類は何か、演奏時自分が担当している音が和音のどの音にあたるのか）なども学習します。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュⅣ （前） ［木2］生野クラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0714C0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュができる、できないより、多くの作品に接し、そこから学ぶ経験を重要視します。課題や実作品による旋律、和声、また音色の聴き取りや視唱だけでなく、それらの分析や演奏などについても考えます。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］松下クラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0714D0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
聴音や視唱、初見などで高度な課題を中心に扱い、より高いレベルへ発展させます。
これまで学習してきた単旋律、二声、和声の聴音だけではなく、三声などの多声聴音にも取り組みます。また実際のオーケストラ作品などを用いて、作品様式を学習すると共に、ピアノ以外の音もしっかりと聞き取れるように授業を行います。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］井上クラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0714E0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｂ】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
様々なジャンルの音楽や、耳にした事のある曲なども取り入れ、今までに培ってきた基礎的な力を実際の音楽に繋げていく事を目指します。
リズム打ち、クレ読み、新曲視唱、移調などから読譜力に、さらに瞬発力がつくように取り組みます。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］大原クラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GK0714F0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｂ】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
一声、二声のリズム打ちや、室内楽作品の視唱・視奏など、グループワークも取り入れながらソルフェージュ能力の向上を目指すアクティブなクラスです。聴音では、幅広い音域や様々な音色を聴くことで、聴覚の発達に役立てます。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］木下クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0714G0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｂ】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
聴音や視唱の教材として、なるべく幅広い時代・スタイルの課題を取り上げることにより、音楽への知見を広げ、音に対する注意力・観察力を養うことを目指します。また、演奏家にとって重要な鋭敏な音程感覚を身につけるための訓練も継続して行っていきます。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIV （後） ［月3］Aクラス（JZ専用）						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK0714J1	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュIV」は「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	コードの3rdを歌う（I-VI-II-V）
2	コードの3rdを歌う（セカンダリードミナント）
3	セカンダリードミナントの解決先（主音先行）
4	セカンダリードミナントの解決先（ドミナント先行）
5	II-Vプラスセカンダリードミナントの II-V
6	ランダムなII-Vの聞き取り
7	II-Vによる転調
8	曲をアカペラで歌う
9	曲をアカペラで歌う（メロディーとベース）
10	曲をアカペラで歌う（メロディー,3rd、ベース）
11	モーダルインターチェンジを含む曲
12	曲をアカペラで歌う（転調を含む）
13	複数の曲をメドレーで歌う
14	リズミックな曲のアカペラ
15	バラードのアカペラ

科目名	ソルフェージュIV （後） ［月4］Bクラス（JZ専用）						
代表教員	松本　治	授業コード	GK0714J2	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュIV」は「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	コードの3rdを歌う（I-VI-II-V）
2	コードの3rdを歌う（セカンダリードミナント）
3	セカンダリードミナントの解決先（主音先行）
4	セカンダリードミナントの解決先（ドミナント先行）
5	II-Vプラスセカンダリードミナントの II-V
6	ランダムなII-Vの聞き取り
7	II-Vによる転調
8	曲をアカペラで歌う
9	曲をアカペラで歌う（メロディーとベース）
10	曲をアカペラで歌う（メロディー,3rd、ベース）
11	モーダルインターチェンジを含む曲
12	曲をアカペラで歌う（転調を含む）
13	複数の曲をメドレーで歌う
14	リズミックな曲のアカペラ
15	バラードのアカペラ

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］松浦クラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GK0714K0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｂ】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
演奏する上で欠かせないリズム感やテンポ感。わかってはいてもなかなか普段の練習の中では強化できないものでもあります。このクラスでは、聴音や新曲視唱に加え、楽しみながらそれらの力をつけ、演奏につなげていけるような授業にしたいと思います。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］柳川クラス						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GK0714L0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】（応用クラス）
これまでに修得した基礎的な力をもとに、応用力を身につけます。
新曲視唱（クレ読み含）を取り上げます。またピアノ伴奏の初見や歌を含む視奏も行う予定です。座学だけでなく実践的な授業を多く行い、1人1人の演奏活動に結びつく様々な学習をします。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］白澤クラス						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	GK0714M0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【B】【C】（基礎クラス）
視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。
ソロや重唱等での様々な視唱を中心に行い、「歌う」「ハモる」「相手を聴く」体感から、音感、和声感の認識を高め、正しく聴き取る力を磨きます。それぞれの苦手を共に解明しながら、一歩前進を目指します。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュⅣ （後） ［木2］和田クラス						
代表教員	和田　さやか	授業コード	GK0714N0	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡの成績目安　：【Ｂ】【Ｃ】（基礎クラス）
視唱やリズム課題などを中心に取り組み、基礎的な力を強化し、読譜力を高めます。
基礎訓練を重視し、様々な調性の旋律を通じて、より精度の高い音程感の育成を目指します。随時、各々の苦手分野を見極めながら、初見力、音楽の表現を磨く為のソルフェージュ能力強化を目指します。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュ研究Ⅰ （前） ［木3］スコアリーディング						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GK0725A0	科目コード	GK0725	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ソルフェージュⅣ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スコアリーディングの長期的な目標は、オーケストラのスコアを見てピアノ１台で弾けるように 要約（ピアノリダクション）をしながら弾くことである。スコアを弾くためには、まず読めることが必要なので、授業では音楽を聴きながらスコアの読み方も指導する。鍵盤楽器専攻の学生だけでなく管楽器、弦楽器など自分の楽器を持参出来る学生の受講も可能であり、本授業を通して管弦楽曲の中での楽器の役割を知り、音楽の視野を広げることを目標とする。

２．授業概要

ハ音記号や移調楽器を読む力を身につけながら、オーケストラのスコアの読み方を学ぶ。読むだけでなく、スコアを要約して書くことやスコアを見ながら既存の作品を鑑賞することでオーケストラ作品の理解を深めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必ず復習をすること。
楽譜を想像しながら音楽を聴く習慣をつけること。

４．成績評価の方法及び基準

上達度、授業内での小テスト、および期末テスト（評価の60%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて指示、またはプリントを配布する。
参考文献：
『スコアリーディング　　スコアを読む手引き』（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅣの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（比較的高度なレベルを目指す内容）
通年で履修することが望ましい。
オーケストラの作品及びスコアにに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢であること。
鍵盤楽器専攻以外の学生は、自分の楽器を持参出来ること。

授業計画	
	［半期］ クレ読み、移調楽譜読み、楽器群ごとに読むなど、段階を踏んでオーケストラのスコアに慣れる
1	ガイダンス
2	オーケストラスコアについての基礎知識
3	アルト譜表に慣れる（聴く、読む、書く）
4	アルト譜表を含む複数段を同時に読む
5	弦楽器群を聴く
6	弦楽器群を読む
7	A管を読む
8	A管を含む複数段を同時に読む
9	F管を読む
10	F管を含む複数段を同時に読む
11	ホルンセクションを解読する
12	ホルンセクションを読む
13	チャイコフスキー「花のワルツ」を読む
14	離れた複数段を同時に読む
15	読み方、弾き方の見直し、及び期末試験

科目名	ソルフェージュ研究Ⅰ （前） ［木3］キーボードハーモニー						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0725B0	科目コード	GK0725	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ソルフェージュⅣ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声学の授業が、いわゆる講義として五線譜上でおこなわれ「書く」ことに偏りがちになるのに対し、この授業では「弾く」「聴く」「聴き分ける」ことが重要な意味をもつ。
授業は鍵盤を使いながら、また歌いながら和声感覚を体感することに始まり、楽譜から発せられた情報からいかに音楽を読み取れるか、演奏できるかというソルフェージュの大原則に沿って、表現力、応用力を養っていく。
具体的には、和音数字付きバス課題の演奏、数字付き通奏低音奏法、伴奏付けを身に着けることを到達目標とする。

２．授業概要

ピアノを用いてのカデンツ奏、数字付き低音奏法、移調奏、初見などを実施する。
また、楽曲に和音数字を付したり、伴奏譜の作成など筆記作業によって書くことと耳の一致をはかり、音楽分析できる能力を身につける。
実際に、バロック時代の楽曲の数字付き低音奏法の実習も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回、授業の初めに、前回の授業内容に関する小テストを行うので復習をしておくこと。
実践能力を身に着けるために、筆記のみではなく実施した課題を必ずピアノで演奏し、復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の４０％）、平常点（評価の６０％）。
平常点は、毎回の授業の理解度と確認のために行う復習テストと授業への参加姿勢とともに総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜資料を配布する。
参考文献：
『鍵盤による数字付き和声』R.O.モリス（音楽之友社）
『通奏低音奏法』ヘルマン・ケラー（全音楽譜出版社）
『Initiation a L'harmonisation au piano』O.ガルテンローブ（Editions Musicales HORTENSIA）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅣの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（比較的高度なレベルを目指す内容）
通年で履修することが望ましい。
「チェルニー３０番」程度の演奏経験があると良い。

授業計画	
	［半期］ カデンツ奏と三和音の通奏低音奏法の実習
1	ガイダンス、及び能力判別試験
2	カデンツ奏の実習①　カデンツ Ⅰ （Ⅰ－Ⅴ－Ⅰ）　すべての調性で移調奏 カデンツ Ⅰ を用いた簡単な旋律への伴奏付け（和音記号無し）
3	カデンツ奏の実習②　カデンツ Ⅲ （Ⅰ－Ⅳ－Ⅰ）すべての調性で移調奏 カデンツ Ⅰ 及び カデンツ Ⅲ を用いた簡単な旋律への伴奏付け （和音記号無し）
4	カデンツ奏の実習③　カデンツ Ⅱ （Ⅰ－Ⅳ－Ⅴ－Ⅰ）すべての調性で移調奏 カデンツ Ⅰ 及び カデンツ Ⅱ 及びカデンツ Ⅲ を用いた簡単な旋律への伴奏付け（和音記号無し）
5	カデンツ奏の実習④　カデンツ Ⅱ（Ⅰ－Ⅳ、Ⅱ'－Ⅰ'Ⅴ－Ⅰ）すべての調性で移調奏 カデンツ Ⅰ 及び カデンツ Ⅱ 及びカデンツ Ⅲ を用いた簡単な旋律への伴奏付け （和音記号無し）
6	カデンツ奏の総復習
7	数字付き低音奏法①　概説、長三和音基本形
8	数字付き低音奏法②　長三和音第一転回形及び第二転回形
9	数字付き低音奏法③　短三和音基本形　長三和音との混合
10	数字付き低音奏法④　短三和音 第一転回形及び第二転回形　長三和音との混合
11	数字付き低音奏法⑤　四声体和声課題による数字付き低音の実施 コードネーム①　コードネームの構造と書き方
12	数字付き低音奏法⑥　簡単な実際の作品の数字付け及び通奏低音実施 コードネーム②　4種の三和音について（両手四声体で実施）
13	数字付き低音奏法⑦　簡単な実際の作品の通奏低音実施　18世紀頃の作品まで コードネーム③　5種の七の和音について（両手四声体で実施）
14	数字付き低音奏法⑧　簡単な実際の作品の通奏低音実施　20世紀頃の作品まで コードネーム④　掛留音について（両手四声体で実施）
15	試験とまとめ

科目名	ソルフェージュ研究I （前） ［木3］ フォルマシオン・ミュジカル						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GK0725C0	科目コード	GK0725	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ソルフェージュⅣ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在音楽の基礎教育として行われている、楽典、聴音、視唱、視奏、リズム読み、リズム打ち、読譜等を、実際の楽曲を用いて学習する。そして、扱う作曲家や楽曲の背景等も合わせて学習することで、より幅広く音楽を学び、音楽的な演奏や創作活動が出来るようになることを目標とする。

２．授業概要

実作品を用い、様々な音楽の基礎教育を行う。また、一般的なソルフェージュ授業では実施する機会の少ない、音楽史や音楽理論、スコアリーディングなど、演奏や創作活動との一体化のために幅広く学習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業に向けての準備課題や宿題を出すことがある。また、授業で扱った楽曲を繰り返し聞くことや、楽譜を見る、実際に演奏してみるなどの復習を行うことが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、課題への取り組み方（評価の70%）
期末テスト（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/
Alain Truchot,Michel Meriot著「LE GUIDE DE FORMATION MUSICALE」（全9巻あるためガイダンスにて説明する）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅣの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】【Ｂ】（現在の基礎力を高めつつ、知識や教養を高める内容）
専攻は問わないが、毎回自分の専攻楽器を持参すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	ピアノ曲を用いた欠如部分のある聴音、リズムの把握
3	ピアノ曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱、視奏
4	ピアノ曲を用いた欠如部分のある聴音、間違い探し聴音、視奏
5	弦楽器とピアノの二重奏曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱
6	弦楽器とピアノの二重奏曲を用いた間違い探し聴音、視奏
7	弦楽四重奏曲を用いた欠如部分のある聴音、リズムの把握
8	弦楽四重奏曲を用いた欠如部分のある聴音、スコアリーディング
9	管楽器とピアノの二重奏曲を用いた欠如部分のある聴音、スコアリーディング
10	管楽器とピアノの二重奏曲を用いた間違い探し聴音、視奏
11	木管、金管アンサンブル曲を用いた間違い探し聴音、スコアリーディング
12	人数の多い室内楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱
13	オーケストラ曲を用いた欠如部分のある聴音、スコアリーディング、視奏
14	吹奏楽曲、合唱曲、ビッグバンド曲などを用いた間違い探し聴音、スコアリーディング、視奏
15	期末試験とまとめ

科目名	ソルフェージュ研究Ⅰ （前） ［木3］基礎訓練/読譜・初見						
代表教員	赤石　直哉	授業コード	GK0725D0	科目コード	GK0725	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ソルフェージュⅣ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基礎訓練の応用として様々な実用性を重視した課題に取り組む。従来の聴音、視唱、視奏課題に加え、既存の室内楽曲・管弦楽曲などを用い、より複合的な視点で音楽感を養う。
「楽譜から音へ、音から楽譜へ」というプロセスにおいて、単なる作業に陥ることなく、様式や表現まで汲み取ることのできる広範囲な応用力を身につけることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。
基礎演習以外にもルーティンとしての発声、聴音、視唱などは毎回行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜を読むこと、そして音を聴くことをより高度に実践するため、自身の専攻と授業内容をリンクして感覚を磨く。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の30%）
学期末試験（評価の70%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜資料を配布する。
参考文献：
『A NEW APPROACH TO SIGHT SINGING』（Sol Berkowitz, Gabriel Fontrier, Leo Kraft）
『リズム・ソルフェージュのための50の課題』（Noel Gallon）
『371のコラール』（J.S.Bach）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅣの成績目安 ：【B】【C】（継続して基礎力を高める内容）
特に読譜力を向上させたい学生向けの内容
指定する授業回に自身の専攻楽器（鍵盤楽器以外）を持参できることが望ましい

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	これまでの習熟度の確認
3	基礎演習１：単旋律聴音、視唱（転調なし）
4	室内楽作品によるソルフェージュ１（ヴァイオリンとピアノ）
5	基礎演習２：単旋律聴音、視唱（転調あり）
6	室内楽作品によるソルフェージュ２（チェロとピアノ）
7	基礎演習３：２声聴音、２重唱視唱（転調なし）
8	室内楽作品によるソルフェージュ３（弦楽アンサンブル他）
9	基礎演習４：２声聴音、２重唱視唱（転調あり）
10	室内楽作品によるソルフェージュ１（フルートとピアノ）
11	基礎演習５：クレ読み、移調視唱・視奏
12	室内楽作品によるソルフェージュ２（クラリネットとピアノ）
13	基礎演習６：リズム課題導入
14	室内楽作品によるソルフェージュ３（管楽アンサンブル他）
15	試験と総括

科目名	ソルフェージュ研究Ⅰ （前） ［木3］基礎訓練/リズム・聴音						
代表教員	増井　哲太郎	授業コード	GK0725E0	科目コード	GK0725	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ソルフェージュⅣ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

リズムや聴音に焦点を当て、じっくりと読譜能力を高めることを主題とする。音楽史の流れに沿い各時代の楽曲を用いて、リズム聴取、聴音、リズム打ち（アンサンブルを含む）、リズム付き視唱などを行う。またリズム教材やジャズ、タンゴ、サンバなどに影響を受けたクラシック音楽も扱う。さらにヘミオラ、連音符、変拍子、ポリリズムなどは演奏力の向上に直接結びつくため、それぞれ別々に回を設ける。様々なスタイルのリズムを学び、引き出しを増やして、読譜能力の質と速さに磨きをかけることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って進める

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱った内容を折に触れて復習してほしい。特に楽曲は一部分しか扱わないことがほとんどだから、全体を改めて復習する必要がある。また、スティーブ・ライヒの「クラッピングミュージック」を演奏できるスマートフォンアプリなども活用し、幅広くリズムの強化に自ら努めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
学期末試験（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜資料を配布する。
参考文献：
JEGOUX-KRUG 「実作品によるリズム練習」 第4～7 巻（Henry Lemoine 社）
CHEPELOV 「音楽的聴音」 第4～7 巻（Henry Lemoine 社）
「音楽史からみた リズム・スタディ」（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅣの成績目安 ：【Ｂ】【Ｃ】（継続して基礎力を高める内容）
特にリズムの解析力を向上させたい学生向けの内容

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、及び様々なリズムの考察
2	バロック音楽の舞曲のリズムを学習
3	CHEPELOV 音楽的聴音 第４巻より
4	古典派音楽の舞曲のリズムを学習
5	JEGOUX-KRUG 実作品によるリズム練習 第４巻より
6	ロマン派音楽の舞曲のリズムを学習
7	CHEPELOV 音楽的聴音 第５巻より
8	民族的な舞曲のリズムを学習
9	JEGOUX-KRUG 実作品によるリズム練習 第５巻より
10	ジャズのリズムを取り入れた音楽を学習
11	様々なヘミオラのリズムを考察
12	テンポが変化するリズムの考察
13	タンゴのリズムを取り入れた音楽を学習
14	日本のソルフェージュテキストより
15	総括と期末試験

科目名	ソルフェージュ研究II （後） ［木3］スコアリーディング						
代表教員	大竹　くみ	授業コード	GK0726A0	科目コード	GK0726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ソルフェージュ研究Ⅰ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スコアリーディングの長期的な目標は、オーケストラのスコアを見てピアノ１台で弾けるように 要約（ピアノリダクション）をしながら弾くことである。スコアを弾くためには、まず読めることが必要なので、授業では音楽を聴きながらスコアの読み方も指導する。鍵盤楽器専攻の学生だけでなく管楽器、弦楽器など自分の楽器を持参出来る学生の受講も可能であり、本授業を通して管弦楽曲の中での楽器の役割を知り、音楽の視野を広げることを目標とする。

２．授業概要

ハ音記号や移調楽器を読む力を身につけながら、オーケストラのスコアの読み方を学ぶ。読むだけでなく、スコアを要約して書くことやスコアを見ながら既存の作品を鑑賞することでオーケストラ作品の理解を深めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必ず復習をすること。
楽譜を想像しながら音楽を聴く習慣をつけること。

４．成績評価の方法及び基準

上達度、授業内での小テスト、および期末テスト（評価の60%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて指示、またはプリントを配布する。
参考文献：
『スコアリーディング　　スコアを読む手引き』（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅣの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（比較的高度なレベルを目指す内容）
通年で履修することが望ましい。
オーケストラの作品及びスコアにに興味を持ち、積極的に取り組む姿勢であること。
鍵盤楽器専攻以外の学生は、自分の楽器を持参出来ること。

授業計画	
	［半期］ 各楽器群ごとを理解し、オーケストラの全体像を把握
1	ガイダンス、及びスコア上で主となる旋律などを見つける
2	スコア上で旋律を支えるハーモニーを見つける
3	旋律とハーモニーを同時に弾く
4	移調楽器の読み方を復習
5	木管楽器群を読む
6	金管楽器群を読む
7	木管楽器群と弦楽器群を同時に読む
8	金管楽器群と弦楽器群を同時に読む
9	木管楽器群と金管楽器群を同時に読む
10	実際に鳴る音が聞こえるようにシュミレーションする（読める段数を増やしていく）
11	スコアの低音から順に縦に音を積み上げる読み方
12	コンデンススコアを作る
13	コンデンススコアを弾く
14	各楽器群の読み方の復習
15	総括

科目名	ソルフェージュ研究II （後） ［木3］キーボードハーモニー						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0726B0	科目コード	GK0726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ソルフェージュ研究Ｉ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声学の授業が、いわゆる講義として五線譜上でおこなわれ「書く」ことに偏りがちになるのに対し、この授業では「弾く」「聴く」「聴き分ける」ことが重要な意味をもつ。
授業は鍵盤を使いながら、また歌いながら和声感覚を体感することに始まり、楽譜から発せられた情報からいかに音楽を読み取れるか、演奏できるかというソルフェージュの大原則に沿って、表現力、応用力を養っていく。
具体的には、和音数字付きバス課題の演奏、数字付き通奏低音奏法、伴奏付けを身に着けることを到達目標とする。

２．授業概要

ピアノを用いてのカデンツ奏、数字付き低音奏法、移調奏、初見などを実施する。
また、楽曲に和音数字を付したり、伴奏譜の作成など筆記作業によって書くことと耳の一致をはかり、音楽分析できる能力を身につける。
実際に、バロック時代の楽曲の数字付き低音奏法の実習も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回、授業の初めに、前回の授業内容に関する小テストを行うので復習をしておくこと。
実践能力を身に着けるために、筆記のみではなく実施した課題を必ずピアノで演奏し、復習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の４０％）、平常点（評価の６０％）。
平常点は、毎回の授業の理解度と確認のために行う復習テストと授業への参加姿勢とともに総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜資料を配布する。
参考文献：
『鍵盤による数字付き和声』R.O.モリス（音楽之友社）
『通奏低音奏法』ヘルマン・ケラー（全音楽譜出版社）
『Initiation a L'harmonisation au piano』O.ガルテンローブ（Editions Musicales HORTENSIA）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅣの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（比較的高度なレベルを目指す内容）
通年で履修することが望ましい。
「チェルニー３０番」程度の演奏経験があると良い。

授業計画	
	［半期］ 属七の和音を中心とした七の和音、非和声音を含む通奏低音の実施。 演奏グレード、指導グレードを受けようとしている学生のコード伴奏法に対しては選択曲の部分で対応する。
1	ガイダンス、及び前期の復習①　三和音通奏低音奏法
2	前期の復習②　コードネーム
3	数字付き低音奏法①　七の和音の概説 伴奏付け①　メロディーを演奏しながら簡単な三和音によるコードネーム付き
4	数字付き低音奏法②　四声体和声課題による数字付き低音の実施 伴奏付け②　メロディーを演奏しながら簡単な三和音及び七の和音によるコードネーム付き
5	数字付き低音奏法③　非和声音について 伴奏付け③　メロディーを演奏しながら簡単な三和音及び七の和音掛留音を含むコードネーム付き
6	数字付き低音奏法 ④　実際の曲で（バッハのコラール「マタイ受難曲」より） 伴奏付け ④　選択曲によるコードネーム付き（クラシックのピアノ作品）
7	数字付き低音奏法⑤　実際の曲で（バッハのコラール「クリスマス・オラトリオ」より） 伴奏付け⑤　選択曲によるコードネーム付き（クラシックのオーケストラ作品）
8	数字付き低音奏法⑥　実際の曲で（エクレス　ヴァイオリン・ソナタより第１楽章） 伴奏付け⑥　選択曲によるコードネーム付き（世界の民謡）
9	数字付き低音奏法⑦　実際の曲で（エクレス　ヴァイオリン・ソナタより第２楽章） 伴奏付け⑦　選択曲によるコードネーム付き（シネマミュージック）
10	数字付き低音奏法⑧　実際の曲で（エクレス　ヴァイオリン・ソナタより第３楽章） 伴奏付け⑧　選択曲によるコードネーム付き（ジャズ）
11	数字付き低音奏法⑨　実際の曲で（エクレス　ヴァイオリン・ソナタより第４楽章） 伴奏付け⑨　コードづけ（主要三和音、属七の和音）
12	数字付き低音奏法⑩　実際の曲で（C.P.E.バッハ　オーボエ・ソナタより第１楽章） 伴奏付け⑩　コードづけ（主要三和音、属七の和音、副五の和音、経過和音）
13	数字付き低音奏法⑪　実際の曲で（C.P.E.　バッハ　オーボエ・ソナタより第２楽章） 伴奏付け⑪　コードづけ（ 主要三和音、属七の和音、副五の和音、経過和音）及び、カウンターラインの作曲
14	数字付き低音奏法⑫　実際の曲で　（C.P.E.　バッハ　オーボエ・ソナタより第３楽章） 伴奏付け⑫　コードづけ（ 主要三和音、属七の和音、副五の和音，経過和音）及び、カウンターラインと副旋律の作曲
15	試験にむけた復習と実践

科目名	ソルフェージュ研究II （後） ［木3］ フォルマシオン・ミュジカル						
代表教員	柳川　瑞季	授業コード	GK0726C0	科目コード	GK0726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ソルフェージュ研究Ⅰ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在音楽の基礎教育として行われている、楽典、聴音、視唱、視奏、リズム読み、リズム打ち、読譜等を、実際の楽曲を用いて学習する。そして、扱う作曲家や楽曲の背景等も合わせて学習することで、より幅広く音楽を学び、音楽的な演奏や創作活動が出来るようになることを目標とする。

２．授業概要

実作品を用い、様々な音楽の基礎教育を行う。また、一般的なソルフェージュ授業では実施する機会の少ない、音楽史や音楽理論、スコアリーディングなど、演奏や創作活動との一体化のために幅広く学習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業に向けての準備課題や宿題を出すことがある。また、授業で扱った楽曲を繰り返し聞くことや、楽譜を見る、実際に演奏してみるなどの復習を行うことが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、課題への取り組み方（評価の70%）
期末テスト（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/
Alain Truchot,Michel Meriot著「LE GUIDE DE FORMATION MUSICALE」（全9巻あるためガイダンスにて説明する）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅣの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】【Ｂ】（現在の基礎力を高めつつ、知識や教養を高める内容）
専攻は問わないが、毎回自分の専攻楽器を持参すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、及びバロック期の楽曲を用いた欠如部分のある聴音、楽曲理論、音楽史
2	バロック期の楽曲を用いたスコアリーディング、視唱、視奏
3	古典期の楽曲を用いた欠如部分のある聴音、音楽史
4	古典期の楽曲を用いた間違い探し聴音、スコアリーディング
5	古典期の楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱、視奏
6	ロマン期の楽曲を用いた欠如部分のある聴音、音楽史、視唱
7	ロマン期の楽曲を用いた間違い探し聴音、スコアリーディング
8	ロマン期の楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視奏
9	ロマン期の楽曲を用いたスコアリーディング、視奏
10	フランスの近現代楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱
11	ロシアの近現代楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視奏
12	その他近現代楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱、音楽史
13	その他近現代楽曲を用いた間違い探し聴音、リズムの把握、視奏
14	クラシック以外のジャンルの楽曲を用いた欠如部分のある聴音、視唱、視奏
15	クラシック以外のジャンルの楽曲を用いたスコアリーディング、視奏

科目名	ソルフェージュ研究II （後） ［木3］基礎訓練/読譜・初見						
代表教員	赤石　直哉	授業コード	GK0726D0	科目コード	GK0726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ソルフェージュ研究Ⅰ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基礎訓練の応用として様々な実用性を重視した課題に取り組む。従来の聴音、視唱、視奏課題に加え、既存の室内楽曲・管弦楽曲などを用い、より複合的な視点で音楽感を養う。
「楽譜から音へ、音から楽譜へ」というプロセスにおいて、単なる作業に陥ることなく、様式や表現まで汲み取ることのできる広範囲な応用力を身につけることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。
基礎演習以外にもルーティンとしての発声、聴音、視唱などは毎回行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

楽譜を読むこと、そして音を聴くことをより高度に実践するため、自身の専攻と授業内容をリンクして感覚を磨く。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の30%）
学期末試験（評価の70%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜資料を配布する。
参考文献：
『A NEW APPROACH TO SIGHT SINGING』（Sol Berkowitz, Gabriel Fontrier, Leo Kraft）
『リズム・ソルフェージュのための50の課題』（Noel Gallon）
『371のコラール』（J.S.Bach）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅣの成績目安 ：【B】【C】（継続して基礎力を高める内容）
特に読譜力を向上させたい学生向けの内容
指定する授業回に自身の専攻楽器（鍵盤楽器以外）を持参できることが望ましい

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、及び前期の復習
2	基礎演習７：和声聴音、コラール視唱・視奏
3	オーケストラ作品によるソルフェージュ１（交響曲）
4	基礎演習８：和音付け、コードネーム、伴奏付けの導入
5	オーケストラ作品によるソルフェージュ２（協奏曲）
6	基礎演習９：弾き歌い、伴奏付け、コードネーム
7	オーケストラ作品によるソルフェージュ３（吹奏楽曲）
8	基礎演習１０：模倣唱、模倣奏
9	視唱の応用（２重唱・弾き歌い・オブリガート唱）
10	聴き取りの応用（拍子、調性、テンポ、モテーフ、様式等の判別）
11	視奏の応用（アンサンブル・オブリガート奏）
12	書き取りの応用（モテーフ・アーティキュレーション等の判別、コンデンススコアの作り方）
13	リズム課題の応用
14	総合演習（これまでの様々な要素を取り入れた複合課題）
15	総括

科目名	ソルフェージュ研究II （後） ［木3］基礎訓練/リズム・聴音						
代表教員	増井　哲太郎	授業コード	GK0726E0	科目コード	GK0726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ソルフェージュ研究Ⅰ						
教員免許状							

１．主題・到達目標

リズムや聴音に焦点を当て、じっくりと読譜能力を高めることを主題とする。音楽史の流れに沿い各時代の楽曲を用いて、リズム聴取、聴音、リズム打ち（アンサンブルを含む）、リズム付き視唱などを行う。またリズム教材やジャズ、タンゴ、サンバなどに影響を受けたクラシック音楽も扱う。さらにヘミオラ、連音符、変拍子、ポリリズムなどは演奏力の向上に直接結びつくため、それぞれ別々に回を設ける。様々なスタイルのリズムを学び、引き出しを増やして、読譜能力の質と速さに磨きをかけることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って進める

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱った内容を折に触れて復習してほしい。特に楽曲は一部分しか扱わないことがほとんどだから、全体を改めて復習する必要がある。また、スティーブ・ライヒの「クラッピングミュージック」を演奏できるスマートフォンアプリなども活用し、幅広くリズムの強化に自ら努めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
学期末試験（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜資料を配布する。
参考文献：
JEGOUX-KRUG 「実作品によるリズム練習」 第4～7 巻（Henry Lemoine 社）
CHEPELOV 「音楽的聴音」 第4～7 巻（Henry Lemoine 社）
「音楽史からみた リズム・スタディ」（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅣの成績目安 ：【Ｂ】【Ｃ】（継続して基礎力を高める内容）
特にリズムの解析力を向上させたい学生向けの内容

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、及び近代フランス音楽のリズム的特徴を考察
2	ウィンナーワルツのリズムの揺らし方を考察
3	新古典主義音楽のリズム的特徴を考察
4	CHEPELOV 音楽的聴音 第６巻より
5	変拍子の様々な形態を考察
6	近代の音楽のリズム的特徴を考察
7	JEGOUX-KRUG 実作品によるリズム練習 第６巻より
8	様々なスタイルのポリリズムを実践
9	CHEPELOV 音楽的聴音 第７巻より
10	様々な連音符を学習
11	サンバのリズムを取り入れた音楽を学習
12	JEGOUX-KRUG 実作品によるリズム練習 第７巻より
13	現代音楽のユニークなリズムを考察
14	日本のリズムを取り入れた音楽を学習
15	全体の総括と試験にむけての復習

科目名	音楽理論入門　（前）［月6］						
代表教員	小林　直哉	授業コード	GK080000	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業は音楽を学修するうえで必要最低限の知識を得るために開講されている。クラシカルな音楽作品だけではなく、様々なジャンルの音楽を扱いながら、いわゆる「楽典」に相当する内容を修得することを主題とする。

また、楽譜から作曲家の真意を読みとって音楽表現に役立てられる総合的な知識への発展を目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って解説するとともに、練習問題を実施しながら理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

本学はオンラインスクールにおいて「楽典解説」および「楽典オンライン試験」を公開しているが、これを併用して理解を深めることが修得への早道である。
なお、毎週課題を提示し、次週の授業冒頭で解答を示すとともに解説する。また、月１度の割合で授業内定期試験を実施する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の３０％）
授業内定期試験（評価の３０％）
学期末試験（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『楽典』（石桁真礼生著／音楽之友社）
『楽典―音楽家を志す人のための』（菊地有恒著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者が「音楽分析基礎講座」などの音楽理論系授業を履修する場合に、本授業の履修が必要となる。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
「基礎音楽理論」を修得済の者は履修不可。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　音楽の三要素
2	譜表、音名
3	音符と休符、リズム
4	小節と拍子　授業内定期試験
5	音程１（高音部譜表、単音程を中心）
6	音程２（大譜表、複音程を含む）
7	音階（長音階と短音階）
8	音階（教会旋法）　授業内定期試験
9	和音の種類（コードネームを含む）
10	和音の度数
11	和音の所属
12	調、調号、五度圏　授業内定期試験
13	調判定の基礎　基本的な楽語
14	調判定の応用　さまざまな楽語
15	音楽理論のまとめ

科目名	音楽理論入門　（前）　［水3］　（AS専用）						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GK0800A0	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

全ての音楽活動において必要不可欠である音楽理論の基礎を学ぶ。クラシック音楽のみならず様々なジャンルの楽曲を例に取り上げ、実践的に理解をし、リズム、音階、調性、ハーモニーなどの知識を習得することが目標である。

２．授業概要

主に楽典の内容を取り扱う。ジャンルはクラシックのみならずポピュラー的な要素（コードネーム等）も含む。教員の説明を聞くのみではなく、各項目ごとに学生自身が予習し発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の予習・復習は不可欠である。毎回、配布されたプリントやノートを自身でわかりやすくまとめておくこと。また、コンスタントに行われる小テストにて間違えた箇所についてはしっかり理解できるよう努めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）

平常点については授業への参加姿勢と小テストの理解度により総合的に判断する。
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に適宜プリントを配布する。また、担当教員が制作したibooksによる電子教材も参照可能となっており、詳細は授業時に説明をする。

参考文献
『楽典 理論と実習』石桁真礼生著（音楽之友社）
『よくわかる楽典の教科書』小谷野謙一著（ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ASコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
「基礎音楽理論」を修得済の者は履修不可。

授業計画	
1	ガイダンス
2	音楽の三要素
3	音名、譜表
4	基本ビートとジャンルのリズム
5	音程の仕組み（長・短音程について）
6	音程の仕組み（完全・増減音程について）
7	小テストの実施と解説（３～６週目までの内容）
8	調号と主音の関係
9	音階の仕組み(長音階)
10	音階の仕組み（短音階）
11	小テストの実施と解説（８～10週目までの内容）
12	和音の種類とコードネーム（長三和音, 短三和音）
13	和音の種類とコードネーム（増三和音, 減三和音, 属七の和音）
14	楽譜上の記号
15	試験と総括

科目名	音楽理論入門 （前） ［水3］ （BL専用）						
代表教員	古澤　壮樹	授業コード	GK0800B0	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

全ての音楽活動において必要不可欠である音楽理論の基礎を学ぶ。クラシック音楽のみならず様々なジャンルの楽曲を例に取り上げ、実践的に理解をし、リズム、音階、調性、ハーモニーなどの知識を習得することが目標である。

２．授業概要

主に楽典の内容を取り扱う。ジャンルはクラシックのみならずポピュラー的な要素（コードネーム等）も含む。教員の説明を聞くのみではなく、各項目ごとに学生自身が予習し発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の予習・復習は不可欠である。毎回、配布されたプリントやノートを自身でわかりやすくまとめておくこと。また、コンスタントに行われる小テストにて間違えた箇所についてはしっかり理解できるよう努めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）

平常点については授業への参加姿勢と小テストの理解度により総合的に判断する。
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に適宜プリントを配布する。また、担当教員が制作したibooksによる電子教材も参照可能となっており、詳細は授業時に説明をする。

参考文献
『楽典 理論と実習』石桁真礼生著（音楽之友社）
『よくわかる楽典の教科書』小谷野謙一著（ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

BLコースは、コース専用に開設される本クラスを履修すること。
「基礎音楽理論」を修得済の者は履修不可。

授業計画	
1	ガイダンス
2	音楽の三要素
3	音名と譜表
4	基本ビートとジャンルのリズム
5	音程の仕組み（長・短音程について）
6	音程の仕組み（完全・増減音程について）
7	小テストの実施と解説（３～６週目までの内容）
8	調号と主音の関係
9	音階の仕組み(長音階)
10	音階の仕組み（短音階）
11	小テストの実施と解説（８～10週目までの内容）
12	和音の種類とコードネーム（長三和音, 短三和音）
13	和音の種類とコードネーム（増三和音, 減三和音, 属七の和音）
14	楽譜上の記号
15	試験実施と総括

科目名	音楽理論入門 （前） ［水3］ （DC専用）						
代表教員	瀬田　創太	授業コード	GK0800C0	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

全ての音楽活動において必要不可欠である音楽理論の基礎を学ぶ。クラシック音楽のみならず様々なジャンルの楽曲を例に取り上げ、実践的に理解をし、リズム、音階、調性、ハーモニーなどの知識を習得することが目標である。

２．授業概要

主に楽典の内容を取り扱う。ジャンルはクラシックのみならずポピュラー的な要素（コードネーム等）も含む。教員の説明を聞くのみではなく、各項目ごとに学生自身が予習し発表することにより双方向的な授業を目指す。また、復習を目的とした小テストをコンスタントに行うことにより理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の予習・復習は不可欠である。毎回、配布されたプリントやノートを自身でわかりやすくまとめておくこと。また、コンスタントに行われる小テストにて間違えた箇所についてはしっかり理解できるよう努めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（50%）
試験（50%）

平常点については授業への参加姿勢と小テストの理解度により総合的に判断する。
学期末試験を実施し、授業内容全般の理解度を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に適宜プリントを配布する。また、担当教員が制作したibooksによる電子教材も参照可能となっており、詳細は授業時に説明をする。

参考文献
『楽典 理論と実習』石桁真礼生著（音楽之友社）
『よくわかる楽典の教科書』小谷野謙一著（ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コース専用に開設される本クラスを履修すること。

授業計画	
1	ガイダンス
2	音楽の三要素
3	音名と譜表
4	基本ビートとジャンルのリズム
5	音程の仕組み（長・短音程について）
6	音程の仕組み（完全・増減音程について）
7	小テストの実施と解説（３～６週目までの内容）
8	調号と主音の関係
9	音階の仕組み(長音階)
10	音階の仕組み（短音階）
11	小テストの実施と解説（８～10週目までの内容）
12	和音の種類とコードネーム（長三和音, 短三和音）
13	和音の種類とコードネーム（増三和音, 減三和音, 属七の和音）
14	楽譜上の記号
15	試験実施と総括

科目名	音楽理論入門　（前）［月5］（MS専用）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0800D0	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての音楽活動において必要不可欠である音楽理論の基礎を学ぶ。リズム、音階、調性、ハーモニーなど、楽譜上に記されている全ての事柄を理解し、作曲家の思いを演奏に活かせるようにすることが最終目標である。クラシック音楽のみならず、ミュージカルナンバーはじめ様々なジャンルの楽曲を例にとり上げ、実際に即したかたちで理解させる。

２．授業概要

授業計画に沿って、音楽理論実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎週課題を提示し、次週の授業時間の冒頭で解答及び解説を行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
定期試験(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配布する。
参考文献：『楽典 理論と実習』石桁真礼生著（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コース専用に開設される本クラスを履修すること。
「基礎音楽理論」を修得済の者は履修不可。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンスおよび西洋音楽の歴史的な流れについて
2	音の三要素、音楽の三要素について
3	音名、リズムについて（単純拍子、複合拍子）
4	音名、リズムについて（混合拍子、変拍子）
5	音程について（長・短・減・増音程）
6	音程について（複音程、転回音程）
7	調号と主音について
8	音階について（長音階、短音階）
9	音階について（短音階、教会旋法）
10	音階について（日本の音階、その他の音階）
11	和音の種類・機能について（トニック、ドミナント、サブドミナント）
12	和音の種類・機能について（コードネーム）
13	楽語について
14	楽譜に記されている全ての事柄について。
15	音楽理論全般のまとめ。

科目名	音楽理論入門　（前）　［月5］　（RP専用）						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GK0800E0	科目コード	GK0800	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

すべての音楽活動において必要不可欠である音楽理論の基礎を学ぶ。リズム、音階、調性、ハーモニーなど、楽譜上に記されている全ての事柄を理解し、作曲家の思いを演奏に活かせるようにすることが最終目標である。クラシック音楽のみならず、ポップスなど様々なジャンルの楽曲を例に取り上げ、実際に即した形で理解させる。

２．授業概要

授業計画に沿って、音楽理論実習を行う。数回に１度、理解度を確認する試験を実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎週課題を提示し、次週の授業時間の冒頭で解答及び解説を行う。間違えた箇所については自身でよく復習をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
定期試験(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、プリント等を配布する。
参考文献：『楽典 理論と実習』石桁真礼生著（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者および未受験者については、必須科目。
「基礎音楽理論」を修得済の者は履修不可。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンスおよび西洋音楽の歴史的な流れについて
2	音の三要素、音楽の三要素について
3	リズムについて
4	音名について
5	音程について　（単音程）
6	音程について　（複音程）
7	調号と主音について
8	音階について（長音階）
9	音階について（短音階）
10	音階について（特徴的な音階と使用頻度の高い音階）
11	和音の種類について
12	和音の種類について（コードネームを用いた表記方法）
13	和音の機能について
14	楽譜に記されている全ての事柄について
15	音楽理論全般のまとめ

科目名	和声学I （後） ［月2］Aクラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0811A0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Bクラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GK0811B0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Cクラス						
代表教員	大原　裕子	授業コード	GK0811C0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Dクラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GK0811D0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Eクラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0811E0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Fクラス						
代表教員	小林　弘人	授業コード	GK0811F0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Gクラス						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK0811G0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Hクラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GK0811H0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （前） ［木1］増田クラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GK0811J0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Kクラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0811K0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Mクラス						
代表教員	小谷野　謙一	授業コード	GK0811M0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Nクラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0811N0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Rクラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GK0811R0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Sクラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GK0811S0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Tクラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GK0811T0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Uクラス						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK0811U0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学I （後） ［月2］Vクラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GK0811V0	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学II （前） ［月1］大江クラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GK0812A0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。
課題の個人的な指導を行いながら、課題や楽曲中の和声の聴き取りを行い（聴音が不得手でも大丈夫です）、響きを捉える耳の感覚を訓練していきます。分析においても、旋律と和音の響きの色合いを耳から捉えて演奏や作曲に役立つよう指導していきます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

科目名	和声学II （前） ［月1］清水クラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GK0812B0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。
様々な作品の分析も同時に行い、作曲家がハーモニーやメロディーを通して何を語ろうとしているのかを考えていきます。課題の添削については従来の個別指導のほか、本学が提供している和声学の E-Learning 教材も活用し、新時代の授業形態を目指します。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

科目名	和声学II （前）［月1］松本クラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GK0812C0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。
一人ずつ課題を添削し指導するとともに、課題や既成のコラールを歌うことなどによって和音の響きや声部の進行に対する感覚を鋭くするようにしていきます。また、様々な曲の和声を分析し、それを演奏や作曲に生かせるよう指導していきます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

科目名	和声学II （前）［月1］井上クラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0812D0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）
和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
基礎をわかりやすく説明します。ひとりひとりの状況を把握し、アドヴァイス、またはみんなで問題を共有し解決します。分析では、よく採り上げられているオーケストラ曲や室内楽を中心に扱い、和声学の実用性を実感し、演奏、作曲にいかせる事を目標とします。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

科目名	和声学II （前） ［月1］川崎クラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GK0812F0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）
和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
課題は個別に添削していきます。さらに、選りすぐった名演奏家たちの素晴らしい演奏の録音を聴きながら、楽曲の仕組みや和声の分析を行い、演奏者として曲を解釈する際や、作曲する場合に役立つよう指導していきます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

科目名	和声学II （前） ［月1］小林弘人クラス						
代表教員	小林　弘人	授業コード	GK0812G0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）
和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
四声体和声の基本的な配置、連結を習得するため、課題の反復練習と添削を中心に行います。ソプラノ課題では旋律の伴奏付けへの応用を視野に入れ、実際の作品との関連を意識できるよう古典からロマン派作品の分析を実施し和声学の応用範囲を広げてゆきます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

科目名	和声学II （前） ［月1］増田クラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GK0812J0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】（応用クラス）
和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
和声は音楽にとって欠かすことの出来ない大変重要な要素です。例えゆっくりでも少しでも理解出来るよう、実際の楽曲を随時参照しながら、名曲が名曲たる所以を一緒に探っていくと共に、和声学の楽しさを知り、実践に活きる能力の習得を目指し、サポートします。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

科目名	和声学II （後） ［木1］増田クラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GK0812K0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声は音楽にとって欠かすことの出来ない大変重要な要素です。例えゆっくりでも少しでも理解出来るよう、実際の楽曲を随時参照しながら、名曲が名曲たる所以を一緒に探っていくと共に、和声学の楽しさを知り、実践に活きる能力の習得を目指し、サポートします。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

科目名	和声学II （前） ［月1］木下クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0812L0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】【C】（基礎クラス）
基礎的な和声連結を修得するとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
授業の各回では、学習する和音の基本的な連結や定型の習得を目的とした課題に反復して取り組むことを重視します。また最終的に、この授業の中で学んだ和声を分析に活用させることを目指し、分析ではロマン派初期までの作曲家の楽曲を中心に扱います。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

科目名	和声学II （前）［月1］久行クラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GK0812M0	科目コード	GK0812	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅱでは属七の和音、Ⅱ７の和音に加え、ソプラノ課題を扱う。旋律に対する和音の可能性の研究を通じて和音を想像する力を向上させ、和音への感受性を高めることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅰ』（音楽之友社）
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【B】【C】（基礎クラス）
基礎的な和声連結を修得するとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
親しみやすい楽曲の実例を挙げて、和声学を楽しく学びます。一人一人の質問に、わかりやすく応え、丁寧に指導してゆきます。
分析では、古典派、ロマン派の器楽曲を中心に扱います。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ｉまでの確認
2	ソプラノ課題（三和音）
3	属七の和音　基本形
4	属七の和音　第１転回形
5	属七の和音　第３転回形
6	属七の和音　第２転回形
7	属七の和音　根音省略形
8	属七の和音のまとめ
9	ソプラノ課題（属七の和音）　ハ長調
10	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな長調
11	ソプラノ課題（属七の和音）　さまざまな短調
12	Ⅱ７の和音　基本形と第１転回形
13	Ⅱ７の和音　第２転回形と第３転回形
14	ソプラノ課題（Ⅱ７の和音）
15	これまでの総括

科目名	和声学III （後） ［月1］大江クラス						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GK0813A0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。
課題の個人的な指導を行いながら、課題や楽曲中の和声の聴き取りを行い（聴音が不得手でも大丈夫です）、響きを捉える耳の感覚を訓練していきます。分析においても、旋律と和音の響きの色合いを耳から捉えて演奏や作曲に役立つよう指導していきます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学III （後） ［月1］清水クラス						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	GK0813B0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。
様々な作品の分析も同時に行い、作曲家がハーモニーやメロディーを通して何を語ろうとしているのかを考えていきます。課題の添削については従来の個別指導のほか、本学が提供している和声学の E-Learning 教材も活用し、新時代の授業形態を目指します。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学III （後） ［月1］松本クラス						
代表教員	松本　望	授業コード	GK0813C0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
より音楽的なレベルでの和声連結の修得を目指し、多くの課題を実施し添削します。
一人ずつ課題を添削し指導するとともに、課題や既成のコラールを歌うことなどによって和音の響きや声部の進行に対する感覚を鋭くするようにしていきます。また、様々な曲の和声を分析し、それを演奏や作曲に生かせるよう指導していきます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学III （後） ［月1］井上クラス						
代表教員	井上　渚	授業コード	GK0813D0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安　：【B】（応用クラス）
和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
基礎をわかりやすく説明します。ひとりひとりの状況を把握し、アドヴァイス、またはみんなで問題を共有し解決します。分析では、よく採り上げられているオーケストラ曲や室内楽を中心に扱い、和声学の実用性を実感し、演奏、作曲にいかせる事を目標とします。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学III （後） ［月1］川崎クラス						
代表教員	川崎　真由子	授業コード	GK0813F0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安　：【B】（応用クラス）
和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
課題は個別に添削していきます。さらに、選りすぐった名演奏家たちの素晴らしい演奏の録音を聴きながら、楽曲の仕組みや和声の分析を行い、演奏者として曲を解釈する際や、作曲する場合に役立つよう指導していきます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学III （後） ［月1］小林弘人クラス						
代表教員	小林　弘人	授業コード	GK0813G0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安　：【B】（応用クラス）
和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
四声体和声の基本的な配置、連結を習得するため、課題の反復練習と添削を中心に行います。ソプラノ課題では旋律の伴奏付けへの応用を視野に入れ、実際の作品との関連を意識できるよう古典からロマン派作品の分析を実施し和声学の応用範囲を広げてゆきます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学III （後） ［月1］増田クラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GK0813J0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安　：【B】（応用クラス）
和声連結の修得を目指すとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
和声は音楽にとって欠かすことの出来ない大変重要な要素です。例えゆっくりでも少しでも理解出来るよう、実際の楽曲を随時参照しながら、名曲が名曲たる所以を一緒に探っていくと共に、和声学の楽しさを知り、実践に活きる能力の習得を目指し、サポートします。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学III （後） ［月1］木下クラス						
代表教員	木下　淳雄	授業コード	GK0813L0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安　：【B】【C】（基礎クラス）
基礎的な和声連結を修得するとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
授業の各回では、学習する和音の基本的な連結や定型の習得を目的とした課題に反復して取り組むことを重視します。また最終的に、この授業の中で学んだ和声を分析に活用させることを目指し、分析ではロマン派初期までの作曲家の楽曲を中心に扱います。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学III （後） ［月1］久行クラス						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GK0813M0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅰの成績目安　：【B】【C】（基礎クラス）
基礎的な和声連結を修得するとともに、分析を通して音楽の理解力を高めます。
親しみやすい楽曲の実例を挙げて、和声学を楽しく学びます。一人一人の質問に、わかりやすく応え、丁寧に指導してゆきます。
分析では、古典派、ロマン派の器楽曲を中心に扱います。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学III （前） ［木2］小林直哉クラス						
代表教員	小林　直哉	授業コード	GK0813R0	科目コード	GK0813	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅲでは属九の和音に続き、準固有和音、ナポリのⅡなどの和音の変化、そしてドッペルドミナント諸和音について、連結や和声分析を学ぶ。さまざまな和音の形体を学ぶことで表情がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回復習も行いながら新たな課題を実施し和声連結の習得を目指します。実施した課題は１人ひとり添削していきます。これまでの和声よりも内容が少しずつ難しくなっていきますが、理解出来るまで分かりやすく丁寧に指導し、また様々な楽曲の分析を行います。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅱまでの確認
2	属九の和音　基本形と転回形
3	属九の和音　根音省略形（長調）
4	属九の和音　根音省略形（短調）
5	属九の和音のまとめ
6	和音の変化１　準固有和音
7	和音の変化２　ナポリのⅡ
8	和音の変化３　Ⅳの付加音
9	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
10	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
11	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
12	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
13	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
14	ドッペルドミナントのまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学IV （前） ［月1］生野クラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0814A0	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安　：　【Ｂ】【Ｃ】（応用クラス）
これまでの復習で基礎力を養い、さらに上の段階を目指します。
「和声の勉強」と思うと気が重くなるかもしれません。しかし「作品を知る」ための手助けとなり、楽しみや喜びに結び付くものにもなるのです。知っている曲、知っておくべき曲の分析と共に一歩一歩進めて行きます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ⅰ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学IV （前） ［月1］原田クラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0814B0	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
これまでの復習もしながら、より実作品に近い形での和声課題を実施していきます。
扱う和音が増えますが、その分和声のもつ色彩を選べるよう、一緒に考えていきます。また分析では、主科で扱っているものをできるだけ用いるようにし、和声学と演奏が結びつくようこころがけます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ⅰ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学IV （前） ［水2］松浦クラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GK0814C0	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安　：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
これまでの復習もしながら、より実作品に近い形での和声課題を実施していきます。
課題はだんだんハイレベルなものになっていきますが、その分面白くもなってきます。丁寧に解説し、一緒に考え、皆さんが楽しみながら力をつけていけるようにしたいと思います。分析では、和声学を演奏にどう生かすかをテーマに考えていきます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ⅰ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学IV （前） ［水2］増田クラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GK0814D0	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安　：　【Ｂ】【Ｃ】（応用クラス）
これまでの復習で基礎力を養い、さらに上の段階を目指します。
和声は音楽にとって欠かすことの出来ない大変重要な要素です。例えゆっくりでも少しでも理解出来るよう、実際の楽曲を随時参照しながら、名曲が名曲たる所以を一緒に探っていくと共に、和声学の楽しさを知り、実践に活きる能力の習得を目指し、サポートします。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ⅰ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学IV （後） ［木2］小林直哉クラス						
代表教員	小林　直哉	授業コード	GK0814R0	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回復習も行いながら新たな課題を実施し和声連結の習得を目指します。実施した課題は１人ひとり添削していきます。これまでの和声よりも内容が少しずつ難しくなっていきますが、理解出来るまで分かりやすく丁寧に指導し、また様々な楽曲の分析を行います。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ⅰ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学V （後） ［月1］生野クラス						
代表教員	生野　裕久	授業コード	GK0815A0	科目コード	GK0815	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学IV」または「和声学IV（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｖでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストを購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安 ： 【Ｂ】【Ｃ】（応用クラス）
これまでの復習で基礎力を養い、さらに上の段階を目指します。
「和声の勉強」と思うと気が重くなるかもしれません。しかし「作品を知る」ための手助けとなり、楽しみや喜びに結び付くものにもなるのです。知っている曲、知っておくべき曲の分析と共に一歩一歩進めて行きます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

科目名	和声学V （後） ［月1］原田クラス						
代表教員	原田　愛	授業コード	GK0815B0	科目コード	GK0815	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学IV」または「和声学IV（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｖでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストを購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
これまでの復習もしながら、より実作品に近い形での和声課題を実施していきます。
扱う和音が増えますが、その分和声のもつ色彩を選べるよう、一緒に考えていきます。また分析では、主科で扱っているものをできるだけ用いるようにし、和声学と演奏が結びつくようこころがけます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

科目名	和声学V （後） ［水2］松浦クラス						
代表教員	松浦　真沙	授業コード	GK0815C0	科目コード	GK0815	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学IV」または「和声学IV（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｖでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストを購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安 ：【Ｓ】【Ａ】（発展クラス）
これまでの復習もしながら、より実作品に近い形での和声課題を実施していきます。
課題はだんだんハイレベルなものになっていきますが、その分面白くもなってきます。丁寧に解説し、一緒に考え、皆さんが楽しみながら力をつけていけるようにしたいと思います。分析では、和声学を演奏にどう生かすかをテーマに考えていきます。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

科目名	和声学V （後） ［水2］増田クラス						
代表教員	増田　達斗	授業コード	GK0815D0	科目コード	GK0815	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学IV」または「和声学IV（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｖでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストを購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

和声学Ⅲの成績目安 ： 【Ｂ】【Ｃ】（応用クラス）
これまでの復習で基礎力を養い、さらに上の段階を目指します。
和声は音楽にとって欠かすことの出来ない大変重要な要素です。例えゆっくりでも少しでも理解出来るよう、実際の楽曲を随時参照しながら、名曲が名曲たる所以を一緒に探っていくと共に、和声学の楽しさを知り、実践に活きる能力の習得を目指し、サポートします。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

科目名	和声学V （前） ［木3］小林直哉クラス						
代表教員	小林　直哉	授業コード	GK0815E0	科目コード	GK0815	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（C0除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学IV」または「和声学IV（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｖでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストを購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回復習も行いながら新たな課題を実施して和声連結の習得やを目指します。構成音の転位（非和声音）は難しい内容ですが、学生１人ひとりが理解し満足感が得られるよう、実施した課題を添削します。また授業内容を元に様々な楽曲の分析を行います。
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

科目名	古代、中世、ルネッサンスの音楽史 （前） ［水2］Aクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0851A0	科目コード	GK0851	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から中世、ルネッサンスに至る西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やＣＤなどを活用して各時代の音楽的特徴を把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

古代からルネッサンスまでの各時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、各時代の音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（上）』 グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『新版 中世・ルネサンスの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）
『音楽史の名曲』美山良夫・茂木博（春秋社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。
私語厳禁。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 古代から中世、ルネッサンスに至るまでの時代の流れに沿って、音楽様式の変遷を概観していく。
1	導入・古代の音楽
2	グレゴリオ聖歌
3	初期多声音楽
4	中世単旋律世俗歌曲
5	１４世紀の音楽
6	中世からルネサンスへ
7	ブルゴーニュ楽派
8	フランドル楽派
9	後期フランドル楽派
10	１６世紀イタリアの宗教音楽
11	１６世紀イタリアの世俗音楽
12	１６世紀フランスの音楽
13	１６世紀イギリスの音楽
14	１６世紀ドイツの音楽
15	まとめ

科目名	古代、中世、ルネッサンスの音楽史 （前） ［水4］Bクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0851B0	科目コード	GK0851	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から中世、ルネッサンスに至る西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やＣＤなどを活用して各時代の音楽的特徴を把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

古代からルネッサンスまでの各時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、各時代の音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（上）』 グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『新版 中世・ルネサンスの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）
『音楽史の名曲』美山良夫・茂木博（春秋社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。
私語厳禁。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 古代から中世、ルネッサンスに至るまでの時代の流れに沿って、音楽様式の変遷を概観していく。
1	導入・古代の音楽
2	グレゴリオ聖歌
3	初期多声音楽
4	中世単旋律世俗歌曲
5	１４世紀の音楽
6	中世からルネサンスへ
7	ブルゴーニュ楽派
8	フランドル楽派
9	後期フランドル楽派
10	１６世紀イタリアの宗教音楽
11	１６世紀イタリアの世俗音楽
12	１６世紀フランスの音楽
13	１６世紀イギリスの音楽
14	１６世紀ドイツの音楽
15	まとめ

科目名	バロックの音楽史　（後）［水2］Aクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0852A0	科目コード	GK0852	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロック時代における西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やCD、ビデオなどを活用し、バロック音楽の各ジャンルの特徴を具体的に把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

バロック時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、バロック音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（中）』グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『 バロック音楽』磯山雅（日本放送出版協会）
『バロックの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。私語厳禁。

授業計画	
	［半期］
1	ルネサンスからバロックへ
2	バロック・オペラの誕生
3	バロック・オペラの発展
4	ヘンデルのカンタータとオペラ
5	フランス・オペラの誕生
6	H.　シュッツの宗教音楽
7	J.S.　バッハのマタイ受難曲
8	バロック・ソナタ
9	J.S.　バッハのソナタ
10	バロック・コンチェルト
11	バロックの管弦楽組曲
12	バロックの宗教音楽
13	バロックの鍵盤音楽
14	バロックから古典派へ
15	まとめ

科目名	バロックの音楽史　（後）［水4］Bクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0852B0	科目コード	GK0852	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロック時代における西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やCD、ビデオなどを活用し、バロック音楽の各ジャンルの特徴を具体的に把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

バロック時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、バロック音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（中）』グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『 バロック音楽』磯山雅（日本放送出版協会）
『バロックの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。私語厳禁。

授業計画	
	［半期］
1	ルネサンスからバロックへ
2	バロック・オペラの誕生
3	バロック・オペラの発展
4	ヘンデルのカンタータとオペラ
5	フランス・オペラの誕生
6	H.　シュッツの宗教音楽
7	J.S.　バッハのマタイ受難曲
8	バロック・ソナタ
9	J.S.　バッハのソナタ
10	バロック・コンチェルト
11	バロックの管弦楽組曲
12	バロックの宗教音楽
13	バロックの鍵盤音楽
14	バロックから古典派へ
15	まとめ

科目名	古典派の音楽史　（前）［木3］Aクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK0853A0	科目コード	GK0853	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

科目名	古典派の音楽史　（前）［水4］Bクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	GK0853B0	科目コード	GK0853	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

科目名	古典派の音楽史　（前）［金4］Cクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	GK0853C0	科目コード	GK0853	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

科目名	古典派の音楽史　（前）［木3］Dクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0853D0	科目コード	GK0853	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史　（後）［木3］Aクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK0854A0	科目コード	GK0854	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史　（後）［水4］Bクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	GK0854B0	科目コード	GK0854	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史　（後）［金4］Cクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	GK0854C0	科目コード	GK0854	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史　（後）［木3］Dクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	GK0854D0	科目コード	GK0854	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

科目名	管弦楽法　[火3]						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GK111100	科目コード	GK1111	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	CO・SC・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	・作曲コース前提科目 「管弦楽概論」の単位修得済の学生 ・音楽・音響デザインコース前提科目 「和声学III」または「和声学III(認定)」、および「管弦楽概論」の単位修得済の学生 ・音楽・音響デザインコース「和声学III」の成績が「C」の者は不可。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オーケストラスコアにある情報を整理し、書かれている音楽を頭の中で想像し、鳴らすことができる、という能力は指揮者や作曲家にとって必須のものです。作曲家はさらに自分の中に涌き出た音像を確実にスコアリングする能力が求められます。この授業では上記の2つを到達目標として進めていきます。

２．授業概要

オーケストラスコアを読みながら実際の音（CD等の音源）を聴き、①直ちに聴こえてくる音符、②よく耳を傾けるとかすかに聴こえてくる音符、③聴こえることは殆んどないけれどもその場面の音像を構築するのに寄与している音符、の3種類を意識する感覚を身につけていきます。また、この作業で知りえた技法を既成のピアノ曲、室内楽曲をオーケストレーションすることで確認し、それを履修者全員に対してプレゼンし、全員で議論します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で用いる楽曲については、あらかじめ繰り返しスコアをよく読み、よく聴く。
　この授業では手書きによるスコアリングを重視するのでそれに必要なアイテム（Bまたは２Bの鉛筆、格子付きのアクリル定規等）を揃え、また自宅での作業環境（最低でもB３サイズの五線紙を広げられる机）を整えてください。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）授業における発表や討議などへの参加姿勢、課題の実施状況など。
課題提出（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各自で用意していただくスコアについてはその都度授業内で指示します。

管弦楽法について、下記のうちのどれか１冊を購入しておくとスコアリングの作業を進める際に便利です。

W.ピストン著　戸田邦雄　訳　「管弦楽法」　音楽之友社
新総合音楽講座 8　「管弦楽法概論」　　ヤマハ音楽振興会

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「前提科目」を参照してください。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器、木管楽器およびホルン等を中心に学習し、それらによる小管弦楽編曲を実施する。
1	導入：オーケストラスコアの基本的な読み方・分析① G.Bizet　「アルルの女　第1組曲」より「前奏曲」「メヌエット」オーケストレーション分析
2	導入：オーケストラスコアの基本的な読み方・分析② G.Bizet　「アルルの女　第1組曲」より「アダージエット」「カリヨン」オーケストレーション分析
3	導入：オーケストラスコアの基本的な読み方・分析③ G.Bizet　「アルルの女　第2組曲」より「パストラール」「間奏曲」「メヌエット」オーケストレーション分析
4	第1回～3回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習① ベートーヴェンピアノソナタ7番第3楽章前半Aの弦楽オーケストラ編曲
5	第1回～3回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習② ベートーヴェンピアノソナタ7番第3楽章中間部の弦楽オーケストラ編曲
6	第1回～3回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習③ ベートーヴェンピアノソナタ15番第3楽章再現部の弦楽オーケストラ編曲
7	第1回～3回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習④ ベートーヴェンピアノソナタ15番第3楽章の弦楽オーケストラ編曲完成。
8	第4回～7回までに編曲したスコアの検討、講評会
9	木管楽器・ホルンを含んだオーケストラスコアの分析① モーツァルト「交響曲第25番」第1・2楽章
10	木管楽器・ホルンを含んだオーケストラスコアの分析②モーツァルト「交響曲第25番」第3・4楽章
11	木管楽器・ホルン・トランペットを含んだオーケストラスコアの分析③ ヴァーグナー「ジークフリート牧歌」
12	木管楽器・ホルン・トランペットを含んだオーケストラスコアの分析④ プロコフィエフ　交響曲第1番
13	第9回～12回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習① メンデルスゾーン「無言歌集」op.30-3、op38-2のオーケストラ編曲。ピアノ譜に楽器選択のアイデアを記入。
14	第9回～12回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習 ② メンデルスゾーン「無言歌集」op.30-3、op38-2のオーケストラ編曲。コンデンススコアの完成。
15	第9回～12回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習③ メンデルスゾーン「無言歌集」op.30-3、op38-2のオーケストラ編曲。オーケストラ用五線紙にスコアリング。

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器等を加え、2～3管編成による管弦楽編曲を実施する。
1	トロンボーンを含んだ2管編成のオーケストラスコアの分析① シューベルト　交響曲8番「未完成」第1楽章
2	トロンボーンを含んだ2管編成のオーケストラスコアの分析② シューベルト　交響曲8番「未完成」第2楽章
3	トロンボーンを含んだ2管編成のオーケストラスコアの分析③ チャイコフスキー　交響曲第5番第1楽章
4	トロンボーンを含んだ2管編成のオーケストラスコアの分析④ チャイコフスキー　交響曲第5番第2楽章
5	トロンボーンを含んだ2管編成のオーケストラスコアの分析⑤ チャイコフスキー　交響曲第5番第3，第4楽章
6	第1回～5回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習① シューマン　「子供の情景」「ユーゲントアルバム」から各自選択してオーケストラ編曲。ピアノ譜に楽器選択のプランを記入。
7	第1回～5回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習② シューマン　「子供の情景」「ユーゲントアルバム」から各自選択してオーケストラ編曲。オーケストラ用五線紙にスコアリング。
8	第1回～5回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習② シューマン　「子供の情景」「ユーゲントアルバム」から各自選択してオーケストラ編曲。スコアリングの完成を目指す。
9	3管編成以上の規模のオーケストラ作品の分析① ラヴェル　「古風なメヌエット」ピアノソロ版との比較①
10	3管編成以上の規模のオーケストラ作品の分析② R.シュトラウス「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」
11	3管編成以上の規模のオーケストラ作品の分析③ バルトーク「オーケストラのための協奏曲」第１、2楽章
12	3管編成以上の規模のオーケストラ作品の分析④ バルトーク「オーケストラのための協奏曲」第3~5楽章
13	第9回~12回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習① 各自選んだ曲を3管編成で編曲及び添削。
14	第9回~12回までのオーケストレーション分析を踏まえたピアノ独奏曲の編曲実習② 各自選んだ曲を3管編成で編曲。スコアリング完成。
15	課題提出・総括

科目名	楽曲分析研究１　［火4］						
代表教員	久行　敏彦	授業コード	GK113600	科目コード	GK1136	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	CO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ある音楽作品について、旋律・和声・形式・楽器法など様々な観点から分析ができる観察眼を持つことは音楽家としてとても重要なことである。これがこの授業の主題であり、到達目標である。

２．授業概要

18世紀初頭～19世紀末の期間に作曲された音楽の演奏をCDやDVD等を視聴をしたのち、旋律、形式、編成、和声、リズム、歌詞（声楽作品の場合）等の様々なファクターを含んだ考察を行い、作曲者の主張や目的を意識しながら作品を観察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習が必要な場合は前週の授業において指示する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、リポートの内容を総合して判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

原則として授業で扱う楽曲のスコアについては各自用意すること。入手困難なものについてはこちらで準備することもある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[前期]
1	古典派の協奏曲１ モーツァルト「クラリネット協奏曲」
2	古典派の協奏曲２ モーツァルト「クラリネット協奏曲」第２・３楽章
3	古典派の交響曲１ サンマルティーニ　シンフォニア　G dur ハイドン　交響曲22番　Es dur
4	古典派の交響曲２ モーツァルト　交響曲４番　D dur モーツァルト　交響曲31番　D dur
5	古典派の交響曲３ ベートーヴェン交響曲３番 Es dur 第１・第2楽章
6	古典派の交響曲4 ベートーヴェン交響曲３番 Es dur 第3・第4楽章
7	古典派の室内楽１ ベートーヴェン　ヴァイオリンソナタ７番
8	古典派の室内楽２ ベートーヴェン　弦楽四重奏曲「大フーガ」
9	古典派の宗教音楽作品１ ハイドン「天地創造」より
10	古典派の宗教音楽作品２ モーツァルト　「レクイエム」
11	古典派の声楽・劇音楽１ ハイドン「四季」より
12	古典派の声楽・劇音楽２ モーツァルト　「フィガロの結婚」より
13	古典派の声楽・劇音楽３ ベートーヴェン「凪の海と成功した航海」 ベートーヴェン　交響曲第９番　第４楽章
14	古典派の声楽・劇音楽４ ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」より　キリエ・グローリア・クレド
15	古典派の声楽・劇音楽5 ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」より　サンクトゥス、アニュス・デイ

授業計画	
	[後期]
1	バロック時代の鍵盤音楽１ フィッシャー「アリアドネ・ムジカ」より バッハ「平均律ピアノ曲集」より
2	バロック時代の鍵盤作品２ バッハ「フーガの技法」より
3	バロック時代の室内楽１ バッハ「音楽の捧げもの」より
4	バロック時代の管弦楽作品１ バッハ　ブランデンブルクコンチェルト第２番 バッハ　ブランデンブルクコンチェルト第５番
5	バロック時代の宗教音楽作品 シュッツ　「マタイ受難楽」より バッハ　「マタイ受難楽」より
6	ロマン派時代の声楽作品１ シューベルト「美しき水車屋の娘」より シューマン「女の愛と生涯」より
7	ロマン派時代の声楽作品２ フォーレ「優しき歌」より
8	ロマン派時代の鍵盤作品１ シューベルト「さすらい人幻想曲」より シューマン「暁の詩」より ブラームス「ラプソディ」より
9	ロマン派時代の鍵盤作品２ ショパン「バラード４番」 前奏曲　op45 cis moll
10	ロマン派時代の室内楽１ シューマン「ピアノトリオ２番」 シューマン「ピアノ四重奏曲」
11	ロマン派時代の室内楽２ ヤナーチェク「弦楽四重奏曲1番・2番」
12	ロマン派時代の管弦楽作品 チャイコフスキー「交響曲６番」
13	ロマン派時代の管弦楽作品２ リスト「ファウスト交響曲」
14	ロマン派時代の劇音楽１ ヴァーグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より
15	ロマン派時代の劇音楽２ ヴェルディ「アイーダ」より

科目名	アドバンスト・ハーモニー　[木3]						
代表教員	渡辺　俊幸	授業コード	GK121800	科目コード	GK1218	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズハーモニーⅡ-２」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズハーモニーⅠ・Ⅱで学んだ知識をより発展させた様々なスタイルのハーモニーのテクニックやその進行、リハーモナイゼーション・テクニックなどについて学び、それを作曲・編曲に応用出来るようにさせる。

２．授業概要

授業計画に沿って様々なテクニックを学んでいきながら、一時代を築き上げたプロデューサーのクインシー・ジョーンズやデイビッド・フォスター等の特徴のあるサウンドとハーモニー進行についての分析なども行っていく。コードネームを中心としたハーモニーについては、最高度なテクニックまでを含めた一通りの知識を得られる内容になっている。担当教員独自のストリングスやオーケストラのハーモニーやライティング技術についても解説する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

習った事を次の週までに完全に自分のものにするように、繰り返し復習する事が望まれる。
特に授業中に渡されたプリントに書かれているハーモニー課題を毎日一度はキーボード等で演奏し、その積み重ね方や進行を記憶するようにする。
普段から様々な楽曲のコード進行をコピーする事を心がけて、授業で習った事と結び付けながら理論的に分析し記憶するようにする。

４．成績評価の方法及び基準

前期におけるテスト40%、後期に提出する課題５０％ 、平常点10%。授業への参加姿勢が良好である事を単位取得の条件とする。課題提出を必須とし、テストの成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献に関しては、授業中に指示をする。私製テキストを都度配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズハーモニーⅠ・Ⅱで学んだ事をよく復習し、全てのコードの構成音、特にテンションノートについて即答出来るようにしておく。

授業計画	
	［前期］
1	クローズ＆オープン・ヴォイシング・テクニック テンション・ノートやコード・スケール等についての復習
2	分数コードや２の和音など８０年代以降に生まれた新しい響きの和音について（デイビッド・フォスター等の使用例と共に解説）
3	デイビッド・フォスター等の作品の和声進行や転調の分析
4	デイビッド・フォスター等の作品のヴォイシングの分析
5	４度ハーモニーとクラスターについて解説
6	アッパー・ストラクチャー・トライアードの解説
7	ここまでの復習とテクニックを使用した作品の解説など。（担当教員が作曲した映画音楽などのスコアを使用。）
8	ハイブリッド・コードについての解説
9	ハイブリッド・コードの使用例の解説（クインシー・ジョーンズやデイブ・グルーシン等の作品を使用）
10	リハーモナイゼーション・テクニックについて
11	リハーモナイゼーション・テクニックの使用例について
12	コンビネーション・ディミニッシュ・スケールとリディアン・スケールについて（映画音楽などでの応用法）
13	モーダル・ハーモニーについて（ハービー・ハンコックやマイルス・デイビスの使用例の解説）
14	テストとまとめ
15	後期に提出する課題について解説。映画やドラマにおいての監督との打ち合わせ、録音の進め方、予算と楽器編成の関係、著作権のことなど、作曲家がプロとして活動していく上での実際的な事について解説。

授業計画	
	［後期］
1	ストリングス・ライティング基礎編（各弦楽器の特性の解説、基礎的な書法）
2	ストリングス・ライティング応用編（担当教員のスコアを提示しながら実際的な様々な書法を解説）
3	オーケストラ・ライティング① （映画やアニメ作品のためのオーケストレーション技法）
4	オーケストラ・ライティング② （担当教員の「利家とまつ」等の作品の解説）
5	オーケストラ・ライティング③ （担当教員の「ローマ帝国」等の作品の解説）
6	ポップスにおけるシークエンスパターンの作り方や和声進行について解説。
7	映画音楽における録音時に気をつけるべきこと等の解説、また様々な音楽的疑問について質問を受け付ける時間とする。オーケストレーションなどについてもさらに詳細に語る。
8	ジョン・ウィリアムズの研究①（「スター・ウォーズ」等の作品分析
9	ジョン・ウィリアムズの研究②（「ジョーズ」におけるポリコードの例、「ダース・ベイダーのテーマ」等の作品分析）
10	ジェリー・ゴールドスミスの研究①（録音現場での実際の映像ををDVD映像で見ながら、特殊楽器の使用法等を解説）
11	ジェリー・ゴールドスミスの研究②（「スター・トレック」等の作品解説。）
12	パット・メセニーの研究①作品を分析しながらモーダルインターチェンジコードの使用法について解説。
13	パット・メセニーの研究②「オーケストリオン」のドキュメンタリー映像を見ながら、音楽家として常に前人未踏の境地を追求する生き方について解説。コードプログレッションについても引き続き解説。
14	ポップスにおけるモーダルインターチェンジコードの効果的な使用例について「解説。後期の提出課題（学生の作品）の中から優秀な作品を聞き、評論する。
15	前期と後期の復習、まとめ。様々な質問も受け付ける。

科目名	ポピュラーミュージック・ハーモニーI （前） ［木5］						
代表教員	菅原　サトル	授業コード	GK123700	科目コード	GK1237	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の主題は、コードを組み立てる際に頻繁に使われる手法を実際の楽曲の分析を通して体系的に理解することです。この講座を通して、ハーモニーに対する引き出しを多くし、状況に応じてスタイルを使い分け、自己の作品で実践できるようになることを目標とします。

２．授業概要

様々なジャンルから楽曲を取り上げ、使われているコードやコード進行の「法則」を見極めて理解していきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては、提示されているテーマに応じた音源や資料を事前にインターネットで検索して調べることができます。
復習としては、課題や試験が授業内で終了しない時もあるので、その場合は、次回授業までの宿題として、授業外に作業してもらうことがあります。授業終了後は、学習したノウハウを自分の作品で積極的に使っていくことが望まれます。

４．成績評価の方法及び基準

・評価の基準として、提出された課題や試験の内容が、授業で扱ったポイントをきちんと押さえたものになっているかどうか、また音楽的効果を見ます。
・評価は、中間の「課題と実習」と最終試験で50%、平常時の課題の内容で50%とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト：随時、必要な資料をデータで配布します。
参考文献：「実践コードワーク1,2,3」篠田元一著ほか（あくまで参考なので購入の必要はありません）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

テンション、モード、ペダル、USTやポリコードなどの理論も出てくるので、中程度以上（ダイアトニックコード）の知識を持っていることが前提です。初心者レベルの知識では単位はほぼ取得できないでしょう。初回に簡単なテストを行う場合もあります。

授業計画	
1	ガイダンスとサーバーの設定　※人数によって選抜試験を行う場合もあります
2	12小節のブルース進行とその発展 コードの代理 ii-Vで分割する 2つのブルースペンタトニックを組み合わせる
3	準固有和音　ダイアトニックと切り替えながらコード進行を作る
4	洋楽やクラブミュージックの定番「4コード」 - I-V-vi-IVほか
5	J-POPの特有の定番進行 - カノン進行、IV-V-vi、マイナーコードへのセカンダリードミナントほか
6	田中秀和氏のAug
7	あらゆる場面で無自覚のうちに使われる超定番手法 - 「ペダルコードのアルペジオ」
8	課題と実習 I
9	クリシェとブロックコードによるコードリフ - 60'sアメリカン・ポップス等
10	ダイアトニックではなく平行移動でコード進行を作る　- トライアド、maj9、m9、フュージョンコード、ii-V
11	転調のテクニック　古典的な転調、すり替えによる転調、モードチェンジを含む曲作り、突然転調など
12	非古典和声的アプローチ - ホールトーン、四度堆積、ホルストのペダル、ポリトーナルほか
13	アッパーストラクチャートライアド
14	リハーモナイズの練習
15	まとめと試験

科目名	ポピュラーミュージック・ハーモニーII （後） ［木5］						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GK123800	科目コード	GK1238	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ポピュラーミュージック・ハーモニーＩ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講座の目的は、自己の作・編曲に役立てられるように、ポップスを中心としたハーモニーの構造を体系的に整理することにある。感覚的な要素が強く、分析上さほど意味がないものであっても、表現上の引き出しとして定着させるためには理論的解釈が必要であり、それぞれの特徴的なハーモニーを知り、研究することにより最終的には自己の作品に応用できるようになることが目標である。

２．授業概要

J-popの変遷や音楽的特徴のルーツも同時に把握できるように年代順に、基本的はヒットした楽曲を取り上げていく。その都度必要な知識も補完しながら進み、内容の区切り毎に課題実施や小テストを行うことで理解度を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内で取り上げた楽曲とそのポイント箇所については自身でも授業後に音を鳴らしながら再確認しておくこと。また、授業で得た知識を使い実際に楽曲を制作してみることが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）、学年末課題（評価の30%）、レポート（評価の20%）

平常点は、理解度の確認のために内容の区切り毎に実施する課題提出や小テストの点数と授業への参加状況とで総合的に評価する。
学年末課題は授業で取り上げた内容を理解し、自身の作品に取り込めているかどうかを判断する。
レポートは自身で特徴的な楽曲を見つけ、理論的な解釈ができているかどうかを判断する。
学年末課題・レポートの具体的な内容については第13回の授業中に提示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業に必要なテキストはその都度プリント等を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コードの知識が必須になる為、理解度に不安のある学生は予め基礎的なコード理論については予習をしてから授業に臨むこと。

授業計画	
	［半期］ ポピュラーミュージック・ハーモニーIIでは主にJ-popの楽曲を題材とする。
1	J-POPの変遷について／小テストの実施
2	1970年代～80年代の楽曲を中心とした分析① 「松任谷由実」他
3	1970年代～80年代の楽曲を中心とした分析② 「サザンオールスターズ」他
4	1990年代の楽曲を中心とした分析① 「CHAGE & ASKA」、「槇原敬之」他
5	1990年代の楽曲を中心とした分析② 「DREAMS COME TRUE」他 小テストの実施とその解説
6	1990年代の楽曲を中心とした分析③ 「小室哲哉プロデュース作品」他
7	1990年代の楽曲を中心とした分析④ 「Mr.Children」、「山崎まさよし」他
8	1990年代の楽曲を中心とした分析⑤ 「SPEED」、「PUFFY」他″
9	1990年代の楽曲を中心とした分析⑥ 「宇多田ヒカル」、「aiko」他
10	小テストの実施とその解説
11	2000年代の楽曲を中心とした分析 「MISIA」他
12	2000年代～2010年代の楽曲を中心とした分析 「アイドル用楽曲」他
13	2010年代の楽曲を中心とした分析 「中田ヤスタカプロデュース作品」他
14	近年のJ-POPの傾向とその分析
15	学期末課題の実施と総括

科目名	アニメーション・ミュージック研究　（後）［木3］						
代表教員	山下　康介	授業コード	GK125500	科目コード	GK1255	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アニメーション音楽の歴史と、その特徴などを研究し、作編曲の観点からその在り方を探る。

２．授業概要

あらゆるジャンルのアニメーションの視聴、および劇判音楽の鑑賞など。
アニメにおける劇判音楽の可能性を考える。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

アニメ作品の視聴。
その際は、映像と音楽の関わりを、より注意深く意識すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点による評価60%。
期末の提出課題等の取り組みによる評価30%。
授業内での参加姿勢による評価10%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

独自に用意。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[半期]アニメーションの歴史、およびその音楽について研究する。
1	「アニメーション製作の歴史について（概論）」 アニメの歴史を学ぶと同時に、音楽の関わりの変遷について学ぶ。
2	「アニメと音のシンクロについて」 アニメーション作品における、映像と音楽のシンクロ率と、その表現手法を学ぶ。
3	「BGMの効果の実証実験」 ひとつの映像素材に、さまざまな劇伴音楽をあて、音楽もたらす効果の実験をする。
4	作品鑑賞&解説 『天使のたまご』
5	アニメにおける、歌もの（アニメソング）の変遷と、その意義「1960~1970年代」
6	アニメにおける、歌もの（アニメソング）の変遷と、その意義「1980~2000年代」
7	アニメにおける、歌もの（アニメソング）の変遷と、その意義「2000~現在」
8	作品鑑賞&解説 『イエローサブマリン』
9	「アニメの劇伴音楽ができるまで」 実際のアニメの劇伴音楽の制作過程を学ぶ。
10	「特撮作品の劇伴音楽について」 アニメと共通する点など、特撮作品ならではの特徴を研究する。
11	作品鑑賞&解説 『君の名は』（前半）
12	作品鑑賞&解説 『君の名は』（後半）
13	アニメーション音楽の、今後の可能性の考察
14	研究成果のまとめ
15	研究成果の発表と統括

科目名	ピアノ音楽講座I／ピアノ音楽講座　[金3]						
代表教員	那須田　務	授業コード	GK144100	科目コード	GK1441	期間	通年
担当教員	諫山　隆美						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

前期 ピアノ曲概論～６０人の作曲家の作品
大学でのレッスンで取り組むピアノ曲には限りがあります。広くピアノ曲に触れることによって様々な作品を知り、興味を持ち、接する機会を増大させ、ピアノ曲の網羅的知識を得ることを目標とします。
後期 ピアノの歴史
ピアノが音楽史に登場したのはおよそ１７００年頃です。その後、現代の形になるまでに、構造や打鍵機構（ハンマー・アクション）など様々な変化を通ってきました。現在のピアノはその最終的な形ですが、近年は古楽器演奏の隆盛に伴い、発展の過程に存在した様々なピアノも、それ本来の意義と価値が認められています。モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ショパンが弾いたピアノはどのようなものなのか。ピアノの歴史や楽器の構造、響きの特徴を知ることは、必ずや演奏や鑑賞に役立つことでしょう。

２．授業概要

前期 各回作曲家毎にピアノ曲を分類し、曲目リストとともに作品を紹介します。抜粋してCDで曲を確認しながら、個別作品の特徴や作風、作品の重要性や演奏の難易度、作曲家による作風の変化、必要な場合は楽譜の種類、作品番号などの知識にも触れていきます。学期末試験は行わず、指定内容のレポート作成を予定しています。
後期 誕生から現在までのピアノの発展のプロセスを、ピアノ音楽史上重要な作曲家の作品と関連づけながら学びます。写真やアクション・モデル、それらの楽器で演奏したＣＤなどを用いますが、実際に音や響きを耳で確かめ、感じ、考え、話し合うことによって、より深い理解が得られると考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業ごとに、次回の予習や復習の内容について伝えます。

４．成績評価の方法及び基準

前期：学期末レポート製作（評価の７０％）
　　授業への参加姿勢（評価の３０％）
後期：学期末試験を実施します。評価の割合は、授業参加の姿勢（評価の60%）、筆記試験（評価の40%）とします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

前期：必要に応じてご紹介します。
後期：毎回ポータルでプリントを送付し、必要に応じて参考文献を紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前期：学ぼうとする意志の強い学生を望みます。
後期：諫山先生と同様です。学習意欲をもった学生を歓迎します。

授業計画	
	［前期］担当教員:諫山　隆美
1	音楽の父大バッハの作品
2	バロックの作曲家とハイドンの作品
3	古典派の２大作曲家の作品
4	初期ロマン派の作曲家の作品
5	ロマン派のピアノ作曲家の作品
6	ロマン派フランスの作曲家の作品
7	ロマン派ドイツ・東欧・北欧の作曲家の作品
8	ロマン派ロシアの作曲家の作品
9	ロマン派から近代フランスの作曲家の作品
10	ロマン派から近代ロシアの作曲家（編曲家）の作品
11	ロマン派から近代スペイン・フランスの作曲家の作品
12	近代北米・南米の作曲家の作品
13	近代ドイツ・オーストリア・東欧の作曲家の作品
14	近代・現代ロシアの作曲家の作品
15	20世紀の作曲家の作品

授業計画	
	［後期］担当教員:那須田　務 授業概要参照
1	チェンバロやクラヴィコード、ピアノの前身とされる楽器について
2	クリストフォリによるピアノの発明
3	ドイツへの伝播～ジルバーマンとバッハ。
4	シュタインによるウィーン式アクションの完成
5	モーツァルトとピアノ
6	イギリス式アクションの完成
7	ハイドンとピアノ
8	ベートーヴェンとピアノ
9	１９世紀前半のイギリス・フランスのメーカー
10	１９世紀前半のドイツ・オーストリーの作曲家とピアノ～シューベルト、シューマン、メンデルスゾーン
11	ショパンとピアノ
12	19世紀後半のピアノ・メーカーと作曲家
13	アメリカのピアノ・メーカー
14	現代のピアノ
15	授業のまとめ

科目名	ピアノ音楽鑑賞研究　[火3]						
代表教員	諫山　隆美	授業コード	GK149100	科目コード	GK1491	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ピアノ音楽を鑑賞し、ピアノ作品やピアニストなどに対する興味を引き出し、基礎的な知識や理解を増強させることを目的とします。
また音楽を聴くばかりではなく、毎授業内でレポートを書いて意見をまとめることにより、より自主的な音楽鑑賞を身につけること、さらに自己のレッスンや演奏にも応用していく能力をつけることを、学習到達目標とします。

2．授業概要

各回のテーマに沿って、DVDやCD等を実際に鑑賞し、作品・演奏に応じた鑑賞の要点の解説や問題点を説明していきます。学生はそこから得たものを毎回授業内にレポートにまとめ、提出します。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日頃、学内外でのコンサートで音楽鑑賞をする他、授業で学んだテーマ（作曲家、作品、演奏家など）について、関連のCD、DVD等を利用して鑑賞し、復習することを推奨します。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内のレポート他）（評価の60%）
授業への参加姿勢（評価の40%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、オリジナルテキスト（プリント）を配布します。回によっては譜例も含まれますので、参考楽譜の持参は基本的に不要です。他必要があれば、授業内で紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽鑑賞に興味・意欲を持ち、学ぼうとする意志が強い学生に限ります。
学期末試験は行わず、授業内でレポートを書くことが多いことも考慮して履修して下さい。授業の出席のみならず、学内学外のコンサートやコンクール等を日常的に聴くことが望まれます。
履修を迷う者は、第１回目の授業に参加して、授業の取り組み方の具体的な説明を受けてから履修を決定すること。
●受講希望者が多い場合は、下記の条件で優先またはレポート等での選抜をする場合があります。（一昨年度は選抜がありました。）
1. 過去に同授業を履修したことのない者。
2. 学年の高い者。（4年生を最優先とする）

授業計画	
	［前期］ （内容・順番等変更する可能性もあります）
1	デモンストレーション
2	ガイダンス／音楽鑑賞の方法と情報収集／ アンケート
3	作曲家年表と時代分類
4	バロックの鍵盤楽器曲を聴く～J.S.バッハの作品
5	知っておきたい70人のピアニスト① ～ベートーヴェン／ピアノ協奏曲を演奏するピアニスト
6	協奏曲を聴く①（学内演奏会予定曲目１曲目） ～協奏曲のスタイルを知る（仮題）
7	日本国内のピアノコンクール
8	ロマンのピアノ曲を聴く① ショパンのピアノ曲
9	協奏曲を聴く②（学内演奏会予定曲目２曲目） ～作品の構造を知る（仮題）
10	大ピアニストの演奏① ～グレン・グールドの演奏を聴く
11	クラシックのピアノ曲を聴く ～ ベートーヴェンのピアノ曲
12	協奏曲を聴く③（学内演奏会予定曲目３曲目） ～様々な演奏を比べてみる（仮題）
13	知っておきたい70人のピアニスト② ～ショパン以降の作曲家の作品を集めて
14	ロマンのピアノ曲を聴く③ シューマンのピアノ曲
15	非和声音～和声分析のための

授業計画	
	［後期］ （内容・順番等変更する可能性もあります）
1	和声分析の試み
2	世界のピアニスト情報① ～アジアのピアニストから
3	ピアノを弾く姿勢を考える
4	近現代のピアノ曲を聴く① ロシアのピアノ作品
5	国際コンクールを知る ～ショパンコンクール
6	コンクール審査疑似体験① ～ショパンコンクール１次予選
7	コンクール審査疑似体験② ～ショパンコンクール２次予選
8	コンクール審査疑似体験③ ～ショパンコンクールを振り返って
9	レッスンを見る
10	大ピアニストの演奏② ～ウラディミール・ホロヴィッツの演奏を聴く
11	ロマンのピアノ曲を聴く③ リストのピアノ曲
12	知っておきたい70人のピアニスト③ ～ドイツ・オーストリアの作曲家の作品を集めて
13	近現代のピアノ曲を聴く②フランスのピアノ作品
14	世界のピアニスト情報② ～ロシアのピアニストから
15	現代音楽入門

科目名	ジャズソルフェージュⅠ－１　（前）［金3］Aクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK2065A0	科目コード	GK2065	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 メジャーキー:シラブルの学習
2	単旋律 メジャーキー：ブルーノート
3	単旋律 メジャーキー：クロマティック
4	旋律／ルートモーション-I-VI-II-V
5	旋律／ルートモーション-：ドミナント
6	旋律／ルートモーション-セカンダリードミナント
7	リズム-：シンコペーション、スイング
8	リズム：シンコペーション、ボサノバ
9	リズム：シンコペーション、カットタイム
10	音程：３度、６度
11	音程：４度、５度
12	音程：２度、７度
13	アプローチノートを含む曲：デュークエリントン
14	アプローチノートを含む曲：ビバップ
15	曲の転調

科目名	ジャズソルフェージュⅠ－１　（前）［金4］Bクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GK2065B0	科目コード	GK2065	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 メジャーキー:シラブルの学習
2	単旋律 メジャーキー：ブルーノート
3	単旋律 メジャーキー：クロマティック
4	旋律／ルートモーション-I-VI-II-V
5	旋律／ルートモーション-：ドミナント
6	旋律／ルートモーション-セカンダリードミナント
7	リズム-：シンコペーション、スイング
8	リズム：シンコペーション、ボサノバ
9	リズム：シンコペーション、カットタイム
10	音程：３度、６度
11	音程：４度、５度
12	音程：２度、７度
13	アプローチノートを含む曲：デュークエリントン
14	アプローチノートを含む曲：ビバップ
15	曲の転調

科目名	ジャズソルフェージュⅠ－２　（後）［金3］Aクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK2066A0	科目コード	GK2066	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュⅠ-２」は「ジャズソルフェージュⅠ-１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 マイナーキー：主音の聞き取り
2	単旋律 マイナーキー：平行調との関係
3	単旋律 マイナーキー：シラブル
4	モード（スケール）：スケールの構造
5	モード（スケール）：スケールを歌う
6	モード（スケール）：メロディーを作る
7	モード（メロディー）：スケールの聞き取り
8	コードの７thを歌い、聴音
9	ルートを歌い、聴音
10	キーの聞き取り
11	II-Vの聞き取り
12	曲の主音による転調
13	曲のII-Vによる転調
14	曲中での転調
15	コードタイプの聞き取り

科目名	ジャズソルフェージュⅠ－２　（後）［金4］Bクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GK2066B0	科目コード	GK2066	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュⅠ-２」は「ジャズソルフェージュⅠ-１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音と共にリズム聴音、音程聴音も行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	単旋律 マイナーキー：主音の聞き取り
2	単旋律 マイナーキー：平行調との関係
3	単旋律 マイナーキー：シラブル
4	モード（スケール）：スケールの構造
5	モード（スケール）：スケールを歌う
6	モード（スケール）：メロディーを作る
7	モード（メロディー）：スケールの聞き取り
8	コードの７thを歌い、聴音
9	ルートを歌い、聴音
10	キーの聞き取り
11	II-Vの聞き取り
12	曲の主音による転調
13	曲のII-Vによる転調
14	曲中での転調
15	コードタイプの聞き取り

科目名	ジャズソルフェージュII－１　（前）［月3］Aクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK2067A0	科目コード	GK2067	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュII-１」は「ジャズソルフェージュI-２」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	長音階
2	短音階
3	増、減音程
4	コードタイプ-１トライアド
5	コードタイプ-2セヴンスを含む
6	コードタイプ-3様々なテンションを含む
7	ルートとM3rdを歌う
8	ルートとm3rdを歌う
9	ルート・3rd-7thを歌う
10	指定された調性でII-Vを弾く
11	II-V（セカンダリードミナントを含む）
12	II-V（全ての調性で演奏する）
13	簡単な旋律とコード進行の聴音
14	旋律・コード（セカンダリードミナントを含む）聴音
15	転調のある旋律・コード進行の聴音

科目名	ジャズソルフェージュII－１　（前）［月4］Bクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GK2067B0	科目コード	GK2067	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュII-１」は「ジャズソルフェージュI-２」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	長音階
2	短音階
3	増、減音程
4	コードタイプ-１トライアド
5	コードタイプ-2セヴンスを含む
6	コードタイプ-3様々なテンションを含む
7	ルートとM3rdを歌う
8	ルートとm3rdを歌う
9	ルート・3rd-7thを歌う
10	指定された調性でII-Vを弾く
11	II-V（セカンダリードミナントを含む）
12	II-V（全ての調性で演奏する）
13	簡単な旋律とコード進行の聴音
14	旋律・コード（セカンダリードミナントを含む）聴音
15	転調のある旋律・コード進行の聴音

科目名	ジャズソルフェージュII－２　（後）［月3］Aクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK2068A0	科目コード	GK2068	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュII-２」は「ジャズソルフェージュII-１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	コードの3rdを歌う（I-VI-II-V）
2	コードの3rdを歌う（セカンダリードミナント）
3	セカンダリードミナントの解決先（主音先行）
4	セカンダリードミナントの解決先（ドミナント先行）
5	II-Vプラスセカンダリードミナントの II-V
6	ランダムなII-Vの聞き取り
7	II-Vによる転調
8	曲をアカペラで歌う
9	曲をアカペラで歌う（メロディー、ベース）
10	曲をアカペラで歌う（メロディー、3rd、ベース）
11	モーダルインターチェンジを含む曲
12	曲をアカペラで歌う（転調を含む）
13	複数の曲をメドレーで歌う
14	リズミックな曲のアカペラ
15	バラードのアカペラ

科目名	ジャズソルフェージュII－２　（後）［月4］Bクラス						
代表教員	松本　治	授業コード	GK2068B0	科目コード	GK2068	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	JZ・E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ジャズソルフェージュII-２」は「ジャズソルフェージュII-１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音を聞く力というものは音楽をする上で必要不可欠である。
曲のメロディーやコードの流れを細かく感じることはアドリブ・アレンジに深く関わるだけでなく、楽器の練習においても非常に重要である。
ジャズソルフェージュでは移動ドを用いたソルフェージュや聴音を通して「音を聞く力」を養い、楽曲のメロディーやハーモニーをより深く感じた上で即興演奏やアレンジ、作曲を行うことができるように練習します。

２．授業概要

移動ドを用いてメロディーやコードのルートの動きを聴音し、歌いながらキーの中での機能を感じる練習をする。
使用曲は主にジャズスタンダード。メロディー聴音、リズム聴音、音程聴音に加えて、ハーモニー聴音も行う。これは単にコードタイプを聴音するだけでなく、キーの中でのコードの流れを感じることでより音楽的な演奏ができるようになることを目的とする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ソルフェージュ・聴音は音を感じることが目的であるため、授業で練習した曲を繰り返し練習しながら歌うだけではなく、その音を確実に感じることができるような復習、また自分の苦手とする部分の補足練習は必須である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の５０％）
授業内での課題（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

使用する曲は全て授業内で聴音する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業の回数分だけある課題は練習目的であること以外に、期末試験のウエイトを軽減し、楽器の特性からくる聴音の得手不得手に関係なく履修者全員を公平に評価するという意味合いもあるため、毎回の課題を確実にやることが非常に重要である。

授業計画	
	［半期］
1	コードの3rdを歌う（I-VI-II-V）
2	コードの3rdを歌う（セカンダリードミナント）
3	セカンダリードミナントの解決先（主音先行）
4	セカンダリードミナントの解決先（ドミナント先行）
5	II-Vプラスセカンダリードミナントの II-V
6	ランダムなII-Vの聞き取り
7	II-Vによる転調
8	曲をアカペラで歌う
9	曲をアカペラで歌う（メロディー、ベース）
10	曲をアカペラで歌う（メロディー、3rd、ベース）
11	モーダルインターチェンジを含む曲
12	曲をアカペラで歌う（転調を含む）
13	複数の曲をメドレーで歌う
14	リズミックな曲のアカペラ
15	バラードのアカペラ

科目名	音声学　［木5］						
代表教員	竹田　数章	授業コード	GK248000	科目コード	GK2480	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	VO・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声に関わる解剖と生理、喉頭調節、共鳴、発声の基礎の呼吸、姿勢、声の疾患、声の疾患の予防法、音の入力系である聴覚などについて述べる。聴覚の疾患と聴覚の保護についてもふれる予定である。

声楽に必要な解剖、生理をはじめ、音と声に関する科学的アプローチをし、医学的見地から声の衛生についても講義する。演奏に関わる人体の解剖・生理・心理的側面を理解してもらうことが目標である。将来声楽指導をしていく上でも役立つ内容としたい。

２．授業概要

主に
１．呼吸や音声に関わる解剖と生理
２．声の疾患と予防
３．演奏に重要な聴覚系についての解剖と生理
４．演奏に関わる心理的・身体的側面
などについて講義し、時にAtem-Tonus-Ton呼吸法のエクササイズを実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

医学的な事項も授業中話をするので、発声や聴覚に関する解剖用語、生理学用語も予習、復習するとよい。言葉の科学等、音声生理の本などを読むと理解しやすい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキスト：
『ヴォイス・ケア・ブック』　G.ディビス、A.ヤーン著、竹田数章監訳（音楽之友社）
参考文献：
『プリマドンナの声帯』米山文明著（朝日新聞社）
『マリアの呼吸法』ビデオ全２巻米山文明監修（音楽之友社）
『声と日本人』米山文明著（平凡社）
『声がよくなる本』　米山文明著（主婦と生活社）
『音のなんでも小事典』日本音響学会編（講談社）
『声の呼吸法』米山文明著（平凡社）
『新ことばの科学入門』G.J.Borden著（医学書院）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

発声、呼吸のメカニズム、機能形態などに関心があり、呼吸・姿勢と演奏との関連、音の聞こえ方と音楽との関係、人間の身体や精神と音楽とのかかわりなどに興味を持つ学生に受講してもらいたい。

授業計画	
	［前期］ 　聴覚、発声にかかわる呼吸、呼吸法のエクササイズ、発声のメカニズム、声の疾患、声の衛生予防など。（講義の順番は前後することがあります）
1	音の入力系と出力系
2	音の原理 聴覚について 聴覚の解剖
3	音の大脳生理 言語中枢 音楽中枢 相対音感 絶対音感
4	ハイパーソニックエフェクト マガーク効果など
5	リズム、テンポについて 人体とのかかわり 文化との関係
6	聴覚の疾患と予防 音響外傷 作曲家と聴覚障害
7	音の出力系 発声にかかわる解剖生理
8	呼吸の解剖生理
9	呼吸機能測定 呼吸と発声とのかかわり 呼吸法のエクササイズ
10	喉頭調節 喉頭の解剖生理 声帯運動
11	喉頭原音について
12	声の疾患について
13	声の衛生予防
14	共鳴と構音器官の解剖と生理
15	咽頭 口腔 鼻腔などの声道、共鳴器官の役割

授業計画	
	［後期］ 　声に関わる諸々の事がら。音声分析、音響物理、言語と声、声域、声種、演奏心理、アガリについて、声と呼吸法のトレーニング、世界各地の発声など。（講義の順番は前後することがあります）
1	母音の生成 フォルマントについて
2	子音について 滑舌の訓練 五十音順について
3	コンピューターによる音響分析
4	構音 日本語と外国語の歌曲について 開音節 閉音節など 韻について
5	話声位 声域 声区
6	声種の決定について
7	声変わり 変声期と加齢による変化
8	邦楽での発声、能楽
9	ビブラートとノンビブラート 世界各地の発声
10	声と呼吸と心理
11	演奏中のあがりについて
12	音と人間の関わり 体の共鳴 音カメラ
13	歌唱における呼吸のエクササイズ 体のストレッチなど芸能医学について
14	聴覚のまとめ
15	発声のまとめ

科目名	音楽教育研究Ⅰ ［月3］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GK270300	科目コード	GK2703	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音楽教育を専門的に学ぶにあたり、その前提、基礎となる知識、技能を修得する。
【到達目標】2年次以降に履修する「音楽教育研究Ⅱ・Ⅲ」「音楽科教育法Ⅰ～Ⅳ」で音楽教育の歴史や手法を学んでいくための基礎力と、「音楽教育研究Ⅳ」で卒業論文を執筆するための基盤を培う。

２．授業概要

学校教育の音楽科授業でとりあげられる様々な音楽に対し、その歴史、様式、語法を研究し、発表することから始め、さらにはそれらを指導するための手法の研究に発展させて、音楽教育という分野に求められる基礎力をつける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

履修期間中、各回の授業内容に関する予習、復習のサイクルの継続は不可欠である。とりわけこの授業ではグループ、ならびに個人で、教材作り、研究発表、模擬授業を演習するので、その準備は入念に進められたい。またそれらの演習は学生間で相互評価を行うので、それを今後の研鑽に役立てるよう各自で工夫されたい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内の演習、学年末の試験の以上3点を基に、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてレジュメと譜例を随時配付するので、それらファイリングして管理使用すること。あわせて関連する参考文献も授業内で随時紹介していく。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽教育コース1年次の要となる授業である。その自覚を十分もって受講に臨まれたい。

授業計画	
	グループによる研究発表、教材作り(18~19世紀音楽の様式、語法の研究を中心に)
1	ガイダンス~音楽を学ぶこと、教えること、伝えることとは何か?
2	西洋音楽とポピュラー音楽の歴史を俯瞰する
3	クラシック音楽の基礎 (1)ポリフォニーとホモフォニー
4	クラシック音楽の基礎 (2バッハのフーガ
5	クラシック音楽の基礎 (3)ソナタと交響曲
6	クラシック音楽の基礎 (4)音楽におけるロマンティシズム
7	バッハの音楽と生涯についてのグループによる研究発表
8	ベルリオーズの幻想交響曲についての教材作成
9	ショパンの音楽と生涯についてのグループによる研究発表
10	ビゼーのオペラ《カルメン》についての教材作成
11	リストの音楽と生涯についてのグループによる研究発表
12	チャイコフスキーのバレエ音楽《くるみ割り人形》についての教材作成
13	ワーグナーの音楽と生涯についてのグループによる研究発表
14	ブラームスの音楽と生涯についてのグループによる研究発表
15	前期総括

授業計画	
	個人による教材作り、研究発表(20世紀音楽の様式・語法の研究を中心に)
1	ドビュッシーの音楽と生涯に関するグループによる研究発表
2	ラヴェルのバレエ音楽《ボレロ》を基にオーケストラを概観する
3	バルトークの《ミクロコスモス》から近代の音楽語法を学ぶ (1)旋法・複調
4	バルトークの《ミクロコスモス》から近代の音楽語法を学ぶ (2)リズム・黄金分割
5	コード進行法の基礎
6	ピアノ伴奏付けの実際
7	時代と風土を横断した様々な音楽についての研究発表
8	歌唱指導演習 (1)唱歌
9	歌唱指導演習 (2)イタリア古典歌曲
10	歌唱指導演習 (3)ポピュラー
11	ラフマニノフの音楽と生涯についての研究
12	ガーシュインの音楽と生涯についての研究
13	武満徹の音楽と生涯についての研究
14	ビートルズの音楽と足跡についての研究
15	後期総括

科目名	音楽教育研究II　[火4]						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK270400	科目コード	GK2704	期間	通年
担当教員	牛頭　真也						
授業形態	講義および演習	配当学年	2				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	「音楽教育研究Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

［主題］音楽教育とは何か―その現代と歴史を知る
［到達目標］音楽教育に関わる基本的な内容について、講義により得た知識･知見に基づき、受講生各自の研究テーマを追求する力を養う。

２．授業概要

次年度以降の「音楽教育演習Ⅲ」および「卒業研究」の礎となる科目であり、「音楽教育演習Ｉ」での学びを踏まえ、音楽教育の基本的な内容・課題について、現代と歴史の幅広い視野から、実習を交えつつ理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各時の授業の配付資料等をファイルし、必ず復習しておくこと。受講生の発表の際には、教員と綿密に連絡を準備すること。その他、平素、さまざまな音楽教育の場面に常に関心を持ち、また自分にとっての音楽とは何かを振り返り、周囲の人々の音楽の楽しみ方にも注意を向けておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の30%）　受講態度（評価の35%）　実習・発表を含む授業への参加姿勢（評価の35%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『中等科音楽教育法』（音楽之友社）
その他は資料を作成し、配布する。
参考文献はテーマに応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽教育コースの学生にとって要ともいえる授業科目であり、平素から受講生自身の研究の関心を少しずつ焦点化していくよう心がけて欲しい。

授業計画	
	［前期］現代の音楽教育
1	導入：「音楽教育」とは
2	(1)音楽の原点1－音を聴く・探す・記録する
3	(1)音楽の原点2—音楽を協働する
4	(2)特色ある音楽教育法1—カール･オルフ　前半
5	(2)特色ある音楽教育法2—カール・オルフ　後半
6	(2)特色ある音楽教育法3—コダーイ･ゾルターン　前半
7	(2)特色ある音楽教育法4－コダーイ・ゾルターン　後半
8	(2)特色ある音楽教育法5－エミール・ジャック＝ダルクローズ
9	(3)日本に影響を及ぼした音楽教育1－アメリカ
10	(3)日本に影響を及ぼした音楽教育2—イギリス
11	(4)日本の音楽教育の現代的課題1—学習指導要領
12	(4)日本の音楽教育の現代的課題2—伝統音楽　前半
13	(4)日本の音楽教育の現代的課題3—伝統音楽　後半
14	(4)日本の音楽教育の現代的課題4—生涯学習と地域
15	前期総括

授業計画	
	［後期］音楽教育の歴史
1	(1)西洋の音楽教育1―音楽教育の起源
2	(1)西洋の音楽教育2―古代ギリシャの音楽教育
3	(1)西洋の音楽教育3―プラトンとアリストテレス
4	(1)西洋の音楽教育4―古代ローマの音楽教育
5	(1)西洋の音楽教育5―中世の音楽教育
6	(1)西洋の音楽教育6―ネウマ譜と階名唱法
7	(1)西洋の音楽教育7―教育自然主義と音楽教育
8	(1)西洋の音楽教育8―まとめ
9	(2)日本の音楽教育1―古代・中世
10	(2)日本の音楽教育2―近世
11	(2)日本の音楽教育3―伊沢修二の功績
12	(2)日本の音楽教育4―文部省唱歌
13	(2)日本の音楽教育5―童謡と軍歌
14	(2)日本の音楽教育6―学習指導要領の変遷
15	後期総括

科目名	音楽教育研究III 前期［火4］後期［月3］						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK270500	科目コード	GK2705	期間	通年
担当教員	塚原　健太						
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	「音楽教育演習Ⅱ」の単位取得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「主題」音楽教育における今日的課題
「到達目標」音楽教育に関わる基本的な内容について、講義・演習により得た知識・知見に基づき、受講生各自の研究テーマを焦点化していく力を養う。

２．授業概要

昨年度の「音楽科教育法Ⅱ」から得た知識・知見を礎に、各自の卒業論文作成を視野に入れた受講生の研究テーマを探求する。各自の研究テーマに即し、演習を主体として進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自の授業の配付資料などをファイルし、必ず復習しておくこと。受講生の発表の際には、教員と綿密に連絡を取り準備すること。その他、平素、さまざまな音楽教育の場面に常に関心を持ち、また自分にとっての音楽とは何かを振り返り、周囲の人々の音楽の楽しみ方にも興味・関心を持つこと。

４．成績評価の方法及び基準

受講状況・個人発表（評価の50%）
学期末レポート（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『中等科音楽教育法』（音楽之友社）
その他は資料を作成し、配布する。
参考文献はテーマに応じて指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽教育コースの学生にとって要ともいえる授業科目であり、平素から受講生自身の研究の関心を少しずつ焦点化していくように心がけて欲しい。

授業計画	
	[前期] 研究課題の探求
1	導入：卒業論文に向けて
2	新学習指導要領音楽科　改訂の趣旨と目標
3	小学校音楽科の内容の構成
4	小学校音楽科の共通事項の内容
5	小学校各学年の目標及び内容
6	小学校音楽科における伝統音楽
7	小学校篠笛授業実践の内容
8	小学校篠笛授業実践の方法と工夫
9	調査研究の方法
10	調査研究の分析
11	調査研究の考察
12	研究テーマの探索
13	研究テーマ選択の方法
14	研究テーマに沿った文献収集
15	前期総括

授業計画	
	[後期] 卒業論文準備
1	導入：音楽教育の研究を始めるためにー関心の言語化ー
2	音楽教育研究の領域・方法
3	文献検索・管理の方法
4	文献収集・先行研究リビューの方法
5	各自のテーマに関わる先行研究の探索
6	先行研究のリビュー(1)哲学的研究
7	先行研究のリビュー(2)歴史的研究
8	先行研究のリビュー(3)量的研究
9	先行研究のリビュー(4)質的研究
10	先行研究のリビュー(5)アクションリサーチ
11	研究テーマの焦点化
12	研究方法の吟味
13	研究計画の作成方法
14	卒業研究計画の作成
15	卒業研究計画の発表

科目名	アートマネジメント研究１　[水5]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GK274500	科目コード	GK2745	期間	通年
担当教員	横山　仁一、小山　文加						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

芸術を媒介に人と社会を結び広めていくアートマネジメントについて、音楽に特化した領域を研究、実践することが主題である。そしてこの授業での学びから、音楽を通じて文化を普及し社会貢献することのノウハウを音楽教育の分野に反映させることが到達目標である。

２．授業概要

アートマネジメントの歴史と基礎知識を、音楽分野におけるトピックを中心に学び、後期では公演、イヴェントを企画立案、制作運営するための基本的な知識と能力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講前には、各回のテーマについて書物やインターネットで予備知識を得ておき(予習)、受講後は授業の学習内容をノートにまとめること(復習)。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢や課題の実施成果と、各期末での筆記試験、またはレポート提出をあわせて、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レジュメは授業内で随時配付し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	【前期】アートマネジメント学の歴史と基礎知識(音楽分野のトピックを中心に) 担当:小山文加
1	ガイダンス
2	アートマネジメントの背景
3	音楽と市場
4	鑑賞活動の動向
5	クラシック音楽とマネジメントの現場
6	音楽家とパトロネージ
7	ホールの変遷
8	音楽団体と支援
9	文化政策
10	音楽祭とまちづくり
11	企業メセナの発展
12	多様化するコンサート
13	アウトリーチ・ワークショップ
14	これからのアートマネジメント
15	前期総括

授業計画	
	【後期】舞台芸術の歴史と公演の企画制作の実際 担当:横山仁一
1	公演を企画制作するとは?
2	欧米の舞台芸術の歴史
3	日本の舞台芸術の歴史
4	著作権の基礎知識
5	音響の基礎知識
6	照明の基礎知識
7	ステージマネージャー、舞台監督の役割
8	ホール設備、舞台についての基礎知識
9	印刷物作成の基本(1)チラシ、ポスター、チケット
10	印刷物作成の基礎(2)プログラム
11	企画書、予算書の書き方
12	広報と宣伝
13	演奏会企画立案のシュミレーション
14	演奏会制作運営のシュミレーション
15	後期総括

科目名	アートマネジメント研究２　［水5］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GK274600	科目コード	GK2746	期間	通年
担当教員	横山　仁一、小山　文加						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	ME	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

芸術を媒介に人と社会を結び広めていくアートマネジメントについて、音楽に特化した領域を研究、実践することが主題である。そしてこの授業での学びから、音楽を通じて文化を普及し社会貢献することのノウハウを音楽教育の分野に反映させることが到達目標である。

２．授業概要

アートマネジメントの歴史と基礎知識を、音楽分野におけるトピックを中心に学び、後期では公演、イヴェントを企画立案、制作運営するための基本的な知識と能力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講前には、各回のテーマについて書物やインターネットで予備知識を得ておき(予習)、受講後は授業の学習内容をノートにまとめること(復習)。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢や課題の実施成果と、各期末での筆記試験、またはレポート提出をあわせて、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レジュメは授業内で随時配付し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	【前期】アートマネジメント学の歴史と基礎知識(音楽分野のトピックを中心に) 担当:小山文加
1	ガイダンス
2	アートマネジメントの背景
3	音楽と市場
4	鑑賞活動の動向
5	クラシック音楽とマネジメントの現場
6	音楽家とパトロネージ
7	ホールの変遷
8	音楽団体と支援
9	文化政策
10	音楽祭とまちづくり
11	企業メセナの発展
12	多様化するコンサート
13	アウトリーチ・ワークショップ
14	これからのアートマネジメント
15	前期総括

授業計画	
	【後期】舞台芸術の歴史と公演の企画制作の実際 担当:横山仁一
1	公演を企画制作するとは?
2	欧米の舞台芸術の歴史
3	日本の舞台芸術の歴史
4	著作権の基礎知識
5	音響の基礎知識
6	照明の基礎知識
7	ステージマネージャー、舞台監督の役割
8	ホール設備、舞台についての基礎知識
9	印刷物作成の基礎(1)チラシ、ポスター、チケット
10	印刷物作成の基礎(2)プログラム
11	企画書、予算書の書き方
12	広報と宣伝
13	演奏会企画立案のシュミレーション
14	演奏会制作運営のシュミレーション
15	後期総括

科目名	アートマネジメント研究３　[水5]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	GK274700	科目コード	GK2747	期間	通年
担当教員	横山　仁一、小山　文加						
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	ME	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

芸術を媒介に人と社会を結び広めていくアートマネジメントについて、音楽に特化した領域を研究、実践することが主題である。そしてこの授業での学びから、音楽を通じて文化を普及し社会貢献することのノウハウを音楽教育の分野に反映させることが到達目標である。

２．授業概要

アートマネジメントの歴史と基礎知識を、音楽分野におけるトピックを中心に学び、後期では公演、イヴェントを企画立案、制作運営するための基本的な知識と能力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

受講前には、各回のテーマについて書物やインターネットで予備知識を得ておき(予習)、受講後は授業の学習内容をノートにまとめること(復習)。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢や課題の実施成果と、各期末での筆記試験、またはレポート提出をあわせて、総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レジュメは授業内で随時配付し、参考文献は授業内で随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	【前期】アートマネジメント学の歴史と基礎知識(音楽分野のトピックを中心に) 担当:小山文加
1	ガイダンス
2	アートマネジメントの背景
3	音楽と市場
4	鑑賞活動の動向
5	クラシック音楽とマネジメントの現場
6	音楽家とパトロネージ
7	ホールの変遷
8	音楽団体と支援
9	文化政策
10	音楽祭とまちづくり
11	企業メセナの発展
12	多様化するコンサート
13	アウトリーチ・ワークショップ
14	これからのアートマネジメント
15	前期総括

授業計画	
	【後期】舞台芸術の歴史と公演の企画制作の実際 担当:横山仁一
1	公演を企画制作するとは?
2	欧米の舞台芸術の歴史
3	日本の舞台芸術の歴史
4	著作権の基礎知識
5	音響の基礎知識
6	照明の基礎知識
7	ステージマネージャー、舞台監督の役割
8	ホール設備、舞台についての基礎知識
9	印刷物作成の基本(1)チラシ、ポスター、チケット
10	印刷物作成の基礎(2)プログラム
11	企画書、予算書の書き方
12	広報と宣伝
13	演奏会企画立案のシュミレーション
14	演奏会制作運営のシュミレーション
15	後期総括

科目名	ワールドミュージック概論１　（前）［月4］						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GK362100	科目コード	GK3621	期間	半期
担当教員	小日向　英俊、有田　純弘、今田　央、山下　Topo　洋平						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

一般に「クラシック音楽」とよばれる西洋音楽をはじめ、インド、ラテン、南米、アパラチアなどの音楽の旋法やリズムの基礎理論を知識と感覚の両方から修得していく。

到達目標
・それぞれの音楽のスタイルでの簡単な作曲、即興ができる。

２．授業概要

5人の教員がそれぞれの専門領域の音楽について担当する。授業計画を参照のこと。
なお、授業回については交替する場合もある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業で取り上げた曲を何度も聴き、響きやリズム、作曲語法を感覚的に捉えられるようになること。

４．成績評価の方法及び基準

各教員の出す課題またはレポートによる得点を総合し評価する。
平常点：評価の50%
課題、レポート：評価の50%
（平常点は授業への参加姿勢）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布

参考文献
ボールマン，フィリップ・V. 2006.『ワールドミュージック-世界音楽入門』 東京.
デーヴァ，B. C.1994. 『インド音楽序説』. 大阪.
グラウト，D.J. / パリスカ，C.V. 戸口幸策/ 津上英輔/ 寺西基之 共訳　『新西洋音楽史』上・中・下　音楽之友社
浜田滋朗著 『フラメンコの歴史』 晶文社
ドン・ポーレン著　『フラメンコの芸術』　ブッキングまたは現代ギター出版
パセオ編集部編　『フラメンコへの誘い』　晶文社

参考教則本
瀬田　彰 著《フラメンコ・ギター教本》　現代ギター社
伊藤シゲル 著《やさしいフラメンコ・ギター入門》　ドレミ楽譜出版
日野道生 著《フラメンコ・ギター教則本》　ドレミ楽譜出版
池川寿一 著《フラメンコ・ギターの教科書》ドレミ楽譜出版

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	西洋音楽（クラシック）１ モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、チャイコフスキーといった古典派、ロマン派の音楽の作曲法、とくにハーモニーや旋律の構造などを分析しながら、作曲家の表現したいことがどのように音に反映されているのかを探っていく。
2	西洋音楽（クラシック）２ ルネサンスからバロック期の音楽における多声音楽を考察する。ルネサンス期の多声の声楽曲において、歌詞の内容をどのように音で表現しているのか、また、その後のJ.S.バッハの多声音楽にルネサンス期の音楽が与えた影響とバッハの音楽表現の多様性に注目していく。
3	西洋音楽（クラシック）３ ドビュッシー、ラヴェル、バルトーク、ストラヴィンスキー、メシアンといった近・現代の作曲家の音楽の旋律、和音、リズムを中心に各作曲家の特徴的な表現方法を考察する。
4	インド音楽1 インド音楽の旋律法（ラーガ）の基礎を、北インドの音階、旋法の観点から学び、様々な楽器や声で表現を試みることで、「インド的」音楽観を考察する。
5	インド音楽2 インド音楽のリズム法（ターラ）の基礎を、北インドの体系に基づき学び、様々な演奏を聴取することで、強弱拍とはまったく異なるリズムの考え方に耳を開く。
6	インド音楽3 ラーガとターラに基礎を置く即興演奏の方法を理解する。実際に音を出しながら、北インド音楽の即興形式を学ぶ。また、南インドの理論についても学び、視野を広げる。
7	アパラチア音楽1 米国東南部へ伝承されたオールドタイムと呼ばれるフィドル音楽を中心に、その和声や旋律の特色について考察する。
8	アパラチア音楽2 ブルーグラス・スタイルにおける、ケルト音楽やブルーズなど多様な音楽から受けた影響を検証し、その特色を探る。
9	アパラチア音楽3 ジャズやロックなど、現代のポピュラー音楽におけるアパラチア音楽の影響の位置付けについて考察する。
10	フラメンコ１ フラメンコがスペイン南部で発祥した経緯、時代背景の解説を経てフラメンコの基本的音楽構造を考察する。核となる旋法である「ミの旋法」とフラメンコの各種の形式（パロ）が持つメロディー、及びリズムを紹介し、実際にさわりを演奏してみることによってフラメンコへの理解を深める。
11	フラメンコ２ フラメンコの三つ要素であるカンテ（歌）、バイレ（踊り）、トーケ（ギター）がをそれぞれどのようにフラメンコ音楽を表現していくかを解説し（例えばカンテであれば歌詞の内容、発声等）、実際の演奏においてどう絡み合って音楽が構成されていくかを考察する。
12	フラメンコ３ フラメンコギターの特殊奏法を紹介する。それらがフラメンコ音楽でどのように使われるか、また他ジャンルの音楽にどのように使われているかを探っていく。
13	南米音楽１ アンデス地域土着のリズム、音階、アンサンブルの構造を研究する。
14	南米音楽2 南米スペイン語圏に存在する伝統的なリズムに注目し、各国、各地域の音楽的特徴を研究する。
15	南米音楽3 アンデス土着のリズムが現代的な音楽としてどう発展していくのかを研究し、その可能性を探っていく。

科目名	ワールドミュージック演奏論１　（後）［月4］						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	GK362500	科目コード	GK3625	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ワールドミュージック概論と同様、様々な音楽の基礎理論を学習しながら聴感覚やリズム感を訓練していく。
各自の専門領域についての教養を高め、音楽的な創造力を豊かにしていく。

到達目標
・さまざまな時代、ジャンルの音楽の基礎を理解する。
・簡単な曲を初見で正確かつ音楽的に演奏できるようにする。
・即興能力を向上させ種々の旋律、リズムを生かした即興ができる。
・各自の専攻楽器についての幅広い知識をもつ。

２．授業概要

複数の教員がそれぞれの専門領域の音楽について担当する。
なお、授業回については交替する場合もある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の授業で学んだ音階やリズム、ハーモニーを反復練習し、自分の感覚に取り込んでいくこと。

４．成績評価の方法及び基準

各教員の出す課題またはレポートによる得点を総合し評価する。
平常点：評価の50%
課題、レポート：評価の50%
(平常点は授業への参加姿勢)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布

参考文献
ボールマン, フィリップ・V. 2006.ワールドミュージック-世界音楽入門. 東京.
『ギターと出会った日本人たち』竹内貴久雄(ヤマハミュージックメディア)
『写真で見る日本ギター史』安達右一(現代ギター社)

参考教則本、曲集
『完訳・原典版カルカッシギター教則本』原善伸監修(現代ギター社)
「オデル マンドリン教則本」伊藤翁介（全音楽譜出版社)
Ch.G.Schedler/Sonata D-Dur fur Violin und Gitarre(Universal Edition)
M.Guiliani/Kleine Serenade fur Flote und Guitare Op.74(Tekla Edition)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ワールドミュージック概論を履修済みであることが望ましい。

授業計画	
	［半期］　授業回については交替する場合がある
1	西洋音楽（クラシック音楽）１ —旋律と和音について— 古典派、ロマン派の作曲家の歌曲、二重奏曲を中心に、惹きつける旋律とはどのようなものなのか、また背景の和音の響きが醸し出すイメージなどについて、実際に音を出しながら考察していく 初見視奏およびアンサンブルの基礎練習も行う。
2	西洋音楽（クラシック音楽）２ —リズムについて— 近・現代の作曲家の作品をリズムの観点から考察する。また、それらを実際に演奏し、アンサンブルに役立つようさまざまなリズムの感覚を修得していく。
3	西洋音楽（クラシック音楽）３ —バロック期の音楽 チェンバロ— 16世紀から18世紀にかけての重要な鍵盤楽器の一つであるチェンバロは、撥弦楽器である。このチェンバロの面白さ、独自性を体験してもらう。ピアノとの違いを発音機構その他に関してピアノと比較しながら学び、実際に二つの楽器を弾き比べ、タッチ、拍節感、アーティキュレーションなどの違いを実感していく。また古い時代の音楽を演奏する際に考慮するべき様々な事柄を習得する。
4	西洋音楽（クラシック音楽）４ —バロック期の音楽 チェンバロ— チェンバロは伴奏楽器としてもバロック時代を通じて重要な存在であった。通奏低音と呼ばれる独特な伴奏様式が用いられたが、楽譜に記された左手のパートと、その上(下)に付された数字による略記号をもとに右手で和音を即興的に補う形を取った。ジャズのコード進行にも似たこの独自の伴奏システムの基礎を学び、単純な例でこれを実際に弾いてみる。
5	西洋音楽（クラシック音楽）5 —リュートとその音楽— ルネサンスリュートの為の作品から舞曲とポリフォニー音楽についての考察。各声部をパート分けして演奏してみる。
6	西洋音楽（クラシック音楽）6 —リュートとその音楽— バロックリュートの為の作品と楽器の持つ特徴の理解。各弦の音程間隔が狭まり、弦の数が増える事によってどういう響きが出来るか探ってみる。
7	西洋音楽（クラシック音楽）7 —撥弦楽器による通奏低音— リュートやギターなどの撥弦楽器による初歩の通奏低音と理解。通奏低音の数字から内声部を創作してみる。
8	西洋音楽（クラシック音楽）8 —マンドリンとギターの出会い— 同じ撥弦楽器であるマンドリンとギター、しかしその二つの楽器のためのオリジナル作品は、決して多いとは言えない。ルネッサンスから現代まで編曲を含めたレパートリーを探り、その可能性を追求する。
9	西洋音楽（クラシック音楽）９ —マンドリンとギター、日本への伝播— 明治時代、西洋音楽が日本に伝えられた時、非常に重要な役割を担ったのがマンドリンとギターだった。知られざる日本の西洋音楽事始め、そこで果たした両楽器の役割と現在に至る道筋を考察する。
10	西洋音楽（クラシック音楽）10 —ギターとマンドリンの教則本について— 音楽教育に携わるにあたって、重要な事のひとつに教則本の選択がある。 ギターとマンドリンにおける教則本の歴史と現状、またその正しい使い方を考察する。
11	カントリー音楽1 アパラチアの伝承曲におけるペンタトニック・スケールや2ビート・リズムについて考察する。
12	カントリー音楽２ ブルーグラス・スタイルのアンサンブルにおける、典型的なフレーズ・パターンを検証し、実際に演奏してみる。
13	南米音楽１ アンデスの伝統的リズム「ワイニョ」を実際に演奏することでグルーヴを体感する。
14	南米音楽２ 南米特有のポリリズム、八分の六拍子と四分の三拍子の複合リズムについて考察し、演奏する。
15	総括

科目名	英会話講座１　［水5］						
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK3755A0	科目コード	GK3755	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ニューヨーク、ロンドン等のミュージカルスクールやワークショップに留学・参加する機会を想定した、ミュージカルを目指す学生の一般教養としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につけ、英語の発音の訓練、ダンスや演劇に関する専門用語をマスターし、きれいな発音で歌うことを目的とする。

２．授業概要

「only English」
授業計画に沿って、英会話実習を行う。
Learn new words and common spoken phrases. Learn to enjoy basic conversation in the English language.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Listen to English on TV, speak with friends in simple English. Learn songs in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『Exploring English』Tim Harris/Allan Rowe 著
ほかのものも授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	Guidance, Introductions. Exploring English 1, chapter 1, Introducing yourself, greeting people Free conversation
2	Exploring English 1 chapter 1 “to be” This, that, these, those English Songs Free conversation
3	Exploring English 1, chapter 1, asking about and identifying people and objects. Musical Scene in English Free conversation
4	Exploring English 1, chapter 1, indicating location English Songs Free conversation
5	Exploring English 1, chapter 2, Colors, clothes, Asking where others are from. Musical Scene in English Free conversation
6	Exploring English 1, chapter 2, “To Be” Adjetives English Songs Free conversation
7	Exploring English 1, chapter 2, Numbers, time, Describing, people, giving compliments, Asking the time. Musical Scene in English Free conversation
8	Exploring English 1, chapter 3, Furniture, Emergencies, Commands, Reporting an emergency English Songs Free conversation
9	Exploring English 1, chapter 3, locations, Asking about locations, Asking about prices. Musical scene in English. Free conversation
10	Exploring English 1, chapter 3, shopping, Asking about prices. English Songs Free conversation
11	Exploring English 1, chapter 4, At the Dentist's office. People and countries. Musical scene in English. Free conversations
12	Exploring English 1, chapter 4, occupations, Talking about people, describing things. English Songs Free conversation
13	Exploring English 1, chapter 4, ordering fast food, asking and giving information, reading a bus schedule. Musical Scene in English Free conversation
14	Exploring English 1, mini test. Free conversation 前期発表
15	Free conversation 前期発表

授業計画	
	［後期］
1	Exploring English 1, chapter 5, Morning routines, describing actions. English songs Free conversation
2	Exploring English 1, chapter 5, Leisure activities, describing actions. Musical Scene in English. Free conversation
3	Exploring English 1, chapter 5, Colors, clothes, describing people's dress. English Songs Free conversation
4	Exploring English 1, chapter 5, Talking on the telephone Musical Scene in English Free conversation
5	Exploring English 1, chapter 6, Physical Characteristics Small talk English Songs free conversation
6	Exploring English 1, chapter 6, To have, Possessive adjetives Musical Scene in English Free conversation
7	Exploring English 1, chapter 6, Identifying posessions, Describing people English Songs Free conversation
8	Exploring English 1, chapter 6, Getting and giving personal information. Musical Scene in English Free conversation
9	Exploring English 1, chapter 7, food and drinks, English Songs Free conversation
10	Exploring English 1, Chapter 7, the home and furniture Asking about quantity Musical Scene in English. Free conversation
11	Exploring English 1, Chapter 7, There is, there are, Countables and uncountable English Songs Free conversation
12	Exploring English 1, Chapter 7, To like, to want, to need Musical scene in English. Free conversation
13	Exploring English 1, Chapter 7, Asking about quantity, expressing want-desire English Songs Free conversation
14	Free conversation 後期発表
15	Free conversation 後期発表　まとめ

科目名	英会話講座１　［木5］						
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK3755B0	科目コード	GK3755	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ニューヨーク、ロンドン等のミュージカルスクールやワークショップに留学・参加する機会を想定した、ミュージカルを目指す学生の一般教養としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につけ、英語の発音の訓練、ダンスや演劇に関する専門用語をマスターし、きれいな発音で歌うことを目的とする。

２．授業概要

「only English」
授業計画に沿って、英会話実習を行う。
Learn new words and common spoken phrases. Learn to enjoy basic conversation in the English language.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Listen to English on TV, speak with friends in simple English. Learn songs in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『Exploring English』Tim Harris/Allan Rowe 著
ほかのものも授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	Guidance, Introductions. Exploring English 1, chapter 1, Introducing yourself, greeting people Free conversation
2	Exploring English 1 chapter 1 “to be” This, that, these, those English Songs Free conversation
3	Exploring English 1, chapter 1, asking about and identifying people and objects. Musical Scene in English Free conversation
4	Exploring English 1, chapter 1, indicating location English Songs Free conversation
5	Exploring English 1, chapter 2, Colors, clothes, Asking where others are from. Musical Scene in English Free conversation
6	Exploring English 1, chapter 2, “To Be” Adjetives English Songs Free conversation
7	Exploring English 1, chapter 2, Numbers, time, Describing, people, giving compliments, Asking the time. Musical Scene in English Free conversation
8	Exploring English 1, chapter 3, Furniture, Emergencies, Commands, Reporting an emergency English Songs Free conversation
9	Exploring English 1, chapter 3, locations, Asking about locations, Asking about prices. Musical scene in English. Free conversation
10	Exploring English 1, chapter 3, shopping, Asking about prices. English Songs Free conversation
11	Exploring English 1, chapter 4, At the Dentist's office. People and countries. Musical scene in English. Free conversations
12	Exploring English 1, chapter 4, occupations, Talking about people, describing things. English Songs Free conversation
13	Exploring English 1, chapter 4, ordering fast food, asking and giving information, reading a bus schedule. Musical Scene in English Free conversation
14	Exploring English 1, mini test. Free conversation 前期発表
15	Free conversation 前期発表

授業計画	
	［後期］
1	Exploring English 1, chapter 5, Morning routines, describing actions. English songs Free conversation
2	Exploring English 1, chapter 5, Leisure activities, describing actions. Musical Scene in English. Free conversation
3	Exploring English 1, chapter 5, Colors, clothes, describing people's dress. English Songs Free conversation
4	Exploring English 1, chapter 5, Talking on the telephone Musical Scene in English Free conversation
5	Exploring English 1, chapter 6, Physical Characteristics Small talk English Songs free conversation
6	Exploring English 1, chapter 6, To have, Possessive adjetives Musical Scene in English Free conversation
7	Exploring English 1, chapter 6, Identifying posessions, Describing people English Songs Free conversation
8	Exploring English 1, chapter 6, Getting and giving personal information. Musical Scene in English Free conversation
9	Exploring English 1, chapter 7, food and drinks, English Songs Free conversation
10	Exploring English 1, Chapter 7, the home and furniture Asking about quantity Musical Scene in English. Free conversation
11	Exploring English 1, Chapter 7, There is, there are, Countables and uncountable English Songs Free conversation
12	Exploring English 1, Chapter 7, To like, to want, to need Musical scene in English. Free conversation
13	Exploring English 1, Chapter 7, Asking about quantity, expressing want-desire English Songs Free conversation
14	Free conversation 後期発表
15	Free conversation 後期発表　まとめ

科目名	英会話講座１　［月1］（BL専用）						
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK3755C0	科目コード	GK3755	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

未来にニューヨークの研修旅行、外国人ゲストティチャーのよるワークショップに留学・参加する機会を想定した、ダンサーを目指す学生の一般教育としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につける。英語の発音の訓練。ダンスに関する専門用語をマスターし、きれいな発音で話せることを目的とする。

２．授業概要

「only English」
日常英会話のリスニングとスピーキイング、英語発音訓練をしながらジャズダンスレッスンと即興インプロヴィゼション。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Listen to English on TV, speak with friends in simple English. Learn songs in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Converation For Dancers、ENGLISH4DANCE、ダンスの実践英語、英会話
Converation For Dancers、ENGLISH4DANCE、ダンスの実践英語、単語話
先生が配るプリント

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として欠席率が３分の１を越えた場合、単位認定を行わない。

授業計画	
	［前期］
1	Class Introduction, 自己紹介、ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
2	ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ　導入
3	ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ　復習
4	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 1： レッスンは受けられるかを確認する、 単語話Chapter １： Body Parts ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
5	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter２：スタジオに登録する 単語話Chapter ２：Muscles ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
6	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ３： レッスンプランを選ぶ・支払う 単語話Chapter ３： Bones ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
7	ENGLISH4DANCE英会話Chapter４：どのレッスンを受ければいいかを聞く 単語話Chapter４：Warm Ups ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
8	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 5：スタジオの設備と場所について聞く 単語話Chapter 5：Breathing ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
9	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 6：ダンサー同士の会話 単語話Chapter ６：Training the core muscles ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
10	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ７： 先生に挨拶をする 単語話Chapter ７：Key vocabulary to remember　前半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
11	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ７： 先生に挨拶をする 単語話Chapter ７：Key vocabulary to remember　後半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
12	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 8：先生に尊敬を表現する 単語話Chapter 8：Transferring body weight　前半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
13	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 8：先生に尊敬を表現する 単語話Chapter 8：Transferring body weight　後半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
14	ジャズダンス、復習
15	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表

授業計画	
	［後期］
1	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 9：レッスン前に先生に伝えておきたいこと 単語話Chapter 9：Sitting positions　前半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
2	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 9：レッスン前に先生に伝えておきたいこと 単語話Chapter 9：Sitting positions　後半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
3	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 10：レッスン中 単語話Chapter 10：Body movements　前半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
4	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 10：レッスン中 単語話Chapter 10：Body movements　後半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
5	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 11：レッスン後、先生に質問する 単語話Chapter 11：Head movements　前半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
6	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 11：レッスン後、先生に質問する 単語話Chapter 11：Head movements　後半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ（後半）
7	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 12：Leg positions Chapter 12：Leg movements　前半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
8	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 12：Leg positions Chapter 12：Leg movements　後半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ（後半）
9	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 13：Back movements 単語話Chapter 13：Hand and arm movements　前半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
10	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 13：Back movements 単語話Chapter 13：Hand and arm movements　後半 ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
11	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 14：Back movements 単語話Chapter 14：Hand and arm movements ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
12	ジャズダンス、英語の歌とせりふの復習（前半）、試験の準備
13	ジャズダンス、英語の歌とせりふの復習（後半）、後半の試験の準備
14	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表
15	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表試験

科目名	英会話講座１　［水2］（DC専用）						
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK3755D0	科目コード	GK3755	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

未来にニューヨークの研修旅行、外国人ゲストティチャーのよるワークショップに留学・参加する機会を想定した、ダンサーを目指す学生の一般教育としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につける。英語の発音の訓練。ダンスに関する専門用語をマスターし、きれいな発音で話せることを目的とする。

２．授業概要

「only English」
日常英会話のリスニングとスピーキイング、英語発音訓練をしながらジャズダンスレッスンと即興インプロヴィゼション。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Listen to English on TV, speak with friends in simple English. Learn songs in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Converation For Dancers、ENGLISH4DANCE、ダンスの実践英語、英会話
Converation For Dancers、ENGLISH4DANCE、ダンスの実践英語、単語話
先生が配るプリント

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として欠席率が３分の１を越えた場合、単位認定を行わない。

授業計画	
	［前期］
1	Class Introduction, 自己紹介、ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
2	ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
3	ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
4	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 1： レッスンは受けられるかを確認する、 単語話Chapter １： Body Parts ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
5	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter２：スタジオに登録する 単語話Chapter ２：Muscles ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
6	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ３： レッスンプランを選ぶ・支払う 単語話Chapter ３： Bones ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
7	ENGLISH4DANCE英会話Chapter４：どのレッスンを受ければいいかを聞く 単語話Chapter４：Warm Ups ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
8	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 5：スタジオの設備と場所について聞く 単語話Chapter 5：Breathing ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
9	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 6：ダンサー同士の会話 単語話Chapter ６：Training the core muscles ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
10	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ７： 先生に挨拶をする 単語話Chapter ７：Key vocabulary to remember ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
11	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ７： 先生に挨拶をする 単語話Chapter ７：Key vocabulary to remember　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
12	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 8：先生に尊敬を表現する 単語話Chapter 8：Transferring body weight ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
13	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 8：先生に尊敬を表現する 単語話Chapter 8：Transferring body weight の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
14	ジャズダンス、復習
15	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表

授業計画	
	［後期］
1	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 9：レッスン前に先生に伝えておきたいこと 単語話Chapter 9：Sitting positions ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
2	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 9：レッスン前に先生に伝えておきたいこと 単語話Chapter 9：Sitting positions　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
3	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 10：レッスン中 単語話Chapter 10：Body movements ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
4	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 10：レッスン中 単語話Chapter 10：Body movements　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
5	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 11：レッスン後、先生に質問する 単語話Chapter 11：Head movements ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
6	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter 11：レッスン後、先生に質問する 単語話Chapter 11：Head movements　　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ（後半）
7	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 12：Leg positions Chapter 12：Leg movements　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
8	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 12：Leg positions Chapter 12：Leg movements　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ（後半）
9	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 13：Back movements 単語話Chapter 13：Hand and arm movements ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
10	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 13：Back movements 単語話Chapter 13：Hand and arm movements　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
11	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 14：Back movements 単語話Chapter 14：Hand and arm movements　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
12	ジャズダンス、英語の歌とせりふの復習（前半）、試験の準備
13	ジャズダンス、英語の歌とせりふの復習、後半の試験の準備
14	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表
15	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表試験

科目名	英会話講座２　［火1］						
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK375600	科目コード	GK3756	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ニューヨーク、ロンドン等のミュージカルスクールやワークショップに留学・参加する機会を想定した、ミュージカルを目指す学生の一般教養としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につけ、英語の発音の訓練、ダンスや演劇に関する専門用語をマスターし、きれいな発音で歌うことを目的とする。

２．授業概要

「only English」
授業計画に沿って、英会話実習を行う。
Learn that English is more than something you study in a classroom. It is a very useful tool for communication for people all around the world.

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Watch Movies and TV in English. Speak with your friends in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『Exploring EnglishII』Tim Harris/Allan Rowe 著
『English First Hand』Marc Helgesen/Steven Brown 著
ほかのものも授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	Guidance, Introductions Free conversation Exploring English 2, Chapter 1, Daily Routines
2	Free conversation Exploring English 2, Chapter 1, Daily Routines English songs
3	Free conversation Exploring English 2, Chapter 1, At the Park, Meeting People
4	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2 Musical Scene, songs
5	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2, Ordering in a Restaurant Food and Drinks
6	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2 Musical Scene English songs
7	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2, Friends, clothes
8	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2, Ordering in a restaurant Musical Scene English songs
9	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2, Ordering in a restaurant
10	Free conversation Exploring English 2, Chapter 2, Clothes shopping, English songs
11	Free conversation Exploring English 2, Chapter 3, Public transportation Musical scene in English
12	Free conversation Free conversation Exploring English 2, Chapter 3, Public transportation English songs Musical scene in English
13	Free conversation Exploring English 2, Chapter 3, Public transportation Musical scene in English
14	Free conversation Exploring English 2, Chapter 3, Invitations, English songs Musical scene in English
15	Free conversation Exploring English 2, Chapter 3, Giving directions and explanations Musical scene in English

授業計画	
	［後期］
1	Free conversation Exploring English 2, Chapter 4 New Musical Scene English songs
2	Free conversation Exploring English 2, Chapter 4, Where to buy things, locations
3	Free conversation, Exploring English 2, Chapter 4 Musical Scene English songs
4	Free conversation Exploring English 2, Chapter 4 Occupations, Borrowing
5	Free conversation Exploring English 2, Chapter 4 Musical Scene English songs
6	Free conversation、 Exploring English 2, Chapter 1-4, mini test
7	Free conversation Exploring English 2, Chapter 5 Musical Scene English songs
8	Free conversation、 Exploring English 2, Chapter 5, Weather, House work, Your street,
9	Free conversation Exploring English 2, Chapter 5, Musical Scene English songs
10	Free conversation、 Exploring English 2, Chapter 6 Musical scene in English
11	Free conversation Exploring English 2, Chapter 6 English songs Musical scene in English
12	Free conversation Exploring English 2, Chapter 6, Leisure Activities, Travel Musical scene in English
13	Free conversation Exploring English 2, Chapter 7 English songs Musical scene in English
14	Free conversation Exploring English 2, Chapter 7, Parties, The Beach, Your Hometown Musical scene in English
15	Free conversation Musical Scene Pre-test 発表

科目名	英会話講座２　［月2］（BL専用）						
代表教員	ダイアナ　ポール　石山	授業コード	GK3756A0	科目コード	GK3756	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	BL	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

未来にニューヨークの研修旅行、外国人ゲストティチャーのよるワークショップに留学・参加する機会を想定した、ダンサーを目指す学生の一般教育としての英会話。ヒアリング・スピーキング・リーディングの基本を身につける。英語の発音の訓練。ダンスに関する専門用語をマスターし、きれいな発音で話せることを目的とする。

２．授業概要

「only English」
日常英会話のリスニングとスピーキイング、英語発音訓練をしながらジャズダンスレッスン,英語の歌とせりふと即興インプロヴィゼション。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Listen to English on TV, speak with friends in simple English. Learn songs in English.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Converation For Dancers、ENGLISH4DANCE、ダンスの実践英語、英会話
Converation For Dancers、ENGLISH4DANCE、ダンスの実践英語、単語話
先生が配るプリント

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則として欠席率が３分の１を越えた場合、単位認定を行わない。

授業計画	
	［前期］
1	Class Introduction, 自己紹介、ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
2	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 15： 単語話Chapter15： ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
3	ENGLISH4DANCE 単語話Chapter 15： 単語話Chapter15：の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ（後半部分）
4	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 16：Traveling movements 単語話Chapter １６：Antonyms ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
5	ENGLISH4DANCE単語話Chapter 16：Traveling movements 単語話Chapter １６：Antonyms　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ（後半部分）
6	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １７：けが 単語話Chapter １７ to use prepositions ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
7	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １７：けが 単語話Chapter １７ to use prepositions　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ（後半部分）
8	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １８ ：スタジオの不都合を伝える 単語話Chapter １８：Your position amongst others ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
9	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １８ ：スタジオの不都合を伝える 単語話Chapter １８：Your position amongst others　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ（後半部分）
10	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １９：先生からのお知らせ 単語話Chapter １９：Center floor ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
11	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter １９：先生からのお知らせ 単語話Chapter １９：Center floor　の続き ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ（後半部分）
12	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２０：先生に質問する 単語話Chapter 2０：How to use come and go ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。
13	ジャズダンス、復習
14	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの前半発表
15	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表

授業計画	
	［後期］
1	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２１：先生に尊敬を表現する 単語話Chapter ２１：Transferring body weight ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
2	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２１：先生に尊敬を表現する 単語話Chapter ２１：Transferring body weight ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ（後半部分）
3	ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ 単語話Chapter 22：Partners and props ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
4	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２２：SNSやブログのコメント 単語話Chapter 22：Partners and props ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ（後半部分）
5	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２３：ダンスの進路について相談する 単語話Chapter 23：Attraction and repulsion ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
6	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２３：ダンスの進路について相談する 単語話Chapter 23：Attraction and repulsion ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ（後半部分）
7	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２４：舞台1~5 単語話Chapter 24：Different expressions for slide ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
8	ENGLISH4DANCE 英会話Chapter ２４：舞台1~5 単語話Chapter 24：Different expressions for slide ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ（後半部分）
9	ENGLISH4DANCE Chapter ２５：舞台６～１０ 単語話Chapter 25：Different expressions for “shake” and “swing” ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ
10	ENGLISH4DANCE Chapter ２５：舞台６～１０　の続き 単語話Chapter 25：Different expressions for “shake” and “swing” ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。　英語の歌とせりふ（後半部分）
11	ENGLISH4DANCE Chapter ２６ ： 事前に予約内容を電話で確認する1~3 単語話Chapter ２６ ： Difference between “hear” and “listen”
12	単語話Chapter ２７ ： Positions and directions on stage ジャズダンス、即興インプロヴィゼション。英語の歌とせりふ
13	ジャズダンス、英語の歌とせりふの復習、試験の準備（前半部分）
14	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表（後半部分）
15	ジャズダンス、復習、英語の歌とせりふの発表試験

科目名	ミュージカル概論　[火2]						
代表教員	ダイアナ　ボール　石山	授業コード	GK375700	科目コード	GK3757	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS・BL・ME・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパで誕生したオペラ、オペレッタ、レビュー。それらがアメリカへ伝播し、新しいエンターテイメントとして生まれてきたミュージカル。時代とともに変遷する音楽芸術の歴史的な流れを学びながら、アメリカ・イギリス・日本の代表的なミュージカル作品を取り上げ、その時代背景やストーリー・音楽を研究･考察する。

２．授業概要

授業計画に沿って、ミュージカルの作品研究を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

できるだけ沢山の舞台（幅広いジャンル）を、批判精神を持って観劇、研究してください。 Learn as much about Musical Theater on Broadway in New York, the Westend in London and in Japan.

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の５０％）
授業へ参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『Improv～A Handbook for The Actor』Greg Atkins 著
『Invitation to the Theatre』George Kernodle 著
『Making Musicals』Tom Jones 著
『A History Of The Musical』John Kenrick 著
『浅利慶太の四季-著述集（１）～（４）』浅利慶太著
『舞台美術入門』高田一郎著
『一冊でわかるミュージカル作品ガイド１００選』瀬川昌久著

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、ミュージカルのはじまり。１８５０～１９００産業革命の影響。 "The Black Crook" 一学期グループリポートのディスカッション。1900～2019、グループは10年間のミュージカルについて研究しょて発表決めます。
2	1900～1910 ミュージカルの元、 Operetta, Variety, Vaudeville, burlesque, Minstrel Shows.
3	1910～1920's Ziegfield Follies. "Showboat" DVD鑑賞。 ミュージカルの始まり。
4	1920's ～ Film, Vaudeville スター誕生。 "Showboat" DVD鑑賞。
5	Easter Parade" DVD鑑賞, Judy Garland, Fred Astaire 主演。 1910’s、1920’sミュージカルのグループリポート発表。
6	1930's～作曲者：Irving Berlin, Gershwin, Leonard Bernstein, Cole Porter "On The Town" DVD鑑賞、Gene Kelly, Frank Sinatra 主演。 1930’s、1940’sミュージカルのグループリポート発表。
7	Take me Out to the Ball Game DVD鑑賞、Gene Kelly主演。 ミュージカル映画の影響。 1950’s、1960’sミュージカルのグループリポート発表。
8	1940's Roger's and Hammersteinチーム、ブックミュージカルの誕生 "Oklahoma" DVD鑑賞。 1970’s、1980’sミュージカルのグループリポート発表。
9	Oklahoma DVD鑑賞。 1990’s、2000’s ミュージカルのグループリポート発表。
10	Band Wagon DVD鑑賞。 2010～2015、2015～2019ミュージカルのグループリポート発表。
11	1940's ミュージカル映画の影響 "Singing In The Rain" DVD鑑賞。
12	1950's～ "Broadway's Golden Age" Roger's and Hammerstein の成功が続く。"The King & I", "South Pacific", "Carousel", "Sound Of Music."
13	1950年代の有名な作品。
14	Westside Story 天才作曲者Leonard Bernstein. この作品でミュージカルが大きく変わります。観客は、ミュージカル作品から社会的メッセージも受け取られるようになります。
15	Westside Story DVD鑑賞 演出、振付 Jerome Robbins プロデュサー Harold Prince 作詞 Stephen Sondheim

授業計画	
	［後期］
1	1960's "End of the Golden Era" 社会的な影響。 "We Shall Overcome" 公民権運動の影響。 Vietnam War ベトナム戦争の影響。 Rock and Roll ロックンロールの影響。 2学期のリポート課題をディスカッション。日本のプロダックション、劇団、舞台作ってる団体。
2	Fiddler on the Roof DVD鑑賞。 観客に社会的メッセージを投げかけ、考えさせる作品。
3	Fiddler on the Roof DVD鑑賞。
4	初めてのロックミュージカル"HAIR"若い人の反抗時代（反戦運動、学生運動）。 "HAIR" DVD鑑賞。
5	Cabaret, Sweet Charity Bob Fosse "フォッシー･スタイル"の登場。 日本のミュージカル団体、プロダックションのリポート発表。
6	1970's Concept ミュージカル、 Rock Opera "Jesus Christ Superstar" 作曲 Andrew Lloyd Webber "Company" 作曲 Stephen Sondheim 日本のミュージカル団体、プロダックションのリポート発表。
7	Jesus Christ Superstar DVD鑑賞。 日本のミュージカル団体、プロダックションのリポート発表。
8	1980' s 作品ディスカッションと DVD鑑賞。 プロデュサーJoseph Papp 演出、振付 Michael Bennett 日本のミュージカル団体、プロダックションのリポート発表。
9	1980's～ The British Invasion, "CATS" 、"The Phantom of the Opera" Andrew Lloyd Webber "Les Miserables" Claude-Michael Schoenberg, Alain Boubil 日本のミュージカル団体、プロダックションのリポート発表。
10	Sondheim Vs. Webber "Into The Woods" Stephen Sondheim 日本のミュージカル団体、プロダックションのリポート発表。
11	1990's～ "Miss Saigon," "The Phantom Of The Opera", "Rent" DVD鑑賞。 作曲者Andrew Lloyd Webber
12	2000～ 2002 映画"Chicago", 2006 映画 "Dream Girls" 鑑賞。
13	2005～ The Producers DVD鑑賞。 新しい作品。
14	日本の作品、劇団四季、東宝、ホリプロなど。 概論復習。
15	What is next? 概論復習。

科目名	演技論１　（前）［水3］						
代表教員	兵藤　公美	授業コード	GK377300	科目コード	GK3773	期間	半期
担当教員	大倉　マヤ						
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演じる俳優の感覚と身体に特化して、自分自身をどのように操縦するか、
その為の方法と考え方を理解して実践、演技術を身につける。
また、俳優が準備するべきこと、演出家とのコミュニケーションの取り方、俳優の仕事とはなにか、演技とはなにか、語れる言葉をみつける、等、自立した俳優の感性を育成。

２．授業概要

テキストを使用して、相手とのコミュニケーション、すなわち情報の伝達、意思の疎通のエクササイズから始め、
自分（演じる役）の目的や欲望を分析し、自分自身が実感を持ってセリフを発し、実感を持った行動起こすためのトレーニング。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常生活を俳優としての視点で観察。日常におけるさまざまなできごとや状況に鈍感にならないよう、自分が感じたこと、
疑問に思ったことを検証、言語化していく。
視野を広く、感覚のアンテナを敏感にしておく。
舞台芸術に偏らず、絵画、映画、文学、など鑑賞する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業の都度、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各個人を指導する為、積極性、高い向上心が求められます。

授業計画	
	［半期］
1	演技について講義、質疑応答
2	自分の感覚とは 以下日本の戯曲の抜粋を使用
3	演技における相手を見る、聴くということとは
4	相手の意図と自分の意図とは
5	身体が勝手に動くとは
6	役の人物の分析の仕方
7	イメージをすることの重要さとは 以下ミュージカルの台本を使用
8	空間把握、演技者が作らなければいけないリズム、呼吸とは
9	感情を作り出すとは
10	セットや小道具と演技をするとは
11	相手とのコンタクトの取り方
12	シーンを立ち上げるとは
13	台本の読み取り方
14	キャラクター表現とは
15	演じる楽しさ、自由とは

科目名	演技論１　（前）　［木2］　（AS専用）						
代表教員	内田　朋紀	授業コード	GK3773A0	科目コード	GK3773	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優、歌手を目指し業界で活躍するために企画力、プレゼンテーション能力を身につける。

一般企業においてもオリジナルキャラクターやオリジナルソングなどを採用することが増えている昨今、企業が何を求めているかを理解し、表現の場としての立ち回り方なども幅広く習得する。

２．授業概要

表現の場であり国内最大のイベントであるコミックマーケットの歴史を紐解きながら、どのように付き合っていくかを学習する。

企業が求めていることを中心に社会に出るために必要な知識を学習する。

実際にイベント運営や、ラジオ番組の企画、トークショーのプレゼンテーションなどを行っていただきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間外でも企画書や台本などを作っていただきます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(100パーセント)から総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてレジュメなどの配布を行う。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演技論１」、「演技論２」は同じ年度に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	授業内容の概要説明／他の学生とコミュニケーションを取りながら個々の目標を確認する。
2	企業の望む声優、アニソン／企業が何を望んで、どのような人材を求めているかを考える。
3	企業の望む声優、アニソン／私が経営する有限会社ねこのしっぽがどのように声優、アニソンに関わってきたかを話しながら今後のビジョンを考えていく。
4	個人でも参加しやすいアマチュアイベントである同人誌即売会の歴史／世界最大の同人誌即売会「コミックマーケット」の誕生から現在に至るまでを解説する（1）1975年の創世記から1990年の幕張メッセまで
5	個人でも参加しやすいアマチュアイベントである同人誌即売会の歴史／世界最大の同人誌即売会「コミックマーケット」の誕生から現在に至るまでを（2）1991年の晴海国際展示場から現在の東京ビッグサイト、スペシャルイベントまで
6	個人でも参加しやすいアマチュアイベントである同人誌即売会の歴史／「コミックマーケット」以外の同人誌即売会イベントについて考察する
7	同人誌即売会の知名度が上がることで近年問題となっている点／著作権、表現の自由など
8	同人誌即売会の知名度が上がることで近年問題となっている点／イベント会場を取り巻く環境など
9	同人誌即売会を開催してみよう！／主催するにあたっての説明。実際に川崎市産業振興会館でイベントを行います。
10	同人誌即売会を開催してみた感想、気づいた点などをディスカッションする。
11	同人誌即売会でサークル活動をするにあたって注意しなければいけない事、製作などでサークルに関わる場合の注意点。
12	ラジオ番組の疑似体験／説明
13	ラジオ番組の疑似体験／グループで内容を決める
14	ラジオ番組の疑似体験／台本を作ってみよう
15	ラジオ番組の疑似体験／本番

科目名	演技論２　（後）［水3］						
代表教員	大倉　マヤ	授業コード	GK377400	科目コード	GK3774	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目							
教員免許状							

１．主題・到達目標

俳優の演技は実技だけでなく、理論や思想も重要である。上演を前提とした本番のための稽古では、とにかく目の前にある課題をこなすことで精一杯になってしまうが、この授業では、そもそも「演技をする」というのはどういうことなのか？「よい演技」とはどういう状態をさすのか？を、時間をかけて共に検証していきたい。
３年次になって、この２年間の経験から、演技について深く学びたいと思った者が、自分で自分の演技について検証し、考えられるようになることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って、演技とは何かを考えるための方法論を学び、実際の戯曲を使ってその方法論をどう使うかを実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

その日の授業によって、テーマに沿った観察や演技プランの研究、戯曲の読み込みなどの課題を出す。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の７０％）
レポート（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：ステラ・アドラー『魂の演技レッスン22』
その他、使用テキストは授業の際に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス：授業内容の説明に加えて、各受講学生が抱えている演技に対する問題点を明らかにし、この授業の取り組み目標を各人が持つ。
2	演技におけるリラックス１：俳優の魅力を最大限に発揮するためのリラックス状態はどのようなものなのか、スタニスラフスキーの考え方を解説、体験する。
3	演技におけるリラックス２：前回学んだことを、実際に場面を演じる中で実践する
4	オリジナリティのある演技プランの研究１：役を演じる指針となる役の「課題」を個人の体験からつかむ方法を学ぶ。
5	オリジナリティのある演技プランの研究２：各人が設定した「課題」に沿って、実際に「行動」する。
6	オリジナリティのある演技プランの研究３：「行動」から生まれる役の「感情」をつかむ。
7	オリジナリティのある演技プランの研究４：役の人間が見えているはずのもの（実際の景色、記憶など）を具体的に「視覚化」することによって、演技の強度を増す方法を学ぶ。
8	アクションとリアクション：実際に相手役と演技し、演技プランとその場で起こることへのリアクションの両立を目指す。
9	集団創作の作法：演技は１人でできる範囲は限られている。集団で創作する時に必要な作法を学ぶ。
10	演技のリアリティ：非現実的な設定や自分から遠い役柄を演じる時に、観客の共感を得る演技をする方法を検証する。
11	「行動の理由づけ」１：実際の上演戯曲を使って、登場人物の行動の理由を考える。
12	行動の理由づけ２：前回の授業で検証した理由に従い、実際に相手役と演技をしてみる。同じセリフでもそこに内在する理由によってどのように演技が変わるか検証する。
13	稽古方法を考える：自分にとってよい俳優とはなにかということを考え、そのための稽古方法を自分で見つけられるようにする。自主稽古の方法。
14	今まで学んだことを使い、実際の戯曲を演じてみる。
15	まとめ

科目名	演技論２　（後）　［木2］　（AS専用）						
代表教員	内田　朋紀	授業コード	GK3774A0	科目コード	GK3774	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優、歌手を目指し業界で活躍するために企画力、プレゼンテーション能力を身につける。

一般企業においてもオリジナルキャラクターやオリジナルソングなどを採用することが増えている昨今、企業が何を求めているかを理解し、表現の場としての立ち回り方なども幅広く習得する。

２．授業概要

表現の場であり国内最大のイベントであるコミックマーケットの歴史を紐解きながら、どのように付き合っていくかを学習する。

企業が求めていることを中心に社会に出るために必要な知識を学習する。

実際にイベント運営や、ラジオ番組の企画、トークショーのプレゼンテーションなどを行っていただきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間外でも企画書や台本などを作っていただきます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(100パーセント)から総合的に判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてレジュメなどの配布を行う。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演技論１」、「演技論２」は同じ年度に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	前期を振り返って／あらためて要点をまとめる。
2	アピールに必要なスキル／印刷の種類や特徴を考えてデザインする（オフセット印刷、オンデマンド印刷、用紙など）
3	アピールに必要なスキル／印刷物の原稿作成で気をつけること（断ち切り、色の特徴、モニターキャリブレーションなど）
4	アピールに必要なスキル／印刷物（名刺、チラシ、パッケージなどを）を効果的に見せるポイントをサンプルを見ながら説明
5	SNSの関わり方／動画配信などの注意点／SNSの元となったパソコン通信、草の根ネットワークの歴史から説明
6	SNSの関わり方／動画配信などの注意点／NGワード等、実際に起きたトラブルを交えて説明
7	有限会社ねこのしっぽの歴史を紐解く（1）会社を起こすという事
8	有限会社ねこのしっぽの歴史を紐解く（2）会社を維持させるためには
9	有限会社ねこのしっぽの歴史を紐解く（3）繋がりを広げていく重要性
10	場をまとめるスキル／企画をまとめる事／自己主張だけでは務まらない、周りを見る力を考える
11	トークショーの疑似体験／説明
12	トークショーの疑似体験／グループで内容を決める
13	トークショーの疑似体験／台本を作ってみよう
14	トークショーの疑似体験／本番
15	1年のまとめ

科目名	演出論１　（前）［月2］						
代表教員	倉迫　康史	授業コード	GK377500	科目コード	GK3775	期間	半期
担当教員	篠原　真、横山　仁一						
授業形態	講義・実習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演出とはどんな仕事なのかを知る。前半は演出家の視点について知ることで、俳優としての演出眼を養う。後半は演出におけるコミュニケーションの方法を学ぶ。

２．授業概要

授業計画に沿って、前半は演出家は「俳優の演技のどこを見ているのか」「俳優の演技に何を要求しているのか」を解説、検証していく。後半は演出において「抽象的なことをどう言葉にしていくのか」「俳優やスタッフとのコミュニケーションをどう行っていくのか」の技術を解説、実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で紹介する演出理論書の購読
観劇の際に演出の視点から分析を行う。

４．成績評価の方法及び基準

試験・レポート（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演出論２」は「演出論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	なぜ俳優に演出を学ぶ必要があるかの解説。俳優の演出力を養うことの重要性を知る
2	演出家とはどういう存在なのか。演出家の歴史とその存在意義を講義。
3	俳優の演出力「みる力」の解説①。「みる」とはどういう行為なのか。観ると視るの違いなど
4	俳優の演出力「みる力」の解説②。「みる力」のうち「省察」について解説と検証
5	俳優の演出力「みる力」の解説③。「みる力」のうち「観察」について解説と検証
6	俳優の演出力「みる力」の解説④。「みる力」のうち「俯瞰」について解説と検証
7	俳優の演出力「みる力」のうち「省察」の実践。
8	俳優の演出力「みる力」のうち「観察」の実践。
9	俳優の演出力「みる力」のうち「俯瞰」の実践。
10	俳優の演出力「語る力」の解説①。演出における語彙の種類と重要性。
11	俳優の演出力「語る力」の解説②。抽象的な事柄を具体的に言語化する方法の解説と実践。
12	俳優の演出力「語る力」の解説③。創作現場におけるコミュニケーションの実用例をシミュレーションする。
13	「空間」を演出する技術について解説
14	「時間」を演出する技術について解説
15	「人間関係」を演出する技術について解説

科目名	演出論１　（前）［木1］（AS専用）						
代表教員	山下　順子	授業コード	GK3775A0	科目コード	GK3775	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

豊かで優れた表現者(声優・俳優・歌手・ナレーター等）になるために、プロの現場で表現を磨き続けることができる人材になるために、演技、演出の基礎と基本を、様々な戯曲にふれることで習得する。様々な角度からアプローチすることで自らの演出方針を出せる人間性と専門技術を磨く。つまり自分で自分を演出し、プロデュースしていくこと、そのために必要な技術や知識の習得、各人が魅力的な表現者になることを目標とする。声優・俳優・歌手・ナレーターとして、習得した技術や知識を実践に結びつけることができる表現者を目指す。

２．授業概要

古今東西の戯曲を読む。解釈し、表現者としての読解力をつける。誤読も含めて楽しく読み込む想像力を養う。本読みや輪読で、演じてみる。人物の気持ちになって、戯曲・物語の世界観の中で生きる。演じ手と聞き手（観客・演出の立場）のスタンスを両方経験する。そのうえで戯曲のシーン全体の解釈を議論する。クラスの演出方針を話し合って出す。履修学生の中からでてきた演出プランで演出した作品づくりをする。リハーサルと授業内成果発表。講評と総括。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

復習は授業の内容を自分の言葉で置き換え習得できているかどうか確認する。疑問点は次回授業で質問する。予習は授業の都度、次週までの課題を課すので、自ら意欲と興味をもって取り組むこと、その中で次週授業での個人目標を見つけられるようになること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（授業内成果発表、個人の意見の発表等、予習の成果と人前での表現者としてのモチベーションの持ち方と表現力の習得具合）（評価の７０％）。試験・レポート（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜コピーして配布する。
岸田國士、井上ひさし、別役実、ウィリアム・シェイクスピア、ヴィクトル・ユーゴー、アントン・チェーホフ、ヘンリック・イプセン、ピーター・シェーファー等の戯曲を予定。日本の現代劇作家の作品や、アニメへのつながりを考慮の上、日本児童文学作品にも触れる。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス。授業の目的を履修学生全員が理解できるように解説する。演劇ワークショップで使われるシアターゲームを使ってコミュニケーションを図る。「他己紹介」を使って自己と他者の再発見。「演技とは何か？」「演出とは何か？」について現段階での理解を共有する。第1回めの授業を踏まえたうえで次週までの課題、「演技とは何か？」「演出とは何か？」について下調べをしてくる。
2	「演技とは何か？」「演出とは何か？」の発表と意見交換。
3	演技の理論についての講義。概論の提示。質疑応答。（前半）
4	演出の理論についての講義。概論の提示。質疑応答。（後半）
5	戯曲の輪読と検証①古典（シェイクスピア等の戯曲より抜粋）
6	戯曲の輪読と検証②近代（イプセン、チェーホフ、岸田國士等の戯曲より抜粋）
7	戯曲の輪読と検証③現代（日本の劇作家の戯曲より抜粋予定）
8	朗読劇とドラマリーディング（近年上演の多い、戯曲を複数の出演者で読むパフォーマンス）の違いの検証。
9	現代戯曲の本読み。一人一役を通して読むことで、役の貫通コードを探る。演技論の実践への結びつけを図る。
10	現代戯曲をシーンごとに検証。脚本家の意図とシーンを上演に向けて立ち上げる過程で何が表現される必要があるか、何を表現できると面白くなるかの検討。演出論の実践への結びつけを図る。
11	履修学生によるシーンごとの演出プラン（キャスティングも含む）の発表。グループ作業のためのメンバー調整。
12	履修学生各自の演出プランでグループ作業、リハーサル。
13	演出プランに従って音響SE（Sound Effect）/ME（Music Effect）をつけてリハーサル。
14	成果発表。講評。意見交換。自己評価並びに他者の作品作りについての評価ができるようになることを目指す。
15	「演出論１」の振り返りと総括。「演技とは何か？」「演出とは何か？」についての各自の見解や知識の広がり、向上が見られるか検証する。

科目名	演出論２　（後）［月2］						
代表教員	横山　仁一	授業コード	GK377600	科目コード	GK3776	期間	半期
担当教員	倉迫　康史、篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「演出論１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演出とはどんな仕事なのかを知る。前期は演出家は「俳優の演技のどこを見ているのか」「俳優の演技に何を要求しているのか」を解説、実際に演技を行い、検証していく。後期は演出のメソッドを具体的に学び、俳優として自身の演技の自己演出、また作品自体の演出を考えることができる礎を獲得する。

２．授業概要

授業計画に沿って、前期は演出家の視点について知ることで、俳優としての演出眼を養う。後期はインプロ（=即興メソッド）やディバイジング（=グループ創作メソッド）を実践考察することで、俳優としての演技、空間演出法について学び、総括として戯曲のワンシーンを実際に演出する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で紹介する演出理論書の購読。創作に使う素材やアイディアをまとめ準備した上で授業に臨む。

４．成績評価の方法及び基準

試験・レポート（評価の５０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演出論２」は「演出論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］ 1~5回の計5回でインプロメソッド。6~11回の計6回でディバイジングメソッド。12~15回で戯曲のワンシーンを実際に演出する。 ※集まった学生の特性によって、戯曲のワンシーンを実際に演出する4回は、戯曲ではなく、インプロやディバイジングでのシーン創作を演出することがある。 各回冒頭では、ショートコーナーとして学生が最近気になっている街や劇場で見かける演出行為についてプレゼンをし、各回末には、フィードバックとディスカッションを行う。
1	インプロメソッドを使った演技／空間演出法① ・インプロとはなにか？起源・歴史・その必要性 ・導入エクササイズ（衝動を掘り起こす）
2	インプロメソッドを使った演技／空間演出法② ・インプロメソッド体験で理解する演技のメカニズム① （演技の衝動を正当化し状況作りを行う）
3	インプロメソッドを使った演技／空間演出法③ ・インプロメソッド体験で理解する演技のメカニズム② （衝動が正当化された局面を集めてストーリーを作る）
4	インプロメソッドを使った演技／空間演出法④ ・空間演出への応用 （演者のポジショニングにおける意味や効果を実感する）
5	インプロメソッドを使った演技／空間演出法⑤ ・総括
6	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法① ・ディバイジングとはなにか？その起源・歴史・実用例紹介 ・基礎創作①シーンを作るためのルールについて学ぶ
7	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法② ・基礎創作②シーンを彩る様式について学ぶ
8	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法③ ・ストーリーボードを使った創作①劇構造を理解する
9	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法④ ・ストーリーボードを使った創作②対象と表現手法を理解する
10	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法⑤ ・テーマ素材からの再構築創作①導入、準備
11	ディバイジングメソッドを使った演技／空間演出法⑥ ・テーマ素材からの再構築創作①創作、発表
12	戯曲のワンシーンを実際に演出する① ・導入、準備
13	戯曲のワンシーンを実際に演出する② ・演出作業①シーンを立ち上げる
14	戯曲のワンシーンを実際に演出する③ ・演出作業②シーンをブラッシュアップする
15	戯曲のワンシーンを実際に演出する④ ・発表、総括

科目名	演出論２　（後）［木1］（AS専用）						
代表教員	山下　順子	授業コード	GK3776A0	科目コード	GK3776	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「演出論２」は「演出論１」を履修した年度の後期に履修すること。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

優れた表現者として屹立するために、グローバルな視野の中で自らとその所属する集団、プロダクション等のポジションを正確にとらえることができる思考回路を開く。世界の座標軸の中の自らのポジションをとらえる判断力をつける。そのことが、自ら演技し、自らを演出していくうえで強い力となる。他人の演出を受ける立場になっても、冷静な判断・批評ができるようになる。

２．授業概要

「演出論１」の復習ともう1段階上の広げた知識や専門技術の習得。そのうえで自ら演出する作品を選ぶ。試行錯誤、他者との議論を交えて作品を決定。演出し、演出されるモデルケースを複数経験する。体験のプロセスの中で自らの技術の向上や思考の幅を広げ、知識の獲得、他者との共有財産を発見していく。最終的に自分のポジションをどのように評価するか、きちんと総括し、将来に繋げる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

復習は授業の内容を自分の言葉で置き換え習得できているかどうか確認する。疑問点は次回授業で質問する。予習は授業の都度、次週までの課題を課すので、自ら意欲と興味をもって取り組むこと、その中で次週授業での個人目標を見つけられるようになること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（授業内成果発表、個人の意見の発表等、予習の成果と人前での表現者としてのモチベーションの持ち方と表現力の習得具合）（評価の７０％）。試験・レポート（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜コピーして配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「演出論２」は、「演出論１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、「演出論2」の目標の説明。より高度で魅力的な表現に近づくために、声のワークショップを行う。声の魅力のいろいろに迫る。マイクロフォンを使用しない声の幅と魅力を感じる。マイクなしで声の表現はどのような広がりがあるのかを理解する。
2	同じ原作の違う演出作品（翻案作品）に触れる。「ロミオとジュリエット」と「West Side Story」等の提示と検証、意見交換。映像でわかりやすいのは「美女と野獣」、「シンデレラ」アニメ版と実写版の演出の違いを検証。漫画からアニメ化された作品を調べてくるのが次週までの課題。
3	原作が小説や童話でアニメ化、ミュージカル化された作品「あゝ無情」と「レ・ミゼラブル」、宮沢賢治作「グスコーブドリの伝記」「銀河鉄道の夜」等の提示と検証。漫画からアニメ化された作品の発表と共有。
4	「ロミオとジュリエット」と「West Side Story」の本読み。演じる時の違いは何か、検証。聞き手、見る側にとってその違いはどのように感じるのかを検証。次に同じセリフを演出を変えてしゃべってみる、どのような変化が聞き手に生まれるのか？を体験する。
5	キャラクターづくりのワークショップ。演技の技術の幅を広げる。演技と演出の結びつきを試行する。
6	聞く耳を育てる音のワークショップ。演技と演出の結びつきを深める、すなわち演技とは一方的な表現ではなく常に、客にどう見えているか・どう聞こえているか（演出の視点）という冷静かつ客観的な判断をしてふりかえることができなければならないことを実感する。
7	ラジオドラマの台本を読む①。17世紀フランスの劇作家、モリエールの喜劇作品「守銭奴」。
8	ラジオドラマの台本を読む②。1866年ドストエフスキー作「罪と罰」。
9	演技論と演出論の復習と、実践を経て理解が進んだ点を各自検証、発表、意見交換。
10	自ら演出する作品の題材・テーマと演出プランの発表。
11	グループでリハーサル。本日の成果発表。表現しようとしていることが、うまく表現できているか、行った側と、見ていた側とで検証。
12	作品の質を上げるための作り直し。別のグループの作品を演じ、演出する。発表。自分たちの演じ方、演出と違う点、どこが評価できるか、それによってうすれてしまった点はあるのか。それを踏まえて演出プランの練り直し、修正。
13	音・衣装・小道具等を付けたリハーサル。より高度な表現を目指す。
14	成果発表。エヴァリエーション（再評価）。目標（作品作りの主題にどの程度到達したか）・芸術性・グループ（組織）づくりの3点において検証。
15	総括。目標を履修学生各自がどのくらい習得できているかの検証。

科目名	戯曲論　[木2]						
代表教員	倉迫　康史	授業コード	GK377700	科目コード	GK3777	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	MS・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

俳優に戯曲（台本、シナリオ含む）を「読む力」は必須である。オーディションでも「読む力」が試されることが多い。戯曲を「読む」には、書かれてあることを調べる力、書かれていないことを想像する力の双方が必要である。戯曲を分析し、読解するのに必要な俳優の作業と思考法を、実際に課題戯曲を読みこみながら解説、場面創作も行う。

２．授業概要

授業計画に沿って、前期はヨーロッパの代表的な戯曲や劇作家の解説を、後期は日本の現代戯曲の中から良作を選んで上演に必要な作業を解説していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げる戯曲は必ず事前に読んでくること。黙読だけでなく音読も行うこと。
紹介した劇作家の他の戯曲も読み、戯曲への理解を深めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）
レポート（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

俳優として戯曲への理解を重要と考える者

授業計画	
	［前期］
1	戯曲とは何か。その歴史的な成立過程を講義
2	戯曲の要素。戯曲を成り立たせている要素とは何かを分析し、戯曲読解の手がかりを知る
3	ギリシア悲劇を読む①。現存する最古の戯曲であるギリシア悲劇とは何かの講義
4	ギリシア悲劇を読む②。ギリシア悲劇の中から『アンティゴネー』を題材に戯曲の成立過程、時代背景を分析する
5	ギリシア悲劇を読む③。ギリシア悲劇の中から『アンティゴネー』を題材に登場人物の特徴、台詞の様式を解説する
6	ギリシア悲劇を読む④。ギリシア悲劇の中から『アンティゴネー』を音読する。戯曲分析を踏まえて実際に台詞を声に出して読んでみる。要求される俳優の台詞術とは何かを知る
7	シェイクスピアを読む①。最も有名な劇作家であるシェイクスピアの生涯について解説
8	シェイクスピアを読む②。シェイクスピア作品の特徴、時期による傾向の変化について解説
9	シェイクスピアを読む③。受講生の人数・男女比などからシェイクスピア作品を一つ選び、シーンごとに音読しながら解説を加えていく
10	シェイクスピアを読む④。前回の続きを行い、シェイクスピア作品に要求される台詞術や思考法について解説
11	チェーホフを読む①。近代演劇の祖であるチェーホフの生涯について解説
12	チェーホフを読む②。チェーホフの戯曲を演出したスタニスラフスキーについて解説。チェーホフ戯曲とスタニスラフスキーの考案した演技術（スタニスラフスキーシステム）との関係性について
13	チェーホフを読む③。チェーホフの戯曲から一作を選び、その前半を音読しながら解説
14	チェーホフを読む④。前回で選んだチェーホフの戯曲の後半を音読しながら解説
15	シェイクスピア、チェーホフ以外のヨーロッパの著名な劇作家とその代表作を紹介

授業計画	
	［後期］
1	日本の戯曲の歴史を概観する。
2	日本の現代戯曲の多様性とその最先端について解説
3	日本の戯曲史の転換点の解説①。岸田國生について
4	日本の戯曲史の転換点の解説②。寺山修司について
5	日本の戯曲史の転換点の解説③。唐十郎について
6	日本の戯曲史の転換点の解説④。つかこうへいについて
7	日本の戯曲史の転換点の解説⑤。野田秀樹について
8	日本の戯曲史の転換点の解説⑥。平田オリザについて
9	2000年代の若手の劇作家に影響を与えたソーントン・ワイルダーについて解説。
10	ソーントン・ワイルダーの戯曲を読んで解説
11	ソーントン・ワイルダーの戯曲の場面を立ち上げる
12	現代の日本戯曲から一作選んで解説
13	前回選んだ現代日本戯曲を使って立ち稽古を行う
14	前回選んだ現代日本戯曲を上演する
15	戯曲や台本を書くにあたって留意するべきことを解説

科目名	ワークショップリーダー養成講座１　（前）［火2］						
代表教員	横山　仁一	授業コード	GK377800	科目コード	GK3778	期間	半期
担当教員	田野　邦彦、篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、公共ホールや教育現場でミュージカルや演劇を活用したワークショップのニーズが高まっている。「学校教育」「介護・医療」「防犯活動」「企業研修」「地域の様々な課題解決」等の分野において、他者とのコミュニケーション力や多様性、想像力の育成という観点で舞台芸術の知見が極めて有効であると、認知され始めたからである。しかし、実際にワークショップを行うにあたって、しかし、実際にワークショップを行うにあたって、ワークショップの講師＝ワークショップリーダーに必要なスキルや知識とは何かを習得しないまま行っても、クライアントや参加者に十分な満足を与えることはできない。そこで、ワークショップリーダーに必要なリテラシーやスキル、ワークショッププログラムの作成や進行について教える。

２．授業概要

授業計画に沿って、ワークショップとは何かについての分析、実際にワークショップをやるにあたっての理論実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ワークショッププログラムの企画をたてる。実践後に報告書をまとめる。ディスカッションやアドバイスを踏まえ企画をブラッシュアップする。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）
プログラムの完成度（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配付する。
『演劇ワークショップのつくりかた―現場からの実践ガイド―』こまばアゴラ劇場オリジナルのワークショップを創る研究会 編
発行 有限会社アゴラ企画
他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ワークショップリーダー養成講座２」は「ワークショップリーダー養成講座１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］ 第1回～第4回の授業においてイントロダクションと理論を習得を済ませた後、講師からの課題設定に基づき履修学生は自ら実現したいワークショップを企画し、第5回から第9回の授業において、一学生につき20分程度のプレゼンテーションとディスカッションを行う。クラスでのディスカッションと教員からのアドバイスを踏まえることで、ワークショップの多様性を間接的に知る機会となる。第10回以降は、実際にプレゼンテーションされた履修学生による企画に基づき、それらのプログラムを発展させるために有用な仕掛け（アイスブレイクやエクササイズ）を教員が提案、体験した後、グループ単位でワークショップのファシリテーション（進行）を行う機会を得る。毎回他の履修学生および講師をまじえた振り返り（フィードバック）を綿密に行うことにより、実践で活用できるワークショップの進行の技術と知識をより具体的に習得する。
1	モデルワークショップの体験 コミュニケーション教育の現場で実施されているワークショップ・プログラムを体験する
2	ワークショップとはなにか？① その起源、現代社会における必要性
3	ワークショップとはなにか？② アート・マネージメントの最新動向
4	ワークショップとはなにか？③ ワークショップの構成要素である「プログラム」と「ファシリテーション」について、具体的な成立構造、構成方法、留意点に関する必要な事柄を知る
5	ワークショップ企画プレゼンテーション① 事前に講師から与えられた課題に基づきワークショップを企画、一人あたり20分程度のプレゼンテーションと全体ディスカッション、講師からのフィードバックを実施する
6	ワークショップ企画プレゼンテーション② 第5回とは異なる学生たちによるプレゼンテーション　導入
7	ワークショップ企画プレゼンテーション③ 同上　基本
8	ワークショップ企画プレゼンテーション④ 同上　応用
9	ワークショップ企画プレゼンテーション⑤ 同上　発展
10	グループ・ファシリテーション体験① アイスブレイクに有効なアクティビティ（シアターゲーム）の体験の後、グループを編成し、具体的な課題設定のもとでプログラムの流れを構成する
11	グループ・ファシリテーション体験② 汎用性の高いシアターゲームを実施する複数のグループによるデモンストレーションと、全体ディスカッションと講師からのフィードバック
12	グループファシリテーション体験③ 身体表現等を意識したアクティビティを実施する複数のグループによるデモンストレーションと、全体ディスカッションと講師からのフィードバック
13	グループファシリテーション体験④ 対話的な活動を重視したメインコンテンツを実施する複数のグループによるデモンストレーションと、全体ディスカッションと講師からのフィードバック
14	グループファシリテーション体験⑤ 発表を前提としたメインコンテンツを実施する複数のグループによるデモンストレーションと、全体ディスカッションと講師からのフィードバック
15	ワールドカフェもしくはSDGsを活用したワークショップ形式で、前期に学んできたことを全体で振り返る

科目名	ワークショップリーダー養成講座２　（後）［火2］						
代表教員	横山　仁一	授業コード	GK377900	科目コード	GK3779	期間	半期
担当教員	篠原　真						
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ワークショップリーダー養成講座１」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

近年、公共ホールや教育現場でミュージカルや演劇を活用したワークショップのニーズが高まっている。「学校教育」「介護・医療」「防犯活動」「企業研修」「地域の様々な課題解決」等の分野において、他者とのコミュニケーション力や多様性、想像力の育成という観点で舞台芸術の知見が極めて有効であると、認知され始めたからである。しかし、実際にワークショップを行うにあたって、しかし、実際にワークショップを行うにあたって、ワークショップの講師＝ワークショップリーダーに必要なスキルや知識とは何かを習得しないまま行っても、クライアントや参加者に十分な満足を与えることはできない。そこで、ワークショップリーダーに必要なリテラシーやスキル、ワークショッププログラムの作成や進行について教える。

２．授業概要

授業計画に沿って、ワークショップとは何かについての分析、実際にワークショップをやるにあたっての理論実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ワークショッププログラムの企画をたてる。実践後に報告書をまとめる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）
プログラムの完成度（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜配付する。
『演劇ワークショップのつくりかた―現場からの実践ガイド―』
こまばアゴラ劇場オリジナルのワークショップを創る研究会 編
発行 有限会社アゴラ企画
他

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ワークショップリーダー養成講座２」は「ワークショップリーダー養成講座１」を履修した年度の後期に履修すること。

授業計画	
	［半期］ 後期の２では前期の1のプランや過去の実践例を踏まえ、最適な実習先（クライアント）を決定、下見や打合せを経て、クライアントの要望に応じて、前期の様々なプランを活かしつつ、想定対象向けのプログラムを立案準備し、実際にワークショップを実施、フィードバックを行い、それぞれが自立したワークショップリーダーとして活動していけるイメージを共有する。
1	ワークショップの事例研究+実習先の検討① 過去の実習事例を映像、写真資料を交え、プロセスを解説。実習先（対象）によってどのような実習が可能になるかディスカッションしてアイディアを膨らませる。
2	ワークショップの事例研究+実習先検討② 実際の教育現場で注目されている事例を紹介。具体的な実習先候補について履修生がコンタクトしてみた状況を共有し、実習先を決める。
3	ワークショップ実習のプランニング① 決定実習先に応じて前期プランをアレンジする。
4	ワークショップ実習のプランニング② 第3回のアレンジ案をそれぞれがプレゼンし、実習先でのプレゼン案、打合せ事項をまとめる。
5	ワークショップ実習先の下見と打合せ
6	ワークショップ実習のプログラミング、台本作り① 下見と打合せ内容を踏まえ、目玉となるメインコンテンツ案を決める。
7	ワークショップ実習のプログラミング、台本作り② メインコンテンツに向かう導入部、必要なエクササイズ等の流れを決める。
8	ワークショップ実習のプログラミング、台本作り③ 第8回までに決めた内容を、具体的にどう進行運営するか、役割を決め、台本を作る。必要な資料を作成する。
9	ワークショップ実習練習（シミュレーションと検証）① プログラムの流れについて、実際に試しつつ、それぞれのフィードバックを踏まえ、必要があればディスカッションし、修正する。
10	ワークショップ実習練習（シミュレーションと検証）② 第9回までにまとまったプログラムを、ファシリテーションの観点から検証し、それぞれのファシリテーションについて意見交換、必要に応じて修正を加える。
11	ワークショップ実習練習（シミュレーションと検証）③ 本番に向けた最終確認と練習
12	ワークショップ実習本番①
13	ワークショップ実習本番② 本番①を踏まえ、必要な修正を加えた上で実施する。
14	ワークショップ実習の振り返り、フィードバック
15	ワークショップ論まとめ、活動総括。

科目名	オーディション実習　（集）						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK378100	科目コード	GK3781	期間	集中
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

既存のミュージカルカンパニーやタレント・モデル・声優事務所などのさまざまなオーディションに対応・即応出来る学生の育成を第一義とする。また、外部講師（様々な業界関係者）をゲストとして迎え、対外的なアピール力を養う。

２．授業概要

オーディションの情報入手方法、プロフィール写真の撮り方、書類の書き方、面接における自己アピール、心構え、衣装、所作、話し方などのトレーニングを行う。学生一人ひとりの魅力を最大限発揮出来るよう、毎回テーマを決めて（歌・ダンス・演技など）パフォーマンスを行い、教員含めた全員でディスカッションを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の感想文（400字程度）を毎回提出すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

動きやすい服装で受講すること。場合によっては、指定することもある。（レオタード、スーツ、ドレスなど）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（オーディションを受けるための準備について）
2	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション（ヴォーカル）
3	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション（ジャズダンス）
4	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション（タップダンス）
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［後期］
1	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション(ヒップホップ)
2	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション(舞台監督)
3	ゲスト講師によるレクチャーおよび模擬オーディション(演出家)
4	さまざまなオーディションに対しての準備、当日の心構え、反省点などを総括する。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	スタッフワーク概論　（後）［月5］						
代表教員	篠原　真	授業コード	GK378700	科目コード	GK3787	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	MS・BL	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ミュージカルは、総合舞台芸術である。スポットライトを浴びるキャスト以外のスタッフ(音楽監督、音響、舞台監督、照明、美術、衣装、メイク、制作など)の仕事内容について、それぞれの専門家(ゲスト講師)に解説していただき、理解を深めることを目標とする。
また、舞台独自の用語や習慣について、日本とアメリカ・イギリスとの違いも含めて解説する。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義を行う。ただし、外部講師のスケジュールにより内容が変更される可能性あり。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

予習、復習を必ず行うこと。また、それぞれが観劇した公演についても、作品や俳優以外のスタッフワークに関心を持ち、視野を広げること。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(50%)
レポート提出、試験(50%)

5．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ スタッフワーク（音楽監督、音響、舞台監督、照明、美術、衣装、メイク、制作など）の仕事内容や役割について、深く理解し、視野を広げるための授業である。
1	音楽監督の仕事について。（演奏形態やその役割を中心に）
2	音楽監督の仕事について。（歌やオーケストラを中心に）
3	音響の仕事について。（役割や専門用語を中心に）
4	音響の仕事について。（歌やオーケストラを中心に）
5	舞台監督の仕事について。（役割や舞台用語を中心に）
6	舞台監督の仕事について。（舞台と映像の違いを中心に）
7	照明の仕事について。（役割や照明用語を中心に）
8	照明の仕事について。（舞台と映像の違いを中心に）
9	舞台美術の仕事について。（役割や美術用語を中心に）
10	舞台美術の仕事について。（マッピングなど映像を中心に）
11	舞台衣装の仕事について。（役割や衣装用語を中心に）
12	舞台衣装の仕事について。（日本をはじめ、様々な国の伝統的な衣装を中心に）
13	メイクの仕事について。（役割やメイク用語を中心に）
14	制作の仕事について。（役割や制作でよく使われる用語を中心に）
15	スタッフワークの仕事全般についての総括。

科目名	応用キーボードソルフェージュ　[月3]						
代表教員	門倉　聡	授業コード	GK515200	科目コード	GK5152	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ポピュラー音楽を表現する上で必要な全般的な知識、楽典をクラシック音楽との接点から学びそれを実践できるようにすることが目標。

2．授業概要

講義及び実習
前期は基本的なメロディ、リズム、ハーモニーの学習。後期はそれを実際に演奏するために必要な即興性を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

理論を演奏に結びつけるため、十分な復習が必要。

4．成績評価の方法及び基準

講義での理解度（50%）
試験（50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料はクラス内で配布

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典に関する十分な知識があること。

授業計画	
	[前期]
1	POP MUSIC/導入
2	POP MUSIC/応用
3	Melody/基礎
4	Melody/ソルフェージュ
5	Melody/応用
6	Rhythm/概要
7	Rhythm/概要のまとめ
8	Rhythm/実践
9	Rhythm/グループ実践
10	Rhythm/ソルフェージュ
11	Harmony/概要
12	Harmony/コードネーム
13	Harmony/実践
14	Harmony/ソルフェージュ
15	Harmony/まとめ

授業計画	
	[後期]
1	Arrangement/概要
2	Arrangement/実践
3	Arrangement/グループ実践
4	Arrangement/応用
5	Arrangement/まとめ
6	Ad lib/概要
7	Ad lib/実践
8	Ad lib/グループ実践
9	Ad lib/応用
10	Ad lib/まとめ
11	Playing/概要
12	Playing/奏法
13	Playing/実践
14	Playing/グループ実践
15	Playing/まとめ

科目名	身体向上メソッド　[金4]						
代表教員	長井　芽乃	授業コード	GK515400	科目コード	GK5154	期間	通年
担当教員	恩田　明香						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

■ボディ・マッピング：
カラダの構造や意識のポイントをシンプルな方法で体感し、様々な状況下においても演奏できる身体作りを目指す。
演奏のために重要な休息のとり方、演奏や練習後のケアの方法など、自己管理法を含め実践で活かせる情報を習得する。

２．授業概要

■脳科学に基づいたボディ・マッピングでは、ピアニストにとって必要な実践で活かせるカラダの情報をわかりやすく学ぶ。
日常生活の動きを基に、「脱力」や「カラダで表現する」など、不可能であると感じていた悩みを体現化できるよう効率的に学習する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

■毎回授業内で行う簡単ワークを日常でも継続復習する。レッスンやピアノ演奏時の変化や気づきを共有しあう。（ボディ・マッピング）

４．成績評価の方法及び基準

平常点１００％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

[ボディ・マッピング]
教科書：書籍「演奏者のための はじめてのボディ・マッピング」（ナガイカヤノ著）ヤマハミュージックメディア刊を使用。（学内ドミナントで購入可能。各社電子書籍の使用も可とするが、各自準備のこと。）　必要に応じてプリントを配布。
参考文献：ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと（トーマス・マーク：春秋社）、だれでも知っておきたい「からだ」のこと（DVDブック；バーバラ・コナブル：春秋社）

[御木本メソッド]
トレーニングボード、必要に応じてプリントを配布。参考文献：「正しいピアノ奏法」御木本澄子著、御木本メソッド エクササイズ集。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

[ボディ・マッピング]
毎回数名ずつ実際にピアノ演奏体験をする。激しい運動はしないが、身体の動きが観察しやすく動きやすい服装で出席する。窮屈なスカートやジーンズを着用の場合は着替えを持参すること。
教科書として書籍「演奏者のための はじめてのボディ・マッピング」（ナガイカヤノ著）ヤマハミュージックメディア刊を使用するため、事前に準備すること（学内ドミナントで購入可能）

[御木本メソッド]
トレーニングのデータ計測を適宜行う。必要に応じてピアノを使用し、トレーニングで改善した部分を実際の打鍵につなげる。「トレーニングボード」を各自用意すること。（学内ドミナントで購入可能）

授業の性質上定員30名で行う。

授業計画	
	［前期］
1	[ボディマッピング]ボディマッピングのトレーニング法 （ボディ・マップとは、演奏傷害の予防・脱力への近道）
2	[御木本メソッド]御木本メソッドの概要（御木本メソッドとは・ピアノ上達のために必要なこと・自分の手の特徴を知る）
3	[ボディマッピング]身体上の6つのバランスポイント　（良い/悪い姿勢、立つ/座る）
4	[御木本メソッド]手首・腕のトレーニング トレーニングボードの組み立て
5	[ボディマッピング]できるカラダはリセットから （ねころがりワーク、演奏のための休息のとり方）
6	[御木本メソッド]指が弱い人のトレーニング
7	[ボディマッピング]腕の構造と働き①　腕の構造
8	[御木本メソッド]親指のトレーニング
9	[ボディマッピング]脚の構造と働き①　脚の構造
10	[御木本メソッド]指の独立性を高めるトレーニング
11	[ボディマッピング]動きの中枢＜体幹＆コア＞　（カラダのささえ）
12	[御木本メソッド]スピードを速くするトレーニング
13	[ボディマッピング]呼吸の構造と働き　（腕と呼吸の関係）
14	[御木本メソッド]豊かな音量を得るためのトレーニング
15	[ボディマッピング]腕の構造と働き②　　手指の働き

授業計画	
	［後期］
1	[御木本メソッド]指の独立性のために１（軽く速く弾く）
2	[ボディマッピング]ピアノ演奏にも影響を与える発音・発声・顎関節
3	[御木本メソッド]指の独立性のために２（f で弾く）
4	[ボディマッピング]脚の構造と働き②　足部全体と足指
5	[御木本メソッド]pp・スタッカートのために
6	[ボディマッピング]身体動作伝達方法としての「ことば」を考える。ポジティブな言葉への変換
7	[御木本メソッド]スケール・アルペジオのために
8	[御木本メソッド]オクターブ・和音のために
9	[ボディマッピング]日常動作「見る・立つ・座る・歩く」を確認する
10	[御木本メソッド]トレモロ・跳躍のために
11	[ボディマッピング]日常生活の留意点（食事や睡眠はパワーの源、適切な練習時間）
12	[御木本メソッド]レガートのために
13	[ボディマッピング]実践と応用（身心のバランスは音楽表現の基本）
14	[御木本メソッド]御木本メソッドまとめ
15	[ボディマッピング]ボディ・マッピングまとめ

科目名	サウンドエンジニアリング基礎理論　[月3]						
代表教員	富　正和	授業コード	GK538500	科目コード	GK5385	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

『サウンドエンジニアリングに必要な知識、理論の基礎』を学びます。
音響機器の構造と配置、接続を理解する。
到達目標
・PA(Live Sound)においては音響システム機器の選定と配置への理解。
・録音においては仮設録音システムプランと機器と配置、高機能スタジオ設備の概要説明。

2．授業概要

電気(Electric)と音響(Acoustic)。
サウンドエンジニアに必要な知識は広範囲に渡りますが、二つに大きく分けて解説します。
・A＝空間に放たれた音響"Acoustic"のことを指しているのか？
・E＝ミキサーや音響機器の内部で扱われる"Electric"のことを指しているのか？

"『音速』という知識を手にしてそれをどう使うのか？"
"すぐには役に立たないが、困った時に"KeyWordが思いつくこと"。
知識が実際の音響作業や創作に、少しづつ繋がる手助けになるような、授業の概要とします。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・機器メーカーの仕様や仕組みを、インターネットなどで検索する事によって興味を高める。
・録音、PA、作編曲作業で疑問に思ったことを、確認する。

4．成績評価の方法及び基準

平常点（授業内の小テスト及びレポート、課題提出、）（評価の50%）
授業への参加姿勢（評価の50%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に資料等、各自検索閲覧することがあるので、パソコン・タブレット端末などがあるとより理解につながります。

参考文献
『サウンドレコーディング技術概論』 日本音楽スタジオ協会
『音の感性を育てる 聴能形成の理論と実際』 音楽之友社

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽・音響デザインコース、技術系学生は極力１年次に履修すること。
作編曲系の学生も、仮設録音・音響の理解に繋がるよう解説します。

なお、授業の機材準備に率先して協力して頂けると、より理解が深まります。

授業計画	
	［前期］
1	1:ガイダンス 『五感とは？音を何で聞いている？』 五感、耳の構造、音楽と音の三要素、音速
2	2:『聞こえる音と聞こえない音』 可聴帯域、音量、等ラウドネス曲線、音を目で見る
3	3:『なぜそう聞こえるのか？』 波形、倍音、エンベロープ、ADSR、直接・間接音、残響
4	4:『Micと友達になるには』 役目・電磁型静電型・指向性・WS・近接効果・感度
5	5:『音の入口』 マイクとダイレクトボックス。 機構・ファンタム電源とスイッチ、スタンドとネジ
6	6:『音響で扱う電気を知る』 Mic&Line&Sp Level 信号線と伝送。ケーブル・レベル。電車の電気はどこからどこへ？
7	7:『平衡と不平衡・MonoとStereo』 BalanceとUnBalance・MonoとStereo・A/D D/A
8	8:『AMラジオもマルチチャンネルも2つの耳で聞く』 MonoとStereoの定義 音量差・時間差・周波数差
9	9:『音の出口』 スピーカーとヘッドフォン、位相、インピーダンス
10	10:『スピーカー(SP)とパワーアンプ』 SP Setting、並列直列、パワーアンプ
11	11:『舞台・演奏場所 配置の基本』 大切なのは枠を作ること 結線図・配置図・香盤表、楽器・機材の略名 長さの単位、下手と上手(SL SR)
12	12:『 Mixing Consoleから学ぶ』 概要、DAWやDigital Consoleへ繋げる。
13	13:『Mixing Consoleから学ぶ』 HA(ヘッドアンプ)とFader(フェーダー)
14	13:『Mixing Consoleから学ぶ』 混ぜること・分けること ミキサーのBlock図から、内部の接続を理解
15	15:『前期のまとめ』 電源 交流・直流、極性、アース

授業計画	
	［後期］
1	16:『Mixing Consoleから学ぶ』 『EQとは等化器』イコライザーを理解する パラメトリックEQ・グラフィックEQ・Filter、シリーズ接続
2	17:『Mixing Consoleから学ぶ』 『加工・リバーブ』Reverbプロセッシング センド&リータン接続
3	18:『Mixing Consoleから学ぶ』 『加工・ディレイ』Delayプロセッシング インサート接続、タイムアライメント
4	19:『Mixing Consoleから学ぶ』 3大プロセッシング機器と各種接続方法 空間系・レベル系・周波数系
5	20:『Mixing Consoleから学ぶ』 『加工・ダイナミクス』 コンプレッサ・ゲートのプロセッシング、インサート接続
6	21:『DAWとDigital Audio基本』 "その音源何分か？"ファイル容量・サンプルレート ファイルに名前をつける意味
7	22:『DAWとDigitalミキサーを比べて I』 エディットウインドウ・ミックスウインドウ、レイヤー
8	23:『Mixing Consoleから学ぶ』 『Solo色々』モニターとしての検聴ソロ回路 カットソロ、レコーディングソロ。
9	24:『Mixing Consoleから学ぶ』 音を目で見る、Peakメーター・VUメーター
10	25:『現在の伝送形態と分岐』 アナログ・デジタル、方向性、MADI DANTE
11	26:『演奏者の為のモニターシステム』 フォールドバックモニター(演奏者別) キューボックス(楽器個別)
12	27:『パワーアンプ』 インピーダンス、アッテネーター、コネクタ
13	28:『DigitalミキサーとDAWを比べて II』 パッチ、レイヤー、Sends On fader
14	29:『後期のまとめ』
15	30:『通年のまとめ』 ・音響プランニングの留意 ・どんな音も耳で聞く、聴く

科目名	サウンドエンジニアリング応用理論　[水2]						
代表教員	伊藤　圭一	授業コード	GK538600	科目コード	GK5386	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	SC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「サウンドエンジニアリング基礎理論」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽」を構成するのは「音」。その音は空気振動という物理現象。
それなのに、心が震えるアートとなる。

音楽をレコーディングしたり、PAしたりする時、
扱っているのは単なるデジタル・データ。
それなのに、感動する作品となる。

「音」を「音楽」にする技術（＝エンジニアリング）を知る。
サウンドを科学的に捉えることで、アートとして音楽を表現する手法を習得する。

プロが作る音楽を体感し、その録音手法を学び、
即戦力となるノウハウと感性を持った人材を育成する。

２．授業概要

全ての講義を、プロフェッショナル・クオリティーのレコーディング・スタジオ（ブラックホール地下スタジオ　CR１）　にて行う。

世界で評価されているアーティストやクリエイターが制作した作品に触れる機会を作り、
感性を磨くと共に、録音技術や機材に関する知識を、随時アドバイスしていく。

学生が興味を持っている、メディアで親しまれている身近な音源や映像を体感しつつ、そのヒットの裏技を公開し、
その内容について共に討論する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

耳を鍛え、音を聴く能力、音楽を感じる心を育てる。
日頃から、クリエイティブな観点で物事を捉える感性を持ち、その裏側を推し量る。
できるだけ良質かつ多くのメディアや作品に触れ、それに関する質問や感想などを持ち寄る。

４．成績評価の方法及び基準

成績評価は、授業に授業に参加し学習に取り組んでいる事が絶対条件になる。
平常点（授業への参加姿勢、実習への関わり方など）。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実際に、プロが現場で使った素材を用いて講義と実習をすることで、即戦力となるアップトゥデートな知識とノウハウを習得する。
『ボーカル・レコーディングのすべて』　伊藤圭一：著　（リットーミュージック：刊）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音を実際に体感することが最重要であるので、出席を重視する。
音楽・音響デザインコース、技術系学生は極力履修すること。
なお、受講学生数が一定数を上回った場合は、スタジオを用いて音を正確に聞くという授業の特性から、同教授の「スタジオエレクトロニクス」との同時受講を制限する可能性がある。音楽・音響デザインの学生は、本講義を優先することを推奨する。

授業計画	
	［前期］ 音楽を作る上で最も大切な、音に対する観念を学ぶ。
1	心に響く音楽、心地良いサウンドとは
2	「音楽」を作るための「音」を知る
3	「音楽」の三要素、「音」の三要素
4	音の正体、空気振動を読む
5	自然界の音、人工的な音
6	物理的な音と、心理的効果をもたらす音
7	音と音楽に対する脳の反応
8	録音により、音楽は時空を超える
9	録音は、空気振動と電気信号の変換
10	マイクの役割と耳との違い
11	モニタリング
12	レコーディングの基本概念
13	ミキシングの基本概念
14	システムレベル、歪みと音圧コントロール
15	前期まとめ　（音をイメージする）

授業計画	
	［後期］ 実際の音作りのテクニックを学ぶ。
1	エフェクタの基本概要
2	エフェクタの概要１　（イコライザ、フィルタ）
3	エフェクタの概要２　（コンプレッサー、リミッター）
4	エフェクタの概要3　（ディレイ、リバーブ）
5	ピッチシフト
6	レコーディングの応用
7	ミキシングの応用
8	ライブとレコーディング
9	サラウンド・レコーディング＆ミキシング
10	メディアとフォーマット
11	芸術・文化を支えるのはテクノロジー
12	求められる技術と人材
13	サウンド・プロデュースとは
14	これからの音楽業界＆音楽産業
15	まとめ（過去、現在、未来）

科目名	映画音楽作曲技法　［木4］						
代表教員	栗山　和樹	授業コード	GK538700	科目コード	GK5387	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	SC・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

ポストプロダクションにおける映画音楽製作の位置づけとプロセスの理解、及び映画における「音楽」の役割を考察し、映画音楽の理論的考察力の向上を目標とします。

2．授業概要

前期では「スポッティング（映像のどこから、どこまで、どのような音楽をどのように付けるかを決める作業）」に焦点をあて、音楽分類、分析研究、模擬セッションを通じて学習します。
後期では作曲者側の位置に立って、分析研究、模擬実作、空間表現を学びます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の大半は実作など宿題がありますので、必ず実習して、授業へお持ち下さい。

4．成績評価の方法及び基準

平常の宿題提出（評価の30%）と期末作品提出（評価の30%）により評価します。
授業への参加姿勢・受講態度（評価の40%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で資料を配布します。
参考資料：『On the Track：A Guide to Contemporary Film Scoring』 Fred Karlin (Author)

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻、欠席など厳しくチェックします。
「DAW演習I」と「ベーシックハーモニー」の単位修得済であることが望ましい。
※カリキュラム年度2014年度以降の学生は「ベーシックハーモニー」ではなく「ジャズハーモニーⅠ-1・Ⅰ-2」

授業計画	
	［前期］
1	映画音楽の種類とポスト・プロダクションにおける映画音楽制作のプロセス
2	ポスト・プロダクションにおける映画音楽制作のプロセス（１）
3	ポスト・プロダクションにおける映画音楽制作のプロセス（２） スポッティング（１）　映画音楽の５w1h　基本
4	スポッティング（２）　映画音楽の５w1h　応用
5	スポッティング（３）　映画音楽の５w1h　発展
6	分析のための劇場用アメリカ映画の視聴（１）
7	分析のための劇場用アメリカ映画の視聴（２）復習
8	劇場用アメリカ映画の分析（１） 「音楽の目的」に焦点をおいて
9	劇場用アメリカ映画の分析（２） 「音楽の目的」に焦点をおいて 「音楽の開始、終止」に焦点をおいて
10	模擬スポッティング・ミーティング（１） 短編劇場用作品（学習用）をスポッティングする。 脚本の理解力を高める。
11	模擬スポッティング・ミーティング（２） 持ち寄った素材により、短編劇場用作品（学習用）に音楽をつける。
12	模擬スポッティング・ミーティング（３） ２つの模擬完成作品を比較分析してスポッティングの問題点を考察する
13	模擬スポッティング・ミーティング（４） 前々回、音楽をつけて完成した短編劇場用作品（学習用）を改善する。 音楽編集の問題と改善。
14	前期作品提出と上映会、クラス・ディスカッション
15	前期まとめ

授業計画	
	［後期］
1	劇場用アメリカ映画のスコア分析（１） Ｍ１　和声分析とモーション、遠隔調転調について
2	劇場用アメリカ映画のスコア分析（２） Ｍ５　和声リズムとシステム
3	劇場用アメリカ映画のスコア分析（３） モーダルなシステム
4	劇場用アメリカ映画のスコア分析（４） 模作による作曲学習
5	劇場用アメリカ映画のスコア分析（５） 模作による作曲学習、発表と討論
6	模擬作曲　ケース・スタディ（１）転調 与えられたシーンに実作する
7	模擬作曲　ケース・スタディ（２）時間経過と心情変化 与えられたシーンに実作する
8	模擬作曲　ケース・スタディ（３）開始点と終止点 与えられたシーンに実作する
9	模擬作曲　ケース・スタディ（４）Open EndingとClose Ending 与えられたシーンに実作する
10	模擬作曲　ケース・スタディ（5）Close score アンダー・ダイアログの注意点
11	模擬作曲　ケース・スタディ（６）Close score rich carpet
12	模擬作曲　ケース・スタディ（7）Open score 「響き」の考察
13	サラウンドの考察
14	後期作品提出と上映会、クラス・ディスカッション
15	後期まとめ

科目名	スタジオエレクトロニクス　[水1]						
代表教員	伊藤　圭一	授業コード	GK539000	科目コード	GK5390	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	SC・RP・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

音楽は、アートであり、エンタテインメントである。そして、エレクトロニクスがそれを支えている。シーケンサーによる作曲やDAWによるレコーディングはもちろん、コンサートやイベントにおけるPAをはじめ、映像、照明、映画、テレビ、配信を含めた映像コンテンツ制作など、常にエレクトロニクスが介在している。

古くは、企画する者と制作する者は、別人でありチームを組むのが一般的だった。しかしコンピューターを使い熟すことで、指揮監督から製作までを司ることが可能となった。スタジオにおけるエレクトロニクスの応用によって、音楽、エンタテインメント、そしてビジネスを生み出す手法を学ぶ。

到達目標は、次世代の“プロデューサー”を養成すること。 いわばプロデューサー養成講座とする。

2．授業概要

全ての講義を、地下スタジオ CR１ にて行う。

実際に作られた音楽や映像作品、実施されたコンサートやイベントの記録や制作資料を公開し、その裏舞台で使われたテクノロジーを知ることから始める。電気、電子技術の習得を主眼においたものではない。

現代の音楽制作において、エレクトロニクスはスタジオワークにおける基礎知識。しかし科学的に追求するだけでは語り尽くせないアートやエンタテインメントを司るには、学ぶべきことが非常に広範囲に渡る。音楽単体としてのみならず、コンサート、ライブ、イベント、映画、テレビ、インターネットなど、様々な最新のコンテンツや作品に触れ、その制作の裏側を解説する。

その中から、現場で即戦力となる知識を得て、さらに新しい創造物を生み出すのに必要な精神を学んでいく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

例えば課題として映画を取り上げたとしても、、授業時間内でコンテンツを通して視聴することは時間的に難しい。従って、課題として取り上げた作品や、それに関連したものを、自ら視聴する必要がある。そして、講義では取り上げなかったシーンに関して興味を持ったり、テクニックを質問するような積極的な姿勢が望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

成績評価は、授業に参加し学習に取り組んでいる事が絶対条件になる。コースを超えて皆が興味深い内容のテーマを、貴重な素材を用いて進める講義なので、とにかく参加することを最優先とする。プロデューサー養成を目的としているので、興味が持てないようであれば、はじめから履修するべきではない。単に単位取得の目的で参加する学生は、望ましくない。

一方的な講義ばかりではなく、積極的に討論する時間も多く持つことで、履修度（授業への貢献度・参加姿勢）を評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

『歌は録音でキマる！　音の魔術師が明かす　ボーカル・レコーディングの秘密』
伊藤圭一：著　（リットーミュージック：刊）

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コースや専攻を問わず、映画やTV、CDなどの作品をメディア上で発表したり、その制作を目的としたプロデュサー志望の学生。受講学生数が一定数を上回った場合は、スタジオを用いて音を正確に聞くという授業の特性から、受講を制限する事がある。音楽・音響デザインコースの学生は、同教授が担当する講義「サウンドエンジニアリング応用理論」と、平行しての受講を避けるように調整する可能性がある。音楽・音響デザインの学生は、「サウンドエンジニアリング応用理論」を優先することを推奨する。

授業計画	
	［前期］ 音楽やエンタテインメントの制作現場やコンテンツの裏側で、どのようにエレクトロニクスが活用されているかを知る。
1	プロデュースとは　～プロデュースに必要なもの
2	プロデューサーの役割　～プロデューサーに求められるもの
3	アーティスト・プロデュース　（原盤制作）
4	コンサート・プロデュース　（コンサート演出）
5	イベント・プロデュース　（イベント企画＆制作）
6	コンテンツ・プロデュース　（映画、番組の制作）
7	レコーディング・スタジオ　～DAWとモニター・スピーカー
8	コンサート・ホール　～PAシステムとモニター
9	ライブ・ハウス　～ライブ空間
10	レコーディングとライブの違い
11	イマーシブ・サラウンド
12	音響工学　～音は空気振動、録音はデジタル・データ
13	音響心理学　～感動のメカニズム
14	アートか、ビジネスか　～音楽は総合芸術
15	エレクトロニクスの活用

授業計画	
	［後期］ 様々な実験を通して、エレクトロニクスによって、感動の深さが大きく変わることを実感するとともに、新たな試みをする。
1	コンピュターとＡＩ（人工知能）
2	音楽と機材の関係
3	世界へ伝える手法　～伝送規格、フォーマット
4	ネットワークとワイヤレスで繋がる　～情報共有、SNS
5	言語と音楽　～歌詞の持つメッセージ
6	「音楽」の三要素　～メロディー、リズム、ハーモニー
7	「音」の三要素　～音量、音色、音程
8	個性の演出　～創作
9	シミュレーションとリハーサル
10	プレゼンテーションとマインド・コントロール
11	契約と著作権
12	エンタテインメントとエレクトロニクス
13	これからの音楽業界＆音楽産業
14	求められる人材　～ノウハウ、技術、知識
15	総論

科目名	音響空間エレクトロニクス１～４　［木5］						
代表教員	宮木　朝子	授業コード	GK539100	科目コード	GK5391d	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	SC・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽・音響や映像を中心に、それらが再生される「空間」を研究。サウンドスケープやサウンドデザインについての実践を元に、音楽と環境のかかわり、音と知覚・感覚の問題なども考察する。現代アート・デザインにおける音楽の在り方についても共に考える場にしたい。

２．授業概要

１．ミュージックコンクレート（録音された現実音を素材に加工・編集を行う電子音響音楽）の成り立ちを映画の制作技法との関連から研究。その再生方法である立体音響、サウンドプロジェクションを実践。アクースモニウム（スピーカーオーケストラ）による音響空間の演奏実習、外部イヴェントへの参加。
昨年度まで：大阪芸術大学ドームシアターにてアクースモニウムフェスティヴァル参加/インターカレッジ出品/Contemporary Computer Music Concert公募作入選など。
２．フィールドレコーディングとサウンドスケープを関連させ、知覚・感覚について考察。
３．現代アートの分野におけるサウンドインスタレーションの研究と実践。
4.マルチチャンネル作品、サラウンド音響作品についての研究。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

短い音響作品の制作課題の準備などが必要な場合があります。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の７０％）
授業への参加姿勢（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト 授業内で配付。
参考文献：
『世界の調律』R・マリー・シェーファー（平凡社）
『科学と芸術の対話』（NTT出版）
『見えないデザイン』井出祐昭（yamaha）
『映画にとって音とはなにか』ミシェル・シオン（勁草書房）
『フラッター・エコー 音の中に生きる』デイビッド・トゥープ著(DU BOOKS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

環境音、サウンドスケープ、サウンドデザイン、立体音響などに関心があれば知識や学年は問いません。機材の準備の必要もありません。課題制作・発表は段階に応じて任意に行うので、講義への参加のみでも受け入れます。また、履修者の人数により、履修制限を行うことがあります。

授業計画	
	［前期］ フィールドレコーディング実習とそれに基づいたサウンドスケープ・コンポジションのグループ制作、発表。ミュージック・コンクレート（アクースマティック）とアクースモニウムについて学び、演奏実習と現実音の録音実習、制作に向けてのコンセプト作成。
1	ガイダンス
2	サウンドスケープとは
3	サウンドデザインとは
4	サウンドスケープ・コンポジション
5	フィールドレコーディング実習（バイノーラル録音など）
6	サウンドスケープ・コンポジション作品制作 1 （グループ制作）
7	サウンドスケープ・コンポジション作品制作 2 -中間報告と講評
8	グループ制作発表と講評
9	ミュージック・コンクレートと現代のアクースマティック芸術について
10	立体音響空間演奏システム＝アクースモニウムについて
11	アクースモニウム演奏実習１作品分析と演奏法
12	アクースモニウム演奏実習　２ー解釈と演奏の実際
13	現実音のスタジオ録音実習
14	録音素材の分類、コンセプト考案
15	アクースモニウム演奏試験スタジオコンサートと解説

授業計画	
	［後期］ 前期に録音した現実音の素材と各自考案した作品コンセプトに基づき、アクースマティック作品を制作。コンサート形式で発表。後半はサウンドアート、サウンドインスタレーション、映像との関係を学び、音響空間についての企画を考案、音素材と共にプレゼンテーションする。
1	前期の復習とガイダンス アクースマティック作品制作ワークショップ 1-素材の選択
2	アクースマティック作品制作ワークショップ ２ー素材の加工
3	アクースマティック作品制作ワークショップ ３ー空間の作り方
4	アクースマティック作品制作ワークショップ4-曲の構成方法
5	制作作品スタジオコンサートと講評
6	音楽と映像・オーディオヴィジュアル、ヴィデオ・アートについて
7	サウンドアートについて
8	サウンドインスタレーションについて
9	サウンドスペースコンポーザーの仕事について
10	サウンドアート、立体音響空間イヴェント、インスタレーション、身体表現との関係など実際の作品の鑑賞と分析。企画のアイディアのための基礎知識を学ぶ。
11	各自企画書を作成し、電子音響を用いた企画案と音響サンプルによるプレゼンテーションのための準備作業を行う。ワークショップ１
12	ワークショップ ２-企画の方向性について
13	ワークショップ 3-企画のプレゼンの仕方
14	企画案プレゼンテーション1-議論
15	企画案プレゼンテーション2-全体のまとめ

科目名	ＡＳコンテンツ制作Ａ Ⅰ ［月1］Aクラス						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK5474A0	科目コード	GK5474	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

録音スタジオのシステムを学び、簡単な録音は各自で録音できるようになることが目標である。
また、録音を学ぶ過程におて、ボイスサンプルの編集や音響設備の無い場所でのマイクセッティグなども学び、活動領域を広げる。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートし、マイクの取り扱い、実際の録音方法、そしてボイスサンプル作成まで学習する。さらにそのスキルを活かした実習として歌のレコーディングやボイスドラマの制作を行ってみる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基本的な用語などは予め予習しておくとが望ましい。また、学習した内容は次の授業に繋がっているので、分からない点はその都度質問して解決していく事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（スタジオの概要）
2	スタジオ機材のあれこれ
3	スタンドやマイク、ケーブルの取り扱い
4	録音の準備（セットアップ）
5	とにかく録音してみよう
6	録音のコツをつかもう
7	ソフトの機能とセットアップ
8	ソフトの録音機能を知ろう
9	ソフトを使用した簡単な編集方法
10	ソフトの音が どこでも聴けるように出力
11	録音をしよう１ （各自録音素材を選定）
12	録音をしよう２ （各自のレコーディング前半）
13	録音をしよう３ （各自のレコーディング後半）
14	録音をしよう４ （リカバリー）
15	各自のサウンドチェック

授業計画	
	［後期］
1	サンプルの編集（ピックアップ）
2	サンプルの編集（レベル補正）
3	サンプルの編集（フェード処理）
4	サンプルの編集（出力）
5	効果音を入れよう
6	ラジオドラマを作ろう（シナリオの設定）
7	ラジオドラマを作ろう（録音）
8	ラジオドラマを作ろう（効果音）
9	ラジオドラマを作ろう（出力）
10	修正と試聴
11	歌ってみよう（レコーディング）
12	歌ってみよう（Mix,音量調節）
13	歌ってみよう（Mix,エフェクターの使用）
14	歌ってみよう（出力）
15	総括

科目名	ＡＳコンテンツ制作Ａ Ⅰ ［月2］Bクラス						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK5474B0	科目コード	GK5474	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

録音スタジオのシステムを学び、簡単な録音は各自で録音できるようになることが目標である。
また、録音を学ぶ過程におて、ボイスサンプルの編集や音響設備の無い場所でのマイクセッティグなども学び、活動領域を広げる。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートし、マイクの取り扱い、実際の録音方法、そしてボイスサンプル作成まで学習する。さらにそのスキルを活かした実習として歌のレコーディングやボイスドラマの制作を行ってみる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基本的な用語などは予め予習しておくとが望ましい。また、学習した内容は次の授業に繋がっているので、分からない点はその都度質問して解決していく事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（スタジオの概要）
2	スタジオ機材のあれこれ
3	スタンドやマイク、ケーブルの取り扱い
4	録音の準備（セットアップ）
5	とにかく録音してみよう
6	録音のコツをつかもう
7	ソフトの機能とセットアップ
8	ソフトの録音機能を知ろう
9	ソフトを使用した簡単な編集方法
10	ソフトの音が どこでも聴けるように出力
11	録音をしよう１ （各自録音素材を選定）
12	録音をしよう２ （各自のレコーディング前半）
13	録音をしよう３ （各自のレコーディング後半）
14	録音をしよう４ （リカバリー）
15	各自のサウンドチェック

授業計画	
	［後期］
1	サンプルの編集（ピックアップ）
2	サンプルの編集（レベル補正）
3	サンプルの編集（フェード処理）
4	サンプルの編集（出力）
5	効果音を入れよう
6	ラジオドラマを作ろう（シナリオの設定）
7	ラジオドラマを作ろう（録音）
8	ラジオドラマを作ろう（効果音）
9	ラジオドラマを作ろう（出力）
10	修正と試聴
11	歌ってみよう（レコーディング）
12	歌ってみよう（Mix,音量調節）
13	歌ってみよう（Mix,エフェクターの使用）
14	歌ってみよう（出力）
15	総括

科目名	ＡＳコンテンツ制作ＡII　[水1]						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK547500	科目コード	GK5475	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本的なシステムの考え方について学び、簡単なコンテンツは各自制作できるようになることが目標である。
各自でコンテンツの制作が出来るようになる事により、活動領域を広げ、自らのパフォーマンスを客観的に見つめるチャンスを得る。

２．授業概要

コンテンツ制作を行う上でのパソコンの設定方法から始まり、録音、編集方法、簡易的な曲作りなどを学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行ったことを各自反復し、実際に再現し、不明点はその都度質問をして毎度の授業に繋げていくこと。
実際に手を動かす事によりどんどん覚えていけるので、メモ帳を持参し、復習出来る環境づくりも心がける事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ノートパソコンが必要。
Macにて授業を行うが、これから購入する者は授業で説明をするので、先に購入せず授業にて相談にくること。（スペックや相性により使えない事がある為）
ソフトはProToolsを使用する。（アカデミック製品あり）

授業計画	
	［前期］
1	前期授業ガイダンス
2	コンテンツ制作に必要なパソコンの基礎知識
3	各自のパソコンの設定
4	まずは録音してみよう１（パソコンのみを使用した録音方法）
5	まずは録音してみよう２（収録素材の基本的な編集方法）
6	まずは録音してみよう３（収録素材の書き出し方法）
7	より良い環境を構築するために必要なこと
8	前期コンテンツ制作１（マイクについて）
9	前期コンテンツ制作２（自分に合ったマイクの設定方法）
10	前期コンテンツ制作３（素材の整理）
11	前期コンテンツ制作４（自分の性質に合った編集方法）
12	前期コンテンツ制作５（Pluginを使用した素材の加工）
13	前期コンテンツ制作6（色々なパターンを想定した書き出し方法）
14	前期コンテンツ発表
15	前期授業のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	後期授業ガイダンス
2	簡単な曲を作ってみよう１（ループ素材について）
3	簡単な曲を作ってみよう２（曲の構成について）
4	簡単な曲を作ってみよう３（Mixについて）
5	簡単な曲を作ってみよう4（Masteringについて）
6	共同制作を行う為に必要な知識
7	色々な録音をしてみよう（電子楽器）
8	色々な録音をしてみよう（歌録り）
9	色々な録音をしてみよう（生楽器）
10	後期コンテンツ制作１（収録）
11	後期コンテンツ制作２（編集）
12	後期コンテンツ制作３（まとめ）
13	後期コンテンツ発表
14	制作コンテンツの活かし方
15	後期授業のまとめ

科目名	コンテンツ制作１　［月1］Aクラス（AS専用）						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK5485A0	科目コード	GK5485	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

録音スタジオのシステムを学び、簡単な録音は各自で録音できるようになることが目標である。
また、録音を学ぶ過程におて、ボイスサンプルの編集や音響設備の無い場所でのマイクセッティグなども学び、活動領域を広げる。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートし、マイクの取り扱い、実際の録音方法、そしてボイスサンプル作成まで学習する。さらにそのスキルを活かした実習として歌のレコーディングやボイスドラマの制作を行ってみる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基本的な用語などは予め予習しておくとが望ましい。また、学習した内容は次の授業に繋がっているので、分からない点はその都度質問して解決していく事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（スタジオの概要）
2	スタジオ機材のあれこれ
3	スタンドやマイク、ケーブルの取り扱い
4	録音の準備（セットアップ）
5	とにかく録音してみよう
6	録音のコツをつかもう
7	ソフトの機能とセットアップ
8	ソフトの録音機能を知ろう
9	ソフトを使用した簡単な編集方法
10	ソフトの音が どこでも聴けるように出力
11	録音をしよう１ （各自録音素材を選定）
12	録音をしよう２ （各自のレコーディング前半）
13	録音をしよう３ （各自のレコーディング後半）
14	録音をしよう４ （リカバリー）
15	各自のサウンドチェック

授業計画	
	［後期］
1	サンプルの編集（ピックアップ）
2	サンプルの編集（レベル補正）
3	サンプルの編集（フェード処理）
4	サンプルの編集（出力）
5	効果音を入れよう
6	ラジオドラマを作ろう（シナリオの設定）
7	ラジオドラマを作ろう（録音）
8	ラジオドラマを作ろう（効果音）
9	ラジオドラマを作ろう（出力）
10	修正と試聴
11	歌ってみよう（レコーディング）
12	歌ってみよう（Mix,音量調節）
13	歌ってみよう（Mix,エフェクターの使用）
14	歌ってみよう（出力）
15	総括

科目名	コンテンツ制作１　［月2］Bクラス（AS専用）						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK5485B0	科目コード	GK5485	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

録音スタジオのシステムを学び、簡単な録音は各自で録音できるようになることが目標である。
また、録音を学ぶ過程におて、ボイスサンプルの編集や音響設備の無い場所でのマイクセッティグなども学び、活動領域を広げる。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートし、マイクの取り扱い、実際の録音方法、そしてボイスサンプル作成まで学習する。さらにそのスキルを活かした実習として歌のレコーディングやボイスドラマの制作を行ってみる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基本的な用語などは予め予習しておくとが望ましい。また、学習した内容は次の授業に繋がっているので、分からない点はその都度質問して解決していく事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（スタジオの概要）
2	スタジオ機材のあれこれ
3	スタンドやマイク、ケーブルの取り扱い
4	録音の準備（セットアップ）
5	とにかく録音してみよう
6	録音のコツをつかもう
7	ソフトの機能とセットアップ
8	ソフトの録音機能を知ろう
9	ソフトを使用した簡単な編集方法
10	ソフトの音が どこでも聴けるように出力
11	録音をしよう１ （各自録音素材を選定）
12	録音をしよう２ （各自のレコーディング前半）
13	録音をしよう３ （各自のレコーディング後半）
14	録音をしよう４ （リカバリー）
15	各自のサウンドチェック

授業計画	
	［後期］
1	サンプルの編集（ピックアップ）
2	サンプルの編集（レベル補正）
3	サンプルの編集（フェード処理）
4	サンプルの編集（出力）
5	効果音を入れよう
6	ラジオドラマを作ろう（シナリオの設定）
7	ラジオドラマを作ろう（録音）
8	ラジオドラマを作ろう（効果音）
9	ラジオドラマを作ろう（出力）
10	修正と試聴
11	歌ってみよう（レコーディング）
12	歌ってみよう（Mix,音量調節）
13	歌ってみよう（Mix,エフェクターの使用）
14	歌ってみよう（出力）
15	総括

科目名	コンテンツ制作１　［月2］Cクラス（DC専用）						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GK5485C0	科目コード	GK5485	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】音や音楽をコンピュータを用いて編集し、自身のパフォーマンスに適合したコンテンツを制作する。
【到達目標】パフォーマンスのための音源を自ら制作出来るスキルを身につける。

２．授業概要

前期はPCソフトウェアを利用して基本的な音声ファイルの編集、加工方法を習得する。
後期はリズムトラックの構築やリミックスを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日頃から自分の好きな音楽やビートを注意深く耳を傾け、その特徴について言葉で表現できるようにまとめておくことを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%(波形編集技術、授業内課題、授業態度等を総合的に評価する)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

＜参考文献＞
『Audacityではじめる音声編集（I・O BOOKS）』夢前/黎（工学社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータやソフトの取り扱いに関しては初歩から教えますが、データを個人で保管するためのUSBフラッシュメモリと、音をモニターするためのイヤフォン又はヘッドフォンを持参してください。

授業計画	
1	演習内容についてのガイダンス
2	教室のシステムセットアップ、PCとソフトウェアの操作概要
3	基本操作１（楽曲、素材の読み込み）
4	基本操作２（音量、バランスの調節）
5	トラック編集１（素材の切り貼り）
6	トラック編集２（素材の逆再生、ピッチ加工）
7	トラック編集３（ループ素材の制作）
8	トラック編集４（センターキャンセル、インスト音源の作成）
9	トラック編集５（用途別ファイルの書き出し）
10	エフェクト1 （イコライザーの概要）
11	エフェクト2 （コンプレッサー、フィルターの概要）
12	エフェクト3 （リバーブ、コーラスの概要）
13	前期課題制作１（楽曲構成、長さ調整）
14	前期課題制作２（ミックスダウン、エフェクト）
15	前期課題制作３（仕上げ、課題提出）

授業計画	
1	素材制作１（リズムトラックの概要）
2	素材制作２（リズムの読み方）
3	素材制作３（リズム素材を用いたトラックの作成）
4	素材制作４（効果音の録音）
5	素材制作５（効果音編集、加工）
6	応用的な編集の実践１（オートメーション等）
7	応用的な編集の実践２（様々なエフェクトの使用方法）
8	応用的な編集の実践３（より幅広い表現方法について）
9	課題曲を使ったケーススタディ１（基本的な編集）
10	課題曲を使ったケーススタディ２（拡張的な編集を含む）
11	後期課題制作１（リミックスの構想）
12	後期課題制作２（素材、ライブラリの収集）
13	後期課題制作３（素材の制作、編集）
14	後期課題制作４（ミックスダウン）
15	後期課題制作５（仕上げ、作品発表会）

科目名	コンテンツ制作２　［水1］（AS専用）						
代表教員	齋藤　粋生	授業コード	GK548600	科目コード	GK5486	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本的なシステムの考え方について学び、簡単なコンテンツは各自制作できるようになることが目標である。
各自でコンテンツの制作が出来るようになる事により、活動領域を広げ、自らのパフォーマンスを客観的に見つめるチャンスを得る。

２．授業概要

コンテンツ制作を行う上でのパソコンの設定方法から始まり、録音、編集方法、簡易的な曲作りなどを学んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で行ったことを各自反復し、実際に再現し、不明点はその都度質問をして毎度の授業に繋げていくこと。
実際に手を動かす事によりどんどん覚えていけるので、メモ帳を持参し、復習出来る環境づくりも心がける事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（60%）
課題への取り組み(40%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その都度資料を配付する。

参考文献：
『サウンドレコーディング技術概論』

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ノートパソコンが必要。
Macにて授業を行うが、これから購入する者は授業で説明をするので、先に購入せず授業にて相談にくること。（スペックや相性により使えない事がある為）
ソフトはProToolsを使用する。（アカデミック製品あり）

授業計画	
	［前期］
1	前期授業ガイダンス
2	コンテンツ制作に必要なパソコンの基礎知識
3	各自のパソコンの設定
4	まずは録音してみよう１（パソコンのみを使用した録音方法）
5	まずは録音してみよう２（収録素材の基本的な編集方法）
6	まずは録音してみよう３（収録素材の書き出し方法）
7	より良い環境を構築するために必要なこと
8	前期コンテンツ制作１（マイクについて）
9	前期コンテンツ制作２（自分に合ったマイクの設定方法）
10	前期コンテンツ制作３（素材の整理）
11	前期コンテンツ制作４（自分の性質に合った編集方法）
12	前期コンテンツ制作５（Pluginを使用した素材の加工）
13	前期コンテンツ制作6（色々なパターンを想定した書き出し方法）
14	前期コンテンツ発表
15	前期授業のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	後期授業ガイダンス
2	簡単な曲を作ってみよう１（ループ素材について）
3	簡単な曲を作ってみよう２（曲の構成について）
4	簡単な曲を作ってみよう３（Mixについて）
5	簡単な曲を作ってみよう4（Masteringについて）
6	共同制作を行う為に必要な知識
7	色々な録音をしてみよう（電子楽器）
8	色々な録音をしてみよう（歌録り）
9	色々な録音をしてみよう（生楽器）
10	後期コンテンツ制作１（収録）
11	後期コンテンツ制作２（編集）
12	後期コンテンツ制作３（まとめ）
13	後期コンテンツ発表
14	制作コンテンツの活かし方
15	後期授業のまとめ

科目名	コンテンツ制作２　［水3］Bクラス（DC専用）						
代表教員	和田　洋平	授業コード	GK5486B0	科目コード	GK5486	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	DC	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】カメラやスマートフォンで撮影した動画をコンピュータを用いて編集し、自身のパフォーマンスに適合したコンテンツを制作する。
【到達目標】パフォーマンスのための映像コンテンツを自ら制作出来るスキルを身につける。

２．授業概要

前期は動画の撮影からPCに取り込んで編集、配信のための書き出しまでの基本的な編集方法を習得する。
後期はオーディション用やプロモーション用などテーマを設け、それらのレギュレーションに沿った映像コンテンツを制作する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

練習やリハーサルの様子を積極的に撮影し、動画の素材を撮り貯めておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点100%(映像編集技術、授業内課題、授業態度等を総合的に評価する)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて適時配布する。

＜参考文献＞
iMovieレッスンノート for Mac / iPhone / iPad
阿部信行(ラトルズ)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

コンピュータやソフトの取り扱いに関しては初歩から教えますが、データを個人で保管するためのUSBフラッシュメモリは持参してください。
また撮影の際の三脚やスマートフォンを固定するためのアダプター等は各自で準備すること。

授業計画	
1	演習内容についてのガイダンス
2	教室のシステムセットアップ、PCとソフトウェアの操作概要
3	基本操作１（編集ソフトの設定、メニュー操作）
4	基本操作２（クリップの長さ調整、繋ぎ合わせ）
5	素材作成１（動画素材の撮影）
6	素材作成２（動画素材の選別、トリム）
7	基本編集１（動画素材の読み込み、並べ替え）
8	基本編集２（トランジションエフェクトの挿入）
9	基本編集３（タイトル、テキストの作成）
10	基本編集４（書き出し、転送）
11	自己紹介ムービー制作１（企画、構成）
12	自己紹介ムービー制作２（ロケハン、台本作成）
13	自己紹介ムービー制作３（撮影）
14	自己紹介ムービー制作４（編集）
15	自己紹介ムービー制作５（仕上げ、書き出し）

授業計画	
1	前期の復習及び動画データの整理、バックアップ
2	動画制作基礎演習１（楽曲の準備、選別）
3	動画制作基礎演習２（楽曲編集）
4	動画制作基礎演習３（ロケハン）
5	動画制作基礎演習４（撮影）
6	動画制作基礎演習５（PC取り込み、素材配置）
7	動画制作基礎演習６（エフェクトがけ、テキスト入力）
8	動画制作基礎演習７（書き出し、提出）
9	動画制作応用演習１（プロモーションムービーの企画）
10	動画制作応用演習２（楽曲準備、編集）
11	動画制作応用演習３（複数のカメラを使って撮影）
12	動画制作応用演習４（カメラ別にPC取り込み、配置）
13	動画制作応用演習５（エフェクトがけ、テキスト入力）
14	動画制作応用演習６（配信用に編集）
15	動画制作応用演習7（仕上げ、作品発表会

科目名	ﾁｯｸ･ｺﾘｱとﾊｰﾋﾞｰ･ﾊﾝｺｯｸの研究/ｼﾞｬｽﾞ作品研究2 （前） ［木4］						
代表教員	佐藤　達哉	授業コード	GK592200	科目コード	GK5922	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この講義で半期取り上げるマイケル・ブレッカーは、ジャズ・フュージョン界を代表するテナーサックス奏者、コンポーザーです。没後12年が経った現在でもその影響には計り知れないものがあります。同じくテナーサックスの偉人ジョン・コルトレーン後のテナーサックス界を牽引し、コルトレーンが提唱したテナーサックスのスタイルを更に発展させ、前人未到の境地にまでテナーサックスという楽器を極めました。かのハービー・ハンコックをして「彼はスーパー・ヒューマンビーイングだ」とまで言わしめました。一方演奏に際しての歌心には他の追従を許さない豊かな都会的センス、華麗さを持ち合わせ、実に数多くのアーティストのサポートを務め、ボーカリストの伴奏に於いては誰も彼を超えることが出来ないセンスを表現しました。ジャズ史上誰よりも抜きん出たスタイリストである彼の、数多くの演奏音源や映像、譜面やスコアを参照しながらテナーサックス奏法、理論的分析、歌心等について分析して行きます。マイケル・ブレッカーというテナー奏者を掘り下げることにより、現代のジャズシーンも炙り出せれば良いと考えています。

２．授業概要

マイケル・ブレッカーが活躍した70年代初頭からの時代背景も踏まえつつ、時代ごとに区切って分析して行きます。その時代毎のレコーディングのトピックスや奏法的なハイライト、代表的なフレージング、リーダーアルバムでのコンセプト、演奏スタイルの変遷等に触れ、1人のミュージシャンの音楽的熟練、成熟、楽器のテクニックの習得度合いを分析することにより、受講生自身の音楽観をより深めるためのノウハウ獲得の手助けをしたいと思います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

膨大な量のマイケル・ブレッカーのレコーディング音源や映像を授業で網羅することは出来ません。ダイジェスト的なものになりますので、図書館において関連資料の閲覧を必要に応じて行ってください。日頃から興味を持って資料を視聴することが望ましいです。

４．成績評価の方法及び基準

ファイナル（小論文）30%、発表の総合評価30%、授業への参加姿勢（授業への積極的な参加態度等）40%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし（文献、ディスコグラフィなど資料はその都度配布）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

このクラスはある程度をゼミ形式で行います。楽曲やソロの分析を行い、発表し、ディスカッションする事も念頭においてください。
内容理解のためにはもちろんそれなりの音楽的理論の理解が必要です。
出席を重視する。

授業計画	
	［半期］
1	主に授業計画についての説明
2	～1974の時代背景の理解と視聴・分析
3	1975～1979の時代背景の理解と視聴・分析①　前半
4	1975～1979の時代背景の理解と視聴・分析②　後半
5	1980～1984の時代背景の理解と視聴・分析①　前半
6	1980～1984の時代背景の理解と視聴・分析②　後半
7	1985～1989の時代背景の理解と視聴・分析①　前半
8	1985～1989の時代背景の理解と視聴・分析②　後半
9	1990～1994の時代背景の理解と視聴・分析①　　前半
10	1990～1994の時代背景の理解と視聴・分析②　後半
11	1995～1999の時代背景の理解と視聴・分析①　前半
12	1995～1999の時代背景の理解と視聴・分析②　後半
13	2000～時代背景の理解と視聴・分析
14	ファイナル（小論文）発表①　前半
15	ファイナル（小論文）発表②　後半

科目名	マイルス・デイビスの研究／ジャズ作品研究１　（前）［金3］						
代表教員	原　朋直	授業コード	GK593000	科目コード	GK5930	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・マイルス・デイビスの作品（楽曲・アルバム等）を分析しそれを掘り下げ、音楽芸術における"コンセプト"について学ぶ。
・マイルス・デイビスがバンド・アンサンブルを通して作り上げた協働芸術というものについて研究する。
・自分自身の音楽について考察し、クリエイティブで自由な創作活動とはどんなものか考えてみる。
・以上のことを中心とした意見交換をし、各々の創作活動に繋げていく。

２．授業概要

マイルス・デイビスの音源や映像の資料などを素材にした楽曲やアルバムの分析・研究を行い、Jazzにおける音楽の創り方やアンサンブルの考え方などについて学ぶ。
そこから更に、自分の音楽について深く考察する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

マイルス・デイビスの音楽（CDやDVDなど）を出来るだけ沢山聴いて下さい。
セッションやバンドなどで、授業で学んだことを積極的に実践してみて、授業内で報告して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の５０％）
平常点および授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス～ジャズとマイルス・デイビス～
2	「Birth of the Cool」「Dig」
3	１９５４年
4	第一期クインテット、マラソン・セッション
5	「Miles Ahead」
6	「Ascenseur Pour L'Echafaud」「Milestones」
7	「１９５８Miles」「Porgy and Bess」「スケッチ・オブ・スペイン」
8	「Kind of Blue」「Someday My Prince Will Come」「Night at the Blackhawk」
9	DVD 鑑賞「Sound of Miles Davis」
10	１９６３年「E.S.P」「Miles Smiles」「Sorcerer」「Nefertiti」
11	DVD 鑑賞「Miles Electric」
12	「Miles in the Sky」「キリマンジャロの娘」「In a Silent Way」
13	「Bitches Brew」Fillmore「Live-Evil」
14	「On The Corner」１９８０年以降
15	DVD 鑑賞「Miles in Paris」、まとめ

科目名	ﾊｲﾌﾞﾘｯﾄﾞ･ｺｰﾄﾞ/ﾊｰﾓﾆｰ/ｼﾞｬｽﾞﾊｰﾓﾆｰ5 （前） ［火3］						
代表教員	山田　拓児	授業コード	GK593500	科目コード	GK5935	期間	半期
担当教員	蟻正　行義						
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	CO・JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ハイブリッド・コードの響きやコード・スケールを理解し、作編曲できるようになること。実技面に於いても知識を活かし音楽表現の幅を広げること。

２．授業概要

1930年代から徐々に使われ、1960年には一般的になったハイブリッド・コードを解説し、生徒自身で自由にその響きを使えるように基礎から学ぶクラス。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ハイブリッド・コードは初めは慣れない響きなので、授業中で紹介した音源を聴きその響きを体に馴染ませること。また、鍵盤を弾き視覚的にも聴覚的にも覚えられるように繰り返し授業外で練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点＜テスト50%＋課題50%＞での評価とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる。
参考文献：Jazz Theory Book (Mark Levine著)
Jazz Piano Book (Mark Levine著)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ジャズハーモニーII-2までの知識を必須とする

授業計画	
	［半期］
1	ハイブリッド・コードの概要
2	ルート+3和音
3	ルート+4和音
4	ハイブリッド・コードのコード・スケール1
5	ハイブリッド・コードのコード・スケール2　確認
6	ハイブリッド・コードを用いてアレンジされたスタンダード・ナンバーの研究
7	ハイブリッド・コードを用いてスタンダードをアレンジ・発表
8	メジャー・コード上のでアッパー・ストラクチャー・トライアド
9	ドミナント・コード上のアッパー・ストラクチャー・トライアド
10	ペダル・ポイント上のハイブリッド・コード
11	トーナリティを拡張する特殊なハイブリッド・コード
12	ハイブリッド・コードを用いた作曲方法
13	作曲発表会
14	テストと解説
15	テストと解説、今後の課題

科目名	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･ﾓｰﾀﾞﾙ･ﾊｰﾓﾆｰ/ｼﾞｬｽﾞﾊｰﾓﾆｰ6 （後） ［火3］						
代表教員	山田　拓児	授業コード	GK593600	科目コード	GK5936	期間	半期
担当教員	蟻正　行義						
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	CO・JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本的なモードの手法から、現代のモード音楽まで理解し、作編曲及び実技演奏ができるようになること。

２．授業概要

チャーチモードを基本とし、1960年以降のモード音楽を中心に解説。ジャズの偉人のソロも研究し、現代のジャズに必要な知識を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ジャズ・ハーモニー・クラスの集大成となる当クラスは、ジャズ・ハーモニー1から復習し準備すること。また普段から様々な音楽を聴き研究すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点＜テスト50%＋課題50%＞での評価とする

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる。
参考文献：Jazz Theory Book (Mark Levine著)
Jazz Piano Book (Mark Levine著)
Inside Improvisation Series (Jerry Bergonzi著)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

科目の内容を理解するためには、ジャズ・ハーモニーII-1／ジャズハーモニー3で学習する知識を必須とする

授業計画	
	［半期］
1	モードの復習
2	ハイブリッド・コードの復習及びスタンダード曲のアナライズ
3	複数のチャーチ・モードを用いた曲のアナライズ及び作曲
4	フリジアン・モード
5	メロディック・マイナー・スケールの互換性
6	モーダルなブルース
7	ホール・トーン・スケール・ハーモニー
8	モード音楽に於けるペンタトニックの手法
9	モード音楽に於けるヘクサトニックの手法
10	スタンダード・ナンバーのモーダル・リハーモニゼーション
11	スタンダード・ナンバーのモーダル・リハーモニゼーション編曲発表会
12	1960年代～現代のモード・ジャズ
13	モーダル・ハーモニーを用いたオリジナル曲発表会
14	テストと解説
15	テストと解説、今後の課題

科目名	楽器と演奏論　[月2]						
代表教員	森　威功	授業コード	GK614500	科目コード	GK6145	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

発音原理や形態から楽器を分類し、それぞれの楽器の演奏家を学内外から招き、演奏を通して歴史や機能、魅力を語って頂く。いろいろな楽器を見て分類するだけでなく、生の演奏を聴く体験を通して楽器をより理解する事を目標とする。

2．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各回の楽器について書物やインターネットで予備知識を得てくる事。

4．成績評価の方法及び基準

レポート（詳細は授業の中で提示する）
授業への取り組み

5．授業で使用するテキスト・参考文献

当日配布

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	はじめに 担当：森　威功
2	Flute（木管楽器） 講師：斎藤 和志
3	Trumpet（金管楽器） 講師：原 朋直
4	Clarinet（木管楽器）講師：伊藤 寛隆
5	Saxophone（木管楽器） 講師：貝沼 拓実
6	Celesta（鍵盤楽器） 講師：小林 裕子
7	Horn（金管楽器） 講師：磯部 保彦
8	Tuba（金管楽器） 講師：橋本 晋哉
9	Cello（弦楽器）講師：荒 庸子
10	Euphonium（金管楽器） 講師：深石 宗太郎
11	Oboe（木管楽器） 講師：辻 功
12	Fagott（木管楽器） 講師：石井 淳
13	Trombone（金管楽器） 講師：松本 治
14	Harp（弦楽器） 講師：山崎 祐介
15	Guitar（弦楽器） 講師：原 善伸

授業計画	
	［後期］
1	Cembalo（鍵盤楽器） 講師：岡田 龍之介
2	二胡（弦楽器）講師：許　可
3	Piano（鍵盤楽器） 講師：北島 公彦
4	Pipe Organ（鍵盤楽器） 講師：荻野 由美子 （前田ホール）
5	Electric Guitar & Bass（弦楽器） 講師：斉藤 光浩
6	三味線（弦楽器） 講師：野澤 徹也
7	箏（弦楽器） 講師：吉原佐知子
8	笛（木管楽器） 講師：西川 浩平
9	和太鼓（打楽器） 講師：尾崎 仁彦
10	打楽器 講師：石井喜久子
11	Electric Organ（鍵盤楽器） 講師：赤塚 博美
12	Marimba（打楽器） 講師：神谷 百子
13	Synthesizer（電子楽器） 講師：前田 康徳
14	Improvisation（即興演奏） 講師：大類 朋美
15	まとめ 担当：森 威功

科目名	音楽分析総合講座　[月5]						
代表教員	松下　倫士	授業コード	GK616100	科目コード	GK6161	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽に携わる者にとって必要不可欠な音楽の要素や事項を理解し、演奏や研究の手助けとなるよう知識を深める。
また、演奏で表現するだけではなく、自らの言葉で作品の説明ができるように身につける。

２．授業概要

楽曲を演奏する際、分析力が必要になります。しかし、楽曲の分析法を知らなければ自分自身で作品の研究をすることができません。この授業ではバロック時代・古典派から始まり、現代に至るまでの様々な作品（ピアノ曲、オーケストラ曲、歌曲など）を取り上げ、実際に分析をしながら、作曲家がどのように曲を作っているのか、そして演奏する際は何を意識するべきなのか、学習します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

参考文献をよく読んでおくこと。
色々な音楽に興味を持つことが望ましい。交響曲など演奏時間の長い曲は授業内で全曲聴くことができないため、必ず授業後に各自で聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%、レポート50%
平常点は授業内での発表について評価します。レポートについては後期の授業内で説明します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

基本的にプリントを配布しますが、スコア購入を指示する場合もあります。
参考文献については、授業内で文献、書籍を推薦します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽曲分析に興味を持ち、ある程度の和声や理論の知識を身につけた上で履修することが望ましい。
授業の欠席が3分の1を超える者については、レポート提出資格を与えない。

受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。

授業計画	
	前期（形式について）
1	序論
2	ソナタ形式①：バロック時代（様式について）
3	ソナタ形式②：バロック時代（バッハを中心に）
4	ソナタ形式③：古典派（ベートーヴェン前期）
5	ソナタ形式④：古典派（ベートーヴェン後期）
6	ソナタ形式⑤：ロマン派（様式について）
7	ソナタ形式⑥：ロマン派（ブラームス）
8	ソナタ形式⑦：ロマン派（フランク）
9	ソナタ形式⑧：近現代（ドビュッシー）
10	ソナタ形式⑨：近現代（ウェーベルン、ブーレーズ）
11	フーガ①：バッハを中心に
12	フーガ②：ラヴェル、ショスタコーヴィチなど
13	オーケストラ①：バロック時代
14	オーケストラ②：古典派・交響曲
15	オーケストラ③：ロマン派・交響曲

授業計画	
	後期（様式について）
1	シューマン①：子供の情景（前）
2	シューマン②：子供の情景（後）
3	協奏曲①：バロック時代・ロマン派
4	協奏曲②：ロマン派・近現代
5	歌曲①：イタリア古典など
6	歌曲②：シューマン中心に
7	歌曲③：R. シュトラウス、日本歌曲
8	オーケストレーション①：くるみ割り人形（前）
9	オーケストレーション②：くるみ割り人形（後）
10	オーケストレーション③：ドビュッシー、ラヴェル
11	オーケストレーション④：ワーグナー
12	日本の作曲家①：矢代秋雄、三善晃
13	日本の作曲家②：武満徹、黛敏郎ほか
14	日本の作曲家③：自作を中心に
15	レポート提出・まとめ

科目名	音楽鑑賞論　［金4］						
代表教員	那須田　務	授業コード	GK626100	科目コード	GK6261	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

様々な時代とジャンルの楽曲についての講義（作曲家について、民族や地域の歴史を含む時代背景、作品の成立の経緯や楽曲形式、鑑賞のポイント、演奏者による解釈の違いなど）を通して、音楽作品からより多くの音楽美を受け取るノウハウを学びます。取り上げる音楽は基本的にクラシックですが、どのコースの学生にとっても、これらの知識は必ずや自身の音楽の世界を豊かにしてくれることでしょう。なお、取り上げる曲は変更することもありますが、その際にはあらかじめ授業でお伝えします。

２．授業概要

詳細は授業計画を参照ください。写真・映像・ＣＤ・インターネット等様々なメディアを使って授業します。なお、取り上げる曲目は変更する場合があります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習や復習については授業の際にその都度指示しますが、あらかじめプリントを配信しますので、それをよく読んで来てください。

４．成績評価の方法及び基準

試験もしくはレポートです。
平常点（授業への参加姿勢）（評価の５０％）
レポート（評価の１０％）
学年末の試験もしくはレポート（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に教科書は用いません。毎回、授業ごとにプリントをポータルに配信します。また、必要に応じて参考文献を指示します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽を愛する、学習意欲を持った人を望みます。出席を重視します。なお、当講座は毎年、受講希望者が多いため、人数制限をする場合があります。また、なるべく履修は一度にしてください。

授業計画	
	［前期］ 中世から初期ロマン派まで
1	ガイダンス～「音楽作品の楽しみ方について」「音楽鑑賞法の意義」などについてお話しをし、簡単な曲当てクイズをします。
2	中世・ルネサンス期の音楽その１～ヨーロッパの中世の音楽を様々なＣＤで聴き比べ、鑑賞する際のポイントを紹介します。また、ルネサンス期の舞曲やチェンバロ音楽などを取り上げ、鑑賞のポイントを概説した上で、複数の演奏を聴き比べ、それぞれの解釈や狙いについて考えます。
3	ルネサンス期の音楽その２～声楽編です。ここではルネサンス期の声楽曲、モテト、ミサ曲などの宗教曲やフランスのシャンソン、ダウラントのリュート歌曲などを扱います。
4	ヴィヴァルディ《四季》を取り上げ、リトルネッロ形式やソネット詩と音楽等楽曲解説をした後に、様々な演奏を聴き比べて解釈の違いを考察します。
5	バッハの鍵盤音楽その１～バッハの生涯、鍵盤音楽について概説し、その鍵盤音楽《インヴェンションとシンフォニア》と《イタリア協奏曲》を取り上げ、チェンバロの仕組みや楽曲解説や鑑賞のポイントなどをお話します。
6	バッハその２～ブランデンブルク協奏曲などバッハの管弦楽作品を取り上げます。
7	バッハその３～バッハの宗教曲を取り上げ、楽曲の構造、歌詞と音楽の関係、修辞学的な解釈などを通して作品の魅力を学びます。
8	ヘンデルのオペラその１～バロック期のイタリア・オペラやヘンデルのオペラについて概説した後に、ヘンデルのオペラ《ジュリオ・チェーザレ》を取り上げ、第1幕の鑑賞のポイントについてお話します。
9	ヘンデルのオペラ《ジューリオ・チェーザレ》の第2幕を鑑賞します。
10	ハイドンの弦楽四重奏曲＆交響曲～ハイドンについて概説した後に、具体的な作品を取り上げて、古典派のソナタ形式や変奏曲について学びます。
11	古典派の交響曲と協奏曲～モーツァルトの交響曲とピアノ協奏曲を通して古典派の音楽のスタイルとモーツァルト独自の特徴などについて学びます。
12	モーツァルトのオペラ・ブッファ《フィガロの結婚》を取り上げ、音楽と劇の合一、演奏と演出の問題などを考察します。
13	モーツァルトのオペラ・ブッファ《コジ・ファン・トゥッテ》を取り上げ、テキストと音楽の関係、演出の問題などを考察します。
14	モーツァルトのジングシュピール《魔笛》を取り上げ、作品論や聴き所を紹介します。
15	ベートーヴェンの交響曲第9番《合唱》を成立史や楽曲分析など様々な点から考察し、鑑賞に役立てます。

授業計画	
	［後期］ ロマン派から20世紀初頭まで。
1	シューベルトの《未完成》～シューベルトの生涯と音楽の特徴やシェリングの解釈学による分析についてお話した上で、交響曲ロ短調《未完成》　D.759を聴きます。
2	ドイツ歌曲の魅力～シューベルトやシューマンなどの歌曲を取り上げ、ドイツ・リートにおける詩（歌詞）と音楽の関わりを見ていきます。
3	ショパンのピアノ曲～ショパンの人と音楽、なかでもポロネーズとマズルカについて概説し、その魅力や鑑賞のポイントを紹介します。
4	ブラームスの交響曲～ブラームスの交響曲を一つ取り上げ、作品の成立事情や楽曲分析等を通して作品の魅力に迫ります。
5	ロマン派の標題音楽の代表的な作品である、ベルリオーズの《幻想交響曲》を取り上げ、自伝的な要素や固定楽想などの楽曲分析、初演時の演奏の新旧の楽器などを概説し、同曲の革新性について考察します。
6	19世紀国民楽派のチェコ編。スメタナの交響詩《わが祖国》の標題音楽的な解釈や歌劇《売られた花嫁》におけるチェコの民族音楽について学び、鑑賞に役立てます。
7	ドヴォルザークの交響曲第9番《新世界》とチェロ協奏曲を取り上げ、成立過程、民族音楽的特徴などを概説。楽曲の魅力について考えます。
8	ブルックナーの交響曲～後期ロマン派のシンフォニスト、ブルックナーの人とその音楽の特質をお話した上で、交響曲第4番変ホ長調を複数の演奏で聴き比べ、異稿の問題について考えます。
9	マーラーの交響曲～後期ロマン派のシンフォニストをもう一人。歌曲と管弦楽の要素を併せ持ったマーラーの交響曲について概説し、鑑賞のポイントを学びます。
10	チャイコフスキーのバレエ音楽。三大バレエ《白鳥の湖》《くるみ割り人形》《眠れる森の美女》のうちのどれかを取り上げ、作曲経緯、作品の概説、音楽の特徴などを概説します。
11	ラフマニノフの《パガニーニの主題によるラプソディ》の成立背景や魅力を概説し、作曲家が曲に込めたメッセージを読み解きます。
12	スペイン音楽とフラメンコ～スペイン音楽の歴史を概観し、フラメンコなどスペイン独自の音楽の特徴を踏まえつつ、アルベニス、グラナドス、ファリャらの音楽を鑑賞します。
13	ドビュッシー《月の光》～印象派の音楽家といわれるドビュッシーは本当に印象派なのでしょうか。《ベルガマスク組曲》の《月の光》を題材に、ベル・エポックの時代背景や象徴派の詩人との関わり、ドビュッシーの音楽観や作曲技法を通してその音楽の魅力を探ります。
14	ピアソラ？タンゴ？～アルゼンチンの作曲家ピアソラは、タンゴというジャンルを超えた曲を残しました。タンゴの歴史を概観した上でピアソラの生涯とその音楽の独自性についてお話し、彼自身による演奏を鑑賞します。
15	授業のまとめ。

科目名	日本音楽史　（後）［金2］						
代表教員	森重　行敏	授業コード	GK626700	科目コード	GK6267	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本音楽の歴史についての基礎的な知識は、どんな分野の音楽活動を目指すものにとっても必要である。また、アジア文化の一面としての日本文化を知ることにより、音楽における多文化の共存とは何かを考える重要な機会ともなる。

２．授業概要

ビデオ、音源を活用して、体験を重視したものとする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

特別な予習よりも、授業でふれた分野について、各自が積極的に鑑賞、体験を深めることを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

期末には指定されたテーマによる課題を提出すること。授業への参加姿勢と課題の内容評価は半々を基準とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は授業で紹介する。適宜プリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前提条件は特にないが、日本音楽に関心を持っていること。定員超過の場合は、相談の上、受講を制限することがある。

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス、日本音楽の概観
2	古代の芸能
3	雅楽1　舞楽
4	雅楽2　管絃
5	雅楽3　その他、国風歌舞など
6	仏教音楽、声明
7	能楽1　能
8	能楽2　狂言
9	近世邦楽1　劇音楽
10	近世邦楽2　室内楽
11	近世邦楽3　三味線音楽
12	近世邦楽4　箏曲
13	洋楽との出会い
14	近代の日本音楽
15	まとめ

科目名	音楽学特殊講義１　（後）　[水2]						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	GK626800	科目コード	GK6268	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・反ユダヤ主義思想、及びそれが最悪なかたちで頂点に達したナチス・ドイツ（1933-45）の時期の音楽についての知識を深める。
・作曲家とその音楽を、時代の風潮や国家の政策との関係から説明できるようになる。

２．授業概要

視聴覚資料の鑑賞もまじえつつ、講義形式で授業を行う。
ナチス政権下で活動していた作曲家や音楽家の状況、アドルフ・ヒトラーが心酔していたと言われるリヒャルト・ワーグナーの思想などをテーマとしてとりあげる予定である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では音楽作品をCDやDVDで鑑賞することもありますが、それらの作品の一部しか実際には聴くことができないので、授業で観賞した作品の全体を聴いたり、授業でとりあげた作曲家の他の作品について調べたりしてください。以上の復習をするためには、1回の授業につき60分ほどの時間がかかります。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（授業への参加姿勢、随時実施する授業後小テスト）が合計70点満点。
・期末レポートは30点満点。
・以上の合計100点満点のうち、Ｓは90点以上、Ａは80～89点、Ｂは70～79点、Ｃは60～69点、Ｄ（単位取得不可）は59点以下。ただし、合計点数が60点を上回っても、欠席回数（遅刻・早退が3回で１回の欠席とする）が５回を超える場合は単位取得不可とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

配布プリントをもとに、講義を行います。
参考文献は授業で紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・西洋音楽史、とくに「古典派の音楽史」、「ロマン派、近・現代の音楽史」に関する基本的な知識を受講者がすでに有していることを前提にして授業を進めます（ただし、これらの音楽史の授業の単位を取得しているかどうかは問いません）。
・授業開始時間の５分後～30分後に教室に現れた場合は、遅刻とみなす。
・授業開始後30分以上遅れて教室に現れた場合は、欠席とみなす。
・授業開始後１時間未満での早退は、欠席とみなす。
・遅刻・早退３回で、１回の欠席とみなす。
・不正出席（学生証をカードリーダーに通しただけで逃亡するなど）が２回以上発覚した場合は、単位取得不可とする（欠格条件）。
・３分の２以上の出席がない場合は、期末レポートを提出する資格を認めない（欠格条件）。
・授業中の私語は慎むこと。ひどい場合は退室してもらうこともある。
・授業中に食事をしないこと。飲み物は水分補給という意味で可。ただし、過剰にくつろがないこと。

授業計画	
	［半期］
1	反ユダヤ主義とナチズム
2	ナチスの音楽政策
3	グスタフ・マーラー
4	アーノルト・シェーンベルク
5	リヒャルト･シュトラウス
6	第三帝国の指揮者たち
7	ナチスと映画
8	リヒャルト・ワーグナー（１）ヒトラーとワーグナー一族
9	リヒャルト・ワーグナー（２）《さまよえるオランダ人》、《パルジファル》
10	リヒャルト・ワーグナー（３）イスラエルにおけるワーグナーのタブー視
11	リヒャルト・ワーグナー（４）バレンボイムの活動
12	リヒャルト・ワーグナー（５）《ニュルンベルクのマイスタージンガー》、ワーグナーの孫と曾孫
13	リヒャルト・ワーグナー（６）《ニーベルングの指環》
14	ナチス・ドイツにおけるユダヤ人の音楽活動
15	総括

科目名	東洋音楽史　（後）［火4］						
代表教員	山本　華子	授業コード	GK627000	科目コード	GK6270	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業の主題は、アジアの音楽の歴史です。アジア各地には様々な音楽文化があり、長い歴史と伝統を持っています。この授業ではそれらを概観し、地域ごとの特色や歴史的・文化的背景を理解することを目標とします。

２．授業概要

毎回、講義とともに実際の音源を鑑賞していきます。また、授業中にミニレポートを作成して提出してもらいます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：毎回のテーマに関する基本的な専門用語などを事前に調べておく。
復習：講義後に配布資料で内容を振り返り、関心を持った対象の音源を聴く。
具体的な方法については講義内で説明します。

４．成績評価の方法及び基準

授業参加度（評価の70%、毎回のミニレポート含む）
学期末レポート（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜プリントを配布します。
参考文献:
『アジア音楽史』柘植元一・植村幸生編（音楽之友社１９９６）
『日本の音楽・アジアの音楽』全７巻・別巻２　岩波講座（岩波書店１９８９）
その他、授業中に適宜紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回のミニレポート（感想文程度）と学期末のレポートを課す予定。

授業計画	
	［半期］
1	はじめに（授業ガイダンス）
2	西アジア：イラン・トルコ・アラブ
3	南アジア：インド
4	南アジア：パキスタン、スリランカ他
5	東南アジア：インドネシア
6	東南アジア：タイ、フィリピン他
7	オセアニア
8	中央アジア５ヶ国
9	北アジア：モンゴル他
10	東アジア：中国
11	東アジア：韓国（正楽）
12	東アジア：韓国（民俗音楽）
13	東アジア：韓国（フュージョン音楽・K-POP）
14	東アジア：日本
15	総括として

科目名	教職論　（前）［月1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7311A0	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
・教職の意義や教師の役割・資質能力、職務内容等に関する知識を身に付け、教職への意欲を高める。
・職場の実体験、類似体験や他の職業との比較などの学修を通して、教職の職業的特徴の理解と自らの適性を知る。
【到達目標】
（１）教職の意義：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。
（２）教員の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。
（３）教員の職務内容：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。
（４）チーム学校への対応：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

２．授業概要

・学校で日常的に行われている具体的な活動を、教育関連法規の目でみたらどうなるのか、どんな課題があるのか等について深く考えられるような内容とする。
・今日的な教育における課題への対応について学ぶときは、グループワークを行う。また、そこから得られる対話と交流を通して得られる学習効果を高める。
・講義での学びから、課題についての小論文等の作成を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
菱村幸彦『改訂新版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）
田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（教員の魅力）　ガイダンス：授業の進め方、課題への対応等、講義概要を理解する。／　教員の魅力や教員となるための方法について理解する。
2	公教育の目標と教員の存在意義　公教育の目的と教職の社会的意義について理解する。　／　学校教育の役割と教員の役割を理解する。　／　教員の仕事を理解する。
3	教職への進路（１）　教員の資格と教員養成について理解する。　／　他の職業との比較を通して、教職の特徴を理解する。　／　教職の専門性を理解する。
4	学校と教職の歴史　学校教育と教職の歴史を理解する。　／　教職の成立と教員の誕生、教職観の変遷を理解する。
5	教員に求められる資質能力について（１）　今日の教員に求められる基礎的な資質・能力について理解し、今後の履修等の学び方の見通しをもつ。
6	教師の教育活動（１）－授業者として　教育課程と学習指導・生徒指導についての理解。　／　教育課程の構造とその編成・実施・評価についての理解。　／　学習と教授－児童生徒の学習・教師の指導についての理解。　／　授業づくり－計画・準備・実践・評価・改善についての理解。
7	教師の教育活動（２）－学級担任として　学級担任と学級経営－学習集団づくりについての理解。　／　児童生徒理解と心のケアについての理解。　／　健全育成と生徒指導についての理解。
8	学校組織と教員の種類　学校に必要な教員の種類と職務についての理解。／　学校運営と校務分掌組織についての理解。
9	教員に求められる資質能力について（２）　教員の資質向上と研修　／　教員研修の意義と教員研修制度。　／　教員研修による力量形成と教師の成長。
10	教員に求められる資質能力について（３）　近代学校の誕生、教員養成制度の変遷過程と特徴を理解する。　／　今日の教員の採用制度と、教員の研修制度を理解する。　／　生涯にわたって学び続けることの必要性の理解。　／　免許更新制度と更新講習。
11	教員の服務義務について　／　公立学校の教員の服務義務を理解する。
12	教員の職務上の義務について　／　地方公務員法に定める職務上の義務を理解する。
13	教員の身分上の義務について　／　地方公務員法に定める身分上の義務を理解する。　／　教育公務員特例法等の一部を改正する法律についての理解。
14	チーム学校への対応　「チームとしての学校」が求められる背景を理解する。　／　「チームとしての学校」の必要性を理解する。
15	教職への進路（２）－教員採用に向けて　教員採用の状況。　／　教員の選考、採用試験の概要と準備。　／　介護等体験の意義と心構え。　／　教育実習への心構えと準備計画。　まとめ

科目名	教職論　（前）［月1］Bクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7311B0	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
・教職の意義や教師の役割・資質能力、職務内容等に関する知識を身に付け、教職への意欲を高める。
・職場の実体験、類似体験や他の職業との比較などの学修を通して、教職の職業的特徴の理解と自らの適性を知る。
【到達目標】
（１）教職の意義：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。
（２）教員の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。
（３）教員の職務内容：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。
（４）チーム学校への対応：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

２．授業概要

・学校で日常的に行われている具体的な活動を、教育関連法規の目でみたらどうなるのか、どんな課題があるのか等について深く考えられるような内容とする。
・今日的な教育における課題への対応について学ぶときは、グループワークを行う。また、そこから得られる対話と交流を通して得られる学習効果を高める。
・講義での学びから、課題についての小論文等の作成を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
菱村幸彦『改訂新版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）
田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（教員の魅力）　ガイダンス：授業の進め方、課題への対応等、講義概要を理解する。/　教員の魅力や教員となるための方法について理解する。
2	公教育の目標と教員の存在意義　公教育の目的と教職の社会的意義について理解する。　/　学校教育の役割と教員の役割を理解する。　/　教員の仕事を理解する。
3	教職への進路（１）　教員の資格と教員養成について理解する。　/　他の職業との比較を通して、教職の特徴を理解する。　/　教職の専門性を理解する。
4	学校と教職の歴史　学校教育と教職の歴史を理解する。　/　教職の成立と教員の誕生、教職観の変遷を理解する。
5	教員に求められる資質能力について（１）　今日の教員に求められる基礎的な資質・能力について理解し、今後の履修等の学び方の見通しをもつ。
6	教師の教育活動（１）－授業者として　教育課程と学習指導・生徒指導についての理解。　/　教育課程の構造とその編成・実施・評価についての理解。　/　学習と教授－児童生徒の学習・教師の指導についての理解。　/　授業づくり－計画・準備・実践・評価・改善についての理解。
7	教師の教育活動（２）－学級担任として　学級担任と学級経営－学習集団づくりについての理解。　/　児童生徒理解と心のケアについての理解。　/　健全育成と生徒指導についての理解。
8	学校組織と教員の種類　学校に必要な教員の種類と職務についての理解。/　学校運営と校務分掌組織についての理解。
9	教員に求められる資質能力について（２）　教員の資質向上と研修　/　教員研修の意義と教員研修制度。　/　教員研修による力量形成と教師の成長。
10	教員に求められる資質能力について（３）　近代学校の誕生、教員養成制度の変遷過程と特徴を理解する。　/　今日の教員の採用制度と、教員の研修制度を理解する。　/　生涯にわたって学び続けることの必要性の理解。　/　免許更新制度と更新講習。
11	教員の服務義務について　/　公立学校の教員の服務義務を理解する。
12	教員の職務上の義務について　/　地方公務員法に定める職務上の義務を理解する。
13	教員の身分上の義務について　/　地方公務員法に定める身分上の義務を理解する。　/　教育公務員特例法等の一部を改正する法律についての理解。
14	チーム学校への対応　「チームとしての学校」が求められる背景を理解する。　/　「チームとしての学校」の必要性を理解する。
15	教職への進路（２）－教員採用に向けて　教員採用の状況。　/　教員の選考、採用試験の概要と準備。　/　介護等体験の意義と心構え。　/　教育実習への心構えと準備計画。　まとめ

科目名	教職論　（前）［月1］Cクラス						
代表教員	根岸　久明	授業コード	GK7311C0	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
・教職の意義や教師の役割・資質能力、職務内容等に関する知識を身に付け、教職への意欲を高める。
・職場の実体験、類似体験や他の職業との比較などの学修を通して、教職の職業的特徴の理解と自らの適性を知る。
【到達目標】
（１）教職の意義：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。
（２）教員の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。
（３）教員の職務内容：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。
（４）チーム学校への対応：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

２．授業概要

・学校で日常的に行われている具体的な活動を、教育関連法規の目でみたらどうなるのか、どんな課題があるのか等について深く考えられるような内容とする。
・今日的な教育における課題への対応について学ぶときは、グループワークを行う。また、そこから得られる対話と交流を通して得られる学習効果を高める。
・講義での学びから、課題についての小論文等の作成を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
菱村幸彦『改訂新版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）
田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（教員の魅力）　ガイダンス：授業の進め方、課題への対応等、講義概要を理解する。／　教員の魅力や教員となるための方法について理解する。
2	公教育の目標と教員の存在意義　公教育の目的と教職の社会的意義について理解する。　／　学校教育の役割と教員の役割を理解する。　／　教員の仕事を理解する。
3	教職への進路（１）　教員の資格と教員養成について理解する。　／　他の職業との比較を通して、教職の特徴を理解する。　／　教職の専門性を理解する。
4	学校と教職の歴史　学校教育と教職の歴史を理解する。　／　教職の成立と教員の誕生、教職観の変遷を理解する。
5	教員に求められる資質能力について（１）　今日の教員に求められる基礎的な資質・能力について理解し、今後の履修等の学び方の見通しをもつ。
6	教師の教育活動（１）－授業者として　教育課程と学習指導・生徒指導についての理解。　／　教育課程の構造とその編成・実施・評価についての理解。　／　学習と教授－児童生徒の学習・教師の指導についての理解。　／　授業づくり－計画・準備・実践・評価・改善についての理解。
7	教師の教育活動（２）－学級担任として　学級担任と学級経営－学習集団づくりについての理解。　／　児童生徒理解と心のケアについての理解。　／　健全育成と生徒指導についての理解。
8	学校組織と教員の種類　学校に必要な教員の種類と職務についての理解。／　学校運営と校務分掌組織についての理解。
9	教員に求められる資質能力について（２）　教員の資質向上と研修　／　教員研修の意義と教員研修制度。　／　教員研修による力量形成と教師の成長。
10	教員に求められる資質能力について（３）　近代学校の誕生、教員養成制度の変遷過程と特徴を理解する。　／　今日の教員の採用制度と、教員の研修制度を理解する。　／　生涯にわたって学び続けることの必要性の理解。　／　免許更新制度と更新講習。
11	教員の服務義務について　／　公立学校の教員の服務義務を理解する。
12	教員の職務上の義務について　／　地方公務員法に定める職務上の義務を理解する。
13	教員の身分上の義務について　／　地方公務員法に定める身分上の義務を理解する。　／　教育公務員特例法等の一部を改正する法律についての理解。
14	チーム学校への対応　「チームとしての学校」が求められる背景を理解する。　／　「チームとしての学校」の必要性を理解する。
15	教職への進路（２）－教員採用に向けて　教員採用の状況。　／　教員の選考、採用試験の概要と準備。　／　介護等体験の意義と心構え。　／　教育実習への心構えと準備計画。　まとめ

科目名	教職論　（前）［月1］Dクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7311D0	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
・教職の意義や教師の役割・資質能力、職務内容等に関する知識を身に付け、教職への意欲を高める。
・職場の実体験、類似体験や他の職業との比較などの学修を通して、教職の職業的特徴の理解と自らの適性を知る。
【到達目標】
（１）教職の意義：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。
（２）教員の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。
（３）教員の職務内容：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。
（４）チーム学校への対応：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

２．授業概要

・学校で日常的に行われている具体的な活動を、教育関連法規の目でみたらどうなるのか、どんな課題があるのか等について深く考えられるような内容とする。
・今日的な教育における課題への対応について学ぶときは、グループワークを行う。また、そこから得られる対話と交流を通して得られる学習効果を高める。
・講義での学びから、課題についての小論文等の作成を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
菱村幸彦『改訂新版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）
田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（教員の魅力）　ガイダンス：授業の進め方、課題への対応等、講義概要を理解する。/　教員の魅力や教員となるための方法について理解する。
2	公教育の目標と教員の存在意義　公教育の目的と教職の社会的意義について理解する。　/　学校教育の役割と教員の役割を理解する。　/　教員の仕事を理解する。
3	教職への進路（１）　教員の資格と教員養成について理解する。　/　他の職業との比較を通して、教職の特徴を理解する。　/　教職の専門性を理解する。
4	学校と教職の歴史　学校教育と教職の歴史を理解する。　/　教職の成立と教員の誕生、教職観の変遷を理解する。
5	教員に求められる資質能力について（１）　今日の教員に求められる基礎的な資質・能力について理解し、今後の履修等の学び方の見通しをもつ。
6	教師の教育活動（１）－授業者として　教育課程と学習指導・生徒指導についての理解。　/　教育課程の構造とその編成・実施・評価についての理解。　/　学習と教授－児童生徒の学習・教師の指導についての理解。　/　授業づくり－計画・準備・実践・評価・改善についての理解。
7	教師の教育活動（２）－学級担任として　学級担任と学級経営－学習集団づくりについての理解。　/　児童生徒理解と心のケアについての理解。　/　健全育成と生徒指導についての理解。
8	学校組織と教員の種類　学校に必要な教員の種類と職務についての理解。/　学校運営と校務分掌組織についての理解。
9	教員に求められる資質能力について（２）　教員の資質向上と研修　/　教員研修の意義と教員研修制度。　/　教員研修による力量形成と教師の成長。
10	教員に求められる資質能力について（３）　近代学校の誕生、教員養成制度の変遷過程と特徴を理解する。　/　今日の教員の採用制度と、教員の研修制度を理解する。　/　生涯にわたって学び続けることの必要性の理解。　/　免許更新制度と更新講習。
11	教員の服務義務について　/　公立学校の教員の服務義務を理解する。
12	教員の職務上の義務について　/　地方公務員法に定める職務上の義務を理解する。
13	教員の身分上の義務について　/　地方公務員法に定める身分上の義務を理解する。　/　教育公務員特例法等の一部を改正する法律についての理解。
14	チーム学校への対応　「チームとしての学校」が求められる背景を理解する。　/　「チームとしての学校」の必要性を理解する。
15	教職への進路（２）－教員採用に向けて　教員採用の状況。　/　教員の選考、採用試験の概要と準備。　/　介護等体験の意義と心構え。　/　教育実習への心構えと準備計画。　まとめ

科目名	教職論　（前）［月1］Eクラス						
代表教員	木村　泰子	授業コード	GK7311E0	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
・教職の意義や教師の役割・資質能力、職務内容等に関する知識を身に付け、教職への意欲を高める。
・職場の実体験、類似体験や他の職業との比較などの学修を通して、教職の職業的特徴の理解と自らの適性を知る。
【到達目標】
（１）教職の意義：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。
（２）教員の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。
（３）教員の職務内容：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。
（４）チーム学校への対応：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

２．授業概要

・学校で日常的に行われている具体的な活動を、教育関連法規の目でみたらどうなるのか、どんな課題があるのか等について深く考えられるような内容とする。
・今日的な教育における課題への対応について学ぶときは、グループワークを行う。また、そこから得られる対話と交流を通して得られる学習効果を高める。
・講義での学びから、課題についての小論文等の作成を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
菱村幸彦『改訂新版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）
田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（教員の魅力）　ガイダンス：授業の進め方、課題への対応等、講義概要を理解する。/　教員の魅力や教員となるための方法について理解する。
2	公教育の目標と教員の存在意義　公教育の目的と教職の社会的意義について理解する。　/　学校教育の役割と教員の役割を理解する。　/　教員の仕事を理解する。
3	教職への進路（１）　教員の資格と教員養成について理解する。　/　他の職業との比較を通して、教職の特徴を理解する。　/　教職の専門性を理解する。
4	学校と教職の歴史　学校教育と教職の歴史を理解する。　/　教職の成立と教員の誕生、教職観の変遷を理解する。
5	教員に求められる資質能力について（１）　今日の教員に求められる基礎的な資質・能力について理解し、今後の履修等の学び方の見通しをもつ。
6	教師の教育活動（１）－授業者として　教育課程と学習指導・生徒指導についての理解。　/　教育課程の構造とその編成・実施・評価についての理解。　/　学習と教授－児童生徒の学習・教師の指導についての理解。　/　授業づくり－計画・準備・実践・評価・改善についての理解。
7	教師の教育活動（２）－学級担任として　学級担任と学級経営－学習集団づくりについての理解。　/　児童生徒理解と心のケアについての理解。　/　健全育成と生徒指導についての理解。
8	学校組織と教員の種類　学校に必要な教員の種類と職務についての理解。/　学校運営と校務分掌組織についての理解。
9	教員に求められる資質能力について（２）　教員の資質向上と研修　/　教員研修の意義と教員研修制度。　/　教員研修による力量形成と教師の成長。
10	教員に求められる資質能力について（３）　近代学校の誕生、教員養成制度の変遷過程と特徴を理解する。　/　今日の教員の採用制度と、教員の研修制度を理解する。　/　生涯にわたって学び続けることの必要性の理解。　/　免許更新制度と更新講習。
11	教員の服務義務について　/　公立学校の教員の服務義務を理解する。
12	教員の職務上の義務について　/　地方公務員法に定める職務上の義務を理解する。
13	教員の身分上の義務について　/　地方公務員法に定める身分上の義務を理解する。　/　教育公務員特例法等の一部を改正する法律についての理解。
14	チーム学校への対応　「チームとしての学校」が求められる背景を理解する。　/　「チームとしての学校」の必要性を理解する。
15	教職への進路（２）－教員採用に向けて　教員採用の状況。　/　教員の選考、採用試験の概要と準備。　/　介護等体験の意義と心構え。　/　教育実習への心構えと準備計画。　まとめ

科目名	教育原理　（後）［月1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7320A0	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
教育の理念、教育の思想や教育に関する歴史を学ぶ中で教育の本質とは何かについて学ぶ。また、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。
【到達目標】
（１）教育の基本的概念：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
（２）教育に関する歴史：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
（３）教育に関する思想：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

２．授業概要

・教育・学校・教員制度についての歴史とともに、教育に関する思想や、学校・家庭・子ども・教員との相互関係を学ぶ中で、教育の基本的な概念を理解する。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決について考察する。
・具体的な図表・データ等を用いて、教育の問題に対する理解を深めるとともに、学生同士の「話し合い」を行い、多様な考え方を交流する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（60%）、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢等　40%）を基にして総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業の内容、評価に関する説明
2	教育の基本的概念①　教育学の諸概念、教育の本質及び目標
3	教育の基本的概念②　子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係
4	西洋の教育史①　前近代における教育の歴史
5	西洋の教育史②　近代における教育の歴史
6	日本の教育史①　近代以前の日本の学校／日本の近代化と学校教育
7	日本の教育史②　教育基本法にみられる戦後の学校教育
8	青年期の課題と教育
9	現代社会における教育に関わる課題①　家庭における教育の歴史と課題
10	現代社会における教育に関わる課題②　学校教育と学習権
11	社会教育と生涯学習
12	教育の権利と「子どもの権利条約」
13	代表的な教育家の思想について
14	社会の変化と教育施策の動向
15	よりよい教育を求めて　　「教育原理」のまとめ

科目名	教育原理　（後）［月1］Bクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7320B0	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
教育の理念、教育の思想や教育に関する歴史を学ぶ中で教育の本質とは何かについて学ぶ。また、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。
【到達目標】
（１）教育の基本的概念：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
（２）教育に関する歴史：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
（３）教育に関する思想：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

２．授業概要

・教育・学校・教員制度についての歴史とともに、教育に関する思想や、学校・家庭・子ども・教員との相互関係を学ぶ中で、教育の基本的な概念を理解する。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決について考察する。
・具体的な図表・データ等を用いて、教育の問題に対する理解を深めるとともに、学生同士の「話し合い」を行い、多様な考え方を交流する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（60%）、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢等　40%）を基にして総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業の内容、評価に関する説明
2	教育の基本的概念①　教育学の諸概念、教育の本質及び目標
3	教育の基本的概念②　子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係
4	西洋の教育史①　前近代における教育の歴史
5	西洋の教育史②　近代における教育の歴史
6	日本の教育史①　近代以前の日本の学校／日本の近代化と学校教育
7	日本の教育史②　教育基本法にみられる戦後の学校教育
8	青年期の課題と教育
9	現代社会における教育に関わる課題①　家庭における教育の歴史と課題
10	現代社会における教育に関わる課題②　学校教育と学習権
11	社会教育と生涯学習
12	教育の権利と「子どもの権利条約」
13	代表的な教育家の思想について
14	社会の変化と教育施策の動向
15	よりよい教育を求めて　　「教育原理」のまとめ

科目名	教育原理　（後）［月1］Cクラス						
代表教員	根岸　久明	授業コード	GK7320C0	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
教育の理念、教育の思想や教育に関する歴史を学ぶ中で教育の本質とは何かについて学ぶ。また、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。
【到達目標】
（１）教育の基本的概念：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
（２）教育に関する歴史：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
（３）教育に関する思想：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

２．授業概要

・教育・学校・教員制度についての歴史とともに、教育に関する思想や、学校・家庭・子ども・教員との相互関係を学ぶ中で、教育の基本的な概念を理解する。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決について考察する。
・具体的な図表・データ等を用いて、教育の問題に対する理解を深めるとともに、学生同士の「話し合い」を行い、多様な考え方を交流する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（60%）、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢等　40%）を基にして総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業の内容、評価に関する説明
2	教育の基本的概念①　教育学の諸概念、教育の本質及び目標
3	教育の基本的概念②　子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係
4	西洋の教育史①　前近代における教育の歴史
5	西洋の教育史②　近代における教育の歴史
6	日本の教育史①　近代以前の日本の学校／日本の近代化と学校教育
7	日本の教育史②　教育基本法にみられる戦後の学校教育
8	青年期の課題と教育
9	現代社会における教育に関わる課題①　家庭における教育の歴史と課題
10	現代社会における教育に関わる課題②　学校教育と学習権
11	社会教育と生涯学習
12	教育の権利と「子どもの権利条約」
13	代表的な教育家の思想について
14	社会の変化と教育施策の動向
15	よりよい教育を求めて　　「教育原理」のまとめ

科目名	教育原理　（後）［月1］Dクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7320D0	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
教育の理念、教育の思想や教育に関する歴史を学ぶ中で教育の本質とは何かについて学ぶ。また、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。
【到達目標】
（１）教育の基本的概念：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
（２）教育に関する歴史：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
（３）教育に関する思想：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

２．授業概要

・教育・学校・教員制度についての歴史とともに、教育に関する思想や、学校・家庭・子ども・教員との相互関係を学ぶ中で、教育の基本的な概念を理解する。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決について考察する。
・具体的な図表・データ等を用いて、教育の問題に対する理解を深めるとともに、学生同士の「話し合い」を行い、多様な考え方を交流する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（60%）、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢等　40%）を基にして総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業の内容、評価に関する説明
2	教育の基本的概念①　教育学の諸概念、教育の本質及び目標
3	教育の基本的概念②　子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係
4	西洋の教育史①　前近代における教育の歴史
5	西洋の教育史②　近代における教育の歴史
6	日本の教育史①　近代以前の日本の学校／日本の近代化と学校教育
7	日本の教育史②　教育基本法にみられる戦後の学校教育
8	青年期の課題と教育
9	現代社会における教育に関わる課題①　家庭における教育の歴史と課題
10	現代社会における教育に関わる課題②　学校教育と学習権
11	社会教育と生涯学習
12	教育の権利と「子どもの権利条約」
13	代表的な教育家の思想について
14	社会の変化と教育施策の動向
15	よりよい教育を求めて　　「教育原理」のまとめ

科目名	教育原理　（後）［月1］Eクラス						
代表教員	木村　泰子	授業コード	GK7320E0	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
教育の理念、教育の思想や教育に関する歴史を学ぶ中で教育の本質とは何かについて学ぶ。また、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。
【到達目標】
（１）教育の基本的概念：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
（２）教育に関する歴史：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
（３）教育に関する思想：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

２．授業概要

・教育・学校・教員制度についての歴史とともに、教育に関する思想や、学校・家庭・子ども・教員との相互関係を学ぶ中で、教育の基本的な概念を理解する。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決について考察する。
・具体的な図表・データ等を用いて、教育の問題に対する理解を深めるとともに、学生同士の「話し合い」を行い、多様な考え方を交流する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（60%）、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢等　40%）を基にして総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業の内容、評価に関する説明
2	教育の基本的概念①　教育学の諸概念、教育の本質及び目標
3	教育の基本的概念②　子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係
4	西洋の教育史①　前近代における教育の歴史
5	西洋の教育史②　近代における教育の歴史
6	日本の教育史①　近代以前の日本の学校／日本の近代化と学校教育
7	日本の教育史②　教育基本法にみられる戦後の学校教育
8	青年期の課題と教育
9	現代社会における教育に関わる課題①　家庭における教育の歴史と課題
10	現代社会における教育に関わる課題②　学校教育と学習権
11	社会教育と生涯学習
12	教育の権利と「子どもの権利条約」
13	代表的な教育家の思想について
14	社会の変化と教育施策の動向
15	よりよい教育を求めて　　「教育原理」のまとめ

科目名	教育心理学 （前） ［月2］Aクラス						
代表教員	尾曽　亮彦	授業コード	GK7330A0	科目コード	GK7330	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

本授業では生徒理解のために有効となる心理学の諸理論-主に発達および学習の諸理論について学ぶ。これらは現場で生徒の心の問題や学習上の問題を解決する際に有益な視点をもたらしてくれる。

発達、学習についての基本的な理論を学んだ上で、これら理論と最近の児童生徒の問題や問題行動を関連付けながら考察したい。理論をただ覚えるだけでなく、それらを現場の問題とリンクさせることで、理論のより深い理解をめざし、また現場の問題を多角的に把握する視点を習得することを目標としたい。講義を聞くだけでなく受講生自らが授業で取り上げる問題について積極的に考察する力をつけることを目指す。

2．授業概要

前半では生徒理解のための理論を学ぶ。発達の基礎理論やその他心理学理論を取り上げる。後半では、生徒の学習活動を支援するために学習に関する基礎理論を学ぶ。授業では実践的な知識を習得するためにディスカッションや自己理解・他者理解のための諸活動を取り入れていく。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業外の学習としては
①毎回授業で使用する配布プリントについての予習・復習
②与えられたテーマについての小レポート作成などである。
詳細は授業時に説明する。

4．成績評価の方法及び基準

成績については、学年末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内容をまとめた配布プリントを使用する。

参考文献は以下の通り。
・藤澤伸介編『探求！教育心理学の世界』新曜社　2017
・向田久美子『新訂 発達心理学概論』放送大学教育振興会　2017
・越智啓太編『心理学ビジュアル百科 基本から研究の最前線まで』創元社　2016
その他、授業内で紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職に就く就かないに関わらず、教育の現状に関心を持ち、自ら調べ学習を行うなど積極的に学習してほしい。
・また授業内ではディスカッションやグループワークを行うので積極的に参加してください。
・全授業15回の内11回出席したもののみ、学年末試験の受験資格を認める。
・遅刻3回で欠席1回として扱う。
・始業時間は厳守すること。
・公欠については学務部の証明書をもってこれを認める。

授業計画	
	［半期］ 　まず子ども理解に役立てるために、乳幼児期から児童期・青年期の各時期における運動発達・言語発達・社会性の発達を取り上げその基礎的な理論を学ぶ。続いて学習のプロセスについて欲求、動機づけ、条件づけ、記憶といった観点から理解し、子どもの学習活動を円滑に行うために何が必要か学ぶ。発達についてはさらに発達障害等を取り上げ、その現状や子どもたちへの対応など現場で児童生徒と関わる際の実践的知識を修得したい。 　発達、学習についての基本的な理論を学んだ上で、これら理論と最近の児童生徒の問題行動や課題を関連付けながら考察する。
1	ガイダンス：教育心理学を学ぶことの意義～生徒理解・学習支援のために
2	発達を規定するものは何か～遺伝か環境か。「氏より育ち」？　外的及び内的要因の相互作用について学ぶ
3	様々な発達理論①　エリクソンの理論により「発達」、「発達段階」、「発達課題」といったキーワードを習得する
4	様々な発達理論②　ピアジェの認知発達理論、コールバーグの道徳性の発達理論
5	様々な発達理論③　フロイトの発達論と精神分析学的視点
6	様々な発達理論④　ヴィゴツキーの発達の最近接領域、ボウルビィのアタッチメント理論
7	発達理論から思春期の子どもを考える①～思春期の育ちの困難さや問題行動の意味
8	発達理論から思春期の子どもを考える②～グループディスカッション
9	パーソナリティの理解のために～人格理論、心理テスト
10	学びに関する諸理論①動機づけ～生徒の学習意欲を高めるための条件とは何か 学びに関する諸理論②学習と記憶～学びのプロセスと記憶について理解する
11	学びに関する諸理論③教育評価～学習に対する評価にはどのような方法があるか 学びに関する諸理論④教授過程と学習過程～教えることと学ぶことはどのように関連するのか
12	心理療法とカウンセリング
13	学校現場の問題を考える①　発達障害と臨床的援助、不適応行動とその理解、学習集団の理解と集団作り
14	学校現場の問題を考える②　受講者の経験から問題を抽出しこれまでに学んだ心理学理論から検討する。レポートを作成する。
15	まとめ～授業で学んだ事柄に関するまとめ・考察を行う

科目名	教育心理学　（後）［月2］Bクラス						
代表教員	尾曽　亮彦	授業コード	GK7330B0	科目コード	GK7330	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では生徒理解のために有効となる心理学の諸理論-主に発達および学習の諸理論について学ぶ。これらは現場で生徒の心の問題や学習上の問題を解決する際に有益な視点をもたらしてくれる。

発達、学習についての基本的な理論を学んだ上で、これら理論と最近の児童生徒の問題や問題行動を関連付けながら考察したい。理論をただ覚えるだけでなく、それらを現場の問題とリンクさせることで、理論のより深い理解をめざし、また現場の問題を多角的に把握する視点を習得することを目標としたい。講義を聞くだけでなく受講生自らが授業で取り上げる問題について積極的に考察する力をつけることを目指す。

２．授業概要

前半では生徒理解のための理論を学ぶ。発達の基礎理論やその他心理学理論を取り上げる。後半では、生徒の学習活動を支援するために学習に関する基礎理論を学ぶ。授業では実践的な知識を習得するためにディスカッションや自己理解・他者理解のための諸活動を取り入れていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業外の学習としては
①毎回授業で使用する配布プリントについての予習・復習
②与えられたテーマについての小レポート作成などである。
詳細は授業時に説明する。

４．成績評価の方法及び基準

成績については、学年末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内容をまとめた配布プリントを使用する。

参考文献は以下の通り。
・藤澤伸介編『探求！教育心理学の世界』新曜社　2017
・向田久美子『新訂 発達心理学概論』放送大学教育振興会　2017
・越智啓太編『心理学ビジュアル百科 基本から研究の最前線まで』創元社　2016
その他、授業内で紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職に就く就かないに関わらず、教育の現状に関心を持ち、自ら調べ学習を行うなど積極的に学習してほしい。
・また授業内ではディスカッションやグループワークを行うので積極的に参加してください。
・全授業15回の内11回出席したもののみ、学年末試験の受験資格を認める。
・遅刻3回で欠席1回として扱う。
・始業時間は厳守すること。
・公欠については学務部の証明書をもってこれを認める。

授業計画	
	［半期］ 　まず子ども理解に役立てるために、乳幼児期から児童期・青年期の各時期における運動発達・言語発達・社会性の発達を取り上げその基礎的な理論を学ぶ。続いて学習のプロセスについて欲求、動機づけ、条件づけ、記憶といった観点から理解し、子どもの学習活動を円滑に行うために何が必要か学ぶ。発達についてはさらに発達障害等を取り上げ、その現状や子どもたちへの対応など現場で児童生徒と関わる際の実践的知識を修得したい。 　発達、学習についての基本的な理論を学んだ上で、これら理論と最近の児童生徒の問題行動や課題を関連付けながら考察する。
1	ガイダンス：教育心理学を学ぶことの意義～生徒理解・学習支援のために
2	発達を規定するものは何か～遺伝か環境か。「氏より育ち」？　外的及び内的要因の相互作用について学ぶ
3	様々な発達理論①　エリクソンの理論により「発達」、「発達段階」、「発達課題」といったキーワードを習得する
4	様々な発達理論②　　ピアジェの認知発達理論、コールバーグの道徳性の発達理論
5	様々な発達理論③　フロイトの発達論と精神分析学的視点
6	様々な発達理論④　　ヴィゴツキーの発達の最近接領域、ボウルビィのアタッチメント理論
7	発達理論から思春期の子どもを考える①～思春期の育ちの困難さや問題行動の意味
8	発達理論から思春期の子どもを考える②～グループディスカッション
9	パーソナリティの理解のために～人格理論、心理テスト
10	学びに関する諸理論①動機づけ～生徒の学習意欲を高めるための条件とは何か 学びに関する諸理論②学習と記憶～学びのプロセスと記憶について理解する
11	学びに関する諸理論③教育評価～学習に対する評価にはどのような方法があるか 学びに関する諸理論④教授過程と学習過程～教えることと学ぶことはどのように関連するのか
12	心理療法とカウンセリング
13	学校現場の問題を考える①　発達障害と臨床的援助、不適応行動とその理解、学習集団の理解と集団作り
14	学校現場の問題を考える②　受講者の経験から問題を抽出しこれまでに学んだ心理学理論から検討する。レポートを作成する。
15	まとめ～授業で学んだ事柄に関するまとめ・考察を行う

科目名	教育の制度と経営　（前）［木1］Aクラス						
代表教員	木下　光彦	授業コード	GK7341A0	科目コード	GK7341	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１）社会の状況を理解し、その変化が学校教育に及ぼす影響と課題及びそれに対する教育改革の動向を理解する。
（２）公教育制度の理念と制度に関する基礎的知識を身に付け、学校、教育行政機関の目的とその実現について、経営の視点から理解する。
（３）学校と地域との連携の意義及び協働の仕方について、事例を通して理解する。
（４）学校管理下で起こる事故及び災害の実情を通して、学校安全健康法に基づく学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

２．授業概要

平成３２年度(平成３０年度から先行実施)に次期学習指導要領が小学校で本格実施になる(中学校は平成３３年度から全面実施)。本講座では、現在進められている教育改革の内容を正確に把握し、学校の現状や課題について理解を深めるとともに、教育関係法規及び学習指導要領の要点を理解する。授業では、具体的な事例を通して理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）シラバスに示されているキーワードを調べ、自分なりの考えをまとめた上で受講してください。想定必要時間は1時間程度になります。
（復習）各回の授業で学んだ事項について、教員の立場から、自分のことばで説明できるようにしてください。想定必要時間は1時間程度になります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢、課題レポートの提出など）（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
・教員が作成した資料
・『中学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／ぎょうせい）
【参考文献】
・『高等学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／東山書房）
・岡本徹・佐々木司『現代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房
・樋口修資『最新教育の行政・制度と学校の管理運営』明星大学出版部

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間は厳守すること。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	学校教育の現状－学校を巡る近年の状況の変化を理解する。
2	我が国の学校教育制度の変遷－公教育の原理及び理念を理解する。
3	近年の学校教育改革の歩み－近年の教育政策の動向を理解する。
4	教育法規と学習指導要領―公教育制度を構成している教育関係法規を理解する。
5	教育課程と学校教育―公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解する。
6	教育行政の仕組みと学校―教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解する。
7	学校経営の目的と教職員組織－学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたＰＤＣＡの重要性を理解する。
8	学年・学級の経営－学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。
9	学校経営と生徒指導－子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解する。
10	学校と地域の連携①－地域との連携・協働による学校教育活動の意義と方法を理解する。
11	学校と地域の連携②－教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解する。
12	開かれた学校づくりと経営－地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解する。
13	学校安全と経営－学校の管理下で発生する事故及び災害の実情を踏まえ、学校安全の必要性について理解する。
14	学校安全の新たな課題と経営－生活安全・災害安全など学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理、安全教育での具体的取組を理解する。
15	諸外国の教育改革の動向－諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解する。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育の制度と経営　（前）［木1］Bクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7341B0	科目コード	GK7341	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１）社会の状況を理解し、その変化が学校教育に及ぼす影響と課題及びそれに対する教育改革の動向を理解する。
（２）公教育制度の理念と制度に関する基礎的知識を身に付け、学校、教育行政機関の目的とその実現について、経営の視点から理解する。
（３）学校と地域との連携の意義及び協働の仕方について、事例を通して理解する。
（４）学校管理下で起こる事故及び災害の実情を通して、学校安全健康法に基づく学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

２．授業概要

平成３２年度(平成３０年度から先行実施)に次期学習指導要領が小学校で本格実施になる(中学校は平成３３年度から全面実施)。本講座では、現在進められている教育改革の内容を正確に把握し、学校の現状や課題について理解を深めるとともに、教育関係法規及び学習指導要領の要点を理解する。授業では、具体的な事例を通して理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）シラバスに示されているキーワードを調べ、自分なりの考えをまとめた上で受講してください。想定必要時間は1時間程度になります。
（復習）各回の授業で学んだ事項について、教員の立場から、自分のことばで説明できるようにしてください。想定必要時間は1時間程度になります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢、課題レポートの提出など）（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
・教員が作成した資料
・『中学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／ぎょうせい）
【参考文献】
・『高等学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／東山書房）
・岡本徹・佐々木司『現代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房
・樋口修資『最新教育の行政・制度と学校の管理運営』明星大学出版部

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間は厳守すること。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	学校教育の現状－学校を巡る近年の状況の変化を理解する。
2	我が国の学校教育制度の変遷－公教育の原理及び理念を理解する。
3	近年の学校教育改革の歩み－近年の教育政策の動向を理解する。
4	教育法規と学習指導要領—公教育制度を構成している教育関係法規を理解する。
5	教育課程と学校教育—公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解する。
6	教育行政の仕組みと学校—教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解する。
7	学校経営の目的と教職員組織－学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたＰＤＣＡの重要性を理解する。
8	学年・学級の経営－学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。
9	学校経営と生徒指導－子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解する。
10	学校と地域の連携①－地域との連携・協働による学校教育活動の意義と方法を理解する。
11	学校と地域の連携②－教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解する。
12	開かれた学校づくりと経営－地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解する。
13	学校安全と経営－学校の管理下で発生する事故及び災害の実情を踏まえ、学校安全の必要性について理解する。
14	学校安全の新たな課題と経営－生活安全・災害安全など学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理、安全教育での具体的取組を理解する。
15	諸外国の教育改革の動向－諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解する。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育の制度と経営　（後）［木1］Cクラス						
代表教員	木下　光彦	授業コード	GK7341C0	科目コード	GK7341	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１）社会の状況を理解し、その変化が学校教育に及ぼす影響と課題及びそれに対する教育改革の動向を理解する。
（２）公教育制度の理念と制度に関する基礎的知識を身に付け、学校、教育行政機関の目的とその実現について、経営の視点から理解する。
（３）学校と地域との連携の意義及び協働の仕方について、事例を通して理解する。
（４）学校管理下で起こる事故及び災害の実情を通して、学校安全健康法に基づく学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

２．授業概要

平成３２年度(平成３０年度から先行実施)に次期学習指導要領が小学校で本格実施になる(中学校は平成３３年度から全面実施)。本講座では、現在進められている教育改革の内容を正確に把握し、学校の現状や課題について理解を深めるとともに、教育関係法規及び学習指導要領の要点を理解する。授業では、具体的な事例を通して理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）シラバスに示されているキーワードを調べ、自分なりの考えをまとめた上で受講してください。想定必要時間は1時間程度になります。
（復習）各回の授業で学んだ事項について、教員の立場から、自分のことばで説明できるようにしてください。想定必要時間は1時間程度になります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢、課題レポートの提出など）（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
・教員が作成した資料
・『中学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／ぎょうせい）
【参考文献】
・『高等学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／東山書房）
・岡本徹・佐々木司『現代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房
・樋口修資『最新教育の行政・制度と学校の管理運営』明星大学出版部

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間は厳守すること。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	学校教育の現状－学校を巡る近年の状況の変化を理解する。
2	我が国の学校教育制度の変遷－公教育の原理及び理念を理解する。
3	近年の学校教育改革の歩み－近年の教育政策の動向を理解する。
4	教育法規と学習指導要領―公教育制度を構成している教育関係法規を理解する。
5	教育課程と学校教育―公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解する。
6	教育行政の仕組みと学校―教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解する。
7	学校経営の目的と教職員組織－学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたＰＤＣＡの重要性を理解する。
8	学年・学級の経営－学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。
9	学校経営と生徒指導－子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解する。
10	学校と地域の連携①－地域との連携・協働による学校教育活動の意義と方法を理解する。
11	学校と地域の連携②－教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解する。
12	開かれた学校づくりと経営－地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解する。
13	学校安全と経営－学校の管理下で発生する事故及び災害の実情を踏まえ、学校安全の必要性について理解する。
14	学校安全の新たな課題と経営－生活安全・災害安全など学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理、安全教育での具体的取組を理解する。
15	諸外国の教育改革の動向－諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解する。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育の制度と経営　（後）［木1］Dクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7341D0	科目コード	GK7341	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

１）社会の状況を理解し、その変化が学校教育に及ぼす影響と課題及びそれに対する教育改革の動向を理解する。
（２）公教育制度の理念と制度に関する基礎的知識を身に付け、学校、教育行政機関の目的とその実現について、経営の視点から理解する。
（３）学校と地域との連携の意義及び協働の仕方について、事例を通して理解する。
（４）学校管理下で起こる事故及び災害の実情を通して、学校安全健康法に基づく学校安全の目的と具体的な取組を理解する。

２．授業概要

平成３２年度(平成３０年度から先行実施)に次期学習指導要領が小学校で本格実施になる(中学校は平成３３年度から全面実施)。本講座では、現在進められている教育改革の内容を正確に把握し、学校の現状や課題について理解を深めるとともに、教育関係法規及び学習指導要領の要点を理解する。授業では、具体的な事例を通して理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）シラバスに示されているキーワードを調べ、自分なりの考えをまとめた上で受講してください。想定必要時間は1時間程度になります。
（復習）各回の授業で学んだ事項について、教員の立場から、自分のことばで説明できるようにしてください。想定必要時間は1時間程度になります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢、課題レポートの提出など）（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
・教員が作成した資料
・『中学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／ぎょうせい）
【参考文献】
・『高等学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／東山書房）
・岡本徹・佐々木司『現代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房
・樋口修資『最新教育の行政・制度と学校の管理運営』明星大学出版部

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間は厳守すること。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	学校教育の現状－学校を巡る近年の状況の変化を理解する。
2	我が国の学校教育制度の変遷－公教育の原理及び理念を理解する。
3	近年の学校教育改革の歩み－近年の教育政策の動向を理解する。
4	教育法規と学習指導要領―公教育制度を構成している教育関係法規を理解する。
5	教育課程と学校教育―公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解する。
6	教育行政の仕組みと学校―教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解する。
7	学校経営の目的と教職員組織－学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたＰＤＣＡの重要性を理解する。
8	学年・学級の経営－学級経営の仕組みと効果的な方法を理解する。
9	学校経営と生徒指導－子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解する。
10	学校と地域の連携①－地域との連携・協働による学校教育活動の意義と方法を理解する。
11	学校と地域の連携②－教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働の在り方や重要性を理解する。
12	開かれた学校づくりと経営－地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解する。
13	学校安全と経営－学校の管理下で発生する事故及び災害の実情を踏まえ、学校安全の必要性について理解する。
14	学校安全の新たな課題と経営－生活安全・災害安全など学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理、安全教育での具体的取組を理解する。
15	諸外国の教育改革の動向－諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解する。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育課程の研究／教育課程論　（前）［月2］Aクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7350A0	科目コード	GK7350	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・学校教育の目的・目標・内容・指導方法などについて総合的に編成した教育計画、すなわち教育課程の役割・機能・意義について学ぶ。
・学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性について学ぶ。
・学習指導要領に示された内容について理解を深めるとともに、実践的な指導能力を身に付けることを主題とする。

【到達目標】
・教育課程の意義や教育課程編成に関する法制度等について説明できる。
・教育課程の基本的な編成方法を教育関係法規や国の教育施策と関連させながら説明できる。
・カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価の方法について説明できる。

２．授業概要

・我が国の学習指導要領を基にしながら、教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について学ぶ。
・教育の目的・目標、学力観の形成等、教育の根源的な課題を通して教育課程の全体像を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・　毎回の授業で学んだことは、復習をしっかり行い、小テストや学期末試験等に備えること。
　・　次時の授業で学ぶことは、テキストを中心に予習しておくこと。
　・　教育にかかわる日々のマスコミ報道の内容に関心をもち、情報収集をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験50%、課題提出20%、授業内の小テスト及びレポート20%、授業への参加姿勢10%を目安に総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】『中学校学習指導要領解説　総則編　平成２９年９月』（文部科学省／ぎょうせい）
【参考文献】『高等学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／東山書房）
・必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・意欲をもって授業に取り組むこと。
・遅刻や欠席をしないように努力すること。
・随時実施の小テスト（レポート）を重視する。

【出席に関する注意事項】
・全授業数（１５回）の内、１１回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
・始業時間を厳守する。
・遅刻３回で、１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書をもって認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（事前アンケート、授業の予定と進め方、成績評価等）、学校教育と教育課程の在り方
2	教育課程に関する法令について
3	学習指導要領①　学習指導要領の変遷と教育課程について
4	学習指導要領②　改訂の基本方針と教育課程編成の一般方針について
5	学習指導要領③　内容の取扱いと指導計画作成上の配慮事項について
6	教育課程の編成①　教育委員会と教育課程編成について
7	教育課程の編成②　学校教育目標と教育課程全体計画
8	教育課程の編成③　年間指導計画と学校行事計画について
9	教育課程の実施・改善①　学習指導と指導法の工夫（主体的・対話的で深い学びの視点）
10	教育課程の実施・改善②　学習評価と指導要録
11	教育課程の実施・改善③　教育課程の評価と学校評価
12	教育課程実施上の諸問題①　生徒指導上の課題とその対応
13	教育課程実施上の諸問題②　ケアの必要な子どもへの対応と保護者との連携
14	教育課程実施上の諸問題③　学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義とその実際
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育課程の研究／教育課程論　（前）［月2］Bクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7350B0	科目コード	GK7350	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・学校教育の目的・目標・内容・指導方法などについて総合的に編成した教育計画、すなわち教育課程の役割・機能・意義について学ぶ。
・学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性について学ぶ。
・学習指導要領に示された内容について理解を深めるとともに、実践的な指導能力を身に付けることを主題とする。

【到達目標】
・教育課程の意義や教育課程編成に関する法制度等について説明できる。
・教育課程の基本的な編成方法を教育関係法規や国の教育施策と関連させながら説明できる。
・カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価の方法について説明できる。

２．授業概要

・我が国の学習指導要領を基にしながら、教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について学ぶ。
・教育の目的・目標、学力観の形成等、教育の根源的な課題を通して教育課程の全体像を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・　毎回の授業で学んだことは、復習をしっかり行い、小テストや学期末試験等に備えること。
　・　次時の授業で学ぶことは、テキストを中心に予習しておくこと。
　・　教育にかかわる日々のマスコミ報道の内容に関心をもち、情報収集をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験50%、課題提出20%、授業内の小テスト及びレポート20%、授業への参加姿勢10%を目安に総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】『中学校学習指導要領解説　総則編　平成２９年９月』（文部科学省／ぎょうせい）
【参考文献】『高等学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／東山書房）
・必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・意欲をもって授業に取り組むこと。
・遅刻や欠席をしないように努力すること。
・随時実施の小テスト（レポート）を重視する。

【出席に関する注意事項】
・全授業数（１５回）の内、１１回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
・始業時間を厳守する。
・遅刻３回で、１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書をもって認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（事前アンケート、授業の予定と進め方、成績評価等）、学校教育と教育課程の在り方
2	教育課程に関する法令について
3	学習指導要領①　学習指導要領の変遷と教育課程について
4	学習指導要領②　改訂の基本方針と教育課程編成の一般方針について
5	学習指導要領③　内容の取扱いと指導計画作成上の配慮事項について
6	教育課程の編成①　教育委員会と教育課程編成について
7	教育課程の編成②　学校教育目標と教育課程全体計画
8	教育課程の編成③　年間指導計画と学校行事計画について
9	教育課程の実施・改善①　学習指導と指導法の工夫（主体的・対話的で深い学びの視点）
10	教育課程の実施・改善②　学習評価と指導要録
11	教育課程の実施・改善③　教育課程の評価と学校評価
12	教育課程実施上の諸問題①　生徒指導上の課題とその対応
13	教育課程実施上の諸問題②　ケアの必要な子どもへの対応と保護者との連携
14	教育課程実施上の諸問題③　学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義とその実際
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育課程の研究／教育課程論　（後）［月2］Cクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7350C0	科目コード	GK7350	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・学校教育の目的・目標・内容・指導方法などについて総合的に編成した教育計画、すなわち教育課程の役割・機能・意義について学ぶ。
・学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性について学ぶ。
・学習指導要領に示された内容について理解を深めるとともに、実践的な指導能力を身に付けることを主題とする。

【到達目標】
・教育課程の意義や教育課程編成に関する法制度等について説明できる。
・教育課程の基本的な編成方法を教育関係法規や国の教育施策と関連させながら説明できる。
・カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価の方法について説明できる。

２．授業概要

・我が国の学習指導要領を基にしながら、教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について学ぶ。
・教育の目的・目標、学力観の形成等、教育の根源的な課題を通して教育課程の全体像を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・　毎回の授業で学んだことは、復習をしっかり行い、小テストや学期末試験等に備えること。
　・　次時の授業で学ぶことは、テキストを中心に予習しておくこと。
　・　教育にかかわる日々のマスコミ報道の内容に関心をもち、情報収集をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験50%、課題提出20%、授業内の小テスト及びレポート20%、授業への参加姿勢10%を目安に総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】『中学校学習指導要領解説　総則編　平成２９年９月』（文部科学省／ぎょうせい）
【参考文献】『高等学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／東山書房）
・必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・意欲をもって授業に取り組むこと。
・遅刻や欠席をしないように努力すること。
・随時実施の小テスト（レポート）を重視する。

【出席に関する注意事項】
・全授業数（１５回）の内、１１回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
・始業時間を厳守する。
・遅刻３回で、１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書をもって認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（事前アンケート、授業の予定と進め方、成績評価等）、学校教育と教育課程の在り方
2	教育課程に関する法令について
3	学習指導要領①　学習指導要領の変遷と教育課程について
4	学習指導要領②　改訂の基本方針と教育課程編成の一般方針について
5	学習指導要領③　内容の取扱いと指導計画作成上の配慮事項について
6	教育課程の編成①　教育委員会と教育課程編成について
7	教育課程の編成②　学校教育目標と教育課程全体計画
8	教育課程の編成③　年間指導計画と学校行事計画について
9	教育課程の実施・改善①　学習指導と指導法の工夫（主体的・対話的で深い学びの視点）
10	教育課程の実施・改善②　学習評価と指導要録
11	教育課程の実施・改善③　教育課程の評価と学校評価
12	教育課程実施上の諸問題①　生徒指導上の課題とその対応
13	教育課程実施上の諸問題②　ケアの必要な子どもへの対応と保護者との連携
14	教育課程実施上の諸問題③　学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義とその実際
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育課程の研究／教育課程論　（後）［月2］Dクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7350D0	科目コード	GK7350	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・学校教育の目的・目標・内容・指導方法などについて総合的に編成した教育計画、すなわち教育課程の役割・機能・意義について学ぶ。
・学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性について学ぶ。
・学習指導要領に示された内容について理解を深めるとともに、実践的な指導能力を身に付けることを主題とする。

【到達目標】
・教育課程の意義や教育課程編成に関する法制度等について説明できる。
・教育課程の基本的な編成方法を教育関係法規や国の教育施策と関連させながら説明できる。
・カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価の方法について説明できる。

２．授業概要

・我が国の学習指導要領を基にしながら、教育課程の意義と編成方法、カリキュラム・マネジメントの意義について学ぶ。
・教育の目的・目標、学力観の形成等、教育の根源的な課題を通して教育課程の全体像を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・　毎回の授業で学んだことは、復習をしっかり行い、小テストや学期末試験等に備えること。
　・　次時の授業で学ぶことは、テキストを中心に予習しておくこと。
　・　教育にかかわる日々のマスコミ報道の内容に関心をもち、情報収集をしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験50%、課題提出20%、授業内の小テスト及びレポート20%、授業への参加姿勢10%を目安に総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】『中学校学習指導要領解説　総則編　平成２９年９月』（文部科学省／ぎょうせい）
【参考文献】『高等学校学習指導要領解説　総則編』（文部科学省／東山書房）
・必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・意欲をもって授業に取り組むこと。
・遅刻や欠席をしないように努力すること。
・随時実施の小テスト（レポート）を重視する。

【出席に関する注意事項】
・全授業数（１５回）の内、１１回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
・始業時間を厳守する。
・遅刻３回で、１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書をもって認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（事前アンケート、授業の予定と進め方、成績評価等）、学校教育と教育課程の在り方
2	教育課程に関する法令について
3	学習指導要領①　学習指導要領の変遷と教育課程について
4	学習指導要領②　改訂の基本方針と教育課程編成の一般方針について
5	学習指導要領③　内容の取扱いと指導計画作成上の配慮事項について
6	教育課程の編成①　教育委員会と教育課程編成について
7	教育課程の編成②　学校教育目標と教育課程全体計画
8	教育課程の編成③　年間指導計画と学校行事計画について
9	教育課程の実施・改善①　学習指導と指導法の工夫（主体的・対話的で深い学びの視点）
10	教育課程の実施・改善②　学習評価と指導要録
11	教育課程の実施・改善③　教育課程の評価と学校評価
12	教育課程実施上の諸問題①　生徒指導上の課題とその対応
13	教育課程実施上の諸問題②　ケアの必要な子どもへの対応と保護者との連携
14	教育課程実施上の諸問題③　学校におけるカリキュラム・マネジメントの意義とその実際
15	まとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	道徳指導法　（前）［水1］Aクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7360A0	科目コード	GK7360	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・道徳の本質や道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）について学ぶ。
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育やその要となる道徳科の授業の目標や内容について学ぶ。
・学校における道徳教育や道徳科の指導計画を作成する意義や実践的な指導方法について学ぶ。
【到達目標】
・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育の指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
・子供の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が展開できる。

２．授業概要

・現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル等）解決に向けて、講義形式の理論的な授業だけではなく、グループワークや指導資料を作成する演習等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を展開する。
・道徳科の授業力の育成を目指し、学習指導案の作成、模擬授業を積極的に行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の講座該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。また、指導案の作成や模擬授業の実施に当たっては、インターネット等を利用して、学校の研究授業などで開示されている指導案を参考にするとよい。

４．成績評価の方法及び基準

・定期試験（テーマに基づく筆記試験）50%、課題テーマや授業中の発言25%、指導案作成25%を中心に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 −特別の教科 道徳編−』（平成29年告示）教育出版
参考文献については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・講義１１回以上の出席者に受験資格があります。
・始業時間を厳守してください。
・遅刻３回で１回の欠席として扱います。
・公欠については、学務部の証明書を持って認めます。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（講義の概要と進め方、評価の観点）、教育関連法規について（教育基本法と学校教育法、学習指導要領等）
2	学習指導要領道徳編による道徳教育の意義と重要性について
3	中学生の現状（公立中学校の実態と課題）について
4	道徳教育（心の教育）の役割について
5	道徳科の役割と年間指導計画について
6	道徳科の指導の基本方針と学習指導過程について
7	道徳科における教材の役割と活用について
8	道徳科における学習指導案の内容と多様な指導方法（主体的・対話的な深い学びの視点）
9	道徳科の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性）の作成
10	道徳科の学習指導案（学習指導過程）の作成
11	師範授業の視聴と道徳科の授業に対する評価について
12	模擬授業に向けた学習指導案作成
13	模擬授業の実践
14	改正学習指導要領「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育
15	講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	道徳指導法　（前）［水1］Bクラス						
代表教員	石川　勉	授業コード	GK7360B0	科目コード	GK7360	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・道徳の本質や道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）について学ぶ。
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育やその要となる道徳科の授業の目標や内容について学ぶ。
・学校における道徳教育や道徳科の指導計画を作成する意義や実践的な指導方法について学ぶ。
【到達目標】
・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育の指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
・子供の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が展開できる。

２．授業概要

・現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル等）解決に向けて、講義形式の理論的な授業だけではなく、グループワークや指導資料を作成する演習等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を展開する。
・道徳科の授業力の育成を目指し、学習指導案の作成、模擬授業を積極的に行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の講座該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。また、指導案の作成や模擬授業の実施に当たっては、インターネット等を利用して、学校の研究授業などで開示されている指導案を参考にするとよい。

４．成績評価の方法及び基準

・定期試験（テーマに基づく筆記試験）50%、課題テーマや授業中の発言25%、指導案作成25%を中心に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 −特別の教科 道徳編−』（平成29年告示）教育出版
参考文献については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・講義１１回以上の出席者に受験資格があります。
・始業時間を厳守してください。
・遅刻３回で１回の欠席として扱います。
・公欠については、学務部の証明書を持って認めます。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（講義の概要と進め方、評価の観点）、教育関連法規について（教育基本法と学校教育法、学習指導要領等）
2	学習指導要領道徳編による道徳教育の意義と重要性について
3	中学生の現状（公立中学校の実態と課題）について
4	道徳教育（心の教育）の役割について
5	道徳科の役割と年間指導計画について
6	道徳科の指導の基本方針と学習指導過程について
7	道徳科における教材の役割と活用について
8	道徳科における学習指導案の内容と多様な指導方法（主体的・対話的な深い学びの視点）
9	道徳科の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性）の作成
10	道徳科の学習指導案（学習指導過程）の作成
11	師範授業の視聴と道徳科の授業に対する評価について
12	模擬授業に向けた学習指導案作成
13	模擬授業の実践
14	改正学習指導要領「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育
15	講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	道徳指導法　（前）［水1］Cクラス						
代表教員	野中　隆	授業コード	GK7360C0	科目コード	GK7360	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・道徳の本質や道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）について学ぶ。
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育やその要となる道徳科の授業の目標や内容について学ぶ。
・学校における道徳教育や道徳科の指導計画を作成する意義や実践的な指導方法について学ぶ。
【到達目標】
・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育の指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
・子供の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が展開できる。

２．授業概要

・現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル等）解決に向けて、講義形式の理論的な授業だけではなく、グループワークや指導資料を作成する演習等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を展開する。
・道徳科の授業力の育成を目指し、学習指導案の作成、模擬授業を積極的に行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の講座該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。また、指導案の作成や模擬授業の実施に当たっては、インターネット等を利用して、学校の研究授業などで開示されている指導案を参考にするとよい。

４．成績評価の方法及び基準

・定期試験（テーマに基づく筆記試験）50%、課題テーマや授業中の発言25%、指導案作成25%を中心に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 −特別の教科 道徳編−』（平成29年告示）教育出版
参考文献については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・講義１１回以上の出席者に受験資格があります。
・始業時間を厳守してください。
・遅刻３回で１回の欠席として扱います。
・公欠については、学務部の証明書を持って認めます。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（講義の概要と進め方、評価の観点）、教育関連法規について（教育基本法と学校教育法、学習指導要領等）
2	学習指導要領道徳編による道徳教育の意義と重要性について
3	中学生の現状（公立中学校の実態と課題）について
4	道徳教育（心の教育）の役割について
5	道徳科の役割と年間指導計画について
6	道徳科の指導の基本方針と学習指導過程について
7	道徳科における教材の役割と活用について
8	道徳科における学習指導案の内容と多様な指導方法（主体的・対話的な深い学びの視点）
9	道徳科の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性）の作成
10	道徳科の学習指導案（学習指導過程）の作成
11	師範授業の視聴と道徳科の授業に対する評価について
12	模擬授業に向けた学習指導案作成
13	模擬授業の実践
14	改正学習指導要領「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育
15	講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	道徳指導法　（前）［水1］Dクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7360D0	科目コード	GK7360	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・道徳の本質や道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）について学ぶ。
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育やその要となる道徳科の授業の目標や内容について学ぶ。
・学校における道徳教育や道徳科の指導計画を作成する意義や実践的な指導方法について学ぶ。
【到達目標】
・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育の指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
・子供の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が展開できる。

２．授業概要

・現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル等）解決に向けて、講義形式の理論的な授業だけではなく、グループワークや指導資料を作成する演習等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を展開する。
・道徳科の授業力の育成を目指し、学習指導案の作成、模擬授業を積極的に行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の講座該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。また、指導案の作成や模擬授業の実施に当たっては、インターネット等を利用して、学校の研究授業などで開示されている指導案を参考にするとよい。

４．成績評価の方法及び基準

・定期試験（テーマに基づく筆記試験）50%、課題テーマや授業中の発言25%、指導案作成25%を中心に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 -特別の教科 道徳編-』（平成29年告示）教育出版
参考文献については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・講義１１回以上の出席者に受験資格があります。
・始業時間を厳守してください。
・遅刻３回で１回の欠席として扱います。
・公欠については、学務部の証明書を持って認めます。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（講義の概要と進め方、評価の観点）、教育関連法規について（教育基本法と学校教育法、学習指導要領等）
2	学習指導要領道徳編による道徳教育の意義と重要性について
3	中学生の現状（公立中学校の実態と課題）について
4	道徳教育（心の教育）の役割について
5	道徳科の役割と年間指導計画について
6	道徳科の指導の基本方針と学習指導過程について
7	道徳科における教材の役割と活用について
8	道徳科における学習指導案の内容と多様な指導方法（主体的・対話的な深い学びの視点）
9	道徳科の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性）の作成
10	道徳科の学習指導案（学習指導過程）の作成
11	師範授業の視聴と道徳科の授業に対する評価について
12	模擬授業に向けた学習指導案作成
13	模擬授業の実践
14	改正学習指導要領「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育
15	講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	道徳指導法　（前）［水1］Eクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7360E0	科目コード	GK7360	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
・道徳の本質や道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）について学ぶ。
・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育やその要となる道徳科の授業の目標や内容について学ぶ。
・学校における道徳教育や道徳科の指導計画を作成する意義や実践的な指導方法について学ぶ。
【到達目標】
・「中学校学習指導要領」に示された道徳教育の目標・内容・方法および学校における道徳教育の指導の必要性、道徳科の基本的な指導方法について説明できる。
・子供の心の成長や道徳性の発達について説明できる。
・道徳科の特性を踏まえた学習指導案を作成し、それに基づいた授業が展開できる。

２．授業概要

・現代社会における道徳教育の必要性の認識や課題（いじめ・情報モラル等）解決に向けて、講義形式の理論的な授業だけではなく、グループワークや指導資料を作成する演習等具体的な活動を取り入れた実践的な授業を展開する。
・道徳科の授業力の育成を目指し、学習指導案の作成、模擬授業を積極的に行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の講座該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。また、指導案の作成や模擬授業の実施に当たっては、インターネット等を利用して、学校の研究授業などで開示されている指導案を参考にするとよい。

４．成績評価の方法及び基準

・定期試験（テーマに基づく筆記試験）50%、課題テーマや授業中の発言25%、指導案作成25%を中心に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

文部科学省 『中学校学習指導要領 解説 −特別の教科 道徳編−』（平成29年告示）教育出版
参考文献については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・講義１１回以上の出席者に受験資格があります。
・始業時間を厳守してください。
・遅刻３回で１回の欠席として扱います。
・公欠については、学務部の証明書を持って認めます。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（講義の概要と進め方、評価の観点）、教育関連法規について（教育基本法と学校教育法、学習指導要領等）
2	学習指導要領道徳編による道徳教育の意義と重要性について
3	中学生の現状（公立中学校の実態と課題）について
4	道徳教育（心の教育）の役割について
5	道徳科の役割と年間指導計画について
6	道徳科の指導の基本方針と学習指導過程について
7	道徳科における教材の役割と活用について
8	道徳科における学習指導案の内容と多様な指導方法（主体的・対話的な深い学びの視点）
9	道徳科の学習指導案（生徒の実態と指導の方向性）の作成
10	道徳科の学習指導案（学習指導過程）の作成
11	師範授業の視聴と道徳科の授業に対する評価について
12	模擬授業に向けた学習指導案作成
13	模擬授業の実践
14	改正学習指導要領「特別の教科道徳」とこれからの道徳教育
15	講座のまとめ

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法I （前） ［火2］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7361A0	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 I
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

2．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法I～IV」の基礎にあたる。「音楽科教育法I」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法II・III・IV」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ⅰ）（教育芸術社）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法II・III・IV」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法I・II」及び「音楽科教育法Ⅲ・IⅣ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで5回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の全体構造ー現行及び次期学習指導要領の比較を通してー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法I （前） ［火2］Bクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7361B0	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 I
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

2．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法I～IV」の基礎にあたる。「音楽科教育法I」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法II・III・IV」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ｉ）（教育芸術社）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法II・III・IV」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法I・II」及び「音楽科教育法Ⅲ・IⅣ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで5回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の全体構造ー現行及び次期学習指導要領の比較を通してー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法I （前） ［火2］Cクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7361C0	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 I
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

2．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法I～IV」の基礎にあたる。「音楽科教育法I」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法II・III・IV」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ｉ）（教育芸術社）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法II・III・IV」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法I・II」及び「音楽科教育法Ⅲ・IⅣ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで5回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の全体構造ー現行及び次期学習指導要領の比較を通してー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法I （前） ［火2］Dクラス						
代表教員	秋元　みさ子	授業コード	GK7361D0	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 I
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

2．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法I～IV」の基礎にあたる。「音楽科教育法I」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法II・III・IV」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ⅰ）（教育芸術社）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法II・III・IV」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法I・II」及び「音楽科教育法Ⅲ・IⅣ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで5回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の全体構造ー現行及び次期学習指導要領の比較を通してー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法I （前） ［火2］Eクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7361E0	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 I
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

2．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法I～IV」の基礎にあたる。「音楽科教育法I」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法II・III・IV」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ｉ）（教育芸術社）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法II・III・IV」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法I・II」及び「音楽科教育法Ⅲ・IⅣ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで5回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の全体構造ー現行及び次期学習指導要領の比較を通してー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法I （前） ［火2］Fクラス						
代表教員	和田　崇	授業コード	GK7361F0	科目コード	GK7361	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎 I
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を得るとともに、その学習の基礎的な方法を学ぶ。

2．授業概要

本科目は、音楽科の授業の仕組みと方法を体系的に学ぶ「音楽科教育法I～IV」の基礎にあたる。「音楽科教育法I」のねらいは、学習指導要領（音楽）の改善の歴史をふまえ、音楽の授業における指導内容について理解するとともに、指導内容を教材及び学習活動に結びつけていく具体的な方法を実践的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

①毎回の授業に対応するテキストの記述を事前に精読し、自分の理解につながる書式でまとめておく。
②本授業は各１コマが独自性のあるの重要な内容であるため、欠席しないことが望まれる。やむを得ず欠席する場合は、その日の資料や記録を手に入れられるようなネットワーク（友人に託す等）を用意しておくこと。
③本授業は「音楽科教育法II・III・IV」の礎となる極めて重要な科目であるため、学習指導要領や教材研究の要領についてはしっかりと把握すべく、復習は逐次行う。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、授業内で指示された課題、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ｉ）（教育芸術社）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目は、次に続く「音楽科教育法II・III・IV」の基礎となる重要な科目であり、本科目の単位を修得できなければ後続の科目を履修することができない。
使用テキストは「音楽科教育法I・II」及び「音楽科教育法Ⅲ・IⅣ」の通年で使用される。授業担当者の指示で使い分けるが、本科目開始の時点で全部用意しておくこと。なお、器楽分野の授業ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので、テキストとともに事前に準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席回数は、公欠扱いの介護等体験を含んで5回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	音楽教育と音楽科教育
2	我が国の音楽科教育（明治から昭和の戦争終了まで）
3	学習指導要領・音楽の変遷（戦後から現代まで）
4	学習指導要領・音楽の全体構造ー現行及び次期学習指導要領の比較を通してー
5	中学校学習指導要領・音楽　教科の目標　学年の目標
6	中学校学習指導要領・音楽　表現及び鑑賞の指導内容を形づくっている観点
7	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、歌唱分野及び器楽分野の指導内容
8	中学校学習指導要領・音楽　A表現領域、創作分野の指導内容
9	中学校学習指導要領・音楽　B鑑賞領域、鑑賞分野の指導内容
10	中学校学習指導要領・音楽〔共通事項〕の指導内容
11	指導計画の作成と内容の取扱い
12	教材研究　A表現にかかる教材
13	教材研究　B鑑賞にかかる教材
14	高等学校学習指導要領（芸術科音楽）の理解
15	音楽科教育法Iのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7362A0	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

２．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２３上、２３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ⅰ）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Bクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7362B0	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

２．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２３上、２３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ⅰ）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Cクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7362C0	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

２．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２３上、２３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ⅰ）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Dクラス						
代表教員	秋元　みさ子	授業コード	GK7362D0	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

２．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２３上、２３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ⅰ）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Eクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7362E0	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

２．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２３上、２３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ⅰ）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法II （後） ［火2］Fクラス						
代表教員	和田　崇	授業コード	GK7362F0	科目コード	GK7362	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の基礎II
【到達目標】
音楽科教育についての知識と理解を深め、その学習指導の基本的な実践力を身に付ける。

２．授業概要

本科目は学習指導要領の理解のもとに、中学校及び高等学校の音楽科授業の内容と方法を学ぶものである。具体的には主に指導と評価の一体性の理解、教材とその研究方法、学習指導案の具体的な作成方法をグループによる小規模な模擬授業（演習）を通して学ぶ。そしてこの学びは次期の音楽科教育法IIIに予定される本格的な模擬授業のための備えとして生かすことになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習としては各時の授業内容に該当するテキストの『最新中等科音楽教育法』『学習指導要領解説 』『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』『音楽科学習指導案例集』（本教育法Ⅱにおいて配付する）の該当部分を熟読しておくこと。また教材研究および指導演習時の指導略案については、講義で学んだ内容を反映しつつ各自のテーマに応じて作成し、授業時等に助言を受けること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２３上、２３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽Ⅰ）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

学習指導案は本学の書式（ワード）によりパソコンで作成するため、パソコン操作に習熟しておくこと。アルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。
本科目の単位が修得できない場合は、「音楽科教育法III」も受講することができず、教育実習が延期になるので、しっかり受講すること。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。始業時間は厳守してください。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業計画
2	指導と評価の一体化：音楽科学習における“学び”について
3	指導と評価の一体化：評価規準について（目標に準拠した評価とは）
4	指導と評価の一体化：題材の目標及び観点別学習状況の評価について
5	題材指導計画：意義と目的
6	題材指導計画：学習指導案作成の方法、題材名及び指導観の設定
7	題材指導計画：学習指導案作成の方法　指導事項、題材の目標及び評価規準の設定
8	指導法研究及び指導案の作成：歌唱分野及び器楽分野
9	指導法研究及び指導案の作成：創作分野
10	指導法研究及び指導案の作成：鑑賞分野
11	授業研究及び模擬授業実践：歌唱分野及び器楽分野
12	授業研究及び模擬授業実践：創作分野
13	授業研究及び模擬授業実践：鑑賞分野
14	題材指導計画のまとめ
15	音楽科教育法IIのまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前）［金1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7363A0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な学習展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、改善・向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽 I）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前）［金1］Bクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7363B0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な学習展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、改善・向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽 I）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前）［金1］Cクラス						
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GK7363C0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な学習展開の技術や評価方法を身に付ける。

２．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、改善・向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽 I）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
参考文献については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前）［金1］Dクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7363D0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な学習展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、改善・向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽 Ⅰ）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前）［金1］Eクラス						
代表教員	三戸　誠	授業コード	GK7363E0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な学習展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、改善・向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽 I）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前）［金2］Fクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7363F0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展　I
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な学習展開の技術や評価方法を身に付ける。

２．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ｉ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、改善・向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽 I）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
参考文献については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前）［金2］Gクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7363G0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展　I
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な学習展開の技術や評価方法を身に付ける。

２．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ｉ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、改善・向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽 I）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
参考文献については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前）［金2］Hクラス						
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GK7363H0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な学習展開の技術や評価方法を身に付ける。

２．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、改善・向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２･３上、２･３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽 I）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
参考文献については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前）［金2］Jクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7363J0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な学習展開の技術や評価方法を身に付ける。

2．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、改善・向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽 I）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
参考文献については授業内で提示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法III （前） ［金2］Kクラス						
代表教員	西田　豊	授業コード	GK7363K0	科目コード	GK7363	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義及び演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法II」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 Ⅰ
【到達目標】
音楽科学習指導の基本と題材指導計画（学習指導案）の構成方法の基本を踏まえ、模擬授業の実践を通して、具体的な学習展開の技術や評価方法を身に付ける。

２．授業概要

本科目は、「音楽科教育法Ⅰ・II」をふまえ、より適切な題材指導計画の作成、模擬授業の実践と振り返りを通した自らの弱点の把握、改善・向上の方法を探ることを目的とする。授業というものが研究的に追求していく営みであることを体験的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

模擬授業が中心となるので、それに備えて教材研究を十分に行い、題材指導計画（学習指導案）を十全なものに仕上げる努力をすること。とりわけ『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』の中の評価規準例及び指導事例等々を精読し、指導と評価の一体性を理解すること。貴重な模擬授業の体験を無駄にしないよう、担当教員とよく相談するなどして充実化を図っておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『最新中等科音楽教育法』　（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校音楽』（文部科学省：教育出版社）
文部科学省検定済教科書：中学校１、２・３上、２・３下、器楽（教育芸術社）
文部科学省検定済教科書：MOUSA１（高等学校芸術科音楽 I）（教育芸術社）
『音楽科学習指導案例集』（洗足学園音楽大学）
【参考文献】
参考文献については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本科目の単位が修得できない場合は、教育実習が延期となる。
教員としての資質・能力の基盤を築き、４年生の教育実習に直結する科目であるから、そのための心構えと学習意欲を持ち、取り組むこと。
器楽学習分野ではアルトリコーダー（バロック式）を使用するので各自準備しておくこと。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験資格を認める。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］
1	学習指導案の作成と工夫・改善　　中学校
2	学習指導案の作成と工夫・改善　　高等学校
3	現行学習指導要領と次期学習指導要領
4	評価のあり方と方法の工夫：観点別による題材の目標の設定
5	評価のあり方と方法の工夫：観点別による評価規準の設定
6	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、歌唱分野を中心に
7	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、器楽分野を中心に
8	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域、創作分野を中心に
9	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域、鑑賞分野を中心に
10	中間点検　A表現領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
11	中間点検　B鑑賞領域　教材研究並びに題材と評価方法の工夫・改善
12	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）A表現領域の総括
13	模擬授業の実践と討議（相互評価を通して）B鑑賞領域の総括
14	年間指導計画の作成の基本
15	「音楽科教育法III」のまとめと今後の課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金1］Aクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7364A0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

２．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 Ⅰ・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中学校か高等学校）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。
【参考文献】
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金1］Bクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7364B0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

２．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 Ⅰ・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中学校か高等学校）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。
【参考文献】
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金1］Cクラス						
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GK7364C0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

２．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 Ⅰ・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中学校か高等学校）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。
【参考文献】
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金1］Dクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7364D0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

２．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 Ⅰ・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中学校か高等学校）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。
【参考文献】
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金1］Eクラス						
代表教員	三戸　誠	授業コード	GK7364E0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

２．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 Ⅰ・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中学校か高等学校）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。
【参考文献】
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金2］Fクラス						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	GK7364F0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

２．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 Ⅰ・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中学校か高等学校）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。
【参考文献】
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金2］Gクラス						
代表教員	尾形　敏幸	授業コード	GK7364G0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

２．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 Ⅰ・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中学校か高等学校）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。
【参考文献】
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金2］Hクラス						
代表教員	高橋　辰也	授業コード	GK7364H0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

２．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 Ⅰ・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中学校か高等学校）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。
【参考文献】
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金2］Jクラス						
代表教員	金井　公美子	授業コード	GK7364J0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

２．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 Ⅰ・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中学校か高等学校）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。
【参考文献】
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	音楽科教育法IV （後） ［金2］Kクラス						
代表教員	西田　豊	授業コード	GK7364K0	科目コード	GK7364	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全（教職履修者のみ）・ME	科目分類	教職・MEは必修				
前提科目	「音楽科教育法III」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
音楽科の学習指導の発展 II
【到達目標】
年間指導計画の重要性とその作成の基本的な方法を身につけるとともに、教育上のねらいや目的をもった授業を模索する。それに併せて多様な教材、学習活動及び教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習改善と工夫について研究し、授業実践力を高める。

２．授業概要

音楽科の学びの本質とその指導法の理解をめざした「音楽科教育法 Ⅰ・II・III」を経て、本科目では実際に中学校・高等学校教育課程に組み込まれる教科としての音楽指導について、実感・現実感を抱きながら学ぶ。生徒が主体的・対話的に取り組む、いわゆるアクティヴ・ラーニングの視点も授業内に含める。そして、音楽科担当教員として身に付けておかなければならない資質や能力の教科部分を抽出し、生徒の個性や創造性に基づく多様な指導と評価の在り方を探りながら授業実践力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

大方の学生は自分の実習先の校種（中学校か高等学校）が決定しているので、学校の職員や生徒の実態、また採択している教科書等の情報収集に努める。そして本授業が提示する内容に自分の得る情報を当てはめて教壇実習をシミュレーションすることなどが望まれる。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、模擬授業、授業内で指示された課題（学習指導案等）の提出、まとめのレポート及び筆記試験　　以上を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
中等科音楽教育研究会『最新中等科音楽教育法』（音楽之友社）
『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』（文部科学省：教育芸術社）
『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（文部科学省：教育出版）
文部科学省検定済み教科書（中、高）
その他、必要に応じて「音楽科教育法 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で使用したテキストや実習校が採択している教科書など。
【参考文献】
参考書・参考資料については授業内で提示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教育実習校の実態をよく研究し、必要な知識・技能を磨くために、積極的な姿勢で受講して下さい。

《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、10回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの介護等体験を含んだ５回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

授業計画	
	［半期］ ※第５回から第１２回までの８回の授業では、必要に応じて模擬授業も含める。（順番が入れ替わることがある）
1	年間指導計画の作成と工夫・改善　中学校
2	年間指導計画の作成と工夫・改善　高等学校
3	学習指導案の作成と工夫・改善　中学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
4	学習指導案の作成と工夫・改善　高等学校（音楽科教育法Ⅲからの継続）
5	音楽科における主体的・対話的で深い学びとは
6	個性的な表現を促す授業の工夫：教材の効果的な活用法の模索
7	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making（創造的な音楽づくり）の理論の理解
8	創造性を高める授業の工夫：Creative Music Making 的な学習教材の開発と実践演習
9	情報機器の効果的な活用　（音源、映像）
10	情報機器の効果的な活用　（コンピュータ）
11	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　中学校
12	多様な教材と評価のあり方及び方法の工夫：主教材と関連教材の調査と模索　高等学校
13	学校の音楽科教育としての役割と実際
14	音楽科教育の研究と教員の研修
15	「音楽科教育法 Ⅰ・II・III・IV」のまとめと課題

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（前）［金1］Aクラス						
代表教員	並木　正	授業コード	GK7366A0	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【テーマ】
特別活動の理論と実践及び総合的な学習の時間の理論と実践
【到達目標】
特別活動と総合的な学習の時間はどちらも活動を重視する点は共通している。しかし、特別活動は教師の指導の下、集団としての体験的な活動を通して、課題に発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々行われる活動の中で、個のあり方を学ぶ時間であるのに対して、総合的な学習の時間は探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す学習である。この違いを明確にするために前半を特別活動に充て、後半で総合的な学習に時間について学習する。特別活動については学校行事等の前の話合い活動を含んだ学級指導の指導案が作成できるようになること、総合的な学習の時間については課題設定から解決に向けた学習の指導計画が作成できるようになることを目指す。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論や指導方法を学ぶ授業と演習やグループワークを取り入れた実践的な授業を組み合わせて、指導案や指導計画を作成できる能力を身につける。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（文部科学省／教育出版）
【参考文献】
『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
『高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編』（文部科学省／海文堂出版）
参考書・参考資料については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・始業時間は厳守してください。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・特別活動の概要（特別活動の位置付け）と総合的な学習の時間との違い
2	「学習指導要領」の変遷、人間関係形成・社会参画・自己実現の３つの視点から見た特別活動の意義の理解。
3	特別活動の目標と内容： 学級活動、生徒会活動、学校行事の｢チームとしての学校｣の視点からみた内容と目標の理解
4	特別活動の内容と年間指導計画：教育課程の中での特別活動の位置づけ（特別活動の全体計画）と年間指導計画の意味の理解
5	学級活動の指導案の作成（演習）：学級目標決定に向けた学級内の合意形成を図る指導案を作成する演習
6	生徒会活動と学校行事の意義と指導方法：各種行事への家庭・地域住民との連携に関わる実施方法の工夫についての理解
7	特別活動の評価と指導計画への反映：特別活動の実施における生徒の評価および行事への評価と指導計画の改善についての理解
8	総合的な学習の時間の意義と教育課程上の位置づけ：総合的な学習の時間と他の教科、特別活動との関連と全体計画の理解
9	総合的な学習の時間の理念：総合的な学習の時間の目標と生きる力との関係についての考察。探究的な学びを実現する具体的な指導の理解
10	総合的な学習の時間の中学校での実践例と分析：各教科との関連及び探究的な過程また、深い学びに成り得るかについて分析
11	総合的な学習の時間の高等学校での実践例と分析：学校や地域の特色、生徒の興味関心、自己の生き方への思考の視点からの分析
12	探究的な活動と体験活動の意味と実施方法導計画の作成（演習）総合的な学習の時間の目標の実現に向けた指導計画を作成する。
13	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割
14	総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点
15	試験と講座のまとめ：特別活動と総合的な学習の時間の指導の違いを明確に理解し、指導案、指導計画を作成して、実施に向けた留意点を考える。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（前）［金1］Bクラス						
代表教員	根岸　久明	授業コード	GK7366B0	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【テーマ】
特別活動の理論と実践及び総合的な学習の時間の理論と実践
【到達目標】
特別活動と総合的な学習の時間はどちらも活動を重視する点は共通している。しかし、特別活動は教師の指導の下、集団としての体験的な活動を通して、課題に発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々行われる活動の中で、個のあり方を学ぶ時間であるのに対して、総合的な学習の時間は探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す学習である。この違いを明確にするために前半を特別活動に充て、後半で総合的な学習に時間について学習する。特別活動については学校行事等の前の話合い活動を含んだ学級指導の指導案が作成できるようになること、総合的な学習の時間については課題設定から解決に向けた学習の指導計画が作成できるようになることを目指す。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論や指導方法を学ぶ授業と演習やグループワークを取り入れた実践的な授業を組み合わせて、指導案や指導計画を作成できる能力を身につける。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（文部科学省／教育出版）
【参考文献】
『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
『高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編』（文部科学省／海文堂出版）
参考書・参考資料については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・始業時間は厳守してください。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・特別活動の概要（特別活動の位置付け）と総合的な学習の時間との違い
2	「学習指導要領」の変遷、人間関係形成・社会参画・自己実現の３つの視点から見た特別活動の意義の理解。
3	特別活動の目標と内容： 学級活動、生徒会活動、学校行事の｢チームとしての学校｣の視点からみた内容と目標の理解
4	特別活動の内容と年間指導計画：教育課程の中での特別活動の位置づけ（特別活動の全体計画）と年間指導計画の意味の理解
5	学級活動の指導案の作成（演習）：学級目標決定に向けた学級内の合意形成を図る指導案を作成する演習
6	生徒会活動と学校行事の意義と指導方法：各種行事への家庭・地域住民との連携に関わる実施方法の工夫についての理解
7	特別活動の評価と指導計画への反映：特別活動の実施における生徒の評価および行事への評価と指導計画の改善についての理解
8	総合的な学習の時間の意義と教育課程上の位置づけ：総合的な学習の時間と他の教科、特別活動との関連と全体計画の理解
9	総合的な学習の時間の理念：総合的な学習の時間の目標と生きる力との関係についての考察。探究的な学びを実現する具体的な指導の理解
10	総合的な学習の時間の中学校での実践例と分析：各教科との関連及び探究的な過程また、深い学びに成り得るかについて分析
11	総合的な学習の時間の高等学校での実践例と分析：学校や地域の特色、生徒の興味関心、自己の生き方への思考の視点からの分析
12	探究的な活動と体験活動の意味と実施方法導計画の作成（演習）総合的な学習の時間の目標の実現に向けた指導計画を作成する。
13	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割
14	総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点
15	試験と講座のまとめ：特別活動と総合的な学習の時間の指導の違いを明確に理解し、指導案、指導計画を作成して、実施に向けた留意点を考える。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（前）［金1］Cクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7366C0	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【テーマ】
特別活動の理論と実践及び総合的な学習の時間の理論と実践
【到達目標】
特別活動と総合的な学習の時間はどちらも活動を重視する点は共通している。しかし、特別活動は教師の指導の下、集団としての体験的な活動を通して、課題に発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々行われる活動の中で、個のあり方を学ぶ時間であるのに対して、総合的な学習の時間は探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す学習である。この違いを明確にするために前半を特別活動に充て、後半で総合的な学習に時間について学習する。特別活動については学校行事等の前の話合い活動を含んだ学級指導の指導案が作成できるようになること、総合的な学習の時間については課題設定から解決に向けた学習の指導計画が作成できるようになることを目指す。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論や指導方法を学ぶ授業と演習やグループワークを取り入れた実践的な授業を組み合わせて、指導案や指導計画を作成できる能力を身につける。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（文部科学省／教育出版）
『高等学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（文部科学省／海文堂出版）
【参考文献】
参考書・参考資料については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・始業時間は厳守してください。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・特別活動の概要（特別活動の位置付け）と総合的な学習の時間との違い
2	「学習指導要領」の変遷、人間関係形成・社会参画・自己実現の３つの視点から見た特別活動の意義の理解。
3	特別活動の目標と内容： 学級活動、生徒会活動、学校行事の｢チームとしての学校｣の視点からみた内容と目標の理解
4	特別活動の内容と年間指導計画：教育課程の中での特別活動の位置づけ（特別活動の全体計画）と年間指導計画の意味の理解
5	学級活動の指導案の作成（演習）：学級目標決定に向けた学級内の合意形成を図る指導案を作成する演習
6	生徒会活動と学校行事の意義と指導方法：各種行事への家庭・地域住民との連携に関わる実施方法の工夫についての理解
7	特別活動の評価と指導計画への反映：特別活動の実施における生徒の評価および行事への評価と指導計画の改善についての理解
8	総合的な学習の時間の意義と教育課程上の位置づけ：総合的な学習の時間と他の教科、特別活動との関連と全体計画の理解
9	総合的な学習の時間の理念：総合的な学習の時間の目標と生きる力との関係についての考察。探究的な学びを実現する具体的な指導の理解
10	総合的な学習の時間の中学校での実践例と分析：各教科との関連及び探究的な過程また、深い学びに成り得るかについて分析
11	総合的な学習の時間の高等学校での実践例と分析：学校や地域の特色、生徒の興味関心、自己の生き方への思考の視点からの分析
12	探究的な活動と体験活動の意味と実施方法導計画の作成（演習）総合的な学習の時間の目標の実現に向けた指導計画を作成する。
13	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割
14	総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点
15	試験と講座のまとめ：特別活動と総合的な学習の時間の指導の違いを明確に理解し、指導案、指導計画を作成して、実施に向けた留意点を考える。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（後）［金1］Dクラス						
代表教員	並木　正	授業コード	GK7366D0	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【テーマ】
特別活動の理論と実践及び総合的な学習の時間の理論と実践
【到達目標】
特別活動と総合的な学習の時間はどちらも活動を重視する点は共通している。しかし、特別活動は教師の指導の下、集団としての体験的な活動を通して、課題に発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々行われる活動の中で、個のあり方を学ぶ時間であるのに対して、総合的な学習の時間は探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す学習である。この違いを明確にするために前半を特別活動に充て、後半で総合的な学習に時間について学習する。特別活動については学校行事等の前の話合い活動を含んだ学級指導の指導案が作成できるようになること、総合的な学習の時間については課題設定から解決に向けた学習の指導計画が作成できるようになることを目指す。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論や指導方法を学ぶ授業と演習やグループワークを取り入れた実践的な授業を組み合わせて、指導案や指導計画を作成できる能力を身につける。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（文部科学省／教育出版）
【参考文献】
『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
『高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編』（文部科学省／海文堂出版）
参考書・参考資料については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・始業時間は厳守してください。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・特別活動の概要（特別活動の位置付け）と総合的な学習の時間との違い
2	「学習指導要領」の変遷、人間関係形成・社会参画・自己実現の３つの視点から見た特別活動の意義の理解。
3	特別活動の目標と内容： 学級活動、生徒会活動、学校行事の「チームとしての学校」の視点からみた内容と目標の理解
4	特別活動の内容と年間指導計画：教育課程の中での特別活動の位置づけ（特別活動の全体計画）と年間指導計画の意味の理解
5	学級活動の指導案の作成（演習）：学級目標決定に向けた学級内の合意形成を図る指導案を作成する演習
6	生徒会活動と学校行事の意義と指導方法：各種行事への家庭・地域住民との連携に関わる実施方法の工夫についての理解
7	特別活動の評価と指導計画への反映：特別活動の実施における生徒の評価および行事への評価と指導計画の改善についての理解
8	総合的な学習の時間の意義と教育課程上の位置づけ：総合的な学習の時間と他の教科、特別活動との関連と全体計画の理解
9	総合的な学習の時間の理念：総合的な学習の時間の目標と生きる力との関係についての考察。探究的な学びを実現する具体的な指導の理解
10	総合的な学習の時間の中学校での実践例と分析：各教科との関連及び探究的な過程また、深い学びに成り得るかについて分析
11	総合的な学習の時間の高等学校での実践例と分析：学校や地域の特色、生徒の興味関心、自己の生き方への思考の視点からの分析
12	探究的な活動と体験活動の意味と実施方法導計画の作成（演習）総合的な学習の時間の目標の実現に向けた指導計画を作成する。
13	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割
14	総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点
15	試験と講座のまとめ：特別活動と総合的な学習の時間の指導の違いを明確に理解し、指導案、指導計画を作成して、実施に向けた留意点を考える。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（後）［金1］Eクラス						
代表教員	根岸　久明	授業コード	GK7366E0	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【テーマ】
特別活動の理論と実践及び総合的な学習の時間の理論と実践
【到達目標】
特別活動と総合的な学習の時間はどちらも活動を重視する点は共通している。しかし、特別活動は教師の指導の下、集団としての体験的な活動を通して、課題に発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々行われる活動の中で、個のあり方を学ぶ時間であるのに対して、総合的な学習の時間は探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す学習である。この違いを明確にするために前半を特別活動に充て、後半で総合的な学習に時間について学習する。特別活動については学校行事等の前の話合い活動を含んだ学級指導の指導案が作成できるようになること、総合的な学習の時間については課題設定から解決に向けた学習の指導計画が作成できるようになることを目指す。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論や指導方法を学ぶ授業と演習やグループワークを取り入れた実践的な授業を組み合わせて、指導案や指導計画を作成できる能力を身につける。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（文部科学省／教育出版）
【参考文献】
『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
『高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編』（文部科学省／海文堂出版）
参考書・参考資料については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・始業時間は厳守してください。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・特別活動の概要（特別活動の位置付け）と総合的な学習の時間との違い
2	「学習指導要領」の変遷、人間関係形成・社会参画・自己実現の３つの視点から見た特別活動の意義の理解。
3	特別活動の目標と内容： 学級活動、生徒会活動、学校行事の｢チームとしての学校｣の視点からみた内容と目標の理解
4	特別活動の内容と年間指導計画：教育課程の中での特別活動の位置づけ（特別活動の全体計画）と年間指導計画の意味の理解
5	学級活動の指導案の作成（演習）：学級目標決定に向けた学級内の合意形成を図る指導案を作成する演習
6	生徒会活動と学校行事の意義と指導方法：各種行事への家庭・地域住民との連携に関わる実施方法の工夫についての理解
7	特別活動の評価と指導計画への反映：特別活動の実施における生徒の評価および行事への評価と指導計画の改善についての理解
8	総合的な学習の時間の意義と教育課程上の位置づけ：総合的な学習の時間と他の教科、特別活動との関連と全体計画の理解
9	総合的な学習の時間の理念：総合的な学習の時間の目標と生きる力との関係についての考察。探究的な学びを実現する具体的な指導の理解
10	総合的な学習の時間の中学校での実践例と分析：各教科との関連及び探究的な過程また、深い学びに成り得るかについて分析
11	総合的な学習の時間の高等学校での実践例と分析：学校や地域の特色、生徒の興味関心、自己の生き方への思考の視点からの分析
12	探究的な活動と体験活動の意味と実施方法導計画の作成（演習）総合的な学習の時間の目標の実現に向けた指導計画を作成する。
13	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割
14	総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点
15	試験と講座のまとめ：特別活動と総合的な学習の時間の指導の違いを明確に理解し、指導案、指導計画を作成して、実施に向けた留意点を考える。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	特別活動指導法　（後）［金1］Fクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7366F0	科目コード	GK7366	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義、グループ協議、模擬授業等	配当学年	2				
対象コース	全(教職履修者のみ)	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【テーマ】
特別活動の理論と実践及び総合的な学習の時間の理論と実践
【到達目標】
特別活動と総合的な学習の時間はどちらも活動を重視する点は共通している。しかし、特別活動は教師の指導の下、集団としての体験的な活動を通して、課題に発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々行われる活動の中で、個のあり方を学ぶ時間であるのに対して、総合的な学習の時間は探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す学習である。この違いを明確にするために前半を特別活動に充て、後半で総合的な学習に時間について学習する。特別活動については学校行事等の前の話合い活動を含んだ学級指導の指導案が作成できるようになること、総合的な学習の時間については課題設定から解決に向けた学習の指導計画が作成できるようになることを目指す。

2．授業概要

授業計画に沿って、講義形式の理論や指導方法を学ぶ授業と演習やグループワークを取り入れた実践的な授業を組み合わせて、指導案や指導計画を作成できる能力を身につける。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編」の授業計画の該当部分を予習・復習しておくと、授業や試験に役立ちます。

4．成績評価の方法及び基準

・学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
『中学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／ぎょうせい）
『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』（文部科学省／海文堂出版）
『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（文部科学省／教育出版）
『高等学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（文部科学省／海文堂出版）
【参考文献】
参考書・参考資料については、ガイダンスおよび授業時に随時紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員を目指す教職課程を履修する学生にふさわしい服装、頭髪、態度で授業に臨むことを求めます。

【出席に関する注意事項】
・全授業15回のうち11回以上出席した者のみ学期末試験の受験資格を認めます。
・始業時間は厳守してください。
・遅刻3回で1回の欠席として扱います。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・特別活動の概要（特別活動の位置付け）と総合的な学習の時間との違い
2	「学習指導要領」の変遷、人間関係形成・社会参画・自己実現の３つの視点から見た特別活動の意義の理解。
3	特別活動の目標と内容： 学級活動、生徒会活動、学校行事の｢チームとしての学校｣の視点からみた内容と目標の理解
4	特別活動の内容と年間指導計画：教育課程の中での特別活動の位置づけ（特別活動の全体計画）と年間指導計画の意味の理解
5	学級活動の指導案の作成（演習）：学級目標決定に向けた学級内の合意形成を図る指導案を作成する演習
6	生徒会活動と学校行事の意義と指導方法：各種行事への家庭・地域住民との連携に関わる実施方法の工夫についての理解
7	特別活動の評価と指導計画への反映：特別活動の実施における生徒の評価および行事への評価と指導計画の改善についての理解
8	総合的な学習の時間の意義と教育課程上の位置づけ：総合的な学習の時間と他の教科、特別活動との関連と全体計画の理解
9	総合的な学習の時間の理念：総合的な学習の時間の目標と生きる力との関係についての考察。探究的な学びを実現する具体的な指導の理解
10	総合的な学習の時間の中学校での実践例と分析：各教科との関連及び探究的な過程また、深い学びに成り得るかについて分析
11	総合的な学習の時間の高等学校での実践例と分析：学校や地域の特色、生徒の興味関心、自己の生き方への思考の視点からの分析
12	探究的な活動と体験活動の意味と実施方法導計画の作成（演習）総合的な学習の時間の目標の実現に向けた指導計画を作成する。
13	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割
14	総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点
15	試験と講座のまとめ：特別活動と総合的な学習の時間の指導の違いを明確に理解し、指導案、指導計画を作成して、実施に向けた留意点を考える。

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育方法・技術論　（前）［火2］Aクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7371A0	科目コード	GK7371	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
「教育の方法および技術(情報機器および教材の活用を含む)」を学ぶ。
【到達目標】
（１）次代の社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論と実践を理解する。
（２）教育目標の具現化を図るために必要な基礎的な指導技術を理解し、授業を構想するとともに、授業において具体的に活用できる実践的な指導技術を身に付ける。
（３）情報機器の効果的な活用、情報活用能力を視野に入れた教材の作成や活用に関する基礎的な指導技術を理解し身に付ける。

２．授業概要

（１）授業における教育方法や教育技術の基本的な考え方を学ぶ。
（２）協同的な学びや対話的な学びなどの演習を通して、実践的な指導力を身に付ける。
（３）授業実践や教育実習において、すぐに活用できる実践力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必要に応じ、以下の内容を授業時間外に行う。
（１）テキストの当該箇所については、事前に読んでおくことで理解の深まりが得られる。
（２）グループ別で行う課題演習については、事前の資料収集などの準備が必要なことがある。
（３）常に、課題を自分自身の問題として受け止め、考えをまとめていく姿勢が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、 総合的な観点から評価する。詳しくは、初回の授業ガイダンスで説明する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（１）田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法』有斐閣　平成24年刊
（２）授業内で指示する資料

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）１５回欠かさず出席することを原則とする。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。
①始業時間を厳守すること。
②遅刻3回で1回の欠席として扱う。
③公欠については、学務部の証明書をもって認める。
（２）全授業15回の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
（３）問題意識を持ち、積極的に学びとる姿勢で授業に臨む。

授業計画	
	［半期］ ※毎回の講義のテーマ、提示演習の回数や開始時期などは、授業選択者の状況等の条件に応じ、柔軟に変更する可能性がある。
1	【オリエンテーション】本授業の概要と特色、教育方法の基礎的な理論の理解
2	【講義】西洋における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
3	【講義】日本における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
4	【講義】授業を構成する基礎的要件の理解（教育目標：何を学ぶのか）
5	【講義】学習の成立と指導技術の基本の理解（学習とは何か）
6	【講義】「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育方法の理解（学力の向上）
7	【講義】目標を具現化する教育方法を位置付けた学習指導案の作成（授業デザインの工夫）
8	【講義】情報機器の活用と情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する教材作成の理解
9	【講義】学習評価の基礎的な考え方と評価計画の理解
10	【演習】「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導技術の理論と実践
11	【演習】情報収集・活用能力を育成する指導技術の理論と実践
12	【演習】対話的な学習指導の指導技術の理論と実践
13	【演習】情報機器を活用した発表等の指導技術の理論と実践
14	【講義】演習を通した教育方法や指導技術に関する課題の整理
15	【試験】期末試験・まとめ（教育方法に関する全体的なまとめと今日的な課題への理解）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育方法・技術論　（前）［火2］Bクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7371B0	科目コード	GK7371	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
「教育の方法および技術(情報機器および教材の活用を含む)」を学ぶ。
【到達目標】
（１）次代の社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論と実践を理解する。
（２）教育目標の具現化を図るために必要な基礎的な指導技術を理解し、授業を構想するとともに、授業において具体的に活用できる実践的な指導技術を身に付ける。
（３）情報機器の効果的な活用、情報活用能力を視野に入れた教材の作成や活用に関する基礎的な指導技術を理解し身に付ける。

２．授業概要

（１）授業における教育方法や教育技術の基本的な考え方を学ぶ。
（２）協同的な学びや対話的な学びなどの演習を通して、実践的な指導力を身に付ける。
（３）授業実践や教育実習において、すぐに活用できる実践力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必要に応じ、以下の内容を授業時間外に行う。
（１）テキストの当該箇所については、事前に読んでおくことで理解の深まりが得られる。
（２）グループ別で行う課題演習については、事前の資料収集などの準備が必要なことがある。
（３）常に、課題を自分自身の問題として受け止め、考えをまとめていく姿勢が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、 総合的な観点から評価する。詳しくは、初回の授業ガイダンスで説明する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（１）田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法』有斐閣　平成24年刊
（２）授業内で指示する資料

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）１５回欠かさず出席することを原則とする。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。
①始業時間を厳守すること。
②遅刻3回で1回の欠席として扱う。
③公欠については、学務部の証明書をもって認める。
（２）全授業15回の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
（３）問題意識を持ち、積極的に学びとる姿勢で授業に臨む。

授業計画	
	［半期］ ※毎回の講義のテーマ、提示演習の回数や開始時期などは、授業選択者の状況等の条件に応じ、柔軟に変更する可能性がある。
1	【オリエンテーション】本授業の概要と特色、教育方法の基礎的な理論の理解
2	【講義】西洋における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
3	【講義】日本における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
4	【講義】授業を構成する基礎的要件の理解（教育目標：何を学ぶのか）
5	【講義】学習の成立と指導技術の基本の理解（学習とは何か）
6	【講義】「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育方法の理解（学力の向上）
7	【講義】目標を具現化する教育方法を位置付けた学習指導案の作成（授業デザインの工夫）
8	【講義】情報機器の活用と情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する教材作成の理解
9	【講義】学習評価の基礎的な考え方と評価計画の理解
10	【演習】「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導技術の理論と実践
11	【演習】情報収集・活用能力を育成する指導技術の理論と実践
12	【演習】対話的な学習指導の指導技術の理論と実践
13	【演習】情報機器を活用した発表等の指導技術の理論と実践
14	【講義】演習を通した教育方法や指導技術に関する課題の整理
15	【試験】期末試験・まとめ（教育方法に関する全体的なまとめと今日的な課題への理解）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育方法・技術論　（後）［火2］Cクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7371C0	科目コード	GK7371	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
「教育の方法および技術(情報機器および教材の活用を含む)」を学ぶ。
【到達目標】
（１）次代の社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論と実践を理解する。
（２）教育目標の具現化を図るために必要な基礎的な指導技術を理解し、授業を構想するとともに、授業において具体的に活用できる実践的な指導技術を身に付ける。
（３）情報機器の効果的な活用、情報活用能力を視野に入れた教材の作成や活用に関する基礎的な指導技術を理解し身に付ける。

２．授業概要

（１）授業における教育方法や教育技術の基本的な考え方を学ぶ。
（２）協同的な学びや対話的な学びなどの演習を通して、実践的な指導力を身に付ける。
（３）授業実践や教育実習において、すぐに活用できる実践力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必要に応じ、以下の内容を授業時間外に行う。
（１）テキストの当該箇所については、事前に読んでおくことで理解の深まりが得られる。
（２）グループ別で行う課題演習については、事前の資料収集などの準備が必要なことがある。
（３）常に、課題を自分自身の問題として受け止め、考えをまとめていく姿勢が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、 総合的な観点から評価する。詳しくは、初回の授業ガイダンスで説明する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（１）田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法』有斐閣　平成24年刊
（２）授業内で指示する資料

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）１５回欠かさず出席することを原則とする。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。
①始業時間を厳守すること。
②遅刻3回で1回の欠席として扱う。
③公欠については、学務部の証明書をもって認める。
（２）全授業15回の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
（３）問題意識を持ち、積極的に学びとる姿勢で授業に臨む。

授業計画	
	［半期］ ※毎回の講義のテーマ、提示演習の回数や開始時期などは、授業選択者の状況等の条件に応じ、柔軟に変更する可能性がある。
1	【オリエンテーション】本授業の概要と特色、教育方法の基礎的な理論の理解
2	【講義】西洋における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
3	【講義】日本における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
4	【講義】授業を構成する基礎的要件の理解（教育目標：何を学ぶのか）
5	【講義】学習の成立と指導技術の基本の理解（学習とは何か）
6	【講義】「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育方法の理解（学力の向上）
7	【講義】目標を具現化する教育方法を位置付けた学習指導案の作成（授業デザインの工夫）
8	【講義】情報機器の活用と情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する教材作成の理解
9	【講義】学習評価の基礎的な考え方と評価計画の理解
10	【演習】「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導技術の理論と実践
11	【演習】情報収集・活用能力を育成する指導技術の理論と実践
12	【演習】対話的な学習指導の指導技術の理論と実践
13	【演習】情報機器を活用した発表等の指導技術の理論と実践
14	【講義】演習を通した教育方法や指導技術に関する課題の整理
15	【試験】期末試験・まとめ（教育方法に関する全体的なまとめと今日的な課題への理解）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	教育方法・技術論　（後）［火2］Dクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7371D0	科目コード	GK7371	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
「教育の方法および技術(情報機器および教材の活用を含む)」を学ぶ。
【到達目標】
（１）次代の社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論と実践を理解する。
（２）教育目標の具現化を図るために必要な基礎的な指導技術を理解し、授業を構想するとともに、授業において具体的に活用できる実践的な指導技術を身に付ける。
（３）情報機器の効果的な活用、情報活用能力を視野に入れた教材の作成や活用に関する基礎的な指導技術を理解し身に付ける。

２．授業概要

（１）授業における教育方法や教育技術の基本的な考え方を学ぶ。
（２）協同的な学びや対話的な学びなどの演習を通して、実践的な指導力を身に付ける。
（３）授業実践や教育実習において、すぐに活用できる実践力を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必要に応じ、以下の内容を授業時間外に行う。
（１）テキストの当該箇所については、事前に読んでおくことで理解の深まりが得られる。
（２）グループ別で行う課題演習については、事前の資料収集などの準備が必要なことがある。
（３）常に、課題を自分自身の問題として受け止め、考えをまとめていく姿勢が大切である。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢）等、 総合的な観点から評価する。詳しくは、初回の授業ガイダンスで説明する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（１）田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法』有斐閣　平成24年刊
（２）授業内で指示する資料

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）１５回欠かさず出席することを原則とする。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。
①始業時間を厳守すること。
②遅刻3回で1回の欠席として扱う。
③公欠については、学務部の証明書をもって認める。
（２）全授業15回の内11回以上出席した者のみ、学期末試験の受験資格を認める。
（３）問題意識を持ち、積極的に学びとる姿勢で授業に臨む。

授業計画	
	［半期］ ※毎回の講義のテーマ、提示演習の回数や開始時期などは、授業選択者の状況等の条件に応じ、柔軟に変更する可能性がある。
1	【オリエンテーション】本授業の概要と特色、教育方法の基礎的な理論の理解
2	【講義】西洋における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
3	【講義】日本における教育方法の基礎的理論の変遷の理解
4	【講義】授業を構成する基礎的要件の理解（教育目標：何を学ぶのか）
5	【講義】学習の成立と指導技術の基本の理解（学習とは何か）
6	【講義】「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育方法の理解（学力の向上）
7	【講義】目標を具現化する教育方法を位置付けた学習指導案の作成（授業デザインの工夫）
8	【講義】情報機器の活用と情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する教材作成の理解
9	【講義】学習評価の基礎的な考え方と評価計画の理解
10	【演習】「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導技術の理論と実践
11	【演習】情報収集・活用能力を育成する指導技術の理論と実践
12	【演習】対話的な学習指導の指導技術の理論と実践
13	【演習】情報機器を活用した発表等の指導技術の理論と実践
14	【講義】演習を通した教育方法や指導技術に関する課題の整理
15	【試験】期末試験・まとめ（教育方法に関する全体的なまとめと今日的な課題への理解）

授業計画	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	生徒指導・進路指導論　（前）［木1］Aクラス						
代表教員	野中　隆	授業コード	GK7381A0	科目コード	GK7381	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
生徒指導と進路指導の意義や原理を体系的に理解し，生徒が抱えている今日的な課題及びその解決策について主体的・対話的に深く学ぶ。「生徒指導」では，全ての生徒を対象とした生徒指導の進め方を理解するとともに，他の教員や関係機関と連携しながら組織的に課題を解決するために必要な知識・技能や素養を身に付ける。「進路指導」では，全ての生徒を対象としたキャリア・カウンセリングやキャリア教育の視点に立った授業改善や教育相談の在り方，指導体制等について知識や素養を身に付ける。
【到達目標】
具体的な事例についてグループ等で協議することを通して，主題に示した内容を追究する。それらの活動を通して，生徒指導及び進路指導において実践力があり，しかも信頼される教師になるための資質と能力を身に付ける。

２．授業概要

「生徒指導」では，多くの学校で日々発生している生徒指導上の諸問題に適切に対応するために，生徒指導の意義や原理を基礎として，個別の課題を抱える生徒への具体的な生徒指導の進め方や，児童生徒の発達と心理を考慮した教育相談について，事例を踏まえた実践的な授業を展開する。「進路指導」では，キャリア教育の視点に立ち，生徒が自己の進路を主体的に選択・決定できるよう，進路指導の在り方や実践的な教育相談の方法等について考察する。その際，ワークシート等の指導資料を作成する演習も踏まえて，具体的な活動を取り入れて実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習として，授業計画のテーマに沿ってテキストを読んでおく。そのことによって，学習内容を把握しやすくなるとともに，授業の中で実施する記入課題への記述が、円滑にできるようになる。復習として，返却されたグループ協議資料，記入課題及び配布資料等をよく見直しておく。特に，記述した内容について添削や助言の内容を基にその部分をテキストで再度確認しておくとよい。返却された記入課題や配布された資料は期末試験で持ち込み可となるため，試験当日に検索しやすいように資料を時系列で整理しておくとよい。

４．成績評価の方法及び基準

（１）期末試験
授業中に行った内容について，テキストや配布した記入課題，配布資料等を基に，穴埋め問題，設問に答える問題，指示に従って記述する作文問題などを出題する。その結果を数値化し，獲得点数によって評価する。
（２）平常点
Ａ　講義やグループ協議，ロールプレイングやディベートなど，授業への取り組み姿勢
Ｂ　グループ協議資料，記入課題等の提出状況及び記入状況
※　上記の平常点Ａ，Ｂ及び期末試験の成績を，「Ａ＞Ｂ＞期末試験の成績」の順に重みを付けて総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
（１）「生徒指導提要」（平成２２年３月文部科学省）
（２）「中学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年５月文部科学省）
（３）「高等学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年１１月文部科学省）
【参考文献・参考資料】
（１）授業時に配布する資料
（２）中学校学習指導要領及び解説
（３）高等学校学習指導要領及び解説

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本授業の趣旨を理解し，次のことを順守する。
（１）欠席や遅刻をしない。出席や期末試験に関わる不正行為は，絶対にあってはならない。なお，特別な事情がある場合には，それを証明するものを提出する。
（２）授業以外のことをしない，居眠りをしないなど，授業に集中し，意欲的に取り組む。
（３）机上には，飲み物など授業に不要なものを置かない。

【出席に関する注意事項】
※期末試験の受験資格は，授業日数の１５日のうち，出席日数が１１日以上であることとする。
なお、出欠についての詳細は，次の通りである。
（１）始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
（２）遅刻３回につき欠席１回分として扱う。
（３）公欠については，学務部から発行される証明書を提出することによって承認され，出席すべき授業日数から除外する。忌引についても，その証明書をもって公欠と同じ扱いとする。
欠席は評価に大きく影響するので要注意。

授業計画	
	［半期］
1	生徒指導の意義と原理（１）教職について、生徒指導と進路指導の意義、生徒指導等の校内組織（校務分掌）
2	生徒指導の意義と原理（２）生徒指導の意義、教育課程上の生徒指導の位置付け、各教科等の生徒指導、集団指導と個別指導の在り方
3	児童生徒の心理と児童生徒理解（１）生徒指導の基盤となる児童生徒理解，児童生徒の心理と児童生徒理解
4	児童生徒の心理と児童生徒理解（２）教育相談の意義、学級担任・ホームルーム担任が行う教育相談、教育相談の進め方、教育相談における保護者とのかかわり方
5	児童生徒の心理と児童生徒理解（３） 学校における生徒指導体制、基本的な生活習慣の確立、校内規律に関する指導の基本、個別の課題を抱える児童生徒への指導、少年非行
6	生徒指導の進め方（１）いじめに関する問題の把握と解決策の検討
7	生徒指導の進め方（２）東日本大震災に伴ういじめの現状把握と解決策の検討
8	生徒指導の進め方（３）インターネット・携帯電話にかかわる課題、校内外の連携、専門家や関係機関との連携
9	生徒指導の進め方（４）命の教育と自殺防止、児童虐待、自己の存在感
10	生徒指導の進め方（５）不登校・中途退学にかかわる課題の把握及び解決策の検討
11	生徒指導の進め方（６）生徒指導に関する法制度等、校則、懲戒と体罰
12	キャリア教育と進路指導（１）キャリア教育とは何か、「基礎的・汎用的能力」、キャリア教育の意義、ガイダンス、進路指導における教育相談、家庭や関係機関との連携
13	キャリア教育と進路指導（２）進路指導の定義と体験活動、教育課程における進路指導の位置付け、教育振興基本計画の策定と新しい学習指導要領、進路指導の在り方と留意事項（１）、自己評価の意義、ポートフォリオ活用の在り方
14	キャリア教育と進路指導（３）進路指導の在り方と留意事項（２）、キャリア・カウンセリングの実際、カリキュラム・マネジメント
15	これからの生徒指導と進路指導、問題意識の啓発、試験とまとめ

科目名	生徒指導・進路指導論　（前）［木1］Bクラス						
代表教員	田神　仁	授業コード	GK7381B0	科目コード	GK7381	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義，演習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
講義を通して生徒指導と進路指導の意義や原理を体系的に理解し，演習を通して生徒や学校が抱えている今日的な課題及びその解決策について主体的・対話的に深く学ぶ。「生徒指導」では，中高生や保護者を対象とした生徒指導の進め方を理解するとともに，他の教員や関係機関と連携しながら組織的に課題を解決するために必要な知識・技能や素養を身に付ける。「進路指導」では，中高生や保護者を対象としたキャリア・カウンセリングやキャリア教育の視点に立った授業改善や教育相談の在り方，指導体制等について知識や素養を身に付ける。
【到達目標】
具体的な事例についてグループやロールプレイング等の演習を通して，主題に示した内容を追究する。それらの活動を通して，生徒指導及び進路指導において実践力があり，しかも信頼される教師になるための資質と能力を身に付ける。

２．授業概要

「生徒指導」では，多くの学校で日々発生している生徒指導上の諸問題に適切に対応するために，生徒指導の意義や原理を基礎として，個別の課題を抱える生徒への具体的な生徒指導の進め方や，児童生徒の発達と心理を考慮した教育相談について，事例を踏まえた実践的な授業を展開する。「進路指導」では，キャリア教育の視点に立ち，生徒が自己の進路を主体的に選択・決定できるような進路指導の在り方や実践的な教育相談の方法等について考察する。その際，講義内容を基盤とし，ワークシート等の指導資料を作成する演習も踏まえて具体的な活動を取り入れて実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習として，授業計画のテーマに沿ってテキストを読んでおく。そのことによって，学習内容を把握しやすくなるとともに，授業の中で実施する記入課題への記述が、円滑にできるようになる。復習として，返却された前回のグループ協議資料，記入課題及び配布資料等をよく見直しておく。特に，記述した内容について添削や助言の内容を基にその部分をテキストで再度確認しておくとよい。返却された記入課題や配布された資料は期末試験で持ち込み可となるため，試験当日に検索しやすいように資料を時系列で整理しておくとよい。

４．成績評価の方法及び基準

(1)　期末試験
授業中に行った内容について，テキストや配布した記入課題，配布資料等を基に，穴埋め問題，設問に答える問題，指示に従って記述する作文問題などを出題する。その結果を数値化し，獲得点数によって評価する。
(2)　平常点
Ａ　講義やグループ協議，ロールプレイングやディベートなど，授業への取り組み姿勢
Ｂ　グループ協議資料，記入課題等の提出状況及び記入状況
※　上記の平常点Ａ，Ｂ及び期末試験の成績を，「Ａ＞Ｂ＞期末試験の成績」の順に重みを付けて総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
（１）「生徒指導提要」（平成２２年３月文部科学省）
（２）「中学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年５月文部科学省）
（３）「高等学校 キャリア教育の手引き」（平成２４年２月文部科学省）
【参考文献・参考資料】
（１）授業時に配布する資料
（２）中学校学習指導要領及び解説
（３）高等学校学習指導要領及び解説

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本授業の趣旨を理解し，次のことを順守する。
①　欠席や遅刻をしない。出席や期末試験に関わる不正行為は，絶対にあってはならない。なお，特別な事情がある場合には，それを証明するものを提出する。
②　授業以外のことをしない，居眠りをしないなど，授業に集中し，意欲的に取り組む。
③　机上には，飲み物など授業に不要なものを置かない。

※　期末試験の受験資格は，授業日数の１５日のうち，出席日数が１１日以上（欠席４日以内）であることとする。
なお、出欠についての詳細は，次の通りである。
①　９：００を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
②　遅刻３回につき欠席１回分として扱う。
③　公欠については，学務部から発行される証明書を提出することによって承認され，出席すべき授業日数から除外する。忌引についても，その証明書をもって公欠と同じ扱いとする。
毎回提出物があるため，欠席は評価に大きく影響するので要注意。

授業計画	
	［半期］
1	生徒指導の意義と原理（１） 教職について，生徒指導と進路指導の意義，生徒指導等の校内組織（校務分掌）
2	生徒指導の意義と原理（２） 生徒指導の意義，教育課程上の生徒指導の位置付け，各教科等の生徒指導，集団指導と個別指導の在り方
3	児童生徒の心理と児童生徒理解（１） 生徒指導の基盤となる児童生徒理解，児童生徒の心理と児童生徒理解
4	児童生徒の心理と児童生徒理解（２） 教育相談の意義，学級担任・ホームルーム担任が行う教育相談，教育相談の進め方，教育相談における保護者とのかかわり方
5	児童生徒の心理と児童生徒理解（３） 学校における生徒指導体制，基本的な生活習慣の確立，校内規律に関する指導の基本，個別の課題を抱える児童生徒への指導，少年非行
6	生徒指導の進め方（１） いじめに関する問題の把握と解決策の検討
7	生徒指導の進め方（２） 命の教育と自殺防止，児童虐待
8	生徒指導の進め方（３） インターネット・携帯電話にかかわる課題，校内外の連携，専門家や関係機関との連携
9	生徒指導の進め方（４） 校則，懲戒と体罰，生徒指導に関する法制度等，教育法規体系
10	生徒指導の進め方（５） 不登校，中途退学にかかわる課題の把握及び解決策の検討 キャリア教育の定義・意義
11	進路指導の定義と諸活動，キャリア教育と進路指導の関係
12	キャリア教育・進路指導の実際 進路指導における教育相談，家庭や関係機関との連携
13	学習指導要領について 学習指導要領とは，キャリア教育の視点から見た次期学習指導要領の要点（主体的・対話的で深い学び，カリキュラム・マネジメント等）
14	キャリア教育の視点から見た命の教育 これまでの授業のまとめ
15	まとめと問題意識の啓発，定期試験，教員採用に向けた心構え

科目名	生徒指導・進路指導論　（後）［木1］Cクラス						
代表教員	野中　隆	授業コード	GK7381C0	科目コード	GK7381	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
生徒指導と進路指導の意義や原理を体系的に理解し，生徒が抱えている今日的な課題及びその解決策について主体的・対話的に深く学ぶ。「生徒指導」では，全ての生徒を対象とした生徒指導の進め方を理解するとともに，他の教員や関係機関と連携しながら組織的に課題を解決するために必要な知識・技能や素養を身に付ける。「進路指導」では，全ての生徒を対象としたキャリア・カウンセリングやキャリア教育の視点に立った授業改善や教育相談の在り方，指導体制等について知識や素養を身に付ける。
【到達目標】
具体的な事例についてグループ等で協議することを通して，主題に示した内容を追究する。それらの活動を通して，生徒指導及び進路指導において実践力があり，しかも信頼される教師になるための資質と能力を身に付ける。

２．授業概要

「生徒指導」では，多くの学校で日々発生している生徒指導上の諸問題に適切に対応するために，生徒指導の意義や原理を基礎として，個別の課題を抱える生徒への具体的な生徒指導の進め方や，児童生徒の発達と心理を考慮した教育相談について，事例を踏まえた実践的な授業を展開する。「進路指導」では，キャリア教育の視点に立ち，生徒が自己の進路を主体的に選択・決定できるよう，進路指導の在り方や実践的な教育相談の方法等について考察する。その際，ワークシート等の指導資料を作成する演習も踏まえて，具体的な活動を取り入れて実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習として，授業計画のテーマに沿ってテキストを読んでおく。そのことによって，学習内容を把握しやすくなるとともに，授業の中で実施する記入課題への記述が、円滑にできるようになる。復習として，返却されたグループ協議資料，記入課題及び配布資料等をよく見直しておく。特に，記述した内容について添削や助言の内容を基にその部分をテキストで再度確認しておくとよい。返却された記入課題や配布された資料は期末試験で持ち込み可となるため，試験当日に検索しやすいように資料を時系列で整理しておくとよい。

４．成績評価の方法及び基準

（１）期末試験
授業中に行った内容について，テキストや配布した記入課題，配布資料等を基に，穴埋め問題，設問に答える問題，指示に従って記述する作文問題などを出題する。その結果を数値化し，獲得点数によって評価する。
（２）平常点
Ａ　講義やグループ協議，ロールプレイングやディベートなど，授業への取り組み姿勢
Ｂ　グループ協議資料，記入課題等の提出状況及び記入状況
※　上記の平常点Ａ，Ｂ及び期末試験の成績を，「Ａ＞Ｂ＞期末試験の成績」の順に重みを付けて総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
（１）「生徒指導提要」（平成２２年３月文部科学省）
（２）「中学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年５月文部科学省）
（３）「高等学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年１１月文部科学省）
【参考文献・参考資料】
（１）授業時に配布する資料
（２）中学校学習指導要領及び解説
（３）高等学校学習指導要領及び解説

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本授業の趣旨を理解し，次のことを順守する。
（１）欠席や遅刻をしない。出席や期末試験に関わる不正行為は，絶対にあってはならない。なお，特別な事情がある場合には，それを証明するものを提出する。
（２）授業以外のことをしない，居眠りをしないなど，授業に集中し，意欲的に取り組む。
（３）机上には，飲み物など授業に不要なものを置かない。

【出席に関する注意事項】
※期末試験の受験資格は，授業日数の１５日のうち，出席日数が１１日以上であることとする。
なお、出欠についての詳細は，次の通りである。
（１）始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
（２）遅刻３回につき欠席１回分として扱う。
（３）公欠については，学務部から発行される証明書を提出することによって承認され，出席すべき授業日数から除外する。忌引についても，その証明書をもって公欠と同じ扱いとする。
欠席は評価に大きく影響するので要注意。

授業計画	
	［半期］
1	生徒指導の意義と原理（１）教職について、生徒指導と進路指導の意義、生徒指導等の校内組織（校務分掌）
2	生徒指導の意義と原理（２）生徒指導の意義、教育課程上の生徒指導の位置付け、各教科等の生徒指導、集団指導と個別指導の在り方
3	児童生徒の心理と児童生徒理解（１）生徒指導の基盤となる児童生徒理解，児童生徒の心理と児童生徒理解
4	児童生徒の心理と児童生徒理解（２）教育相談の意義、学級担任・ホームルーム担任が行う教育相談、教育相談の進め方、教育相談における保護者とのかかわり方
5	児童生徒の心理と児童生徒理解（３） 学校における生徒指導体制、基本的な生活習慣の確立、校内規律に関する指導の基本、個別の課題を抱える児童生徒への指導、少年非行
6	生徒指導の進め方（１）いじめに関する問題の把握と解決策の検討
7	生徒指導の進め方（２）東日本大震災に伴ういじめの現状把握と解決策の検討
8	生徒指導の進め方（３）インターネット・携帯電話にかかわる課題、校内外の連携、専門家や関係機関との連携
9	生徒指導の進め方（４）命の教育と自殺防止、児童虐待、自己の存在感
10	生徒指導の進め方（５）不登校・中途退学にかかわる課題の把握及び解決策の検討
11	生徒指導の進め方（６）生徒指導に関する法制度等、校則、懲戒と体罰
12	キャリア教育と進路指導（１）キャリア教育とは何か、「基礎的・汎用的能力」、キャリア教育の意義、ガイダンス、進路指導における教育相談、家庭や関係機関との連携
13	キャリア教育と進路指導（２）進路指導の定義と体験活動、教育課程における進路指導の位置付け、教育振興基本計画の策定と新しい学習指導要領、進路指導の在り方と留意事項（１）、自己評価の意義、ポートフォリオ活用の在り方
14	キャリア教育と進路指導（３）進路指導の在り方と留意事項（２）、キャリア・カウンセリングの実際、カリキュラム・マネジメント
15	これからの生徒指導と進路指導、問題意識の啓発、試験とまとめ

科目名	生徒指導・進路指導論　（後）［木1］Dクラス						
代表教員	田神　仁	授業コード	GK7381D0	科目コード	GK7381	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
生徒指導と進路指導の意義や原理を体系的に理解し，生徒が抱えている今日的な課題及びその解決策について主体的・対話的に深く学ぶ。「生徒指導」では，全ての生徒を対象とした生徒指導の進め方を理解するとともに，他の教員や関係機関と連携しながら組織的に課題を解決するために必要な知識・技能や素養を身に付ける。「進路指導」では，全ての生徒を対象としたキャリア・カウンセリングやキャリア教育の視点に立った授業改善や教育相談の在り方，指導体制等について知識や素養を身に付ける。
【到達目標】
具体的な事例についてグループ等で協議することを通して，主題に示した内容を追究する。それらの活動を通して，生徒指導及び進路指導において実践力があり，しかも信頼される教師になるための資質と能力を身に付ける。

２．授業概要

「生徒指導」では，多くの学校で日々発生している生徒指導上の諸問題に適切に対応するために，生徒指導の意義や原理を基礎として，個別の課題を抱える生徒への具体的な生徒指導の進め方や，児童生徒の発達と心理を考慮した教育相談について，事例を踏まえた実践的な授業を展開する。「進路指導」では，キャリア教育の視点に立ち，生徒が自己の進路を主体的に選択・決定できるよう，進路指導の在り方や実践的な教育相談の方法等について考察する。その際，ワークシート等の指導資料を作成する演習も踏まえて，具体的な活動を取り入れて実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習として，授業計画のテーマに沿ってテキストを読んでおく。そのことによって，学習内容を把握しやすくなるとともに，授業の中で実施する記入課題への記述が、円滑にできるようになる。復習として，返却されたグループ協議資料，記入課題及び配布資料等をよく見直しておく。特に，記述した内容について添削や助言の内容を基にその部分をテキストで再度確認しておくとよい。返却された記入課題や配布された資料は期末試験で持ち込み可となるため，試験当日に検索しやすいように資料を時系列で整理しておくとよい。

４．成績評価の方法及び基準

（１）期末試験
授業中に行った内容について，テキストや配布した記入課題，配布資料等を基に，穴埋め問題，設問に答える問題，指示に従って記述する作文問題などを出題する。その結果を数値化し，獲得点数によって評価する。
（２）平常点
Ａ　講義やグループ協議，ロールプレイングやディベートなど，授業への取り組み姿勢
Ｂ　グループ協議資料，記入課題等の提出状況及び記入状況
※　上記の平常点Ａ，Ｂ及び期末試験の成績を，「Ａ＞Ｂ＞期末試験の成績」の順に重みを付けて総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
（１）「生徒指導提要」（平成２２年３月文部科学省）
（２）「中学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年５月文部科学省）
（３）「高等学校 キャリア教育の手引き」（平成２３年１１月文部科学省）
【参考文献・参考資料】
（１）授業時に配布する資料
（２）中学校学習指導要領及び解説
（３）高等学校学習指導要領及び解説

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本授業の趣旨を理解し，次のことを順守する。
（１）欠席や遅刻をしない。出席や期末試験に関わる不正行為は，絶対にあってはならない。なお，特別な事情がある場合には，それを証明するものを提出する。
（２）授業以外のことをしない，居眠りをしないなど，授業に集中し，意欲的に取り組む。
（３）机上には，飲み物など授業に不要なものを置かない。

【出席に関する注意事項】
※期末試験の受験資格は，授業日数の１５日のうち，出席日数が１１日以上であることとする。
なお、出欠についての詳細は，次の通りである。
（１）始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
（２）遅刻３回につき欠席１回分として扱う。
（３）公欠については，学務部から発行される証明書を提出することによって承認され，出席すべき授業日数から除外する。忌引についても，その証明書をもって公欠と同じ扱いとする。
欠席は評価に大きく影響するので要注意。

授業計画	
	［半期］
1	生徒指導の意義と原理（１）教職について、生徒指導と進路指導の意義、生徒指導等の校内組織（校務分掌）
2	生徒指導の意義と原理（２）生徒指導の意義、教育課程上の生徒指導の位置付け、各教科等の生徒指導、集団指導と個別指導の在り方
3	児童生徒の心理と児童生徒理解（１）生徒指導の基盤となる児童生徒理解，児童生徒の心理と児童生徒理解
4	児童生徒の心理と児童生徒理解（２）教育相談の意義、学級担任・ホームルーム担任が行う教育相談、教育相談の進め方、教育相談における保護者とのかかわり方
5	児童生徒の心理と児童生徒理解（３） 学校における生徒指導体制、基本的な生活習慣の確立、校内規律に関する指導の基本、個別の課題を抱える児童生徒への指導、少年非行
6	生徒指導の進め方（１）いじめに関する問題の把握と解決策の検討
7	生徒指導の進め方（２）東日本大震災に伴ういじめの現状把握と解決策の検討
8	生徒指導の進め方（３）インターネット・携帯電話にかかわる課題、校内外の連携、専門家や関係機関との連携
9	生徒指導の進め方（４）命の教育と自殺防止、児童虐待、自己の存在感
10	生徒指導の進め方（５）不登校・中途退学にかかわる課題の把握及び解決策の検討
11	生徒指導の進め方（６）生徒指導に関する法制度等、校則、懲戒と体罰
12	キャリア教育と進路指導（１）キャリア教育とは何か、「基礎的・汎用的能力」、キャリア教育の意義、ガイダンス、進路指導における教育相談、家庭や関係機関との連携
13	キャリア教育と進路指導（２）進路指導の定義と体験活動、教育課程における進路指導の位置付け、教育振興基本計画の策定と新しい学習指導要領、進路指導の在り方と留意事項（１）、自己評価の意義、ポートフォリオ活用の在り方
14	キャリア教育と進路指導（３）進路指導の在り方と留意事項（２）、キャリア・カウンセリングの実際、カリキュラム・マネジメント
15	これからの生徒指導と進路指導、問題意識の啓発、試験とまとめ

科目名	教育相談の方法論　（後）［水1］Aクラス						
代表教員	伊藤　民子	授業コード	GK7385A0	科目コード	GK7385	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教育相談(カウンセリングの理論・技法を含む）の意義を理解し、実践力を身に付ける。
【到達目標】
（１）学校における教育相談の意義や理論、基礎的な理論や概念を理解する。
（２）教育相談の諸課題に対応できる、カウンセリングの基礎的知識と技法を理解する。
（３）専門機関等と連携しながら推進する組織的な教育相談体制を理解し、児童・生徒の発達や個々の心理的特質の理解に基づく具体的な教育相談を進めることができる。

２．授業概要

授業計画に基づき、各回の内容に応じて講義と演習（グループワークやロールプレイ等）等を、適宜、取り入れて授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキスト「生徒指導提要」の授業内容に関する該当部分を予習・復習しておくことで、理解が深まる。
・生徒指導等に関連する新聞記事等に日頃から関心をもち、目を通しておくようにすることが、児童・生徒理解を深める上で役に立つ。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（ 課題の内容 授業への関心・意欲・態度など）、試験結果を総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・文部科学省『生徒指導提要』（平成22年3月）
・その他、参考文献等については、ガイダンス時および授業時に随時、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。
・授業は、１５回全て出席する覚悟で臨むこと。

【出席に関する注意事項】
・全授業数１５回のうち１１回以上の出席者に受験資格を認める。
・始業時間を厳守する。
・遅刻３回で１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、教育相談の意義とその役割
2	学校における教育相談（カウンセリングマインドの重要性）の理解
3	児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談の進め方の理解
4	教育相談の現状と課題①　発達障害とその対応の理解
5	教育相談の現状と課題②　いじめ問題とその対応の理解
6	教育相談の現状と課題③　問題行動とその対応の理解
7	教育相談の現状と課題④　児童虐待とその対応の理解
8	教育相談の現状と課題⑤　不登校問題とその対応の理解
9	教育相談体制と専門機関（カウンセラー等）との連携に関する理解
10	教育相談の進め方①　カウンセリングの基礎知識の理解と演習
11	教育相談の進め方②　カウンセリングの技法（受容・傾聴・共感的理解等）の理解と演習
12	教育相談の進め方③　カウンセリングの技法（災害等生徒の心のケア）の理解と演習
13	教育相談の進め方④　保護者対応の留意点の理解と演習
14	教育相談の進め方⑤　キャリアカウンセリングの理解と演習
15	教育相談に関する全体的なまとめと今日的な課題の理解

科目名	教育相談の方法論　（後）［水1］Bクラス						
代表教員	石川　勉	授業コード	GK7385B0	科目コード	GK7385	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教育相談(カウンセリングの理論・技法を含む）の意義を理解し、実践力を身に付ける。
【到達目標】
（１）学校における教育相談の意義や理論、基礎的な理論や概念を理解する。
（２）教育相談の諸課題に対応できる、カウンセリングの基礎的知識と技法を理解する。
（３）専門機関等と連携しながら推進する組織的な教育相談体制を理解し、児童・生徒の発達や個々の心理的特質の理解に基づく具体的な教育相談を進めることができる。

２．授業概要

授業計画に基づき、各回の内容に応じて講義と演習（グループワークやロールプレイ等）等を、適宜、取り入れて授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキスト「生徒指導提要」の授業内容に関する該当部分を予習・復習しておくことで、理解が深まる。
・生徒指導等に関連する新聞記事等に日頃から関心をもち、目を通しておくようにすることが、児童・生徒理解を深める上で役に立つ。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（ 課題の内容 授業への関心・意欲・態度など）、試験結果を総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・文部科学省『生徒指導提要』（平成22年3月）
・その他、参考文献等については、ガイダンス時および授業時に随時、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。
・授業は、１５回全て出席する覚悟で臨むこと。

【出席に関する注意事項】
・全授業数１５回のうち１１回以上の出席者に受験資格を認める。
・始業時間を厳守する。
・遅刻３回で１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、教育相談の意義とその役割
2	学校における教育相談（カウンセリングマインドの重要性）の理解
3	児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談の進め方の理解
4	教育相談の現状と課題①　発達障害とその対応の理解
5	教育相談の現状と課題②　いじめ問題とその対応の理解
6	教育相談の現状と課題③　問題行動とその対応の理解
7	教育相談の現状と課題④　児童虐待とその対応の理解
8	教育相談の現状と課題⑤　不登校問題とその対応の理解
9	教育相談体制と専門機関（カウンセラー等）との連携に関する理解
10	教育相談の進め方①　カウンセリングの基礎知識の理解と演習
11	教育相談の進め方②　カウンセリングの技法（受容・傾聴・共感的理解等）の理解と演習
12	教育相談の進め方③　カウンセリングの技法（災害等生徒の心のケア）の理解と演習
13	教育相談の進め方④　保護者対応の留意点の理解と演習
14	教育相談の進め方⑤　キャリアカウンセリングの理解と演習
15	教育相談に関する全体的なまとめと今日的な課題の理解

科目名	教育相談の方法論　（後）［水1］Cクラス						
代表教員	野中　隆	授業コード	GK7385C0	科目コード	GK7385	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教育相談(カウンセリングの理論・技法を含む）の意義を理解し、実践力を身に付ける。
【到達目標】
（１）学校における教育相談の意義や理論、基礎的な理論や概念を理解する。
（２）教育相談の諸課題に対応できる、カウンセリングの基礎的知識と技法を理解する。
（３）専門機関等と連携しながら推進する組織的な教育相談体制を理解し、児童・生徒の発達や個々の心理的特質の理解に基づく具体的な教育相談を進めることができる。

２．授業概要

授業計画に基づき、各回の内容に応じて講義と演習（グループワークやロールプレイ等）等を、適宜、取り入れて授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキスト「生徒指導提要」の授業内容に関する該当部分を予習・復習しておくことで、理解が深まる。
・生徒指導等に関連する新聞記事等に日頃から関心をもち、目を通しておくようにすることが、児童・生徒理解を深める上で役に立つ。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（ 課題の内容 授業への関心・意欲・態度など）、試験結果を総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・文部科学省『生徒指導提要』（平成22年3月）
・その他、参考文献等については、ガイダンス時および授業時に随時、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。
・授業は、１５回全て出席する覚悟で臨むこと。

【出席に関する注意事項】
・全授業数１５回のうち１１回以上の出席者に受験資格を認める。
・始業時間を厳守する。
・遅刻３回で１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、教育相談の意義とその役割
2	学校における教育相談（カウンセリングマインドの重要性）の理解
3	児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談の進め方の理解
4	教育相談の現状と課題①　発達障害とその対応の理解
5	教育相談の現状と課題②　いじめ問題とその対応の理解
6	教育相談の現状と課題③　問題行動とその対応の理解
7	教育相談の現状と課題④　児童虐待とその対応の理解
8	教育相談の現状と課題⑤　不登校問題とその対応の理解
9	教育相談体制と専門機関（カウンセラー等）との連携に関する理解
10	教育相談の進め方①　カウンセリングの基礎知識の理解と演習
11	教育相談の進め方②　カウンセリングの技法（受容・傾聴・共感的理解等）の理解と演習
12	教育相談の進め方③　カウンセリングの技法（災害等生徒の心のケア）の理解と演習
13	教育相談の進め方④　保護者対応の留意点の理解と演習
14	教育相談の進め方⑤　キャリアカウンセリングの理解と演習
15	教育相談に関する全体的なまとめと今日的な課題の理解

科目名	教育相談の方法論　（後）［水1］Dクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7385D0	科目コード	GK7385	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教育相談(カウンセリングの理論・技法を含む）の意義を理解し、実践力を身に付ける。
【到達目標】
（１）学校における教育相談の意義や理論、基礎的な理論や概念を理解する。
（２）教育相談の諸課題に対応できる、カウンセリングの基礎的知識と技法を理解する。
（３）専門機関等と連携しながら推進する組織的な教育相談体制を理解し、児童・生徒の発達や個々の心理的特質の理解に基づく具体的な教育相談を進めることができる。

２．授業概要

授業計画に基づき、各回の内容に応じて講義と演習（グループワークやロールプレイ等）等を、適宜、取り入れて授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキスト「生徒指導提要」の授業内容に関する該当部分を予習・復習しておくことで、理解が深まる。
・生徒指導等に関連する新聞記事等に日頃から関心をもち、目を通しておくようにすることが、児童・生徒理解を深める上で役に立つ。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（ 課題の内容 授業への関心・意欲・態度など）、試験結果を総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・文部科学省『生徒指導提要』（平成22年3月）
・その他、参考文献等については、ガイダンス時および授業時に随時、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。
・授業は、１５回全て出席する覚悟で臨むこと。

【出席に関する注意事項】
・全授業数１５回のうち１１回以上の出席者に受験資格を認める。
・始業時間を厳守する。
・遅刻３回で１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、教育相談の意義とその役割
2	学校における教育相談（カウンセリングマインドの重要性）の理解
3	児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談の進め方の理解
4	教育相談の現状と課題①　発達障害とその対応の理解
5	教育相談の現状と課題②　いじめ問題とその対応の理解
6	教育相談の現状と課題③　問題行動とその対応の理解
7	教育相談の現状と課題④　児童虐待とその対応の理解
8	教育相談の現状と課題⑤　不登校問題とその対応の理解
9	教育相談体制と専門機関（カウンセラー等）との連携に関する理解
10	教育相談の進め方①　カウンセリングの基礎知識の理解と演習
11	教育相談の進め方②　カウンセリングの技法（受容・傾聴・共感的理解等）の理解と演習
12	教育相談の進め方③　カウンセリングの技法（災害等生徒の心のケア）の理解と演習
13	教育相談の進め方④　保護者対応の留意点の理解と演習
14	教育相談の進め方⑤　キャリアカウンセリングの理解と演習
15	教育相談に関する全体的なまとめと今日的な課題の理解

科目名	教育相談の方法論　（後）［水1］Eクラス						
代表教員	齋藤　孝	授業コード	GK7385E0	科目コード	GK7385	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
教育相談(カウンセリングの理論・技法を含む）の意義を理解し、実践力を身に付ける。
【到達目標】
（１）学校における教育相談の意義や理論、基礎的な理論や概念を理解する。
（２）教育相談の諸課題に対応できる、カウンセリングの基礎的知識と技法を理解する。
（３）専門機関等と連携しながら推進する組織的な教育相談体制を理解し、児童・生徒の発達や個々の心理的特質の理解に基づく具体的な教育相談を進めることができる。

２．授業概要

授業計画に基づき、各回の内容に応じて講義と演習（グループワークやロールプレイ等）等を、適宜、取り入れて授業を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・テキスト「生徒指導提要」の授業内容に関する該当部分を予習・復習しておくことで、理解が深まる。
・生徒指導等に関連する新聞記事等に日頃から関心をもち、目を通しておくようにすることが、児童・生徒理解を深める上で役に立つ。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（ 課題の内容 授業への関心・意欲・態度など）、試験結果を総合的に判断して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・文部科学省『生徒指導提要』（平成22年3月）
・その他、参考文献等については、ガイダンス時および授業時に随時、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・教職課程を履修するにふさわしい態度で授業に臨むことを求めます。
・授業は、１５回全て出席する覚悟で臨むこと。

【出席に関する注意事項】
・全授業数１５回のうち１１回以上の出席者に受験資格を認める。
・始業時間を厳守する。
・遅刻３回で１回の欠席として扱う。
・公欠については、学務部の証明書を持って認める。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、教育相談の意義とその役割
2	学校における教育相談（カウンセリングマインドの重要性）の理解
3	児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談の進め方の理解
4	教育相談の現状と課題①　発達障害とその対応の理解
5	教育相談の現状と課題②　いじめ問題とその対応の理解
6	教育相談の現状と課題③　問題行動とその対応の理解
7	教育相談の現状と課題④　児童虐待とその対応の理解
8	教育相談の現状と課題⑤　不登校問題とその対応の理解
9	教育相談体制と専門機関（カウンセラー等）との連携に関する理解
10	教育相談の進め方①　カウンセリングの基礎知識の理解と演習
11	教育相談の進め方②　カウンセリングの技法（受容・傾聴・共感的理解等）の理解と演習
12	教育相談の進め方③　カウンセリングの技法（災害等生徒の心のケア）の理解と演習
13	教育相談の進め方④　保護者対応の留意点の理解と演習
14	教育相談の進め方⑤　キャリアカウンセリングの理解と演習
15	教育相談に関する全体的なまとめと今日的な課題の理解

科目名	バンド・ワークショップ１－１　（前）［月5］Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7511A0	科目コード	GK7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を得られる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ１－１　（前）［火5］Bクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GK7511B0	科目コード	GK7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を得られる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ１－１　（前）［水5］Cクラス						
代表教員	北島　健二	授業コード	GK7511C0	科目コード	GK7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を得られる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ１－１　（前）［木5］Dクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7511D0	科目コード	GK7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を得られる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ１－１　（前）［金5］Eクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7511E0	科目コード	GK7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を得られる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ１－１　（前）［月5］Fクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7511F0	科目コード	GK7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を得られる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ１－１　（前）［火5］Gクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK7511G0	科目コード	GK7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を得られる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ１－１　（前）［木5］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7511S0	科目コード	GK7511	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を得られる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ１－１　（前）［水5］Wクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7511WO	科目コード	GK7511	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる。
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張する経験を得られる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の　７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ１－２　（後）［月5］Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7512A0	科目コード	GK7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる・
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張できるようになる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	バンド・ワークショップ１－２　（後）　[火5] Bクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GK7512B0	科目コード	GK7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる・
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張できるようになる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	バンド・ワークショップ１－２　（後）［水5］Cクラス						
代表教員	北島　健二	授業コード	GK7512C0	科目コード	GK7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる・
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張できるようになる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	バンド・ワークショップ１－２　（後）［木5］Dクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7512D0	科目コード	GK7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる・
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張できるようになる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	バンド・ワークショップ１－２　（後）　[金5] Eクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7512E0	科目コード	GK7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる・
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張できるようになる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	バンド・ワークショップ１－２　（後）［月5］Fクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7512F0	科目コード	GK7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる・
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張できるようになる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	バンド・ワークショップ１－２　（後）［火5］Gクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK7512G0	科目コード	GK7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる・
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張できるようになる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	バンド・ワークショップ１－２　（後）［木5］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7512S0	科目コード	GK7512	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バンド・アンサンブルを経験する事で、音を通じてコミュニケートできるようになる・
また、プロデューサーの要求に応えながら、許される範囲内で個性を主張できるようになる。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	バンド・ワークショップ２－１　（前）［月4］Aクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7513A0	科目コード	GK7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－１　（前）［火5］Bクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GK7513B0	科目コード	GK7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－１　（前）［水5］Cクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK7513C0	科目コード	GK7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－１　（前）［木5］Dクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7513D0	科目コード	GK7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－１　（前）［金5］Eクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GK7513E0	科目コード	GK7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－１　（前）［月4］Fクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7513F0	科目コード	GK7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－１　（前）［金4］Gクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7513G0	科目コード	GK7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－１　（前）［金5］Sクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7513S0	科目コード	GK7513	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－２　（後）［月4］Aクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7514A0	科目コード	GK7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－２　（後）［火5］Bクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GK7514B0	科目コード	GK7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－２　（後）［水5］Cクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK7514C0	科目コード	GK7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－２　（後）［木5］Dクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7514D0	科目コード	GK7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－２　（後）［金5］Eクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GK7514E0	科目コード	GK7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－２　（後）［月4］Fクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7514F0	科目コード	GK7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－２　（後）［金4］Gクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7514G0	科目コード	GK7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	バンド・ワークショップ２－２　（後）［金5］Sクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7514S0	科目コード	GK7514	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チームとしてのバンドの能力／個性／コンセプトに合わせた選曲／アレンジを行い、オリジナルも含めた制作を行う。

２．授業概要

レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［月5］Aクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7515A0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［火4］Bクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7515B0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［水5］Cクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7515C0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［木4］Dクラス						
代表教員	JAH - RAH	授業コード	GK7515D0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［金4］Eクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK7515E0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［月4］Fクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7515F0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［火4］Gクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GK7515G0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［木4］Hクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GK7515H0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［金4］Jクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7515J0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［火4］Kクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7515K0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［木4］Lクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7515L0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［木5］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7515S0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－１／２－１　（前）［金5］Wクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7515W0	科目コード	GK7515d	期間	半期
担当教員	前野　知常						
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末にはスタジオ・ライヴ試験を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［月5］Aクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7516A0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［火4］Bクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7516B0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［水5］Cクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7516C0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［木4］Dクラス						
代表教員	JAH - RAH	授業コード	GK7516D0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［金4］Eクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK7516E0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［月4］Fクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7516F0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［火4］Gクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GK7516G0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［木4］Hクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GK7516H0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［金4］Jクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7516J0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［火4］Kクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7516K0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［木4］Lクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7516L0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［木5］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7516S0	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・バンド・ワークショップ１－２／２－２　（後）［金5］Wクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7516WO	科目コード	GK7516d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

明確なプロデュース・テーマを設定し、カヴァー／オリジナル作品に限らずオリジナルアレンジを追求する。

２．授業概要

アドバンスト・レコーディング・セッションの授業と組み合わせ、客観的に成果を確認しながら進める。
期末には１年間の集大成として一般公開形式のライヴ試験「HARVEST」を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習に加え、バンドアンサンブルの自主練習を積極的に行うように

４．成績評価の方法及び基準

ライヴ・パフォーマンス（評価の７０％）
平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	レコーディング・セッション１－１　（前）［月5-6］Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7519A0	科目コード	GK7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション１－１　（前）［火5-6］Bクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GK7519B0	科目コード	GK7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション１－１　（前）［水5-6］Cクラス						
代表教員	北島　健二	授業コード	GK7519C0	科目コード	GK7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション１－１　（前）［木5-6］Dクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7519D0	科目コード	GK7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション１－１　（前）［金5-6］Eクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7519E0	科目コード	GK7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション１－１　（前）［月5-6］Fクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7519F0	科目コード	GK7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション１－１　（前）［火5-6］Gクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK7519G0	科目コード	GK7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション１－１　（前）［木5-6］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7519S0	科目コード	GK7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション１－１　（前）［水5-6］Wクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7519WO	科目コード	GK7519	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［半期］ 1-1
1	【バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム1：各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】ターム1：音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】ターム2：足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム3：バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［月5-6］Aクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7520A0	科目コード	GK7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［火5-6］Bクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GK7520B0	科目コード	GK7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［水5-6］Cクラス						
代表教員	北島　健二	授業コード	GK7520C0	科目コード	GK7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［木5-6］Dクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7520D0	科目コード	GK7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［金5-6］Eクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7520E0	科目コード	GK7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［月5-6］Fクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7520F0	科目コード	GK7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［火5-6］Gクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK7520G0	科目コード	GK7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	レコーディング・セッション１－２　（後）［木5-6］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7520S0	科目コード	GK7520	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

スタジオでのレコーディング実践を通して、スタジオ・ワーク、スタジオ・マナーを身につける。

２．授業概要

バンド・ワークショップ１―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【バンド・ワークショップ】ターム4：選曲、構成確認
2	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習1（リズムチェック）
3	【バンド・ワークショップ】ターム4：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
4	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　発展
5	【レコーディング・セッション】ターム4：レコーディングマナーの確認　仕上げ
6	【バンド・ワークショップ】ターム5：選曲、構成確認
7	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習1（リズムチェック）
8	【バンド・ワークショップ】ターム5：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
9	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　発展
10	【レコーディング・セッション】ターム5：クリック、ヘッドホンバランスの調整　仕上げ
11	【バンド・ワークショップ】ターム6：選曲、構成確認
12	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習1（リズムチェック）
13	【バンド・ワークショップ】ターム6：アンサンブル実習2（音量、音色バランスチェック）
14	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　発展
15	【レコーディング・セッション】ターム6：少ないテイクで仕上げる工夫　仕上げ

科目名	レコーディング・セッション２－１　（前）［月3-4］Aクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7521A0	科目コード	GK7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－１　（前）［火5-6］Bクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GK7521B0	科目コード	GK7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－１　（前）［水5-6］Cクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK7521C0	科目コード	GK7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－１　（前）［木5-6］Dクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7521D0	科目コード	GK7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－１　（前）［金5-6］Eクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GK7521E0	科目コード	GK7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－１　（前）［月3-4］Fクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7521F0	科目コード	GK7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２ - １　（前）［金3-4］Gクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7521G0	科目コード	GK7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－１　（前）［金5-6］Sクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7521S0	科目コード	GK7521	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2ー１との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ ２ － １
1	【バンド・ワークショップ】ターム１楽曲の構成、テンポ確認
2	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
3	【バンド・ワークショップ】音色、音量バランス確認
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム2楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にないパートのアレンジ処理
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム3楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに向けた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－２　（後）［月3-4］Aクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7522A0	科目コード	GK7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－２　（後）［火5-6］Bクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GK7522B0	科目コード	GK7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－２　（後）［水5-6］Cクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK7522C0	科目コード	GK7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－２　（後）［木5-6］Dクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7522D0	科目コード	GK7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－２　（後）［金5-6］Eクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GK7522E0	科目コード	GK7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－２　（後）［月3-4］Fクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7522F0	科目コード	GK7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－２　（後）［金3-4］Gクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7522G0	科目コード	GK7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	レコーディング・セッション２－２　（後）［金5-6］Sクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7522S0	科目コード	GK7522	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

計画的なスタジオワークを目指し、短時間で最良のテイクをレコーディングする。

２．授業概要

バンド・ワークショップ2―2との連動授業。各ターム４週目乃至５周目に２コマ連続で行う。
バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内に指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ 2-2
1	【バンド・ワークショップ】ターム4楽曲の構成、パート確認
2	【バンド・ワークショップ】足りないパート、原曲にはないパートのアレンジ処理
3	【バンド・ワークショップ】各パートの音量、音色バランスチェック
4	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　基本
5	【レコーディング・セッション】ターム1：レコーディングマナーの確認　応用
6	【バンド・ワークショップ】ターム5楽曲の構成譜の統一
7	【バンド・ワークショップ】各パートのフレーズ確認
8	【バンド・ワークショップ】クリックを使用したリズムトレーニング
9	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　基本
10	【レコーディング・セッション】ターム2：クリック及びヘッドホンバランスの確認　応用
11	【バンド・ワークショップ】ターム6楽曲の構成、テンポ、パート確認
12	【バンド・ワークショップ】バンドメンバーに合わせたオリジナルアレンジ
13	【バンド・ワークショップ】レコーディングに備えた最終チェック
14	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　基本
15	【レコーディング・セッション】ターム3：少ないテイクで仕上げる工夫　応用

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［月5-6］Aクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7523A0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［火3-4］Bクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7523B0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［水5-6］Cクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7523C0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［木3-4］Dクラス						
代表教員	JAH － RAH	授業コード	GK7523D0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［金3-4］Eクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK7523E0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［月3-4］Fクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7523F0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［火3-4］Gクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GK7523G0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［木3-4］Hクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GK7523H0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［金3-4］Jクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7523J0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［火3-4］Kクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7523K0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［木3-4］Lクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7523L0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［木5-6］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7523S0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－1／2－1 （前） ［金5-6］Wクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7523W0	科目コード	GK7523d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー１との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［前期］ 1-1
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム1：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム1：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム2：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ダイナミクス・コントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：アンサンブル実習８
13	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム3：レコーディングに備えた最終チェック
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム3：ビート感の統一、グルーヴの意識
15	スタジオ・ライヴ・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［月5-6］Aクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7524A0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［火3-4］Bクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7524B0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［水5-6］Cクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7524C0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［木3-4］Dクラス						
代表教員	JAH － RAH	授業コード	GK7524D0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［金3-4］Eクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK7524E0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［月3-4］Fクラス						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GK7524F0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［火3-4］Gクラス						
代表教員	須貝　幸生	授業コード	GK7524G0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［木3-4］Hクラス						
代表教員	小柳”Cherry”昌法	授業コード	GK7524H0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［金3-4］Jクラス						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GK7524J0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［火3-4］Kクラス						
代表教員	田中　一郎	授業コード	GK7524K0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［木3-4］Lクラス						
代表教員	葉山　たけし	授業コード	GK7524L0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［木5-6］Sクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7524S0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	アドバンスト・レコーディング・セッション1－2／2－2 （後） ［金5-6］Wクラス						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GK7524W0	科目コード	GK7524d	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間内で、いかによいプレイを残すか、を意識し、スムーズなスタジオワークを身につける。

２．授業概要

アドバンスト・バンド・ワークショップ１ー２との連動授業。各ターム３週目乃至４周目に２コマ連続で行う。
アドバンスト・バンド・ワークショップのユニット単位でスタジオに入り、プロデューサーの指導でレコーディングを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングした音源は後々まで残るものなので、練習を怠らないこと。

４．成績評価の方法及び基準

録音制作作品（評価の５０％）
平常点（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

無断欠席厳禁。やむを得ず欠席する場合は必ず代役を立て、担当講師に連絡する事。

授業計画	
	［後期］ １ － ２
1	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：楽曲の構成譜統一、テンポ確認
2	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム4：足りないパート、原曲にないパートのオリジナルアレンジ
3	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　基本
4	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム4：セッティングのスピードアップ　応用
5	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：楽曲の構成、アレンジ確認
6	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：クリックを使用したリズムトレーニング
7	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム5：バンド全体のダイナミクスコントロール
8	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　基本
9	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム5：ダイナミクスコントロール　応用
10	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：楽曲のオリジナルアレンジ
11	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：同期データを用いた演奏トレーニング
12	【アドバンスト・バンド・ワークショップ】ターム6：レコーディングに備えた最終チェック
13	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　基本
14	【アドバンスト・レコーディング・セッション】ターム6：ビート感の統一、グルーヴの意識　応用
15	年度末試験ライヴ（HARVEST）・リハーサル

科目名	Ｒ＆Ｐ・ヒストリー　[木3]						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK756000	科目コード	GK7560	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP・SC・EO・JZ・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックとポップスの歴史を辿り、偉大なアーティスト、プレイヤー達のアイデアに触れる。

２．授業概要

映像資料と音資料を用い、時代背景を織り交ぜながら解説する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

興味を持った楽曲、アーティストの作品を積極的に聞く習慣をつけることが必要。

４．成績評価の方法及び基準

期末レポート（評価の70%）
平常点（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	ロックンロール誕生前夜
2	ロックンロールの隆盛と衰退
3	ブリティッシュ・インヴェイジョン
4	ビートルズ初期
5	ビートルズ中期
6	ビートルズ後期
7	アンサー・オブ・USA（WHITE）
8	アンサー・オブ・USA（BLACK）
9	サマー・オブ・ラヴ
10	エンド・オブ・サマー
11	ブリティッシュ・ハードロック
12	シンガー・ソング・ライター
13	ニュー・ソウル
14	ファンクとレゲェ
15	プログレッシブ・ロック

授業計画	
	［後期］
1	グラム・ロック
2	キッス＆クイーン
3	７０年代ハードロック
4	アメリカン・ロック
5	AOR
6	パンク・ロック
7	ニュー・ウェイヴ
8	MTV(UK)
9	MTV(USA)
10	８０年代ハードロック
11	チャリティー・ムーヴメント
12	LIVE AID
13	オルタナティヴ
14	ヒップ・ホップ
15	ローリング・ストーンズ

科目名	ミュージック・ビジネス　[火4]						
代表教員	岡本　健志	授業コード	GK756600	科目コード	GK7566	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP・ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽・エンタテインメント業界をビジネスの視点から考察していく。
一口に音楽業界と言っても、その職種は様々で、立場も音楽への関わり方も大きく異なる。本講座を通じて商業音楽の仕組みとその中で自分に何ができるかを理解する。

２．授業概要

各種音楽業界の分野から講師を招き、「現場」を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

随時レポートを次の授業までに書き、提出する。

４．成績評価の方法及び基準

期末レポート（評価の50%）
授業への積極参加（含随時レポート）（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布。音源・映像資料をケース・スタディとして視聴。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&Pコース２年生以上。

授業計画	
	［前期］
1	エンターテイメントビジネス～ガイダンス
2	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～１～ 邦楽アーティスト発掘
3	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～２～ 洋楽レーベルの仕組み
4	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～３～ プロデュース/A&R
5	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～４～ 楽曲制作
6	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～５～ CD原盤制作
7	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～６～ DVD原盤制作/プロモーションビデオ
8	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～７～ 宣伝施策
9	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～８～ 広告宣伝
10	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～９～ タイアップ～CM、映画、テレビ
11	レコードビジネス～レコード会社の仕組み ～１０～ 営業施策
12	マネジメントビジネス～プロダクションの 仕組み～１～ アーティスト発掘
13	マネジメントビジネス～プロダクションの 仕組み～２～ ライブ
14	マネジメントビジネス～プロダクションの 仕組み～３～ マーチャンダイジング
15	マネジメントビジネス～プロダクションの 仕組み～４～ ファンクラブ

授業計画	
	［後期］
1	コンサート/興行～コンサートビジネスの仕組み ～１～ プロモーターの仕組み
2	コンサート/興行～コンサートビジネスの仕組み ～２～ チケットビジネス
3	コンサート/興行～コンサートビジネスの仕組み ～３～ コンサート制作（演出・音響・照明・舞台）
4	コンサート/興行～コンサートビジネスの仕組み ～４～ イベントビジネス
5	コンサート/興行～コンサートビジネスの仕組み ～５～ ライブハウス～会館～
6	権利ビジネス～既得権～１～ 音楽出版社
7	権利ビジネス～既得権～２～ 著作権
8	アイティー（IT）ビジネス～１～ 音楽配信
9	アイティー（IT）ビジネス～２～ ゲーム音楽
10	インディーズビジネス インディペンデントレーベルの仕組み
11	マスコミの仕組み～１～ 電波媒体
12	マスコミの仕組み～２～ 紙媒体
13	マスコミの仕組み～２～ インターネット媒体
14	マスコミの仕組み～３～ 広告代理店
15	総括 エンターテイメントビジネスの未来

科目名	ジャズハーモニーⅠ－１／ジャズハーモニー１　（前）［水4］Bクラス						
代表教員	今泉　正明	授業コード	GK7581B0	科目コード	GK7581	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	CO・JZ・SC・EO・RP・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コードの色合いや流れを理解し、その響きの特徴や機能を知り、自分の音楽作りに役立てることができるようになることを目標とする

２．授業概要

ジャズの考え方にもとづいた演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱われる内容は、ただ紙の上だけでなく、実際に聴いて感じることが何より大切です。ピアノなどで実際に弾いてみることもハーモニーの理解の大きな助けになります。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を考えることで響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０％）、平常点（課題提出）（評価の２０％）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容をじゅうぶん理解するために、メロディとコードが書かれたリードシートをピアノでゆっくり弾ける程度のスキルがあることが望ましい。
・ロック＆ポップスの学生はアカデミックプロデューサーの推薦があること。

授業計画	
	［半期］
1	ハーモニーの勉強のしかた
2	コード・ネーム、調と音階、音程の復習
3	Diatonic Harmony -- Major Scale上のコード
4	Dominant motionとII-Vの機能
5	その他のDiatonic Chordの機能
6	II V MotionとCadence（終止形）
7	Deceptive resolution
8	Tensionの表記
9	コード・タイプに固有なTensionとその選択
10	Tension voicing
11	Secondary dominants
12	Extended dominants
13	Related IIm7
14	JHI-１のまとめ
15	試験解説

科目名	ジャズハーモニーI - １／ジャズハーモニー１　（前）［月5］Cクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK7581C0	科目コード	GK7581	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	C0・JZ・SC・E0・RP・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コードの色合いや流れを理解し、その響きの特徴や機能を知り、自分の音楽作りに役立てることができるようになることを目標とする

２．授業概要

　ジャズの考え方にもとづいた演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

　授業で扱われる内容は、ただ紙の上だけでなく、実際に聴いて感じることが何より大切です。ピアノなどで実際に弾いてみることもハーモニーの理解の大きな助けになります。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を考えることで響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となります。

４．成績評価の方法及び基準

　学期末試験（評価の８０％）、平常点（課題提出）（評価の２０％）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容をじゅうぶん理解するために、メロディとコードが書かれたリードシートをピアノでゆっくり弾ける程度のスキルがあることが望ましい。
・ロック＆ポップスの学生はアカデミックプロデューサーの推薦があること。

授業計画	
	［半期］
1	ハーモニーの勉強のしかた
2	コード・ネーム、調と音階、音程の復習
3	Diatonic Harmony -- Major Scale上のコード
4	Dominant motionとII-Vの機能
5	その他のDiatonic Chordの機能
6	II V MotionとCadence（終止形）
7	Deceptive resolution
8	Tensionの表記
9	コード・タイプに固有なTensionとその選択
10	Tension voicing
11	Secondary dominants
12	Extended dominants
13	Related IIm7
14	JHI-１のまとめ
15	試験解説

科目名	ジャズハーモニーⅠ－２／ジャズハーモニー２　（後）［水4］Bクラス						
代表教員	今泉　正明	授業コード	GK7582B0	科目コード	GK7582	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	CO・JZ・SC・EO・RP・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コードの色合いや流れを理解し、その響きの特徴や機能を知り、自分の音楽作りに役立てることができるようになることを目標とする

２．授業概要

ジャズの考え方にもとづいた演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱われる内容は、ただ紙の上だけでなく、実際に聴いて感じることが何より大切です。ピアノなどで実際に弾いてみることもハーモニーの理解の大きな助けになります。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を考えることで響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となります。

４．成績評価の方法及び基準

　学期末試験（評価の８０％）、平常点（課題提出）（評価の２０％）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニー1-1／ジャズハーモニー１について習熟していることが必要です。

授業計画	
	［半期］
1	Substitute dominants（sub Ｖ７）
2	Substitute Secondary／Extended dominants
3	Diatonic Harmony -- Minor Scale上のコード
4	Diatonic Chordの機能（Minor）
5	Secondary, Extended dominant, Suv V (minor)
6	Modeについて
7	Modal Interchange Chord
8	Modal Interchangeを含むの曲のアナライズ
9	Bluesにおけるハーモニー
10	Bluesの様々なバリエーション
11	Line Cliche
12	Tensionの復習
13	Voicing
14	JHI-２のまとめ
15	試験解説

科目名	ジャズハーモニーⅠ－２／ジャズハーモニー２　（後）［月5］Cクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK7582C0	科目コード	GK7582	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	CO・JZ・SC・EO・RP・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コードの色合いや流れを理解し、その響きの特徴や機能を知り、自分の音楽作りに役立てることができるようになることを目標とする

２．授業概要

ジャズの考え方にもとづいた演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱われる内容は、ただ紙の上だけでなく、実際に聴いて感じることが何より大切です。ピアノなどで実際に弾いてみることもハーモニーの理解の大きな助けになります。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を考えることで響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となります。

４．成績評価の方法及び基準

　学期末試験（評価の８０％）、平常点（課題提出）（評価の２０％）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニー1-1／ジャズハーモニー１について習熟していることが必要です。

授業計画	
	［半期］
1	Substitute dominants（sub Ｖ７）
2	Substitute Secondary／Extended dominants
3	Diatonic Harmony -- Minor Scale上のコード
4	Diatonic Chordの機能（Minor）
5	Secondary, Extended dominant, Suv V (minor)
6	Modeについて
7	Modal Interchange Chord
8	Modal Interchangeを含むの曲のアナライズ
9	Bluesにおけるハーモニー
10	Bluesの様々なバリエーション
11	Line Cliche
12	Tensionの復習
13	Voicing
14	JHI-２のまとめ
15	試験解説

科目名	ジャズハーモニーII－１／ジャズハーモニー３　（前）［木2］Bクラス						
代表教員	今泉　正明	授業コード	GK7583B0	科目コード	GK7583	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	CO・JZ・SC・RP・EO・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ジャズハーモニーI-１・I-２／ジャズハーモニー１・２」から進展したハーモニーを理解し、コード・スケールを実践的に役立てて、メロディ（アドリブ）・ラインが作れるようになること。学習したハーモニー構造を認識できるようになること。

２．授業概要

ジャズの演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱われる内容は、ただ紙の上だけでなく、実際に聴いて感じることが何より大切です。ピアノなどで実際に弾いてみることもハーモニーの理解の大きな助けになります。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を考えることで響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０％）、平常点（課題提出）（評価の２０％）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニーI-2／ジャズハーモニー２について習熟していることが必要です。

授業計画	
	［半期］
1	JH Iの復習
2	アドリブについて
3	Chord Scaleの考え方
4	Chord Scale:Ditaonic Chords
5	Chord Scale: Secondary Dominant, Realated II
6	Chord Scale: Extended Dominant, Suv V
7	Chord Scale: Modal Interchange Chords
8	Chord Scale: Blues
9	Chord Scaleの選択とハーモニーの機能
10	Melodic Analysis:Approach note
11	Dimimished Chords～Passing Diminished
12	Dimimished Chords～Auxiliary Diminished
13	循環コード
14	JHII-１のまとめ
15	試験解説

科目名	ジャズハーモニーII－１／ジャズハーモニー３　（前）［火4］Cクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK7583C0	科目コード	GK7583	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	CO・JZ・SC・RP・EO・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ジャズハーモニーI-１・I-２／ジャズハーモニー１・２」から進展したハーモニーを理解し、コード・スケールを実践的に役立てて、メロディ（アドリブ）・ラインが作れるようになること。学習したハーモニー構造を認識できるようになること。

２．授業概要

ジャズの演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱われる内容は、ただ紙の上だけでなく、実際に聴いて感じることが何より大切です。ピアノなどで実際に弾いてみることもハーモニーの理解の大きな助けになります。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を考えることで響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０％）、平常点（課題提出）（評価の２０％）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニーI-2／ジャズハーモニー２について習熟していることが必要です。

授業計画	
	［半期］
1	JH Iの復習
2	アドリブについて
3	Chord Scaleの考え方
4	Chord Scale:Ditaonic Chords
5	Chord Scale: Secondary Dominant, Realated II
6	Chord Scale: Extended Dominant, Suv V
7	Chord Scale: Modal Interchange Chords
8	Chord Scale: Blues
9	Chord Scaleの選択とハーモニーの機能
10	Melodic Analysis:Approach note
11	Dimimished Chords～Passing Diminished
12	Dimimished Chords～Auxiliary Diminished
13	循環コード
14	JHII-１のまとめ
15	試験解説

科目名	ジャズハーモニーII－２／ジャズハーモニー４　（後）［木2］Bクラス						
代表教員	今泉　正明	授業コード	GK7584B0	科目コード	GK7584	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	CO・JZ・EO・RP・EO・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ジャズハーモニーII-１／ジャズハーモニー３」から進展したハーモニー構造について理解し、モードの基礎も含めた認識ができるようにすること。またその認識を元に自らの演奏や作編曲に役立てられるようにすること。

２．授業概要

授業計画に沿って、ジャズの演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱われる内容は、ただ紙の上だけでなく、実際に聴いて感じることが何より大切です。ピアノなどで実際に弾いてみることもハーモニーの理解の大きな助けになります。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を考えることで響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０％）、平常点（課題提出）（評価の２０％）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニーII-1／ジャズハーモニー３について習熟していることが必要です。
・web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

授業計画	
	［半期］
1	Diatonic-Modal Interchangeまでの復習
2	Keyを感じることについて
3	転調と転調出ない場合の違い
4	転調の仕方：Direct Modulation
5	転調の仕方：Pivot Modulation
6	転調の仕方：Transitional Modulation
7	転調を含む作曲
8	Key of The Moment, Multi Tonic System
9	ドミナント機能のないドミナント：復習
10	ドミナント機能のないドミナント：Contiguous Dominant他
11	Constant Structure
12	Modal Harmony概要
13	Modal Harmonyの作り方
14	JHII-２のまとめ
15	試験解説

科目名	ジャズハーモニーII－２／ジャズハーモニー４　（後）［火4］Cクラス						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	GK7584C0	科目コード	GK7584	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	C0・JZ・E0・RP・E0・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ジャズハーモニーII-１／ジャズハーモニー３」から進展したハーモニー構造について理解し、モードの基礎も含めた認識ができるようにすること。またその認識を元に自らの演奏や作編曲に役立てられるようにすること。

２．授業概要

授業計画に沿って、ジャズの演奏および作編曲にとって必要なことがらを、ハーモニーの観点から習得する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で扱われる内容は、ただ紙の上だけでなく、実際に聴いて感じることが何より大切です。ピアノなどで実際に弾いてみることもハーモニーの理解の大きな助けになります。また、この授業以外の場面で出くわしたコード進行について、ジャズ・ハーモニーで学んだ内容を考えることで響きの認識がよりはっきりしたものになるでしょう。授業以外のあらゆる場面が、ジャズ・ハーモニー修得の重要な場となります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０％）、平常点（課題提出）（評価の２０％）、授業への参加姿勢（※）
※良好であることを単位修得の条件とする。全課題提出を必須とし、試験の成績が悪い学生については、授業への参加姿勢を合否判定に考慮する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に配布する資料を用いる場合があります。web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・科目内容理解のために、ジャズハーモニーII-1／ジャズハーモニー３について習熟していることが必要です。
・web上のファイル配布については、一定期間を過ぎるとダウンロードできなくなります。またこれら資料を第三者に複製再配布することは禁じられています。

授業計画	
	［半期］
1	Diatonic-Modal Interchangeまでの復習
2	Keyを感じることについて
3	転調と転調出ない場合の違い
4	転調の仕方：Direct Modulation
5	転調の仕方：Pivot Modulation
6	転調の仕方：Transitional Modulation
7	転調を含む作曲
8	Key of The Moment, Multi Tonic System
9	ドミナント機能のないドミナント：復習
10	ドミナント機能のないドミナント：Contiguous Dominant他
11	Constant Structure
12	Modal Harmony概要
13	Modal Harmonyの作り方
14	JHII-２のまとめ
15	試験解説

科目名	Ｒ＆Ｐ・ベーシックス　（前）　[火3]						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK760800	科目コード	GK7608	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ミュージシャンとして最低限知っておくべき事柄を学ぶ。

２．授業概要

授業内容は音楽理論だけに留まらず、音楽業界の構造、音響・コンピューターの知識、ステージパフォーマンス等、多岐にわたる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

知識は実践して初めて身につくものなので、授業で得た知識を日々の行動の中で確認するように。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の70%）
平常点（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&Pコースの学生は１年次に履修する事
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・セオリー」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス、レベルチェックテスト
2	機材取り扱いのルール１（楽器、アンプ等）
3	機材取り扱いのルール２（マイク、ケーブル等）
4	記譜のルール
5	構成譜の書き方
6	レコーディング・マナー
7	音楽に関わる仕事1（レコーディング）
8	音楽に関わる仕事２（コンサート）
9	ターム1レコーディング試聴会
10	音楽業界分析
11	音の構造・性質
12	デジタルとアナログ
13	コンピューターと音楽の関わり
14	ステージ・パフォーマンス
15	前期総括及び試験

科目名	Ｒ＆Ｐ・セオリー　（後）　[火3]						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK760900	科目コード	GK7609	期間	後期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「R&Pベーシックス」を履修中または単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コードを中心とした、基礎的な音楽理論を学ぶ

２．授業概要

メロディーからどのようにコード進行を作って行くか、あるいはコード進行からどのようにメロディーを作って行くかの、というロックやポップスに必要な基礎知識とテクニック

３．授業時間外の学習（予習復習について）

バンドワークショップや自身の音楽活動で出逢う楽曲に当てはめて考えてみる事

４．成績評価の方法及び基準

期末試験：６０％
平常点：４０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レジュメを配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出来る限り１年次に履修する事
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ベーシックス」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	ダイアトニック・スケール
2	コードの仕組み
3	ダイアトニック・コード
4	コードの機能
5	コード・プログレッション
6	ノン・ダイアトニック・コード
7	調関係
8	テンション・ノート
9	オルタード・コード
10	分数コード
11	アナライズ1（カノン形式）
12	アナライズ2（王道形式他）
13	チャーチ・モード、ペンタトニック・スケール
14	ブルース・スタイル
15	後期総括及び試験

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ　（前）［木4］Aクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK7610A0	科目コード	GK7610	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス・クラス分け試験
2	8ビートの聞き取り1（クラップリズム）
3	8ビートの聞き取り1（フレーズリズム）
4	16ビートの聞き取り1（クラップリズム）
5	16ビートの聞き取り2（フレーズリズム）
6	8ビートバウンス（シャッフル）の聞き取り
7	16ビートバウンス（ハーフタイムシャッフル）の聞き取り
8	ポリリズム
9	ドラムの聞き取り、採譜1（8ビート）
10	ドラムの聞き取り、採譜2（16ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜3（8ビートバウンス）
12	ドラムの聞き取り、採譜4（16ビートバウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	前期総括と試験

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ　（前）［木4］Bクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7610B0	科目コード	GK7610	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	クラス分け試験
2	8ビートの聞き取り1（クラップリズム）
3	8ビートの聞き取り2（フレーズリズム）
4	16ビートの聞き取り1（クラップリズム）
5	16ビートの聞き取り2（フレーズリズム）
6	8ビートバウンス（シャッフル）の聞き取り
7	16ビートバウンス（ハーフタイムシャッフル）の聞き取り
8	ポリリズム
9	ドラムの聞き取り、採譜1（8ビート）
10	ドラムの聞き取り、採譜2（16ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜3（8ビートバウンス）
12	ドラムの聞き取り、採譜4（16ビートバウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	前期総括と試験

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ　（後）　［木4］Aクラス						
代表教員	川村　ケン	授業コード	GK7611A0	科目コード	GK7611	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「R&P・ソルフェージュⅠ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただロずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&PソルフェージュⅠを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	8ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
4	16ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
5	バウンスビートのメロディー（ダイアトニック）
6	ペンタトニックの聞き取り
7	ノン・ダイアトニック・ノートの聞き取り
8	チャーチモードのメロディー
9	ブルーノート
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと採譜
11	２声ハーモニーの聞き取り
12	３声ハーモニーの聞き取り
13	メロディーコピー演習
14	メロディー譜作成演習
15	後期総括と試験

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ　（後）　[木4] Bクラス						
代表教員	前野　知常	授業コード	GK7611B0	科目コード	GK7611	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「R&P・ソルフェージュⅠ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただロずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&Pソルフェージュ Ｉを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュ Ｉ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	8ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
4	16ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
5	バウンスビートのメロディー（ダイアトニック）
6	ペンタトニックの聞き取り
7	ノン・ダイアトニック・ノートの聞き取り
8	チャーチモードのメロディー
9	ブルーノート
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと採譜
11	２声ハーモニーの聞き取り
12	３声ハーモニーの聞き取り
13	メロディーコピー演習
14	メロディー譜作成演習
15	後期総括と試験

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅢ　（前）　[火3] Aクラス						
代表教員	高橋　利光	授業コード	GK7612A0	科目コード	GK7612	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックやポップスを作る上で必要不可欠な「コード」を聞き取るために必要な知識を身につけ、作曲やアレンジに応用できるスキルを身につける

２．授業概要

「コード」を中心に耳を鍛える。
和音を聞き分けるのはもちろん、どのようなリズムかも捉え、記譜できるようにする。
また、ノンダイアトニックコードやテンションコード、転調も聞き取れるスキルを身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、コードの響きを体感する癖をつける。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けはR&P・ソルフェージュⅡの期末試験の結果により決定する。

授業計画	
	［前期］
1	レベルチェックテストと解説
2	ダイアトニック・コード（トライアド）
3	ダイアトニック・コード（4声体）
4	コードの展開形
5	コード進行と機能
6	代理コード
7	ノンダイアトニックコード
8	オルタード・コード
9	分数コード
10	テンションノート
11	転調のパターン
12	２声ハーモニーの聞き取り
13	３声ハーモニーの聞き取り
14	楽曲聞き取り実習
15	前期総括と試験

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅢ　（前）　[火3] Bクラス						
代表教員	西平　彰	授業コード	GK7612B0	科目コード	GK7612	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックやポップスを作る上で必要不可欠な「コード」を聞き取るために必要な知識を身につけ、作曲やアレンジに応用できるスキルを身につける

２．授業概要

「コード」を中心に耳を鍛える。
和音を聞き分けるのはもちろん、どのようなリズムかも捉え、記譜できるようにする。
また、ノンダイアトニックコードやテンションコード、転調も聞き取れるスキルを身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、コードの響きを体感する癖をつける。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けはR&P・ソルフェージュⅡの期末試験の結果により決定する。

授業計画	
	［前期］
1	レベルチェックテストと解説
2	ダイアトニック・コード（トライアド）
3	ダイアトニック・コード（4声体）
4	コードの展開形
5	コード進行と機能
6	代理コード
7	ノンダイアトニックコード
8	オルタード・コード
9	分数コード
10	テンションノート
11	転調のパターン
12	２声ハーモニーの聞き取り
13	３声ハーモニーの聞き取り
14	楽曲聞き取り実習
15	前期総括と試験

科目名	芸術史　[火5]						
代表教員	瀧本　みわ	授業コード	GK770000	科目コード	GK7700	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から20世紀に至る西洋美術史の流れを概観し、時代や地域によって異なる特徴を持つ美術の表現形式（様式）や、作品それぞれが持つ主題（図像）について、理解を深める。そして、各時代を象徴する美術作品の造形的表現の特質を考察するとともに、作品が制作された歴史的・思想的背景を検討することで、その美術史的意義を読み解く。美術作品を鑑賞するための知識を養い、その魅力を存分に味わうことを通して、音楽を志す学生自身の豊かな表現力への探求となることを目指す。

２．授業概要

スライドやプリントを用いながら、西洋美術史の基礎知識を学び、各時代の重要作品を例示しながら、概説を行う。時代や地域によって異なる多様な美術表現を、美術史的観点から読み解く力を身につける。学期末レポートでは、授業で学んだ美術史の知識や鑑賞方法をもとに、与えられたテーマや作品について、自らが見て感じたことを出発点に、その問題点を提起し、分析するという西洋美術史の根幹を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業後の復習（１時間以上）を怠らないこと。授業の進展とともに、西洋美術史の大まかな流れを掴み、基本を押さえること。また、展覧会情報を随時伝えるので、できるだけ美術館に足を運んで実際の作品に触れ、美術鑑賞に親しむこと。

４．成績評価の方法及び基準

復習テスト（毎授業）、小レポート（各学期１回予定）及び平常点［50%］と、学期末試験レポート[50%]で総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回プリント資料を配布する。
参考文献：『カラー版西洋美術史』増補新装、美術出版社、高階秀爾監修、2002年。『世界美術大全集』西洋編全28巻、小学館、1992-97年。
そのほか、授業時に適宜紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回の授業への出席は必須です。授業中はノートをとり、学んだことを復習する習慣をつけましょう。各自が自身の表現の糧になるように美術に関心を持ち、授業で取り上げる作品と向きあって下さい。

授業計画	
	［前期］ 前期は、先史時代から中世美術までを扱う。
1	ガイダンス・先史美術
2	エーゲ文明の美術
3	ギリシア美術Ⅰ（幾何学様式とアルカイック）
4	ギリシア美術Ⅱ（クラシック）
5	ギリシア美術III（ヘレニスム）
6	エトルリア美術・ローマ美術Ⅰ（建築）
7	ローマ美術Ⅱ（彫刻）
8	ローマ美術III（絵画）
9	初期キリスト教美術
10	ビザンティン美術
11	初期中世美術
12	ロマネスク美術I（建築・彫刻）
13	ロマネスク美術II（絵画）
14	ゴシック美術Ⅰ（建築・彫刻）
15	ゴシック美術Ⅱ（絵画）

授業計画	
	［後期］ 後期は、ルネサンスから近代、２０世紀に至るまでの美術史の流れを概説する。
1	ルネサンス美術I（プロト・ルネサンス）
2	ルネサンス美術Ⅱ（初期ルネサンス）
3	ルネサンス美術III（盛期ルネサンス）
4	北方ルネサンス美術
5	マニエリスム美術
6	バロック美術I（イタリア、スペイン、フランス）
7	バロック美術II（オランダ）
8	ロココ美術
9	近代美術Ⅰ（新古典主義とロマン主義）
10	近代美術II（写実主義・印象派I）
11	近代美術Ⅲ（印象派II・後期印象派・新印象派）
12	近代美術Ⅳ（象徴主義と世紀末美術）
13	２０世紀の美術I（フォービスムと表現主義）
14	２０世紀の美術Ⅱ（未来派・キュビスム・抽象主義）
15	２０世紀の美術Ⅲ（ダダイスムとシュルレアリスム、現代美術へ）

科目名	法学（日本国憲法）　（前）［水1］P1クラス						
代表教員	伊東　明子	授業コード	GK7702P1	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０％）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か−基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権−教育を受ける権利と義務教育
11	参政権−日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

科目名	法学（日本国憲法）　（前）［水1］P2クラス						
代表教員	大久保　悠貴	授業コード	GK7702P2	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０％）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か−基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権−教育を受ける権利と義務教育
11	参政権−日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

科目名	法学（日本国憲法）　（後）［水1］Q1クラス						
代表教員	伊東　明子	授業コード	GK7702Q1	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０％）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か−基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権−教育を受ける権利と義務教育
11	参政権−日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

科目名	法学（日本国憲法）　（後）［水1］Q2クラス						
代表教員	大久保　悠貴	授業コード	GK7702Q2	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
　社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

　授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
　はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０％）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か−基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権−教育を受ける権利と義務教育
11	参政権−日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

科目名	法学（日本国憲法）　（後）［水1］Q3クラス						
代表教員	田上　雄大	授業コード	GK7702Q3	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０％）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か–基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権–教育を受ける権利と義務教育
11	参政権–日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

科目名	社会福祉論　（前）［木1］Pクラス						
代表教員	高橋　幸裕	授業コード	GK7706P0	科目コード	GK7706	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

（主題）

福祉と言っても様々な領域に分かれています。生活保護、児童福祉、身体障害者福祉、高齢者福祉、母子福祉、知的障害福祉等といったものがあります。また福祉は我々の生活に密接した制度であり、なくてはならないものです。福祉は我々がより豊かな社会に生きるために必要な制度であることを知るだけでなく、実際にそれを必要とする人たちのためにどのように活用してようにしていくのかが大切です。福祉制度を知ることで社会問題に対するかかわり方に発見があるかもしれません。

（到達目標）

本講義は福祉制度の概要を説明しながら、制度の持つ特徴や意味を考えていくことができるようになってもらうことを目標とします。同時に本講義で説明したことは自分の言葉で説明できるようになることを目指します。もちろん、様々な方法で地域や福祉施設等でのボランティア（福祉活動）を行いたいと考える学生はこの講義を履修することでより多くの視野が得られると思われるので、積極的に受講してもらいたいと思います。

２．授業概要

この科目は講義形式で行います。講義では、社会福祉が歩んできた歴史だけでなく、その中で作り上げられてきた社会福祉の考え方（原理、理念、思想）、様々な制度（生活保護、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、知的障害者福祉等）や法体系のあり方、社会福祉専門職に関する制度や福祉職従事者による援助をするための技術を学ぶだけでなく、海外（北欧、アジア等）の社会福祉に関する制度や考え方等について説明します。併せて社会福祉に関連する時事問題についても解説できるようにしていきたいと考えます。尚、テキストに記載されている法令等が改正されていたりすることもありますので、その場合は現行の制度に即して資料を配布したりしながら講義を行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

興味関心を持った社会福祉に関する本を読んでみるだけでなく、新聞の記事やニュース、インターネットで関連することを調べたりしてみてください。講義後は、その日に学んだ内容を振り返ったりしてください。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の100%）を行います。試験方法は論述形式で行います。問題数は1問～2問を予定しています。暗記を必要とする内容については出題しません。自分の言葉で解答が論理的に説明できているかを評価します。詳細は第1回目の講義の際に説明をしますので、履修を考えている方は必ず出席してください。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（テキスト）

基礎からの社会福祉編集委員会編「シリーズ・基礎からの社会福祉①社会福祉概論[第2版]」ミネルヴァ書房、2009年

（レジュメ）

講義内容の要点をまとめたレジュメや関連する資料を配布します。

（参考文献）

必要に応じて適宜紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①この科目を履修するにあたっての条件は特にありません。

②講義は一方的なものにならないようにするため、受講者に質問をしたり、意見を聞いたりすることをしたいと思います。講義内容については福祉について初めて学ぶ受講生であることを念頭に置いていますので、質問に対して間違ったりしても問題ありません。自分の考えを発表する、疑問に感じたことを考えるということをしてもらいたいと考えています。従って、分からないことをそのままにしないということが大切ですので講義に対して積極的に参加してもらうことを希望します。

③講義中に内容が分からなかったりした場合や疑問がある場合は、その場で質問をするか、講義前後にしていただければと思います。

④定期試験を受験するにあたっては、出席状況が大学の定める基準に達していることが条件となります。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション：講義の進め方、成績評価の方法、その他講義を行うにあたっての諸注意について説明を行う。
2	私たちのくらしと社会福祉：身近にある生活問題について社会福祉の視点から問題解決をするために考える。
3	社会福祉サービス・制度の枠組み、日本と海外における社会福祉制度：社会福祉サービスと制度の枠組みについて学ぶ。日本・海外の社会福祉制度が発展してきた経緯について学ぶ。（日本とイギリス）
4	社会福祉のあゆみ：日本・海外の社会福祉制度が発展してきた経緯について学ぶ。（アメリカ）
5	社会福祉の思想：社会福祉の原理・理念について学ぶ。人権、思想、新しい福祉の理念を中心に説明する。
6	社会福祉の仕組み：社会福祉の法や制度の意義と体系とはどのようなものなのかを知る。
7	社会福祉の行財政、社会福祉専門職とその使命：社会福祉行財政の仕組みを理解する。また社会福祉には専門職が養成されている。どのような役割があるのかを考える。
8	社会福祉専門職の専門性と倫理：社会福祉専門職の専門性とはどのようなものなのか。専門性を規定する倫理とは一体どのようなものなのかを学ぶ。
9	社会福祉の援助と専門技術：社会福祉援助の意義を考える。また社会福祉援助の価値と原理についても学ぶ。
10	社会福祉援助技術の内容、社会福祉の実践期間・施設・社会資源：社会福祉専門職は問題を抱えている人たちにどう関わるのか。求めるニーズごとに整備された機関・施設・社会資源とは何か。
11	社会福祉の実践期間・施設・社会資源②、世界の社会福祉の動向①：第10回の講義の続きから開設する。世界の社会福祉の動向について解説する。
12	世界の社会福祉の動向②：ここでは第11回の講義で取り上げたイギリスを振り返りつつ、アメリカの社会福祉に関する動向について解説する。
13	世界の社会福祉の動向③：北欧について取り上げる。スウェーデン、デンマーク、ノルウェーについて紹介する。どんな違いがあるのかを考える。
14	世界の社会福祉の動向④：アジアの社会福祉の発展と動向を押さえつつ、フィリピン、韓国の社会福祉に関する動向について解説する。東アジアの国でどのような違いがあるのかを考える。
15	これからの社会福祉：本講義のまとめとして、社会福祉の現状と社会福祉政策について考える。

科目名	社会福祉論　（後）［木1］Qクラス						
代表教員	高橋　幸裕	授業コード	GK7706Q0	科目コード	GK7706	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

（主題）

福祉と言っても様々な領域に分かれています。生活保護、児童福祉、身体障害者福祉、高齢者福祉、母子福祉、知的障害福祉等といったものがあります。また福祉は我々の生活に密接した制度であり、なくてはならないものです。福祉は我々がより豊かな社会に生きるために必要な制度であることを知るだけでなく、実際にそれを必要とする人たちのためにどのように活用してようにしていくのかが大切です。福祉制度を知ることで社会問題に対するかかわり方に発見があるかもしれません。

（到達目標）

本講義は福祉制度の概要を説明しながら、制度の持つ特徴や意味を考えていくことができるようになってもらうことを目標とします。同時に本講義で説明したことは自分の言葉で説明できるようになることを目指します。もちろん、様々な方法で地域や福祉施設等でのボランティア（福祉活動）を行いたいと考える学生はこの講義を履修することでより多くの視野が得られると思われるので、積極的に受講してもらいたいと思います。

2．授業概要

この科目は講義形式で行います。講義では、社会福祉が歩んできた歴史だけでなく、その中で作り上げられてきた社会福祉の考え方（原理、理念、思想）、様々な制度（生活保護、児童福祉、障害者福祉、高齢者福祉、知的障害者福祉等）や法体系のあり方、社会福祉専門職に関する制度や福祉職従事者による援助をするための技術を学ぶだけでなく、海外（北欧、アジア等）の社会福祉に関する制度や考え方等について説明します。併せて社会福祉に関連する時事問題についても解説できるようにしていきたいと考えます。尚、テキストに記載されている法令等が改正されていたりすることもありますので、その場合は現行の制度に即して資料を配布したりしながら講義を行います。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

興味関心を持った社会福祉に関する本を読んでみるだけでなく、新聞の記事やニュース、インターネットで関連することを調べたりしてみてください。講義後は、その日に学んだ内容を振り返ったりしてください。

4．成績評価の方法及び基準

定期試験（評価の100%）を行います。試験方法は論述形式で行います。問題数は1問～2問を予定しています。暗記を必要とする内容については出題しません。自分の言葉で解答が論理的に説明できているかを評価します。詳細は第1回目の講義の際に説明をしますので、履修を考えている方は必ず出席してください。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

（テキスト）

基礎からの社会福祉編集委員会編「シリーズ・基礎からの社会福祉①社会福祉概論[第2版]」ミネルヴァ書房、2009年

（レジュメ）

講義内容の要点をまとめたレジュメや関連する資料を配布します。

（参考文献）

必要に応じて適宜紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①この科目を履修するにあたっての条件は特にありません。

②講義は一方的なものにならないようにするため、受講者に質問をしたり、意見を聞いたりすることをしたいと思います。講義内容については福祉について初めて学ぶ受講生であることを念頭に置いていますので、質問に対して間違ったりしても問題ありません。自分の考えを発表する、疑問に感じたことを考えるということをしてもらいたいと考えています。従って、分からないことをそのままにしないということが大切ですので講義に対して積極的に参加してもらうことを希望します。

③講義中に内容が分からなかったりした場合や疑問がある場合は、その場で質問をするか、講義前後にしていただければと思います。

④定期試験を受験するにあたっては、出席状況が大学の定める基準に達していることが条件となります。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション：講義の進め方、成績評価の方法、その他講義を行うにあたっての諸注意について説明を行う。
2	私たちのくらしと社会福祉：身近にある生活問題について社会福祉の視点から問題解決をするために考える。
3	社会福祉サービス・制度の枠組み、日本と海外における社会福祉制度：社会福祉サービスと制度の枠組みについて学ぶ。日本・海外の社会福祉制度が発展してきた経緯について学ぶ。（日本とイギリス）
4	社会福祉のあゆみ：日本・海外の社会福祉制度が発展してきた経緯について学ぶ。（アメリカ）
5	社会福祉の思想：社会福祉の原理・理念について学ぶ。人権、思想、新しい福祉の理念を中心に説明する。
6	社会福祉の仕組み：社会福祉の法や制度の意義と体系とはどのようなものなのかを知る。
7	社会福祉の行財政、社会福祉専門職とその使命：社会福祉行財政の仕組みを理解する。また社会福祉には専門職が養成されている。どのような役割があるのかを考える。
8	社会福祉専門職の専門性と倫理：社会福祉専門職の専門性とはどのようなものなのか。専門性を規定する倫理とは一体どのようなものなのかを学ぶ。
9	社会福祉の援助と専門技術：社会福祉援助の意義を考える。また社会福祉援助の価値と原理についても学ぶ。
10	社会福祉援助技術の内容、社会福祉の実践期間・施設・社会資源：社会福祉専門職は問題を抱えている人たちにどう関わるのか。求めるニーズごとに整備された機関・施設・社会資源とは何か。
11	社会福祉の実践期間・施設・社会資源②、世界の社会福祉の動向①：第10回の講義の続きから開設する。世界の社会福祉の動向について解説する。
12	世界の社会福祉の動向②：ここでは第11回の講義で取り上げたイギリスを振り返りつつ、アメリカの社会福祉に関する動向について解説する。
13	世界の社会福祉の動向③：北欧について取り上げる。スウェーデン、デンマーク、ノルウェーについて紹介する。どんな違いがあるのかを考える。
14	世界の社会福祉の動向④：アジアの社会福祉の発展と動向を押さえつつ、フィリピン、韓国の社会福祉に関する動向について解説する。東アジアの国でどのような違いがあるのかを考える。
15	これからの社会福祉：本講義のまとめとして、社会福祉の現状と社会福祉政策について考える。

科目名	ビジネス講座（秘書検定対策）　（前）［金3］P1クラス						
代表教員	稲又　可奈	授業コード	GK7707P1	科目コード	GK7707	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・秘書検定の内容を使い、日常生活や実社会で必要とされるマナーや一般知識を学ぶ。
・慶弔、交際業務などの改まった場面で使うマナーだけではなく、話し方や聞き方、電話のかけ方など“実学としてのマナー”も学ぶ。
・「分かる」から「出来る」ようになることを最重点の到達目標とする。

「秘書検定２級」（試験は６月・１１月・２月の３回）の受験対策も行います。希望者は準１級（筆記試験合格後に面接試験あり）に挑戦することもできます。この資格はビジネスマナーを学んだという客観的証明にもなり、就職活動やインターンシップ、実習の現場だけにとどまらず、自信を持って社会に出るための手助けとなります。

２．授業概要

あなたは舞台上の立ち居振る舞いに自信がありますか。
高い評価を得る表現者の「あり方」にはどんな要素が必要だと思いますか。
　この講座のベースとなる秘書検定の内容は、ビジネスの場で求められる「あり方」を学ぶことからスタートし、ビジネスシーンにおける「こんなときどうする」のスタンダードを学ぶことができます。
ビジネスの場は立場や考えの異なる人とチームで協力し合い、成果を出すことが求められます。独りよがりでは成り立ちません。舞台での活動と共通していると思いませんか。実は学校生活にも有機的に結び付いてすぐに活用できることばかりなのです。
また、“秘書を目指す”ことだけにとらわれず、社会人として必要なマナーを実践的なロールプレイングにより習得していきます。
実践では出来栄えだけでなく、アドバイスを前向きに受け止めて積極的にチャレンジする姿勢を重視します。

検定対策では試験問題の演習を重点的に行い、最短距離での合格にアプローチしていきます。試験問題に向き合い、取り組むことでさらに深い学習効果を実感できます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

検定受験者は実問題や授業内で配布する検定対策プリントを繰り返し取り組むことが必要です。
マナーを「出来る」レベルに到達させるには日常の行動マネジメントが重要です。授業での気付きや今後どう活かすかをコメントペーパーで教員とやりとりしながら、意識的にマナーを取り入れた日常生活を目指してもらいます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・態度（平常点）：評価50%
コメントペーパー・グループワークへの取り組み：評価30%
学期末試験：評価20%（検定受験者はその結果も考慮する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「秘書検定クイックマスター２級」（早稲田教育出版）※授業開始日には必ず持参すること
「秘書検定２級実問題集」「秘書検定準１級実問題集」（早稲田教育出版　2019年度版）※秘書検定受験希望者

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎します。講座中はビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求めます。遅刻や欠席の扱いを含め、具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明します。
履修希望者が多い場合は人数制限をする場合があります。初回講義は必ず出席すること。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション ・身近なマナー活用術 ・ビジネスの場面におけるあなたのタイプを診断 ・秘書検定問題で現在のレベルをチェック
2	仕事に取り組む基本姿勢や職業人としての自覚・心構えを学ぶ 秘書検定の概要説明 実践すぐに使えるビジネスマナー ・第一印象アップトレーニング
3	求められる人柄と身だしなみ 実践すぐに使えるビジネスマナー ・一歩リードできる自己紹介
4	実践すぐに使えるビジネスマナー ・自己紹介の復習 ・メールの基本を知る ・電話応対①基本
5	実践すぐに使えるビジネスマナー ・ビジネスや目上の人とのメール実践知識 ・電話応対②応用
6	間違いやすい敬語・接遇用語 実践すぐに使えるビジネスマナー ・座り姿勢と立ち姿勢 ・美しいおじぎの仕方
7	来客接遇　受付・席次・湯茶の入れ方・見送りの基本 実践すぐに使えるビジネスマナー ・アイコンタクトの必要性 ・立ち居振る舞い
8	お祝いやお悔みのマナー 実践すぐに使えるビジネスマナー ・好印象のあいさつとは ・状況に応じた対応
9	贈り物のマナー 実践すぐに使えるビジネスマナー ・接遇用語の「とっさのひとこと」
10	総合ロールプレイング① ～あいさつ・立ち居振る舞い～
11	総合ロールプレイング② ～接客・ビジネスの場面を想定する～
12	総合ロールプレイング③ ～状況に応じた対応を身に付ける～
13	総合ロールプレイング④まとめ ～日常生活で活かすために～
14	筆記試験① 総まとめ
15	筆記試験② 今後の展望と総まとめ

科目名	ビジネス講座（秘書検定対策）　（後）［金2］Q1クラス						
代表教員	稲又　可奈	授業コード	GK7707Q1	科目コード	GK7707	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・秘書検定の内容を使い、日常生活や実社会で必要とされるマナーや一般知識を学ぶ。
・慶弔、交際業務などの改まった場面で使うマナーだけではなく、話し方や聞き方、電話のかけ方など“実学としてのマナー”も学ぶ。
・「分かる」から「出来る」ようになることを最重点の到達目標とする。

「秘書検定２級」（試験は６月・１１月・２月の３回）の受験対策も行います。希望者は準１級（筆記試験合格後に面接試験あり）に挑戦することもできます。この資格はビジネスマナーを学んだという客観的証明にもなり、就職活動やインターンシップ、実習の現場だけにとどまらず、自信を持って社会に出るための手助けとなります。

２．授業概要

あなたは舞台上の立ち居振る舞いに自信がありますか。
高い評価を得る表現者の「あり方」にはどんな要素が必要だと思いますか。
　この講座のベースとなる秘書検定の内容は、ビジネスの場で求められる「あり方」を学ぶことからスタートし、ビジネスシーンにおける「こんなときどうする」のスタンダードを学ぶことができます。
ビジネスの場は立場や考えの異なる人とチームで協力し合い、成果を出すことが求められます。独りよがりでは成り立ちません。舞台での活動と共通していると思いませんか。実は学校生活にも有機的に結び付いてすぐに活用できることばかりなのです。
また、“秘書を目指す”ことだけにとらわれず、社会人として必要なマナーを実践的なロールプレイングにより習得していきます。
実践では出来栄えだけでなく、アドバイスを前向きに受け止めて積極的にチャレンジする姿勢を重視します。

検定対策では試験問題の演習を重点的に行い、最短距離での合格にアプローチしていきます。試験問題に向き合い、取り組むことでさらに深い学習効果を実感できます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

検定受験者は実問題や授業内で配布する検定対策プリントを繰り返し取り組むことが必要です。
マナーを「出来る」レベルに到達させるには日常の行動マネジメントが重要です。授業での気付きや今後どう活かすかをコメントペーパーで教員とやりとりしながら、意識的にマナーを取り入れた日常生活を目指してもらいます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・態度（平常点）：評価50%
コメントペーパー・グループワークへの取り組み：評価30%
学期末試験：評価20%（検定受験者はその結果も考慮する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「秘書検定クイックマスター２級」（早稲田教育出版）※授業開始日には必ず持参すること
「秘書検定２級実問題集」「秘書検定準１級実問題集」（早稲田教育出版　2019年度版）※秘書検定受験希望者

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎します。講座中はビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求めます。遅刻や欠席の扱いを含め、具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明します。
履修希望者が多い場合は人数制限をする場合があります。初回講義は必ず出席すること。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション ・身近なマナー活用術 ・ビジネスの場面におけるあなたのタイプを診断 ・秘書検定問題で現在のレベルをチェック
2	仕事に取り組む基本姿勢や職業人としての自覚・心構えを学ぶ 秘書検定の概要説明 実践すぐに使えるビジネスマナー ・第一印象アップトレーニング
3	求められる人柄と身だしなみ 実践すぐに使えるビジネスマナー ・一歩リードできる自己紹介
4	実践すぐに使えるビジネスマナー ・自己紹介の復習 ・メールの基本を知る ・電話応対①基本
5	実践すぐに使えるビジネスマナー ・ビジネスや目上の人とのメール実践知識 ・電話応対②応用
6	間違いやすい敬語・接遇用語 実践すぐに使えるビジネスマナー ・座り姿勢と立ち姿勢 ・美しいおじぎの仕方
7	来客接遇　受付・席次・湯茶の入れ方・見送りの基本 実践すぐに使えるビジネスマナー ・アイコンタクトの必要性 ・立ち居振る舞い
8	お祝いやお悔みのマナー 実践すぐに使えるビジネスマナー ・好印象のあいさつとは ・状況に応じた対応
9	贈り物のマナー 実践すぐに使えるビジネスマナー ・接遇用語の「とっさのひとこと」
10	総合ロールプレイング① ～あいさつ・立ち居振る舞い～
11	総合ロールプレイング② ～接客・ビジネスの場面を想定する～
12	総合ロールプレイング③ ～状況に応じた対応を身に付ける～
13	総合ロールプレイング④まとめ ～日常生活で活かすために～
14	筆記試験① 総まとめ
15	筆記試験② 今後の展望と総まとめ

科目名	ビジネス講座（秘書検定対策）　（後）［金3］Q2クラス						
代表教員	稲又　可奈	授業コード	GK7707Q2	科目コード	GK7707	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・秘書検定の内容を使い、日常生活や実社会で必要とされるマナーや一般知識を学ぶ。
・慶弔、交際業務などの改まった場面で使うマナーだけではなく、話し方や聞き方、電話のかけ方など“実学としてのマナー”も学ぶ。
・「分かる」から「出来る」ようになることを最重点の到達目標とする。

「秘書検定２級」（試験は６月・１１月・２月の３回）の受験対策も行います。希望者は準１級（筆記試験合格後に面接試験あり）に挑戦することもできます。この資格はビジネスマナーを学んだという客観的証明にもなり、就職活動やインターンシップ、実習の現場だけにとどまらず、自信を持って社会に出るための手助けとなります。

２．授業概要

あなたは舞台上の立ち居振る舞いに自信がありますか。
高い評価を得る表現者の「あり方」にはどんな要素が必要だと思いますか。
　この講座のベースとなる秘書検定の内容は、ビジネスの場で求められる「あり方」を学ぶことからスタートし、ビジネスシーンにおける「こんなときどうする」のスタンダードを学ぶことができます。
ビジネスの場は立場や考えの異なる人とチームで協力し合い、成果を出すことが求められます。独りよがりでは成り立ちません。舞台での活動と共通していると思いませんか。実は学校生活にも有機的に結び付いてすぐに活用できることばかりなのです。
また、“秘書を目指す”ことだけにとらわれず、社会人として必要なマナーを実践的なロールプレイングにより習得していきます。
実践では出来栄えだけでなく、アドバイスを前向きに受け止めて積極的にチャレンジする姿勢を重視します。

検定対策では試験問題の演習を重点的に行い、最短距離での合格にアプローチしていきます。試験問題に向き合い、取り組むことでさらに深い学習効果を実感できます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

検定受験者は実問題や授業内で配布する検定対策プリントを繰り返し取り組むことが必要です。
マナーを「出来る」レベルに到達させるには日常の行動マネジメントが重要です。授業での気付きや今後どう活かすかをコメントペーパーで教員とやりとりしながら、意識的にマナーを取り入れた日常生活を目指してもらいます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・態度（平常点）：評価50%
コメントペーパー・グループワークへの取り組み：評価30%
学期末試験：評価20%（検定受験者はその結果も考慮する）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「秘書検定クイックマスター２級」（早稲田教育出版）※授業開始日には必ず持参すること
「秘書検定２級実問題集」「秘書検定準１級実問題集」（早稲田教育出版　2019年度版）※秘書検定受験希望者

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

　自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎します。講座中はビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求めます。遅刻や欠席の扱いを含め、具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明します。
履修希望者が多い場合は人数制限をする場合があります。初回講義は必ず出席すること。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション ・身近なマナー活用術 ・ビジネスの場面におけるあなたのタイプを診断 ・秘書検定問題で現在のレベルをチェック
2	仕事に取り組む基本姿勢や職業人としての自覚・心構えを学ぶ 秘書検定の概要説明 実践すぐに使えるビジネスマナー ・第一印象アップトレーニング
3	求められる人柄と身だしなみ 実践すぐに使えるビジネスマナー ・一歩リードできる自己紹介
4	実践すぐに使えるビジネスマナー ・自己紹介の復習 ・メールの基本を知る ・電話応対①基本
5	実践すぐに使えるビジネスマナー ・ビジネスや目上の人とのメール実践知識 ・電話応対②応用
6	間違いやすい敬語・接遇用語 実践すぐに使えるビジネスマナー ・座り姿勢と立ち姿勢 ・美しいおじぎの仕方
7	来客接遇　受付・席次・湯茶の入れ方・見送りの基本 実践すぐに使えるビジネスマナー ・アイコンタクトの必要性 ・立ち居振る舞い
8	お祝いやお悔みのマナー 実践すぐに使えるビジネスマナー ・好印象のあいさつとは ・状況に応じた対応
9	贈り物のマナー 実践すぐに使えるビジネスマナー ・接遇用語の「とっさのひとこと」
10	総合ロールプレイング① ～あいさつ・立ち居振る舞い～
11	総合ロールプレイング② ～接客・ビジネスの場面を想定する～
12	総合ロールプレイング③ ～状況に応じた対応を身に付ける～
13	総合ロールプレイング④まとめ ～日常生活で活かすために～
14	筆記試験① 総まとめ
15	筆記試験② 今後の展望と総まとめ

科目名	音響学１　［金5］						
代表教員	桐生　昭吾	授業コード	GK770800	科目コード	GK7708	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音に関する基本的性質や法則を理解できる。聴覚の特性や電気音響変換器について基本的な知識が身につく。デジタルオーディオやコンピュータオーディオについての概要を知ることができる。

２．授業概要

音の世界は実に幅が広い。音源となる楽器の性質、音の伝搬、音の知覚、聴覚の仕組み、楽器の仕組み、電気音響変換器、オーディオなど、実に多様である。これらをできるだけ分かりやすく解説する。授業に当たっては、基本的な講義に加え、聴覚に関するデモンストレーションや、ヘッドホンの試聴を通しての電気音響変換器に関する体験学習なども行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

聴覚特性やオーディオなどは、身近なものとして体験できるので、生活の中で音響学で学んだことを体験することを心掛けること。また、他の科目や実習などとも関係しているものもあるので、関連付けて学習すること。

４．成績評価の方法及び基準

中間試験（評価の40%）
学期末試験（評価の40%）
平常点（評価の20%）
授業の90%以上の参加状況と中間試験、学期末試験の成績の平均が90点以上の学生にSの評価を与える

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用しない、参考文献については授業内で指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業内容に興味のある学生に履修して頂きたい。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［前期］ 音響学の基礎となる音の物理的特性と聴覚の特性について学習する。
1	ガイダンス：音の世界の鳥瞰
2	音とは何か
3	音の物理的性質
4	デシベル（１）基本
5	デシベル（２）応用
6	音圧・音圧レベル
7	周波数と波長
8	正弦波と純音
9	音を見る
10	聴覚（１）基本
11	聴覚（２）応用
12	マスキング
13	ヘッドホンの種類と特性
14	前半のまとめ
15	前半の内容確認（テスト）とまとめ

授業計画	
	［後期］ 　前期の基礎知識をもとに、電気音響変換器（マイクロホン、スピーカ）の特性と楽器の音響学的特性を学習する。また、音声やデジタルオーディオについて学習する。
1	後半の概要
2	電気音響変換器（１）基本
3	電気音響変換器（２）応用
4	共鳴
5	オーディオの歴史
6	デジタルオーディオ（１）基本
7	デジタルオーディオ（２）応用
8	デジタルオーディオ（３）発展
9	楽器の仕組み
10	電気・電子楽器
11	空間音響
12	エフェクタ
13	音響の将来
14	後半のまとめ
15	期末テストと全体的なまとめ

科目名	情報機器の操作　（前）［月4］P1クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709P1	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、Microsoft Office Word、Excelを中心に、基本操作や使用頻度が比較的高い編集機能を習得し、業務で求められるデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・基本的な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・ポータルに配信する授業資料をダウンロードおよび印刷をして、授業前に一読しておくこと。
・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低Lesson6（パートC）まで進める。
　1レッスンの所要時間に幅があるが、毎週最低10分以上を目安に、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合、プリントを参考に次回授業までに追いついておく。
・授業内で作成する演習課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、各自機能の復習を行っておく。この「演習問題」は30分程度の所要時間を想定している。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題（演習問題）データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回の当該データを、各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時、ポータル画面を見ながらの操作は厳しいと思われる。
　なお、各回配信分すべての内容を、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と演算の基本
11	Excel基本機能③：関数
12	Excel基本機能④：演算機能の応用
13	Excel編集機能①：書式設定
14	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
15	Excel編集機能③：グラフ作成

科目名	情報機器の操作　（前）［火2］P2クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709P2	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、Microsoft Office Word、Excelを中心に、基本操作や使用頻度が比較的高い編集機能を習得し、業務で求められるデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・基本的な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・ポータルに配信する授業資料をダウンロードおよび印刷をして、授業前に一読しておくこと。
・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低Lesson6（パートC）まで進める。
　1レッスンの所要時間に幅があるが、毎週最低10分以上を目安に、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合、プリントを参考に次回授業までに追いついておく。
・授業内で作成する演習課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、各自機能の復習を行っておく。この「演習問題」は30分程度の所要時間を想定している。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題（演習問題）データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回の当該データを、各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時、ポータル画面を見ながらの操作は厳しいと思われる。
　なお、各回配信分すべての内容を、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と演算の基本
11	Excel基本機能③：関数
12	Excel基本機能④：演算機能の応用
13	Excel編集機能①：書式設定
14	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
15	Excel編集機能③：グラフ作成

科目名	情報機器の操作　（前）［火3］P3クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709P3	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、Microsoft Office Word、Excelを中心に、基本操作や使用頻度が比較的高い編集機能を習得し、業務で求められるデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・基本的な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・ポータルに配信する授業資料をダウンロードおよび印刷をして、授業前に一読しておくこと。
・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低Lesson6（パートC）まで進める。
　1レッスンの所要時間に幅があるが、毎週最低10分以上を目安に、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合、プリントを参考に次回授業までに追いついておく。
・授業内で作成する演習課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、各自機能の復習を行っておく。この「演習問題」は30分程度の所要時間を想定している。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題（演習問題）データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回の当該データを、各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時、ポータル画面を見ながらの操作は厳しいと思われる。
　なお、各回配信分すべての内容を、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と演算の基本
11	Excel基本機能③：関数
12	Excel基本機能④：演算機能の応用
13	Excel編集機能①：書式設定
14	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
15	Excel編集機能③：グラフ作成

科目名	情報機器の操作　（前）［水2］P4クラス						
代表教員	林　洋子	授業コード	GK7709P4	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、Microsoft Office Word、Excelを中心に、基本操作や使用頻度が比較的高い編集機能を習得し、業務で求められるデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・基本的な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・ポータルに配信する授業資料をダウンロードおよび印刷をして、授業前に一読しておくこと。
・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低Lesson6（パートC）まで進める。
　1レッスンの所要時間に幅があるが、毎週最低10分以上を目安に、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合、プリントを参考に次回授業までに追いついておく。
・授業内で作成する演習課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、各自機能の復習を行っておく。この「演習問題」は30分程度の所要時間を想定している。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題（演習問題）データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回の当該データを、各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時、ポータル画面を見ながらの操作は厳しいと思われる。
　なお、各回配信分すべての内容を、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と演算の基本
11	Excel基本機能③：関数
12	Excel基本機能④：演算機能の応用
13	Excel編集機能①：書式設定
14	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
15	Excel編集機能③：グラフ作成

科目名	情報機器の操作　（前）［金2］P5クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709P5	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、Microsoft Office Word、Excelを中心に、基本操作や使用頻度が比較的高い編集機能を習得し、業務で求められるデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・基本的な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・ポータルに配信する授業資料をダウンロードおよび印刷をして、授業前に一読しておくこと。
・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低Lesson6（パートC）まで進める。
　1レッスンの所要時間に幅があるが、毎週最低10分以上を目安に、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合、プリントを参考に次回授業までに追いついておく。
・授業内で作成する演習課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、各自機能の復習を行っておく。この「演習問題」は30分程度の所要時間を想定している。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題（演習問題）データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回の当該データを、各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時、ポータル画面を見ながらの操作は厳しいと思われる。
　なお、各回配信分すべての内容を、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と演算の基本
11	Excel基本機能③：関数
12	Excel基本機能④：演算機能の応用
13	Excel編集機能①：書式設定
14	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
15	Excel編集機能③：グラフ作成

科目名	情報機器の操作　（後）［月4］Q1クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709Q1	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、Microsoft Office Word、Excelを中心に、基本操作や使用頻度が比較的高い編集機能を習得し、業務で求められるデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・基本的な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・ポータルに配信する授業資料をダウンロードおよび印刷をして、授業前に一読しておくこと。
・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低Lesson6（パートC）まで進める。
　1レッスンの所要時間に幅があるが、毎週最低10分以上を目安に、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合、プリントを参考に次回授業までに追いついておく。
・授業内で作成する演習課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、各自機能の復習を行っておく。この「演習問題」は30分程度の所要時間を想定している。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題（演習問題）データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回の当該データを、各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時、ポータル画面を見ながらの操作は厳しいと思われる。
　なお、各回配信分すべての内容を、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と演算の基本
11	Excel基本機能③：関数
12	Excel基本機能④：演算機能の応用
13	Excel編集機能①：書式設定
14	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
15	Excel編集機能③：グラフ作成

科目名	情報機器の操作　（後）［火3］Q3クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709Q3	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、Microsoft Office Word、Excelを中心に、基本操作や使用頻度が比較的高い編集機能を習得し、業務で求められるデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・基本的な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・ポータルに配信する授業資料をダウンロードおよび印刷をして、授業前に一読しておくこと。
・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低Lesson6（パートC）まで進める。
　1レッスンの所要時間に幅があるが、毎週最低10分以上を目安に、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合、プリントを参考に次回授業までに追いついておく。
・授業内で作成する演習課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、各自機能の復習を行っておく。この「演習問題」は30分程度の所要時間を想定している。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題（演習問題）データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回の当該データを、各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時、ポータル画面を見ながらの操作は厳しいと思われる。
　なお、各回配信分すべての内容を、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と演算の基本
11	Excel基本機能③：関数
12	Excel基本機能④：演算機能の応用
13	Excel編集機能①：書式設定
14	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
15	Excel編集機能③：グラフ作成

科目名	情報機器の操作　（後）［水2］Q5クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709Q5	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、Microsoft Office Word、Excelを中心に、基本操作や使用頻度が比較的高い編集機能を習得し、業務で求められるデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・基本的な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・ポータルに配信する授業資料をダウンロードおよび印刷をして、授業前に一読しておくこと。
・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低Lesson6（パートC）まで進める。
　1レッスンの所要時間に幅があるが、毎週最低10分以上を目安に、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合、プリントを参考に次回授業までに追いついておく。
・授業内で作成する演習課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、各自機能の復習を行っておく。この「演習問題」は30分程度の所要時間を想定している。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題（演習問題）データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回の当該データを、各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時、ポータル画面を見ながらの操作は厳しいと思われる。
　なお、各回配信分すべての内容を、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と演算の基本
11	Excel基本機能③：関数
12	Excel基本機能④：演算機能の応用
13	Excel編集機能①：書式設定
14	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
15	Excel編集機能③：グラフ作成

科目名	情報機器の操作　（後）［金2］Q6クラス						
代表教員	金内　真紀	授業コード	GK7709Q6	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、Microsoft Office Word、Excelを中心に、基本操作や使用頻度が比較的高い編集機能を習得し、業務で求められるデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・基本的な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・ポータルに配信する授業資料をダウンロードおよび印刷をして、授業前に一読しておくこと。
・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低Lesson6（パートC）まで進める。
　1レッスンの所要時間に幅があるが、毎週最低10分以上を目安に、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合、プリントを参考に次回授業までに追いついておく。
・授業内で作成する演習課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、各自機能の復習を行っておく。この「演習問題」は30分程度の所要時間を想定している。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題（演習問題）データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回の当該データを、各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時、ポータル画面を見ながらの操作は厳しいと思われる。
　なお、各回配信分すべての内容を、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と演算の基本
11	Excel基本機能③：関数
12	Excel基本機能④：演算機能の応用
13	Excel編集機能①：書式設定
14	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
15	Excel編集機能③：グラフ作成

科目名	情報機器の操作　（後）［金3］Q7クラス						
代表教員	相馬　健太	授業コード	GK7709Q7	科目コード	GK7709	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・タッチタイピングをマスターし、データ入力の効率化と正確性の向上を図ることで、将来的に「仕事で使える」PC操作の基本を身につける。
・Windowsコンピュータと、Microsoft Office Word、Excelを中心に、基本操作や使用頻度が比較的高い編集機能を習得し、業務で求められるデータの作成、編集を自力で行えるようになる。
・ネットワーク環境を、効果的かつ安全に利用するための基礎知識を学ぶ。

2．授業概要

・基本的な作表を含む、ビジネス文書の作成と編集を演習する。
・簡単な演算を含む、データの作成と編集を演習する。
・情報モラルを含む、ネットワーク環境利用時の基本知識を学ぶ。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・ポータルに配信する授業資料をダウンロードおよび印刷をして、授業前に一読しておくこと。
・初回授業で設定するタイピング練習ソフト（TypeQuick）のレッスンを、最低Lesson6（パートC）まで進める。
　1レッスンの所要時間に幅があるが、毎週最低10分以上を目安に、継続的に取り組むこと。
・授業で扱った演習課題が、個人的に残ってしまった場合、プリントを参考に次回授業までに追いついておく。
・授業内で作成する演習課題とは別に、ポータルに配信する「演習問題」を作成、保存して、各自機能の復習を行っておく。この「演習問題」は30分程度の所要時間を想定している。

4．成績評価の方法及び基準

・平常点 35%
　授業内に作成する演習データ、自習課題（演習問題）データの完成度
・タイピング練習ソフト 15%
　レッスンの進捗度と正確率
・定期試験 50%

5．授業で使用するテキスト・参考文献

・毎回の授業で使用する授業資料（プリント）を、各回で数種類ずつ、ポータル上に配信する。
・各回の当該データを、各自ダウンロードおよび印刷して持参し、授業に臨むこと。
　複数枚のプリントを並行して参照することもあり、授業時、ポータル画面を見ながらの操作は厳しいと思われる。
　なお、各回配信分すべての内容を、1回の授業で完了するとは限らないため、継続的に持参すること。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用機器の関係上、履修人数の制限あり。
・4年生は、教育実習期間を「含まない期」での履修が望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	・各種設定 ・タイピング練習ソフトの設定と実習 ・Windowsの基本機能について ・Microsoft Officeの各アプリケーションの概要
2	Microsoft Word基本機能①：データ入力の基本
3	Word基本機能②：入力変換機能と文章入力
4	Word編集機能①：ビジネス文書の作成
5	Word編集機能②：ビジネス文書の編集
6	Word編集機能③：罫線機能の基本（表作成）
7	Word編集機能④：罫線機能の編集（表編集）
8	Word編集機能⑤：表を含む文書の作成と編集
9	Microsoft Excel基本機能①：データ入力の基本
10	Excel基本機能②：データ編集と演算の基本
11	Excel基本機能③：関数
12	Excel基本機能④：演算機能の応用
13	Excel編集機能①：書式設定
14	Excel編集機能②：ページ設定とデータベース機能
15	Excel編集機能③：グラフ作成

科目名	保健体育　（前）［水1］P1クラス						
代表教員	田中　良	授業コード	GK7726P1	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

科目名	保健体育　（前）［水1］P2クラス						
代表教員	片瀬　文雄	授業コード	GK7726P2	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

科目名	保健体育　（前）［水1］P3クラス						
代表教員	髙尾　尚平	授業コード	GK7726P3	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

科目名	保健体育　（前）［水2］P4クラス						
代表教員	田中　良	授業コード	GK7726P4	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

科目名	保健体育　（後）［水1］Q1クラス						
代表教員	田中　良	授業コード	GK7726Q1	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

科目名	保健体育　（後）［水1］Q2クラス						
代表教員	片瀬　文雄	授業コード	GK7726Q2	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

科目名	保健体育　（後）［水1］Q3クラス						
代表教員	髙尾　尚平	授業コード	GK7726Q3	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

科目名	保健体育　（後）［水2］Q4クラス						
代表教員	田中　良	授業コード	GK7726Q4	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

科目名	経済学 ［火1］Aクラス						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	GK7728A0	科目コード	GK7728	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

２．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

前期後期共通
授業内評価点（授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）
前期：前期末試験（筆記試験、評価の70%）
後期：後期末試験（筆記試験、評価の70%）
上記のことから総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［前期］ 前期の授業では、経済学と私たちとの関係を理解するために、これまで現実に起きた出来事や、今起こっている事柄を中心に学習します。
1	ガイダンス ・履修上の注意点 、成績評価の方法に関する説明 ・この授業でどのようなことを学ぶのか
2	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（１） ・第2次世界大戦からバブルの発生まで
3	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（２） ・バブル崩壊から現在まで
4	経済学の見方・考え方を身に付けよう（１） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引
5	経済の見方・考え方を身に付けよう（２） ・神の見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体
6	経済の主役は誰だろうか（１） ・ミクロ経済学とは何か ・家計の役割と目的
7	経済の主役は誰だろうか（２） ・企業の役割と目的
8	経済の主役は誰だろうか（３） ・政府の役割と目的
9	値段の決まり方を知ろう（１） ・市場とは何か ・需要と供給①
10	値段の決まり方を知ろう（２） ・需要と供給② ・政府の政策の影響
11	市場はどのくらい役に立つのだろうか（１） ・市場の効率性
12	市場はどのくらい役に立つのだろうか（２） ・外部性
13	市場が完全でないときどんな影響があるのだろうか ・不完全競争市場
14	前期講義内容のまとめ ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明
15	前期末筆記試験とまとめ

授業計画	
	［後期］ 　後期の授業では、前期で学習した内容について、より大きな視点から学習します。また、私たちの生活に大きく関わっている税金についても学習します。
1	前期末試験の返却と後期講義内容の説明 ・テストの返却と解説 ・マクロ経済学とは何か
2	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（１） ・国民所得の測定
3	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（２） ・国民所得の変化する理由 ・景気の移り変わり
4	お金の持っている機能と役割を知ろう ・貨幣の持つ影響
5	国民所得をコントロールすることは可能だろうか ・総需要管理政策と政策の悪影響
6	国民所得を増やす方法を考えよう（１） ・財市場とIS曲線
7	国民所得を増やす方法を考えよう（２） ・財政の仕組みと財政政策
8	国民所得を増やす方法を考えよう（３） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策
9	国民所得を増やす方法を考えよう（４） ・IS曲線とLM曲線の統合
10	国民所得を増やす方法を考えよう（５） ・国民所得とインフレーションの関係
11	稼いだお金は全部自分のものになるのか（１） ・租税とは何か
12	稼いだお金は全部自分のものになるのか（２） ・所得税と住民税の仕組み
13	稼いだお金は全部自分のものになるのか（３） ・消費税の仕組み
14	稼いだお金は全部自分のものになるのか（４） ・年金の仕組み
15	後期講義内容のまとめ ・後期授業の復習 ・後期試験準備のポイント説明

科目名	経済学　［火1］Bクラス						
代表教員	小林　和馬	授業コード	GK7728B0	科目コード	GK7728	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では経済学の基礎知識を定着させ、日常生活における課題に対してミクロ経済学・マクロ経済学の視点とその理解から、経済が変化する要因とその影響・効果を学習します。さらに、統計データによる経済活動の観察と経済学の理論を合致させることにより、政策課題に臨む経済学的思考の構築を目指します。

２．授業概要

授業は講義形式で行います。また、授業の際には授業中に配付資料を配り、配付資料を利用しながら講義を進めます。経済学の基礎的概念を確認しながら、ニュース等で取り上げられる事象とのつながりを学習します。毎回授業後には確認の小テストを行い、質問についても受け付けることで各回授業の重要な点を確認します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布した資料を使い必ず復習して下さい。また、授業前には教科書の授業該当箇所に目を通しておいて下さい。

日常生活で日々目や耳にするニュースや新聞報道に関心を持ち、経済の動きや仕組み、そしてその課題に関心を持つ事が最も効果的な学習につながります。

４．成績評価の方法及び基準

前期後期共通
　授業内評価点（評価の30%）
　自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
　授業内小テスト（毎回実施）

前期

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に条件は設けません。

日々ニュース等で経済の動きや仕組みに関心を持ち、それらを理解したいという姿勢を持った学生を希望します。

授業計画	
	［前期］ 前期ではミクロ経済学の基礎知識を定着させ、日常生活における課題に対して需要と供給、弾力性の理解から、これらが変化する要因とその影響・効果を学習します。
1	経済学とは:人々の意思決定
2	需要と供給の関係について知ろう
3	価格上限規制とは何か？
4	価格下限規制とは何か？
5	需要の（価格）弾力性を知ろう
6	供給の（価格）弾力性を知ろう
7	需要と供給による政策を考えよう：税金
8	弾力性と税金の関係を考えよう
9	市場の効率性を考えよう(1)：消費者余剰
10	市場の効率性を考えよう(2)：生産者余剰
11	効率性への対応の必要性について：死荷重
12	税と効率・公平について考えよう
13	外部性について知ろう
14	外部性に対する公共政策の考え方
15	財の種類について：公共財と共有資源

授業計画	
	［後期］ 後期ではマクロ経済学の基礎知識を定着させ、所得の成長、物価の変化、失業率を用いて、経済活動の観察による統計等のデータと経済学の理論を合致させることを学習する。
1	前期の復習とマクロ経済学について：需要と供給による効率性の確認
2	国民所得とその決定を理解しよう
3	実質GDPと名目GDPとは何か？
4	生計費を測定するには？:消費者物価指数
5	生産と成長をどのように把握・理解するのか？
6	失業の存在と影響を知ろう
7	貯蓄、投資と金融システムについて知ろう
8	貨幣について：貨幣システムとは？
9	貨幣需給とインフレーションの関係を知ろう
10	総需要曲線とは何か？
11	総供給曲線とは何か？
12	総需要曲線がシフトする時を考えよう
13	総供給曲線のシフトする時を考えよう
14	外国との取引の存在：開放マクロ経済学について考えよう
15	購買力平価について知ろう

科目名	著作権法　（前）［金1］P1クラス						
代表教員	宮下　義樹	授業コード	GK7729P1	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。複製権や公衆送信権、翻案権などの権利に分かれています。
6	著作者人格権（1） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（2） 著作者人格権は、公表権、氏名表示権、同一性保持権の権利、みなし侵害として名誉声望権に分かれています。それら権利の説明をします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

科目名	著作権法　（前）［金1］P2クラス						
代表教員	齋藤　崇	授業コード	GK7729P2	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。複製権や公衆送信権、翻案権などの権利に分かれています。
6	著作者人格権（1） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（2） 著作者人格権は、公表権、氏名表示権、同一性保持権の権利、みなし侵害として名誉声望権に分かれています。それら権利の説明をします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

科目名	著作権法　（後）［金1］Q1クラス						
代表教員	宮下　義樹	授業コード	GK7729Q1	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。複製権や公衆送信権、翻案権などの権利に分かれています。
6	著作者人格権（1） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（2） 著作者人格権は、公表権、氏名表示権、同一性保持権の権利、みなし侵害として名誉声望権に分かれています。それら権利の説明をします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

科目名	著作権法　（後）［金1］Q2クラス						
代表教員	齋藤　崇	授業コード	GK7729Q2	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。複製権や公衆送信権、翻案権などの権利に分かれています。
6	著作者人格権（1） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（2） 著作者人格権は、公表権、氏名表示権、同一性保持権の権利、みなし侵害として名誉声望権に分かれています。それら権利の説明をします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

科目名	ジェンダー　［金5］						
代表教員	大森　美佐	授業コード	GK773000	科目コード	GK7730	期間	通年
担当教員	青木　由香						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

＜前期＞
【主題】
・ジェンダー論
【到達目標】
・ジェンダー論、社会学の基礎的な用語をマスターする。
・社会現象や自分の身のまわりの事柄を、ジェンダーの視点から理解し、説明できるようになる。

＜後期＞
【主題】
・人生の中年期から高齢期において直面する諸課題について、「ジェンダー」の視角を用いて読み解く。
【到達目標】

2．授業概要

＜前期＞
ジェンダーとは、社会や文化によって決められる男女の行動・習慣・意識一般を差す言葉です。生物学的な意味での性別とは区別されます。洋服の選び方、身体の動かし方、進路の選び方、仕事の選び方、仕事の仕方、自分の人生をどう生きるか。私たちは生活のあらゆる場面で、自分の性別や他者の性別を意識せざるをえません。私たちの生活はジェンダーと深い関係を持っています。そして、「女らしさ」や「男らしさ」といったものは、現代の社会や文化を反映しています。
本講義では、ジェンダーに関連のある現代社会のさまざまな現象を取り上げ、私たちが生きる社会や文化のあり方について理解していきます。恋愛や結婚、教育や仕事、育児や家族など、私たちにとって身近なテーマを毎回取り上げます。本講義を通じて、①ジェンダー論と社会学の思考法を学ぶとともに、②日常に溢れる「当たり前」を問い直す力を身につけることを目指します。

＜後期＞

3．授業時間外の学習（予習復習について）

＜前期＞
・講義中に配布した資料をよく理解して下さい。また、講義内で紹介する書籍を積極的に読むことで、各トピックについての理解が深まります。
・身近な出来事や社会現象を授業で学んだ知識を用いてとらえなおして下さい。こうした作業を繰り返していくことで、ジェンダー論的なものの見方、社会学的なものの見方をマスターしていきます。

4．成績評価の方法及び基準

＜前期＞
・授業への参加度（40%）、試験（60%）で評価します。
・授業の最後に、毎回コメントシートを提出してもらいます。これによって授業への参加度の評価を行います。

＜後期＞
・授業への参加度（40%）、定期試験の得点（60%）で評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

＜前期＞
（参考図書）
各トピックに関連する参考文献は、毎回の講義のなかで紹介します。

＜後期＞
テキストは使用しません。参考文献は授業中に適宜紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

＜前期＞
授業への参加度（グループ・ディスカッション、質問、コメントなど）を重視します。

＜後期＞
授業への参加度を重視します。授業中、グループ・ディスカッションの機会を設けます。日常生活の諸現象を、これまでとは違った「ジェンダー」の視点で考えてみませんか。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス＆イントロダクション： 私たちは＜分類＞する―「ジェンダー」の定義
2	性差と性役割：「男らしさ」「女らしさ」を考える
3	容姿とジェンダー：服飾・美容整形・ダイエット
4	教育とジェンダー：学校教育におけるジェンダー差
5	家族のとらえ方：歴史のなかの家族と世帯動向
6	現代の恋愛・結婚の諸相：データから読む日本の恋愛・性行動の状況
7	生殖とジェンダー：社会的・文化的な「選択」としての生殖
8	多様なパートナーシップ①：映像鑑賞
9	多様な「かぞく」のありかた
10	子育てとジェンダー：日本の子育ての現状と父親の育児参加
11	離婚と再婚：ひとり親家族と子どもの貧困、日本の再婚の状況
12	就労とジェンダー：性別職務分離と男女経済格差
13	ケアワークと家族：無償労働・ケアの社会化
14	講義の統括と試験
15	試験解説と「ジェンダー社会で生きるということ」についてのグループ・ディスカッション

授業計画	
	[後期]
1	ガイダンス＆イントロダクション：「ジェンダー」を学ぶことの意味
2	メディアとジェンダー①：「女らしさ」「男らしさ」はどのように描かれているのか
3	メディアとジェンダー②：テレビドラマにみる「女らしさ」「男らしさ」
4	「少子化」「高齢化」とジェンダー：データで読み解く日本の「いま」、そして「未来」
5	ケアとジェンダー①：誰がケアを担っているのか（家族介護の諸相）
6	ケアとジェンダー②：誰がケアを担っているのか（無償労働とケアワーク）
7	ケアとジェンダー③：「ケアすること」をめぐる困難（家族介護）
8	ケアとジェンダー④：「ケアされること」をめぐる困難（高齢者介護）
9	ライフコースとジェンダー①：多様化するライフコース　前半
10	ライフコースとジェンダー②：多様化するライフコース　後半
11	ライフコースとジェンダー③：「生きづらさ」を考える
12	政策とジェンダー①：現代日本の家族政策・福祉政策の現状
13	政策とジェンダー②：「貧困問題」の諸相
14	政策とジェンダー③：「働くこと」をめぐる課題
15	到達度の確認

科目名	読解力養成講座１　（前）［火3］Ａクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK7731A0	科目コード	GK7731	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　高等教育機関である大学で学ぶにふさわしい読解力の養成
【到達目標】
・読解のための基礎的な知識を習得する
・多角的な視点から文章を正確に読み取れるようになる
・読み取った情報をもとに、自分の論理を組み立てる力を身につける

２．授業概要

　本講座では、「読解力」を身に付けることを目指します。ここで言う「読解力」とは、単に文章に書かれていることを理解することだけではありません（もちろん、それも大切なことですので、まずは正確に読めるように練習します）。むしろ、書かれた内容を批判的に捉え、自ら考えていくことが大事なことです。ですから、授業中には文章を「読む」ばかりでなく、それを要約したり、自分の意見を「書く」ことで、読解力を向上させていきます。
　テキストには、受講者にとって身近だと思われる音楽に関するものを中心に、日本の古典や新聞・雑誌記事を用いる予定です。
　なお、受講者の専攻やニーズ等に応じて、授業計画を多少変更する可能性があります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習形式で発表を行うため、その準備としての事前学習や、レポート課題等を課す場合もある。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業への参加姿勢やレポート・発表等を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業はプリントを中心に行う。テキストおよび参考文献は授業中に随時紹介する。
電子書籍を用いることもあるので、スマートフォンやタブレットにKindleをインストールしておくこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。積極的な参加を求める。
「読解力養成講座2」（後期）とあわせて履修することが望ましいが、単独でも受講可。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	批判的読書法①：「あたりまえ」にだまされない
3	批判的読書法②：「わかる」とはどういうことか
4	批判的読書法③：「わかる」ことの先へ
5	古典①　読解
6	古典②　展開
7	評論を読む①　新聞
8	評論を読む②　雑誌記事
9	評論を読む③　音楽について
10	論文を読む①　基礎編
11	論文を読む②　応用編
12	詩の読解
13	プレゼンテーションと批評①　まとめ方
14	プレゼンテーションと批評②　質疑
15	まとめ・評価

科目名	読解力養成講座１　（前）［火4］Bクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK7731B0	科目コード	GK7731	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　高等教育機関である大学で学ぶにふさわしい読解力の養成
【到達目標】
・読解のための基礎的な知識を習得する
・多角的な視点から文章を正確に読み取れるようになる
・読み取った情報をもとに、自分の論理を組み立てる力を身につける

２．授業概要

　本講座では、「読解力」を身に付けることを目指します。ここで言う「読解力」とは、単に文章に書かれていることを理解することだけではありません（もちろん、それも大切なことですので、まずは正確に読めるように練習します）。むしろ、書かれた内容を批判的に捉え、自ら考えていくことが大事なことです。ですから、授業中には文章を「読む」ばかりでなく、それを要約したり、自分の意見を「書く」ことで、読解力を向上させていきます。
　テキストには、受講者にとって身近だと思われる音楽に関するものを中心に、日本の古典や新聞・雑誌記事を用いる予定です。
　なお、受講者の専攻やニーズ等に応じて、授業計画を多少変更する可能性があります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習形式で発表を行うため、その準備としての事前学習や、レポート課題等を課す場合もある。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業への参加姿勢やレポート・発表等を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業はプリントを中心に行う。テキストおよび参考文献は授業中に随時紹介する。
電子書籍を用いることもあるので、スマートフォンやタブレットにKindleをインストールしておくこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。積極的な参加を求める。
「読解力養成講座2」（後期）とあわせて履修することが望ましいが、単独でも受講可。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	批判的読書法①：「あたりまえ」にだまされない
3	批判的読書法②：「わかる」とはどういうことか
4	批判的読書法③：「わかる」ことの先へ
5	古典①　読解
6	古典②　展開
7	評論を読む①　新聞
8	評論を読む②　雑誌記事
9	評論を読む③　音楽について
10	論文を読む①　基礎編
11	論文を読む②　応用編
12	詩の読解
13	プレゼンテーションと批評①　まとめ方
14	プレゼンテーションと批評②　質疑
15	まとめ・評価

科目名	読解力養成講座２　（後）［火3］Ａクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK7732A0	科目コード	GK7732	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　高等教育機関である大学で学ぶにふさわしい読解力の養成
【到達目標】
・読解のための基礎的な知識を習得する
・多角的な視点から文章を正確に読み取れるようになる
・読み取った情報をもとに、自分の論理を組み立てる力を身につける

２．授業概要

　本講座では、「読解力」を身に付けることを目指します。ここで言う「読解力」とは、単に文章に書かれていることを理解することだけではありません（もちろん、それも大切なことですので、まずは正確に読めるように練習します）。むしろ、書かれた内容を批判的に捉え、自ら考えていくことが大事なことです。ですから、授業中には文章を「読む」ばかりでなく、それを要約したり、自分の意見を「書く」ことで、読解力を向上させていきます。
　テキストには、受講者にとって身近だと思われる音楽に関するものを中心に、日本の古典や新聞・雑誌記事を用いる予定です。前期とは異なるテキストを用いて、異なる角度からアプローチします。
　なお、受講者の専攻やニーズ等に応じて、授業計画を多少変更する可能性があります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習形式で発表を行うため、その準備としての事前学習や、レポート課題等を課す場合もある。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業への参加姿勢やレポート・発表等を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業はプリントを中心に行う。テキストおよび参考文献は授業中に随時紹介する。
電子書籍を用いることもあるので、スマートフォンやタブレットにKindleをインストールしておくこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。積極的な参加を求める。
「読解力養成講座1」（前期）とあわせて履修することが望ましいが、単独でも受講可。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	批判的読書法①：論証
3	批判的読書法②：根拠とは
4	批判的読書法③：要約
5	古典①　読解
6	古典②　展開
7	評論を読む①　基礎
8	評論を読む②要約
9	評論を読む③　展開
10	論文を読む①　基礎
11	論文を読む②　展開
12	詩の読解
13	プレゼンテーションと批評①　方法
14	プレゼンテーションと批評②　実践
15	まとめ・評価

科目名	読解力養成講座２　（後）［火4］Bクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	GK7732B0	科目コード	GK7732	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
　高等教育機関である大学で学ぶにふさわしい読解力の養成
【到達目標】
・読解のための基礎的な知識を習得する
・多角的な視点から文章を正確に読み取れるようになる
・読み取った情報をもとに、自分の論理を組み立てる力を身につける

２．授業概要

　本講座では、「読解力」を身に付けることを目指します。ここで言う「読解力」とは、単に文章に書かれていることを理解することだけではありません（もちろん、それも大切なことですので、まずは正確に読めるように練習します）。むしろ、書かれた内容を批判的に捉え、自ら考えていくことが大事なことです。ですから、授業中には文章を「読む」ばかりでなく、それを要約したり、自分の意見を「書く」ことで、読解力を向上させていきます。
　テキストには、受講者にとって身近だと思われる音楽に関するものを中心に、日本の古典や新聞・雑誌記事を用いる予定です。前期とは異なるテキストを用いて、異なる角度からアプローチします。
　なお、受講者の専攻やニーズ等に応じて、授業計画を多少変更する可能性があります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演習形式で発表を行うため、その準備としての事前学習や、レポート課題等を課す場合もある。

４．成績評価の方法及び基準

毎回の授業への参加姿勢やレポート・発表等を総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業はプリントを中心に行う。テキストおよび参考文献は授業中に随時紹介する。
電子書籍を用いることもあるので、スマートフォンやタブレットにKindleをインストールしておくこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし。積極的な参加を求める。
「読解力養成講座1」（前期）とあわせて履修することが望ましいが、単独でも受講可。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	批判的読書法①：論証
3	批判的読書法②：根拠とは
4	批判的読書法③：要約
5	古典①　読解
6	古典②　展開
7	評論を読む①　基礎
8	評論を読む②要約
9	評論を読む③　展開
10	論文を読む①　基礎
11	論文を読む②　展開
12	詩の読解
13	プレゼンテーションと批評①　方法
14	プレゼンテーションと批評②　実践
15	まとめ・評価

科目名	文章力養成講座１　（前）［水3］Aクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7733A0	科目コード	GK7733	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
書くこと･話すことを中心とした言語表現によるコミュニケーション力の育成

到達目標：
①　国語力の基礎的な知識を身につける
②　論理的に思考する力をつける
③　進んで表現することによってコミュニケーション能力を高める
④　言葉によって適切に表現する能力を育成する
⑤　文章によって表現した内容を相手に伝えるプレゼンテーション力を育成する

２．授業概要

本科目は、最近の筆離れから表現能力の乏しい現状を踏まえて、日本語を正確に理解し、的確に表現する能力を引き出すことを目的としている。書くこと、話すことを中心とした基礎的な国語力を育成するための講座である。
前期は自身を分析し文章化し話すことにより、自身の長所短所と価値観を知り、今後大学で勉強するための意識改革に繋げる助けとする。学生間のコミュニケーションを充実させ、大学生活や社会に出てからも必要である人間関係を良好に保つ話し方、言葉の選び方の気づきをすることを目的とする。
後期は、専門である音楽の基礎・基本として必要な用語や意味の説明をするために適切な言葉を用い、他者に伝えるということを目指して、言語活動の充実を図るとともに自己表現能力の育成を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業にて毎回漢字テストを行うため、次回までにその間違いを正し､漢字力をつける。新聞コラムを用いて、文章力を養わせるために文章の書き写しを行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の40%)
平常点（提出物を含む、発表等　60%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

本試験型　漢字検定　試験問題集［各自の受験級］（成美堂出版）
「考える」ための小論文（ちくま新書）西研・森下育彦著
大学生のための日本語トレーニング（三省堂）
中高学習指導要領
文化庁「文化審議会」敬語の指針
中学校（高等学校）音楽教科書

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

むやみに遅刻・欠席をしないこと
意欲的に取り組むこと

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス：　これから音楽大学を経て社会に出て行くために必要な言語活動の充実を図り、豊かな文章力を養うための講座である。毎回の受講法､勉強法についての説明を行う
2	自己分析しよう 漢字の読み書き①
3	自己分析文作成 漢字の読み書き②
4	自己PRしよう 漢字の読み書き③
5	他人を紹介しよう 漢字の読み書き④
6	敬語の使い方 漢字の読み書き⑤
7	新聞を読む 漢字の読み書き⑥
8	コラムの要約 漢字の読み書き⑦
9	グループ活動 文章の内容把握と読み（表現法）①
10	グループ活動 紙芝居による表現法
11	グループ活動 絵本（絵のみ）に文章作成
12	発表 絵本の聞き比べ
13	文章の内容把握と読み（表現法）②
14	レポートの書き方
15	まとめ

科目名	文章力養成講座１　（前）［水4］Bクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7733B0	科目コード	GK7733	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
書くこと･話すことを中心とした言語表現によるコミュニケーション力の育成

到達目標：
①　国語力の基礎的な知識を身につける
②　論理的に思考する力をつける
③　進んで表現することによってコミュニケーション能力を高める
④　言葉によって適切に表現する能力を育成する
⑤　文章によって表現した内容を相手に伝えるプレゼンテーション力を育成する

２．授業概要

本科目は、最近の筆離れから表現能力の乏しい現状を踏まえて、日本語を正確に理解し、的確に表現する能力を引き出すことを目的としている。書くこと、話すことを中心とした基礎的な国語力を育成するための講座である。
前期は自身を分析し文章化し話すことにより、自身の長所短所と価値観を知り、今後大学で勉強するための意識改革に繋げる助けとする。学生間のコミュニケーションを充実させ、大学生活や社会に出てからも必要である人間関係を良好に保つ話し方、言葉の選び方の気づきをすることを目的とする。
後期は、専門である音楽の基礎・基本として必要な用語や意味の説明をするために適切な言葉を用い、他者に伝えるということを目指して、言語活動の充実を図るとともに自己表現能力の育成を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業にて毎回漢字テストを行うため、次回までにその間違いを正し､漢字力をつける。新聞コラムを用いて、文章力を養わせるために文章の書き写しを行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の40%)
平常点（提出物を含む、発表等　60%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

本試験型　漢字検定　試験問題集［各自の受験級］（成美堂出版）
「考える」ための小論文（ちくま新書）西研・森下育彦著
大学生のための日本語トレーニング（三省堂）
中高学習指導要領
文化庁「文化審議会」敬語の指針
中学校（高等学校）音楽教科書

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

むやみに遅刻・欠席をしないこと
意欲的に取り組むこと

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス：　これから音楽大学を経て社会に出て行くために必要な言語活動の充実を図り、豊かな文章力を養うための講座である。毎回の受講法､勉強法についての説明を行う
2	自己分析しよう 漢字の読み書き①
3	自己分析文作成 漢字の読み書き②
4	自己PRしよう 漢字の読み書き③
5	他人を紹介しよう 漢字の読み書き④
6	敬語の使い方 漢字の読み書き⑤
7	新聞を読む 漢字の読み書き⑥
8	コラムの要約 漢字の読み書き⑦
9	グループ活動 文章の内容把握と読み（表現法）①
10	グループ活動 紙芝居による表現法
11	グループ活動 絵本（絵のみ）に文章作成
12	発表 絵本の聞き比べ
13	文章の内容把握と読み（表現法）②
14	レポートの書き方
15	まとめ

科目名	文章力養成講座２　（後）［水3］Aクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7734A0	科目コード	GK7734	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
書くこと･話すことを中心とした言語表現によるコミュニケーション力の育成

到達目標：
①　国語力の基礎的な知識を身につける
②　論理的に思考する力をつける
③　進んで表現することによってコミュニケーション能力を高める
④　言葉によって適切に表現する能力を育成する
⑤　文章によって表現した内容を相手に伝えるプレゼンテーション力を育成する

２．授業概要

本科目は、最近の筆離れから表現能力の乏しい現状を踏まえて、日本語を正確に理解し、的確に表現する能力を引き出すことを目的としている。書くこと、話すことを中心とした基礎的な国語力を育成するための講座である。
前期は自身を分析し文章化し話すことにより、自身の長所短所と価値観を知り、今後大学で勉強するための意識改革に繋げる助けとする。学生間のコミュニケーションを充実させ、大学生活や社会に出てからも必要である人間関係を良好に保つ話し方、言葉の選び方の気づきをすることを目的とする。
後期は、専門である音楽の基礎・基本として必要な用語や意味の説明をするために適切な言葉を用い、他者に伝えることというを目指して、言語活動の充実を図るとともに自己表現能力の育成を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業にて毎回漢字テストを行うため、次回までにその間違いを正し､漢字力をつける。新聞コラムを用いて、文章力を養わせるために文章の書き写しを行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の40%)
平常点(提出物を含む、発表など　60%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

本試験型　漢字検定　試験問題集［各自の受験級］（成美堂出版）
「考える」ための小論文（ちくま新書）西研・森下育彦著
大学生のための日本語トレーニング（三省堂）
中高学習指導要領
文化庁「文化審議会」敬語の指針
中学校（高等学校）音楽教科書

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

むやみに遅刻・欠席をしないこと
意欲的に取り組むこと

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス:これから音楽大学を経て社会に出て行くために必要な言語活動の充実を図り、豊かな文章力を養うための講座である。毎回の受講法、勉強法についての説明を行う。
2	ノートの取り方：良いノートと悪いノート
3	音楽鑑賞と批評
4	プレゼンテーションの方法①：グループ学習　コース紹介
5	プレゼンテーションの方法②：グループ学習　資料作成、発表
6	プレゼンテーション：演奏する媒体や演奏法
7	プレゼンテーション：評価について
8	社会人としてのコミュニケーション①グループ学習　前半
9	社会人としてのコミュニケーション②グループ学習　後半
10	履歴書の書き方と実践
11	プレゼンテーション実践①　導入
12	プレゼンテーション実践②　基本
13	プレゼンテーション実践③　応用
14	プレゼンテーション実践④　発展
15	まとめ：よりよい大学生活にするために

科目名	文章力養成講座２　（後）［水4］Bクラス						
代表教員	風見　章	授業コード	GK7734B0	科目コード	GK7734	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：
書くこと･話すことを中心とした言語表現によるコミュニケーション力の育成

到達目標：
①　国語力の基礎的な知識を身につける
②　論理的に思考する力をつける
③　進んで表現することによってコミュニケーション能力を高める
④　言葉によって適切に表現する能力を育成する
⑤　文章によって表現した内容を相手に伝えるプレゼンテーション力を育成する

２．授業概要

本科目は、最近の筆離れから表現能力の乏しい現状を踏まえて、日本語を正確に理解し、的確に表現する能力を引き出すことを目的としている。書くこと、話すことを中心とした基礎的な国語力を育成するための講座である。
前期は自身を分析し文章化し話すことにより、自身の長所短所と価値観を知り、今後大学で勉強するための意識改革に繋げる助けとする。学生間のコミュニケーションを充実させ、大学生活や社会に出てからも必要である人間関係を良好に保つ話し方、言葉の選び方の気づきをすることを目的とする。
後期は、専門である音楽の基礎・基本として必要な用語や意味の説明をするために適切な言葉を用い、他者に伝えることというを目指して、言語活動の充実を図るとともに自己表現能力の育成を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業にて毎回漢字テストを行うため、次回までにその間違いを正し､漢字力をつける。新聞コラムを用いて、文章力を養わせるために文章の書き写しを行う。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(評価の40%)
平常点(提出物を含む、発表など　60%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

本試験型　漢字検定　試験問題集［各自の受験級］（成美堂出版）
「考える」ための小論文（ちくま新書）西研・森下育彦著
大学生のための日本語トレーニング（三省堂）
中高学習指導要領
文化庁「文化審議会」敬語の指針
中学校（高等学校）音楽教科書

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

むやみに遅刻・欠席をしないこと
意欲的に取り組むこと

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス:これから音楽大学を経て社会に出て行くために必要な言語活動の充実を図り、豊かな文章力を養うための講座である。毎回の受講法、勉強法についての説明を行う。
2	ノートの取り方：良いノートと悪いノート
3	音楽鑑賞と批評
4	プレゼンテーションの方法①：グループ学習　コース紹介
5	プレゼンテーションの方法②：グループ学習　資料作成、発表
6	プレゼンテーション：演奏する媒体や演奏法
7	プレゼンテーション：評価について
8	社会人としてのコミュニケーション①グループ学習　前半
9	社会人としてのコミュニケーション②グループ学習　後半
10	履歴書の書き方と実践
11	プレゼンテーション実践①　導入
12	プレゼンテーション実践②　基本
13	プレゼンテーション実践③　応用
14	プレゼンテーション実践④　発展
15	まとめ：よりよい大学生活にするために

科目名	分析力養成講座１　（前）［木3］Aクラス						
代表教員	木下　光彦	授業コード	GK7735A0	科目コード	GK7735	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代社会を知性的に生きるためには、物事を多面的に捉え、考える力を身に付けることが必要である。本講座では、①様々な問題からものの見方や考え方を身に付ける②新聞などの資料の活用のスキルを習得する③物事を多面的に捉え、自分の考えを表現する力を養う。

２．授業概要

ものの見方や考え方について知り、情報メディア特に新聞の活用方法を学ぶ。様々な問題を解いたり新聞記事を読んだりして考察したことを文章にまとめ、表現力を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では随時発表を行う。準備として、新聞記事に目を通し、関心のある記事をスクラップしておくことが重要である。

４．成績評価の方法及び基準

試験（４０％）、発表（４０％）、レポートなどの提出（２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特定しない。参考文献は授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、論理的思考とは
2	論理的思考と表現力の育成
3	論理的思考と現代社会におけるステレオタイプ
4	説明的文章の書き方①基礎
5	説明的文章の書き方②応用
6	情報メディアとその活用ー新聞のよさを知るー
7	反対意見も視野に入れた自分の考え
8	新聞活用法①ー総合面を活用して考えるー
9	新聞活用法②ー社説を読み比べて考えるー
10	新聞活用法③ー複数の意見を比べて考えるー
11	思考法の基礎①ー自分の意見を伝えるー基礎
12	思考法の基礎②ー自分の意見を伝えるー応用
13	プレゼンテーション①ー人に伝えたい自分の考えー基礎
14	プレゼンテーション②ー人に伝えたい自分の考えー応用
15	まとめ

科目名	分析力養成講座１　（前）［木4］Bクラス						
代表教員	木下　光彦	授業コード	GK7735B0	科目コード	GK7735	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代社会を知性的に生きるためには、物事を多面的に捉え、考える力を身に付けることが必要である。本講座では、①様々な問題からものの見方や考え方を身に付ける②新聞などの資料の活用のスキルを習得する③物事を多面的に捉え、自分の考えを表現する力を養う。

２．授業概要

ものの見方や考え方について知り、情報メディア特に新聞の活用方法を学ぶ。様々な問題を解いたり新聞記事を読んだりして考察したことを文章にまとめ、表現力を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では随時発表を行う。準備として、新聞記事に目を通し、関心のある記事をスクラップしておくことが重要である。

４．成績評価の方法及び基準

試験（４０％）、発表（４０％）、レポートなどの提出（２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特定しない。参考文献は授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、論理的思考とは
2	論理的思考と表現力の育成
3	論理的思考と現代社会におけるステレオタイプ
4	説明的文章の書き方①基礎
5	説明的文章の書き方②応用
6	情報メディアとその活用ー新聞のよさを知るー
7	反対意見も視野に入れた自分の考え
8	新聞活用法①ー総合面を活用して考えるー
9	新聞活用法②ー社説を読み比べて考えるー
10	新聞活用法③ー複数の意見を比べて考えるー
11	思考法の基礎①ー自分の意見を伝えるー基礎
12	思考法の基礎②ー自分の意見を伝えるー応用
13	プレゼンテーション①ー人に伝えたい自分の考えー基礎
14	プレゼンテーション②ー人に伝えたい自分の考えー応用
15	まとめ

科目名	分析力養成講座２　（後）［木3］Aクラス						
代表教員	木下　光彦	授業コード	GK7736A0	科目コード	GK7736	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代社会を知性的に生きるためには、物事を多面的に捉え、考える力を身に付けることが必要である。本講座では、①情報メディア、特に新聞を活用する上で基礎的なスキルを習得する②物事を多面的に捉え、自分の考えを表現する力を養う。

２．授業概要

新聞を活用して、物事を多面的に捉え思考するための学び方を習得する。ものの見方や考え方について知り、情報メディア特に新聞記事から考察したことを表現する力を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では随時発表を行う。準備として、新聞記事に目を通し、関心のある記事をスクラップしておくことが重要である。

４．成績評価の方法及び基準

試験（４０％）、発表（４０％）、レポートなどの提出（２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは指定しない。参考文献は授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　新聞記事の活用
2	説明的文章の書き方①基礎
3	説明的文章の書き方②応用
4	論理的思考と表現
5	意見文の書き方①基礎
6	意見文の書き方②応用
7	新聞活用法①ー記事を考えに生かすー基礎
8	新聞活用法②ー記事を考えに生かすー応用
9	新聞活用法③ー記事を批判的に捉えるー基礎
10	新聞活用法④ー記事を批判的に捉えるー応用
11	思考法の基礎①ー資料をもとに考え表現するー基礎
12	思考法の基礎②ー資料をもとに考え表現するー応用
13	プレゼンテーション①ー人に伝えたい自分の意見ー
14	プレゼンテーション②ー人に伝えたい自分の意見ー
15	まとめ

科目名	分析力養成講座２　（後）［木4］Bクラス						
代表教員	木下　光彦	授業コード	GK7736B0	科目コード	GK7736	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代社会を知性的に生きるためには、物事を多面的に捉え、考える力を身に付けることが必要である。本講座では、①情報メディア、特に新聞を活用する上で基礎的なスキルを習得する②物事を多面的に捉え、自分の考えを表現する力を養う。

２．授業概要

新聞を活用して、物事を多面的に捉え思考するための学び方を習得する。ものの見方や考え方について知り、情報メディア特に新聞記事から考察したことを表現する力を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では随時発表を行う。準備として、新聞記事に目を通し、関心のある記事をスクラップしておくことが重要である。

４．成績評価の方法及び基準

試験（４０％）、発表（４０％）、レポートなどの提出（２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは指定しない。参考文献は授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　新聞記事の活用
2	説明的文章の書き方①基礎
3	説明的文章の書き方②応用
4	論理的思考と表現
5	意見文の書き方①基礎
6	意見文の書き方②応用
7	新聞活用法①ー記事を考えに生かすー基礎
8	新聞活用法②ー記事を考えに生かすー応用
9	新聞活用法③ー記事を批判的に捉えるー基礎
10	新聞活用法④ー記事を批判的に捉えるー応用
11	思考法の基礎①ー資料をもとに考え表現するー基礎
12	思考法の基礎②ー資料をもとに考え表現するー応用
13	プレゼンテーション①ー人に伝えたい自分の意見ー
14	プレゼンテーション②ー人に伝えたい自分の意見ー
15	まとめ

科目名	外国文学　（後）［金5］						
代表教員	遠藤　紀明	授業コード	GK773700	科目コード	GK7737	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主題：文学的レトリックとしての歌曲
「歌」における「詞」すなわち「詩」を「読む」力をつけることを到達目標とする。

２．授業概要

シューベルト、シューマンおよびマーラーを中心に、ロマン派の作曲家たちによって付曲された詩と音楽をとりあげる。レトリック（修辞法）という側面から言葉による表現と音楽との関係について考えるとともに、近代市民社会の成立から現代へと至る過程で芸術を取り巻く状況がどう変化しているのかを考えていきたい。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

当該の時代（フランス革命から第一次世界大戦に至る主に19世紀のヨーロッパ史）について世界史、特にヨーロッパの歴史を予習しておくこと。「歴史資料」をポータルで配付する予定。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験またはレポート（評価の５０％）
平常点（毎回の小感想文に対する評価）（評価の５０％）
以上を合計して評価する。
詳細は初回の授業時に説明する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト（レジュメと対訳）や参考資料は、ポータルを利用してPDFファイルを配付する。
参考文献は授業中に適宜紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

テキストはすべて対訳を用いるので、外国語はできなくても問題ない。それよりも、歌、文学、歴史のいずれかに、そしてかならず「人間」に興味を持つことを条件とする。まずは休まないこと、そして、積極的に「読み」「聴いて」ほしい。

授業計画	
	［半期］ シューベルト、シューマンおよびマーラーによって付曲された作品を中心に、　ドイツ・リートを読む。
1	授業概要ならびに成績判定に関する説明 リートの定義と歴史
2	啓蒙主義と初期リート
3	シューベルト 初期歌曲から『糸を紡ぐグレートヒェン』へ
4	ゲーテとシューベルト1（シュトゥルム・ウント・ドラングの詩）
5	ゲーテとシューベルト2（古典期の詩）
6	シューベルトの後期歌曲
7	リュッケルトとシューマン
8	アイヒェンドルフとシューマン
9	ハイネとシューマン1（Op.24 他）
10	ハイネとシューマン2（『詩人の恋』）
11	メーリケとヴォルフ
12	『子供の魔法の角笛』とマーラー1　（『若き日の歌』）
13	『子供の魔法の角笛』とマーラー2（『子供の魔法の角笛』）
14	『子供の魔法の角笛』とマーラー3　（角笛交響曲）
15	20世紀　詩と音楽の変容

科目名	西洋文化史　（前）［火2］Pクラス						
代表教員	長谷川　美子	授業コード	GK7738P0	科目コード	GK7738	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパの音楽をより深く理解するためには、「音楽」と同時に、「ヨーロッパ」について知ること、その気候・風土、政治的・社会的状況とともに、その精神文化についても理解することが必要である。ヨーロッパ文化に親しみ、その成り立ちと、多様な展開について理解を深めることを目標とする。ヨーロッパ文化の基層をなすギリシア神話・キリスト教についても、基礎的な知識を身につけるようにする。

２．授業概要

多彩なヨーロッパ文化の歴史を、美術を中心に取り上げながら、古代ギリシア・ローマ・中世・ルネサンス・バロックに至るまで時代を追って概観する。授業ではスライド等を使用し、文学史、思想史、宗教史、社会史等の諸問題についても、音楽に関係の深いテーマを取り上げることになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

連続した講義内容なので、毎回の復習が大切である。配布したプリントや資料は次回の授業でも使用するので、必ず既習内容を見直しておくこと。プリント類は、授業で使用した後もきちんと管理し、随時見直し、調べて加筆するなどして学習に役立ててほしい。図書館にある『世界美術大全集』や、ＤＶＤ、授業中に紹介した参考文献を、適宜、参照し、理解を深めてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（試験の一部をレポートとする）（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢など）（評価の２０％）
授業内の小テスト及び小レポート（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。
参考文献については、授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヨーロッパについて広く知的好奇心を持ち、これまでに展開された様々な文化に親しんでほしい。配布したプリントは継続使用することが多いので、必要なものは忘れずに持参すること。遅刻、授業中の私語、スマホ・携帯電話の使用を厳禁する。
2/ 3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない（欠格条件）。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、古代ギリシア
2	古代ギリシア
3	古代ローマ（前半）
4	古代ローマ（後半）
5	初期キリスト教
6	ビザンティン
7	初期中世
8	紀元1000年頃のヨーロッパ
9	ロマネスク
10	ゴシック
11	ゴシック～初期ルネサンス
12	初期ルネサンス～盛期ルネサンス
13	盛期ルネサンス
14	北方ルネサンス
15	マニエリスム～バロック、試験

科目名	西洋文化史　（後）［火2］Qクラス						
代表教員	長谷川　美子	授業コード	GK7738Q0	科目コード	GK7738	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ヨーロッパの音楽をより深く理解するためには、「音楽」と同時に、「ヨーロッパ」について知ること、その気候・風土、政治的・社会的状況とともに、その精神文化についても理解することが必要である。ヨーロッパ文化に親しみ、その成り立ちと、多様な展開について理解を深めることを目標とする。ヨーロッパ文化の基層をなすギリシア神話・キリスト教についても、基礎的な知識を身につけるようにする。

２．授業概要

多彩なヨーロッパ文化の歴史を、美術を中心に取り上げながら、古代ギリシア・ローマ・中世・ルネサンス・バロックに至るまで時代を追って概観する。授業ではスライド等を使用し、文学史、思想史、宗教史、社会史等の諸問題についても、音楽に関係の深いテーマを取り上げることになる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

連続した講義内容なので、毎回の復習が大切である。配布したプリントや資料は次回の授業でも使用するので、必ず既習内容を見直しておくこと。プリント類は、授業で使用した後もきちんと管理し、随時見直し、調べて加筆するなどして学習に役立ててほしい。図書館にある『世界美術大全集』や、ＤＶＤ、授業中に紹介した参考文献を、適宜、参照し、理解を深めてほしい。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（試験の一部をレポートとする）（評価の６０％）
平常点（授業への参加姿勢など）（評価の２０％）
授業内の小テスト及び小レポート（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。
参考文献については、授業中に随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヨーロッパについて広く知的好奇心を持ち、これまでに展開された様々な文化に親しんでほしい。配布したプリントは継続使用することが多いので、必要なものは忘れずに持参すること。遅刻、授業中の私語、スマホ・携帯電話の使用を厳禁する。
2/ 3以上の出席がない場合は、試験を受けることができない（欠格条件）。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、古代ギリシア
2	古代ギリシア
3	古代ローマ（前半）
4	古代ローマ（後半）
5	初期キリスト教
6	ビザンティン
7	初期中世
8	紀元1000年頃のヨーロッパ
9	ロマネスク
10	ゴシック
11	ゴシック～初期ルネサンス
12	初期ルネサンス～盛期ルネサンス
13	盛期ルネサンス
14	北方ルネサンス
15	マニエリスム～バロック、試験

科目名	テクノロジーと芸術　（前）［月5］Pクラス						
代表教員	平野　剛	授業コード	GK7740P0	科目コード	GK7740	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

本講座では、音楽家やダンサーなど体を使って芸術表現を行うパフォーマーの運動制御について学びます。
・楽器演奏やダンスにおける体の使い方
・巧みな運動や演奏を可能にする筋・神経・脳のコントロール
・効率的な練習方法と怪我　など
最新のテクノロジーが明らかにした芸術家の巧みな運動制御について、解剖学、運動制御学、生理学、神経科学、脳科学、認知科学、教育学、心理学、スポーツ科学などの分野を包括的に学ぶことで習得します。

2．授業概要

プロ音楽家とアマチュア音楽家、あるいはプロのダンサーとダンス未経験者の体の使い方にはどのような違いがあるのでしょうか？練習を重ねる過程で、どのような怪我をする可能性があるのでしょうか？音楽は人の脳にどのような影響を与えるのでしょうか？近年、テクノロジーの発展により、これらの問いに答える研究成果が出てきています。本講座では、ピアニスト、声楽家（ミュージカルを含む）、管楽器奏者、打楽器奏者、ダンサーを含むパフォーマーに関する研究知見をわかりやすく紹介します。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に紹介する参考文献や資料を読み理解すること。

4．成績評価の方法及び基準

毎授業のリアクションペーパー（評価の50%）
期末レポート（評価の50%）

リアクションペーパーは、授業中に配布し、毎回異なる課題に回答してもらいます。
期末レポートの課題は、第10回の授業以降に提示します。
与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。
参考文献：
「音楽心理学入門」　星野悦子（編著）　誠信書房　2015年　第1刷発行　ISBN978-4-414-30004-8 C3011

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本講座は、下記事柄に興味のある学生を対象とします。
・音楽家やダンサーの体の使い方に興味のある学生
・テクノロジーを用いた身体計測に興味のある学生
・科学的な話に興味のある学生

履修上の注意
・出席回数が10回未満の場合は、期末レポートを提出することができません。

授業計画	
	［半期］
1	芸術家を科学的アプローチで研究することの意義
2	音の物理学
3	ピアノ演奏の科学
4	金管楽器演奏の科学
5	打楽器演奏の科学
6	歌の科学
7	ダンスの科学
8	初見演奏の科学－ピアニストの初見演奏－
9	音楽演奏家の脳活動
10	モーツァルトを聴くと頭はよくなるのか？
11	演奏評価の心理学－人はどのように演奏を聴き評価しているか？－
12	音楽演奏不安－緊張・あがりへの対処法－
13	合奏とテンポーなぜテンポは速くなってしまうのか？－
14	音楽演奏家にみられる病気
15	振り返り

科目名	テクノロジーと芸術　（後）［月5］Qクラス						
代表教員	平野　剛	授業コード	GK7740Q0	科目コード	GK7740	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

本講座では、音楽家やダンサーなど体を使って芸術表現を行うパフォーマーの運動制御について学びます。
・楽器演奏やダンスにおける体の使い方
・巧みな運動や演奏を可能にする筋・神経・脳のコントロール
・効率的な練習方法と怪我　など
最新のテクノロジーが明らかにした芸術家の巧みな運動制御について、解剖学、運動制御学、生理学、神経科学、脳科学、認知科学、教育学、心理学、スポーツ科学などの分野を包括的に学ぶことで習得します。

2．授業概要

プロ音楽家とアマチュア音楽家、あるいはプロのダンサーとダンス未経験者の体の使い方にはどのような違いがあるのでしょうか？練習を重ねる過程で、どのような怪我をする可能性があるのでしょうか？音楽は人の脳にどのような影響を与えるのでしょうか？近年、テクノロジーの発展により、これらの問いに答える研究成果が出てきています。本講座では、ピアニスト、声楽家（ミュージカルを含む）、管楽器奏者、打楽器奏者、ダンサーを含むパフォーマーに関する研究知見をわかりやすく紹介します。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に紹介する参考文献や資料を読み理解すること。

4．成績評価の方法及び基準

毎授業のリアクションペーパー（評価の50%）
期末レポート（評価の50%）

リアクションペーパーは、授業中に配布し、毎回異なる課題に回答してもらいます。
期末レポートの課題は、第10回の授業以降に提示します。
与えられた課題を講義内容の視点と絡めて深く考察しているかどうかを評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。
参考文献：
「音楽心理学入門」　星野悦子（編著）　誠信書房　2015年　第1刷発行　ISBN978-4-414-30004-8 C3011

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

本講座は、下記事柄に興味のある学生を対象とします。
・音楽家やダンサーの体の使い方に興味のある学生
・テクノロジーを用いた身体計測に興味のある学生
・科学的な話に興味のある学生

履修上の注意
・出席回数が10回未満の場合は、期末レポートを提出することができません。

授業計画	
	［半期］
1	芸術家を科学的アプローチで研究することの意義
2	音の物理学
3	ピアノ演奏の科学
4	金管楽器演奏の科学
5	打楽器演奏の科学
6	歌の科学
7	ダンスの科学
8	初見演奏の科学－ピアニストの初見演奏－
9	音楽演奏家の脳活動
10	モーツァルトを聴くと頭はよくなるのか？
11	演奏評価の心理学－人はどのように演奏を聴き評価しているか？－
12	音楽演奏不安－緊張・あがりへの対処法－
13	合奏とテンポーなぜテンポは速くなってしまうのか？－
14	音楽演奏家にみられる病気
15	振り返り

科目名	芸術と社会 （前） ［水1］Pクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	GK7741P0	科目コード	GK7741	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

・おもに19世紀末から20世紀にかけての世紀転換期のウィーンの音楽や文化について知識を深める。
・作曲家とその音楽を、時代の風潮や国家の政策との関係から説明できるようになる。

２．授業概要

視聴覚資料の鑑賞もまじえつつ、講義形式で授業を行う。
19世紀から20世紀にかけての世紀転換期のウィーンの音楽、そのウィーンにおける反ユダヤ主義思想がグスタフ・マーラーに及ぼした影響などをテーマとしてとりあげる。その後、哲学者にして音楽社会学者でもあるテオドール・ヴィーゼングルント・アドルノ（1903-69）が執筆したマーラー論、ナチス・ドイツやソ連のスターリン体制などの全体主義国家における音楽についても考察をすすめる予定である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では音楽作品をCDやDVDで鑑賞することもありますが、それらの作品の一部しか実際には聴くことができないので、授業で観賞した作品の全体を聴いたり、授業でとりあげた作曲家の他の作品について調べたりしてください。以上の復習をするためには、1回の授業につき60分ほどの時間がかかります。

４．成績評価の方法及び基準

・平常点（授業への参加姿勢、随時実施する授業後小テスト）が合計70点満点。
・期末レポートは30点満点。
・以上の合計100点満点のうち、Ｓは90点以上、Ａは80～89点、Ｂは70～79点、Ｃは60～69点、Ｄ（単位取得不可）は59点以下。ただし、合計点数が60点を上回っても、欠席回数（遅刻・早退が3回で１回の欠席とする）が５回を超える場合は単位取得不可とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

配布プリントをもとに、講義を行う。
参考文献は授業で紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・授業開始時間の10分後～30分後に教室に現れた場合は、遅刻とみなす。
・授業開始後30分以上遅れて教室に現れた場合は、欠席とみなす。
・授業開始後１時間未満での早退は、欠席とみなす。
・遅刻・早退３回で、１回の欠席とみなす。
・不正出席（学生証をカードリーダーに通しただけで逃亡するなど）が２回以上発覚した場合は、単位取得不可とする（欠格条件）。
・３分の２以上の出席がない場合は、期末レポートを提出する資格を認めない（欠格条件）。
・授業中の私語は慎むこと。ひどい場合は退室してもらうこともある。
・授業中に食事をしないこと。飲み物は水分補給という意味で可。ただし、過剰にくつろがないこと。

授業計画	
	［半期］
1	はじめに
2	オペレッタとウィーン
3	世紀転換期のウィーンの文化と作曲家たち
4	世紀転換期のウィーンの作曲家のオペラ
5	世紀転換期のウィーンの美術
6	ウィーンにおける反ユダヤ主義とグスタフ・マーラー
7	ウィーンにおけるマーラーの評価
8	マーラーと同時代の作曲家の評価
9	ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
10	付論①　アドルノの音楽論(1)：概論
11	付論②　アドルノの音楽論(2)：美学理論・音楽論
12	付論③　アドルノの音楽論(3)：マーラー論
13	付論④　全体主義：ナチス・ドイツ、ソ連のスターリン体制
14	付論⑤ ソ連の音楽と社会主義リアリズム
15	まとめ

科目名	芸術と社会　（後）［水2］Qクラス						
代表教員	姫田　大	授業コード	GK7741Q0	科目コード	GK7741	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目的は、音楽と社会の関係を考えることにある。音楽は社会と関わりながら生み出され、伝えられ、広がって行く。身近な例や実際の演奏を出来る限り活用しつつ音楽と社会の関係を研究する。

２．授業概要

音楽と社会の関係を考えるために、歴史的構築、個人の役割、社会的維持の３つの項目を立て、それぞれの具体例とそれらの相互関係に焦点を合わせて、問題の所在を理解する。

また、楽器という観点から音楽と社会を考え、移動という観点から明治以降の様々な問題を扱い、最後に音楽そのものが変化することを、文化の移動と触変、接触と言う観点から扱う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、3回の授業に1回づつ、レポートを作成し発表することが必要。また、場合によって授業内で演奏が必要となる。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験および授業中実施のレポート内容を考慮し、総合的に成績を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に指定しない。授業中にプリントを配布。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻は授業開始３０分後までとし、それ以降の入室は原則として認めない。また、遅刻３回を欠席1回とカウントする。
授業の欠席が、授業回数の3分の1を超える者については、成績認定を行わない。

授業計画	
	［半期］
1	概論　歴史的構築、個人の創作と経験、社会的維持
2	社会的維持　伝承の仕掛け１　口頭性と書記性、「能」の伝承と「楽譜」について
3	社会的維持 伝承の仕掛け２　世界に見る伝承の仕掛けとソルフェージュ
4	社会的維持 伝播の仕掛け１　産業、印刷、演奏会場、放送、録音と録画、フェスティバルとコンクール
5	社会的維持 伝播の仕掛け２　オーケストラ、職業音楽家とアマチュアの果たす役割
6	音楽教育と社会的維持　産業と学校、助成・保護と検閲・妨害
7	社会的維持と少数者の関係　維持されない音楽　バスク民族を例に
8	社会的存在としての楽器１　楽器製作　木管楽器の故郷・仏クーテゥー・ビュッセイ村
9	社会的存在としての楽器２　楽器分類　ミュゼット（形式と仏民族楽器）
10	社会的存在としての楽器3　楽器と音楽家の地位、楽器の改良と改悪
11	音楽の地理的移動１　異文化の摂取と自文化の輸出
12	音楽の地理的移動２　明治以降の日本　西洋音楽の受容と歌謡曲
13	音楽の地理的移動3　「軍楽隊」トルコからフランスへ　「雅楽」中国から日本、朝鮮、ベトナムへ
14	音楽の変化と社会 宮城道雄「春の海」にみる音楽の移動と触変
15	まとめ 質疑応答

科目名	音響工学芸術論　（前）［火1］電子楽器経験無い学生向け						
代表教員	富　正和	授業コード	GK774200	科目コード	GK7742	期間	半期
担当教員	前田　康徳						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

マイクロフォンを使った録音の基礎を学ぶ。
I.マイクアレンジ(音源とマイクの距離・角度・高さ)の大切さを認識し、より良い録音に繋がる一歩とする。
II.音響機器全般の操作を学び、基礎的な録音技術の習得をする。(マイクの扱い方・ミキサー・録音編集ソフトの扱い・他)

『マイク一本でもミキシング』『鏡のように客観的に楽器の音を聞く』『考えて音を録れる』

・クラシック系学生は、日々の楽器練習録音の質向上、マイクの知識が演奏会音響使用時良い演奏に繋がる。
・音楽音響デザインコース及び、ポピュラー音楽系学生は、映像作品などの音声収録技術の向上。
・演劇ミュージカルなどでの再生効果音作成の表現の向上。

２．授業概要

マイク1本での基礎的な録音から始めます。『マイク一本でもミキシング』
本授業では複数のマイクを使ったり、多重録音、楽器のアンサンブルの録音はいたしません。使用するマイクは多くても4本程度。音源は長くて1分。

初めて音響機器を操作する人や、演奏を目指す受講者でも、録音技術の理解と実践につながるよう、録音対象を以下の3つとします。
・声の録音(ストレートトーク、ナレーション、影アナウンス、MCなどの話声)
・サウンドステッカーの録音(楽器演奏による開演ベル、ファンファーレ、映像作品や公共の場における喚起音)
・効果音の録音(演劇やミュージカル、映像作品における、目的を持った効果音)

マイクの正しい扱い方、マイクを通して『鏡のように楽器の音を客観的に聞く』。マイクを手に持って音を収音する経験。(スタンドももちろん使います)
柔軟で幅広い収音方法の習得し、録音～再生～編集作業や音声ファイル(録音物)の扱いを学ぶ。
上記の録音対象を、受講者全員が実施体験し、『考えて音を録れる』技術を習得する。
録音対象の演奏者は受講者を基本とするが、講師との相談により受講外学生の演奏協力を得ることも可能。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業で録音した音源は授業内での編集も行うが、基本的に次回の授業までに各自編集加工を行う。
・音楽音響デザインコースの学生は、各種公演や学内のプロジェクトからの、録音依頼を授業以外でも率先して実施。

４．成績評価の方法及び基準

参加姿勢 50%
レポート 25%
授業中に実施した音源の提出 25%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

サウンドレコーディング技術概論

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

録音に関する基本的な機材はスタジオ機材を使いますが、編集に関して各自のパソコンとDAWソフトが必須となります。
ただし、ProToosに限らず、録音ファイルのインポート(受け渡し)・編集・エクスポート(出力)が出来れば、ソフトの種類は問わない。
スマートフォンなどのiOS機器による編集も可。
演奏会や他授業で使用する音源録音の依頼についても可能。
事前の相談と許可を与えた受講者には、内容1分程度の録音であれば、影アナウンス・効果音などを収録しても良い。

授業計画	
	［半期］ クラシック系の学生（電子楽器経験無い学生向け）
1	スタジオの使用方法オリエンテーション ・マイクとスタンド、ケーブルの扱い ・マイクを恐れずに、自信を持って扱うには、その簡単な仕組み知ること
2	マイクを通して音を聞く(すぐ録らない) ・マイクを手に持って、いろんな位置で音を聞いてみる ・録音の仕方の前に、録音した音の聞き方
3	計画→録音→再生→編集→出力の流れを学ぶ ・いきなり録音は始められない。生の音の状況と準備、想定
4	I.声の録音(マイクとスタンドの扱いに慣れる) ・ナレーション、影アナウンスなどのストレートトーク録音
5	I.声の録音(ミキサーと録音機の扱いに慣れる) ・録音している時に聞く音と、事後に再生して聞く音の違い
6	I.声の録音のまとめと試聴 ・人の声の強弱、高低、遠近について、歌を含め声を録るのが一番難しいと認識する
7	II.サウンドステッカーの録音(前後のトリム) ・開演ベル ・自分の持ち楽器を、『鏡のようにマイクを通して聞くこと』で、自らの楽器の音色について考察できることを認識する
8	II.サウンドステッカーの録音(ボイスクレジット・ファイル名の管理) ・ファンファーレ、鐘 ・音程や音階を持った録音時に気をつけること
9	II.サウンドステッカーの録音(マイクを追加してみる) ・弱音の楽器を収音してみる。 ・音の心理効果について、意味が伝わる音作り
10	I.サウンドステッカーの録音のまとめと試聴 ・数小節で、イメージや意味を伝えるために、どのような音作りが必要か？ ・音のアイデア、収音技術のアイデア、両方のバランスを備える
11	III.効果音の録音(編集) ・ex鳥の羽ばたき、焚き火 ・現実にある音の再現、足音など人間の所作音
12	III.効果音の録音(加工) ・ex心臓の音を作ってみよう ・現実と創作の違い、内面と外面の音の扱いから、どのように収音するべきか
13	III.効果音の録音(多重録音) ・ex継続する音を録ってみよう。空調、吹きやまぬ風 ・縮めることは簡単だが、伸ばすことは少し困難
14	III.効果音の録音のまとめと試聴 ・環境音であっても、どのように扱うか ・カクテルパーティー効果をうまく使う
15	3つの録音のまとめと考察 ・目的の音に辿り着くには、探すより作る方が早い ・日々の楽器の収音や録音に活かすには、一つ一つの丁寧な収音録音技術が支えになる

科目名	音響工学芸術論　（後）［火1］ブラックホール系の学生向け						
代表教員	富　正和	授業コード	GK7742A0	科目コード	GK7742	期間	半期
担当教員	前田　康徳						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

マイクロフォンを使った録音の基礎を学ぶ。
I.マイクアレンジ(音源とマイクの距離・角度・高さ)の大切さを認識し、より良い録音に繋がる一歩とする。
II.音響機器全般の操作を学び、基礎的な録音技術の習得をする。(マイクの扱い方・ミキサー・録音編集ソフトの扱い・他)

『マイク一本でもミキシング』『鏡のように客観的に楽器の音を聞く』『考えて音を録れる』

・クラシック系学生は、日々の楽器練習録音の質向上、マイクの知識が演奏会音響使用時良い演奏に繋がる。
・音楽音響デザインコース及び、ポピュラー音楽系学生は、映像作品などの音声収録技術の向上。
・演劇ミュージカルなどでの再生効果音作成の表現の向上。

２．授業概要

マイク1本での基礎的な録音から始めます。『マイク一本でもミキシング』
本授業では複数のマイクを使ったり、多重録音、楽器のアンサンブルの録音はいたしません。使用するマイクは多くても4本程度。音源は長くて1分。

初めて音響機器を操作する人や、演奏を目指す受講者でも、録音技術の理解と実践につながるよう、録音対象を以下の3つとします。
・声の録音(ストレートトーク、ナレーション、影アナウンス、MCなどの話声)
・サウンドステッカーの録音(楽器演奏による開演ベル、ファンファーレ、映像作品や公共の場における喚起音)
・効果音の録音(演劇やミュージカル、映像作品における、目的を持った効果音)

マイクの正しい扱い方、マイクを通して『鏡のように楽器の音を客観的に聞く』。マイクを手に持って音を収音する経験。(スタンドももちろん使います)
柔軟で幅広い収音方法の習得し、録音～再生～編集作業や音声ファイル(録音物)の扱いを学ぶ。
上記の録音対象を、受講者全員が実施体験し、『考えて音を録れる』技術を習得する。
録音対象の演奏者は受講者を基本とするが、講師との相談により受講外学生の演奏協力を得ることも可能。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・授業で録音した音源は授業内での編集も行うが、基本的に次回の授業までに各自編集加工を行う。
・音楽音響デザインコースの学生は、各種公演や学内のプロジェクトからの、録音依頼を授業以外でも率先して実施。

４．成績評価の方法及び基準

参加姿勢 50%
レポート 25%
授業中に実施した音源の提出 25%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

サウンドレコーディング技術概論

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

録音に関する基本的な機材はスタジオ機材を使いますが、編集に関して各自のパソコンとDAWソフトが必須となります。
ただし、ProToosに限らず、録音ファイルのインポート(受け渡し)・編集・エクスポート(出力)が出来れば、ソフトの種類は問わない。
スマートフォンなどのiOS機器による編集も可。
演奏会や他授業で使用する音源録音の依頼についても可能。
事前の相談と許可を与えた受講者には、内容1分程度の録音であれば、影アナウンス・効果音などを収録しても良い。

授業計画	
	［半期］ ブラックホールの学生系向け
1	スタジオの使用方法オリエンテーション ・マイクとスタンド、ケーブルの扱い ・録音の仕方の前に、録音した音の聞き方
2	マイクを通して音を聞く(まだ録らない) ・生の音源の状況、録音レベル、録音機の準備、ダイナミックマイクとコンデンサーマイクの使い分け ・マイクを手に持って、いろんな位置で音を聞いてみる
3	計画→録音→再生→編集→出力の流れを学ぶ ・一貫してどのような音を録り、伝えたいのかをよく考える ・3つの録音のアイデアについてディスカッション
4	I.声の録音(無編集で録るには？) ・ナレーション、影アナウンスなどのストレートトーク ・遠くからのセリフなど、マイクアレンジの大切さを学ぶ
5	I.声の録音(無編集で録るには？) ・様々の音の中で、『声』が難しいのは、そこに意味やインフォメーションが含まれているから。 ・ボイスクレジット、キューの出し方、音量フェーダーの操作
6	I.声の録音のまとめと試聴 ・人の声の強弱、高低、遠近について、声を録るのが一番難しい ・音は経験によるところが大きい
7	II.サウンドステッカーの録音(前後の編集・テイクの管理) ・開演ベル ・注意喚起音はどのように表現すればいいか？
8	II.サウンドステッカーの録音(ボイスクレジット・ファイル名の管理) ・ファンファーレ、鐘 ・音程や音階を持った録音時に気をつけること
9	II.サウンドステッカーの録音(マイクを追加してみる) ・弱音の楽器を収音してみる。 ・音の心理効果について、意味が伝わる音作り
10	I.サウンドステッカーの録音のまとめと試聴 ・数小節で、イメージや意味を伝えるために、どのような音作りが必要か？ ・音のアイデア、収音技術のアイデア、両方のバランスを備える
11	III.効果音の録音(編集) ・ex鳥の羽ばたき、焚き火 ・現実にある音の再現、足音など人間の所作音
12	III.効果音の録音(加工) ・ex心臓の音を作ってみよう ・現実と創作の違い、内面と外面の音の扱いから、どのように収音するべきか
13	III.効果音の録音(多重録音) ・ex継続する音を録ってみよう。空調、吹きやまぬ風 ・縮めることは簡単だが、伸ばすことは少し困難
14	III.効果音の録音のまとめと試聴 ・環境音であっても、どのように扱うか ・カクテルパーティー効果をうまく使う
15	3つの録音のまとめと考察 ・目的の音に辿り着くには、探すより作る方が早い ・日々の楽器の収音や録音に活かすには、一本一本の丁寧な収音録音技術が支えになる

科目名	プロデュース論／プロデュース学　（前）［火1］ブラックホール系の学生向け						
代表教員	徳永　宏	授業コード	GK774300	科目コード	GK7743	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主にコンサート音響（SR)についての基礎知識とテクニックを学習する。
音を出すための一連の流れを把握することにより、簡易的な音響セットであれば１人でも対応できるようにすることが目標である。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートして、マイク、ミキサー、アンプなどの調整方法を順を追って学習する。
後半では実際の演奏に対して実習を実施する予定である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

参考文献等で予め予備知識を得ておくと良い。
実習した内容は各自まとめて書き記しておくことを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点80%
授業内課題20%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業に必要なテキストはその都度配布する。

＜参考文献＞
PA入門［改訂版］基礎が身に付くPAの教科書
小瀬 高夫（著），須藤 浩（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［半期］ ブラックホールの学生系向け
1	ガイダンス
2	ケーブルの取り扱い方
3	各種スタンド立調整について
4	ミキサーの構造①～マイクプリアンプ～
5	マイクの種類とその特性
6	ラインレベル機器の処理について（D.Iなど）
7	ミキサーの構造②～イコライザーの役割～
8	ミキサーの構造③～パンポットとAUX～
9	グラフィックイコライザーとパワーアンプの役割
10	スピーカーチューニング実習
11	代表的なエフェクターの使用方法
12	モニタースピーカーの設置と調整方法（２台）
13	モニタースピーカーの設置と調整方法（複数台）
14	音響実習（バンド）
15	まとめと総評

科目名	プロデュース論／プロデュース学　（後）［火1］電子楽器経験無い学生向け						
代表教員	徳永　宏	授業コード	GK7743A0	科目コード	GK7743	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主にコンサート音響（SR)についての基礎知識とテクニックを学習する。
音を出すための一連の流れを把握することにより、簡易的な音響セットであれば１人でも対応できるようにすることが目標である。

２．授業概要

ケーブルの巻き方からスタートして、マイク、ミキサー、アンプなどの調整方法を順を追って学習する。
後半では実際の演奏に対して実習を実施する予定である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

参考文献等で予め予備知識を得ておくと良い。
実習した内容は各自まとめて書き記しておくことを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

平常点80%
授業内課題20%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業に必要なテキストはその都度配布する。

＜参考文献＞
PA入門［改訂版］基礎が身に付くPAの教科書
小瀬 高夫（著），須藤 浩（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［半期］ クラシック系の学生（電子楽器経験無い学生向け）
1	ガイダンスと音響概論
2	ケーブルの種類とケーブルの巻き方
3	各種スタンド立て方とマイクホルダーの調整
4	ミキサーの構造①～マイクプリアンプ～
5	マイクの種類とその特性
6	ラインレベル機器の処理について（アンバランス）
7	ミキサーの構造②～イコライザーの役割～
8	ミキサーの構造③～パンポットとAUX～
9	グラフィックイコライザーとパワーアンプの役割
10	スピーカーチューニング実習
11	モニタースピーカーの設置と調整方法
12	代表的なエフェクターの使用方法
13	音響実習①（弾き語り）
14	音響実習②（アンサンブル系）
15	まとめと総評

科目名	舞踊史１　（前）［火1］						
代表教員	川島　京子	授業コード	GK774500	科目コード	GK7745	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

起源から現代までの舞踊史の流れと背景が理解できるようになる。
それらを踏まえた上で、今現在劇場で上演されている舞踊作品を、自分なりの問題意識に沿って考察できるようになる。

２．授業概要

本講義は、古代の舞踊から劇場芸術となったバレエ、現代のコンテンポラリーダンスまでを取り上げ、その歴史的発展を、音楽、美術その他の芸術一般の歴史、さらには政治や経済の歴史とも関連させながら概観してゆきます。
前期の「舞踊史１」では、舞踊の起源から19世紀のクラシック・バレエまでを取り上げ、後期の「舞踊史２」では、20世紀のバレエ・リュスからコンテンポラリーダンス、さらに日本の舞踊史を学びます。
それぞれ、歴史的背景と上演作品、様式の変化について、重要な資料、フィルム映像を紹介しながら、お話してゆきたいと思っています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で指示します。
レポート課題は、各自鑑賞した舞台作品の考察を予定しています。

４．成績評価の方法及び基準

レポート　50%　指定する課題について独自のテーマ、アプローチ方法で考察し、興味深い結論を導き出せているか
平常点　50%　授業参加への積極性、毎回の出席カードへのコメントなど

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回プリントを配布します。
参考書：『オックスフォード　バレエダンス事典』（平凡社、2010年5月）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

2/3以上の出席をもって評価対象とします。

授業計画	
	［半期］ 古代から19世紀までの舞踊史。
1	ガイダンス、授業の進め方
2	舞踊史概観①：舞踊の発生と世界の民族舞踊
3	舞踊史概観②：劇場舞踊の誕生から現代まで
4	フランス宮廷バレエの時代
5	近代バレエの誕生①：ロマンティック・バレエ『ラ・シルフィード』
6	近代バレエの誕生②：ロマンティック・バレエ『ジゼル』
7	ロマンティック・バレエからクラシック・バレエへ：過渡期の作品『白鳥の湖』①
8	ロマンティック・バレエからクラシック・バレエへ：過渡期の作品『白鳥の湖』②
9	クラシック・バレエ様式の完成：『眠りの森の美女』
10	クラシック・バレエ作品研究①：『海賊』『ドン・キホーテ』
11	クラシック・バレエ作品研究②：『コッペリア』『バヤデルカ』
12	クラシック・バレエ作品研究③：『くるみ割り人形』『ライモンダ』
13	ロシア帝政バレエの時代
14	19世紀末のバレエと20世紀の幕開け
15	半期のまとめ

科目名	舞踊史２　（後）［火1］						
代表教員	川島　京子	授業コード	GK774600	科目コード	GK7746	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

起源から現代までの舞踊史の流れと背景が理解できるようになる。
それらを踏まえた上で、今現在劇場で上演されている舞踊作品を、自分なりの問題意識に沿って考察できるようになる。

２．授業概要

本講義は、古代の舞踊から劇場芸術となったバレエ、現代のコンテンポラリーダンスまでを取り上げ、その歴史的発展を、音楽、美術その他の芸術一般の歴史、さらには政治や経済の歴史とも関連させながら概観してゆきます。
前期の「舞踊史１」では、舞踊の起源から19世紀のクラシック・バレエまでを取り上げ、後期の「舞踊史２」では、20世紀のバレエ・リュスからコンテンポラリーダンス、さらに日本の舞踊史を学びます。
それぞれ、歴史的背景と上演作品、様式の変化について、重要な資料、フィルム映像を紹介しながら、お話してゆきたいと思っています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業の中で指示します。
レポート課題は、各自鑑賞した舞台作品の考察を予定しています。

４．成績評価の方法及び基準

試験　25%　基礎を理解できているか
レポート　25%　指定する課題について独自のテーマ、アプローチ方法で考察し、興味深い結論を導き出せているか
平常点　50%　授業参加への積極性、毎回の出席カードへのコメントなど

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回プリントを配布します。
参考書：『オックスフォード　バレエダンス事典』（平凡社、2010年5月）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「舞踊史１」を既修であることが望ましいです。
2/3以上の出席をもって評価対象とします。

授業計画	
	［半期］
1	20世紀の幕開けバレエ・リュス①：フォーキン
2	20世紀の幕開けバレエ・リュス②：ニジンスキー
3	20世紀の幕開けバレエ・リュス③：マシーン、ニジンスカ、バランシン
4	ロシア革命とバレエ①：ソビエト時代のバレエ
5	ロシア革命とバレエ②：西側への亡命舞踊家たち
6	バレエ・リュス後の大きな流れ①：抽象バレエ
7	バレエ・リュス後の大きな流れ②：ドラマティック・バレエ
8	バレエ・リュス後の大きな流れ③：モダン・バレエ
9	モダンダンス、ポストモダンダンス
10	コンテンポラリーダンス
11	日本洋舞史①：モダンダンス、舞踏
12	日本洋舞史②：バレエ
13	日本洋舞史③：コンテンポラリーダンス
14	舞踊史総まとめ
15	試験と考察

科目名	運動生理学　（前）［火1］						
代表教員	平野　剛	授業コード	GK774900	科目コード	GK7749	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

運動時の筋・関節・神経・呼吸・循環などの生理学的な機能や働き、構造的変化について理解する。

２．授業概要

運動時に身体にどのようなことが生じているのか、その現象や仕組みについて学ぶ。運動による生理学的変化を筋・関節・神経・呼吸・循環などに分けて学習していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業の内容に関して、参考文献などを読んでおくこと。不定期に小テスト（確認テスト）を行うので復習しておくこと（小テスト実施日は授業内で提示する）。

４．成績評価の方法及び基準

小テスト30%、試験70%
第15回目の授業時間中に試験を実施（試験の解説も同時間内に実施）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業時に適宜資料を配布
【参考文献】
入門運動生理学　第4版（勝田　茂編著）杏林書院 2015
運動生理学の基礎と発展　改訂版（春日規克, 竹倉宏明編著）フリースペース 2006
運動生理学の基礎と応用　健康科学へのアプローチ（長澤純一, 杉浦雄策, 古川覚他著）ナップ 2016

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション 運動生理学概論
2	運動と骨格筋①筋の種類と構造・収縮様式について
3	運動と骨格筋②ATPとエネルギー供給機構について
4	運動と骨格筋②筋繊維の種類と筋疲労の要因・筋損傷について
5	運動と関節
6	運動と神経
7	運動と呼吸
8	運動と循環
9	運動と体温
10	運動と栄養
11	運動とホルモン
12	年齢による身体の変化
13	運動処方
14	トレーニングの方法と効果
15	試験とまとめ

科目名	解剖学　（前）［火4］						
代表教員	大塚　成人	授業コード	GK775100	科目コード	GK7751	期間	半期
担当教員	井上　由理子						
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

将来、ダンサーや指導者として活躍するために、踊るための体の骨格(骨、靭帯、関節)と筋の構造および機能を理解する。

２．授業概要

全身の骨格(骨、靭帯、関節)と筋の構造および機能について、配布資料や骨格標本を参考にしながら理解へと導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習は配布資料をよく読んでおき、復習は授業中に話したことと配布資料で知識を定着させ、その知識を実技の授業中の動作に役立てる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点30%と授業内で行う4回のテスト70%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて配布資料

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回の授業で得た知識を単なる知識としてだけではなく、自ら考え知恵として実技の授業で試しながら公演パフォーマンスに応用してもらいたい。

授業計画	
	[半期]
1	骨格（骨、靭帯、関節）と筋の構造および作用
2	第1回テスト（骨格（骨、靭帯、関節）と筋の構造および作用）
3	体幹の骨格（脊柱、胸郭）の構造
4	背部、胸部の筋の構造および機能
5	横隔膜、腹部の筋の構造および機能
6	第2回テスト（体幹の骨格（脊柱、胸郭）の構造と背部、胸部、横隔膜、腹部の筋の構造および機能）
7	上肢の骨格（上肢帯、自由上肢）の構造
8	上肢帯、上腕の筋の構造および機能
9	前腕、手の筋の構造および機能
10	第3回テスト（上肢の骨格（上肢帯、自由上肢）の構造と上肢帯、上腕、前腕、手の筋の構造および機能）
11	下肢の骨格（下肢帯、自由下肢）の構造
12	下肢帯、大腿の筋の構造および機能
13	下腿、足の筋の構造および機能
14	頭蓋骨の構造と頭部、頸部の筋の構造および機能
15	第4回テスト（頭蓋骨、下肢の骨格（下肢帯、自由下肢）の構造と頭部、頸部、下肢帯、大腿、下腿、足の筋の構造および機能）

科目名	動作学　（後）［火4］						
代表教員	仲保　徹	授業コード	GK775200	科目コード	GK7752	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

解剖学で得た知識をもとに、自身の姿勢や関節運動、動作に対する興味・関心を深め、実習を通して姿勢の保持や制御、動作のメカニズムを理解する。
姿勢を力学的（身体重心と支持基底面の関係）に理解する。
基本的な動作から身体の関節運動と筋活動のメカニズムを理解する。

２．授業概要

動作は、連続的な姿勢変化と考える。その動作を理解するために、姿勢に対する理解を深める。形態計測を行い、自身の四肢の長さ、太さを把握し、姿勢との関係を学習する。身体重心と支持基底面（足底面）の関係からバランス反応、姿勢制御を体験しながら学習する。基本的動作と関節運動、筋活動について、実際に動作を行いながら理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

解剖学の知識（特に関節運動の表現の仕方）が重要となるので、事前に再確認をし予習を行う。
講義内容について、日常生活場面で確認できることが多くあるので復習をする。その中で分からないことは次の講義時に確認すること。

４．成績評価の方法及び基準

受講態度：20%（参加態度と発言などの積極性，リアクションペーパーの提出状況）
レポート：80%（姿勢と姿勢制御に関するもの；40%，動作に関するもの40%）
レポートでは自身の姿勢や動作に関する考察を行います。自身の構造的特徴、動作的特徴を理解し、より良い姿勢、動作の獲得のために必要な課題を検討します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で配布します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎時間、身体を動かすことがあるため、服装に注意をしてください（動きやすい服装が望ましい）。
毎時間、講義内容の理解度の確認をするため、リアクションペーパーを配布し講義終了前に回収をします。
形態計測では互いに身体を触れ合うことがあります。またメジャーを使用するので、簡易なものを用意してください。
自身の姿勢や動作の観察のために、静止画、動画の撮影を行います。自分の携帯電話、スマートフォン、タブレット、カメラなどを使用しますので、お持ちください。新たに購入する必要はありません。ない場合は代替手段を用意します。

授業計画	
	［半期］
1	姿勢：構えと体位、身体重心とは
2	形態測定：上肢の長さ、太さの測定を行う
3	形態測定：下肢の長さ、太さの測定を行う
4	形態測定：まとめと確認
5	姿勢観察：観察によりスティックピクチャーを作成する
6	姿勢評価：画像からスティックピクチャーを作成する
7	バランス反応：反射と反応
8	バランス反応：身体重心と支持基底面
9	姿勢と姿勢制御のまとめ
10	動作：関節運動と筋
11	動作：基本動作の相分け（立ち上がる）、身体重心位置と支持基底面の関係
12	基本動作の関節運動と筋活動
13	動作観察演習（動作を撮影し、観察する）
14	動作観察演習（動作を撮影し、観察する）
15	動作観察のまとめ

科目名	芸術史Ⅰ （前） ［火5］						
代表教員	瀧本　みわ	授業コード	GK775300	科目コード	GK7753	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から20世紀に至る西洋美術史の流れを概観し、時代や地域によって異なる特徴を持つ美術の表現形式（様式）や、作品それぞれが持つ主題（図像）について、理解を深める。そして、各時代を象徴する美術作品の造形的表現の特質を考察するとともに、作品が制作された歴史的・思想的背景を検討することで、その美術史的意義を読み解く。美術作品を鑑賞するための知識を養い、その魅力を存分に味わうことを通して、音楽を志す学生自身の豊かな表現力への探求となることを目指す。

２．授業概要

スライドやプリントを用いながら、西洋美術史の基礎知識を学び、各時代の重要作品を例示しながら、概説を行う。時代や地域によって異なる多様な美術表現を、美術史的観点から読み解く力を身につける。学期末レポートでは、授業で学んだ美術史の知識や鑑賞方法をもとに、与えられたテーマや作品について、自らが見て感じたことを出発点に、その問題点を提起し、分析するという西洋美術史の根幹を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業後の復習（１時間以上）を怠らないこと。授業の進展とともに、西洋美術史の大まかな流れを掴み、基本を押さえること。また、展覧会情報を随時伝えるので、できるだけ美術館に足を運んで実際の作品に触れ、美術鑑賞に親しむこと。

４．成績評価の方法及び基準

復習テスト（毎授業）、小レポート（各学期１回予定）及び平常点［50%］と、学期末試験レポート[50%]で総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回プリント資料を配布する。
参考文献：『カラー版西洋美術史』増補新装、美術出版社、高階秀爾監修、2002年。『世界美術大全集』西洋編全28巻、小学館、1992-97年。
そのほか、授業時に適宜紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回の授業への出席は必須です。授業中はノートをとり、学んだことを復習する習慣をつけましょう。各自が自身の表現の糧になるように美術に関心を持ち、授業で取り上げる作品と向きあって下さい。

後期の芸術史Ⅱを引き続き受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］ 前期は、先史時代から中世美術までを扱う。
1	ガイダンス・先史美術
2	エーゲ文明の美術
3	ギリシア美術Ⅰ（幾何学様式とアルカイック）
4	ギリシア美術Ⅱ（クラシック）
5	ギリシア美術III（ヘレニスム）
6	エトルリア美術・ローマ美術Ⅰ（建築）
7	ローマ美術Ⅱ（彫刻）
8	ローマ美術III（絵画）
9	初期キリスト教美術
10	ビザンティン美術
11	初期中世美術
12	ロマネスク美術I（建築・彫刻）
13	ロマネスク美術II（絵画）
14	ゴシック美術Ⅰ（建築・彫刻）
15	ゴシック美術Ⅱ（絵画）

科目名	芸術史II （後） ［火5］						
代表教員	瀧本　みわ	授業コード	GK775400	科目コード	GK7754	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「芸術史I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から20世紀に至る西洋美術史の流れを概観し、時代や地域によって異なる特徴を持つ美術の表現形式（様式）や、作品それぞれが持つ主題（図像）について、理解を深める。そして、各時代を象徴する美術作品の造形的表現の特質を考察するとともに、作品が制作された歴史的・思想的背景を検討することで、その美術史的意義を読み解く。美術作品を鑑賞するための知識を養い、その魅力を存分に味わうことを通して、音楽を志す学生自身の豊かな表現力への探求となることを目指す。

２．授業概要

スライドやプリントを用いながら、西洋美術史の基礎知識を学び、各時代の重要作品を例示しながら、概説を行う。時代や地域によって異なる多様な美術表現を、美術史的観点から読み解く力を身につける。学期末レポートでは、授業で学んだ美術史の知識や鑑賞方法をもとに、与えられたテーマや作品について、自らが見て感じたことを出発点に、その問題点を提起し、分析するという西洋美術史の根幹を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業後の復習（１時間以上）を怠らないこと。授業の進展とともに、西洋美術史の大まかな流れを掴み、基本を押さえること。また、展覧会情報を随時伝えるので、できるだけ美術館に足を運んで実際の作品に触れ、美術鑑賞に親しむこと。

４．成績評価の方法及び基準

復習テスト（毎授業）、小レポート（各学期１回予定）及び平常点［50%］と、学期末試験レポート[50%]で総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回プリント資料を配布する。
参考文献：『カラー版西洋美術史』増補新装、美術出版社、高階秀爾監修、2002年。『世界美術大全集』西洋編全28巻、小学館、1992-97年。
そのほか、授業時に適宜紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回の授業への出席は必須です。授業中はノートをとり、学んだことを復習する習慣をつけましょう。各自が自身の表現の糧になるように美術に関心を持ち、授業で取り上げる作品と向きあって下さい。
また「芸術史I」の単位を修得済の学生に限る。

授業計画	
	［半期］ 後期は、ルネサンスから近代、２０世紀に至るまでの美術史の流れを概説する。
1	ルネサンス美術I（プロト・ルネサンス）
2	ルネサンス美術II（初期ルネサンス）
3	ルネサンス美術III（盛期ルネサンス）
4	北方ルネサンス
5	マニエリスム美術
6	バロック美術I（イタリア、スペイン、フランス）
7	バロック美術II（オランダ）
8	ロココ美術
9	近代美術Ⅰ（新古典主義とロマン主義）
10	近代美術II（写実主義・印象派I）
11	近代美術Ⅲ（印象派II・後期印象派・新印象派）
12	近代美術Ⅳ（象徴主義と世紀末美術）
13	２０世紀の美術I（フォービスムと表現主義）
14	２０世紀の美術Ⅱ（未来派・キュビスム、構成主義と抽象主義）
15	２０世紀の美術Ⅲ（ダダイスムとシュルレアリスム、現代美術へ）

科目名	音響学I （前） ［金5］						
代表教員	桐生　昭吾	授業コード	GK775500	科目コード	GK7755	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音に関する基本的性質や法則を理解できる。聴覚の特性やヘッドホンの種類と特性についえ基本的な知識を得ることができる。

２．授業概要

音の世界は実に幅が広い。まず、この講義では、楽器等の発音原理、電気音響変換器などを理解するために必要な、音の物理的特性をできるだけ分かりやすく解説する。また、音に対する人間の聴覚の特性について学習させる。授業に当たっては、基本的な講義に加え、聴覚に関するデモンストレーションや、ヘッドホンの試聴を通しての電気音響変換器に関する体験学習なども行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

聴覚特性やオーディオなどは、身近なものとして体験できるので、生活の中で音響学で学んだことを体験することを心掛けること。また、他の科目や実習などとも関係しているものもあるので、関連付けて学習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の80%）
平常点（評価の20%）
授業の90%以上の参加状況と試験の成績が90点以上の学生にSの評価を与える

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用しない、参考文献については授業内で指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業内容に興味のある学生に履修して頂きたい。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 音響学の基礎となる音の物理的特性と聴覚の特性について学習する。
1	ガイダンス：音の世界の鳥瞰
2	音とは何か
3	音の物理的性質
4	デシベル（１）基本
5	デシベル（２）応用
6	音圧・音圧レベル
7	周波数と波長
8	正弦波と純音
9	音を見る
10	聴覚（１）基本
11	聴覚（２）応用
12	マスキング
13	ヘッドホンの種類と特性
14	前半のまとめ
15	前半の内容確認（テスト）とまとめ

科目名	音響学II （後） ［金5］						
代表教員	桐生　昭吾	授業コード	GK775600	科目コード	GK7756	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「音響学I」の単位修済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電気音響変換器について基本的な知識を得ることができる。ディジタルオーディオやコンピュータオーディオの概要を知ることができる。空間音響について基礎的な知識を得ることができる。

２．授業概要

この講義では、前期の基礎知識を基に、楽器の仕組み、電気音響変換器、ディジタルオーディオなど、実際の音の応用についてできるだけ分かりやすく解説する。授業に当たっては、可能な限り体験を通した学習をこころがける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

聴覚特性やオーディオなどは、身近なものとして体験できるので、生活の中で音響学で学んだことを体験することを心掛けること。また、他の科目や実習などとも関係しているものもあるので、関連付けて学習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の80%）
平常点（評価の20%）
授業の90%以上の出席と試験が90点以上の学生にSの評価を与える

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用しない、参考文献については授業内で指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業内容に興味のある学生に履修して頂きたい。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 　前期の基礎知識をもとに、電気音響変換器（マイクロホン、スピーカ）の特性と楽器の音響学的特性を学習する。また、音声やデジタルオーディオについて学習する。
1	後半の概要
2	電気音響変換器（１）基本
3	電気音響変換器（２）応用
4	共鳴
5	オーディオの歴史
6	デジタルオーディオ（１）基本
7	デジタルオーディオ（２）応用
8	デジタルオーディオ（３）発展
9	楽器の仕組み
10	電気・電子楽器
11	空間音響
12	エフェクタ
13	音響の将来
14	まとめ
15	期末テストと全体的なまとめ

科目名	経済学I （前） ［火1］Aクラス						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	GK7757A0	科目コード	GK7757	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

２．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

授業内評価点(授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%)
筆記試験（評価の70%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）

上記のことから総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特にありません。また、高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［半期］ 前期の授業では、経済学と私たちとの関係を理解するために、これまで現実に起きた出来事や、今起こっている事柄を中心に学習します。
1	ガイダンス ・履修上の注意点 、成績評価の方法に関する説明 ・この授業でどのようなことを学ぶのか
2	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（１） ・第2次世界大戦からバブルの発生まで
3	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（２） ・バブル崩壊から現在まで
4	経済学の見方・考え方を身に付けよう（１） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引
5	経済の見方・考え方を身に付けよう（２） ・神の見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体
6	経済の主役は誰だろうか（１） ・ミクロ経済学とは何か ・家計の役割と目的
7	経済の主役は誰だろうか（２） ・企業の役割と目的
8	経済の主役は誰だろうか（３） ・政府の役割と目的
9	値段の決まり方を知ろう（１） ・市場とは何か ・需要と供給①
10	値段の決まり方を知ろう（２） ・需要と供給② ・政府の政策の影響
11	市場はどのくらい役に立つのだろうか（１） ・市場の効率性
12	市場はどのくらい役に立つのだろうか（２） ・外部性
13	市場が完全でないときどんな影響があるのだろうか ・不完全競争市場
14	前期講義内容のまとめ ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明
15	前期末筆記試験とまとめ

科目名	経済学I （前） ［火1］Bクラス						
代表教員	小林　和馬	授業コード	GK7757B0	科目コード	GK7757	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では経済学の基礎知識を定着させ、日常生活における課題に対してミクロ経済学・マクロ経済学の視点とその理解から、経済が変化する要因とその影響・効果を学習します。さらに、統計データによる経済活動の観察と経済学の理論を合致させることにより、政策課題に臨む経済学的思考の構築を目指します。

２．授業概要

授業は講義形式で行います。また、授業の際には授業中に配付資料を配り、配付資料を利用しながら講義を進めます。経済学の基礎的概念を確認しながら、ニュース等で取り上げられる事象とのつながりを学習します。毎回授業後には確認の小テストを行い、質問についても受け付けることで各回授業の重要な点を確認します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布した資料を使い必ず復習して下さい。また、授業前には教科書の授業該当箇所に目を通しておいて下さい。

日常生活で日々目や耳にするニュースや新聞報道に関心を持ち、経済の動きや仕組み、そしてその課題に関心を持つ事が最も効果的な学習につながります。

４．成績評価の方法及び基準

前期後期共通
　授業内評価点（評価の30%）
　自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
　授業内小テスト（毎回実施）

前期
　前期末試験（筆記試験、評価の70%）

上記のことから総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に条件は設けません。

日々ニュース等で経済の動きや仕組みに関心を持ち、それらを理解したいという姿勢を持った学生を希望します。

授業計画	
	［半期］ 前期ではミクロ経済学の基礎知識を定着させ、日常生活における課題に対して需要と供給、弾力性の理解から、これらが変化する要因とその影響・効果を学習します。
1	経済学とは:人々の意思決定
2	需要と供給の関係について知ろう
3	価格上限規制とは何か？
4	価格下限規制とは何か？
5	需要の（価格）弾力性を知ろう
6	供給の（価格）弾力性を知ろう
7	需要と供給による政策を考えよう：税金
8	弾力性と税金の関係を考えよう
9	市場の効率性を考えよう(1)：消費者余剰
10	市場の効率性を考えよう(2)：生産者余剰
11	効率性への対応の必要性について：死荷重
12	税と効率・公平について考えよう
13	外部性について知ろう
14	外部性に対する公共政策の考え方
15	財の種類について：公共財と共有資源

科目名	経済学II （後） ［火1］Aクラス						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	GK7758A0	科目コード	GK7758	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「経済学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

２．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

４．成績評価の方法及び基準

授業内評価点(授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%)
筆記試験（評価の70%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）

上記のことから総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［半期］ 　後期の授業では、前期で学習した内容について、より大きな視点から学習します。また、私たちの生活に大きく関わっている税金についても学習します。
1	講義内容・履修上の注意等の説明 ・マクロ経済学とは何か
2	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（１） ・国民所得の測定
3	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（２） ・国民所得の変化する理由 ・景気の移り変わり
4	お金の持っている機能と役割を知ろう ・貨幣の持つ影響
5	国民所得をコントロールすることは可能だろうか ・総需要管理政策と政策の悪影響
6	国民所得を増やす方法を考えよう（１） ・財市場とIS曲線
7	国民所得を増やす方法を考えよう（２） ・財政の仕組みと財政政策
8	国民所得を増やす方法を考えよう（３） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策
9	国民所得を増やす方法を考えよう（４） ・IS曲線とLM曲線の統合
10	国民所得を増やす方法を考えよう（５） ・国民所得とインフレーションの関係
11	稼いだお金は全部自分のものになるのか（１） ・租税とは何か
12	稼いだお金は全部自分のものになるのか（２） ・所得税と住民税の仕組み
13	稼いだお金は全部自分のものになるのか（３） ・消費税の仕組み
14	稼いだお金は全部自分のものになるのか（４） ・年金の仕組み
15	後期講義内容のまとめ ・後期授業の復習 ・後期試験準備のポイント説明

科目名	経済学II （後） ［火1］Bクラス						
代表教員	小林　和馬	授業コード	GK7758B0	科目コード	GK7758	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「経済学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では経済学の基礎知識を定着させ、日常生活における課題に対してミクロ経済学・マクロ経済学の視点とその理解から、経済が変化する要因とその影響・効果を学習します。さらに、統計データによる経済活動の観察と経済学の理論を合致させることにより、政策課題に臨む経済学的思考の構築を目指します。

２．授業概要

授業は講義形式で行います。また、授業の際には授業中に配付資料を配り、配付資料を利用しながら講義を進めます。経済学の基礎的概念を確認しながら、ニュース等で取り上げられる事象とのつながりを学習します。毎回授業後には確認の小テストを行い、質問についても受け付けることで各回授業の重要な点を確認します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で配布した資料を使い必ず復習して下さい。また、授業前には教科書の授業該当箇所に目を通しておいて下さい。

日常生活で日々目や耳にするニュースや新聞報道に関心を持ち、経済の動きや仕組み、そしてその課題に関心を持つ事が最も効果的な学習につながります。

４．成績評価の方法及び基準

前期後期共通
　授業内評価点（評価の30%）
　自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
　授業内小テスト（毎回実施）

後期
　後期末試験（筆記試験、評価の70%）

上記のことから総合的に評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特に条件は設けません。

日々ニュース等で経済の動きや仕組みに関心を持ち、それらを理解したいという姿勢を持った学生を希望します。

授業計画	
	［半期］ 後期ではマクロ経済学の基礎知識を定着させ、所得の成長、物価の変化、失業率を用いて、経済活動の観察による統計等のデータと経済学の理論を合致させることを学習する。
1	前期の復習とマクロ経済学について：需要と供給による効率性の確認
2	国民所得とその決定を理解しよう
3	「実質GDPと名目GDPとは何か？
4	生計費を測定するには？:消費者物価指数
5	生産と成長をどのように把握・理解するのか？
6	失業の存在と影響を知ろう
7	貯蓄、投資と金融システムについて知ろう
8	貨幣について：貨幣システムとは？
9	貨幣需給とインフレーションの関係を知ろう
10	総需要曲線とは何か？
11	総供給曲線とは何か？
12	総需要曲線がシフトする時を考えよう
13	総供給曲線のシフトする時を考えよう
14	外国との取引の存在：開放マクロ経済学について考えよう
15	購買力平価について知ろう

科目名	ジェンダーI （前） ［金5］						
代表教員	大森　美佐	授業コード	GK775900	科目コード	GK7759	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

＜前期＞
【主題】
・ジェンダー論
【到達目標】
・ジェンダー論、社会学の基礎的な用語をマスターする。
・社会現象や自分の身のまわりの事柄を、ジェンダーの視点から理解し、説明できるようになる。

２．授業概要

ジェンダーとは、社会や文化によって決められる男女の行動・習慣・意識一般を差す言葉です。生物学的な意味での性別とは区別されます。洋服の選び方、身体の動かし方、進路の選び方、仕事の選び方、仕事の仕方、自分の人生をどう生きるか。私たちは生活のあらゆる場面で、自分の性別や他者の性別を意識せざるをえません。私たちの生活はジェンダーと深い関係を持っています。そして、「女らしさ」や「男らしさ」といったものは、現代の社会や文化を反映しています。
本講義では、ジェンダーに関連のある現代社会のさまざまな現象を取り上げ、私たちが生きる社会や文化のあり方について理解していきます。恋愛や結婚、教育や仕事、育児や家族など、私たちにとって身近なテーマを毎回取り上げます。本講義を通じて、①ジェンダー論と社会学の思考法を学ぶとともに、②日常に溢れる「当たり前」を問い直す力を身につけることを目指します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・講義中に配布した資料をよく理解して下さい。また、講義内で紹介する書籍を積極的に読むことで、各トピックについての理解が深まります。
・身近な出来事や社会現象を授業で学んだ知識を用いてとらえなおして下さい。こうした作業を繰り返していくことで、ジェンダー論的なものの見方、社会学的なものの見方をマスターしていきます。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加度（40%）、試験（60%）で評価します。
・授業の最後に、毎回コメントシートを提出してもらいます。これによって授業への参加度の評価を行います。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各トピックに関連する参考文献は、毎回の講義のなかで紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業への参加度（グループ・ディスカッション、質問、コメントなど）を重視します。

授業計画	
	[前期]
1	ガイダンス＆イントロダクション： 私たちは＜分類＞する―「ジェンダー」の定義
2	性差と性役割：「男らしさ」「女らしさ」を考える
3	容姿とジェンダー：服飾・美容整形・ダイエット
4	教育とジェンダー：学校教育におけるジェンダー差
5	家族のとらえ方：歴史のなかの家族と世帯動向
6	現代の恋愛・結婚の諸相：データから読む日本の恋愛・性行動の状況
7	生殖とジェンダー：社会的・文化的な「選択」としての生殖
8	多様なパートナーシップ①：映像鑑賞
9	多様なパートナーシップ②：多様な「かぞく」のありかた
10	子育てとジェンダー：日本の子育ての現状と父親の育児参加
11	離婚と再婚：ひとり親家族と子どもの貧困、日本の再婚の状況
12	就労とジェンダー：性別職務分離と男女経済格差
13	ケアワークと家族：無償労働・ケアの社会化
14	講義の統括と試験
15	試験解説と「ジェンダー社会で生きるということ」についてのグループ・ディスカッション

科目名	ジェンダーII （後） ［金5］						
代表教員	青木　由香	授業コード	GK776000	科目コード	GK7760	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「ジェンダーI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
・人生の中年期から高齢期において直面する諸課題について、「ジェンダー」の視角を用いて読み解く。
【到達目標】
・ジェンダー論、社会学の基礎的な用語をマスターする。
・社会現象や自分の身のまわりの事柄について、ジェンダーの視点から理解し、説明できるようになる。
・ジェンダーの視点から、わたしたちにとってより良い「社会」を構想する。

2．授業概要

「ジェンダー」とは、社会や文化によって決められる男女の行動・習慣・意識一般を差す言葉で、生物学的な意味での性別とは区別されています。私たちの生活はジェンダーと深い関係を持っています。そして、「女らしさ」や「男らしさ」といったものは、現代の社会や文化を反映しています。
　本講義では、ジェンダーに関連のある現代社会のさまざまな現象を取り上げ、私たちが生きる社会のあり方について理解していきます。とくに人生の中年期から高齢期において直面する諸課題、具体的には「働くこと」や「ケアすること」を中心に私たちにとって身近なテーマを毎回取り上げます。本講義を通じて、①ジェンダー論と社会学の思考法をマスターするとともに、②少子化・高齢化が進む現代日本の諸課題を「ジェンダー」という視点から読み解くための知識を身につけていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・講義中に配布した資料をよく理解して下さい。また、講義内で紹介する書籍等を積極的に読むことで、各トピックについての理解を深めてください。
・身近な出来事や社会現象を授業で学んだ知識を用いてとらえなおして下さい。こうした作業を繰り返していくことで、ジェンダー論的なものの見方、社会学的なものの見方をマスターしていきます。

4．成績評価の方法及び基準

・授業への参加度（40%）、定期試験の得点（60%）で評価します。
・授業の最後に、毎回レスポンス・カードを提出してもらいます。これによって授業への参加度の評価を行います。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用しません。参考文献は授業中に適宜紹介します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業への参加度を重視します。授業中、グループ・ディスカッションの機会を設けます。日常生活の諸現象を、これまでとは違った「ジェンダー」の視点で考えてみませんか。

授業計画	
	[半期]
1	ガイダンス＆イントロダクション：「ジェンダー」を学ぶことの意味
2	メディアとジェンダー①：「女らしさ」「男らしさ」はどのように描かれているのか
3	メディアとジェンダー②：テレビドラマにみる「女らしさ」「男らしさ」
4	「少子化」「高齢化」とジェンダー：データで読み解く日本の「いま」、そして「未来」
5	ケアとジェンダー①：誰がケアを担っているのか（家族介護の諸相）
6	ケアとジェンダー②：誰がケアを担っているのか（無償労働とケアワーク）
7	ケアとジェンダー③：「ケアすること」をめぐる困難（家族介護）
8	ケアとジェンダー④：「ケアされること」をめぐる困難（高齢者介護）
9	ライフコースとジェンダー①：多様化するライフコース　前半
10	ライフコースとジェンダー②：多様化するライフコース　後半
11	ライフコースとジェンダー③：「生きづらさ」を考える
12	政策とジェンダー①：現代日本の家族政策・福祉政策の現状
13	政策とジェンダー②：「貧困問題」の諸相
14	政策とジェンダー③：「働くこと」をめぐる課題
15	到達度の確認

科目名	心理学I （前） ［火5］						
代表教員	後藤　進吾	授業コード	GK776100	科目コード	GK7761	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

人の一生に起こりうる発達の軌跡を辿ることで、自分自身の人生を振り返る、或いは将来の見通しを立てることを目標とする。

２．授業概要

授業時間が、自身の現在・過去・未来を考えられるよう、身近な具体例を挙げて講義を実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

適宜、毎回の授業のプリントを再読して授業に臨むこと。また、授業の終わりにコメントペーパーを配布・記述するので、自身が記述した内容について自分なりの考えをまとめておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

前期末レポート（８０点）、授業時の小レポート（２０点）の得点を合計し、絶対評価で判定する。 60点以上に単位を 与える。（S: 90点～100点、A: 80点～89点、B: 70点～79点、 C: 60点～69点）評価基準の詳細・具体的内容については初回授業時に説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は適時授業中に提示する。配布するプリントに関してはファイリングし、毎回授業に持参すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語や飲食は厳禁など、講義を受けるに最低限のマナーは守ること。
レッスンや発表会等で止むをえず講義を欠席する際は必ず連絡等を入れること。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション：心理学と、発達心理学について
2	発達心理学：生命の誕生から死まで
3	発達心理学：胎児期と胎児の危機
4	発達心理学：新生児期の特徴
5	発達心理学：乳児期の特徴
6	認知心理学：見る・見えるの心理１　基本
7	認知心理学：見る：見えるの心理２　応用
8	発達心理学：幼児期の発達
9	発達心理学：児童期の発達
10	発達心理学：記憶
11	認知心理学：認知症の実態と要因１　基本
12	認知心理学：認知症の実態と要因２　応用
13	臨床心理学：自己とストレスマネジメント１　基本
14	臨床心理学：自己とストレスマネジメント２　応用
15	自己理解：怒りの対処

科目名	心理学II （後） ［火5］						
代表教員	後藤　進吾	授業コード	GK776200	科目コード	GK7762	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「心理学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

人の一生に起こりうる発達の軌跡を辿ることで、自分自身の人生を振り返る、或いは将来の見通しを立てることを目標とする。

２．授業概要

授業時間が、自身の現在・過去・未来を考えられるよう、身近な具体例を挙げて講義を実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

適宜、毎回の授業のプリントを再読して授業に臨むこと。また、授業の終わりにコメントペーパーを配布・記述するので、自身が記述した内容について自分なりの考えをまとめておくことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

後期末レポート（８０点）、授業時の小レポート（２０点）の得点を合計し、絶対評価で判定する。 60点以上に単位を 与える。(S: 90点～100点、A: 80点～89点、B: 70点～79点、 C: 60点～69点）評価基準の詳細・具体的内容については初回授業時に説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は適時授業中に提示する。配布するプリントに関してはファイリングし、毎回授業に持参すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

私語や飲食は厳禁など、講義を受けるに最低限のマナーは守ること。
レッスンや発表会等で止むをえず講義を欠席する際は必ず連絡等を入れること。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション：前期のおさらいと後期の流れ
2	発達心理学：幼児期の特徴
3	発達心理学：発達障害とは
4	発達心理学：発達障害への支援　基本
5	発達心理学：発達障害への支援　応用
6	発達心理学：青年期前期・後期の特徴
7	発達心理学：成人期の特徴と危機
8	発達心理学：老年期の特徴と危機
9	社会心理学：人を惹きつける心理学
10	社会心理学：人と交わる心理学
11	臨床心理学：人格とは
12	臨床心理学：精神疾患とは
13	臨床心理学：カウンセリングのこころ
14	臨床心理学：心理療法
15	発達心理学と臨床心理学

科目名	栄養学　（後）［火1］						
代表教員	岸　昌代	授業コード	GK776300	科目コード	GK7763	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ダンサーとして、本番でのパフォーマンスを高めていくためには、ふだんの食事・栄養からコンディショニングが必要となります。そこで、本授業では、自らの食生活を振り返りながら、栄養学の基礎を学びます。また、指導者としても活用できる栄養学の知識を身につけていくことを目標とします。

２．授業概要

配布資料をもとに進めます。
（1）食事の意味・目的　（2）食事のととのえ方　（3）各栄養素の働き　（4）障害予防　（5）舞台前・舞台中の食生活

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】自分自身の食生活を振り返ってみることや、食事・栄養に関することに興味を持ち、情報収集することをおすすめします。　【復習】授業で学んだことを実際のレッスンや食生活で実践してみてください。

４．成績評価の方法及び基準

授業内で行う3回の確認テスト70%、平常点30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で必要に応じて資料を配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業で学んだことを実生活で活用し、自分に合ったコンディショニングの方法を身につけていってください。

授業計画	
	〔半期〕
1	ダンサーにとっての食事の意味・目的
2	身体組成、エネルギー必要量
3	食事の基本（1）食事づくりをするとき
4	食事の基本（2）中食・外食を利用するとき
5	1～4回の確認テスト・まとめ
6	糖質・たんぱく質の働き
7	ビタミン・ミネラルの働き、貧血予防
8	女性アスリートの三主徴
9	ウエイトコントロール
10	6～9回の確認テスト・まとめ
11	水分補給
12	舞台前・舞台中の食生活
13	旅公演のときの食生活
14	行事食
15	11～14回の確認テスト・まとめ

科目名	映像学１　（前）［水2］						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GK776400	科目コード	GK7764	期間	通年
担当教員	冨永　憲治						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

映像が持つ訴求力の強さは今更言うまでもありませんが、今なぜ映像の時代なのでしょう。現代社会はあらゆる情報を要求します。報道は即時性と同時に目で確かめてこその真実性と現実感を、スポーツや映画は感動とよろこびを提供しようと、メディアはますますその活動領域を広げるのです。

とはいえ、映像が目で確かめられるからといって真実の全てを語っているわけではありません。そこにあるのは限られたフレームにおさめられた空間であり、誇張も虚構も、見る者を惑わすための作為すらありという“映像”の世界なのです。

一口に映像といっても多種多様です。映像のもつ表現力、可能性と限界というような文化論的意味に対し、音楽はどういう立場をとっているのでしょうか。多くの場合、音楽は重要な役割を果たしているとが分かります。この講座では、映像と音楽の関係を様々な作品を通して、両者の関係について自分の意見を述べられるようにすることが目的です。

２．授業概要

映像と音楽を、映画監督と作曲家という別々な視点から講義を行います。映画音楽の歴史や映像史に触れながら、その時代における特徴や手法を分析します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内では全編を観ることが難しいので、講義で話題になった作品を、授業内容に即した視点で改めて鑑賞して欲しいと思います。その際、気が付いたことや感じたことを記録してください。後期レポート課題の取り組みにおいて有益なデータとなります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の７０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）
授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは必要なときに都度配布します。

参考文献
日本映画発達史（1～５）田中 純一郎（著）

映像史—Image Media Wars
千葉 伸夫（著）

映画映像史—ムーヴィング・イメージの軌跡
出口 丈人（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

注意事項：映像と音楽の効果を確認するために、ホラーやサスペンス、殺陣などの暴力シーンが含まれることがあります。
受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。

授業計画	
1	音と映像に関するあれこれ（ガイダンス）
2	映像とは？生活に密着した映像。メディア論的考察
3	映像と音楽のはじまり
4	映像の変遷と発展。映画の発明
5	映像と音楽の実験からディズニー映画へ
6	映像の変遷と発展。映画の発展
7	映像と音楽のシンクロ　とその発展
8	映像の変遷と発展。映画の熟成
9	映画音楽の幕開け。トーキー！
10	映像の手法とその効果（レンズ・アングル）
11	初期ハリウッド映画音楽を牽引した「マックス・スタイナーとアルフレッド・ニューマン」
12	映像の手法とその効果(カット・編集)
13	映画音楽における時制「剱岳」「八甲田山」
14	映像の手法とその効果(モンタージュ・音響効果)
15	まとめ・課題提出

科目名	映像学２　（後）［水2］						
代表教員	前田　康徳	授業コード	GK776500	科目コード	GK7765	期間	通年
担当教員	冨永　憲治						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

映像が持つ訴求力の強さは今更言うまでもありませんが、今なぜ映像の時代なのでしょう。現代社会はあらゆる情報を要求します。報道は即時性と同時に目で確かめてこその真実性と現実感を、スポーツや映画は感動とよろこびを提供しようと、メディアはますますその活動領域を広げるのです。

とはいえ、映像が目で確かめられるからといって真実の全てを語っているわけではありません。そこにあるのは限られたフレームにおさめられた空間であり、誇張も虚構も、見る者を惑わすための作為すらありという“映像”の世界なのです。

一口に映像といっても多種多様です。映像のもつ表現力、可能性と限界というような文化論的意味に対し、音楽はどういう立場をとっているのでしょうか。多くの場合、音楽は重要な役割を果たしているとが分かります。この講座では、映像と音楽の関係を様々な作品を通して、両者の関係について自分の意見を述べられるようにすることが目的です。

２．授業概要

映像と音楽を、映画監督と作曲家という別々な視点から講義を行います。映画音楽の歴史や映像史に触れながら、その時代における特徴や手法を分析します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内では全編を観ることが難しいので、講義で話題になった作品を、授業内容に即した視点で改めて鑑賞して欲しいと思います。その際、気が付いたことや感じたことを記録してください。後期レポート課題の取り組みにおいて有益なデータとなります。

４．成績評価の方法及び基準

学期末レポート（評価の７０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）
授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは必要なときに都度配布します。

参考文献
日本映画発達史（1～５）田中 純一郎（著）

映像史—Image Media Wars
千葉 伸夫（著）

映画映像史—ムーヴィング・イメージの軌跡
出口 丈人（著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

注意事項：映像と音楽の効果を確認するために、ホラーやサスペンス、殺陣などの暴力シーンが含まれることがあります。
受講生が多い場合は人数制限をする場合があります。

授業計画	
1	ガイダンス・映像と音楽の実際
2	イタリア映画は音楽優位?音楽と演技が強く結びついた「エンニオ・モリコーネ」の音楽から～
3	映像の意味・仕組み
4	映画音楽の巨匠「ジェリー・ゴールドスミス」の音楽
5	イメージを伝えること
6	ミュージシャンが映画音楽監督を担当する意味は？
7	音楽を映像に・ノーマンマクラーレン
8	80年代のハリウッド映画にオーケストラを復活、牽引した「ジョン・ウィリアムズ」の音楽
9	カメラマンの仕事・宮川一夫
10	過去ー未来を集約する音楽の力　(Le concert 、のだめカンタービレ他)
11	映像における音響設計
12	現代音楽作曲家「マイケルナイマン」「フィリップ・グラス」「武満 徹」の音楽と映像の関係
13	映像制作の実際
14	オーケストラサウンドを拡張させた「ハンス・ジマー・ファミリー」
15	まとめ・課題提出

科目名	建築と芸術Ⅰ　（前）［火5］						
代表教員	黒木　正郎	授業コード	GK776600	科目コード	GK7766	期間	半期
担当教員	松尾　祐孝						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

類が形作ってきた文明の在り方は、歴史的建造物・遺物を通して総覧することができる。また文化の蓄積と継承という視点からこれら建造物をみると、そこには建築技術という一分野を超えて文化史の総合的な理解を助けるものであることがわかる。さらには芸術やそれを含む社会の諸分野の活動を適切に支える建築空間のありかたを知ることは、表現者が自らの芸術の価値を高めるために有益であると考える。
＊前期に開講する「建築と芸術Ⅰ」を通じて、表現芸術の近接他分野と自らの専門分野との間の関係を何らかの点で具体的に把握し、自らの言葉で語れるようになることを目標とする。
＊後期に開講する「建築と芸術Ⅱ」を通じて、表現芸術を支える建築空間の在り方、音響や照明など空間環境の工学的分野の基礎、芸術家の活動空間である都市・建築・住宅などの空間のつくられ方、さらに芸術の他分野である建築や美術の発想について理解することを目標とする。

２．授業概要

―人は文明の在り方をどのように形にしてきたか―西洋建築・美術史
音楽・表現芸術を学ぶ学生にむけて、その活動空間であり芸術としての近接他分野でもある都市・建築・美術の歴史的変遷を総合的な芸術史の理解に至るように解説する。また、時代を画する建築や芸術を成立させてきた社会・文明の発展段階についても並行して解説する。この授業を通じて西洋芸術の様式の理解、その背後にある思想・哲学の理解を助けるものとしたい。専門領域によっては、ゲスト講師を招くこともある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ほぼすべての学生にとって初めて接する領域の話であると予想されるので、授業の中で興味を持った分野を複数拾い出し、授業外で深堀してもらいたい。
前期開講「建築と芸術Ⅰ」で触れる芸術史においては、その興味を持ったある特定の部分の知識を定着させることが歴史の体系的な理解の座標軸となるとともに、今後の芸術家・音楽の専門家さらには芸術を学んだ社会人としての活動を通じて教養を深める起点となることが期待できるからである。
後期開講「建築と芸術Ⅱ」の工学的・建築学的あるいは都市・建築開発などの実学的内容についても同様に、興味を持った分野を起点として自分なりの深耕をしてもらいたい。社会的な活動はあらゆる分野のものが必ずつながりを持っているので、専門家として社会全体との接合点を増やす助けとなることが期待できるからである。

４．成績評価の方法及び基準

前授業中及び中間で課する「第一回レポート（小課題）」の評価＝20%
期末に提出する「第二回レポート（小論文）」＝40%
総合的な学習態度＝40%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

推薦参考書：最新世界史図説「タペストリー（十六訂版）」　帝国書院
その他、履修学生の属性を見てから指定することもある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

できるだけ「建築と芸術Ⅰ」と「建築と芸術Ⅱ」を連続して履修することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	私の仕事・建築家の仕事・近未来の芸術家に期待したいこと
2	歴史のはじまり・文化史のはじまり・・・ギリシャ文明まで
3	ローマ帝国とローマ文明とヨーロッパのはじまり
4	中世とは・貴族とは・キリスト教とはなにか、イスラムとは何か
5	ロマネスクとゴシック・キリスト教建築の精華
6	ルネサンスのイタリア・「芸術家」の誕生
7	ヨーロッパ文明の成立とバロック・・・バロック建築とバロック美術
8	「市民」の誕生とバロック絵画の巨匠たち・・・オランダ美術を中心に
9	「王国」と「宮殿」と芸術・・・フランス文化の興隆、絶対王政と芸術
10	サロン・ロココ・芸術とモードの都、そしてフランス革命
11	ハプスブルグ家とウィーン、19世紀・革命と戦争の時代と芸術
12	ナポレオンとフランス・パリの大改造と芸術
13	そのころのイギリス、そのころのロシア、そのころの日本とジャポニズム
14	古代からの脱出・アールヌーボー・アールデコ、「近代」のはじまり
15	20世紀という過去と過去から来た未来の建築たち

科目名	建築と芸術Ⅱ　（後）［火5］						
代表教員	黒木　正郎	授業コード	GK776700	科目コード	GK7767	期間	半期
担当教員	松尾　祐孝						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合				
前提科目	「建築と芸術Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

人類が形作ってきた文明の在り方は、歴史的建造物・遺物を通して総覧することができる。また文化の蓄積と継承という視点からこれら建造物をみると、そこには建築技術という一分野を超えて文化史の総合的な理解を助けるものであることがわかる。さらには芸術やそれを含む社会の諸分野の活動を適切に支える建築空間のありかたを知ることは、表現者が自らの芸術の価値を高めるために有益であると考える。
＊前期に開講する「建築と芸術Ⅰ」を通じて、表現芸術の近接他分野と自らの専門分野との間の関係を何らかの点で具体的に把握し、自らの言葉で語れるようになることを目標とする。
＊後期に開講する「建築と芸術Ⅱ」を通じて、表現芸術を支える建築空間の在り方、音響や照明など空間環境の工学的分野の基礎、芸術家の活動空間である都市・建築・住宅などの空間のつくられ方、さらに芸術の他分野である建築や美術の発想について理解することを目標とする。

２．授業概要

―人は文明の在り方をどのように形にしてきたか―西洋建築・美術史
音楽・表現芸術を学ぶ学生にむけて、その活動空間であり芸術としての近接他分野でもある都市・建築・美術の歴史的変遷を総合的な芸術史の理解に至るように解説する。また、時代を画する建築や芸術を成立させてきた社会・文明の発展段階についても並行して解説する。この授業を通じて西洋芸術の様式の理解、その背後にある思想・哲学の理解を助けるものとしたい。専門領域によっては、ゲスト講師を招くこともある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ほぼすべての学生にとって初めて接する領域の話であると予想されるので、授業の中で興味を持った分野を複数拾い出し、授業外で深堀してもらいたい。
前期開講「建築と芸術Ⅰ」で触れる芸術史においては、その興味を持ったある特定の部分の知識を定着させることが歴史の体系的な理解の座標軸となるとともに、今後の芸術家・音楽の専門家さらには芸術を学んだ社会人としての活動を通じて教養を深める起点となることが期待できるからである。

４．成績評価の方法及び基準

前授業中及び中間で課する「第一回レポート（小課題）」の評価＝20%
期末に提出する「第二回レポート（小論文）」＝40%
総合的な学習態度＝40%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

推薦参考書：最新世界史図説「タペストリー（十六訂版）」　帝国書院
その他、履修学生の属性を見てから指定することもある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

できるだけ「建築と芸術Ⅰ」と「建築と芸術Ⅱ」を連続して履修することが望ましい。

授業計画	
	［半期］ （　）内の記載氏名は予定しているゲスト講師
1	劇場論１・・・劇場の歴史（伊藤正示氏）
2	劇場論２・・・劇場の空間（同上）
3	劇場論３・・・劇場の計画（同上）
4	建築物の音響特性について（箱崎文子氏）
5	建築空間と音響設計（同上）
6	都市開発とまちづくりと芸術（亀井尚志氏）
7	海外の建築プロジェクトと著作権（藤沼　傑氏）
8	ひとが働く環境と芸術（似内志朗氏）
9	住宅開発と住環境と芸術に親しむ生活（横瀬寛隆氏）
10	建築照明と生活環境（未定）
11	他分野の芸術と芸術家の製作プロセス１「彫刻」（虫本　文氏）
12	他分野の芸術と芸術家の製作プロセス２「日本画」（黒木美都子氏）
13	日本建築美術史
14	まちづくりと建築とこれからの生活環境
15	総括・討論と小論文の作成

科目名	ＡＩと芸術Ⅰ　（前）［火1］						
代表教員	大谷　紀子	授業コード	GK776800	科目コード	GK7768	期間	半期
担当教員	松尾　祐孝						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

コンピュータと人間の特性を理解し、AIとは何か、AIの機能は何をどのように処理して実現されるのかを理解することで、芸術分野におけるAIの活用や、芸術家を代替するAIについて自分の意見を持ち、他者と議論できるようになることを目指す。

２．授業概要

AIと芸術の定義について議論したうえで、コンピュータの基礎知識を学び、人間や動物との違いについて考察する。また、AI技術の基礎である探索や推論、学習について知識を身に付ける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常生活の中でAIにさせるべき作業と人間がすべき作業を考えたり、コンピュータの特性が表れている機能や人間ならではの行為を見つけたりするなど、今までとは異なる視点で日常生活を見直して欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

確認テスト＝40%　授業内演習・レポート＝30%　総合的な学習態度＝30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

推薦参考書：「イラストで学ぶ人工知能概論」（講談社／谷口忠大）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受講生の議論によって授業がより充実したものになるので、自分の考えを積極的に発言して欲しい。

授業計画	
	［半期］
1	ＡＩとは何か
2	芸術とは何か
3	動物と人間とコンピュータ　コンピュータの仕組み
4	動物と人間とコンピュータ　アルゴリズムとプログラミング
5	動物と人間とコンピュータ　フレーム問題
6	ＡＩの歴史
7	状態空間と探索　状態空間表現と探索木・探索グラフ
8	状態空間と探索　網羅的探索と発見的探索
9	状態空間と探索　ゲームにおける探索
10	知識表現と推論　プロダクションシステムと意味ネットワーク
11	知識表現と推論　フレーム理論
12	知識表現と推論　述語論理とファジイ論理
13	推論の分類
14	学習の分類
15	確認テスト、総括

科目名	ＡＩと芸術Ⅱ　（後）［火1］						
代表教員	大谷　紀子	授業コード	GK776900	科目コード	GK7769	期間	半期
担当教員	松尾　祐孝						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合				
前提科目	「ＡＩと芸術Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「AIと芸術I」で習得した知識を基盤としてさらに見識を深め、芸術分野におけるAIの活用や芸術家を代替するAIに関して、具体的な技術や最新の話題を絡めて他者と議論できるようになることを目指す。また、芸術分野におけるAIの新たな活用方法を考案する力を身に付けることも目標とする。

２．授業概要

AIに関するさまざまな技術を説明するとともに、社会における活用事例を紹介する。また、各技術が実装されたシステムの使用を通して理解を深め、これからの活用方法について議論する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常生活の中でAIにさせるべき作業と人間がすべき作業を考えたり、コンピュータの特性が表れている機能や人間ならではの行為を見つけたりするなど、今までとは異なる視点で日常生活を見直して欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

確認テスト＝40%　授業内演習・レポート＝30%　総合的な学習態度＝30%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

推薦参考書：「イラストで学ぶ人工知能概論」（講談社／谷口忠大）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

受講生の議論によって授業がより充実したものになるので、自分の考えを積極的に発言して欲しい。

授業計画	
	［半期］
1	ニューラルネットワーク
2	最適解探索アルゴリズム　遺伝的アルゴリズム
3	最適解探索アルゴリズム　対話型遺伝的アルゴリズム
4	最適解探索アルゴリズム　その他のメタヒューリスティックアルゴリズム
5	データマイニング　相関ルール
6	データマイニング　決定木
7	データマイニング　クラスタリング
8	自然言語処理
9	情報検索　ベクトル空間モデル
10	情報検索　ページランク
11	パターン認識
12	音声合成・音声認識
13	マルチエージェント
14	最近の話題
15	確認テスト、総括

科目名	作詩基礎研究１　（前）［水5］						
代表教員	吉元　由美	授業コード	GK777000	科目コード	GK7770	期間	半期
担当教員	松尾　祐孝						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「作詞」を学ぶことを通して日本語力を鍛え、自己の中に潜在している想像力、発想力、創造性を高め、表現力をつける。自分の感性、特質を知り、自分の言葉を持つことは、あらゆる表現活動においてその力を発揮する。自己完結する歌詞を書くことでなく、あらゆるジャンルの歌詞、その特性を学ぶことにより視野、見識を広げ表現につなげていくことを目標とする。

２．授業概要

日本における「歌詞」の流れを考察することにより、「新しいものがいい」「古いものがいい」という価値観を払拭し、「そのものの素晴しさ」を味わう。と同時に作詞の技法を学び、制作課題に取り組みながら、知識、感性、実践の三つのテーマを統合していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた歌詞を朗読したり、楽曲をしっかり鑑賞したりなど、日常的な復習を励行すること。また、課題制作や企画書作成にも積極的に取り組むこと。

４．成績評価の方法及び基準

・研究への姿勢＝30%　・実戦への取り組み＝35パーセント
・制作技量に反映された成果＝35パーセント

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する
必携テキスト＝『自分の言葉を持つ人になる』（サンマーク出版 / 吉元由美著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「作詩基礎研究１」と「作詩基礎研究２」を連続して履修することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	「歌を書くとはどういうことか」～作詞の基本、歌の存在意義について
2	日本における「歌詞」の流れ① 「明治時代から戦後まで」「歌謡曲」の発生と当時の作品を味わう
3	日本における「歌詞」の流れ② 「６０年代」劇的に変化した「歌」から時代を考え、作品を味わう
4	日本における「歌詞」の流れ③ 「７０年代」フォーク、ニューミュージックの誕生の意義から作品を味わう
5	日本における「歌詞」の流れ④ 「８０年代～９０年代」アイドル全盛時代～バブル期の終焉を考察し、作品を味わう
6	作詞に必要な五つの「力」① 想像力・発想力・構成力～感性をどう広げ、磨いていくか
7	作詞に必要な五つの「力」② 深める力・創造力～創造に不可欠な洞察力を学ぶ
8	表現力演習１：「情景描写と物語～松任谷由実のリアリティ」～松任谷由実の歌詞から、歌におけるリアリティを考察する
9	作詞演習１：「詞先」の作詞法～歌詞先行の作詞を学ぶ
10	作詞家研究１：「なかにし礼と橋本淳、安井かずみ」～60年代、音楽業界に新しい感性を吹き込んだ作詞家三人を考察する
11	作詞演習２：「詞先」課題の添削～歌詞先行の歌詞の添削、総評
12	作詞演習３：「曲先」の作詞法～曲先行の作詞を学ぶ
13	作詞家研究２：「松本隆」～松本隆の歌詞から、比喩、物語の作り方を学ぶ
14	作詞演習４：「曲先」課題の添削～曲先行の歌詞の添削、総評
15	総括：社会学から見た『Jupiter』～前期の振り返り、平原綾香の『Jupiter』の社会的意義を、歌詞を通して考える

科目名	作詩基礎研究２　（後）［水5］						
代表教員	吉元　由美	授業コード	GK777100	科目コード	GK7771	期間	半期
担当教員	松尾　祐孝						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「作詞」を学ぶことを通して日本語力を鍛え、自己の中に潜在している想像力、発想力、創造性を高め、表現力をつける。自分の感性、特質を知り、自分の言葉を持つことは、あらゆる表現活動においてその力を発揮する。自己完結する歌詞を書くことでなく、あらゆるジャンルの歌詞、その特性を学ぶことにより視野、見識を広げ表現につなげていくことを目標とする。

２．授業概要

日本における「歌詞」の流れを考察することにより、「新しいものがいい」「古いものがいい」という価値観を払拭し、「そのものの素晴しさ」を味わう。と同時に作詞の技法を学び、制作課題に取り組みながら、知識、感性、実践の三つのテーマを統合していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた歌詞を朗読したり、楽曲をしっかり鑑賞したりなど、日常的な復習を励行すること。また、課題制作や企画書作成にも積極的に取り組むこと。

４．成績評価の方法及び基準

・研究への姿勢＝30%　・実戦への取り組み＝35パーセント
・制作技量に反映された成果＝35パーセント

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員の指定により各自準備する
必携テキスト＝『自分の言葉を持つ人になる』（サンマーク出版 / 吉元由美著）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「作詩基礎研究１」と「作詩基礎研究２」を連続して履修することが望ましい。

授業計画	
	［半期］ 後期15回開講　カテゴリー毎の番号は「作詩基礎研究１」からの通算となっている。
1	表現力演習２：「見えないものを言葉に表現する」～見えないもの＝心、感性、考えをどのように言葉化するか考察する
2	作詞演習５：「物語から歌詞を書く～ミュージカル、オペラ」～物語全体を把握し、台詞としての歌詞について考察する
3	歌詞研究：「宇多田ヒカルと米津玄師」～現代を代表する二人のアーティストを、詩人として考察する
4	日本語の可能性と「言葉の力」～日本語の特性、表現の可能性を「やまとことば」から考察する
5	作詞演習６：「物語から歌詞を書く～ミュージカル、オペラ」～作詞演習５の課題を添削『ロミオとジュリエット』のバルコニーの場面
6	表現力演習３：「五感を言葉でつなぐ」～五感を言葉で表現することを学ぶ
7	作詞演習７：コンセプトを立て、テーマを決める～プロデュースとは～企画の立て方を学ぶ
8	作詞演習８：「安室奈美恵の復帰第一弾」のコンセプトを考える～復帰した安室奈美恵の方向性と、歌詞のテーマを考える
9	表現力演習４：「音楽と映像から『言葉』を引き出す」～音楽、写真、映像が訴えかけてくる「何か」を自由に発想する
10	作詞演習９：「作詞演習８」の課題添削～安室奈美恵復帰コンセプトを考察、添削する
11	訳詞研究：「洋楽から日本詞へ」～日本語と多言語の音楽的な壁をどう乗り越えるか考察する
12	訳詞研究課題添削～訳詞研究歌詞の添削
13	作詞演習10：「自分の物語を歌にする」（好きな曲に歌詞をつける）～これまで学んだことを踏まえ、自由なテーマで作詞をする
14	作詞演習11：「自分の物語を歌にする」添削～作詞演習10の添削を通して、「自分の言葉」について考察する
15	総括～後期の内容を振り返り、歌の持つ力について考える

科目名	演奏会実習　[火3]						
代表教員	古田　賢司	授業コード	HE175100	科目コード	HE1751	期間	通年
担当教員	柳澤　涼子、曲尾　雅子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

年間の各演奏会における企画と演奏を通して、演奏会運営についての研究をする

２．授業概要

各演奏会のプログラミング、演奏準備その他制作にかかわる諸事の実習

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自実技の練習

４．成績評価の方法及び基準

平常点（５０%）
参加姿勢（４０%）
演奏評価（１０%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	演奏会を企画することに対してのセルフマネージメント１　　プロフィール等の自己アピールを学ぶ
1	ガイダンス／前期演奏会について
2	演奏会を企画することに対してのセルフマネージメント１ プロフィール等の自己アピールを学ぶ
3	演奏会を企画することに対してのセルフマネージメント2 演奏会の企画書等の作成を学ぶ
4	デビューコンサートへ向けてのプログラミング
5	デビューコンサートへ向けての企画打ち合わせ
6	デビューコンサートへ向けての合わせ、練習
7	デビューコンサートへ向けての合わせ、復習
8	研修旅行についての計画
9	研修旅行先についての文化、歴史を研究
10	デビューコンサートのための最終チェック
11	コンチェルトのタベのプログラミング
12	コンチェルトのタベへ向けての企画打ち合わせ
13	コンチェルトのタベへ向けての合わせ、練習
14	コンチェルトのタベに向けての準備、練習
15	前期演奏会の反省、統括

授業計画	
1	ガイダンス／後期演奏会について
2	演奏会におけるナレーションの役割
3	舞台上での発語、発声について
4	ナレーションのマイクも使用方法について
5	クリスマスコンサートの企画準備
6	クリスマスコンサートのプログラミング
7	クリスマスコンサートの企画準備／楽譜準備、編曲等
8	修了演奏会に向けての企画準備
9	修了演奏会に向けて企画打ち合わせ
10	コンチェルトの夕べのための最終チェック
11	ファイナルコンサートに向けてのプログラミング
12	ファイナルコンサートに向けての企画打ち合わせ
13	ファイナルコンサートに向けての準備、練習
14	ファイナルコンサートに向けての準備、復習
15	年間の演奏会の反省と統括

科目名	専攻科特殊研究 1						
代表教員	担当教員	授業コード	HE176000	科目コード	HE1760	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

本科目は大学学部の講座を履修し、一定の成績を修めた場合、所定の単位を認定する。

2．授業概要

各自の研究目標に適合した講座を選択。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

（受講科目の基準による。）ポータルで事前に配信した資料の事前読了を求めます。毎回の予習には90分程度の時間がかかることが想定されます。

4．成績評価の方法及び基準

（受講科目の基準による。）平常点（授業への参加姿勢、コメントペーパーの提出状況等）、授業内の確認テスト、定期試験を総合的に判断する。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

（講座の担当教員による。）授業内で適宜、紹介する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	受講科目の基準による。ここに示すのは、一般的な演習科目の授業計画例である。
1	前期ガイダンス
2	（前期課題）グループ分け、担当決め
3	（前期課題）問題意識に関するディスカッション
4	（前期課題）研究テーマについてディスカッションする
5	（前期課題）研究の手法についてディスカッションする
6	（前期課題）収集する資料、参照する先行研究の範囲についてディスカッションする
7	（前期課題）先行研究の講読
8	（前期課題）先行研究から抽出できる問題点の把握
9	（前期課題）先行研究から抽出できる課題を整理する
10	（前期課題）前期報告に向けて、より具体的な研究課題についてディスカッションする
11	（前期課題）前期報告に向けて、より具体的な研究手法についてディスカッションする
12	（前期課題）前期報告に向けて、先行研究のまとめ方についてディスカッションする
13	（前期課題）前期報告に向けて、発表内容の構成についてディスカッションする
14	（前期課題）前期成果発表会
15	後期の研究計画についてディスカッションする

授業計画	
1	後期ガイダンス
2	（後期課題）グループ分け、担当決め
3	（後期課題）問題意識に関するディスカッション
4	（後期課題）研究テーマについてディスカッションする
5	（後期課題）研究の手法についてディスカッションする
6	（後期課題）収集する資料、参照する先行研究の範囲についてディスカッションする
7	（後期課題）先行研究の講読
8	（後期課題）先行研究から抽出できる問題点の把握
9	（後期課題）先行研究から抽出できる課題を整理する
10	（後期課題）後期報告に向けて、より具体的な研究課題についてディスカッションする
11	（後期課題）後期報告に向けて、より具体的な研究手法についてディスカッションする
12	（後期課題）後期報告に向けて、先行研究のまとめ方についてディスカッションする
13	（後期課題）後期報告に向けて、発表内容の構成についてディスカッションする
14	（後期課題）後期成果発表会
15	今後の研究計画についてディスカッションする

科目名	専攻科特殊研究２						
代表教員	担当教員	授業コード	HE177000	科目コード	HE1770	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本科目は大学学部の講座を履修し、一定の成績を修めた場合、所定の単位を認定する。

２．授業概要

各自の研究目標に適合した講座を選択。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（受講科目の基準による。）ポータルで事前に配信した資料の事前読了を求めます。毎回の予習には90分程度の時間がかかることが想定されます。

４．成績評価の方法及び基準

（受講科目の基準による。）平常点（授業への参加姿勢、コメントペーパーの提出状況等）、授業内の確認テスト、定期試験を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（講座の担当教員による。）授業内で適宜、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	受講科目の基準による。ここに示すのは、一般的な演習科目の授業計画例である。
1	ガイダンス
2	グループ分け、担当決め
3	問題意識に関するディスカッション
4	研究テーマについてディスカッションする
5	研究の手法についてディスカッションする
6	収集する資料、参照する先行研究の範囲についてディスカッションする
7	先行研究の講読
8	先行研究から抽出できる問題点の把握
9	先行研究から抽出できる課題を整理する
10	学習成果報告に向けて、より具体的な研究課題についてディスカッションする
11	学習成果報告に向けて、より具体的な研究手法についてディスカッションする
12	学習成果報告に向けて、先行研究のまとめ方についてディスカッションする
13	学習成果報告に向けて、発表内容の構成についてディスカッションする
14	学習成果発表会
15	今後の研究計画についてディスカッションする

科目名	専攻科特殊研究３						
代表教員	担当教員	授業コード	HE178000	科目コード	HE1780	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本科目は大学学部の講座を履修し、一定の成績を修めた場合、所定の単位を認定する。

２．授業概要

各自の研究目標に適合した講座を選択。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（受講科目の基準による。）ポータルで事前に配信した資料の事前読了を求めます。毎回の予習には90分程度の時間がかかることが想定されます。

４．成績評価の方法及び基準

（受講科目の基準による。）平常点（授業への参加姿勢、コメントペーパーの提出状況等）、授業内の確認テスト、定期試験を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（講座の担当教員による。）授業内で適宜、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	受講科目の基準による。ここに示すのは、一般的な演習科目の授業計画例である。
1	ガイダンス
2	グループ分け、担当決め
3	問題意識に関するディスカッション
4	研究テーマについてディスカッションする
5	研究の手法についてディスカッションする
6	収集する資料、参照する先行研究の範囲についてディスカッションする
7	先行研究の講読
8	先行研究から抽出できる問題点の把握
9	先行研究から抽出できる課題を整理する
10	学習成果報告に向けて、より具体的な研究課題についてディスカッションする
11	学習成果報告に向けて、より具体的な研究手法についてディスカッションする
12	学習成果報告に向けて、先行研究のまとめ方についてディスカッションする
13	学習成果報告に向けて、発表内容の構成についてディスカッションする
14	学習成果発表会
15	今後の研究計画についてディスカッションする

科目名	専攻科特殊研究４						
代表教員	担当教員	授業コード	HE179000	科目コード	HE1790	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本科目は大学学部の講座を履修し、一定の成績を修めた場合、所定の単位を認定する。

２．授業概要

各自の研究目標に適合した講座を選択。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（受講科目の基準による。）ポータルで事前に配信した資料の事前読了を求めます。毎回の予習には90分程度の時間がかかることが想定されます。

４．成績評価の方法及び基準

（受講科目の基準による。）平常点（授業への参加姿勢、コメントペーパーの提出状況等）、授業内の確認テスト、定期試験を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（講座の担当教員による。）授業内で適宜、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	受講科目の基準による。ここに示すのは、一般的な演習科目の授業計画例である。
1	ガイダンス
2	グループ分け、担当決め
3	問題意識に関するディスカッション
4	研究テーマについてディスカッションする
5	研究の手法についてディスカッションする
6	収集する資料、参照する先行研究の範囲についてディスカッションする
7	先行研究の講読
8	先行研究から抽出できる問題点の把握
9	先行研究から抽出できる課題を整理する
10	学習成果報告に向けて、より具体的な研究課題についてディスカッションする
11	学習成果報告に向けて、より具体的な研究手法についてディスカッションする
12	学習成果報告に向けて、先行研究のまとめ方についてディスカッションする
13	学習成果報告に向けて、発表内容の構成についてディスカッションする
14	学習成果発表会
15	今後の研究計画についてディスカッションする

科目名	専攻科特殊研究５						
代表教員	担当教員	授業コード	HE179100	科目コード	HE1791	期間	
担当教員							
授業形態		配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本科目は大学学部の講座を履修し、一定の成績を修めた場合、所定の単位を認定する。

２．授業概要

各自の研究目標に適合した講座を選択。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（受講科目の基準による。）ポータルで事前に配信した資料の事前読了を求めます。毎回の予習には90分程度の時間がかかることが想定されます。

４．成績評価の方法及び基準

（受講科目の基準による。）平常点（授業への参加姿勢、コメントペーパーの提出状況等）、授業内の確認テスト、定期試験を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（講座の担当教員による。）授業内で適宜、紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	受講科目の基準による。ここに示すのは、一般的な演習科目の授業計画例である。
1	ガイダンス
2	グループ分け、担当決め
3	問題意識に関するディスカッション
4	研究テーマについてディスカッションする
5	研究の手法についてディスカッションする
6	収集する資料、参照する先行研究の範囲についてディスカッションする
7	先行研究の講読
8	先行研究から抽出できる問題点の把握
9	先行研究から抽出できる課題を整理する
10	学習成果報告に向けて、より具体的な研究課題についてディスカッションする
11	学習成果報告に向けて、より具体的な研究手法についてディスカッションする
12	学習成果報告に向けて、先行研究のまとめ方についてディスカッションする
13	学習成果報告に向けて、発表内容の構成についてディスカッションする
14	学習成果発表会
15	今後の研究計画についてディスカッションする

科目名	コンチェルト　[水4]						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	HE181300	科目コード	HE1813	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・EO・SI・WI・PI・VO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

協奏曲、オペラ等を２台から３台の電子オルガンが担当するオーケストレーションされた演奏にソリストとして出演する。指揮者の下、色彩豊かなオーケストラの音響の中でソロ演奏するという体験をする。

２．授業概要

指揮者、電子オルガンとのアンサンブルを練習計画に沿って行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

譜読み並びに楽曲の研究を行う。
演奏会本番に向けての演奏力の向上のため、十分な練習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
演奏会への出演（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各専門分野による楽曲
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・演奏の発表を目的とした講座のため、電子オルガンとの合わせの都合により、授業時間以外にも臨時練習が必要になる。
　このため授業時間を振り替えるような処置を講ずることもある。
・履修人数によって演奏時間の規定を設けるので厳守すること。

授業計画	
	［前期］ 後期に行われる演奏会の選曲並びに、その楽曲についての研究を進める。
1	演奏候補曲の検討　専門楽器のコンチェルトの楽曲を研究
2	演奏候補曲の検討　オーケストラスコアを読む
3	演奏候補曲の決定
4	課題曲の分析　時代背景、様式から
5	課題曲を学ぶ　形式、和声から
6	譜読み並びに演奏曲の分析。
7	奏法を中心に学ぶ
8	表現法、音色を中心に学ぶ
9	表現の掘り下げ
10	スコアリーディングにより、オーケストラパートの研究
11	指揮の見方を学ぶ
12	曲全体を通して演奏　確認
13	譜読み並びに演奏曲の分析。解釈したものを表現するために研究をする。
14	電子オルガンアンサンブルとの合わせ（打ち合わせ）編成などについて研究する。
15	電子オルガンアンサンブルとの合わせ（打ち合わせ）電子オルガンによるデモンストレーション

授業計画	
	［後期］ 演奏会本番に向けて、演奏の仕上げを行い、指揮者、電子オルガン奏者とのアンサンブルを中心に進めていく。
1	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）オーケストラ部分の分析。木管楽器の楽器研究
2	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）オーケストラ部分の分析。金管楽器の楽器研究
3	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）オーケストラ部分の分析。弦楽器の楽器研究
4	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）オーケストラ部分の分析、オーケストレーション研究
5	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルとしての合わせを中心に学ぶ。
6	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルとしての合わせを中心に学ぶ。各楽器のバランスを研究
7	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルとしての合わせを中心に学ぶ。指揮者との合わせ
8	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルとしての合わせを中心に学ぶ。演奏表現の工夫
9	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルとしての合わせを中心に学ぶ。表現の掘り下げ
10	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルの中から、バランスや表現について確認する。仕上げの演奏
11	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）打楽器との合わせ
12	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルの中から、バランスや表現について確認する。打楽器のパートから、音楽の流れを理解
13	電子オルガンとの合わせ（専攻科演奏会へ向けてのアンサンブル練習）アンサンブルの中から、バランスや表現について確認する。演奏会プログラム確認、演奏
14	専攻科演奏会　仕上げの演奏　電子オルガンとの合わせ
15	専攻科演奏会　演奏会形式での発表　まとめ

科目名	アンサンブル　（後）　[金3]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	HE182100	科目コード	HK1821	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・EO・SI・WI・PI・VO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽及び声楽で、多種の楽器または声種の組み合せによる合奏を実習し、演奏会で発表する。多方面からアンサンブルにおける演奏表現の可能性を追求し、年度末の演奏会ではその成果発表として、担当教員の書き下ろしによる新作を初演する。

２．授業概要

既成曲による合奏の試演による基礎練習を経て、新作の合奏に本格的に取り組む。新作は毎回、書き進んだ分が渡され、それを逐次音にしていく。成果発表としての演奏会は2月末ないしは3月初めに開催される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実習楽曲の、各自のパートの譜読み（予習）と個人練習または分奏練習（復習）。

４．成績評価の方法及び基準

授業、演奏会への参加姿勢を基準として評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

合奏実習をする楽曲、新曲の楽譜は授業内で配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

個人練習、合奏実習には積極的な姿勢で参加し、演奏会成功に向けてメンバー間で協力しあい、アンサンブルのブラッシュアップに努めること。

授業計画	
	半期（後期15回） 　授業計画にそって合奏実習を進める。
1	ガイダンス
2	既成曲による合奏実習 (1)精確な譜読みと音出し
3	既成曲による合奏実習 (2)全体の響きのバランスをとることに主眼に
4	既成曲による合奏実習 (3)適切な奏法と表現に留意して
5	演奏会に向けての新作の合奏実習 (1)正確な譜読みと音出し
6	演奏会に向けての新作の合奏実習 (2)楽曲の性格を把握する
7	演奏会に向けての新作の合奏実習 (3)楽曲の構造を理解する
8	演奏会に向けての新作の合奏実習 (4)各パートの役割を明確に認識する
9	演奏会に向けての新作の合奏実習 (5)全体の響きのバランスをとることを主眼に
10	演奏会に向けての新作の合奏実習 (6)適切な奏法と表現に留意して
11	演奏会に向けての新作の合奏実習 (7)合奏の基本について見直す
12	演奏会に向けての新作の合奏実習 (8)楽曲の特色を活かした演奏表現を目指す
13	演奏会に向けての新作の合奏実習 (9)訴求力の高い合奏を目指す
14	演奏会に向けての新作の合奏実習 (10)本番を意識して合奏を仕上げる
15	総括

科目名	修了研究						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	HE207000	科目コード	HE2070	期間	通年
担当教員	担当教員						
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

専門技術の向上を目指し、基本的な演奏テクニックや表現技法を修得する。

2．授業概要

個人レッスンを主とし、研究目的にそって演習を行う。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各自目標を立て研究目的に沿い、担当教員のアドヴァイスを受け、次回のレッスンまで準備する。

4．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の100%）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により指示がある。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自で伴奏者を準備する。
通常レッスン時に伴奏者が必要な場合もある。

授業計画	
	［前期］
1	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、研究方法等）
2	個々の前期課題における改善方法
3	前期課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解）
4	前期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）
5	前期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り・応用）
6	前期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）
7	前期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解・応用）
8	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）
9	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル・応用）
10	前期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を探る）
11	前期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法）
12	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・分析）
13	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・演奏スタイル）
14	前期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源のリサーチ）
15	前期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源映像の分析）

授業計画	
	［後期］
1	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、研究方法等）
2	個々の後期課題における改善方法
3	後期課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解）
4	後期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）
5	後期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り・応用）
6	後期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）
7	後期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解・応用）
8	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）
9	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル・応用）
10	後期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を探る）
11	後期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法）
12	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・分析）
13	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・演奏スタイル）
14	後期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源のリサーチ）
15	後期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源映像の分析）

科目名	海外研修						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	HJ171100	科目コード	HJ1711	期間	集中
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

海外研修に参加することで、日本と異なる文化を理解する。
現地での交流により、国際的なコミュニケーション能力を高める。

２．授業概要

プレゼンテーション資料の作成・発表によって、プレゼンテーション能力を高める。
チーム作業を通じて、コミュニケーション能力を高める。
チーム作業を通じて、チーム運営の方法を理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

渡航先について、歴史、文化等学習すること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢＝５０％
総合的な学習態度＝５０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

その他、必要に応じてレジュメを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
1	ガイダンス
2	アイスブレーキング
3	研修先についての学習1（地理・歴史）
4	研修先についての学習2（文化全般）
5	研修先についての学習3（音楽）前半
6	研修先についての学習4（音楽）後半
7	現地レッスンプログラム研究1（テーマ設定）
8	現地レッスンプログラム研究2（楽曲の背景等の研究）
9	現地演奏会プログラム研究3（資料作成）
10	中間報告
11	現地レッスンプログラム作成4（資料の修正）
12	現地レッスンプログラム研究5（現地レッスンに向けての最終準備）
13	現地体験レッスン
14	現地体験レッスン　仕上げ
15	最終発表

科目名	邦楽サウンド論　［土3］						
代表教員	山口　賢治	授業コード	HK171000	科目コード	HK1710	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	ＧＨ:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

通年の授業を通じて日本音楽についての正しい知識、知見を習得することが本講座の目的である。

２．授業概要

下記の２つの観点から構成されるカリキュラムとなっている。

①邦楽理論…邦楽の鑑賞、演奏、作曲などに有用な音楽理論を体系的に学ぶ。担当は森重行敏 先生。
②各分野別の音楽概論…研究者や演奏家など各分野の専門家による講義。各担当講師が自身の専門分野について豊富な資料や実演を交えて深く掘り下げる内容の授業。

本授業は大学附属研究機関である現代邦楽研究所の公開講座でもあるので、本学以外の受講生との合同授業となる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた日本の伝統音楽の中から興味があるジャンルについては、実際に演奏会へ足を運ぶ機会を設けてほしい。また授業の中でも参考演奏会を紹介する機会を設ける。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
後期レポート提出（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。

参考文献
汐文社 刊　森重行敏 他 著
「ビジュアル版 和楽器事典」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

日本の伝統音楽に興味があれば、履修の条件は特になし。
出来る限り休まずに受講すること。

授業計画	
	［前期］
1	邦楽理論1　総論　森重行敏
2	邦楽理論2　楽譜論　森重行敏
3	邦楽理論3　記譜法　森重行敏
4	古代の音楽　山本華子
5	邦楽理論4　絃楽器論　導入　森重行敏
6	邦楽理論5　絃楽器論　応用　森重行敏
7	笛の音楽　福原徹
8	邦楽理論6　絃楽器論　まとめ　森重行敏
9	三味線の音楽　上原潤之助
10	邦楽理論7　管楽器論　導入　森重行敏
11	箏の音楽　吉原佐知子
12	邦楽理論8　管楽器論　応用　森重行敏
13	尺八の音楽　三橋貴風
14	民謡と津軽三味線　山中信人
15	鑑賞講座「和のいろは」14：00開演シルバーマウンテン

授業計画	
	［後期］
1	邦楽理論9　管楽器論　まとめ　森重行敏
2	アジアの音楽1　中国・韓国　森重行敏
3	アジアの音楽2　東南アジア　森重行敏
4	アジアの音楽3　モンゴル ・インド　森重行敏
5	邦楽理論10　打楽器論　導入　森重行敏
6	邦楽理論11　打楽器論　応用　森重行敏
7	日本の太鼓　冨田慎平
8	邦楽理論12　打楽器論　まとめ　森重行敏
9	邦楽理論13　楽曲分析論　導入　森重行敏
10	鑑賞講座　冬の音楽祭邦楽コンサート　14：00開演シルバーマウンテン
11	邦楽器と現代作品　松尾祐孝
12	邦楽理論14　楽曲分析論　応用　森重行敏
13	邦楽と現代作品　松尾祐孝
14	邦楽と音楽教育　澤田篤子
15	邦楽理論15　楽曲分析論　まとめ　森重行敏

科目名	ジャズの歴史１　（前）［水4］Ａクラス						
代表教員	マーク　トゥリアン	授業コード	HK1712A0	科目コード	HK1712	期間	半期
担当教員	蟻正　行義						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズの歴史とそのルーツを知り、現在世界中で演奏されているようになったジャズというスタイルの音楽表現とアメリカ文化の関連を学ぶ

２．授業概要

ジャズの歴史を映像、音源と講義を通して学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽は文化の一部ですので、その音楽が生まれた国の歴史に深く関連しています。アメリカの歴史に関する知識はこの授業内容を理解することに役立ちます。各授業で取り上げられる音楽は事前に、その音源のリンクなどが伝えられるので、授業以前に予習としてそのミュージシャンの音楽を聴くことを必須とします

４．成績評価の方法及び基準

中間試験 15%
期末試験 20%
小テスト 25%
コンサート見学とレポート 10%
1ページレポート10%
授業態度 20%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時プリントを配布します

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 1) 20世紀で起こった、ジャズのリズム、ハーモニー、フォームの発展 2) 黒人文化の中で育ったエンタテーメントとしてのジャズ
1	ジャズとは何か？
2	起源 Field Hollers, Work Songs, Cake Walk, Ragtime
3	初期のニューオリンズ Caribbean, ヨーロッパかの影響、Buddy Bolden, Jelly Roll Morton, King Oliver, Kid Ory,ミシシッピー一体の文化
4	ルイアームストロングー新しいコンセプト
5	シカゴ、Earl Hines
6	ニューヨーク、Fletcher Henderson
7	Count Basie, Lester Young, Ben Webster
8	Duke Ellington, Billy Strayhorn
9	中間試験
10	スイングの音楽、Benny Goodman, Artie Shaw, Glenn Miller, Dorsey Brothers
11	Be-Bopの手前、Lester Young, Charlie Christian, Earl Hines Bille Ecksteine
12	Charlie Parker, バーチュオーソ
13	Be-bop 新しい言語
14	ジャズの女性たち
15	期末試験とまとめ

科目名	ジャズの歴史２　（後）［水4］Ａクラス						
代表教員	マーク　トゥリアン	授業コード	HK1713A0	科目コード	HK1713	期間	半期
担当教員	蟻正　行義						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ジャズの歴史とそのルーツを知り、現在世界中で演奏されているようになったジャズというスタイルの音楽表現とアメリカ文化の関連を学ぶ

２．授業概要

ジャズの歴史を映像、音源と講義を通して学ぶ

３．授業時間外の学習（予習復習について）

音楽は文化の一部ですので、その音楽が生まれた国の歴史に深く関連しています。アメリカの歴史に関する知識はこの授業内容を理解することに役立ちます。各授業で取り上げられる音楽は事前に、その音源のリンクなどが伝えられるので、授業以前に予習としてそのミュージシャンの音楽を聴くことを必須とします

４．成績評価の方法及び基準

中間試験 15%
期末試験 20%
小テスト 25%
コンサート見学とレポート 10%
1ページレポート10%
授業態度 20%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時プリントを配布します

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］ 1）黒人のアイデンティティと社会的・芸術的主張としてのジャズ 2）世界的な広がりとアーティスティックなムーヴメントとしてのジャズ
1	ラテンジャズ
2	クールジャズ
3	ハードバップ
4	モードを用いたジャズ
5	ジョンコルトレーン
6	60年代のモダンジャズ
7	社会不安から見出した新しい方向性
8	中間試験と振り返り
9	ボサノバ
10	フュージョン音楽
11	マイルスデイビス
12	チックコリア
13	ハービーハンコック
14	ワールドミュージック
15	期末試験とまとめ

科目名	ピアノ演奏史　［木4］Aクラス						
代表教員	武田　一彦	授業コード	HK1714A0	科目コード	HK1714	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノとピアニスト。ピアノ音楽の魅力はピアニストの魅力でもある。超絶的な指さばきと華麗なステージ・マナーで聴衆を興奮に巻き込む「ヴィルトゥオーゾ」たち。流派固有のスタイルと響きを今に伝える伝統派ピアニスト。クラシックの枠を超えた斬新なレパートリーと解釈で、聞く者を挑発し続ける「異端」たち。SP時代の大家から現代の若手まで「表現」や「ピアニズム」は多種多様。同じピアノにも、弾き手それぞれの、異なったピアノの響きがある。

ピアノという楽器から、ピアニストによって、限りなく多彩で豊かな響きを生み出してしまう不思議な魅力。その魅力に迫るべく様々なピアニストの映像を鑑賞して、ピアニストや、ピアノ演奏に対する知識を深める。

２．授業概要

毎回、１～３名のピアニストの演奏、インタビュー、ドキュメンタリー等の映像を鑑賞します。
（授業計画に記載のピアニストは、変更になる場合があります。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

普段から、積極的にピアノ演奏のCD、ＤＶＤを鑑賞したり、有名なピアニストの演奏会に足を運んだりするよう心がける。

４．成績評価の方法及び基準

学年末レポート（評価の90%）
・指定期日までに提出していない場合は、失格となります。
平常点：授業内の小レポート、感想文（評価の10%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回、プリントを配布する。
参考文献：『ピアノとピアニスト２００３』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

普段から、ピアノ音楽に興味を持つこと。
３分の２以上の出席がない場合、学年末レポートの提出資格を失うことになります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（授業についての説明） ピアノ、その３００年の歴史
2	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　１ パデレフスキー　～　プランテのドキュメンタリー映像と解説
3	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　２ コルトー　～　アラウのドキュメンタリー映像と解説
4	ホロヴィッツ　１ 晩年の自宅の映像
5	ホロヴィッツ　２ モーツァルト　ピアノコンツェルトの収録風景
6	ホロヴィッツ　３ ウィーン、モスクワの演奏会
7	クライヴァーン
8	ラローチャ、ヘス
9	ルービンシュタイン
10	ロシア黄金時代 リヒテル　１ モスクワ音楽院リサイタル
11	リヒテル　２ ドキュメンタリー映像
12	グルダ
13	キーシン
14	リリー・クラウス、ホルショフスキー
15	グールド

授業計画	
	［後期］
1	世紀のピアニストたちの共演 ～ヴェルビエ音楽祭　2003～
2	アラウ、ペライア
3	シフラ、モイセヴィッチ、ボレット
4	ギレリス
5	ショパンコンクールについて
6	ミケランジェリ
7	バックハウス、ケンプ
8	アルゲリッチ
9	アシュケナージ、ポリーニ
10	ベルマン、バレンボイム
11	ブレンデル、カッチェン、ゼルキン
12	パデレフスキー、マガロフ、ペルルミュテール、ハラシェヴィッチ
13	ツィメルマン、ポゴレリッチ、ブーニン
14	フィッシャー、ニコラーエフ、ワイセンベルク
15	まとめ （ピアニストの黄金時代）

科目名	ピアノ演奏史　［木5］Bクラス						
代表教員	武田　一彦	授業コード	HK1714B0	科目コード	HK1714	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノとピアニスト。ピアノ音楽の魅力はピアニストの魅力でもある。超絶的な指さばきと華麗なステージ・マナーで聴衆を興奮に巻き込む「ヴィルトゥオーゾ」たち。流派固有のスタイルと響きを今に伝える伝統派ピアニスト。クラシックの枠を超えた斬新なレパートリーと解釈で、聞く者を挑発し続ける「異端」たち。SP時代の大家から現代の若手まで「表現」や「ピアニズム」は多種多様。同じピアノにも、弾き手それぞれの、異なったピアノの響きがある。

ピアノという楽器から、ピアニストによって、限りなく多彩で豊かな響きを生み出してしまう不思議な魅力。その魅力に迫るべく様々なピアニストの映像を鑑賞して、ピアニストや、ピアノ演奏に対する知識を深める。

２．授業概要

毎回、１～３名のピアニストの演奏、インタビュー、ドキュメンタリー等の映像を鑑賞します。
（授業計画に記載のピアニストは、変更になる場合があります。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

普段から、積極的にピアノ演奏のCD、ＤＶＤを鑑賞したり、有名なピアニストの演奏会に足を運んだりするよう心がける。

４．成績評価の方法及び基準

学年末レポート（評価の90%）
・指定期日までに提出していない場合は、失格となります。
平常点：授業内の小レポート、感想文（評価の10%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：毎回、プリントを配布する。
参考文献：『ピアノとピアニスト２００３』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

普段から、ピアノ音楽に興味を持つこと。
３分の２以上の出席がない場合、学年末レポートの提出資格を失うことになります。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（授業についての説明） ピアノ、その３００年の歴史
2	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　１ パデレフスキー　～　プランテのドキュメンタリー映像と解説
3	２０世紀の偉大なピアニストたち（概略）　２ コルトー　～　アラウのドキュメンタリー映像と解説
4	ホロヴィッツ　１ 晩年の自宅の映像
5	ホロヴィッツ　２ モーツァルト　ピアノコンツェルトの収録風景
6	ホロヴィッツ　３ ウィーン、モスクワの演奏会
7	クライヴァーン
8	ラローチャ、ヘス
9	ルービンシュタイン
10	ロシア黄金時代 リヒテル　１ モスクワ音楽院リサイタル
11	リヒテル　２ ドキュメンタリー映像
12	グルダ
13	キーシン
14	リリー・クラウス、ホルショフスキー
15	グールド

授業計画	
	［後期］
1	世紀のピアニストたちの共演 ～ヴェルビエ音楽祭　2003～
2	アラウ、ペライア
3	シフラ、モイセヴィッチ、ボレット
4	ギレリス
5	ショパンコンクールについて
6	ミケランジェリ
7	バックハウス、ケンプ
8	アルゲリッチ
9	アシュケナージ、ポリーニ
10	ベルマン、バレンボイム
11	ブレンデル、カッチェン、ゼルキン
12	パデレフスキー、マガロフ、ペルルミュテール、ハラシェヴィッチ
13	ツィメルマン、ポゴレリッチ、ブーニン
14	フィッシャー、ニコラーエフ、ワイセンベルク
15	まとめ （ピアニストの黄金時代）

科目名	オペラ史　（後）［火2］						
代表教員	青島　広志	授業コード	HK171500	科目コード	HK1715	期間	半期
担当教員	松浦　真沙						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

4世紀以上に渡って西洋の娯楽の中心となって来たオペラの歴史を半期のみでたどります。声楽コース学生のみならず、将来舞台芸術とかかわる可能性のある学生（ピアノ、オーケストラを含む）には絶対に欠かせない知識です。

２．授業概要

各時代ごとの作品の傾向・特徴を示し、実演や音・映像資料でその上演に触れます。また実際のオペラ上演の方法・手順についても知識を与えます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

限られた授業時間内ではオペラ全曲を鑑賞することは不可能です。またその中心となる歌唱部も全員が歌うことは不可能です。そのため声楽や合唱の授業に積極的に参加し、校外の公演には可能な限り足を運んでほしいものです。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加意欲など）、「魔笛」・「道化師」のビデオ鑑賞およびそのレポート（感想文）の各々50%ずつ

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：オペラへご招待！（学研：青島広志・水野英子共著）
参考文献：フィガロの結婚・魔笛（モーツァルト）、椿姫・リゴレット（ヴェルディ）、タンホイザー（ヴァーグナー）、ばらの騎士（R.シュトラウス）の各ヴォーカル・スコアおよび各声種別のオペラ・アリア集

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実際に声を出すことを嫌わないこと。黒板の板書を筆記できること（撮影ではなく）。
受講生が多い場合は、人数を制限する場合があります。

授業計画	
	［半期］
1	有名なオペラを通した全般的な考察（モーツァルト「フィガロの結婚」、ヴェルディ「椿姫」、プッチーニ「蝶々夫人」）
2	オペラの概要、その発生（モンテヴェルディ「オルフェオ」「ポッペアの戴冠」、オラトリオを含む）
3	ナポリ派（スカルラッティ、ヘンデルを含む）とオペラ改革（グルック）
4	古典派（モーツァルト「後宮への逃走」「コシ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」概説）
5	古典派（モーツァルト「魔笛」、ベートーヴェン）
6	ロマン派初期（ロッシーニ、ウェーバー）
7	ベルカント・オペラ（ベッリーニ、ドニゼッティ）
8	ロマン派中期（ヴェルディその1）
9	ロマン派中期（ヴェルディその2、ヴァーグナー）
10	国民楽派（チャイコフスキー、ビゼー、ドヴォルザークを含む）
11	ヴェリズモ（現実主義）とプッチーニ
12	R.シュトラウスと20世紀（ドビュッシーを含む）
13	20世紀と日本（ベルク、山田耕筰、團伊玖磨を含む）
14	上演の実際
15	上演の体験

科目名	日本の伝統芸能と音楽　［木3］Aクラス						
代表教員	森重　行敏	授業コード	HK1716A0	科目コード	HK1716	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の日本において、伝統芸能との接点は希薄になりがちである。しかし日本で音楽や舞台芸術に関わる者が、その専門分野の知識はもちろん、日本の伝統芸能についても最低限は知っているべきであることは疑いがない。日本の伝統音楽は日本語や舞踊、演劇などと密接に関わっているため、それを生み出す日本の社会的文化的脈絡および外来文化との関係について理解する。

２．授業概要

日本の伝統音楽や芸能について、映像や音源を通じて知るとともに、様々な楽器や楽譜などにも直接触れることにより、理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本音楽には独特の用語も多いため、下記の参考文献などにより予め知識を得ておくことが望ましい。また配付資料は必ずファイルし、受講後に講義で学んだことを合わせて読み深めておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

受講状況(授業中のミニレポートを含む)（評価の５０％）
学期末レポート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献については、講義中に随時紹介するが、以下の文献などを参考にすること。授業では随時プリントを配布する。
『日本音楽との出会い』月渓恒子(東京堂出版)
『図解・日本音楽史』田中健次(東京堂出版)
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社）
『日本の音を聴く』柴田南雄（青土社）
『日本の音』小泉文夫（青土社）
『音･言葉･人間』武満徹・川田順造（岩波書店）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

映像や音源の鑑賞をするため、遅刻・欠席はできるだけしないこと。出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 古代・中世の伝統芸能
1	導入：「伝統芸能」とは
2	伝統芸能の分類
3	芸能の起源1　神話と芸能
4	芸能の起源2　宗教と芸能
5	雅楽1　歴史と分類
6	雅楽2　舞楽の構造
7	雅楽3　管絃、催馬楽、朗詠
8	雅楽4　国風歌舞
9	仏教芸能
10	能楽1 能楽の歴史
11	能楽2 能楽の構造
12	能楽3 狂言の音楽
13	中世の芸能
14	語り物の発展
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 近世以降の古典芸能と民俗芸能
1	歌舞伎1 歌舞伎の歴史
2	歌舞伎２　文楽との相互交流
3	歌舞伎３　日本舞踊
4	文楽1 人形浄瑠璃の成立
5	文楽２　義太夫節の発展
6	箏曲1 箏曲の成立
7	箏曲2 箏曲の発展
8	三曲合奏1 その成立
9	三曲合奏2 その変革
10	民俗芸能1 芸能の原点を探る
11	民俗芸能2 祭礼の種類
12	民俗芸能3 新たな動向
13	伝統と現代1 芸能と社会の変化
14	伝統と現代2 メディアと芸能
15	後期のまとめ

科目名	日本の伝統芸能と音楽　［火5］Bクラス						
代表教員	山本　華子	授業コード	HK1716B0	科目コード	HK1716	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現代の日本において、伝統芸能との接点は希薄になりがちである。しかし日本で音楽や舞台芸術に関わる者が、その専門分野の知識はもちろん、日本の伝統芸能についても最低限は知っているべきであることは疑いがない。日本の伝統音楽は日本語や舞踊、演劇などと密接に関わっているため、それを生み出す日本の社会的文化的脈絡および外来文化との関係について理解する。

２．授業概要

日本の伝統音楽や芸能について、映像や音源を通じて知るとともに、様々な楽器や楽譜などにも直接触れることにより、理解を深める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日本音楽には独特の用語も多いため、下記の参考文献などにより予め知識を得ておくことが望ましい。また配付資料は必ずファイルし、受講後に講義で学んだことを合わせて読み深めておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

受講状況(授業中のミニレポートを含む)（評価の５０％）
学期末レポート（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献については、講義中に随時紹介するが、以下の文献などを参考にすること。授業では随時プリントを配布する。
『日本音楽との出会い』月渓恒子(東京堂出版)
『図解・日本音楽史』田中健次(東京堂出版)
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社）
『日本の音を聴く』柴田南雄（青土社）
『日本の音』小泉文夫（青土社）
『音･言葉･人間』武満徹・川田順造（岩波書店）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

映像や音源の鑑賞をするため、遅刻・欠席はできるだけしないこと。出席を重視する。

授業計画	
	［前期］ 古代・中世の伝統芸能
1	導入：「伝統芸能」とは
2	伝統芸能の分類
3	芸能の起源1　神話と芸能
4	芸能の起源2　宗教と芸能
5	雅楽1　歴史と分類
6	雅楽2　舞楽の構造
7	雅楽3　管絃、催馬楽、朗詠
8	雅楽4　国風歌舞
9	仏教芸能
10	能楽1 能楽の歴史
11	能楽2 能楽の構造
12	能楽3 狂言の音楽
13	中世の芸能
14	語り物の発展
15	前期のまとめ

授業計画	
	［後期］ 近世以降の古典芸能と民俗芸能
1	歌舞伎1 歌舞伎の歴史
2	歌舞伎２　文楽との相互交流
3	歌舞伎３　日本舞踊
4	文楽1 人形浄瑠璃の成立
5	文楽２　義太夫節の発展
6	箏曲1 箏曲の成立
7	箏曲2 箏曲の発展
8	三曲合奏1 その成立
9	三曲合奏2 その変革
10	民俗芸能1 芸能の原点を探る
11	民俗芸能2 祭礼の種類
12	民俗芸能3 新たな動向
13	伝統と現代1 芸能と社会の変化
14	伝統と現代2 メディアと芸能
15	後期のまとめ

科目名	諸民族の音楽　（前）［木5］Aクラス						
代表教員	山本　華子	授業コード	HK1717A0	科目コード	HK1717	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

世界には多くの民族が生活し、それぞれが独自の音楽文化を持っている。クラシック音楽やジャズもその音楽文化の一つと考えることができる。この授業ではその多様な諸民族の音楽とその背景にある社会や宗教・文化などもあわせて学び、音楽の多様性を理解する。また現在では、中学・高校の音楽教育においても諸民族の音楽の重要性が認識されつつある。そのためにも基礎的な知識を身に付ける。

２．授業概要

世界各地の諸民族が育んできた音楽を、映像や音資料を用いて学んでいきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

機会を見つけて、いろいろな民族音楽（生演奏、テレビ、DVD、CD、動画サイトなど）を聴いてみて下さい。
必要に応じて、コンサート情報もお伝えします。

４．成績評価の方法及び基準

授業内まとめのテスト（評価の50%）
平常点として授業内ミニレポート（50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『民族音楽概論』藤井知昭他 編（東京書籍）
『はじめての世界音楽』柘植元一・塚田健一　編（音楽之友社）
『アジア音楽史』柘植元一・植村幸生　編（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員免許をとりたい学生はもちろん、幅広い視点で音楽文化を考えるヒントとしても、この授業を受けて下さい。
・授業中の私語、イヤホン使用、SNS使用、ゲームは禁止。
・授業では映像や音資料を多く使うので、できるだけ出席すること。
・受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 基礎的なことを学ぶ理論編と世界各地の音楽
1	ガイダンス
2	文化と音楽
3	概論（音階・リズムなど）
4	概論（楽器）
5	音楽教育と諸民族の音楽
6	西ヨーロッパ
7	東ヨーロッパ
8	アフリカ大陸
9	アメリカ大陸
10	西アジア・中央アジア
11	南アジア
12	東南アジア・オセアニア
13	東アジア
14	概論（伝播と伝承）
15	まとめ

科目名	諸民族の音楽　（後）［木5］Bクラス						
代表教員	山本　華子	授業コード	HK1717B0	科目コード	HK1717	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

世界には多くの民族が生活し、それぞれが独自の音楽文化を持っている。クラシック音楽やジャズもその音楽文化の一つと考えることができる。この授業ではその多様な諸民族の音楽とその背景にある社会や宗教・文化などもあわせて学び、音楽の多様性を理解する。また現在では、中学・高校の音楽教育においても諸民族の音楽の重要性が認識されつつある。そのためにも基礎的な知識を身に付ける。

２．授業概要

世界各地の諸民族が育んできた音楽を、映像や音資料を用いて学んでいきます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

機会を見つけて、いろいろな民族音楽（生演奏、テレビ、DVD、CD、動画サイトなど）を聴いてみて下さい。
必要に応じて、コンサート情報もお伝えします。

４．成績評価の方法及び基準

授業内まとめのテスト（評価の50%）
平常点として授業内ミニレポート（50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『民族音楽概論』藤井知昭他 編（東京書籍）
『はじめての世界音楽』柘植元一・塚田健一　編（音楽之友社）
『アジア音楽史』柘植元一・植村幸生　編（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

教員免許をとりたい学生はもちろん、幅広い視点で音楽文化を考えるヒントとしても、この授業を受けて下さい。
・授業中の私語、イヤホン使用、SNS使用、ゲームは禁止。
・授業では映像や音資料を多く使うので、できるだけ出席すること。
・受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 基礎的なことを学ぶ理論編と世界各地の音楽
1	ガイダンス
2	文化と音楽
3	概論（音階・リズムなど）
4	概論（楽器）
5	音楽教育と諸民族の音楽
6	西ヨーロッパ
7	東ヨーロッパ
8	アフリカ大陸
9	アメリカ大陸
10	西アジア・中央アジア
11	南アジア
12	東南アジア・オセアニア
13	東アジア
14	概論（伝播と伝承）
15	まとめ

科目名	古代、中世、ルネッサンスの音楽史 （前） ［水2］Aクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1718A0	科目コード	HK1718	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から中世、ルネッサンスに至る西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やＣＤなどを活用して各時代の音楽的特徴を把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

古代からルネッサンスまでの各時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、各時代の音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（上）』 グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『新版 中世・ルネサンスの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）
『音楽史の名曲』美山良夫・茂木博（春秋社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。
私語厳禁。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 古代から中世、ルネッサンスに至るまでの時代の流れに沿って、音楽様式の変遷を概観していく。
1	導入・古代の音楽
2	グレゴリオ聖歌
3	初期多声音楽
4	中世単旋律世俗歌曲
5	１４世紀の音楽
6	中世からルネサンスへ
7	ブルゴーニュ楽派
8	フランドル楽派
9	後期フランドル楽派
10	１６世紀イタリアの宗教音楽
11	１６世紀イタリアの世俗音楽
12	１６世紀フランスの音楽
13	１６世紀イギリスの音楽
14	１６世紀ドイツの音楽
15	まとめ

科目名	古代、中世、ルネッサンスの音楽史 （前） ［水4］Bクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1718B0	科目コード	HK1718	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

古代から中世、ルネッサンスに至る西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やＣＤなどを活用して各時代の音楽的特徴を把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

古代からルネッサンスまでの各時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、各時代の音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（上）』 グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『新版 中世・ルネサンスの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）
『音楽史の名曲』美山良夫・茂木博（春秋社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。
私語厳禁。
受講生が多い場合は人数制限をする場合がある。

授業計画	
	［半期］ 古代から中世、ルネッサンスに至るまでの時代の流れに沿って、音楽様式の変遷を概観していく。
1	導入・古代の音楽
2	グレゴリオ聖歌
3	初期多声音楽
4	中世単旋律世俗歌曲
5	１４世紀の音楽
6	中世からルネサンスへ
7	ブルゴーニュ楽派
8	フランドル楽派
9	後期フランドル楽派
10	１６世紀イタリアの宗教音楽
11	１６世紀イタリアの世俗音楽
12	１６世紀フランスの音楽
13	１６世紀イギリスの音楽
14	１６世紀ドイツの音楽
15	まとめ

科目名	バロックの音楽史　（後）［水2］Aクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1719A0	科目コード	HK1719	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロック時代における西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やCD、ビデオなどを活用し、バロック音楽の各ジャンルの特徴を具体的に把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

バロック時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、バロック音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（中）』グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『 バロック音楽』磯山雅（日本放送出版協会）
『バロックの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。私語厳禁。

授業計画	
	［半期］
1	ルネサンスからバロックへ
2	バロック・オペラの誕生
3	バロック・オペラの発展
4	ヘンデルのカンタータとオペラ
5	フランス・オペラの誕生
6	H.　シュッツの宗教音楽
7	J.S.　バッハのマタイ受難曲
8	バロック・ソナタ
9	J.S.　バッハのソナタ
10	バロック・コンチェルト
11	バロックの管弦楽組曲
12	バロックの宗教音楽
13	バロックの鍵盤音楽
14	バロックから古典派へ
15	まとめ

科目名	バロックの音楽史　（後）［水4］Bクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1719B0	科目コード	HK1719	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

バロック時代における西洋音楽の様式の変遷を概観する。楽譜やCD、ビデオなどを活用し、バロック音楽の各ジャンルの特徴を具体的に把握するとともに、その背後にある社会的、文化的背景をも視野に入れながら音楽の歴史をとらえられるようにする。

２．授業概要

バロック時代の代表的な音楽作品の例をなるべく多く聞きながら、バロック音楽の一般的特徴や主要なジャンル、それぞれの作曲家の特徴を明らかにしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内には、作品の一部しか聴けないことが多いため、授業時間外に、なるべくその作品全体や、関連する他の作品も聴いておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の６０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業でプリントを配布する。
参考文献：
『新西洋音楽史（中）』グラウト／パリスカ（音楽之友社）
『 バロック音楽』磯山雅（日本放送出版協会）
『バロックの社会と音楽』今谷和徳（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自ら学ぼうとする積極的な姿勢を望む。
講義時間以外にも、各自がCDを聴いたり、参考文献を読んだりして、講義内容をより深く理解する努力をしてほしい。私語厳禁。

授業計画	
	［半期］
1	ルネサンスからバロックへ
2	バロック・オペラの誕生
3	バロック・オペラの発展
4	ヘンデルのカンタータとオペラ
5	フランス・オペラの誕生
6	H.　シュッツの宗教音楽
7	J.S.　バッハのマタイ受難曲
8	バロック・ソナタ
9	J.S.　バッハのソナタ
10	バロック・コンチェルト
11	バロックの管弦楽組曲
12	バロックの宗教音楽
13	バロックの鍵盤音楽
14	バロックから古典派へ
15	まとめ

科目名	古典派の音楽史　（前）［木3］Aクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	HK1721A0	科目コード	HK1721	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

科目名	古典派の音楽史　（前）［水4］Bクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	HK1721B0	科目コード	HK1721	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

科目名	古典派の音楽史　（前）［金4］Cクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	HK1721C0	科目コード	HK1721	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

科目名	古典派の音楽史　（前）［木3］Dクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1721D0	科目コード	HK1721	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史　（後）［木3］Aクラス						
代表教員	越懸澤　麻衣	授業コード	HK1722A0	科目コード	HK1722	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史　（後）［水4］Bクラス						
代表教員	大宅　緒	授業コード	HK1722B0	科目コード	HK1722	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史　（後）［金4］Cクラス						
代表教員	西釋　英里香	授業コード	HK1722C0	科目コード	HK1722	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史　（後）［木3］Dクラス						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	HK1722D0	科目コード	HK1722	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

科目名	日本音楽史　（後）［金2］						
代表教員	森重　行敏	授業コード	HK172300	科目コード	HK1723	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

日本音楽の歴史についての基礎的な知識は、どんな分野の音楽活動を目指すものにとっても必要である。また、アジア文化の一面としての日本文化を知ることにより、音楽における多文化の共存とは何かを考える重要な機会ともなる。

２．授業概要

ビデオ、音源を活用して、体験を重視したものとする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

特別な予習よりも、授業でふれた分野について、各自が積極的に鑑賞、体験を深めることを推奨する。

４．成績評価の方法及び基準

期末には指定されたテーマによる課題を提出すること。授業への参加姿勢と課題の内容評価は半々を基準とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献は授業で紹介する。適宜プリントを配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前提条件は特にないが、日本音楽に関心を持っていること。定員超過の場合は、相談の上、受講を制限することがある。

授業計画	
	［後期］
1	ガイダンス、日本音楽の概観
2	古代の芸能
3	雅楽1　舞楽
4	雅楽2　管絃
5	雅楽3　その他、国風歌舞など
6	仏教音楽、声明
7	能楽1　能
8	能楽2　狂言
9	近世邦楽1　劇音楽
10	近世邦楽2　室内楽
11	近世邦楽3　三味線音楽
12	近世邦楽4　箏曲
13	洋楽との出会い
14	近代の日本音楽
15	まとめ

科目名	東洋音楽史　（後）［火4］						
代表教員	山本　華子	授業コード	HK172400	科目コード	HK1724	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	共通選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業の主題は、アジアの音楽の歴史です。アジア各地には様々な音楽文化があり、長い歴史と伝統を持っています。この授業ではそれらを概観し、地域ごとの特色や歴史的・文化的背景を理解することを目標とします。

２．授業概要

毎回、講義とともに実際の音源を鑑賞していきます。また、授業中にミニレポートを作成して提出してもらいます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習：毎回のテーマに関する基本的な専門用語などを事前に調べておく。
復習：講義後に配布資料で内容を振り返り、関心を持った対象の音源を聴く。
具体的な方法については講義内で説明します。

４．成績評価の方法及び基準

授業参加度（評価の70%、毎回のミニレポート含む）
学期末レポート（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に適宜プリントを配布します。
参考文献:
『アジア音楽史』柘植元一・植村幸生編（音楽之友社１９９６）
『日本の音楽・アジアの音楽』全７巻・別巻２　岩波講座（岩波書店１９８９）
その他、授業中に適宜紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎回のミニレポート（感想文程度）と学期末のレポートを課す予定。

授業計画	
	［半期］
1	はじめに（授業ガイダンス）
2	西アジア：イラン・トルコ・アラブ
3	南アジア：インド
4	南アジア：パキスタン、スリランカ他
5	東南アジア：インドネシア
6	東南アジア：タイ、フィリピン他
7	オセアニア
8	中央アジア５ヶ国
9	北アジア：モンゴル他
10	東アジア：中国
11	東アジア：韓国（正楽）
12	東アジア：韓国（民俗音楽）
13	東アジア：韓国（フュージョン音楽・K-POP）
14	東アジア：日本
15	総括として

科目名	音楽史　[火2]						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	HK1730B0	科目コード	HK1730	期間	通年
担当教員	越懸澤　麻衣						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	前提科目は特にありませんが、他の授業に音楽史関連な科目が多く開講されていますので、できればそれらを並行して履修すること、または次年度以降に履修することが望ましいです。						
教員免許状							

1．主題・到達目標

私たち現代人のさまざまな音楽文化は、いつから、どこから、どのようにして形づくられてきたのでしょう？ それを探り、知ることが音楽史を学ぶ意義であり、目的です。
【主題】
日本と世界における、さまざまなスタイル、さまざまなジャンルの音楽の歴史を、それぞれの音楽が生まれ栄えた時代の文化、社会情勢等と関連づけながらたどっていきます。
【到達目標】
① 専攻を問わず、音楽を志す者にとって必要とされる音楽史についての基礎知識、基本的な理解力を身につけます。
② 加えて、教職課程履修者にとっては、学校教育の教科書にとりあげられている音楽史に関わるさまざまなことがらを確実に理解できるための教養を身につけます。

2．授業概要

この授業でとりあげる音楽は、以下3つのカデゴリーとなります。
A) ヨーロッパのクラシック音楽
B) 日本の伝統音楽と諸民族の音楽
C) 現代のポピュラー音楽と音楽テクノロジー
よって時代の範囲は、古くは日本の奈良・平安時代の音楽から、新しくは現代のポピュラー音楽、音楽テクノロジーにいたるまでの音楽史となり、上記3つのカテゴリーを横断する形で、通年の授業計画は組まれます。授業は、代表教員と担当教員、もしくはゲストの講師と演奏家による講義と生演奏で、次の3点をポイントとして授業を行います。
(1) さまざまな時代、さまざまな国の豊かな音楽遺産を広く紹介します。
(2) それぞれの時代、それぞれの国の代表的音楽作品がどのように生まれ、作られたかを説明します。
(3) それぞれの音楽が生まれた時代の「社会」「文化」「他の芸術」との関連性を読み解いていきます。
なお、原則として後記の授業計画にそって授業は進めていきますが、講師、演奏者の都合で、各回の内容変更、順序入れ替えの場合もあります。前期は古代・中世から19世までの音楽を、後期は20世紀の音楽を中心とします。このように多様なジャンルを越境する現代的な「音楽史」を学ぶことで、音楽に対する広い視野と知識を獲得することを企図しています。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】
各回の授業テーマについて、自主的にその概要について調べてから授業にのぞみましょう。
【復習・発展的学習】
各回の授業で配付された資料をよく読み、テーマについての時代性、地域性、音楽性について把握し、
興味ある部分をより詳しく調べて知識を深めて下さい。さらにはテーマに関連したさまざまな曲を、関心を広げて自主的に聴くとよいでしょう。そこからいろいろな発見が期待されます。

4．成績評価の方法及び基準

授業への参加態度を評価の50%、学年末のレポート提出と筆記試験を評価の50%を基準として、成績評価をします。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
毎回、授業資料を配付しますので、履修者は各自これらをファイリングしてテキストとして下さい。
【参考文献】
① 『西洋音楽史』岡田暁生著（中公新書、2005年）
② 『決定版　はじめての音楽史』久保田慶一 他著（音楽之友社、2017年）
③ 『世界のポピュラー音楽史』 山室紘一（ヤマハミュージックメディア、2012年）
④ 『新　西洋音楽史　上,中,下』D.J.クラウド、C.D.パリスカ著　戸口幸策、津上英輔、寺西基之訳（音楽之友社、2001年）
●参考文献について
① 詳しい年代はあえて明記しないという異色の西洋音楽史ですが、読み物として非常に面白く、時代の流れがとてもよくわかります。
② こちらは詳しい年代が記された西洋音楽史と日本音楽史が中心となっています。
③ ワールドミュージックもふくまれる広範にわたるポピュラー音楽史が、アーティストを中心に紹介されています。
④ 現在、もっとも権威があり広く読まれている西洋音楽史の書籍です。ただし3巻にもわたり、それぞれの巻が大変厚く高価ですので、購入は絶対ではありません。本学図書館に常備してありますので、それを利用されるのもよいでしょう。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大変多い人数の学生が受講する授業ですので、履修生の皆さんが毎回落ち着いて受講できるよう、以下の受講マナーをたがいに守りましょう。
・正当な理由なく授業途中に無断で入退出することは控えて下さい。
・授業中の私語、スマートフォンの操作は控えて下さい。これら授業の妨げとなるような行為が続く場合は、退室指示および評価減点の措置をとる場合があります。
・遅刻3回で欠席1回としてカウントし、 無断早退については欠席扱いとします。
・学生証の不備は出席にカウントされない場合があります。

また、この授業は教職必修科目でもあり、教職課程を履修予定の受講生は、自分自身がいずれ指導するであろうことを想定して受講しましょう。

授業計画	
	【前期】古代・中世から19世紀までの音楽
1	ガイダンス、概要説明
2	A1　中世の西洋音楽　～グレゴリオ聖歌の成立と発展～
3	B1　古代・中世の日本音楽
4	A2　ルネサンス期の西洋音楽　～声楽曲を中心に～
5	B2　近世の日本音楽
6	A3　バロック期の西洋音楽　～オペラの誕生とコンチェルトの隆盛～
7	B3　諸民族の音楽　～インドの音楽～
8	A4　J.S.バッハ
9	A5　ヨーロッパ古典派　①ハイドンとモーツァルト
10	A6　ヨーロッパ古典派　②ベートーヴェン
11	A7　バレエの歴史
12	A8　ヨーロッパ ロマン派　①歌曲とピアノ曲
13	A9　ヨーロッパ ロマン派　②オペラと楽劇
14	A10　ヨーロッパ ロマン派　③標題音楽と後期ロマン派
15	A11　ヨーロッパの民族主義

授業計画	
	【後期】20世紀の音楽を中心に
1	C1　ジャズ　～デューク・エリントンからチック・コリアまで～
2	A12　ヨーロッパの近代　①フランス
3	C2　ミュージカルの歴史
4	A13　ヨーロッパの近代　②ロシア
5	C3　黒人音楽 ～R&B、ソウルを中心に～
6	A14　ヨーロッパの12音技法と現代音楽
7	C4　ロック　～そのルーツからクイーンまで～
8	C5　ボサノヴァ
9	C6　タンゴ
10	C7　音響技術と電子楽器・電子音楽
11	C8　映画音楽
12	C9　ビートルズ
13	C10　ダンス
14	C11　日本のポピュラー音楽　～歌謡曲からJ-POP、アニメソングまで～
15	総括

科目名	実用音楽講座　（前）［月4］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	HK173100	科目コード	HK1731	期間	半期
担当教員	古田　賢司、松下　倫士、時任　康文						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・WI・SI・PI・EO・VO	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽を指揮するということを改めて研究し、それによって各自の専門分野での楽曲の理解を深め、幅広い視野を持つ音楽家の形成を目的とする。合唱、合奏を指揮するための技術の習得を目標に、ピアノ曲、合唱曲、オーケストラ曲を使って指揮の実際を研究する。（時任　康文）
ロマン派の作品を中心とした楽曲分析、そして今後の演奏活動や教育活動で必要となる編曲法についても学習する（松下　倫士）
教育現場でも必要とされる管楽器の合奏（吹奏楽）などを題材にし、様々な角度から調和と美しいハーモニーを得る手法、表現のためのアプローチを研究する。（古田　賢司）

２．授業概要

指揮、楽曲研究等を通じて自己の楽譜に対する意識を深める。
将来指導者として立つ場合に、楽譜に対し多方面からアプローチすることを学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業の復習をすること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点(100%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	[半期]
1	楽曲からイメージを感じる創造力について
2	音楽的呼吸法と腕の運動の関連について
3	テンポや強弱の変化に対する対応について
4	変拍子の振り方について
5	互いの指揮ぶりについて講評し合い、今後の問題点を総括する
6	子供の情景（シューマン）の楽曲分析
7	ソナタ形式の発展について（ブラームス、フランクのヴァイオリンソナタを中心に）
8	ロマン派歌曲作品の分析
9	対位法概論
10	対位法・編曲の実施
11	合奏指導の手法~楽曲構成の分析
12	合奏指導の手法~教育現場での指導
13	合奏指導の手法~総括
14	指導の実践~吹奏楽のレパートリーを用いて
15	指導の実践~管弦楽曲、合唱曲を用いて

科目名	【仮登録】レッスン：副科実技（後）　【仮登録】［共通］						
代表教員	未定	授業コード	W99519999	科目コード	GL5199d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	全（MS・BL・AS・DC・SS除く）（CO・PF一部除く）	科目分類	専門選択				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

副科実技は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。基礎から始まり、より高いレベルで楽器の知識や演奏法の修得に向け、総合的な音楽能力を高めることを主題・到達目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って担当教員が適切に目標に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度と達成度を総合して成績を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

履修する楽器や到達目標により異なるため、担当教員が学生の状況を判断したうえでテキストを決定する。参考文献も授業内で紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期10回の出席がない場合、次期の履修登録ができない。

授業計画	
	［半期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題（練習曲、課題曲）を選択する。
1	ガイダンス（前期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	楽器の扱い方
3	練習方法
4	基本的な奏法
5	スケールの奏法（長調）　基礎
6	スケールの奏法（短調）　基礎
7	練習曲　基礎的な奏法
8	練習曲　表現の工夫
9	練習曲　演奏の仕上げ
10	課題曲　基礎的な奏法
11	課題曲　表現の工夫
12	課題曲　演奏の仕上げ
13	自由曲　基礎的な奏法
14	自由曲　表現の工夫
15	自由曲　演奏の仕上げ 試験と総括

科目名	作曲法・編曲法I 【仮登録】（前） ［金2］						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGE082601	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法I 【仮登録】（後） ［金2］						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGE082602	科目コード	GE0826	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 音楽形式と旋律１　楽節、動機
2	音楽形式と旋律２　一部形式と二部形式
3	音楽形式と旋律３　三部形式とロンド形式
4	浄書の基礎
5	作曲実習１　一部形式と二部形式
6	作曲実習２　三部形式とロンド形式
7	ピアノの書法１　低音部と伴奏部
8	ピアノの書法２　両手を用いた発展的な書法
9	和音とコードネーム１　三和音と七の和音
10	和音とコードネーム２　低音指示と付加音
11	対旋律の書法１　下声部への対旋律
12	対旋律の書法２　上声部への対旋律
13	編曲実習１　二部合唱
14	編曲実習２　リコーダー合奏
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	作曲法・編曲法II 【仮登録】（後） [金2]						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGE082702	科目コード	GE0827	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「作曲法・編曲法I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「音楽分析基礎講座」「和声学」において得た理論をもとに、作曲や編曲を実施するための知識を学び、修得することを主題とする。また、楽曲分析や諸形式による作曲・編曲を通して様々な時代の音楽語法への理解を深める。

２．授業概要

授業では古典派やロマン派の作品から旋律や和声進行、さらに伴奏の書法など作曲法を学び取る。それをもとに旋律や伴奏、対旋律などを作曲する。それに対し教員がアドバイスを行いながら授業が進められ、最終的に作品を完成させる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各授業で与えられた課題を完了させること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
学期末提出作品（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『作曲の基礎技法』（シェーンベルク著／音楽之友社）
『楽式論』（石桁真礼生著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	授業概要 移調、移旋、および転調について
2	音楽形式と旋律１　複合三部形式
3	音楽形式と旋律２　ソナタ形式
4	素材の活用法（主題の展開方法等）
5	混声四部合唱について
6	編曲実習１　混声四部合唱（ア・カペラ）
7	伴奏としてのピアノ書法
8	編曲実習２　混声四部合唱（ピアノ伴奏付き）
9	歌詞を用いての作曲について
10	作曲実習１　歌曲（歌曲旋律の書法）
11	二重奏について
12	作曲実習２　二重奏（旋律楽器の書法）
13	作曲実習３　二重奏（ピアノの書法）
14	作曲実習４　二重奏（アンサンブルでのバランス）
15	これまで学習した形式による作曲

科目名	音楽分析基礎講座［仮登録/シラバス用］						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGE083101	科目コード	GE0831	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本授業では和音や非和声音の学習、そして楽譜作成を通じて、楽曲構造（メロディー、コード、バス）の理解をはじめ、カデンツと終止形など、音楽理論を学ぶうえで最低限必要となる知識を得ることができる。

これらの内容は音楽理論系の科目の基礎となるものである。和声法や対位法、そして楽式論などの音楽理論の修得へ向け準備することを主題とし、これらを充分に理解することを目標とする。

２．授業概要

テキストに従ってさまざまな編成の楽曲を聴きながら、楽曲分析や和声分析の基礎を学習する。また、テキストの「鍵盤実習」を授業内で実施し、鍵盤への対応力を高める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和音構成音、和声進行の理解や、非和声音の分析、把握などは、楽譜上での知識を深める事も大切であるが、音楽を聴く際に耳でそれらを感じる事が重要である。授業で扱った作品を演奏したり鑑賞したりすることで学習内容をよく聞いて感じ取る作業を、普段の予習・復習として補うと良い。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『音楽分析基礎講座』　を購入の上、初回授業に出席すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

楽典実力試験不合格者、および未受験者は「音楽理論入門」の同時履修が必要である。
なお、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	LESSON 1　旋律・和音・低音の三要素
2	LESSON 1　和音の機能、和音の構成音
3	LESSON 2　大譜表への写譜、和音の転回形
4	LESSON 2　楽譜の還元について
5	LESSON 3　非和声音（経過音・刺繍音・倚音）
6	LESSON 4　大譜表への写譜、和声分析
7	LESSON 5　非和声音（掛留音・先取音・逸音・保続音）
8	LESSON 5　伴奏形作成（ハープ）
9	LESSON 6　終止形（全終止・半終止）
10	LESSON 6　伴奏形作成（歌曲伴奏）
11	LESSON 7　終止形（偽終止・変終止）
12	LESSON 7　和声分析、伴奏形作成（歌曲伴奏）
13	LESSON 8　ドッペルドミナントについて
14	LESSON 9　減七の和音について
15	これまでの総括

科目名	対位法 【仮登録】［金3］						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGE084603	科目コード	GE0846	期間	通年
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	演習	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	作曲コース以外は「和声学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問であり、和声法と並んで西洋音楽理論の二大根幹である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

対位法では、さまざまな制限により段階的に旋律線を研究する方法が伝統的に行われている。本授業では１５世紀のオケゲムやジョスカンに代表される定旋律ミサの様式により、二声対位法を修得する。

本授業により旋律線に対する感性や表現力を高め、対位法音楽への理解を一層深めることを目標とする。

２．授業概要

対位法の課題実習と添削を中心に行い、技法の修得を目指す。また、１２世紀以降の多声音楽（ペロタン、マショー、オケゲム、ジョスカンなどポリフォニーの隆盛）や、のちのバロック、古典、更に１９世紀以降におけるポリフォニー音楽の鑑賞や分析を通じて、対位法音楽を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で与えられた課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（５０％）
学期末試験（５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストを購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
『対位法』（ノエル＝ギャロン 、マルセル・ビッチュ著／音楽之友社）
『二声対位法』（池内友次郎著／音楽之友社）
『厳格対位法 第２版 パリ音楽院の方式による』（山口博史著／音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　予備知識
2	全音符による対旋律　下声部にC.F.
3	全音符による対旋律　上声部にC.F.
4	全音符による対旋律　各種旋法を中心に
5	非和声音について（掛留音、経過音、刺繍音） 二分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
6	二分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
7	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
8	二分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
9	二分音符による対旋律　各種旋法を中心に
10	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（長調）
11	四分音符による対旋律　下声部にC.F.（短調）
12	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（長調）
13	四分音符による対旋律　上声部にC.F.（短調）
14	四分音符による対旋律　各種旋法を中心に
15	前期のまとめ期末試験

授業計画	
	［後期］
1	これまでの対旋律の確認、復習
2	非和声音について（掛留音） 移勢による対旋律　下声部にC.F.（長調）
3	移勢による対旋律　下声部にC.F.（短調）
4	移勢による対旋律　上声部にC.F.（長調）
5	移勢による対旋律　上声部にC.F.（短調）
6	移勢による対旋律　各種旋法を中心に
7	華麗による対旋律　下声部にC.F.（長調）
8	華麗による対旋律　下声部にC.F.（短調）
9	華麗による対旋律　上声部にC.F.（長調）
10	華麗による対旋律　上声部にC.F.（短調）
11	華麗による対旋律　各種旋法を中心に
12	自由な対旋律（長調）
13	自由な対旋律（短調）
14	自由な対旋律（各種旋法）
15	二声対位法の総括

科目名	教職伴奏法 【仮登録】（前） ［火1］						
代表教員	谷川　明	授業コード	WGE088101	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員	谷川　マユコ						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	教職伴奏法 【仮登録】（後） ［火1］						
代表教員	谷川　明	授業コード	WGE088102	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員	谷川　マユコ						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・m７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	教職伴奏法 【仮登録】（前） ［火3］						
代表教員	皆川　純一	授業コード	WGE088103	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員	小松　祥子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	教職伴奏法 【仮登録】（後） ［火3］						
代表教員	皆川　純一	授業コード	WGE088104	科目コード	GE0881	期間	半期
担当教員	小松　祥子						
授業形態	演習	配当学年	3				
対象コース	全（PF・ME除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業の目標は、おもにコードネームによる伴奏付けの基礎を身につけることです。
（１）コードネームの表記方法を理解し、各種の記号を覚える。
（２）コードネームを見て即座に和音を弾けるようにする。
（３）より良い和音のポジションを選べるようにする。
（４）いくつかの伴奏パターンを覚え、メロディーにふさわしい形を選択して演奏できるようにする。
（５）伴奏を即興的にアレンジして弾く。
（６）メロディーだけの譜を見て、伴奏付けをできるようにする。

２．授業概要

理論と実践を通して、コードネームによる伴奏付けの基礎を身に付ける授業です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回配布するプリント課題の予習、復習を充分にして下さい。
演習の授業なので、積極的にピアノを弾く機会をもつ事。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の４５％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３５％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で使用するテキストは、毎回プリントを配布します。
参考文献：
『新総合音楽講座５（コード進行法）』（ヤマハ）
『ピアノ／キーボードのためのコードネーム学』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「基礎編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『コード進行のテクニック「応用編」メロディーにコードをつける』伊藤辰雄（東亜音楽社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（１）基礎編』草道節男（音楽之友社）
『密集片手伴奏によるコードトレーニング（２）発展編』草道節男（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

第１回目の授業（前期、後期とも）にクラス分けのための簡単なテスト（筆記、実技とも）を行いますので、必ず出席して下さい。
ピアノ伴奏の実習のため、日頃より積極的にコードネーム譜に触れ練習に取り組んで下さい。
授業で毎回配布する実技課題のプリントは必ず前もって目を通し、授業内で演奏する時は初見状態でないようにしてください。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス・クラス分けテスト
2	オリエンテーション：コードネームの表記法について
3	コードの詳しい説明 各調の各種コードを書き込むプリント
4	プリントNo. １ メジャー・マイナーの三和音の問題 簡単なコード弾き コードの転回
5	プリントNo. ２ メジャー・マイナーセブンスまでの問題 循環コードや和声進行を使用してのコード弾き
6	プリントNo. ３ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 両手伴奏におけるコード弾き
7	プリントNo. ４ トライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 最適ポジションによる両手伴奏におけるコード弾き
8	プリントNo. ５ やや複雑なトライアド・セブンス・Ｍ７・ｍ７♭5・dimまでの問題 複雑なコードを使用しての伴奏 最適ポジションで伴奏リズム形を使用して
9	プリントNo. ６ トライアド・セブンス・M７・ｍ７♭5・dim・dim7までの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏１
10	プリントNo. ７ 複雑なコード ｍ７♭５・augの問題 密集片手伴奏によるメロディ奏２
11	プリントNo. ８ コードのまとめ やや難しいメロディ奏
12	プリントNo. ９ 音階を使ったコード判定 コード伴奏のまとめ１
13	プリントNo. １０ 曲のコード判定問題 コード伴奏のまとめ２
14	筆記試験と解説
15	実技試験と解説

科目名	器楽曲伴奏法I－１［仮登録/シラバス用］						
代表教員	山本　佳世子	授業コード	WGE137601	科目コード	GE1376	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは、幅広い表現力を持つゆえに、ソロのみではなく、室内楽や伴奏における表現力も修得する必要がある。伴奏、合奏におけるアンサンブルテクニックを学ぶことによって、ソロテクニックだけでは学ぶことの出来ない実に多くのことを身につけることができる。それは、音に対する感受性であり、柔軟性であり、音楽の表現力の豊かさ等である。本講座では、上記に加え、一緒に音楽する喜びを感じて欲しい。「器楽曲伴奏法I－１」では、技術的には比較的楽な小品を扱い、まず伴奏することの楽しさや基礎を学ぶ。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の演奏要員並びに先生方が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお本講座において、ソロ楽器はフルート、ヴァイオリン、クラリネットを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Violin：ガボット（ゴセック）、メヌエット（モーツァルト）、タイスの瞑想曲（マスネ）、Ｇ線上のアリア（バッハ）、美しきロスマリン、プレリュードとアレグロ（クライスラー）、愛の挨拶（エルガー）、チャールダーシュ（モンティ）他
Flute：「アルルの女」よりメヌエット（ビゼー）、妖精の踊り（グルック）、シチリアーノ（フォーレ）、子守歌（フォーレ）、小舟にて（ドビュッシー）、歌の翼に（メンデルスゾーン）他
clarinet:小品、クラリネットポルカ、ソナタ（サンサーンス）第1楽章 他
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業の時に履修学生全員に集まってもらい、そこでクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	クラス分け後にガイダンスと次週から学習する曲の説明。
2	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ①譜読みの確認
3	ソロ楽器との合わせに慣れ親しむ②応用と定着
4	課題曲中の合わせのポイント、呼吸の合わせ方、音量のバランスに重点を置き、具体例を挙げながら伴奏を付ける。
5	音楽面での合わせ方について総合的に研究する。 第2回～第4回の授業のまとめ。
6	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） 伴奏に於ける基本的な演奏法についての考察。
7	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ①譜読みの確認
8	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながらソロ楽器の音色や響きに慣れ親しむ②応用と定着
9	呼吸の合わせ方、音量バランス等を学ぶ。ソロ楽器とのアンサンブルをより発展させる。
10	ソロ楽器とのアンサンブルについて総合的に研究する。 第6回～第9回の授業のまとめ。
11	ピアノパート譜のみの授業（この回よりソロ楽器を入れ替え実施する） ソロ楽器パートと伴奏譜の低音パートを同時に弾き、曲全体を把握する練習。
12	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上①実践
13	弦楽器と管楽器の相違点を踏まえながら、ソロ楽器パートをより深く聴く。アンサンブルの質の向上②応用と定着
14	フレーズの作り方、ペダルの使い方を工夫し、表現力を磨く。
15	ソロ楽器とのアンサンブルについて第11回～第14回の授業と前期の授業の総まとめ。

科目名	器楽曲伴奏法Ⅰ－２［仮登録/シラバス用］						
代表教員	平沢　由美子	授業コード	WGE137702	科目コード	GE1377	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」に引き続き、本講座ではヴァイオリンとクラリネットとフルートの伴奏実習を行う。自身の音色を磨き、共に音楽をつくり上げる楽しみ、良いリズム感・フレーズをつくる為の呼吸感を学ぶ。ソナタを主な課題とし、ソロ楽器とピアノの音楽的に深い関わりを通して発展した演習を行う。

２．授業概要

音楽をする上で欠かせないアンサンブル、伴奏を通して
・無意識に「聞く」から、意識して「聴く」耳を育てる
・共演する楽器の特性を知り、音色や音量のバランス感覚を育てる
・相手と呼吸を合わせる意識を育てる
ソロパートは本学の先生方並びに演奏要員が演奏して下さり、楽器の先生方からも直接御指導を頂き、音楽的視野を広げて行く。なお、本講座において、ソロ楽器は３クラスがそれぞれフルート、クラリネット、ヴァイオリンを入れ替え実施する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲の伴奏パートの練習の他、複数の演奏者のＣＤを聞いたり、ソロパートと伴奏譜の低音パートを同時に弾く等、曲を把握した上で授業に臨んでください。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

ヴァイオリン：ソナタ（モーツァルト）、ソナタ（ヴェートーベン）、協奏曲（チャイコフスキー）その他小品等
クラリネット：コンチェルティーノ（ウェーバー）、ソナタ（サン＝サーンス）、ソナタ（ﾌﾟﾗﾝｸ）その他小品等
フルート:ソナタ（バッハ）その他小品等
（注）いずれもテキストは配付する。曲目は変更することがある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「器楽曲伴奏法Ⅰ－１」を修得していること。
クラス間で人数調整を行い、3クラスに分ける。
出席を重視します。

授業計画	
	［半期］
1	ピアノパート譜読みの授業 楽譜の音楽的全体構造を理解し、伴奏上の難所を指摘して効率的な指使いを教示する。
2	クラリネットの演習① 2人で１つの音楽を作ることを意識し、ソロ奏者のアインザッツを覚えてアンサンブルに慣れる。
3	クラリネットの演習② ソロ楽器の特性を把握し、強弱で変わるクラリネットの音の出るタイミング（遊び息）を習得する。
4	クラリネットの演習③ ソロ奏者とフレージングを共有し、タンギング、スラー等に注目してアンサンブルのバランス調整を習得する。
5	クラリネットの演習④ ①～③の演習内容を定着させクラリネットの伴奏のまとめとする。ソロ演奏者からの音楽的要求の察知能力を高め、ソロパートを良く聴きメロディーラインを常に意識して演奏する。
6	ピアノパート譜読みの授業（この回よりソロ楽器を入れ替えて実施する） 課題が作曲された背景やソロ楽器の構造を知り、ピアノ譜を見て音楽的課題を確認する。
7	フルートとの演習① ソロ楽器の音質・音量を学び、ソロ奏者のブレスに呼吸をあわせながら伴奏を付ける。
8	フルートとの演習② バロック音楽の通奏低音を課題とし、ピアノのバスパートとソロ楽器のみで演奏して低音の響きに慣れる。
9	フルートとの演習③ バスパートの音楽的流れを意識した上に、音色の違いを意識したハーモニーを合わせて演奏する。
10	フルートとの演習④ ①～③の演習内容を定着させフルートの伴奏のまとめをする。ピアノは伴奏に留まらずソロ楽器と対等に音楽を作ることを理解する。
11	ピアノパート譜読みの授業（この回よりソロ楽器を入れ替えて実施する） ピアノパートの譜読みの仕方とポイントを確認するとともに、ソロパートにも目を通し曲の全体像を把握する。
12	ヴァイオリンとの演習① ヴァイオリンの音質・音量を聴き取り、ソロ楽器の演奏を十分に意識しながら伴奏を付ける。
13	ヴァイオリンとの演習② 弦楽器特有の弓を使った音の発生方法と、ピアノ音の発生方法の違いを学び、呼吸を合わせた演奏方法を習得する。
14	ヴァイオリンとの演習③ 曲の色々な場面で変化する伴奏の役割を認識し、一緒に音楽をつくる楽しさを感じる。
15	ヴァイオリンとの演習④ ①～③の演習内容を定着させヴァイオリンの伴奏のまとめをする。伴奏が担う和声感やソロパートと共有するフレーズを意識して演奏する。

科目名	歌曲伴奏法Ⅰ［仮登録/シラバス用］						
代表教員	押川　涼子	授業コード	WGE138201	科目コード	GE1382	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

この授業では歌曲伴奏法の導入編として、よく知られたイタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を伴奏することによって、歌い手との協調性、歌詞の重要性、表現の多様性などを学びます。そして、これらのことを習得するための勉強法やコツを歌い手と実際に合わせることによって身につけていきます。

２．授業概要

イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲の伴奏法を勉強します。授業は、まず最初にピアノ伴奏のパートのみで行い、 次に声楽の先生と実際に合わせるという形で進めていきます。
また全授業終了後には、前期で勉強した曲の中から各自一曲を選び、声楽の先生方と共演する試演会を行います。
（この試演会での演奏の評価を含む、前期全体での評価によって、後期の歌曲伴奏法１−２の履修希望者のクラス分けを再度行います。）

３．授業時間外の学習（予習復習について）

あらかじめ歌詞の意味を調べ、曲の内容をつかんでおくこと。そして、ＣＤなどを聴いて参考にしながら曲想を把握して、授業内できちんと通奏ができるように準備しておくこと。また可能ならば、授業中に取り上げる全ての曲（下記参照）を自主的に練習しておくことも、各自のレパートリーの拡大、実力向上につながるので積極的に行うこと。

＊歌曲伴奏法１−１　学習予定曲
・待ちぼうけ（山田耕作）

・平城山（平井康三郎）
・Ａｍａｒｉｌｌｉ（Ｃａｃｃｉｎｉ）
・Ｃａｒｏ　ｍｉｏ　ｂｅｎ（Ｇｉｏｒｄａｎｉ）
・Ｏ　ｄｅｌ　ｍｉｏ　ａｍａｔｏ　ｂｅｎ（Ｄｏｎａｕｄｙ）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（レポート提出）（評価の４０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）
試演会での演奏（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

「イタリア歌曲集」（全音または教芸）「シューベルト」「モーツァルト」「シューマン」
「ベッリーニ」「トスティ」「ドナウディ」「中田喜直」「山田耕作」などの歌曲集 他
参考文献：
『伴奏者の発言』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『お耳ざわりですか』　ジェラルド・ムーア（音楽之友社）
『伴奏の芸術』　ヘルムート・ドイチュ（ムジカノーヴァ）
「ロマン派の芸術の世界」　坂崎二郎（講談社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「歌曲伴奏」に興味のある学生。
後期の「歌曲伴奏法Ⅰ−２」の履修希望学生は必ず履修すること。
「歌曲伴奏」は、とにかく少しでも多く経験を積むことが大切です。この講座で声楽家と実際に合わせることにより、たくさん弾いたり聴いたりしながら、どんどん経験を積んでいって欲しいと思います。このことは同時に、自分自身の音楽の幅を広げることにもつながっていきます。そのため出席を重視しますので、意欲的に授業に参加してください。
初回の授業で、経験別（自己申告）によりＡ、Ｂ、Ｃの３クラスにクラス分けをします。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。
注：出席率は、８０％以上を必須とする。

授業計画	
	［半期］ 　イタリア歌曲、ドイツ歌曲、日本歌曲を通して、伴奏法を基礎から学んでいきます。 　ピアノパートのみの授業で取り上げた曲を、その後の３回の授業で声楽の先生と合わながら、伴奏のコツを習得していきます。最終授業終了後に試演会を行います。
1	ガイダンス（楽譜の配布、授業の内容と進め方・予定等の説明）
2	ピアノパートのみの授業 （待ちぼうけ、平城山、Amarilli,Caro mio ben）
3	声楽の先生との合わせと曲目解説 （待ちぼうけ、平城山）
4	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Amarilli,Caro mio ben）
5	声楽の先生との合わせと総括 （待ちぼうけ、平城山、Amarilli、 Caro mio ben）
6	ピアノパートのみの授業 （O del mio amato ben, Malinconia, Ideale）
7	声楽の先生との合わせと曲目解説 （O del mio amato ben）
8	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Malinconia、Ideale）
9	声楽の先生との合わせと総括 （O del mio amato ben、Malinconia、Ideale）
10	ピアノパートのみの授業 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より In der Fremde、 Intermezzo、Wａｌｄgesoreach）
11	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より 　In der Fremde）
12	声楽の先生との合わせと曲目解説 （Liederkreis op.39より　Intermezzo、　　Waldgespreach）
13	声楽の先生との合わせと総括 （Lachen und Weinen、Liederkreis op.39より In der Fremde、Intermezzo、Waldgespreach）
14	試演会の曲のピアノパートのみの授業
15	試演会に向けての声楽の先生方との合わせ

科目名	歌曲伴奏法Ⅱ［仮登録/シラバス用］						
代表教員	吉武　雅子	授業コード	WGE138302	科目コード	GE1383	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「歌曲伴奏法I－１」または「歌曲伴奏法Ⅰ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「歌曲伴奏法I－１/歌曲伴奏法Ⅰ」で学んだ基礎的な知識、経験を土台にして、ドイツ歌曲、フランス歌曲、日本歌曲を学びます。
歌詞による情景をもとに、演奏に際しての想像力を豊かにし、具体的な奏法を身につける。そして歌の息の流れを学ぶことによってフレージングを体感し、楽曲への理解を深め、読譜力をつけるようにしていきます。
また、この授業を通して歌詞に見合う音質や音色の選択を学び、独奏においても展開できる力を身につけることを目標とします。

２．授業概要

モーツァルト、シューベルト、シューマン、トスティ、マスカーニ、ドナウディ、チマーラ、山田耕筰、越谷達之助、中田喜直の歌曲を学びます。また、上級クラスにおいては、上記の曲目にフォーレ、グラナドスの歌曲が加えられます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自らのパートの習熟が浅いと、アンサンブルの際に歌のパートを聴く余裕が生まれないため、必ず予習をすること。指定された曲の歌詞を朗読し、意味を調べ内容を理解しておく。それをふまえた上で歌の旋律も実際に歌い、ピアノパートを充分練習しておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び15回の授業終了後の試演会による。
また、前期試演会の成績により、上級クラスを設ける。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教員が準備し、配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業では、できるだけ多くの曲を弾いて頂きたいと思っています。
ピアノパートの準備はもちろんのこと、外国語の曲が多いので、歌詞の下調べも十分にしてきてください。
クラス分けについては、別途ポータル掲示をするので確認すること。

授業計画	
	［半期］
1	本授業のガイダンス。次回より取り上げられる楽譜の配布。
2	声楽コース講師との共演を通して、モーツァルト作曲「クローエに」を演習する。歌詞の解釈、アンサンブルとして良きクオリティーを目指す。またそれを聴講することにより応用力を身につける。
3	声楽コース講師との共演により、呼吸やフレージングを学ぶ。各学生がモーツァルト作曲「ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき」を演習する。
4	シューベルト作曲「セレナーデ」を演習する。 この曲を通して古典派とロマン派の様式の特徴を考えながら、音質、音色の選択について学ぶ。
5	これから学習する歌曲の理解力を深める。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。
6	シューマン作曲「くるみの木」を演習する。アンサンブルとして良きクオリティーを目指すことに加え、ピアニストとしてどのように歌い手を支えるかを学ぶ。
7	チマーラ作曲「郷愁」を演習する。ドイツ歌曲とイタリア歌曲の違いについて学ぶ。表現法の違いや様式の違いを実践から体感する。
8	マスカーニ作曲「セレナータ」を演習する。歌い手と共にピアニストの独奏とは違う表現力を最大限に活かす奏法を学ぶ。
9	これから学習する歌曲の理解力を深め、声楽担当教員とのアンサンブルに備える。解説に加え、歌詞の朗読やピアノパートのみの演奏を学生自ら演奏し適宜アドヴァイスを受ける。またピアニストの役割を考え、学生同士ディスカッションをする。
10	トスティ作曲「ローザ」を演習する。ピアノパートの流れから、歌い手がいかに表現力を最大限に出せるかを考え実践する。ピアニストの音質や音色によって、歌い手の表現が変化することを実践から体感する。
11	これから学習する日本歌曲の理解を深める。日本人として、我が国におけるクラシック音楽の歴史を学び、現代における日本歌曲の発展を学ぶ。
12	山田耕筰作曲「からたちの花」を演習する。日本語の発音についての理解も深め、歌詞の内容から音質や音色の選択を学ぶ。さらには、西洋音楽との違いについて実践を通して体感する。
13	越谷達之助作曲「初恋」を演習する。歌詞である石川啄木の短歌について理解を深め、表現の拡大を図る。歌詞の裏にある背景についても考え、音にすることを学んでいく。
14	声楽コース講師との共演を通して習得した楽曲から1曲選択し、ピアノパートの復習、適宜アドヴァイスを受け試演会に備える。
15	習得した楽曲を1曲選択し、声楽コース講師との共演により授業成果を披露する試演会にむけてのリハーサル。

科目名	二重奏／二重奏I［仮登録/シラバス用］						
代表教員	松浦　健	授業コード	WGE140103	科目コード	GE1401	期間	通年
担当教員	泉　ゆりの						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

本講座は、ピアノによる二重奏のうち、一台四手連弾を主な題材として演習形式で進められます。
日頃はソロの勉強が主となるピアノコースの学生にとって、アンサンブルは新鮮、かつ楽しいものであることは間違いありません。また、相手と共により良い演奏を目指す過程に於いては、実に多くを学ぶことができます。中でも一つの楽器で行うピアノ連弾は、その特性により、相手の奏する音を聴く耳、全体の音楽や広い音域の中での自分の立場や役割を把握する力などを育んでくれます。また、音楽の上で共有すべきものやお互い自由であるべきものは何か、などを考えたりコミュニケーションする貴重な機会でもあり、ピアノの可能性や表現の多様性を体験することで、ソロに於いても一廻り大きな世界を自分のものとすることができるはずです。
ピアノ二重奏はすばらしい作品にも恵まれています。音楽する喜びを大いに味わってください。
更に、学内のオーディションやコンクールへの積極的な参加も望みます。
秋に行われるアンサンブルコンペティションに際しては、参加希望かつ、前期試演会にて優秀と認められる組には特別レッスンも行っています。

２．授業概要

各クラスの教員の指示に従い、基本的には毎回数組ずつローテーションしながらレッスン形態で進められる。他の組の演奏にも興味を持ち、参加できる工夫もされている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パートナーとの合わせの時間を必ず作り、授業で演奏するときまで充分に練習をしておくこと。
自分のパートのみならず、相手のパートについてもよく理解しておくこと。
選曲した作品の内容を理解するために必要と思われる事柄（作曲者、国や時代、楽譜に書かれている楽語などについて）は、調べられる範囲で各自調べておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試演会（評価の３０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

練習曲　：ベルティーニ『四手の為の２５の練習曲』
古典派の作品　：モーツァルト・ベートーヴェンのソナタ、交響曲の編曲など
ロマン派の作品　：シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークの舞曲集など
近現代の作品　：フォーレ・ドリー・ドビュッシーの小組曲など

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「二重奏」に興味を持つ学生なら経験を問わず履修可。
二人一組が年間を通してペアを組むことになり、その組み合わせは初回の授業で決定するが、組む相手を予め決めておくことが望ましい。
演習形式の授業なので他者の演奏には静粛を保つこと。
パートナーとはよく連絡を取り合い、相手に迷惑をかけないようにすること。
自分達の演奏のための準備には努め、演奏当日は欠席しないこと。
クラス分けは、初回の授業でペアの決定後直ちに行うので、ポータルに掲示された教室に全員集合すること。

授業計画	
	［前期］ バロック・古典 ／　ロマン ／ 近現代 の３つのカテゴリーから各組のレヴェルに合った選曲をし、計画をたてる。 前期末の試演会を発表の場とする。
1	ペアを決定し、クラス分けを行う。
2	先ずは練習曲から始める。経験の有無にもよるが、慣れることを目標に、ベルティーニの練習曲などを用い、お互いをよく聴くことを学ぶ。
3	担当教員によるレクチャー。内容は、連弾の歴史、音源などを交えながらの代表曲紹介、および、連弾に於ける注意点の説明など。
4	各クラスの担当教員の指導の下、それぞれのペアの進度に合ったローテーションを組み授業を進めていく。年間ですべての時代（バロック及び古典、ロマン、近現代）から選曲できるように、教員もアドヴァイスするが、基本的に各組自主的にプログラミングする。
5	各クラスのローテーションに従った演習授業 オーディションや、コンクールを受けることを希望している組など、それぞれの目標も把握しながら選曲していく。
6	各組、初めに取り組む曲を決め、ローテーションに従っての演習。必ずしも年代順の必要はなく、やりやすいものを選ぶことを勧める。作曲者や曲の成り立ち等を調べ、発表できるように準備する。
7	1曲目の演習授業。ソナタのような規模の曲を毎週少しずつ進めていく組や、小品を毎回仕上げていく組等、それぞれの組に合うやり方で進める。
8	1曲目が終わった組は、別のカテゴリーから２曲目を選ぶようにする。時代のスタイルの違いを如何に表現するかを、弾き手と聴き手の両方の立場に立ちながら学習していく。
9	２曲目の演習。曲によっては、プリモとセコンドを交換し、音色、曲のキャラクター等、より表現しやすい方を選択することも勧める。
10	３曲目にも入り、前期中に全てのカテゴリーを学習するよう促していく。
11	前期末の試演会も考慮しながら、それぞれの組の課題に取り組んで行く。
12	各組のテーマとなる課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを中心に、より説得力のある演奏を目指して弾く側、聴く側、両方の立場から、様々に試みてみる。
14	前期試演会のリハーサル
15	３クラス合同の前期試演会

授業計画	
	［後期］ 　各組それぞれの取り組み方に応じた内容となる。 　前期に３つすべてのカテゴリーの連弾曲を学習した組は、２台４手も可能とし同様に３つのカテゴリーから選曲し、計画を立てる。 　学年末の試演会を発表の場とする。
1	前期に引き続き、各クラスの担当教員の指導の下、ローテーションに従って授業を進めていく。アンサンブルコンペティションを受ける組に対する指導も行なっていく。
2	前期に学習しきれなかったカテゴリーがある組や、アンサンブルコンペティションを目指し曲を練り込む組等、それぞれの目標に従って進める。
3	基本的には、いずれの組もすべてのカテゴリーをバランスよく学習できるように進めていく。
4	学習したカテゴリーに偏りがないかをチェックしながら、各組の個性を生かせる方向もアドヴァイスしていく。
5	ソロと連弾での弾き手の意識の違い等、演習を通して学習していく。
6	アンサンブルにコンペティションに参加する組は仕上げに入る。
7	各組が本当に取り組みたいのは何か、時代や曲の性格等々、２人のアンサンブルがよりレヴェルアップ出来るよう、考えさせながらアドヴァイスを行っていく。
8	各組が具体的な目標や課題を認識し、お互いを高める意識をもって臨めば良いアンサンブルになることを学習していく。
9	各組それぞれの課題により深く取り組んで行く。
10	後期終わりに行う試演会も考慮し、課題に取り組む。
11	各組の個性を生かし、より表現豊かな演奏を目指す。 コンペティション本選参加の組には、それに向けた指導を行う。
12	試演会のプログラムを中心に課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを仕上げていく。
14	後期試演会のリハーサル
15	３クラス合同の後期試演会

科目名	二重奏II［仮登録/シラバス用］						
代表教員	白澤　暁子	授業コード	WGE140203	科目コード	GE1402	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	PF・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「二重奏I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「二重奏Ⅱ」は、「二重奏Ⅰ」に引き続き、ピアノによる二重奏、即ち一台四手連弾、および、二台四手を題材とした演習形式で進められる講座である。
「二重奏Ⅰ」に於いて学習した〝お互いをよく聴く〟というアンサンブルの基本は大切に、本講座ではより積極的に作品と関わり理解を深め、共感できることを二人で探求しながら〝お互いを活かす〟 創造的な演奏を目指したいと考える。
連弾と二台ピアノではそれぞれのパートに求められることも違うので、その点も理解して行きたい。
学内のオーディションやコンクールへの積極的な参加を望み、秋に行われるアンサンブルコンペティションに際しては、参加希望かつ、前期試演会にて優秀と認められるペアには特別レッスンも行う。

２．授業概要

各クラスの教員の指示に従い、基本的には毎回数組ずつローテーションしながらレッスン形態で進められる。他のペアの演奏にも興味を持ち、参加できる工夫もされている。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

パートナーとの合わせの時間を必ず作り、授業で演奏するときまで充分に練習をしておくこと。
自分のパートのみならず、相手のパートもよく知っておくこと。
選曲した作品の内容を理解するために必要と思われることは、調べておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試演会（評価の３０％）
平常点（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

バロック、古典派、ロマン派、近現代の種々の連弾曲、および、二台四手作品については、初回の授業で「主要作品リスト」を配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「二重奏Ⅰ」を履修した学生。
ペアは予め組んでいることを望む。
演習形式の授業なので他者の演奏には静粛を保つこと。
パートナーとはよく連絡を取り合い、相手に迷惑をかけないようにすること。
自分達の演奏のための準備には努め、演奏当日は欠席しないこと。
クラス分けは、初回の授業で行うので、ポータルに掲示された教室に全員集合すること。

授業計画	
	［前期］ バロック・古典 ／　ロマン ／ 近現代 の３つのカテゴリーをバランスよく学習できるよう選曲し計画をたてる。 前期末の試演会を発表の場とする。
1	ペアの確認後、クラス分けを行う。 「二重奏Ⅰ」に於いて配布された「連弾曲リスト」に加えられる「二台四手主要作品リスト」の配布と教員による紹介。
2	それぞれのペアが目標を決め、担当教員と話し合い、プログラミングしていく。
3	各クラスの担当教員の指導の下、それぞれのペアの進度に合ったローテーションを組み、授業を進めていく。
4	各ペア、最初に取り組む曲を決め、ローテーションに従った演習を行う。
5	各クラスのローテーションに従った演習授業。 オーディションやコンクールを受けることを希望しているペアなど、それぞれの目標も考慮しながら選曲する。
6	1曲目の演習授業。ソナタのような規模の曲を毎回少しずつ学んでいくペアや、小品を毎回仕上げていくペアなど、それぞれのペアに合うやり方で進めていく。
7	１曲目、ないし2曲目の演習授業。曲の内容についても「二重奏Ⅰ」よりも一歩踏み込んだ理解ができるよう、作曲者の国や時代背景等、自主的に調べ、作品がより身近に感じられるよう努め、聴き手も共有出来るような発表も行い、これを習慣化していく。
8	各ペアの計画に従った演習授業。曲の内容を表現できるレヴェルに到達することを目指す。
9	基本的には、各ペアが３つすべてのカテゴリーの様々なスタイルの曲を学習することを望むが、徐々に各ペアの個性を活かす方向を見つけていくのも良い。
10	ペアにより、２曲目、ないし３曲目の演習に入る。
11	前期末の試演会も考慮しながら、それぞれのペアの課題に取り組んで行く。
12	各ペアのテーマとなる課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを中心に、より説得力のある演奏を目指して弾く側、聴く側、両方の立場から、様々に試みてみる。
14	前期試演会のリハーサル
15	2クラス合同の前期試演会

授業計画	
	［後期］ 各ペアそれぞれの取り組み方に応じた内容となる。 学年末の試演会を発表の場とする。
1	前期に引き続き、各クラスの担当教員の指導の下、ローテーションに従って授業を進めていく。アンサンブルコンペティションを受けるペアに対する指導も行なっていく。
2	前期に学習しきれなかった曲に取り組むペア、アンサンブルコンペティションを目指し曲を練り込むペア、又、連弾か２台ピアノか、新たにプログラムを見直すのも良い。
3	基本的には、いずれのペアも３つすべてのカテゴリーをバランスよく学習できることが望ましい。
4	学習したカテゴリーに偏りがないかを確認しながら、各ペアの個性を活かす方向も探っていく。
5	連弾と２台ピアノ、それぞれのパートに必要な意識が充分行き渡っているか確認する。
6	聴き手側からの意見を自由に述べ、立場が変わると気付くことを活発に交換し合い、クラス内の自発的な向上を目指す。 アンサンブルにコンペティションに参加するペアは仕上げに入る。
7	２人のアンサンブルがよりレヴェルアップ出来るよう、様々なアプローチを試してみる。
8	各ペアが具体的な目標や課題を認識し、お互いを高める意識を持ち、良いアンサンブルを目指す。
9	各ペアそれぞれの課題により深く取り組んで行く。
10	後期終わりに行う試演会も考慮し、課題に取り組む。
11	各ペアの個性を活かし、より表現豊かな演奏を目指す。 コンペティション本選参加のペアには、それに向けた指導を行う。
12	試演会のプログラムを中心に課題に取り組む。
13	試演会のプログラムを仕上げていく。
14	後期試演会のリハーサル
15	2クラス合同の後期試演会

科目名	初見視奏I［仮登録/シラバス用］						
代表教員	石田　多紀乃	授業コード	WGE141601	科目コード	GE1416	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

初見視奏の基礎から入り、正確で速い読譜に加え、更に音楽的内容を読み取って表現できる力も身につけます。

２．授業概要

できるだけ多くの作品を初見で演奏し、さまざまな曲に対応できる力を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・手持ちの楽譜や興味の持てる曲など、新たな曲を弾いてみる機会を増やす（始めは平易な作品が望ましい）。
・日々の練習においても、黙読してから弾く事を習慣づける。
・授業でとりあげた曲も再度弾いてみる。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。
クラス分けのための短い課題を体験して頂きます。
集合教室については、事前にポータルの掲示等で確認すること。

授業計画	
	［半期］ 初見視奏の基本の確認に重点を置き、演習形式で授業を行います。
1	クラス分け、及びガイダンス。
2	初見視奏の基本的な考え方を知る。
3	細かいことにこだわり過ぎずに止まらず弾く。
4	調性と和声の変化に着目して弾く（調号の少ない簡素なもの）。
5	調性と和声の変化に着目して弾く（より複雑なもの）。
6	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴わないもの）。
7	適切なテンポと正確なリズムで弾く（テンポ変化を伴うもの）。
8	まとめと小テスト（予定）。
9	連弾で初見視奏する。
10	楽語や記号を演奏で表現する。
11	全体を把握し、曲に合った表現を考えて演奏する。
12	素早く正確に読み取って演奏する。
13	試験を想定した予見時間で課題を弾いてみる。
14	まとめと試験（予定）。
15	さまざまなスタイルの曲を弾いてみる。

科目名	初見視奏II［仮登録/シラバス用］						
代表教員	竹原　暁子	授業コード	WGE141702	科目コード	GE1417	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PF・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「初見視奏I」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

限られた時間の中で、楽譜を把握し特徴を捉え表現出来る事。
表面の読譜は勿論、その奥にあるものを考えられるようにしていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に沿って授業を進め、できるだけ多くの種類の楽譜に向きあうことで、対応できる力を養う。
個人個人の状況に応じて可能な限り「初見」のコツを発見、実施出来るように演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

日常、黙読してから弾く習慣を身につける。音を出さずに、頭の中で音楽を組み立てる。
一回で弾けなかった部分を考えて、二回目を弾いてみる。
なるべく多くの楽譜(ピアノ譜にかぎらず)に触れて、経験を増やし、自信を得る事。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の２０％）
授業への参加姿勢（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料、課題などのプリントを配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けは、前期末テストの結果により行う。

授業計画	
	［半期］ 担当教員によって授業の内容の順序や方法はかわります。 授業期間中に、小テストを行う。 学年末試験は、最終日、もしくは試験期間に実施する。
1	ガイダンスと前期の復習/確認
2	初見とは何か？の再確認, 個別能力の確認
3	曲の様式、意味を考える
4	デュナーミクとアゴーギクを含めた楽譜の表情を読む
5	技術の訓練①和音を素早く読む
6	技術の訓練②加線に強くなる
7	技術の訓練③楽譜の先を読みながら弾く
8	技術の訓練④跳躍の感覚をつかみ、鍵盤を見ないで弾く
9	まとめと小テスト（予定）
10	楽語の意味を理解し、表現力につなげる
11	全体像をつかむ
12	黙読して、頭の中で演奏してみる
13	アンサンブルによって、柔軟な対応力を身につける
14	個別での仕上げ
15	学年末試験・まとめ

科目名	管弦楽内ピアノ奏法研究１～４［仮登録/シラバス用］［木4］						
代表教員	小林　裕子	授業コード	WGE149503	科目コード	GE1495d	期間	通年
担当教員	山内　のり子						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ピアノは一台で管弦楽曲をも再現できる能力を持つ万能楽器である。 しかし現状はピアノ曲の習得のみに追われ、 楽器の持つ大きな能力を奏者自身が使いこなすことは難しい。 本講座を履修することによって、スコア（総譜）を読むことから得られる多彩な音色表現の具現化、また指揮を見ながら演奏することに慣れ、協奏曲や室内楽演奏時に必要な高いアンサンブル能力を発揮出来るようになることが期待される。 実際の合奏総譜（スコア）研究と指揮視奏による合奏授業への参加をする授業を経て、演奏会へ参加することを目的とする。従ってこの専門選択科目は専攻交流参加型授業の性質を帯びている。（管弦打⇔ ピアノ）

２．授業概要

発表されたベーシックオーケストラ、レパートリーオーケストラ、マスターオーケストラの課題を含めて、授業計画に沿って授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

管弦楽総譜（スコア）の読み方に習熟すべく、 リーディングの速度を高める努力を怠らないこと。 また課題曲等のCD ・ DVD類を用いて、自らの頭の中で鳴る響きと実際の音響の差異が少なくなるように、日々感覚を磨く こと。

４．成績評価の方法及び基準

平常点と演奏参加態度を評価する。またオーディションへの積極的な参加も評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献 ：〈スコアリーディング（スコアを読む手引き)〉 校閲 諸井三郎（全音楽譜出版社刊）など
前年度まで、そして今年度以降の課題例 ：
ベートーヴェン ：「エグモント」、交響曲「運命」、ブラームス ：「ハンガリー舞曲」、シューベルト:交響曲 「未完成」、ラヴェル:「マ・メール・ロワ」、 ロッシーニ ・ ヴェルディ ・ ワーグナー等の 「オペラ序曲」、 シベリウス:交響詩 「フィンランディア」、ビゼー:組曲 「カルメン」、 チャイコフスキー ：バレエ音楽 「くるみ割り人形」 「白鳥の湖」、バーンスタイ:交響曲「エレミア」

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回の授業でクラス分けを行います。集合教室については事前にポータル掲示で確認すること。
ベーシック ・ オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽授業にを行うことがある。同様にベーシック・オーケストラをはじめ、オーケストラ ・ 吹奏楽 ・ 合唱の学内外の演奏会に、 ピアノ・チェレスタ・チェンバロ等鍵盤楽器で 〈参加推薦〉 を行うことがある(オーディションの有無に関わらず)。 普段、多人数でのコミュニケーションを持たない専攻（ピアノ)なので、 大規模の演奏会スタイルを体験してほしい。

授業計画	
	［前期］ スコアリーディングの基礎を学ぶと共に、ピアノ付き管弦楽曲のレパートリーを知り、その効果と役目の知識を得る。
1	ガイダンス
2	スコアリーディング解説①各パート、弦楽器群等
3	スコアリーディング解説②管楽器等、打楽器群とピアノなどの編入楽器
4	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業①音楽の構造と読譜
5	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業②内声と手の配置
6	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業③音域、省略法など
7	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業④弦楽器の特性とピアノでの表現方法の研究
8	スコアリーディングにより、弦楽パートからピアノパートへの読み込み演奏授業⑤指揮者に従う奏法練習
9	ベーシックオーケストラの授業見学
10	指揮とベーシック・オーケストラ（管打楽器）との授業体験を通して、響きを体感する。
11	指揮とそれぞれの楽器のタイミングを体験した上で、呼吸法を考える。
12	指揮者の要求を理解する。
13	指揮を見ながら全体のアンサンブルを考える。
14	指揮者の指導に基づき、アンサンブル、読譜、音楽的欲求、バランス等を考える。
15	学内ホールにて ベーシック・オーケストラとの研究発表演奏会

授業計画	
	［後期］ 　学内オーケストラ授業への鍵盤楽器の派遣（オーディション）及びピアノ編曲された管弦楽の曲を用いてスコア解析を通して演奏。前期より更にレヴェルアップできる内容を探求する。
1	後期授業説明
2	スコア解析①前期での読譜の例にならい、楽器群の読譜を行う
3	スコア解析②各楽器群の音色の研究と奏法
4	スコア解析③アンサンブルの実際
5	スコア解析④指揮者に従うアンサンブルやバランス
6	スコア解析⑤音楽の構造や様式など総合的な音楽研究
7	スコア解析⑥以前とは異なる作品に対する研究が加味される。
8	スコア解析⑦各パートの交換など適宜行う
9	スコア解析⑧総合的な音楽へのアプローチ
10	楽器による音色や音出しのタイミングの違いを理解する
11	指揮者とのコンタクトを取って演奏する
12	学内オーケストラのリハーサル見学①管弦楽の響きを聞く
13	学内オーケストラのリハーサル見学②各楽器毎の音楽的欲求について留意する
14	学内オーケストラのリハーサル見学③管弦楽とピアノによる奏法との違いなど総合的に考察
15	学内演奏会場にて研究発表演奏会

科目名	特別アンサンブル／ラボ２・４・６・８ 【仮登録/シラバス用】（後）						
代表教員	原　朋直	授業コード	WGE201200	科目コード	GE2012d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－２～４－２ 【仮登録/シラバス用】（後）						
代表教員	原　朋直	授業コード	WGE208600	科目コード	GE2086d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	ポピュラー奏法特別研究１～４　【仮登録】						
代表教員	三原　善隆	授業コード	WGE666800	科目コード	GE6668d	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガンの特徴・機能・優位性などを理解し基本となる奏法を身に付けます。
電子オルガン特有のアレンジ手法やコードプログレッションを身に付け、ソロ・アンサンブルなど演奏表現力に結び付けます。

２．授業概要

授業計画に沿って進行する。
グループ講義を活かし、毎時出される課題を相互に聴き合い幅広い感性を養います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

課題曲を提示し毎時授業で習得したアレンジ要素やコード進行などを五線譜に書いて習得する。
書き上げた楽譜は音色感を持って演奏表現できるように練習し発表する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢と課題実習の成果を総合して評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

随時配布・授業で紹介

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

専攻楽器に造詣を抱き前向きに取り組む姿勢を持つ。
オリジナリティーのあるアレンジや演奏表現を目指す姿勢。
ソロ・アンサンブルを問わず専攻楽器を主体として取り組む姿勢。

授業計画	
	［集中］Aクラス
1	電子オルガンの概念（ヒストリー・３段鍵盤・音源構成・Feet等）/ コードネームと音程
2	奏法（タッチ・ベース） 音色に伴う奏法（レガート奏法・ノンレガート奏法・ホリゾンタルタ等）/ コードの仕組み
3	音色研究（音群・波形・バランス・定位等）関連奏法 / コード（和音）の構成
4	音色研究（音色Edit・エフェクトの概念等）関連奏法 /コードの種類その１
5	リズムプログラミング（リズムの理解・入力法・設定等）/ コードの種類その２
6	楽器法まとめ（その他昨日研等）/ コードの転回
7	楽曲に対するオリジナル音色制作（レジストレーション・奏法）/ コードとベース
8	作品発表・ディスカッション
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

授業計画	
	［集中］Bクラス
1	エレクトーンアレンジの基礎（アレンジ手法・構成・ジャンル）／ コードプログレッション１
2	エレクトーンアレンジの基礎（イントロ・エンディング・間奏等）／ コードプログレッション２
3	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション3 （３段鍵盤に於けるコードの基礎知識と応用）
4	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション4 （ベースと左手のポジショニング等）
5	エレクトーンアレンジ・コードプログレッション5 （コード進行法・テンション等）
6	エレクトーンアンサンブルアレンジ１・コードプログレッション6 （３段鍵盤を意識したボイシング）
7	エレクトーンアンサンブル4アレンジ２・コードプログレッション7 （リハモナイズ）
8	作品発表・ディスカッション
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	楽式論I［仮登録/シラバス用］						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	WGE675001	科目コード	GE6750	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。
到達目標
・ソナチネや子供のための作品等の小品の分析ができる。

２．授業概要

・楽曲分析に必要な基礎知識を学ぶ。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％（期末試験＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例のプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修希望者が定員を超えた場合は、第１回目の授業でのアンケートにより選考する。
条件はとくにないが理論的な勉強が好きであることが望ましい。

授業計画	
	［半期］Ⅰ 基礎編 　楽曲分析に必要な基礎知識を身につける。 記載した楽曲は履修者の専攻を考慮して変更する場合もある。
1	授業概要 楽曲分析から得られること。演奏や作曲への役立て方
2	楽節、動機、旋律と和声
3	二部形式
4	三部形式
5	基礎形式まとめ
6	変奏曲（１）　様々な変奏方法 ベートーヴェン　変奏曲Wo0.28など
7	変奏曲（２）　楽曲全体の構成 ベートーヴェン　６つの変奏曲Op.76, モーツァルト　ピアノソナタ　K.３３１第１楽章など
8	複合三部形式
9	ロンド形式（１）　概説
10	ロンド形式（2）　種々のロンド形式 モーツァルト、ベートーヴェンなどのロンド形式の楽曲
11	変奏曲、複合三部形式、ロンド形式まとめ
12	ソナタ形式（１）　概説
13	ソナタ形式（２）　提示部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　Op.2-1　第１楽章
14	ソナタ形式（３）　展開部、再現部について ベートーヴェン　ピアノソナタ　Op.2-1　第１楽章 Op.2-2　第1楽章など
15	前期のまとめ、テスト

科目名	楽式論II［仮登録/シラバス用］						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	WGE675002	科目コード	GE6751	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「楽式論I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽形式の学習を中心として種々の作品の分析を行う。作品や作曲家の語法への理解を深め、演奏や作曲での表現の幅を広げる一助となるようにする。

到達目標
・作曲家による音の響きの違いを認識できるようになる。
・バロック、古典、ロマン、近・現代それぞれの音楽の特徴を理解し、自分の演奏解釈、作曲に取り入れられるようになる。

２．授業概要

・バロックおよびロマン派の作品を中心に分析する。
・楽曲を分析していく際に楽譜を見て判断するだけではなく、聴覚から構造を感じ取ることも重視する。そのためソルフェージュ的な方法も取り入れて授業を進める（ソルフェージュが苦手でも全く問題ない）。
・ＣＤやＤＶＤの鑑賞を通して、分析と照らし合わせながら演奏家の解釈の違いを確認していく。
・曲の分析や演奏について学生同士でディスカッションを行う時間も設けていく。

授業計画にあげた作品は授業の進み具合、履修者の専攻などにより変更することがある。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げた作品を何度も聴き、形式の理解を深めること。楽譜を見て曲がイメージできるよう1曲につき10回程度は聴くこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験　　：評価の９０％　（期末テスト＋授業内テスト）
平常点：評価の１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは特に使用しない。譜例はプリントを配布する。

参考文献：
島岡譲著　　『音楽の理論と実習』　『和声と楽式のアナリーゼ』（音楽之友社）
石桁真礼生著『楽式論』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］II 応用編 記載した楽曲は履修者の専攻などを考慮して変更する場合がある。
1	対位法的楽曲について
2	フーガ（１） 主唱の扱い方、答唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第1巻 第1番、第14番など
3	フーガ（2）　対唱について J.S.Bach　平均律クラヴィーア曲集より 第１巻　第2番など
4	フーガ（3）　楽曲全体の構成について J.S.Bach 平均律クラヴィーア曲集より 第2巻 第2番など
5	対位法的楽曲のまとめ
6	歌曲（１） 有節歌曲、通作歌曲
7	歌曲（２） 歌詞と和声の関わりについて
8	歌曲（３） 作曲家の表現方法—同じ詩による歌曲を比較して Beethoven,Schubert,Schumann　《Mignon》、 Faure, Debussy　《Clair de lune》　など
9	ロマン派のソナタ形式（１）提示部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
10	ロマン派のソナタ形式(2) 展開部 Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
11	ロマン派のソナタ形式(３)　再現部、コーダ Brahms クラリネットソナタ　Op120 No.1　第1楽章など
12	循環形式（１） 古典派、ロマン派の作品を中心として
13	循環形式（２） 近代の作品を中心として
14	楽曲分析と演奏についての考察
15	後期のまとめ

科目名	Ｒ＆Ｐ・ヴォイストレーニング［仮登録/シラバス用］						
代表教員	佐々木　久美	授業コード	WGE759300	科目コード	GE7593	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

体力・腹筋力をつけるとともに 歌うことに必要な発声の基本を身につける。

２．授業概要

ストレッチ・筋トレ・発声など

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ストレッチ・筋トレ・授業内で行った発声方法を繰り返し練習する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・授業態度。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で指示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

床に座ります。気になる場合はバスタオルやストレッチマットなどを持参してください。
動きやすいものを着用してください。
（女子はスカートはNG。ジャージなど準備してください）

授業計画	
	ストレッチ、筋トレ、発声。 発声は都度進行状況で内容を変化する。
1	発声基礎の説明など（ストレッチ、筋トレ体幹運動など）
2	声を出すための基本姿勢の習得（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
3	発声のための体力つくり（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
4	発声の基礎の習得（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
5	発声の基礎（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
6	発声の基礎の自主練習法の習得（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
7	発声の基礎の復習（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
8	発声の基礎の習得状況の確認（ストレッチ、筋トレ、体幹運動など）
9	総括
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅠ　【仮登録】（後）［水4］						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	WGE761302	科目コード	GE7613	期間	半期
担当教員	明石　昌夫						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐベーシックス」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の実際のリハーサル、レコーディングにおいて用いられる基本的な記譜法に始まり、それぞれの楽器の楽曲に対する有効なアレンジアプローチを学び、主にジャンルとしてのロック、ポップス、のストリングス、ブラスのアレンジも覚えてもらって、最終的にはフルオーケストラのスコアも書けるまでにしたい。

コンピュータを使用するアレンジについても最新ソフトの情報をふくめ、研究していく。

２．授業概要

代表的なロック、ポップスの楽曲等を使用しながら勉強、研究する。耳コピーし、写譜できる能力を身につける。様々な楽曲（オリジナルも含む）のアレンジメントの可能性を探り、基本的なアレンジのノウハウを覚え、実践する。必要に応じ、コンピュータを駆使し、授業を進めていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源等、用意します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

分かりやすく、すぐに応用できるアレンジを教えます。
好奇心旺盛で音楽を楽しもうとする学生求む

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（アレンジの考え方、等）
2	記譜法（マスターリズム、スコア、パート譜、等）
3	リズムアレンジ１（ドラム、ベース、パーカッション等の研究）
4	リズムアレンジ２（ギター、キーボード等を含めた全体のリズム研究）
5	編曲構成（行き方等の研究）
6	アレンジ演習１（課題曲のリズムアレンジをする）
7	アレンジ演習２（課題曲の上物のアレンジをし、完成させる）
8	ガイダンス（ストリングス、ブラス、コーラス等）
9	ストリングスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
10	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
11	ブラスアレンジ１（各楽器の音域などの特徴含め学習）
12	ブラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
13	コーラスアレンジ１（男声、女声、混声、それぞれの組み合わせパターン学習）
14	コーラスアレンジ２（実際の楽曲を用いて演習）
15	アレンジ演習（まとめ）

科目名	Ｒ＆Ｐ・アレンジⅡ　【仮登録】（前）［水4］						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	WGE761401	科目コード	GE7614	期間	半期
担当教員	明石　昌夫						
授業形態	演習	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・アレンジＩ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アレンジ　Ｉ　で習得した　記譜法、その他方法論をより深いところまで学び、習得する

２．授業概要

基本的な楽典、ソルフェージュなども繰り返し学習しながら、アレンジ演習を増やしていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業３回に１回程度の宿題（パート別に耳コピーして記譜、アレンジのアイディアをまとめてくる 等）

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の６０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、譜面、音源、映像等用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

入学当初の楽典、聴音はもとより最低限の記譜能力が必要。
簡単なペーパーテストの成績によりクラス分けをします。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	記譜練習１（課題曲を用意しDr,Bass等リズム主体の採譜）
3	記譜練習２（課題曲のGt,Key等上物主体の採譜）
4	リズムアレンジ１（様々なリズムパターンの習得）
5	リズムアレンジ２（DTMの使用含め演習）
6	アレンジ演習１（課題曲のリズムアレンジをする）
7	アレンジ演習２（課題曲のGt,Key等のアレンジをし、完成させる）
8	ストリングスアレンジ１（実際のスコア等用いた学習）
9	ストリングスアレンジ２（実際の楽曲にて演習）
10	アレンジ演習３（課題曲に対しストリングスアレンジの構想を練る）
11	アレンジ演習４（ストリングスアレンジをスコアにおこし、完成させる）
12	ブラスアレンジ１（様々なジャンルにて研究）
13	ブラスアレンジ２（実際の楽曲用いて演習）
14	アレンジ演習５（課題曲のブラスアレンジの構想を練る）
15	アレンジ演習６（ブラスアレンジをスコアにおこし完成させる）

科目名	作詞／作曲Ⅰ　【仮登録】（前）［金3］						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	WGE761701	科目コード	GE7617	期間	半期
担当教員	松藤　英男						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自己表現の一つとしての創作力（オリジナリティー）を身につける為に、作詞作曲にチャレンジする。
普段意識なく耳にしている優れた楽曲の作詞や作曲を研究する事で、作詞作曲のクオリティーの高さを知り、自分自身の作品の参考にしていく。
人に伝わる曲作りを目標に、まず１曲を仕上げる達成感を味わい、ステップアップする。
シンガーソングライターとしての弾き語りやバンドサウンドの作品作りを実践して、学内ライブなどで、積極的に発表できるように、曲数を書きためる。

２．授業概要

初心者、あるいは経験者の作品を個々に添削の上、完成度をあげていく。
出来上がったお互いの曲を視聴しあい、感想や意見をディスカッションする。
イマジネーションを高める為に、映像や写真を見ながら、歌詞やメロディーを作る。
必要に応じ、ガイドの音源や仮詞により、作詞作曲を試みる。
優れたアーティストの作品を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の50%）
作品評価（評価の30%）
レポート（評価の20%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

作詞作曲の醍醐味を味わって、楽しみながらチャレンジして下さ　い。自分の知らない自分の一面に出会える楽しみを、ぜひ体験して下さい！
なお、作詞作曲の経験値を考慮してクラス分けを行います。

授業計画	
	［半期］ 作詞作曲という視点を変えた歌の聞き方を、身につける。演習によって作詞作曲を体験しながら、まず自分の中に眠っている未知のイマジネーションを掘り起こす。
1	ガイダンス（作詞作曲の基本について） →各自にアンケート実施。
2	イメージトレーニング →写真やイラストを見ながら、心に浮かぶ思いや絵を言葉にしてみる。授業内での作詞の演習。まず１曲作詞のスケッチ（土台になる文章）を書いてみる。
3	作詞のスケッチを、詞の形にまとめる →文章から歌の詞へ、言葉を整理する。曲の構成を組み立てる。
4	自分の書いた作詞に曲をつけてみる。 →レベルによって違いは大きいが、まずは前回まとめた作詞にメロディーを当てはめて曲を作る、あるいは作詞スケッチのイメージでメロディーを考える。
5	作曲に必要なコード進行の基本を知る →メロディーに、メジャーコード、マイナーコードの主要なコードをつけてみる。簡単なコード進行から、メロディーを考える演習。
6	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(8小節からはじめる)を、コード譜や鍵盤、ギターで確認する。 どんな流れになっているか聴き取り、メロディーを発想する。
7	コード進行から発想する作曲法 →作られたコード進行(出だしAセクション、サビBセクションで出来上がったもの)から、メロディーを作り、1曲に仕上げる。
8	推薦アーティスト楽曲分析研究 →作詞作曲の観点で、曲の構成、メロディーの作り方や音符に対して詞の言葉の載り方などを探る。 作詞作曲の観点で、人に伝わる歌とは何かを考える。
9	名曲作詞の穴埋めにトライ →様々な名曲の作詞の言葉を深く理解する為に、抜けている言葉をを考える。完成された作品を聞いて、ひとつひとつの言葉の意味を知る。
10	メロディー(主旋律）のリズム研究 →同じメロディーラインでも、リズムやのせる言葉によって譜割りが変化する。一つのメロディーラインからのイージートレーニング。
11	推薦アーティストのDVD鑑賞 →ライブDVDやPV、あるいはドキュメント映像を見て、アイデンティティーを学ぶ。
12	アーティストのオリジナリティーを知る。 →同じテーマの同名異曲を聞いて、様々なアーティストの個性や完成を探る。
13	テーマを決めた曲作り →同じテーマで、各自方向性を探りながら、作詞作曲にトライする。
14	テーマを決めた曲作り →1曲にまとめるために、作詞、作曲共にしっかりと構成を見直す。
15	作品発表会 →作品を発表し、クラスのメンバーに曲の感想、意見を書いてもらう。

科目名	作詞／作曲Ⅱ　【仮登録】（後）［金3］						
代表教員	丸山　圭子	授業コード	WGE761802	科目コード	GE7618	期間	半期
担当教員	松藤　英男						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「作詞／作曲Ｉ」単位履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作詞作曲におけるオリジナリティーの追求をして、自分の世界を確立していく。
楽曲の種類を増やし、クオリティーを上げて、完成度の高い作品を目指す。
人に受け入れられるポピュラリティーを研究しながら、セルフプロデュース力を養う。

２．授業概要

授業のテーマの他に、常時各自の作品が完成次第、添削は個別に受けていく。
自分の作品への感想を積極的に聞いて、クリエーター同士のディスカッションで感性を高める。
自分の楽曲の表現力も追求。（歌唱法、アレンジ、パフォーマンス）
楽曲をためる事で、オリジナルの世界観を作りあげ、ライブやレコーディングなどで発表する

３．授業時間外の学習（予習復習について）

映画・ドラマ・小説などの感性を磨く作品に日常から親しむ。作品をクリエイトする作業は、エンドレスなので。積極的に時間を作り、形にしていく。好奇心旺盛にクリエイティブな生活を楽しむ事。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（授業への参加姿勢）（評価の５０％）
作品評価（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じ、テキスト、歌詞、譜面、音源などを用意する。生徒は、ヘッドホンを用意する事。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

人の心に響くオリジナル曲を、作りませんか？「伝える」「伝わる」曲は何かを、一緒に考えてみましょう！

授業計画	
	オリジナル作品は、各自の完成に応じて常時添削。授業内の他にもG-mail添付提出利用でのメール添削やレッスンでもアドバイス致します。
1	ガイダンス（各自の作詞作曲に取り組む姿勢や熱意を確認する） 各自の作品発表と添削／ディスカッション
2	イメージトレーニング（メロディーによる心象描写） →インストロメンタルや写真などによる、インスピレーションによる作詞の演習
3	イメージトレーニングの作詞に作曲をする →自分の書いた作詞をみながら、あるいはそのイメージにあった曲づくり。
4	コード進行から発想する作曲法 →テンションコードなども交えた、1曲の完成した形のコード進行に、メロディーを載せる。
5	コード進行から発想する作曲法 →出来上がったメロディーを、譜面にまとめ、リズムを考え、楽器でデモ音源を作る。
6	推薦アーティスト研究
7	各自の自作曲あるいは推薦曲の鑑賞とディスカッション
8	テーマを決めた曲作り →人に感謝する、季節を表す、人を愛する…と歌のテーマは様々。そこから、クラスでディスカッションの上一つテーマを決めて、それぞれが作詞ないし作曲のスケッチを始める。
9	テーマを決めた曲作り →作詞から始めた人はそれにメロディーを、作曲から始めた人はそれに作詞を載せる。譜面に書く。（デモ音源を作る。）
10	オリジナリティーとは？ →テーマが同じいろいろなアーティストの同名異曲を聞き比べ、アーティストの個性や感性を探る
11	作詞と作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲、歌手をそれぞれ分担して、プロ作家の仕事を体験する。
12	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →作詞、作曲を分担する。パートナーを見つけ、曲作りのテーマを話し合う。決まったら、制作開始。
13	作詞作曲のコラボレーショントレーニング →コラボレーションした作品を、デモ音源の形にしてみる。その中で、手直しをしていく。
14	セルフプロデュースとは？ →自分自身の作品を客観的に見つめ、自分の音楽の世界をいかしてに伝えるかを、自分に対してのクエッション＆アンサーアンケートを書き込みながら、考える。
15	作品鑑賞会

科目名	ＤＴＭ実習１　【仮登録】（前）［金2］						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	WGE762201	科目コード	GE7622	期間	半期
担当教員	葉山　たけし、川村　ケン						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、システム構築、基本的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用した簡単なデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行ないます。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習２」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	オリエンテーション
2	PCのセットアップ／ソフトウェア（DAW）の基本操作1　基礎
3	ソフトウェア（DAW）の基本操作2　応用
4	ソフトウェア（DAW）の基本操作3　発展
5	基礎プログラミング1（ドラム）
6	基礎プログラミング2（キーボード）
7	基礎プログラミング3（ベース）
8	基礎プログラミング4（ギター）
9	基礎プログラミング5（ストリングス）
10	基礎プログラミング6（シンセサイザー）
11	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（MIDIトラック）
12	今まで実施したプログラミングの総復習
13	課題制作１　基礎
14	課題制作２　応用
15	課題製作３　発展　・課題提出

科目名	ＤＴＭ実習２　【仮登録】（後）［金2］						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	WGE762302	科目コード	GE7623	期間	半期
担当教員	葉山　たけし、川村　ケン						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

現在の音楽制作の現場では避けて通れないコンピュータとシンセサイザー（ハードウェア＆ソフトウェア）の基礎を学ぶ。
MIDI & Audio Dataを扱うソフトウェア(DAW)を使用し、現実的な操作の習得を目指す。
最終的には、課題作りを通じ、作品を創作することを目標とする。

２．授業概要

ハードウェア・ソフトウェア・シンセサイザーを使用したデータ作り（プログラミング）の実習。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

CDを聴く時やライブを観る際、自分の専門以外のパートも意識して聴くようにする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、取り組みの姿勢　50%
課題評価　50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業毎に配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回にクラス分けを行います。
ヘッドフォンを必ず持ってくること。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「ＤＴＭ実習１」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	[半期]
1	ソフトウェアシンセ・サンプラー概論
2	ソフトウェアシンセによる音色作り
3	ソフトウェアサンプラーによる簡単なサンプル作り
4	オーディオ・レコーディング1（ヴォーカル）
5	オーディオ・レコーディング2（インストゥルメンツ）
6	応用プログラミング1（グルーヴ・クォンタイズ／MIDI）
7	応用プログラミング2（グルーヴ・クォンタイズ／オーディオ）
8	ミキシングおよびエフェクトの基本操作（オーディオ・トラック）
9	ミキシング1基礎
10	ミキシング2応用
11	ミックスダウン
12	マスタリング
13	課題制作1　基礎
14	課題制作2　応用
15	課題制作3　発展　・課題提出

科目名	英語１－Ⅰ【仮登録】（前）［水4］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	WGE771031	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員	永井　崇						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－Ⅰ【仮登録】（前）［金3］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	WGE771041	科目コード	GE7710	期間	半期
担当教員	永井　崇						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）、ロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内で毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1　Student Book with CD　(OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整（クラス分け）を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業のため、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	Introductions, Syllabus, rules, class activity, 序章, （シラバスの記載事項について確認する）
2	Unit 1、歌①- リスニング
3	Unit 2、歌①- 発音練習
4	Unit 3、歌①- 歌詞の背景を探る
5	Unit 4、歌①- 英語らしい発音で歌う
6	Unit 5、 歌②- リスニング
7	Unit 1-5、歌②- 発音練習
8	Unit 6、歌②- 歌詞の背景を探る
9	Unit 7、歌②- 英語らしい発音で歌う
10	Unit 8、③- リスニング
11	Unit 8、歌③- 発音練習
12	Unit 10、歌③- 歌詞の背景を探る
13	Unit 6-10 、歌③- 英語らしい発音で歌う
14	プレゼンテーション
15	前期総括

科目名	英語１－II 【仮登録】（後）［水4］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	WGE771132	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員	永井　崇						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	英語１－II 【仮登録】（後）［金3］						
代表教員	伊藤　満里	授業コード	WGE771142	科目コード	GE7711	期間	半期
担当教員	永井　崇						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「英語１－Ｉ」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

受講生が英語の歌（JazzやPops）とロールプレイ（英会話）を通して「使える英語」を実践的に学び、簡単な日常会話や、海外旅行で困らない程度の英語力を身につけられることである。

２．授業概要

＜やさしい単語＞を使用して英語を初歩から学ぶ。リスニングとスピーキングに重点をおき、覚えておくと必ず役立つフレーズを実践的に学ぶ。
（１）トラベル英会話を聞き取り、覚え、場面や状況を想定しながらペアで発表する-レストラン、タクシー、買い物、外国人の先生のレッスンを受ける、などを想定して。
（２）ジャズやポップスを素材にして、聞き取り、発音を学び、歌詞を訳し、詩の世界を味わう。
（３）プレゼンテーション-テーマに従ってシナリオを書き、発表し合う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

詳しい予習・復習範囲については授業時間内に毎回提示する。
・予習30分：分からない単語を調べておく。
・復習60分：簡単な会話文を暗記する。音読、発音練習など。
・その他の準備90分以上：プレゼン発表に向けて、ペアまたはグループで授業外に準備と練習が必要になる。
・自習3-10分：外国語の勉強は毎日継続すると効果がある。英語の歌、映画やドラマ、テレビ・ラジオの英会話等で毎日少しずつでも英語に触れるようにしよう。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の３０％）
平常点（課題提出、授業内の小テスト及びレポート）（評価の３０％）
授業への参加姿勢（評価の４０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

Passport 2nd Edition Level 1 Student Book with CD (OXFORD UNIVERSITY PRESS)

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・受講生の人数調整を行う場合があるので、第一回目の授業には必ず出席すること。
・演習授業になるので、遅刻や欠席は厳禁。欠席数が授業数の１/３を超えた場合は単位認定を行なわない。
・いろいろな表現方法を身につけ、コミュニケーション能力を高めるためにも、毎回違ったパートナーとペア・ワークあるいはグループ・ワークを行うので、積極的な授業への参加姿勢が望ましい。
・英語が苦手と思う学生も大歓迎。興味を感じて努力すれば、使える英語は必ず身につくはずである。

授業計画	
	［半期］各回の授業内容は以下の通りであるが、若干変更する場合もある。
1	シラバスの記載事項について確認をする。 Unit 11、歌⑦- リスニング
2	Unit 12、歌⑦- 発音練習
3	Unit 13、歌⑦- 歌詞の背景を探る
4	Unit 14、歌⑦- 英語らしい発音で歌う
5	Unit 15、歌⑧- リスニング
6	Unit 11-15、歌⑧- 発音練習
7	Unit 16、歌⑧- 歌詞の背景を探る
8	Unit 17、歌⑧- 英語らしい発音で歌う
9	Unit 18、歌⑨- リスニング
10	Unit 19、歌⑨- 発音練習
11	Unit 20、歌⑨- 歌詞の背景を探る
12	Unit 16-20、歌⑨- 英語らしい発音で歌う
13	プレゼン-準備と練習
14	プレゼン-発表
15	後期総括

科目名	教職ピアノ実習１－Ⅰ【仮登録】（前）						
代表教員	未定	授業コード	WGJ094000	科目コード	GJ0940	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	1				
対象コース	全（PF・ME・JZコースのピアノ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】ピアノ伴奏の基礎技能の習得
【到達目標】基礎的知識の理解と、初・中・上級のレベルに応じた技能の習熟

２．授業概要

音楽科教育で求められるピアノ技術の習得を目的とする本授業により、教職課程の仕上げとしての教育実習において支障なく教壇実習が遂行できることを目標とする。また、グループ授業を通じてコミュニケーション能力の育成もめざす。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取り組みか②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①スケールとカデンツ②課題曲の実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）教職課程履修登録時のピアノ学習歴等に関する事前調査に基づき、学生一人一人の力量を勘案した上で「初級・中級・上級」のクラスが指定される。
（２）１年次終了までに、「教職ピアノ実習1-Ⅰ／1-Ⅱ」の単位を修得していない場合は、２年次前期に「教職ピアノ実習２」を履修できない。尚、４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（３）１週間に１回の授業だけでは、実力の向上は望めない。週１回の授業のみならず、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	（半期）
1	オリエンテーション－教育実習と教職ピアノ実習との関連及び既習曲の発表
2	グループ・個人指導 共通課題《ふるさと》の確認 スケール・カデンツの練習方法について
3	グループ・個人指導 共通課題《ふるさと》の表現の工夫 と《春の小川》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
4	グループ・個人指導 共通課題《春の小川》の表現の工夫 と《茶つみ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
5	グループ・個人指導 共通課題《茶つみ》の表現の工夫と《うみ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
6	グループ・個人指導 共通課題《うみ》の表現の工夫と《主人は冷たい土の中に》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
7	グループ・個人指導 共通課題《主人は冷たい土の中に》の表現の工夫と「こきりこ節」の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
8	グループ・個人指導 共通課題《こきりこ節》の表現の工夫と《Belive》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
9	グループ・個人指導 共通課題《Belive》の表現の工夫 グループでの伴奏演習《ふるさと》
10	グループでの伴奏演習《春の小川》《茶つみ》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
11	グループでの伴奏演習《うみ》《主人は冷たい土の中に》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
12	グループでの指導演習《こきりこ節》《Belive》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
13	グループでの指導演習・仕上げ演奏 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
14	グループでの指導演習・発表
15	半期のまとめ

科目名	管弦楽概論［仮登録/シラバス用］						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK057103	科目コード	GK0571	期間	通年
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	カリキュラムにより異なります。				
対象コース	全	科目分類	CO:専門選択（各コース）/全:専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲、編曲などで必要不可欠である基本的な楽器の知識を養い、また実際の管弦楽作品を聴きながらスコアを参照することにより、楽器の用法、用例を学ぶことを主題とする。その延長線として弦楽合奏のスコア、及び管弦楽のスコアの書き方を指導する。最終的に受講者がスコアを書くに際しての基本的な知識や技術を身につけることを目標とする。

２．授業概要

授業ではオーケストラに用いられる諸楽器について解説するとともに、それらの楽器が用いられている実例を提示する。スコアを参照しながら各楽器の役割を体得していく。
また、小テストを通して理解を深めるとともに、管弦楽への編曲等を通じて、実践的な知識を養う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業では多くの管弦楽作品を扱うが、それらを含めた多くの管弦楽作品を日頃からスコアを参照しながら聴くことが重要な予習・復習となる。また、スコアの書き方などで提示される課題を実施すること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の４０％）
提出物（評価の３０％）
学期末試験（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜、プリントを配布する。
参考文献：
『管弦楽法』伊福部昭著（音楽之友社）
『管弦楽法』ウォルター・ピストン著（音楽之友社）
『新総合音楽講座８　管弦楽概論』（ヤマハ音楽振興会）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽の作曲や編曲などに興味があり、また和声学や対位法に関する知識を持っていることが望ましい。授業ではしばしば交響曲などを扱うため、ソナタ形式など諸形式についても理解していることが望ましい。

授業計画	
	［前期］ 弦楽器と木管楽器
1	弦楽器 総論
2	ヴァイオリン
3	ヴィオラ
4	チェロ
5	コントラバス
6	弦楽器の総括と小テスト
7	弦楽５部のスコアの書き方
8	木管楽器 総論
9	フルート、ピッコロ、アルトフルート
10	オーボエ、イングリッシュホルン
11	クラリネット、バスクラリネット
12	バスーン、ダブルバスーン
13	サクソフォーン
14	木管楽器の総括と小テスト
15	木管セクションの書き方

授業計画	
	［後期］ 金管楽器、打楽器、編入楽器
1	金管楽器 総論
2	ホルン
3	トランペット
4	トロンボーン
5	テューバ、ユーフォニアム
6	金管楽器の総括と小テスト
7	金管セクションの書き方
8	打楽器 総論
9	ティンパニ
10	音律の定まらない打楽器
11	鍵盤打楽器
12	編入楽器（ハープ、チェレスタ他）
13	打楽器、編入楽器の総括と小テスト
14	管弦楽のスコアの書き方（基礎／譜割りなど）
15	管弦楽のスコアの書き方（応用／楽器の重ね方など）

科目名	ソルフェージュI 【仮登録】（前）［木1］						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK071101	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI 【仮登録】（後） ［木2］						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK071102	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュＩでは、特に高音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分け試験を受けた学生を履修対象とする。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	ガイダンス、及びクラス分け試験
2	高音部譜表の読譜を中心に
3	低音部譜表の読譜を中心に
4	大譜表の読譜を中心に
5	単純拍子のリズム読みを中心に
6	複合拍子のリズム読みを中心に
7	リズム聴音を中心に
8	旋律聴音（長調）を中心に
9	旋律聴音（短調）を中心に
10	複旋律聴音を中心に
11	和声聴音を中心に
12	音源を用いた聴音を中心に
13	伴奏のある視唱を中心に
14	伴奏のない視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュI 【仮登録】（前）［木4］（RP専用）						
代表教員	前野　知常	授業コード	WGK0711R0	科目コード	GK0711	期間	半期
担当教員	川村　ケン						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンスとクラス分け試験
2	8ビートの聞き取り1（クラップリズム）
3	8ビートの聞き取り1（フレーズリズム）
4	16ビートの聞き取り1（クラップリズム）
5	16ビートの聞き取り2（フレーズリズム）
6	8ビートバウンス（シャッフル）の聞き取り
7	16ビートバウンス（ハーフタイムシャッフル）の聞き取り
8	ポリリズム
9	ドラムの聞き取り、採譜1（8ビート）
10	ドラムの聞き取り、採譜2（16ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜3（8ビートバウンス）
12	ドラムの聞き取り、採譜4（16ビートバウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	前期総括と試験

科目名	ソルフェージュII 【仮登録】（前） [木2]						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK071201	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII 【仮登録】（後） [木1]						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK071202	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュI」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅡでは、特に高音部譜表と低音部譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

基本的に前提科目の成績によりクラス分けを行う。
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	低音部譜表の読譜を中心に
3	大譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュII 【仮登録】（後） [木4]						
代表教員	前野　知常	授業コード	WGK0712R0	科目コード	GK0712	期間	半期
担当教員	川村　ケン						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（全コース）				
前提科目	「ソルフェージュＩ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただロずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&Pソルフェージュ Ｉを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュ Ｉ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	8ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
4	16ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
5	バウンスビートのメロディー（ダイアトニック）
6	ペンタトニックの聞き取り
7	ノン・ダイアトニック・ノートの聞き取り
8	チャーチモードのメロディー
9	ブルーノート
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと採譜
11	２声ハーモニーの聞き取り
12	３声ハーモニーの聞き取り
13	メロディーコピー演習
14	メロディー譜作成演習
15	後期総括と試験

科目名	ソルフェージュIII［シラバス用］（前）						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK071301	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

【ここにクラスの特徴をコピー！】
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII［シラバス用］（後）						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK071302	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅢでは、高音部譜表、低音部譜表に加え、アルト譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

【ここにクラスの特徴をコピー！】
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	大譜表の読譜を中心に
3	アルト譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュIII 【仮登録】（前） [火3]						
代表教員	前野　知常	授業コード	WGK0713R0	科目コード	GK0713	期間	半期
担当教員	高橋　利光、西平　彰						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「ソルフェージュⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックやポップスを作る上で必要不可欠な「コード」を聞き取るために必要な知識を身につけ、作曲やアレンジに応用できるスキルを身につける

２．授業概要

「コード」を中心に耳を鍛える。
和音を聞き分けるのはもちろん、どのようなリズムかも捉え、記譜できるようにする。
また、ノンダイアトニックコードやテンションコード、転調も聞き取れるスキルを身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、コードの響きを体感する癖をつける。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソルフェージュⅡ（RP専用）の期末試験の結果により決定する。

授業計画	
	［前期］
1	レベルチェックテストと解説
2	ダイアトニック・コード（トライアド）
3	ダイアトニック・コード（4声体）
4	コードの展開形
5	コード進行と機能
6	代理コード
7	ノンダイアトニックコード
8	オルタード・コード
9	分数コード
10	テンションノート
11	転調のパターン
12	２声ハーモニーの聞き取り
13	３声ハーモニーの聞き取り
14	楽曲聞き取り実習
15	前期総括と試験

科目名	ソルフェージュⅣ［シラバス用］（前）						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK071401	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

【ここにクラスの特徴をコピー！】
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	ソルフェージュⅣ［シラバス用］（後）						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK071402	科目コード	GK0714	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「ソルフェージュIII」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽の全体像を理解し表現するためには、身体的技術、知的認識、表現意欲とが一体とならなければならない。ソルフェージュは、楽譜を正しく理解して演奏する力、および楽譜を正しく記譜できる力を育成をするための基礎教育である。

音楽を志す者にとって欠くことのできないこれらの能力を養うため、読譜や視唱などの継続的な訓練を通して音感、リズム感、フレーズ感、和声感などを総合的に育成し、楽譜への対応力を高めていくことが目標である。

ソルフェージュⅣでは、高音部譜表、低音部譜表、アルト譜表に加え、テノール譜表を中心に学修する。

２．授業概要

授業計画に沿って進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎能力を高めるためには毎日の訓練を絶えず行う予習、復習は欠かせない。授業で扱った楽譜はもちろんのこと、普段取り組んでいる作品などで読譜、視唱、調やフレーズの分析、そしてリズムの修練等を行うことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じプリントを配布する。
参考文献：
洗足学園音楽大学　SENZOKU ONLINE SCHOOL OF MUSIC
https://www.senzoku-online.jp/solfege/

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

【ここにクラスの特徴をコピー！】
聴音および視唱（試験週間等に行われる）の両試験を受けなければ単位を認定しない。また、遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］ 視唱、クレ読み（高音部、低音部、アルト、テノールなどの譜表）、リズム読み、聴音（旋律、複旋律、和声、リズムなど）を学期を通して満遍なく実施する。順序や回数などは、クラスの状況により担当教員が考慮して授業を行う。
1	高音部譜表の読譜を中心に
2	アルト譜表の読譜を中心に
3	テノール譜表の読譜を中心に
4	単純拍子のリズム読みを中心に
5	複合拍子のリズム読みを中心に
6	リズム聴音を中心に
7	旋律聴音（長調）を中心に
8	旋律聴音（短調）を中心に
9	複旋律聴音を中心に
10	和声聴音を中心に
11	音源を用いた聴音を中心に
12	伴奏のある視唱を中心に
13	伴奏のない視唱を中心に
14	複旋律による視唱を中心に
15	聴音試験 視唱とリズム読みの総括

科目名	和声学I 【仮登録】（後）［月2］						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK081102	科目コード	GK0811	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「音楽分析基礎講座」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｉでは四声体三和音の連結や和声分析を通じて、カデンツと終止の理解、そして旋律に対する感受性を高めて表現力を向上させることを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『和声学課題集Ｉ』（音楽之友社）を購入の上、初回授業に出席すること。また、『音楽分析基礎講座』のテキストも使用する。
参考文献：
『和声　理論と実習Ｉ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　三和音基本形の配置
2	三和音基本形の連結　共通音のある連結
3	三和音基本形の連結　共通音のない連結
4	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅱ→Ⅴ）
5	三和音基本形の連結　例外的な連結（Ⅴ→Ⅵ）
6	三和音第１転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
7	三和音第１転回形と基本形の連結
8	三和音第１転回形同士の連結
9	連結における禁則、用語について
10	三和音第１転回形（Ⅱ）の配置と連結
11	三和音第２転回形（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）の配置
12	三和音第２転回形の連結
13	カデンツと終止のまとめ、属七を用いた全終止
14	さまざまな長調、短調での配置と連結
15	これまでの総括

科目名	和声学IV［シラバス用］（前）						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK081401	科目コード	GK0814	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	全（CO除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学III」または「和声学III（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ⅳでは副七の和音、続いて転調について連結や和声分析を学ぶ。特に芸術音楽において転調はもっとも重要なテクニックの一つであり、ソナタをはじめあらゆる楽曲の理解に必要である。転調によって音楽がどのように変化していくかを体得し、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。本学は和声学学修支援ソフトをオンラインスクールで公開しているが、テキストの課題を自動採点できるので、これを利用して理解を深めることが上達への早道である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
参考文献：
『和声　理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

【ここにクラスの特徴をコピー！】
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。
和声学は書法の訓練を伴うため、半年、一年のブランクがあると理解は困難となる。したがって到達したい目標までは継続して受講することが望ましい。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅲまでの確認
2	副七の和音１　Ⅳ７、Ⅰ７、Ⅵ７
3	副七の和音２　ドリアのⅣ
4	近親転調　バス課題の概要
5	近親転調　転入での連結法
6	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
7	近親転調　バス課題の実施法
8	近親転調　バス課題の実施
9	近親転調　バス課題のまとめ
10	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
11	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
12	近親転調　ソプラノ課題の実施法
13	近親転調　ソプラノ課題の実施
14	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
15	これまでの総括

科目名	和声学V［シラバス用］（後）						
代表教員	作曲担当教員	授業コード	WGK081502	科目コード	GK0815	期間	半期
担当教員	清水　昭夫						
授業形態	講義	配当学年	3				
対象コース	全（CO除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「和声学IV」または「和声学IV（認定）」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽理論の二大根幹であり、なかでも和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。和声学ではいわゆる声部様式の和声法に加え、和声分析を総合的に学ぶことを主題とするが、それは楽曲分析と解釈に不可欠なものである。また、和声学は音楽ジャンルに関わらず有益な学習方法の一つであり、伝統的な書法を学ぶことにとどまらず、読譜力や優れた耳を育成する。

和声学Ｖでは非和声音を含むソプラノ課題を中心に学び、さまざまな旋律と和声の組み合わせを研究する。非和声音を理解することで、自身の創作や音楽表現へつなげていくことを目標とする。

２．授業概要

授業計画に従って四声体の連結等について解説し、和声課題を実施していく。教員は学生の解答に対して添削を行う。
また、主に古典派から１９世紀における作品の鑑賞や和声分析を通じて、カデンツや終止をはじめとした音楽語法を研究する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

和声学の学習は、課題への継続的な取り組みが最も有効であり、宿題はもとより授業で扱った課題の復習が効果的である。

また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の３０％）
学期末試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストを購入する必要がある場合は、授業内で指示する。
参考文献：
『和声 理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

【ここにクラスの特徴をコピー！】
遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス　和声学Ⅳまでの確認
2	借用和音について
3	配置変化について
4	非和声音を含むソプラノ課題について
5	課題の実施　刺繍音を中心に
6	課題の実施　経過音を中心に
7	課題の実施　倚音を中心に
8	課題の実施　掛留音を中心に
9	課題の実施　先取音、逸音を中心に
10	転調を含む課題の実施法
11	転調を含む課題の実施　刺繍音を中心に
12	転調を含む課題の実施　経過音を中心に
13	転調を含む課題の実施　倚音、掛留音を中心に
14	転調を含む課題の実施　総合問題
15	これまでの総括

科目名	古典派の音楽史 【仮登録】（前） ［木3］						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	WGK085301	科目コード	GK0853	期間	半期
担当教員	越懸澤　麻衣						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした18世紀後半から19世紀初頭にかけての古典派の音楽の様式的特徴について知識を深める。
・古典派の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

古典派の時代の音楽を、ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンを中心として概観する。楽譜や視聴覚資料もおおいに活用する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件がある。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、古典派の音楽史だけではなく、後期の「ロマン派、近・現代の音楽史」、さらに「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」を履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	交響曲① ハイドン
3	交響曲② モーツァルト
4	交響曲③ ベートーヴェン
5	協奏曲① ハイドン
6	協奏曲② モーツァルト
7	協奏曲③ ベートーヴェン
8	室内楽① ハイドン
9	室内楽② モーツァルト
10	室内楽③ ベートーヴェン
11	独奏曲① ：ハイドン、モーツァルト
12	独奏曲② ：ベートーヴェン
13	オペラ① モーツァルト
14	オペラ② その他
15	歌曲

科目名	ロマン派、近・現代の音楽史 【仮登録】（後）［木3］						
代表教員	尾山　真弓	授業コード	WGK085402	科目コード	GK0854	期間	半期
担当教員	越懸澤　麻衣						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

・西洋音楽史上で、「ロマン派」と呼ばれる1800年～1890年頃の音楽の様式的特徴について知識を広げる。
・西洋音楽史上で、「近・現代」と呼ばれる19世紀末から20世紀にかけての音楽の多彩な特徴について理解を深める。
・ロマン派～近・現代の音楽について、当時の政治・社会・文化・思想等とのかかわりを考慮しながら、自分の言葉で説明できるようになる。

2．授業概要

ロマン派から現代までの音楽を、楽譜や視聴覚資料もおおいに活用しながら概観する。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

・音楽史の本を読んで、全体の流れを学習しておくと、授業内容をよりよく理解することができます。
・授業では代表的な作曲家の一部の作品の一部分しかとりあげることができないので、授業内容と関連する音楽作品について自分で調べたり、鑑賞したりしてください。
以上の予習・復習をするためには、1回の授業につき60分程度の時間がかかります。

4．成績評価の方法及び基準

基本的には絶対評価による。
その基準や方法は、各クラスで初回ガイダンスの際に詳しく説明するが、おおむね筆記試験60%程度、レポートおよび平常点（授業への参加姿勢、授業内で実施するテスト）等を40%程度として、成績評価を行う。
ただし、欠格条件があります。履修の条件・クラス分けの方法の項目を参照のこと。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。
参考文献については、授業において適宜指示する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・使用する教室の関係から定員をもうける。受講生が多い場合は、初回授業がはじまる前にレポートによって選考する。
・欠席、遅刻、早退のカウントのしかたについては各クラスで初回ガイダンスの際に告知する。
・授業の欠席が3分の1を超える者については、期末試験の受験資格を失う（欠格条件）。
・私語厳禁。
・音楽の歴史的変遷を見ることは、音楽を勉強するうえで大変たいせつなことなので、「ロマン派、近・現代の音楽史」だけではなく、他の時代の音楽史（「古代、中世、ルネッサンスの音楽史」、「バロックの音楽史」、「古典派の音楽史」）も履修することを勧めます。

授業計画	
	［半期］ 授業計画の詳細については、各クラスで初回ガイダンスの際に説明する（下記は計画案の一例である）。
1	ガイダンス
2	管弦楽① 標題音楽
3	管弦楽② 交響曲
4	室内楽① 弦楽四重奏
5	室内楽② その他
6	ピアノ音楽①メンデルスゾーン、シューマン
7	ピアノ音楽②ショパン、リスト、その他
8	オペラ① イタリア
9	オペラ② ドイツ
10	オペラ③ フランス、その他
11	リート① シューベルト
12	リート② シューマン、その他
13	近代の音楽① 第一次世界大戦以前
14	近代の音楽② 両大戦間
15	現代の音楽 第二次世界大戦以後

科目名	教職論 【仮登録】（前） ［月1］						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	WGK731100	科目コード	GK7311	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
・教職の意義や教師の役割・資質能力、職務内容等に関する知識を身に付け、教職への意欲を高める。
・職場の実体験、類似体験や他の職業との比較などの学修を通して、教職の職業的特徴の理解と自らの適性を知る。
【到達目標】
（１）教職の意義：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。
（２）教員の役割：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。
（３）教員の職務内容：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。
（４）チーム学校への対応：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。

２．授業概要

・学校で日常的に行われている具体的な活動を、教育関連法規の目でみたらどうなるのか、どんな課題があるのか等について深く考えられるような内容とする。
・今日的な教育における課題への対応について学ぶときは、グループワークを行う。また、そこから得られる対話と交流を通して得られる学習効果を高める。
・講義での学びから、課題についての小論文等の作成を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教職論」は、大学で初めて学ぶ科目なので毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問点等も随時受け付けるので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢）等、総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】
菱村幸彦『改訂新版 はじめて学ぶ教育法規』（教育開発研究所）
田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】
必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業の（15回）の内11回以上出席した者に、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス（教員の魅力）　ガイダンス：授業の進め方、課題への対応等、講義概要を理解する。／　教員の魅力や教員となるための方法について理解する。
2	公教育の目標と教員の存在意義　公教育の目的と教職の社会的意義について理解する。　／　学校教育の役割と教員の役割を理解する。　／　教員の仕事を理解する。
3	教職への進路（１）　教員の資格と教員養成について理解する。　／　他の職業との比較を通して、教職の特徴を理解する。　／　教職の専門性を理解する。
4	学校と教職の歴史　学校教育と教職の歴史を理解する。　／　教職の成立と教員の誕生、教職観の変遷を理解する。
5	教員に求められる資質能力について（１）　今日の教員に求められる基礎的な資質・能力について理解し、今後の履修等の学び方の見通しをもつ。
6	教師の教育活動（１）－授業者として　教育課程と学習指導・生徒指導についての理解。　／　教育課程の構造とその編成・実施・評価についての理解。　／　学習と教授－児童生徒の学習・教師の指導についての理解。　／　授業づくり－計画・準備・実践・評価・改善についての理解。
7	教師の教育活動（２）－学級担任として　学級担任と学級経営－学習集団づくりについての理解。　／　児童生徒理解と心のケアについての理解。　／　健全育成と生徒指導についての理解。
8	学校組織と教員の種類　学校に必要な教員の種類と職務についての理解。／　学校運営と校務分掌組織についての理解。
9	教員に求められる資質能力について（２）　教員の資質向上と研修　／　教員研修の意義と教員研修制度。　／　教員研修による力量形成と教師の成長。
10	教員に求められる資質能力について（３）　近代学校の誕生、教員養成制度の変遷過程と特徴を理解する。　／　今日の教員の採用制度と、教員の研修制度を理解する。　／　生涯にわたって学び続けることの必要性の理解。　／　免許更新制度と更新講習。
11	教員の服務義務について　／　公立学校の教員の服務義務を理解する。
12	教員の職務上の義務について　／　地方公務員法に定める職務上の義務を理解する。
13	教員の身分上の義務について　／　地方公務員法に定める身分上の義務を理解する。　／　教育公務員特例法等の一部を改正する法律についての理解。
14	チーム学校への対応　「チームとしての学校」が求められる背景を理解する。　／　「チームとしての学校」の必要性を理解する。
15	教職への進路（２）－教員採用に向けて　教員採用の状況。　／　教員の選考、採用試験の概要と準備。　／　介護等体験の意義と心構え。　／　教育実習への心構えと準備計画。　まとめ

科目名	教育原理 【仮登録】（後） [月1]						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	WGK732000	科目コード	GK7320	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【テーマ】
教育の理念、教育の思想や教育に関する歴史を学ぶ中で教育の本質とは何かについて学ぶ。また、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。
【到達目標】
（１）教育の基本的概念：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
（２）教育に関する歴史：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
（３）教育に関する思想：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

２．授業概要

・教育・学校・教員制度についての歴史とともに、教育に関する思想や、学校・家庭・子ども・教員との相互関係を学ぶ中で、教育の基本的な概念を理解する。
・２１世紀を担う学校教育の在り方を探るとともに、今日的な教育課題を明確にしながら課題解決について考察する。
・具体的な図表・データ等を用いて、教育の問題に対する理解を深めるとともに、学生同士の「話し合い」を行い、多様な考え方を交流する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

「教育原理」は、扱う内容も幅広く奥深いので、毎回予習・復習を徹底すること。また、課題に対するレポート提出を求めることもあるので、提出期限、提出場所等について注意すること。質問や疑問等、随時受け付けているので主体的にかかわって欲しい。

４．成績評価の方法及び基準

定期試験（60%）、平常点（課題提出、授業内の小テスト及び小レポート、授業への参加姿勢等　40%）を基にして総合的な観点から評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

【テキスト】田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』第３版（有斐閣アルマ）
【参考文献】必要な文献・資料については、授業の中でそのつど紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

①全授業数（15回）の内11回以上出席した者にのみ、学期末試験の受験資格を認める。
②始業時間を過ぎた時点で遅刻の扱いとする。
③遅刻３回で１回の欠席として扱う。
④公欠等については、学務部の証明書をもって認める。
詳しくは、授業初回のガイダンスにて説明する。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　授業の内容、評価に関する説明
2	教育の基本的概念①　教育学の諸概念、教育の本質及び目標
3	教育の基本的概念②　子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係
4	西洋の教育史①　前近代における教育の歴史
5	西洋の教育史②　近代における教育の歴史
6	日本の教育史①　近代以前の日本の学校／日本の近代化と学校教育
7	日本の教育史②　教育基本法にみられる戦後の学校教育
8	青年期の課題と教育
9	現代社会における教育に関わる課題①　家庭における教育の歴史と課題
10	現代社会における教育に関わる課題②　学校教育と学習権
11	社会教育と生涯学習
12	教育の権利と「子どもの権利条約」
13	代表的な教育家の思想について
14	社会の変化と教育施策の動向
15	よりよい教育を求めて　　「教育原理」のまとめ

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ　【仮登録】（前）［木4］						
代表教員	前野　知常	授業コード	WGK761001	科目コード	GK7610	期間	半期
担当教員	川村　ケン						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「リズム」を中心に耳を鍛える。
流れて来るいかなるリズムにも反応し、短時間にシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

様々なリズム、ビートを理解し、それを人に伝える方法としてリズム記譜法も学ぶ。
また、リズムのアンサンブルを通じて、ポリリズムやグルーヴを感覚として理解する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、リズムの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初回のクラス分け試験で決定する。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンスとクラス分け試験
2	8ビートの聞き取り1（クラップリズム）
3	8ビートの聞き取り1（フレーズリズム）
4	16ビートの聞き取り1（クラップリズム）
5	16ビートの聞き取り2（フレーズリズム）
6	8ビートバウンス（シャッフル）の聞き取り
7	16ビートバウンス（ハーフタイムシャッフル）の聞き取り
8	ポリリズム
9	ドラムの聞き取り、採譜1（8ビート）
10	ドラムの聞き取り、採譜2（16ビート）
11	ドラムの聞き取り、採譜3（8ビートバウンス）
12	ドラムの聞き取り、採譜4（16ビートバウンス）
13	楽曲構成の聞き取り
14	構成譜の作成
15	前期総括と試験

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ　【仮登録】（後）［木4］						
代表教員	前野　知常	授業コード	WGK761102	科目コード	GK7611	期間	半期
担当教員	川村　ケン						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「R&P・ソルフェージュⅠ」を履修中または単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「メロディー」を中心に耳を鍛える。
流れて来るメロディーに、短時間でシンクロできるスキルを目指す。

２．授業概要

メロディーをただロずさむだけでなく、譜面化する。相対の音程感覚を育てる上で、スケールなどの知識も学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、メロディーの分析をすること。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

R&PソルフェージュⅠを履修済みであること。
前期とは異なるクラスに配当される。
カリキュラム年度2014年度以前の学生については　「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅠ」を必ずセットで、履修すること。

授業計画	
	［後期］
1	前期総括
2	メジャースケールとマイナースケールの聞き分け
3	8ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
4	16ビートメロディーの聞き取り（ダイアトニック）
5	バウンスビートのメロディー（ダイアトニック）
6	ペンタトニックの聞き取り
7	ノン・ダイアトニック・ノートの聞き取り
8	チャーチモードのメロディー
9	ブルーノート
10	ヒット曲メロディーの聞き取りと採譜
11	２声ハーモニーの聞き取り
12	３声ハーモニーの聞き取り
13	メロディーコピー演習
14	メロディー譜作成演習
15	後期総括と試験

科目名	Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅢ 【仮登録】（前） ［火3］						
代表教員	前野　知常	授業コード	WGK761201	科目コード	GK7612	期間	半期
担当教員	高橋　利光、西平　彰						
授業形態	講義	配当学年	2				
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	「Ｒ＆Ｐ・ソルフェージュⅡ」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ロックやポップスを作る上で必要不可欠な「コード」を聞き取るために必要な知識を身につけ、作曲やアレンジに応用できるスキルを身につける

２．授業概要

「コード」を中心に耳を鍛える。
和音を聞き分けるのはもちろん、どのようなリズムかも捉え、記譜できるようにする。
また、ノンダイアトニックコードやテンションコード、転調も聞き取れるスキルを身につける。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に身の回りに流れている音楽に耳を傾け、コードの響きを体感する癖をつける。

４．成績評価の方法及び基準

期末試験

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回の授業で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラス分けはR&P・ソルフェージュⅡの期末試験の結果により決定する。

授業計画	
	［前期］
1	レベルチェックテストと解説
2	ダイアトニック・コード（トライアド）
3	ダイアトニック・コード（4声体）
4	コードの展開形
5	コード進行と機能
6	代理コード
7	ノンダイアトニックコード
8	オルタード・コード
9	分数コード
10	テンションノート
11	転調のパターン
12	２声ハーモニーの聞き取り
13	３声ハーモニーの聞き取り
14	楽曲聞き取り実習
15	前期総括と試験

科目名	法学（日本国憲法）　【仮登録】（前）［水1］						
代表教員	伊東　明子	授業コード	WGK770201	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０％）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か−基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権−教育を受ける権利と義務教育
11	参政権−日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

科目名	法学（日本国憲法）　【仮登録】（後）［水1］						
代表教員	伊東　明子	授業コード	WGK770202	科目コード	GK7702	期間	半期
担当教員	田上　雄大、大久保　悠貴						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
現在、憲法や民主主義に対する関心が高まっています。私たちは毎日､意識するとしないにかかわらず、「法」と関わって生活しています。その法の中で日本国憲法は個人の人権を保障し、国の仕組みを規定している基本となるものです。
社会に出てからこそ重要な、日本国憲法に関する必要な知識を得ることをねらいとします。

【到達目標】
・日本国憲法の基本的な知識や考え方を身につける。
・現代社会の諸問題に対して憲法の視点から考えることができる。

２．授業概要

授業計画にある通り、人権を中心に、日本国憲法に即したものになります。基本的な知識の説明と共に、さまざまな論点、争点を身近な問題に引きつけ、具体的な裁判例を紹介しながら解説します。DVDなどの映像資料も活用します。受講者の興味や関心に配慮して事例を選ぶつもりです。
はじめて法学を学ぶ学生が、受講して良かったと思えるようなわかりやすい授業を心がけます。各回のテーマに合わせて、自分の考えをまとめて書く機会を設けます（小テスト、コメントシート等）。皆それぞれに積極的な姿勢で授業に参加してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・毎回配布する講義プリントと資料をよく読み、整理して保存してください。
・疑問点はそのままにせず、教員に直接またはコメントシートで質問してください。
・報道される出来事に関心を持ってください。

４．成績評価の方法及び基準

・学期末試験（評価の７０％）
・授業内に提出する課題メモやコメントを総合した平常点（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

毎回、講義内容と参考資料のプリントを配布します。
最新版の『岩波セレクト六法』『有斐閣ポケット六法』『三省堂デイリー六法』『信山社法学六法』等の簡便な六法を用意してください。
参考文献については授業のなかでそのつど紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や欠席をしないことは当然です。事情がある場合は必要な手続きを取ってください。
授業に集中し、私語など、他の受講者に迷惑をかけないようにしてください。
迷惑行為を注意しても止めない者は、教室から退出してもらいます。（欠席扱いにします）

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス／法とは何か・憲法と法律
2	日本国憲法と基本原則
3	人権とは何か−基本的人権の確立と保障
4	人権は誰のものか（人権の享有主体）（１） 子どもの人権
5	人権は誰のものか（人権の享有主体）（２） 障碍者、外国人の人権
6	法の下の平等（平等権）
7	6の応用編として 雇用平等とハラスメント
8	精神的自由権（１）内心の自由
9	精神的自由権（２）表現の自由
10	教育権−教育を受ける権利と義務教育
11	参政権−日本の選挙制度
12	身体的自由権（人身の自由）
13	裁判所（司法権）／国民の司法参加（裁判員制度）
14	日本国憲法と平和主義
15	まとめと試験

科目名	保健体育 【仮登録】（前）［水1］						
代表教員	片瀬　文雄	授業コード	WGK772601	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員	田中　良、担当教員						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

科目名	保健体育 【仮登録】（後） [水1]						
代表教員	片瀬　文雄	授業コード	WGK772602	科目コード	GK7726	期間	半期
担当教員	田中　良、担当教員						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

【主題】
保健体育の講義では、現在のみならず生涯にわたり、日常生活に活用可能な知識の習得が課題である。
特に、専門的な音楽活動を送らなければならない大学生活では、自己による心身の管理が求められる。
これに鑑みて、生涯にわたり健康・スポーツへ興味関心を持ち続けられることを視座とした、現在使用可能な知識を習得する。

【到達目標】
本講義の目標は、健康・スポーツにおける知識の習得に加え、自身の経験や体験を加味しつつ、意見を述べられることである。
とりわけ、講義における知識に併せて、自らの生活を省みることができるようになることを到達目標とする。

2．授業概要

本講義は、授業計画に記載したテーマについて、スライド・VTR等を活用しながら展開する。
また、講義時配布するプリントを使用しながら、各講義のテーマに関する知識の習得を目的とする。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

日常的に、歩行や階段の上り下りの機会等を設け、意識的に全身運動を実践すること。
また、スポーツ観戦や応援など非日常的な機会に参加し、健康・スポーツへの関心を深め、心身のストレスを解放することに努める。
本講義にて学んだことを、日常生活に活動として取り入れること。

4．成績評価の方法及び基準

講義への参加姿勢・態度（評価の40%）
保健体育講義試験・提出物（評価の60%）
教員の説明は、必ず遵守し、厳守すること。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

毎時、講義用プリント資料を配布する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれも）講義の規定回数以上出席しなければ、単位を認定しない。
保健体育講義試験は、原則指定日に受け、合格しなければ、単位を認定しない。

授業計画	
	［半期］
1	授業ガイダンス
2	健康の概念について
3	成人期の健康管理
4	食生活と運動
5	食生活とダイエット
6	飲酒と健康
7	喫煙と健康
8	生活習慣病と健康（食餌療法）
9	生活習慣病と健康（運動）
10	ストレスと健康
11	高齢期と健康
12	乳幼児・児童と健康
13	健康とトレーニング論
14	オリンピックについて
15	保健体育講義試験とまとめ

科目名	経済学 【仮登録】［火1］						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	WGK772803	科目コード	GK7728	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

2．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

4．成績評価の方法及び基準

前期後期共通
授業内評価点（授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）
前期：前期末試験（筆記試験、評価の70%）
後期：後期末試験（筆記試験、評価の70%）
上記のことから総合的に評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［前期］ 前期の授業では、経済学と私たちとの関係を理解するために、これまで現実に起きた出来事や、今起こっている事柄を中心に学習します。
1	ガイダンス ・履修上の注意点 、成績評価の方法に関する説明 ・この授業でどのようなことを学ぶのか
2	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（１） ・第2次世界大戦からバブルの発生まで
3	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（２） ・バブル崩壊から現在まで
4	経済学の見方・考え方を身に付けよう（１） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引
5	経済の見方・考え方を身に付けよう（２） ・神の見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体
6	経済の主役は誰だろうか（１） ・ミクロ経済学とは何か ・家計の役割と目的
7	経済の主役は誰だろうか（２） ・企業の役割と目的
8	経済の主役は誰だろうか（３） ・政府の役割と目的
9	値段の決まり方を知ろう（１） ・市場とは何か ・需要と供給①
10	値段の決まり方を知ろう（２） ・需要と供給② ・政府の政策の影響
11	市場はどのくらい役に立つのだろうか（１） ・市場の効率性
12	市場はどのくらい役に立つのだろうか（２） ・外部性
13	市場が完全でないときどんな影響があるのだろうか ・不完全競争市場
14	前期講義内容のまとめ ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明
15	前期末筆記試験とまとめ

授業計画	
	［後期］ 　後期の授業では、前期で学習した内容について、より大きな視点から学習します。また、私たちの生活に大きく関わっている税金についても学習します。
1	前期末試験の返却と後期講義内容の説明 ・テストの返却と解説 ・マクロ経済学とは何か
2	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（１） ・国民所得の測定
3	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（２） ・国民所得の変化する理由 ・景気の移り変わり
4	お金の持っている機能と役割を知ろう ・貨幣の持つ影響
5	国民所得をコントロールすることは可能だろうか ・総需要管理政策と政策の悪影響
6	国民所得を増やす方法を考えよう（１） ・財市場とIS曲線
7	国民所得を増やす方法を考えよう（２） ・財政の仕組みと財政政策
8	国民所得を増やす方法を考えよう（３） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策
9	国民所得を増やす方法を考えよう（４） ・IS曲線とLM曲線の統合
10	国民所得を増やす方法を考えよう（５） ・国民所得とインフレーションの関係
11	稼いだお金は全部自分のものになるのか（１） ・租税とは何か
12	稼いだお金は全部自分のものになるのか（２） ・所得税と住民税の仕組み
13	稼いだお金は全部自分のものになるのか（３） ・消費税の仕組み
14	稼いだお金は全部自分のものになるのか（４） ・年金の仕組み
15	後期講義内容のまとめ ・後期授業の復習 ・後期試験準備のポイント説明

科目名	著作権法 【仮登録】（前）［金1］						
代表教員	宮下　義樹	授業コード	WGK772901	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員	齋藤　崇						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。複製権や公衆送信権、翻案権などの権利に分かれています。
6	著作者人格権（1） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（2） 著作者人格権は、公表権、氏名表示権、同一性保持権の権利、みなし侵害として名誉声望権に分かれています。それら権利の説明をします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

科目名	著作権法 【仮登録】（後）［金1］						
代表教員	宮下　義樹	授業コード	WGK772902	科目コード	GK7729	期間	半期
担当教員	齋藤　崇						
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

今の社会では、ただ普通に生きていくだけで、誰もが著作権を持ち、逆に誰かの著作権を侵害してしまうことがあるかもしれません。
なにが著作権であり、著作権があることがどのような意味を持つのかを学習し、日常生活や職業生活で著作権がどのように使われているのかを理解していきます。

他人の著作権を侵害しないことと、自分の著作権を守ることができるようにします。

2．授業概要

毎回のテーマに沿った内容を講義形式で進めていきます。著作権法の基礎的な内容説明が中心となりますが、事例として著作権に関係する裁判や時事のニュースもみていきます。裁判も音楽に関係するものを積極的に取り入れていきます。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

前提知識は特に必要としませんが、予習するならば文化庁の『著作権テキスト』が参考になります。
{http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/kyozai.html}

4．成績評価の方法及び基準

最後にテストを行います。テストの結果が重視されますが、授業での質問や感想を加味して総合的に判断します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

必要な資料は授業中に配布します。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	［半期］ ・知的財産権、著作権とはなにか ・音楽と著作権 ・著作物を利用する上での注意
1	著作権制度の枠組み 著作権がどのような目的で存在して、どのような方法で守られているのかの大まかな説明をします。
2	著作物 著作権法が守るのは著作物ですが、なにが著作物となり、あるいは、ならないのかを説明して、どのような種類の著作物があるのかをみていきます。
3	著作者 著作権を持つのは誰なのか。創った者なのか、出資した者なのか、複数が関係する場合はどうなるのか、色々な事例に分け説明していきます。
4	著作権（１） 著作権は、ひとつの権利ではなくいろいろな権利の束だといわれています。著作権とはどのような内容の権利なのかひとつずつ説明していきます。
5	著作権（2） 著作権は、著作物を利用することで生まれる財産的価値に保護を与えるものです。複製権や公衆送信権、翻案権などの権利に分かれています。
6	著作者人格権（1） 著作権は芸術を守るための権利であるため、経済的な面だけ守っているのではありません。作者のプライドや創作した物に込められた意図といったものを守るためにどのような内容の権利があるかをみてみます。
7	著作者人格権（2） 著作者人格権は、公表権、氏名表示権、同一性保持権の権利、みなし侵害として名誉声望権に分かれています。それら権利の説明をします。
8	著作隣接権 演奏や実演、放送といったものは著作権ではなく、著作隣接権というもので守られています。なぜ、その違いがあるのか、著作権と著作隣接権はどこが違ってくるのかを説明していきます。
9	著作権の制限 著作権は一定の条件では、その権利が制限されます。私的利用や教育、図書館といった条件での制限がなぜあるのでしょうか、また、現在日本でも追加がいわれているフェアユース規定とはなにか、著作権がなぜあるのか、という基本的な疑問を含めて検討していきます。
10	権利侵害と救済 権利はただあるだけでなく、きちんと守られるための制度がなくてはなりません。著作権が侵害された場合、どのようなことができるのでしょうか。場合によっては、刑務所に入ることまである、著作権侵害の実際をみていきます。
11	著作権の国際保護、条約 日本国内での著作権は海外でも同じように守られるのでしょうか。国際的な保護をどのように行っているのでしょうか。ボーダーレス社会といわれ、著作権の流通が活発化している現在、色々な問題が発生しています。どのような問題があり、どのような対策が行われているのかをみていきます。
12	著作権以外の権利等 自分のポートレート写真を誰かに勝手に使われた場合、著作権だけでなく肖像権の問題も発生します。肖像権、パブリシティ権等の著作権ではないものの、著作権に関連する重要な権利や法律についての説明を行います。
13	著作権管理 音楽業界は著作権の管理をどのように行っているのでしょうか。JASRACや音楽出版社といった組織を知り、音楽業界を知ることで、著作権はどのように管理されているのかをみていきます。
14	音楽ビジネス 音楽業界は実際にはどのような構造になっているのでしょうか。今まで学習してきた内容を踏まえ、音楽業界のシステムを法律と実務の面からみていきます。
15	学生生活と著作権 著作権は自分の生活と密接につながっています。いままでの講義内容をもとに、著作権を利用する上での注意点を確認します。

科目名	経済学I 【仮登録】（前）［火1］						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	WGK775701	科目コード	GK7757	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	特になし						
教員免許状							

1．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

2．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

4．成績評価の方法及び基準

授業内評価点(授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%)
筆記試験（評価の70%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）

上記のことから総合的に評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修条件は特にありません。また、高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［半期］ 前期の授業では、経済学と私たちとの関係を理解するために、これまで現実に起きた出来事や、今起こっている事柄を中心に学習します。
1	ガイダンス ・履修上の注意点 、成績評価の方法に関する説明 ・この授業でどのようなことを学ぶのか
2	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（１） ・第2次世界大戦からバブルの発生まで
3	日本のこれまでの経済状況を振り返ってみよう（２） ・バブル崩壊から現在まで
4	経済学の見方・考え方を身に付けよう（１） ・稀少性、トレード・オフ、機会費用、限界、インセンティブ、取引
5	経済の見方・考え方を身に付けよう（２） ・神の見えざる手、政府の介入、生産性、インフレーション、失業、経済の三主体
6	経済の主役は誰だろうか（１） ・ミクロ経済学とは何か ・家計の役割と目的
7	経済の主役は誰だろうか（２） ・企業の役割と目的
8	経済の主役は誰だろうか（３） ・政府の役割と目的
9	値段の決まり方を知ろう（１） ・市場とは何か ・需要と供給①
10	値段の決まり方を知ろう（２） ・需要と供給② ・政府の政策の影響
11	市場はどのくらい役に立つのだろうか（１） ・市場の効率性
12	市場はどのくらい役に立つのだろうか（２） ・外部性
13	市場が完全でないときどんな影響があるのだろうか ・不完全競争市場
14	前期講義内容のまとめ ・前期授業の復習 ・試験準備のポイント説明
15	前期末筆記試験とまとめ

科目名	経済学II 【仮登録】（後）［火1］						
代表教員	斎藤　英明	授業コード	WGK775802	科目コード	GK7758	期間	通年
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	一般総合／教養				
前提科目	「経済学I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

1．主題・到達目標

新聞やニュースなどを通して伝えられる政治経済問題は、様々な形で私たちの生活と関係しています。
経済学の授業では、日々伝えられている事柄が、どのような仕組みによって発生し、どのようにして私たちの生活に影響しているのかについて学習します。そして、日常生活において政治経済に興味・関心を持ち、積極的に目を向ける習慣を身に付けることを目標としています。

2．授業概要

授業計画に基づいて講義形式で進めます。授業では、当日学ぶ内容について、プリントをポータル上に毎回アップします。また、授業の冒頭では、過去1週間のうちに話題になった政治経済の出来事について、新聞等の記事から解説を行います。毎回授業の最後に質問やコメントを書いてもらい、次の授業でレスポンスするなど、双方向性を高めたいと考えています。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

授業で使用したプリントを読み返すことを復習とします。また、可能な限り新聞、ニュース等で政治経済の話題に触れる時間を増やすことを授業外での学習とします。また、授業中に実施した小テストについては、必ず復習するようにして下さい。

4．成績評価の方法及び基準

授業内評価点(授業での積極的な発言、授業後のコメントペーパーの提出など、評価の30%)
筆記試験（評価の70%）
自由課題レポート（課題の内容については授業中に提示）
授業内小テスト（適宜実施）

上記のことから総合的に評価します。

5．授業で使用するテキスト・参考文献

教科書：特に指定しません
参考文献
・木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』ダイヤモンド社
・辻正次、八田英二『What's経済学 第３版』有斐閣アルマ

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

高校生の時に政治経済の授業を履修していなくても問題ありません。履修者には現実に起きている社会問題や経済問題に対して興味・関心を持ち、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりすることを期待します。また、講義には継続性があるので、なるべく欠席をせず積極的に参加することを期待しています。

授業計画	
	［半期］ 　後期の授業では、前期で学習した内容について、より大きな視点から学習します。また、私たちの生活に大きく関わっている税金についても学習します。
1	講義内容・履修上の注意等の説明 ・マクロ経済学とは何か
2	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（１） ・国民所得の測定
3	「景気が良い」とはどういう状況を指すのだろうか（２） ・国民所得の変化する理由 ・景気の移り変わり
4	お金の持っている機能と役割を知ろう ・貨幣の持つ影響
5	国民所得をコントロールすることは可能だろうか ・総需要管理政策と政策の悪影響
6	国民所得を増やす方法を考えよう（１） ・財市場とIS曲線
7	国民所得を増やす方法を考えよう（２） ・財政の仕組みと財政政策
8	国民所得を増やす方法を考えよう（３） ・貨幣市場とLM曲線 ・日本銀行と金融政策
9	国民所得を増やす方法を考えよう（４） ・IS曲線とLM曲線の統合
10	国民所得を増やす方法を考えよう（５） ・国民所得とインフレーションの関係
11	稼いだお金は全部自分のものになるのか（１） ・租税とは何か
12	稼いだお金は全部自分のものになるのか（２） ・所得税と住民税の仕組み
13	稼いだお金は全部自分のものになるのか（３） ・消費税の仕組み
14	稼いだお金は全部自分のものになるのか（４） ・年金の仕組み
15	後期講義内容のまとめ ・後期授業の復習 ・後期試験準備のポイント説明

科目名	教職ピアノ実習６ 【仮登録】（後）						
代表教員	未定	授業コード	WGL094602	科目コード	GL0946	期間	集中
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	4				
対象コース	全（ME除く）	科目分類	専門選択(全コース)				
前提科目	「教職ピアノ実習5」単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

教職課程の最終段階である教育実習において支障なく研究授業を遂行するために、教育実習の事前準備を目的とする。

２．授業概要

◆本授業は、教育実習前の集中レッスンとする。「教職ピアノ実習５」まではグループ授業として行われていたが、教育実習校、学生によりその課題は様々であるため、個人レッスンとして行う。
◆教員採用試験でピアノ実技がある場合には、その課題曲をレッスンすることも可能。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

（予習）実習校での事前打ち合わせの際、実習で取り扱う楽曲について情報を集め、教科書を中心に準備を行っておくこと。
（復習）各回の授業で指摘された課題に関しては、次回までにクリアーしておくこと。

４．成績評価の方法及び基準

試験は行わない。授業への参加姿勢で判定する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

教育実習で使用される教科書等。
教員採用試験における課題曲等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

(1)　教育実習に参加を予定する4年生（ピアノコース・音楽教育コース・ジャズコースのピアノの学生を除く）のみ。
(2)　「教職ピアノ実習5」の単位を修得済みであること。
(3)　担当教員は教職センターの指定する指導教員一覧表より選ぶこと。
(4)　教育実習に参加する学生の中から希望者のみが受講できるものであることから、別途履修費用を徴収する。履修費用については提示などに注意すること。
(5)　教職ピアノ実習テキスト『My Heartful Songs』『My　Lyrical Songs』を復習しておくこと。

授業計画	
	［半期］
1	共通教材の伴奏法の確立（「教職ピアノ実習1-Ⅰ～5」の復習」）
2	共通教材の伴奏法の応用
3	共通教材を用いた歌唱指導法及び伴奏法
4	合唱教材の伴奏法の確立（「教職ピアノ実習4.5」の復習」）
5	合唱教材の伴奏法の応用
6	合唱教材を用いた歌唱指導法及び伴奏法
7	教育実習を想定した歌唱伴奏法
8	教育実習校対応曲の準備
9	教員採用試験課題曲の準備
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	応用演奏会実習１－１～４－４ 応用演奏会実習[シラバス用]						
代表教員	複数指導教員	授業コード	XGE066100	科目コード	GE0661d	期間	随時
担当教員							
授業形態	自主企画・自主制作	配当学年					
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

応用演奏会実習は演奏・パフォーマスのための音楽力を身に付け、演奏会・発表会を開催するために必要とされる総合的なスキルを修得することを目的としている。その学習過程において直面する課題を解決していくことで、自らの「成長する力」と他者との「協働する力」とをそれぞれの学びのサイクルにおいて、人間としての「生きる力」を修得することができるものである。また、その学習過程において、社会実践・社会貢献の様々な体験がなされる科目でもある。

２．授業概要

A. 「演奏会実習」の経験を基にして学生が自主企画、自主制作の演奏活動を行う場合。
履修方法：①演奏会実施前にSENZOKUポータルから「履修届及び成績記入用紙」（以下「履修届」という）・「演奏会実施報告」をダウンロードする。②演奏会実施後２週間以内に「履修届」「演奏会実施報告」「演奏会のチラシ・プログラム・録音物」、「レポート」を学務部に提出する。「レポート」は、Ａ４サイズ・横書き、学籍番号・コース・楽器・氏名を必ず記入すること。「レポート」は単位認定を受けようとする者全員が提出のこと。共同執筆は認めない。③長期休暇期間中に演奏会を実施した場合は、休暇明け速やかに届出を提出すること。④演奏会実施状況の記録や資料等を基に演奏会実習運営会議で審査し、単位授与に相応しいと判定された場合、１演奏会につき１単位を単位認定する。
＊ただし、次の場合は「応用演奏会実習」には該当しない。a. 主科、副科の発表会　b. ストリート・パフォーマンス c. 授業科目の演奏会
B. 依頼されて他のゼミの演奏会実習の企画・演奏等に参加し、支援する場合。（例：編曲、PA、曲目解説、不足楽器の応援演奏、等）履修方法：①他ゼミから参加を依頼された場合は、SENZOKUポータルから「履修届及び認定用紙」（以下「履修届」）をダウンロードし、必要事項を記入の上、参加を依頼されたゼミの担当教員の承認印をうける。②他ゼミの演奏会参加後２週間以内に「履修届」「演奏会実施報告」を学務部に提出する。③長期休暇期間中に演奏会へ参加した場合は、休暇明け速やかに届出を提出すること。④演奏会実習運営会議で審査し、単位授与に相応しいと判断された場合、１演奏会の参加につき１単位を単位認定する。
なお、同一ゼミへの参加は年間１単位のみ単位認定可能。
C. 諮問委員会（学部長主催）で認定する演奏会の企画・演奏等に参加する場合
履修方法：①SENZOKUポータルから「履修届及び認定用紙」（以下「履修届」）をダウンロードし、必要事項を記入の上、諮問委員会（学部長）の承認印をうける。②練習出席回数、演奏会実施状況等を諮問委員会で審査した結果、単位授与に相応しいと判定された場合、１演奏会につき１単位単位認定可能。
＊A、B、C合わせて、各学年最大４単位まで修得可能。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

自らの専門分野だけでなく、幅広く内外の演奏会に出演者、スタッフ、聴衆として主体的に参加すること。

４．成績評価の方法及び基準

演奏会終了後に提出する実施報告書・レポート・その他提出物（演奏会のチラシ・プログラム・活動記録・録音物等）を総合的に判断する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

（参考文献）
社団法人 日本クラシック音楽事業協会『クラシック・コンサート・制作の基礎知識』ヤマハミュージックメディア
平井満・渡辺和『クラシックコンサートをつくる。つづける。 地域主催者はかく語りき』（文化とまちづくり叢書）水曜社
山田真一『アーツ・マーケティング入門―芸術市場に戦略をデザインする』（文化とまちづくり叢書）水曜社
脇田敬・山口哲一『ミュージシャンが知っておくべきマネジメントの実務 答えはマネジメント現場にある!』リットーミュージック
安藤和宏『よくわかる音楽著作権ビジネス 基礎編 5th Edition 』リットーミュージック

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・次の場合は「応用演奏会実習」には該当しない。
　a 主科、副科の発表会
　b ストリート・パフォーマンス
　c 授業科目の演奏会
・「A」、「B」、「C」合わせて、各学年最大4単位まで修得可能。
・「応用演奏会実習」で取得した単位は、卒業要件単位数に含まれる。
・「応用演奏会実習」は、履修登録の上限単位数に含まれる。
・単位認定に必要な書類（「履修届」「演奏会実施報告書」「演奏会のチラシ・プログラム・録音物」「レポート」等）は演奏会終了後2週間以内に提出すること。
2019年度前期末までに単位認定を希望する場合、最終提出締切日は2019年7月31日（水）。2019年度学年末までに単位認定を希望する場合、最終提出締切日は2020年1月31日（金）。
※対象とする演奏会の実施時期：2019年4月1日（月）～2020年1月31日（金）

授業計画	
1	企画立案
2	スケジュール案作成
3	会場設定（交渉・下見）
4	演目・演奏楽曲選定
5	演奏会・公演内容の決定
6	演目・演奏楽曲の練習（導入）
7	演目・演奏楽曲の練習（課題の発見）
8	演目・演奏楽曲の練習（課題解決の方法の検討）
9	演目・演奏楽曲の練習（全体の流れを意識して）
10	演目・演奏楽曲の練習（細部を意識して）
11	チラシ・プログラムの作成
12	公演・演奏会のリハーサル
13	公演・演奏会（本番）
14	公演・演奏会の録音物の編集
15	公演・演奏会の報告書・レポートの作成

科目名	特別アンサンブル／ラボ１・３・５・７　［シラバス用］						
代表教員	原　朋直	授業コード	XGE201100	科目コード	GE2011d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	アンサンブル／ラボ１－１～４－２　［シラバス用］						
代表教員	原　朋直	授業コード	XGE208500	科目コード	GEelabd	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	JZ・EO(3-1・3-2・4-1・4-2のみ）・GM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

アンサンブル／ラボは、多彩な音楽ジャンルの実践的経験を通して、より高度で緻密な「アンサンブル」についての理解を深め、またそのために必要な技術を習得することを目的とする。

２．授業概要

各担当教員のもとでアンサンブルについての研究をする。
主に即興的なコミュニケーションにおける実験・検証を行い、学生ひとりひとりの音楽制作につながっていく様、それらを深めていく。
また様々なジャンルの音楽を吸収し、同時に音楽を協働創作という面から学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業内での実験・研究はシミュレーション的要素が強く、偶発性の高い即興音楽でのコミュニケーションは、実際には個々の普段の音楽活動の中でないと体験するのは難しい。
故に学生は音楽活動を積極的に行い、またアドリブや伴奏を現場で具体的に学べる「ジャム・セッション」にも積極的に参加することが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（研究や制作に対する積極的な姿勢）を最も重視する。また日頃から個人の音楽力向上に繋がるための努力を重ねているかもチェックし評価の参考とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

アンサンブル研究のための素材となる楽曲の譜面等。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各学生の希望調査とレーティング試験（オーディション）結果に基づき配当される。

授業計画	
	［半期］
1	楽曲の研究。（素材になる曲を理解し演奏が出来る様にするための研究や作業。）
2	アドリブと伴奏による合奏。（実際の演奏の中で曲を発展させて広げる作業。コミュニケーションによる音楽的な合奏の前の段階。）
3	ソロにおけるメロディの構築と伴奏におけるリズムやハーモニーの研究。（前授業で行った個々のアドリブや伴奏の内容のレベルアップを目指した合奏授業。）
4	テーマのメロディを感じながら音楽を作り、それらを合奏で発展させる研究。（カウンターメロディやコンピングの研究。）
5	リズミックなアプローチを中心としたコミュニケーションの研究。
6	デュオやトリオといった小編成での、リズミックなコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
7	メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションの研究。
8	デュオやトリオといった小編成での、メロディやハーモニーの展開を軸としたコミュニケーションによる音楽の構築の研究。
9	リズムセクションの研究。（メンバー全員でリズムセクションについて考察し、合奏における総合的な伴奏の研究をする。）
10	リズムセクションとソリストによる音楽協働制作の実験と研究。
11	バンド全体でのトータルな音楽協働制作についての実験と研究。
12	メンバー提案の、様々なアイデア（サウンドデザイン、ヘッドアレンジ等）による音楽構築の実験と研究。
13	偶発性の高いジャズ的なコミュニケーションによる音楽構築の実験と研究。
14	フリーなアドリブやコンピングによる協働音楽構築の実験と研究。
15	トータルコーディネートされた即興音楽の協働構築。まとめ。

科目名	室内楽研究２～４　［シラバス用］（電子オルガン）						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XGE3401E0	科目コード	GE3402d	期間	通年
担当教員	渡部　亨						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

後期に行われる試験の成績をもって単位を判定する。
試験での成績優秀グループは、前田ホールにおける室内楽コンサートに出演出来る。
出席不良のグループは試験に出られない場合がある。
学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

＜履修形態＞
●電子オルガンと他の器楽の３～１０重奏。
※１０重奏を越える編成を希望する場合は室内楽担当教員に相談のこと。
（１）履修を希望する学生は、それぞれにグループを編成して申込む。
（２）学部生のみでグループを組むこと。専攻科、聴講生と組む場合は担当教員と相談のこと。
（３）人数及び編成を、室内楽委員会で調整する場合もある。
（４）グループの編成に関しては、楽曲の研究と知識を発揮して、芸術的内容を深く体験できる楽器編成が望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	表現の工夫
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
3	読譜の確認
4	形式から音楽を研究
5	ハーモニーの研究。
6	バランス、強弱の研究。
7	表現の工夫
8	表現の掘り下げ
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
10	仕上げの演奏
11	仕上げの演奏を聞き、演奏をより良くするために対策を考える
12	室内楽試験・まとめ
13	室内楽コンサー出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄

科目名	室内楽研究２～４　［シラバス用］（ピアノ）						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGE3401PF	科目コード	GE3402d	期間	通年
担当教員	渡部　亨						
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

後期に行われる試験の成績をもって単位を判定する。

試験での成績優秀グループは、前田ホールにおける室内楽コンサートに出演出来る。

学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実習曲のパート譜とスコア。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈履修形態〉

●ピアノと他の楽器による3～10重奏

●2台ピアノによる6手以上（ピアノ2台4手は二重奏の編成であるが、全体で3グループに限り履修可。2019年度は既に選出済）

※10重奏を越える編成を希望する場合は室内楽担当教員に相談のこと。

（１）履修を希望する学生は、それぞれにグループを編成して申込む。

（２）学部生のみでグループを組むこと。専攻科、聴講生と組む場合は担当教員と相談のこと。

（３）人数及び編成を、室内楽委員会で調整する場合もある。

（４）グループの編成に関しては、楽曲の研究と知識を発揮して、芸術的内容を深く体験できる楽器編成が望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。 年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。 各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	2曲目のテンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかみながら、こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランスの研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
14	バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	試験曲のテンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかみながら、こまかな縦の線を意識。
4	音楽の全体像をつかむ。 難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランスの研究。
6	バランス、強弱の研究。
7	表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
10	自分達の演奏を録音、新たなアイディアを持つ。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 欠点の修正、ステージを意識した演習。
12	室内楽試験・まとめ
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	室内楽研究1～4 ［シラバス用］（打）						
代表教員	石井　喜久子	授業コード	XGE3401PI	科目コード	GE3401d	期間	通年
担当教員	渡部　亨						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	PI・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い楽曲を研究し、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

また、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、また、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合わせの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

後期に行われる試験の成績をもって単位を判定する。

試験での成績優秀グループは、前田ホールにおける室内楽コンサートに出演し、上位グループがみなとみらいホールでのコンサートに選出される。

学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。

参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈履修形態〉

●打楽器　３～１０重奏

●打楽器とその他の楽器　３～１０重奏

※１０重奏を越える編成を希望する場合は室内楽担当教員に相談のこと。

（１）履修を希望する学生は、それぞれにグループを編成して申込む。

（２）学部生のみでグループを組むこと。専攻科、聴講生と組む場合は担当教員と相談のこと。

（３）人数及び編成を、室内楽委員会で調整する場合もある。

（４）グループの編成に関しては、楽曲の研究と知識を発揮して、芸術的内容を深く体験できる楽器編成が望ましい。

※出席不良のグループは試験に出られない場合がある。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。こまかな縦の線を意識。
12	音楽の全体像をつかむ。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
14	表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。
3	音楽の全体像をつかむ。
4	難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー
6	バランス
7	強弱の研究
8	表情をつかみ、それを表現する努力
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
10	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正。
11	新たなアイディアを持つ。 ステージを意識した演習。
12	室内楽試験・まとめ
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	室内楽研究1～4 ［シラバス用］（弦）						
代表教員	水野　佐知香	授業コード	XGE3401SI	科目コード	GE3401d	期間	通年
担当教員	渡部　亨						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	SI・GT・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に、他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

後期に行われる試験の成績をもって単位を判定する。
試験での成績優秀グループは、前田ホールにおける室内楽コンサートに出演出来る。
出席不良のグループは試験に出られない場合がある。
学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。
参考文献については、授業中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈履修形態〉
●弦楽器　３～１０重奏
●弦楽器とその他の楽器　３～１０重奏
※１０重奏を越える編成を希望する場合は室内楽担当教員に相談のこと。
（１）履修を希望する学生はそれぞれにグループを編成して申込む。
（２）学部生のみでグループを組むこと。専攻科、聴講生と組む場合は担当教員と相談のこと。
（３）人数及び編成を、室内楽委員会で調整する場合もある。
（４）グループの編成に関しては、楽曲の研究と知識を発揮して、芸術的内容を深く体験できる楽器編成が望ましい。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
7	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
10	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験・まとめ
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	室内楽研究1～4 ［シラバス用］（管）						
代表教員	渡部　亨	授業コード	XGE3401WI	科目コード	GE3401d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	WI・GM・WM	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

器楽曲は、独奏曲・室内楽曲・管弦楽曲に大別され、室内楽は独立したひとつの分野を形成している。その対象は、ピアノ・弦・管・打を中心にした３重奏から１０重奏程度の室内アンサンブルであり、各パートはそれぞれ独立し、単独の奏者による協奏的なものである。

この授業では、古典から現代に至る幅広い室内楽曲を研究する。室内楽を経験することにより、アンサンブルの基礎を学ぶと同時に他の楽器の特性を理解し、協調性を養い、表現の喜びを体得することを目的とする。

室内楽の本質を見極め、多くの作品を経験し、多面的な演奏の究明を主眼として音楽的に高度な充実を指向する。

２．授業概要

各グループは、担当教員と話し合い、自分達の実力に合った選曲をする。個人レッスンで培った技量をアンサンブルでいかに生かすか、合奏の基本を学ぶ。各セクションは、個性を持ちつつ他と同調し、グループが一つとなる調和の美を求める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

全てのアンサンブルは、当然ながら複数の人間（パート）で作り上げる音楽である。どのパート（人間）かに不備があっても完成を見ない。したがって各自、自分のパートの予習を出来るだけ完璧なものに近づけておきたい。アンサンブル演習が始まると、初期には、Tempo感の相異、ハーモニーの不和、テクニカルな問題点が必ず生じる。個々の復習と時間をかけた合せの演習が必要。又、その後仕上に向けて音楽的表情の統一、心を一つにした表現、それでいて各パート良き独立心を持って、同様な復習が必要。

４．成績評価の方法及び基準

後期に行われる試験の成績をもって単位を判定する。

試験での成績優秀グループは、前田ホールにおける室内楽コンサートに出演出来る。

学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各グループの実習曲のパート譜とスコアを用意すること。

参考文献・楽曲・これまでの試験演奏曲目などはポータルにて掲示する予定。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

〈履修形態〉

管楽器　●木管　３～１０重奏（同族楽器を含む）
　　●金管　３～１０重奏（同族楽器を含む）
　　●管とその他の楽器３～１０重奏

※１０重奏を越える編成を希望する場合は室内楽担当教員に相談のこと。

（１）履修を希望する学生は、それぞれにグループを編成して申込む

（２）学部生のみでグループを組むこと。専攻科、聴講生と組む場合は担当教員と相談のこと。

（３）人数及び編成を、室内楽委員会で調整する場合もある。

（４）グループの編成に関しては、楽曲の研究と知識を発揮して、芸術的内容を深く体験できる楽器編成が望ましい。

※出席不良のグループは試験に出られない場合がある。

授業計画	
	［前期］
1	各グループは、担当教官と面談。年間の演習スケジュールと曲目を決定する。
2	演習（レッスン）開始。各自、自分のパートの譜読（予習）をしておく事。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。
4	こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。
6	表情をつかみ、それを表現する努力。
7	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。
8	自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。
9	ステージを意識した演習。
10	次の曲の決定、予習。
11	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
12	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
13	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
14	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
15	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。

授業計画	
	［後期］
1	室内楽試験に向けて、曲目の選定、予習。
2	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
3	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
4	テンポの統一。音楽の全体像をつかむ。 こまかな縦の線を意識。難しいパッセージの徹底練習。
5	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
6	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
7	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
8	ハーモニー、バランス、強弱の研究。 表情をつかみ、それを表現する努力。
9	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
10	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
11	全員の意識の統一を計り、チームなりの完成をめざす。 自分達の演奏を録音、それをもとに欠点の修正、新たなアイディアを持つ。ステージを意識した演習。
12	室内楽試験・まとめ
13	室内楽コンサート（前田ホール）出演・聴講。
14	室内楽音楽の鑑賞（CD等）、楽曲分析研究、歴史研究
15	担当教員による、演習、総轄、次年度へ向けての訓話。

科目名	ヴァイオリンとピアノによるデュオ（ソナタ）２～４［シラバス用］						
代表教員	市野　あゆみ	授業コード	XGE341500	科目コード	GE3415d	期間	集中
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	PF・SI（VN）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

デュオのレパートリーは、例えば「ヴァイオリンとチェロによるデュオ」等と同様、室内楽分野の最小編成で、3重奏以上、最大はオーケストラに至るまでのアンサンブルの基本になる編成です。ヴァイオリンとピアノの為のソナタであるにも関わらず「ヴァイオリンソナタ」と呼ばれているのは、ピアノは必ず一緒であることを前提とした略称に過ぎず、モーツァルトやベートーヴェン、ブラームス他の作曲家は、自筆譜に「ピアノとヴァイオリンの為のソナタ」と記しています。2重奏ソナタのレパートリーは、ピアニストにとって伴奏ではなく、全体の音楽を創る上で重要な役割を担っています。ソナタの作品を通して、お互いの楽器の奏法の難しさ、音色、様々な違いを知ること、そして、全く性質の違う楽器が、時には個別の主張をし、或いは、楽器の違いを超えた響きの調和を求めることにより、楽器を演奏する可能性が広がります。音楽表現を深めていく為には、各々の奏者の技術が大切な要素で、ソロ作品の演奏にも共通しています。学生の希望に沿って、ソロ作品のレッスン受講も可能です。

２．授業概要

室内楽の最小編成である2重奏曲（ソナタ）を題材に、演奏表現の可能性を学ぶ。
ヴァイオリンとピアノの両者それぞれに音楽的な意思を持ってもらい、一緒に音楽を創る喜びや難しさを、同時レッスンや個人レッスンを通して経験してもらう。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習　選定された課題曲の練習
　　レッスン時にはいつも全楽章を準備しておくこと
復習　レッスンで受けた内容に対する取り組み

４．成績評価の方法及び基準

レッスンへの参加姿勢、及び、演奏内容。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

課題になる曲が決定次第、準備する楽譜（出版社）を指示する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

●ヴァイオリンとピアノによるソナタ（2重奏）
①授業履修希望者は、ヴァイオリン、ピアノそれぞれに個別のオーディションを受ける。
・オーディションの曲目
ヴァイオリン：ソロの自由曲（８分～15分）1曲（曲の途中まででも構わない）、或いは、短い曲を数曲。無伴奏曲も可。ピアノとのソナタは除く。技巧的な要素を含まないような選曲は避けること。協奏曲等、ピアノを必要とする選曲の場合は、各自でピアノ奏者を用意する。
ピアノ：ソロの自由曲（8分～15分）
1曲（曲の途中まででも構わない）、或いは、短い曲を数曲。エチュード等も可。技巧的な要素を含まないような選曲は避けること。※オーディションの際、各楽器とも必ずしも暗譜である必要はなく、そのことは選考の基準にはならない。
②オーディションで選抜された中から、組み合わせ（最大約10組）と履修曲目を担当教員が決定する。
③お互いに一緒に履修を希望するパートナーがいる場合、又、希望曲目がある場合、オーディション申し込み時に記入することができる。詳細は学務部に問い合わせること。※授業は聴講可。詳細は学務部で確認すること。

授業計画	
	［集中］
1	ピアノ・ヴァイオリンそれぞれのオリエンテーションと楽器別の個人レッスン【課題曲の1楽章】
2	ピアノ・ヴァイオリンそれぞれ別の個人レッスン 【課題曲の1楽章】
3	ピアノ・ヴァイオリンそれぞれ別の個人レッスン 【課題曲の1楽章と中間楽章】
4	ピアノ・ヴァイオリン同時のデュオ・レッスン 【課題曲の1楽章】
5	ピアノ・ヴァイオリンそれぞれ別の個人レッスン 【課題曲の1楽章復習と中間楽章】
6	ピアノ・ヴァイオリン同時のデュオ・レッスン 【課題曲の中間楽章】
7	ピアノ・ヴァイオリンそれぞれ別の個人レッスン 【デュオ・レッスン内容の復習と課題曲の終楽章】
8	ピアノ・ヴァイオリンそれぞれ別の個人レッスン 【課題曲の終楽章】
9	ピアノ・ヴァイオリン同時のデュオ・レッスン 【課題曲の終楽章】
10	ピアノ・ヴァイオリンそれぞれ別の個人レッスン 【デュオ・レッスン内容の復習と課題曲全楽章】
11	ピアノ・ヴァイオリン同時のデュオ・レッスン 【課題曲全楽章】
12	ピアノ・ヴァイオリンそれぞれ別の個人レッスン 【デュオ・レッスン内容の復習、課題曲全楽章】
13	ピアノ・ヴァイオリン同時のデュオ・レッスン 【課題曲全曲の仕上げ、シルバーマウンテンにて】
14	前田ホールでのゲネプロ
15	演奏会

科目名	教育実習法（事前事後の指導を含む）						
代表教員	吉田　真理子	授業コード	XGE739000	科目コード	GE7390	期間	1～4年次
担当教員							
授業形態	講義	配当学年	4				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	教職				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主題】
在学期間を通して履修する教職課程の意義を考え、本学で養成したい教師の姿等を踏まえながら、ガイダンス等で学び取った介護等体験、教育実習等の教職免許取得にかかる教職課程上の重要事項を再確認するとともに、必要とされる補習を遂行して理解を深める。
【到達目標】
（１）教職課程を履修する意義を考え、履修上での要点や注意点を知る。
（２）教師になるための意識の向上を図る。
（３）直前に迫る教育実習の実践について考え、事後にその反省をふまえ自己の教師としての資質についての理解を深める。

２．授業概要

本科目は入学以降実施されてきた教職課程履修ガイダンスで得た学びや情報を見直し、それらの補完に努め、直前に迫る教育実習に具体的に対応する準備と直後のまとめをする。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

入学以降に履修した全教職科目及び教職課程履修ガイダンスを振り返り、それらの学んだこと全てに鑑みて教育実習校の打ち合わせ等で知り得た具体的な実習内容を検討する。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢
・実習直前対策としての演習
・演習直後の振り返り課題
《出欠席について》
・総授業回数は15回とし、９回以上の出席をもって最終試験の受験、及び、まとめのレポート等の提出資格が認められる。（欠席は、公欠扱いの教育実習を含んだ６回までとする）
・遅刻3回で1回の欠席として扱う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・『教職課程履修ハンドブック』
・『教育実習日誌』
随時、授業資料を提示、配付する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

現在までの自己の教職課程履修状況をしっかりと把握しておく。
（教職課程履修カルテの補完）

授業計画	
	［1～4年次］
1	４年次「教育実習法」オリエンテーション：教育実習への心構え
2	教育実習の内容と方法①：学校の一日を知る、実習日誌の使い方等
3	教育実習の内容と方法②：授業見学のポイント、学校における服務等
4	教育実習生に求められる資質・能力：教科に関する知識技能　模擬授業①
5	教育実習生に求められる資質・能力：教材研究・授業計画　模擬授業②
6	教育実習生に求められる資質・能力：学習指導の技能　　模擬授業③
7	教育実習生に求められる資質・能力：教育的熱意・生徒理解　模擬授業④
8	教育実習生に求められる資質・能力：生活指導の技能　模擬授業⑤
9	教育実習生に求められる資質・能力：責任感・積極性・協調性等　模擬授業⑥
10	教育実習生に求められる資質・能力：事務能力　模擬授業⑦
11	教育実習の振り返り：教育実習実践報告①　振り返り内容①：熱意と使命感をもって臨んだか…
12	教育実習の振り返り：教育実習実践報告②　振り返り内容②：“自分の人間性”をどのように評価されたか…
13	教育実習の振り返り：教育実習実践報告③　振り返り内容③：“自分の音楽科指導力”はどの程度だったか、指導教官や生徒にどう評価されたか…
14	教育実習の振り返り：教育実習実践報告④　振り返り内容④：“社会人としての自分”を自己診断するとどうだったか…
15	教育実習法のまとめ　後期に想定される課題：教職実践演習の概要、免許状一括申請授与願いの記入等

科目名	教職ピアノ実習１－Ｉ ［シラバス用］						
代表教員	金井　公美子	授業コード	XGJ094000	科目コード	GJ0940	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	1				
対象コース	全（PF・ME・JZコースのピアノ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】ピアノ伴奏の基礎技能の習得
【到達目標】基礎的知識の理解と、初・中・上級のレベルに応じた技能の習熟

２．授業概要

音楽科教育で求められるピアノ技術の習得を目的とする本授業により、教職課程の仕上げとしての教育実習において支障なく教壇実習が遂行できることを目標とする。また、グループ授業を通じてコミュニケーション能力の育成もめざす。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取り組みか②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①スケールとカデンツ②課題曲の実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）教職課程履修登録時のピアノ学習歴等に関する事前調査に基づき、学生一人一人の力量を勘案した上で「初級・中級・上級」のクラスが指定される。
（２）１年次終了までに、「教職ピアノ実習1-I／1-II」の単位を修得していない場合は、２年次前期に「教職ピアノ実習２」を履修できない。尚、４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（３）１週間に１回の授業だけでは、実力の向上は望めない。週１回の授業のみならず、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション－教育実習と教職ピアノ実習との関連及び既習曲の発表
2	グループ・個人指導 共通課題《ふるさと》の確認 スケール・カデンツの練習方法について
3	グループ・個人指導 共通課題《ふるさと》の表現の工夫 と《春の小川》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
4	グループ・個人指導 共通課題《春の小川》の表現の工夫と《茶つみ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
5	グループ・個人指導 共通課題《茶つみ》の表現の工夫と《うみ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
6	グループ・個人指導 共通課題《うみ》の表現の工夫と《主人は冷たい土の中に》演習 各級に応じたスケール・カデンツ
7	グループ・個人指導 共通課題《主人は冷たい土の中に》の表現の工夫と《こきりこ節》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
8	グループ・個人指導 共通課題《こきりこ節》の表現の工夫と《Belive》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
9	グループ・個人指導 共通課題《Belive》の表現の工夫 グループでの伴奏演習《ふるさと》
10	グループでの伴奏演習《春の小川》《茶つみ》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
11	グループでの伴奏演習《うみ》《主人は冷たい土の中に》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
12	グループでの指導演習《こきりこ節》《Belive》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
13	グループでの指導演習・仕上げ演奏 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
14	グループでの指導演習・発表
15	半期のまとめ

科目名	教職ピアノ実習１－II ［シラバス用］						
代表教員	金井　公美子	授業コード	XGJ094100	科目コード	GJ0941	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	1				
対象コース	全（PF・ME・JZコースのピアノ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「教職ピアノ実習1-I」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】ピアノ伴奏の基礎技能の習得
【到達目標】基礎的知識の理解と、初・中・上級のレベルに応じた技能の習熟

２．授業概要

音楽科教育で求められるピアノ技術の習得を目的とする本授業により、教職課程の仕上げとしての教育実習において支障なく教壇実習が遂行できることを目標とする。また、グループ授業を通じてコミュニケーション能力の育成もめざす。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取組か②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①スケールとカデンツ②課題曲の実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）教職課程履修登録時のピアノ学習歴等に関する事前調査に基づき、学生一人一人の力量を勘案した上で「初級・中級・上級」のクラスが指定される。
（２）１年次終了までに、「教職ピアノ実習1-I／1-II」の単位を修得していない場合は、２年次前期に「教職ピアノ実習２」を履修できない。尚、４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（３）１週間に１回の授業だけでは、実力の向上は望めない。週１回の授業のみならず、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション 前期の振り返り 個人指導
2	グループ・個人指導 共通課題《おぼろ月夜》の演習と表現の工夫 スケール・カデンツの練習方法について
3	グループ・個人指導 共通課題《おぼろ月夜》の仕上げと《こいのぼり》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
4	グループ・個人指導 共通課題《こいのぼり》の表現の工夫 と《もみじ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
5	グループ・個人指導 共通課題《もみじ》の表現の工夫 と《相馬盆歌》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
6	グループ・個人指導 共通課題《相馬盆歌》の表現の工夫 と《世界に一つだけの花》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
7	グループ・個人指導 共通課題《世界に一つだけの花》の表現の工夫 と《冬景色》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
8	グループ・個人指導 共通課題《冬景色》の表現の工夫 と《大切なもの》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
9	グループ・個人指導 共通課題《大切なもの》の表現の工夫 グループでの伴奏演習《おぼろ月夜》
10	グループでの伴奏演習《こいのぼり》《もみじ》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
11	グループでの伴奏演習《相馬盆歌》《世界に一つだけの花》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
12	グループでの指導演習《冬景色》《大切なもの》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
13	グループでの指導演習・仕上げ演奏 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
14	グループでの指導演習・発表
15	半期のまとめ

科目名	教職ピアノ実習２　［仮登録/シラバス用］						
代表教員	未定	授業コード	XGJ094200	科目コード	GJ0942	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	2				
対象コース	全（PF・JZコースのピアノ除く）	科目分類					
前提科目	「教職ピアノ実習1-II」の単位修得済の学生(MEはそれに準ずる単位修得済みであること)						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】ピアノ伴奏の基礎技能の習得
【到達目標】前年度習得したことを踏まえた、初・中・上級のレベルに応じた技能の習熟。弾き歌いやコード伴奏等の技術力も身につける。

２．授業概要

音楽科教育で求められるピアノ技術の習得を目的とする本授業により、教職課程の仕上げとしての教育実習において支障なく教壇実習が遂行できることを目標とする。また、グループ授業を通じてコミュニケーション能力の育成もめざす。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取組か②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①スケールとカデンツ②課題曲の実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

(1)　「教職ピアノ実習１-II」の成績に基づき「初級・中級・上級」のクラスが指定される。
(2)　２年次終了までに、「教職ピアノ実習２．３」の単位を修得していない場合は、３年次前期に「教職ピアノ実習４」を履修できない。尚、４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
(3)　『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』以外の曲も実技担当教員と相談の上、勉強しておくこと。
（３）授業は日頃の練習の成果が問われるため、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション 教育実習と教職ピアノ実習との関連 グループ・個人指導 共通課題《さくらさくら》の演習と スケール・カデンツの練習方法について
2	グループ・個人指導 共通課題《さくらさくら》の表現の工夫 と《花》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
3	グループ・個人指導 共通課題《花》の表現の工夫 と《夏の思い出》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
4	グループ・個人指導 共通課題《夏の思い出》の表現の工夫 と《赤とんぼ》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
5	グループ・個人指導 共通課題《赤とんぼ》の表現の工夫 と《こげよマイケル》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
6	グループ・個人指導 共通課題《こげよマイケル》の表現の工夫 と《荒城の月》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
7	グループ・個人指導 共通課題《荒城の月》の表現の工夫 と《見上げてごらん夜の星を》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
8	グループ・個人指導 共通課題《見上げてごらん夜の星を》の表現の工夫 グループでの伴奏演習《さくらさくら》
9	グループでの伴奏演習《花》《夏の思い出》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
10	グループでの伴奏演習《赤とんぼ》《こげよマイケル》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
11	グループでの伴奏演習《荒城の月》《見上げてごらん夜の星を》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
12	グループでの指導演習の内容と方法
13	グループでの指導演習・仕上げ演奏 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
14	グループでの指導演習・発表
15	半期のまとめ

科目名	教職ピアノ実習３　［仮登録/シラバス用］						
代表教員	未定	授業コード	XGJ094300	科目コード	GJ0943	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	2				
対象コース	全（PF・JZコースのピアノ除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「教職ピアノ実習2」の単位修得済の学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】ピアノ伴奏の基礎技能の習得
【到達目標】基礎的知識の理解と、初・中・上級のレベルに応じた技能の習熟

２．授業概要

音楽科教育で求められるピアノ技術の習得を目的とする本授業により、教職課程の仕上げとしての教育実習において支障なく教壇実習が遂行できることを目標とする。また、グループ授業を通じてコミュニケーション能力の育成もめざす。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取組か②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①スケールとカデンツ②課題曲の実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習テキスト・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）教職課程履修登録時のピアノ学習歴等に関する事前調査に基づき、学生一人一人の力量を勘案した上で「初級・中級・上級」のクラスが指定される。
（２）２年次終了までに、「教職ピアノ実習２．３」の単位を修得していない場合は、３年次前期に「教職ピアノ実習４」を履修できない。尚、４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（３）１週間に１回の授業だけでは、実力の向上は望めない。週１回の授業のみならず、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション 前期の振り返り 個人指導
2	グループ・個人指導 共通課題《早春賦》の演習 スケール・カデンツの練習方法について
3	グループ・個人指導 共通課題《早春賦》の表現の工夫と《浜辺の歌》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
4	グループ・個人指導 共通課題《浜辺の歌》の表現の工夫と《花の街》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
5	グループ・個人指導 共通課題《花の街》の表現の工夫と《帰れソレント》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
6	グループ・個人指導 共通課題《帰れソレント》の表現の工夫と《心の瞳》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
7	グループ・個人指導 共通課題《心の瞳》の表現の工夫と《アメージング・グレイス》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
8	グループ・個人指導 共通課題《アメージング・グレイス》の表現の工夫と《少年時代》の演習 各級に応じたスケール・カデンツ
9	グループ・個人指導 共通課題《少年時代》の表現の工夫 グループでの伴奏演習《早春賦》
10	グループでの伴奏演習《浜辺の歌》《花の街》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
11	グループでの伴奏演習《帰れソレント》《心の瞳》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
12	グループでの伴奏演習《アメージング・グレイス》《少年時代》 各級に応じたスケール・カデンツまとめ
13	グループでの指導演習・仕上げ演奏 各級に応じたスケールカデンツまとめ
14	グループでの指導演習・発表
15	半期のまとめ

科目名	教職ピアノ実習４　［仮登録/シラバス用］						
代表教員	未定	授業コード	XGJ094400	科目コード	GJ0944	期間	
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類					
前提科目	「教職ピアノ実習3」の単位修得済の学生(PF・JZコースのピアノはそれに準ずる単位習得済みであること)						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】教育実習において求められる、実践的なピアノ伴奏技能の習得
【到達目標】教育実習校種の教科書掲載曲に習熟し、歌唱指導がスムーズに行えるようになる

２．授業概要

本授業は,これまで積み重ねてきた教職ピアノ実習のまとめとして位置づけている。（PFとJZコースのピアノを除く）
原則として決定している実習校の校種に応じて教材を決定し、習熟を図り、またグループによる伴奏演習も実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取組か②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①共通教材(全7曲）②My lyrical Songsの実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習･My lyrical Song』」と『教職ピアノ実習・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（２）クラス分けに関しては別途指示する。
（３）授業は日頃の練習の成果が問われるため、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　教育実習と教職ピアノ実習との関連グループ・個人指導　合唱曲集の練習方法について
2	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《カリブ夢の旅》の伴奏演習と歌唱指導
3	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Let's Serch For Tomorrow》　の伴奏演習と歌唱指導
4	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《明日という日が》　の伴奏演習と歌唱指導
5	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《青春の1ページ》　の伴奏演習と歌唱指導
6	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Santa Lucia》　の伴奏演習と歌唱指導
7	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《'O sole mio》　の伴奏演習と歌唱指導
8	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Caro mio ben》　の伴奏演習と歌唱指導
9	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《野ばら》2曲　の伴奏演習と歌唱指導
10	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《上を向いて歩こう》　の伴奏演習と歌唱指導
11	グループ・個人指導 共通教材3または4曲のうち1曲 伴奏と歌唱のバランス 合唱曲集より3曲選択のうち1曲　　効果的な伴奏１
12	グループ・個人指導 共通教材3または4曲のうち1曲 歌唱指導 合唱曲集より3曲選択のうち1曲　効果的な伴奏2
13	グループ・個人指導 共通教材3または4曲のうち1曲　発表と評価 合唱曲集より3曲選択のうち1曲　発表と評価
14	個人・グループ演習まとめ 選択曲の確認
15	半期のまとめ

科目名	教職ピアノ実習５　［仮登録/シラバス用］						
代表教員	未定	授業コード	XGJ094500	科目コード	GJ0945	期間	半期
担当教員							
授業形態	実習	配当学年	3				
対象コース	全（教職履修者のみ）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	「教職ピアノ実習4」の単位修得済みの学生						
教員免許状							

１．主題・到達目標

【主　　題】教育実習において求められる、実践的なピアノ伴奏技能の習得
【到達目標】教育実習校種の教科書掲載曲に習熟し、歌唱指導がスムーズに行えるようになる

２．授業概要

本授業は、教育実習に必要な技術力強化の最終段階として位置づけている。原則として決定している実習校の校種に応じて教材を決定し、習熟を図り、またグループによる伴奏演習も実践する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員が授業毎に具体的な課題を与える。それに基づいた予習・復習を充分におこなうこと。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取組姿勢（平常点）により受験資格の可否を決定し、実技試験による評価（実技点）をもって判定する。
・平常点は、毎回の授業毎に①意欲的な取組か②自己の理解ができているか③表現の技能等の観点により評価する。
・実技点は、①共通教材(全7曲）②My lyrical Songsの実技を評価する。試験方法については、実技担当教員からの指導及びポータルに掲示する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『教職ピアノ実習･My lyrical Songs』と『教職ピアノ実習・My Heartful Songs』及びその他の教材。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）４年次に教育実習に参加するためには、３年次終了までに「教職ピアノ実習５」の単位を修得しておくことが必要である。
（２）クラス分けに関しては別途指示する。
（３）授業は日頃の練習の成果が問われるため、毎日、不断の練習、積み重ねが大事である。
（４）受験資格に関しては、欠席3回（公欠も含む）までは認められる。遅刻3回で1回欠席となる。

授業計画	
	［半期］
1	オリエンテーション　前期の振り返り 個人指導
2	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《心の中にきらめいて》の伴奏演習と歌唱指導
3	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《時の旅人》の伴奏演習と歌唱指導
4	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《旅立ちの日に》の伴奏演習と歌唱指導
5	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《名付けられた葉》の伴奏演習と歌唱指導
6	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《大地讃頌》の伴奏演習と歌唱指導
7	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《この道》の伴奏演習と歌唱指導
8	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Ich liebe dich》の伴奏演習と歌唱指導
9	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Im wunderschönen Monat Mai》の伴奏演習と歌唱指導
10	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Lascia ch'io pianga》の伴奏演習と歌唱指導
11	個人指導とグループ演習 共通課題3、または4曲選択 《Auf Flügeln des Gesanges》の伴奏演習と歌唱指導
12	グループでの伴奏及び指導演習 基礎楽曲step1,2を用いて
13	個人指導及びグループ演習 発展楽曲step3を用いて
14	個人指導及びグループ演習 まとめ
15	半期のまとめ

科目名	作曲理論研究Ⅲ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040300	科目コード	GL0403d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲理論研究では和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体、そして実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲理論研究Ⅲは、前期に４～６名の奏者による室内楽曲、後期に弦楽合奏や室内オーケストラを中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（O. メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
3	楽曲研究－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
4	楽曲研究－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
5	楽曲研究－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
6	書法研究－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
7	書法研究－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
8	書法研究－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
9	書法研究－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
10	構成とスケッチ－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
11	構成とスケッチ－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
12	構成とスケッチ－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
13	構成とスケッチ－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
14	楽譜の作成－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
15	楽譜の作成－応用（４～６名の奏者による室内楽など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
2	楽曲研究－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
3	楽曲研究－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
4	楽曲研究－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
5	書法研究－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
6	書法研究－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
7	書法研究－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
8	書法研究－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
9	構成とスケッチ－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
10	構成とスケッチ－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
11	構成とスケッチ－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
12	構成とスケッチ－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
13	楽譜の作成－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
14	楽譜の作成－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲理論研究Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040400	科目コード	GL0404d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	C0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲理論研究では和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体、そして実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲理論研究Ⅳは、前期に古典派から１９世紀の管弦楽曲、後期に２０世紀以降の楽曲を中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（0.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究ー導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
3	楽曲研究ー基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
4	楽曲研究ー応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
5	楽曲研究ーまとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
6	書法研究ー導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
7	書法研究ー基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
8	書法研究ー応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
9	書法研究ーまとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
10	構成とスケッチー導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
11	構成とスケッチー基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
12	構成とスケッチー応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
13	構成とスケッチーまとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
14	楽譜の作成ー基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
15	楽譜の作成ー応用（１９世紀までの管弦楽曲など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（２０世紀以降の楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
3	楽曲研究－応用（２０世紀以降の楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
5	書法研究－導入（２０世紀以降の楽曲など）
6	書法研究－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
7	書法研究－応用（２０世紀以降の楽曲など）
8	書法研究－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（２０世紀以降の楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
11	構成とスケッチ－応用（２０世紀以降の楽曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
13	楽譜の作成－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
14	楽譜の作成－応用（２０世紀以降の楽曲など）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲技法研究Ⅰ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040500	科目コード	GL0405d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、作曲技法研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲技法研究Ⅰは、前期にピアノ曲、後期に弦楽器を含む二重奏曲を中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（O.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究ー導入（ピアノ曲など）
3	楽曲研究ー基礎（ピアノ曲など）
4	楽曲研究ー応用（ピアノ曲など）
5	楽曲研究ーまとめ（ピアノ曲など）
6	書法研究ー導入（ピアノ曲など）
7	書法研究ー基礎（ピアノ曲など）
8	書法研究ー応用（ピアノ曲など）
9	書法研究ーまとめ（ピアノ曲など）
10	構成とスケッチー導入（ピアノ曲など）
11	構成とスケッチー基礎（ピアノ曲など）
12	構成とスケッチー応用（ピアノ曲など）
13	構成とスケッチーまとめ（ピアノ曲など）
14	楽譜の作成ー基礎（ピアノ曲など）
15	楽譜の作成ー応用（ピアノ曲など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（弦楽器を含む二重奏曲など）
2	楽曲研究－基礎（弦楽器を含む二重奏曲など）
3	楽曲研究－応用（弦楽器を含む二重奏曲など）
4	楽曲研究－まとめ（弦楽器を含む二重奏曲など）
5	書法研究－導入（弦楽器を含む二重奏曲など）
6	書法研究－基礎（弦楽器を含む二重奏曲など）
7	書法研究－応用（弦楽器を含む二重奏曲など）
8	書法研究－まとめ（弦楽器を含む二重奏曲など）
9	構成とスケッチ－導入（弦楽器を含む二重奏曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（弦楽器を含む二重奏曲など）
11	構成とスケッチ－応用（弦楽器を含む二重奏曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（弦楽器を含む二重奏曲など）
13	楽譜の作成－基礎（弦楽器を含む二重奏曲など）
14	楽譜の作成－応用（弦楽器を含む二重奏曲など）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲技法研究Ⅱ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040600	科目コード	GL0406d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、作曲技法研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲技法研究Ⅱは、前期に管楽器を含む二重奏曲および歌曲、後期に３～４名の奏者による室内楽および合唱曲を中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（O.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（管楽器を含む二重奏曲など）
3	楽曲研究－基礎（管楽器を含む二重奏曲など）
4	楽曲研究－応用（管楽器を含む二重奏曲など）
5	楽曲研究－まとめ（管楽器を含む二重奏曲など）
6	書法研究－導入（管楽器を含む二重奏曲など）
7	書法研究－基礎（管楽器を含む二重奏曲など）
8	書法研究－応用（管楽器を含む二重奏曲など）
9	書法研究－まとめ（管楽器を含む二重奏曲など）
10	構成とスケッチ－導入（管楽器を含む二重奏曲など）
11	構成とスケッチ－基礎（管楽器を含む二重奏曲など）
12	構成とスケッチ－応用（管楽器を含む二重奏曲など）
13	構成とスケッチ－まとめ（管楽器を含む二重奏曲など）
14	楽譜の作成－基礎（管楽器を含む二重奏曲など）
15	楽譜の作成－応用（管楽器を含む二重奏曲など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（室内楽や合唱など）
2	楽曲研究－基礎（室内楽や合唱など）
3	楽曲研究－応用（室内楽や合唱など）
4	楽曲研究－まとめ（室内楽や合唱など）
5	書法研究－導入（室内楽や合唱など）
6	書法研究－基礎（室内楽や合唱など）
7	書法研究－応用（室内楽や合唱など）
8	書法研究－まとめ（室内楽や合唱など）
9	構成とスケッチ－導入（室内楽や合唱など）
10	構成とスケッチ－基礎（室内楽や合唱など）
11	構成とスケッチ－応用（室内楽や合唱など）
12	構成とスケッチ－まとめ（室内楽や合唱など）
13	楽譜の作成－基礎（室内楽や合唱など）
14	楽譜の作成－応用（室内楽や合唱など）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲技法研究Ⅲ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040700	科目コード	GL0407d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、作曲技法研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲技法研究Ⅲは、前期に４～６名の奏者による室内楽曲、後期に弦楽合奏や室内オーケストラを中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（O.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
3	楽曲研究－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
4	楽曲研究－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
5	楽曲研究－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
6	書法研究－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
7	書法研究－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
8	書法研究－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
9	書法研究－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
10	構成とスケッチ－導入（４～６名の奏者による室内楽など）
11	構成とスケッチ－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
12	構成とスケッチ－応用（４～６名の奏者による室内楽など）
13	構成とスケッチ－まとめ（４～６名の奏者による室内楽など）
14	楽譜の作成－基礎（４～６名の奏者による室内楽など）
15	楽譜の作成－応用（４～６名の奏者による室内楽など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
2	楽曲研究－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
3	楽曲研究－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
4	楽曲研究－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
5	書法研究－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
6	書法研究－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
7	書法研究－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
8	書法研究－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
9	構成とスケッチ－導入（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
10	構成とスケッチ－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
11	構成とスケッチ－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
12	構成とスケッチ－まとめ（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
13	楽譜の作成－基礎（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
14	楽譜の作成－応用（弦楽合奏や室内オーケストラなど）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲技法研究Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL040800	科目コード	GL0408d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲技法という言葉は、例えば和声法や対位法をはじめ、十二音技法や偶然性など作曲に関わる書法全体を意味する。また個々の作曲家が考案した書法、例えばメシアンの「Technique De Mon Language Musical（わが音楽語法）」に記される方法なども作曲技法の一つである。

作曲理論研究では和声法、対位法の修得を中心に行うが、作曲技法研究では実際に作品を書くにあたって必要となる知識や技法を修得する。それらは例えば楽器法や管弦楽法、音楽形式やスタイルなど幅広い学修である。

本授業は個人レッスンの形で行われ、さまざまな音楽語法を学びながら自らの語法を研究することを主題とし、作品を完成させることを目標とする。最終的にはオーケストラを含むあらゆる編成の作品を書くことができる技量を修得することが目標である。

作曲技法研究Ⅳは、前期に古典派から１９世紀の管弦楽曲、後期に２０世紀以降の楽曲を中心として研究する。

２．授業概要

学生によって書きたい音楽や目標とする作曲家像は異なるだろう。まず学生の求める音楽の方向性、目標を確認し、その目標に近づくために必要な知識や技術を学ぶ。本授業においてテクニックを高めるための課題やスコアの分析などを実施しながら、最終的に作品の完成に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題等を進めることに加え、多くの音楽作品に触れて自らの表現意欲を高めること。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末提出作品（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『音楽言語の技法』（O.メシアン著／ヤマハミュージックメディア）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	楽曲研究ー導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
3	楽曲研究ー基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
4	楽曲研究ー応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
5	楽曲研究ーまとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
6	書法研究ー導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
7	書法研究ー基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
8	書法研究ー応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
9	書法研究ーまとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
10	構成とスケッチー導入（１９世紀までの管弦楽曲など）
11	構成とスケッチー基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
12	構成とスケッチー応用（１９世紀までの管弦楽曲など）
13	構成とスケッチーまとめ（１９世紀までの管弦楽曲など）
14	楽譜の作成ー基礎（１９世紀までの管弦楽曲など）
15	楽譜の作成ー応用（１９世紀までの管弦楽曲など）

授業計画	
	［後期］
1	楽曲研究－導入（２０世紀以降の楽曲など）
2	楽曲研究－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
3	楽曲研究－応用（２０世紀以降の楽曲など）
4	楽曲研究－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
5	書法研究－導入（２０世紀以降の楽曲など）
6	書法研究－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
7	書法研究－応用（２０世紀以降の楽曲など）
8	書法研究－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
9	構成とスケッチ－導入（２０世紀以降の楽曲など）
10	構成とスケッチ－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
11	構成とスケッチ－応用（２０世紀以降の楽曲など）
12	構成とスケッチ－まとめ（２０世紀以降の楽曲など）
13	楽譜の作成－基礎（２０世紀以降の楽曲など）
14	楽譜の作成－応用（２０世紀以降の楽曲など）
15	１年間の総括　楽曲の完成

科目名	作曲理論研究Ⅰ　［シラバス用］（2017入学生以降）						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL041600	科目コード	GL0416d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。４年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅰは、和声法における三和音、属七の和音、Ⅱ７の和音、属九の和音、準固有和音、ナポリのⅡ、Ⅳの付加音の理解を目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声学課題集Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『和声　理論と実習Ⅰ～Ⅱ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	三和音　基本形　基礎
3	三和音　基本形　応用
4	三和音　基本形　まとめ
5	三和音　第１転回形　基礎
6	三和音　第１転回形　応用
7	三和音　第１転回形　まとめ
8	三和音　第２転回形　基礎
9	三和音　第２転回形　応用
10	三和音　第２転回形　まとめ
11	三和音　ソプラノ課題　基礎
12	三和音　ソプラノ課題　応用
13	属七の和音　基本形　基礎
14	属七の和音　基本形　応用
15	属七の和音　基本形　まとめ

授業計画	
	［後期］
1	Ⅱ７の和音　基礎
2	Ⅱ７の和音　応用
3	Ⅱ７の和音　ソプラノ課題
4	Ⅱ７の和音　まとめ
5	属九の和音　基本形と転回形
6	属九の和音　根音省略形（長調）
7	属九の和音　根音省略形（短調）
8	属九の和音　まとめ
9	和音の変化　準固有和音　基礎
10	和音の変化　準固有和音　応用
11	和音の変化　ナポリのⅡ　基礎
12	和音の変化　ナポリのⅡ　応用
13	和音の変化　Ⅳの付加音　基礎
14	和音の変化　Ⅳの付加音　応用
15	１年間の総括

科目名	作曲理論研究Ⅱ　［シラバス用］（2017入学生以降）						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL041700	科目コード	GL0417d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。４年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅱは、和声法におけるドッペルドミナント、副七の和音、近親転調、調設定の原理、借用和音、配置変化の理解を目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声学課題集Ⅱ』（音楽之友社）
『和声　理論と実習Ⅱ～Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	ドッペルドミナント　基本形と第１転回形
3	ドッペルドミナント　第２、第３転回形
4	ドッペルドミナント　第５音の下方変位
5	ドッペルドミナント　九の和音と準固有和音
6	ソプラノ課題（ドッペルドミナント）
7	ドッペルドミナントのまとめ
8	副七の和音１　Ⅳ７、Ⅰ７、Ⅵ７
9	副七の和音２　ドリアのⅣ
10	近親転調　バス課題の概要
11	近親転調　転入での連結法
12	近親転調　バス課題の終止点と調の判別
13	近親転調　バス課題の実施法
14	近親転調　バス課題の実施
15	近親転調　バス課題のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	近親転調　ソプラノ課題の終止定式
2	近親転調　ソプラノ課題の終止点と調の判別
3	近親転調　ソプラノ課題の実施法
4	近親転調　ソプラノ課題の実施
5	近親転調　ソプラノ課題のまとめ
6	調設定の原理　基礎
7	調設定の原理　応用
8	調設定の原理　まとめ
9	借用和音　基礎
10	借用和音　応用
11	借用和音　まとめ
12	配置変化　基礎
13	配置変化　応用
14	配置変化　まとめ
15	１年間の総括

科目名	作曲理論研究Ⅲ　［シラバス用］（2017入学生以降）						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL041800	科目コード	GL0418d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。４年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅲは、和声法における非和声音、反復進行、偶成和音、保続音を理解し、内声における主題再現を含む課題などの様式を修得することを目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声　理論と実習Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	非和声音を含む課題　基礎
3	非和声音を含む課題　刺繍音を中心に
4	非和声音を含む課題　経過音を中心に
5	非和声音を含む課題　倚音を中心に
6	非和声音を含む課題　掛留音を中心に
7	非和声音を含む課題　応用
8	非和声音を含む課題　まとめ
9	非和声音、転調を含む課題　基礎
10	非和声音、転調を含む課題　刺繍音を中心に
11	非和声音、転調を含む課題　経過音を中心に
12	非和声音、転調を含む課題　倚音を中心に
13	非和声音、転調を含む課題　掛留音を中心に
14	非和声音、転調を含む課題　応用
15	非和声音、転調を含む課題　まとめ

授業計画	
	［後期］
1	内声における主題再現を含む課題　基礎
2	内声における主題再現を含む課題　応用
3	内声における主題再現を含む課題　まとめ
4	和音の補遺　三和音
5	和音の補遺　七の和音
6	反復進行を含む課題　基礎
7	反復進行を含む課題　応用
8	反復進行を含む課題　まとめ
9	偶成和音を含む課題　基礎
10	偶成和音を含む課題　応用
11	偶成和音を含む課題　まとめ
12	保続音を含む課題　基礎
13	保続音を含む課題　応用
14	保続音を含む課題　まとめ
15	１年間の総括

科目名	作曲理論研究Ⅳ　［シラバス用］（2017入学生以降）						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL041900	科目コード	GL0419d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

和声法と対位法は西洋音楽の作曲理論における二大根幹である。和声法はバロック以降の長調や短調を中心とする音楽における文法といえる。対位法とは旋律線の重なり合いに関する学問である。和声法が縦の響きを中心に学ぶのに対し、対位法では横の流れを中心に学ぶ。両者は相互に補い合う技術である。

近現代において和声法、および対位法は高度に発展したといえる。そのため、作曲理論の専門家としてのレベルに到達するためには相当な長い時間を要し、長期的な計画をもって学修を進める必要がある。

本授業は個人レッスンの形で行われ、和声法、対位法などの作曲理論の学修を主題とする。４年間という時間を活かし、作曲理論の専門家として相応しい技量を得ることを目標とする。

作曲理論研究Ⅳは、和声法における種々の課題様式を深く研究し、さらにはコラールやフーガの書法の修得、そして特定の作曲家の和声様式による課題の修得を目標とする。

２．授業概要

学生の技量に合わせて年度ごとの目標を定め、課題を選択する。学生の実施した課題について、教員が添削を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題の実施に加え、予習・復習がきわめて重要である。また、実施した課題を鍵盤で演奏することが極めて大切である。和声課題を暗譜したり移調する練習を継続することにより、最大の学修効果を得ることができる。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の２０％）
学年末試験（評価の８０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

参考文献：
『和声　理論と実習Ⅲ』（音楽之友社）
『総合和声』（音楽之友社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス　目標の設定
2	２個の主題の同時的提示をもつバス課題　基礎
3	２個の主題の同時的提示をもつバス課題　応用
4	２個の主題の同時的提示をもつバス課題　まとめ
5	階梯導入をもつバス課題　基礎
6	階梯導入をもつバス課題　応用
7	階梯導入をもつバス課題　まとめ
8	数字付き低音とフランスの和声　基礎
9	数字付き低音とフランスの和声　応用
10	数字付き低音とフランスの和声　まとめ
11	高度な和声課題の実施、研究
12	コラールの書法　導入
13	コラールの書法　基礎
14	コラールの書法　応用
15	コラールの書法　まとめ

授業計画	
	［後期］
1	フーガの楽曲研究　導入
2	フーガの楽曲研究　基礎
3	フーガの書法研究　導入
4	フーガの書法研究　基礎
5	フーガの書法研究　応用
6	フーガの書法研究　まとめ
7	J.S.バッハの様式による課題　基礎
8	J.S.バッハの様式による課題　応用
9	W.A.モーツァルトの様式による課題　基礎
10	W.A.モーツァルトの様式による課題　応用
11	C.ドビュッシーの様式による課題　基礎
12	C.ドビュッシーの様式による課題　応用
13	M.ラヴェルの様式による課題　基礎
14	M.ラヴェルの様式による課題　応用
15	１年間の総括

科目名	創作技法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	渡辺　俊幸	授業コード	XGL050100	科目コード	GL0501d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽・音響デザインコースの専門研究（個人レッスン）の主目的は、（旧来の意味にとどまらない）現代社会的な意味におけるメディアコンテンツ制作全般の中で、自分の指向に合わせて研鑽を積むことにある。

最終的な到達目標は、メディアコンテンツ制作現場においてプロとして活動できるスキルを身に付けることに他ならない。当コース卒業生の実社会での活躍を見れば、具体的に理解出来るであろう。

２．授業概要

作曲基礎理論・実践的作曲・映画放送系オーケストレーション・DTM制作・バンド系楽曲制作・ヴォーカル系楽曲制作・芸術的電子音楽制作・ミキシング・録音等、広範な分野から担当教員を選択することになる。年間を通じて、学生各自のスキルと指向性を充分に考慮して、専門研究は進められる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各指導教員により、個別に指示される。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に実施する実技試験（プレゼンテーション）の採点による。採点に際しては、履修姿勢や平常努力も必然的に考慮されるが、専門研究を積極的に履修することは至極当然のことであり、評価は実技試験の素点を重視したものとなる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員及び学生により、個別に指示される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１年生は入学前に、２～４年生は前年度末に、コース責任教員の承認を受けて、各自の担当教員を決定する。履修者各自が、自分の指向性と到達度を充分に認識した上で、積極的に履修することが求められる。

授業計画	
	［前期］本コースの学生の志向は多岐に渡るため、一例として作曲系の学生のための授業計画を記す。
1	担当学生の志向を確認する。毎レッスンに作品を持参することを義務付ける。作曲家を目指す際の日々の過ごし方や毎日するべき音楽家としての基礎的練習について語る。
2	担当する学生の作品を様々な角度から批評をし、同時にレッスンで勉強していくべき課題（ハーモニー、対位法、オーケストレーション等）についてのレベル判定をする。
3	学生の作品を批評すると共にハーモニーの課題基礎編を学ぶ。（ダイアトニックコード等）
4	学生の作品を批評すると共にハーモニーの課題中級編を学ぶ。（ドミナントモーション等）
5	学生の作品を批評すると共にハーモニーの課題上級編（代理コード等）を学ぶ。
6	学生の作品を批評すると共にハーモニーの課題応用編（ここまでに学んだ技法の応用例）を学ぶ。
7	学生の作品を批評すると共にハーモニーの課題プロフェッショナル編（プロの作品を分析）を学ぶ。
8	学生の作品を批評すると共に対位法の基礎（２声の対位法）を学ぶ。
9	学生の作品を批評すると共に２声の対位法の実例を分析。
10	学生の作品を批評すると共にポップスにおける対位法の実例を学ぶ。
11	学生の作品を批評すると共に映画音楽における対位法の実例を学ぶ。
12	学生の作品を批評すると共にオーケストラ作品における対位法の実例を学ぶ。
13	学生の作品を批評すると共にポップスにおけるリズムセクションを分析。
14	学生の作品を批評すると共にヒップホップ系音楽のリズムセクションを分析。
15	学生の作品を批評すると共に映画音楽におけるリズムトラックについて学ぶ。

授業計画	
	［後期］本コースの学生の志向は多岐に渡るため、一例として作曲系の学生のための授業計画を記す。
1	学生の作品を批評すると共にブラスセクションライティング①を学ぶ。　（金管楽器それぞれの音域や特性について）
2	学生の作品を批評すると共にブラスセクションライティング②を学ぶ。（　ポップスにおけるライティング）
3	学生の作品を批評すると共にブラスセクションライティング③を学ぶ。（ジャズ・スモール・アンサンブルにおけるライティング）
4	学生の作品を批評すると共にブラスセクションライティング④を学ぶ。　（ジャズ、ラージ・アンサンブルにおけるライティング）
5	学生の作品を批評すると共にブラスセクションライティング⑤を学ぶ。　（映画音楽におけるライティング）
6	学生の作品を批評すると共にストリングスセクションライティング①を学ぶ。　（弦楽器それぞれの音域や特性について）
7	学生の作品を批評すると共にストリングスセクションライティング②を学ぶ。（ポップスにおけるライティング）
8	学生の作品を批評すると共にストリングスセクションライティング③を学ぶ。　（ジャズ系の音楽におけるライティング）
9	学生の作品を批評すると共にストリングスセクションライティング④を学ぶ。　（映画音楽におけるライティング）
10	学生の作品を批評すると共にストリングスセクションライティング⑤を学ぶ。　（弦楽四重奏の書き方）
11	学生の作品を批評すると共にオーケストレーション①を学ぶ。　（木管楽器それぞれの音域と特性について）
12	学生の作品を批評すると共にオーケストレーション②を学ぶ。　（ポップス系の歌もののためのオーケストラ編曲について）
13	学生の作品を批評すると共にオーケストレーション③を学ぶ。　（叙情的作品のための書法）
14	学生の作品を批評すると共にオーケストレーション④を学ぶ。　（冒険物、アドベンチャー的ムードの映画音楽的作品のための書法）
15	プレゼンテーションに提出する作品に対して最終的なアドバイスを与え、前期、後期で学んだことのまとめを行う。

科目名	創作技法共同研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	渡辺　俊幸	授業コード	XGL050500	科目コード	GL0505d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音響の基本から、16chアナログミキサー、小型デジタルミキサーの操作を学び、アコースティック編成のミキシングが出来るようにします。リバーブなどエフェクターの基本知識を学びます。

２．授業概要

音響機材の扱い方や結線が個人で出来るようにします。ミキシングは2ch程度（A.G,Vo)から始まり、ミキシングチャンネルを増やして行きます。スタンド式パッシブスピーカーでのミキシングから、2Wayのバイアンプスピーカーでのミキシングを行う事により、サブウファーの意味を学びます。コンサートではとても重要なアーティストに対するモニターミキシング基礎知識とそのミキシングも学びます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レッスン終了後に学んだ事を、後日教室にて再度結線や機材を触る事が出来るのでより熟知する事が出来ます。音響用語に関してはインターネットでも検索する事が望ましいです。

４．成績評価の方法及び基準

年度末に共通実地試験を実施する。
各
サウンドチェック（所作）
ミキシング技術
芸術点

５．授業で使用するテキスト・参考文献

レッスンでの課題曲のアーティスト情報、歌詞、トラックシートなど。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１年生は入学前に、２～４年生は前年度末に、コース責任教員の承認を受けて、各自の担当教員を決定する。履修者各自が、自分の指向性と到達度を充分に認識した上で、積極的に履修することが求められる。

授業計画	
	【前期】 スタンドやケーブルの扱い方など音響機器の基礎を実践的学び、4ch程度のミキシングに対応できるようにする。
1	ガイダンス
2	マイク、マイクスタンドの扱い方。マイクケーブルの巻き方
3	マルチケーブルの巻き方、スタンド式スピーカーの立て方
4	コンソール、アンプ、スピーカーの結線の説明
5	コンソール、アンプ、スピーカーの結線を実習
6	Mixer Mackie 16ch,YAMAHA 01Vの使い方説明
7	2ch 音源　AG,Vocalのミキシング
8	2ch 音源　AG,Vocalのミキシング + Rev SPX2000の説明
9	モニタースピーカーの説明、使用目的など
10	2ch 音源（AG,Vocal）によるモニターミキシング
11	4ch 音源によるミキシング。Bass,Sax,AG,Vocal
12	4ch 音源によるミキシング。Bass,Sax,AG,Vocal + 歌詞の書き込み方
13	4ch 音源によるミキシング。Bass,Sax,AG,Vocal　完成。
14	生ピアノに対する、マイクアレンジ　PAの操作及び説明
15	生ピアノに対する、マイクアレンジ　PAの操作 -ミュージシャンによる-

授業計画	
	後期
1	2 Way Speakerの機材説明、結線方法。
2	2 Way Speakerの機材説明、結線を全員に行ってもらう
3	2 Way Speakerのチューニングの仕方。音源の選び方
4	Stand式フルレンジスピーカーにてドラムミックス
5	Stand式フルレンジスピーカー ＋ サブウファーにてドラムのミックス
6	Stand式フルレンジスピーカー ＋ サブウファーにてドラム、ベースのミックス
7	Stand式フルレンジスピーカー ＋ サブウファーにてドラム、ベース、ギターのミックス
8	生ドラム 、ギターアンプのマイクアレンジ実習
9	デジタルコンソール YAMAHA 01Vによるミキシング -Bass,Sax,AG,Vocal-
10	デジタルコンソール YAMAHA 01Vによるミキシング -ドラム音源 -
11	VocalとAG or Pianoのミキシング説明
12	VocalとAG or Pianoのミキシング実習 - ミュージシャン -
13	年度末試験の説明
14	年度末試験ミキシング練習
15	年度末試験ミキシング練習と総評

科目名	アドバンスト・サポート・レッスン１～４　［シラバス用］						
代表教員	渡辺　俊幸	授業コード	XGL054100	科目コード	GL0541d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SC	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基本的に創作技法研究Ⅰ～Ⅳに準ずるが、さらに高度なスキルを身につけるために研鑽を積むことにある。

２．授業概要

基本的に創作技法研究Ⅰ～Ⅳに準ずる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各指導教員により、個別に指示される。

４．成績評価の方法及び基準

学年末に実施する実技試験（プレゼンテーション）の採点による。採点に際しては、履修姿勢や平常努力も必然的に考慮されるが、専門研究を積極的に履修することは至極当然のことであり、評価は実技試験の素点を重視したものとなる。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員により、個別に指示される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

１年生は入学前に、コース責任教員の承認を受けて、各自の担当教員を決定する。履修者各自が、自分の指向性と到達度を充分に認識した上で、積極的に履修することが求められる。

授業計画	
	[前期]本コースの学生の志向は多岐に渡るため、一例として作曲系の学生のための授業計画を記す。
1	ガイダンス
2	学生の作品を批評すると共にビッグバンドライティングの基礎の解説。
3	学生の作品を批評すると共にビッグバンドライティングのためのクロマティックアプローチなど和声について学ぶ。
4	学生の作品を批評すると共にサックスソリについて学ぶ。
5	学生の作品を批評すると共にビッグバンドライティングのためにサド・ジョーンズのスコアを分析。
6	学生の作品を批評すると共にビッグバンドライティングのためにギル・エバンスのスコアを分析。
7	学生の作品を批評すると共にJ-Pop系の作品のストリングスを分析。
8	学生の作品を批評すると共にジャズ系作品のストリングスライティングを学ぶ。
9	学生の作品を批評すると共にアニメ系劇伴のストリングスライティングについて解説。
10	学生の作品を批評すると共にテレビドラマ系劇伴のためのストリングスライティングについて解説。
11	学生の作品を批評すると共にストリングス・オーケストラにおける様々な書法を学ぶ。
12	学生の作品を批評すると共に打ち込みと生演奏の融合について解説。
13	学生の作品を批評すると共に商業音楽における最先端のリズムセクションのあり方について解説。
14	学生の作品を批評すると共にサンプリング音源や異フェクトの効果的な使用による劇伴系の音楽の解説と分析。
15	学生の作品を批評すると共に前期に学んだ事のまとめ。

授業計画	
	[後期]本コースの学生の志向は多岐に渡るため、一例として作曲系の学生のための授業計画を記す。
1	学生の作品を批評すると共に映画音楽のための小編成のオーケストレーションを学ぶ。
2	学生の作品を批評すると共に映画音楽のための中編成のオーケストレーションを学ぶ。
3	学生の作品を批評すると共に映画音楽のための大編成のオーケストレーションを学ぶ。
4	学生の作品を批評すると共に映画音楽のためのSEも含めた様々な音源ソフトの使用法を学ぶ。
5	学生の作品を批評すると共に映画音楽のためのオーケストレーションの復習とまとめ。
6	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法①を学ぶ。　（映像に音楽をシンクロさせる方法）
7	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法②を学ぶ。　（リディアンモードによる作曲技法）
8	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法③を学ぶ。　（コンビネーション・オブ・ディミニッシュスケールによる作曲技法）
9	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法③を学ぶ。　（ポリコードの使用法）
10	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法④を学ぶ。　（ハイブリッドコードによる作曲技法）
11	学生の作品を批評すると共に映画のための作曲技法⑤を学ぶ。　（前回に続いてより高度なハイブリッドコードによる作曲技法）
12	学生の作品を批評すると共に著名な映画音楽家ジョン・ウィリアムズの作品を分析
13	学生の作品を批評すると共に著名な映画音楽家ジェームス・ニュートン・ハワードの作品を分析
14	学生の作品を批評すると共に著名な映画音楽家ブライアン・タイラーの作品を分析
15	プレゼンテーションに提出する作品に対して最終的なアドバイスを与え、前期、後期で学んだことのまとめを行う。

科目名	管楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	佛坂　咲千生	授業コード	XGL060100	科目コード	GL0601d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	WI	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

演奏家として各自の楽器における演奏技術を高め、様々な楽曲を経験し表現能力を深める。
クラシックのコースではあるが、現代の音楽シーンに対応すべく他のジャンルの演奏にも対応出来るスキルを身に付ける。
教育者をめざし、各自の楽器の演習から、情操教育としての音楽のあり方を深く考える。

２．授業概要

１、２年次は、基礎テクニックを中心に訓練する。楽曲は古典からロマン派、印象派までを中心に取り組む。
３、４年次は、高度なテクニックにチャレンジしたい。楽曲は、近現代へ広げる。特に卒業試験は、古典派から近現代に至る幅広い時代の作品から選択し、四年間の集大成として、取り組まねばならない。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎練習・エチュードの演奏・作品の分析・楽曲の譜読み。
クラシックまたその他のジャンルの音楽を時代を超えて聴く。

４．成績評価の方法及び基準

前期実技試験（30%）伴奏なしでエチュード等で基礎力を見る。
学年末実技試験（70%）ピアノ伴奏付きで技術力、アンサンブル力と供に各時代の音楽性を見る。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各楽器の担当教員により異なる。
学生は、必ずオーケストラ・スコア、ピアノ・スコアを用意すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	それぞれの学生に適した年間の学習計画を立てる。
2	学生の程度に適したエチュードの選定。
3	1年生/ 基礎的なエチュードのレッスン開始。 2・3・4年生/ 基礎的なエチュードのレッスン開始。
4	1年生/ エチュードのレッスン＋長調のスケール練習を開始。 2・3・4 年生/ 基礎的なエチュードの進行状況の確認。
5	1年生/ エチュードのレッスン＋長調のスケール練習の暗譜度を確認。 2・3・4 年生/ 基礎的なエチュードに加え音楽的なエチュードを開始。
6	1年生/ エチュードのレッスン＋短調のスケール練習を開始。 2・3・4年生/ 基礎的なエチュードと音楽的なエチュードの進行状況を確認。
7	1年生/ エチュードのレッスン＋短調のスケールの暗記度を確認。 2・3・4年生/ エチュードのレッスン＋それぞれの学生に適した楽曲選定。
8	1年生/ エチュードのレッスン＋それぞれの学生の適した練習曲の選定。 2・3・4年生/ エチュードのレッスン＋楽曲の譜読み状況の確認。
9	1年生/ エチュードのレッスン＋練習曲の譜読み状況の確認。 2・3・4年生/ エチュードのレッスン＋楽曲の音楽的解釈を深める。
10	1年生/ エチュードのレッスン＋練習曲に音楽的要素を加える。 2・3・4年生/ エチュードのレッスン＋楽曲の音楽的完成度を高める。
11	1・2・3・4年生/ 前期実技試験の課題について、それぞれの学生の状況を見て対策を考える。
12	1・2・3・4年生/ 前期実技試験の課題についての作品分析を行う。
13	1・2・3・4年生/ 前期実技試験の課題攻略の為の練習方法を考える。
14	1・2・3・4年生/ 前期実技試験課題の完成度を目指す。
15	1・2・3・4年生/ 前期実技試験の本番を想定しての試演を行う。

授業計画	
	［後期］
1	前期実技試験の結果を踏まえ、後期実技試験に向けてのレッスン計画を確認。
2	1年生/ 基礎的なエチュードの復習と新に音楽的なエチュードの選定。 2・3・4年生/ それぞれの学生に応じた難度の高いエチュードの選定。
3	1年生/ 基礎的なエチュード＋音楽的なエチュードのレッスン開始。 2・3・4年生/ 難度の高いエチュードのレッスン開始。
4	1年生/ 基礎的なエチュード＋音楽的なエチュードの進行状況を確認。 2・3・4年生/ 難度の高いエチュードの進行状況を確認。
5	1・2・3年生/ エチュード＋新規楽曲の選定。 4年生/エチュード＋ 卒業演奏に向け楽曲の選定。
6	1・2・3年生/ エチュード＋新規楽曲の作品分析。 4年生/ エチュード＋卒業演奏に向けての楽曲作品分析。
7	1・2・3年生/　エチュード＋楽曲の譜読み状況の確認。 4年生/ エチュード＋卒業演奏に向けての譜読み状況の確認。
8	1・2・3・4年生/ 作品のスコアを読みながら分析を行う。
9	1・2・3・4年生/ 伴奏ピアノを付けての演奏と作品分析を開始。
10	1・2・3・4年生/ 作品の技術的、音楽的な演奏の状況を確認。
11	1・2・3・4年生/ 演奏の完成度を高める為、演奏を録音し客観的に観察し修正が必要な部分を把握する。
12	1・2・3・4年生/　修正が必要な部分を改善する。
13	1・2・3・4年生/　修正が必要な部分の改善状況の確認と作品全体の流れを合わせる。
14	1・2・3・4年生/　後期実技試験、卒業演奏、に向け作品全体の仕上げを行い完成度を高める。
15	1・2・3・4年生/　後期実技試験、卒業演奏、の本番を想定して試演を行う。

科目名	弦楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	荒　庸子	授業コード	XGL070100	科目コード	GL0701d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

個人レッスンを主体とし、各楽器の奏法から音楽表現に至るまで、学生一人ひとりのレベルに合わせた授業を行う。プロフェッショナルな担当教員による、ソリスト・オーケストラ団員・室内楽奏者又は教育者などそれぞれの目標を見据えた、より実現性のあるレッスンを行う。

２．授業概要

４年間という短い期間の中で、学生一人ひとりの技術能力や演奏表現などを見据えて、１・２年では特に奏法の確立、３・４年ではより高度な奏法の修得と音楽表現への理解、その深さを学び、４年次の卒業試験ではその集大成として演奏する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習　選定された練習曲、課題曲の練習
復習　レッスンで受けたアドバイスに対する取り組み

４．成績評価の方法及び基準

前期試験（評価の３０％）
後期試験（評価の７０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各学生のレベル・課題に合わせたテキストを、教員との話し合いの中で決める。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

年間３０回のレッスンは、１回１回の積み重ねによって成り立っているので、予習と復習を怠らずレッスンを受ける事を望む。

授業計画	
	［前期］
1	それぞれの学生に適した年間の学習計画を立てる。
2	各々の学生に適した前期の練習曲、課題曲の選定。
3	基礎的な練習曲を使用してのレッスン＋長調の音階3オクターブを開始。
4	基礎的な練習曲＋長調の音階3オクターブの暗譜を確認。
5	基礎的な練習曲＋短調の音階3オクターブの練習を開始。
6	基礎的な練習曲＋短調の音階3オクターブの暗譜の確認。前期試験の音階並びに楽曲の選定。
7	基礎的な練習曲＋前期試験の音階＋楽曲の譜読み状況の確認。
8	前期実技試験の音階の暗譜＋楽曲の作品分析。
9	前期実技試験の音階＋楽曲の練習方法の分析。
10	前期実技試験の音階＋楽曲の音楽的解釈を高める為の分析。
11	前期実技試験の音階＋楽曲の暗譜状況の確認、並びに対策。
12	前期実技試験の音階＋楽曲を試験を想定して暗譜で演奏し、録音もする。修正、補足が必要な箇所の確認。
13	前期実技試験の課題攻略の為の練習方法を分析。
14	前期実技試験の音階＋楽曲の完成度を更に高めるための練習方法を考える。
15	前期実技試験の音階＋楽曲を本番を想定して試演する。

授業計画	
	［後期］
1	前期実技試験の結果を踏まえ、後期のレッスン計画を確認する。
2	長調の音階4オクターブ。後期の練習曲と課題曲、並びに後期実技試験曲の選定。
3	長調の音階4オクターブの暗譜＋各々に適した難易度の高い練習曲に於ける基礎力の向上＋課題曲の分析。
4	短調の音階4オクターブ＋各々に適した難易度の高い練習曲＋課題曲に於ける基礎力の向上。
5	短調の音階4オクターブの暗譜＋難易度の高い練習曲の新曲を選定。課題曲に於ける音楽的解釈の分析。
6	後期実技試験に向けての楽曲作品分析。
7	新規難易度の高い練習曲＋後期実技試験曲の譜読み状況の確認。
8	新規難易度の高い練習曲＋後期実技試験曲をスコアを見ながら作品を分析。
9	ピアノと一緒にレッスンをして、作品を分析し、更に音楽的な解釈を研究する。
10	技術的要素、並びに表現力の研究を深める。
11	後期実技試験曲の暗譜状況を確認する。
12	後期実技試験曲を暗譜でピアノと一緒に演奏し、録音もする。客観的に改善点を把握する。
13	前回の改善状況を確認し、練習方法を分析する。
14	更に完成度を高めるための練習方法の分析。
15	後期実技試験を想定して試演する。

科目名	打楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	神谷　百子	授業コード	XGL080100	科目コード	GL0801d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PI	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

打楽器を用いる音楽形態はソロ演奏、管弦楽、吹奏楽、軽音楽、室内楽、民族音楽など多種多様であり、それぞれで演奏形態や用いる打楽器が異なる。ここでは多種にわたる様々な打楽器の基本奏法の技術理解及び演奏技術向上を核とし様々な形態の音楽でそれを応用する事、また、音楽に応じた表現力をつけることを目標とする。

2．授業概要

実技担当教員が異なる為、上記の目標に従い各担当教員が適宜レッスンを行なう。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

各レッスンでの楽曲の演奏練習はもちろんの事、楽曲のアナリーゼ、作曲者について、
また作品が作曲された時代背景などについて研究しておくことが望ましい。

4．成績評価の方法及び基準

前・後期実技試験の総合評価

5．授業で使用するテキスト・参考文献

それぞれの実技担当教員が担当学生と相談の上決定する。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］
1	前期ガイダンス
2	１・２年生/基礎的内容１ SD：基礎打ち、MA：スケール等、今後様々な楽曲に取り組んでいくにあたって、まず必要な基礎力を習得する ３・４年生/前年度からの継続的課題、基礎の確認
3	１・２年生/基礎的内容２ SD：基礎打ち、MA：スケール等の完成度を高める。 ３・４年生/新しい楽曲に取り組む。読譜と楽曲の分析
4	１・２年生/基礎的内容３ SD：基礎打ち、MA：スケール等の習得から、実際の楽曲の中でそれらがどのように使用、反映されているかを実践練習する。 ３・４年生/取り組む楽曲の中に現れるリズム、ビート、メロディー、ハーモニーなどの要素の確認
5	１・２年生/基礎的内容４ SD：練習曲集等、MA：練習曲集等、これまでのレッスンで習得した基礎課題を実際の楽曲の中で演奏してみる ３・４年生/楽曲の演奏にあたっての表現力の強化
6	１・２年生/基礎的内容５ SD：練習曲集等、ＭＡ：練習曲集等を練習する中で音色の幅を広げる。また、ダイナミクスについて考察する。 ３・４年生/楽曲に応じた音色についての研究と考察
7	１・２年生/基礎的内容６ SD：練習曲集等、ＭＡ：練習曲集等、取り組んできた課題楽曲の演奏完成度を高める ３・４年生/取り組んできた楽曲の演奏完成度を高める。
8	１・２年生/基礎的独奏曲に取り組む。正しく読譜することに焦点をおく。 ３・４年生/非専攻分野（ＳＤ→ＭＡ、ＭＡ→ＳＤ）の課題に取り組み、自身の演奏の幅を広げる
9	１・２年生/基礎的独奏曲２ ３・４年生/非専攻分野（ＳＤ→ＭＡ、ＭＡ→ＳＤ）の課題に取り組み、リズム、ビート、メロディーの歌い方、フレーズの作り方、ハーモニーの感じ方などを研究する。
10	１・２年生/楽曲の表現力についての研究と考察 ３・４年生/取り組んでいる楽曲の演奏の音楽的完成度を高める
11	前期試験への楽曲の選考および決定、基本的な楽曲分析
12	１・２・３・４年生/前期試験への課題練習１ 細部にわたる楽譜の確認
13	１・２・３・４年生/前期試験への課題練習２ 音色について意識しながら楽曲の習得を目指す
14	１・２、３，４年生/前期試験への課題練習３ 表現についての最終研究と考察
15	１・２・３・４年生/前期試験への課題練習４ 楽曲の現時点での完成を目指す

授業計画	
	［後期］
1	後期ガイダンス
2	前期で学習した事柄の復習と確認
3	新規レパートリーへの課題 楽曲の読譜と細部にわたる確認を行う
4	新規レパートリーに必要な音、音色を深く研究、考察する
5	新規レパートリーに必要な表現の考察、楽曲演奏の現時点での完成を目指す
6	特殊楽譜・現代奏法の考察
7	特殊楽譜・現代奏法の楽曲内での実践
8	現代邦人作品に取り組む
9	取り組んでいる邦人作品の作曲家についての研究と考察。 その作曲家の他の作品を聴く、スコアを読むことで、実際に自分が演奏する作品に取り組む方法の選択肢を広げる
10	後期試験への楽曲の選考および決定、基本的な楽曲分析
11	後期試験への課題１ これまで学習してきたことを反映させた練習に取り組む
12	後期試験への課題２ 演奏の完成度を高めることへの研究と考察
13	後期試験への課題３ 楽曲を演奏する上での構成の確認
14	後期試験への課題４ 取り組んでいる楽曲の演奏の現時点での完成を目指す
15	今年度学習内容の総合演習、統括。

科目名	副科実技(ｸﾞﾙｰﾌﾟ/個人)各1～4-2 ［シラバス用］						
代表教員	未定	授業コード	XGL098100	科目コード	GL0981d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	全（MS・BL・AS・DC・SS除く）（CO・PF一部除く）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

副科実技は専門以外のレッスンを履修する科目で、総合的な音楽能力を高めることを目標とします。

２．授業概要

担当教員により異なる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスンによく準備して臨むこと。作品・楽器に対する知識を事前によく理解して授業に臨むこと。その他、担当教員の指示に従うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度、参加姿勢及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上、決定する。
参考文献については、レッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

（１）１年後期から４年後期までの履修科目（２）全ての科目において再履修は不可。（３）バレエ、ダンス以外の副科実技の場合は「個人レッスン」、バレエ、ダンスの場合は「グループレッスン」となる。また、コースにより履修できる楽器に制限があるので注意すること。
（４）履修人数の制限により、第一希望のレッスンを履修できない場合がある。
（５）履修登録手続について
半期ごとにSENZOKUポータルからの履修希望申請が必要。
・後期に履修を希望する場合は６月上旬、次年度前期に履修を希望する場合は１２月上旬頃に、登録手続についてSENZOKUポータルからの連絡を確認すること。・履修しようとする期の前の期に副科実技を履修している学生については、半期１５回のレッスン回数の２／３〔１０回〕以上の出席を満たさない場合、また期の中途での履修取消があった場合についても、次期「副科実技」は履修することはできない。
（６）出席状況が芳しくない場合は、履修登録を取消す場合がある。
（７）副科実技で使用する楽器は各自で用意することを前提とし、原則学校での貸出は行っていない。ピアノ、オルガン、電子オルガン、チェンバロ、ファゴット、ハープ、打楽器、和楽器の三味線、尺八、箏、鼓については学内の楽器を使用できるが、台数に限りがあり、レッスン以外では使用できない場合がある。

授業計画	
	［半期］ 個々人の目標や技量に応じてレッスンを行う。課題曲などは各人の希望や技量・進度を見極めながら、随時打ち合わせて決める。
1	ガイダンス（個人別到達目標と課題曲、目標進度などについて）
2	実技指導（１）楽器の扱い方
3	実技指導（2）練習方法
4	実技指導（3）基本的な奏法
5	実技指導（4）練習曲1-1　確認
6	実技指導（5）練習曲1-1　表現法
7	実技指導（6）練習曲1-1　表現の工夫
8	実技指導（7）練習曲1-1　表現の掘り下げ
9	実技指導（8）練習曲1-1　仕上げの演奏
10	実技指導（9）課題曲1-1　確認
11	実技指導（10）課題曲1-1　表現法
12	実技指導（11）課題曲1-1　表現の工夫
13	実技指導（12）課題曲1-1　表現の掘り下げ
14	実技指導（13）課題曲1-1　仕上げの演奏
15	実技試験とまとめ

科目名	音楽実技実習１～４　［シラバス用］CO						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL114600	科目コード	GL1146d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲を学ぶにあたっては様々な楽器と深く接することが必要不可欠だが、音楽実技実習は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。

副科実技として２０分のレッスンが用意されているコースが多いが、作曲コースの学生は一層深い学修が必要であるため、本講座において３０分の実技指導を受けることができる。

より高いレベルで楽器の知識や演奏法を修得し、総合的な音楽能力を高めることを目標とする。

なお、４年間での履修計画がはっきり定まっていない場合はピアノを履修することが望ましい。

２．授業概要

授業計画に沿って担当教員が適切に目標に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度と達成度を総合して成績を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

履修する楽器や到達目標により異なるため、担当教員が学生の状況を判断したうえでテキストを決定する。参考文献も授業内で紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題（練習曲、課題曲）を選択する。
1	ガイダンス（前期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	楽器の扱い方
3	練習方法
4	基本的な奏法
5	スケールの奏法（長調）　基礎
6	スケールの奏法（短調）　基礎
7	練習曲１　基礎的な奏法
8	練習曲１　表現方法
9	練習曲１　表現の工夫
10	練習曲１　演奏の仕上げ
11	課題曲１　基礎的な奏法
12	課題曲１　表現方法
13	課題曲１　表現の工夫
14	課題曲１　演奏の仕上げ
15	前期の試験と総括

授業計画	
	［後期］ 前期からの学修を継続し、新たな練習曲、課題曲を選択して取り組む。
1	ガイダンス（後期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	スケールの奏法（長調）　応用
3	スケールの奏法（短調）　応用
4	練習曲２　基礎的な奏法
5	練習曲２　表現方法
6	練習曲２　表現の工夫
7	練習曲２　演奏の仕上げ
8	課題曲２　基礎的な奏法
9	課題曲２　表現方法
10	課題曲２　表現の工夫
11	課題曲２　演奏の仕上げ
12	自由曲１　表現方法
13	自由曲１　表現の工夫
14	自由曲１　演奏の仕上げ
15	後期の試験と総括

科目名	音楽実技実習２～４　［シラバス用］ME						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XGL114700	科目コード	GL1147d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	専門選択(各コース)				
前提科目	特になし。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声楽、ピアノなど、任意の一楽器について、通年のレッスンを行う。将来、教育現場に立ったときに様々な形で活かせるよう、各学生の技能、目標に応じたレッスンにより、演奏実習の基礎と応用を学ぶ。なお、作曲・編曲系は対象外とする。

２．授業概要

授業計画にそってレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、実習進度に合わせ、実技曲演奏の予習、復習としての練習を欠かさないこと。

４．成績評価の方法及び基準

年度末に実技試験をして、平常の受講姿勢と合わせて総合的に評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員より随時紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アドバイジングを活用し、本人の指向に適合した演奏専攻を選択のこと。

授業計画	
	選択した演奏専攻の基礎を学ぶ。
1	前期ガイダンス(教材、実習曲の決定等)
2	演習曲①レッスン～精確な譜読み
3	演習曲①レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
4	演習曲①レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
5	演習曲①レッスン～奏法、歌唱をブラッシュアップ
6	演習曲①レッスン～演奏表現を工夫して
7	演習曲①レッスン～音色を意識して仕上げ
8	演奏のスキルアップについて前期中間チェック
9	演習曲②レッスン～精確な譜読み
10	演習曲②レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
11	演習曲②レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
12	演習曲②レッスン～奏法、歌唱をブラッシュアップ
13	演習曲②レッスン～演奏表現を工夫して
14	演習曲②レッスン～音色を意識して仕上げ
15	模擬実技試験、前期総括

授業計画	
	選択した演奏専攻の応用を学ぶ。
1	後期ガイダンス(教材、実習曲の決定等)
2	演習曲③レッスン～精確な譜読み
3	演習曲③レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
4	演習曲③レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
5	演習曲③レッスン～奏法、歌唱をブラッシュアップ
6	演習曲③レッスン～演奏表現を工夫して
7	演習曲③レッスン～音色を意識して仕上げ
8	演奏のスキルアップについて後期中間チェック
9	演習曲④レッスン～精確な譜読み
10	演習曲④レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
11	演習曲④レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
12	演習曲④レッスン～奏法、歌唱をブラッシュアップ
13	演習曲④レッスン～演奏表現を工夫して
14	演習曲④レッスン～音色を意識して仕上げ
15	実技試験、後期総括

科目名	ピアノ実技１～４　［シラバス用］						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGL115100	科目コード	GL1151d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

電子オルガン専攻学生がピアノの作品に数多く触れることにより教養を高め和声感、多様な表現法を学び、各自の専門が幅広くより豊かになることを目標とします。

２．授業概要

個々の計画、目標に沿って、授業を進めます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実技科目であるため、毎回の授業成果をあげる為に充分な予習、復習を必要とする

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び平常点により総合的に判定します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上、決定した楽曲の楽譜。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「ピアノ実技１」「ピアノ実技２」「ピアノ実技３」「ピアノ実技４」は「教職ピアノ」と同時に履修することが出来ます。

授業計画	
	［前期］個々の学生の学習の志向や音楽的追求のケースなどにより全く異なるが、例えば選択学習する一作品について３～４週程度のペースでそれぞれ読譜、奏法研究、音楽的研究、暗譜、仕上げなどの順序により学習を行う場合が考えられる。
1	年間の計画に従って個々の教材を決める
2	ピアノの発音構造の研究
3	電子オルガンとの表現方法の違いを研究
4	ピアノに特化して指の練習方法を指導
5	エチュードの選定及び練習方法の指導
6	研究作品の決定
7	作品研究
8	作曲家研究
9	作品に求められる音色の表現法研究
10	電子オルガンとの音作りの違いを研究
11	暗譜等により進度の深い音楽表現指導
12	前期成果中間発表
13	新しい研究課題決定
14	自己練習の方法を指導
15	前期の学習内容のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	後期の研究作品を決定
2	作品研究／分析
3	作曲家と歴史研究
4	時代背景及び世界史の研究
5	スタイルの違いによる奏法の比較研究
6	効率的な練習法の指導
7	ピアノ演奏に特化した身体の使い方の研究
8	後期成果中間発表
9	新しい研究作品の決定
10	作品研究／分析及び演奏研究
11	作曲家と時代特有の作風についての研究
12	時代背景及び文化史の研究
13	実技試験準備
14	年間の学習内容まとめ
15	ピアノ奏法の電子オルガンへの応用研究

科目名	音楽実技１～４　［シラバス用］						
代表教員	清水　昭夫	授業コード	XGL115600	科目コード	GL1156d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	CO	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲を学ぶにあたっては様々な楽器と深く接することが必要不可欠だが、音楽実技実習は希望する楽器の個人レッスンを履修できる科目である。

より高いレベルで楽器の知識や演奏法を修得し、総合的な音楽能力を高めることを目標とする。

なお、４年間での履修計画がはっきり定まっていない場合はピアノを履修することが望ましい。

２．授業概要

授業計画に沿って担当教員が適切に目標に導く。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当教員の指示に従い、予習、復習を行うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常の受講態度と達成度を総合して成績を評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

履修する楽器や到達目標により異なるため、担当教員が学生の状況を判断したうえでテキストを決定する。参考文献も授業内で紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

遅刻や早退３回を欠席１回にカウントする。

授業計画	
	［前期］ 担当教員は学生の状況に合わせて目標を設定し、適切な課題（練習曲、課題曲）を選択する。
1	ガイダンス（前期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	楽器の扱い方
3	練習方法
4	基本的な奏法
5	スケールの奏法（長調）　基礎
6	スケールの奏法（短調）　基礎
7	練習曲１　基礎的な奏法
8	練習曲１　表現方法
9	練習曲１　表現の工夫
10	練習曲１　演奏の仕上げ
11	課題曲１　基礎的な奏法
12	課題曲１　表現方法
13	課題曲１　表現の工夫
14	課題曲１　演奏の仕上げ
15	前期の試験と総括

授業計画	
	［後期］ 前期からの学修を継続し、新たな練習曲、課題曲を選択して取り組む。
1	ガイダンス（後期の到達目標や課題曲について計画を立てる）
2	スケールの奏法（長調）　応用
3	スケールの奏法（短調）　応用
4	練習曲２　基礎的な奏法
5	練習曲２　表現方法
6	練習曲２　表現の工夫
7	練習曲２　演奏の仕上げ
8	課題曲２　基礎的な奏法
9	課題曲２　表現方法
10	課題曲２　表現の工夫
11	課題曲２　演奏の仕上げ
12	自由曲１　表現方法
13	自由曲１　表現の工夫
14	自由曲１　演奏の仕上げ
15	後期の試験と総括

科目名	チェンバロ実習１・２　［シラバス用］						
代表教員	岡田　龍之介	授業コード	XGL147100	科目コード	GL1471d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

チェンバロ独特の表現法、発想法を学ぶことにより、１７、８世紀のチェンバロ音楽をより深く理解し、生き生きと再現できることを目標とする。

２．授業概要

実技担当教員により異なります。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

練習時間の割振表に従って、各自2時間ずつチェンバロを使った個人練習の時間を設けるので、それに従ってレッスン曲をさらってほしい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の１００％）（平常点も、参加姿勢もすべてこれに反映すると考えて）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

『ハープシコード・メソッド』
マリア・ボクソール（日本ショット社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「チェンバロ実習１」の履修希望者はオーディションを実施するので、必ず受験すること。

授業計画	
	［前期］ 　個人個人の技量や進度に応じてレッスンを行うため、各回の曲目やレッスン内容を一律には示せないが、前期まででテキストの課題を終えることを目標に授業を進める。
1	チェンバロ及びチェンバロ音楽について
2	基本となるタッチ、アーティキュレーションの指導
3	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（１）導入
4	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（２）導入・復習
5	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（３）基本
6	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（４）基本・復習
7	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（５）応用
8	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（６）応用・復習
9	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（７）発展
10	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（８）発展・復習
11	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（９）深化
12	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（１０）深化・復習
13	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（１１）仕上げ
14	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（１２）総仕上げ
15	テキスト（ハープシコード・メソッド）を使っての奏法指導（１３）まとめ

授業計画	
	［後期］ 後期は前期以上に個々人の特性に応じたレッスンを行う。課題曲などは個人別に相談して決める。
1	各個人の希望、技量に応じた後期課題曲の選定
2	課題曲に関する奏法指導（１）導入
3	課題曲に関する奏法指導（２）導入・応用
4	課題曲に関する奏法指導（３）基本
5	課題曲に関する奏法指導（４）基本・復習
6	課題曲に関する奏法指導（５）応用
7	課題曲に関する奏法指導（６）応用・復習
8	課題曲に関する奏法指導（７）発展
9	課題曲に関する奏法指導（８）発展・応用
10	課題曲に関する奏法指導（９）深化
11	課題曲に関する奏法指導（１０）深化・復習
12	課題曲に関する奏法指導（１１）仕上げ
13	課題曲に関する奏法指導（１２）総仕上げ
14	課題曲に関する奏法指導（１３）まとめ
15	課題曲に関する奏法指導（１４）とチェンバロ奏法の総括

科目名	ピアノ実技　［シラバス用］						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGL243900	科目コード	GL2439d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声楽を専門に学ぶ上で、総合的な音楽能力を高めることを目標とします。

２．授業概要

研究目的にそって個人レッスン形式で演習していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実技科目であるため、毎回の授業成果をあげる為に充分な予習・復習を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の５０％）
平常点（レッスン内での上達度）（評価の５０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上、決定した楽曲の楽譜。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［半期］個々の学生の学習の志向や音楽的追求のケースなどにより全く異なるが、例えば選択学習する一作品について３～４週程度のペースでそれぞれ読譜、奏法研究、音楽的研究、暗譜、仕上げなどの順序により学習を行う場合が考えられる。
1	ガイダンス（個人別到達目標と課題、目標進度などについて）
2	高音部譜表に関する譜読みのトレーニング及びピアノ奏法基礎
3	低音部譜表に関する読譜トレーニング及びピアノ奏法基礎
4	大譜表に関する読譜トレーニング及び奏法基礎
5	ピアノ奏法トレーニングのためのエチュードの選定
6	エチュードを用いた練習法の指導
7	ピアノ曲の選定
8	作品研究／分析、演奏研究など
9	譜読みのチェック及び奏法指導
10	声楽的な表現とピアノでの表現の関係について研究
11	暗譜等により、進度を深めた指導
12	選定した曲の仕上げとまとめ
13	声楽伴奏譜を研究課題として選定
14	作品の和声分析及びメロディーとの関係を研究
15	研究成果のまとめと、今後の学習方法を指導

科目名	総合音楽専門研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	XGL280100	科目コード	GL2801d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	GM	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各個人の選択している専門の項参照

２．授業概要

各個人の選択している専門の項参照

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ＣＤやＤＶＤなどでいろいろな演奏家の演奏に触れること。
その他、各個人の選択している専門の項参照

４．成績評価の方法及び基準

各個人の選択している専門の項参照

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各個人の選択している専門の項参照

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期／後期とも］ 総合音楽コースの専門実技はさまざまであり、詳細は各人の専門実技の項を参照のこと。 ここにあげた内容はすべての学年、レベル、専攻にあてはまるわけではない。また担当教員により内容は異なる。
1	総合音楽専門研究実技（１） ガイダンス
2	総合音楽専門研究実技（２） 基礎テクニックを中心に　―スケール、アルペジオ（長調）
3	総合音楽専門研究実技（３） 基礎テクニックを中心に ―スケール、アルペジオ（短調）
4	総合音楽専門研究実技（４） 基礎テクニックを中心に ―さまざまな奏法
5	総合音楽専門研究実技（５） 基礎テクニックを中心に ―特殊な奏法
6	総合音楽専門研究実技（６） 基礎テクニックを中心に ―速度の速いパッセージ
7	総合音楽専門研究実技（７） 基礎テクニックを中心に　―単純拍子, 複合拍子の練習曲
8	総合音楽専門研究実技（８） 基礎テクニックを中心に ―混合拍子の練習曲
9	総合音楽専門研究実技（９） 基礎テクニックを中心に ―変拍子の練習曲
10	総合音楽専門研究実技（１０） ピアノ伴奏とのアンサンブルの研究など
11	総合音楽専門研究実技（１１） 前期試験曲を中心に ―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
12	総合音楽専門研究実技（１２） 前期試験曲を中心に　―音色の研究
13	総合音楽専門研究実技（１３） 前期試験曲を中心に ―フレージングの研究
14	総合音楽専門研究実技（１４） 前期試験曲を中心に　―ニュアンスの研究
15	総合音楽専門研究実技（１５） 前期のまとめ

授業計画	
	[後期]
1	総合音楽専門研究実技（１） ガイダンス
2	総合音楽専門研究実技（２） 装飾音の研究
3	総合音楽専門研究実技（３） 古典的な作品 ―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
4	総合音楽専門研究実技（４） 古典的な作品 ―音色の研究
5	総合音楽専門研究実技（５） 古典的な作品 ―フレージングの研究
6	総合音楽専門研究実技（６） 古典的な作品 ―ニュアンスの研究
7	総合音楽専門研究実技（７） ロマン派、近代、現代の作品の研究 ―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
8	総合音楽専門研究実技（８） ロマン派、近代、現代の作品 ―音色の研究
9	総合音楽専門研究実技（９） ロマン派、近代、現代の作品 ―リズムの研究
10	総合音楽専門研究実技（１０） ロマン派、近代、現代の作品 ―フレージングの研究
11	総合音楽専門研究実技（１１） ロマン派、近代、現代の作品 ―ニュアンスの研究
12	総合音楽専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に　―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
13	総合音楽専門研究実技（１３） 後期試験曲を中心に　―音色の研究
14	総合音楽専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に ―フレージングの研究
15	総合音楽専門研究実技（１５） 後期試験曲を中心に ―ニュアンスの研究

科目名	ヴィオラ実習１－１～４－２　［シラバス用］						
代表教員	古川原　裕仁	授業コード	XGL332100	科目コード	GL3321d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	SI（VN）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

オーケストラ・室内楽に於いて中声部を担当するヴィオラを学ぶ事により、ヴァイオリン奏法と音楽への理解をより深いものとする。

２．授業概要

１・２年生では主にヴィオラ演奏技術の研究に重点をおき、３・４年生ではさらにオーケストラ・室内楽等でのヴィオラ演奏においての役割、奏法、表現を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

予習　選定された課題曲の練習
復習　レッスンで受けたアドバイスに対する取り組み

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

学生のレベルに合わせて教員が選択する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ヴィオラ専攻以外の弦楽器コースヴァイオリン専攻学生を対象とする。
楽器（ヴィオラ）は、希望者には大学側から貸与がある。

授業計画	
	［前期］
1	ヴィオラ譜（アルト記号）の読み方 教材の配布（基礎メソード＜エチュード、もしくはバッハソナタでも可＞と課題曲＜1曲目＞）
2	ヴィオラとヴァイオリンの奏法の相違点と共通点 発音の仕方の実践
3	基礎メソード＜1曲目＞確認・課題曲＜1曲目＞配布
4	基礎メソード＜1曲目＞定着・課題曲＜1曲目＞確認
5	基礎メソード＜2曲目＞確認・課題曲＜1曲目＞表現の工夫 オーケストラにおけるヴィオラの役割と奏法を学ぶ
6	基礎メソード＜2曲目＞定着・課題曲＜2曲目＞仕上げの演奏 室内楽におけるヴィオラの役割と奏法を学ぶ
7	基礎メソード＜3曲目＞確認・課題曲＜2曲目＞確認
8	基礎メソード＜3曲目＞定着・課題曲＜2曲目＞表現の工夫
9	基礎メソード＜4曲目＞確認・課題曲＜2曲目＞仕上げの演奏
10	基礎メソード＜4曲目＞定着・課題曲＜3曲目＞確認
11	基礎メソード＜5曲目＞確認・課題曲＜3曲目＞表現の工夫
12	基礎メソード＜5曲目＞定着・課題曲＜3曲目＞仕上げの演奏
13	基礎メソード＜6曲目＞確認・課題曲＜4曲目＞確認
14	基礎メソード＜6曲目＞定着・課題曲＜4曲目＞表現の工夫
15	課題曲＜4曲目＞仕上げとまとめの演奏 ヴィオラ奏法の構築確認

授業計画	
	［後期］
1	課題曲＜１曲目＞ 後期はバッハ・ソナタ6曲と課題曲での奏法研究に加え、希望者に対しては、 ・オーケストラオーディションで良く使用される曲目と箇所 ・オーケストラオーディション合格に向けての傾向と対策を指導する。
2	バッハ及び課題曲＜1曲目＞ 時代背景・様式を中心に
3	バッハ及び課題曲＜１曲目＞ 形式、和声を中心に
4	バッハ及び課題曲＜１曲目＞ 奏法、表現法、音色を中心に
5	バッハ及び課題曲＜１曲目＞ 表現の掘り下げ、仕上げとまとめ
6	バッハ及び課題曲＜2曲目＞ 時代背景・様式を中心に ヴィオラの楽器としての歴史を学ぶ
7	バッハ及び課題曲＜2曲目＞ 形式、和声を中心に ヴィオラの楽曲の歴史を学ぶ
8	バッハ及び課題曲＜2曲目＞ 奏法、表現法、音色を中心に
9	バッハ及び課題曲＜2曲目＞ 表現の掘り下げ、仕上げとまとめ
10	バッハ及び課題曲＜3曲目＞ 時代背景・様式を中心に ヴィオラの室内楽での役割を考える（作曲家別に）
11	バッハ及び課題曲＜3曲目＞ 形式、和声を中心に ヴィオラのオーケストラでの役割を考える
12	バッハ及び課題曲＜3曲目＞ 奏法、表現法、音色を中心に
13	バッハ及び課題曲＜3曲目＞ 表現の掘り下げ、仕上げとまとめ
14	バッハ及び課題曲＜4曲目＞ 奏法、表現法、音色を中心に
15	バッハ及び課題曲＜4曲目＞の仕上げとまとめ ヴィオラ奏法の構築（完成）

科目名	ギター奏法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	原　善伸	授業コード	XGL344100	科目コード	GL3441d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	GT	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

演奏者として、時代的にも地域的にも幅広いクラシックギターのレパートリーを演奏するための知識と能力を身につける。
教育者として、学習者に上記の知識と能力を的確に伝える技術を学ぶ。

2．授業概要

基礎練習、練習曲、課題曲を柱にレッスンを行なう。
学年末実技試験に向け実践的な指導を行なう。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

基礎練習、練習曲、課題曲を各自研究実践すること。

4．成績評価の方法及び基準

学年末実技試験(100%)

5．授業で使用するテキスト・参考文献

技術教本: プジョール技術教本、カルレバロ技術教本、パンピングナイロン

練習曲:　カルカッシ25の練習曲、ソル20の練習曲、ブローウエル20の練習曲、
コスト25の練習曲、レニアーニ36のカプリース、ヴィラ＝ロボス12の練習曲

演奏曲: バッハ/4つのリュート組曲、ソル/ソナタ、変奏曲、幻想曲、タレガ/前奏曲、舞曲、幻想曲
ポンセ、トロバ、トゥリーナ、タンスマン、テデスコなどのギター曲

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

クラシックギター演奏法および指導法への情熱と意欲を持っていること。

授業計画	
	［前期］ 基本的な技術の確認と達成をもとに練習曲や古典曲を研究し演奏法を学ぶ。
1	ガイダンス:前期レッスンの概要と指導法
2	プジョールによる基礎練習の方法と実践
3	カルレバロによる基礎練習法
4	パンピングナイロンの実践
5	カルカッシ25の練習曲の研究と実習
6	ソル20の練習曲の研究と実習
7	コスト25の練習曲の研究と実習
8	ブローウェル20の練習曲の研究と実習
9	レニアーニ36のカプリースの研究と実習
10	ヴィラ＝ロボス12の練習曲の研究と実習
11	バッハのリュートのための作品についての研究
12	バッハ/リュート組曲の成り立ちと演奏法
13	バッハ/ヴァイオリンのための作品の演奏法研究
14	バッハ/チェロのための作品と演奏法研究
15	前期のまとめと発表会

授業計画	
	［後期］ 引続き古典曲の研究実践を行い、ロマン派や近現代の作品の研究と演奏法を学ぶ。 学年末実技試験に向け演奏曲目を選定し音楽的表現を追求する。
1	ガイダンス:後期レッスンの概要と学年末実技試験への取り組み方
2	ソルの作品と演奏法研究
3	ジュリアーニの作品と演奏法研究
4	コストとメルツの作品と演奏法研究
5	レゴンディとアルカスの作品と演奏法研究
6	タレガの作品と演奏法研究
7	ポンセの作品と演奏法研究
8	トローバとトゥリーナの作品と演奏法研究
9	テデスコとタンスマンの作品と演奏法研究
10	ヴィラ＝ロボスの作品と演奏法研究
11	ディアンスとブローウェルの作品と演奏法研究
12	武満徹のギター作品の作品と演奏法研究
13	学年末実技試験の曲目選定
14	学年末実技試験演奏実習
15	学年末実技試験の反省と次年度に向けた課題

科目名	邦楽器奏法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	松尾　祐孝	授業コード	XGL350100	科目コード	GL3501d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	GH	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

自分が専攻する楽器の演奏の音楽性を磨き上げていくことが主眼となる。独奏、合奏（洋楽器とのコラボレーションを含む）、コンチェルトなどの様々な局面にも対応できる、多様な演奏能力を身につけることが目標となる。最終的には、自分なりの演奏スタイルを確立した演奏を実現していくこと、そしてその実力をもって、現代社会における邦楽界及び音楽界の中で、自分の居場所（活躍の場）を切り開いて行くことが望まれる。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。楽譜の奥までしっかり読み取り、音楽作りを行う。
和楽器専攻の教員による個人レッスン形式で授業を進める。指導教員は、オーダーメイドの授業スケジュールを組み立てながら指導を進めて行く。また、様々な現場に出張して実践活動を行うこともある。基本的なパターンとして、あるテーマに焦点を当てた指導を５回で１クールとして、1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜研究、3)課題作品研究、4)演奏ブラッシュアップ、5)練習成果最終チェックと講評、というサイクルを基本としていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・予習
譜読、五線譜の場合の楽譜への奏法譜の作成、CD等の音源がある場合の事前試聴、などの励行が必須と考えること。
・復習
レッスンで指摘された課題について、次回の練習までに克服するよう練習や研究を行うことが必須と考えること。
・・これらの毎日の励行が実力アップに直結する。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の８０％）
授業への参加姿勢（評価の２０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

指導教員に指示された楽譜をその都度用意すること。多くの場合、楽譜等の著作物が教材になるため、著作物に対する意識を持って、取扱いには慎重を期すこと。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜研究、3)課題作品研究、4)演奏ブラッシュアップ、5)練習成果最終チェックと講評、というサイクルを基本としていく。但し、受講学生の属性や現状の演奏能力に対応しながら指導内容が調整されるので、必ずしも下記授業計画が細部までそのまま適用されるとは限らない。担当教員と受講学生の間で共通認識を構築しながら進めていくものとする。
1	古典作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 導入編～演奏に向けての概説
2	古典作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 譜読み等、楽譜研究
3	古典作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 課題作品研究・・・演奏についての課題の洗い出し
4	古典作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	古典作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 練習成果最終チェックと講評
6	現代邦楽作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 導入編～演奏に向けての概説
7	現代邦楽作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 譜読み等、楽譜研究
8	現代邦楽作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 課題作品研究・・・演奏についての課題の洗い出し
9	現代邦楽作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	現代邦楽作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 練習成果最終チェックと講評
11	「和のいろは」公演楽曲演習 / 導入編～演奏に向けての概説
12	「和のいろは」公演楽曲演習 / 譜読み等、楽譜研究
13	「和のいろは」公演楽曲演習 / 課題作品研究・・・演奏についての課題の洗い出し
14	「和のいろは」公演楽曲演習 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	「和のいろは」公演楽曲演習 / 練習成果最終チェックと講評

授業計画	
	［後期］ 担当教員による個人指導を基本とする。必要に応じて、外部での研究活動（場合によっては演奏）等を組み合わせて進めていく。成果発表公演にも連携する場合がある。1)導入編～演奏に向けての概説、2)譜読み等、楽譜研究、3)課題作品研究、4)演奏ブラッシュアップ、5)練習成果最終チェックと講評、というサイクルを基本としていく。但し、受講学生の属性や現状の演奏能力に対応しながら指導内容が調整されるので、必ずしも下記授業計画が細部までそのまま適用されるとは限らない。担当教員と受講学生の間で共通認識を構築しながら進めていくものとする。
1	現代作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 導入編～演奏に向けての概説
2	現代作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 譜読み等、楽譜研究
3	現代作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 課題作品研究・・・演奏についての課題の洗い出し
4	現代作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
5	現代作品による専攻楽器演奏基礎演習 / 練習成果最終チェックと講評
6	「冬音邦楽コンサート」公演楽曲演習 / 導入編～演奏に向けての概説
7	「冬音邦楽コンサート」公演楽曲演習 / 譜読み等、楽譜研究
8	「冬音邦楽コンサート」公演楽曲演習 / 課題作品研究・・・演奏についての課題の洗い出し
9	「冬音邦楽コンサート」公演楽曲演習 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
10	「冬音邦楽コンサート」公演楽曲演習 / 練習成果最終チェックと講評
11	学年末試験演奏楽曲演習 / 導入編～演奏に向けての概説
12	学年末試験演奏楽曲演習 / 譜読み等、楽譜研究
13	学年末試験演奏楽曲演習 / 課題作品研究・・・演奏についての課題の洗い出し
14	学年末試験演奏楽曲演習 / 演奏ブラッシュアップ・・・課題の克服
15	学年末試験演奏楽曲演習 / 練習成果最終チェックと講評

科目名	ワールドミュージック専門研究Ⅰ-Ａ～Ⅳ-Ａ　［シラバス用］						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	XGL360100	科目コード	GL3601d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	GM	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各自の専攻する楽器、音楽を探求し、演奏技術および表現力の向上を図る。
到達目標
・伝統的なスタイルによる演奏が確実にできるようになる。
・新しい表現方法も探り、どのような場にもふさわしい音楽を提供できるようになる。

２．授業概要

ワールドミュージックコースの専門実技はさまざまであり、ここに記載されたレッスン内容はすべての学年、レベル、専攻にあてはまるわけではない。担当教員が学生個人の学習状況に応じてレッスンのプログラムを考え、課題を与えていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・教員から与えられた課題を練習する。（練習時間については担当教員の指示を仰ぐこと）
・ＣＤやＤＶＤなどでいろいろな演奏家の演奏に触れること。

４．成績評価の方法及び基準

実技試験　９０％
平常点　　１０％

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期／後期とも］ ワールドミュージックコースの専門実技はさまざまであり、ここにあげた内容はすべての学年、レベル、専攻にあてはまるわけではない。担当教員が学生個人の学習状況に応じてレッスンのプログラムを考え、課題を与えていく。
1	ワールドミュージック専門研究実技（１） ガイダンス
2	ワールドミュージック専門研究実技（２） 基礎テクニックを中心に　―スケール
3	ワールドミュージック専門研究実技（３） 基礎テクニックを中心に ―アルペジオ
4	ワールドミュージック専門研究実技（４） 基礎テクニックを中心に ―さまざまな奏法
5	ワールドミュージック専門研究実技（５） 基礎テクニックを中心に ―特殊な奏法
6	ワールドミュージック専門研究実技（６） 基礎テクニックを中心に ―速度の速いパッセージ
7	ワールドミュージック専門研究実技（７） 基礎テクニックを中心に ―単純拍子, 複合拍子の練習
8	ワールドミュージック専門研究実技（８） 基礎テクニックを中心に　―混合拍子、変拍子の練習
9	ワールドミュージック専門研究実技（９） 基礎テクニックを中心に ―様々なリズムの研究
10	ワールドミュージック専門研究実技（１０） 他の楽器とのアンサンブルの研究
11	ワールドミュージック専門研究実技（１１） 前期試験曲を中心に　―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
12	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 前期試験曲を中心に ―音色の研究
13	ワールドミュージック専門研究実技（１３） 前期試験曲を中心に ―フレージングの研究
14	ワールドミュージック専門研究実技（１４） 前期試験曲を中心に　―ニュアンスの研究
15	ワールドミュージック専門研究実技（１５） 前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	ワールドミュージック専門研究実技（１） ガイダンス
2	ワールドミュージック専門研究実技（２） 装飾音の研究
3	ワールドミュージック専門研究実技（３） 古典的な作品 ―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
4	ワールドミュージック専門研究実技（４） 古典的な作品 ―音色の研究
5	ワールドミュージック専門研究実技（５） 古典的な作品 ―フレージングの研究
6	ワールドミュージック専門研究実技（６） 古典的な作品 ―ニュアンスの研究
7	ワールドミュージック専門研究実技（７） 近代、現代の作品の研究　―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
8	ワールドミュージック専門研究実技（８） 近代、現代の作品　―音色の研究
9	ワールドミュージック専門研究実技（９） 近代、現代の作品　―リズムの研究
10	ワールドミュージック専門研究実技（１０） 近代、現代の作品 ―フレージングの研究
11	ワールドミュージック専門研究実技（１１） 近代、現代の作品 ―ニュアンスの研究
12	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に　―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
13	ワールドミュージック専門研究実技（１３） 後期試験曲を中心に　―音色の研究
14	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に ―フレージングの研究
15	ワールドミュージック専門研究実技（１５） 後期試験曲を中心に ―ニュアンスの研究

科目名	ワールドミュージック専門研究Ⅰ-B～Ⅳ-C　[シラバス用]						
代表教員	大江　千佳子	授業コード	XGL360500	科目コード	GL3605d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	GM	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

1．主題・到達目標

各自の専攻する楽器、音楽を探求し、演奏技術および表現力の向上を図る。
到達目標
・伝統的なスタイルによる演奏が確実にできるようになる。
・新しい表現方法も探り、どのような場にもふさわしい音楽を提供できるようになる。

2．授業概要

担当教員が学生個人の学習状況に応じてレッスンのプログラムを考え、課題を与えていく。各人の専攻の該当のコースの項を参照のこと。

3．授業時間外の学習（予習復習について）

該当のコースの項を参照のこと。

4．成績評価の方法及び基準

実技試験（詳しくは該当のコースの項を参照のこと。 ）

5．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員より指示する。
また、該当のコースの項を参照のこと。

6．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期／後期とも］ ワールドミュージックコースの専門実技はさまざまであり、詳細は各人の専門実技の項を参照のこと。 ここにあげた内容はすべての学年、レベル、専攻にあてはまるわけではない。また担当教員により内容は異なる。
1	ワールドミュージック専門研究実技（１） ガイダンス
2	ワールドミュージック専門研究実技（２） 基礎テクニックを中心に　―スケール
3	ワールドミュージック専門研究実技（３） 基礎テクニックを中心に ―アルペジオ
4	ワールドミュージック専門研究実技（４） 基礎テクニックを中心に ―さまざまな奏法
5	ワールドミュージック専門研究実技（５） 基礎テクニックを中心に ―特殊な奏法
6	ワールドミュージック専門研究実技（６） 基礎テクニックを中心に ―速度の速いパッセージ
7	ワールドミュージック専門研究実技（７） 基礎テクニックを中心に ―単純拍子, 複合拍子の練習
8	ワールドミュージック専門研究実技（８） 基礎テクニックを中心に ―混合拍子、変拍子の練習
9	ワールドミュージック専門研究実技（９） 基礎テクニックを中心に ―様々なリズムの練習
10	ワールドミュージック専門研究実技（１０） 他の楽器とのアンサンブルの研究
11	ワールドミュージック専門研究実技（１１） 前期試験曲を中心に ―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
12	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 前期試験曲を中心に ―音色の研究
13	ワールドミュージック専門研究実技（１３） 前期試験曲を中心に ―フレージングの研究
14	ワールドミュージック専門研究実技（１４） 前期試験曲を中心に　―ニュアンスの研究
15	ワールドミュージック専門研究実技（１５） 前期のまとめ

授業計画	
	［後期］
1	ワールドミュージック専門研究実技（１） ガイダンス
2	ワールドミュージック専門研究実技（２） 装飾音の研究
3	ワールドミュージック専門研究実技（３） 古典的な作品 ―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
4	ワールドミュージック専門研究実技（４） 古典的な作品 ―音色の研究
5	ワールドミュージック専門研究実技（５） 古典的な作品 ―フレージングの研究
6	ワールドミュージック専門研究実技（６） 古典的な作品 ―ニュアンスの研究
7	ワールドミュージック専門研究実技（７） 近代、現代の作品の研究 ―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
8	ワールドミュージック専門研究実技（８） 近代、現代の作品 ―音色の研究
9	ワールドミュージック専門研究実技（９） 近代、現代の作品 ―リズムの研究
10	ワールドミュージック専門研究実技（１０） 近代、現代の作品 ―フレージングの研究
11	ワールドミュージック専門研究実技（１１） 近代、現代の作品 ―ニュアンスの研究
12	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に　―作曲年代からの楽譜の考察、基本的なテクニックの確認
13	ワールドミュージック専門研究実技（１３） 後期試験曲を中心に　―音色の研究
14	ワールドミュージック専門研究実技（１２） 後期試験曲を中心に ―フレージングの研究
15	ワールドミュージック専門研究実技（１５） 後期試験曲を中心に ―ニュアンスの研究

科目名	ヴォイストレーニング１～４　［シラバス用］						
代表教員	三橋　千鶴	授業コード	XGL375100	科目コード	GL3751d	期間	通年
担当教員	篠原　真						
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	MS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌唱の基礎となるヴォーカルテクニックを習得することを目標とする。ブレスの正しい使い方、声域・声量の幅を広げること、身体を使い喉に負担をかけず歌うことに重点をおいてレッスンする。特にベルティング唱法については、それぞれ個人差はあるが、正しくマスターできるように指導する。

２．授業概要

それぞれの学生の能力に合わせた授業計画に沿って、歌唱技法の習得、および実習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題に対する予備知識を習得しておくこと。（歌詞の意味、歌われる場面、作品の内容、時代背景など）
最終的にはレッスンで学んだ曲は暗譜する。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

コンコーネ50番、25番、イタリア歌曲集、ミュージカルナンバー、

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特になし

授業計画	
	［前期］ 　学生一人ひとりの歌唱能力に合わせた個人レッスン。発声法、呼吸法を学ぶ。使用楽曲は、コンコーネ50番、又は25番、ミュージカルナンバー、場合によってはイタリア歌曲など。
1	歌唱実習＃1 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo1 2年生：コンコーネ50番のNo21 3年生：コンコーネ50番のNo31 4年生：コンコーネ50番のNo41 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
2	歌唱実習＃2 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo2 2年生：コンコーネ50番のNo21の暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo31の暗譜歌唱 4年生：コンコーネ50番のNo41の暗譜歌唱 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
3	歌唱実習＃3 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo3 2年生：コンコーネ50番のNo22 3年生：コンコーネ50番のNo32 4年生：コンコーネ50番のNo42 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
4	歌唱実習＃4 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo4 2年生：コンコーネ50番のNo22の暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo32の暗譜歌唱 4年生：コンコーネ50番のNo42の暗譜歌唱 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
5	歌唱実習＃5 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo5 2年生：コンコーネ50番のNo23 3年生：コンコーネ50番のNo33 4年生：コンコーネ50番のNo43 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
6	歌唱実習＃6 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo6 2年生：コンコーネ50番のNo23の暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo33の暗譜歌唱 4年生：コンコーネ50番のNo43の暗譜歌唱 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
7	歌唱実習＃7 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo7 2年生：コンコーネ50番のNo24 3年生：コンコーネ50番のNo34 4年生：コンコーネ50番のNo44 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
8	歌唱実習＃8 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo8 2年生：コンコーネ50番のNo24の暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo34の暗譜歌唱 4年生：コンコーネ50番のNo44の暗譜歌唱 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
9	歌唱実習＃9 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo9 2年生：コンコーネ50番のNo25 3年生：コンコーネ50番のNo35 4年生：コンコーネ50番のNo45 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱

10	歌唱実習＃10 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo10 2年生：コンコーネ50番のNo25の暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo35の暗譜歌唱 4年生：コンコーネ50番のNo45の暗譜歌唱 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
11	歌唱実習＃11 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo11 2年生：コンコーネ50番のNo26 3年生：コンコーネ50番のNo36 4年生：コンコーネ50番のNo46 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
12	歌唱実習＃12 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo11の暗譜歌唱 2年生：コンコーネ50番のNo26の暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo36の暗譜歌唱 4年生：コンコーネ50番のNo46の暗譜歌唱 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
13	歌唱実習＃13 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo12 2年生：コンコーネ50番のNo27 3年生：コンコーネ50番のNo37 4年生：コンコーネ50番のNo47 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
14	歌唱実習＃14 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo12の暗譜歌唱 2年生：コンコーネ50番のNo27の暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo37の暗譜歌唱 4年生：コンコーネ50番のNo47の暗譜歌唱 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱
15	歌唱実習＃15 発声、 1年生：ボディーマッピング、コンコーネ50番のNo13 2年生：コンコーネ50番のNo28 3年生：コンコーネ50番のNo38 4年生：コンコーネ50番のNo48 それぞれの声質、声域にあったミュージカルナンバーの歌唱

授業計画	
	［後期］前期に同じ。試験曲（コンコーネ、ミュージカルナンバー）をみこした指導を含む。
1	歌唱実習＃1 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo13の暗譜歌唱 2年生：コンコーネ50番のNo28の暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo38の暗譜歌唱 4年生：コンコーネ50番のNo48の暗譜歌唱 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
2	歌唱実習＃2 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo14 2年生：コンコーネ50番のNo29 3年生：コンコーネ50番のNo39 4年生：コンコーネ50番のNo49 それぞれの声質、声域にあった学年末試験を見越したミュージカルナンバーの歌唱
3	歌唱実習＃3 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo14の暗譜歌唱 2年生：コンコーネ50番のNo29の暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo39の暗譜歌唱 4年生：コンコーネ50番のNo49の暗譜歌唱 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
4	歌唱実習＃4 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo15 2年生：コンコーネ50番のNo30 3年生：コンコーネ50番のNo40 4年生：コンコーネ50番のNo50 それぞれの声質、声域にあった学年末試験を見越したミュージカルナンバーの歌唱
5	歌唱実習＃5 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo15の暗譜歌唱 2年生：コンコーネ50番のNo30の暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo40の暗譜歌唱 4年生：コンコーネ50番のNo50の暗譜歌唱 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
6	歌唱実習＃6 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo16 2年生：コンコーネ50番のNo20番台をランダムに歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo30番台をランダムに歌唱 4年生：コンコーネ25番のNo1の歌唱 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
7	歌唱実習＃7 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo16を暗譜歌唱 2年生：コンコーネ50番のNo20番台をランダムに歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo30番台をランダムに歌唱 4年生：コンコーネ25番のNo2 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
8	歌唱実習＃8 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo17番 2年生：コンコーネ50番のNo20番台をランダムに歌唱と31番 3年生：コンコーネ50番のNo30番台をランダムに歌唱と41番 4年生：コンコーネ25番のNo2の歌唱 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
9	歌唱実習＃9 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo17番を暗譜歌唱 2年生：コンコーネ50番のNo20番台をランダムに歌唱と31番を暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo30番台をランダムに歌唱と41番を暗譜歌唱 4年生：コンコーネ25番のNo2の歌唱 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱

10	歌唱実習＃10 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo18番 2年生：コンコーネ50番のNo20番台をランダムに歌唱と 32番 3年生：コンコーネ50番のNo30番台をランダムに歌唱と 42番 4年生：コンコーネ25番のNo3 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
11	歌唱実習＃11 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo18番暗譜歌唱 2年生：コンコーネ50番のNo20番台をランダムに歌唱と32番暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo30番台をランダムに歌唱と42番暗譜歌唱 4年生：コンコーネ25番のNo4 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
12	歌唱実習＃12 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo19 2年生：コンコーネ50番のNo20番台をランダムに歌唱と33番 3年生：コンコーネ50番のNo30番台をランダムに歌唱と43番 4年生：コンコーネ25番のNo5 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
13	歌唱実習＃13 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo19暗譜歌唱 2年生：コンコーネ50番のNo20番台をランダムに歌唱と33番暗譜歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo30番台をランダムに歌唱と43番暗譜歌唱 4年生：コンコーネ25番のNo6 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
14	歌唱実習＃14 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo20 2年生：コンコーネ50番のNo20番台をランダムに歌唱と34番 3年生：コンコーネ50番のNo30番台をランダムに歌唱と44番 4年生：コンコーネ25番のNo7 それぞれの声質、音域にあった学年末試験を見据えたミュージカルナンバーの歌唱
15	歌唱実習＃15 発声、 1年生：コンコーネ50番のNo20暗譜歌唱,試験曲歌唱 2年生：コンコーネ50番のNo20番台をランダムに歌唱と34番暗譜歌唱、試験曲歌唱 3年生：コンコーネ50番のNo30番台をランダムに歌唱と44番暗譜歌唱、試験曲歌唱 4年生：コンコーネ25番のNo8、試験曲歌唱

科目名	作曲基礎研究１～４　［シラバス用］						
代表教員	浦壁　信二	授業コード	XGL420100	科目コード	GL4201d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF(P-Com)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

作曲（音楽の創作）の基礎を学び実践する。自由な創作および作曲理論、また楽曲の分析的理解力を身につける。

２．授業概要

作曲技法の習得、及び理論実習、楽曲研究。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に実習による修練であるため、各自の自習による予習・復習が重要であることは言うまでもない。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
授業への参加姿勢（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特に指定しない

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ＆作曲マスタークラスの学生であること。

授業計画	
	［前期］ 個人レッスンのため、各個人の技量に応じ、各担当教員が上記、授業概要の内容を満遍なく実施する。例として（1週目）学生の作曲作品への指導→（2週目）修正に対する指導→（3週目）新たな課題の提案と指導／あるいは、（1週目）和声法の講義と指導→（2週目）和声課題の実施に対する指導→（3週目）修正に対する指導と新たな課題提示／などを常に繰り返して指導を行っていくことが挙げられる。これは該当学生の志向や進度の状況により異なることが明らかであるため以下の授業計画はあくまでも一例でありこの限りではないことは言うまでもない。
1	作曲基礎研究（1）作曲作品の構想計画
2	作曲基礎研究（2）創作の成果に対する指導
3	作曲基礎研究（3）創作指導に対する成果の検証
4	作曲基礎研究（4）作曲理論の指導
5	作曲基礎研究（5）作曲理論指導成果への考察
6	作曲基礎研究（6）作曲理論の新たな課題に対する指導
7	作曲基礎研究（7）前回の指導成果に対する考察
8	作曲基礎研究（8）新たな創作作品への指導
9	作曲基礎研究（9）前回の指導成果に対する考察と新たな指導
10	作曲基礎研究（10）前回の成果に対する考察、次回創作への計画
11	作曲基礎研究（11）新創作作品に対する指導
12	作曲基礎研究（12）前回の指導成果に対する考察、書式・記譜法の指示など
13	作曲基礎研究（13）書式指導成果に対する考察や演奏家との練習
14	作曲基礎研究（14）演奏の検証と書式の変更等の指導
15	作曲基礎研究（15）前期の総括

授業計画	
	［後期］ 前期授業計画に準ずる。
1	作曲基礎研究（1）　後期の創作計画の修正等
2	作曲基礎研究（2）　作曲理論課題実施
3	作曲基礎研究（3）　作曲理論課題に対する指導
4	作曲基礎研究（4）　前回の指導に対する成果への考察
5	作曲基礎研究（5）　学生の創作作品への指導
6	作曲基礎研究（6）　前回の指導成果への考察
7	作曲基礎研究（7）　学生の創作内容に鑑み選出した作品の分析
8	作曲基礎研究（8）　前回分析指導からの成果発表
9	作曲基礎研究（9）　前回成果発表に対する指導、新たな創作作品の計画
10	作曲基礎研究（10）　新作への指導
11	作曲基礎研究（11）　指導成果への考察と新たな課題指示
12	作曲基礎研究（12）　課題創作への指導
13	作曲基礎研究（13）　楽器法の研究
14	作曲基礎研究（14）　前回課題への指導
15	作曲基礎研究（15）　後期の総括

科目名	指導法研究１－Ｉ～２－Ｉ　［シラバス用］						
代表教員	江崎　昌子	授業コード	XGL420500	科目コード	GL4205d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF(ピアノ指導者養成クラスのみ)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」および「コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ」の2科目を履修すること。また、音楽教室グレード対策講座のIとII、及びピアノ指導法IとIIを推奨科目とする。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ピアノ指導者養成クラス」

クラシックピアノ演奏力を軸に、中高教員、音楽教室指導者、レスナー等に要求されるさまざまなシチュエーションでの対応力を持ち、教育の場で若者の自由な創造力をのびのびと引き出せる人材を育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」として、以下の５つの専門から各自の目標に合わせて半期ごとに選択。
●ピアノ指導法/ コミュニケーション・スタディ
●電子オルガン実技
●リードシート伴奏法/弾き歌い/即興演奏
●ピアノ初級作品研究/レパートリー
●御木本メソッド

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上、決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次の学年末にオーディションにより選抜。

授業計画	
	[半期]
1	第二専攻実技レッスン（1） ガイダンス
2	第二専攻実技レッスン（2） 指導法課題曲選択
3	第二専攻実技レッスン（3） 課題曲分析　　様式を中心に
4	第二専攻実技レッスン（4） 課題曲分析　　和声を中心に
5	第二専攻実技レッスン（5） 基本的な奏法
6	第二専攻実技レッスン（6） 表現法の研究
7	第二専攻実技レッスン（7） 表現法の工夫
8	第二専攻実技レッスン（8） 具体的な練習方法の研究
9	第二専攻実技レッスン（9） 練習方法確認
10	第二専攻実技レッスン（10） レッスン形式における実践的な指導法
11	第二専攻実技レッスン（11） レッスン形式指導法の反省
12	第二専攻実技レッスン（12） 指導者クラス発表会に向けての準備
13	第二専攻実技レッスン（13） 指導者クラス発表会での発表
14	第二専攻実技レッスン（14） レポート作成
15	第二専攻実技レッスン（15） まとめ

科目名	指導法研究１－Ⅱ～２－Ⅱ　［シラバス用］						
代表教員	江崎　昌子	授業コード	XGL420600	科目コード	GL4206d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF（ピアノ指導者養成クラスのみ）	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」および「コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ」の2科目を履修すること。また、音楽教室グレード対策講座のIとII、及びピアノ指導法IとIIを推奨科目とする。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「ピアノ指導者養成クラス」

クラシックピアノ演奏力を軸に、中高教員、音楽教室指導者、レスナー等に要求されるさまざまなシチュエーションでの対応力を持ち、教育の場で若者の自由な創造力をのびのびと引き出せる人材を育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」として、以下の５つの専門から各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●ピアノ指導法/ コミュニケーション・スタディ
●電子オルガン実技
●リードシート伴奏法/弾き歌い/即興演奏
●ピアノ初級作品研究/レパートリー
●御木本メソッド

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上、決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次の学年末にオーディションにより選抜。

授業計画	
	[半期]
1	第二専攻実技レッスン（1） ガイダンス
2	第二専攻実技レッスン（2） 指導法課題曲選択
3	第二専攻実技レッスン（3） 課題曲分析　　様式を中心に
4	第二専攻実技レッスン（4） 課題曲分析　　和声を中心に
5	第二専攻実技レッスン（5） 基本的な奏法
6	第二専攻実技レッスン（6） 表現法の研究
7	第二専攻実技レッスン（7） 表現法の工夫
8	第二専攻実技レッスン（8） 具体的な練習方法の研究
9	第二専攻実技レッスン（9） 練習方法確認
10	第二専攻実技レッスン（10） レッスン形式における実践的な指導法
11	第二専攻実技レッスン（11） レッスン形式指導法の反省
12	第二専攻実技レッスン（12） 指導者クラス発表会に向けての準備
13	第二専攻実技レッスン（13） 指導者クラス発表会での発表
14	第二専攻実技レッスン（14） レポート作成
15	第二専攻実技レッスン（15） まとめ

科目名	ピアノ奏法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGL421600	科目コード	GL4216d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

大学に入るまでのピアノとの関わりは、誰一人として同じ人はいないと思います。
そして将来においても同じ事が言えます。それぞれが自分のテクニック、感性、知識をいつも見つめ、いろいろな曲に取りくんで努力、工夫、緊張、喜び、そして教わる事（伝承）を学んでください。自分を高めていく為に担当教員と相談しながら４年間を計画的に過ごして下さい。成果は実技試験の他、学内外の演奏会でも発表する機会が用意されています。

２．授業概要

在学生は１月～２月、新入生は4月に担当教員と相談の上、教育実習、介護等体験、各種オーディション、コンクール等の計画、又それぞれの学習進度によって一年間の計画をたてて希望する試験受験期間を決めて提出し、それに伴って個々に授業計画をたてる。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。
一日平均3～4時間が目安となる。

４．成績評価の方法及び基準

実技試験の成績（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上、決定した楽曲の楽譜。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

希望者は、二年次終了時のオーディションにより選抜され（各クラス定員5名）、それぞれ ＜指導者養成クラス＞ ＜アドヴァンスト・ポピュラー・スタディー･クラス＞ ＜アンサンブル・スタディ･クラス＞ へ進むことができます。

授業計画	
	［前期］個々の学生の学習の志向や音楽的追求のケースなどにより全く異なるが、例えば選択学習する一作品について３～４週程度のペースでそれぞれ読譜、奏法研究、音楽的研究、暗譜、仕上げなどの順序により学習を行う場合が考えられる。なお、各回の授業計画に一例を挙げるが、履修者の志向、進度によりこれらは全く異なる場合が起こりうることは言うまでもない。
1	個々の年間の計画により教材を決定する
2	作品研究
3	練習方法指導
4	研究課題の奏法研究
5	暗譜等による、技術的に安定した演奏を目的とした指導
6	前期中間成果発表
7	新しい研究作品の指導／分析
8	前回の作品と比較研究
9	作品のスタイルの違いによる奏法比較研究
10	暗譜等により豊かな表現を目指した指導
11	前期試験曲の研究と決定
12	前期試験曲のより詳細な楽曲分析と研究
13	前期実技試験準備
14	前期研究内容のまとめ
15	前期試験のための仕上げ

授業計画	
	［後期］
1	後期の研究課題の計画考察
2	前期指導内容の振り返り及び発展
3	研究作品の指導／分析、演奏研究など
4	奏法指導・練習方法指導
5	研究課題の奏法応用研究
6	暗譜等により音楽的進度を深めた指導
7	後期中間成果発表
8	新しい研究作品の指導／分析、演奏研究など
9	前回の作品との差異を比較研究
10	作品のスタイルの違いによる奏法比較と応用
11	作曲家研究、時代背景研究
12	暗譜等による、より豊かな表現と音楽的進度を深めた指導
13	後期実技試験準備
14	後期研究内容のまとめ
15	後期試験のための仕上げ

科目名	ポピュラーミュージック研究１－Ⅰ～2－Ⅰ　[シラバス用]						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	XGL422600	科目コード	GL4226d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF(アドバンスト・ポピュラー・スタディ・クラスのみ)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」および「コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ」の2科目を履修すること。また、音楽教室グレード対策講座のIとII、及びピアノ指導法IとIIを推奨科目とする。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「アドバンスト・ポピュラー・スタディ・クラス」
クラシックピアノ演奏力を軸に、「クラシックの品位」「ジャズのセンス」「ポップスのポピュラリティ」を備えたピアニストの育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」 として、以下の２つの専門から各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●ポピュラースタイル・ピアノレッスン

●ジャズスタイル・ピアノレッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次の学年末にオーディションにより選抜。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの基礎知識を学ぶ・入門編
3	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの基礎知識を学ぶ・応用編
4	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの基本的奏法を学ぶ・入門編
5	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの基本的奏法を学ぶ・応用編
6	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの音色感を学ぶ・入門編
7	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの音色感を学ぶ・応用編
8	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの機能感を学ぶ・入門編
9	ポピュラーピアノ・ジャズピアノの機能感を学ぶ・応用編
10	編曲やアドリブを学ぶ・入門編
11	編曲やアドリブを学ぶ・初級編
12	編曲やアドリブを学ぶ・中級編
13	成果発表演奏会に向けての準備・選曲など
14	成果発表会に向けての準備・編曲や作曲など
15	成果発表会に向けての準備・合わせ練習など

科目名	ポピュラーミュージック研究１－Ⅱ～2－Ⅱ　［シラバス用］						
代表教員	鳥羽瀬　宗一郎	授業コード	XGL422700	科目コード	GL4227d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF(アドバンスト・ポピュラー・スタディ・クラスのみ)	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」および「コミュニケーション&セルフマネージメント・スタディ」の2科目を履修すること。また、音楽教室グレード対策講座のIとII、及びピアノ指導法IとIIを推奨科目とする。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「アドバンスト・ポピュラー・スタディ・クラス」
クラシックピアノ演奏力を軸に、「クラシックの品位」「ジャズのセンス」「ポップスのポピュラリティ」を備えたピアニストの育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」 として、以下の２つの専門から各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●ポピュラースタイル・ピアノレッスン

●ジャズスタイル・ピアノレッスン

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上決定する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次の学年末にオーディションにより選抜。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス
2	編曲やアドリブを学ぶ・上級編
3	編曲やアドリブを学ぶ・応用編
4	歌や他楽器とのコラボレーションを想定しての編曲を学ぶ
5	歌や他楽器とのコラボレーションを想定してのアドリブ等を学ぶ
6	自作曲に取り組む・入門編
7	自作曲に取り組む・応用編
8	自作曲に取り組む・発展編
9	自作品の発表（レッスン内にて）
10	成果発表会に向けての準備・選曲や編成決め
11	成果発表会に向けての準備・作曲や編曲
12	成果発表会に向けての準備・作曲や編曲の発展
13	成果発表会に向けての準備・作曲や編曲した作品の楽譜作り
14	成果発表会に向けての準備・歌や他楽器との合わせ
15	成果発表会に向けての準備・発表作品の総仕上げ

科目名	アンサンブル奏法研究１－Ⅰ～２－Ⅰ　［シラバス用］						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGL427300	科目コード	GL4273d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF（アンサンブル・スタディ・クラ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」を履修すること。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「アンサンブル・スタディ・クラス」

クラシックピアノ演奏力を軸に、他楽器に関する深い知識を有し、音楽的に高度なコミュニケーションができる、伴奏者、室内楽の専門家等を育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」として、以下の３つの専門から、各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●器楽伴奏法/器楽アンサンブル

●声楽伴奏法

●バレエ・ダンス伴奏法

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために、予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上決定した楽曲の楽譜。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次学年末のオーディションにより選抜。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、担当教官と面談。 半期のスケジュール、曲目等を決定する。
2	課題曲１の譜読みと確認。
3	課題曲１の安定した演奏と楽曲分析。
4	課題曲１の表現の工夫。
5	課題曲１の仕上げの演奏。
6	課題曲２の譜読み、音楽の全体像をつかむ。
7	課題曲２の安定した演奏とテンポの統一。
8	課題曲２の難しいパッセージの徹底練習と表現の工夫。
9	課題曲２の仕上げの演奏とまとめ。
10	課題曲３の譜読み。音楽の全体像をつかみながら、拍子を意識出来るようにする。
11	課題曲３の安定した演奏と豊かな表現を目指す。
12	課題曲３の表現の工夫と確認。
13	課題曲３のステージを意識した演奏。
14	課題曲１～３のステージを意識した演奏についての研究。
15	課題曲１～３のまとめ。

科目名	アンサンブル奏法研究１－Ⅱ～２－Ⅱ　［シラバス用］						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGL427400	科目コード	GL4274d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	PF（アンサンブル・スタディ・クラス）のみ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	当クラス編入者は、卒業時までに「応用キーボードソルフェージュ」を履修すること。						
教員免許状							

１．主題・到達目標

「アンサンブル・スタディ・クラス」

クラシックピアノ演奏力を軸に、他楽器に関する深い知識を有し、音楽的に高度なコミュニケーションができる、伴奏者、室内楽の専門家等を育成。

２．授業概要

「第二専攻実技レッスン」として、以下の３つの専門から、各自の目標に合わせて半期ごとに選択。

●器楽伴奏法/器楽アンサンブル

●声楽伴奏法

●バレエ・ダンス伴奏法

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために、予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

レッスン内での平常点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上決定した楽曲の楽譜。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

二年次学年末のオーディションにより選抜。

授業計画	
	［半期］
1	ガイダンス、担当教官と面談。 半期のスケジュール、曲目等を決定する。
2	課題曲１の譜読みと確認。
3	課題曲１の安定した演奏と楽曲分析。
4	課題曲１の表現の工夫。
5	課題曲１の仕上げの演奏。
6	課題曲２の譜読み、音楽の全体像をつかむ。。
7	課題曲２の安定した演奏と難しいパッセージの徹底練習。
8	課題曲２の豊かな表現の研究と工夫。
9	課題曲２の仕上げの演奏とまとめ。
10	課題曲３の譜読み、音楽の全体像をつかみながら拍子を意識出来るようにする。
11	課題曲３の安定した演奏と表現力の向上。
12	課題曲３の豊かな表現の研究と工夫。
13	課題曲３のステージを意識した仕上げの演奏。
14	課題曲１～３のステージを意識した演奏についての研究と確認。
15	課題曲１～３のまとめ。

科目名	ピアノ奏法特殊研究１～４　［シラバス用］						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGL427700	科目コード	GL4277d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	ピアノ・プロフェッショナル・パフォーマンスクラスのみ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

幅広いレパートリーを持ち試験や演奏会、オーディション、コンクールなど様々な機会に向けて計画的に学習が行えるための取り組みを行う。そのための計画→実行→評価→改善のサイクルを繰り返し行いながら自己の音楽性、演奏技術を向上させる。

２．授業概要

指導教員（主担当）とPPP運営教員チームが適宜ミーティングを行い学生の意向（学習計画）に応じて指導計画を立てる。この授業では計画に基づきその都度状況にあわせて該当学生が必要な学習を行えるようレッスン形式で指導を行うものとする。適宜、新たな計画を立て、レパートリーの拡充、演奏技術の向上、幅広い音楽性の体得を目指す。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業の成果を上げるために予習、復習には充分な時間を必要とする。

４．成績評価の方法及び基準

実技試験（100%）。試験内容は別途ピアノ・コースで定め、曲目、演奏時間等発表する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上、決定した楽曲の楽譜。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノコースのピアノ・プロフェッショナル・パフォーマンスクラス（PPP）のみ
PPP所属学生は積極的に学内外の演奏会、オーディション、コンクール等への参加が望まれる。それにより主題・到達目標の達成への努力をすることも期待したい。

授業計画	
	授業概要のとおりPPP運営教員チームと主担当との協議により計画して授業を進める。個々の学生の学習の志向や音楽的追求のケースなどにより全く異なるが、例えば選択学習する一作品について３～４週程度のペースでそれぞれ読譜、奏法研究、音楽的研究、暗譜、仕上げなどの順序により学習を行う場合が考えられる。
1	個々の計画により教材を決定する
2	作品研究
3	作曲家研究
4	作品の時代背景の研究
5	音楽表現について研究
6	暗譜等による音楽表現指導
7	複数の教員による学生の成長の考察
8	成果発表
9	作品研究／分析
10	作曲家とその周辺研究
11	作品の時代背景及び歴史研究
12	前回の研究課題と比較研究
13	暗譜等での、より進度の深い音楽表現指導
14	複数の教員による技術的な問題点の考察と指導
15	実技試験に向けた試演と指導

授業計画	
	後期も前期と同様。
1	前期の振り返りと後期の教材の決定
2	作品研究／分析及び演奏家研究
3	作曲家と歴史の研究
4	作品の時代背景及び文化史の研究
5	音楽表現と奏法についてより高度な研究
6	暗譜等による、より豊かな音楽表現指導
7	複数の教員による作品の考察と指導
8	コンクール、演奏会等に向けてのレパートリー研究
9	レパートリーの構成に向けて、複数の作品を研究
10	初見、読譜、暗譜等のスピードアップに関わる研究
11	コンチェルトに向けて、スコアリーディング実習
12	より高度な楽曲分析の学習
13	後期実技試験準備
14	複数の教員による、ステージでの演奏を意識した考察と指導
15	実技試験に向けた試演とまとめ

科目名	ジャズ奏法研究Ⅰ－1～Ⅳ－2 ［シラバス用］						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	XGL428500	科目コード	GL4285d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各楽器（歌唱）の学習を通して、総合的な見地から演奏者としての必要な演奏能力や表現力を高めること。

２．授業概要

学生各人の到達度に照らし、楽器の技術、即興演奏、ハーモニーとリズム、アンサンブルの手法等を総合的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レッスンで出された課題を習得する努力をすることに加え、レッスンの内容や担当教員のアドバイスを参考にして、自分に適した練習法を自ら模索することで演奏は向上する。そのため、できる限りの時間と努力を授業時間以外に費やすことは必須である。

４．成績評価の方法及び基準

I-1からIV-1については、学期末実技試験とレーティング試験（オーディション）結果の合算が成績となります。
配分は実技試験が80%、レーティング試験（オーディション）結果が20%です。
実技試験成績は複数の教員が各自採点したものの平均です。
また、レーティング試験（オーディション）はレーティングの項目（詳細は別途お知らせします）が一つでも向上した場合は１００点、向上がなかった場合は０点とします。レーティングが最高点に達した場合はレーティング試験を受けることなく100点を与えます。
これにより、奏法研究では毎学期行われるレーティング試験（オーディション）を受けることを必須とします。

IV-2（4年生後期）実技試験については、全教員が試験の採点をします。詳細は別途掲示します。
試験の遅刻・欠席等の扱いについては、大学およびジャズコースの基準に照らして判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし（必要に応じて、適時指示する）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

I-1からIV-1までは毎学期レーティング試験（オーディション）を受けること。

自分が掲げる目標と、今現在の自分の状態の差を良く知り、少しづつでもそのギャップを克服するための努力を惜しまないよう心がけること。
学期末実技試験の遅刻・欠席については、単位を与えられない場合があるので特に注意すること。

授業計画	
	［半期］
1	目標の設定と現在の基礎能力の確認
2	現在の技術を前提としたレッスンプランの策定
3	初期的ステップ（目標）の確認と題材の選択・練習方法
4	初期的ステップ（目標）のパフォーマンス：スタイル
5	初期的ステップ（目標）のパフォーマンス：リズム
6	初期的ステップ（目標）のパフォーマンス：ハーモニー
7	中期的ステップ（目標）の確認と題材の選択・練習方法
8	中期的ステップ（目標）のパフォーマンス：アドリブ
9	中期的ステップ（目標）のパフォーマンス：テーマ
10	中期的ステップ（目標）のパフォーマンス：アドリブとテーマの関連性
11	最終ステップ（実技試験曲目）の確認と練習方法
12	最終ステップ（実技試験曲目）クリエイティビティー
13	最終ステップ（実技試験曲目）テーマからの離脱
14	最終ステップ（実技試験曲目）ハーモニー
15	当初の目標に対する検証と今後の展望

科目名	ジャズ奏法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］（2018入学生以降）						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	XGL429100	科目コード	GL4291d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各楽器（歌唱）の学習を通して、総合的な見地から演奏者としての必要な演奏能力や表現力を高めること。

２．授業概要

学生各人の到達度に照らし、楽器の技術、即興演奏、ハーモニーとリズム、アンサンブルの手法等を総合的に学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レッスンで出された課題を習得する努力をすることに加え、レッスンの内容や担当教員のアドバイスを参考にして、自分に適した練習法を自ら模索することで演奏は向上する。そのため、できる限りの時間と努力を授業時間以外に費やすことは必須である。

４．成績評価の方法及び基準

IからIVについては、学期末実技試験とレーティング試験（オーディション）結果の合算が成績となります。
配分は実技試験が80%、レーティング試験（オーディション）結果が20%です。
実技試験成績は複数の教員が各自採点したものの平均です。
また、レーティング試験（オーディション）はレーティングの項目（詳細は別途お知らせします）が一つでも向上した場合は１００点、向上がなかった場合は０点とします。レーティングが最高点に達した場合はレーティング試験を受けることなく100点を与えます。
これにより、奏法研究では毎学期行われるレーティング試験（オーディション）を受けることを必須とします。

IV（4年生後期）実技試験については、全教員が試験の採点をします。詳細は別途掲示します。
試験の遅刻・欠席等の扱いについては、大学およびジャズコースの基準に照らして判断します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

特になし（必要に応じて、適時指示する）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

IからIVまでは毎学期レーティング試験（オーディション）を受けること。

自分が掲げる目標と、今現在の自分の状態の差を良く知り、少しづつでもそのギャップを克服するための努力を惜しまないよう心がけること。
学期末実技試験の遅刻・欠席については、単位を与えられない場合があるので特に注意すること。

授業計画	
	［半期］
1	前期目標の設定と現在の基礎能力の確認
2	現在の技術を前提とした前期レッスンプランの策定
3	初期的ステップ（前期目標）の確認と題材の選択・練習方法
4	初期的ステップ（前期目標）のパフォーマンス:スタイル
5	初期的ステップ（前期目標）のパフォーマンス:リズム
6	初期的ステップ（前期目標）のパフォーマンス:ハーモニー
7	中期的ステップ（前期目標）の確認と題材の選択・練習方法
8	中期的ステップ（前期目標）のパフォーマンス:アドリブ
9	中期的ステップ（前期目標）のパフォーマンス:テーマ
10	中期的ステップ（前期目標）のパフォーマンス:アドリブとテーマの関連性
11	最終ステップ（前期実技試験曲目）の確認と練習方法
12	最終ステップ（前期実技試験曲目）のパフォーマンス：曲の理解
13	最終ステップ（前期実技試験曲目）のパフォーマンス：試験曲のハーモニー
14	最終ステップ（前期実技試験曲目）のパフォーマンス：試験曲のグルーブについて
15	当初の前期目標に対する検証と今後の展望

授業計画	
1	後期目標の設定と現在の基礎能力の確認
2	現在の技術を前提とした後期レッスンプランの策定
3	初期的ステップ（後期目標）の確認と題材の選択・練習方法
4	初期的ステップ（後期目標）のパフォーマンス：スタイルの発展
5	初期的ステップ（後期目標）のパフォーマンス：グルーブ感
6	初期的ステップ（後期目標）のパフォーマンス：アーティキュレーション
7	中期的ステップ（後期目標）の確認と題材の選択・練習方法
8	中期的ステップ（後期目標）のパフォーマンス：発展するアドリブ
9	中期的ステップ（後期目標）のパフォーマンス：テーマの移調
10	中期的ステップ（後期目標）のパフォーマンス：音楽的なアドリブとは
11	最終ステップ（後期実技試験曲目）の確認と練習方法
12	最終ステップ（後期実技試験曲目）のパフォーマンス：曲の理解とメロディーの解釈
13	最終ステップ（後期実技試験曲目）のパフォーマンス：曲の理解をハーモニーで反映する
14	最終ステップ（後期実技試験曲目）のパフォーマンス：グルーブとそれに適した演奏法
15	当初の後期目標に対する検証と今後の展望

科目名	ゲネラルバス実技１～４　［シラバス用］						
代表教員	荻野　由美子	授業コード	XGL430100	科目コード	GL4301d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	OR	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

ゲネラルバス（通奏低音）とは、バロック時代に確立された伴奏法であり、実用的和声です。数字付き低音とも呼ばれ、鍵盤楽器演奏者は記された低音を左手で弾き、付加された数字に従いながら右手で即興的に和音を補っていくというもの。この実習では、その歴史・概念を学び、通奏低音の実際を体得していく。

２．授業概要

通奏低音の基礎の練習と、楽曲の演奏研究を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業には必ず練習してから臨むこと。授業後は指摘された点を復習して、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の９０％）
練習での目標達成度合いや授業内での演習姿勢などの平常点（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト『ヘンデルの数字付き低音課題に基づく一通奏低音奏法』デヴィッド・レッドベター著　多田逸郎訳（全音楽譜出版社）
『鍵盤による数字付き和声』R.O.モリス著　今井円治訳（音楽之友社）
参考文献　『通奏低音奏法』ヘルマン・ケラー著　野村満男訳（全音楽譜出版社）『正しいピアノ奏法』下巻C.P.E.バッハ著　東川清一訳（全音楽譜出版社）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出席率が３分の２以下の場合、単位取得資格を失います。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	基本の練習(1)左手の弾き方
3	基本の練習(2)基本形３の和音
4	基本の練習(3)第１転回形６の和音
5	基本の練習(4)第２転回形４６の和音
6	基本の練習(5)７の和音基本形
7	基本の練習(6)７の和音第１転回形５６の和音
8	基本の練習(7)７の和音第２転回形３４の和音
9	基本の練習(8)７の和音第３転回形２の和音
10	基本の練習(8)係留の弾き方
11	イタリアバロックの楽曲(1)様式、左手の弾き方
12	イタリアバロックの楽曲(2)右手の和音を考える
13	イタリアバロックの楽曲(3) 数字を見て弾けるようにする
14	イタリアバロックの楽曲(4)合奏の試み、効果的な弾き方を探る
15	イタリアバロックの楽曲(5)仕上げとまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	［後期］
1	ヘンデル、テレマンなどの楽曲(1)様式、左手の弾き方
2	ヘンデル、テレマンなどの楽曲(2)右手の和音を考える
3	ヘンデル、テレマンなどの楽曲(3) 数字を見て弾けるようにする
4	ヘンデル、テレマンなどの楽曲(4)合奏の試み、効果的な弾き方を探る
5	ヘンデル、テレマンなどの楽曲(5)仕上げとまとめ
6	J.S.バッハの楽曲(1)様式、左手の弾き方
7	J.S.バッハの楽曲(2)右手の和音を考える
8	J.S.バッハの楽曲(3) 数字を見て弾けるようにする
9	J.S.バッハの楽曲(4)合奏の試み、効果的な弾き方を探る
10	J.S.バッハの楽曲(5)仕上げとまとめ
11	試験曲(1)様式、左手の弾き方
12	試験曲(2)右手の和音を考える
13	試験曲(3) 数字を見て弾けるようにする
14	試験曲(4)合奏の試み、効果的な弾き方を探る
15	試験とまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

科目名	オルガン奏法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	荻野　由美子	授業コード	XGL431600	科目コード	GL4316d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	OR	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

基礎的なテクニックを練習し、多種多様なオルガン作品の演奏を通して、様式感を持ったオルガン奏法を習得する。

２．授業概要

１年次：J.S.バッハに至るバロック時代の作品と、初期J.S.バッハ作品の奏法研究
　　レジストレーションの基本
２年次：大規模な後期J.S.バッハの作品の奏法研究
　　レジストレーションの実践
３年次：ロマン派または近・現代の作品の奏法研究
４年次：自由レパートリー作品の奏法研究

３．授業時間外の学習（予習復習について）

必ず練習してから臨むこと。授業後は指摘された点を復習して、次回の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の９０％）
練習での目標達成度合いや授業内での演習姿勢などの平常点（評価の１０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは、担当教員が各学生に適した課題を選ぶ。
参考文献：『オルガン音楽のふるさと』（NHK出版）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出席率が３分の２以下の場合、実技試験受験資格を失います。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	北ドイツ楽派の楽曲(1)時代背景、様式を中心に
3	北ドイツ楽派の楽曲(2)形式、和声を中心に
4	北ドイツ楽派の楽曲 (3)奏法を中心に
5	北ドイツ楽派の楽曲(4)レジストレーション、表現法を中心に
6	北ドイツ楽派の楽曲(5)表現法の掘り下げ
7	北ドイツ楽派の楽曲(6)仕上げとまとめ
8	J.S.バッハのコラール作品 (1)時代背景、様式を中心に
9	J.S.バッハのコラール作品 (2)形式、和声を中心に
10	J.S.バッハのコラール作品(3)奏法を中心に
11	J.S.バッハのコラール作品(4)レジストレーション、表現法を中心に
12	J.S.バッハのコラール作品(5)表現の掘り下げ
13	J.S.バッハのコラール作品(6)仕上げとまとめ
14	演奏会形式での発表
15	まとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	［後期］
1	J.S.バッハの自由作品(1)時代背景、様式を中心に
2	J.S.バッハの自由作品（２） 形式、和声を中心に
3	J.S.バッハの自由作品(3)奏法を中心に
4	J.S.バッハの自由作品(4)レジストレーション、表現法を中心に
5	J.S.バッハの自由作品(5)仕上げとまとめ
6	ロマン派の楽曲(1) 時代背景、様式を中心に
7	ロマン派の楽曲（２） 形式、和声を中心に
8	ロマン派楽曲(3)奏法を中心に
9	ロマン派の楽曲(4)レジストレーション、表現法を中心に
10	ロマン派の楽曲(5)仕上げとまとめ
11	試験曲(1)時代背景、様式を中心に
12	試験曲（２） 形式、和声を中心に
13	試験曲(3)奏法を中心に
14	試験曲(4)レジストレーション、表現法を中心に
15	試験曲(5)仕上げとまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

科目名	電子オルガン奏法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	赤塚　博美	授業コード	XGL435600	科目コード	GL4356d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	E0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

各学生の技能、目標に応じたレッスン形式により、電子オルガンにおける多岐な音楽スタイルにわたった演奏法、作・編曲法をソロ演奏を通して研究し、かつ実技試験に向けての準備と強化を行う。

２．授業概要

一年次：クラシックとポピュラーの基礎演奏研究
二年次：クラシックまたはポピュラーの編曲並びに演奏研究
三年次：自作曲と自由レパートリーの演奏研究
四年次：卒業試験に向けてのレパートリーの演奏研究

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回のレッスンで与えられる課題、または目標に向かってさらい、日々の練習の地道な蓄積、１回１回のレッスンの確かな積み重ねにより、技能を着実に高めていけるよう努力してほしい。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により異なります。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出席率が７５％未満の場合には実技試験受験資格を失います。

授業計画	
	［前期］1，2年生は、前期試験のための準備、基本的な奏法、音色作りを学び、レヴェルアップを図る。
1	年間ガイダンス
2	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（１）課題曲の選曲
3	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（２）課題曲の楽曲分析（形式の分析）
4	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（３）課題曲の譜読み並びに楽曲分析（和音の分析）
5	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（４）課題曲の譜読み、アレンジの方法。
6	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（５）課題曲の譜読み、アレンジのチェック並びに音色作り
7	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（６）課題曲の仕上げ
8	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（７）課題曲新曲、形式の分析。試験曲の譜読み
9	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（８）課題曲新曲、試験曲の譜読み並びに和音の分析。
10	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（９）課題曲新曲、試験曲の譜読み並びに音色作り。
11	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（１０）演奏曲の解釈など。
12	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（１１）試験曲の演奏の解釈並びに奏法。
13	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（１２）試験曲の仕上げ。演奏解釈と奏法。
14	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の基礎（１３）試験前の準備
15	Ⅰ Ⅱ：前期実技試験曲仕上げ並びに暗譜のチェック Ⅲ Ⅳ：前期最終チェック

授業計画	
	［後期］譜面をそのまま演奏することに加えて、アレンジ、作曲などにも取り組む。個々にレヴェルアップを目指す。
1	前期の総括と後期の展望
2	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（１）レパートリーの楽曲分析。
3	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（２）レパートリーの演奏法と音色分析。
4	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（３）レパートリーの演奏解釈並びに音色チェック。
5	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（４）試験曲の選曲
6	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（５）試験曲の楽曲分析（形式の分析）
7	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（６）試験曲の楽曲分析（和音の分析）
8	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（７）試験曲の譜読み並びにアレンジの方法。
9	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（８）試験曲の譜読み並びにアレンジのチェック。
10	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（９）試験曲の譜読み、アレンジチェック並びに音色作り。
11	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（１０）試験曲の演奏解釈。
12	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（１１）試験曲の演奏法解釈並びに音色に合った演奏法。
13	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（１２）試験曲の演奏法解釈並びに表現テクニック。
14	各学生の目標、技量に応じたレッスン形式による演奏研究の応用（１３）試験曲の演奏解釈並びに表現テクニック
15	試験曲の暗譜など仕上げ。

科目名	声楽研究Ⅰ～Ⅳ ［シラバス用］						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	XGL451600	科目コード	GL4516d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	V0	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声楽の専門技術の向上を目指し、基本的な演奏テクニックや表現技法を修得し、
将来は豊かな音楽性を確立して、国内外において活躍出来る声楽家を目指し、ソリスト、オペラ歌手、教会音楽の歌手または教育者などそれぞれの目標を見据えた、より実現性のあるレッスンを行う。

２．授業概要

個人レッスンを主とし、研究目的にそって演習中心の歌唱研修を行う。
4年間という短い期間の中で一人一人の技術能力や演奏表現などを考え、１・２年では特に発声の確立を、3年ではより高度な歌唱法の習得と、音楽表現の習得。4年次では、その全てを卒業試験で発揮できるよう指導していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、１年次より４年次までの目標を立て、研究目的に沿い、担当教員のアドバイスを受け、
発声の基礎、テクニック、表現、歌詞の意味、内容、表現法を研究し、次回のレッスンまでに準備する。

４．成績評価の方法及び基準

前期試験（評価の25%）
学年末試験（評価の75%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各学生のレベルや課題に合わせたテキストを、担当教員の指導により決めて各自準備する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

履修の条件、クラス分けは特になし。
前期・学年末の試験などでピアノ伴奏者が必要となる為、各自で伴奏者を準備する。
通常レッスン時に伴奏者が必要な場合もある。
年間30回のレッスンは、1回づつの積み重ねにより成り立っているので、必ずレッスンを受けること。
※出席数が不足の場合、受験資格を失う。

授業計画	
	前期 レッスンの状況により内容を変更する可能性がある
1	ガイダンス 前期研究課題の決定
2	前期発声練習における声のトレーニング
3	前期課題曲における基礎力の向上
4	前期練習曲における基礎力の更なる向上
5	前期課題曲における基礎力の更なる向上
6	前期練習曲を含めた選択曲の発音練習
7	前期課題曲における、歌唱技術を学ぶ。
8	前期課題曲における、表現法を学ぶ。
9	前期試験における候補曲の選出
10	前期試験の曲目の選択
11	前期試験選択曲目のレッスン
12	前回レッスンの課題演習　応用
13	練習曲を含めた前期試験曲の課題演習
14	前回レッスンの課題演習　発展
15	前期のまとめとして総合的な課題演習

授業計画	
	［後期］ レッスンの状況により内容を変更する可能性がある
1	後期研究課題の決定
2	後期練習曲における基礎力の向上
3	後期課題曲における基礎力の向上
4	後期発声練習における、声のトレーニング
5	後期練習曲における基礎力の向上　応用
6	後期課題曲における、歌唱技術学ぶ。
7	後期課題曲における、表現法を学ぶ。
8	学年末試験における候補曲の選出
9	後期選択曲の歌唱演習
10	学年末試験の曲の絞り込み
11	後期選択曲の発音練習
12	後期練習曲を含めた課題曲の演習
13	後期選択曲の歌唱技術を学ぶ。
14	後期選択曲の表現法を学ぶ。
15	学年末試験曲における総合的な課題の演習

科目名	声楽実習／声楽実習Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	塩田　美奈子	授業コード	XGL464100	科目コード	GL4641d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実習	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

歌うことは、音楽の基本です。教員を志す学生にとって職業に就いた時に、もっとも必要とされる分野です。
声楽を専門的に学ぶことにより、正しい発声を身に付け、また表現力を養い、社会で活躍出来る人材となることを目指します。

２．授業概要

声楽に関する個人レッスンを行う
個人レッスンのため、学生一人ひとりの能力・研究目的に応じ、学生毎にテーマを設定する

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自、年間を通して研究目標、研究課題を決定し、担当教員のアドバイスを受け、
発声の基礎、歌詞の朗読、発音練習、意味、内容を調べ、歌唱法、表現法を次回のレッスンの為に準備すること。

４．成績評価の方法及び基準

学期末試験（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各担当教員による。
参考文献については、レッスン中に紹介する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

※出席数が不足の場合、受験資格を失います。

授業計画	
	前期 レッスンの進行により内容を変更することがある。
1	ガイダンス 前期研究課題の設定
2	（前期研究課題）母音唱法などによる発声訓練
3	（前期研究課題）練習曲における基礎力の向上
4	（前期研究課題）母音唱法などによる発声訓練　確認
5	（前期研究課題）練習曲における基礎力の向上　確認
6	（前期研究課題）課題曲による基礎力の向上
7	（前期研究課題）練習曲、課題曲における基礎力の向上
8	（前期研究課題）自由曲における基礎力の向上と歌唱練習
9	（前期研究課題）自由曲における歌唱訓練と表現力の向上
10	（前期研究課題）母音唱法などによる発声訓練　応用
11	（前期研究課題）練習曲における基礎力の向上　応用
12	（前期研究課題）課題曲における基礎力の向上　応用
13	（前期研究課題）練習曲、課題曲による基礎力の向上　応用
14	（前期研究課題）自由曲における基礎力の向上と歌唱練習　応用
15	（前期研究課題）自由曲における歌唱訓練と表現力の向上　応用

授業計画	
	［後期］ レッスンの進行により内容を変える可能性がある。
1	後期研究課題の設定
2	（後期研究課題）母音唱法などによる発声訓練
3	（後期研究課題）練習曲による発声訓練
4	（後期研究課題）母音唱法などによる発声訓練　確認
5	（後期研究課題）練習曲による基礎力の向上
6	（後期研究課題）課題曲による基礎力の向上
7	学年末試験の候補曲目選出
8	（後期研究課題）課題曲の発音訓練
9	（後期研究課題）課題曲による基礎力の向上　応用
10	試験曲の絞り込み
11	試験曲における基礎力の向上
12	試験曲における歌唱力の向上
13	試験曲における表現力の向上
14	試験曲の総合的演習
15	練習曲、課題曲の演習及びまとめ

科目名	ピアノ実習／ピアノ実習Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	清水　将仁	授業コード	XGL466100	科目コード	GL4661d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実習	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	必修（Ⅰ）専門選択（各コース）（ⅠⅠ～ⅠⅤ）				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

教育現場に立った時、楽曲を理論としてのみでなく、実際に自分で弾いて勉強し、演奏を通して深く理解出来れば、より充実した教育内容の一助になります。演奏表現の向上・達成が当科目の学習の目標です。
「ピアノ実習」では、学習に最も必要とされているものが試験曲に選ばれています。

２．授業概要

授業計画に沿って、授業を進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の進度により教材への予習、復習は必要

４．成績評価の方法及び基準

実技試験（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談の上、決定した楽曲の楽譜、曲目等内容は、実技試験課題曲（実技試験情報を参照のこと）を基準に進められます。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

音楽教育コース
「ピアノ実習」専門必修
●試験の方法：試験課題曲の演奏
試験曲以外にも色々な曲を弾いて実力をつけてください。
普段の練習、積み重ねが大事です。

授業計画	
	［前期］ 個々の学生の学習の志向や音楽的追求のケースなどにより全く異なるが、例えば選択学習する一作品について３～４週程度のペースでそれぞれ読譜、奏法研究、音楽的研究、暗譜、仕上げなどの順序により学習を行う場合が考えられる。
1	年間の計画により教材を決定する。
2	正しい姿勢、身体の使い方等の説明
3	教材の選定
4	読譜の確認、練習方法の指導
5	作品研究
6	作曲家研究
7	暗譜等による、より安定した演奏を目指す
8	前期成果中間発表
9	身体の構造の理解
10	無理のない指、腕の使い方研究
11	新しい教材の作品研究
12	表現と呼吸について
13	練習方法の確認
14	暗譜等により進度を深めた研究
15	前期試験に向けて仕上げ

授業計画	
	［後期］ 前期の成果を踏まえて新しい学習計画を練ります。
1	後期の学習計画及び教材決定
2	作品研究／分析
3	作曲家と歴史研究
4	練習方法の応用と確認
5	効果的なエチュードの使い方指導
6	暗譜等により、豊かな表現を目指す研究
7	後期成果中間発表
8	新しい教材の選定
9	作品研究／分析及び演奏研究
10	分析方法のさらなる研究／和声学導入
11	作曲家と文化史の研究
12	身体の使い方再確認
13	暗譜等による、安定と表現力の向上を目指すための研究
14	年間のまとめと学年末試験準備
15	後期試験に向けて仕上げ

科目名	ヴォイスアーティスト技法研究１～４　［シラバス用］						
代表教員	江原　陽子	授業コード	XGL545300	科目コード	GL5453d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	AS	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし（2018入学生以降はローマ数字を飛び越えての履修は不可）						
教員免許状							

１．主題・到達目標

声優アニメソングコースの個別指導の核となる、ヴォイストレーニングを中心とした実技指導を行う。学生個々の個性と適性を考慮しながら、担当教員がきめ細かな指導をしていく。声による演技とアニソン歌唱のいずれにしても、その実力の基盤となるのは“声”そのものである。その“声”の基盤を継続的に鍛えていく場となる。専門選択授業ではあるが、できるだけ４年間にわたり連続して履修する事が望しい。最終的な到達目標は、現場で通用するプロの声優やアニソン歌手として、活躍できる技術を身に付けることである。

２．授業概要

声優系、もしくは歌唱系の指導教員を選択した上で、発声・発音を主体とした個別指導を受ける。年間を通じて、学生個々の個性と適性、更には指向性を充分に考慮しながら、専門研究の基盤を築いて行く。また、半期に一度、各クラスの指導の様子を見学できる期間を設定して、相互啓発も促進していく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各指導教員より個別に提示される。いずれにしても、毎日の自主的な「発声」や「発音」といった基礎練習や復習は必要である。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の継続的な鍛練が極めて重要なので、学習態度を重要視する。
期末実力評価試験(80%)と　総合的学習態度(20%)をあわせて評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

各指導教員から個別に指示される。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎年実施される意向調査を経て、学生個々の個性・適性・指向性に相応しい担当教員のクラスに配当される。貴重な個別指導の場ということを深く認識して、真摯に受講することが求められる。

授業計画	
	学生個々の個性・適性・指向性を考慮した個別指導であるため、具体的な内容を詳細にわたって提示することは困難だが、標準的なモデルケースとしての授業計画を記しておく。標準的な１年目の主目的は、発声や発音の基礎を固めることにある。
1	前期ガイダンス～前期の到達目標の設定
2	声を出すための基本姿勢の習得
3	基本となる身体づくりについて
4	発声の基礎への導入
5	発声の基礎の習得
6	発声の基礎の自主練習法へのアプローチ
7	発声の基礎の自主練習法の確立
8	発声の基礎を活用した応用演習
9	発音の基礎の習得状況の確認
10	発音の基礎への導入
11	発音の基礎の習得
12	発音の基礎の自主練習法へのアプローチ
13	発音の基礎の自主練習法の確立
14	発音の基礎を活用した応用演習
15	発音の基礎の習得状況の確認

授業計画	
1	夏期休業期間中の自主練習の成果の確認
2	後期ガイダンス～後期の到達目標の設定
3	実践課題（台詞・歌唱曲）題材１へのアプローチ
4	実践課題（台詞・歌唱曲）題材１のブラッシュアップ
5	実践課題（台詞・歌唱曲）題材１の仕上げ
6	実践課題（台詞・歌唱曲）題材２へのアプローチ
7	実践課題（台詞・歌唱曲）題材２のブラッシュアップ
8	実践課題（台詞・歌唱曲）題材２の仕上げ
9	実践課題（台詞・歌唱曲）題材３へのアプローチ
10	実践課題（台詞・歌唱曲）題材３のブラッシュアップ
11	実践課題（台詞・歌唱曲）題材３の仕上げ
12	最終総合課題（台詞・歌唱曲）へのアプローチ
13	最終総合課題（台詞・歌唱曲）へのブラッシュアップ
14	実践課題（台詞・歌唱曲）題材３の仕上げ
15	総括及び実力評価試験

科目名	ジャズ特別奏法研究１～４－２　［シラバス用］						
代表教員	蟻正　行義	授業コード	XGL596100	科目コード	GL5961d	期間	半期
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	JZ	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

主科楽器であるなしに関わらず、また通常科目の枠組みにとらわれず、学生が自ら音楽的目標を設定して取り組む自由科目。履修によって学生自身の音楽性が、設定された目標に関し、履修開始時点より高い位置に到達すること。

２．授業概要

副科レッスンと並列の形で履修する（同時履修は不可）、自由形式のレッスンまたはグループ・レッスン。学生が自らジャズコース教員および学務部による調査で何を教わりたいかを伝え、コース代表の了承が得られることを前提に内容は自由に設定できる。基本は週２０分の個人レッスンであるが、学生２人で４０分、３人で６０分……といったグループ・レッスンも可能。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各学生の、内容に対するモチベーションが大変重要で、不慣れな課題設定に対しても、それを克服するだけの努力が授業時間外にできることが必要です。

４．成績評価の方法及び基準

当初設定した目標が達成されたかを、各教員が最終回に試験する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

とくになし。履修生が積極的に素材を準備すること。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・この科目は、希望する教員に内容の承認およびスケジュールの確認が得られなければ履修できません。
・原則として出席が１０回未満の場合は、続く半期に連続して履修することはできない。

授業計画	
	［半期］ 個々人の目標や技量に応じてレッスンを行う。課題曲などは各人の希望や技量・進度を見極めながら、随時打ち合わせて決める。
1	ガイダンス（個人別到達目標と課題曲、目標進度などについて）
2	実技指導（1）楽器概要
3	実技指導（2）奏法の基礎
4	実技指導（3）必要なテクニックの習得について
5	実技指導（4）テーマの演奏
6	実技指導（5）リズム感とグルーブ
7	実技指導（6）アーティキュレーション
8	実技指導（7）身体の使い方、バランス
9	実技指導（8）テーマの演奏ー応用
10	実技指導（9）アドリブという位置での楽器の考察
11	実技指導（10）アドリブの初歩
12	実技指導（11）ジャズスタンダードの演奏
13	実技指導（12）曲の自由な発想
14	実技指導（13）曲のハーモニーとアレンジ
15	実技試験・まとめ

科目名	音楽実技実習Ⅰ～Ⅲ　［シラバス用］						
代表教員	佐藤　昌弘	授業コード	XGL618100	科目コード	GL6181d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	ME	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

音楽教育コースのいわば第二実技として、声楽とピアノ以外の任意の一楽器について、通年のレッスンを行う。将来、教育現場に立ったときに様々な形で活かせるよう、各学生の技能、目標に応じたレッスンにより、演奏実習の基礎と応用を学ぶ。なお、作曲・編曲系は対象外とする。

２．授業概要

授業計画に沿ってレッスンを進める。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個々の進度に合わせ、実習曲演奏の復習、予習は必須。

４．成績評価の方法及び基準

年度末に実技試験をして、平常の受講姿勢とあわせて総合的に評価。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により異なる。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アドバイジングを活用し、本人の指向に適合した演奏専攻を選択のこと。

授業計画	
	選択した専攻演奏の基礎を学ぶ。
1	前期ガイダンス（教材、実習曲の決定等）
2	演習曲①レッスン～精確な譜読み
3	演習曲①レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
4	演習曲①レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
5	演習曲①レッスン～奏法をブラッシュアップ
6	演習曲①レッスン～演奏表現を工夫して
7	演習曲①レッスン～音色を意識して仕上げ
8	演奏のスキルアップについて前期中間チェック
9	演習曲②レッスン～精確な譜読み
10	演習曲②レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
11	演習曲②レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
12	演習曲②レッスン～奏法をブラッシュアップ
13	演習曲②レッスン～演奏表現を工夫して
14	演習曲②レッスン～音色を意識して仕上げ
15	模擬実技試験、前期総括

授業計画	
	選択した専攻演奏の応用を学ぶ
1	後期ガイダンス（教材、実習曲の決定等）
2	演習曲③レッスン～精確な譜読み
3	演習曲③レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
4	演習曲③レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
5	演習曲③レッスン～奏法をブラッシュアップ
6	演習曲③レッスン～演奏表現を工夫して
7	演習曲③レッスン～音色を意識して仕上げ
8	演奏のスキルアップについて後期中間チェック
9	演習曲④レッスン～精確な譜読み
10	演習曲④レッスン～楽曲の音楽様式を意識して
11	演習曲④レッスン～楽曲の形式と和声を意識して
12	演習曲④レッスン～奏法をブラッシュアップ
13	演習曲④レッスン～演奏表現を工夫して
14	演習曲④レッスン～音色を意識して仕上げ
15	実技試験、後期総括

科目名	Ｒ＆Ｐ演奏技法研究Ⅰ～Ⅳ　［シラバス用］						
代表教員	前野　知常	授業コード	XGL750100	科目コード	GL7501d	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	必修				
前提科目	ローマ数字を飛び越えての履修は不可						
教員免許状							

１．主題・到達目標

個々の演奏能力を、個性・指向性に合わせて育成する一方、積極的に様々な音楽制作に関わることで、広く音楽全体をとらえる能力を伸張する。

２．授業概要

基本的には１対１のレッスン方式であるが、必要に応じてグループレッスンも取り入れていく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

常に目的意識を持ち、自ら課題をみつける努力をすること

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢及び平常点（評価の１００％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリント配付

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

何よりも大切なのは「積極性」。先生が教えてくれるのを待つのではなく、先生から技術・知識を「獲得」する意識を常に持つように。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	楽器の基礎知識
3	基礎トレーニング
4	リズムトレーニング
5	ソロ奏法研究（8ビート）
6	ソロ奏法研究（16ビート）
7	ソロ奏法研究（バウンス）
8	ソロ奏法研究（シンコペーション、アウフタクト）
9	音色研究（楽器のチューニング、音色作り）
10	音色研究（エフェクト）
11	アンサンブル奏法研究（音量バランス）
12	アンサンブル奏法研究（音域バランス）
13	アンサンブル奏法研究（音色バランス）
14	アンサンブル奏法研究（エフェクトバランス）
15	前期最終チェック

授業計画	
	［後期］
1	前期総括クリニック
2	ブルーススタイル
3	シャッフル
4	ハーフタイムシャッフル
5	ロックスタイル
6	ラテンスタイル
7	ブラックミュージックスタイル
8	変拍子スタイル
9	ポリリズム
10	グルーヴの理解
11	オリジナルアレンジ（リズム）
12	オリジナルアレンジ（フレーズ）
13	ステージ技法研究（ステージアクション）
14	ステージ技法研究（立ち位置、ライティングの意識）
15	後期最終チェック

科目名	副科実技（R&P） １～４－２ ［シラバス用］						
代表教員	前野　知常	授業コード	XGL760100	科目コード	GL7601d	期間	半期
担当教員							
授業形態	演習	配当学年					
対象コース	RP	科目分類	専門選択（各コース）				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

幅広い知識、技術を得る事を目標とする。そのために、主科と同じくオンデマンド形式を採り、ターム毎にレッスンの希望調査と配当を行う。

２．授業概要

個人レッスン方式の他、グループでのセッション、レコーディング等、ターム毎に企画を提示する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

担当講師の指示に従うこと。

４．成績評価の方法及び基準

平常の授業態度、参加姿勢、及び達成度を総合して成績評価を行う。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当各講師がそれぞれ用意する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分に今必要な知識、技術、経験が何であるかをよく考え、積極性を持って履修する事。
また、共通科目である他コースの「副科実技」と同時には履修できない。

（１）履修登録手続について
半期ごとにSENZOKUポータルからの履修希望申請が必要。
・後期に履修を希望する場合は６月上旬、次年度前期に履修を希望する場合は１２月上旬頃に、登録手続について
SENZOKUポータルからの連絡を確認すること。
・履修しようとする期の前の期に副科実技を履修している学生については、半期１５回のレッスン回数の２／３以上の
出席を満たさない場合、また期の中途での履修取消があった場合についても、次期「副科実技」は履修することは
できない。

（２）出席状況が芳しくない場合は、履修登録を取消す場合がある。

授業計画	
	［半期］
1	パートの知識
2	基本奏法
3	基礎トレーニング方法
4	リズムトレーニング方法
5	音色の研究
6	メンテナンス方法
7	アンサンブルの注意点
8	レコーディングのヒント
9	パートアレンジの基礎
10	新しいスタイルへのチャレンジ
11	コンピュータを利用した新しい方法論
12	バンドマネージメント
13	音楽業界の知識
14	ライブパフォーマンスのヒント
15	作詞・作曲のヒント

科目名	専門研究Ａ　［シラバス用］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XHL301600	科目コード	HL3016	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・WI・SI・PI・EO・VO	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

専門技術の向上を目指し、基本的な演奏テクニックや表現技法を修得する。

２．授業概要

個人レッスンを主とし、研究目的にそって演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自目標を立て研究目的に沿い、担当教員のアドヴァイスを受け、次回のレッスンまで準備する。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自で伴奏者を準備する。
通常レッスン時に伴奏者が必要な場合もある。

授業計画	
	［前期］
1	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、研究方法等）
2	個々の前期課題における改善方法
3	前期課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解）
4	前期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）
5	前期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り・応用）
6	前期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）
7	前期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解・応用）
8	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）
9	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル・応用）
10	前期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を探る）
11	前期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法）
12	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・分析）
13	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・演奏スタイル）
14	前期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源のリサーチ）
15	前期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源映像の分析）

授業計画	
	［後期］
1	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、研究方法等）
2	個々の後期課題における改善方法
3	後期課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解）
4	後期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）
5	後期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り・応用）
6	後期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）
7	後期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解・応用）
8	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）
9	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル・応用）
10	後期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を探る）
11	後期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法）
12	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・分析）
13	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・演奏スタイル）
14	後期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源のリサーチ）
15	後期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源映像の分析）

科目名	専門研究Ｂ－１　［シラバス用］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XHL302800	科目コード	HL3028	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・WI・SI・PI・EO・VO	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

専門技術の向上を目指し、基本的な演奏テクニックや表現技法を修得する。

２．授業概要

個人レッスンを主とし、研究目的にそって演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自目標を立て研究目的に沿い、担当教員のアドヴァイスを受け、次回のレッスンまで準備する。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自で伴奏者を準備する。
通常レッスン時に伴奏者が必要な場合もある。

授業計画	
	［前期］
1	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、研究方法等）
2	個々の前期課題における改善方法
3	前期課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解）
4	前期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）
5	前期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り・応用）
6	前期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）
7	前期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解・応用）
8	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）
9	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル・応用）
10	前期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を探る）
11	前期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法）
12	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・分析）
13	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・演奏スタイル）
14	前期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源のリサーチ）
15	前期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源映像の分析）

授業計画	
	［後期］
1	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、研究方法等）
2	個々の後期課題における改善方法
3	後期課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解）
4	後期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）
5	後期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り・応用）
6	後期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）
7	後期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解・応用）
8	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）
9	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル・応用）
10	後期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を探る）
11	後期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法）
12	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・分析）
13	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・演奏スタイル）
14	後期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源のリサーチ）
15	後期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源映像の分析）

科目名	専門研究Ｂ−２　［シラバス用］						
代表教員	柳澤　涼子	授業コード	XHL302900	科目コード	HL3029	期間	通年
担当教員							
授業形態	実技	配当学年	1				
対象コース	PF・OR・WI・SI・PI・EO・VO	科目分類	専門必修				
前提科目	特になし						
教員免許状							

１．主題・到達目標

専門技術の向上を目指し、基本的な演奏テクニックや表現技法を修得する。

２．授業概要

個人レッスンを主とし、研究目的にそって演習を行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各自目標を立て研究目的に沿い、担当教員のアドヴァイスを受け、次回のレッスンまで準備する。

４．成績評価の方法及び基準

学年末試験（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実技担当教員により指示がある。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自で伴奏者を準備する。
通常レッスン時に伴奏者が必要な場合もある。

授業計画	
	［前期］
1	前期オリエンテーション（レッスン計画、目的、研究方法等）
2	個々の前期課題における改善方法
3	前期課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解）
4	前期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）
5	前期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り・応用）
6	前期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）
7	前期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解・応用）
8	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）
9	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル・応用）
10	前期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を探る）
11	前期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法）
12	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・分析）
13	前期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・演奏スタイル）
14	前期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源のリサーチ）
15	前期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源映像の分析）

授業計画	
	［後期］
1	後期オリエンテーション（レッスン計画、目的、研究方法等）
2	個々の後期課題における改善方法
3	後期課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解）
4	後期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り）
5	後期課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り・応用）
6	後期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解）
7	後期課題曲を中心としたレッスン（作品分析、内容理解・応用）
8	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル）
9	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル・応用）
10	後期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を探る）
11	後期課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法）
12	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・分析）
13	後期課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈・演奏スタイル）
14	後期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源のリサーチ）
15	後期課題曲を中心としたレッスン（音楽表現・音源映像の分析）

洗足学園音楽大学

音楽学部
2019年度シラバス
（演奏会実習）

科目授業名	授業代表教員氏名		ページ数
演奏会実習１～４[水3]明石ゼミ	明石　昌夫	･････････	2
演奏会実習１～４[水3]秋山ゼミ	秋山　徹	･････････	5
演奏会実習１～４[金3]新井・岩岡ゼミ	新井　秀昇	･････････	9
演奏会実習１～４[水3]大石ゼミ	大石　将紀	･････････	12
演奏会実習１～４[水3]大城ゼミ	大城　正司	･････････	16
演奏会実習１～４[金3]橋本ゼミ	橋本　晋哉	･････････	19
演奏会実習１～４[水3]秦ゼミ	秦　江里奈	･････････	22
演奏会実習１～４[水3]花柳ゼミ	花柳　珂穂月	･････････	26
演奏会実習１～４[水3]星野ゼミ	星野　均	･････････	29
演奏会実習１～４[水3]速水ゼミ	速水　けんたろう	･････････	32
演奏会実習１～４[金3]井出ゼミ	井出　博子	･････････	35
演奏会実習１～４[水3]門倉ゼミ	門倉　美香	･････････	39
演奏会実習１～４[水3]北島ゼミ	北島　公彦	･････････	42
演奏会実習１～４[水3]くりゼミ	クリストファー　ハーディ	･････････	45
演奏会実習１～４[水3]中西・山田ゼミ	中西　暁子	･････････	48
演奏会実習１～４[金3]松元ゼミ	松元　宏康	･････････	51
演奏会実習１～４[水3]境ゼミ	境　信博	･････････	55
演奏会実習１～４[水3]坂井ゼミ	坂井　紀雄	･････････	58
演奏会実習１～４[水3]斉藤ゼミ	斉藤　光浩	･････････	61
演奏会実習１～４[水3]田中ゼミ	田中　良一	･････････	64
演奏会実習１～４[水3]谷川明ゼミ	谷川　明	･････････	67
演奏会実習１～４[金3]上薗ゼミ	上薗　未佳	･････････	71
演奏会実習１～４[水3]上田ゼミ	上田　恭子	･････････	75
演奏会実習１～４[水3]渡部ゼミ	渡部　亨	･････････	80

科目名	演奏会実習１～４　［水3］明石ゼミ						
代表教員	明石　昌夫	授業コード	GE0111A1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	ありません						

ゼミテーマ

「インターネットを利用した、アーティスト・プロデュースのゼミ」

１．主題・到達目標

ミュージシャン及びヴォーカリストを含めたアーティストは、成功するためには、その技量だけでなく、戦略的なプロデュースを考える事が大変重要になってきます。
このゼミでは、ライヴのステージ、インターネットでの展開などを通じて、戦略的なアーティストプロデュースに沿った、効果的な実演とは何かについて学びます。
特に昨今は、インターネットでの展開が、非常に重要になっているので、大きく時間を割いて、研究します。

２．授業概要

アーティストプロデュースに関する基礎を研究し、授業内での実習を通して、このゼミにふさわしいパフォーマンスを開拓します。
また、R&Pコース内で行われるイベントの映像を通して、プロデュースの実際の問題点などを、議論していきます。
インターネットに関しては、YouTube、ニコ動、ツイキャスの利用法、ホームページの作り方、ツイッター、インスタグラムなどでの拡散、新たな音楽サイトの構築などを研究していこうと思います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

各アーティストの戦略を考慮して、それに則した曲を決め、予習・復習（リハーサル）をして下さい。
特に演奏会に向けては入念なリハーサルが必要になると思われます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組みの姿勢（参加状況）、演奏会の出来映えなどを考慮しますが、特に演奏会のスタッフワークに携わった人を高評価にします。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が準備します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ロックまたはポップスのヴォーカルまたは楽器の実演を希望する学部生及びそれに付随するスタッフワークを希望する学部生を対象とします。
出席に関しては、演奏会当日の出席を、特に重要視します。

授業計画	
	［前期］
1	アーティストプロデュースの基本的な考え方
2	インターネットがなかった時代と、その後の違いついての講義
3	1990年代までの、音楽業界の仕組みの講義
4	PRと宣伝の違い、フリーミアム、シェアリングエコノミーに関する講義
5	アルヴィン・トフラーの、「第三の波」を基にした講義
6	SecondSeason(前半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
7	SecondSeason(後半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
8	ThreeQuarter(前半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
9	ThreeQuarter(後半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
10	前期学内演奏会
11	LastSpurt(前半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
12	LastSpurt(後半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
13	SNS、ホームページ、ブログ、アフィリエイトに関する講義
14	インターネット上においての、アーティストのPR全般に関する講義
15	前期のまとめ

	［後期］
1	後期の概説。
2	NextGeneration(前半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
3	NextGeneration(後半)の映像を鑑賞し、各アーティストのプロデュースに関して講義する。
4	メロディーとコード、サウンドに関して、時代に伴う変化について考察し、今後の方向性を考える。
5	歌詞及び発声に関して、時代に伴う変化について考察し、今後の方向性を考える。
6	後期学内演奏会
7	シンガー、バンド、作詞作編曲、ミュージシャン、エンジニアなど、音楽関連の仕事について、それぞれの今後の時代の展開に対する方法を考える。
8	全国流通、事務所所属、インディーズデビュー、メジャーデビュー、各段階の説明と、対処の仕方。
9	これからの、音楽業界、音楽活動のあり方と、将来の展望
10	過去から現在に至る、技術の進歩と音楽の変化についての考察。
11	人工知能、ディープラーニングと、音楽との関連性について。
12	30年後には到達するかもしれない、シンギュラリティの時代において、人間が、音楽に対してできること。
13	ブロックチェーンと、仮想通貨についての講義。
14	ミュージシャンの税務、およびプロダクションなどを起業するノウハウの講義。
15	1年間のまとめ。

当ゼミの趣旨
演奏会を通じて“プロデュース力” を身に付ける

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］秋山ゼミ						
代表教員	秋山　徹	授業コード	GE0111A2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

こどもたちに演奏で喜びと感動を与えよう！　「ハッピー＆ドリームコンサート」

１．主題・到達目標

☆ 主題
・ 保育園、幼稚園、小学校、児童養護施設など、様々な教育現場のこどもたちを対象に、
　音楽の楽しさ、美しさ、素晴らしさ等を伝える事を目的とした、演奏による外部実習を行う事により、
　楽曲知識を深め、音楽技能や音楽表現力を高める。
☆到達目標
・ 乳幼児、児童向けの楽曲知識を深める。
・ 自らの「個性」を発揮しながら、「今」を見据えた自由なステージ創りと実践的な活動を通じ、
　音楽技能や音楽表現力を高める。

２．授業概要

■STEP 1.
「実習作品の選定ならびに作品研究」
実習作品を決め、作品制作演習を行います。
作品制作演習過程では、進行の状況に合わせ、適切な指導も随時行います。
また、乳幼児、児童向けの楽曲を演習し、楽曲知識を深めます。
■STEP 2.
「作品制作発表」
個人やグループによるコンサート形式の作品制作発表を実施して、皆で意見交換を行います。
■STEP 3.
「コンサート形式による外部実習」
幼稚園、保育園、小学校などでコンサートを実施して、実践的実習を行います。
■STEP 4.
実習終了後、実習時の映像資料等を基に、皆で事後研究を行います。

☆ 2018年度 活動実績
8月　：　保育園コンサート、児童療育施設コンサート
9月　：　幼稚園コンサート
11月　：　保育園コンサート、FUYUONファミリーコンサート
12月　：　保育園クリスマスコンサート、子育て支援施設クリスマスコンサート、
　　こども文化センタークリスマスコンサート（小学生対象・高津区こどもの音楽文化体験事業）
2月　：　児童養護施設コンサート

３．授業時間外の学習（予習復習について）

積極的に実習作品の演習や研究に取り組んでください。
想定必要時間は2時間程度となります。

４．成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）、作品研究発表ならびに外部実習（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

実習作品の楽譜を用意してください。
参考文献については適宜紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	※各実習先の依頼時期に応じて、変更等も行いながら下記の計画を進めます。 ［前期］
1	ガイダンス
2	前期実習計画案作成、全体合奏
3	楽曲演習（春季・夏季　乳幼児・児童対象曲）
4	前期実習作品制作演習（乳幼児対象）
5	前期実習作品制作演習（児童対象）
6	前期実習作品制作発表
7	前期外部実習（幼稚園）ゲネラルプローベ
8	前期外部実習（幼稚園）
9	前期外部実習（幼稚園）事後研究
10	前期外部実習（保育園）ゲネラルプローベ
11	前期外部実習（保育園）
12	前期外部実習（保育園）事後研究
13	前期外部実習（小学校）ゲネラルプローベ
14	前期外部実習（小学校）
15	前期外部実習（小学校）事後研究

	※各実習先の依頼時期に応じて、変更等も行いながら下記の計画を進めます。 ［後期］
1	後期実習計画案作成、全体合奏
2	楽曲演習（秋季・冬季　乳幼児・児童対象曲）
3	後期実習作品制作演習（乳幼児対象）
4	後期実習作品制作発表（児童対象）
5	後期実習作品制作発表
6	後期外部実習（幼稚園）ゲネラルプローベ
7	後期外部実習（幼稚園）
8	後期外部実習（幼稚園）事後研究
9	後期外部実習（保育園）ゲネラルプローベ
10	後期外部実習（保育園）
11	後期外部実習（保育園）事後研究
12	後期外部実習（小学校）ゲネラルプローベ
13	後期外部実習（小学校）
14	後期外部実習（小学校）事後研究
15	総括

当ゼミの趣旨
あなたが音楽の道を志すきっかけとなった感動を、 今度はあなたの音楽でこどもたちに与えてあげましょう。 演奏会で社会貢献するゼミナールでもあります。 こどもたちの笑顔のために！皆で楽しく活動しましょう。

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［金3］新井・岩岡ゼミ						
代表教員	新井　秀昇	授業コード	GE0111A3	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員	岩岡　一志						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「わくわくミュージック・ランド」子供向けの吹奏楽＆アンサンブルコンサートを開催しよう！

１．主題・到達目標

子供向けコンサートの開催に際して
・音楽の面白さ／素晴らしさをいかに伝えるかを考え、そのための演奏技術／表現方法を磨く。
・学外からの様々な依頼をしっかりと形にし、プロフェッショナルとしての対応力を身につける。
・各コース履修者の専攻や趣向により集まる多種多様なアイデアをいかにまとめるかを模索し、その過程でより幅広い感性、音楽力、プロデュース能力、積極性、協調性などを磨く。

２．授業概要

・前期は学内外を問わず子供向けの自主制作コンサートを行い、そこでは吹奏楽を主軸にアンサンブルも積極的に取り入れる。それに向けて逆算的に計画を立て、話し合いを重ねながら協働し、音楽面・アートアマネージメント面の両面で様々なワークに取り組む。
・後期は新井／岩岡両教員のディレクションの下、学園祭内での公演「わくわくミュージック・ランド」（子供向けの吹奏楽コンサートで2日間にわたって行われる／2018年度の公演では計4,000人程の集客があった）の制作／出演をメインに取り組む。その中でコンサート制作や現場でのノウハウを学ぶ。
・その他年間を通して外部より公演依頼があった場合にはそれに向けての取り組みを行う。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

コンサートにおける演目の準備（演目考察、楽譜等用意、練習）、制作活動（企画考察、広報、印刷物作成、渉外活動、他各調整）等

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（発案・ディスカッションでの発言など）：30%、
コンサート制作に対する積極性：35%、コンサートでの発表内容：35%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に、適宜資料を配布する（楽譜、チラシ例、プログラム例等）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「より良いコンサート作りのために最大限の努力が出来る」、「仲間との協調ができる」、「報告・連絡・相談が出来る」以上3点を満たす人。

※吹奏楽を主軸にしたゼミであるが、ピアニストや歌手なども大歓迎。当ゼミ公演で自分の専攻をいかに活かすかを他メンバーと一緒に考察し実践して欲しい。

授業計画	
1	ガイダンス／公演制作についての講義／インペク決め
2	前期コンサートにむけてのディスカッション（音楽面）／係決め
3	前期コンサートにむけてのディスカッション（音楽面、マネージメント面）
4	前期コンサートに向けての制作活動（楽譜の用意や広報に関するディスカッションなど）
5	前期コンサートのプログラム確定／チラシについてのディスカッション
6	配布プログラムに関するディスカッション／音出し
7	前期コンサートのチラシ印刷・配布／リハーサル
8	前期コンサート配布プログラム印刷／リハーサル
9	前期コンサート前最終打ち合わせ／リハーサル
10	前期コンサートG.P.演習
11	前期コンサート
12	前期コンサート反省会
13	後期に向けたガイダンス
14	後期コンサートに向けてのディスカッション（マネジメント面）／係決め
15	後期コンサートに向けての制作活動（広報やスタッフに関するディスカッションなど）

1	後期コンサートのプログラム確定／チラシについてのディスカッション
2	配布プログラムに関するディスカッション／楽譜の用意
3	後期コンサートのチラシ印刷・配布／リハーサル
4	広報に関するディスカッション／リハーサル
5	演出に関するディスカッションと演習
6	後期コンサート配布プログラム印刷／リハーサル
7	後期コンサート前最終打ち合わせ／リハーサル
8	後期コンサートG.P.演習
9	後期コンサート「わくわくミュージック・ランド」
10	後期コンサート反省会
11	依頼公演に向けた制作活動
12	依頼公演に向けたリハーサル
13	依頼公演に向けた制作活動／G.P.実習
14	依頼公演出演
15	年間まとめ

当ゼミの趣旨

演奏会で社旗貢献をする。
プロデュース力を身に付ける。

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］大石ゼミ						
代表教員	大石　将紀	授業コード	GE0111C1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

現代の音楽表現研究

１．主題・到達目標

現代音楽、また現代における様々な音楽表現の方法を研究します。
現代の音楽表現に幅広く触れ、知識と経験を広げコンサートで発表します。常に新しいものへの好奇心を持ち続ける演奏家を目指します。

２．授業概要

【現代音楽への導入】
現代音楽の基礎知識、現代音楽史、現代音楽作曲家について学びます。

【演奏系専攻の学生】
現代音楽作品の演奏方法、特殊奏法など現代音楽界で第一線で活躍している演奏家をゲスト講師として迎え学びます。ゲスト講師の活動に触れ刺激を受けます。
ソロ作品、室内楽作品を演奏実習、コンサートリハーサルを通して勉強し、ゼミコンサートで演奏します。

【作曲系専攻の学生】
作曲家のゲスト講師を迎え、作品、活動に触れ刺激を受けます。
演奏家のゲスト講師のレクチャーから様々な楽器についての知識を深めます。
ゼミコンサートでゼミ履修生の演奏による作品発表をします。

【全ての学生】
演奏系専攻の学生、作曲系専攻の学生全ての学生が実験音楽、シアターピースなどの実習を行いゼミコンサートで演奏します。
特に指揮付きの即興演奏「サウンド・ペインティング」はコンサートで毎回演奏します。
（作曲系学生は何か楽器を演奏できること、またはコンピューターや声などでパフォーマンスができることが必要となります）
また履修生の専攻に応じてコンピューター音楽や映像などとの演奏実習、作曲系学生と演奏系学生の新曲創作のためのコラボレーションも行います。

【コンサート】
授業で実習した内容を元に現代音楽のコンサート、または現代音楽を取り入れたコンサートの企画、プログラミング、運営を行い授業で学んだことを実践し、アートマネージメントも学びます。基本的に学内コンサートを年2回、学外コンサートを年1回行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

実習する曲の譜読み、個人練習は授業時間外で各々行ってもらいます。
学外で行われる任意の現代音楽の演奏会２公演に行き、レポートを提出してもらいます。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢(参加状況）、取り組み、レポート、教員、他の学生との協働性等も評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員が用意するもの、受講学生が用意するもの、図書館等から借りるもの等を使います。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

器楽専攻生、声楽専攻生、洋楽器から邦楽器まで幅広く募集します。 作曲専攻生、音楽・音響デザイン専攻生は、楽器やヴォーカル、またはコンピューターなどを使って演奏、パフォーマンスができる事を必要とします。

授業計画	
前期、後期にそれぞれ1回の学内でコンサートを行います。また後期に1回学外のコンサートに出演します。 コンサートの企画、運営、練習をとおして演奏や作曲の技術を向上させ演奏会を行うスキルを身につけることを目標とします。	
	［前期］
1	受講生の顔合わせ、年間の授業計画説明
2	演奏系専攻の学生によるプレゼンテーション
3	作曲系（ＳＣ）専攻の学生によるプレゼンテーション
4	作曲系専攻の学生によるプレゼンテーション
5	現代音楽の基礎知識、現代音楽史
6	実験音楽、シアターピース入門、基礎
7	実験音楽、シアターピース実習
8	前期ゲスト講師による楽器、作品、現代奏法のレクチャー
9	前期コンサート　プログラム会議
10	サウンド・ペインティング（１）入門
11	サウンドペインティング　（２）　教本第１巻
12	前期コンサートリハーサル
13	前期コンサート　通しリハーサル
14	前期コンサート本番
15	前期授業を終えてのディスカッション

	［後期］
1	後期の授業計画説明、後期コンサートの打ち合わせ
2	後期ゲスト講師による楽器、作品、現代奏法のレクチャー
3	ソロ、室内楽、電子音楽作品等のレパートリー研究
4	ソロ、室内楽、電子音楽作品等の現代作品演奏実習 または作曲系学生と演奏系学生の新曲創作コラボレーション
5	学外コンサート、後期コンサートプログラム会議
6	サウンド・ペインティング（3）　教本第１巻復習
7	サウンド・ペインティング（4）　教本第２巻
8	学外コンサート　リハーサル
9	学外コンサート　通しリハーサル
10	学外コンサート本番
11	後期コンサート　新曲プレゼンテーション
12	後期コンサート　リハーサル
13	後期コンサート　通しリハーサル
14	後期コンサート　本番
15	後期授業を終えてのディスカッション

*各回の授業内容は、進度により変更することがある。
{サウンドペインティング参考映像,https://www.youtube.com/watch?v=ptuS_Ryn2S4}

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル”　な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］大城ゼミ						
代表教員	大城　正司	授業コード	GE0111C2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「ソリストへの真剣な努力、自分への音楽を聴衆に問いかける」

１．主題・到達目標

魅力的なソリストとしてステージに立つことを最大の目標とする。
自分達の力で演奏会を作り上げ、アートマネージメントスキルを習得する。

２．授業概要

ソリストとして活躍するゲスト講師の演奏と講義や、名演奏家の映像や録音の分析を通じ、ソリストとしての素養を学び、前・後期末にはソロ演奏会を企画し、自身がステージに立つ。
幾つかのグループに分かれて、それぞれが協力し自分達の手で演奏会を企画、運営する。また、裏方の経験を通じて演奏会開催に必要な作業を学ぶ。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏会の企画準備、各々の独奏曲の練習。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、演奏会への取り組み方（評価の70%）
演奏会での演奏内容（評価の30%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて、その都度プリント等で配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ソリストとしての真剣な勉強をしたい器楽専攻者。

授業計画	
ゲスト講師の演奏や講義、名演奏家の映像などを通じて、ソロやソリストに必要な素養を掴み取る。また実際のコンサートへの出演、準備や裏方を通してコンサート企画、制作の実践を学ぶ。	
	［前期］
1	ガイダンス
2	前期演奏会企画・演奏会概要説明
3	前期演奏会企画・グループ分け・役員選出
4	名演奏家の映像や音源を鑑賞、分析し、ソリストに必要な素養や音楽性について考察する。（弦楽器演奏家から学ぶ）
5	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。（前期担当木管楽器奏者から学ぶ）
6	名演奏家の映像や音源を鑑賞、分析し、ソリストに必要な素養や音楽性について考察する。（ピアニストから学ぶ）
7	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。（前期金管楽器奏者から学ぶ）
8	前期演奏会準備・スケジュール調整
9	前期演奏会準備・裏方役割分担
10	前期演奏会準備・チラシ、プログラム作成
11	前期ソロ・コンサート第1公演・弦楽器
12	前期ソロ・コンサート第２公演・フルート、オーボエ
13	前期ソロ・コンサート第３公演・クラリネット、サクソフォン、ファゴット
14	前期ソロ・コンサート第４公演・ホルン、トランペット
15	前期ソロ・コンサート第５公演・トロンボーン、ユーフォニアム、テューバ

	［後期］
1	前期演奏会反省会
2	後期演奏会企画・演奏会概要説明
3	プログラミング指導（自分の仮想リサイタルのプログラムを作成する）
4	名演奏家の映像や音源を鑑賞、分析し、ソリストに必要な素養や音楽性について考察する。（指揮者、オーケストラから学ぶ）
5	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。（後期木管楽器奏者を予定）
6	名演奏家の映像や音源を鑑賞、分析し、ソリストに必要な素養や音楽性について考察する。（管楽器奏者から学ぶ）
7	ソリストとして活躍する講師を招き、演奏の実演や楽曲分析、音楽観等のお話やディスカッションを通じて、ソリストとしての素養を学ぶ。（後期金管楽器奏者を予定）
8	後期演奏会準備・スケジュール調整
9	後期演奏会準備・裏方役員分担
10	後期演奏会準備・チラシ、プログラム作成
11	後期ソロ・コンサート第1公演・弦楽器
12	後期ソロ・コンサート第２公演・フルート、オーボエ
13	後期ソロ・コンサート第３公演・クラリネット、サクソフォン、ファゴット
14	後期ソロ・コンサート第４公演・ホルン、トランペット
15	後期ソロ・コンサート第５公演・トロンボーン、ユーフォニアム、テューバ

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力		コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［金3］橋本ゼミ						
代表教員	橋本　晋哉	授業コード	GE0111H1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「ブラスアンサンブルを極めよう」（金管楽器の近未来）

１．主題・到達目標

様々な編成のブラスアンサンブルの歴史を学び、ルネサンスから現代までの幅広いレパートリーを体系的に習得、さらにこれからのブラスアンサンブルのありかたを探求します。
ブラスアンサンブルにおいて必要なテクニック、そのチームワークをどのように維持するかについて学び、実践します。
更に、様々な演奏の機会に当たって、自分たちでどのように企画を立て、事務的な準備を行い、適切な広報を通じて演奏会を実現するか、ブラスアンサンブル特有の事情も踏まえて、そのノウハウについて学びます。

２．授業概要

・内容は履修生のレベルを考慮して選択し、全体の向上を図ります。
・小編成から大編成に至るブラスアンサンブルの歴史の重要なレパートリーを演奏、作品分析する事で体感し、演奏スタイルについて知識及び感覚として身に付けます。
・レパートリーとなる作曲家の例：プレトリウス、ジョヴァンニ・ガブリエリ、ペーツェル、ライヒェ、マウアー、ベーメ、エヴァルド、ヒンデミット、アーノルド、ボザ、トマジ、ルトスワフスキ
・複数年の講座を通じて、それらのレパートリーを体系的に習得します。
・金管楽器に興味ある作曲家の学生を集め、それぞれの金管楽器についてレクチャーの機会を設け、作品の制作を積極的にアシストして、レパートリーの拡大に努めます。
・前期・後期1回ずつのコンサートを学生主導で企画、実施します。この2回のコンサートを通じて、演奏技術の向上だけでなく、アートマネージメントスキルの修得も目的とします。また、希望者があれば学園祭での幼児向け演奏会の実施も企画します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業中に初見で演奏することもありますが、事前に譜面を配布する場合には、最低限の譜読みをお願いします。
また、演奏会の準備（チラシの制作、広報、プログラムノートの執筆など）は、授業時間外にお願いすることもあります。
アートマネージメントについて、日本クラシック音楽事業協会「クラシック・コンサート制作の基礎知識」の該当箇所を事前に読んでもらうこともあります。

４．成績評価の方法及び基準

授業への取り組みの姿勢（参加状況）（評価の75%）、演奏会の出来映えなど（評価の25%）を考慮して、成績を評価します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

楽譜に関しては、担当教員が準備するもの・学生が持ち寄ったものを使います。テキストは日本クラシック音楽事業協会「クラシック・コンサート制作の基礎知識」を部分的に使用します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

金　管：金管楽器を専攻している学部生
打楽器：若干名
作　曲：若干名
その他の専攻生も履修可能です（事前に相談ください）。

授業計画	
前期・後期それぞれに一回ずつ、演奏発表の機会を設けます。後期は外部での演奏を予定しています。 それら演奏会の企画、準備、練習を通じてブラスアンサンブル、アートマネージメントスキルについて学びます。	
1	受講メンバーの自己紹介、「演奏者の基本マナー」、金管楽器の基礎テクニック
2	金管合奏の歴史1（中世からロマン派）、アートマネージメントの基本1（演奏会の目的）
3	金管合奏の歴史2（近代から現代）、前期研究曲目の選定
4	演奏メンバー割り振り、研究曲目の解説と実習
5	前期研究曲目の選定、学内演奏会での役割分担
6	アートマネージメントの基本2（準備の概要）、楽曲リハーサル
7	基本レパートリー学習1（ルネサンスからバロック）、楽曲リハーサル
8	アートマネージメントの基本3（広報の基本）、楽曲リハーサル
9	基本レパートリー学習2（古典派）、楽曲リハーサル
10	アートマネージメントの基本4（舞台の進行）、楽曲リハーサル
11	基本レパートリー学習3（ロマン派）、楽曲リハーサル
12	アートマネージメントの基本5 （再確認とまとめ）、楽曲リハーサル
13	基本レパートリー学習4（近代）、楽曲リハーサル
14	学内演奏会リハーサル(GP)
15	学内演奏会

1	前期の反省と後期の計画、後期研究曲目の選定
2	演奏メンバー割り振り、学外演奏会での役割分担
3	アートマネージメント応用1（よい企画とは）、楽曲リハーサル
4	楽器紹介デモンストレーション実習1（トランペット）、楽曲リハーサル
5	アートマネージメント応用2（予算策定、著作権について）、楽曲リハーサル
6	楽器紹介デモンストレーション実習2（ホルン）、楽曲リハーサル
7	アートマネージメント応用3（様々な広報）、楽曲リハーサル
8	楽器紹介デモンストレーション実習3（トロンボーン）、楽曲リハーサル
9	アートマネージメント応用4（様々なマナーについて）、楽曲リハーサル
10	楽器紹介デモンストレーション実習4（ユーフォニアム、チューバ）、楽曲リハーサル
11	楽曲リハーサル、演奏会準備予備日
12	楽曲リハーサル、演奏会準備予備日
13	学外演奏会リハーサル(GP)
14	学外演奏会
15	反省会、今後の展望

当ゼミの趣旨

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］秦ゼミ						
代表教員	秦　江里奈	授業コード	GE0111H2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習,研究	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

生涯、音楽と共に生きていくための自己開発

１．主題・到達目標

①脳科学的視点から見る演奏について②演奏においての理想の身体の使い方③本番時のメンタル強化④表現について
自分のことは意外に目に見えません。ましてや自分の脳部位、自分の骨や関節、心の中など、見て確認することは不可能であり、認識すら定かではありません。
本番に対しての意識は卒業後「過程が重要」から「結果が重要」に移行し、そこでギャランティーも発生するなら立派なプロの演奏家となるわけです。たった１回の演奏の結果でさえ、その後に影響を及ぼす事態にもなりかねません。大変厳しい道で路頭に迷わないために,音を出すことへの責任感や人とのつながりの重要性などを今新たに考えてみましょう。また、「演奏会」というひとつのイベントをあらゆる角度から追及し、ひとりだけで成り立っているのではないことを認識し、一から作り上げるその工程と達成感を体験しましょう。
「音楽と共に生きる」とは、どんな角度ややり方でもよいので、とにかく演奏を続けてもらいたいという全教員の願いからのメッセージでもあります。

２．授業概要

年に2回の「秦ゼミカンタービレ」の演奏会出演。（参考：2018年度は10月前田ホール、1月シルバーマウンテン）
ツクイサンシャイン、川崎高津老人福祉・交流センター、昭和大学病院、関東医療少年院等（未定）での慰問コンサート、保育園、学童保育、小学校などのアウトリーチとイベントコンサート等。
授業ではこれらの演奏会準備の打ち合わせ、プロフィール写真撮影とチラシ作りの工程、及び練習、試演の他、各コースの試験曲での試演会（シルバーマウンテンにて（未定）、授業目標の主題①②③④の研究の他、年に6回の各界で活躍するゲスト講師による特別授業。（参考：今までにジャズトロンボーン奏者堂本雅樹、シエナ・ウインドオーケストラのTb郡恭一郎、読売交響楽団首席トランペットの辻本憲一、仙台フィル首席ヴィオラ奏者の井野邊大輔、元東京フィルコンサートマスター青木高志、NHK交響楽団のVaの飛澤浩人、福島学院教授ピアニストのミハウ・ソブコヴィアク、ジュビロ磐田コーチの元Jリーガーの小林稔、鹿島アントラーズの山本脩斗、脳外科医の高橋浩一、俳優の岸田真弥,東京大学人文社会系研究科の佐野夕香、東北大学准教授哲学者の荻原里、元東京造形大学映画専攻准教授の渡辺敦彦、本学名誉教授声楽の築地文夫、本学卒業生実業家の小野雅也、本学卒業生サックス奏者の泉俊介,その他）
各自のコース以外の学生との交流の機会の提供（特にアンサンブル、伴奏者（pf)とのゼミ内編成を可能にする）
学生のニーズによりコンクールやオーディションへの試演会及びレッスンと意見交換

楽器があり、そこに演奏者と聴衆さえ居たら立派な演奏会です。授業をいい機会としてとらえ、活用してください。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

通常の自己練習。外部コンサートでのアンサンブルでの各チームのあわせ。

４．成績評価の方法及び基準

提出物締切厳守と最低限のモラル及び担当教員が学生に対しての信頼度（評価の３５％）
慰問コンサートへの貢献度（評価の３５％）
平常点(積極的な発言)と各コンサートでの演奏評価（評価の３０％）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

基本的には各自で用意。慰問コンサートに関しては編成により担当教員が用意。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

②演奏時の脱力③演奏時のメンタル④表現力、の主題目標達成の実感については各試演会、各コンサート終了後担当教員と個別に話しあう

授業計画	
秦ゼミコンサート、慰問及びイベントコンサート、ゲスト講師等、日程未定のため１年を通しての概要は次のようになります	
	ゲスト講師２回、慰問コンサート２回、試演会 、研究①脳科学的視点から見る演奏②奏者の理想の身体の使い方を中心に進める
1	授業概要説明と各学生の自己紹介
2	慰問コンサート、アンサンブルチーム等打ち合わせ ①脳科学的視点による演奏法の研究
3	慰問コンサート、アンサンブルチーム曲の相談 ①前回と違う脳部位による脳科学的視点による演奏法の研究
4	ゲスト講師第１回目（仮）井野邊大輔　本番における実力発揮へのヒント
5	慰問コンサート、アンサンブルチーム等打ち合わせ ①脳科学的視点による演奏法の研究と発展
6	慰問コンサート、アンサンブルチーム等打ち合わせと練習と発表①身体の使い方、脱力の研究と実践
7	ゲスト講師２回目（仮）西村健司　卒業生として在校生へのアドバイス　プロとしての心得
8	慰問コンサート、アンサンブルチーム試演会とレッスン ②身体の使い方、ナンバ術の講義
9	前期「秦ゼミカンタービレ」の打ち合わせとアンサンブルレッスン
10	前期「秦ゼミカンタービレ」の打ち合わせと前回と違うチームアンサンブルレッスンと発表
11	プロフィール写真撮影等
12	ピアノコース試験曲試演会4年生 演奏、教員のアドバイス、意見交換
13	ピアノコース試験曲試演会３年生、２年生 試演会、教員のアドバイス、意見交換
14	ピアノコース試験曲試演会1年生 試演会、教員のアドバイス、意見交換
15	教職ピアノ履修生の模擬試験と前期秦ゼミカンタービレの打ち合わせと練習

	二回の秦ゼミカンタービレと慰問コンサートの準備を中心にゲスト講師の回や授業目的の③メンタル強化と④表現につてを中心に進める
1	WIコース、PIコース、SIコース、MEコース他試験曲試演会。金管・木管楽器優先日　試演会、教員のアドバイス、意見交換
2	WIコース、PIコース、SIコース、MEコース他試験曲試演会。弦楽器優先日　試演会、教員のアドバイス、意見交換
3	秦ゼミカンタービレ、慰問コンサート、イベントコンサート練習
4	秦ゼミカンタービレ、慰問コンサート、イベントコンサート練習、レッスンと発表
5	秦ゼミカンタービレ全体練習(特にマイバラードのあわせ)
6	半年を振り返って一人ずつ感想と反省のスピーチ
7	ゲスト講師３回目(仮)　高橋浩一　脳外科医からの視点によるメンタル力強化
8	③本番での実力発揮へのメンタル強化の研究
9	ゲスト講師４回目（仮）岸田真弥　俳優の視点からのアドバイス　表現力について
10	③メンタル研究　イベントコンサートの打ち合わせと練習
11	ゲスト５回目（仮）佐野夕香　文学から探る表現について
12	秦ゼミカンタービレ（後期）打ち合わせとチラシ、プログラム作成
13	秦ゼミカンタービレ（後期）打ち合わせとチラシ、プログラム作成。練習とアドバイスと発表
14	ゲスト講師６回目（仮）講師は未定 スポーツ選手からの視点でのメンタル強化と基礎力の重要性について
15	教職ピアノ履修者模擬試験、秦ゼミカンタービレの準備とリハ １年を振り返って

日程は変更する場合があります

当ゼミの趣旨

“プロフェッショナル”　な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］花柳ゼミ						
代表教員	花柳　珂穂月	授業コード	GE0111H3	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「憧れの日本舞踊」

１．主題・到達目標

音楽を表現するのに、『ただ突っ立って演奏しても、観客の心には響きません！』年間を通して日本舞踊を学ぶ過程で、舞台での心構え、所作、表現力等、舞台人に必要なスキルの向上を目指します。

２．授業概要

古典日本舞踊の基礎（着付け、基本所作、小道具の使い方、簡単な演目の習得。学生各自の希望を考慮した演目の決定、おけい古。最終発表会。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業内容を習得している事を前提に進むので、
しっかり復習すること。
曖昧な箇所を自分なりに把握すること。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（参加状況含む）（評価の100%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

浴衣一式、舞踊用の扇（学校で購入できます。）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

専攻は一切関係ありません。日本舞踊に触れる機会を提供することが主たる目的ですので、目に留まったら、まず体験して下さい。一年やり抜いたその先には、今までと違う自分が待っているはずです。

授業計画	
	［前期］
1	・着付け、所作の練習 （立ち居振る舞い　基礎） ・小曲の練習1
2	・着付け、所作の練習 （立ち居振る舞い　定着） ・小曲の練習2
3	・着付け、所作の練習 （立ち居振る舞い　応用） ・小曲の練習3
4	・小曲の練習4 ・小道具（扇）の使い方　基礎 ・発表会演目を決める話し合い （候補を出す １ ）
5	・小曲の練習 5 ・小道具（扇）の使い方　基礎復習 ・発表会演目を決める話し合い （候補を出す 曲を聞く）
6	・小曲の練習6 ・小道具（扇）の使い方　応用 ・発表会演目を決める話し合い （曲目決定）
7	・小曲の練習　応用 ・小道具（扇）の使い方　応用復習 ・発表会演目を決める話し合い （グループ分け）
8	・小曲の練習　定着 ・小道具（扇）の使い方　定着 ・発表会演目を決める話し合い （グループ決定）
9	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習　1 演奏者選出(候補)
10	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習　2 演奏者選出(決定)
11	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習 3 演奏内容打ち合わせ
12	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習 4
13	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習 5 （グループごとに小道具指導）
14	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習 6 （グループごとに小道具指導） チラシ製作者選出
15	各自一曲めの演目を、グループに分かれて練習 まとめ チラシ製作者決定

	［後期］
1	・一曲めの演目を各グループで練習　確認 ・チラシの作成 ・発表会役割分担(案) ・本番用小道具作成(案)
2	・各自二曲目の演目をグループで練習 1 ・チラシの作成(印刷) ・発表会役割分担(決定) ・本番用小道具作成
3	・各自二曲目の演目をグループで練習 2 ・タイムスケジュールの作成(案)
4	・各自二曲目の演目をグループで練習　3 ・タイムスケジュールの作成 確認
5	・各自二曲目の演目をグループで練習 4 ・発表会役割分担(案) ・本番用進行表作成(案)
6	・各自二曲目の演目をグループで練習 5 ・発表会役割分担(決定) ・本番用進行表作成(決定)
7	・演目ごとの各グループで練習　復習 ・プログラム製作者選出
8	・演目ごとの各グループで練習　定着 ・プログラム内容決定 確認
9	プログラムに沿って、演目ごとの各グループで練習 (演奏者との合わせ　1) 小曲の復習 プログラムの製本
10	プログラムに沿って、演目ごとの各グループで練習 (演奏者との合わせ　2) 小曲の復習　定着 本番用衣裳の打ち合わせ
11	プログラムに沿って、演目ごとの各グループで練習 (演奏者との合わせ、確認) 小曲の復習　確認 本番用衣裳の作成　合わせ
12	演目ごとの各グループで練習　仕上げ 小曲の復習　仕上げ 本番用衣裳の作成　確認
13	リハーサル
14	発表会
15	反省会 (DVD鑑賞、次年度への目標)

当ゼミの趣旨
演奏会を通じて“プロデュース力”　を身に付ける

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力		コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力		規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］星野ゼミ						
代表教員	星野　均	授業コード	GE0111H4	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「明日のプロフェッショナルを目指して」

１．主題・到達目標

　このゼミでは、合奏を主体として演奏会実習を行います。個人レッスンで日々研鑽を積んでいる演奏技術を生かし、様々な形態でのアンサンブルを経験します。 少人数から中規模の編成のアンサンブルを通して、自分以外の奏者の音を聴き分け、タイミングやダイナミックス、ニュアンス、音程など多岐に渡る部分を瞬時に判断し、高度な協調性を主体にした演奏を出来得る、演奏家としての資質を高める事が目的です。基本的には古典から現代までのオリジナル作品を中心としていますが、依頼を受けての演奏会では対象に応じて編曲されたものも取り上げます。好きな曲を編曲して演奏してみたい学生はチャレンジしてみるのも良いでしょう。互いに協力して、質の高い内容の演奏会を目指します。

　また、演奏会の企画、運営を経験することができるのもこのゼミの特徴です。会場の確保、やりたい曲と方向性や対象をふまえた上でのプログラミング、また集客に向けた広報活動、当日までのスケジューリング、そして本番の裏方など、卒業後に様々な場面で必要とされるマネージメントスキルを身につける事ももう一つの目的としています。ゼミの仲間と共に協力して、演奏会を成功させるスキルを身につけて行きましょう。

２．授業概要

木管楽器(ホルンを含む),及びピアノを加えた大編成室内楽、更にクラリネット合奏を行います。
アンサンブルにより演奏能力、コミュニケーション能力の向上を計りながら、演奏会を目指します。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

演奏会曲目の練習、研究に取り組んで下さい。またチラシ、プログラムの作成を行い、効果的な宣伝、集客方法も検討して行きます。演奏会前には臨時練習も行います。

４．成績評価の方法及び基準

演奏能力(評価の30%)、授業態度(評価の20%)、演奏会に向けての参加姿勢(評価の50%)

５．授業で使用するテキスト・参考文献

あらゆる時代の室内楽作品全般,及び弦楽合奏、オーケストラなどの楽曲を編曲して演奏します（委嘱作品含む）。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

木管楽器全般、ホルン、ピアノ、声楽、作曲、音響デザイン、指揮に積極的に取り組みたい人(学生全般)

授業計画	
基本的には年2回から、4回の演奏会を行います。外部からの依頼があった場合、学生の意欲に応じて決定します。	
	［前期］ 新年度が始まり、お互いのコミュニケーションの向上。その上で演奏会に向けての準備、練習を行います。
1	ガイダンス　授業の概要と本番へ向けての考察
2	（前期課題）大編成アンサンブルのパート決め　指揮者の選出
3	（前期課題）小編成、中編成アンサンブルのメンバー決め　パート決め
4	（前期課題）各々のアンサンブルの楽曲を検討
5	（前期課題）検討した楽曲の試奏（小編成）
6	（前期課題）検討した楽曲の試奏（中編成）
7	（前期課題）検討した楽曲の試奏（大編成）
8	（前期課題）試奏を経ての楽曲の決定（ソロ奏者の選出）
9	（前期課題）演奏会に向けてのコンセプトの決定（チラシ、プログラムの作成準備）
10	（前期課題）リハーサル チラシ作成と配布、集客へ向けての対策及び対応
11	（前期課題）リハーサル　大編成アンサンブルの問題点を検討
12	（前期課題）リハーサル　小、中編成アンサンブルの問題点を検討
13	（前期課題）リハーサル　チラシ配布状況と集客状況の確認、及び対策と対応についての検討
14	前期本番
15	反省会（次回演奏会へ向けての対策及び対応）

	［後期］ 前期に準ずる 演奏会場は基本的に大学内で行いますが、外部での演奏会も視野に入れ柔軟に考えていきます。
1	ガイダンス　本番へ向けての考察
2	（後期課題）大編成アンサンブルのパート決め
3	（後期課題）小編成、中編成アンサンブルのメンバー決め　パート決め
4	（後期課題）各々のアンサンブルの楽曲を検討
5	（後期課題）検討した楽曲の試奏（小編成）
6	（後期課題）検討した楽曲の試奏（中編成）
7	（後期課題）検討した楽曲の試奏（大編成）
8	（後期課題）試奏を経ての楽曲の決定（ソロ奏者の選出）
9	（後期課題）演奏会に向けてのコンセプトの決定（チラシ、プログラムの作成準備）
10	（後期課題）リハーサル チラシ作成と配布、集客へ向けての対策及び対応
11	（後期課題）リハーサル　大編成アンサンブルの問題点を検討
12	（後期課題）リハーサル　小、中編成アンサンブルの問題点を検討
13	（後期課題）リハーサル　チラシ配布状況と集客状況の確認、及び対策と対応についての検討
14	後期本番
15	反省会（今回の演奏会の反省、及び次年度演奏会へ向けての対策及び対応）

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル”　な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力		規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］速水ゼミ						
代表教員	速水　けんたろう	授業コード	GE0111H5	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

仲間と協力して一つのものを創り上げる喜びを体感しよう！

１．主題・到達目標

表現者としてプロフェッショナルを目指す上で必要なことを理解し、個々の歌唱力(音程、リズム感、表現力)その他のスキルアップを図ることはもちろん、周りを意識しながらお互いに協力し合って一つのものを一緒に創り上げる喜びを体感しよう！
そして、自分の枠だけにとらわれず常に周りに眼を向ける意識を養おう！

２．授業概要

歌唱に関しては、ジャンルに合わせた歌い方と表現力を身につける。
そして、個々それぞれの得意とする楽器演奏やダンスなどを持ち寄り、自己分析をしながらお互いをフォローし合ってトータル的にスキルの底上げを図る。
企画、制作、発表に段階的に取り組んでいく。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

目標に向けて課題をこなしていく上で、音どりや振付けの確認など、日々の予習や復習に取り組むことが望ましい。

４．成績評価の方法及び基準

日頃の授業態度、取り組む姿勢、個々の進歩度合いなどから総合的に判断し評価する（１００％）。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

課題に応じた資料をその都度配布する。

参考文献　『絶対うまくなる 目的別ヴォイス・トレーニング』（著 ： 高田三郎）等

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

歌が好きで、協調性があって、粘り強く最後まであきらめずに頑張れる人。
明るく元気な人、もしくは明るく元気な人になりたいと思っている人。

授業計画	
外部コンサート出演を目指し、それに向けての諸活動に取り組む。	
	歌唱力アップを目指そう！
1	ガイダンス
2	自己紹介（得意な歌と楽器など）
3	全体歌唱の選曲
4	全体曲の練習 ①（パート決め）
5	全体曲の練習 ②（パート別）
6	個人歌唱の選定及び選曲（ユニットも含む）
7	個人曲の練習 ① 及び 全体曲の練習 ③
8	個人曲の練習 ② 及び 全体曲の練習 ④（振付含む）
9	個人曲の練習 ③ 及び 全体曲の練習 ⑤（振付含む）
10	構成、演出の確認 ①
11	構成、演出の確認 ② 及び 部分リハーサル ①
12	通しリハーサル ① 及び 部分リハーサル ②（ダメ出し）
13	部分リハーサル ③（確認）及び 通しリハーサル ②
14	前期コンサート公開リハーサル（学内）
15	前期コンサート開催（学内もしくは外部）

	魅力あるｽﾃｰｼﾞﾝｸﾞを身につけよう！
1	前期の反省と改善点の確認
2	後期コンサートに向けての討議
3	各セクションの確認 及び 選定
4	各セクション内 パート決め
5	構成、演出の確認 ①（曲順、MCなど）
6	構成、演出の確認 ②（その他アイデアの交換）
7	楽曲の練習 ①（前半曲）
8	楽曲の練習 ②（後半曲）
9	楽曲の練習 ③（前半曲） 仕上げ
10	楽曲の練習 ④（後半曲） 仕上げ
11	部分リハーサル ①（MCその他を含む）
12	通しリハーサル ① 及び 部分リハーサル ②（ダメ出し）
13	部分リハーサル ③（確認） 及び 通しリハーサル ②
14	後期コンサートの公開リハーサル（学内）
15	後期コンサート（学内もしくは外部）

生演奏によるステージ制作を目指す一方で、環境によって難しい場合を想定して音源制作に取り組むこともある。

当ゼミの趣旨

小さな子供からお年寄りまで世代を超えて向き合える心と、必要な技術を養おう！

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［金3］井出ゼミ						
代表教員	井出　博子	授業コード	GE0111J1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「メーキング・フィルムミュージック　スタジオミュージシャンをめざせ！」

１．主題・到達目標

音楽や映画、また、それに関わる人々との交流を通して、「自らの人生の選択」の方法を学んでいく。芸術家としての役割とは何なのかを考え、自分の生き方を見つけ出して欲しい。
映画における音楽の重要性は言うまでもありませんが、日本の音楽家が世界に出て、もっともっと映画音楽にたずさわっていって欲しいと思っています。これまでにこのゼミは、「かもめ食堂」や「めがね」で知られる荻上直子監督作品で、ベルリン映画祭受賞の「バーバー吉野」と、「恋は五七五！」、東京大学合同プロジェクト作品「ブルーシンフォニー」（東京国際映画祭ノミネート）などの音楽レコーディング、「トイレット」の音楽企画に参加してきました。またテレビ番組「南極大陸」のレコーディングにもたずさわりました。
これからもこのゼミから、映画音楽のリーダー的存在として多くの卒業生が育っていくことを期待します。

２．授業概要

映画音楽はどのようにつくられていくのかを、映画分析、演奏、他校学生との議論、現役プロデューサーによる講義、そしてスタジオ見学等を通して、幅広く学んでいく。
今年は新たな器楽専攻の学生を募集したい。作曲コース、音楽・音響デザインコースの学生には、アメリカの大学生（映画学科）とのコラボを期待したい。
また、希望者があれば音楽ソフトの使い方等も指導する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

作曲にたずさわる学生は、提出期限までに制作完了するための時間を授業時間外で各自設定、演奏にたずさわる学生は、コンサートのための演奏練習時間を授業時間外に各グループで設定し、コンサートに備える。

４．成績評価の方法及び基準

提出物・演奏：（評価の50%）
授業への参加姿勢（参加状況／時間厳守）：（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業内で提示

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

なし

授業計画	
〈本年度のプロジェクト〉 ＊1. 荻上直子監督（ベルリン映画祭受賞・文科大臣賞受賞）未公開練習用フィルムの音楽付け 2. アメリカの学生フィルムの音楽付け このプロジェクトは、学生（作曲コースに限らず希望者は可）が作曲し、器楽の学生が映像に合わせて演奏するというスタイルでおこなう予定。 希望者があればUSC(南カリフォルニア大学)映画学科の学生フィルムの作曲･演奏も行う予定。 ＊すでに作られている映画音楽の演奏と発表 自分の好きな映画音楽の曲を選び分析し演奏する。作曲コースは編曲を担当。 病院・老人ホーム・幼稚園・公園に加え、アメリカ人との交流目的でアメリカ人教会やアメリカンクラブでのコンサートもおこなう予定。また、今年は武蔵野赤十字病院・赤十字デイコンサート、都立桜ヶ丘公園桜祭野外コンサート、都立小山内裏公園キャンドルナイト（お月見）、アメリカ人教会（West Tokyo Union Church)クリスマスコンサートの他、希望者があれば学内コンサートも取り入れる。 〈その他〉 希望者があれば ＊日活・音楽スタジオの見学 ＊映画音楽プロデューサーによる「映画制作」についての講義	
	［前期］
1	武蔵野日赤病院コンサートの準備 ミーティング
2	武蔵野日赤病院コンサートの準備 前半５曲の練習
3	武蔵野日赤病院コンサートの準備 後半５曲の練習
4	武蔵野日赤病院コンサート　GP
5	武蔵野日赤病院コンサート本番
6	映画音楽研究（映画鑑賞：前編）
7	映画音楽研究（映画鑑賞：後編）
8	映画音楽研究（ディスカッション）
9	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備 ミーティング
10	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備 前半５曲の練習
11	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備 後半５曲の練習
12	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備 できていない曲の集中練習
13	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備 通し稽古
14	都立小山内裏公園キャンドルナイトコンサートの準備 曲目解説等、司会を入れての通し稽古

15	キャンドルナイト GP

	［後期］
1	秋の学内コンサート ミーティング
2	秋の学内コンサートの準備 前半５曲の編曲クリティーク
3	秋の学内コンサートの準備 後半５曲の編曲クリティーク
4	秋の学内コンサートの準備 前半５曲の練習
5	秋の学内コンサートの準備 後半５曲の練習
6	秋の学内コンサートの準備 できていない曲の集中練習
7	秋の学内コンサートの準備 通し稽古
8	秋の学内コンサートの準備 曲目解説、司会を入れての通し稽古
9	秋の学内コンサートGP
10	秋の学内コンサート本番
11	冬の学内コンサート ミーティング
12	冬の学内コンサートの準備 前半５曲の練習
13	冬の学内コンサートの準備 後半５曲の練習
14	冬の学内コンサートの準備 通し稽古
15	映画音楽作曲のクリティーク

当ゼミの趣旨
様々な“メディア” での音楽制作を研究・体験する 演奏会で“社会貢献” する

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力		コミュニケーション力	○	状況把握力	
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力		規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］門倉ゼミ						
代表教員	門倉　美香	授業コード	GE0111K1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員	山田　州子						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「コミュニケーション能力を高めよう！」

１．主題・到達目標

主題：あなただからこそ、出来る事が必ずあります。コミュニケーション力を高め、仲間達に自分の意見をしっかり伝えられるようになりましょう。

目標：一人一人、得意な事は異なります。自己分析力を高め、自分の得意な事を見つけましょう。

２．授業概要

振り付け、アレンジ、楽器演奏など、お互いアイディアを出し合い、アートマネージメントスキルの習得を目指したポップスコーラスメインの自主コンサート開催を、企画から行います。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

個人練習、イベント依頼用臨時練習、希望者によるホームページ更新

４．成績評価の方法及び基準

1、平常点（評価の80%）、授業前の事前学習（評価の20%）で総合的に判断する。平常点は授業への参加姿勢及び授業態度、事前学習は配布した楽譜の譜読みにおける完成度とする。
2、前期一回、後期一回のコンサートには、必ず参加をしているか。また、学外でのイベント出演に、積極的に参加しているかも、判断の基準とする。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

イベント依頼時点で決定

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

仲間を大切にし、団体行動が出来、音楽を楽しむ事が大好きで、元気がある人

授業計画	
前期:ゼミ主催のサマーコンサート開催に向けて活動 後期:ゼミ主催のウインターコンサートに向けて学生自ら計画及び立案。その後、コンサート開催に向けて活動 ※尚、TV、CM、アーティストコンサート、イベント出演の際は、スケジュール変更を行う場合があります。	
	［前期］ 2016年度、「Y!mobile」CM撮影、「寅さんサミット」出演。 前田ホールにてゼミ主催コンサート、DVD撮影。 2017年度、地域推進コンサート、昭和大学豊洲病院コンサート、自由が丘女神祭りコンサート、NHKイベント、「嵐」ドームツアー映像出演、高津市民音楽祭出演、年二回ゼミコンサート開催。 2018年度、高津区、川崎市地域推進コンサート出演。 NHKイベント「WANIMA、RADWIMPS」共演。年二回ゼミコンサート開催。 ホームページhttp://kzflavor.net
1	ガイダンス
2	各担当決め
3	パート決め
4	ゼミプレゼンテーション用動画撮影に向けて曲決め
5	全体合唱、音取り
6	パート別練習
7	全体合唱練習
8	動画撮影リハーサル
9	動画撮影
10	前期自主コンサートに向けてグループ分け
11	前期自主コンサートグループ練習
12	前期自主コンサートのグループ振り付け
13	前期自主コンサート公開リハーサル
14	グループ練習 前期自主コンサート全体合唱練習
15	前期自主コンサート開催

	［後期］
1	前期コンサートの反省、改善すべき点の検討
2	後期コンサートの話し合い
3	グループ決め
4	グループ内パート決め
5	後期コンサートグループ練習
6	後期コンサートのグループ振り付け
7	グループ合唱練習
8	グループ公開リハーサル
9	後期コンサートプログラム決め
10	後期コンサートグループ毎の合唱練習
11	後期コンサート全体合唱振り付け
12	後期コンサート全体合唱練習
13	後期コンサート全体合唱公開リハーサル
14	後期コンサート通しリハーサル
15	後期コンサート開催

当ゼミの趣旨
様々な“メディア” での音楽制作を研究・体験する

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］北島ゼミ						
代表教員	北島　公彦	授業コード	GE0111K2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「目指せ、プロ・コンサーティスト！」

１．主題・到達目標

★ソリストに必要な音楽性・人間性を探求
１８年目を迎える伝統ある本ゼミは、演奏の質という点でも高い水準を維持している。演奏それ自体の＜質の向上＞を目標とした、プロフェッショナルなプレーヤーに憧れを抱く人々の集まり、を目指している。
日本の音大中でも、メジャーな存在に成長してきた本学であるが、優秀なソリストを多く輩出してきた、とは言い難い。現在、全ての楽器に於いて演奏力は向上し、難易度の高い曲をクリアー出来るのは、当たり前の水準になっている。問題は、そこに如何に自分の個性を注入できるか、である。
本ゼミでは、演奏に対するアドヴァイスは当然のこと、諸君のソロ・プレーヤーとしての個性を発揮できる「場」としたい。

２．授業概要

★学内外コンサートでの成果発表
◎前期・後期に、それぞれ Silver mountain 等学内のホールで、複数回の学内コンサートを行う。ソリストとしての技量・舞台マナー、そしてオーラを身に纏う為の訓練の「場」とする。コンサート後には、かつて筆者がドイツ留学時代体験したような、お互いの演奏会をディスカッションする時間を設ける。
また、ソロ演奏とは別に、学内外での室内楽を中心とするコンサートは、本ゼミの恒例行事でもある。
◎上記演奏会を開くにあたっては、経済面や外部との交渉も含んだ、総合的なステージ・マネージング等の実務も同時に体験する。
◎演奏技量の充実
たとえ複数の人間で行うアンサンブル演奏であっても、その土台は一人一人の演奏力である。
また希望者には、時間の許す限り、授業時間内で一人当たり１５分程度のトーク・コンサートとアドヴァイス・レッスンを行う。
◎授業内での担当教員からの講話は重要である。教員自身の経験から得た社会学や欧州留学体験等の話は、将来、音楽と共に生きようとする諸君らには、有益である。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・日々の知識と技術の研鑽＝いつでも要請があれば、パッと何かしら演奏できる技量とレパートリーを身に付けて欲しい

４．成績評価の方法及び基準

ゼミ活動への貢献度(評価の30%)と演奏力（評価の30%）、そして参加姿勢（参加状況）（評価の40%）を加味した総合点。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

対象は、全ての器楽専攻生と声楽専攻生。筆者はピアニストであるが、ピアノ・コース生はもちろん、弦管打、声楽の学生さんで 「我こそは！」 と演奏力に自信の有る者、そして演奏力を身に付けたい者の履修を望む！ （履修制限あり、40名前後）
2018年度は、独奏者としての演奏力を磨くための全10回の Silver mountain での「ソリストへの道」学内コンサートが実施された。そして、恒例の「室内楽の喜び」シリーズとしては、全４夜に渡る室内楽コンサートがカワイ表参道コンサートサロン「パウゼ」、銀座YAMAHAコンサートサロン、更にシルバーマウンテン2Ｆでも2夜、有料の室内楽コンサートが開催された。
さらに、2014年度初開催されたゼミ出身の卒業生を交えた、Special GALA Concert は好評を博し、次回の開催も検討されている。

出席率が極度に低い場合は失格となる。

授業計画	
	［前期］
1	本ゼミの歴史と目標。受講生の自己紹介等。
2	本ゼミの目標主題への講話
3	年間の具体的演奏計画の作成
4	年間の具体的演奏計画の作成と決定
5	前期演奏会の企画出演者の決定
6	コンサート実施での留意点等の確認
7	ソリストへの道Vo.1（Aチーム） 他チームからのフィードバック
8	ソリストへの道Vol.2（Bチーム） 他チームからのフィードバック
9	ソリストへの道Vol.3（Cチーム） 他チームからのフィードバック
10	ソリストへの道Vol.4（Dチーム） 他チームからのフィードバック
11	ソリストへの道Vol.5（Eチーム） 他チームからのフィードバック
12	前期演奏会の振り返り
13	後期演奏会への具体的計画
14	後期演奏会へ向けてのプログラミングと裏方作業等担当者の配置決め
15	学内外でのコンサート、或いは希望者によるゼミ内でのみに・トークコンサート

	［後期］
1	後期のコンサート計画作成
2	フライヤーの作成と外部演奏会でのプログラム作成時に於ける注意点等々のまとめ
3	第一夜：室内楽コンサートのランスルー （Aチーム）
4	Aチーム室内楽コンサート
5	第二夜：室内楽コンサートのランスルー （Bチーム）
6	Bチーム室内楽コンサート
7	第三夜：室内楽コンサートのランスルー （Cチーム）
8	Cチーム室内楽コンサート
9	第四夜：室内楽コンサートのランスルー （Dチーム）
10	Dチーム室内楽コンサート
11	室内楽コンサートシリーズを振り返って
12	ソリストへの道Vol.6 （前期とは異なるチーム編成A）
13	ソリストへの道Vol.7 （前期とは異なるチーム編成B）
14	ソリストへの道Vol.8 （前期とは異なるチーム編成C）
15	ソリストへの道Vol.9 （前期とは異なるチーム編成D）

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］くりゼミ						
代表教員	クリストファー　ハーディ	授業コード	GE0111K3	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「さわる、なでる、激しく叩く！」～Let's Play ！ 手で叩く世界の民族打楽器～

１．主題・到達目標

自分の「手」で世界を奏でる。ラテン、西アフリカ、中東、南米、手で叩く世界の民族打楽器の演奏法を取得します。打楽器の原点を学び、コンサートで実践して、自分のグルーヴを磨く、コミュニケーション＆アンサンブル能力をアップさせます！

２．授業概要

各民族打楽器の演習とアートマネージメントスキルの修得を目指した年2 回のコンサートの企画制作をします。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

コンサートの企画準備、各個人の練習とグループ練習

４．成績評価の方法及び基準

授業態度(評価の３０％)と授業への参加姿勢（(評価の７０％）（参加状況）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布。※授業は日本語で行います。ご安心ください。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

打楽器コース、ロック＆ポップスコースのパーカッションとドラム専攻生の全学年

授業計画	
	［前期］
1	西アフリカ　　ジェンベの紹介と基本打ち
2	西アフリカ　　ジェンベの基本リズム、ククー
3	西アフリカ　　ジェンベの基本リズム、ママヤ マリンケ族
4	西アフリカ　　ジュンジュンの紹介、基本打ち
5	西アフリカ　　ジュンジュンの基本打リズム、マクルー スス族
6	西アフリカのジェンベとジュンジュンのアンサンブル
7	ラテンパーカッション コンガの紹介、基本打ち
8	ラテンパーカッション　　コンガの基本リズム、トゥンバオ
9	ラテンパーカッション　　コンガの基本リズム、ワワンコ
10	ラテンパーカッション　　ボンゴの紹介、基本打ち
11	ラテンパーカッション　　ボンゴの基本リズム、マルティージョ
12	ラテンパーカッション　　コンガとボンゴのアンサンブル
13	コンサート　　前期企画内容、チラシ作り
14	コンサート　　前期リハーサル
15	コンサート　　前期本番

	［後期］
1	中近東　　ダラブッカの紹介、基本打ち
2	中近東　　ダラブッカの基本リズム、マスムーディ
3	中近東　　ダラブッカの基本リズム、マクスーム
4	中近東　　タールの紹介、基本打ち
5	中近東　　レックの紹介、基本打ち
6	中近東　　レックの基本リズム、マルフーフ
7	中近東　　ダラブッカ、タール、レックのアンサンブル
8	ブラジリアン パーカッション　　パンデイロの紹介、基本打ち
9	ブラジリアン パーカッション　　サンバ楽器の紹介
10	ブラジリアン パーカッション　サンバのアンサンブル
11	アイリッシュ パーカッション　バウロンの紹介
12	アイリッシュ パーカッション　　ボーンズ
13	コンサート　　後期企画内容、チラシ作り
14	コンサート　　後期リハーサル
15	コンサート　　後期本番

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］中西・山田ゼミ						
代表教員	中西　暁子	授業コード	GE0111K4	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員	山田　拓児、蟻正　行義						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

ビッグバンド実習

１．主題・到達目標

ジャズのビッグバンドの編成で楽曲を演奏することにより、ビッグバンドというスタイル、リズムグループへの理解を深め、またジャズにおけるアンサンブルの方法、アドリブの方法、さらにはジャズのアレンジの音楽的な意味合いも理解し、感じながら演奏できることを目標とする。

２．授業概要

図書館所蔵のビッグバンドアレンジを各曲数回にわたりリハーサルを行う（楽曲によってリハーサルの回数は異なる）。楽曲を仕上げるだけでなく、それぞれの曲に必要なスキルを高めるための、音楽についての説明や、個人練習の方法も授業内で示される。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

ジャズというスタイルを理解し身につけるためには、読譜力だけではなくジャンルを肌で感じることが必要不可欠です。そのためには、各曲目を予め聴いて自分なりに理解すること、また授業で指摘される内容を復習して次回のリハーサルに生かせるようにすることが必要です。

４．成績評価の方法及び基準

授業態度、また成果発表の演奏が評価され、成績が付けられます。また、必要に応じて最終回の授業で試験として課題曲を演奏する場合もあります。（履修者の演奏レベルにより、担当教員が試験の必要性を判断します）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

図書館所蔵のビッグバンドスコア。（曲目は指定される）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

アンサンブルとして行われる授業であるため、各自の練習の達成度が他の履修者にダイレクトに影響します。履修者全員で、アンサンブルをより良いものにしていこうという意志を持って履修してください。

授業計画	
1	ジャズの基本的な演奏について
2	リズム演習（スイングリズム）
3	リズムセクションの考察
4	ジャズのハーモニーについて
5	楽曲演習１：スイングスタイル：Benny Goodman
6	楽曲演習２：スイングスタイル：Glenn Miller
7	楽曲演習３：アーティキュレーション
8	楽曲演習４：リズミックグルーブ：スイング
9	楽曲演習５：リズミックグルーブ：ラテン
10	楽曲演習６：サックスのアンサンブル:サックスソリ
11	楽曲演習７：サックスによるアンサンブル：アンサンブルでのサックスセクション
12	楽曲演習８：ブラスセクションによるアンサンブル：ブラスソリ
13	楽曲演習９：ブラスセクションによるアンサンブル：アンサンブルでのブラスセクション
14	前期演奏会（成果発表）
15	まとめ・反省会

1	リズムセクションとのアンサンブル
2	アドリブソロについて
3	Be Bopについて
4	楽曲演習１：モダンジャズ:Count Basie
5	楽曲演習２：モダンジャズ:Thad Jones
6	楽曲演習３：ラテンジャズ:Salsa
7	楽曲演習４：ラテンジャズ:Paquito
8	楽曲演習５：アフロキューバン：Dizzy Glillespie
9	楽曲演習６：アフロキューバン:アフロキューバンのリズムについて
10	楽曲演習７：ブラジリアン：ボサノバ
11	楽曲演習８：ブラジリアン：サンバ
12	楽曲演習９：コンテンポラリー:Gil Evans
13	楽曲演習１０： コンテンポラリー:Maria Schneider
14	後期演奏会（成果発表）
15	まとめ・全体反省会

当ゼミの趣旨

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力		コミュニケーション力	○	状況把握力	
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［金3］松元ゼミ						
代表教員	松元　宏康	授業コード	GE0111M1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

指揮や指揮伴奏ピアノについて真剣に追究し、音楽に関する見識を深める。

１．主題・到達目標

【指揮クラス】
・指揮法において基本的な技術とされる「指揮法教程」練習題No.1から8までを指揮できるようになる。
・指揮法の基本的な技術を身に付け、その技術を応用し管弦楽や吹奏楽の作品をそれぞれのレベルで指揮できるようになる。
・指揮するために必要なスコアリーディング（楽曲の研究、分析）ができるようになる。
・アートマネジメントの能力を養い、研究発表の場としての演奏会を自分達で企画出来るようになる。
【指揮伴奏クラス】
・指揮クラスの授業に参加することで、指揮者に必要な基本的な技術について理解できるようになる。
・指揮伴奏の技術を養うことで、指揮者が関わるアンサンブルでの演奏ができるようになる。
・指揮伴奏するために必要なスコアリーディング（楽曲の研究、分析）ができるようになる。
・独奏楽器ではない学生とのコミュニケーション能力を養い、自身の演奏活動に活かすことができるようになる。

２．授業概要

指揮や指揮伴奏を学ぶことは、指揮法や伴奏法と呼ばれるテクニックを学ぶだけではなく、それぞれの楽器や楽曲についての知識を深めることはもちろん、アンサンブルすることや授業の準備を通じて人との関わりやマナーを身に付ける良い機会になります。
ですから、大学時代に指揮や指揮伴奏を真剣に学ぶことで得られる経験が、卒業後どのような職業に就くことになるとしても、必ず将来役に立つ糧になると考えます。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

【指揮クラス】
・指揮法教程の予習復習については、各自でしっかりと各項目を読み込んでおくこと。基本的に指揮法教程はとても難しい文章で構成されているので、各項目を理解するためには1、2時間程度の時間がかかると考えてください。
・指揮法教程の読解を補うための資料としてDVD「斎藤秀雄メソッドによる指揮法」（Victor）を観て予習復習をすることをお勧めします。各項目が5～10分程度にまとめられているだけでなく、実際に指揮する姿を動画で繰り返し観ることが出来るため、学習の大きな助けになります。
・指揮をする課題曲については、暗譜する程度に研究と分析をすること。準備時間は作品の内容によって変わりますが、出来るだけの時間を割く必要があります。
・時間の許す限り、学内外のあらゆるリハーサルを見学することが理想です。
【指揮伴奏クラス】
・指揮法教程については、指揮のレッスンを見学する中で、何について語られているかを理解出来る程度の予習をすることをお勧めします。各項目15～20分程度の時間がかかると考えてください。
・指揮伴奏する課題曲については、暗譜程度に練習をしておくこと。
・指揮伴奏をする課題曲については、暗譜する程度に研究と分析をすること。準備時間は作品の内容によって変わりますが、出来るだけの時間を割く必要があります。

４．成績評価の方法及び基準

成績は指揮クラス、指揮伴奏クラス共に平常点のみで評価します。
平常点は、クラス毎に設定された到達目標をどれだけ達成出来たか、各項目をどれだけ理解出来たか、授業を学び場として捉えどれだけ積極的に取り組みに参加出来たかなどで判断します。テストは行いません。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

《必ず購入するもの》
【指揮クラス】
・改訂新版「指揮法教程」斎藤秀雄著（音楽之友社）
・指揮棒（購入を迷う場合は初回授業で相談すること）
【指揮伴奏クラス】
・改訂新版「指揮法教程」斎藤秀雄著（音楽之友社）
《必ず準備するもの》
【指揮クラス・指揮伴奏クラス】
・学習する作品のスコア（開講時には必要ありません）

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・指揮や指揮伴奏を学ぶために必要な音楽能力（一般的に言うソルフェージュと呼ばれる読譜力・聴音・リズム感）、コミュニケーション能力（協調性や他者の話を理解しようとする力）を有し、この授業で真剣に勉強した経験を将来に役立たせたい学生の履修を望みます。
・授業の性質上、受講者数の制限を行う場合があります。
・指揮や指揮伴奏についての事前知識は必要ありません。

授業計画	
指揮クラス、指揮伴奏クラス共に、前期は指揮法教程の練習題やその他の教材を使って基礎を学ぶ。前年度より継続して履修している学生については、そのレベルに合わせて課題を設定する。 後期は、引き続き指揮法教程の練習題やその他の教材を使って、前期に学習した内容の復習をしつつ、さらに新しい課題に取り組みながら、より実践的な技術や知識を身に付ける。また、それらを実習する場として研究発表の場を企画し演奏会を行う。	
1	ガイダンス
2	指揮法教程1p～29pの解説と実践 （指揮の歴史と指揮法を学ぶ重要性、叩きのメカニズム）
3	指揮法教程30p～39pの解説と実践 （各拍子の叩き）
4	指揮法教程1p～39pまでの復習、指揮法教程40p～62pの解説と実践 （学習したことをどのくらい理解出来たかの確認、曲を使って叩きの復習、叩き以外のテクニックの学習）
5	練習題No.1の解説と実践 （練習題の取り組み方を学ぶ、これまで学んだ基礎的なテクニックの応用方法を学ぶ、スコアリーディングの基礎を学ぶ、柔らかいしゃくい及び平均運動の練習、指揮伴奏の基礎や考え方を学ぶ）
6	練習題No.1の復習と練習題No.2の解説と実践 （しゃくいの練習）
7	練習題No.2の復習と練習題No.3の解説と実践 （しゃくいの練習）確認
8	練習題No.3の復習と練習題No.4の解説と実践 （先入・半先入の練習、先入・半先入の考え方）
9	練習題No.1～No.4の復習、研究発表会の企画準備 （曲目の決定、企画準備の役割分担など）
10	前期研究発表会の準備、ならびに前期研究発表会で取り上げる作品のレッスン「楽曲分析・指揮の方法」 （指揮伴奏クラスの演奏によるリハーサル）
11	前期研究発表会の準備、ならびに前期研究発表会で取り上げる作品のレッスン「具体的な指揮の方法の習得」 （指揮伴奏クラスの演奏によるリハーサル）
12	前期研究発表会の準備、ならびに前期研究発表会で取り上げる作品のレッスン「まとめ」 （指揮伴奏クラスの演奏によるリハーサル）
13	前期研究発表会の準備、ならびに前期研究発表会で取り上げる作品のレッスン （公演の出演者の演奏によるリハーサル）
14	前期研究発表会総合リハーサル
15	前期研究発表会

1	練習題No.5の解説と実践 （練習題No.1～4で学んだ技術、知識の応用）
2	練習題No.5の復習と練習題No.6の解説と実践 （練習題No.1～4で学んだ技術、知識の応用）
3	練習題No.6の復習 （練習題No.1～4で学んだ技術、知識の応用）
4	練習題No.6の復習と練習題No.7の解説と実践 （練習題No.1～4で学んだ技術、知識の応用）
5	練習題No.5～7の復習、研究発表会の企画準備
6	練習題No.8の解説と実践、研究発表会の企画準備 （曲目の決定、企画準備の役割分担など）
7	練習題No.8の復習、研究発表会の企画準備 （曲目の決定、企画準備の役割分担など）
8	練習題No.8の復習、研究発表会の企画準備 （曲目の決定、企画準備の役割分担など）
9	後期研究発表会の準備、ならびに後期研究発表会で取り上げる作品のレッスン「楽曲分析・指揮の方法」 （指揮伴奏クラスの演奏によるリハーサル）
10	後期研究発表会の準備、ならびに後期研究発表会で取り上げる作品のレッスン（前半）「具体的な指揮の方法の習得1」 （指揮伴奏クラスの演奏によるリハーサル）
11	後期研究発表会の準備、ならびに後期研究発表会で取り上げる作品のレッスン（後半）「具体的な指揮の方法の習得2」 （指揮伴奏クラスの演奏によるリハーサル）
12	後期研究発表会の準備、ならびに後期研究発表会で取り上げる作品のレッスン「まとめ」 （指揮伴奏クラスの演奏によるリハーサル）
13	後期研究発表会の準備、ならびに後期研究発表会で取り上げる作品のレッスン （公演の出演者の演奏によるリハーサル）
14	後期研究発表会総合リハーサル
15	後期研究発表会

各項目のレッスンや研究発表会に向けてのリハーサルは、学習状況により回数が増える可能性があり、履修生にはそれらに関する時間調整などに協力していただく場合があります。

当ゼミの趣旨

当ゼミは「指揮や指揮伴奏を真剣に勉強したい」という要望が多くの学生から寄せられたことで開講されることになりました。もちろん洗足学園では「指揮法」の授業で、指揮の基本的な技術や考え方を勉強をすることは出来ますが、より指揮や音楽について深く研究したいという要望に応えるためには、多くの時間をかけて指揮を専門的に学ぶ場所が必要であると考えます。それは、指揮を体験することで自分の自尊心を満たすこと、また指揮を勉強をしたということをプロフィールに記載することなどが目的になることとは根本的に考え方が異なります。当ゼミが音楽を真剣に学ぶ学生にとっての有益な場になることを願っています。

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］境ゼミ						
代表教員	境　信博	授業コード	GE0111S1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「みんなで手作りオペラを楽しもう！」
～舞台の表裏すべて知って1本のオペラ作り上げる楽しみ～

１．主題・到達目標

・オペラを1作品丸ごと勉強することで、舞台の裏表の仕事も体験し、多くの人の協力によって舞台が出来上がり、公演が成り立つことを理解する。
・外の舞台に立つときに役に立つ舞台上の決まり事や、ルールも学ぶ。
・日本語の訳詩で勉強するので、それぞれのシーンや人間像、心情などの表現を、ダイレクトに感じ勉強していく。
・1年生から大きな舞台に立ち、経験を積んでもらう。
★1本のオペラを行う授業はここだけ！！

２．授業概要

歌とピアノ専攻生は、一年間を通して1つのオペラを、音楽稽古、立ち稽古、本番と仕上げていく。楽器専攻の学生は、オペラ以外にも木管5重奏、金管10重奏、他のアンサンブルも学習しながら、オペラ全曲も学ぶ。
年に数回、アンサンブルの演奏会をする。本公演を短くしたショート版公演も例年3月と4月に行っている。

・2015年度公演　プッチーニ作曲「修道女アンジェリカ」、メノッティ作曲「アマールと夜の訪問者」
・2016年度公演　シュトラウス作曲「こうもり」
・2017年度公演　モーツアルト作曲「魔笛」
・2018年度公演　ビゼー作曲「カルメン」
２０１９年度は履修生のバランスで演目を初回時に決定する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

・譜読みは各自やって来ること。
・夏休みや本公演前（後期実技試験後）臨時練習が入る可能性がある。
・前もってスケジュールが出るので、欠席しないよう、スケジュール、体調管理をきちっとする。
・どうしても休まなくてはならない場合は、必ず連絡をすること。
・仲間意識を強く持ち思いやりのある態度と行動をすること。

４．成績評価の方法及び基準

・授業への参加姿勢（参加状況、通常授業及び臨時練習）
・コンサートへの参加
・アンサンブル,演技、等に対する意識の高さ。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

・オペラヴォーカルスコアは、日本語上演の為、ゼミ制作のスコア,
もしくは市販の決められたスコアを、各自で購入。
・オーケストラは、パート譜を配布。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

・遅刻、欠席をしない、やむを得ない場合は、ゼミ長、インペクに必ず連絡できる人。
・全員で作り上げていくことに、努力、協力できる人。

授業計画	
	前期
1	役割決め（インペク、各係） 演目決め
2	歌：配役決め試唱会 ピアノ：担当箇所決め、試唱会伴奏 器楽：室内楽コンサートの曲決
3	基本演技稽古 稽古伴奏 室内楽弦楽器楽譜作り
4	音楽稽古 音楽稽古伴奏 室内楽管楽器楽譜作り
5	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 室内楽弦楽器分奏
6	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 室内楽Fl分奏
7	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 室内楽Cl分奏
8	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 室内楽Hr分奏
9	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 Wリード分奏
10	音楽稽古 音楽稽古の伴奏 4重奏分奏～合奏
11	立ち稽古への準備演技の基礎 演技基礎の伴奏 5重奏分奏～合奏
12	音楽稽古～立ち稽古 音楽稽古～立ち稽古伴奏 室内楽弦楽器分奏～合奏
13	音楽稽古～立ち稽古 音楽稽古～立ち稽古伴奏 管楽器分奏～合奏
14	音楽稽古～立ち稽古 音楽稽古～立ち稽古伴奏 室内楽合奏
15	暗譜テスト 暗譜テスト 通し練習 公演 アンサンブルコンサート

	［後期］
1	基礎演技～立ち稽古 立ち稽古伴奏 室内楽コンサートの為の曲決め
2	立ち稽古 立ち稽古伴奏 弦楽器分奏
3	立ち稽古 立ち稽古伴奏 管楽器分奏
4	立ち稽古 立ち稽古伴奏 アンサンブル合わせ
5	ダンス振り付け ダンスのシーンの伴奏 アンサンブル分奏
6	立ち稽古 立ち稽古伴奏 アンサンブル分奏～合奏
7	立ち稽古 立ち稽古伴奏 室内楽コンサート（予定）
8	立ち稽古 立ち稽古伴奏 オペラ弦楽器分奏
9	立ち稽古 立ち稽古伴奏 管楽器分奏
10	ダンス振り付け ダンスシーンの伴奏 弦楽器合奏
11	通し稽古 通し稽古伴奏 管楽器合奏
12	通し稽古 通し稽古伴奏 オペラ合奏
13	オペラハイライト公演
14	本公演に向けてのダメ出し 及び通し稽古
15	通し稽古 オペラ本公演

各週の内容は、授業の進み具合のより、変更される場合があります。

当ゼミの趣旨

“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く
卒業後の活動に役立つよう、舞台などの裏のことも学ぶ。

成長する力				協働する力			
自己分析力		課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力		規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］坂井ゼミ						
代表教員	坂井　紀雄	授業コード	GE0111S2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員	JAH - RAH						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「ライブ・プロデュース・ゼミ」

１．主題・到達目標

集客力のある魅力的なライブイベントの実践・研究。

２．授業概要

テーマ性のあるイベントを企画し、それぞれの役割を通じて「協働する」を研究。と共に、多岐コースのコラボレーションを実現する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

Liveコンサート計画、準備、前回の反省等

４．成績評価の方法及び基準

スタッフ、又は出演者として積極的に参加し、研究したかを評価する。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ライブパフォーマンスに意欲的で音楽性の高い志を持つ学生を求む。

授業計画	
	［前期］ Liveコンサート 2回～3回（学内、学外含む） 企画、準備、演出等
1	前期ガイダンス
2	（前期）プロデューサー、舞台監督、PA係、照明係、楽器係、広報係、案内係等、スタッフの役割分担　決定会議
3	（前期前半ライブ用）企画提出、コンセプト説明～協議
4	（前期前半ライブ用）企画、コンセプト決定会議
5	（前期前半ライブ用）資料準備、書類提出、演者募集
6	（前期前半ライブ用）演者決定、音源、セット図等　準備
7	（前期前半ライブ用）タイムスケジュール作成、演出、全体打ち合わせ
8	前期ライブ本番（前半）
9	（前期）前回の反省、成功点など会議。 次回企画提出、コンセプト説明～協議
10	（前期後半ライブ用）企画、コンセプト決定会議
11	（前期後半ライブ用）資料準備、書類提出、演者募集
12	（前期後半ライブ用）演者決定、音源、セット図等　準備
13	（前期後半ライブ用）タイムスケジュール作成、演出、全体打ち合わせ
14	前期ライブ本番（後半）
15	総括・前期反省会

	［後期］ Liveコンサート 2回～3回（学内、学外含む） 企画、準備、演出等
1	後期ガイダンス
2	（前期）プロデューサー、舞台監督、PA係、照明係、楽器係、広報係、案内係等、スタッフの役割分担　決定確認会議
3	（後期前半ライブ用）企画提出、コンセプト説明～協議
4	（後期前半ライブ用）企画、コンセプト決定会議
5	（後期前半ライブ用）資料準備、書類提出、演者募集
6	（後期前半ライブ用）演者決定、音源、セット図等　準備
7	（後期前半ライブ用）タイムスケジュール作成、演出、全体打ち合わせ
8	後期ライブ本番（前半）
9	（後期）前回の反省、成功点など会議。 次回企画提出、コンセプト説明～協議
10	（後期後半ライブ用）企画、コンセプト決定会議
11	（後期後半ライブ用）資料準備、書類提出、演者募集
12	（後期後半ライブ用）演者決定、音源、セット図等　準備
13	（後期後半ライブ用）タイムスケジュール作成、演出、全体打ち合わせ
14	後期ライブ本番　（後半）
15	総括・後期反省会

当ゼミの趣旨
演奏会の企画、制作等を通じて個人の、そして全体の“プロデュース力”　を身に付ける

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］斉藤ゼミ						
代表教員	斉藤　光浩	授業コード	GE0111S3	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「レコーディング・プロデュース・ゼミ」

１．主題・到達目標

レコーディングの企画から制作までのプロセスを理解し実践、プレイヤー／エンジニアの立場だけでなく、ディレクションまで含めた、総合的なプロデューサーとしてのスキルを学ぶ

２．授業概要

前期8回、後期7回のレコーディングに向けて、企画→リハーサル→レコーディング（リズム・レコーディング／ダビング）というサイクルで進める

３．授業時間外の学習（予習復習について）

レコーディングのための個人練習

４．成績評価の方法及び基準

プロジェクトへの参加姿勢50%、作品の完成度50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

スタジオワーク経験者を優先するため、２年生以降の履修が望ましい。１つのプロジェクトを責任もって遂行する能力を問われるポジション（プロデューサー）を追求するゼミであるため、リーダーシップ、積極性を第一に求める。履修希望者数により人数制限を行う場合あり。

授業計画	
	前後期とも以上のプロセスを6～12チームで行う。 ［前期］ 前期企画会議→各グループ毎にリハーサル→レコーディング（リズム）→ダビング→ミックス
1	ガイダンス、前期企画会議およびスケジューリング
2	グループ１ レコーディング（リズム/グループ1オリジナル曲A）＆他のグループ・リハーサル
3	グループ２ レコーディング（リズム/グループ2オリジナル曲B）＆他のグループ・リハーサル
4	グループ３ レコーディング（リズム/グループ3オリジナル曲C）＆他のグループ・リハーサル
5	グループ１・２ /オリジナル曲ABダビング＆他のグループ・リハーサル
6	グループ２・３ オリジナル曲BCダビング＆他のグループ・リハーサル
7	グループ４ レコーディング（リズム/グループ4オリジナル曲D）＆他のグループ・リハーサル
8	グループ５ レコーディング（リズム/グループ5オリジナル曲E）＆他のグループ・リハーサル
9	グループ６ レコーディング（リズム/グループ6オリジナル曲F）＆他のグループ・リハーサル
10	グループ３・４ /オリジナル曲CDダビング＆他のグループ・リハーサル
11	グループ４・５/オリジナル曲DE ダビング＆他のグループ・リハーサル
12	グループ7 レコーディング（リズム/グループ7オリジナル曲G）＆他のグループ・リハーサル
13	グループ8 レコーディング（リズム/グループ8オリジナル曲H）＆他のグループ・リハーサル
14	グループ5・６ /オリジナル曲EFダビング＆他のグループ・リハーサル
15	グループ６・７/オリジナル曲FG ダビング＆他のグループ・リハーサル

	［後期］ 後期企画会議→各グループ毎にリハーサル→レコーディング（リズム）→ダビング→ミックス
1	後期企画会議&グループ７・８ /オリジナル曲GHダビング＆他のグループ・リハーサル
2	グループ９ レコーディング（リズム/グループ9オリジナル曲I）＆他のグループ・リハーサル
3	グループ１０ レコーディング（リズム/グループ10オリジナル曲J）＆他のグループ・リハーサル
4	グループ１１ レコーディング（リズム/グループ11オリジナル曲K）＆他のグループ・リハーサル
5	グループ８・９ /オリジナル曲HIダビング＆他のグループ・リハーサル　ダビング＆リハーサル
6	グループ９・10/オリジナル曲IJ ダビング＆他のグループ・リハーサル　ダビング＆リハーサル
7	グループ１2 レコーディング（リズム/グループ12オリジナル曲L）＆他のグループ・リハーサル
8	グループ１3 レコーディング（リズム/グループ13オリジナル曲M）＆他のグループ・リハーサル
9	グループ１4 レコーディング（リズム/グループ14オリジナル曲N）＆他のグループ・リハーサル
10	グループ10・11/オリジナル曲JK ダビング＆他のグループ・リハーサル
11	グループ11・12/オリジナル曲KL ダビング＆他のグループ・リハーサル
12	グループ１5 レコーディング（リズム/グループ15オリジナル曲O）＆他のグループ・リハーサル
13	グループ12・13 /オリジナル曲LMダビング＆他のグループ・リハーサル
14	グループ13・14/オリジナル曲MN ダビング＆他のグループ・リハーサル
15	グループ14・15/オリジナル曲NO ダビング＆他のグループ・リハーサル

レコーディングスタジオ・スケジュールを優先するため、年度ごとにスケジュールは変わります。

当ゼミの趣旨
演奏会を通じて“プロデュース力”　を身に付ける

成長する力				協働する力			
自己分析力		課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］田中ゼミ						
代表教員	田中　良一	授業コード	GE0111T1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

子供と園児に笑顔と喜び音楽の楽しさを伝える
　　「子供と楽しむ・アンサンブル・コンサート」

１．主題・到達目標

「音大に行こう」「キラキラ！ハッピー！コンサート」をタイトルに幼児から小学生を対象とした演奏会を企画し開催します。
そして小学生、幼児に音楽を通して喜びや感動を与える演奏会を作っていきます。
子供達には聴くだけでなく演奏に参加できる音楽会プログラムを行っています。
みんなのアイデアでいろいろな新しい演奏会を形にしていきます。
その演奏会を通じて演奏技術はもちろん表現力からコンサートの企画、制作、演出と実践的に学び高める事を目標にします。

２．授業概要

演奏会のテーマを決め楽器構成を考え曲目を決める。
曲の練習と作品研究をしたり相互に意見交換します。
リハーサルを通じ子供達が参加出来る曲や方法等を考える。
演奏会本番に向け最終準備そして本番。

保育園では演奏に涙する園児もいます。小学生は曲だけではなく作曲家にまで関心を持ちます。
音楽で演奏で子供達の世界を広げてあげましょう。

大学に小学生を招いた演奏会、保育園への訪問演奏会、小学校や特別支援学校でのイベント出演、プラネタリウムでの星空をバックに演奏等を行っていきます。また昨年度は近隣小学校の学童クラブから大学に子供達を招き１００名近い参加者となりました。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

積極的に実習作品を研究、演習して下さい。

４．成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）、実習作品発表（評価の50%）を総合的に評価し判定します。

５．授業で使用するテキスト・参考文献

適宜紹介します。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。
ソロやいろいろな形のアンサンブルを作って行きたいので専攻にこだわらずに参加してください。
またアレンジをしたい学生も歓迎です。
弦楽、木管、金管、打楽器、ピアノ、声楽等いろいろなコースの学生が集まっています。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス
2	前期演奏会計画案作成
3	前期演奏会曲紹介ポピュラー
4	前期演奏会曲紹介クラシック
5	前期招待団体との打合せ
6	前期演奏団体との曲調整
7	前期演奏会曲目練習ポピュラー
8	前期演奏曲練習クラシック
9	前期演奏曲作品研究とアレンジ
10	前期演奏曲ポピュラー試演会
11	前期演奏曲クラシック試演会
12	前期演奏会作品研究とアレンジ
13	前期演奏会リハーサル
14	前期演奏会
15	前期演奏会反省会

	［後期］
1	後期演奏会計画案作成
2	後期演奏団体と打合せ
3	後期演奏曲候補決め
4	作品研究とアレンジ
5	作品研究と演習
6	後期演奏会リハーサル
7	外部演奏会
8	外部演奏反省会
9	第二回演奏団体打合せ
10	第二回外部演奏曲候補決め
11	楽器編成、構成決め
12	編成に合わせた作品研究とアレンジ
13	作品研究と演習
14	演奏会リハーサル
15	第二回外部演奏本番

当ゼミの趣旨
“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力		課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］谷川明ゼミ						
代表教員	谷川　明	授業コード	GE0111T2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員	雨谷　善之						
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「歌い手と伴奏ピアニストのために!!」～オペラ ソロ、アンサンブル・舞台演奏表現法～

１．主題・到達目標

日本では各地域により合唱団の普及と共にアマチュアオペラ団体、市民オペラ団体が増えており、それに対応できる歌い手や音楽スタッフ不足という現実があります。声楽の学生はもちろんの事、そのオペラの内容に触れそれぞれの声を生かし歌う事以外（言葉に対する意識や感情表現、ピアノをはじめ他楽器とのアンサンブル）の芝居を含めた経験をしなければ成りたちません。とくに各オペラ団体の研修所などで、勉強したり舞台に立ったりする時のためにも、学生時代からその現場での必要なことをこのゼミで準備期間として学んで欲しいと思います。ピアノの学生にはピアノソロ以外に、演奏会での伴奏ピアニスト、オペラ公演準備のためのピアニスト、Maestro Collaboratore(コルペティートル)としてまず一番大事なのは、歌い手との呼吸の合わせ方、音楽的構成力、歌い手以上にその音楽スタイルや言葉を理解していなければならないこと、アンサンブルピアニストとしての役割を果たしていること、またオーケストラの代用であることなど、オペラ音楽や伴奏法に関して、ある程度の知識が必要となってきます。学内で伴奏をする際にも、最小限のことは理解して演奏してもらいたいと思います。このゼミでは歌い手をはじめ、演奏会や公演準備などの伴奏ピアニスト、音楽スタッフがその現場で「どのような立場で、何を理解し、何が必要で、何をしてなければならないか」という基本的な事を実践の中で学び学生達に伝えていきたいと考えています。
また、演奏会にはたくさんの種類があります。劇場や大ホールで行う大きなものからサロンコンサートのような小さなものまで。場所に応じた演奏法も最大に必要となってきます。数回予定の演奏会では、学生達が中心に演奏会を創りあげ、その演奏会の企画、内容、その空間に応じた演奏法ということにも目を向けてみたいと考えています。演奏する側、聴く側に音楽という空間芸術のすばらしさ、それぞれの作曲家の音楽の美しさ、アンサンブルの楽しさ、そして演奏会を創りあげてゆくことの喜び、達成感を味わってもらいたいと思います。

２．授業概要

演奏会の予定、曲目、スタッフなどを決め、オペラ作曲家の歌曲、モーツァルトのオペラをはじめイタリアオペラを中心にオペラアリア、アンサンブルを取り上げ演習形式で授業を進め、数回の演奏会の開催を予定しています。これまでに横浜市桂台ケアプラザ、横浜市磯子地域センター、ヒルデモアたまプラーザ、クロスハート横浜にて定期的にコンサートを開催。そして前期、後期ともシルバーマウンテンで学内での演奏会を行いました。また、川崎市高津区役所にて「溝の口コミュニティコンサート」に出演の他、担当教員出演のオペラ【オテッロ】【トスカ】公演に合唱で参加した年もありました。今後はいろいろなスタイルでの演奏会を企画して学生に演奏させる回数を増やしていく予定です。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

授業時間内でできることは限られていますので、授業であたっているときは当たり前のことですが譜読みから合わせ等、必ず終わらせておいてください。また、とりあげる曲の自分での内容等の学習も合わせて終わらせておいてください。つまりオペラアリアにしても重唱にしてもオペラの一部分を演奏するわけですから全体の理解、特に演奏する箇所の前後は特に重要です。それはピアニストも同様です。

４．成績評価の方法及び基準

平常点・授業への参加姿勢及び研究姿勢（評価の50%）、年間を通して行われる演奏会等の貢献度（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

授業で演奏する側聴く側とも演奏する曲の楽譜の他、対訳、辞書持参が望ましい。
オペラを演奏する場合（アリア、アンサンブルとも）国内出版社のアリア集などを使用せず、必ずピアノヴォーカルスコアから抜き出すように心がけてください。
とくにこの授業ではイタリアオペラに限ってはドレミ出版のアリア集だけは使用しないようにしてください。
例）Mozart⇒Bärenreiter版
Rossini、Bellini、Donizetti、Verdi、Pucciniなど⇒Ricordi版
Mascaqni,Giordano,Ciléa,Leoncavalloなど⇒Sonzogno版
版権の関係で例外もありますので詳しくは担当教員に相談してください。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

原則的に声楽、ピアノ専攻の学生対象で授業を進めていきますが、他の楽器学生、音楽教育の学生で歌う事やピアノ伴奏、演奏とそれぞれが独自の音楽パフォーマンスを学びたい学生も歓迎します。このゼミへのご質問やご要望、ご連絡はメールでもお答えします。
taniamazemi@gmail.com

授業計画	
	昨年同様、9月にシルバーマウンテンで前期終了演奏会の予定。履修者の人数にもよりますが、授業内での研究会なども考えています。 ［前期］
1	顔合わせによる試聴会、曲決め
2	前期レッスンスケジュール決定 新年度話し合い レッスン開始
3	演奏会に向けてのレッスン オペラアリア及び歌曲
4	演奏会に向けてのレッスン Aグループ音楽指導　導入 オペラ重唱及びソロ　フィガロの結婚、ドン・ジョヴァンニ、コジ ファン トゥッテより
5	演奏会に向けてのレッスン Bグループ音楽指導　導入 秘密の結婚、奥様女中、セヴィリアの理髪師より
6	演奏会に向けてのレッスン Cグループ音楽指導　導入　展開 フィガロの結婚、奥様女中、皇帝ティトの慈悲より
7	演奏会に向けてのレッスン Aグループ音楽指導　導入　展開 ドン・ジョヴァンニ、コジ ファン トゥッテ、セヴィリアの理髪師より
8	演奏会に向けてのレッスン Bグループ音楽指導　導入　展開 秘密の結婚、愛の妙薬、オルフェオとエウリディーチェより
9	演奏会に向けてのレッスン Cグループ音楽指導　展開　演技指導含む ドン・ジョヴァンニ、コジ ファン トゥッテ、セヴィリアの理髪師より
10	演奏会に向けてのレッスン Aグループ音楽指導　展開　演技指導含む 秘密の結婚、愛の妙薬、オルフェオとエウリディーチェより
11	演奏会に向けての最終レッスン Bグループ音楽指導　展開　演技指導含む フィガロの結婚、奥様女中、皇帝ティトの慈悲より
12	演奏会に向けてのレッスン Cグループ音楽、演技指導　総括 ドン・ジョヴァンニ、コジ ファン トゥッテ、セヴィリアの理髪師より
13	演奏会に向けてのレッスン Aグループ音楽、演技指導　総括 秘密の結婚、愛の妙薬、オルフェオとエウリディーチェより
14	演奏会に向けてのレッスン Bグループ音楽、演技指導　総括 フィガロの結婚、奥様女中、皇帝ティトの慈悲より
15	演奏会に向けてのレッスン Cグループ音楽、演技指導　総括 及び前期のまとめ及び前期終了演奏会確認事項

	後期には授業外でヒルデモアたまプラーザⅢ、横浜市桂台ケアプラザ、横浜市磯子地域センターなどの施設での演奏会を行うことになっています。2018年度はゼミ「ウインターコンサート」として12月9日㈰に行いました。また一年間の締めくくりとして「ゼミファイナルコンサート2017」を3月8日㈮にシルバーマウンテン1階で行います。 ［後期］
1	後期の曲決めと演奏会企画決め
2	後期レッスンスケジュール決定 後期話し合い レッスン開始
3	演奏会に向けてのレッスン オペラ重唱及びソロ Aグループ音楽指導　導入 フィガロの結婚、ラ・ボエーム、リゴレットより
4	演奏会に向けてのレッスン Bグループ音楽指導　導入 コジ ファン トゥッテ、こうもり、ウィンザーの陽気な女房たちより
5	演奏会に向けてのレッスン Cグループ音楽指導　導入 ラクメ、ドン・パスクアーレ、カプレーティ家とモンテッキ家、椿姫より
6	演奏会に向けてのレッスン Aグループ音楽指導　展開 フィガロの結婚、ラ・ボエーム、リゴレットより
7	演奏会に向けてのレッスン Bグループ音楽指導　展開 コジ ファン トゥッテ、こうもり、ウィンザーの陽気な女房たちより
8	演奏会に向けてのレッスン Aグループ音楽指導　展開　演技指導含む フィガロの結婚、ラ・ボエーム、リゴレットより
9	演奏会に向けてのレッスン Cグループ音楽指導　展開 ラクメ、ドン・パスクアーレ、カプレーティ家とモンテッキ家、椿姫より
10	演奏会に向けてのレッスン Bグループ音楽指導　展開　演技指導含む コジ ファン トゥッテ、こうもり、ウィンザーの陽気な女房たちより
11	演奏会に向けてのレッスン Cグループ音楽指導　展開　演技指導含む ラクメ、ドン・パスクアーレ、カプレーティ家とモンテッキ家、椿姫より
12	演奏会及び慰問コンサートに向けてのレッスン Aグループ音楽、演技指導　総括 フィガロの結婚、ラ・ボエーム、リゴレットより
13	演奏会及び慰問コンサートに向けてのレッスン Cグループ音楽、演技指導　総括 ラクメ、ドン・パスクアーレ、カプレーティ家とモンテッキ家、椿姫より
14	演奏会に向けてのレッスン Bグループ音楽、演技指導　総括 コジ ファン トゥッテ、こうもり、ウィンザーの陽気な女房たちより
15	ABCグループ総括及び後期のまとめ及びファイナルコンサート確認事項

この授業回数の他、前期、後期とも演奏会までに数回のリハーサル補講を行います。
上記表記の授業での曲目等は演奏した取り上げた曲の紹介にもなるので過去のものをそのままに記載してあります。
履修者の人数、声種等により毎年変更していきますのでご了承ください。
この他、ランメルモールのルチア、ファルスタッフ、友人フリッツ等、カルメン、ホフマン物語等のフランスもの、魔笛、魔弾の射手、ヘンゼルとグレーテル、またブラームス4重唱「愛の歌」等のドイツものにも挑戦した年もありました。

当ゼミの趣旨

“プロフェッショナル” な演奏家を目指し、ソロやアンサンブルの技量を磨く

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力		柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［金3］上薗ゼミ						
代表教員	上薗　未佳	授業コード	GE0111U1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

バロック・アンサンブル！

１．主題・到達目標

このゼミは、バロック音楽が好き、興味がある、深く学んでみたい！という学生の皆さんでアンサンブルを組み、コンサートを企画、運営し、社会貢献へとつなげていくことを目的としている洗足唯一のバロック・ゼミです！
現在、国内外において、作曲家が生きた時代の楽器、いわゆるピリオド楽器（または古楽器）によるアンサンブルやオーケストラは一般的になって久しいですが、皆さんが演奏しているモダン楽器によるバッハやヴィヴァルディなどのバロック音楽の演奏会も同様に大変盛んに行われています。また、バロック音楽は、ポップスやジャズに通じる即興性や通奏低音奏法による伴奏法、さらにダンス音楽も数多く存在し、魅力が満載です！バロックを勉強すると、アンサンブル力と同時に、全体を支えて導く指揮者に相当する力も身についていきます。
ぜひ、バロック音楽の演奏技術や解釈を学んで貴方の可能性をグッと引き出しましょう！そして、演奏するだけではなく、各コンサートの青写真を探求し、企画、運営する力と協働力を育んで、聴いてくださる方々に癒しと元気と希望を抱いていただく場を生み出すことを目指してゆきましょう！

２．授業概要

1.　プロフェッショナルへの道
　・バロック音楽を、アンサンブルを通して学ぶ。
　・古楽器のスペシャリスト（バロック・ヴァイオリン、バロック・チェロ、バロック・フルート、バロック・オーボエ、バロック・ファゴットな
　　ど）、また、バロック声楽、バロックダンスのスペシャリストをお招きし、レクチャーを受け、実際に体験し自らの演奏に活かす。
　・バロック時代の理論書を学び、演奏に活かす。
2.　プロデュース力を付け、社会貢献する道
　・コンサートを開催できる場所を開拓し、交渉、企画、運営を行う。
　・前期にシルバーマウンテンでの学内演奏会を開催する。
　・後期は、学内でニューイヤーコンサート、および、学外演奏会を開催（2018年度　チャリティーコンサートを松本記念音楽迎賓館にて
　　開催。）
　・希望者は、後期に開催される「バロックとその周辺の音楽」に出演。
　・優秀なアンサンブルは、東京オペラシティ3階　近江楽堂http://www.oumigakudou.comのランチタイムコンサートに出演可。
　・ゼミ演奏会の活動状況を、ソーシャルメディアを通して発信する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

譜読みは済ませて授業に臨む。アンサンブルチームでの合わせは積極的に行う。

４．成績評価の方法及び基準

平常点50%（授業への参加姿勢と意欲。）
コンサートでの演奏の内容、または、コンサートの企画および運営力50%

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要なテキストは適宜配布する。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

バロック音楽を演奏したい器楽コース、声楽コースの学生の履修を希望。
学内学外でのコンサートの企画・運営に意欲のある学生の履修を希望。
鍵盤楽器専攻の学生は、チェンバロを演奏する。

授業計画	
授業計画はあくまでも目安です。変更されることがあります。	
	まずは、学内演奏会を目標とする。バロック音楽の知識、演奏法などを座学、実技を通して学びながら自らの可能性を開き、アンサンブル力を高める。同時にコンサートの企画、運営に向かっていく。
1	ガイダンス。メンバーの自己紹介。
2	前期コンサートの青写真に迫る
3	アンサンブルチームを決定し、前期のスケジュールを作成
4	バロック音楽について①ー歴史、作曲家について
5	バロック音楽について②ー通奏低音奏法、装飾法について
6	古楽器スペシャリストを招いて1
7	バロックダンスを踊ってみよう！（市瀬先生によるレクチャーとダンスの実習）
8	チラシ係、ステマネ、プログラム係を決めて協働する。
9	コンサートに向けて：アンサンブルAのレッスン
10	コンサートに向けて：アンサンブルBのレッスン
11	コンサートに向けて：アンサンブルCのレッスン
12	コンサートに向けて：アンサンブルAの仕上げ
13	コンサートに向けて：アンサンブルBの仕上げ
14	コンサートに向けて：アンサンブルCの仕上げ
15	コンサートに向けてのリハーサル

	後期は、学内、および学外演奏会を目標とする。前期の授業、およびコンサートをトータルな視点で振り返り、ブラッシュアップさせて本番に臨んでいく。
1	前期のコンサートの反省会（総評、良かった点、改善点）
2	後期コンサートの青写真に迫る
3	古楽器スペシャリストを招いて2
4	古楽器スペシャリストを招いて3　確認
5	コンサートに向けて：アンサンブルDのレッスン
6	コンサートに向けて：アンサンブルEのレッスン
7	コンサートに向けて：アンサンブルFのレッスン
8	コンサートに向けての：アンサンブルDの仕上げ
9	コンサートに向けて：アンサンブルEの仕上げ
10	コンサートに向けて：アンサンブルFの仕上げ
11	学内コンサートに向けての準備、練習。
12	学内コンサートに向けてのリハーサル。
13	学外コンサートに向けての準備、練習。　確認
14	学外コンサートに向けてのリハーサル　確認
15	全体のまとめと反省会。

当ゼミの趣旨
演奏会で”社会貢献”する

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	○

科目名	演奏会実習１～４　［水3］上田ゼミ						
代表教員	上田　恭子	授業コード	GE0111U2	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

「さあ演奏会を開催しましょう」（ノウハウ教えます）

１．主題・到達目標

様々なコースの学生によるアンサンブル実習や、パフォーマンスで音楽の融合の可能性を追求。
卒業後に自分の学んできた知識をいかに社会に環元していくか考察。
企画を立案する上でのポイント・書類の書き方を指導
様々な演奏会を開催。イベントを円滑に開催する方法を学ぶ。

２．授業概要

企画立案。演奏会に向けての授業時間内のアンサンブル実習。企画書の書き方添削指導。演奏会開催に向けて実践的指導(交渉方法、選曲、チラシや、プログラムの作成添削等)。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

アンサンブル実習の前に楽譜探しや手配、個人練習・製本等確実に行ってきて下さい。
提出物は期限内に必ず提出の事。

４．成績評価の方法及び基準

演奏会でのソロやアンサンブルの完成度（評価の60%）
平常点（評価の40%）（企画書・授業への参加姿勢・参加状況）により評価

５．授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じて配布

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

大変アットホームなゼミです。ゼミ生達は大変仲が良く昨年度は学祭で模擬店も行いました。
様々な専攻の方々で演奏会を企画し、開催したいと思います。
様々な楽器とのアンサンブルを体験する事により個人の技術も高められます。
様々な楽器、様々なジャンルのコースの方々を大歓迎します。
演奏会を開催する方法や、チラシ、プログラム原稿の書き方等具体的に解りやすく指導します。演奏会の回数は多いですが少人数グループ毎の開催の為負担は少ないです。様々な企画を立てたいと思います。
又皆さんの卒業後もサポートするゼミです。

授業計画	
	音楽を社会に環元する為のコンサート（聴衆に聴く喜びと温かい気持ちを与える） ＊年間を通じて仏蘭西舎すいぎょくでのティータイム、ディナータイムコンサート ［前期］ ①企画書を作成し新規演奏場所開拓交渉の上、演奏会開催 ②今までに演奏会を開催した所での演奏会開催 の二班に分かれ演習 2018年度演奏会例 5月5日 埼玉県森林科学館でのコンサート(フルート四重奏、サックス五重奏) 8月9日 きっずタウン浮間保育園、わんぱくクラブでの音遊びコンサート(フルートファゴット三重奏、サックス四重奏、ピアノデュオ) 8月12日 仏蘭西舎すいぎょくティータイムコンサート(フルートデュオ、ピアノ、サックス四重奏) 9月1日 グランドホーム・カペナウム(老人ホーム)音の翼コンサート 9月2日 メゾン・ド・ソレイユ(老人ホーム)音の翼コンサート
1	ガイダンス
2	自己紹介アピール演奏と、年間のスケジュールについて
3	企画書の作り方について指導と、課題
4	企画書提出と、添削 前期演奏会について決定
5	第一回アンサンブル演習と、仏蘭西舎すいぎょくオーディション
6	演奏会グループ分けと、企画会議 仏蘭西舎すいぎょくの演奏会練習
7	演奏会練習 新規演奏場所開拓班は企画書提出
8	仏蘭西舎すいぎょくでの演奏会の反省会、演奏会練習
9	演奏会練習 新規演奏場所開拓班は企画書発送
10	演奏会練習　ソロ・アンサンブル
11	演奏会最終打ち合わせと、確認作業
12	リハーサルと、チラシ、プログラムの提出 新規演奏場所開拓班会議
13	演奏会最終練習と、司会原稿のチェック チラシ、プログラムの校正と印刷
14	グランドホーム・カペナウムゲネプロ

15	わんぱくでの音の翼コンサートゲネプロ

	自分の技術と芸術性を向上させる為のコンサート ［後期］ 2018年度演奏会例 10月19日 川崎市立夢見ヶ崎小学校での木管五重奏コンサート 12月19日 わんぱくクラブ(幼稚園)での楽器体験付きクリスマスコンサート 12月20日 きっずタウン浮間保育園でのクリスマスコンサート 12月22日 板橋区立金沢小学校での楽器体験付きクリスマスコンサート 12月22日 加賀ガーデンハイツでのクリスマスコンサート 12月23日 メゾン・ド・ソレイユ(老人ホーム)クリスマスコンサート 12月25日 グランドホーム・カペナウム(老人ホーム)でのクリスマスコンサート 2月日程未定 オーディション合格者によるすいぎょくコンサートサックス四重奏、フルート四重奏、フルートオーボエピアノ三重奏) 2月25日 ＥＩコンサート(ゼミ生全員による)大倉山記念館 2月28日 川崎市立今井小学校での木管五重奏コンサート 2月日程未定 木内鳩の家幼稚園楽器体験付き音遊びコンサート 2月未定 ルポール麹町でのパーティ演奏 3月未定 仏蘭西舎すいぎょくランチコース付きコンサート
1	夏休み中の演奏会の反省会 後期の企画について 演奏会グループ分け ラ・メゾン・ド・ソレイユでの演奏会練習
2	各グループでの企画会議と、企画書作成 ラ・メゾン・ド・ソレイユゲネプロ
3	仏蘭西舎すいぎょくオーディション 夢見ヶ崎小学校での演奏会のゲネプロ
4	ラ・メゾン・ド・ソレイユ反省会 仏蘭西舎すいぎょく演奏会練習と、その他のグループは楽曲探し
5	仏蘭西舎すいぎょくゲネプロと、演奏会練習
6	仏蘭西舎すいぎょく反省会と、最終企画会議
7	演奏会練習①わんぱくクラブ、きっずタウン浮間保育園 企画書添削
8	演奏会練習②金沢小学校、加賀ガーデンハイツ EIコンサート会議
9	演奏会練習③メゾン・ド・ソレイユ、カペナウム クリスマスコンサート最終打ち合わせ
10	金沢小学校ゲネプロと、チラシ、プログラム、司会原稿の提出と添削
11	金沢小学校音遊びコンサートの反省会と、加賀ガーデンハイツクリスマスコンサートゲネプロ
12	グランドホーム・カペナウムでの音の翼コンサートゲネプロと、チラシ、プログラムの校正 演奏会練習

13	EIコンサート、木内鳩の家コンサートの企画について クリスマスコンサート最終確認
14	加賀ガーデンハイツ、グランドホーム・カペナウムでのクリスマスコンサートの反省会 演奏会練習
15	クリスマスコンサートの反省会 EIコンサートのプログラム原稿提出とチラシ提出 ２月の演奏会の最終打ち合わせ （木内鳩の家幼稚園音の翼コンサート・仏蘭西舎すいぎょくランチコース付きメルシーコンサート）

当ゼミの趣旨
演奏会を通じて“プロデュース力” を身に付ける

成長する力				協働する力			
自己分析力		課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	○
持久力・耐久力		メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力	○	規律・礼儀	

科目名	演奏会実習１～４　［水3］渡部ゼミ						
代表教員	渡部　亨	授業コード	GE0111W1	科目コード	GE0111d	期間	通年
担当教員							
授業形態	演習	配当学年	1				
対象コース	全（BL・AS・DC履修対象外）	科目分類	専門選択（全コース共通）				
前提科目	特になし						

ゼミテーマ

川崎フロンターレ 応援ゼミ
2018J1連覇したがそれに付随する行事などで演奏会実習ゼミとして絶え間無く応援演奏を実施し続けて来ました。
他にも川崎市内施設、市立小学校、図書館、特別養護施設などでもソロはもちろん室内アンサンブルを経験する。

１．主題・到達目標

◎独奏・室内アンサンブル・ポップスバンドで、音楽と社会のつながりを実践演奏会で学び、研究する。
演奏例
①J1連覇したJ1川崎フロンターレとのコラボレーション演奏（等々力競技場内「エンタの広場」「オープニングファンファーレ」「ファン感謝祭」「パブリックビューイング」「新体制発表会演奏」等イベント）を通じて、音楽から社会・市民への発信を行う。
②高津区市民館との共同プロジェクト「プラザ橘サマーコンサート」演奏会
プログラム：プロコフィエフ「ピーターと狼」、サン - サーンス「動物の謝肉祭」、プーランク「ぞうのババール」、ラヴェル「ボレロ」など音楽物語と映像を用いた音楽を協働で作り上げる。
③特別養護老人ホーム「ビオラ川崎・サンデーコンサート」ホーム１Fロビーでグランドピアノと慰労コンサート開催。
④夏・秋の2回「永福町商店街」との提携コンサート
⑤川崎市立小学校での音楽教室
⑥学園祭でのコンサート実施「2018年は洗足学園フェティバル ファイナルコンサート」開催

２．授業概要

「演奏会」毎に演奏会場や聴衆の要望を調査し、演奏内容から編成・プログラムを決定し、準備を行う。必要であれば演奏会場に出向き、クライアント（依頼主側）との打ち合わせを行い、異種専門の様々な音楽を理解し共同作業で演奏会を作り上げる。
其々の演奏能力を磨き、本番を実践体験する。
チラシ・プログラム・配布物作成に参加し、宣伝や内容の説明にも工夫を凝らす。
演奏会はできるだけ土曜、日曜祝日、夏休みなど学事日程において学内授業、演奏会日程とバッティングしないよう調整する。

３．授業時間外の学習（予習復習について）

社会貢献の可能性を高める演奏曲目の調査、編曲、練習を行う。

４．成績評価の方法及び基準

演奏内容（相互協力も）（評価の50%）
演奏事前準備と授業参加状況（評価の50%）

５．授業で使用するテキスト・参考文献

様々なCD・DVD、文献、楽曲スコア、前年度までの使用楽譜など。

６．履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ（ソロ、連弾）・弦楽器(Vn,Va,Vc,Cb,Hp)・打楽器・木管（Fl,Ob,Cl,Fg,Sx)・金管（Hr,Tp,Euph,Tb,Tuba)などすべての専攻楽器ソロ・室内アンサンブルを行う。音楽家として社会に出る前にまずゼミ活動で社会からの評価を受けることが大事です。

授業計画	
	［前期］
1	ガイダンス（前期演奏会予定提示）
2	演奏会①川崎フロンターレ試合会場計画の作成と練習
3	練習 スチールパンアンサンブル・金管アンサンブル
4	演奏会①川崎フロンターレ試合会場での演奏
5	演奏会②阿佐ヶ谷駅ジェイコムプラザ・ライブ計画作成と練習
6	練習 サクソフォンアンサンブル
7	演奏会②阿佐ヶ谷駅ジェイコムプラザ・ライブ演奏
8	演奏会③特別養護老人施設ビオラ川崎ホールコンサート　計画作成と練習
9	練習 ピアノアンサンブルと声楽
10	練習、木管合奏
11	演奏会③特別養護老人施設ビオラ川崎ホールコンサート
12	演奏会④高津区プラザ橘ファミリーコンサート計画作成と練習
13	練習、吹奏楽合奏
14	演奏会④高津区プラザ橘ファミリーコンサート演奏
15	前期反省会

	［後期］
1	ガイダンス（後期演奏会予定提示）
2	演奏会①等々力競技場外での計画作成と練習
3	練習、トランペットアンサンブル・トロンボーンアンサンブル
4	演奏会①等々力競技場外での演奏
5	演奏会②永福町商店会オータムフェスタライブ計画作成と練習
6	練習、ホルンアンサンブル・クラリネットアンサンブル
7	演奏会②永福町商店会オータムフェスタライブ演奏
8	演奏会③市立東小倉小学校鑑賞教室演奏計画作成と練習
9	練習、木管五重奏
10	練習、金管五重奏
11	演奏会③市立東小倉小学校鑑賞教室演奏
12	演奏会④洗足学園幼稚園キッズコンサート計画作成と練習
13	練習　フルート・クラリネット・サクソフォンとピアノによる
14	演奏会④洗足学園幼稚園キッズコンサート演奏
15	全体反省会

川崎フロンターレJ1試合応援演奏を等々.力陸上競技場で行う。
ゼミポップスバンドを編成して年1～2回程度演奏会を行う。（2018年度は学園祭ファイナルコンサートを担当）

当ゼミの趣旨

自身の磨いた技術を用い、演奏会で“社会貢献” する。

成長する力				協働する力			
自己分析力	○	課題解決力	○	コミュニケーション力	○	状況把握力	
持久力・耐久力	○	メンタルマネジメント力	○	柔軟性・忍耐力		規律・礼儀	○